

日本医科大学研究業績年報

第 45 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 45



平成 10 (1998) 年度

April 1998—March 1999

日本医科大学研究業績年報

第 45 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 45

平成10 (1998) 年度

April 1998—March 1999

まえがき

学長 早川 弘一

(1999年晩秋)

昨今のわが国の経済状況とはまったく逆に、われわれの大学の研究業績が下記のトレンドのように相変らず右肩上りであることは大変嬉しい。特に総論文数のみならず、英文論文数の最近の著しい伸びは研究および研究者の質の向上を直接反映しているといえよう。なお、今回の業績集は1998年度のものであるが、この「まえがき」を書いている1999年度のことをいえば、学位論文の圧倒的多数が英文で提出されているという事実がある。さらに種々の研究費補助金も確実に増加し、またハイテクリサーチセンター整備事業、学術フロンティア推進事業に多額の補助金を導入できたことも本年度の大きな研究成果といえよう。

われわれの大学もこの数年継続してきた自己点検・自己評価から、近々外部評価あるいは第三者評価へ移行することになっているが、本業績集は十分外部からの評価に耐えられるものと思う。

いづれにしても、現状に満足することなく、今後のますますの研究活動を期待する。

終りに、この業績集編纂に御努力いただいた若林研究委員長、大学事務局の方々に謝意を表します。

1998年研究業績年報内訳表

年度	総頁数☆	基礎科学	基礎医学	臨床医学	付置施設
1988	287	15	38	220	2
1989	300	16	43	229	3
1990	327	17	40	252	6
1991	349	18	45	271	6
1992	351	18	43	276	4
1993	367	14	48	289	6
1994	393	15	56	304	10
1995	429	14	60	340	15
1996	434	14	57	348	15
1997	443	17	63	346	17
1998	446	14	66	343	23

☆1頁 = 52字数 × 42行 = 2184字

	1986年度	1997年度	増加率(倍)	1986年度	1998年度	増加率(倍)
論文数	1189	1769	1.49	1189	1888	1.59
著書数	339	492	1.45	339	426	1.26
学会発表数	2492	3641	1.49	2492	3871	1.55

	1997年度	1998年度	増加率(倍)
論文数	1774	1888	1.06
著書数	492	426	0.87
学会発表数	3700	3871	1.05

年度	総論文数	英文論文数	比率(%)
1991	1555	200	12.86
1992	1492	208	13.94
1993	1618	250	15.45
1994	1634	308	18.85
1995	1885	380	20.16
1996	1766	401	22.71
1997	1774	464	26.16
1998	1888	634	33.58

目 次

〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[国文学]	1
[哲学・倫理学]	1
[心理学]	3
[歴史学]	4
[文化人類学]	4
[経済学]	4
2. 自然科学	5
[数 学]	5
[物理学]	6
[化 学]	8
[生物学]	9
3. 外国語	12
[英 語]	12
[ドイツ語]	13
4. スポーツ科学	13
[スポーツ科学]	13

〔2〕基礎医学

1. 解剖学第一講座	17
2. 解剖学第二講座	20
3. 生理学第一講座	23
4. 生理学第二講座	27
5. 生化学第一講座	30
6. 生化学第二講座	33
7. 薬理学講座	38
[薬理学]	38
[臨床薬理センター]	40
8. 病理学第一講座	44
9. 病理学第二講座	49
10. 微生物学・免疫学講座	59
11. 衛生学・公衆衛生学講座	64
12. 法医学講座	66
13. 医療管理学講座	69
14. 基礎医学共同研究利用施設	74
[実験動物管理室]	74
[中央電子顕微鏡研究施設]	76

[情報科学センター]	79
------------	----

(3) 臨床医学

1. 内科学第一講座	85
[付属病院第1内科]	85
[付属病院老人科]	105
[第二病院内科]	110
[多摩永山病院内科]	111
2. 内科学第二講座	115
[付属病院第2内科]	115
[付属病院リウマチ外科]	124
3. 内科学第三講座	129
[付属病院第3内科] (内分泌・消化器・血液内科)	129
4. 内科学第四講座	140
[付属病院第4内科]	140
5. 精神医学講座	153
[付属病院神経科・千葉北総病院神経科・多摩永山病院神経科・付属病院東洋医学科]	153
[付属病院東洋医学科]	158
6. 小児科学講座	161
[付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]	161
7. 放射線医学講座	170
[付属病院放射線科]	170
[第二病院放射線科]	183
[多摩永山病院放射線科]	185
[千葉北総病院放射線科]	186
8. 皮膚科学講座	189
[付属病院皮膚科]	189
[第二病院皮膚科]	193
[多摩永山病院皮膚科]	194
[千葉北総病院皮膚科]	194
9. 外科学第一講座	196
[付属病院第1外科]	196
[多摩永山病院外科]	218
[多摩永山病院消化器科]	222
[千葉北総病院外科]	223
10. 外科学第二講座	226
[付属病院第2外科]	226
[第二病院外科]	236
[多摩永山病院内視鏡科]	239
[千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]	243

11.	脳神経外科学講座	245
	[付属病院脳神経外科]	245
	[第二病院脳神経外科]	254
	[多摩永山病院脳神経外科]	257
	[千葉北総病院脳神経外科]	258
12.	整形外科科学講座	261
	[付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・	
	千葉北総病院整形外科]	261
13.	産婦人科学講座	270
	[付属病院産婦人科]	270
	[第二病院産婦人科]	281
	[多摩永山病院産婦人科]	285
	[千葉北総病院産婦人科]	289
14.	耳鼻咽喉科学講座	291
	[付属病院耳鼻咽喉科]	291
	[第二病院耳鼻咽喉科]	291
	[多摩永山病院耳鼻咽喉科]	302
	[千葉北総病院耳鼻咽喉科]	303
15.	泌尿器科学講座	306
	[付属病院泌尿器科]	306
	[第二病院泌尿器科]	314
	[多摩永山病院泌尿器科]	315
	[千葉北総病院泌尿器科]	316
16.	眼科学講座	318
	[付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科]	318
17.	麻酔科学講座	329
	[付属病院麻酔科]	329
	[第二病院麻酔科]	332
	[多摩永山病院麻酔科]	333
	[千葉北総病院麻酔科]	336
18.	救急医学講座	339
	[付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・	
	千葉北総病院救命救急センター・新東京国際空港クリニック]	339
	[多摩永山病院救命救急センター]	352
	[千葉北総病院救命救急センター]	357
19.	形成外科学講座	363
	[付属病院形成外科]	363
	[第二病院形成外科]	368
	[千葉北総病院形成外科]	368

20.	付属病院付置施設等	371
	[付属病院集中治療室]	371
	[付属病院病理部]	375
	[付属病院中央検査部]	379
	[付属病院薬剤部]	381
	[付属病院生理機能センター]	384
	[付属病院看護部]	385
	[付属病院放射線科技師室]	386
	[ワクチン療法研究施設]	388
21.	第二病院付置施設等	390
	[第二病院消化器病センター]	390
	[第二病院リハビリテーションセンター]	395
	[第二病院健康管理科]	397
	[第二病院病理部]	398
	[第二病院中央検査室]	404
	[第二病院薬剤科]	404
22.	多摩永山病院付置施設等	406
	[多摩永山病院病理部]	406
	[多摩永山病院中央検査室]	409
	[多摩永山病院薬剤科]	410
23.	千葉北総病院付置施設等	413
	[千葉北総病院内科]	413
	[千葉北総病院集中治療部]	419
	[千葉北総病院病理部]	421
	[千葉北総病院中央検査室]	425
	[千葉北総病院薬剤科]	426
	[千葉北総病院中央画像検査室]	427
	[千葉北総病院歯科]	429

[4] 付置研究施設

1.	老人病研究所	433
	[病理部門]	433
	[生化学部門]	435
	[免疫部門]	439
	[疫学部門]	441
	[分子生物学部門]	445
	[臨床部門]	454

付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況	459
1. 平成10年度科学研究費補助金交付決定一覧	459
2. 平成10年度文部省科学研究費補助金（分担研究）の採択・交付状況	465
3. 平成10年度厚生省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況	465
4. 平成10年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況	467
5. 平成10年度各種補助金の交付状況一覧 [内訳]	468

〔1〕 基 礎 科 学

1. 人文科学・社会科学

[国文学]

研究概要

本年度は、(1) 作品の舞台、(2) 昭和・平成の女性文学という二つのテーマを中心に研究を展開した。

(1) については、日本の近代・現代において歴史的意味を持つ象徴的空間と文学作品との関わりに着目し、永井荷風の小説「夢の女」における〈新橋停車場（ステーション）〉の位置、谷崎潤一郎の長編「細雪」の主題と〈平安神宮〉との関連を考察した。

(2) については、現代作家佐藤愛子と林京子の文学の特質と実生活について論究した。

他に、児童文学者坪田譲治の随筆全般について解説し、本務の東洋学園大学の公開講座では、夏目漱石の文学と西欧世紀末芸術との関係を講演した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 神田由美子：坪田譲治の随筆。国文学解釈と鑑賞（至文堂） 1998；63（4）：95-98.
- 2) 神田由美子：永井荷風「夢の女」の新橋停車場（ステーション）。国語展望（小学館・尚学図書） 1998；（102）：17-19.
- 3) 神田由美子：谷崎潤一郎「細雪」の平安神宮。国語展望（小学館・尚学図書） 1998；（103）：17-19.

(2) 書評：

- 1) 神田由美子：国末泰平著『芥川龍之介の文学』。国文学解釈と鑑賞（至文堂） 1998；63（11）：182-182.

著書

- 1) 神田由美子：〔分担〕作家ガイド・佐藤愛子。女性作家シリーズ7・佐藤愛子／田辺聖子（監修 河野多恵子・大庭みな子・佐藤愛子・津村節子），1998；pp436-443，角川書店。
- 2) 神田由美子：〔分担〕作家ガイド・林京子。女性作家シリーズ15・三枝和子／林京子／富岡多恵子（監修 河野多恵子・大庭みな子・佐藤愛子・津村節子），1999；pp422-427，角川書店。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 神田由美子：夏目漱石の文学と西欧の19世紀末文学。東洋学園大学東洋女子短期大学公開教養講座，1998。5.

[哲学・倫理学]

研究概要

これまで同様二つの分野で研究を進めている。

1) まず第1に、ドイツ観念論における自然哲学の研究である。この面では、これまで通り（A）自然哲学の理論的基礎、（B）周辺との関係、（C）研究の現状と課題の解明というのが現在の課題である。（A）の面ではすでにこの間研究を進めているのが自然哲学の枠を超えて「存在を如何に把握するのか」というテーマである。この面ではすでに「フィヒテとシェリング」とそれと対抗する「ヤコービ、ケッペン、フリース」の線を追っている。この面では現

在は研究発表、シンポジウムなどでの報告という形で検討している。(B)の面では、この間論文を発表し始めていくようにエッセンマイヤーとシェリング派の問題に焦点を定めている。この面ではこの間論文を書かないできた「ブラウン説論争」が焦点になることがはっきりしてきた。そして、かつて収集した資料の解読がかなり進めてきているので、足りない部分を今後収集するとともに論文として生産的に発表していくことが課題である。再びドイツの方に出かけていくことを検討する時期に入っているという自覚が生まれてきている。今年度は4月に国際シェリング協会の前会長のJacobs教授が、11月には新会長のJantzen教授が来日した。その機会に「コロッキウム」を開催して研究の交流を行った。前者は本学の本部会議室、後者は明治大学で行った。

2) 生命倫理に関しても基礎理論についての研究を中心にしている。今年進展があったのは、現在兼任をしている情報センターとの関係で「遠隔医療」計画と「医療情報の帰属性」問題である。これまでのテーマも引き続きフォローしている。「出生を巡る諸問題」は現在の「生殖医学」の問題とぶつかる問題であり、しかも先のテーマとこのテーマとは「自己決定権」の理解という点で一つに合流すると思われる。とりわけ近代所有権理論からの基礎付けが大きく浮かび上がっているがこの再検討を行って行くつもりである。コンスタントにこの問題を追求していくことになるだろう。このテーマでも昨年はLohmann教授、Koerner教授が来日し、「胚保護法」の問題と「臓器移植法」の問題でシンポジウムを開催した。両方に本教室もコミットしているためこの面でも資料は手に入れやすくなっている。両教授ともに在外研究時に知ることができた研究者である。昨年は2ヵ月だがボンに滞在しドイツのバイオエシックス研究の中心センターを自由に使う許可を得、今後の仕事にかなり有利な条件を作り上げることができた。次年度も、また何らかの形でヨーロッパの方には行くことになるだろう。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 長島 隆：シェリングにおける「無限者」の問題—シェリング自然哲学の課題と根本性格。シェリング年報 1998；(第6号)：30-39.

(2) 翻訳解説：

- 1) 長島 隆：シェリング「ブラウン説に関する2, 3の論評」。自然哲学研究 1999；(第10号)：43-55.

著書

- 1) 長島 隆：〔監訳〕われわれは「自然」をどう考えてきたか、1998；どうぶつ社。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 長島 隆：ヤコービ、ケッペン、フリースー自然哲学の基本構想をめぐって。第2回自然哲学研究会全国シンポジウム(東洋大学)、1998. 11.

(2) セミナー：

- 1) 長島 隆：エッセンマイヤーの有機体論—カント、シェリングそしてブラウン説。自然哲学研究会・第33回例会、1999. 3.

(3) 一般講演：

- 1) Itoh T¹⁾, Nagashima T (1) 情報科学センター)：Information ethics in health care and medicine (telemedicine project). XII Annual Congress of European Society for Philosophy of Medicine and Health Care (Marburg), 1998. 8.
- 2) Nagashima T：Discussion on Abortion in Japan after the revision of the Eugenic Protection Act. XII Annual Congress of European Society for Philosophy of Medicine and Health Care (Marburg), 1998. 8.

- 3) 長島 隆：「遠隔医療」計画に欠如したもの：情報倫理とインフォームド・コンセント，第17回日本医学哲学倫理学会・第4回日本臨床死生学会合同大会（明海大学），1998，10.

[心理学]

研究概要

本年度はコラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動に加えて，ドイツから導入した新しい投影描画法テストである「星と波テスト」の研究を主に行った。1. 「日本における星と波テストの試み—人格診断テストとしての使用—」を学会発表し，早稲田大学大学院生森秀都氏と共同で論文にまとめた。2. 「日本における試み—就学児童の発達機能テストとして—」のテーマで東京外国語大学助教授の鈴木康明氏と早稲田大学大学院生森秀都氏，早稲田大学大学院生西野薫氏と共同研究を行った。3歳児から7歳児までの約1000枚のデータを収集し分析を行った。この研究は安田生命事業団から助成金を受けた。3. 日本国際文化センター招聘助教授のルーネル・ブルーノ氏と鈴木康明氏と共著で「星と波テスト入門」の執筆に力を注いだ。この本は1999年秋に川島書店から出版される予定である。4. コラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動を本年度も行った。東京コラージュ療法研究会を5月，7月，9月，11月，1999年2月の5回行った。心身医学・学生相談・小学校（教育相談）・成人一般（カウンセリング）の各領域からの事例研究を行った。また，同研究会主催で11月星と波テスト，5月バウムテスト，1999年3月ワルテッグテストの計3回ルーネル・ブルーノ氏による投影描画法テストバッテリーのワークショップを行い研究を深めた。また，岡山少年院や川崎市教育委員会などで講演を行った。学生相談学会，箱庭療法学会，心理臨床学会で座長を務めた。5. 学生相談室が開室以来4年目に入り，今年度からカウンセラーが専任となり，昨年度に比べ学生相談の量，質ともに飛躍的に向上した。新入生全員にUPI（学生健康調査）テストを行った。1997年度の相談室活動報告およびUPIの結果などを含めた学生相談室報告書第3号を発行した。また，本年度より日本学生相談学会の理事を任命され特別委員会委員として，学生相談の専門家を認定する資格について検討した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 杉浦京子，森 秀都¹⁾ (1) 早稲田大学文学研究科)：日本における「星と波テスト」の試み，日本医科大学基礎科学紀要 1998；(24)：5-32.

著書

- 1) 杉浦京子：〔分担〕家庭内暴力が激しい—危機的な事例（真仁田昭他編集），児童心理，1998；pp160-164，金子書房。
2) 杉浦京子：〔分担〕心育ての常備本（くだけ社編集部編集），心育ての常備本，1998；pp22，105，182-23，106，184，くだけ社。
3) 杉浦京子：〔分担〕くだけ（和田重良編集），くだけ，1999；pp6-8，くだけ社。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 杉浦京子：学校現場におけるコラージュ療法，日本心理臨床学会，1998，9.

(2) ポスターセッション：

- 1) 杉浦京子，鈴木康明¹⁾ (1) 東京外国語大学)：日本における「星と波テスト」の試み，日本心理臨床学会，1998，9.

(3) 研修：

- 1) 杉浦京子：芸術療法（主にコラーージュ療法）．日本臨床心理士会，1998．11．
- 2) 杉浦京子，岡 昌之¹⁾（¹⁾ 東京都立大学）：イメージワーク（描画，コラーージュなど）．日本学生相談学会，1998．12．

[歴史学]

研究概要

基本的には鎌倉時代を専攻分野としているが，本年は鎌倉時代の前後の時期に，目が行ったように思われる．源平合戦期と南北朝内乱期における武士団の大移動を扱ったものが，それである．

なお，先年，刊行した『鎌倉史跡事典』のコンパクト版が刊行されることになり，若干の手直しを行なうため，それなりに武都鎌倉の研究をやりなおした．また，『日本人の名前の歴史』に関する研究を行なったが，刊行されるのは本年7月の予定．本年度の研究活動としては，こんなところだろうか．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 奥富敬之：実朝暗殺と三浦一族．三浦一族研究 1998；(2)：73-85.
- 2) 奥富敬之：源平争乱の時代と日本人大移動．歴史と旅 1998；25(9)：146-153.
- 3) 奥富敬之：南北朝動乱と日本人大移動．歴史と旅 1998；25(10)：150-155.
- 4) 奥富敬之：源氏一族の興亡史．別冊歴史読本 1998；23(51)：14-21.

[文化人類学]

研究概要

人間の行動原理と文化・文明の変容原理との関連性，ならびに人間の行動原理と現代における大きな社会的諸問題との関連性について究明している．また，これら社会的諸問題の根本的解決策についても模索している．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 伊藤末博：人間の頭の中に形成される外界像の一考察：文化および社会的諸事象との関連の中で．日本医科大学基礎科学紀要 1998；(25)：25-36.

[経済学]

研究概要

経済理論および日本経済・世界経済の現状把握のための研究会を組織し，これまでの研究を継続，発展させてきた．日本経済に関してはこれまで通り「日本的経済システム」を，また世界経済では「環太平洋アジア地域の経済発展」をテーマとし，後者については，アジア経済のあり方と今後の日本・アジア関係について論じた著書を準備しており，その中で成果をまとめる予定である．

また，電子情報技術の発達が生命保険事業に与える影響について進めてきた研究を具体化し，郵政省の簡易保険業

務における業務処理プロセスをシステム化し、より一層の機能強化策として処理の迅速化・効率化の手段を見だし、抜本的な業務改善方を提言するため、コールセンターやワークフローの導入可能性について検討した。報告書は現在、最終の調整をしており、「簡易保険事業における業務改善に関する調査研究報告書」として6月末には公表できる予定である。

近年話題を集めている電子マネーについて、貨幣論・金融論上の意義付けを明確にするという理論的研究を進めた。この研究は電子マネーが金融システム・金融政策に与える影響についての考察の基礎となるもので、1998年度の文部省科学研究費補助金の交付を受けて実施したものである。

さらに、「平成9年度健保法改正による受療行動の変化に関する研究」を実施した。平成9年度の健康保険法の改正により、患者の受療行動の抑制のため適切な地域医療が妨げられているという批判がある。しかし、どのようなグループの患者に対してそれが起こっているのか、受療抑制のために病状が悪化し手遅れになってから病院へかかるという事態が本当に起きているのか等、受療抑制に対して客観的に調査したデータは存在しない。そこで、健保法改正による患者の受療行動の変化を統計学的手法により検証し、今後の施策のための基礎資料とするために実施したものである。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 山田勝久¹⁾、三浦宏一²⁾、三輪春樹、石原 滋³⁾、榎 彰⁴⁾、大橋皓介⁵⁾ (1) アジア経済研究所、2) 東海大学文明研究所、3) 世界貿易センター、4) 東海大学平和戦略研究所、5) 電通総研)：中国の経済発展に伴うエネルギー需要の動向と経済政策課題に関する調査研究。中国の経済発展に伴うエネルギー需要の動向と経済政策課題に関する調査研究 1998；1-112.
- 2) 三浦宏一¹⁾、三輪春樹、鈴木 実²⁾、谷澤俊英³⁾、寺内芳樹³⁾ (1) 東海大学文明研究所、2) NTTデータ公共システム本部企画開発、3) 三井情報開発情報技術研究室)：簡易保険事業における業務改善に関する調査研究報告書。簡易保険事業における業務改善に関する調査研究報告書 1999；1-52 + 資料87.

2. 自然科学

[数 学]

研究概要

三宅：十数年来統計授業にパソコンを導入し、演習、教材作成、成績・出席管理などに活用してきた。それを集大成し、さらにEXCELの導入することを目論み、平成10年度私立大学等経常費補助金特別補助（特色ある教育研究の推進）に、（学生の自学自習に力点を置く統計教育システムの作成）なる表題で補助申請し、認可された。この方面に力を入れている。

儀我：Lipschitz領域での対称性のないelliptic operatorとanalytic semigroupのgeneratorとの関係を考察した。また、Lipschitz境界付近でのoperatorの扱いについての工夫をした。

渡辺：Heat kernel regularizationを用いないオリジナルのWilson fermionからchiral anomalyを厳密に導出する計算を出版した。4次元スカラー場の量子論の自明性問題は、強結合領域におけるくりこみ群解析を必要とする難題である。この方向の仕事の手始めとして、階層的イジング模型の強結合解析に着手した。

飯田：コンピュータと深くかかわりのあるアルゴリズムについて、グラフ論的問題を中心に据え、アルゴリズムの発見、改良、P-NP問題などを研究。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Giga M : On the Mollification of Coordinate Systems in the Neighborhood of the Boundary Point of Lipschitz Domain. 日本医科大学基礎科学紀要 1998 ; (24) : 1-4.
- 2) Hattori T¹⁾, Watanabe H ⁽¹⁾ 立教大学理学部数学教室) : Mathematical Derivation of Chiral Anomaly in Lattice Gauge Theory with Wilson's Action. Journal of Mathematical Physics 1998 ; 39 : 4449-4475.

(2) 綜説：

- 1) 服部哲弥¹⁾, 渡辺 浩 ⁽¹⁾ 立教大学理学部数学教室) : 20世紀の予想：構成的場の理論. 数学セミナー 1999 ; 38 (3) : 44-49.

学会発表

(1) セミナー：

- 1) 渡辺 浩 : Chiral anomalyの格子構成論. 東海大学理学部数学教室談話会, 1999. 2.

(2) 一般講演：

- 1) 飯田博和 : 確率変数と棄却域. 数学教育学会例会, 1998. 10.
- 2) 儀我真理子 : 検定の意味の理解. 数学教育学会例会, 1998. 10.

[物理学]

研究概要

1) アデノシン三リン酸の化学エネルギーが筋肉収縮の力学エネルギーに変換される機構の解明のため、アデノシン三リン酸と筋肉蛋白質の小部分についての量子化学計算を行った。その結果、加水分解の初期過程を示唆する興味深い結果を得た。[香川]

2) 1. シアノバクテリアの光合成アンテナ蛋白質であるフィコビルン蛋白質は、二つのドメイン（グロビンフォールドのドメインと約30のアミノ酸残基からなるドメイン）からなっている。一見機能とは関係ないと思われるドメイン（約30のアミノ酸残基からなるドメイン）に着目しながら基準振動解析を行って、このドメインの機能的な役割を議論した。2. バクテリオロドプシン発色団の2軸ねじれモデルを提出し、そのモデルの妥当性を量子力学的な計算によって調べている。[菊地]

3) 前年と同様に、量子カオス領域でのカオスの存在について検討している。特に、モデルを提案し、その是非を論じている。また、神経系のカオスについても検討している。[須田]

4) 調和振動子表現法という近似法を使って、運動エネルギーを相対論的に扱うサルペーター方程式を解いた。具体的な対象は現在見つかっているチャーモニウム、ボトモニウムの状態 (1S-6S, 1P-2P, 1D-2D) である。これらの中で、S状態については色々な束縛ポテンシャルに応用し、比較してみた。[三浦]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Suda N : Quantum Chaos and Effects of Quantum Correction, Noise, and Nonlinear Coupling in Quantum Kicked Rotator. Bull Lib Arts & Sci Nippon Med Sch 1998 ; (25) : 1-13.
- 2) Hasegawa K¹⁾, Kikuchi H, Ishizaki S²⁾, Tamura A³⁾, Tsukahara Y^{2, 4)}, Nakaoka Y⁵⁾, Iwai E¹⁾, Sato T¹⁾
⁽¹⁾ Division of Brain Science, Graduate School of Medicine, Kitasato University, ⁽²⁾ Graduate School of In-

formation Sciences, Tohoku University, ³ Laboratory of Molecular Endocrinology, School of Fisheries Sciences, Kitasato University, ⁴ Photodynamic Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN), ⁵ Division of Biophysical Engineering, Graduate School of Engineering Science, Osaka University) : Simple fluctuation of Ca²⁺ elicits the complex circadian dynamics of cyclic AMP and cyclic GMP in *Paramecium*. Journal of Cell Science 1999 ; 112 : 201-207.

3) Itoh C¹), Minamikawa T²), Miura K, Watanabe T³) (¹) Department of Physics, Meiji-Gakuin Univ., ²) Department of Physics, Tokyo Univ. of Mercantile Marine, ³) Department of Physics, Asia Univ.) : Perturbed energy eigenvalues of the Salpeter equation in the oscillator-representation method. Nuovo Cim 1999 ; 112A : 205-224.

(2) 研究報告書 :

1) 菊地浩人 : フィコビリルン蛋白質集合体の対称構造の機能的要請. 文部省科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書 蛋白質集合体の対称性の起源と系譜—機能的要請か, 系統性か 1998 ; pp24-34.

著 書

1) Kikuchi H, Wako H¹), Go M²), Mimuro M³) (¹) School of Social Sciences, Waseda University, ²) Division of Biological Science, Graduate School of Science, Nagoya University, ³) Department of Physics, Biology and Informatics, Yamaguchi University) : [分担] FUNCTIONAL MEANING OF THE SYMMETRY STRUCTURE IN PHYCOBILIPROTEIN AGGREGATES. Photosynthesis : Mechanisms and Effects (Garab G, Ed) , Vol. 1, 1998 ; pp193-196, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht, Boston, London.

学会発表

(1) シンポジウム :

1) 菊地浩人 : フィコビリルン蛋白質対称構造の機能的要請. 日本化学会第75回秋季年会 (松山), 1998. 9.

(2) セミナー :

1) 菊地浩人, 三室 守¹) (¹) 山口大学理学部自然情報科学科) : 発色団の数とフィコビリルン蛋白質の動的構造との関係. 第6回「光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナーVI (岡崎), 1998. 6.

(3) ワークショップ :

1) Kikuchi H¹), Mimuro M²) (¹) Department of Physics, Biology and Informatics, Yamaguchi University) : Symmetry Structure of Phycobilliproteins : Consequence for Function or Coincidence?. XIth international congress on photosynthesis—Satellite meetings : Photosynthetic antenna structures (Tata, Hungary), 1998. 8.

(4) 一般講演 :

1) Kikuchi H, Wako H¹), Go M²), Mimuro M³) (¹) School of Social Sciences, Waseda University, ²) Division of Biological Science, Graduate School of Science, Nagoya University, ³) Department of Physics, Biology and Informatics, Yamaguchi University) : Functional meaning of the symmetry structure in phycobilliprotein aggregates. XIth international congress on photosynthesis (Budapest, Hungary), 1998. 8.

2) 菊地浩人, 三室 守¹) (¹) 山口大学理学部自然情報科学科) : アロフィコシアニンの光吸収特性と発色団・蛋白部分相互作用との間の関係. 日本物理学会第53回年会 (船橋), 1998. 4.

3) 香川 浩, 永井喜則¹), 森 和英²) (¹) 国士館大・情報科学センター, ²) 早稲田計算科学コンソーシアム) : MgATPとミオシンの相互作用の分子軌道計算. 日本物理学会1998年秋の分科会 (沖縄), 1998. 9.

4) 須田信弘 : 量子カオスの不可逆性. 日本物理学会1998年秋の分科会 (沖縄), 1998. 9.

5) 菊地浩人, 三室 守¹) (¹) 山口大学理学部自然情報科学科) : フィコビリルン蛋白質の動的構造と発色団の数. 日

本生物物理学会第36回年会（福岡），1998. 10.

- 6) 小田井圭¹⁾，菊地浩人，大坪隆信²⁾，鈴木英雄²⁾（¹⁾ 湘北短期大学・電子情報，²⁾ 早稲田大学理工学部物理学科）：立体障害を考慮したバクテリオロドプシン発色団の光異性化モデル．日本生物物理学会第36回年会（福岡），1998. 10.
- 7) 菊地浩人，三室 守¹⁾（¹⁾ 山口大学理学部自然情報科学科）：グロビンファミリータンパク質に新しい機能を導入する方法．第4回日本光生物学協会講演会（横浜），1998. 11.
- 8) 小田井圭¹⁾，菊地浩人，大坪隆信²⁾，鈴木英雄²⁾（¹⁾ 湘北短期大学・電子情報，²⁾ 早稲田大学理工学部物理学科）：バクテリオロドプシン発色団の光異性化に対する2軸モデルとその断熱ポテンシャル．第4回日本光生物学協会講演会（横浜），1998. 11.
- 9) 須田信弘：量子カオスの不可逆性II．日本物理学会第54回年会（東広島），1999. 3.

[化 学]

研究概要

石田：シリカゲルTLCに関する研究

- (1) ジルコニウム (IV)，ハフニウム (IV)，および他の金属の三成分分離.
- (2) 塩類—有機溶媒—水系における希土類元素の吸着挙動と隣接元素の多成分分離.
- (3) 希土類元素の吸着挙動の解明

田中：(1) 質量分析計を用いた研究：金属錯体の溶液内反応の解明，生体内微量物質および中毒原因物質の同定，定量.

- (2) 原子炉を用いた研究：中性子放射化分析による生体内微量元素の同定および定量.

菅原：アルカリ金属—ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成および，不飽和酸とジクロロカルベン反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成.

- (1) 生理活性を有するラクトン類の合成.
- (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成.

永井：2, 2'-ピペリジンまたは1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム (II) 混合配位子錯体の溶液化学.

- (1) 錯体の合成.
- (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構.
- (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究.
- (4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究.

武田：CMセルロースTLCおよびゼオライトTLCに関する研究.

- (1) 塩類水溶液系—有機溶媒混合系における希土類金属の陽イオン交換吸着挙動.
- (2) 吸着挙動に及ぼす諸因子の検討.
- (3) イットリウムの特異的分離とその機構の解明.

貴金属元素の分離および定量に関する研究.

- (1) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構.
- (2) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量.

研究業績

論 文

(1) 原著：

- 1) Nagai T, Tomizawa H¹⁾, Sugahara H, Takeda Y, Ishida K (¹⁾ Rikkyo Univ.) : Contribution of a local elec-

tric dipole moment to the hydrophilic nature of [Ru (phen)₂ (1, 5, 6, 10-tetraazaphenanthrene)]²⁺ complex in aqueous solutions. J Mol Struct 1999 ; 478 : 211-218.

(2) 進歩総説 :

- 1) 渋川雅美¹⁾, 武田洋一, 石田宏二 (¹⁾ 日本大学生産工学部工業化学科) : 無機薄層クロマトグラフィー. ぶんせき 1999 ; (5) : 403-413.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 田中幹夫, 永井 俊, 三木瑛一¹⁾, 石森達二郎¹⁾ (¹⁾ 立教大学理学部) : [Ru (CN)₂ (bpy)₂] 錯体のマスペクトル上で観測された3-ニトロベンジルアルコール中のグリセロールの割合変化に伴う分子イオン種の変化. 第48回錯体化学討論会, 1998. 9.
- 2) 武田洋一, 石田宏二 : シリカゲル-アルカリ土類金属塩水溶液系における希土類元素の薄層クロマトグラフィ的挙動に及ぼす塩類および水の活量の影響. 日本化学会第75秋季年会, 1998. 9.

[生物学]

研究概要

1) 変動環境への植物の適応を明らかにするために, 高山帯や北極域に生育するムカゴトラノオ (タデ科) を用いて研究している. これらの地域では植物の生育期間の長さの年変動が激しい. 北極圏のスパールバル諸島において preformation (冬芽の中に将来の葉や繁殖器官を準備する現象) を調査した. 形態観察による実態把握とともに, この現象が成長や繁殖をどの程度規定し, 変動環境を生きる植物の個体群動態にどのような影響を及ぼすのかを解析している. (西谷)

2) カロテノイド色素の化学構造, 物理化学的性質, 生理学的機能, 生合成経路と遺伝子の性質などを研究している (国際, 国内共同研究) : 高等植物から藻類まで葉緑体のネオキサンチンはすべて9'-シス型であることとその物理化学的性質の研究, フェムト秒領域でのカロテノイドの励起エネルギー転移の研究, 葉緑体を光障害から守る酵素の性質と機能の研究. 緑色光合成細菌 *Chlorobium tepidum* における反応中心複合体の色素分析と機能の研究, 代謝工学的手法により新規カロテノイドを大腸菌内で合成させる研究, 新規光合成細菌の単離・同定, 色素分析, 生合成経路の研究などを行っている. 光合成細菌のカロテノイド分布と生合成の英文総説は近々出版される. (高市)

3) 好気性光合成細菌 *Acidiphilium* から世界で初めて発見した亜鉛を中心金属とする光合成活性を持つバクテリオクロロフィルの名称 (Zn-BCl) を国際誌に提案した. その化学構造, 光合成における機能, 生合成経路などを研究している. 日本植物生理学会論文賞を受賞した (国内共同研究). (高市)

4) 昨年に続き, 各種海産無脊椎動物の体腔細胞の形態および機能の比較を行った. 特にウニ類の体腔細胞については, 4種ある細胞の微細構造と, 抗体を使つての発生学的な由来について検討を始めた. (関)

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Komori M¹⁾, Ghosh R²⁾, Takaichi S, Hu Y¹⁾, Mizoguchi T¹⁾, Koyama Y¹⁾, Kuki M³⁾ (¹⁾ Kwansai Gakuin Univ., ²⁾ Univ. Geneva, ³⁾ Kobe City College Technol.) : A null lesion in the rhodopin 3, 4-desaturase of *Rhodospirillum rubrum* unmasks a cryptic branch of the carotenoid biosynthetic pathway. Biochemistry 1998 ; 37 (25) : 8987-8994.
- 2) Takaichi S, Mimuro M¹⁾ (¹⁾ Yamaguchi Univ.) : Distribution and geometric isomerism of neoxanthin in oxy-

- genic phototrophs : 9^l-cis, a sole molecular form. *Plant Cell Physiol* 1998 ; 39 (9) : 968-977.
- 3) Takaichi S, Mimuro M¹⁾ (¹⁾ Yamaguchi Univ.) : Distribution and geometric isomerism of all-*trans* and 9^l-cis neoxanthin in algae and plants. *Carotenoid Sci* 1998 ; 1 : 14-14.
- 4) Hiraishi A¹⁾, Nagashima KVP²⁾, Matsuura K²⁾, Shimada K²⁾, Takaichi S, Wakao N³⁾, Katayama Y⁴⁾ (¹⁾ Toyohashi Univ. Technol., ²⁾ Tokyo Metropolitan Univ., ³⁾ Iwate Univ., ⁴⁾ Tokyo Univ. Agriculture Technol.) : Phylogeny and photosynthetic features of *Thiobacillus acidophilus* and related acidophilic bacteria : its transfer to the genus *Acidiphilium* as *Acidiphilium acidophilum* comb. nov. *Int J Syst Bacteriol* 1998 ; 48 (4) : 1389-1398.
- 5) Kobayashi M¹⁾, Akiyama M¹⁾, Yamamura M¹⁾, Kise H¹⁾, Takaichi S, Watanabe T²⁾, Shimada K³⁾, Iwaki M⁴⁾, Itoh S⁴⁾, Ishida N⁵⁾, Koizumi M⁶⁾, Kano H⁶⁾, Wakao N⁷⁾, Hiraishi A⁸⁾ (¹⁾ Tsukuba Univ., ²⁾ Univ. Tokyo, ³⁾ Tokyo Metropolitan Univ., ⁴⁾ Natl. Inst. Basic Biol., ⁵⁾ Natl. Food Res. Inst., ⁶⁾ Natl. Inst. Agrobiol. Resources, ⁷⁾ Iwate Univ., ⁸⁾ Toyohashi Univ. Technol.) : Structural determination of the novel Zn-containing bacteriochlorophyll in *Acidiphilium rubrum*. *Photomed Photobiol* 1998 ; 20 : 75-80.
- 6) Mimuro M¹⁾, Akimoto S²⁾, Takaichi S, Yamazaki I²⁾ (¹⁾ Yamaguchi Univ., ²⁾ Hokkaido Univ.) : Relaxation processes from the excited states and physiological functions of carotenoids : comparison of two molecular forms of neoxanthin. *Photomed Photobiol* 1998 ; 20 : 95-97.
- 7) Suyama T¹⁾, Shigematsu T¹⁾, Takaichi S, Nodasaka Y²⁾, Fujikawa S²⁾, Hosoya H¹⁾, Tokiwa Y¹⁾, Kanagawa T¹⁾, Hanada S¹⁾ (¹⁾ Natl. Inst. Bioscience Human Technol., ²⁾ Hokkaido Univ.) : *Roseateles depolymerans* gen. nov., sp. nov., a new bacteriochlorophyll *a*-containing obligate aerobe belonging to the *b*-subclass of the *Proteobacteria*. *Int J Syst Bacteriol* 1999 ; 49 (2) : 449-457.

著 書

- 1) Akiyama M¹⁾, Kobayashi M¹⁾, Kise H¹⁾, Takaichi S, Watanabe T²⁾, Shimada K³⁾, Iwaki M⁴⁾, Itoh S⁴⁾, Ishida N⁵⁾, Koizumi M⁶⁾, Kano H⁶⁾, Wakao N⁷⁾, Hiraishi A⁸⁾ (¹⁾ Univ. Tsukuba, ²⁾ Univ. Tokyo, ³⁾ Tokyo Metropolitan Univ., ⁴⁾ Natl. Inst. Basic Biol., ⁵⁾ Natl. Food Res. Inst., ⁶⁾ Natl. Inst. Agrobiol. Resources, ⁷⁾ Iwate Univ., ⁸⁾ Toyohashi Univ. Technol.) : [分担] *Acidiphilium rubrum* and zinc-bacteriochlorophyll, Part 1 : Molecular structure of the zinc containing bacteriochlorophyll. *Photosynthesis : Mechanisms and Effects* (Garab G, Ed), 1998 ; pp731-734, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht.
- 2) Takaichi S, Mimuro M¹⁾ (¹⁾ Yamaguchi Univ.) : [分担] Distribution of 9^l-cis neoxanthin in oxygenic phototrophs : a systematic study. *Photosynthesis : Mechanisms and Effects* (Garab G, Ed), 1998 ; pp3289-3292, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht.
- 3) Wakao N¹⁾, Hiraishi A²⁾, Shimada K³⁾, Kobayashi M⁴⁾, Takaichi S, Iwaki M⁵⁾, Itoh S⁵⁾ (¹⁾ Iwate univ., ²⁾ Toyohashi Univ. Technol., ³⁾ Tokyo Metropolitan Univ., ⁴⁾ Univ. Tsukuba, ⁵⁾ Natl. Inst. Basic Biol.) : [分担] Discovery, characteristics and distribution of zinc-BChl in aerobic acidophilic bacteria including *Acidiphilium* species and other related acidophilic bacteria. *The Phototrophic Prokaryotes* (Peschek GA, Löfelhardt W, Schmetter G, Ed), 1999 ; pp745-750, Kluwer Academic/ Plenum Publishers, New York.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 若尾紀夫¹⁾, 平石 明²⁾, 小林正美³⁾, 岩城雅代⁴⁾, 伊藤 繁⁴⁾, 高市真一, 永島賢治⁵⁾, 松浦克美⁵⁾, 嶋田敬三⁵⁾ (¹⁾ 岩手大農, ²⁾ 豊橋技科大エコロジー工, ³⁾ 筑波大物質工学, ⁴⁾ 基生研, ⁵⁾ 都立大理) : 新規光合成色素, 亜鉛バクテリアオクロフィル : その発見と意義. 日本植物生理学会1998年度年会および第38回シンポジウム,

1998. 5.

(2) 招待講演：

- 1) 関 俊則：入学者選抜における理科（生物，化学，物理）の選択科目について：入学後の生物学の現状から。日本医学教育学会選抜検討委員会，1998. 8.

(3) 一般講演：

- 1) Takaichi S, Mimuro M¹⁾ (1) Yamaguchi Univ.) : Distribution of 9'-cis neoxanthin in oxygenic phototrophs : a systematic study. XIth International Congress on Photosynthesis (Budapest), 1998. 8.
- 2) Akiyama M¹⁾, Kobayashi M¹⁾, Kise H¹⁾, Takaichi S, Watanabe T²⁾, Shimada K³⁾, Iwaki M⁴⁾, Itoh S⁴⁾, Ishida N⁵⁾, Koizumi M⁶⁾, Kano H⁶⁾, Wakao N⁷⁾, Hiraishi A⁸⁾ (1) Univ. Tsukuba, 2) Univ. Tokyo, 3) Tokyo Metropolitan Univ., 4) Natl. Inst. Basic Biol., 5) Natl. Food Res. Inst., 6) Natl. Inst. Agrobiol. Resources, 7) Iwate Univ., 8) Toyohashi Univ. Technol.) : *Acidiphilium rubrum* and zinc-bacteriochlorophyll ; Part 1 : Molecular structure of the zinc containing bacteriochlorophyll. XIth International Congress on Photosynthesis (Budapest), 1998. 8.
- 3) Yamamura M¹⁾, Kobayashi M¹⁾, Inoue K²⁾, Hara M³⁾, Takaichi S, Wakao N⁴⁾, Yahara K⁵⁾, Watanabe T⁵⁾, Akiyama M¹⁾, Kise H¹⁾ (1) Univ. Tsukuba, 2) Kanagawa Univ., 3) Natl. Inst. Biosci. Human-Technol., 4) Iwate Univ., 5) Univ. Tokyo) : *Acidiphilium rubrum* and zinc-bacteriochlorophyll ; Part 3 : High resistance of zinc-bacteriochlorophyll α to acid. XIth International Congress on Photosynthesis (Budapest), 1998. 8.
- 4) 高市真一, 三室 守¹⁾ (1) 山口大理) : 葉緑体のネオキサンチンは全て 9'-シス型である。日本植物生理学会 1998年度年会および第38回シンポジウム, 1998. 5.
- 5) 小林正美¹⁾, 秋山満知子¹⁾, 山村麻由¹⁾, 木瀬秀夫¹⁾, 嶋田敬三²⁾, 高市真一, 平石 明³⁾, 伊藤 繁⁴⁾, 井上和仁⁵⁾, 石田信昭⁶⁾, 小泉美香⁷⁾, 狩野広美⁷⁾, 渡辺 正⁸⁾, 若尾紀夫⁹⁾ (1) 筑波大物質工学, 2) 都立大理, 3) 豊橋技科大エコロジー工, 4) 基生研, 5) 神奈川大理, 6) 食品総研, 7) 農業生物資源研, 8) 東大生研, 9) 岩手大農) : *A. rubrum*の亜鉛型クロロフィルの構造決定とその物理化学。日本植物生理学会1998年度年会および第38回シンポジウム, 1998. 5.
- 6) 陶山哲志¹⁾, 花田 智¹⁾, 重松 亨¹⁾, 細谷博行¹⁾, 金川隆博¹⁾, 野田坂住伸²⁾, 藤川清三³⁾, 高市真一, 常盤 豊¹⁾ (1) 工技院生命研, 2) 北大歯, 3) 北大低温研) : *Rubrivivax gelatinosus*に近縁な新規好気性光合成細菌。日本植物生理学会1998年度年会および第38回シンポジウム, 1998. 5.
- 7) 高市真一：紅色細菌のカロテノイド生合成とその遺伝子。光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー VI, 1998. 6.
- 8) 小林正美¹⁾, 秋山満知子¹⁾, 山村麻由¹⁾, 木瀬秀夫¹⁾, 高市真一, 渡辺 正²⁾, 嶋田敬三³⁾, 岩城雅代⁴⁾, 伊藤 繁⁴⁾, 石田信昭⁵⁾, 小泉美香⁶⁾, 狩野広美⁶⁾, 若尾紀夫⁷⁾, 平石 明⁸⁾ (1) 筑波大物質工学, 2) 東大生研, 3) 都立大理, 4) 基生研, 5) 食品総研, 6) 農業生物資源研, 7) 岩手大農, 8) 豊橋技科大エコロジー工) : 好酸性バクテリア *Acidiphilium rubrum* で機能する亜鉛型クロロフィルの構造決定。光医学光生物学会1998年年会, 1998. 7.
- 9) 高市真一, 三室 守¹⁾ (1) 山口大理) : 9'-シス型とトランス型ネオキサンチン：系統分類, 分布, 機能。日本植物学会第62回大会, 1998. 9.
- 10) 秋本誠志¹⁾, 山崎 巖¹⁾, 高市真一, 三室 守²⁾ (1) 北大工, 2) 山口大理) : カロテノイド系分子の電子励起状態における内部転換と振動緩和：フェムト秒蛍光アップコンバージョン法による測定。1998年光化学討論会, 1998. 9.
- 11) 高市真一：紅色光合成細菌のカロテノイド生合成経路とその遺伝子。第12回カロテノイド研究談話会, 1998. 11.
- 12) 三室 守¹⁾, 秋本誠志²⁾, 高市真一, 山崎 巖²⁾ (1) 山口大理, 2) 北大工) : 光合成系におけるネオキサンチン

の機能に関する一考察. 第12回カロテノイド研究談話会, 1998. 11.

- 13) 西谷里美, 増沢武弘¹⁾ (1) 静岡大理): 北極圏のムカゴトラノオにおける preformation. 第21回極域生物シンポジウム, 1998. 12.
- 14) 美里直美¹⁾, 増沢武弘¹⁾, 西谷里美 (1) 静岡大理): 高山および北極域の風衝地に生育する *Cassiope* 属の形態的特性. 第21回極域生物シンポジウム, 1998. 12.
- 15) 高市真一, 大岡宏造¹⁾ (1) 大阪大理): 緑色硫黄光合成細菌 *Chlorobium tepidum* の反応中心の色素組成. 日本植物生理学会1999年度年会および第39回シンポジウム, 1999. 3.

3. 外国語

[英 語]

研究概要

The 1998 academic year was the final year of the "old" curriculum. While it is hoped that the new curriculum will allow us to extend the number of optional classes and improve the teacher/student ratio, we continued to provide programmes we hoped would be of practical use to future medical practitioners and researchers. As always, training was given in all of the four major language skills.

The department contributed to the revision of the teacher's manual for a Ministry of Education-approved writing textbook for senior high school students. Work was also resumed on the analysis of linguistic problems commonly occurring in medical research papers, and part of this is scheduled for publication later this year.

Literary research continued into the reception of Chaucer's *Canterbury Tales* in the eighteenth century, and previous work on Medieval and Tudor English dramas was published in book form last November.

研究業績

論 文

(1) 原著:

- 1) Minton TD: コミュニケーションのための英文法講座. 時事英語研究 1998; 53 (January - March): 2-2.
- 2) Minton TD: コミュニケーションのための英文法講座. 時事英語研究 1999; 53 (April - December): 2-2.

著 書

- 1) 山口俊治, 荻野治雄, Minton T, 八田玄二, 窪田美耶: [共著] Spectrum English Writing: 教授用指導書, 第2版, 1998; 桐原書店.
- 2) 山口俊治, 荻野治雄, Minton T, 八田玄二, 窪田美耶: [共著] Spectrum English Writing: 指導用カセットテープ・CD, 第2版, 1998; 桐原書店.
- 3) 山口俊治, 荻野治雄, Minton T, 八田玄二, 窪田美耶: [共著] Spectrum English Writing: Work book, 第2版, 1998; 桐原書店.
- 4) 石井美樹子, 奥田宏子, 黒川樟枝, 中村哲子, 松田隆美, 米村泰明: [共著] イギリス中世・チューダー朝演劇事典 (松田隆実編), 1998; 慶應義塾大学出版会.
- 5) Lowe G, Gen. ed., Nakamura T, et al, eds.: [分担編集] Annual Bibliography of English Language and Literature for 1996, 1998; Vol. 71, Modern Humanities Research Association.
- 6) 山口俊治: [自著] 英文法講義の実況中継・改訂版 (問題演習編), 1998; 桐原書店.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 中村哲子：「グリセルダの話」における patience. 日本中世英語英文学会第14回全国大会, 1998. 12.

[ドイツ語]

研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ語を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に修得する方法はないか」という要求を考慮しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性を持たせながら、「教えやすく、習いやすい」教材の作成を目指している。

現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。一つは「文法・講読分離型」、もう一つは外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートを始め、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。特に数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く“Kommunikativer Sprachunterricht”が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめている。

なお、教室員の個人的活動について言えば、国信はヴィンケルマン研究およびその日本における受容史について、安藤は日独文化交流史研究の一環として、幕末・明治における来日外国人の足跡とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳を行なっている。横内は初級ドイツ語教育における諸問題について調べている。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 国信浩洋：G・シュピース著『プロシア日本遠征記』より。日本独学史学会, 1998. 11.
- 2) 安藤 勉：明治末来日の東洋美術史家C・グラウザーについて。日本独学史学会, 1998. 11.

4. スポーツ科学

[スポーツ科学]

研究概要

三上：以下の2項目について研究を行った。1)「体内尿酸量の違いが運動時の過酸化脂質の変動における個人差の要因となるか否か」について検討した。この結果、運動前の生体内尿酸量の増加は、血漿抗酸化能の増加と運動時の過酸化脂質反応物質の尿中排泄量の低下を引き起こした。この結果より、生体が酸化ストレスを受けた時には尿酸が抗酸化物質として作用し、この時の生体内尿酸量の違いが運動時の過酸化脂質反応物質の生成に影響を及ぼしていることが示唆された。この研究は平成10年度の小野スポーツ科学研究財団研究助成を受けて行った。2)「持久的運動トレーニングが生体のストレス抵抗性の獲得に有効か否か」についてストレスタンパク質(HSP70)のmRNA発現よりの検討した。持久的運動トレーニングはHSP70の恒常的な発現量を高め、生体外からのストレスに対する抵抗性の獲得に貢献している可能性が示唆された。この研究は平成10年度文部省科学研究費(萌芽的研究)により行っ

た。

武藤：幼児から高齢者に至るまでの体格と体力について継続して研究した。1) 埼玉県東部農村地域に在住する男女60歳以上の中高年者を対象に体格および身体活動能力と生活習慣の関係について検討した。肥満度が高く体脂肪率の高い群が生活体力に劣っており、生活習慣においても活動的ではなかった。2) 青少年の体力の低下を証明するために、本学付属看護専門学校に1994年から1996年に入学した女子生徒の体格と体力テストの成績を15年前の成績と比較検討した。体格は身長が高くなり、体重とローレル指数が低くなり、細い体型である。体力テストでは、基礎体力の低下がうかがわれ、さらに顕著に基礎的運動能力の低下がみられた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 武藤三千代：看護専門学校生徒の体格と体力テストについて。日本医科大学基礎科学紀要 1998；(25)：37-40.
- 2) 三上俊夫, 伊藤 朗¹⁾, 北加代子¹⁾, 吉野芳夫²⁾ (1) 筑波大学, 2) 昭和女子大学)：体内尿酸量の違いは運動時の過酸化脂質の変動における個人差の要因となるか否か。小野スポーツ科学 1998；6：117-128.
- 3) 三上俊夫, 吉野芳夫¹⁾, 伊藤 朗²⁾ (1) 昭和女子大学, 2) 筑波大学)：持久的運動トレーニングは生体のストレス抵抗性の獲得に有効か否か—ストレスタンパク質の発現よりの検討—。健康医科学 1998；14：159-167.
- 4) 北加代子¹⁾, 三上俊夫, 曲 剛健¹⁾, 田崎洋佑¹⁾, 伊藤 朗¹⁾ (1) 筑波大学)：激運動時における尿酸の抗酸化作用とアラントインの生成について。体力科学 1999；48：187-200.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 三上俊夫, 中村浩彦¹⁾, 小澤和裕¹⁾, 篠田一三¹⁾, 早澤宏紀¹⁾ (1) 森永乳業栄養科学研究所)：ペプチド摂取が持久的運動後の骨格筋および肝臓でのタンパク質代謝に及ぼす影響について。第53回日本体力医学会, 1998. 9.
- 2) 武藤三千代, 酒巻敏夫¹⁾ (1) 鷺宮町保健センター)：高齢者の体格および身体活動能力と生活習慣について。第57回日本公衆衛生学会総会, 1998. 10.
- 3) 三上俊夫：運動時の酸化ストレスの指標としての血清・尿中アラントイン値の有用性について。第32回日本プリン・ピリミジン代謝学会総会, 1999. 2.

〔2〕基 礎 医 学

1. 解剖学第一講座

研究概要

本年度もほぼ昨年度と同様な分野で研究が進められ、研究技術の開発・研究設備の充実においても進展がみられた。以下はその概要を示す。

(1) 伸展刺激に対する血管各部内皮細胞の応答反応の研究では、定量化作業が進められた。また、虚血・再環流により駆血部より下流域血管の内皮細胞において著明な機能低下（高分子物質の漏出）が認められることを示した（杉本ら）。伸縮刺激を受けた培養内皮細胞の細胞骨格が斜め配列を示すことの理論的背景を生体工学的見地から明らかにすることができた（武政）。

(2) 骨格筋の研究では、呼吸筋の形態と機能を調べる目的で、Anabolic steroid (AS) 投与による形態的影響をICRマウスの横隔膜を用いて調べ、4週間の投与で筋線維やミトコンドリアの断面積が著しく増加することを認めた。これらの結果を受けて、Duchenne型筋ジストロフィーのモデル動物であるmdxマウスにASを投与して筋線維の変化を調べた（後藤ら）。

(3) 明暗環境変化とc-fos mRNAの発現に関する研究では、大脳皮質において、内因性による発現だけでなく、光刺激によっても強く発現することがわかり、その発現様式に少なくとも2種あることを明らかにした。また、トリ肉腫（musculoaponeurotic fibrosarcoma）ウイルスより発見されたmafV遺伝子のラットのホモロジーであるmaf-1mRNAのラット胎仔における発現を研究し、腎臓糸球体原基の腎胞に発現していることが明らかとなり、生後、どの細胞に分化していくものなのか検討を開始した。また、新たにmaf-2mRNAの発現についても検討を始めた（今城ら）。

(4) 暁ランゲルハンス島の形態学的研究においては、スunksにおいて実験的並びに自然発症糖尿病動物を得て観察を行い、さらに糖尿病マウス（KKAy系）の観察も加えて、インシュリン分泌細胞の肥大・増殖に暁導管系が関与し、スunksにみられた糖尿病においてはPP分泌細胞も肥大・増殖を起こすことが示された（市川ら）。

(5) これまで手がけてきた三次元構造再構築による分野では、連続切片法によるものの一応の完成に加えて、蛍光物質血管内充填法を会得し、レーザー顕微鏡の導入と共に三次元構造の観察を一段と深める態勢を整備することができた（石川ら）。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ohno T^{1, 2, 3}, Kitoh J⁴, Yamashita K, Ichikawa Y, Horio F⁵, Terada M¹, Tanaka S², Namikawa T³
(¹) Department of Parasitology, Hamamatsu University School of Medicine, (²) National Institute for Longevity Sciences, National Chub Hospital, (³) Laboratory of Animal Genetics, School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, (⁴) Institute for Laboratory Animal Research, School of Medicine, Nagoya University, (⁵) Laboratory of Nutritional Biochemistry, School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University) : Toxin-induced IDDM (Insulin Dependent Diabetes Mellitus) in the musk shrew. Life Sciences 1998 ; 63 (6) : 455-462.
- 2) Yoshida K¹, Imaki J, Okamoto Y², Iwakabe H³, Fujisawa H⁴, Matsuda A¹, Nakanishi S³, Matsuda H¹, H, M5M⁵ (¹) Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine, (²) Department of Surgery, Nagoya University School of Medicine, (³) Department of Biological Sciences, Kyoto University Faculty of Medicine, (⁴) Department of Biochemistry, Asahikawa Medical School, (⁵) Endocrinology Sec-

tion, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University) : CREB-induced transcriptional activation depends on mGluR6 in rod bipolar cells. *Mol Brain Res* 1998 ; 57 : 241-247.

- 3) Takemasa T, Yamaguchi T¹⁾, Yamamoto Y²⁾, Sugimoto K, Yamashita K (¹⁾ Department of Mechanical and System Engineering, Nagoya Institute of Technology, ²⁾ Department of Bio-Medical Engineering School of High-Technology for Human Welfare, Tokai University) : Oblique alignment of stress fibers in cells reduces the mechanical stress in cyclically deforming fields. *Eur J Cell Biol* 1998 ; 77 : 91-99.
- 4) Onodera H, Imaki J, Yoshida K¹⁾, Yamashita K (¹⁾ Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine) : Differential Expression of c-fos mRNA in the Rat Neocortex by in situ Hybridization. *Life Sciences* 1999 ; 64 : 1127-1135.
- 5) Kameya H, Sugimoto K, Tanaka S¹⁾, Yamashita K (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Morphological and functional changes in rat endothelial cells after ischemia-reperfusion. *Biomed Res* 1999 ; 19 (6) : 369-379.
- 6) 杉本啓治, 武政 徹, 藤井幸子, 山下和雄 : 血管内皮における張力刺激と細胞骨格. *生体の科学* 1998 ; 49 (2) : 93-98.
- 7) 武政 徹, 杉本啓治, 山下和雄 : 律動的伸縮刺激に対するストレスファイバーの斜め方向への再配置はエネルギー最小原理に則っている. *運動生化学* 1998 ; 10 : 55-57.
- 8) 石川朋子, 森 美貴, 市川安昭, 山下和雄 : 肝臓血管系の三次元的観察. *Mebio* 1998 ; 15 (11) : 103-105.
- 9) 市川安昭, 石川朋子, 森 美貴, 山下和雄 : 実験動物スunks豚島の形態学的特性. *Mebio* 1998 ; 15 (12) : 107-109.

著 書

- 1) 今城純子 : [分担] in situハイブリダイゼーション. 呼吸器疾患の分子生物学 (川口義和, 谷口直之, 木田厚瑞編), 1998 ; pp306-309, 医学書院.
- 2) 山下和雄 : [監訳・翻訳分担] 受精後第3週. ラーセン最新人体発生学 : William J. Larsen 著 (相川英三, 山下和雄, 三木明德, 大谷浩監訳), 1999 ; pp45-65, 西村書店.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Takemasa T : OBLIQUE REARRANGEMENT OF STRESS FIBERS IN CELLS REDUCES THE MECHANICAL STRESS IN CYCLICALLY DEFORMING FIELDS. 38th Annual Meeting of the American Society for Cell Biology-Subgroup meeting of "Mechanobiology : Role of the Cytoskeleton" (San Francisco), 1998. 12.
- 2) Takemasa T, Sugimoto K, Yamashita K : Oblique alignment of stress fibers in cells reduces the mechanical stress in cyclically stretching fields. 第104回日本解剖学会全国学術集会, 1999. 3.
- 3) 小野寺英貴, 今城純子, 南 史朗¹⁾ (¹⁾ 日本医大老人病研究所疫学部門) : プロラクチン放出ペプチド (PrRP) mRNAのラット脳内分布. 第9回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1999. 2.

(2) 一般講演 :

- 1) Takemasa T, Yamaguchi T¹⁾, Yamamoto Y²⁾, Sugimoto K, Yamashita K (¹⁾ Department of Mechanical and System Engineering, Nagoya Institute of Technology, ²⁾ Department of Bio-Medical Engineering School of High-Technology for Human Welfare, Tokai University) : STRESS FIBERS ALIGN THEMSELVES OBLIQUELY IN ORDER TO REDUCE THE MECHANICAL STRESS IN CYCLIC DEFORMING FIELDS. Third World Congress of Biomechanics (Sapporo), 1998. 8.
- 2) Takemasa T, Sugimoto K, Yamashita K : Oblique alignment of stress fibers in cells reduces the mechanical

- stress in cyclically deforming fields. Third Congress of the Asian-Pacific Organization of Cell Biology (Osaka), 1998. 8.
- 3) Onodera H, Imaki J, Minami S¹⁾, Yoshida K²⁾ (¹⁾ Institute of Gerontology, ²⁾ Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine) : Differential Expression of c-fos mRNA in the Rat Neocortex by in situ Hybridization. 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kokura), 1998. 10.
 - 4) Minami S¹⁾, Sugihara H²⁾, Tamura H²⁾, Imaki J, Wakabayashi I²⁾ (¹⁾ Institute of Gerontology, ²⁾ Department of Medicine) : Growth Hormone does not Act directly on GRF Neurons to Inhibit its own Secretion. 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kokura), 1998. 10.
 - 5) 今城純子, 小野寺英貴, 山下和雄 : ラット胎仔における maf1 癌遺伝子の発現. 第103回日本解剖学会全国学術集会, 1998. 4.
 - 6) 佐藤研之, 後藤 忠, 山下和雄 : マウス横隔膜に対するアナボリックステロイドの影響. 103回日本解剖学会全国学術集会, 1998. 4.
 - 7) 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹, 山下和雄 : 各部血管内皮細胞の伸展刺激に対する抗ストレス反応活性. 第37回日本エム・イー学会大会, 1998. 5.
 - 8) 吉木 淳¹⁾, Christoph P¹⁾, 市川安昭, 日下部守昭¹⁾ (¹⁾ 理化学研究所, 実験動物室) : 被毛形成異常マウスの原因遺伝子の検索. 第31回日本発生生物学会大会, 1998. 5.
 - 9) 武政 徹, 山口隆美¹⁾, 杉本啓治, 山下和雄 (¹⁾ 名工大生産システム工学) : 律動的伸縮刺激に対してストレスファイバーは斜めに配向する. 第1回日本血管細胞生物学会大会, 1998. 9.
 - 10) 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹, 山下和雄 : 張力刺激に対する血管各部内皮細胞の応答反応. 第1回日本血管細胞生物学会大会, 1998. 9.
 - 11) 武政 徹, 山口隆美¹⁾, 杉本啓治, 山下和雄 (¹⁾ 名工大生産システム工学) : 律動的伸縮刺激に対する細胞骨格の応答 : 斜めの配向性は生物工学的に理にかなっている. 第11回バイオエンジニアリング講演会 (日本機械学会バイオエンジニアリング部門主催), 1999. 3.
 - 12) 武政 徹, 山口隆美¹⁾, 杉本啓治, 山下和雄 (¹⁾ 名工大生産システム工学) : 律動的伸縮刺激に対する血管内皮細胞の反応 : 細胞生物学・生物工学から見た血管の細胞の配向性. 平成10年度第3回日本エム・イー学会専門別研究会 [血管内皮と微小循環研究会], 1999. 3.
 - 13) 今城純子, 小野寺英貴, 山下和雄 : ラット胎仔皮膚及び毛根における maf1 癌遺伝子の発現. 第104回日本解剖学会全国学術集会, 1999. 3.
 - 14) 杉本啓治, 武政 徹, 山下和雄 : 張力刺激に対する内皮細胞のアクチンフィラメント動態. 第104回日本解剖学会全国学術集会, 1999. 3.
 - 15) 佐藤研之, 後藤 忠, 山下和雄 : mdx マウス横隔膜に対するアナボリックステロイドの影響. 第104回日本解剖学会全国学術集会, 1999. 3.

2. 解剖学第二講座

研究概要

解剖学第二講座の研究は神経解剖学と人体肉眼解剖学の2つの分野からなっている。神経解剖学の分野では、系統発生と進化を土台とした比較神経学を主体としている。研究の基本的なアイデアは、すべての脊椎動物の脳は共通の基本設計に基づいて形成され、各々の種が獲得した生態的地位によって修飾されている、というものである。これまで、種に特有な脳構造をその種のもつ生態的地位を解析することによって意味づけし、中枢神経系の成立機構そのものの解明を目指してきた。現在、①大脳新皮質の進化の解明、特に無層性皮質の成立証明、②2つ以上の異なる種類の情報（特に視覚と一般体性感覚）の脳内での関連機構の解明、③各種感覚系上行路の系統発生的な解析、④脳内の各所に分布するGnRHニューロンの機能とその起源の解明、⑤視床下部の進化、⑥中枢から感覚器、または高次のセンターから低次のセンターへ向かういわゆる遠心性投射の解析と機能の解明、などに重点を置いている。これらの研究には、通常のニッスル染色やゴルジ染色による細胞構築の解析、ボディアン染色による線維の解析、HRPやDiIを用いた実験的な線維連絡の解析、シナプス構築の解析などの他、免疫組織化学や異種間の胚の移植実験などの手法を用いて光学顕微鏡および電子顕微鏡のレベルで実験を行っている。

肉眼解剖学の分野では、臨床上役立つものを一義的に考え、ヒトを中心として研究を進めている。成人に見られる異常構造 (variation) や正常構造のパターンの成立機序を説明するためにヒトの胎児を用いて発生学的な検索を行い、同時に、各種の食虫類や霊長類も合わせて用いて比較解剖学的な検索も行っている。これらの対象となる範囲は、各部の動脈系と静脈系、肝臓の門脈系、泌尿器系（特に腎臓）、運動器系（筋肉と骨格）、末梢神経系などである。

研究業績

論文

〔1997年度追加分〕

原著：

- 1) Verweij J¹⁾, Kamermans M¹⁾, Negishi K, Spekrijse H¹⁾ (1) Graduate School Neurosciences Amsterdam, Laboratory of Medical Physics, University of Amsterdam) : GABA sensitivity of spectrally classified horizontal cells in goldfish retina. *Visual Neuroscience* 1998 ; 15 (1) : 77-86.

(1) 原著：

- 1) Yamamoto N, Parhar IS¹⁾, Sawai N, Oka Y²⁾, Ito H (1) Department of Physiology, 2) University of Tokyo) : Preoptic gonadotropin-releasing hormone (GnRH) neurons innervate the pituitary in teleosts. *Neurosci Res* 1998 ; 31 (1) : 31-38.
- 2) Takano M, Tanuma K, Ito H, Shirai Y¹⁾ (1) Department of Orthopedic Surgery) : Veins of the lumbar spinal ganglia in human adults and fetuses. *J Nippon Med Sch* 1998 ; 65 (4) : 298-306.
- 3) Albert JS, Lannoo MJ¹⁾, Yuri T²⁾ (1) Muncie Center for Medical Education, Indiana University School of Medicine, Ball State University, 2) Museum of Zoology, University of Michigan) : Testing mechanisms of neural evolution in gymnotiform electric fishes using phylogenetic character data. *Evolution* 1998 ; 52 (6) : 1760-1780.
- 4) Tsutsui H¹⁾, Yamamoto N, Ito H, Oka Y¹⁾ (1) University of Tokyo) : GnRH immunoreactive neuronal system in the presumptive ancestral chordate, *Ciona intestinalis* (Ascidian). *Gen Comp Endocrinol* 1998 ; 112 (3) : 426-432.

- 5) Albert JS, Froese R¹⁾, Bouchot R²⁾, Ito H⁽¹⁾ ICLARM, MC P.O. Box 2631, 0718 Makati City, Philippines, ²⁾ Laboratoire d'Anatomie Comparée, Case 707, Université Paris VII) : Diversity of brain size in fishes : preliminary analysis of a database including 1174 species in 45 orders. 5th Indo-Pacific Fish Conference Proceedings 1999 ; 1998 : 1-10.
 - 6) Ishikawa Y¹⁾, Yoshimoto M, Yamamoto N, Ito H⁽¹⁾ National Institute of Radiological Sciences) : Different brain morphologies from different genotypes in a single teleost species, the medaka (*Oryzias latipes*). Brain Behav Evol 1999 ; 53 (1) : 2-9.
 - 7) Ito H, Yoshimoto M, Somiya H¹⁾ (1) Mie University, Faculty of Bioresources) : External brain form and cranial nerves of the megamouth shark, *Megachasma pelagios*. Copeia 1999 ; 1999 (1) : 210-213.
 - 8) Albert JS, Fernandes-Matioli FM¹⁾, Almeida-Toledo LF¹⁾ (1) Departamento de Biologia, Instituto de Biociencias, USP) : New species of *Gymnotus* (Gymnotiformes, Teleostei) from Southeastern Brazil : Towards the desconstruction of *Gymnotus carapo*. Copeia 1999 ; 1999 (2) : 410-421.
 - 9) Ito H, Yoshimoto M, Albert JS, Yamamoto N, Sawai N : Retinal projections and retinal ganglion cell distribution patterns in a sturgeon (*Acipenser transmontanus*), a non-teleost actinopterygian fish. Brain Behav Evol 1999 ; 53 (3) : 127-141.
 - 10) Yamamoto N, Yoshimoto M, Albert JS, Sawai N, Ito H : Tectal fiber connections in a non-teleost actinopterygian fish, the sturgeon *Acipenser*. Brain Behav Evol 1999 ; 53 (3) : 142-155.
 - 11) Albert JS, Yamamoto N, Yoshimoto M, Sawai N, Ito H : Visual thalamotelencephalic pathways in the sturgeon *Acipenser*, a non-teleost actinopterygian fish. Brain Behav Evol 1999 ; 53 (3) : 156-172.
 - 12) 齋藤敏之¹⁾, 金子明博²⁾, 田 秀蘭¹⁾, 田沼久美子, 横川陽子¹⁾, 平賀一陽¹⁾ (1) 国立がんセンター中央病院麻酔科, ²⁾ 国立がんセンター眼科) : 13q 遺伝子欠損を伴った網膜色素細胞種の挿管困難症例. 臨床麻酔 1999 ; 23 (4) : 723-724.
- (2) 綜説 :
- 1) Wagner H-J¹⁾, Frolich E¹⁾, Negishi K, Collin SP²⁾ (1) チュービンゲン大・解剖学研究所, ²⁾ 西オーストラリア大・生物学) : The eyes of deep-sea fish II. Functional morphology of the retina. Progress in Retinal and Eye Research 1998 ; 17 (4) : 637-685.

著 書

- 1) Campos-da-Paz R¹⁾, Albert JS (1) Departamento de Zoologia, Instituto de Biologia, Universidade Federal do Rio de Janeiro) : [分担] History of the classification of American knifefishes (Gymnotiformes). Phylogeny and Classification of Neotropical Fishes (L. Malabarba, R.E. Reis, R.P. Vari, C.A.S. de Lucena, and Z.M.S. de Lucena, eds.) , 1999 ; pp401-417, Museu de Ciências e Tecnologia, Porto Alegre.
- 2) Albert JS, Campos-da-Paz R¹⁾ (1) Departamento de Zoologia, Instituto de Biologia, Universidade Federal do Rio de Janeiro) : [分担] Phylogenetic systematics of American knifefishes : a review of the available data. Phylogeny and Classification of Neotropical Fishes (L. Malabarba, R.E. Reis, R.P. Vari, C.A.S. de Lucena, and Z.M.S. de Lucena, eds.), 1999 ; pp419-446, Museu de Ciências e Tecnologia, Porto Alegre.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Albert J S : Heterochrony in the evolution of teleostean nervous systems. Symposium on heterochrony in marine organisms. (Iwate), 1998. 10.
- 2) 伊藤博信 : 硬骨魚類の大脳新皮質. シンポジウム「脳と動物行動の研究会」, 1998. 9.

- 3) 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類テラピアにおける中脳被蓋から終神経GnRH細胞への入力. 第104回日本解剖学会ミニシンポジウム. (東京), 1999. 3.
- (2) セミナー:
- 1) Albert J S: Use of neural data in phylogenetic reconstruction: Systematics of American electric fishes (Gymnotiformes). Los Angeles County Museum of Natural History. (Los Angeles), 1998. 7.
 - 2) Albert J S: Systematics and the evolution of the nervous system in fishes. University of Uppsala. (Uppsala, Sweden), 1999. 3.
 - 3) Albert J S: Fish brains and behaviors: A research program in Systematics and Evolution. University of Florida. (Gainesville), 1999. 3.
 - 4) Albert J S: Phylogenetic systematics of rice fishes (Adrianichthyidae, Beloniformes) using morphological and molecular data. National Science Museum. (Tokyo), 1998. 1.
- (3) 一般講演:
- 1) Masuda R¹⁾, Inoue T¹⁾, Tanuma K, Yokoyama K²⁾ (¹⁾ Department of Anesthesia, Chiba Hokusyo Hospital, ²⁾ Department of Anesthesia, Tama Nagayama Hospital): Spinal feeding arteries and sympathetic nerves blocks. The 8th World Congress The Pain Clinic. (London), 1998. 5.
 - 2) Albert J S: Phylogenetic analysis of adrianichthyid fishes (Beloniformes: Teleostei) using morphological and molecular character data. American Society of Ichthyologists and Herpetologists. (Guelph), 1998. 7.
 - 3) Albert J S, 吉本正美, 山本直之, 澤井信彦, 伊藤博信: 脳領域の体積解析法: メダカの脳をモデルとして. 第103回日本解剖学会全国学術集会, 1998. 4.
 - 4) 浅川光夫: 本邦成人腎臓における腎洞の形態計測学的検索. 第103回日本解剖学会全国学術集会, 1998. 4.
 - 5) 吉本正美, 山本直之, 宗宮弘明¹⁾, 伊藤博信 (¹⁾ 三重大・生物資源学部): 硬骨魚類カサゴ *Sebastiscus marmoratus* の sonic motor neurons と聴覚一側線感覚系との関連. 第103回日本解剖学会全国学術集会, 1998. 4.
 - 6) 澤井信彦, 山本直之, 吉本正美, 伊藤博信: 硬骨魚類スズキ目テラピアにおける乳頭体核の線維連絡. 第23回日本比較内分泌学会大会, 1998. 7.
 - 7) 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類テラピアの終神経GnRH細胞への入力. 第23回日本比較内分泌学会大会, 1998. 8.
 - 8) 吉本正美, 山本直之, 宗宮弘明¹⁾, 伊藤博信 (¹⁾ 三重大・生物資源学部): スズキ目の硬骨魚類カサゴの sonic motor nucleus の線維連絡. 第21回日本神経科学・第41回日本神経化学合同大会, 1998. 9.
 - 9) 筒井秀和¹⁾, 山本直之, 伊藤博信, 岡 良隆¹⁾ (¹⁾ 東京大・理学部): 神経核機能の解析における新たな実験系: 硬骨魚類糸球体核. 第21回日本神経科学・第41回日本神経化学合同大会, 1998. 9.
 - 10) 羽原弦史, 浅川光夫: スナネズミ腎臓における皮質と髓質の形態計測学的検索. 第104回日本解剖学会全国学術集会, 1999. 3.
 - 11) 吉本正美, 山本直之, 宗宮弘明¹⁾, 伊藤博信 (¹⁾ 三重大・生物資源学部): カサゴの sonic motor nucleus をコントロールする上位中枢. 第104回日本解剖学会全国学術集会, 1999. 3.
 - 12) 田沼久美子, 田沼 裕¹⁾, 二見長一郎, 北川 亘²⁾, 浅川光夫 (¹⁾ 帝京大・医学部・解剖, ²⁾ 付属病院第2外科): 全臓逆位の2例. 第104回日本解剖学会総会全国学術集会, 1999. 3.

3. 生理学第一講座

研究概要

少なからぬ難治の精神神経疾患の発症が思春期や更年期といった性ホルモン分泌の激変期と時期的に一致したり、性差を伴って起こる。また、過剰な男性ホルモンが粗暴な犯罪を起こさせるように、ヒトの行動も性ホルモンの支配下にある。思春期の発動機序、情動行動の調節、ひいては精神神経難病の理解といった課題の解決を目標として、ラットの性行動をモデルに脳に対する性ホルモンや視床下部ペプチドの作用を研究している。現在、(1) 脳の形態形成における性ホルモンの役割について免疫組織化学や *in situ hybridization* を用いて動的な形態学的研究をしている個体発生グループ；(2) 神経細胞の生存や死滅、脳内神経回路の形成に関わるエストロゲン受容体の発現制御を調べる分子生物学グループ；(3) 視床下部ニューロン間、あるいはニューロンとグリア細胞間の相互作用や、細胞内情報伝達系に注目している細胞生理グループ；(4) 性衝動など情動行動の中枢機序を電気生理学・行動生理学的手法で研究している行動実験グループが活動している。今後は各グループの活動を有機的に結合することによって、例えば視床下部ペプチド産生ニューロンを遺伝子工学的手法によって可視化し、細胞生理学的性質の性成熟に伴う変化を調べることで思春期発動の細胞機序を解明したり、視床下部ペプチド遺伝子のコンディショナルノックアウトにより当該ペプチドの行動生理学的役割の検討を行うことを計画している。このような神経内分泌学的な課題に当講座が研究の力点を置くようになって丸5年が経過し、本年は始めて2名の学位取得者を送り出す記念すべき年となった。その意味で当講座の研究活動はようやく軌道にのったと思われる。また、下記のリストに散見されるように、本年度も国内外との共同研究が実り多いものとなった。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kondo Y, Sachs B¹⁾, Sakuma Y (1) Department of Psychology, University of Connecticut) : Importance of the medial amygdala in rat penile erection evoked by remote stimuli from estrous females. *Behavioural Brain Research* 1998 ; 911 (2) : 215-222.
- 2) Soga T, Sakuma Y, Parhar I : Testosterone differentially regulates expression of GnRH messenger RNAs in the terminal nerve, preoptic and midbrain of male tilapia. *Molecular Brain Research* 1998 ; 60 (1) : 13-20.
- 3) Tashiro S, Kondo Y, Sakuma Y : Temporal coincidence between the excitation of ventromedial hypothalamic efferents and the induction of lordosis reflex in ovariectomized estrogen-primed rats. *Endocrine Journal* 1998 ; 45 (4) : 519-528.
- 4) Parhar I, Soga T, Ishikawa Y¹⁾ (1) Division of Biology, Institute of Radiological Sciences) : Neurons synthesizing gonadotropin-releasing hormone mRNA subtypes have multiple developmental origins in the medaka. *Journal of Comparative Neurology* 1998 ; 401 (2) : 217-226.
- 5) Parhar I : Quantitative *in situ hybridization* of three gonadotropin-releasing hormone-encoding mRNAs in castrated and progesterone-treated male tilapia. *General and Comparative Endocrinology* 1998 ; 112 (3) : 406-414.
- 6) Yoshiaki O¹⁾, Wada-Kiyama Y, Kiyama R²⁾ (1) National Institute of Bioscience and Human-Technology, 2) Institute of Molecular and Cellular Bioscience, University of Tokyo) : Expression-dependent perturbation of nucleosomal phases at HS2 of the human β -LCR : Possible correlation with periodic bent DNA. *Japan*

Molecular Biology 1998 ; 284 : 989-1004.

- 7) Philip R¹⁾, Nishikawa Naoko²⁾, Hirota M³⁾, Wada-Kiyama Y, Noguchi Constance⁴⁾, Oishi M⁵⁾, Kiyama R¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular Biology, National Institute of Bioscience and Human-Technology, Ministry of International Trade and Industry, ²⁾ Cell. Physiol. Lab., The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN), ³⁾ Kyowa Hakko Kogyo Co., LTD., ⁴⁾ LCB, NIDDK, National Institutes of Health, Bethesda, ⁵⁾ Kazusa DNA Research Institute) : Localization and characterization of curved DNA in the human erythropoietin receptor gene by experimental and theoretical approaches. DNA Research 1998 ; 5 : 349-354.
 - 8) Oonishi T¹⁾, Sakashita K¹⁾, Ishioka N²⁾, Suematsu N³⁾, Shio H, Uyesaka N (¹⁾ NTT Medical Research Institute, Kanto Teishin Hospital, ²⁾ Space utilization systems, Tukuba space center, National space Department agency of japan , ³⁾ Shiga medical center for adult disease) : Production of prostaglandins E₁ and E₂ by adult human red blood cells. Prostaglandins & Other Lipid Mediators 1998 ; 50 : 89-101.
 - 9) Ashida H¹⁾, Oonishi T²⁾, Uyesaka N (¹⁾ Division of Biomedical Information sciences, National defense medical college Research Institute, ²⁾ NTT Medical Research Institute, Kanto Teishin Hospital) : Kinetic analysis of the mechanism of action of the multidrug transporter. Journal of Theoretical Biology 1998 ; 195 : 219-232.
 - 10) Sakashita K¹⁾, Oonishi T¹⁾, Ishioka N²⁾, Uyesaka N (¹⁾ NTT Medical Research Institute, Kanto Teishin Hospital, ²⁾ Space utilization systems, Tukuba space center, National space Department agency of japan) : Endothelin-1 impairs the impaired filterability of red blood cells through the activation of protein kinase C. Japanese Journal of Physiology 1998 ; 49 : 113-120.
 - 11) Yamamoto N¹⁾, Parhar I, Sawai N¹²⁾, Oka Y³⁾, Ito H¹⁾ (¹⁾ Department of Anatomy and Laboratory for Comparative Neuromorphology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Anatomy, Institute of Basic Medical Science, University of Tsukuba, ³⁾ Misaki Marine Biological Station, Graduate School of Science, University of Tokyo) : Preoptic gonadotropin-releasing hormone (GnRH) neurons innervate the pituitary in teleosts. Neuroscience Research 1998 ; 31 : 31-38.
 - 12) Parhar I, Soga T, Sakuma Y : Regulation of three gonadotropin-releasing hormone-encoding mRNAs by progesterone in castrated male tilapia. General and Comparative Endocrinology 1998 ; 112 (3) : 406-414.
 - 13) 小山哲司¹⁾, 賀羽常道¹⁾, 上坂伸宏 (¹⁾ 司測研・技術部) : ニッケルメッシュ・フィルトレーション法の更なる定量化 : 新計測・解析システムの開発. 日本バイオレオロジー学会誌 1998 ; 12 (3) : 188-196.
- (2) 総説 :
- 1) 斎藤寛和¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 大坂元久, 早川弘一¹⁾ (¹⁾ 第一内科) : 心拍変動解析の限界と展望. 心電図 1998 ; 18 (1) : 58-63.
 - 2) 山家智之¹⁾, 南家俊介¹⁾, 西平哲郎¹⁾, 田中 明¹⁾, 大坂元久, 他3名 (¹⁾ 東北大加齢医学研究所) : 複雑系としての心臓血管系のカオスのダイナミクスに与えるACE阻害薬の影響. Prog Med 1998 ; 18 : 2481-2490.
 - 3) 山家智之¹⁾, 吉澤 誠²⁾, 大坂元久, 田林 光一¹⁾, 高安秀樹³⁾, 他2名 (¹⁾ 東北大加齢医学研究所, ²⁾ 東北大学部, ³⁾ ソニー研究所) : 循環系のカオスの起源と臨床応用について. 加齢医学研究所雑誌 1998 ; 50 : 1-16.

著 書

- 1) Moore FL¹⁾, Henderson IW²⁾, Parhar IS (¹⁾ Department of Zoology, Oregon State University, ²⁾ Department of Animal and Plant Sciences, University of Sheffield) : [共著] Comparative Biology of GnRH (Parhar I et al). General and Comparative Endocrinology, 1998 ; Academic Press (New York).

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 大坂元久：非線形系としての循環調節. 第10回血圧管理研究会, 1998. 12.

(2) 招待講演：

- 1) Sakuma Y：Estrogen-induced changes in neural impulse flow in the brain. The 4th International Congress of Neuroendocrinology Satellite Symposium, Steroids in the Brain：From Transcription Factors to Behavior, Kyoto, 1998. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) Parhar I：Multiplicity and development of GnRH neuronal system. The 4th International Congress of Neuroendocrinology, Satellite Symposium, Gonadotropin Releasing Hormone and Sex Steroids, Seoul, 1998. 10.
- 2) 木山裕子：Chromatin organization at the human β -globin replication origin based on periodic bent DNA. 平成10年度日本生化学会春季シンポジウム, 1998. 7.
- 3) 加藤昌克：下垂体濾胞星状細胞の機能とその調節. 第13回下垂体研究会学術集会, 1998. 8.

(4) 一般講演：

- 1) Kiyama Y：A whole genome analysis of allelic changes in renal cell carcinoma using in-gel competitive reassociation (IGCR). Gordon Research Conferences, 1998. 8.
- 2) Uchiyama M, Nakajima Y, Sakuma Y, Kato M：Folliculo-stellate cells of the rat pituitary responded to ATP by increasing intracellular. Brisbane '98 FAOPS, FAONS, APPS, PSN2, 1998. 9.
- 3) Kato M, Sakuma Y：GHRP-6 increased the intracellular sodium concentration in primary-cultured rat pituitary cells. The 4th International Congress of Neuroendocrinology, Kokura, 1998. 10.
- 4) Soga T, Sakuma Y, Parhar I：Regulation of molecular variants of GnRH mRNAs by 11-ketotestosterone in the male tilapia. The 4th International Congress of Neuroendocrinology, Kokura, 1998. 10.
- 5) Oriyasa C, Hayashi H¹⁾, Hayashi S¹⁾, Sakuma Y¹⁾ (Department of Anatomy and Embryology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience)：ER β mRNA expressed in the rat forebrain during development. The 4th International Congress of Neuroendocrinology, Kokura, 1998. 10.
- 6) Kiyama Y, Kiyama R¹⁾ (National Institute of Bioscience and Human-Technology, MITI)：DNA bend sites in the Human β globin locus：evidence for a basic and universal structural component of genomic DNA. The American society of Hematology, 1998. 12.
- 7) Kiyama Y：DNA bend sites in the Human β globin locus. 1st Conference of South Asian-Pacific Society of Human Genetics and 24th Annual Conference of Indian Society of Human Genetics, 1999. 2.
- 8) 小山哲司¹⁾, 賀羽常道²⁾, 上坂伸宏 (¹⁾ 司側研・技術部, ²⁾ 司側研・バイオメディカル部)：赤血球変形能測定法の更なる定量化：新計測・解析システムの開発. 第76回日本生理学会大会, 1999. 3.
- 9) 近藤保彦：電撃によって惹起される雄ラットの自発性勃起. 日本動物心理学会第58回大会, 1998. 5.
- 10) 大西忠博¹⁾, 坂下可奈子¹⁾, 上坂伸宏 (¹⁾ NTT 関東通信病院医科学研究所)：Endothelin-1はprotein kinase Cを介してメカニカルストレス下の赤血球変形能を改善する. 第21回バイオレオロジー学会年会, 1998. 6.
- 11) 小山哲司¹⁾, 上坂伸宏 (¹⁾ 司側研・技術部)：Nickel mesh filtration systemの更なる定量化とその応用への期待. 第21回バイオレオロジー学会年会, 1998. 6.
- 12) 岩崎雄樹¹⁾, 小野卓哉¹⁾, 大坂元久, 佐々部典子¹⁾, 小林義典¹⁾, 本間 博¹⁾, 斎藤寛和¹⁾, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 早川弘一¹⁾ (¹⁾ 第一内科)：誘因別にみた神経調節性失神発症頻度の日内変動. 第18回ホルター心電図研究会, 1998. 6.
- 13) 大西忠博¹⁾, 坂下可奈子¹⁾, 石岡憲昭²⁾, 上坂伸宏 (¹⁾ NTT 関東通信病院医科学研究所, ²⁾ 宇宙開発事業団)：レオロジーによって可能となった新しい赤血球の生理学：赤血球における情報伝達機構の展開. 第46回レオロ

ジー討論会, 1998. 8.

- 14) 佐藤千登世: 新生仔ラットの発育期におけるエストロゲン受容体 β mRNAの発現. 第21回日本神経科学第41回日本神経化学合同大会, 1998. 9.
- 15) 清水秀一¹⁾, 緒方憲一¹⁾, 大坂元久, 小林義典¹⁾, 斎藤寛和¹⁾, 伊藤高司¹⁾, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 第一内科): 心房細動停止過程における細動波の空間的特性の変化: 心房電位間相互情報量による検討. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 16) 大坂元久, 山家智之¹⁾, 斎藤寛和¹⁾, 吉澤 誠¹⁾, 新 博次¹⁾, 伊藤高司¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 仁田新一¹⁾, 岸田浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 第一内科): 心拍・血圧・腎交感神経活動の相互関係の定量化: 非線形手法を用いて. 第14回心電図信号情報処理ワークショップ, 1998. 10.
- 17) 木山裕子, 鈴木清子, 木山亮一¹⁾ (1) 工業技術院・生命工学研究所): ヒト・ β -グロビン遺伝子座におけるDNA折れ曲がり部位に基づいたゲノムDNA基礎的構築因子の解析. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 18) 亀石真樹子¹⁾, 木山裕子, 佐久間康夫, 木山亮一²⁾ (1) 東京大学・農学部・獣医学科, 2) 工業技術院・生命工学研究所): ヒト・エストロゲン受容体 α 遺伝子プロモーター領域における折れ曲がりDNAの局在とヌクレオソーム位相との関連. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 19) 木山裕子: ヒト・エストロゲン受容体 α 遺伝子プロモーター領域における折れ曲がりDNAの局在. 第76回日本生理学会大会, 1999. 3.
- 20) 大西知宏: GABA_B受容体機能低下によるてんかん発現. 第76回日本生理学会大会, 1999. 3.
- 21) 清水秀一¹⁾, 緒方憲一¹⁾, 八島正明¹⁾, 平山悦之¹⁾, 大坂元久, 小林義典¹⁾, 斎藤寛和¹⁾, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 第一内科): 心房細動停止過程における細動波の周波数解析. 第16回時間循環器研究会, 1999. 3.

4. 生理学第二講座

研究概要

生理学第二講座が新しい研究体制になってから2年が経過し、新体制下での研究成果が少しずつ論文として発表されるようになった。研究という行為は論文になって初めて一応の到達点と見なされ、その成果が評価されることになる。したがって、研究者にとって研究成果を論文にまとめることが必須であることは明白である。研究者とは真理の追及のために絶えることなく研究を続ける欲求を持っている者であると理解される。我々は大学という組織の中で教育と研究に従事しており、組織は規律により成り立っている。したがって、社会常識から逸脱した行動を、「研究者は自由である」などと言って自己弁護することは認められるものではない。規律の中で研究が保証されているのである。

当講座では脳内におけるストレス反応機構とエネルギー調節機構の解明を大きな研究テーマとして掲げて、そのための研究体制を構築してきた。このテーマに関して本年度に当講座で明らかにされ、論文として発表された主な内容は、急性ストレス下でのT細胞やNK細胞などの免疫担当細胞の機能低下機序にバソプレッシンとACTH放出因子(CRF)が関与していること、心理ストレスによる摂食抑制、行動の変化にCRFがCRFタイプ1レセプターを介して関与していること、拘束ストレスによる覚醒亢進にCRFタイプ1レセプターが関与していること、GH-releasing peptideの脳室内投与による摂食促進作用は自由摂食下で認められ、ストレスやソマトスタチンにより拮抗されることなどである。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Li AJ¹⁾, Oomura Y¹⁾, Sasaki K¹⁾, Suzuki K, Tooyama I¹⁾, Hanai K¹⁾, Kimura H¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology, Faculty of Medicine, Kyushu University) : A single pre-training glucose injection induces memory facilitation in rodents performing various tasks : contribution of acidic fibroblast growth factor. *Neuroscience* 1998 ; 85 (3) : 785-794.
- 2) Hotta M¹⁾, Shibasaki T, Sato K¹⁾, Demura H¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Tokyo Women's Medical University) : The importance of body weight history in the occurrence and recovery of osteoporosis in patients with anorexia nervosa : evaluation by dual X-ray absorptiometry and bone metabolic markers. *Eur J Endocrinol* 1998 ; 139 : 276-283.
- 3) Shibasaki T, Yamauchi N, Takeuchi K¹⁾, Ishii S¹⁾, Sugihara H¹⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School) : The growth hormone secretagogue KP-102-induced stimulation of food intake is modified by fasting, restraint stress, and somatostatin in rats. *Neurosci Lett* 1998 ; 255 : 9-12.
- 4) Shibasaki T, Hotta M¹⁾, Sugihara H²⁾, Wakabayashi I²⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Tokyo Women's Medical University, ²⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School) : Brain vasopressin is involved in stress-induced suppression of immune function in the rat. *Brain Res* 1998 ; 808 : 84-92.
- 5) Arai K, Ohata H, Shibasaki T : Non-peptidic corticotropin-releasing hormone receptor type 1 antagonist reverses restraint stress-induced shortening of sodium pentobarbital-induced sleeping time of rats : evidence that an increase in arousal induced by stress is mediated through CRH receptor type 1. *Neurosci Lett* 1998 ; 255 : 103-106.
- 6) Tanabe A¹⁾, Naruse M¹⁾, Arai K, Naruse K¹⁾, Yoshimoto T¹⁾, Saki T¹⁾, Imaki K¹⁾, Miyazaki H²⁾, Zeng

ZP³), Demura R¹), Demura H¹) (¹) Department of Medicine, Tokyo Women's Medical University, ²) Institute of Applied Biochemistry, Gene Experiment Center, University of Tsukuba, ³) Department of Endocrinology, Peking Union Medical College Hospital) : Gene expression and roles of angiotensin type 1 and type 2 receptors in human adrenals. *Horm Metab Res* 1998 ; 30 : 490-495.

- 7) Hotta M¹), Sato K¹), Shibasaki T, Demura H¹) (¹) Department of Medicine, Tokyo Women's Medical University) : Hypercalcemia in an euthyroid patient with secondary hypoadrenalism and diabetes insipidus due to hypothalamic tumor. *Endocrine J* 1998 ; 45 : 773-778.
 - 8) Hotta M¹), Shibasaki T, Arai K, Demura H¹) (¹) Department of Medicine, Tokyo Women's Medical University) : Corticotropin-releasing factor receptor type 1 mediates emotional stress-induced inhibition of food intake and behavioral changes in rats. *Brain Res* 1999 ; 823 : 221-225.
 - 9) 池田みさ子¹), 嶋田将之¹), 丸 栄一, 金子敏代¹), 鈴木英弘¹) (¹) 東京女子医科大学麻酔科) : 海馬GABA抑制からみたプロポフォールの蓄積効果. *日本麻酔・薬理学雑誌* 1998 ; 11 : 129-130.
- (2) 総説 :
- 1) 新井桂子 : グルココルチコイド抵抗性を示す疾患と視床下部 : 下垂体 : 副腎系. *日医大誌* 1998 ; 65 (5) : 396-401.

著 書

- 1) 新井桂子 : [分担] 膵臓の内分泌機能と糖代謝の調節. 内分泌生理学講義 (佐久間康夫他), 1999 ; pp65-102, 丸善.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Shibasaki T, Suzuki K, Ohata H, Arai K, Wakabayashi I¹) (¹) Department of Medicine, Nippon Medical School) : Endocrine peptides in feeding behavior. The 11th Asia-Oceania Congress of Endocrinology (Seoul), 1998. 4.

(2) 一般講演 :

- 1) Ohata H, Suzuki K, Arai K, Oki Y¹), Shibasaki T (¹) Department of Medicine, Hamamatsu University School of Medicine) : Urocortin in the ventromedial nucleus of the hypothalamus (VMH) inhibits feeding behavior in rats. The 80th Annual Meeting of The Endocrine Society (New Orleans), 1998. 6.
- 2) Suzuki K, Ohata H, Arai K, Wakabayashi I¹), Shibasaki T (¹) Department of Medicine, Nippon Medical School) : Growth hormone releasing-peptide stimulates feeding behavior through the ventromedial nucleus (VMH) and arcuate nucleus (ARC) of the hypothalamus in rats. The 80th Annual Meeting of The Endocrine Society (New Orleans), 1998. 6.
- 3) Arai K, Ohata H, Shibasaki T : Nonpeptidic corticotropin-releasing hormone receptor type 1 antagonist reverses restraint-induced shortening of sodium pentobarbital-induced sleeping time of rats. The 4th International Congress of Neuroendocrinology (Hakata), 1998. 11.
- 4) Ohata H, Arai K, Shibasaki T : Corticotropin releasing hormone receptor type 1 is involved in restraint stress-induced inhibition of food intake. The 4th international Congress of Neuroendocrinology (Hakata), 1998. 11.
- 5) Hotta M¹), Shibasaki T, Arai K, Demura H¹) (¹) Department of Medicine, Tokyo Women's Medical University) : Emotional stress-induced behavioral changes and inhibition of food intake are mediated by corticotropin-releasing hormone receptor 1 in rats. The 4th International Congress of Neuroendocrinology (Haka-

- ta), 1998. 11.
- 6) Makino S¹⁾, Shibasaki T, Yamauchi N, Nishioka T¹⁾, Mimoto T¹⁾, Wakabayashi I²⁾, Hashimoto K¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Kouchi Medical School, ²⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School) : Psychological stress increased corticotropin-releasing hormone mRNA and content in the central nucleus of the amygdala but not in the hypothalamic paraventricular nucleus in the rat. The 4th International Congress of Neuroendocrinology (Hakata), 1998. 11.
 - 7) Shuto Y¹⁾, Parhar I²⁾, Yamauchi N, Kamegai J¹⁾, Sugihara H¹⁾, Shibasaki T, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Physiology 1, Nippon Medical School) : Production of antisera against a growth hormone secretagogue receptor (GHS-R). The 4th International Congress of Neuroendocrinology (Hakata), 1998. 11.
 - 8) Sudo T¹⁾, Kawakami Y¹⁾, Maru E, Yamagata K²⁾ (¹⁾ Department of Physiology, Tokyo Women's Medical University, ²⁾ Department of Molecular Neurobiology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : Duration of afterdischarge induced by perforant path tetanic stimulation is moderately suppressed in COX-2 knockout mouse. Annual Meeting of Society for Neuroscience (Los Angeles), 1998. 11.
 - 9) 新井桂子, 堀田眞理¹⁾, 芝崎 保, 出村 博¹⁾ (¹⁾ 東京女子医科大学第二内科) : 神経性食欲不振症患者の corticotropin-releasing factor (CRF) 1 受容体の遺伝子解析. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
 - 10) 大島久幸, 鈴木健治, 芝崎 保 : Urocortin の摂食および飲水行動抑制作用に関する検討. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
 - 11) 鈴木健治, 大島久幸, 若林一二¹⁾, 芝崎 保 (¹⁾ 日本医科大学第三内科) : ラット成長ホルモン放出ペプチドの視床下部内摂食促進作用発現部位の解析. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
 - 12) 堀田眞理¹⁾, 福田いずみ¹⁾, 肥塚直美¹⁾, 高野加寿江¹⁾, 芝崎 保, 出村 博¹⁾ (¹⁾ 東京女子医科大学第二内科) : 神経性食欲不振症における骨代謝と栄養パラメーターとの関連. 第71回日本内分泌学会学術大会, 1998. 6.
 - 13) 原田嘉夫 : 二種類の幼若脊髄にみられる運動ニューロンの同期した周期性興奮. 第21回日本神経科学・第41回日本神経化学合同大会, 1998. 9.
 - 14) 原田嘉夫 : 抑制系遮断による脊髄運動ニューロンの同期した周期性興奮発現機構. 第76回日本生理学大会, 1999. 3.

5. 生化学第一講座

研究概要

本教室では生理的および病理的に重要な生体内の現象を分子レベルで解明するため、それに関わる蛋白質分子の構造と機能の解明を中心課題として研究している。NOやスーパーオキシドなど近年情報伝達や病態などに広くかかわっている分子の生成と制御機構を中心として、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因など幅広い問題に分子生物学的手法、分光光学をふくむ物理化学的手法、たんぱく質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に取り組んでいる。

1. スーパーオキシドや一酸化窒素などのラジカル分子の生成と制御の機構：低分子ラジカルは老化、細胞死、神経伝達、免疫、血液循環など様々な生命現象に関与し、数々の疾患の原因ともなっている。

a) スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素（脱水素酵素）については分光学的解析や反応速度論的解析を継続的に展開しており、今年度は昨年に引き続きバキュロウイルス/昆虫細胞系を用いた発現系を用いた種々の変異酵素を作成し、その解析を行っている。また、文部省国際共同研究としてX-線結晶解析による三次元構造の解析の研究をすすめている。

b) 一酸化窒素合成酵素については、一酸化窒素合成酵素の活性制御物質の検討を行った。一酸化窒素合成酵素自身については、昨年に引き続きcDNA発現系によって得たマウス小脳の天然の変異酵素や野性型酵素の特にヘム周囲の分光学的検討、分子的性質の検討を行ってきた。

2. 細胞内酸化的ストレス抵抗性タンパク質であろうと予想されるHBP23に関して、その性質、誘導機構について分析し、大量発現系の構築を行い、その性質の検討をおこなった。また、その蛋白質の結晶を得て、立体構造の解明を行った。さらに、各種酸化還元酵素やその他の蛋白質につき他大学・研究機関との共同研究も行ってきた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ichida K¹⁾, Kamatani N²⁾, Nishino T, Saji H¹⁾, Okabe H¹⁾, Hosoya T¹⁾ (¹⁾ Jikei University School of Medicine, ²⁾ Tokyo Women's Medical College) : Mutations in xanthine dehydrogenase gene in subjects with hereditary xanthinuria. *Adv Exp Med Biol* 1998 ; 431 : 327-330.
- 2) Nagahara N, Ito T¹⁾, Kitamura H¹⁾, Nishino T (¹⁾ Department of Pathology, Yokohama City University) : Tissue and subcellular distribution of mercaptopyruvate sulfur transferase in rat : confocal laser fluorescence and immunoelectron microscopic studies combined with biochemical analysis. *Histochem Cell Biol* 1998 ; 110 : 243-250.
- 3) Hori H, Yamazaki N¹⁾, Matsumoto T¹⁾, Watanabe Y¹⁾, Ueda T¹⁾, Nishikawa K¹⁾, Kumagai I¹⁾, Watanabe K¹⁾ (¹⁾ The University of Tokyo) : Substrate recognition of tRNA (guanosine-2'-)-methyltransferase from *Thermus thermophilus* HB27. *J Biol Chem* 1998 ; 273 : 25721-25727.
- 4) Otsubo Y¹⁾, Hori H, Sawa R¹⁾, Yoneyama T¹⁾, Nishino T, Araki T¹⁾ (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology) : Inducible nitric oxide synthase in human placenta. *Placenta* 1998 ; 19 : A23.
- 5) Otsubo Y¹⁾, Hori H, Nishino T, Araki T¹⁾ (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology) : Comparisons of Nitric Oxide Synthases in Normal Human Placenta from 37 to 41 Weeks Gestation : Qualitative and Quantitative Analyses. *J Matern Fetal Invest* 1998 ; 8 : 138-141.
- 6) Iwasaki T, Hori H, Hayashi Y, Nishino T : Modulation of the Remote Heme Site Geometry of Recombinant

Mouse Neuronal Nitric-oxide Synthase by the N-terminal Hook Region. J Biol Chem 1999 ; 274 : 7705-7713.

- 7) Igarashi K¹⁾, Verhagen M²⁾, Samejima M¹⁾, Schulein M³⁾, Eriksson K.L²⁾, Nishino T (¹⁾ The University of Tokyo, ²⁾ The University of Georgia, ³⁾ Novo Nordisk) : Cellobiose Dehydrogenase from the Fungi *Phanerochaete chrysosporium* and *Humicola insolens* : A flavoprotein from *Humicola insolens* contains 6-hydroxy-FAD as the dominant active cofactor. J Biol Chem 1999 ; 274 : 3338-3344.
- 8) Ichimori K¹⁾, Fukahori M¹⁾, Nakazawa H¹⁾, Okamoto K, Nishino T (¹⁾ Department of Physiology ²⁾ : Inhibition of Xanthine Oxidase and Xanthine Dehydrogenase by Nitric Oxide : nitric oxide converts reduced xanthine oxidizing enzymes into the desulfo-type inactive form. J Biol Chem 1999 ; 274 : 7763-7768.
- 9) Hirotsu S¹⁾, Abe Y, Nagahara N, Hori H, Nishino T, Okada K¹⁾, Hakoshima T¹⁾ (¹⁾ Nara Institute of Science and Technology) : Crystallographic characterization of a stress-induced multifunctional protein, rat HBP23. J Struct Biol 1999 ; 126 : 80-83.

(2) 綜説 :

- 1) 堀 弘幸, 岩崎俊雄 : NO合成酵素の構造と機能. 医学のあゆみ 1999 ; 188 (13) : 1113-1115.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 堀 弘幸, 岩崎俊雄, 林 陽子, 倉橋谷子, 松村智裕, 梅田真郷¹⁾, 西野武士 (¹⁾ 都臨床研, 炎症) : リン脂質の一酸化窒素合成酵素 (NOS) に及ぼす影響. 第71回日本生化学会, 1998. 10.
- 2) 岡本 研, 岩崎俊雄, 西野朋子, 堀 弘幸, 西野武士 : キサンチン脱水素酵素における鉄硫黄中心の構造と反応の連携. 第71回日本生化学会, 1998. 10.

(2) ワークショップ :

- 1) Iwasaki T, Hori H, Hayashi Y, Nishino T : Variation of Molecular Properties in Recombinant Neuronal NO Synthase Produced in *Escherichia coli*. 「生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学」第4回ワークショップ, 1998. 12.
- 2) Nishino T¹⁾, Okamoto K, Iwasaki T, Hori H, Nishino T (¹⁾ Dept. of Biochem., Yokohama City Univ.) : Sitedirected mutagenesis studies of a complex metalloflavoprotein, Xanthine Oxidase. 「生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学」第4回ワークショップ, 1998. 12.
- 3) Hirotsu S¹⁾, Okada K¹⁾, Fujii Y¹⁾, Kato M¹⁾, Shimizu T¹⁾, Maru Y²⁾, Abe Y, Nagahara N, Hori H, Nishino T, Hakoshima T¹⁾ (¹⁾ Nara Institute of Science and Technology, ²⁾ Inst. Mol.Sci. Univ. Tokyo) : Crystal Structure of Rat HBP-23 (human PAG), a Novel Antioxidant Protein. 「生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学」第4回ワークショップ, 1998. 12.
- 4) 阿部靖子, 岩原信一郎, 永原則之, 土屋輝昌¹⁾, 丸 義朗²⁾, 渋谷正史²⁾, 堀 弘幸, 西野武士 (¹⁾ 東京医科歯科大, 難治研, 分子遺伝, ²⁾ 東京大学, 医科研細胞遺伝) : 抗酸化作用を有するラットヘム結合蛋白質HBP23. 第71回日本生化学会, 1998. 10.
- 5) 岩崎俊雄, 堀 弘幸, 林 陽子, 西野武士 : 単量体型の神経型NO合成酵素. 第71回日本生化学会, 1998. 10.
- 6) 西野朋子¹⁾, 岡本 研, 堀 弘幸, 中西茂子, 松村智裕, 西野武士 (¹⁾ 横浜市大, 医学部, 一生化) : 部位特異的変異によるキサンチン脱水素酵素の構造機能解析. 第71回日本生化学会, 1998. 10.
- 7) 五十嵐圭日子¹⁾, 鮫島正治¹⁾, Verhagen M.F.J.M²⁾, Eriksson K-EL²⁾, Schulein M³⁾, 西野武士 (¹⁾ 東京大学農学部, ²⁾ ジョージア大学生化生, ³⁾ ノボノルディクス) : セロピオース脱水素酵素の異常フラビンに関する研究. 第71回日本生化学会, 1998. 10.

(3) 一般講演：

- 1) 三好 洋, 鈴木 晶¹⁾, 堀 弘幸, 岡本 研, 西野武士, 石田寿昌²⁾, 脇山素明¹⁾, 三浦謹一郎¹⁾ (¹⁾ 学習院大, 生命分子研, ²⁾ 大阪薬大, 薬品物理化学) : *Xenopus* 翻訳開始因子 eIF-4E の発現及びその機能. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 2) 広津晶子¹⁾, 岡田建吾¹⁾, 藤井佳史¹⁾, 加藤昌人¹⁾, 清水敏之¹⁾, 阿部靖子, 永原則之, 堀 弘幸, 西野武士, 箱嶋敏雄¹⁾ (¹⁾ 奈良先端大, バイオ) : 抗酸化作用を持つヘム結合性たんぱく質 HBP-23 の構造と機能. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 3) 西野朋子¹⁾, 岡本 研, 堀 弘幸, 西野武士 (¹⁾ 横浜市大, 医学部, 一生化) : 部位特異的変化によるキサンチン脱水素酵素の脱水素酵素型, 酸化酵素型相互変換機構の解析. 第32回日本プリン・ピリミジン代謝学会総会, 1999. 2.
- 4) 岡本 研, 一守康史¹⁾, 中澤博江¹⁾, 西野武士 (¹⁾ 東海大, 二生理) : 一酸化窒素によるキサンチン酸化酵素の阻害機構. 第32回日本プリン・ピリミジン代謝学会総会, 1999. 2.

6. 生化学第二講座

研究概要

遺伝子治療研究：

遺伝子治療研究が本学のハイテクリサーチプロジェクトの一つに選定されたことから、全教室を上げて、遺伝子治療の臨床応用を目指した広い範囲の研究に取り組んでいる。ベクター開発の分野では、レトロウイルス、アデノウイルス、HIV、アデノ随伴ウイルス (AAV) を使ったベクターの安全性と導入効率の改善をはかるとともに、臨床応用可能なベクターの作製法の開発を行っている。実験動物を使った前臨床試験として、学内外の臨床系グループと共同研究を進めている。主な対象疾患は先天性代謝異常症 (小児科)、悪性腫瘍 (放射線科、第一外科、泌尿器科、第三内科)、神経変性疾患 (第二内科、順天堂神経内科)、骨筋肉疾患 (整形外科、熊大発達小児科) などである。平成11年度からは筑波の霊長類センターと共同で、サルを使った遺伝子治療実験も計画している。また、次世代の遺伝子治療技術として期待されている、特定の細胞や組織だけを治療できる細胞ターゲティング技術の開発にも取り組んでいる。これまでに HIV 感染細胞、肝癌細胞、筋芽細胞への特異的遺伝子導入に成功している。さらに、究極の遺伝子治療技術と考えられている、遺伝子を修復する方法の基礎研究として、AAV やトリプルヘリックスを応用した遺伝子ターゲティングの可能性を検討している。

遺伝子診療：

平成10年度より、臨床各科と協力して本格的な遺伝子診療を開始した。遺伝子診療とは倫理的問題に配慮しつつ、遺伝子の情報を患者のために利用するための新しい診療システムである。我が国では、未だ2-3の大学病院でしか行われていないが、遺伝子情報を適切に医療に反映させるためには不可欠な新しい医学分野と考えられている。これまでに日本医大付属病院小児科の遺伝外来を窓口として、ゴーシェ病、低フォスファターゼ症、エーラスダンロス症候群 IV 型、多発性内分泌腺腫症の遺伝子診断及び遺伝カウンセリングを実施した。また、遺伝子診療の技術的問題や倫理的問題を考えるため、医師、看護婦、研究者、学生による臨床遺伝カンファレンスを定期的に行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Matsuoka H, Miyake K, Shimada T : Improved methods of HIV mediated gene transfer. *Int J Hematol* 1998 ; 67 : 267-273.
- 2) Shimizu T¹⁾, Ando K²⁾, Kimura M³⁾, Miyatake H¹⁾, Inokuchi S⁴⁾, Takakura I¹⁾, Migita M, Shimada T, Kato S¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Tokai University School of Medicine, ²⁾ Division of Hematology/Oncology, Tokai University School of Medicine, ³⁾ Division of Genetic Information, Department of Molecular Lifescience, Tokai University School of Medicine, ⁴⁾ Department of Emergency Medicine, Tokai University School of Medicine) : A simple and efficient purification of transduced cells by using green fluorescent protein gene as a selection marker. *Acta Paediatrica Japonica* 1998 ; 40 : 586-592.
- 3) Tanosaki S¹⁾, Inokuchi K¹⁾, Shimada T, Dan K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine) : Relation between Microsatellite Instability and N-ras Mutation and Duration of Disease Free Survival in patients with Acute Leukemia. *Cancer* 1998 ; 83 (3) : 475-481.
- 4) Orimo H, Ikejima M, Nakajima E, Emi M¹⁾, Shimada T (¹⁾ Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology) : A novel missense mutation and frameshift mutations in the type II receptor of transforming growth factor- β gene in sporadic colon cancer with microsatellite instability. *Mutat Res* 1998 ; 382 : 115-

- 5) Goseki-Sone M¹⁾, Orimo H, Iimura T²⁾, Miyazaki H³⁾, Oda K⁴⁾, Shibata H⁴⁾, Yanagishita M⁵⁾, Takagi Y⁶⁾, Watanabe H⁷⁾, Shimada T, Oida S⁵⁾ (1) Department of Food and Nutrition, Japan Women's University, 2) Department of Developmental Biology, Graduate School of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University, 3) First Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University, 4) Department of Oral Biochemistry, Faculty of Dentistry, Niigata University, 5) Department of Biochemistry, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University, 6) Department of Pedodontics, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University, 7) Department of Periodontology, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University) : Expression of the mutant (1735T-DEL) tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene from hypophosphatasia patients. *J Bone Miner Res* 1998 ; 13 (12) : 1827-1834.
- 6) Igarashi T, Suzuki S, Takahashi M¹⁾, Tamaoki T²⁾, Shimada T (1) Fourth Department of Internal Medicine Sapporo Medical School of Medicine, 2) Department of Medical Biochemistry, University of Calgary) : A Novel Strategy of Cell Targeting Based on Tissue-Specific Expression of the Ecotropic Retrovirus Receptor Gene. *Hum Gene Ther* 1998 ; 9 : 2691-2698.
- 7) Kitamura Y¹⁾, Ishikawa T¹⁾, Okui N¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Kanda T¹⁾, Shimada T, Miyake K, Yoshiike K¹⁾ (1) Division of Molecular Genetics, National Institute of Infectious Diseases) : Inhibition of replication of HIV-1 at both early and late stages of the viral life cycle by single-chain antibody against viral integrase. *J Acquir Immune Defic Syndr Hum Retrovirol* 1999 ; 20 (2) : 105-114.
- 8) Koseki S^{1, 2, 3)}, Tanabe T⁴⁾, Tani K⁴⁾, Asano S⁴⁾, Shioda T⁵⁾, Nagai Y⁵⁾, Shimada T, Ohkawa J^{1, 2, 3)}, Taira K^{1, 2, 3)} (1) National Institute for Advanced Interdisciplinary Reserch, AIST, MITI, 2) National Institute of Bioscience and Human Technology, AIST, MITI, 3) Institute of Applied Biochemistry, University of Tsukuba, 4) Department of Hepatology/Oncology, Institute of Medical Science, University of Tokyo, 5) Department of Viral Infection, Institute of Medical Science, University of Tokyo) : Factors Governing the Activity In Vivo of Ribozymes Transcribed by RNA Polymerase. *J. Virol* 1999 ; 73 (3) : 1868-1877.
- 9) Hisayasu S, Miyauchi M, Akiyama K¹⁾, Gotoh T¹⁾, Satoh S¹⁾, Shimada T (1) Tsukuba Lab., Hisamitsu Pharmaceutical Co.Inc.) : In vivo targeted gene transfer into liver cells mediated by a novel galactosyl-D-lysine/D-serine copolymer. *Gene Therapy* 1999 ; 6 (4) : 689-693.
- (2) 総説 :
- 1) 池島三与子, 島田 隆 : 真核細胞におけるミスマッチ修復の役割とその分子機構. *実験医学* 1998 ; 16 (8) : 1089-1096.
- 2) 島田 隆 : 遺伝子治療用ウイルスベクター. *遺伝子医学* 1998 ; 2 (3) : 360-366.
- 3) 浅野ありさ, 右田 真 : 血友病B. 血液症 (その他の血液疾患を含) 1998 ; 21 : 427-429.
- 4) 島田 隆 : ガン細胞を特異的に殺傷する遺伝子治療法の開発. *Academia* 1999 ; 175 : 30-35.
- 5) 島田 隆 : in vivo 遺伝子導入法ウイルスベクター. *腎と透析* 1999 ; 臨時増刊号 : 132-138.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 島田 隆 : 遺伝子治療のための標的遺伝子導入技術の開発に関する研究. 厚生科学研究費 ヒトゲノム・遺伝子治療研究事業 1999.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Shimada T : Tissue Specific Gene Delivery by Retoroviral Vectors. 1999 Tandem Bone Marrow Transplan-

tation Meetings (Keystone), 1999. 3.

(2) 教育講演：

1) 島田 隆：遺伝子治療の現状と展望. 第98回日本外科学会, 1998. 4.

(3) シンポジウム：

1) 島田 隆：遺伝子治療とその技術開発. 第10回北海道輸血シンポジウム“セルセラピー”, 1998. 6.

2) 池島三与子, 渡辺 淳, 中島英逸, 折茂英生, 島田 隆：ミスマッチ修復におけるhMSH3の役割. 第71回日本生化学会大会, 1998. 10.

3) 渡辺 淳, 武田和久¹²⁾, Ploplis B¹⁾, 橘 正芳¹³⁾ (¹⁾ NIDCD, NIH, USA, ²⁾ 現 東北大学医学部医学生物化学講座分子生物学分野, ³⁾ 現 埼玉県立がんセンター研究所)：ホメオドメインを有する転写因子PAX3の遺伝子変異によるWaardenburg症候群症状惹起のメカニズム. 第41回日本先天代謝異常学会, 1998. 11.

(4) ワークショップ：

1) 清水憲二¹⁾, 池田雅彦¹²⁾, 折茂英生, 松原長秀¹²⁾, 高嶋寛年¹²⁾, 田中紀章²⁾, 木村彰方³⁾, 島田 隆 (¹⁾ 岡山大・医・遺伝子, ²⁾ 岡山大・医・外科1, ³⁾ 東京医歯大・難治研)：ヒトがんにおけるミスマッチ修復欠損とその標的遺伝子. 第57回日本癌学会総会, 1998. 10.

2) 三宅弘一：HIVベクターによる遺伝子導入. 第5回遺伝子治療ワークショップ, 1998. 11.

3) 池島三与子, 中島英逸, 渡辺 淳, 島田 隆：抗体を用いたhMSH3蛋白質の機能解析. Workshop on "DNA repair, Recombination and Mutagenesis 1999", 1999. 2.

(5) 一般講演：

1) Tanabe T¹⁾, Tani K¹⁾, Ohkawa J¹⁾, Shioda T²⁾, Miyake K, Izawa K, Shimada T, Taira K³⁾, Nagai Y²⁾, Asano S¹⁾ (¹⁾ Department of Hematology/Oncology, Institute of Medical Science, University of Tokyo, ²⁾ Department of Viral infection, Institute of Medical Science, University of Tokyo, ³⁾ Institute of Applied Biochemistry, University of Tsukuba)：Improvement of anti-HIV ribozyme. 1st annual meeting of American Society of Gene Therapy (Seattle), 1998. 5.

2) Miyake K, Suzuki N, Shimada T：Targeted gene transfer into hematopoietic cells by HIV vectors. 1st Annual meeting of American Society of Gene Therapy (Seattle), 1998. 5.

3) Shimada T, Igarashi T, Fujii I, Suzuki S：A novel targeting strategy by two step gene transfer. 1st Annual meeting of American Society of Gene Therapy (Seattle), 1998. 5.

4) Hirai Y, Satoh W, Tamayose K, Shimada T：Site-Specific Gene Integration by Co-Introduction of AAV Vector Plasmid and REP Protein. The 4th Annual Meeting of The Japan Society of Gene Therapy, 1998. 6.

5) Miyake K, Suzuki N, Shimada T：Efficient gene transfer into human primary hematopoietic cells by high-titer recombinant HIV vectors. The 4th annual meeting of the Japan Society of Gene Therapy, 1998. 6.

6) Miyake K, Inokuchi K¹⁾, Suzuki N, Tajika K¹⁾, Gomi S¹⁾, Dan K¹⁾, Shimada T (¹⁾ The Third Dept. of Internal Medicine)：Targeted and efficient gene transfer into hematopoietic cells by high-titer recombinant HIV vectors. ISH-EHA combined hematology congress (Netherlands), 1998. 7.

7) Fujii I^{1, 2)}, Suzuki S¹⁾, Igarashi T¹⁾, Matsukura M²⁾, Miike T²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Child Development, Kumamoto University, School of Medicine)：Muscle Specific Gene Transfer and Persistent Gene Expression for Genetic Correction of Duchenne Muscular Dystrophy. The 4th Annual Meeting of The Japan Society of Gene Therapy, 1998. 7.

8) Hisayasu S, Miyauchi M, Akiyama K¹⁾, Gotoh T¹⁾, Satoh S¹⁾, Shimada T (¹⁾ Tsukuba Lab., Hisamitsu Pharm.Co.Inc.)：In vivo Targeted Gene Transfer into Liver Cells Mediated by the Novel Galactosyl-D-Lysine/D-Serine Copolymer. The 4th Annual Meeting of the Japan Society of Gene Therapy, 1998. 7.

- 9) Goseki-Sone M¹⁾, Orimo H, Iimura T²⁾, Miyazaki H³⁾, Oda K⁴⁾, Shibata H⁴⁾, Yanagishita M⁵⁾, Takagi Y⁶⁾, Watanabe H⁷⁾, Shimada T, Oida S⁵⁾ (¹⁾ Department of Food and Nutrition, Japan Women's University, ²⁾ Department of Developmental Biology, Graduate School of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University, ³⁾ First Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University, ⁴⁾ Department of Oral Biochemistry, Faculty of Dentistry, Niigata University, ⁵⁾ Department of Biochemistry, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University, ⁶⁾ Department of Pedodontics, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University, ⁷⁾ Department of Periodontology, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University) : Expression of the mutant (1735T-DEL) tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene from hypophosphatasia patients. 1998 Second Joint Meeting of the American Society of Bone and Mineral Research and the International Bone and Mineral Society (San Francisco), 1998. 12.
- 10) Fujii I^{1, 2)}, Suzuki S¹⁾, Igarashi T¹⁾, Takeda S³⁾, Matsukura M²⁾, Miike T²⁾, Simda T¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Child Development, Kumamoto University, School of Medicine, ³⁾ National Center of Neurology and Psychiatry) : Muscle Specific Gene Transfer and Persistent Gene Expression for Genetic Correction of Duchenne Muscular Dystrophy. Keystone Symposia 99, Molecular and Cell biology of Gene Therapy (Keystone), 1999. 1.
- 11) Shimada T : A Novel Strategy of Cell Targeting by Two Step Gene Transfer. SECOND US-JAPAN GENE THERAPY CONFERENCE (Bethesda), 1999. 2.
- 12) 渡辺 淳, 武田和久¹²⁾, Ploplis B¹⁾, 橘 正芳¹⁾ (¹⁾ NIDCD, NIH, USA, ²⁾ 東北大学医学部医学生物化学講座分子生物学分野) : Waardenburg 症候群に関わる2つの転写因子PAX3, MITFの遺伝子変異による症状惹起メカニズム. 第38回日本先天異常学会, 1998. 7.
- 13) 渡辺 淳, 右田 真, 山本基子, 高橋久美, 濱田久光¹⁾, 榑崎秀彦¹⁾, 山本正生¹⁾, 島田 隆 (¹⁾ 小児科) : 遺伝子変異解析を用いたGaucher病の確定診断法開発の検討. 第5回日本遺伝子診療学会, 1998. 7.
- 14) 八百板仁志, 折茂英生, 白井康正¹⁾, 島田 隆 (¹⁾ 整形外科) : ラット大腿骨骨折モデルにおけるBMPおよびDlx 遺伝子の発現の変化について. 第16回日本骨代謝学会, 1998. 8.
- 15) 神田佳和, 上野新也¹⁾ (¹⁾ 東レ研究所) : MGF及RAによるNT2細胞の神経細胞への分化誘導時におけるCatecholamine生成への影響. 第71回日本生化学会大会, 1998. 10.
- 16) 右田 真, 高橋久美, 島田 隆, 桜川宣男¹⁾ (¹⁾ 国立精神・神経センター研究所 疾病研究第5部) : 治療用遺伝子を導入した羊膜細胞をキャリアーとする酸素欠損症に対する移植治療の検討. 第43回日本人類遺伝学会, 1998. 10.
- 17) 高橋久美, 右田 真, 平井幸彦, 島田 隆 : AAVベクターを用いた異染性白質ジストロフィーに対する遺伝子治療に向けて. 第43回日本人類遺伝学会, 1998. 10.
- 18) 渡辺 淳, 武田和久¹²⁾, Ploplis B¹⁾, 橘 正芳¹³⁾ (¹⁾ NIDCD, NIH, USA, ²⁾ 現 東北大学医学部医学生物化学講座分子生物学分野, ³⁾ 現 埼玉県立がんセンター研究所) : Waardenburg 症候群に関わる2つの転写因子PAX3, MITFの遺伝子変異による症状惹起メカニズム. 第43回日本人類遺伝学会, 1998. 10.
- 19) 藤井 績^{1, 2)}, 鈴木 聡¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 武田伸一³⁾, 松倉 誠²⁾, 三池輝久²⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学第2生化, ²⁾ 熊本大学医学部発達小児科, ³⁾ 国立精神・神経センター) : 筋組織特異的遺伝子導入によるDuchenne型筋ジストロフィーに対する遺伝子治療. 第43回日本人類遺伝学会, 1998. 10.
- 20) 渡辺 淳, 右田 真, 山本基子, 高橋久美, 浜田久光¹⁾, 榑崎秀彦¹⁾, 山本正生¹⁾, 島田 隆 (¹⁾ 小児科) : 遺伝子変異解析を用いたGaucher病の確定診断法開発の検討. 第43回日本人類遺伝学会, 1998. 10.
- 21) 右田 真, 高橋久美, 島田 隆, 桜川宣男¹⁾ (¹⁾ 国立精神・神経センター研究所 疾病研究第5部) : 治療用遺伝子を導入した羊膜細胞をキャリアーとする酸素欠損症に対する移植治療の検討. 第41回日本先天代謝異常学

- 会, 1998. 11.
- 22) 渡辺 淳, 右田 真, 山本基子, 高橋久美, 浜田久光¹⁾, 榑崎秀彦¹⁾, 山本正生¹⁾, 島田 隆⁽¹⁾ (小児科): 遺伝子変異解析を用いたGaucher病の確定診断法開発の検討. 第41回日本先天代謝異常学会, 1998. 11.
- 23) 藤井 績^{1, 2)}, 鈴木 聡¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 武田伸一³⁾, 松倉 誠²⁾, 三池輝久²⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学第2生化, 2) 熊本大学医学部発達小児科, 3) 国立精神・神経センター): 筋組織特異的遺伝子導入によるDuchenne筋ジストロフィーに対する遺伝子治療の検討. 第41回日本先天代謝異常学会, 1998. 11.
- 24) 渡辺 淳, 武田和久¹²⁾, Ploplis B¹⁾, 橘 正芳¹³⁾ (1) NIDCD, NIH, USA, 2) 現 東北大学医学部医学生物化学講座分子生物学分野, 3) 現 埼玉県立がんセンター研究所): Waardenburg症候群1型, 2型におけるメラノサイト由来症状惹起メカニズム: 責任遺伝子PAX3, MITFによる転写因子カスケード. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 25) 折茂英生, 中島英逸, 山本基子, 池島三与子, 江見 充¹⁾, 島田 隆⁽¹⁾ (老研・分子生物): Microsatellite instabilityを示す大腸癌におけるミスマッチ修復蛋白質hMSH3遺伝子の変異と多型の解析. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 26) 中島英逸, 池島三与子, 折茂英生, 渡辺 淳, 島田 隆: Shift-Western assayによるヒトミスマッチ結合蛋白複合体hMutS α 及びhMutS β の同定および, メソトレキセート耐性hMSH3遺伝子増幅細胞における塩基置換ミスマッチ修復活性の減少. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 27) 飯島 修¹⁾, 三宅弘一, 秋山勝彦¹⁾, 後藤 武¹⁾, 佐藤秀次¹⁾, 内多 潔²⁾, 横山和尚³⁾, 島田 隆⁽¹⁾ (久光製薬, 筑波研究所, 2) 東亜合成, つくば研究所, 3) 理化学研究所, 筑波研究センター): アンチセンス/リボザイムによるケモカイン受容体(CXCR4)の特異的発現抑制効果の検討. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 28) 堺 則康, 鈴木紀子, 飯島 修¹⁾, 三宅弘一, 島田 隆⁽¹⁾ (久光製薬, 筑波研究所): HIV感染細胞特異的遺伝子導入法の開発. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 29) 久安早苗, 島田 隆: マウス尾静脈から投与したNaked DNAの肝臓における高発現. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.

7. 薬理学講座

[薬理学]

研究概要

当教室では、A) 神経細胞死の機構の解明、B) シナプス伝達機構の検索、C) 脊髄発生分化関連遺伝子の検索、D) 神経因性疼痛の解明、E) 平滑筋の収縮機構の解明を目的とし、以下の研究を行っている。

A (1) 運動ニューロンの生存、神経突起伸展活性を示す物質が骨格筋中に存在すると想定し、ニワトリ胚後肢筋抽出物よりこの物質の分離精製を行ってきた。その結果、精製に成功した。諸種の実験結果から、その物質は蛋白質ではなくRNAであると結論し、構造解析を行っている。(2) ショウジョウバエ中枢神経系より樹立した細胞株において細胞死を誘導する系を確立し、神経細胞死の細胞内機構の解析を行っている。(3) 神経栄養因子の一つであるグリア細胞由来神経栄養因子GDNFについてヒト成人骨格筋での発現を調べ、ヒトにおいてもこの因子が標的由来の神経栄養因子であることを示唆する知見を得た。そのことをふまえ、神経疾患におけるGDNFの発現の変化について解析を行っている。

B (1) 運動ニューロンおよびショウジョウバエ中枢神経系より樹立した神経細胞株を用い、既存の神経伝達物質の非伝達物質様作用の検索を行っている。(2) ラット脊髄標本で運動ニューロンにパッチクランプを行う実験系を確立し、シナプス入力の解析を行っている。

Cニワトリ胚の脊髄発生分化関連遺伝子の検索を行い、幾つかの遺伝子を単離した。そのうち、興味深い構造を示すものの発現パターンと機能についての解析を行っている。

Dラット神経因性疼痛モデルを用い、NGF、GDNFの分布、発現を調べ、神経因性疼痛における神経栄養因子の作用機序の解析を行っている。

E平滑筋の収縮・弛緩機構解明の目的で、モルモット摘出回腸縦走筋および摘出気管筋の膜透過性標本を作成し、Ca²⁺濃度変化に依存しない収縮・弛緩反応における細胞内収縮タンパク系やGタンパクの関与を検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nagano M, Suzuki H, Ui-Tei K, Sato S¹⁾, Miyake T²⁾, Miyata Y (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches, ²⁾ Mitsubishi Kasei Institute of Life Sciences) : H-7-induced apoptosis in the cells of a *Drosophila* neuronal cell line through affecting unidentified H-7-sensitive substance (s). *Neurosci Res* 1998 ; 31 (2) : 113-121.
- 2) Ichinose T, Miyata Y : Recurrent excitation of motoneurons in the isolated spinal cord of newborn rats detected by whole-cell recording. *Neurosci Res* 1998 ; 31 (3) : 179-187.
- 3) Suzuki H, Yoshioka K¹⁾, Maehara T¹⁾, Guo J-Z¹⁾, Nonomura Y²⁾, Otsuka M¹⁾ (¹⁾ Tokyo Medical and Dental University, ²⁾ Teikyo University) : Differential effects of wortmannin on the release of substance P and amino acids from the isolated spinal cord of the neonatal rat. *Br J Pharmacol* 1998 ; 125 (8) : 1661-1668.
- 4) Suzuki H, Hase A¹⁾, Miyata Y, Arahata K¹⁾, Akazawa C¹⁾, (¹⁾ National Institute of Neuroscience, NCNP) : Prominent expression of glial cell line-derived neurotrophic factor in human skeletal muscle. *J Comp Neurol* 1998 ; 402 (3) : 303-312.
- 5) Suzuki H, Hase A¹⁾, Kim B Y¹⁾, Miyata Y, Nonaka I¹⁾, Arahata K¹⁾, Akazawa C¹⁾ (¹⁾ National Institute of Neuroscience, NCNP) : Up-regulation of glial cell line-derived neurotrophic factor (GDNF) expression in

regenerating muscle fibers in neuromuscular diseases. *Neurosci Lett* 1998 ; 257 (3) : 165-167.

- 6) Ui-Tei K, Takamiya M¹⁾, Nagano M, Suzuki H, Suzuki A¹⁾, Kataoka H¹⁾, Miyata Y (¹⁾ Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo) : Purification of a novel substance from skeletal muscles with motoneuron survival activity : It is non-peptidergic. *Proc Jpn Acad* 1999 ; 75 (B(3)) : 54-58.
 - 7) Takamiya M¹⁾, Ui-Tei K, Nagano M, Suzuki H, Suzuki A¹⁾, Miyata Y, Kataoka H¹⁾ (¹⁾ Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo) : Identification of RNA as a substance responsible for the survival of chick spinal motoneurons *in vitro*. *Proc Jpn Acad* 1999 ; 75 (B(3)) : 59-63.
 - 8) 水野伸一：キノリン酸は新生ラット脊髄運動ニューロンをNMDA受容体を介して脱分極する。日医大誌 1998 ; 65 (2) : 161-166.
- (2) 綜説：
- 1) 鈴木秀典：グリア細胞株由来神経栄養因子 (GDNF). *Clinical Neuroscience* 1998 ; 16 (5) : 579.
 - 2) 宮田雄平：神経伝達物質 revisited. *Clinical Neuroscience* 1998 ; 16 (9) : 976-977.
 - 3) 永野昌俊, 宮田雄平：伝達物質の非伝達物質様作用. *Clinical Neuroscience* 1998 ; 16 (9) : 1003-1005.
 - 4) 鈴木秀典：タキキニン受容体 (特集：神経系に作用する薬物マニュアル1998). *生体の科学* 1998 ; 49 (5) : 398-400.
 - 5) 鈴木秀典：サブスタンスP (特集：神経系に作用する薬物マニュアル1998). *生体の科学* 1998 ; 49 (5) : 454-456.
 - 6) 宮田雄平, 高嶋幸男¹⁾, (¹⁾ 国立精神・神経センター神経研究所) : 小児神経学におけるアポトーシス 序論. *脳と発達* 1999 ; 31 (2) : 120-121.
 - 7) 鈴木秀典：小児神経学におけるアポトーシス アポトーシスと神経栄養因子. *脳と発達* 1999 ; 31 (2) : 129-134.
- (3) 研究報告書：
- 1) 荒畑喜一¹⁾, 鈴木秀典, 長谷麻子¹⁾, 赤澤智宏¹⁾, (¹⁾ 国立精神・神経センター神経研究所) : ヒト骨格筋におけるグリア細胞株由来神経栄養因子 (GDNF) の発現解析. 厚生省精神・神経疾患・筋ジストロフィー及び関連疾患の成因と治療法開発に関する研究班・厚生省精神・神経疾患研究委託費による研究報告集 1998 ; p40.

著 書

- 1) 程久美子：〔分担翻訳〕第38章 発生：勾配とカスケード. 遺伝子 第6版 (Benjamin L編), 1999 ; pp1023-1056, 東京化学同人.

学会発表

- (1) シンポジウム：
- 1) 宮田雄平, 高嶋幸男¹⁾ (¹⁾ 国立精神・神経センター神経研究所) : 小児神経学におけるアポトーシス. 第40回日本小児神経学会総会, 1998. 6.
 - 2) 鈴木秀典：小児神経学におけるアポトーシス Apoptosis と神経栄養因子. 第40回日本小児神経学会総会, 1998. 6.
- (2) ワークショップ：
- 1) 程久美子, 浜田 剛, 宮田雄平：ショウジョウバエ培養細胞株における20-Hydroxyecdysoneによる細胞死の誘導機構：caspaseの活性化と細胞死関連遺伝子の誘導. 「昆虫の変態・休眠の分子機構」, 1998. 8.
 - 2) 朴 正福, 程久美子, 宮田雄平：reaperによって誘導される細胞死に伴うcaspaseの活性化とプロテインキナーゼ阻害剤による抑制作用. 「昆虫の変態・休眠の分子機構」, 1998. 8.

(3) 一般講演：

- 1) Miyata Y, Ichinose T : Novel excitatory inputs to motoneurons evoked by stimulation of ventral roots in the isolated spinal cord of newborn rats. Society for Neuroscience 28th Annual Meeting (Los Angeles), 1998. 11.
- 2) 長谷麻子¹⁾, 鈴木秀典, 宮田雄平, 荒畑喜一¹⁾, 赤澤智宏¹⁾, ⁽¹⁾ 国立精神・神経センター神経研究所) : ヒト骨格筋におけるグリア細胞株由来神経栄養因子 (GDNF) の発現解析. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
- 3) 鈴木秀典, 長谷麻子¹⁾, 宮田雄平, 荒畑喜一¹⁾, 赤澤智宏¹⁾, ⁽¹⁾ 国立精神・神経センター神経研究所) : グリア細胞株由来神経栄養因子のヒト骨格筋における発現. 第21回日本神経科学・第41回日本神経化学合同大会, 1998. 9.
- 4) 程久美子, 永野昌俊, 宮田雄平 : 亜鉛イオンは caspase-3 の上流分子の阻害によりアポトーシスを抑制する. 第21回日本神経科学・第41回日本神経化学合同大会, 1998. 9.
- 5) 浜田 剛, 程久美子, 宮田雄平 : 脊髄の発生分化に関連する遺伝子の探索と解析. 第21回日本神経科学・第41回日本神経化学合同大会, 1998. 9.
- 6) 程久美子, 浜田 剛, 宮田雄平 : ショウジョウバエ細胞死関連遺伝子の ecdysteroid による発現制御. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 7) 浜田 剛, 程久美子, 今城純子¹⁾, 小野寺英貴¹⁾, 宮田雄平 ⁽¹⁾ 解剖学第一) : 脊髄の発生分化に関連する遺伝子の探索と解析. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 8) 佐藤 淳¹⁾, 小嶋徹也¹⁾, 程久美子, 道上達男¹⁾, 宮田雄平, 西郷 薫¹⁾, ⁽¹⁾ 東京大学理学部生化学) : *wingless* の下流で機能する新規 *frizzled* ファミリー遺伝子の解析. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 9) 永野昌俊, 程久美子, 鈴木秀典, 宮田雄平, : Olomoucine は ショウジョウバエ の 2 つ の 細胞 株 に 誘 導 し た アポ トーシスを抑制する. 第72回日本薬理学会年会, 1999. 3.
- 10) 朴 正福, 程久美子, 宮田雄平, : 細胞死関連遺伝子 *reaper* はプロテインキナーゼを活性化してアポトーシスを誘導する. 第72回日本薬理学会年会, 1999. 3.

[臨床薬理センター]

研究概要

臨床薬理センターでは臨床薬理学の立場から次のような研究を行っている。

1. Population pharmacokineticsの研究：NONMEM (Non-Linear Mixed Effect Model) は患者一人当たりの採血点が1-2点でも解析可能な population pharmacokinetics 理論を応用した薬物動態解析プログラムで、その臨床的有用性を研究している。

2. モニタリング・監査におけるデータマネージメントのあり方：新GCPに対応して日本医科大学付属病院においては平成9年6月からモニタリング・監査検討班(新博次班長)を作り標準手順書(SOP)の作成や模擬モニタリング・監査を行ってきたが、それらのまとめ役を臨床薬理センターが行ってきた。また新GCP完全実施後付属病院における直接閲覧に併せて、IRB事務局(臨床薬理センター)により継続審査のためのIRB調査を行ってきた。これらの結果の分析によりモニタリング・監査におけるデータマネージメントのあり方を研究し、日本医科大学における治験のデータの質の確保と治験の信頼性の保証を如何にすべきか検討していく。

3. 薬物の臨床試験に関する方法論の研究：新薬開発における臨床試験のあり方、評価方法、薬物治験審査委員会(IRB)のあり方などを委員会事務局としての業務経験を生かして研究している。新GCPにより義務づけられたIRB調査の方法論、継続審査の重要性、IRBの内部監査的役割について検討している。

4. *Helicobacter pylori* と生体との免疫応答、特に胃粘膜の局所免疫応答について検討中である。*H. pylori* urease抗体が除菌療法の際重要となる菌量のメルクマールとなるか追跡している。さらに、*H. pylori* の感染モデルである mon-

golian gerbilを用い、*H.pylori*感染時における胃粘膜防御能に関して分子生物学的手法による解析を行っている。

5. 自然発症慢性膵炎モデル：自然発症慢性膵炎モデルのWBN/Kobラットを用いた抗慢性膵炎治療薬の効果の評価法に関する研究。開発中の膵炎治療薬の本モデルによる薬効評価とヒトにおける臨床試験結果との関連も併せて検討している。

6. 副作用情報の情報源とその利用：厚生省「医薬品副作用モニター報告」、文献検索、厚生省「新医薬品等の副作用のまとめ」のそれぞれの特徴を調べ考察した。

研究業績

論文

〔1995年度追加分〕

原著：

- 1) 仲間一雅¹⁾，秋元敏雄¹⁾，大橋和史⁽¹⁾ 実験動物管理室)：WBN/Kobラットの自然発症慢性膵炎に対するFUT-187の効果に関する病理組織学的検討。胆と膵 1995；16 (5)：443-450.
- 2) 大橋和史，原 浩子，阿曾亮子，高山映子，仲間一雅¹⁾，秋元敏雄¹⁾ (1) 実験動物管理室)：膵組織中酵素からみたWBN/Kobラットの自然発症慢性膵炎に対するFUT-187の抗膵炎効果。胆と膵 1995；16 (6)：531-536.

〔1997年度追加分〕

研究報告書：

- 1) 大橋京一¹⁾，魚井 徹²⁾，大橋和史，川合眞一³⁾，瀬尾信雄⁴⁾，高木道郎²⁾，高瀬浩造⁵⁾，柳沢憲一²⁾ (1) 浜松医大臨床薬理，²⁾ 製薬協医薬品評価委員会臨床評価部会，³⁾ 聖マリアンナ医大難治研，⁴⁾ 東京八丁堀法律事務所，⁵⁾ 東京医歯大医療情報部)：モニタリング・監査検討作業班最終報告書概要。平成9年度厚生科学研究「新GCP普及定着総合研究最終報告書」 1998；pp125-180.

(1) 原著：

- 1) 大橋和史，大須賀恵美子，新 博次¹⁾，加藤貴雄¹⁾，小原俊彦¹⁾，神谷達司²⁾，坂本静樹²⁾，小林正文³⁾，三宅一昌³⁾，猪口孝一³⁾，岩切勝彦³⁾，吉村明修⁴⁾，篠田欣也⁴⁾，日比野俊⁴⁾，大久保公裕⁵⁾，子島潤⁶⁾，平野公晟⁷⁾，岸田俊雄⁸⁾，吉村頼彦⁸⁾，清野雄治⁹⁾，原春喜¹⁰⁾，水谷元¹⁰⁾，辻出清和¹¹⁾，川口政良¹¹⁾，井上晃一¹¹⁾，窪田博明¹²⁾，大北理子¹²⁾，大内博英¹³⁾，河北範夫¹³⁾，田中茂樹¹⁴⁾，宮本郁夫¹⁵⁾，江面晶男¹⁵⁾，天沼秀一¹⁶⁾，柳沢憲一¹⁶⁾，岡田達典¹⁶⁾，小作寛¹⁷⁾，浜島啓¹⁸⁾ (1) 第一内科，²⁾ 第二内科，³⁾ 第三内科，⁴⁾ 第四内科，⁵⁾ 耳鼻咽喉科，⁶⁾ 集中治療室，⁷⁾ 薬剤部，⁸⁾ 日本グラクソ，⁹⁾ キッセイ薬品工業，¹⁰⁾ ノバルティスファーマ，¹¹⁾ エーザイ，¹²⁾ サントリー，¹³⁾ 三共，¹⁴⁾ 藤沢薬品工業，¹⁵⁾ 山之内製薬，¹⁶⁾ 田辺製薬，¹⁷⁾ 日本たばこ産業，¹⁸⁾ 大鵬薬品工業)：直接閲覧実施上の問題点の調査と分析：模擬モニタリング・監査より。臨床薬理 1998；29 (3)：457-470.
- 2) 大橋和史：新GCP完全施行前夜：モデル病院の成果と今後の取組み：直接閲覧実施上の問題点。薬理と治療 1998；26 (6)：911-916.
- 3) 大須賀恵美子：治験現場よりみたモニタリングおよび監査：IRBの立場から。臨床医薬 1998；14 (14)：2506-2509.
- 4) 大須賀恵美子，阿曾亮子，大橋和史，奈良弘恵¹⁾ (1) 薬物治験審査委員会事務局)：薬物治験審査委員会 (IRB) による治験実施状況の調査に関する検討：新GCP下の治験におけるIRBの役割。臨床薬理 1998；29 (6)：843-853.
- 5) 阿曾亮子：学会認定薬剤師は何を求められているか：臨床薬理センター (2)。臨床医薬 1998；14 (15)：2674-2674.

- 6) 奈良弘恵：目で見えるクスリ：抗アレルギー薬と抗ヒスタミン薬. NIC STUDY 1999 ; 22-24.
- 7) 奈良弘恵：目で見えるクスリ：かぜの諸症状と抗炎症薬について. NIC STUDY 1999 ; 22-24.

(2) 綜説：

- 1) 二神生爾, 坂本長逸¹⁾ (1) 第3内科) : *Helicobacter pylori*陰性消化性潰瘍とストレス. *Helicobacter Research* 1998 ; 2 (4) : 328-332.
- 2) 大橋京一¹⁾, 大橋和史 (1) 浜松医科大学 臨床薬理学講座) : 治験現場からみたモニタリングおよび監査. *臨床医薬* 1998 ; 14 (14) : 2495-2525.

研究報告書：

- 1) 大橋京一¹⁾, 大橋和史, 川合眞一²⁾, 小林 猛³⁾, 高瀬浩造⁴⁾, 津谷喜一郎⁵⁾ (1) 浜松医大臨床薬理, 2) 聖マリアンナ医大難治研, 3) 製薬協医薬品評価委員会臨床評価部会, 4) 東京医歯大医療情報部, 5) 東京医歯大難治研臨床薬理) : 治験依頼者—医療機関間基盤整備作業班最終報告書. 平成10年度厚生科学研究「医薬品の臨床試験の基盤整備に関する研究最終報告書」 1998 ; pp70-97.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 大橋和史：シンポジウム2：新GCP下でのデータマネジメントのあり方：モニタリング・監査からみたデータマネジメント. 第19回日本臨床薬理学会, 1998. 11.
- 2) 大須賀恵美子：医師の立場から. 第40回全国都市立病院薬局長会シンポジウム—新GCPによる治験の進め方を考える—, 1998. 9.

(2) セミナー：

- 1) 大橋和史：直接閲覧実施上の問題点. 日本医科大学公開講座—直接閲覧に必要なカルテの見方—, 1998. 5.
- 2) 大須賀恵美子：カルテ等医療記録に関して. 日本医科大学公開講座—直接閲覧に必要なカルテの見方—, 1998. 5.
- 3) 大橋和史：新GCP下での各医療機関の取組みと問題点 日本医科大学. 第13回臨床薬理「富士五湖カンファレンス」, 1998. 8.
- 4) 大橋和史：モニタリング・監査の実際. 日本薬剤師研修センターセミナー—今後のより良い治験体制確立のための研修会—, 1999. 1.

(3) 一般講演：

- 1) Aso R, Osuga E, Ohashi K : Analysis of recent 7-year interval of the Japanese Ministry of Health and Welfare's "Adverse drug reaction monitoring" data. XIIIth International Congress of Pharmacology (München), 1998. 7.
- 2) Futagami S, Takahashi H¹⁾, Hiratsuka T²⁾, Tatsuguti A²⁾, Hirota K, Fujita Y²⁾, Kotoyori M²⁾, Yamada H²⁾, Sugiura T²⁾, Nakagawa Y²⁾, Miyake K²⁾, Tsukui T²⁾, Iwakiri K²⁾, Hirakawa T²⁾, Kawakami A²⁾, Sesoko M²⁾, Sakamoto C²⁾, Norose Y¹⁾, Futagami A³⁾, Ohashi K, Kobayashi M²⁾ (1) 微生物免疫, 2) 第3内科, 3) 皮膚科) : Analysis of immune responses to *H.pylori* in the sera of the patients with gastroduodenal diseases. *World Congresses of Gastroenterology (Vienna)*, 1998. 9.
- 3) 二神生爾, 坂本長逸¹⁾, 小林正文¹⁾, 高橋秀実²⁾ (1) 第3内科, 2) 微生物免疫) : 慢性胃炎患者における *Helicobacter pylori* urease (HP urease) に対する全身性および局在性の免疫応答の検討. 第4回白河カンファレンス, 1998. 6.
- 4) 大須賀恵美子, 阿曾亮子, 奈良弘恵, 大橋和史 : 日本医科大学付属4病院の薬物治験審査委員会 (IRB) 年間報告 (平成8, 9年度). 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 5) 大須賀恵美子, 阿曾亮子, 大橋和史, 奈良弘恵¹⁾ (1) 薬物治験審査委員会事務局) : IRBの治験実施状況調査と

継続審査。第19回日本臨床薬理学会，1998。11。

- 6) 阿曾亮子，大須賀恵美子，大橋和史：副作用情報の情報源とその利用：中毒性表皮壊死症，皮膚粘膜眼症候群等を例として。第19回日本臨床薬理学会，1998。11。

8. 病理学第一講座

研究概要

研究の主題は、腎臓、肺臓、心臓の病理学を中心とするが、さらに眼病理学、移植病理学、皮膚病理学、腫瘍病理学にも及んでいる。各臓器病変において、炎症の修復機序、臓器線維化、アポトーシス、血管新生に関連する研究が多い。腎臓の研究では、実験的Thy-1腎炎をはじめとする各種の糸球体傷害モデルを用いて、その修復過程における血管新生の重要性を立証し、糸球体毛細血管網の内皮細胞傷害が糸球体硬化の進展に大きく関わっていることを明らかにした。これまで腎疾患におけるアポトーシスの関与について種々の検討を行ってきたが、糸球体内皮細胞傷害や急性腎不全のアポトーシスの動態の研究が進展した。このほか要請に応じ日仏腎臓研究シンポジウムにおいてIgA腎症の特異的な沈着物についての電顕的解析による新知見、北京3次元シンポジウムにおいてコンピューターの応用による腎糸球体3次元構築の解明の成果を報告し、国際的な研究交流に寄与した。肺臓の研究では、肺線維症におけるmatrix metalloproteinaseおよびそのinhibitorの関与についての研究が精力的に行われ、また、間質性肺炎の病理像の解析、線維化肺の病態、肺線維症への増殖因子PD-ECGFの関与などの研究成果が報告された。心臓の研究に関しては、僧帽弁逸脱症候群にみられる弾性線維異常についての検討が行われ、新しい知見が得られた。このほか創傷治癒過程と癒着についての考察、移植腎の免疫寛容と慢性拒絶反応についての解析などが報告され、皮膚病理学や腫瘍病理学の分野に関しては、皮膚弾性線維のtransepidermal elimination現象や、腺癌の間質におけるelastogenesisなどについての検討が進められている。

研究業績

論文

〔1997年度追加分〕

総説：

- 1) 福田 悠：間質性肺炎における筋線維芽細胞と細胞外基質。日胸疾会誌 1997；35：233-237.

(1) 原著：

- 1) Fukuda Y, Ishizaki M, Kudoh S¹, Kitaichi M², Yamanaka N¹ (第4内科, ² 京都大学医学部病理)：Localization of matrix metalloproteinases-1, -2 and -9 and tissue inhibitor of metalloproteinase-2 in interstitial lung diseases. Lab Invest 1998；78：687-698.
- 2) Shiraishi A¹, Kao CW¹, Ishizaki M, Zhang Z¹, Converse RL¹, Tseng SC¹, Svoboda KK¹, Kao W¹ (Department of Ophthalmology, University of Cincinnati, OH)：The Bsk mutation does not involve a recombination of cornea-specific keratin 12 and skin-specific hair keratin genes. Current Eye Research 1998；17 (5)：531-540.
- 3) Tanaka-Nakagawa T¹, Suzuki M¹, Naganuma A², Yamanaka N, Imura N¹ (北里大薬学公衆衛生, ² 東北大薬学分子生化学)：Strain difference in sensitivity of mice to renal toxicity of inorganic mercury. J Pharmacol Exp Ther 1998；285 (1)：335-341.
- 4) Haraguchi S¹, Koizumi K², Kawamoto M, Tanaka S², Tanaka S¹ (Department of Surgery II, National Defense Medical College, ² Department of Surgery II)：Video-Assisted Thoracoscopic Excision of a Benign Cystic Mesothelioma of Pleura. The Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 1998；46 (8)：664-666.
- 5) Koizumi K¹, Tanaka S¹, Haraguchi S¹, Akiyama H¹, Mikami I¹, Fukushima M¹, Kawamoto M

- (¹ Department of Surgery II) : Lobectomy by video-assisted thoracic surgery for primary lung cancer : experiences based on provisional indications. *Surgery Today* 1998 ; 28 : 36-40.
- 6) Koizumi K¹, Tanaka S¹, Haraguchi S¹, Akiyama H¹, Mikami I¹, Fukushima M¹, Kubokura H¹, Kawamoto M (¹ Department of Surgery II) : Thoracoscopic enucleation of a submucosal bronchogenic cyst of the esophagus : report of two cases. *Surgery Today* 1998 ; 28 (4) : 446-450.
- 7) Yaguchi T, Fukuda Y, Ishizaki M, Yamanaka N : Immunohistochemical and gelatin zymography studies for matrix metalloproteinases in bleomycin-induced pulmonary fibrosis. *Pathol Intern* 1998 ; 48 : 954-963.
- 8) Tamura K¹, Fukuda Y (¹ 附属病院病理部) : Elastic fiber abnormalities associated with a leaflet perforation in floppy mitral valve. *J Heart Valve Dis* 1998 ; 7 : 460-466.
- 9) Kitamura H, Shimizu A, Masuda Y, Ishizaki M, Sugisaki Y¹, Yamanaka N (¹ 附属病院病理部) : Apoptosis in glomerular endothelial cells during the development of glomerulosclerosis in the remnant-kidney model. *Exp Nephrol* 1998 ; 6 : 328-336.
- 10) Shimizu A, Masuda Y, Kitamura H, Ishizaki M, Sugisaki Y¹, Yamanaka N (¹ 附属病院病理部) : Recovery of damaged glomerular capillary network with endothelial cell apoptosis in experimental proliferative glomerulonephritis. *Nephron* 1998 ; 79 : 206-214.
- 11) Takeda A¹, Ohgushi H¹, Mizusawa Y¹, Shimizu A, Yamanaka N (¹ Pediatrics, School of Medicine, Tokyo Medical and Dental university) : Dysplastic glomerulocystic kidney. *Clin Exp Nephrol* 1999 ; 1 : 51-53.
- 12) Tatsuguchi A, Fukuda Y, Moriyama T¹, Yamanaka N (¹ 至誠会第2病院) : Lipomatosis of the small intestine and colon associated with intussusception in the ileocecal region. *Gastrointest Endosc* 1999 ; 49 : 118-121.
- 13) 川本雅司, 島澤晴彦¹, 松原美幸², 渡會泰彦² (¹ 下谷病院臨床病理, ² 附属病院病理部) : 明瞭な細胞質内小腺腔を有した離乳後乳腺内の線維腺腫の1例. *日本臨床細胞学会誌 (日臨細胞誌)* 1998 ; 37 (4) : 400-404.
- 14) 山本和夫¹, 安藤真彦¹, 植松和嗣¹, 日比野俊¹, 弦間昭彦¹, 吉村明修¹, 工藤翔二¹, 窪倉浩俊², 三上巖², 小泉 潔², 田中茂夫², 岡島雄史³, 渡 潤³, 田島廣之³, 熊崎達夫³, 逸見しのぶ, 持丸 博, 福田 悠, 山中宣昭 (¹ 第4内科, ² 第2外科, ³ 放射線科) : 高速らせんCTによる肺癌一次検診 (CT検診) で発見されたスリガラス状陰影を呈した肺腺癌の一症例. *日医大誌* 1998 ; 65 (6) : 481-486.
- (2) 綜説 :
- 1) Yamanaka N, Shimizu A : Role of glomerular endothelial damage in progressive renal disease. *Kidney Blood Press Res* 1999 ; 22 (1) : 13-20.
- 2) 持丸 博, 福田 悠 : 慢性好酸球性肺炎のEMG染色像. *分子呼吸器病* 1998 ; 2 (5) : 1.
- 3) 前田昭太郎¹, 細根 勝¹, 片山博徳¹, 佐藤雅史², 福田 悠 (¹ 多摩永山病院病理, ² 第二病院放射線科) : 石灰化病変の病理. (特集 : 石灰化病変の画像診断). *臨床画像* 1998 ; 14 (7) : 784-792.
- 4) 福田 悠 : 気管支肺胞洗浄で得られたアスベスト小体の偏光像. *分子呼吸器病* 1998 ; 2 (4) : 1.
- 5) 福田 悠 : 浸出性結核病巣のZiehl-Neelsen染色像. *分子呼吸器病* 1998 ; 2 (5) : 1.
- 6) 福田 悠 : 肺の癌肉腫のアルシンプルー染色. *分子呼吸器病* 1998 ; 2 (6) : 1.
- 7) 福田 悠 : 間質性肺炎の病理像 (特集 : 間質性肺炎の新しいとらえかた). *臨床医* 1998 ; 24 (12) : 2372-2377.
- 8) 川本雅司 : 創傷治癒過程と癒着. *産婦人科マイクロサージャリー学会雑誌* 1998 ; 11 : 38-44.
- 9) 福田 悠 : リモデリングの病理学 (特集 : 肺という臓器におけるリモデリング). *日本胸部臨床* 1999 ; 58 (1) : 1-9.
- 10) 福田 悠 : 肺の形態形成と炎症・線維化肺の病態. *現代医療* 1999 ; 31 (2) : 373-378.

- 11) 福田 悠：病理からみた間質性肺炎（特集：間質性肺炎），クリニシャン 1999；46（478）：8-12.
- 12) 持丸 博，福田 悠：IIPの病理組織像。（特集：特発性間質性肺炎—混沌から秩序へのあゆみ），分子呼吸器病 1999；3（2）：102-106.

著 書

- 1) 山中宣昭：〔分担〕アポトーシスと腎疾患．腎臓・尿路系の病理アトラス—基礎から臨床へのメッセージ（上田善彦編集），1998；pp423-431，医薬ジャーナル．
- 2) 福田 悠：〔分担〕筋線維芽細胞．Annual Review 呼吸器 1999，1998；pp57-67，中外医学社．
- 3) 福田 悠：〔分担〕間質性肺炎における肺胞構造改築とマトリックスメタロプロテアーゼ．医学のあゆみ．呼吸器疾患 Ver.3，1999；pp55-58，医歯薬出版．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 山中宣昭：腎生検のみかた．近畿小児腎臓病研究会，1998．4．
- 2) 福田 悠：間質性肺炎における肺胞構造の改築．第91回日本結核病学会，第73回日本呼吸器学会合同東海地方会，1998．6．
- 3) 清水 章：腎移植後の免疫寛容と慢性拒絶の病態．第18回糸球体障害研究会，1999．3．

(2) 招待講演：

- 1) 山中宣昭：病理組織病変の3次元解析．北京3次元シンポジウム（北京），1998．7．
- 2) 山中宣昭：糸球体病変と糸球体硬化．金沢腎セミナー，1998．10．

(3) 教育講演：

- 1) 清水 章：免疫学的寛容と慢性拒絶反応．日本腎移植臨床研究会，1999．3．

(4) シンポジウム：

- 1) Yamanaka N, Masuda Y：IgA nephropathy：Ultrastructural study of the immunodeposition of IgA nephropathy．Japan France Nephrology Exchange Association Symposium（金沢），1998．11．
- 2) 山中宣昭：血管病変としての糸球体腎炎：血管としての糸球体の特性．日本腎臓学会総会，1998．5．
- 3) 山中宣昭：急性腎不全とアポトーシス．腎セミナー，1998．8．

(5) パネルディスカッション：

- 1) 益田幸成，北村博司，大橋隆治，神長ちふみ，石崎正通，杉崎祐一¹⁾，山中宣昭⁽¹⁾ 附属病院病理部）：Thy-1腎炎傷害・増殖期のメサンギウム転送障害．第87回日本病理学会総会，1998．4．
- 2) 北村博司，益田幸成，大橋隆治，杉崎祐一¹⁾，山中宣昭⁽¹⁾ 附属病院病理部）：長期透析患者の1剖検例．第87回日本病理学会総会，1998．4．
- 3) 金子朋広¹⁾，須賀 優¹⁾，葉山修陽¹⁾，北村博司，飯野靖彦²⁾（¹⁾千葉北総病院内科，²⁾第2内科）：Hypertensive nephrosclerosisにcholesterol embolismを合併し進行性腎障害を認めた1例．第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998．11．
- 4) 葉山修陽¹⁾，金子朋広¹⁾，須賀 優¹⁾，飯野靖彦²⁾，北村博司（¹⁾千葉北総病院内科，²⁾第2内科）：追生検を施行し得た難治性ネフローゼ症候群の1症例．第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998．11．
- 5) 須賀 優¹⁾，金子朋広¹⁾，葉山修陽¹⁾，北村博司，飯野靖彦²⁾（¹⁾千葉北総病院内科，²⁾第2内科）：非特異的な組織像でネフローゼを呈したhepatic glomerulopathyの1症例．第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998．11．
- 6) 山崎 憲¹⁾，石山明寛¹⁾，高沢和永¹⁾，高木正雄¹⁾，後藤 淳²⁾，山中宣昭⁽¹⁾ 東京警察病院内科，²⁾ 東京大神経内科）：Wilson病の経過中にANCA関連腎炎を発症した1例．第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998．11．

(6) 一般講演 :

- 1) Kawamoto M, Mochimaru H, Fukushima M, Hemmi S, Terasaki Y, Fukuda Y, Yamanaka N : Alveolar macrophage expression of platelet-derived endothelial cell growth factor (PD-ECGF) in pulmonary fibrosis. 1998 Int Conf Am Thoracic Society (Chicago), 1998. 4.
- 2) Mochimaru H, Fukuda Y, Ishizaki M, Fukushima M, Yamanaka N : Elastogenesis in the stroma of adenocarcinoma. 1998 Int Conf Am Thoracic Society (Chicago), 1998. 4.
- 3) Terasaki Y, Fukuda Y, Mochimaru H, Ishizaki M, Yamanaka N : Localization OF Epimorphin in Bleomycin-Induced Pulmonary Fibrosis In Mice. 1998 Int Conf Am Thoracic Society (Chicago), 1998. 4.
- 4) Fukuda Y, Ishizaki M, Okada Y¹⁾, Seiki M²⁾, Yamanaka N (¹⁾ 慶応大学医学部, 病理, ²⁾ 東京大学医科研, 癌細胞学) : Localization of matrix metalloproteinases-1, -2 and -9 and tissue inhibitor of metalloproteinases-2 in developing fetal rabbit lung. 1998 Int Conf Am Thoracic Society (Chicago), 1998. 4.
- 5) Hemmi S, Fukuda Y, Yaguchi T, Yamanaka N : Matrix metalloproteinases and tissue inhibitor of metalloproteinases in pulmonary fibrosis in rabbits. 1998 Int Conf Am Thoracic Society (Chicago), 1998. 4.
- 6) Kawamoto M, Mochimaru H, Fukushima M, Hemmi S, Terasaki Y, Fukuda Y, Yamanaka N : Alveolar macrophage expression of platelet-derived endothelial cell growth factor (PD-ECGF) in pulmonary fibrosis. 1998 Int Conf Am Thoracic Society (Chicago), 1998. 4.
- 7) Kitamura H, Masuda Y, Ishizaki M, Sugisaki Y¹⁾, Yamanaka N (¹⁾ 付属病院病理部) : The failure of glomerular repair by the inhibition of intraglomerular angiogenesis in experimental glomerulonephritis. American Society of Nephrology 31th annual meeting (Philadelphia), 1998. 10.
- 8) Ohashi R, Kitamura H, Masuda Y, Ishizaki M, Sugisaki Y¹⁾, Yamanaka N (¹⁾ 付属病院病理部) : Peritubular capillary injury and its effect of renal function in rat experimental glomerulonephritis. American Society of Nephrology 31th annual meeting (Philadelphia), 1998. 10.
- 9) 福田 悠, 持丸 博, 逸見しのぶ, 川本雅司, 北市正則, 山中宣昭 : 分類不能の間質性肺炎における肺胞構造改築. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 10) 逸見しのぶ, 福田 悠, 持丸 博, 寺崎泰弘, 川本雅司, 山中宣昭 : 経気管支肺生検によって確認されたp-ANCA関連肺胞出血と間質性肺炎を示した一例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 11) 佐藤 茂¹⁾, 佐佐木喜広¹⁾, 若松恭子, 石崎正通 (¹⁾ 中央電子顕微鏡施設) : 胎児心臓における血管新生と線維芽細胞と myocardial cleft. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 12) 持丸 博, 川本雅司, 福田 悠, 福島光浩, 植松和嗣¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 吉村明修¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 小泉 潔²⁾ (¹⁾ 第4内科, ²⁾ 第2外科) : 通常型間質性肺炎 (UIP) における上皮細胞増殖能と p53 蛋白発現の検討. 呼吸器学会, 1998. 5.
- 13) 島澤晴彦¹⁾, 川本雅司, 松原美幸²⁾, 渡會泰彦²⁾, 河本陽子³⁾ (¹⁾ 下谷病院臨床病理, ²⁾ 付属病院病理部, ³⁾ 病理学第2) : 明瞭な細胞質内小腺腔を有した離乳後乳腺内の線維腺腫の1例. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
- 14) 松原美幸¹⁾, 横山宗伯²⁾, 川本雅司, 田村浩一¹⁾, 村瀬幸宏¹⁾, 浅川一恵¹⁾, 杉崎祐一¹⁾ (¹⁾ 付属病院病理部, ²⁾ 病理学第2) : 骨外性粘液型軟骨肉腫の1例. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
- 15) Hashimoto A, Fukuda Y, Yamanaka N : Transepidermal elimination of elastic fibers in keratoacanthoma. 日本結合組織学会, 1998. 6.
- 16) 大橋隆治¹⁾, 宗像恵美子²⁾, 今井文英²⁾, 安田 正²⁾, 吉田順子¹⁾, 立麻典子¹⁾, 安保和俊¹⁾, 土屋正巳¹⁾, 村上睦美¹⁾, 石崎正通, 杉崎祐一³⁾, 山中宣昭 (¹⁾ 日本医大小児科, ²⁾ 大宮赤十字病院, ³⁾ 付属病院病理部) : 多彩な組織像を呈したIgA腎症の1例. 関東小児腎臓研究会, 1998. 6.
- 17) 佐佐木喜広¹⁾, 佐藤 茂¹⁾, 安達彰子¹⁾, 鈴木克哉¹⁾, 井上京子¹⁾, 若松恭子 (¹⁾ 中央電子顕微鏡施設) : 腎皮

質と皮髄境界部における間質細胞の超微形態：腎生検を用いて。第30回日本臨床電子顕微鏡学会，1998. 8.

- 18) 庄司俊輔¹⁾，枝富貴子²⁾，森田 寛²⁾，川本雅司，西間三馨³⁾ (¹⁾ 国立療養所南福岡病院臨床研究部，²⁾ 東京大学物療内科，³⁾ 国立療養所南福岡病院)：気管支喘息でのリモデリングにおける血管新生の意義と血管内皮細胞遊走実験による検討。Asthma Club in Sendai 第7回研究会，1998. 9.
- 19) 緒方清行¹⁾，安 恵美¹⁾，横瀬紀夫¹⁾，田村秀人¹⁾，中村恭子¹⁾，塩井由美子¹⁾，羅 善順¹⁾，壇 和夫¹⁾，川本雅司，杉崎祐一²⁾ (¹⁾ 第3内科，²⁾ 付属病院病理部)：Myeloid系抗原を発現した非ホジキンリンパ腫の1例。第40回日本臨床血液学会総会，1998. 11.
- 20) 土居大祐¹⁾，太田雄治郎¹⁾，松原美幸²⁾，渡会泰彦²⁾，川本雅司，杉崎祐一²⁾，米山剛一¹⁾ (¹⁾ 付属病院産婦人科，²⁾ 付属病院病理部)：子宮内膜細胞診で発見されparaneoplastic syndromeを合併したneuroendocrine carcinomaの1例。第37回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会，1998. 11.
- 21) 鎌野千佐子¹⁾，青木 宏¹⁾，大沢弘和¹⁾，橋本和政¹⁾，清水光義¹⁾，大園英一¹⁾，松信精一¹⁾，飯野靖彦¹⁾，片山泰朗¹⁾，平松久弥子²⁾，北村博司，山中宣昭 (¹⁾ 第2内科，²⁾ 第4内科)：線維維性半月体と著明な間質病変を伴った急速進行性腎炎の1例。第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998. 11.
- 22) 森 貴博¹⁾，松信精一¹⁾，大園英一¹⁾，飯野靖彦¹⁾，片山泰朗¹⁾，北村博司，山中宣昭 (¹⁾ 第2内科)：自己抗体陽性を示し，経過中に腎機能低下を認め特異な血管病変を呈した1例。第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998. 11.
- 23) 佐々木孝¹⁾，小泉 潔¹⁾，窪倉浩俊¹⁾，北川彰信¹⁾，赤須東樹¹⁾，三上 巖¹⁾，川本雅司，田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 第2外科)：乳癌放射線治療後15年を経過して発生した胸腔内軟骨肉腫の1症例。第108回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1998. 12.

9. 病理学第二講座

研究概要

1) 腫瘍細胞の増殖・分化には、間質の血管や細胞外基質の動態が関与し、各受容体を介してその増殖制御に関わっていると考えられる。本教室では、癌細胞・心筋細胞・前立腺細胞・肝細胞・血管内皮細胞・中膜平滑筋細胞の増殖・分化において、細胞外基質であるフィブロネクチン・グリコサミノグリカン・ラミニン・テネイシン・III型・IV型コラーゲンについて、その合成、各受容体の局在を観察し、mRNAの発現をin situ hybridization法で確認している。また、癌細胞における核質の性状変化に加えプロテアーゼの発現を検討しているが、上皮細胞や癌細胞では、細胞外基質の生合成に加えて、FGF, EGF, TGF- β , HGF, IGF-Iなどの増殖因子とカドヘリンなどの接着因子が病態進展に関与している。これらの作用機構については、さらに、細胞内の細胞骨格を介したシグナル伝達系、特にhsp, α -5- β -Integrin, DNase-I-カテニン, カテプシンB, クエルセチンとの関連性の上から、細胞内における遺伝情報発現と遺伝子制御機構の解明も試みられている。

2) 動脈硬化症の発症の基盤としては、高脂血症、高血圧、糖尿病などの関与が目されるが、特にbarrierとしての血管内皮細胞の障害が重要である。内皮細胞の各種酵素の局在や再生過程における細胞外基質やFGF, VEGF, EGF, HGFなどの増殖因子、さらにエンドセリン、一酸化窒素(NO)の産生動態を解明し、AGEs, RAGE, NF- κ Bの関与と内皮細胞・平滑筋細胞の相互作用の観点から、動脈硬化の発生と関連した平滑筋細胞の増殖機序の解明を試みている。また、特に動脈硬化の促進因子と心筋梗塞の発生、冠状動脈の疎水性環境の特異性につき、超音波顕微鏡・レーザー顕微鏡・偏光顕微鏡などで多次元画像解析法を導入した形態計測的手法も用いて検討している。

3) 敗血症や虚血性病変の発生機序の解明を目的として、心臓・肺臓の機能不全や血管障害について、フリーラジカル、NO, hspの産生を介した細胞機能障害の発生機序に注目し、検討している。

4) 神経病理学的には、アルツハイマー病など変性疾患を中心に、その発生病理につき、ADHとの関連に着目し、解明を進めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ying S¹⁾, Shiraishi A¹⁾, Kao CW.-C¹⁾, Converse RL¹⁾, Funderburgh JL²⁾, Swiergiel J²⁾, Roth MR²⁾, Conrad GW²⁾ (1) Department of Ophthalmology, University of Cincinnati, (2) Division of Biology, Kansas State University) : Characterization and expression of the mouse lumican gene. J Biol Chem 1997 ; 272 : 30306-30313.
- 2) Yali Z¹⁾, Yamada N²⁾, Wen M²⁾, Matsuhisa T²⁾, Miki M²⁾ (1) PLA Institute for Digestive Diseases, Nanfang Hospital, Guangzhou, China, (2) Department of Pathology, First Hospital of Nippon Medical School) : *Gastrospirillum hominis* and *Helicobacter pylori* infection in Thai individuals : Comparison of histopathological changes of gastric mucosa. Pathol Int 1998 ; 48 (7) : 507-517.
- 3) Nishigaki R¹⁾, Aramaki T¹⁾, Hirakawa K²⁾, Asano G³⁾ (1) First Department of Internal Medicine, (2) Department of Legal Medicine, (3) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Nitric oxide production and energy state in the heart after endotoxin administration. Jpn Circ J 1998 ; 62 : 527-531.
- 4) Shiraishi A¹⁾, Kao CW.-C¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Zhang Z¹⁾, Converse RL¹⁾, Tseng SC.G²⁾, Svoboda KK.H³⁾, Kao WW.-Y¹⁾ (1) Department of Ophthalmology, University of Cincinnati, (2) Ocular Surface and Tear Center, Bascom Palmer Eye Institute, Department of Ophthalmology and Cell Biology & Anatomy, University

- of Miami, ³ Department of Anatomy and Neurobiology, Boston University) : Characterization of *Bsk* mutation does not involve a recombination of cornea-specific keratin 12 and skin-specific hair keratin genes. *Curr Eye Res* 1998 ; 17 : 531-540.
- 5) Shiraishi A, Converse RL, Liu C-Y, Zhou F, Kao CW.-C, Kao WW.-Y (¹ Department of Ophthalmology) : Identification of the cornea-specific keratin 12 promoter by *in vivo* particle-mediated gene transfer. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 1998 ; 39 : 2554-2561.
 - 6) Ishiwata T¹, Kornmann M¹, Beger H G², Korc M¹ (¹ Departments of Medicine, Biological Chemistry and Pharmacology, University of California, Irvine, ² Department of General Surgery, University of Ulm) : Enhanced fibroblast growth factor 5 expression in stromal and exocrine elements of the pancreas in chronic pancreatitis. *Gut* 1998 ; 43 : 134-139.
 - 7) Kornmann M¹, Ishiwata T¹, Arber N², Beger Hans G³, Korc M¹ (¹ Departments of Medicine, Biological Chemistry, and Phalmacology, Division of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, University of California, Irvine, ² Department of Gastroenterology, Tel-Aviv Sourasky Medical Center, ³ Department of General Surgery, University of Ulm) : Increased Cyclin D1 expression in chronic pancreatitis. *Pancreas* 1998 ; 17 : 158-162.
 - 8) Ishiwata T¹, Friess H², Buchler MW², Lopez ME¹, Kork M¹ (¹ Departments of Medicine, Biological Chemistry, and Phalmacology, University of California, Irvine, ² Department of Visceral and Transplantation Surgery, University of Bern) : Characterization of keratinocyte growth factor and receptor expression in human pancreatic cancer. *Am J Pathol* 1998 ; 153 : 213-222.
 - 9) Sun M¹, Yokoyama M¹, Ishiwata T¹, Asano G¹ (¹ Department of Pathology, Nippon Medical School) : Deposition of advanced glycation end products (AGE) and expression of the receptor for AGE in cardiovascular tissue of the diabetic rat. *Int J Exp Path* 1998 ; 79 : 207-222.
 - 10) Fukumoto H¹, Naito Z¹, Asano G¹, Aramaki T² (¹ Department of Pathology, Nippon Medical School, ² First Department of Medicine, Nippon Medical School) : Immunohistochemical and morphometric evaluations of coronary atherosclerotic plaques associated with myocardial infarction and diabetes mellitus. *J Atheroscler Thromb* 1998 ; 5 : 29-35.
 - 11) Liu C-Y¹, Shiraishi A¹, Kao CW.-C¹, Converse RL¹, Funderburgh JL², Corpuz LM², Conrad G.W², Kao WW.-Y¹ (¹ Department of Ophthalmology, University of Cincinnati, ² Division of Biology, Kansas State University) : The cloning of mouse keratocan cDNA and genomic DNA and the characterization of its expression during eye development. *J Biol Chem* 1998 ; 273 : 22584-22588.
 - 12) Dang C¹, Takashi E¹, Guo F¹, Naito Z¹, Yokoyama M¹, Asano G¹, Ji Z², Qin Z² (¹ Department of Pathology, Nippon Medical School, ² Department of Surgery, The Second Teaching Hospital, Xi'an Medical University) : Ultrastructural study of the mechanism of perineural extension in pancreatic cancer. *Med Electron Microsc* 1998 ; 31 : 31-37.
 - 13) Wang R¹, Kudo M¹, Naito Z¹, Yokoyama M¹, Yamada N¹, Asano G¹ : Effects of serum of streptozotocin-induced diabetic rats on vascular smooth muscle cell growth *in vitro*. *J Nippon Med Sch* 1998 ; 65 : 284-290.
 - 14) He Q¹, Ohaki Y¹, Mori O¹, Asano G², Asano T³ (¹ Department of Pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, ² Department of Pathology, Nippon Medical School, ³ Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital) : Solitary fibrous tumor of the pleura : Report of a case with immunohistochemical and ultrastructural study. *Med Electron Microsc* 1998 ; 31 : 147-150.
 - 15) He Q¹, Ohaki Y¹, Mori O¹, Asano G², Tsuboi N³ (¹ Department of Pathology, Nippon Medical School,

- Chiba Hokusou Hospital, ² Department of Pathology, Nippon Medical School, ³ Department of Urology, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital) : A case report of renal cell tumor in a 45-year-old female mimicking lower portion nephrogenesis. *Pathol Int* 1998 ; 48 : 416-420.
- 16) Nakajima M^{1,2}, Kawanami O¹, Jin E¹, Ghazizadeh M¹, Honda M², Asano G³, Horiba K⁴, Ferrans VJ⁴ (¹ Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, ² Department of Dermatology, ³ Department of Pathology, Nippon Medical School, ⁴ Pathology Section, National Heart, Lung and Blood Institute, National Institutes of Health) : Immunohistochemical and ultrastructural studies of basal cells, clara cells and bronchiolar cuboidal cells in normal human airways. *Pathol Int* 1998 ; 48 : 944-953.
- 17) Hirai K¹, Ashraf M¹ (¹ Department of Pathology and laboratory Medicine, University of Cincinnati) : Modulation of Adenosine Effects in Attenuation of Ischemia and Reperfusion Injury in Rat Heart. *J Mol Cell Cardiol* 1998 ; 30 : 1803-1815.
- 18) Honma H¹, Kishida H¹, Tsuchida T¹, Morita N¹, Tomita Y¹, Seino Y¹, Takano T², Nishigaki R³, Asano G³ (¹ First Department of Internal Medicine, ² Coronary Care Unit, ³ Department of Pathology, Nippon Medical School) : A 68-year-old man with complete atrioventricular block and congestive heart failure. *J Cardiol* 1999 ; 33 : 111-115.
- 19) Yu H, Yokoyama M, Asano G : Time course of expression and localization of heat shock protein 72 in the ischemic and reperfused rat heart. *Jap Circ J* 1999 ; 63 : 278-287.
- 20) Fujii T¹, Nishigaki R¹, Kawahara K¹, Yamada N¹, Onda M¹, Yokoyama M¹, Naito Z¹, Asano G¹, Shimizu-Suganuma M², Shichinohe K² (¹ Department of Pathology, ² Department of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School) : Ultrastructural changes and immunohistochemical localization of advanced glycation end products in the heart of streptozotocin-treated Mongolian gerbils. *Med Electron Microsc* 1999 ; 32 : 43-49.
- 21) Shichinohe K¹, Shimizu-Suganuma M¹, Arai S², Tachizawa N³, Mwanatambwe M² (¹ Department des Sciences Animales et Department de, ² Pathologie, ³ Nippon Medical School) : EFFETS ANTIHISTAMINIQUES DES BANDES AROMATISEES D'HUILESES SENTIELLES : Resultats préliminaires d'une étude pilote. *Bull Soc Fr -Jpn Sci Vet* 1999 ; 9 : 20-25.
- 22) Tanaka N¹, Onda M¹, Seya T¹, Kanazawa Y¹, Naito Z², Asano G², Oguro T³ (¹ First Department of Surgery, ² Second Department of Pathology, ³ Department of Pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital) : Establishment and characterization of a human rectal neuroendocrine carcinoma xenograft into nude mice. *Digestion* 1999 ; 60 : 117-124.
- 23) Wen M¹, Zhang Y⁵, Yamada N², Matsushima T³, Matsukura N⁴, Sugisaki Y¹ (¹ Division of Hospital Surgical Pathology, ² Department of Pathology, ³ First Department of Surgery, Nippon Medical School, ⁴ Department of Endoscopy, Nippon Medical School, Tama, ⁵ PLA Institute of Digestive Diseases, First Medical University, Gangzhou, People's Republic of China) : An evaluative system for the response of antibacterial therapy : Based on the morphological change of *Helicobacter pylori* and mucosal inflammation. *Pathol Int* 1999 ; 49 : 332-337.
- 24) Kleeff J¹, Maruyama H¹, Friess H², Buchler Markus W², Falb D³, Korc M¹ (¹ Division of Endocrinology, Diabetes and Metabolism ; Department of Biological Chemistry, and Department of Pharmacology, University of California, Irvine, ² Department of Visceral and Transplantation Surgery, University of Bern, ³ Millennium Pharmaceuticals, Cambridge) : Smad 6 suppresses TGF- β -induced growth inhibition in COLO-357 pancreatic cancer cells and is overexpressed in pancreatic cancer. *Biochem Biophys Res Comm* 1999 ; 255 : 268-273.

- 25) 松原美幸¹⁾, 横山宗伯²⁾, 渡会泰彦¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 前田昭太郎³⁾ (1) 日本医科大学附属病院病理部, 2) 日本医科大学病理学第2, 3) 日本医科大学附属多摩永山病院病理部): 小細胞型骨肉腫の1例. 日臨細胞会誌 1998; 37: 608-612.
- 26) 尾見徳弥¹⁾, 本田光芳¹⁾, 三橋 清²⁾, 百束比古²⁾, 浅野伍朗³⁾ (1) クイーンズスクエアメディカルセンター皮膚科, 2) 日本医科大学形成外科, 3) 日本医科大学病理学第2): 27歳の女性に生じたPaget病において乳輪平滑筋がNeurogenic Metaplastic Hyperproliferationを呈した1例. 日皮病理組織会誌 1998; 14: 4-7.
- 27) 高崎雄司¹⁾, 長野具雄²⁾, 北村 裕³⁾, 橋本綱子⁴⁾, 宗像一雄²⁾, 落 雅美³⁾, 江本直也⁵⁾, 岸田 浩²⁾, 山中宣昭⁶⁾, 飯野靖彦⁷⁾, 弦間昭彦¹⁾, 内藤善哉⁶⁾, 後藤 眞⁸⁾ (1) 日本医科大学呼吸器内科, 2) 日本医科大学第1内科, 3) 日本医科大学第2外科, 4) 日本医科大学皮膚科, 5) 日本医科大学第3内科, 6) 日本医科大学病理学, 7) 日本医科大学第2内科, 8) 東京都立大塚病院膠原病リウマチ科): 早老症に重症狭心症を合併し, 冠動脈バイパス術を施行した1例. 内科 1999; 83: 145-153.

(2) 総説:

- 1) Asano G, Fukumoto H, Nishigaki R, Yamada N, Onda M, Naito Z, Yokoyama M, Ishiwata T (1) Department of Pathology, Nippon Medical School): Biological roles of vascular endothelial cell in various pathologic processes. J Nippon Med Sch 1998; 65: 265-275.
- 2) Maeda S¹⁾, Hosone M¹⁾, Katayama H¹⁾, Isobe H¹⁾, Yanagida Y¹⁾, Egami K²⁾, Yoshioka M²⁾, Asano G³⁾ (1) Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, 2) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, 3) Second Department of Pathology, Nippon Medical School): Rapid diagnosis at the outpatient clinic for breast tumors by fine needle aspiration cytology: The utility. J Nippon Med Sch 1998; 65: 416-420.
- 3) 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 佐藤雅史²⁾, 福田 悠³⁾, 浅野伍朗³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部, 2) 日本医科大学第二病院放射線科, 3) 日本医科大学病理学): 石灰化病変の病理. 臨床画像 1998; 14: 784-792.
- 4) 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 松原美幸²⁾, 杉崎祐一²⁾, 横山宗伯³⁾, 浅野伍朗³⁾ (1) 日本医科大学附属多摩永山病院病理部, 2) 日本医科大学附属病院病理部, 3) 日本医科大学病理学第2): 軟部腫瘍細胞診. 病理と臨床 1998; 16: 954-964.
- 5) 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 山田宣孝²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 日本医科大学附属多摩永山病院病理部, 2) 日本医科大学病理学第2): リンパ節の細胞診—穿刺吸引細胞診の有効性と今後の展望—. 病理と臨床 1998; 16: 965-975.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Milanga M: Pitfalls in the strategies Elaborated by the government of the democratic republic of Congo to tackle the issue of HIV epidemic. 第22回日本比較臨床血液学会, 1998. 6.

(2) シンポジウム:

- 1) Yamada N: Histological diagnosis of *Helicobacter pylori* associated gastroduodenal diseases. The first Vietnam-Japan Helicobacter pylori symposium (Ho Chi Min, Vietonam), 1998. 5.
- 2) Yamada N: The update Sydneysystem for the evaluation of gastritis. The first Vietnam-Japan Helicobacter pylori symposium (Ho Chi Min, Vietonam), 1998. 5.
- 3) Yamada N: Comparison of gastroduodenal disease and *Helicobacter pylori* infection in Asian people: Histological division. Helicobacter pylori symposium, Faculty of Medicine, Chiang Mai University (Chiangmai, Thailand), 1999. 1.
- 4) 松久威史¹⁾, 山田宣孝 (1) 多摩永山病院内視鏡科): 胃十二指腸疾患と幽門螺旋菌感染の日中比較. 第4回中日

友好 *Helicobacter pylori* 与胃・十二指腸疾患 Symposium (Peking China), 1999. 3.

(3) セミナー :

- 1) Yamada N : Histological diagnosis of gastroduodenal disease and *Helicobacter pylori* infection. Scientific Seminar in Ho Chin Minn City, Vietnam Endoscopic and Histological Diagnosis of Gastroduodenal diseases (Ho Chi Min, Vietonam), 1998. 11.

(4) ワークショップ :

- 1) 中村 洋¹⁾, 吉野 慎一¹⁾, 中村 敦夫²⁾, 河原 徹²⁾, 岡田 匡司²⁾, 松久 威史²⁾, 山田 宣孝 (¹⁾ リウマチ外科, ²⁾ 多摩永山病院内視鏡科) : 慢性関節リウマチ患者における *Helicobacter pylori* 感染. 第42回日本リウマチ学会総会, 1998. 5.
- 2) 松久 威史¹⁾, 山田 宣孝 (¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科) : Sydney 分類の評価—3点生検の有用性について— : Sydney 分類の評価. 第86回日本消化器病学会総会, 1998. 10.

(5) 一般講演 :

- 1) Matsuhisa T¹⁾, Nakamura H²⁾, Yoshino S²⁾, Yamada N (¹⁾ Department of Gastrointestinal Endoscopy, Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Rheumatoid Arthritis) : Evaluation of rebamipide in patients with rheumatoid arthritis. GI Forum in Vienna (Vienna, Australia), 1998. 9.
- 2) Matsuhisa T¹⁾, Nakamura H²⁾, Yoshino S²⁾, Yamada N (¹⁾ Department of Gastrointestinal endoscopy, Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Rheumatoid Arthritis) : Evaluation of rebamipide in patients with rheumatoid arthritis under NSAIDs and steroid therapy. First World Congress of Gastroenterology (Vienna, Australia), 1998. 9.
- 3) Maruyama H, Maeda S, Hosone M, Asano G : Immunohistochemical localization of Osteocalcin, Osteonectin and Type I Collagen in Osteosarcoma. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 4) 飯田 竹美, 田村 浩一¹⁾, 浅野 伍朗 (¹⁾ 付属病院病理部) : 正常僧帽弁弁膜内の血管に関する検討. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 5) 田村 浩一¹⁾, 飯田 竹美, 杉崎 祐一¹⁾ (¹⁾ 付属病院病理部) : 僧帽弁形成術後の弁膜組織反応に関する検討. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 6) 相田 成隆²⁾, 温 敏¹⁾, 山田 宣孝, 浅野 伍朗 (¹⁾ 付属病院病理部, ²⁾ 外科学第2) : 甲状腺濾胞癌における被膜侵襲の三次元的検討. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 7) 前田 昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 丸山 晴久¹⁾, 澤田 名美枝¹⁾, 片山 博徳¹⁾, 森 修, 浅野 伍朗 (¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 脊髄原発の末梢性 PNET (primitive neuroectodermal tumor) の2症例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 8) 細根 勝¹⁾, 澤田 名美枝¹⁾, 前田 昭太郎¹⁾, 片山 博徳¹⁾, 浅野 伍朗 (¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 急速な臨床経過をたどった EB virus⁺ CD56⁺ aggressive NK/T-cell lymphoma の1例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 9) 秦 漢娟¹⁾, 大秋 美治¹⁾, 何 群¹⁾, 森 修¹⁾, 浅野 伍朗 (¹⁾ 千葉北総病院病理部) : 後腹膜に発生した巨大 inflammatory myofibroblastic tumor の1例—光顕的, 電顕的, 免疫組織化学的検索. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 10) 余 紅, 横山 宗伯, 浅野 伍朗 : 虚血病巣における心筋細胞の heat shock protein 70 の役割. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 11) 町田 稔, 亀山 孝二, 恩田 宗彦, 内藤 善哉, 浅野 伍朗 : 大動脈硬化病変におけるリポソーム構造と Hematoporphyrin の蛍光変化の関連. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 12) 小原 邦彦, 横山 宗伯, 内藤 善哉, 山田 宣孝, 浅野 伍朗 : 僧帽弁閉鎖不全症を合併した多発性骨髄腫を含む4重複悪性腫瘍の1剖検例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 13) 渡邊 善正¹⁾, 新井 悟¹⁾, 松本 光司¹⁾, 浅野 伍朗 (¹⁾ 第二病院病理部) : 側頸嚢胞内の異所性甲状腺原発と考え

- られた乳頭癌の1例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 14) 松本光司¹⁾, 温 敏²⁾, 山田宣孝, 森山昌樹, 浅野伍朗, 松本俊治³⁾ (1) 第二病院病理部, 2) 付属病院病理部, 3) 順天堂大学病理学第1) : Ossifying fibromyxoid tumor of soft part 4例の検討. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
 - 15) 張 晶, 王 若皎, 川原清子, 藤井雄文, 内藤善哉, 浅野伍朗, 片山博徳¹⁾ (1) 多摩永山病院病理部) : アルコール性肝線維症並びに肝硬変症における細胞外基質の動態. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
 - 16) 権田昌洋¹⁾, 松久威史¹⁾, 温 敏²⁾, 山田宣孝 (1) 多摩永山病院内視鏡科, 2) 付属病院病理部) : The Sydney Systemに基づく組織学的胃炎および*Helicobacter pylori*感染のGrade評価についての提言. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
 - 17) 松久威史¹⁾, 羽山享宏¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 森 洋¹⁾, 権田昌洋¹⁾, 飯田章太郎¹⁾, 吉原一郎¹⁾, 新井朱音¹⁾, 山田宣孝 (1) 多摩永山病院内視鏡科) : *Helicobacter pylori*感染からみた組織学的活動性と胃粘膜萎縮. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
 - 18) 松久威史¹⁾, 羽山享宏¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 森 洋¹⁾, 権田昌洋¹⁾, 加藤木隆司¹⁾, 飯田章太郎¹⁾, 吉原一郎¹⁾, 新井朱音¹⁾, 山田宣孝 (1) 多摩永山病院内視鏡科) : *Helicobacter pylori*感染と活動性 score : 年齢層別観察を含めて. 第55回消化器内視鏡学会総会, 1998. 4.
 - 19) 矢野正雄¹⁾, 白木康夫¹⁾, 猪口正孝¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (1) 目白第3病院外科) : ヒト乳腺髄様癌組織におけるHSP 60発現. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
 - 20) 今井 順, 矢野正雄, 長江 康, 浅野伍朗, Ghazizadeh M¹⁾, 平出星夫²⁾, 望月英隆³⁾ (1) 老人研究所分子病理部門, 2) 防衛医科大学校研究センター, 3) 防衛医科大学校外科学第1) : 乳癌におけるTn抗原発現性と臨床病理学的関連についての検討. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
 - 21) 田中秀和¹⁾, 吉野横一¹⁾, 永島正一¹⁾, 中島敦夫¹⁾, 横山宗伯, 浅野伍朗 (1) リウマチ外科) : 関節リウマチ(RA)滑膜組織におけるオピオイドペプチドの産生と局在について. 第42回日本リウマチ学会総会, 1998. 5.
 - 22) 鈴木伸之¹⁾, 郡司直哉¹⁾, 吉野横一¹⁾, 永島正一¹⁾, 田中秀和¹⁾, 横山宗伯, 浅野伍朗 (1) リウマチ外科) : RA滑膜組織におけるオピオイドレセプターの局在について. 第42回日本リウマチ学会総会, 1998. 5.
 - 23) 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 於保倫之助²⁾, 浅野伍朗 (1) 千葉北総病院病理部, 2) 千葉北総病院内科) : 進行性の対麻痺と膀胱直腸障害で発症したIntravascular malignant lymphomatosis. 第39回日本神経病理学会総会学術研究会, 1998. 5.
 - 24) 山崎峰雄¹⁾, 荒木俊彦³⁾, 森 修, 新井裕至⁴⁾, 赫 彰郎⁴⁾, 小柳清光²⁾ (1) 初石病院内科, 2) 東京都神経科学総合研究所神経病理学研究部門, 3) 川口市立医療センター神経内科, 4) 内科学第2) : 家族歴を有し, 痴呆で発症したcorticobasal degenerationと考えられる1剖検例. 第39回日本神経病理学会総会学術研究会, 1998. 5.
 - 25) 山崎峰雄¹⁾, 小柳清光²⁾, 内原俊記²⁾, 新井裕至³⁾, 森 修, 赫 彰郎³⁾, 中野今治⁴⁾ (1) 初石病院内科, 2) 東京都神経科学総合研究所神経病理部門, 3) 内科学第2, 4) 自治医科大学神経内科) : Hallervorden-Spatz症候群とGerstmann-Strussler-Scheinker症候群亜型で認められたGallyas陽性Tau陽性グリア. 第39回日本神経病理学会総会学術研究会, 1998. 5.
 - 26) 林 一成¹⁾, 大橋幸宏¹⁾, 安田富子¹⁾, 中山 收¹⁾, 霞 啓子¹⁾, 広瀬秀男^{1, 5)}, 城田恵次郎¹⁾, 安川明男²⁾, 西垣龍太郎³⁾, 浅野伍朗³⁾, 菅沼 (清水) 眞澄⁴⁾, 七戸和博⁴⁾ (1) 東武医技専, 2) 西荻動物病院, 3) 日医大・病理, 4) 日医大・実験動物, 5) 関東医学研究所) : 実験的インスリン依存性糖尿病動物モデル. 第22回日本比較臨床血液学会, 1998. 6.
 - 27) 松久威史¹⁾, 羽山享宏¹⁾, 飯田章太郎¹⁾, 吉原一郎¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 森 洋¹⁾, 中村 洋²⁾, 吉野横一²⁾, 山田宣孝 (1) 多摩永山病院内視鏡科, 2) リウマチ外科) : 慢性関節リウマチ患者における*Helicobacter Pylori*感染の検討. 第66回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 6.
 - 28) 松久威史¹⁾, 山田宣孝 (1) 多摩永山病院内視鏡科) : 老年者胃潰瘍における背景胃粘膜—*Helicobacter pylori*感染

- との関連を含めて一. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 29) 松久威史¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 森 洋¹⁾, 権田昌洋¹⁾, 飯田章太郎¹⁾, 吉原一郎¹⁾, 山田宣孝⁽¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科): *Helicobacter pylori* 感染消化性潰瘍における活動性スコアの観察. 第4回日本ヘリコバクター学会, 1998. 6.
- 30) 権田昌洋¹⁾, 松久威史¹⁾, 山田宣孝⁽¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科): The Sydney Systemに基づく組織学的胃炎 *Helicobacter pylori* 感染の診断基準. 第4回日本ヘリコバクター学会, 1998. 6.
- 31) 西垣龍太郎, 工藤光洋, 石渡俊行, 横山宗伯, 内藤善哉, 山田宣孝, 浅野伍朗, 植草協子¹⁾, 平川慶子¹⁾, 荒牧琢己²⁾ ⁽¹⁾ 法医学, ⁽²⁾ 内科学第1): エンドトキシン投与後の心臓における一酸化窒素生成に伴う代謝と形態変化の推移. 第4回エンドトキシン研究会, 1998. 9.
- 32) 西垣龍太郎, 横山宗伯, 内藤善哉, 山田宣孝, 浅野伍朗, 菅沼眞澄¹⁾, 七戸和博¹⁾, 荒牧琢己²⁾ ⁽¹⁾ 実験動物管理室, ⁽²⁾ 内科学第1): 糖尿病性血管症の発生におけるNOSとAGEの役割. 第39回日本脈管学会総会, 1998. 9.
- 33) 王 若皎, 秦 漢娟, 工藤光洋, 内藤善哉, 横山宗伯, 山田宣孝, 浅野伍朗: 血管平滑筋細胞の増殖制御機構に関する研究. 第39回日本脈管学会総会, 1998. 9.
- 34) 東 敬子¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 澤田名美枝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 森川記代子¹⁾, 小黒辰夫²⁾, 大秋美治²⁾, 浅野伍朗⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ⁽²⁾ 千葉北総病院病理部): 末梢性PNET 3例: 電顕的PAM染色による検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 35) 石渡俊行: 膵臓癌の増殖におけるKeratinocyte Growth Factor (KGF, FGF-7) の発現と局在に関する研究. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 36) 何 群¹⁾, 大秋美治¹⁾, 森 修¹⁾, 新井 悟¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 早澤久美¹⁾, 三枝順子¹⁾, 安藤哲¹⁾, 田中宣威²⁾, 山下精彦²⁾, 浅野伍朗⁽¹⁾ 千葉北総病院病理部, ⁽²⁾ 千葉北総病院外科): Gastrointestinal stromal tumor (GIST) における光顕的, 電顕的, 免疫組織化学的検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 37) 西垣龍太郎, 手塚 潔, 河本陽子, 西海けい子, 藤井雄文, 川原清子, 石渡俊行, 横山宗伯, 内藤善哉, 山田宣孝, 浅野伍朗, 菅沼眞澄¹⁾, 七戸和博¹⁾, 荒牧琢己²⁾ ⁽¹⁾ 実験動物管理室, ⁽²⁾ 内科学第1): 高血糖に伴う血管病変発症におけるAGE, iNOS, NF- κ B発現の意義. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 38) 劉 愛民¹⁾, 劉 巧玲¹⁾, 鈴木克哉¹⁾, 相原 薫¹⁾, 杉崎祐一²⁾, 王 若皎, 浅野伍朗, 津田晃男³⁾, 浅野 健³⁾, 前田美穂³⁾, 山本正生³⁾ ⁽¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設, ⁽²⁾ 付属病院病理部, ⁽³⁾ 付属病院小児科): 小児のいわゆる小円形細胞腫瘍群の電顕的検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 39) 山田宣孝, 相田成隆, 石渡俊行, 矢島幹久, 浅野伍朗, 温 敏¹⁾, 佐藤春明¹⁾, 村瀬幸宏¹⁾, 大塚俊司²⁾, 松本光司²⁾, 早澤久美³⁾, 森 修³⁾ ⁽¹⁾ 付属病院病理部, ⁽²⁾ 第二病院病理部, ⁽³⁾ 千葉北総病院病理部): 日本医大第一病院病理部総括: 8年間のデータ集計. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 40) 羽山享宏¹⁾, 日下部史郎¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 松久威史¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 山田宣孝⁽¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科, ⁽²⁾ 多摩永山病院病理部): 内視鏡的切除を行った食道顆粒細胞腫の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 41) 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 江上 格²⁾, 浅野伍朗⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ⁽²⁾ 多摩永山病院外科): 白血化をきたし胃巨大皺襞症を呈したmantle cell lymphomaの1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 42) 磯部宏昭¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 原 博¹⁾, 片山博徳¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 森川記代子¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 阿部久美子¹⁾, 江上 格²⁾, 浅野伍朗⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ⁽²⁾ 多摩永山病院外科): 膵臓腫瘍に対する術中迅速細胞診の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 43) 松下 晃¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 小林 匡¹⁾, 会田邦晴¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 横山 正¹⁾, 井上松応¹⁾, 中村慶

- 春¹⁾, 山村 進¹⁾, 柳 健¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 江上 格¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (1) 外科学第1) : ハムスター腫瘍移植モデルにおける脾原発巣切除後の潜在性肝転移の分子生物学的検索. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 44) 山村 進¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 松下 晃¹⁾, 柳 健¹⁾, 井上松応¹⁾, 中村慶春¹⁾, 横山 正¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 小林 匡¹⁾, 会田邦晴¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 江上 格¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (1) 外科学第1) : ハムスター腫瘍腹膜播種性転移に及ぼすRGD peptideの転移抑制効果に関する基礎的研究. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 45) 柳 健¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 小林 匡¹⁾, 会田邦晴¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 横山 正¹⁾, 井上松応¹⁾, 中村慶春¹⁾, 山村 進¹⁾, 松下 晃¹⁾, 江上 格¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (1) 外科学第1) : ハムスター腫瘍細胞株の同種脾内移植による肝転移の特性の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 46) 徐 光, 喬 炎, 魏 莉娜, 藤井雄文, 横山宗伯, 内藤善哉, 山田宣孝, 浅野伍朗 : 糖尿病ラット心臓における虚血再灌流傷害の発生機序. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 47) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 澤田名美枝¹⁾, 東 敬子¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 森川記代子¹⁾, 阿部久美子¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 原 博¹⁾, 三田俊二²⁾, 越野立夫²⁾, 張 晶, 浅野伍朗, 十蔵寺新³⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 多摩永山病院産婦人科, 3) 東府中病院産婦人科) : 子宮内膜細胞診におけるセルブロック法の有用性について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 48) 藤井雄文, 西垣龍太郎, 西海けい子, 手塚 潔, 河本陽子, 川原清子, 石渡俊行, 横山宗伯, 内藤善哉, 山田宣孝, 浅野伍朗, 菅沼眞澄¹⁾, 七戸和博¹⁾ (1) 実験動物管理室) : 糖尿病動物モデルにおけるNOSとAGEの局在と微細構造変化 : 特に心臓, 血管系を中心に. 第30回日本臨床電子顕微鏡学会学術講演会, 1998. 9.
- 49) 郭 方, 魏 莉娜, 呂 月平, 徐 光, 川原清子, 工藤光洋, 横山宗伯, 石渡俊行, 内藤善哉, 浅野伍朗 : 去勢及びテストステロン投与ラット前立腺における間質と血管変化. 第30回日本臨床電子顕微鏡学会学術講演会, 1998. 9.
- 50) 東 敬子¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 小黒辰夫²⁾, 大秋美治²⁾, 浅野伍朗 (1) 多摩永山病院病理部, 2) 千葉北総病院病理部) : 脊髄原発の末梢性PNET 2症例の電子顕微鏡的観察. 第30回日本臨床電子顕微鏡学会学術講演会, 1998. 9.
- 51) 早澤久美¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 森 修¹⁾, 新井 悟¹⁾, 大秋美治¹⁾, 服部怜美²⁾, 浅野伍朗 (1) 千葉北総病院病理部, 2) 千葉北総病院皮膚科) : 同一個体内に色素性, 常色性の病変が胃時性に隣接して発生した基底細胞腫の1例. 第30回日本臨床電子顕微鏡学会学術講演会, 1998. 9.
- 52) 小黒辰夫¹⁾, 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 中沢南堂, 浅野伍朗 (1) 千葉北総病院病理部) : 乳癌の細胞質内小腺腔(ICLs)の形成過程における超微形態学的観察. 第30回日本臨床電子顕微鏡学会学術講演会, 1998. 9.
- 53) 今井 順, 矢野正雄, 内藤善哉, モハメドガジザデ¹⁾, 平出星夫²⁾, 望月英隆³⁾ (1) 老人研究所分子病理部門, 2) 防衛医科大学校研究センター, 3) 防衛医科大学校外科学第1) : 乳癌のTn抗原発現性の臨床病理学的意義. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 54) 瀬谷知子¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 田中宣威¹⁾, 古川清憲¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 吉村和康¹⁾, 山田岳史¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 高橋由至¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (1) 外科学第1) : 大腸癌原発巣および肝転移巣におけるThymidylate synthaseの発現. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 55) 内田英二¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 松下 晃¹⁾, 柳 健¹⁾, 山村 進¹⁾, 中村慶春¹⁾, 井上松応¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 小林 匡¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (1) 外科学第1) : 脾頭部癌の術後局所再発における神経浸潤の意義. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 56) 権田昌洋¹⁾, 松久威史¹⁾, 山田宣孝 (1) 多摩永山病院内視鏡科) : 表層性胃炎における*Helicobacter pylori*感染の観察. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 57) 羽山享宏¹⁾, 日下部史郎¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 松久威史¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 山田宣孝 (1) 多摩永山病院内視鏡科,

- 2) 多摩永山病院病理部)：内視鏡的切除を行った食道顆粒細胞腫の1例。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.
- 58) 工藤光洋，内藤善哉，横山宗伯，加藤俊二¹⁾，松倉則夫¹⁾，徳永 昭¹⁾，恩田昌彦¹⁾，浅野伍朗⁽¹⁾ 外科学第1)：胃癌組織および背景胃粘膜におけるチトクロム p450 2E1 の発現。第57回日本癌学会総会，1998. 10.
- 59) 小林 匡¹⁾，恩田昌彦¹⁾，内田英二¹⁾，柳 健¹⁾，松下 晃¹⁾，山村 進¹⁾，中村慶春¹⁾，相本隆幸¹⁾，田尻孝¹⁾，内藤善哉，浅野伍朗⁽¹⁾ 外科学第1)：粘液性膵嚢胞疾患の生物学的悪性度の検討。第57回日本癌学会総会，1998. 10.
- 60) 内藤善哉，横山宗伯，工藤光洋，松倉則夫¹⁾，徳永 昭¹⁾，恩田昌彦¹⁾，浅野伍朗⁽¹⁾ 外科学第1)：胃癌組織および背景胃粘膜における染色不安定性ならびに p53 発現，EB virus の関連について。第57回日本癌学会総会，1998. 10.
- 61) 田中宣威¹⁾，恩田昌彦¹⁾，瀬谷知子¹⁾，古川清憲¹⁾，高崎秀明¹⁾，吉村和康¹⁾，山田岳史¹⁾，高橋由至¹⁾，小泉岐博¹⁾，内藤善哉，浅野伍朗⁽¹⁾ 外科学第1)：大腸癌原発巣および肝転移巣における Matrix Metalloproteinase-9 および IV 型 Collagen の発現。第57回日本癌学会総会，1998. 10.
- 62) 矢野正雄¹⁾，平井恭二，内藤善哉，猪口正孝¹⁾，白木康夫¹⁾，石渡俊行，工藤光洋，横山宗伯，浅野伍朗⁽¹⁾ 目白第3病院外科)：ヒト乳癌のカテプシン B およびシスタチン C の発現。第57回日本癌学会総会，1998. 10.
- 63) 山村 進¹⁾，恩田昌彦¹⁾，内田英二¹⁾，小林 匡¹⁾，相本隆幸¹⁾，井上松応¹⁾，中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，柳健¹⁾，田尻 孝¹⁾，内藤善哉，浅野伍朗⁽¹⁾ 外科学第1)：ハムスター膵腫腹膜播種の解明ならびに細胞接着 peptide (RGD) の転移抑制効果に関する基礎的研究。第57回日本癌学会総会，1998. 10.
- 64) 柳 健¹⁾，恩田昌彦¹⁾，内田英二¹⁾，小林 匡¹⁾，相本隆幸¹⁾，井上松応¹⁾，中村慶春¹⁾，山村 進¹⁾，松下 晃¹⁾，田尻 孝¹⁾，内藤善哉，浅野伍朗⁽¹⁾ 外科学第1)：ハムスター膵腫の膵内移植モデルにおける肝転移の特性の検討。第57回日本癌学会総会，1998. 10.
- 65) 松下 晃¹⁾，恩田昌彦¹⁾，内田英二¹⁾，小林 匡¹⁾，相本隆幸¹⁾，井上松応¹⁾，中村慶春¹⁾，山村 進¹⁾，柳健¹⁾，田尻 孝¹⁾，内藤善哉，浅野伍朗⁽¹⁾ 外科学第1)：ハムスター膵腫移植モデルにおける膵原発巣切除後の潜在性肝転移の検討。第57回日本癌学会総会，1998. 10.
- 66) 沖野哲也¹⁾，恩田昌彦¹⁾，徳永 昭¹⁾，平本義浩¹⁾，李 栄浩¹⁾，池田研吾¹⁾，瀧田雅仁¹⁾，吉行俊郎¹⁾，加藤俊二¹⁾，松倉則夫¹⁾，田尻 孝¹⁾，内藤善哉，浅野伍朗⁽¹⁾ 外科学第1)：胃内分泌細胞癌の5例。第57回日本癌学会総会，1998. 10.
- 67) 細根 勝¹⁾，前田昭太郎¹⁾，片山博徳¹⁾，磯部宏昭¹⁾，浅野伍朗⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部)：肺原発 CD5+ low-grade B-cell MALT lymphoma と考えられる1例。第37回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会，1998. 11.
- 68) 磯部宏昭¹⁾，前田昭太郎¹⁾，細根 勝¹⁾，原 博¹⁾，片山博徳¹⁾，柳田裕美¹⁾，日吾美栄子¹⁾，阿部久美子¹⁾，江上 格²⁾，浅野伍朗⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部，²⁾ 多摩永山病院外科)：膵臓腫瘍に対する術中迅速細胞診：2ポイント採取法。第37回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会，1998. 11.
- 69) 権田昌洋¹⁾，松久威史¹⁾，山田宣孝⁽¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科)： *Helicobacter pylori* 感染からみた萎縮性胃炎。日本医科大学医学会第96回例会，1998. 11.
- 70) 日下部史郎¹⁾，松久威史¹⁾，山田宣孝⁽¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科)： NSAIDs による上部消化管病変—*Helicobacter Pylori* 感染を含めて—。日本医科大学医学会第96回例会，1998. 11.
- 71) 松久威史，日下部史郎，羽山享宏，山田宣孝⁽¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科)： *Helicobacter pylori* 陽性消化性潰瘍の病理組織学的胃炎—胃潰瘍と十二指腸潰瘍の相違—。第67回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1998. 11.
- 72) 権田昌洋¹⁾，松久威史¹⁾，山田宣孝⁽¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科)：表層性胃炎と *Helicobacter pylori* 感染の関係について。第67回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1998. 11.
- 73) 吉原一郎¹⁾，権田昌洋¹⁾，日下部史郎¹⁾，森 洋¹⁾，松久威史¹⁾，山田宣孝⁽¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科)： *Helicobacter pylori* 除菌治療により縮小・消失した胃ポリープの5症例。第67回日本消化器内視鏡学会関東地方会，

1998. 11.

- 74) 呂 月平, 石渡俊行, 川原清子, 西海けい子, 浅野伍朗: 人工肛門の治癒過程における Hepatocyte Growth Factor (HGF) と HGF receptor (c-met) の発現とその役割. 第28回創傷治癒研究会, 1998. 12.
- 75) 羽山享宏¹⁾, 日下部史郎¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 松久威史¹⁾, 山田宣孝⁽¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科): 内視鏡的に切除し得た食道顆粒細胞腫の2例. 第252回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 12.
- 76) 山口 祐¹⁾, 岡崎恭次¹⁾, 矢野 誠¹⁾, 佐藤周三¹⁾, 鈴木達也¹⁾, 中野博司¹⁾, 大庭建三¹⁾, 妻鳥昌平¹⁾, 清水一雄²⁾, 山田宣孝⁽¹⁾ 老人科, ²⁾ 外科学第2): 褐色細胞腫様発作を呈し, 副腎皮質および髓質過形成を認めた高齢者の1例. 第29回日本老年医学会関東甲信越地方会, 1999. 3.

10. 微生物学・免疫学講座

研究概要

「生体防御システムの解明ならびにその制御」を主目的とし、感染症学および感染免疫学・腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などの研究を教室全体で進め、将来の医学への応用をめざしている。また、本年6月より、高橋の京都大学への客員教授赴任に伴い、助手の福島らとともにサルを用いたHIV感染抵抗性の解明に向けた研究を開始した。

感染症学および感染免疫学：[A]エイズウイルスに対する免疫応答の検討とワクチン開発：(1) 昨年の成果に基づき、インフルエンザウイルスHA遺伝子を導入したワクチニアウイルスを作成しマウスを免疫したところ、エイズウイルス特異的CD8陽性CTLが効率よく誘発されることが確認された。こうした結果をもとに、現在経鼻免疫可能な組み換えインフルエンザウイルスの作成に取り組んでいる。(2) また、こうしたCTLの欠如がAIDS病態の進展に重大な影響を及ぼすこと、ならびにCD8陽性T細胞が少なくとも2種類のウイルス増殖抑制因子を産生放出していることを見いだした。(3) 遺伝子銃 (gene gun) を用いた細胞性免疫賦活法を検討し、樹状細胞の重要性を見いだすとともに、(4) 千葉大学との共同研究により作成した、HIV特異的CTLのT細胞レセプターを発現したトランスジェニックマウス (Tg) にウイルスを投与し、その制御に関わる免疫の本体を探っている。(5) また、IgGの超可変部にHIVのエピトープ蛋白を発現させたところ、強力な免疫賦活能を有することを見いだした。[B]C型肝炎ウイルスの高頻度可変部領域が中和抗体の主たる認識応答部位であること、ならびにこうした認識蛋白に対する抗原提示メカニズムを解明した。[C] (1) ヘリコバクター・ピロリ菌による胃炎慢性化と菌体毒素ウレアーゼに対する抗体産生との関連性を追跡し、病態の進展に応じてIgA抗体産生とIgG抗体産生とが逆転することを突き止めた。現在こうした抗体の認識部位を検討している。[D]MRSAなどの薬剤耐性菌による院内感染を防止する目的で、その耐性獲得機序の解明を検討している。

腫瘍免疫学：(1) In vivoでの腫瘍増殖抑制能を有する肝臓癌細胞特異的CTLの認識応答するペプチド抗原を分離・採取しその特性を検討した。現在このペプチドを用いた癌ワクチンの研究を、強力な免疫賦活能を有する樹状細胞を利用することにより進めている。(2) また、こうした未熟な肝臓癌細胞から放出される α -フェトプロテインに着目し、こうした肝臓由来蛋白による細胞性免疫抑制作用、ならびに癌化への影響を検討している。(3) 一方、液性免疫による腫瘍制御の可能性を探るため、特異的抗体を用いた腫瘍増殖制御法についても研究を重ねている。

アレルギー・膠原病学：[A] (1) 食物アレルギーのメカニズムを解析するため、卵白特異的なヘルパーT細胞のレセプターを発現したTgマウスを作成したところ、牛乳中のカゼインや卵白投与によりIgE産生を伴うアレルギー症状が誘発されることを見いだした。現在このモデルマウスを用いたアレルギーの制御法の研究に着手している。[B] 一方このTgマウスが卵白投与により抗原抗体複合物を体内で蓄積した結果腎障害を起こすことを見出し、現在アレルギー性腎炎発生のメカニズムに関する研究を進めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ohsawa K¹⁾, Osono E, Iino Y¹⁾ (1) Dept. of 2nd Int Med. Nippon Medical School) : Evidences of high serum leptin levels in patients with renal transplantation. Clin 1998 ; 2 : 38-43.
- 2) Shida K¹⁾, Makino K¹⁾, Morishita A¹⁾, Takamizawa K¹⁾, Hachimura S¹⁾, Ametani A¹⁾, Sato T²⁾, Kumagai Y, Habu S²⁾, Kaminogawa S³⁾ (1) 東京大学応用生命科学, 2) 東海大学免疫) : Lactobacillus casei inhibits antigen-induced IgE secretion through regulation of cytokine production in murine splenocyte culture. Int

Archive Allergy and Immunol 1998 ; 115 : 278-287.

- 3) Nakajima-Adachi H¹⁾, Hachimura S¹⁾, Ise W¹⁾, Honma K, Nishikawa S¹⁾ (¹⁾ Department of Applied Biological Chemistry, The University of Tokyo) : Determinant analysis of IgE and IgG4 antibodies and T cells specific for bovine a_{s1}-casein from the same patients allergic to cow's milk : Existence of a_{s1}-casein-specific B cells and T cells characteristic in cow's-milk allergy. J Allergy Clin Immunol 1998 ; 101 : 660-671.
- 4) Mabuchi A, Kodaira Y¹⁾, Norose Y, Saizawa M, Kitajima M, Yokomuro K (¹⁾ Dept. Surgery, Mayo Clinic) : Role of the liver in T cell differentiation-generation of CD3⁺CD4⁺/CD8⁺TCR β cells and CD3⁺4⁺TCR β cells from CD4⁺TCR β athymic nude bone marrow cells by culture with parenchymal liver cells. J Leuko Biol 1998 ; 63 : 575-583.
- 5) Papst P¹⁾, Sugiyama H¹⁾, Lucas J¹⁾, Terada N¹⁾ (¹⁾ Pediatrics, National Jewish Medical Research Center, Denver, Colorado) : Cdc2-cyclinB phosphorylates p70 S6 kinase on thr411 at mitosis. J Bio Chem 1998 ; 273 (24) : 15077-15084.
- 6) Yanagie H¹⁾, Sumitomo H¹⁾, Nonaka Y¹⁾, Matsuda S¹⁾, Hirose I¹⁾, Hanada S¹⁾, Sugiyama H (¹⁾ Tumor Surgery Institute of Medical Science, Univ. of Tokyo) : Inhibition of human pancreatic cancer growth by the adenovirus-mediated introduction of a novel growth suppressing gene tob, in vitro. Advance in Experimental Medicine and Biology : Gene Therapy of Cancer 1998 ; 451 : 91-96.
- 7) Takahashi H, Chiba M¹⁾, Kato K¹⁾, Nakagawa Y, Inuma H²⁾, Nerome K¹⁾ (¹⁾ 国立感染研ウイルスI部, ²⁾ 帝京大学, 第二外科) : Predominant priming of epitope-specific CD8⁺CTL with recombinant vaccinia virus expressing an immunodominant epitope of HIV-1 envelope protein within an influenza hemagglutinin cassette. AIDS Research Newsletter 1998 ; 2 (1) : 116-116.
- 8) Kmiecik D¹⁾, Wasik TJ¹⁾, Tepler H²⁾, Pientka J²⁾, Hus S²⁾, Takahashi H, Okumura K³⁾, Kaneko Y³⁾, Kozbor D¹⁾ : The effect of deletion of the V3 loop of gp120 on cytotoxic T cell responses and HIV gp120-mediated pathogenesis. J Immunol 1998 ; 160 (11) : 5676-5683.
- 9) Futagami S¹⁾, Takahashi H, Norose Y, Kobayashi M¹⁾ (¹⁾ 内科学第3) : Systemic and local immune responses against *Helicobacter pylori* urease in patients with chronic gastritis : distinct IgA and IgG productive sites. Gut 1998 ; 43 (2) : 168-175.
- 10) Chen M¹⁾, Shirai M¹⁾, Liu Z¹⁾, Arichi T¹⁾, Takahashi H, Nishioka MM¹⁾ (¹⁾ 香川医大第三内科) : Efficient class II MHC presentation of endogenously synthesized structural proteins of hepatitis C virus by EVB-transformed B lymphoblastoid cell lines. J Virol 1998 ; 72 (10) : 8301-8308.
- 11) Osono E, Kurihara S¹⁾, Ohwada K¹⁾, Sakurai Y¹⁾, Takeuchi M¹⁾, Onoda N¹⁾ (¹⁾ Dept. of Nephrology, Kasukabe Shuwa Hospital) : ACE gene polymorphisms and left ventricular hypertrophy in hemodialysis patients. Am J Kid Dis 1998 ; 32 : 725-730.
- 12) Kurane S¹⁾, Krauss JC²⁾, Watari E³⁾, Kannagi R²⁾, Chang AE, Kudoh S¹⁾ (¹⁾ 内科学第4, ²⁾ ミシガン大学, ³⁾ 愛知がんセンター第二病理) : Targeted gene transfer for adenocarcinoma using a combination of tumor-specific antibody and tissue-specific promotor. Japan J Cancer Res 1998 ; 89 (11) : 1212-1219.
- 13) Osono E, Onoda N¹⁾, Ohwada K¹⁾, Ohwada Y¹⁾, Sakurai Y¹⁾, Takeuchi M¹⁾, Kurihara S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Nephrology, Kasukabe Syuwa Hosptal) : Syncope attack at starting dialysis therapy : A case study of adrenal crisis. J Clin Dialysis 1998 ; 14 : 1985-1993.
- 14) Ohashi T¹⁾, Kubo M¹⁾, Kato H¹⁾, Iwamoto A²⁾, Takahashi H, Fujii M¹⁾, Kannagi M (¹⁾ 東京医科歯科大, 免疫治療, ²⁾ 東大医科研, 感染症) : Role of class I major histocompatibility complex-restricted and -unrestricted suppression of human immunodeficiency virus type 1 replication by CD8⁺ T lymphocytes. J Gen Virol 1999 ; 80 (1) : 209-216.

- 15) Shirai M¹⁾, Arichi T²⁾, Chen M²⁾, Nishioka M²⁾, Ikeda K²⁾, Takahashi H, Feinstone SM³⁾, Berzofsky JA³⁾
(¹⁾ 山口大学医, 微生物, ²⁾ 香川医大, 三内, ³⁾ 米国, NIH) : T cell recognition of hypervariable region-1 from hepatitis C virus envelope protein with multiple class MHC molecules in mice and humans : Preferential help for induction of antibodies to the hypervariable region. J Immunol 1999 ; 162 (2) : 568-576.

(2) 総説 :

- 1) 高橋秀実 : 微生物と生体応答. 日医大誌 1998 ; 65 (2) : 127-134.
- 2) 高橋めぐみ, 高橋秀実 : 感染とサイトカイン. CLINICAL NEUROSCIENCE 1998 ; 44 : 396-398.
- 3) 渡理英二, 高橋秀実 : エイズワクチン研究の現状. 臨床と微生物 1998 ; 25 (3) : 351-354.
- 4) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (12) 免疫システムの本来の役割. 治療 1998 ; 80 (5) : 1793-1799.
- 5) 高橋秀実 : ウイルスに対する免疫と持続感染 1. ウイルスに対する免疫防御機構. 治療学 1998 ; 32 (5) : 615-621.
- 6) 二神生爾¹⁾, 高橋秀実, 大橋和史¹⁾, 鷹取美雪¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 廣田 薫¹⁾, 小林正文¹⁾ (¹⁾ 内科学第3) : 胃炎の慢性化の機序について. 消化器科 1998 ; 26 (1) : 41-46.
- 7) 横室公三, 馬淵綾子 : 免疫と肝臓 : 肝臓の Hematolymphoid System としての機能とそれが示す免疫応答の調節. 肝胆脾 1998 ; 37 : 19-28.
- 8) 高橋秀実 : 成分ワクチンの新たな展開 : DNA ワクチンの可能性. 臨床と微生物 1998 ; 25 (6) : 771-778.
- 9) 高橋秀実 : DNA ワクチンによる免疫誘導. ウイルス 1998 ; 48 (2) : 201-210.
- 10) 高橋秀実 : DNA ワクチン—ワクチン史における新たな展開. ウイルスに対する免疫と持続感染 1. ウイルスに対する免疫防御機構. Immunology Frontier 1998 ; 8 (6) : 359-365.
- 11) 中川洋子, 高橋秀実 : HIV の抗原エピトープと免疫応答. 臨床免疫 1999 ; 31 : 287-292.
- 12) 熊谷善博, 高橋秀実 : 中和抗体と免疫アレルギー抗体. 日本医事新報 1999 ; 3904 : 114-115.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 高橋秀実 : 微生物と免疫応答. 東京都臨床技術微生物検査研究会, 1998. 4.
- 2) 高橋秀実 : エイズと闘う生体防御システム. 第1回日本医科大学感染・免疫・アレルギー研究会, 1998. 6.
- 3) 高橋秀実 : 私達の身体に備わった防御システムのしくみ. やさしい科学技術セミナー (国際科学技術財団主催), 1998. 6.
- 4) 熊谷善博 : アレルギーモデルトランスジェニックマウスを用いたアレルギーの細胞性機構の解析と免疫寛容誘導の試み. 第22回日本比較臨床血液学会, 1998. 6.
- 5) 高橋秀実 : エイズウイルス感染に対する細胞性免疫応答とその賦活. 第16回日本産婦人科感染症研究会, 1998. 7.
- 6) 高橋秀実 : 毒素に対する生体反応. 第4回外科侵襲研究会, 1998. 9.
- 7) 高橋秀実 : 私達の身体に内在する免疫システム. 第33回関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会, 1998. 9.
- 8) 熊谷善博 : クローンテクノロジーは何をもたらすか. 明日の社会, 技術を考える会, 1998. 9.
- 9) 高橋秀実 : ウイルスペプチドによるキラーT細胞の活性抑制. 第1回京都大学リサーチフォーラム「ウイルスとヒト」, 1998. 12.

(2) シンポジウム :

- 1) Takahashi H : Activation of host defence mechanism against HIV : The future prospects of HIV vaccine development. AIDS International Symposium (Tokyo), 1998. 11.
- 2) Takahashi H : Importance and elicitation of cellular immunity to HIV : An major target for vaccine develop-

- ment. International AIDS Symposium on "Frontiers of HIV/AIDS Research" (Toyama), 1999. 3.
- 3) Takahashi H : Damage of CD8⁺T cells and HIV pathogenesis. 第28回日本免疫学会総会, 1998. 12.
 - 4) 高橋秀実: ヘリコバクター・ピロリと胃病変: ウレアーゼに対する免疫応答との関連. 第80回日本細菌学会関東支部総会, 1998. 11.
- (3) ワークショップ:
- 1) Kumagai Y, Takahashi H : Polyvalent V3 epitope-grafted immunoglobulin with the high V3-antigen presenting efficacy. The 10th International Congress of Immunology, (New Delhi (India)), 1998. 11.
 - 2) Takahashi H : Induction of HIV-specific cellular immunity by HIV-DNA using gene gun. France-Japan AIDS Research Meeting (Tokyo), 1998. 12.
 - 3) Takahashi H, Nakagawa Y, Norose YY, Takahashi M, Nohtomi K¹⁾, Toda M²⁾, Sakaguchi M²⁾, Takebe Y¹⁾ (1) 国立感染研, エイズ科, 2) 国立感染研, 免疫部): Dendritic cells as a major target to prime HIV-specific CD8⁺CTL by HIV-DNA plasmid using gene gun. Japan-US Cooperative Medical Science Program : The 11th Joint Scientific Meeting of AIDS, 1999. 3.
 - 4) 二神生爾¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 小林正文¹⁾, 高橋秀実 (1) 内科学第3): 慢性胃炎患者における *Helicobacter pylori* urease (HP urease) に対する全身性及び局在生の免疫応答の検討. 第4回白河カンファレンス, 1998. 6.
- (4) 一般講演:
- 1) Yanagie H¹⁾, Tanabe T¹⁾, Nonaka Y¹⁾, Matsuda S¹⁾, Hirose I¹⁾, Sugiyama H, Mikamo S¹⁾ (1) Tumor Surgery Institute of Medical Science, Univ. of Tokyo): Tumor growth suppression by the adenovirus-mediated introduction of a cell-growth suppression gene, *tob*, in pancreatic cancer peritonitis model in vivo. 4th European conference on gene therapy of cancer (Milano (Italy)), 1998. 9.
 - 2) Mabuchi A, Kitajima M, Kikuchi K, Nakagawa Y, Takahashi H, Kakiuchi T¹⁾, Yokomuro K (1) Dept. of Immunology, Univ. of Toho): Cultured murine parenchymal liver cells induce differentiation of bone marrow cells to macrophage like cells which present antigen to Th1 clones but inhibit their proliferation by nitric oxide and prostaglandins. 9th International Symposium on cells of the Hepatic Sinusoid (Christ Church (Newzealand)), 1998. 9.
 - 3) Futagami S¹⁾, Takahashi H, Norose Y, Nagata K²⁾, Kobayashi M¹⁾ (1) 内科学第三, 2) 兵庫医科大学, 細菌): Analysis of immune responses to *H. pylori* in the sera of the patients with gastroduodenal diseases. The 38th World Congress of Gastroenterology (Vienna (ウィーン)), 1998. 9.
 - 4) Sugiyama H, Yanagie H¹⁾, Misao S²⁾, Fukuzawa Y²⁾, Kakumu S²⁾, Yoshida M³⁾, Takahashi H (1) Tumor Surgery Institute of Medical Science, Univ. of Tokyo, 2) First Internal Medicine, Aichi Medical University, 3) Department of Biotechnology, Agriculture and Life Science, University of Tokyo): Identification of toxic element of hepatitis virus type C. Biochemistry and Molecular Biology 99 : A Joint Meeting of the American Society for Biochemistry and Molecular Biology (ASBMB), the Canadian Society of Biochemistry and Molecular and Cellular Biology (CSBMCB), the Division of Biological Chemistry of the American Chemical Society (DBC/ACS) and the Pan-American Association for Biochemistry and Molecular Biology (PABMB), 1999. 5.
 - 5) 中塚雄久, 杉山弘高, 中川洋子, 金沢秀典¹⁾, 黒田 肇¹⁾, 小林正文¹⁾, 高橋秀実 (1) 内科学第3): 肝細胞癌特異的CTLが認識する class I MHC分子拘束性 peptide の分離, 解析. 第34回日本肝臓学会総会, 1998. 4.
 - 6) 高橋秀実, 中川洋子, 野呂瀬嘉彦, 納富香子¹⁾, 草川 茂¹⁾, 戸田雅子¹⁾, 阪口雅弘¹⁾, 武部 豊¹⁾ (1) 国立感染研): Gene Gunを用いた HIV-1 env 遺伝子による特異的CTLの誘導. 第12回日本エイズ学会総会, 1998. 12.
 - 7) 中川洋子, 清水真澄, 本間季里, 竹下俊行¹⁾, 高橋秀実 (1) 産婦人科学): HIV-env 抗原特異的キラーT細胞の

- 認識エピトープに関する研究：細胞外processingの可能性について (II)．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
- 8) 熊谷善博，沢田信一郎¹⁾，清島保江²⁾，大脇敦子，高橋秀実¹⁾ (理化学研究所ライフサイエンス，²⁾ 住友電気バイオメディカル)：抗体超可変部に多価に表現したHIV-1 V3エピトープを利用したgp120とコレセプター相互作用の解析．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 9) 高橋めぐみ，中川洋子，渡理英二，高橋秀実：浮遊ペプチド抗原によるキラーT細胞のキラー活性抑制の機序：(I) IL-2レセプターを介したシグナル伝達抑制の可能性．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 10) 横須賀忠¹⁾，高瀬 完¹⁾，荒瀬 尚¹⁾，高橋秀実，斉藤 隆¹⁾ (¹⁾ 千葉大医学部，高次研)：単一の抗原ペプチドによるTCRの選択性．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 11) 中塚雄久，杉山弘高，清水真澄，中川洋子，高橋秀実：マウス肝細胞癌特異的CTLが認識するclass I MHC分子拘束性peptideの解析．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 12) 馬淵綾子，野呂瀬嘉彦，寺部正記，清水真澄，垣内史堂¹⁾，横室公三，高橋秀実¹⁾ (東邦大医学部，免疫)：Con Aの静注により惹起された肝障害マウスの肝臓内に一過性に出現するプラスチック膠着性細胞の機能と性状．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 13) 高橋秀実，二神生爾¹⁾，野呂瀬嘉彦，廣田 薫¹⁾，小林正文¹⁾ (¹⁾ 内科学第3)：Helicobacter pylori感染マウス由来ureaseに対するIgA，IgG抗体産生と胃炎慢性化との関連．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 14) 寺部正記，清水真澄，大藪英一，垣内史堂¹⁾，横室公三，高橋秀実：細菌性スーパー抗原 (SEB) による免疫寛容誘導時，肝臓内に特異的に認められるMac-1⁺Ia⁺細胞について．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 15) 杉山弘高，Papst P，Terada N，高橋秀実：免疫抑制剤rapamycinの障害するRibosomal S6 kinase pathway．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 16) 好田 正¹⁾，八村敏志¹⁾，石杜美奈¹⁾，衣笠文貴¹⁾，佐藤健人²⁾，熊谷善博，垣生園子²⁾，飴谷章夫¹⁾，上野川修一¹⁾ (¹⁾ 東海大 免疫，²⁾ 東大 応用生命科学)：パリエル板細胞の抗原提示能に関わる液性因子の解析．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 17) 橋口昌章¹⁾，倉岡雅征¹⁾，八村敏志¹⁾，飴谷章夫¹⁾，佐藤健人²⁾，熊谷善博，垣生園子²⁾，上野川修一¹⁾ (¹⁾ 東大 応用生命科学，²⁾ 東海大 免疫)：TCRトランスジェニックマウスを用いたパリエル板T細胞のIL-5分泌応答の解析．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 18) 斉藤哲也¹⁾，平松太一¹⁾，三井健一¹⁾，熊谷善博，佐藤健人²⁾，垣生園子²⁾，松島端子¹⁾，稲田祐二¹⁾，西村裕之¹⁾ (¹⁾ 桐蔭横浜大学人間工学，²⁾ 東海大免疫)：ポリエチレングリコール (PEG) 修飾抗原による抗原特異的免疫寛容誘導の機序．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 19) 伊勢 渉¹⁾，戸塚 護¹⁾，高東留美¹⁾，八村敏志¹⁾，佐藤健人²⁾，飴谷章夫¹⁾，熊谷善博，垣生園子²⁾，上野川修一¹⁾ (¹⁾ 東大応用生命科学，²⁾ 東海大免疫)：低濃度抗原及び変異抗原刺激により，抗原未感作T細胞に生じる抗原非特異的IgG抗体産生誘導能．第28回日本免疫学会総会，1998．12．
 - 20) 凌 梅¹⁾，八村敏志¹⁾，植田祥啓¹⁾，橋口昌章¹⁾，志田 寛¹⁾，後藤貴康¹⁾，伊勢 渉¹⁾，戸塚 護¹⁾，海江田功¹⁾，久辰辰博¹⁾，佐藤健人²⁾，熊谷善博，垣生園子²⁾，飴谷章夫¹⁾，上野川修一¹⁾ (¹⁾ 東大応用生命科学，²⁾ 東海大免疫)：抗原を経口摂取したTCRトランスジェニックマウスにおける抗体産生応答とT細胞トレランスの誘導．第28回日本免疫学会総会，1998．12．

11. 衛生学・公衆衛生学講座

研究概要

今年度は、神経由来のカテコールアミン代謝物と考えられる尿中のメトキシヒドロキシ・フェニルグリコール (MHPG) の測定法の開発、パラ・クロロニトロベンゼン (pCNB) の免疫毒性に関する研究、サリン被曝時にコンコミタントが発生した事を証明するためのバイオロジカル・モニタリングの研究、ならびにそのコンコミタントによる遺伝毒性の研究など多彩な研究が行われた。特にMHPGが測定できる様になったので、今後はその意義を考慮しつつ応用研究を進めて行きたい。また、今年度の業績集には間に合わなかったが、切迫流産でのドパミンやプロスタグランジンの代謝の変化に関する研究や、メルカプトピルビン酸硫黄転移酵素の詳細な研究もある。これらの研究には所謂派手さはないが、必要な基礎的および応用的研究である。いずれの研究も problem-oriented であり、多彩な方法論 (種々の機器分析, 免疫化学的手法, 生化学的・分子生物学的手法など) を駆使して、それぞれの研究者が自ら手を動かして行ったものである。そういう意味で、当研究室のスタッフはどこの研究室でも通用する研究者である。但し、前任者の時代に採用された者であるが本学の機構上どうしようもない者も1名いることは残念ではある。今年度の研究業績を以下に列挙するが、これらのテーマに限らず、研究に対して熱意がある若い人々の参加を歓迎する。でき得る限りサポートをする所存である。今後も大いに議論して研究を発展させたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Inagaki H, Hirata K, Minami M : Separate determination of human urinary conjugated and unconjugated 3-methoxy-4-hydroxyphenylethyleneglycol. J Chromatogr B 1998 ; 707 (1-2) : 9-15.
- 2) Li Q, Minami M, Inagaki H : Acute and subchronic immunotoxicity of *p*-chloronitrobenzene in mice. I. Effect on natural killer, cytotoxic T-lymphocyte activities and mitogen-stimulated lymphocyte proliferation. Toxicology 1998 ; 127 (1-3) : 223-232.
- 3) Minami M, Hui Da-M, Wang Z, Katsumata M, Inagaki H, Li Q, Inuzuka S¹⁾, Mashiko K¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Ootsuka T¹⁾, Boulet Camille A²⁾, Clement John G²⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, ²⁾ Defense Research Establishment Suffield, Canada) : Biological monitoring of metabolites of sarin and its by-products in human urine samples. J Toxicol Sci 1998 ; 23 (Suppl. 2) : 250-254.
- 4) Li Q, Minami M, Clement John G¹⁾, Boulet Camille A²⁾ (¹⁾ Bio Chem Therapeutic Inc., Canada, ²⁾ Defense Research Establishment Suffield, Canada) : Elevated frequency of sister chromatid exchanges in lymphocytes of victims of the Tokyo sarin disaster and in experiments exposing lymphocytes to by-products of sarin synthesis. Toxicol Lett 1998 ; 98 (1-2) : 95-103.
- 5) 前原直樹¹⁾, 佐々木司¹⁾, 李 卿, 澤 貢²⁾, 守 和子¹⁾, 花岡知之¹⁾, 渡辺明彦¹⁾ (¹⁾ 労働科学研究所, ²⁾ 鉄道総合技術研究所) : 夜勤タクシー運転手のVPC出現増加に果たす職務ストレスの役割. 労働科学 1999 ; 75 (1) : 1-27.

(2) 研究報告書：

- 1) 南 正康, 勝又聖夫 : 循環器疾患のリスクファクターとしての産業ストレスの研究. 財団法人千代田生命健康開発事業団第43回 (平成8年度) 社会厚生事業助成研究報告集 1998 ; pp34-35.

著 書

- 1) 若山葉子：〔分担〕第11章社会保障と社会福祉，第12章衛生行政．わかりやすい公衆衛生（薩田清明，高橋昌巳編），1998；pp205-239，八千代出版．

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 南 正康：サリン被曝者の血液および尿に関する被曝状況調査とその生物学的意義（主題：労働衛生学的管理からみた東京地下鉄サリン事件の評価）．日本産業衛生学会関東地方会第201回例会，1998．5．

(2) 一般講演：

- 1) Li Q, Hirata Y, Piao Sun-A, Minami M：Effect of *N,N*-diethylaniline on sister chromatid exchange of lymphocytes, natural killer activity, cytotoxic T lymphocyte activity and mitogens-stimulated lymphocyte proliferation. Society of Toxicology 38th Annual Meeting (New Orleans), 1999. 3.
- 2) 李 卿, 南 正康, 花岡知之¹⁾, 山村行夫¹⁾ (¹⁾ 労働科学研究所)：Flow cytometry法を用いるバラクロロニトロベンゼンによるマウス脾臓細胞表面マーカーへの影響の検討．第71回日本産業衛生学会，1998．4．
- 3) 後藤紀子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 南 正康：ヘッドスペース・GC-MSを用いた尿中*o*-cresol測定法の改良．第71回日本産業衛生学会，1998．4．
- 4) 稲垣弘文, 南 正康：モノクローナル抗体を用いた馬尿酸の酵素免疫測定法．第71回日本産業衛生学会，1998．4．
- 5) 勝又聖夫, 斉藤麗子¹⁾, 南 正康 (¹⁾ 東京都北区保健所)：医学生への実験的喫煙影響の評価．第57回日本公衆衛生学会総会，1998．10．
- 6) 若山葉子, 荒牧琢巳¹⁾, 植田悠紀子²⁾ (¹⁾ 内科学第1, ²⁾ 国立公衆衛生院)：肝炎流行地区の予後の検討．第57回日本公衆衛生学会総会，1998．10．
- 7) 平田紀美子, 稲垣弘文, 南 正康：ヒト血漿中3-Methoxy-4-hydroxyphenylethyleneglycol (MHPG) のHPLC-蛍光検出法による測定．日本薬学会第119年会，1999．3．
- 8) 稲垣弘文, 恵 答美, 南 正康：モノクローナル抗体を用いたヒト血清コリンエステラーゼの酵素免疫測定法．日本薬学会第119年会，1999．3．

12. 法医学講座

研究概要

当教室では、以下のような研究を主に行っている。法医学実務としては、刑事・民事にかかわる具体的事例について検討する機会がある場合には積極的に対応している。また、親子鑑定を行い得るよう、DNA分析を含め検査能力の充実を計っている。

1. 臨床法医中毒学

救急医学教室と共同で急性薬毒物中毒の疑われる入院患者の緊急薬毒物分析法を開発し、HPLC・イムノアッセイ・GC・GC/MS・LC/MSなどを用いたより簡便・迅速で精度の高い系統的な分析システムの開発に取り組んでいる。また、覚醒剤・コカイン・麻薬などの不法薬物の分析も行っている。さらに、毛髪からの特定薬毒物分析に取り組んでいる。

2. アルコール代謝

アルコール代謝における中心的酵素であるアルコール脱水素酵素・アルデヒド脱水素酵素のisozymeレベルでの代謝調節を検討し、アルコール感受性に対する個体差の解明に取り組んでいる。また、アルコールの臓器障害の機序やアルコールの溶液構造の影響を究明するため、培養細胞などを用いて生理学的・生化学的実験を行っている。さらに、アルコール脱水素酵素の遺伝子改変によるmolecular toxicologyの研究を開始している。

3. NMRを用いた研究

共同利用施設のNMR装置を用いて死体の筋肉や臓器中のリン化合物・有機酸・アミノ酸などのNMRによる分析値と死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、本法の死後経過時間の推定法としての応用をめざしている。また、形成外科学・病理学第2と共同研究を行っている。

4. その他の研究

- 1) 医事法や生命倫理に関わる種々の問題を法医学的・社会医学的な立場から調査検討している。
- 2) 将来の司法解剖実施を睨み、病理組織学的手法による組織の死後変化を検討している。また、死後経過時間推定に関する研究などの実務的研究を行っている。さらに、トリカブト毒の薬物動態に関する研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Jinno K¹⁾, Taniguchi M¹⁾, Hayashida M (1) Toyohashi Univ. of Technology) : Solid Phase Microextraction Coupled with Semi-Microcolumn High Performance Liquid Chromatography for the Analysis of Benzodiazepines in Human Urine. J Pharm Biomed Anal 1998 ; 17 : 1081-1091.
- 2) Jinno K¹⁾, Taniguchi M¹⁾, Hayashida M (1) Toyohashi Univ. of Technology) : Microcolumn Liquid Chromatography coupled with solid phase microextraction (SPME/microcolumn LC) for the Analysis of Benzodiazepines in Human Urine. Analysis 1998 ; 26 (5) : 27-30.
- 3) Nishigaki R¹⁾, Aramaki T¹⁾, Hirakawa K, Asano G²⁾ (1) First Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Dept. of Pathology II, Nippon Medical School) : Nitric Oxide Production and Energy State in the Heart after Endotoxin Administration. Jpn Circ J 1998 ; 62 (7) : 527-531.
- 4) Nihira M : Drug Abuse and Toxicological Scene in JAPAN. J Toxicol Sci 1998 ; Vol.23 (Suppl. II) : 201-204.
- 5) Mukai T¹⁾, Tamaki N²⁾, Sato Y³⁾, Ohno Y, Miyazaki T²⁾, Nagamori H²⁾, Hara S¹⁾, Endo T¹⁾ (1) Dept. of

- Forensic Medicine, Tokyo Medical University, ²⁾ Dept. of Legal Medicine, Faculty of Medicine, University of the Ryukyus, ³⁾ Dept. of Legal Medicine, Kyorin University School of Medicine) : Sleeping environments as risk factors of sudden infant death syndrome in Japan. *Legal Med* 1999 ; 1 (1) : 18-24.
- 6) Haseba T, Mikami K, Ohno Y, Kameyama K¹⁾, Tsuji T²⁾, Saeki C²⁾, Asakura T³⁾, Uedaira H³⁾, (¹⁾ Dept. of Pathology II, Nippon Medical School, ²⁾ Perkin-Elmer Japan Co., Ltd., ³⁾ College of Engineering, Hosei University) : Modification of Acute Alcoholic Intoxication by the Solution Structure. *Current Topics in Forensic Science Proceedings of the 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences (Tokyo)* 1998 ; vol.2 : 322-324.
- 7) Kurosu M, Haseba T, Ohno Y : Violation of Human Rights in Medicine and Medical Care in Japan after World War II. *Current Topics in Forensic Science Proceedings of the 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences (Tokyo)* 1998 ; vol.2 : 123-126.
- 8) Mikami K, Haseba T, Ohno Y : Effect of Ethanol on Cell Cycle Progression of Cultured Cells. *Current Topics in Forensic Science Proceedings of the 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences (Tokyo)* 1998 ; vol.2 : 370-373.
- 9) Tomita Y, Maruta T, Nihira M, Ohno Y, Sato S¹⁾ (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Research, Nippon Medical School) : Histological Study on Postmortem Changes in Various Organs. *Current Topics in Forensic Science Proceedings of the 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences (Tokyo)* 1998 ; vol.3 : 244-247.
- 10) Kurosu M, Haseba T, Ohno Y : Legislation of an Organ Transplants Law in Japan : Its Process and Characteristics. *6th Indo Pacific Congress on Legal Medicine and Forensic Sciences (Kobe)* 1999 ; 517-520.
- 11) 黒須三恵, 長谷場 健, 大野曜吉, 田淵浩二¹⁾ (¹⁾ 静岡大学人文学部) : 刑事事件のDNA鑑定に関するオランダの法令について : DNA鑑定の信頼性の確保と人権への対処. *季刊 刑事弁護* 1998 ; 14 : 162-169.
- (2) 研究報告書 :
- 1) 大野曜吉, 仁平 信, 林田真喜子 : 薬物中毒, 薬害, 農薬中毒等の予防と原因解明のための毛髪診断研究 : 毛髪からのパラコート分析 (統括 : 中原雄二). *厚生科学研究平成10年度研究報告書* 1999 ; pp71-95.
- (3) その他 :
- 1) 大野曜吉 : 飲酒運転による交通事故と血中アルコール濃度測定. *日本医事新報* 1999 ; No.39 : 109-110.
- (4) 一般講演 :

著 書

- 1) 黒須三恵, 長谷場 健, 大野曜吉, 田淵浩二¹⁾ (¹⁾ 静岡大学人文学部) : [著書] 第2編欧米における法的状況 第1章欧米の実務・裁判例 3.オランダ. DNA鑑定と刑事弁護 (日本弁護士連合会人権擁護委員会編), 1998 ; pp158-167, 現代人文社.

学会発表

- (1) 一般講演 :
- 1) Kurosu M, Haseba T, Ohno Y : Legislation of an Organ Transplant in Japan -Its Progress and Characteristics-. *6th Indo Pacific Congress on Legal Medicine and Forensic Sciences (Kobe)*, 1998. 7.
- 2) Haseba T, Kameyama K¹⁾, Mashimo K, Ohno Y (¹⁾ Dept. of Pathology II, Nippon Medical School) : Complex contribution of liver Class I and Class III ADHs to alcohol metabolism. *アルコール関連疾患の研究に関する日米共同ワークショップ*, 1998. 11.
- 3) 黒須三恵, 長谷場 健, 大野曜吉 : 刑事事件におけるDNA鑑定に関する法規の欧米との比較 : DNA鑑定の信

- 用性と人権擁護の視点から。第82次日本法医学会総会，1998。4。
- 4) 大野曜吉^{1), 2)}, 仁平 信¹⁾, 林田眞喜子¹⁾, 富田ゆかり¹⁾, 佐藤美保¹⁾, 小林辰輔³⁾ (1) 法医学, 2) 東京都監察医務院, 3) 救急医学)：入院時薬毒物分析が死因判定に役立った行政解剖の1例。第82次日本法医学会総会，1998。4。
 - 5) 林田眞喜子, 植草協子, 平川慶子, 仁平 信, 大野曜吉, 神野清勝¹⁾ (1) 豊橋技術科学大学)：固相マイクロ抽出／セミマイクロLCシステムを用いた法中毒学微量分析の生体試料への応用。第82次日本法医学会総会，1998。4。
 - 6) 高木徹也¹⁾, 松村桜子¹⁾, 林 紀乃¹⁾, 梶原正弘¹⁾, 佐藤喜宣¹⁾, 仁平 信, 大野曜吉 (1) 杏林大学医学部法医学)：コカインとオピエートが検出された1剖検例。第82次日本法医学会総会，1998。4。
 - 7) 仁平 信, 林田眞喜子, 大野曜吉, 犬塚 祥¹⁾, 益子邦洋¹⁾ (1) 救急医学)：クロロピクリン中毒症例。第20回日本中毒学会総会，1998。7。
 - 8) 西垣龍太郎¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 植草協子, 平川慶子, 荒牧琢己²⁾ (1) 病理学第2, 2) 内科学第1)：エンドトキシン投与後の心臓における一酸化窒素生成に伴う代謝と形態変化の推移。第4回エンドトキシン研究会，1998。9。
 - 9) 王 春梅¹⁾, 岩切 致¹⁾, 百束比古¹⁾, 平川慶子, 植草協子, 仁平 信, 大野曜吉 (1) 形成外科学)：ケロイドと肥厚性瘢痕の分類についての代謝学的検討：¹H-NMR法による分析。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
 - 10) 井上幸彦¹⁾, 井上尚子¹⁾, 仲田幸世¹⁾, 百束比古²⁾, 平川慶子, 植草協子 (1) 総合会津中央病院形成外科, 2) 形成外科学)：体内埋入異物の核磁気共鳴装置を用いた分析方法と結果。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
 - 11) 仁平 信, 林田眞喜子, 山田丈士, 長谷場 健, 黒須三恵, 平川慶子, 富田ゆかり, 真下啓子, 植草協子, 大野曜吉：Head-Space GC/MSによるクロロピクリンの測定。第67回日本法医学会関東地方会，1998。10。
 - 12) 大野曜吉, 仁平 信, 山田丈士, 佐藤美保, 内間栄行¹⁾ (1) 沖縄県警察本部科学捜査研究所)：高濃度のトルエンが検出された転落死例。第67回日本法医学会関東地方会，1998。10。
 - 13) 岩切 致¹⁾, 王 春梅¹⁾, 百束比古¹⁾, 平川慶子, 仁平 信 (1) 形成外科学)：¹H-NMR法を用いた瘢痕組織の代謝学的分析。第7回日本形成外科学会基礎学術集会，1998。10。
 - 14) 清水昭夫¹⁾, 小金丸明華¹⁾, 川崎則子¹⁾, 池口雅道¹⁾, 長谷場 健, 須貝新太郎¹⁾ (1) 創価大学生物工学)：アルコール脱水素酵素の変性過程における構造変化と活性相関。第71回日本生化学会，1998。10。
 - 15) 王 春梅¹⁾, 岩切 致¹⁾, 百束比古¹⁾, 平川慶子, 植草協子, 仁平 信, 大野曜吉 (1) 形成外科学)：ケロイドと肥厚性瘢痕の分類についての代謝学的検討：¹H-NMR法による分析。第9回日本医科大学外国人留学者研究会，1998。11。
 - 16) 清水昭夫¹⁾, 黒沢則夫¹⁾, 長谷場 健, 須貝新太郎¹⁾ (1) 創価大学生物工学)：マウスアルコール脱水素酵素の大量発現系の構築と発現タンパク質の解析。第21回日本分子生物学会，1998。12。
 - 17) 岩切 致¹⁾, 王 春梅¹⁾, 百束比古¹⁾, 平川慶子, 植草協子, 仁平 信, 宮下次廣²⁾ (1) 形成外科学, 2) 放射線医学)：核磁気共鳴装置を用いた，ケロイド，肥厚性瘢痕の乳酸測定 臨床像との関連を中心に。第5回ケロイド，肥厚性瘢痕研究会，1999。3。

13. 医療管理学講座

研究概要

本年度は新任の木村哲彦教授をむかえた。木村哲彦教授は前国立ハビリテーション病院院長でもあり、福祉部門に造詣が深い。教室は研究活動を医療だけでなく保健、福祉にもひろげることになり、広い視野で健康問題を扱う保健・医療・福祉の医療管理学という概念を統括することになった。木村教授は学会活動、研究活動に国際的に活動された。教室をあげて、閉鎖空間における精神的安寧の研究、医療法改正に伴う医療提供体制に関する研究としてレセプト・カルテ開示についての全国調査など、教室をあげて研究を行った。当教室に事務局をおく「医療の質に関する研究会」は太田を中心に「感染の評価スタンダード」を完成させ、現場での評価も高い。「癒しの環境研究会」は科学的な研究とともに五周年の記念シンポジウムをおこなうなど、学際的に活動した。

教室からの欧文論文は、救急医療システム評価、精神病棟の評価、医療経済、死の教育、癒しの環境などで取り上げられつつある。和文論文や学会発表も、熱傷と長期QOL、医療経済、さらに谷本による路上生活者の健康問題など、幅広い視点で取り組んでいる業績が認められつつある。

学生に対する教育は、学生の医学への情熱が高まることを理念としている。自主学習で日本病院会のストップエイズキャンペーン企画委員会（委員長高柳）の一環として全国縦断エイズ・ピア・エデュケーションを行った学生は、皇太子殿下ご夫妻や厚生大臣に会う機会に恵まれ、学内的にも大学から橘賞をいただくなど活躍した。カルテ問題に取り組んだ学生もカルテ開示問題についての意識が高まった。4、5年の授業では患者の視点、社会の視点をもつことができる参加型のカリキュラムを組み、学生の意欲が高まるような授業をおこなった。授業は常にレポートで理解度をチェックするとともに、学生側からの評価をさせて、双方向で授業内容の向上に努めている。

研究業績

論文

〔1997年度追加分〕

原著：

- 1) 谷本佐理名, 箕輪真澄¹⁾ (1) 国立公衆衛生院) : 渋谷駅周辺の路上生活者の健康 . 公衆衛生研究 1998 ; 47 (1) : 74-75.

(1) 原著：

- 1) Takayanagi K, Koseki K¹⁾, Aruga T²⁾ (1) Kawaguchi Municipal Medical Center, 2) Showa University Hospital) : Preventable Trauma Deaths : Evaluation by Peer Review and a Guide for Quality Improvement. Clinical Performance and Quality Health Care 1998 ; 163-167.
- 2) Iwai M, Takayanagi K : Perception Toward Death Education. Journal of Seizon and Life Science 1998 ; 8 (B) : 57-64.
- 3) Takayanagi K : Perception Toward Death and Death Education. 第3回日本臨床死生学会特集 1998 ; 54-63.
- 4) Ito H, Shingai N¹⁾, Yamazumi S²⁾, Sawa Y³⁾, Iwasaki S (1) Narimasu Kousei Hospital, 2) Hanazono Hospital, 3) Sawa Hospital) : Characteristics of non-responders to a patient satisfaction survey at discharge from psychiatric hospitals. Psychiatric Services 1999 ; 50 (3) : 410-412.
- 5) Ito H, Kishi Y¹⁾, Kurosawa H¹⁾ (1) Department of Neuro-Psychiatry) : A Preliminary Study of Staff Perception on Psychiatric Services in General Hospitals. General Hospital Psychiatry 1999 ; (21) : 57-61.
- 6) Takayanagi K, Koseki K¹⁾, Aruga T²⁾, Sakamoto T³⁾ (1) Kawaguchi Municipal Medical Center, 2) Showa

University Hospital, ³⁾ Showa General Hospital) : TRISS methodによる外傷治療の評価. 日本救急医学会関東地方会雑誌 1998 ; 19 (1) : 32-32.

- 7) 伊藤弘人, 周 書義, 岸 泰宏¹⁾, 黒澤 尚¹⁾, 岩崎 榮²⁾ (¹⁾ 精神医学教室, ²⁾ 学校法人日本医科大学) : 総合病院における精神科医療機能に関する予備的研究. 総合病院精神医学 1998 ; 10 (1) : 30-36.
- 8) 木村哲彦 : 脊椎脊髄の医療動向 (中国). 脊椎・脊髄ジャーナル 1998 ; 11 (7) : 687-687.
- 9) 伊藤弘人, 立森久照¹⁾ (¹⁾ 東京大学) : 日本語版Client Satisfaction Questionnaire 8項目版の信頼性および妥当性の検討. 臨床精神医学 1998 ; 41 (7) : 711-717.
- 10) 木村哲彦 : 脊椎脊髄の医療動向 (韓国). 脊椎・脊髄ジャーナル 1998 ; 11 (8) : 773-773.
- 11) 木村哲彦 : 脊椎脊髄の医療動向 (インドネシア). 脊椎・脊髄ジャーナル 1998 ; 11 (9) : 855-855.
- 12) 谷本佐理名, 斉藤和夫¹⁾, 井口清也¹⁾, 上野秀紀¹⁾, 矢野浅美¹⁾, 今川洋子¹⁾, 森永綾子¹⁾, 岩崎祐子¹⁾ (¹⁾ 国立公衆衛生院) : 診受診行動から健康づくりのあり方を考える 墨田区のアンケート調査から. 公衆衛生研究 1998 ; 47 (3) : 298-309.
- 13) 伊藤弘人, 高鍋亜矢子¹⁾, 西島英利¹⁾ (¹⁾ 小倉蒲生病院) : 痴呆性老人への治療的関わりによる日常生活動作と問題行動の変化. 社会保険旬報 1998 ; (1995) : 10-12.
- 14) 木村哲彦 : 脊椎脊髄の医療動向 (タイ). 脊椎・脊髄ジャーナル 1998 ; 11 (10) : 927-927.
- 15) 木村哲彦 : 脊椎脊髄の医療動向 (イラン). 脊椎・脊髄ジャーナル 1998 ; 11 (11) : 1017-1017.
- 16) 谷本佐理名, 箕輪眞澄¹⁾ (¹⁾ 国立公衆衛生院疫学部) : 渋谷駅周辺の野宿者と飲酒. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 1998 ; 33 (152) : 718-726.
- 17) 伊藤弘人, 藤井賢一郎¹⁾, 佐々木雄司²⁾ (¹⁾ 三菱総合研究所, ²⁾ 獨協大学) : 事業所外の従業員支援プログラムの利用者パターン : 精神科受療歴のある従業員の分析. 産業衛生学会誌 1998 ; 40 : 15-21.
- 18) 伊藤弘人, 新貝憲利¹⁾, 山角 駿²⁾, 澤 温³⁾, 岩崎 榮⁴⁾ (¹⁾ 成増厚生病院, ²⁾ 花園病院, ³⁾ さわ病院, ⁴⁾ 学校法人日本医科大学) : 精神科病院退院患者の入院治療の認識と満足度の測定の試み. 日本精神神経学会誌 1999 ; 101 (2) : 138-147.

(2) 綜説 :

- 1) Takayanagi K : Health Economics for Burn Care. 熱傷 1999 ; 25 (11) : 22-23.
- 2) 高柳和江 : 癒しの環境. Re 12 ; 9 (12) : 117-117.
- 3) 高柳和江 : 歯科の救急. アポロニア21 1998 ; 62-63.
- 4) 高柳和江 : 歯と痴呆予防. アポロニア21 1998 ; 62-63.
- 5) 高柳和江 : デイブキスと口腔ケア. アポロニア21 1998 ; 90-91.
- 6) 高柳和江 : 「歯科治療でストレス解消」できれば… . アポロニア21 1998 ; 90-91.
- 7) 高柳和江 : 開口には情報公開. アポロニア21 1998 ; 90-91.
- 8) 伊藤弘人 : 精神科医療機能評価におけるアウトカム測定の方法. こころの臨床 1998 ; 17 (3) : 239-243.
- 9) 伊藤弘人 : 精神科医療の質改善活動からみた患者満足度の評価. 精神科診断学 1998 ; 9 (3) : 355-362.
- 10) 高柳和江 : 全裸時私的契約 (インフォームド・コンセント) 無効法. 青淵 1998 ; 27-29.
- 11) 高柳和江 : 人の道を変える偶然の出会い. アポロニア21 1998 ; 90-91.
- 12) 木村哲彦 : 福祉用具の活用. サンライズ情報 1998 ; (155) : 1-1.
- 13) 高柳和江 : 人間の特徴について. アポロニア21 1998 ; 90-91.
- 14) 高柳和江 : 人間らしく生きるための口腔ケア. アポロニア21 1998 ; 90-91.
- 15) 高柳和江 : 癒しを考える : 生と死の環境. メッセージ 1998 ; 30-35.
- 16) 高柳和江 : 心臓手術. アポロニア21 1998 ; 90-91.
- 17) 高柳和江 : 世界保健機関 (WHO). アポロニア21 1999 ; 90-91.
- 18) 高柳和江 : 病院を「癒しの環境」につくり変える : 安らぎが得られ患者の意欲と自然治癒力高める医療空間を.

ばんふう 1999 ; 56-59.

- 19) 高柳和江：癒しの環境. アポロニア21 1999 ; 90-91.
- 20) 高柳和江：熱傷治療の医療経済. 熱傷 1999 ; 25 (1) : 11-21.
- 21) 高柳和江：Health Economics for Burn Care. 熱傷 1999 ; 25 (1) : 22-23.
- 22) 高柳和江：情報の公開と開示. アポロニア21 1999 ; 92-93.
- 23) 高柳和江：患者満足度調査はどこまで進んでいるか. 看護展望 1999 ; 418 (18) : 24-4.
- 24) 高柳和江：プレントリー運動. アポロニア21 1999 ; 92-93.
- 25) 高柳和江：自然科学からみた死. 山口県医学会誌 1999 ; (33) : 121-126.
- 26) 高柳和江：癒しと自然. CSつうしん 1999 ; 6-7.

(3) 研究報告書：

- 1) 高柳和江：救命救急センターの質の向上に関する研究. 厚生科学研究報告書 1998.

著 書

[1998年度追加分]

- 1) 木村哲彦, 川井伸夫¹⁾, 岩崎 洋²⁾, 山本吉春²⁾, (¹⁾ 東北医療福祉大学, ²⁾ 国立身体障害者リハビリテーションセンター)：〔監修〕理学療法士テキスト 安全な動作介助の手引き, 1998 ; 医歯薬出版.
- 2) 高柳和江：〔自著〕死ぬのは十分生きてからにして下さい, 1998 ; 毎日新聞社.

- 1) 木村哲彦, 今井銀一郎¹⁾, (¹⁾ 社会保険庁)：〔分担〕リハビリテーション医学全書 脊髄損傷その他の対麻痺, 1998 ; pp229-278, 医歯薬出版.
- 2) 木村哲彦, 二瓶隆一¹⁾, 陶山哲夫²⁾：〔共著編集〕髄損傷のリハビリテーション, 1998 ; pp1-320, 協同医書出版社.
- 3) 木村哲彦：〔分担〕福祉用具プランナーテキスト 福祉用具総論, 1998 ; pp2-6, テクノエイド協会.
- 4) 木村哲彦, 明石 謙¹⁾：〔分担〕電動車椅子. リハビリテーション工学, 1999 ; pp195-208, 医歯薬出版.
- 5) 木村哲彦：〔分担〕脊髄損傷. 今日の治療指針, 1999 ; pp647-648, 医学書院.
- 6) 木村哲彦：〔分担〕脊髄損傷. 臨床リハビリテーション, 1999 ; pp29-60, 医歯薬出版.
- 7) 木村哲彦, 岩坪奇子¹⁾, 河野康徳²⁾, 高山忠雄³⁾, (¹⁾ 筑波国際大学, ²⁾ 昭和女子大学, ³⁾ 岡山県立福祉大学)：〔監修〕生活環境論, 1999 ; 医歯薬出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 高柳和江：熱治療の医療経済. 第24回日本熱傷学会総会, 1998. 5.

(2) 招待講演：

- 1) 木村哲彦：20年間に於ける脊髄損傷リハビリテーションの変遷. 日本リハビリテーション医学会, 1999. 2.

(3) 教育講演：

- 1) 高柳和江：手術室の質とクリニカル・パス. 第20回日本手術医学会, 1998. 10.
- 2) 木村哲彦：義肢装具判定医師の為に. 厚生省・日本整形外科学会・リハビリテーション医学会共催, 1998. 11.

(4) 基調講演：

- 1) 高柳和江：熱傷患者の長期QOLと医療経済. 第24回日本熱傷学会総会, 1998. 5.

(5) シンポジウム：

- 1) Kimura T : Horseback Riding Simulator. Biomedical and Rehabilitation Engineering (東京), 1998. 9.
- 2) Kimura T : Welfare Equipment in Japan. International Rehabilitation Symposium, 1998. 10.

- 3) Kimura T : Classification of Disabilities. 国際身体障害者スポーツ医学会 (アジア大会), 1999. 1.
- (6) 一般講演 :
- 1) 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾, 平井 隆¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 川井 真²⁾, 高柳和江 (¹⁾ 形成外科, ²⁾ 救命救急) : 熱傷患者の長期予後とQOL. 第24回日本熱傷学会, 1998. 5.
 - 2) 岩井美詠子, 高柳和江 : 意識調査の定性的分析と定量的分析～病院内のプライバシー. 第48回日本病院学会, 1998. 6.
 - 3) 高柳和江 : 医療提供者に対するワークショップによるHIV/AIDS教育について. 第30回日本医学教育学会, 1998. 7.
 - 4) 高柳和江 : 熱傷治療における診療報酬収入と経費について. 第36回日本病院管理学会学術総会, 1998. 10.
 - 5) 高柳和江 : 熱傷治療における診療報酬収入と経費について. 第57回日本公衆衛生学会総会, 1998. 10.
 - 6) 高柳和江, 岩井美詠子 : 死のアプローチ方に関する意識の分析. 第3回日本臨床死生学会, 第17回日本医学哲学・倫理学会合同大会, 1998. 10.
 - 7) 寺崎 仁¹⁾, 大道 久¹⁾, 小松 真²⁾, 関田康慶³⁾, 高柳和江, 羽牟俊一⁴⁾, 師岡孝次⁵⁾ (¹⁾ 日本大学医学部医療管理学教室, ²⁾ 小松診療所, ³⁾ 東北大学経済学部, ⁴⁾ 羽牟研究所, ⁵⁾ 東海大学工学部) : わが国のグループ診療と共同利用型複合診療所の提案. 第36回日本病院管理学会学術総会, 1998. 10.
 - 8) 寺崎 仁¹⁾, 大道 久¹⁾, 小松 真²⁾, 関田康慶³⁾, 高柳和江 (¹⁾ 日本大学医学部医療管理学教室, ²⁾ 小松診療所, ³⁾ 東北大学経済学部) : わが国のグループ診療と共同利用型複合診療所の提案. 第36回日本病院管理学会学術総会, 1998. 10.
 - 9) 太田久彦, 高柳和江, 岩崎 榮¹⁾ (¹⁾ 学校法人日本医科大学) : 地域病院における入院診療報酬の検討. 第36回日本病院管理学会学術総会, 1998. 10.
 - 10) 谷本佐理名, 長谷川敏彦²⁾, 野中 博³⁾ (¹⁾ 国立医療・病院管理研究所, ²⁾ 東京都医師会) : 逆紹介の現状. 第36回日本病院管理学会学術総会, 1998. 10.
 - 11) 谷本佐理名, 箕輪真澄¹⁾ (¹⁾ 国立公衆衛生院) : 渋谷駅周辺の路上生活者の健康. 第57回日本公衆衛生学会総会, 1998. 10.
 - 12) 康 文江¹⁾, 谷本佐理名, 斉藤和夫¹⁾, 井口清也¹⁾, 上野秀紀¹⁾, 矢野浅美¹⁾, 今川洋子¹⁾, 森永綾子¹⁾, 岩崎祐子¹⁾ (¹⁾ 国立公衆衛生院) : 診受診行動から健康づくりのあり方を考える 墨田区のアンケート調査から. 第57回日本公衆衛生学会総会, 1998. 10.
 - 13) 北川恒実, 山川久仁子, 高柳和江 : 熱傷患者のQOLの阻害要因における, 医療提供者の専門別関心. 第36回日本病院管理学会学術総会, 1998. 10.
 - 14) 岩井美詠子, 高柳和江 : 病院内環境に対する意識の定性的調査結果の比較. 第36回日本病院管理学会学術総会, 1998. 10.
 - 15) 岩井美詠子, 高柳和江 : 死の教育における死のシミュレーションの活用. 第3回臨床死生学会, 第17回日本医学哲学・倫理学会合同大会, 1998. 10.
 - 16) 山川久仁子, 北川恒実, 高柳和江 : 広範囲熱傷に対する長期QOLの医療提供者アンケート調査. 第36回日本病院管理学会学術総会, 1998. 10.
 - 17) 李 亜範, 李 欣, 高柳和江, 岩崎 榮¹⁾ (¹⁾ 学校法人日本医科大学) : 中日両国の人口構成および高齢化の現状と動向について. 第36回日本病院管理学会学術総会, 1998. 10.
 - 18) 出田節子¹⁾, 吉田克代¹⁾, 岩井美詠子, 高柳和江 (¹⁾ 出田眼科病院) : 視力障害者の術前, 術後の短期QOLの変化. 第36回日本病院管理学会学術総会, 1998. 10.
 - 19) 杉本勝彦¹⁾, 有賀 徹¹⁾, 小関一英²⁾, 小井土雄一³⁾, 高柳和江 (¹⁾ 昭和大学医学部救急医学, ²⁾ 川口市立医療センター救急センター, ³⁾ 日本医科大学救急医学教室) : 高齢外傷患者の重症度と予後の解析. 第27回日本救急医学会総会, 1998. 11.

- 20) 伊藤弘人, 藤井賢一郎¹⁾, 佐々木雄司²⁾ (¹⁾ 三菱総合研究所, ²⁾ 獨協大学) : 事業所外の従業員支援プログラムの利用者における精神分裂病を有する勤労者の特徴. 第71回日本産業衛生学会, 1999. 4.

14. 基礎医学共同研究利用施設

[実験動物管理室]

研究概要

糖尿病は、予備群まで含めると40歳以上の日本人の10人に1人といわれるほど増加しており、病態解析・合併症検索・治療薬および予防法などの研究に用いる動物モデルの開発も重要な課題となっている。WBN/kobラットは、自然発症の非肥満性インスリン非依存性糖尿病（NIDDM）モデルラットであるが、発症までに長期飼育を要し汎用に欠ける面がある。当教室では、発症の短期化を図るため、このラットに過食性肥満形質を導入し、肥満性NIDDMモデルとしてのWBN/kob-*Lepr^{fa}*コンジェニックラット作出を進めている。また、アロキササンやストレプトゾトシンなどの催糖尿病薬による実験的糖尿病モデル作出には、動物種間・系統間の感受性や合併症発現に差異があるため、マウス・ラットおよびスナネズミを用いて比較検討した。

ヘアレスラットWBN/IIa-Ht ratは、その表現型がホモ個体では無毛、ヘテロ個体では貧毛を示す共優性遺伝形質である。コンベンショナル環境下では、ホモ個体では哺育期に体表皮角化異常を示してそのほとんどが死亡し、ヘテロ個体では成熟後にブドウ球菌性皮膚炎を起こす。この感染による影響を排除した上で、ヘアレスラットの遺伝子の発現による病態を明らかにするために、SPF条件下で長期飼育を行い、詳細な観察を行った。その結果、この遺伝子は、哺育期の体表皮角化・毛周期だけでなく、耳介・眼瞼開裂にも影響を与えることが明らかになった。また、各表現型ともに糖尿病を発症し、その出現率に差が認められないことから、遺伝的背景としてdiabetogenic geneの温存が確認された。

近年、薬物を作用部位に効率よく運ぶためのDrug Delivery System (DDS) が注目されている。芳香性薬理活性物質は、既存のDDSでは生体内への吸収が難しく、医療への活用が遅れているため、気体製剤としてのDDSの開発を試みている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shichinohe K, Shimizu-Suganuma M, Arai S¹⁾, Tachizawa N²⁾, Mwanatambwe M³⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 学生, 3) 病理学第二) : Effets Anti Histaminiques des Bandes Aromatisees d'Huiles Sentielles : Resultats préliminaires d'une étude pilote. Bulletin de la Société Franco-Japonaises des Sciences Vétérinaires 1999 ; 9 (2) : 20-25.
- 2) 菅沼 (清水) 眞澄, 西垣龍太郎¹⁾, 七戸和博, 林 一成²⁾, 安田富子²⁾, 城田恵次郎²⁾ (1) 病理学第2, 2) 東武医学技術専門学校) : アロキササンによるスナネズミインスリン依存性糖尿病 (IDDM) モデル作製の試み. 東武医学技術専門学校紀要 1998 ; 3 (1) : 7-12.
- 3) 安田富子¹⁾, 山口美香¹⁾, 高橋良子¹⁾, 斎藤珠実¹⁾, 中山 收¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 城田恵次郎¹⁾ (1) 東武医学技術専門学校) : 6価クロムの血清成分との相互作用について. 東武医学技術専門学校紀要 1998 ; 3 (1) : 41-44.

(2) 綜説：

- 1) 菅沼 (清水) 眞澄, 西垣龍太郎¹⁾, ムワナタンブエ ミランガ¹⁾, 新井 悟²⁾, 七戸和博 (1) 病理学第2, 2) 千葉北総病院病理部) : 感染症のルネッサンス. 東武医学技術専門学校紀要 1998 ; 3 (1) : 13-16.

学会発表

〔1997年度追加分〕

一般講演：

- 1) 姜 景涛¹⁾, 佐藤 茂¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 相原 薫¹⁾ (1) 中央電子顕微鏡研究施設)：反復性一過性脳虚血における海馬の障害：血液脳関門を中心に。第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.
- 2) 飯野正昭¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 飯田和美²⁾ (1) 生理学第1, 2) ワクチン療法研究施設)：強磁場中で観測した変性膜の水透過率。第58回応用物理学会学術講演会, 1997. 10.

(1) 一般講演：

- 1) Mwanatambwe M¹⁾, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K, Kato K²⁾, Fujita K³⁾, Kalengayi M⁴⁾, Asano G¹⁾ (1) 病理学第2, 2) 形成外科, 3) 東医歯大・医・医動物, 4) Mbujimayi Univ.)：Endemic forms of kaposi sarcoma are still diagnosed in highly infective area of sub-saharian africa. The 9th International Congress of Parasitology, 1998. 8.
- 2) Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K, Mwanatambwe M¹⁾, Haga K²⁾, Iedokoro T²⁾, Tsukidate S²⁾, Fujita K²⁾ (1) 病理学第2, 2) 東医歯大・医・医動物)：Differential response to *Brugia pahangi* by coat colors in Monoglian gerbils. The 9th International Congress of Parasitology, 1998. 8.
- 3) Mwanatambwe M¹⁾, Shichinohe K, Shimizu-Suganuma M, Muyembe T²⁾, Yamada N¹⁾, Asano G¹⁾ (1) 病理学第2, 2) Kinshasa Univ.)：Yambuku hemorrhagic fever (EBOLA-1), kikwit hemorrhagic fever (EBOLA-2)：Clinico-epidemiologic heterogeneity and relation to the Mayibout 2 hemorrhagic fever, Gabon. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 4) 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, ムワナタンブエ ミランガ¹⁾, 佐伯英治²⁾, 今井壮一²⁾, 藤田紘一郎³⁾ (1) 病理学第2, 2) 日獣大・獣医寄生虫, 3) 東医歯大・医・医動物)：被毛色変異スナネズミの糞線虫感染応答。第67回日本寄生虫学会大会, 1998. 4.
- 5) 秋元敏雄, 仲間一雅：Hairless rat (WBN/Ita-Ht) 特性の基礎的検討。第45回実験動物学会, 1998. 5.
- 6) 安田富子¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 城田恵次郎¹⁾ (1) 東武医学技術専門学校)：6価クロムの血清成分との相互作用について。第22回日本比較臨床血液学会, 1998. 6.
- 7) 刈田貴久¹⁾, 刈田 毅¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 (1) アロマ研究所)：植物の芳香性薬理活性物質を成分とする新しい経皮吸収システムである「アロマテープ」のメカニズム。第22回日本比較臨床血液学会, 1998. 6.
- 8) 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄, 飯田和美¹⁾ (1) ワクチン療法研究施設)：ガン細胞の増殖に及ぼすベネフィンの影響。第22回日本比較臨床血液学会, 1998. 6.
- 9) 菅沼 (清水) 眞澄, 立澤夏紀¹⁾, 三輪晃士¹⁾, 刈田貴久²⁾, 刈田 毅²⁾, 七戸和博 (1) 学生, 2) アロマ研究所)：アロマテープのヒスタミン誘発皮内反応に対する作用について。第22回日本比較臨床血液学会, 1998. 6.
- 10) 林 一成¹⁾, 城田恵次郎¹⁾, ムワナタンブエ ミランガ²⁾, 浅野伍朗²⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 (1) 東武医学技術専門学校, 2) 病理学第2)：実験的インスリン依存性糖尿病動物モデル。第22回日本比較臨床血液学会, 1998. 6.
- 11) 菅沼 (清水) 眞澄, 飯田和美¹⁾, 加藤一良²⁾, 七戸和博 (1) ワクチン療法研究施設, 2) 形成外科)：PF1022Aのフィラリアに対する影響。第98回日本薬理学会関東部会, 1998. 6.
- 12) 藤井雄文¹⁾, 西垣龍太郎¹⁾, 西海けい子¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 河本陽子¹⁾, 川原清子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 (1) 病理学第2)：糖尿病動物モデルにおけるNOSとAGEの局在と微細構造変化：特に心臓・血管系を中心に。第30回日本臨床電子顕微鏡学会, 1998. 9.

- 13) 西垣龍太郎¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博, 荒牧琢己²⁾
(¹⁾ 病理学第2, ²⁾ 内科学第1): 糖尿病性血管症の発生におけるNOSとAGEの役割. 第39回日本脈管学会, 1998. 9.
- 14) 芹田成司, 山崎邦宏, 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博, 仲間一雅: 実験動物飼育用床敷の比較. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 15) 手塚 進, 白石政明, 山崎邦広, 秋元敏雄, 仲間一雅: 基礎医学動物室のバリアシステムについて. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 16) 秋元敏雄, 足立真理¹⁾, 小林宣明¹⁾, 林 則秀¹⁾, 仲間一雅, 勝田悌実²⁾ (¹⁾ 学生, ²⁾ 内科学第1): 二次性胆汁性肝硬変ラット作出に及ぼす飼料の影響. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 17) 西垣龍太郎¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 河本陽子¹⁾, 西海けい子¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 川原清子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博, 荒牧琢己²⁾ (¹⁾ 病理学第2, ²⁾ 内科学第1): 高血糖に伴う血管病変発症におけるAGE, iNOS, NF-κB発現の意義. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 18) 姜 景涛¹⁾, 佐藤 茂¹⁾, 相原 薫¹⁾, 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博 (¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設): 反復性一過性脳虚血における海馬領域の神経細胞と星状膠細胞の障害について電顕的観察. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 19) 張 雪君¹⁾, 清水秀治¹⁾, 古明地弘和¹⁾, 長野具雄¹⁾, 大須賀勝¹⁾, 寺田秀人¹⁾, 関山達也¹⁾, 里村克章¹⁾, 勝田悌実¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 秋元敏雄 (¹⁾ 内科学第1): 二次性胆汁性肝硬変ラットにおける動脈血酸素化に果たす一酸化窒素の役割. 第2回日本肝臓学会大会, 1998. 10.
- 20) 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博, ムワナタンブエ ミランガ¹⁾, 鷺巢 誠²⁾ (¹⁾ 病理学第2, ²⁾ 日獣大・家畜病院): アロマテープHK-Bの犬のフィラリアに対する駆虫効果. 第58回日本寄生虫学会東日本大会, 1998. 10.
- 21) 秋元敏雄, 仲間一雅, 福生吉裕¹⁾ (¹⁾ 内科学第2): 行動および外貌からみた疾患モデル動物の未病について. 第5回日本未病システム学会, 1998. 10.
- 22) 刈田貴久¹⁾, 刈田 毅¹⁾, 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博 (¹⁾ アロマ研究所): 植物の芳香性薬理活性物質を成分とする「アロマテープ」のメカニズム. 第48回日本アレルギー学会総会, 1998. 12.
- 23) 菅沼(清水)眞澄, 刈田貴久¹⁾, 刈田 毅¹⁾, 七戸和博 (¹⁾ アロマ研究所): アロマテープの皮膚炎モデルに対する作用について. 第48回日本アレルギー学会総会, 1998. 12.
- 24) 菅沼(清水)眞澄, 飯田和美¹⁾, 七戸和博 (¹⁾ ワクチン療法研究施設): アロマテープのヒスタミン性皮膚炎に対する影響. 第72回日本薬理学会年会, 1999. 3.

[中央電子顕微鏡研究施設]

研究概要

本共同利用施設では、ヒト生検組織を用いての研究と動物を利用しての実験的研究とが行われている。そして同時に基礎医学および臨床医学の各講座との共同研究と電顕技術の提供も行なわれている。

1. 生検組織を用いての研究

1) ウイルス性肝炎における線維化の発生機序を追究している。肝線維化は他の組織とは異なり、正常な弾性線維が形成されないことをはじめて報告した。

2) 腎皮質間質の線維化の機序を追究している。ヒトの腎臓における間質細胞の分類や動態が明確ではないので、間質細胞の分類を行っている。そして線維芽細胞、伊東細胞、樹状細胞およびリンパ球様細胞を同定し、伊東細胞と線維芽細胞の相関や樹状細胞が伊東細胞を活性化させることを示唆する結果を得ている。

3) 川崎病における心血管病変の発症機序を追究し、心筋内微小血管病変が冠動脈炎の続発症として病態形成に関

与していることを報告し、血管増殖因子 (VEGF) とその受容体の発現は、心筋細胞の変性および微小血管の拡張性変化と密接に関連することをはじめて報告している。

2. 動物実験による研究

1) 胎児より幼児期までのラット心臓を用いて新生血管がmyocardial cleft内に伸長してくることを報告し、あわせて新生する血管構築に線維芽細胞の働きが重要であることをはじめて報告した。

2) 一過性反復脳虚血のモンゴリアンジャービル・モデルを用いて本症の発症機序を血管透過性の亢進と血栓形成の両面から追究し、脳-血液関門部の障害が重要であることをはじめて報告した。

3) 肝細胞増殖因子 (HGF) の一つであるpHGFを用いて実験的肝障害に対してpHGFが優れた保護および抑制効果があることを報告した。

4) 正常ラット脳の発育を神経細胞と血管構築の両面から追究し、生後3週令でほぼ成熟脳に発育していることが確認された。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Tameyasu T¹⁾, Akimoto T²⁾, Hirohata Y, Shirakawa I²⁾, Yamamoto N²⁾, Kosuge S²⁾, Sugi H²⁾ (1) Dept. of Physiology, School of Medicine, St. Marianna Univ., 2) Dept. of Physiology, School of Medicine, Teikyo Univ.): Force-velocity relation of sliding of skeletal muscle myosin, arranged on a paramyosin filament, on action cables. Jap J Physiol 1998; 48 (2): 115-121.
- 2) Kishikawa T, Suzuki T¹⁾, Hirayama T²⁾, Sasaki Y, Wakamatu K³⁾, Ito S³⁾ (1) Nevus Research Center, and Plastic Surgery, 2) Tokyo Memorial Clinic, Nevus Research Center, 3) Inst. for Comprehensive Medical Science, School of Medicine, Fujita-Gakuen Health Univ.): A role of SH-compounds in maturation of melanosomes in cells cultured from nevus Ota. J Submicrosc Cytol Pathol 1998; 30 (1): 117-125.
- 3) Hirohata Y, Adachi A, Aihara K, Kanda S, Hagiwara T¹⁾, Ozawa K¹⁾, Fukuwatari Y¹⁾, Hayasawa H¹⁾ (1) Nutritional Science Laboratory, Morinaga Milk Industry): Investigation of morphological changes in absorptive cells in young adult and infant mice fed different amounts of iron for a long term. J Submicrosc Cytol Pathol 1998; 30 (2): 279-283.
- 4) Sato S: Ultrastructural study of capillary angiogenesis in rat fetal hearts: Role of fibroblasts and myocardial clefts. Med Electron Microsc 1998; 31 (4): 185-192.
- 5) Matsuzaki H¹⁾, Uehara M¹⁾, Suzuki K¹⁾, Sato S, Kanke Y¹⁾, Goto S¹⁾ (1) Dept. of Nutrition, Faculty of Argiculture, Tokyo Univ. of Argiculture): Improvement effect of switching to a diet of lower phosphorus content in rats with high phosphorus diet-induced nephrocalcinosis and depression of proximal tubular function. Nut Rese 1998; 18 (7): 1287-1296.
- 6) Nagano M¹⁾, Suzuki H¹⁾, U.T K¹⁾, Sato S, Miyake T²⁾, Miyata Y¹⁾ (1) Dept. of Pharmacology, Nippon Medical School, 2) Mitsubishi Kasei Inst. of Life Sciences): H-7-induced apoptosis in the cells of a *Drosophila*-neuronal cell line through affecting unidentified H-7-sensitive substance (s). Neutr Rese 1998; 31: 113-121.
- 7) Kishikawa T, Ghazizadeh M¹⁾, Sasaki Y, Springer G. F²⁾ (1) Dept. of Molecular Pathology, Inst. of Gerontology, 2) H. M. Bligh Cancer Research Laboratories, Finch Univ. of Health Sciences/Chicago Medical School): Specific role of T and Tn Tumor-associated antigens in adhesion between a human breast carcinoma cell line and a normal human breast epithelial cell line. Jpn J Cancer Res 1999; 90: 326-332.

(2) 綜説：

- 1) 佐藤 茂：生物学教育と動物実験 24 脊椎動物における心臓の系統発生と冠状動脈. アニテックス 1998；11 (1)：45-49.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Liu AM, Ghazizadeh M¹⁾, Inoue K, Hamaoka K²⁾, Onouchi Z²⁾, Ohkuni H³⁾, Aihara K, Asano G⁴⁾ (1) Dept. of Molecular Pathology, Inst. of Gerontology, 2) Kawasaki Division of Pediatrics, Children's Res. Hospital, Kyoto Prefectural Univ. of Medicine, 3) Dept. of Immunology/Infectious Diseases, Inst. of Gerontology, 4) 2nd Dept. of Pathology)：Coronary microvascular lesions in Kawasaki Disease - An ultrastructural study. Sixth International Kawasaki Disease Symposium (Hawaii), 1999. 2.
- 2) 相原 薫：Film sheet epoxy resin embedding methodの病理学への応用. 日本電子顕微鏡学会第43回シンポジウム, 1998. 10.
- 3) 広畑泰久：先端材料解析のためのウルトラミクロトーム技術. 日本電子顕微鏡学会第43回シンポジウム, 1998. 10.

(2) 一般講演：

- 1) Hirohata Y, Asakura K¹⁾, Aihara K, Furusyo S²⁾, Yamamoto M²⁾, Imasaka T²⁾, Kataoka N²⁾ (1) Univ. of Tokyo, 2) Chuo Precision Industrial)：Development of ultramicrotome using linear motor stage. 14th International Congress on Electron Microscopy (Cancun), 1998. 8.
- 2) 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 若松恭子¹⁾, 石崎正通¹⁾ (1) 病理学第1)：胎児心臓における血管新生と線維芽細胞と myocardial cleft. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 3) 安達彰子, 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 井上京子, 里村克章¹⁾ (1) 第1内科)：急性肝炎における肝マクロファージの超微形態 — 肝生検を用いて —. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 4) 戴 威, 佐藤 茂, 劉 效蘭, 相原 薫：頭蓋骨手術創傷治療のための骨移植実験. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 5) 劉 效蘭, 佐藤 茂, 戴 威, 相原 薫：Streptozotocin投与によるI型とII型糖尿病モデル. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 6) 劉 巧玲, 佐藤 茂, 相原 薫：高リン食投与による腎石灰化に対する五苓散の効果. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 7) 姜 景涛, 佐藤 茂, 相原 薫, 清水真澄¹⁾, 七戸和博¹⁾ (1) 実験動物管理室)：反復性一過性脳虚血における海馬領域の神経細胞と星状膠細胞の傷害について電顕的観察. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 8) 劉 愛民, 劉 巧玲, 鈴木 克哉, 相原 薫, 杉崎祐一¹⁾, 王 若皎²⁾, 浅野伍朗²⁾, 津田晃男³⁾, 浅野 健³⁾, 前田美穂³⁾, 山本正生³⁾ (1) 付属病院病理部, 2) 病理学第2, 3) 付属病院小児科)：小児のいわゆる小円形細胞腫瘍群の電顕的検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 9) 戴 威, 佐藤 茂, 劉 效蘭, 相原 薫：四塩化炭素 (CCL₄) 投与による急性肝障害に対する肝細胞増殖因子 (HGF) の治療効果：形態学的研究. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 10) 佐佐木喜広, 佐藤 茂, 安達彰子, 鈴木克哉, 井上京子, 若松恭子¹⁾ (1) 病理学第1)：腎皮質と皮髄境界部における間質細胞の超微形態 — 腎生検を用いて —. 第30回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1998. 9.
- 11) 佐藤 茂, 安達 彰子, 佐佐木喜広, 鈴木克哉：正常ラット大脳皮質の超微形態—そのsamplingと観察方法. 第30回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1998. 9.
- 12) 松村豪一¹⁾, 上田眞太郎²⁾, 正木文夫³⁾, 石原竜雄⁴⁾, 相原 薫 (1) 聖学院大学総合研究所, 2) 日大院理工学研究科福祉工学専攻, 3) フジバイオメディックス, 4) 大湧谷自然科学館)：カスミサンショウウオ呼吸器の走査

型電子顕微鏡の研究. 第34回日本界面医学会, 1998. 10.

- 13) 多羅尾範郎¹⁾, 多羅尾和郎²⁾, 相原 薫¹⁾ 聖隷学園浜松衛生短期大学, ²⁾ 神奈川県立がんセンター) : 咳による気管壁変形が去痰に与える影響. 第34回日本界面医学会, 1998. 10.

[情報科学センター]

研究概要

激変する情報化時代では研究活動は多様性が求められる。以下各人の研究活動概要を述べる。

1) 大坂は心電図に対し、理論面から新たな解析方法のアプローチを続ける他、カオスを遺伝子配列へ適応する試みなどを行っている。

2) 河野は脳波解析を主とし「気功」という現代科学では未知の世界を目指している。

3) 伊藤、渡部は主にネットワークおよび情報処理研究を行っている。それぞれの活発な成果については、以下の目録を参照されたい。

とくに共同研究の成果を紹介しておく。

1) センターとの兼担である物理学教室菊地講師との蛋白質分子の動的構造解析で国際学会、著書と結果が得られた。新たな分野の発展が期待される。

2) ネットワークが社会活動の基盤となってきた今、「情報倫理」の研究は重要である。センターとの兼担の哲学倫理学教室長島助教授と国際学会での発表の場を持つことができた。以下に目録上に現れない99年度の活動を紹介する。

①学術データベースの開発は遅れがちであるが、99年度には学外への公開を行う予定である。この一環として、業績年報目録の電子入力化を行い、成果が得られ99年度には改善したソフトの配布を行うこととなった。

②98年度末のネットワーク利用登録者数は学生586名、教職員その他2115名、ネットワーク接続台数1415台となり大学ネットワークとしては小規模なものでは無い。次世代の情報環境としてマルチメディア化対応を進め、各付属病院キャンパスの接続回線の高速化(128Kbps)を行った。(千葉北総病院は99年4月)利用者の増加により高速化が望まれる。99年3月には、インターネットへビデオサーバー(Real G2Server)の運用を開始した。今後、Webと同様に新たなメディアとしての利用、研究が開始されよう。

また、長年の懸案であったが、新たにPR委員会による「公式ホームページ」が作成され運用を開始した。これに伴いWebサーバーを更新、強化している。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kawano K : Characterization of the EEG in Qigong and Hypnosis. J. Intl. Soc. Life Info. Sci 1998 ; 16 (2) : 218-229.
- 2) Osaka M¹⁾, Yambe Tomoyuki²⁾, Saitoh H¹⁾, Yoshizawa M³⁾, Itoh T⁴⁾, Nitta Shin-²⁾, Kishida H¹⁾, Hayakawa H¹⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Institute of Development, Aging, and Cancer, tohoku University, ³⁾ Faculty of Engineering, Tohoku University, ⁴⁾ Center of Information Sciences, Nippon Medical School) : Mutual information discloses relationship between homodynamic variables in artificial heart-implanted dogs. Am J Physiol 1998 ; 257 : H1419-H1433.
- 3) Hasegawa K¹⁾, Kikuchi H²⁾, Ishizaki S³⁾, Tamura A⁴⁾, Tsukahara Y^{3, 5)}, Nakaoka Y⁶⁾, Iwai E¹⁾, Sato T¹⁾ (¹⁾ Division of Brain Science, Graduate School of Medicine, Kitasato University, ²⁾ Department of Physics, Center for Information and Sciences Nippon Medical School, ³⁾ Graduate School of Information Sciences, To-

hoku University, ⁴⁾ Laboratory of Molecular Endocrinology, School of Fisheries Sciences, Kitasato University, ⁵⁾ Photodynamic Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN), ⁶⁾ Division of Biophysical Engineering, Graduate School of Engineering Science, Osaka University) : Simple fluctuation of Ca^{2+} elicits the complex circadian dynamics of cyclic AMP and cyclic GMP in *Paramecium*. Journal Cell Science 1999 ; 112 : 201-207.

- 4) Yamamoto M¹⁾, Hirasawa M¹⁾, Kokado T¹⁾, Kokubo H¹⁾, Yamada T¹⁾, Taniguchi J¹⁾, Kawano K (¹⁾ National Institute of Radiological Sciences) : EEG Change in Remote Perception Task Using Electromagnetic Shield Cage. J Intl Soc Lift Info Sci 1999 ; 17 (1) : 191-197.
- 5) Kawano K, Yamada T¹⁾, Hirasawa M¹⁾, Kokudo H¹⁾, Yamamoto M¹⁾ (¹⁾ National Institute of Radiological Sciences) : Physiological Change During Qigong Training. J Intl Soc Life Info Sci 1999 ; 17 (1) : 78-82.
- 6) 河野貴美子, 山本幹男¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 平澤雅彦¹⁾, 境田英昭²⁾, 黄 健³⁾, 柴 剣宇³⁾ (¹⁾ 放射線医学総合研究所, ²⁾ 東京電機大学, ³⁾ 上海市気功研究所) : 練功年数の違いにおける脳波の比較. 中外気功研討会論文集 (上海) 1998 ; 37-39.
- 7) 早坂明哲¹⁾, 岩上泰輔¹⁾, 幸王孝仁¹⁾, 山崎清之¹⁾, 伊藤高司, 岡本克郎¹⁾ (¹⁾ 東海大学) : 生体指標を用いた過覚醒状態の検討. 東海大学紀要 1998 ; Vol8 : 175-179.
- 8) 近喰ふじ子¹⁾, 河野貴美子, 田畑信利²⁾ (¹⁾ 佼成病院小児科, ²⁾ ランバート) : 鑑賞魚飼育によるストレス緩和作用の研究 : 脳波学的研究から. 佼成病院医学雑誌 1998 ; 22 (1) : 24-33.

(2) 綜説 :

- 1) Kokubo H¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Hirasawa M¹⁾, Kawano K, Furukawa M¹⁾, Sakaida H²⁾ (¹⁾ National Institute of Radiological Sciences, ²⁾ Tokyo Denki University) : Review on Recent Measurements of Anomalous Bio-Magnetic Fields. J Intl Soc Life Info Sci 1999 ; 17 (1) : 20-31.

(3) 研究報告書 :

- 1) Kawano K, Yamamoto M¹⁾, Kokubo H¹⁾, Hirasawa M¹⁾, Sakaida H²⁾ (¹⁾ National Institute of Radiological Sciences, ²⁾ Tokyo Denki University) : Annual Changes in EEG of Qigong Trainees. J Intl Soc Life Info Sci 1998 ; 16 (2) : pp260-266.
- 2) Yamamoto M¹⁾, Kokubo T¹⁾, Hirasawa M¹⁾, Kawano K, Kokubo H¹⁾, Sakaida H²⁾ (¹⁾ National Institute of Radiological Sciences, ²⁾ Tokyo Denki University) : EEG Change in Anomalous Perception Task Related to Somatic Sensation-PartII. J Intl Soc Life Info Sci 1998 ; 16 (2) : pp274-283.
- 3) 菊地浩人¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学医学部物理学教室・情報科学センター) : フィコビリジン蛋白質集合体の対称構造の機能的要請. 文部省科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書 蛋白質集合体の対称性の起源と系譜—機能的要請か, 系統性か 1998 ; pp24-34.

著 書

- 1) Kikuchi H¹⁾, Wako H²⁾, Go M³⁾, Mimuro M⁴⁾ (¹⁾ Department of Physics, Center for Information and Sciences Nippon Medical School, ²⁾ School of Social Sciences, Waseda University, ³⁾ Division of Biological Science, Graduate School of Science, Nagoya University, ⁴⁾ Department of Physics, Biology and Informatics, Yamaguchi University) : [分担] Functional meaning of the symmetry structure in phycobiliprotein aggregates. Photosynthesis : Mechanisms and Effects, Vol. 1, 1998 ; pp193-196, Kluwer Academic Publishers.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 菊地浩人¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学医学部物理学教室・情報科学センター) : フィコビリジン蛋白質対称構造の機能的要

請。日本化学会第75回秋季年会，1998。9。

(2) セミナー：

- 1) 菊地浩人¹⁾，三室 守²⁾ (1) 日本医科大学医学部物理学教室・情報科学センター，²⁾ 山口大学理学部自然情報科学科)：発色団の数とフィコビルン蛋白質の動的構造との関係。第6回「光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナーVI，1998。6。

(3) ワークショップ：

- 1) Kikuchi H¹⁾，Mimuro M²⁾ (1) Department of Physics, Center for Information and Sciences Nippon Medical School, ²⁾ Department of Physics, Biology and Informatics, Yamaguchi University)：Symmetry Structure of Phycobiliproteins - Consequence for Function or Coincidence?. XIth international congress on photosynthesis-Satellite meetings：Photosynthetic antenna structures (Tata), 1998。8。

(4) 一般講演：

- 1) Kikuchi H¹⁾，Wako H²⁾，Go M³⁾，Mimuro M⁴⁾ (1) Department of Physics, Center for Information and Sciences Nippon Medical School, ²⁾ School of Social Sciences, Waseda University, ³⁾ Division of Biological Science, Graduate School of Science, Nagoya University, ⁴⁾ Department of Physics, Biology and Informatics, Yamaguchi University)：Functional meaning of the symmetry structure in phycobiliprotein aggregates. XI th international congress on photosynthesis (Budapest), 1998。8。
- 2) Itoh T, Nagashima T：Information ethics in health care and medicine (Telemedicine project). XII th Annual Conference of the European Society for Philosophy of Medicine and Health Care, 1998。8。
- 3) Nagashima T, Itoh T：Discussion on Abortion in Japan after the revision of the Eugenic. XII Annual Congress of European Society for Philosophy of Medicine and Health Care (Marburg), 1998。8。
- 4) 河野貴美子，山本幹男¹⁾，小久保秀之¹⁾，平澤雅彦¹⁾，境田英昭²⁾，黄 健³⁾，柴 剣字³⁾ (1) 放射線医学総合研究所，²⁾ 東京電機大学，³⁾ 上海市気功研究所)：練功年数の違いにおける脳波の比較。第7回中外気功研究会(上海)，1998。8。
- 5) 菊地浩人¹⁾，三室 守²⁾ (1) 日本医科大学医学部物理学教室・情報科学センター，²⁾ 山口大学理学部自然情報科学科)：アロフィコシアニンの光吸収特性と発色団・蛋白部分相互作用との間の関係。日本物理学会第53回年会，1998。4。
- 6) 河野貴美子，山本幹男¹⁾，小久保秀之¹⁾，平澤雅彦¹⁾，境田英昭²⁾ (1) 放射線医学総合研究所，²⁾ 東京電機大学)：練功者における脳波の経年変化。第6回生命情報科学シンポジウム，1998。8。
- 7) 山本幹男¹⁾，古角智子¹⁾，平澤雅彦¹⁾，河野貴美子，小久保秀之¹⁾，境田英昭²⁾ (1) 放射線医学総合研究所，²⁾ 東京電機大学)：体性感覚に関する変則的知覚課題における背景脳波変形(そのII)。第6回生命情報科学シンポジウム，1998。8。
- 8) 竹澤健司¹⁾，森 隆夫¹⁾，木村真人¹⁾，鬼頭 諭¹⁾，鈴木博子¹⁾，葉田道雄¹⁾，下田健吾¹⁾，河野貴美子 (1) 日本医科大学精神医学教室)：ストレス負荷に対する香りの精神生理学的研究：相関次元を用いた検討(第3報)。第14回日本催眠学会(神奈川)，1998。9。
- 9) 河野貴美子： α 波からみた静功，香り，音楽による瞑想様効果。第14回日本催眠学会(神奈川)，1998。9。
- 10) 清水秀一¹⁾，緒方憲一¹⁾，大坂元久¹⁾，小林義典¹⁾，斎藤寛和¹⁾，伊藤高司，新 博次¹⁾，加藤貴雄¹⁾，早川弘一¹⁾ (1) 第1内科)：心房細動停止過程における細動波の空間的特性の変化：心房電位間相互情報量による検討。第15回日本心電図学会学術集会，1998。10。
- 11) 大坂元久¹⁾，山家憲一²⁾，斎藤寛和¹⁾，吉澤 誠³⁾，新 博次¹⁾，伊藤高司，加藤貴雄¹⁾，仁田新一²⁾，岸田浩¹⁾，早川弘一¹⁾ (1) 第1内科，²⁾ 東北大学加齢医学研究所，³⁾ 東北大学工学部)：心拍・血圧・腎交感神経活動の相互関係の定量化：非線形手法を用いて。第14回心電図信号情報処理ワークショップ，1998。10。
- 12) 小田井圭¹⁾，菊地浩人²⁾，大坪隆信³⁾，鈴木英雄³⁾ (1) 湘北短期大学・電子情報，²⁾ 日本医科大学医学部物理学

- 教室・情報科学センター, ³⁾ 早稲田大学理工学部物理学科)：立体障害を考慮したバクテリオロドプシン発色団の光異性化モデル. 日本生物物理学会第36回年会, 1998. 10.
- 13) 菊地浩人¹⁾, 三室 守²⁾ (¹⁾ 日本医科大学医学部物理学教室・情報科学センター, ²⁾ 山口大学理学部自然情報科学科)：フィコピリン蛋白質の動的構造と発色団の数. 日本生物物理学会第36回年会, 1998. 10.
- 14) 渡部 昇, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司：ネットワークのセキュリティ問題と利用者教育. 情報処理教育研究集会, 1998. 10.
- 15) 伊藤高司, 渡部 昇, 滋野恭子, 奥重秀彦, 山下和雄¹⁾ (¹⁾ 解剖学第1)：医学教育用マルチメディアデータベースの開発について. 情報処理教育研究集会, 1998. 10.
- 16) 菊地浩人¹⁾, 三室 守²⁾ (¹⁾ 日本医科大学医学部物理学教室・情報科学センター, ²⁾ 山口大学理学部自然情報科学科)：グロビンファミリータンパク質に新しい機能を導入する方法. 第4回日本光生物学協会講演会, 1998. 11.
- 17) 小田井圭¹⁾, 菊地浩人²⁾, 大坪隆信³⁾, 鈴木英雄³⁾ (¹⁾ 湘北短期大学・電子情報, ²⁾ 日本医科大学医学部物理学教室・情報科学センター, ³⁾ 早稲田大学理工学部物理学科)：バクテリオロドプシン発色団の光異性化に対する2軸モデルとその断熱ポテンシャル. 第4回日本光生物学協会講演会, 1998. 11.
- 18) 伊藤高司, 滋野恭子, 奥重秀彦, 渡部 昇, 山下和雄¹⁾ (¹⁾ 解剖学第1)：医学教育用マルチメディアデータベースの構築. 第18回医療情報学連合大会, 1998. 11.
- 19) 山本幹男¹⁾, 平澤雅彦¹⁾, 古角智子¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 山田達三¹⁾, 谷口順子¹⁾, 河野貴美子, 福田信男¹⁾ (¹⁾ 放射線医学総合研究所)：電磁シールド下での対人遠隔実験における脳波変化. 第7回生命情報科学シンポジウム, 1999. 3.
- 20) 河野貴美子, 山田達三¹⁾, 平澤雅彦¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 山本幹男¹⁾ (¹⁾ 放射線医学総合研究所)：練功過程における生理変化. 第7回生命情報科学シンポジウム, 1999. 3.
- 21) 河野貴美子：コヒーレントに出現する α 波の一考察. 第46回応用物理学関係連合講演会, 1999. 3.
- 22) 山田達三¹⁾, 河野貴美子, 山本幹男¹⁾, 平澤雅彦¹⁾ (¹⁾ 放射線医学総合研究所)：練功過程に伴う心電, 呼吸変化. 第46回応用物理学関係連合講演会, 1999. 3.

〔3〕臨 床 医 学

1. 内科学第一講座

[付属病院第1内科]

研究概要

内科学第一教室では循環器病学，肝臓病学ならびに糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的，基礎的研究を行った。

循環器病学では，心不全に関する研究として，1) 重症心不全における右心機能の役割，2) 慢性心不全患者における予後規定因子としての神経液性因子の役割，3) Pressure volume curveによる新しい心機能評価法の確立，4) 心筋細胞に対する一酸化窒素の役割，5) 心不全における β 受容体細胞内情報伝達経路の障害過程などの検討を行った。

虚血性心疾患に関する研究として，1) 圧受容体反射，2) 自律神経機能，3) 梗塞サイズと左室リモデリングとの関連，4) Pressure wireによる急性心筋梗塞の冠動脈内圧測定の有用性，5) 血管内皮機能の検討，6) サイトカイン，細胞増殖因子の検討，7) ACE遺伝子多型性とeNOS遺伝子多型性の解析などを行った。不整脈に関する研究として，1) 心房細動における細動波の空間的特性の変化，2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用，2) 各種不整脈に対するカテーテル焼灼術治療，3) 失神患者における自律神経機能，4) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討，5) T波アルテルナンスの機序，6) QT dispersionと突然死との関連などの検討を行った。大血管疾患に関する研究として，1) 急性肺動脈血栓塞栓症における凝固線溶異常，2) Stanford分類B型急性大動脈解離の手術時期に関する検討などを行った。

糖尿病学では，1) 冠動脈疾患とレプチンとの関係，2) 冠動脈疾患におけるadvanced glycation end productの役割，3) 冠動脈内皮細胞障害の機序などの検討を行った。

肝臓病学では，1) 門脈圧亢進症の病態，2) 門脈圧亢進症における血管作動性物質の動態，3) 慢性肝疾患における肺循環異常などの検討を行った。

研究業績

論文

[1997年度追加]

原著：

- 1) Lee Y Z¹⁾, Belk P A¹⁾, Mullen T J¹⁾, Rivers S¹⁾, Zhang X¹⁾, Armoundas A A¹⁾, Osaka M, He B¹⁾, Aldea G¹⁾, Cohen R J¹⁾ (1) Harvard-MIT division of Health Sciences and Technology, Massachusetts Institute of Technology) : Comparison of body surface potential and Laplacian mapping with epicardial mapping for detection of cardiac ischemia in pigs. *Annals Noninvasive Electrocardiol* 1998 ; 3 (1) : 244-251.
- 2) 新 博次, 井野 威, 斎藤寛和, 小野寺威夫, 来馬明規 : 塩酸ピルジカイニド注射剤 (SUN1165 (注)) の電気生理学的效果ならびに心行動態に及ぼす影響 : 発作性上室性頻拍例における検討. *臨床医薬* 1998 ; 14 (1) : 63-74.
- 3) 加藤和三¹⁾, 佐久間昭²⁾, 井上 博³⁾, 杉本恒明⁴⁾, 比江嶋一昌⁵⁾, 飯沼宏之¹⁾, 片桐 敬⁶⁾, 笠貫 宏⁷⁾, 新博次 (1) 心臓血管研究所, 2) 東京医科歯科大学, 3) 富山医科薬科大学第二内科, 4) 関東中央病院, 5) 東京医科歯科大学保健衛生学科, 6) 昭和大学第三内科, 7) 東京女子医科大学日本心臓血圧研究所循環器内科) : 塩酸ピルジカイニド注射剤 (SUN1165 (注)) の心室性期外収縮に対する臨床評価 : 用量検討のための多施設二重盲検比較試験. *臨床医薬* 1998 ; 14 (4) : 661-678.
- 4) 加藤和三¹⁾, 佐久間昭²⁾, 新 博次, 杉本恒明³⁾, 比江嶋一昌⁴⁾, 飯沼宏之¹⁾, 笠貫 宏⁵⁾, 片桐 敬⁶⁾, 井上博⁷⁾ (1) 心臓血管研究所, 2) 東京医科歯科大学, 3) 公立学校共済組合関東中央病院, 4) 東京医科歯科大学第一

内科, ⁵⁾ 東京女子医科大学日本心臓血圧研究所循環器内科, ⁶⁾ 昭和大学第三内科, ⁷⁾ 富山医科薬科大学第二内科)：塩酸ピルジカインド注射剤 (SUN1165 (注)) の発作性上室性頻拍停止効果：多施設共同による用量検討のための後期第II相試験. 臨床医薬 1998 ; 14 (4) : 679-698.

- 5) 加藤和三¹⁾, 新 博次, 杉本恒明²⁾, 比江嶋一昌³⁾, 飯沼宏之¹⁾, 笠貫 宏⁴⁾, 片桐 敬⁵⁾, 井上 博⁶⁾ (¹⁾ 心臓血管研究所, ²⁾ 公立学校共済組合関東中央病院, ³⁾ 東京医科歯科大学第一内科, ⁴⁾ 東京女子医科大学日本心臓血圧研究所循環器内科, ⁵⁾ 昭和大学第三内科, ⁶⁾ 富山医科薬科大学第二内科)：塩酸ピルジカインド注射剤 (SUN1165 (注)) の各種頻拍不整脈停止効果：多施設共同による後期第II相試験. 臨床医薬 1998 ; 14 (4) : 699-718.
- 6) 加藤和三¹⁾, 佐久間昭²⁾, 井上 博³⁾, 杉本恒明⁴⁾, 比江嶋一昌⁵⁾, 飯沼宏之¹⁾, 笠貫 宏⁶⁾, 片桐 敬⁷⁾, 新博次 (¹⁾ 心臓血管研究所, ²⁾ 東京医科歯科大学, ³⁾ 富山医科薬科大学第二内科, ⁴⁾ 関東中央病院, ⁵⁾ 東京医科歯科大学保健衛生学科, ⁶⁾ 東京女子医科大学日本心臓血圧研究所循環器内科, ⁷⁾ 昭和大学第三内科)：塩酸ピルジカインド注射剤 (SUN1165 (注)) の心室性期外収縮に対する臨床評価：ジソピラミドを対照薬とした多施設二重盲検比較試験. 臨床医薬 1998 ; 14 (4) : 719-745.
- 7) 加藤和三¹⁾, 佐久間昭²⁾, 新 博次, 杉本恒明³⁾, 比江嶋一昌⁴⁾, 飯沼宏之¹⁾, 片桐 敬⁵⁾, 笠貫 宏⁶⁾, 井上博⁷⁾ (¹⁾ 心臓血管研究所, ²⁾ 東京医科歯科大学, ³⁾ 関東中央病院, ⁴⁾ 東京医科歯科大学第一内科, ⁵⁾ 昭和大学第三内科, ⁶⁾ 東京女子医科大学日本心臓血圧研究所循環器内科, ⁷⁾ 富山医科薬科大学第二内科)：塩酸ピルジカインド注射剤 (SUN1165 (注)) の発作性上室性頻拍停止効果：プラセボを対照薬とした多施設二重盲検比較試験. 臨床医薬 1998 ; 14 (4) : 747-768.
- 8) 加藤和三¹⁾, 佐久間昭²⁾, 新 博次, 杉本恒明³⁾, 比江嶋一昌⁴⁾, 飯沼宏之¹⁾, 片桐 敬⁵⁾, 笠貫 宏⁶⁾, 井上博⁷⁾ (¹⁾ 心臓血管研究所, ²⁾ 東京医科歯科大学, ³⁾ 関東中央病院, ⁴⁾ 東京医科歯科大学第一内科, ⁵⁾ 昭和大学第三内科, ⁶⁾ 東京女子医科大学日本心臓血圧研究所, ⁷⁾ 富山医科薬科大学第二内科)：塩酸ピルジカインド注射剤 (SUN1165 (注)) の発作性心房細動・粗動停止効果：プラセボを対照薬とした多施設二重盲検群間比較試験. 臨床医薬 1998 ; 14 (4) : 769-790.

綜説：

- 1) 大野則彦, 加藤貴雄：QT間隔の変動とその臨床的意義 (特集：不整脈). カレントセラピー 1998 ; 16 (2) : 132-139.
- 2) 斎藤寛和, 遠藤康実, 大坂元久, 早川弘一：心拍変動解析の限界と展望. 心電図 1998 ; 18 (1) : 58-63.
- 3) 加藤貴雄, 早川弘一：洞頻脈, 心房細動, 心房粗動, 偽性心室頻拍. (不整脈用語解説 連載7). Pharma Medica 1997 ; 15 (5) : 174-178.
- 4) 加藤貴雄, 早川弘一：発作性上室性頻拍, 房室結節リエントリー性頻拍, 房室回帰性頻拍, 異所性心房頻拍. (不整脈用語解説 連載8). Pharma Medica 1997 ; 15 (7) : 148-152.
- 5) 加藤貴雄, 早川弘一：早期興奮症候群, WPW症候群, 副伝導路, ケント束, マハイム線維. (不整脈用語解説 連載9). Pharma Medica 1997 ; 15 (9) : 193-198.

(1) 原著：

- 1) Atarashi H, Endoh Y, Saitoh H, Kishida H, Hayakawa H : Chronotropic Effects of Cilostazol, a New Anti-thrombotic Agent, in Patients with Bradyarrhythmias. J Cardiovasc Pharmacol 1998 ; 31 (4) : 534-539.
- 2) Ono T, Saitoh H, Atarashi H, Hayakawa H : Abnormality of Alpha-Adrenergic Vascular Response in Patients With Neurally Mediated Syncope. Am J Cardiol 1998 ; 82 : 438-443.
- 3) Aramaki T, Katsuta Y, Sekiyama T, Tsutsui H, Kome-ichi H, Ohsuga M, Satomura K, Yoshimura M¹⁾ (¹⁾ Tokyo Research Laboratory, Kowa Co, Tokyo, Japan) : Effects of Aging and Liver Disease upon the Pharmacokinetics of Nipradilol. Clin Drug Invest 1998 ; 16 (3) : 251-257.

- 4) Iwasaki Y, Ono T, Osaka M, Sasabe N, Kobayashi Y, Honma H, Saitoh H, Atarashi H, Katoh T, Kishida H, Hayakawa H : Circadian variation in the frequency of onset of neurally mediated syncope. *Ther Res* 1998 ; 19 (9) : 2692-2695.
- 5) Hanashi A, Kishida H, Saitoh T, Hayakawa H : Usefulness of exercise thallium-201 imaging in evaluation of low- and high-risk groups in coronary artery disease patients with disappearance of anginal episodes by anti-anginal drug therapy. *Jpn Heart J* 1998 ; 39 (5) : 597-609.
- 6) Saitoh T, Kishida H, Hanashi A, Tsukada Y, Fukuma Y, Sano J, Fukuma N, Kusama Y, Hayakawa H : Coronary Hyperreactivity to Adrenergic Stimulation and Increased Nocturnal Vagal Tone Trigger Coronary Vasospasm. *Jpn Circ J* 1998 ; 62 (10) : 721-726.
- 7) Kobayashi Y, Miyauchi Y, Kawaguchi N, Ohmura K, Saitoh H, Ino T, Atarashi H, Katoh T, Kishida H, Hayakawa H : Detection of a Local Slow Potential Preceding the Surface QRS Complex During Non-Preexcited Impulse Propagation -A Phenomenon Reflecting Anterograde Concealed Conduction Through the Accessory Pathway?-. *Jpn Circ J* 1998 ; 62 (10) : 760-764.
- 8) Osaka M, Yambe T¹⁾, Saitoh H, Yoshizawa M²⁾, Itoh T³⁾, Nitta S¹⁾, Kishida H, Hayakawa H (¹⁾ Institute of Development, Aging, and Cancer, Tohoku University, ²⁾ Faculty of Engineering, Tohoku University, ³⁾ Cancer of Information Science) : Mutual information discloses relationship between hemodynamic variables in artificial heart-implanted dogs. *Am J Physiol* 1998 ; 275 : 1419-1433.
- 9) Sasaki S¹⁾, Koumi S, Sato S²⁾, Murata M¹⁾, Nagasawa K³⁾, Sakurai E³⁾, Hikichi N³⁾, Hayakawa H (¹⁾ Department of Pharmacy, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Molecular Pharmacology and Biological Chemistry, Northwestern University Medical School, ³⁾ Department of Pharmaceutics, Tohoku College of Pharmacy) : Kinetics of buccal absorption of propafenone single oral loading dose in healthy humans. *Gen Pharmac* 1998 ; 31 : 589-591.
- 10) Aroundas AA¹⁾, Osaka M, Mela T¹⁾, Rosenbaum DS¹⁾, Ruskin JN¹⁾, Garan H¹⁾, Cohen RJ¹⁾ (¹⁾ Harvard-MIT division of Health Sciences and Technology, Massachusetts Institute of Technology) : T-wave alternans and dispersion of the QT interval as risk stratification markers in patients susceptible to sustained ventricular arrhythmias. *Am J Cardiol* 1998 ; 82 (9) : 1127-1129.
- 11) Ino T¹⁾, Tadera T¹⁾, Miyamoto S¹⁾, Tanaka K¹⁾, Ohno T¹⁾, Nagasawa K¹⁾, Hayakawa H (¹⁾ The Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital) : Ventriculoatrial block during atrioventricular nodal reentrant tachycardia utilizing multiple retrograde pathways. *J Cardiovasc Electrophysiol* 1998 ; 9 (11) : 1206-1213.
- 12) Kishida H, FJCC, Saitoh T, Oikawa K, Honma H, Kusama Y : Negative U-wave as a Predictor of Anti-hypertensive Treatment Effect on Regression of Echocardiographic Hypertrophy in Hypertensive Patients. *Jpn Heart J* 1999 ; 40 (1) : 31-44.
- 13) Osaka M, Gohara K¹⁾, Ishii S²⁾, Kishida H, Hayakawa H, Ito N³⁾ (¹⁾ Department of Applied Physics, Graduate School of Engineering, Hokkaido University, ²⁾ Graduate School of Information Science, Nara Institute of Science and Technology, ³⁾ Department of Applied Physics, School of Engineering, The University of Tokyo) : Symbolic strings and spatial 1/f spectra. *Physica D* 1999 ; 125 : 142-154.
- 14) Kodama I¹⁾, Ogawa S²⁾, Inoue H³⁾, Kasanuki H⁴⁾, Kato T, Mitamura H²⁾, Hiraoka M⁵⁾, Sugimoto T⁶⁾ (¹⁾ Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, ²⁾ Keio University, School of Medicine, ³⁾ Toyama Medical and Pharmaceutical University, Faculty of Medicine, Toyama, ⁴⁾ Tokyo Women's Medical College, ⁵⁾ Tokyo Medical and Dental University, Medical Research Institute, ⁶⁾ Kanto Central Hospital) : Profiles of Aprindine, Cibenzoline, Pilsicainide and Pirmenol in the Framework of the Sicilian Gambit.

Jpn Circ J 1999 ; 63 (1) : 1-12.

- 15) Honma H, Kishida H, Tsuchida T, Morita N, Tomita Y, Seino Y, Takano T, Nishigaki R¹⁾, Asano G¹⁾ (1) Department of Pathology) : A 68-Year-Old Man With Complete Atrioventricular Block and Congestive Heart Failure (Cardiovascular Imaging In-a-Month (English text)). J Cardiol 1999 ; 33 (2) : 111-115.
- 16) 小林義典, 林 明聡, 清水秀一, 松本 真, 川口直美, 小倉宏道, 宮内靖史, 小原俊彦, 大村和子, 斎藤寛和, 井野 威, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一 : 副伝導路離断後に薬剤抵抗性の非通常型心房粗動および心房頻拍が頻発した潜在性WPW症候群の1例. 臨床心臓電気生理 1998 ; 21 : 171-181.
- 17) 田寺 長¹⁾, 井野 威¹⁾, 宮本新次郎¹⁾, 田中古登子¹⁾, 長澤紘一¹⁾, 小林義典, 新 博次, 早川弘一 (1) 多摩永山病院内科) : 左側副伝導路における心房細動発生気序の検討 : 冠静脈洞Splitted Potentialとの関連. 臨床心臓電気生理 1998 ; 21 : 209-217.
- 18) 賈 大林, 安武正弘, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一 : フェニレフリン, エンドセリン, アンジオテンシンIIの再灌流性不整脈に対する影響 : プロテインキナーゼCを介するNa⁺/H⁺交換系の役割. 日医大誌 1998 ; 65 (4) : 276-283.
- 19) 森田典成, 小林義典, 林 明聡, 川口直美, 宮内靖史, 小原俊彦, 大村和子, 平山悦之, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一, 井野 威¹⁾, 田中茂夫²⁾ (1) 多摩永山病院, 2) 第二外科) : 左右両側に2本の副伝導路を有し, 左側副伝導路にのみ過常伝導が観察された潜在性WPW症候群の1例. 不整脈 1998 ; 14 (4) : 426-432.
- 20) 徳山権一¹⁾, 木内 要¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 早川弘一 (1) 集中治療室) : 急性肺動脈血栓塞栓症における先天性血栓性素因と抗リン脂質抗体の役割. J Cardiol 1998 ; 32 : 263-268.
- 21) 桜井正之¹⁾, 四倉昭彦¹⁾, 佐藤 実¹⁾, 伊東敏弘¹⁾, 北島 顕¹⁾, 池田こずえ²⁾, 久賀圭祐³⁾, 渡辺一郎⁴⁾, 高橋義和⁴⁾, 八木 洋⁵⁾, 杉本賢治⁵⁾, 大塚雄司⁵⁾, 新 博次, 遠藤康実, 野村敦宣, 松本 真, 小野寺威夫, 北山活気, 中里祐二⁶⁾, 小倉俊介⁶⁾, 住吉正孝⁶⁾, 大野安彦⁶⁾, 戸叶隆司⁶⁾, 村川裕二⁷⁾, 及川直樹⁷⁾, 岩沢邦明⁷⁾, 鈴木文男⁸⁾, 本川克章⁸⁾, 平尾見三⁸⁾, 寺井知子⁸⁾, 石原直子⁸⁾, 川良徳弘⁸⁾, 比江嶋一昌⁸⁾, 三田村秀雄⁹⁾, 南雲美好⁹⁾, 野崎 彰¹⁰⁾, 杉本恒明¹⁰⁾, 敦 宗徳¹⁰⁾, 杉 薫¹¹⁾, 円城寺由久¹¹⁾, 桜田春水¹²⁾, 小林洋一¹³⁾, 千代田和美¹³⁾, 加藤林也¹⁴⁾, 渡辺俊也¹⁴⁾, 井上大介¹⁵⁾, 井上 博¹⁶⁾, 藤木 明¹⁶⁾, 水牧功一¹⁶⁾, 下野真由美¹⁶⁾, 林 秀樹¹⁶⁾, 堀江 稔¹⁷⁾, 土屋邦彦¹⁷⁾, 綿貫正人¹⁷⁾, 高橋綾子¹⁷⁾, 大林和彦¹⁷⁾, 湯月洋介¹⁷⁾, 坂東重信¹⁸⁾, 近藤直樹¹⁸⁾, 樗木晶子¹⁹⁾, 犀川哲典²⁰⁾, 高倉 健²⁰⁾, 原 政英²⁰⁾, 奥村 謙²¹⁾ (1) 北海道大学循環器内科, 2) 山形大学第一内科, 3) 筑波大学内科, 4) 日本大学第二内科, 5) 日本大学駿河台病院循環器内科, 6) 順天堂大学循環器内科, 7) 東京大学第二内科, 8) 東京医科歯科大学第一内科, 9) 慶應義塾大学呼吸循環器内科, 10) 関東中央病院内科, 11) 東邦大学第三内科 12) 東京都立広尾病院循環器科, 13) 昭和大学第三内科, 14) 国立名古屋病院循環器科, 15) 京都府立医科大学第二内科, 16) 富山医科薬科大学第二内科, 17) 京都大学第三内科, 18) 香川県立白鳥病院内科, 19) 九州大学循環器内科, 20) 大分医科大学第一内科, 21) 熊本大学循環器内科) : 心房細動と血栓塞栓症 : 多施設共同調査. J Cardiol 1998 ; 31 (4) : 227-238.
- 22) 勝田悌実, 本間 博, 張 雪君, 大須賀勝, 古明地弘和, 関山達也, 荒牧琢己 : 慢性肝疾患における肺循環異常と動脈血酸素化障害 : 拡散一血流障害. 日門食会誌 1998 ; 4 : 311-313.
- 23) 清野精彦, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 大林完二¹⁾ (1) 大林内科医院) : 循環器診療における心筋Troponin T全血迅速判定法の有用性に関する検討 : 東京地区循環器実地診療における評価. J Cardiol 1998 ; 31 : 281-287.
- 24) 酒井俊太, 高野照夫, 高山守正, 早川弘一 : 急性冠症候群における標準四肢誘導心電図V_R誘導のST上昇の意義に関する研究. 心電図 1998 ; 18 (6) : 849-857.
- 25) 桜井正之¹⁾, 四倉昭彦¹⁾, 佐藤 実¹⁾, 伊東敏弘¹⁾, 北島 顕¹⁾, 池田こずえ²⁾, 久賀圭祐³⁾, 渡辺一郎⁴⁾, 高橋義和⁴⁾, 八木 洋⁵⁾, 杉本賢治⁵⁾, 大塚雄司⁵⁾, 新 博次, 遠藤康実, 野村敦宣, 松本 真, 小野寺威夫, 北山活気, 中里祐二⁶⁾, 小倉俊介⁶⁾, 住吉正孝⁶⁾, 大野安彦⁶⁾, 戸叶隆司⁶⁾, 村川裕二⁷⁾, 及川直樹⁷⁾, 岩沢邦明⁷⁾,

鈴木文男⁸⁾, 本川克章⁸⁾, 平尾見三⁸⁾, 寺井知子⁸⁾, 石原直子⁸⁾, 川良徳弘⁸⁾, 比江嶋一昌⁸⁾, 三田村秀雄⁹⁾, 南雲美好⁹⁾, 野崎 彰¹⁰⁾, 杉本恒明¹⁰⁾, 敦 宗徳¹⁰⁾, 杉 薫¹¹⁾, 円城寺由久¹¹⁾, 桜田春水¹²⁾, 小林洋一¹³⁾, 千代田和美¹³⁾, 加藤林也¹⁴⁾, 渡辺俊也¹⁴⁾, 井上大介¹⁵⁾, 井上 博¹⁶⁾, 藤木 明¹⁶⁾, 水牧功一¹⁶⁾, 下野真由美¹⁶⁾, 林 秀樹¹⁶⁾, 堀江 稔¹⁷⁾, 土屋邦彦¹⁷⁾, 綿貫正人¹⁷⁾, 高橋綾子¹⁷⁾, 大林和彦¹⁷⁾, 湯月洋介¹⁷⁾, 坂東重信¹⁸⁾, 近藤直樹¹⁸⁾, 樗木晶子¹⁹⁾, 犀川哲典²⁰⁾, 高倉 健²⁰⁾, 原 政英²⁰⁾, 奥村 謙²¹⁾ (1) 北海道大学循環器内科, 2) 山形大学第一内科, 3) 筑波大学内科, 4) 日本大学第二内科, 5) 日本大学駿河台病院循環器内科, 6) 順天堂大学循環器内科, 7) 東京大学第二内科, 8) 東京医科歯科大学第一内科, 9) 慶應義塾大学呼吸循環器内科, 10) 関東中央病院内科, 11) 東邦大学第三内科 12) 東京都立広尾病院循環器科, 13) 昭和大学第三内科, 14) 国立名古屋病院循環器科, 15) 京都府立医科大学第二内科, 16) 富山医科薬科大学第二内科, 17) 京都大学第三内科, 18) 香川県立白鳥病院内科, 19) 九州大学循環器内科, 20) 大分医科大学第一内科, 21) 熊本大学循環器内科): 高齢者の心房細動と血栓塞栓症の実態: 多施設共同調査. J Cardiol 1999; 33 (1): 27-35.

(2) 総説:

- 1) Katoh T: PRIMARY CARE FOR ARRHYTHMIAS DETECTED IN ROUTINE EXAMINATIONS. Asian Med J 1998; 41 (11): 534-541.
- 2) 斎藤寛和, 新 博次: 不整脈 (検査データを考える). 検査と技術 1998; 26 (4): 373-378.
- 3) 加藤貴雄, 早川弘一: コンピュータ内蔵心電計の信頼性. 総合臨牀 1998; 47 (4): 665-667.
- 4) 清野精彦, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 大林完二²⁾ (1) 集中治療室, 2) 大林内科医院): 急性心筋梗塞の早期診断と心筋トロポニンT全血迅速判定法の活用. 治療 1998; 80 (4): 170-176.
- 5) 新 博次: 心房細動の薬物治療. 心臓 1998; 30 (4): 263-269.
- 6) 草間芳樹: カルシウム拮抗薬 (連載: ICUにおける心血管作動薬6). 集中治療 1998; 10 (4): 436-439.
- 7) 岸田 浩: 無症候性心筋虚血 (今月の主題: 狭心症—日常臨床へのExpertise狭心症の治療—分類別の診断と治療法). medicina 1998; 35 (4): 627-629.
- 8) 新 博次: 高齢者における心房細動の治療 (特集: 高齢者の不整脈). Geriat Med 1998; 36 (4): 509-513.
- 9) 新 博次: 心房細動: 薬物療法を中心に (上室性頻脈性不整脈の診断と治療 (1)). Ther Res 1998; 19 (4): 969-974.
- 10) 清野精彦, 福間長知, 本間 博, 早川弘一: Tacrolimusの心臓障害について. 腎移植・血管外科 1998; 9 (2): 125-130.
- 11) 加藤貴雄: 陳旧性心筋梗塞における心室性期外収縮2連発に対する治療の考え方. 循環科学 1998; 18 (5): 464-465.
- 12) 荒牧琢己: 肝炎. 臨床栄養 1998; 92 (6): 613-613.
- 13) 遠藤孝雄, 佐藤直樹: α 遮断薬 (連載: ICUにおける心血管作動薬8). 集中治療 1998; 10 (5): 557-560.
- 14) 中野博司¹⁾, 清野精彦 (1) 老人科): 頸動脈の肥厚・狭窄 (今月の主題: 内科医がよく遭遇する血管疾患 末梢動脈疾患). medicina 1998; 35 (5): 863-866.
- 15) 小林義典, 新 博次: wide QRSの頻拍症. 救急医学 1998; 22 (5): 585-589.
- 16) 宮内靖史, 清野精彦: 房室ブロック. 救急医学 1998; 22 (5): 572-578.
- 17) 太田眞夫, 子島 潤¹⁾, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室): ACE阻害薬, ALL受容体拮抗薬 (連載: ICUにおける心血管作動薬7). 集中治療 1998; 10 (5): 552-556.
- 18) 新 博次: 抗不整脈薬ジソピラミド (リスモダン (R)) の適正使用. PTM 1998; 9 (1(27)).
- 19) 宮内靖史, 加藤貴雄: ベースメーカー療法: Pafの予防, Cafのペースメーカー (特集: 心房細動の治療と管理). CARDIAC PRACTICE 1998; 9 (3): 319-324.
- 20) 岸田 浩: 新しいカルシウムの拮抗薬の作用機序, 特徴と臨床的有用性 (特集: カルシウムチャンネルをめぐって). 循環器科 1998; 44: 60-66.

- 21) 子島 潤¹⁾, 山本 剛⁽¹⁾ (集中治療室): 心房性ナトリウム利尿ホルモン (連載: ICUにおける心血管作動薬 11). 集中治療 1998; 10 (7): 775-779.
- 22) 小林義典, 加藤貴雄: 薬物療法の進歩: 虚血性心疾患を合併した不整脈の治療戦略 (特集: 不整脈診療の実際—最新の知識から実践へ). 内科 1998; 82 (1): 72-76.
- 23) 斎藤 勉, 岸田 浩, 佐野純子, 福間祐美子, 福間長知, 草間芳樹, 早川弘一: 冠攣縮性狭心症における coronary tonus に対する自律神経系と catecholamine の寄与. 心臓 1998; 30 (3): 109-111.
- 24) 新 博次: 循環器系疾患治療薬 (特集: 医薬品の適応外使用を考える). 臨床と薬物治療 1998; 17 (8): 697-700.
- 25) 荒牧琢己: 腹水の鑑別診断: 日常診療の指針. 外科治療 1998; 79 (3): 353-354.
- 26) 岸田 浩: 虚血性心疾患の治療に思うこと. 呼吸と循環 1998; 46 (9): 847-847.
- 27) 草間芳樹: 薬物療法の選択. 循環制御 1998; 19 (3): 348-352.
- 28) 斎藤寛和, 野村敦宣, 大坂元久, 佐々部典子, 早川弘一: 不整脈発生への自律神経の関与: 心拍変動周波数解析による評価の限界と可能性. 臨床モニター 1998; 9 (2): 94-103.
- 29) 斎藤寛和, 小野卓哉, 野村敦宣, 岩崎雄樹, 大野則彦, 松本 真, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 神経調節性失神の自律神経学的背景: Head-up Tilt 試験と薬理学的自律神経機能検査による検討. 臨床病理 1998; 46 (10): 1043-1048.
- 30) 新 博次: 特発性心室細動と Brugada 症候群. 不整脈 1998; 14 (4): 368-378.
- 31) 加藤貴雄: I 群薬 (特集: ICUにおける心血管作動薬 17). 集中治療 1998; 10 (10): 1097-1102.
- 32) 清野精彦: 免疫抑制薬が心血管系に及ぼす影響 (特集: 腎移植を成功させるためのチェックポイント). 腎と透析 1998; 45 (4): 443-448.
- 33) 清野精彦: 急性心不全の治療: カテコラミンとそれ以外の薬剤の活用. Medical Practice 1998; 15 (10): 1745-1752.
- 34) 斎藤寛和, 岸田 浩: 不整脈を伴う例 (特集: 心筋梗塞の薬物治療). 今月の治療 1998; 6 (11): 49-52.
- 35) 新 博次: 治験責任医師の立場から. 臨床医薬 1998; 14 (14): 2499-2501.
- 36) 大野則彦, 斎藤寛和: II 群薬, IV 群薬 (連載: ICUにおける心血管作動薬 18). 集中治療 1998; 10 (10): 1103-1105.
- 37) 山家智之¹⁾, 南家俊介²⁾, 西平哲郎²⁾, 田中 明¹⁾, 大坂元久, 吉澤 誠³⁾, 田林晃一⁴⁾, 仁田新一¹⁾ (1) 東北大加齢医学研究所, 2) 公立黒川病院, 3) 東北大学大学院工学研究科, 4) 東北大学医学部胸部外科): 複雑系としての心臓血管系のカオスのダイナミックスに与える ACE 阻害薬の影響. Prog Med 1998; 18 (10): 2481-2490.
- 38) 斎藤寛和, 野村敦宣, 大坂元久, 佐々部典子, 早川弘一: 不整脈発生への自律神経の関与: 心拍変動周波数解析による評価の限界と可能性. 臨床モニター 1998; 9 (2): 94-103.
- 39) 大坂元久, 斎藤寛和, 新 博次, 伊藤高司¹⁾, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一, Armoundas AA²⁾, Cohen RJ²⁾ (1) 情報科学センター, 2) Massachusetts Institute of Technology): 心室期外収縮の概日リズムと心臓突然死の関連. 心筋の構造と代謝 1998; 20: 275-278.
- 40) 新 博次: 心房細動治療に今後望まれる薬剤について. Pharma Medica 1998; 16 (11): 124-126.
- 41) 岸田 浩: 冠攣縮の治療: 特に異型狭心症 (特集: 目でみる診断法・治療法 I). 臨床成人病 1998; 28 (11): 1312-1314.
- 42) 斎藤寛和, 木村祐子, 岸田 浩: 劇症型心筋炎の早期診断法 (特集: 劇症型心筋炎の早期診断と治療戦略). 循環器科 1998; 44: 425-431.
- 43) 斎藤寛和: 電解質異常と不整脈 (連載: 実地から学ぶ心電図の読みかた/不整脈編). Medical Practice 1998; 15 (11): 1969-1975.

- 44) 新 博次：III群薬（連載：ICUにおける心血管作動薬19）．集中治療 1998；10（11）：1211-1212.
- 45) 加藤貴雄：加算平均心電図．心電図検査 1998；83-88.
- 46) 荒牧琢己，岩尾 忠¹⁾（¹⁾ 久留米大学第二内科）：肝硬変における循環動態異常．日門食会誌 1998；4：284-289.
- 47) 新 博次：循環器用剤：注意すべき相互作用．循環科学 1998；18（11）：1046-1047.
- 48) 岸田 浩：求められる日本心電学会として．心電図 1998；18（6）：815-816.
- 49) 小野卓哉，加藤貴雄：ムスカリン受容体遮断薬の薬理と使い分け（特集：抗不整脈薬：選択と適正使用のための基礎知識）．治療薬 1998；3（4）：58-60.
- 50) 清野精彦，島井新一郎，早川弘一，竹田晋浩¹⁾，池崎弘之¹⁾，高野照夫¹⁾，小川 龍²⁾（¹⁾ 集中治療室，²⁾ 麻酔科）：急性心不全における肺うっ血の病態と治療に関する考察．循環制御 1998；19（4）：492-499.
- 51) 荒牧琢己：自己免疫性肝炎の診断と治療．日医会誌 1998；120（11）：1605-1610.
- 52) 遠藤孝雄，山本 剛，子島 潤：カリウムチャンネル開口薬．医薬ジャーナル 1999；35（S-1）：112-119.
- 53) 荒牧琢己，勝田悌実，関山達也，寺田秀人：Hyperdynamic circulationの成因と病態（特集：門脈圧亢進症：病態と治療）．肝胆膵 1999；38（1）：19-25.
- 54) 山家智之¹⁾，吉澤 誠¹⁾，大坂元久，田林暁一²⁾，高安秀樹³⁾，竹田 宏⁴⁾，仁田新一⁴⁾（¹⁾ 東北大学大学院工学研究科，²⁾ 東北大学医学部胸部外科，³⁾ ソニーコンピューターサイエンス，⁴⁾ 東北学院大学工学部）：循環系のカオスの起源と臨床応用について．加齢医学研究所雑誌 1999；50（1）：1-16.
- 55) 清野精彦：急性冠症候群：生化学的マーカーと治療ストラテジー（特集：治療トピックス100）．治療 1999；81：148-153.
- 56) 高崎雄司¹⁾，長野具雄，北村 裕²⁾，橋本網子³⁾，宗像一雄，落 雅美²⁾，江本直也¹⁾，岸田 浩，山中宣昭⁴⁾，飯野靖彦¹⁾，弦門昭彦¹⁾，内藤善哉⁴⁾，後藤 真⁵⁾（¹⁾ 内科，²⁾ 外科，³⁾ 皮膚科，⁴⁾ 病理，⁵⁾ 東京都立大塚病院膠原病リウマチ科）：早老症に重症狭心症を合併し，冠動脈バイパス術を施行した1例．内科 1999；83（1）：145-154.
- 57) 新 博次：非薬物治療中心の時代における薬物治療の意義：頻脈性不整脈を中心に（特集：不整脈治療：基礎から臨床まで）．循環科学 1999；19（2）：110-112.
- 58) 加藤貴雄，早川弘一：心室細動（不整脈用語解説 連載15）．Pharma Medica 1999；17（2）：93-97.
- 59) 新 博次：心房細動発生機序の変遷．J Cardiol 1999；33（Suppl I）：53-57.
- 60) 清野精彦，竹田晋浩¹⁾，高野照夫¹⁾（¹⁾ 集中治療室）：急性心不全の治療戦略をたてる急性心不全における人工呼吸管理と離脱の仕方について（特集：急性心不全の新しい治療戦略）．集中治療 1999；11（3）：277-282.
- 61) 本間 博：アスピリン，チクロピジン，ジピリダモール，シロスタゾール，その他（連載：ICUにおける心血管作動薬27）．集中治療 1999；11（3）：289-293.
- (3) 研究報告書：
- 1) 荒牧琢己，関山達也，長戸孝道，清水秀治，古明地弘和，長野具雄，大須賀勝，寺田秀人，里村克章，勝田悌実，高木 元：早期診断及び治療・リハビリテーションに関する研究（特定内蔵系疾患）：慢性肝炎患者における頭部MRIT1強調画像淡蒼球高信号の病態に関する検討．平成9年度特殊疾病（難病）に関する研究報告書 1998；pp65-71.
- 2) 清野精彦，富田喜文，福本裕子，子島 潤，高山守正，高野照夫，大林完二¹⁾（¹⁾ 大林内科医院）：心血管疾患の救急医療の現状と対策に関する研究：循環器救急における血液生化学的マーカー迅速診断システムの導入に関する検討．平成9年度厚生省循環器病研究委託費による研究報告集 1998；pp419-419.

著書

〔1997年度追加分〕

- 1) 林 明聡, 小林義典, 加藤貴雄: 〔分担〕 植え込み型除細動器. Annual Review 循環器 1998 (杉本恒明, 松本昭彦, 杉下靖郎, 門間和夫編), 1998; pp96-102, 中外医学社.
- 2) 加藤貴雄: 〔分担〕 緊急ペーシング. 今日の治療指針 1998 (日野原重明, 阿部正和監修), 1998; pp62-63, 医学書院.
- 3) 加藤貴雄, 呉 小怡, 大村和子, 小原俊彦, 早川弘一: 〔分担〕 II. 高分解能心電図 4. 不整脈の治療における加算平均心電図の役割. 時空間心電情報の新しい視点: 循環器病診断への応用 (外山淳治, 渡邊佳彦編), 1998; pp185-195, ライフメディコム.
- 4) 大坂元久, 斎藤寛和: 〔分担〕 IV. 心拍変動 2. 心拍変動解析のための装置とその解析方法. 時空間心電情報の新しい視点: 循環器病診断への応用 (外山淳治, 渡邊佳彦編), 1998; pp318-334, ライフメディコム.
- 1) 加藤貴雄: 〔分担〕 Late Potential. 不整脈 Concept & Terminology (平岡昌和監修), 1998; pp8-9, 三原医学社.
- 2) 岸田 浩: 〔分担〕 無症候性冠動脈疾患. 循環器疾患 最新の治療 1998-1999 (篠山重威, 矢崎義雄編), 1998; pp50-53, 南江堂.
- 3) 岸田 浩: 〔分担〕 米国における不安定狭心症の治療に関するガイドライン: 質疑応答による 虚血性心疾患 (木全心一編), 1998; pp136-138, 日本醫事新報社.
- 4) 勝田悌実, 荒牧琢己: 〔分担〕 肝腎症候群. 肝臓病学 (戸田剛太郎, 清澤研道, 沖田 極, 井廻道夫, 林 紀夫編), 1998; pp124-130, 医学書院.
- 5) 清野精彦: 〔自著〕 これでわかる心電図の読み方と心臓病: これでわかる心電図の読み方と心臓病, 1998; pp1-50, 南江堂.
- 6) 岸田 浩: 〔分担〕 第3章 狭心症: 労作性狭心症. 1. 病態生理・診断. ナースのための冠疾患事典 (藤田正俊監修), 1998; pp75-85, メディカ出版.
- 7) 加藤貴雄: 〔分担〕 I心電図検査 7. 加算平均心電図: 臨床的意義, 適応, 原理・装置, 検査の実際, 検査結果の解釈. 循環機能検査ハンドブック (小川 聡, 永井良三, 堀 正二編), 1998; pp83-88, 中山書店.
- 8) 新 博次: 〔分担〕 第2章: 5抗不整脈薬 I群薬の使い方. 目でみる循環器病シリーズ 13 循環器病の薬物療法 (齋藤宗靖編), 1998; pp120-126, メジカルビュー社.
- 9) 岸田 浩: 〔分担〕 第2章: 6Ca拮抗薬 狭心症におけるCa拮抗薬の役割と使い方. 目でみる循環器病シリーズ 13 循環器病の薬物療法 (齋藤宗靖編), 1998; pp144-150, メジカルビュー社.
- 10) 新 博次: 〔分担〕 各論II病態別の診かたと処しかた 2. 動悸・不整脈 心房細動・粗動の心拍コントロール. 心臓病診療プラクティス 19. エマージェンシーを乗り切る (吉川純一, 笠貫 宏, 土師一夫, 別府慎太郎, 松崎益徳編), 1998; pp104-105, 文光堂.
- 11) 加藤貴雄, 新 博次, 井野 威¹⁾ (多摩永山病院): 〔分担〕 III章 不整脈. 心電図のABC (改訂版) (五島雄一郎, 大林完二監修), 1999; pp124-195, 日本医師会.
- 12) 金子昌裕¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 鳥羽昌仁¹⁾, 梅原松臣¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 松本智司¹⁾, 山本一仁¹⁾, 廣瀬洋一郎¹⁾, 隈崎達夫²⁾, 荒牧琢己 (1) 第一外科, 2) 放射線科): 〔分担〕 肝性脳症を伴う門脈: 大循環シャントに対し血管塞栓術が有効であった直腸静脈瘤の1例. 示唆に富む肝疾患 (佐藤俊一編), 1999; pp131-136, 新工医学出版社.
- 13) 新 博次: 〔分担〕 2. 不整脈. 認定医・専門医のための内科学レビュー '99 (酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢監修), 1999; pp34-39, 総合医学社.
- 14) 清野精彦, 柏木睦美, 福本裕子: 〔分担〕 6. 大動脈・末梢血管疾患. 認定医・専門医のための内科学レビュー

- '99 (酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢監修), 1999 ; pp60-65, 総合医学社.
- 15) 斎藤寛和, 早川弘一 : [分担] 治療の実際について 11. 予知できない疾患. 治療のしかた (田村康二編), 1999 ; pp314-327, 医歯薬出版.
 - 16) 早川弘一 : [分担] 心電図. 内科学書 (島田 馨編), 1999 ; pp1089-1092, 中山書店.
 - 17) 荒牧琢己, 大須賀勝 : [分担] 肝血行異常. 内科学書 (島田 馨編), 1999 ; pp1784-1789, 中山書店.
 - 18) 斎藤寛和, 坪 宏一, 大野則彦, 野村敦宣 : [分担] 第III章 各種疾患とQT間隔K ARIとQT間隔. QT間隔の基礎と臨床 : QT interval and dispersion (有田 眞, 伊東盛夫, 犀川哲典編), 1999 ; pp141-145, 医学書院.
 - 19) 横島 友子, 森田典成, 宮内靖史, 岩崎雄樹, 川口直美, 小川晃生, 小倉宏道¹⁾, 亀山幹彦, 林 明聡, 加藤貴雄⁽¹⁾ 集中治療室) : [翻訳] 不整脈脈診療法ハンドブック : 臨床的な理解と対応 (加藤貴雄監訳). Cardiac Arrhythmias-Practical notes on interpretation and treatment- (David H.Bennett, MD, FRCP, FACC, FESC), 1999 ; メディカル・サイエンス・インターナショナル.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Hayakawa H, Homma H : Non-invasive quantification/localisation of ischemia (Ischemic Heart Disease). 8th International Congress on Holter and Noninvasive Electrocardiology (Ulm, Germany), 1998. 5.
- 2) 安武正弘, 草間芳樹, 横山広行, 賈 大林 : 虚血/再灌流傷害の発生機序 : Na/H交換系の役割及び神経体液性因子の影響. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 3) 早川弘一 : 心電学の将来—ホルター心電図を中心に (心電学の未来). 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.

(2) 教育講演 :

- 1) 加藤貴雄 : 心室期外収縮の薬物選択 : 不整脈薬物治療の進歩 : Sicilian Gambitの考え方. 日本循環器学会第107回東海・第92回北陸合同地方会, 1998. 10.

(3) シンポジウム :

- 1) 清野精彦, 島井新一郎, 今泉孝敬, 説田浩一, 竹田晋浩¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高野照夫¹⁾, 小川 龍²⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 麻酔科) : 急性心不全における肺うっ血の病態に関する考察. 第19回日本循環制御医学会総会, 1998. 5.
- 2) 新 博次 : 非弁膜症性心房細動の機序と薬物療法 (循環器疾患の最新の診断と治療). 第33回日本循環器管理研究協議会総会, 1998. 7.
- 3) 斎藤寛和 : 抗不整脈薬治療の面から (心不全と心房細動). 第5回心不全と不整脈フォーラム, 1998. 12.

(4) パネルディスカッション :

- 1) 古明地弘和, 荒牧琢己 : 当科における肝硬変の成因別実態. 第2回日本肝臓学会大会, 1998. 10.

(5) セミナー :

- 1) 清野精彦 : 腎移植と心障害. 第32回日本腎移植臨床研究会, 1999. 3.

(6) ワークショップ :

- 1) 勝田悌実, 張 雪君, 大須賀勝, 関山達也, 荒牧琢己 : 肺高血圧を合併した肝硬変症の臨床的背景—門脈肺高血圧症— (高度肺血圧の成因をめぐって). 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 3.

(7) 一般講演 :

- 1) Takayama H, Ohara T, Katoh T, Hayakawa H : Very transient change of high frequency components of QRS complex may be arrhythmogenic. The 23rd Annual Conference of International Society of Computerized Electrocardiology (Keystone, U.S.A), 1998. 4.
- 2) Ibuki C, Hoshino K, Ja D, Munakata K, Kusama Y, Hayakawa H : Catecholamine mediates the protec-

- tive effects of angiotensin-II preconditioning in rat hearts. XVI World Congress of International Society of Heart Research (Rhodes, Greek), 1998. 5.
- 3) Sutovsky I, Wu XY, Ohara T, Katoh T, Hayakawa H : Changes in SAECG parameters after slow or intermediate Na-channel blockers and the predictability of their therapeutic effects. 8th International Congress on Holter and Noninvasive Electrocardiology (Ulm, Germany), 1998. 5.
 - 4) Ono T, Saitoh H, Katoh I, Iwasaki U, Ohno N, Kobayashi Y, Homma H, Atarashi H, Katoh T, Kishida H, Hayakawa H : Is vasodepressor type included in entity of neurally mediated syncope? Evaluation of autonomic nervous function and drug efficacy. 8th International Congress on Holter and Noninvasive Electrocardiology (Ulm, Germany), 1998. 5.
 - 5) Ogata K, Shimizu S, Matsumoto S, Nomura A, Hirayama Y, Kobayashi Y, Saitoh H, Atarashi H, Katoh T, Hayakawa H : Mechanism of T wave alternans - relation between T wave alternans and monophasic action potential alternans. 8th International Congress on Holter and Noninvasive Electrocardiology (Ulm, Germany), 1998. 5.
 - 6) Yasutake M, Jia D, Kusama Y, Kishida H, Hayakawa H : Cardioprotective effects of a novel long-acting calcium antagonist pranidipine in rat. XVI World Congress of International Society of Heart Research (Rhodes, Greek), 1998. 5.
 - 7) Sutovsky I, Wu X-Y, Ohara T, Katoh T, Hayakawa H : Changes in SAECG parameters after slow or intermediate sodium channel blockers and the predictability of their therapeutic effects. XXVth International Congress on Electrocardiology, 39th International Symposium on Vectorcardiography (Budapest, Hungary), 1998. 6.
 - 8) Endoh Y, Atarashi H, Saitoh H, Kobayashi Y, Kishida H, Hayakawa H : Clinical significance of QTc dispersion after myocardial infarction. XXVth International Congress on Electrocardiology, 39th International Symposium on Vectorcardiography (Budapest, Hungary), 1998. 6.
 - 9) Sano J, Mizuno K, Ohkuni S, Ohmura K, Fukuma Y, Imaizumi T, Sakai S, Okamatsu K, Matsumoto S, Ohno N : Inhibitor of Coronary Artery Disease (CAD) with Green (Japanese) Tea. Is it the Japanese Paradox?. 18th World Congress of the International Union of Angiology (Tokyo), 1998. 9.
 - 10) Kashiwagi M, Seino Y, Tsukamoto H, Kaseki H, Takano T, Kishida H, Hayakawa H : Transdermal Estrogen Replacement Therapy Reduces Cutaneous Blood Flow, but Does Not Influence Flow-Mediated Vasodilation. 18th World Congress of the International Union of Angiology (Tokyo), 1998. 9.
 - 11) Sekiyama T, Aramaki T, Nagato T, Shimizu S, Kome-ichi H, Ohsuga M, Satomura K, Katsuta Y : Resolution of chronic hepatic encephalopathy following interventional obliteration of portosystemic shunt in patients with cirrhosis. World Congresses of Gastroenterology (Vienna, Austria), 1998. 9.
 - 12) Sakai S¹⁾, Ibuki C, Mizuno K¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Ohkuni S¹⁾, Takayama M, Imaizumi T, Uemura R, Sekido M, Tomita Y, Kusama Y, Munakata K, Takano T, Lee T²⁾ (¹⁾ The Department of Internal Medicine and Coronary Care Unit, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Yashio Junkanki Hospital) : Clinical and angiographic predictors of the coronary dissections in cutting balloon angioplasty. 18th World Congress of the International Union of Angiology (Tokyo), 1998. 9.
 - 13) Miyauchi Y, Kobayashi Y, Hayashi M, Kawaguchi N, Ohmura K, Ino T, Atarashi H : Identification of Slow Conduction Zone in Idiopathic Left Ventricular Tachycardia. American Heart Association 71st Scientific Sessions (Dallas), 1998. 11.
 - 14) Fukuma Y, Saitoh T, Tanabe H, Takahashi H, Oikawa K, Hanashi A, Tsukada Y, Sano J, Fukuma N, Kusama Y, Hishida H : Relationship between the interval of ischemic episodes and severity of ischemia in

- patients with variant angina. American Heart Association 71st Scientific Sessions (Dallas), 1998. 11.
- 15) Shimizu S, Osaka M, Ogata K, Endo Y, Hirayama H, Kobayashi Y, Saitoh H, Itoh T, Atarashi H, Katoh T : Organization of multiple wavelets on the process of termination evaluated by mutual information. American Heart Association 71st Scientific Sessions (Dallas), 1998. 11.
 - 16) Ogata K, Shimizu S, Nomura A, Hirayama Y, Kobayashi Y, Saitoh H, Atarashi H : Microscopic T wave alternans in relation to monophasic action potential alternans. American Heart Association 71st Scientific Sessions (Dallas), 1998. 11.
 - 17) Setsuta K¹⁾, Ohtsuka T¹⁾, Ogawa T¹⁾, Seimiya K, Seino Y (¹⁾ Hakujuikai Memorial General Hospital) : Serum Soluble Fas Antigen and Cardiac Troponin T in Patients with Chronic Heart Failure. American Heart Association 71st Scientific Sessions (Dallas), 1998. 11.
 - 18) Sano J, Okamatsu K¹⁾, Takano M¹⁾, Ohno N¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Tomimura M, Sakai S¹⁾, Ohmura K¹⁾, Fukuma Y¹⁾, Ohkuni S¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Chiba Hokuso Hospital) : Why Japanese Have Low Frequency of Coronary Artery Disease? Effects of Green Tea on Coronary Stenosis. American Heart Association 71st Scientific Sessions (Dallas), 1998. 11.
 - 19) Sakai S¹⁾, Mizuno K¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Ohno N¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Ohkuni S¹⁾, Kitamura K¹⁾, Imaizumi T¹⁾, Tanaka K¹⁾, Uemura R, Sekido M, Tomita Y, Kusama Y, Takayama M, Munakata K, Takano T, Hayakawa H (¹⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital) : Coronary angiographic findings in infarct-related lesion before and after stent implantation in patients with acute myocardial infarction. American Heart Association 71st Scientific Sessions (Dallas), 1998. 11.
 - 20) Nagano T, Sato R¹⁾, Matsuda H, Kitamura A²⁾, Aramaki T (¹⁾ Northwestern University, ²⁾ Masuika) : Getting mechanism of calcium permeable channels in guinea-pig hepatocytes. Biophysical Society 43rd Annual Meeting (Baltimore), 1999. 2.
 - 21) He Y, Tomita Y, Kusama Y, Munakata K, Kishida H, Hayakawa H : Genetic Determination of the Early Onset of Myocardial Infarction. American College of Cardiology 48th Annual Scientific Session (New Orleans), 1999. 3.
 - 22) Kitamura A¹⁾, Nagano T, Matsuda H, Aramaki T, Sato R²⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Masuika, ²⁾ Northwestern University) : Nitric oxide-mediated apoptosis in hepatocytes is associated with stimulation of K⁺ channels. Biophysical Society 43rd Annual Meeting (Baltimore), 1999. 2.
 - 23) Yashima M, Karagueuzian H¹⁾, Peng sheng C¹⁾, Mandel WJ¹⁾, Katoh T, Kishida H, Hayakawa H (¹⁾ Cedars-Sinai Medical Center) : Mechanism of Warmup Spontaneous Ventricular Fibrillation. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
 - 24) 小林義典, 井野 威, 宮内靖史, 川口直美, 大村和子, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一 : 高周波カテーテル・アブレーションの初期5年間の成績. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
 - 25) 斉藤 勉, 葉梨亜矢, 塚田弥生, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一 : 冠動脈疾患における予後規定因子としての Macrophage Colony Stimulating Factor (M-CSF). 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
 - 26) 関山達也, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 長野具雄, 張 雪君, 大須賀勝, 寺田秀人, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己 : 慢性肝炎患者における頭部MRI T1強調画像淡蒼球高信号の病態に関する検討. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
 - 27) 草間芳樹, 清宮康嗣, 本間 博, 斉藤 勉, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一 : ドブタミン負荷心エコーによる冠動脈病変予測の問題点 : 偽陽性例の検討. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
 - 28) 加藤貴雄, 淀川顯司, 早川弘一, 金沢正樹¹⁾, 清水 滋¹⁾ (¹⁾ NEC) : 新しいP波検出アルゴリズムを用いた変行伝導を伴う上室性期外収縮のコンピュータ診断. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.

- 29) 小野卓哉, 斎藤寛和, 岩崎雄樹, 小林義典, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 神経調節性失神の自律神経学的特色: 薬理学的自律神経機能検査による検討. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
- 30) 小谷英太郎, 関戸司久, 上村竜太, 酒井俊太¹⁾, 高山守正, 吉田博史, 高久 俊, 石井健輔, 桜井 薫, 内田高浩, 星野公彦, 安武正弘, 富田喜文, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫⁽¹⁾ 千葉北総病院内科): 左前下行枝完全閉塞症例の近位部病変真腔確認にperfusion balloonが有用であった1例. 第12回日本インターベンション学会関東甲信越地方会, 1998. 4.
- 31) 川嶋修司, 高山守正, 石井健輔, 高木啓倫, 高久 俊, 吉田博史, 上村竜太, 桜井 薫, 小谷英太郎, 関戸司久, 内田高浩, 星野公彦, 安武正弘, 富田喜文, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 木内 要, 子島 潤, 高野照夫: 左前下行枝近位部の多量閉塞血栓がIVUS操作により回旋枝起始部を亜閉塞したLupus Anticoagulant陽性の若年男性急性心筋梗塞の1例. 第83回日本シネアンジオ研究会, 1998. 4.
- 32) 清水秀一, 緒方憲一, 大坂元久, 小林義典, 斎藤寛和, 伊藤高司¹⁾, 新 博次, 早川弘一⁽¹⁾ (情報科学センター): 心房細動停止過程における細動波の空間的特性: 心房電位間相互情報量による検討. 第37回日本エム・イー学会大会, 1998. 5.
- 33) 緒方憲一, 野村敦宣, 清水秀一, 平山悦之, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 早川弘一: T波 Alternans の機序—心電図及び単相性活動電位波形の自動解析の可能性. 第37回日本エム・イー学会大会, 1998. 5.
- 34) 太田眞夫, 藤田進彦, 田中古登子, 富田喜文, 橋本英洋, 高野照夫, 荒牧琢己, 大竹 稔, 早川弘一: インスリン抵抗性改善薬の有効例・無効例の差についての臨床的検討. 第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 35) 酒井俊太, 子島 潤, 坪 宏一, 田寺 長, 中西一浩, 高山守正, 高野照夫, 李 武志¹⁾ (八潮循環器病院): 3年間経時的に経食道心エコー図法にて治癒経過を観察し得たB型大動脈解離の1例. 第71回日本超音波医学会総会, 1998. 5.
- 36) 吉田博史, 川口直美, 富田喜文, 草間芳樹, 高山守正, 関山達也, 勝田悌実, 岸田 浩, 荒牧琢己: 抗リン脂質抗体症候群と急性心筋梗塞を合併したステロイド長期投与SLEの1例. 第463回日本内科学会関東地方会, 1998. 5.
- 37) 小倉宏道¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 加藤貴雄, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室): 完全房室ブロックを伴う高齢者急性下壁心筋梗塞症例の検討. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 38) 岩崎雄樹, 小野卓哉, 大坂元久, 佐々部典子, 小林義典, 本間 博, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田浩, 早川弘一: 誘因別にみた神経調節性失神発症頻度の日内変動. 第18回ホルター心電図研究会, 1998. 6.
- 39) 池田真人, 小谷英太郎, 佐野純子, 小林義典, 斎藤寛和, 高山守正, 里村克章, 高野照夫, 岸田 浩, 早川弘一, 矢野明彦¹⁾ (1) 千葉大学寄生虫学教室): 心嚢液PCR法により診断されたToxoplasma pericarditisの1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第168回学術集会, 1998. 6.
- 40) 土田貴也, 磯田麻里, 加藤いすず, 富田喜文, 本間 博, 清野精彦, 岸田 浩, 荒牧琢己, 小谷英太郎¹⁾, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室): 心エコー図法および心筋生検により診断された心サルコイドーシスの1例. 第464回日本内科学会関東地方会, 1998. 6.
- 41) 田辺浩子, 齊藤 勉, 岸田 浩, 早川弘一: 糖尿病におけるMicrovascular Lesionの発現とMacrophage Colony Stimulating Factor (M-CSF) の関係. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 42) 齊藤 勉, 田辺浩子, 岸田 浩, 早川弘一: 冠動脈疾患における予後規定因子としての流血中Macrophage Colony Stimulating Factor. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 43) 酒巻雅典, 安武正弘, 古明地弘和, 小林義典, 関山達也, 荒牧琢己: 自己免疫性肝炎のステロイド治療中に顕在化した特発性血小板減少性紫斑病の1例. 第465回日本内科学会関東地方会, 1998. 7.
- 44) 本間 博, 草間芳樹, 大塚俊昭, 西垣龍太郎, 桜井 薫, 内田拓実, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: ドプタミン負荷心エコー法とIntegrated Backscatter法との併用による心筋viability評価. 第46回循環器負荷研究会, 1998. 8.

- 45) 西垣龍太郎¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 菅沼真澄²⁾, 七戸和博²⁾, 荒牧琢己^{(1) 病理学, 2) 実験動物管理室}): 糖尿病性血管症の発生におけるNOSとAGEの役割. 第39回日本脈管学会総会, 1998. 9.
- 46) 川俣博志¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 田島廣之¹⁾, 林 宏光¹⁾, 高橋修司¹⁾, 市川和雄¹⁾, 田島雄史¹⁾, 落 雅美²⁾, 田中茂夫²⁾, 高山守正, 高野照夫, 小川 龍³⁾, 吉川公彦⁴⁾, 打田日出夫⁴⁾ ^{(1) 放射線科, 2) 第二外科, 3) 麻酔科, 4) 奈良県立医科大学放射線科}): Penetrating Atherosclerotic Ulcerに起因する腹部大動脈瘤に対するstent-graft留置術. 第39回日本脈管学会総会, 1998. 9.
- 47) 小林義典, 相澤瑞穂, 岩崎雄樹, 森田典成, 林 明聡, 宮内靖史, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一, 高野照夫¹⁾ ^{(1) 集中治療室}): 心筋梗塞急性期に出現する心房細動の発生背景因子と薬物治療. 第6回不整脈薬物療法研究会, 1998. 9.
- 48) 張・雪君, 清水秀治, 長野具雄, 古明地弘和, 大須賀勝, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 勝田佛実, 荒牧琢己: Portopulmonary hypertensionの自験例における血行動態的特徴. 日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会第5回総会, 1998. 9.
- 49) 八島正明: Mechanism of the probabilistic nature of ventricular defibrillation threshold. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 50) 平山悦之: Effects of protein phosphatase and Kinase inhibitors on Ca²⁺ and Cl⁻ currents in guinea pig ventricular myocytes. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 51) 西垣龍太郎¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 河本陽子¹⁾, 西海けい子¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 川原清子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 菅沼真澄²⁾, 七戸和博³⁾, 荒牧琢己^{(1) 病理学第2, 2) 実験動物管理室}): 高血糖に伴う血管病変発症におけるAGE, iNOS, NF-kB発現の意義. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 52) 吉田太郎¹⁾, 高濱克也¹⁾, 林 宏光¹⁾, 石原真木子¹⁾, 中原 円¹⁾, 市川太郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 池田真人, 竹永清人, 荒牧琢己, 真々田裕宏²⁾, 田尻 孝²⁾, 恩田昌彦²⁾, 廣瀬洋一郎³⁾, 山中宣昭³⁾, 内藤善哉⁴⁾ ^{(1) 放射線科, 2) 第1外科, 3) 第1病理, 4) 第2病理}): 肝特異性MRI造影剤 (Feridex) による肝細胞腺腫の診断. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 53) 秋元敏雄¹⁾, 仲間一雄¹⁾, 勝田佛実, 足立眞理²⁾, 小林宣明²⁾, 林 則秀²⁾ ^{(1) 実験動物管理室, 2) 第4学年学生}): 二次性胆汁性肝硬変ラット作出に及ぼす飼料の影響. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 54) 網谷賢一¹⁾, 寺田秀人¹⁾, 中村俊彦¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 原 文男¹⁾, 荒牧琢己^{(1) 第二病院内科}): 胆石発作様の症状で発症した自己免疫性肝炎 (混合型) の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 55) 関口由紀子¹⁾, 菅谷寿理¹⁾, 五十嵐亜希¹⁾, 小松裕子¹⁾, 石井玲子¹⁾, 永瀬 学¹⁾, 与那嶺弘子¹⁾, 瀬川純子¹⁾, 平野美子¹⁾, 中村利枝¹⁾, 野原秀明¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 本間 博¹⁾, 黒田 肇¹⁾, 高橋 啓, 及川恵子, 富村正登, 桜井 薫, 福間長知, 斉藤 勉, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一 ^{(1) 生理機能センター}): 高齢者のtreadmill運動負荷試験成績. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 56) 佐藤淳子¹⁾, 松崎つや子¹⁾, 加藤政利¹⁾, 五十嵐亜希¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 本間 博¹⁾, 黒田 肇¹⁾, 大塚俊昭, 伊藤恵子, 菅原博子, 桜井 薫, 内田拓実, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一 ^{(1) 生理機能センター}): 心筋Integrated backscatter値の加齢および壁厚による影響. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 57) 菊池有紀子¹⁾, 石井庸介¹⁾, 上村竜太¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 川口直美¹⁾, 小倉宏道¹⁾, 関戸司久¹⁾, 池崎弘之¹⁾, 木内 要¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 岩崎雄樹, 富田喜文, 岸田 浩 ^{(1) 集中治療室}): 急性心筋梗塞を契機に見られた冠動脈左室瘻の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第169回学術集会, 1998. 9.
- 58) 木村祐子, 岩崎雄樹, 星野公彦, 富田喜文, 斎藤寛和, 岸田 浩, 早川弘一, 川口直美¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾ ^{(1) 集中治療室}): 急性のペーシング不全にステロイドパルス療法が奏功した心筋炎の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第169回学術集会, 1998. 9.

- 59) 大野則彦¹⁾, 松本 真¹⁾, 海老澤雅子¹⁾, 相澤瑞穂¹⁾, 張 静¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 大村和子¹⁾, 福岡祐美子¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 大國眞一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 小野卓哉, 野村敦宣, 斎藤寛和, 新 博次, 早川弘一 (1) 千葉北総病院内科): ジソピラミドが有効であった排便時失神の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第169回学術集会, 1998. 9.
- 60) 高山守正, 関戸司久, 上村竜太, 小谷英太郎, 酒井俊太, 今泉孝敬, 木内 要, 子島 潤, 富田喜文, 草間芳樹, 高野照夫: 梗塞発症24時間以後のTIMI 0病変への遅延期再灌流の至適時期はいつか?. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 61) 斉藤 勉, 田辺浩子, 高橋 啓, 葉梨亜矢, 塚田弥生, 福岡長知, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一: 冠動脈疾患における流血中Macrophage Colony Stimulating Factorの臨床的意義. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 62) 福岡長知, 及川恵子, 松田裕之, 富村正登, 福岡祐美子, 佐野純子, 雪吹周夫, 斉藤 勉, 宗像一雄, 岸田浩, 早川弘一: 心不全症例における圧受容体反射感受性障害が心室性期外収縮出現におよぼす影響. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 63) 高橋 啓, 斉藤 勉, 田辺浩子, 及川恵子, 富村正登, 福岡祐美子, 佐野純子, 福岡長知, 本間 博, 岸田浩, 早川弘一: 高血圧性心疾患における心筋肥大様式とTransforming Growth Factor. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 64) 小林利行, 斉藤 勉, 佐野純子, 岸田 浩, 早川弘一: 運動負荷におけるTransforming Growth Factor- β 1とLp (a). 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 65) 及川恵子, 福岡長知, 富村正登, 桜井 薫, 福岡祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田浩, 早川弘一: 運動負荷時の下肢易疲労性と圧受容体反射機能障害の関係. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 66) 上村竜太¹⁾, 高山守正¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 関戸司久¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 木内 要¹⁾, 安武正弘, 富田喜文, 草間芳樹, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室): Pressure Wireによる冠血行動態の定量評価と虚血性心電図変化の検討. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 67) 徳山権一, 木内 要, 上村竜太, 小谷英太郎, 川口直美, 小倉宏道, 関戸司久, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 早川弘一: 急性肺血栓栓症における先天性血栓性素因と抗リン脂質抗体の役割. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 68) 上村竜太¹⁾, 高山守正¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 関戸司久¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 木内 要¹⁾, 安武正弘, 富田喜文, 草間芳樹, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室): Pressure wireを用いた急性心筋梗塞の慢性期左室機能に影響を及ぼす治療(冠血行) 因子の検討. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 69) 北山浩気¹⁾, 遠藤康実, 木内 要, 遠藤孝雄, 新 博次, 早川弘一 (1) 十善会県南病院内科): 抗精神薬はQTc dispersionも延長させるか. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 70) 何 媛, 富田喜文, 内田高浩, 安武正弘, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一, 酒井俊太¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室): 急性心筋梗塞に対するステント留置後再狭窄とACE遺伝子多型およびecNOS遺伝子多型との関連について. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 71) 桜井 薫, 古明地弘和, 斉藤 勉, 大須賀勝, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 高齢者男性にみられた急性発症型肝炎の1例. 第251回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 9.
- 72) 及川恵子, 福岡長知, 田辺浩子, 高橋 啓, 富村正登, 福岡祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: 圧受容体反射機能障害を有する症例における運動負荷時易疲労性. 第4回日本心臓リハビリテーション学会総会, 1998. 9.
- 73) 関山達也, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 長野具雄, 張 雪君, 尹 明実, 大須賀勝, 寺田秀人, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 慢性肝疾患患者における頭部MRI M₁強調画像淡着球高信号の病態. 第6回肝病態生

- 理研究会, 1998. 10.
- 74) 福本裕子, 清野精彦, 富田喜文, 長江安洋, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一, 杉崎祐一¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学): 自然発症高血圧ラット Adriamycin心筋症, 腎症における apoptosisの発現と ACE 阻害剤の心腎保護効果に関する検討. 第36回日本痛治療学会総会, 1998. 10.
- 75) 林 明聡, 小林義典, 森田典成, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 川口直美, 大村和子, 平山悦之, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 房室結節エントリー性頻拍アブレーションにおける三尖弁輪—冠静脈洞間線状焼灼と電位ガイド下点状焼灼との急性効果の比較. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 76) 豊田隆志, 小原俊彦, 亀山幹彦, 呉 小怡, 宮内靖史, 大村和子, 小林義典, 本間 博, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: 僧帽弁逸脱症における臨床症状出現機序に関する非侵襲的検討. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 77) 高山英男¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 呉 小怡, 加藤貴雄, 早川弘一 (1) 千葉北総病院集中治療部): 心室性期外収縮発生直前におけるQRS波内高周波微小成分の一過性変化の検出. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 78) 緒方憲一, 野村敦宣, 清水秀一, 平山悦之, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: Microscopic T wave alternansと monophasic action potential alternansの関連. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 79) 呉 小怡, Sutovsky I, 加藤貴雄, 早川弘一: 高分解能心電図を用いたピルジカイニドの薬効薬理の検討. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 80) 淀川顕司, 加藤貴雄, 早川弘一, 金澤正樹¹⁾, 清水 滋¹⁾ (1) NEC): 心電図自動解析における上室性期外収縮の診断精度の向上. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 81) 森田典成, 新 博次, 金 桂淑, 林 明聡, 宮内靖史, 遠藤康実, 小林義典, 斎藤寛和, 岸田 浩, 早川弘一: 12誘導心電図における期外刺激よるQT dispersionの影響. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 82) 大村和子¹⁾, 小林義典, 森田典成, 林 明聡, 小林利行, 川口直美, 宮内靖史, 平山悦之, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一 (1) 千葉北総病院内科): 心房細動におけるI群抗不整脈薬による心房局所電位の変化: 特に粗動化の機序について. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 83) 岩崎雄樹, 小野卓哉, 小林義典, 本間 博, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: アルコール負荷 head up tilt testの有用性. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 84) 小野卓哉, 斎藤寛和, 岩崎雄樹, 大野則彦, 野村敦宣, 小林義典, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 神経調節性失神における薬理学的自律神経負荷試験法の意義. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 85) 小川晃生, 小原俊彦, 呉 小怡, 小林義典, 本間 博, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: 非虚血性心筋疾患における致死性心室性不整脈の予測因子の非侵襲的検討. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 86) 清水秀一, 緒方憲一, 大坂元久, 小林義典, 斎藤寛和, 伊藤高司¹⁾, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一 (1) 情報科学センター): 心房細動停止過程における細動波の空間的特性の変化: 心房電位間相互情報量による検討. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 87) 小倉宏道¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 相澤瑞穂¹⁾, 川口直美¹⁾, 木内 要¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 加藤貴雄, 早川弘一 (1) 集中治療室): 心房梗塞による心電図P波の形態変化: 右冠動脈近位部完全閉塞例における検討. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 88) 高山英男¹⁾, 田中啓治¹⁾, 田中 隆¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 子島 潤²⁾, 高野照夫²⁾, 加藤貴雄 (1) 千葉北総病院集中治療部, 2) 付属病院集中治療室): カリウムチャネル遮断薬MS-551が心筋梗塞急性期の循環動態に及ぼす影響. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 89) 加藤いすず, 斎藤 勉, 平山悦之, 関山達也, 高山守正, 岸田 浩, 荒牧琢己, 榎本達治¹⁾, 工藤翔二¹⁾ (1) 第4内科): Aprindine投与中に無顆粒球症の発症と間質性肺炎の憎悪をきたした1例. 第467回日本内科学

- 会関東地方会, 1998. 10.
- 90) 小谷英太郎¹⁾, 高山守正¹⁾, 田畑美弥子, 川俣博志²⁾, 高橋保裕¹⁾, 鈴木則仁¹⁾, 上村竜太¹⁾, 関戸司久¹⁾, 木内 要¹⁾, 斎藤 勉, 子島 潤¹⁾, 隈崎達夫²⁾, 高野照夫¹⁾, 宮武佳子³⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 放射線科, ³⁾ 都立駒込病院循環器科): 右室転移肝癌による切迫流出路閉塞に対し栄養血管である右冠動脈右室枝へのChemoembolizationにより治療した1例. 第13回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 1998. 10.
 - 91) 大野則彦, 岩崎雄樹, 松本 真, 緒方憲一, 野村敦宣, 大坂元久, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: T波の時間的変動: T波オルタナンスとQT variability indexの比較. 第15回時間循環器研究会, 1998. 10.
 - 92) 緒方憲一, 野村敦宣, 清水秀一, 大坂元久, 平山悦之, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: 心電図波形および単相性活動電位波形におけるMicroscopic electrical alternans自動解析の可能性. 第14回心電図信号情報処理ワークショップ, 1998. 10.
 - 93) 大坂元久, 山家智之, 斎藤寛和, 吉澤 誠, 新 博次, 伊藤高司, 加藤貴雄, 仁田新一, 岸田 浩, 早川弘一: 心拍・血圧・腎交感神経活動の相互関係の定量化: 非線形手法を用いて. 第14回心電図信号情報処理ワークショップ, 1998. 10.
 - 94) 松崎つや子¹⁾, 本間 博¹⁾, 佐藤淳子¹⁾, 水瀬 学¹⁾, 五十嵐亜希¹⁾, 加藤政利¹⁾, 中村利枝¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 黒田 肇¹⁾, 土田貴也, 富田喜文, 清野精彦, 岸田 浩, 荒牧琢己, 高野照夫 (¹⁾ 生理機能センター): Integrated backscatter法により治療効果が示されたサルコイドーシスの1例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第10回学術集会, 1998. 10.
 - 95) 張 雪君, 清水秀治, 古明地弘和, 長野具雄, 大須賀勝, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己, 秋元敏雄¹⁾ (¹⁾ 実験動物管理室): 二次性胆汁性肝硬変ラットにおける動脈血酸素化に果たす一酸化窒素の役割. 第2回日本肝臓学会大会, 1998. 10.
 - 96) 小野卓哉, 斎藤寛和, 加藤いすず, 岩崎雄樹, 緒方憲一, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: 神経調節性失神の誘因: 姿勢変化か姿勢保持か?. 第51回日本自律神経学会総会, 1998. 11.
 - 97) 加藤いすず, 小野卓哉, 斎藤寛和, 岩崎雄樹, 大野則彦, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: 神経調節性失神に対する薬物療法の指針: 薬理学的自律神経負荷試験を用いて. 第51回日本自律神経学会総会, 1998. 11.
 - 98) 大野則彦¹⁾, 水野杏一¹⁾, 斎藤寛和, 松本 真¹⁾, 小野卓哉, 新 博次, 大村和子¹⁾, 野村敦宣, 早川弘一 (¹⁾ 千葉北総病院内科): 排便時失神の機序の検討. 第51回日本自律神経学会総会, 1998. 11.
 - 99) 森田典成, 小林義典, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 八島正明, 平山悦之, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一, 宮本新次郎¹⁾, 田寺 長¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 井野 威¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院内科): 通常型心房粗動に対するカテーテルアブレーション. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
 - 100) 田畑美弥子, 古明地弘和, 斎藤 勉, 関山達也, 荒牧琢己, 小谷英太郎¹⁾, 高山守正¹⁾, 川俣博志²⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 放射線科): 右心室転移巣にChemoembolizationが奏功した肝細胞癌の1例. 第468回日本内科学会関東地方会, 1998. 11.
 - 101) 小倉宏道¹⁾, 阿部純子, 相澤瑞穂, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 森田典成, 林 明聡, 大野則彦, 高山英男, 小野卓哉, 田中古登子, 松本 真, 川口直美¹⁾, 宮内靖史, 八島正明, 平山悦之, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一 (¹⁾ 集中治療室): Pilsicainide投与後, 右脚ブロック, 右側胸部誘導のST上昇をきたした1例. 第15回東京不整脈フォーラム, 1998. 11.
 - 102) 小谷英太郎, 高山守正, 上村竜太, 関戸司久, 酒井俊太, 安武正弘, 木内 要, 今泉孝敬, 子島 潤, 富田喜文, 草間芳樹, 高野照夫: 急性心筋梗塞STENT治療における血栓溶解薬先行投与の再狭窄抑制効果. 第12回日本冠疾患学会学術大会, 1998. 11.
 - 103) 上村竜太, 高山守正, 小谷英太郎, 桜井 薫, 関戸司久, 酒井俊太, 内田高浩, 星野公彦, 安武正弘, 木内

- 要, 富田喜文, 子島 潤, 草間芳樹, 高野照夫: Pressure wireによる急性心筋梗塞の慢性期左室機能に影響を及ぼす冠血行因子の検討. 第12回日本冠疾患学会学術大会, 1998. 11.
- 104) 小谷英太郎, 高山守正, 田畑美弥子, 本間 博, 松崎つや子, 上村竜太, 関戸司久, 木内 要, 高野照夫, 荒牧琢己: 心エコーにて発見された転移性右室腫瘍による切迫流出路閉塞に対し, 右冠動脈右室枝へのChemoembolizationが有効であった1例. 第10回心臓超音波研究会, 1998. 11.
- 105) 本間 博, 草間芳樹, 大塚俊昭, 桜井 薫, 内田拓実, 清野精彦, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一, 平岡美紀¹⁾, 大原國俊¹⁾, 高橋卓夫²⁾, 工藤翔二²⁾ (¹⁾ 眼科, ²⁾ 第4内科): 心筋integrated backscatterによる心サルコイドーシス検出の試み. 第18回日本サルコイドーシス学会総会, 1998. 11.
- 106) 尹 明実, 里村克章, 張 雪君, 古明地弘和, 大須賀勝, 関山達也, 勝田悌実, 荒牧琢己: 肝疾患患者におけるSSM(丸山ワクチン)によるIFN- γ の産生について. 第19回日本臨床薬理学会, 1998. 11.
- 107) 小野卓哉, 斎藤寛和, 岩崎雄樹, 加藤いすず, 大野則彦, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: ムスカリンM₂受容体遮断剤の神経調節性失神に対する有効性. 第19回日本臨床薬理学会, 1998. 11.
- 108) 緒方憲一, 岩崎雄樹, 小野卓哉, 松本 真, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 抗不整脈薬の徐脈性催不整脈作用: 発現症例の臨床的検討から. 第19回日本臨床薬理学会, 1998. 11.
- 109) 相澤瑞穂, 岩崎雄樹, 新 博次, 森田典成, 林 明聡, 小林義典, 斎藤寛和, 早川弘一: 日本医科大学付属病院における β 遮断薬使用実態調査. 第19回日本臨床薬理学会, 1998. 11.
- 110) 相澤瑞穂, 小川晃生, 岩崎雄樹, 森田典成, 林 明聡, 小林義典, 新 博次, 早川弘一: β 遮断薬の使用実態(日本医科大学付属病院における調査). 第4回日本薬剤疫学会学術総会, 1998. 11.
- 111) 谷口宏史, 清水秀治, 古明地弘和, 福間長知, 関山達也, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 第2病棟): 多核巨細胞を伴った自己免疫性肝炎の1剖検例. 第252回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 12.
- 112) 岩崎雄樹, 宮内靖史, 福間長知, 小林義典, 本間 博, 斎藤寛和, 加藤貴雄, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一, 田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 第2外科): 植え込み型ホルター心電図が原因不明失神の診断に有用であった1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第170回学術集会, 1998. 12.
- 113) 山科育子, 佐野純子, 小林義典, 関山達也, 勝田悌実, 荒牧琢己, 川口信子¹⁾, 矢野明彦²⁾ (¹⁾ 飯田クリニック, ²⁾ 千葉大学寄生虫学教室): 大量胸水貯留を伴って発症したトキソプラズマ胸膜炎の1例. 第469回日本内科学会関東地方会, 1998. 12.
- 114) 大野則彦, 斎藤寛和, 岩崎雄樹, 松本 真, 緒方憲一, 野村敦宣, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 低心機能例におけるT波の時間的変動: T波alternansとQT variability indexの比較. 第5回心不全と不整脈フォーラム, 1998. 12.
- 115) 加藤浩司¹⁾, 高山守正¹⁾, 石井健輔¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 関戸司久¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 上村竜太¹⁾, 木内 要¹⁾, 草間芳樹, 岸田 浩, 高野照夫¹⁾, 油谷浩幸²⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 東京大学第三内科): 急性冠症候群の原因として推測されているいわゆるEmpty lipid pool像の自然経過を観察できた1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第170回学術集会, 1998. 12.
- 116) 高橋保裕, 高山守正, 関戸司久, 小谷英太郎, 上村竜太, 木内 要, 高野照夫, 徳山権一, 石井健輔, 高木啓倫, 藤田進彦, 笠神康平, 桜井 薫, 内田高浩, 安武正弘, 富田喜文, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩: 冠動脈造影にて観察されるempty lipid pool像の画像上の特徴と臨床背景. 第6回心血管内イメージング研究会, 1998. 12.
- 117) 清水秀治, 長戸孝道, 古明地弘和, 長野具雄, 上田洋一, 大須賀勝, 関山達也, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己, 奥村英正¹⁾ (¹⁾ 東京白十字病院): 超高齢者の肝機能に関する検討. 第33回日本成人病学会, 1999. 1.
- 118) 清水秀治, 長戸孝道, 古明地弘和, 長野具雄, 上田洋一, 大須賀勝, 関山達也, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己, 奥村英正¹⁾ (¹⁾ 東京白十字病院): 超高齢者の肝機能に関する検討. 日本高齢消化器医学会議, 1999. 1.

- 119) 緒方憲一, 斎藤寛和, 品田卓郎, 清水秀一, 大野則彦, 遠藤康実, 野村敦宣, 八島正明, 平山悦之, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: 活動電位持続時間はT波オルタナンスに関係するか?: 単相性活動電位での検討. 第9回体表心臓微小電位研究会, 1999. 2.
- 120) 淀川顕司, 高山英男, 加藤貴雄, 早川弘一: ウェーブレット変換法を用いた心室性期外収縮二段脈の機序に関する検討. 第9回体表心臓微小電位研究会, 1999. 2.
- 121) 谷口宏史, 清水秀治, 古明地弘和, 福岡長知, 大須賀勝, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 自己免疫性肝炎に多核巨細胞を認めた1剖検例. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.
- 122) 小野いすず, 小野卓哉, 斎藤寛和, 岩崎雄樹, 大野則彦, 松本 真, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田浩, 早川弘一, 本間 博¹⁾, 斉藤公一¹⁾ (¹⁾ 生理機能センター): 起立性洞頻脈症候群 (POTS) の自律神経学的特徴: 薬理学的自律神経負荷試験による検討. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.
- 123) 菊池有紀子, 金子晴生, 古明地弘和, 斉藤 勉, 関山達也, 荒牧琢己: 興味あるMechado-Joseph病の1例. 第470回日本内科学会関東地方会, 1999. 2.
- 124) 淀川顕司, 小野卓哉, 桜井 薫, 古明地弘和, 斉藤 勉, 大須賀勝, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 3年間で病理組織所見の明らかな伸展を認めたNon-alcoholic steatohepatitis (NASH) の1例. 第253回日本消化器病学会関東支部例会, 1999. 2.
- 125) 林 明聡, 小野卓哉, 小林義典, 斎藤寛和, 清野精彦, 新 博次, 岸田 浩, 早川弘一, 高野照夫: 著明な右室脂肪浸潤を認めた筋緊張性ジストロフィーの1剖検例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第171回学術集会, 1999. 2.
- 126) 堀江 格, 緒方憲一, 古明地弘和, 斉藤 勉, 荒牧琢己, 楠 進¹⁾ (¹⁾ 東京大学脳神経内科): Cytomegalovirusによる抗GM2抗体陽性Guillain-Barre症候群の1例. 第471回日本内科学会関東地方会, 1999. 3.
- 127) 清水秀一, 緒方憲一, 八島正明, 平山悦之, 大坂元久, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 心房細動停止過程における細動波の周波数解析. 第16回時間循環器研究会, 1999. 3.
- 128) 高山守正¹⁾, 関戸司久¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 上村竜太¹⁾, 川口直美¹⁾, 小倉宏道¹⁾, 池崎弘之¹⁾, 木内 要¹⁾, 安武安弘, 草間芳樹, 高野照夫¹⁾, 早川弘一 (¹⁾ 集中治療室): 心臓集中治療における急性心筋梗塞への冠動脈Stent治療の普及と第二世代Stentによる成績の向上. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.
- 129) 徳山権一¹⁾, 木内 要¹⁾, 上村竜太¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 川口直美¹⁾, 小倉宏道¹⁾, 関戸司久¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 清野精彦, 高野照夫¹⁾, 早川弘一 (¹⁾ 集中治療室): 急性肺血栓塞栓症の短期予後規定因子は何か?. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.
- 130) 坪 宏一¹⁾, 子島 潤¹⁾, 木内 要¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 島井新一郎, 早川弘一, 杉本忠彦²⁾, 佐々木建志²⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 海老名総合付属東病院): 急性大動脈解離160例の年代による治療法の変遷と予後の改善. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.
- 131) 高山英男, 小原俊彦, Sutovsky I, 呉 小怡, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: ウェーブレット変換を用いた心電図QRS高周波微小成分の検討—第3報: 心筋症における心室頻拍との関連性. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 132) 木内 要¹⁾, 高野照夫¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 早川弘一 (¹⁾ 集中治療室): 重症左心不全における右心機能の役割: 右心機能と神経液性因子. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 133) 説田浩一¹⁾, 清水秀一¹⁾, 小野卓哉¹⁾, 荒尾正人¹⁾, 宮武佳子¹⁾, 大塚俊昭²⁾, 小川 剛²⁾, 清野精彦, 高野照夫, 清宮康嗣, 岸田 浩, 早川弘一 (¹⁾ 都立駒込病院循環器科, ²⁾ 博慈会記念総合病院循環器内科): 慢性心不全症例における血清心筋Troponin T値と可溶性Fas及びFas Ligandとの関連: 潜在性心筋傷害はapoptosisと関係するか?. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 134) 及川恵子, 福岡長知, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一, 汲田伸一郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 放射線科): 心臓および末梢の交感神経機能が運動負荷時心拍反応へおよぼす影響: 心臓と骨格筋MIBGによる検討. 第63

回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.

- 135) 馬淵浩輔, 福岡長知, 及川恵子, 富村正登, 松田裕之, 福岡祐美子, 齊藤 勉, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田浩: Cardiac syndrome Xにおける運動負荷初期の心拍反応異常: 自律神経機能指標を用いた機序の検討. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 136) 及川恵子, 福岡長知, 宗像一雄, 馬淵浩輔, 松田裕之, 富村正登, 福岡祐美子, 佐野純子, 齊藤 勉, 岸田浩: 神経性調節機能の障害に伴う運動負荷時の下肢易疲労性: 圧受容体反射感受性を用いた検討. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 137) 福本裕子, 清野精彦, 富田喜文, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学): 自然発症高血圧ラット Adriamycin心筋症における apoptosisの発現と cilazaprilの心筋保護効果に関する検討. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 138) 小谷英太郎¹⁾, 高山守正¹⁾, 上村竜太¹⁾, 関戸司久¹⁾, 石井健輔¹⁾, 高木啓倫, 笠神康平, 藤田進彦, 酒井俊太, 内田高浩, 安武正弘, 今泉孝敬, 木内 要¹⁾, 富田喜文, 草間芳樹, 子島 潤¹⁾, 宗像一雄, 高野照夫¹⁾ (¹⁾集中治療室): 急性心筋梗塞STENT治療における血栓溶解薬先行投与の再狭窄予防効果. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 139) 齊藤 勉, 田邊浩子, 高橋 啓, 及川恵子, 馬淵浩輔, 富村正登, 葉梨亜矢, 哲翁・塚田弥生, 福岡祐美子, 佐野純子, 福岡長知, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一: 異型狭心症における冠動脈トームスと Macrophage Colony Stimulating Factor. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 140) 大野則彦, 斎藤寛和, 岩崎雄樹, 松本 真, 緒方憲一, 小野卓哉, 野村敦宣, 大坂元久, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: T波の時間的変動: T波オルタナンスと QT variability indexの比較. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 141) 加藤貴雄, 飯沼宏之¹⁾, 井上 博¹⁾, 大江 透¹⁾, 小川 聡¹⁾, 笠貫 宏¹⁾, 田邊晃久¹⁾, 早川弘一¹⁾ (¹⁾JALT-2実行委員会): 頻脈性不整脈に対する長期薬物治療に関する大規模前向き調査JALT-2報告: 第1報: 登録例の臨床背景と長期予後について. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 142) 大場崇芳¹⁾, 水野杏一¹⁾, 大國眞一¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 横山真也¹⁾, 松本 真¹⁾, 張 静¹⁾, 大村和子¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 田中啓治¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 竹永清人¹⁾, 早川弘一 (¹⁾千葉北総病院内科): 炎症性疾患は急性冠症候群の発症因子になりうるか?: 冠動脈内視鏡による検討. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 143) 小野卓哉, 斎藤寛和, 小野いすず, 岩崎雄樹, 大野則彦, 小林義典, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田浩, 早川弘一: 起立性洞頻脈症候群の自律神経学的特徴. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 144) 林 明聡, 小林義典, 森田典成, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一, 矢島俊己¹⁾, 新田 隆¹⁾, 田中茂夫¹⁾ (¹⁾第2外科): 植え込み型除細動器適応後の致死性心室性不整脈自然発生と非侵襲的EPSによる誘発不整脈重症度の経時的変動との関係. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 145) 笠神康平, 本間 博, 大塚俊昭, 齊藤 勉, 安武正弘, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: ドプタミン負荷心エコー図 (DSE) 偽陽性例と真陽性例の判別は可能か?. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 146) 本間 博, 草間芳樹, 大塚俊昭, 桜井 薫, 内田拓実, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: ドプタミン負荷心エコー法と integrated backscatterによる心筋 viability評価. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 147) 高山守正, 本間 博, 松崎つや子, 草間芳樹, 関戸司久, 小谷英太郎, 上村竜太, 桜井 薫, 内田高浩, 安武正弘, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫: 経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSM) における心筋コントラストエコー使用の有用性: 閉塞責任肥大心筋焼灼への至適中隔枝同定. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 148) ストフスキーイゴル, 呉 小怡, 高山英男, 加藤貴雄, 早川弘一: 抗不整脈薬 TDMにおける高分解能心電図の応用. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 149) 緒方憲一, 斎藤寛和, 清水秀一, 野村敦宣, 遠藤康実, 八島正明, 平山悦之, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: Ia群抗不整脈薬による再分極時間延長はマイクロボルトレベルのT波オルタナンスを増

- 大するか?。第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 150) 清野精彦, 大林完二¹⁾ (¹⁾ 大林内科医院 (Tokyo TROP T Trial代表)): 循環器救急外来における心筋 Troponin T 全血迅速判定パネルテストの効用と医療経済的評価: Tokyo Troponin T Trialの分析. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 151) 柏木睦美, 清野精彦, 塚本 浩, 高野照夫, 岸田 浩, 早川弘一: 閉経女性において経皮 estrogen 補充療法は皮膚血流量を減じ反応性充血を抑制するが, 血流依存性血管拡張反応には影響しない. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 152) 福間長知, 及川恵子, 馬淵浩輔, 松田裕之, 富村正登, 福間祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: 心不全患者における心室性期外収縮と圧受容体反射機能障害との関係. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 153) 福間長知, 及川恵子, 松田裕之, 富村正登, 福間祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一, 汲田伸一郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 放射線科): 圧受容体反射感受性低下による交感神経系の機能異常: 心臓および骨格筋 MIBG 検査を用いた検討. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 154) 田辺浩子, 斉藤 勉, 高橋 啓, 及川恵子, 馬淵浩輔, 富村正登, 葉梨亜矢, 哲翁・塚田弥生, 福間祐美子, 佐野純子, 福間長知, 岸田 浩, 早川弘一: Diabetic Microvascular Lesion 発現因子として Advanced Glycation End Products (AGE) と Macrophage Colony Stimulating Factor (M-CSF). 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 155) 高山守正, 草間芳樹, 中間 博, 富田喜文, 松崎つや子, 関戸司久, 小谷英太郎, 上村竜太, 桜井 薫, 内田高浩, 安武正弘, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫, 早川弘一: 閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術の臨床成績. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 156) 森田典成, 小林義典, 阿部純子, 相澤瑞穂, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 平山悦之, 斎藤寛和, 新 博次, 岸田 浩, 早川弘一: 通常型心房粗動における下位右房解剖学的峡部の伝導様式の検討: 特に procainamide の時計回転方向伝導に対する preferential effect について. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 157) 岩崎雄樹, 小林義典, 宮内靖史, 森田典成, 林 明聡, 川口直美, 斎藤寛和, 新 博次, 岸田 浩, 早川弘一, 井野 威¹⁾, 大村和子²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院内科, ²⁾ 千葉北総病院内科): 房室結節 fast pathway の心筋筋への複数入力: カテーテル・アブレーション施行前後の検討. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 158) 小野卓哉, 斎藤寛和, 小野いすず, 岩崎雄樹, 大野則彦, 小林義典, 中間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 神経調節性失神の機序: Arterial baroreflex or Cardiopulmonary baroreflex?. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 159) 上村竜太¹⁾, 高山守正¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 関戸司久¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 木内 要¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高野照夫¹⁾, 桜井 薫, 内田高浩, 安武正弘, 富田喜文, 草間芳樹 (¹⁾ 集中治療室): 急性心筋梗塞に対する急性期 PTCA 後の梗塞部壁運動障害回復と冠内圧動態との関係. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 160) 林 明聡, 小林義典, 宮内靖史, 森田典成, 岩崎雄樹, 川口直美, 大村和子, 平山悦之, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 房室結節リエントリー性類拍アブレーションにおける三尖弁輪: 冠静脈洞間線状焼灼と電位ガイド下点状焼灼との急性効果の比較. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 161) 酒井俊太¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 横山真也¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 松本 真¹⁾, 張 静¹⁾, 大村和子¹⁾, 大國真一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 清宮康嗣²⁾, 松田裕之²⁾, 野村敦宣²⁾, 今泉孝敬²⁾, 田中啓治²⁾, 早川弘一 (¹⁾ 千葉北総病院内科, ²⁾ 同集中治療部): 冠動脈インターベンション時の冠動脈内視鏡施行の意義に関する検討. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 162) 横山真也¹⁾, 水野杏一¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 松本 真¹⁾, 張 静¹⁾, 大村和子¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 大國真一¹⁾, 早川弘一 (¹⁾ 千葉北総病院内科): 急性冠疾患に関する黄色プラークの意義. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.

- 163) 岡松健太郎¹⁾, 水野杏一¹⁾, 大國眞一¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 大村和子¹⁾, 松本 真¹⁾, 横山真也¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 竹永清人¹⁾, 張 静¹⁾, 早川弘一 (1) 千葉北総病院内科) : Acute Coronary Syndrome (ACS) 発症における Coronary Artery Distensibility (DIST) の重要性. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 164) 佐々部典子¹⁾, 斎藤寛和, 大坂元久, 新 博次, 早川弘一 (1) NTT東京中央管理センター循環器科) : 全ての発作性心房細動 (PAF) は発症直前に副交感神経が興奮している? : 心拍変動スペクトル解析 (HRV) による分類と発症直前のRR間隔変化の検討から. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- (8) ファイアーサイドシンポジウム :
- 1) 新 博次 : III群薬と上室性不整脈. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
 - 2) 佐々部典子¹⁾, 斎藤寛和, 新 博次, 早川弘一 (1) NTT東京中央健康管理センター循環器科) : 発作性心房細動発症における自律神経の関与. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- (9) ブリーフ・レビュー :
- 1) 斎藤寛和 : TWA. 第9回体表心臓微小電位研究会, 1999. 2.
- (10) ミニコース :
- 1) 加藤貴雄 : 微小電位 (体表面心電図からわかること). 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
 - 2) 新 博次 : 発生機序の変遷 (不整脈治療の新たな展開 : 心房細動の基礎から臨床まで). 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- (11) 会長指定特別セッション :
- 1) 松本 真, 野村敦宣, 斎藤寛和, 岩崎雄樹, 亀山幹彦, 緒方憲一, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一 : T波オルタナンス判定基準の検討. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.

[付属病院老人科]

研究概要

老年者の糖尿病, 動脈硬化, 脂質代謝異常, 肥満および健康管理に関する臨床的研究を中心に行った。

糖尿病に関して, 1) 血糖日内変動の検討から, スルホニル尿素薬の投与方法やその際の血糖管理上の問題点および管理指標としての血糖値測定の臨床的意義を明かにした。2) 新たな糖尿病診断基準に対し, OGTT時の血糖曲線の型およびインスリン反応の検討から, その問題点を明らかにした。3) 糖尿病性腎症進展の早期指標としての尿中NAG指数測定の有用性を経年観察結果より明かにした。4) アカルボース投与による糖尿病患者の体脂肪への影響に関する検討を行った。

動脈硬化に関して, 1) 総頸動脈血流速の左右差の臨床的意義を検討した。2) 糖尿病患者における頭蓋内動脈病変と網膜症との関連を検討した。3) 頸動脈病変と頭蓋内動脈病変との関連を検討した。

脂質代謝異常に関して, 1) 高Lp (a) 血症が糖尿病患者の虚血性心疾患の促進因子であることを経年観察結果より明らかにした。脳梗塞に関しては両者の間に明確な因果関係が見られないことも同様の検討で明らかにした。2) 本邦における高脂血症治療の大規模臨床試験JLITおよびPATE研究に参画し, その成果を報告した。

肥満に関しては, 血清レプチン濃度と加齢, 性, 体脂肪分布, 腎機能, 糖尿病および動脈硬化性疾患との関連を明らかにした。

健康管理については, 潜在性心不全の発見における血中BNP測定の意義などの研究を中心に行った。

研究業績

論文

〔1997年度追加分〕

原著：

- 1) 永井信也, 安室尚樹¹⁾, 鈴木達也, 笹井恵子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平¹⁾ (健康管理科) : 人間ドックの事後指導の評価; 生活習慣病について. 日本人間ドック学会誌 1998; 13 (3) : 260-263.

研究報告書：

- 1) 大庭建三 : 老年者糖尿病の精神的健康調査—うつ状態と心気状態に関するアンケート調査による—. 長寿科学総合研究平成9年度研究報告 Vol4 老年病各論 1998; 46-54.

(1) 原著：

- 1) Oba K, Hirai M, Ajiro Y, Okazaki K, Sato S, Sasai K, Suzuki T, Nakano H, Metori S : Effect of age on urinary excretion of N-acetyl- β -D-glucosaminidase. J Nippon Med Sch 1999; 66 (1) : 33-36.
- 2) 笹井恵子, 大庭建三, 渡邊健太郎, 木川好章, 松浦良樹, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平 : 老年者尿路感染症におけるシプロフロキサシン投与時の血中濃度および尿中NAG (N-acetyl- β -D-glucosaminidase) 指数に関する検討. 化学療法の領域 1998; 14 (4) : 685-690.
- 3) 永井信也, 安室尚樹¹⁾, 鈴木達也, 笹井恵子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平¹⁾ (健康管理科) : 老人健康診査における隠れ肥満の検出と生活習慣病との関連について. 川崎市医師会雑誌 1998; (15) : 25-28.
- 4) 鈴木達也, 大庭建三, 中野博司, 妻鳥昌平 : 糖尿病患者の穿通枝系脳梗塞の危険因子としての高リポ蛋白質 (a) 血症の意義. 動脈硬化 1998; 25 (9・10) : 327-332.
- 5) 大庭建三, 中野博司, 笹井恵子, 鈴木達也, 妻鳥昌平 : 空腹時血糖値正常例におけるOGTTとインスリン値測定の意義について: 血糖曲線の型とインスリン反応からの検討. 糖尿病 1998; 41 (Suppl2) : A111-A113.
- 6) 大庭建三, 鯉淵 仁, 松浦良樹, 岡崎恭次, 網代由美子, 佐藤周三, 笹井恵子, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平 : スルホニル尿素薬療法中の老年者糖尿病の血糖管理: 朝食前血糖値測定の臨床的意義. 日老医誌 1999; 36 (2) : 122-127.
- 7) 中野博司, 佐藤周三, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 電極法による簡易血糖測定器2機種種の測定値に関する検討. 医学と薬学 1999; 41 (3) : 497-502.

(2) 綜説：

- 1) 中野博司, 清野精彦¹⁾ (1) 内科第1) : 頸動脈の肥厚・狭窄. Medicina 1998; 35 (5) : 863-865.
- 2) 大庭建三, 中野博司, 永井信也 : 栄養失調. カレントセラピー 1998; 16 (10) : 1741-1744.
- 3) 妻鳥昌平 : 老化と疾患. 茨城県医師会報 1998; (539) : 22-32.
- 4) 中野博司 : 老年者疾患の特徴. 茨城県医師会報 1998; (539) : 4-21.
- 5) 中野博司, 岡崎恭次, 妻鳥昌平 : 眼虚血症候群. 老化と疾患 1998; 11 (12) : 1786-1788.
- 6) 中野博司 : 耐糖能の加齢にともなう低下は, 機能障害によるのかインスリン感受性の低下によるのか. 老化と疾患 1999; 12 (1) : 14-14.
- 7) 大庭建三, 中野博司, 妻鳥昌平 : 21世紀に向けての老年医学: 大学における医療と教育と研究. 日本医科大学老人科. Geriatr Med 1999; 37 (1) : 15-20.
- 8) 鈴木達也 : 高齢者における無症候性心筋障害の指標であるT軸からの重症度評価. 老化と疾患 1999; 12 (2) : 135-136.
- 9) 大庭建三, 中野博司, 渡邊威之 : 老年者糖尿病の管理の実際. 日医大誌 1999; 66 (2) : 139-142.
- 10) 笹井恵子 : 超高齢者におけるインスリン抵抗性と, 代謝異常や冠動脈疾患との関連. 老化と疾患 1999; 12 (3) : 266-267.

(3) 研究報告書：

- 1) 大庭建三：老年糖尿病患者の肥満と食行動異常：「食行動質問表」による検討。長寿科学総合研究平成10年度研究報告 老年病各論 1999；pp34-41.

著 書

- 1) 網代由美子，犬塚有紀，笹井恵子，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：〔分担〕老年者の脂肪分布と動脈硬化促進因子との関係。動脈硬化症・血栓症・一次予防（監修代表 尾前照雄，編集代表 都島基夫），1998；pp257-264，森本誠文舎。
- 2) 妻鳥昌平：〔分担〕低血糖。新老年学（編集代表 折茂 肇），1999；pp865-871，東京大学出版。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 大庭建三：高齢者糖尿病の最近の知見。第2回高齢者糖尿病研究会，1998。9。

(2) 教育講演：

- 1) 妻鳥昌平：老化と疾患。茨城県社会保険講習会伝達講習会，1998。6。
- 2) 中野博司：老年者疾患の特徴。茨城県社会保険講習会伝達講習会，1998。6。
- 3) 大庭建三：高齢者糖尿病の管理。日本医師会生涯教育講座，1998。7。
- 4) 中野博司：中高年の健康管理；糖尿病の予防とその対策。日本医科大学医師会産業医研修会，1998。7。
- 5) 大庭建三：高齢者糖尿病の管理の実際。茅ヶ崎内科医講演会，1998。9。
- 6) 大庭建三：高齢者における生活習慣病の薬物療法。北陸大学薬学部卒業教育研修会（関東），1998。9。
- 7) 渡邊健太郎：頭蓋外頸動脈超音波検査ならびに経頭蓋の超音波ドップラー検査の概念と臨床的意義。第2回高齢者糖尿病研究会，1998。9。
- 8) 大庭建三：高齢者糖尿病の管理：インスリン療法を中心に。足立区薬剤師会講演会，1999。1。
- 9) 大庭建三：IGTと高齢者。第5回 Osaka Diabetes Forum 21世紀を見据えて，1999。2。

(3) シンポジウム：

- 1) Suzuki T, Nakano H, Oba K, Metori S：Lipoprotein (a) on cardiovascular disease in patients with type 2 diabetes- 4 years prospective study. 13th Internatinal Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism (Florence), 1998. 5.
- 2) 大庭建三，中野博司，笹井恵子，鈴木達也，妻鳥昌平：空腹時血糖値正常例におけるOGTTとインスリン値測定の意味について：血糖曲線の型とインスリン反応からの検討。「糖尿病の分類と診断」に関するシンポジウム，1998。6。

(4) 一般講演：

- 1) Okazaki K, Nakano H, Oba K, Sato S, Matsuura Y, Suzuki T, Metori S：The influence of acarbose on body composition in non-insulin-dependent diabetes mellitus. The 11th Asia-Oceania Congress of Endocrinology (Seoul), 1998. 4.
- 2) Oba K, Sato S, Okazaki K, Matsuura Y, Suzuki T, Nakano H, Metori S：Urinary N-acetyl- β -D-glucosaminidase activity predicts development of diabetic nephropathy. The 11th Asia-Oceania Congress of Endocrinology (Seoul), 1998. 4.
- 3) Sasai K, Nakano H, Oba K, Metori S：Relationship of leptin concentration to age, body distribution and cardiovascular disease. 8th International Congress on Obesity (Paris), 1998. 8.
- 4) 大庭建三，網代由美子，平井眞明，松浦良樹，佐藤周三，中野博司，妻鳥昌平：糖尿病性腎症の早期の指標としての尿中NAG指数：5年間の追跡調査による検討。第95回日本内科学会講演会，1998。4。

- 5) 中野博司, 渡邊健太郎, 岡崎恭次, 山口 祐, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平: 総頸動脈血流速左右比の臨床的有用性に関する検討. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
- 6) 鈴木達也, 木川好章, 都宮 伸, 矢野 誠, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 糖尿病患者の心・脳血管障害発症に及ぼす高Lp (a) 血症の影響について: 4年間の追跡調査. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
- 7) 中野博司, 渡邊健太郎, 岡崎恭次, 山口 祐, 網代由美子, 佐藤周三, 井川宗彦, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平: インスリン非依存糖尿病の頭蓋内動脈血流速: 網膜症合併の面よりの検討. 第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 8) 鈴木達也, 山口 寛, 水野重芳, 鯉淵 仁, 都宮 伸, 木川好章, 渡邊威之, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 糖尿病患者の心・脳血管障害発症に対する高Lp (a) 血症の影響について: 4年間の追跡調査の検討. 第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 9) 松浦良樹, 大庭建三, 岡崎恭次, 猪狩吉雅, 佐藤周三, 永井信也, 鈴木達也, 笹井恵子, 中野博司, 妻鳥昌平: グリベンクラミドの投与量と血糖コントロール: 血糖日内変動からの検討. 第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 10) 大庭建三, 木川好章, 松浦良樹, 岡崎恭次, 佐藤周三, 笹井恵子, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平: スルホニル尿素薬による老年糖尿病患者の血糖管理: 血糖コントロールの安全性の面からの検討. 第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 11) 岡崎恭次, 松浦良樹, 鯉淵 仁, 松村典昭, 矢野 誠, 安室尚樹, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: グリベンクラミドの至適投与法に関する検討: 朝1回投与と朝夕分割投与の血糖日内変動による検討. 第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 12) 笹井恵子, 犬塚有紀, 網代由美子, 仲地紀勝, 佐藤周三, 鈴木達也, 平井眞明, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 血清レプチン濃度と体格指数との関連: 糖尿病, 非糖尿病との比較検討. 第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 13) 笹井恵子, 松村典昭, 猪狩吉雅, 矢野 誠, 山口 祐, 松浦良樹, 網代由美子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 血清レプチン濃度に関する検討: 加齢変化および動脈硬化との関連の面より. 第30回日本動脈硬化学会総会, 1998. 6.
- 14) 中野博司, 鯉淵 仁, 渡邊健太郎, 木川 好章, 岡崎恭次, 井川宗彦, 佐藤周三, 鈴木達也, 大庭建三, 妻鳥昌平: 総頸動脈血流速左右比の臨床的有用性に関する検討: IMT, plaque, pulsatility indexとの関連の面より. 第30回日本動脈硬化学会総会, 1998. 6.
- 15) 鈴木達也, JLIT研究会: 日本脂質介入試験 (J-LIT) についての調査報告 (第5報): 登録された高脂血症患者5万例の4年間追跡結果の分析. 第30回日本動脈硬化学会総会, 1998. 6.
- 16) 渡邊健太郎, 岡崎恭次, 中野博司, 網代由美子, 山口 祐, 井川宗彦, 佐藤周三, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平: 頸動脈病変と頭蓋内動脈血流との関連に関する検討. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 17) 鈴木達也, 水野重芳, 山口 寛, 鯉淵 仁, 木川好章, 都宮 伸, 渡邊威之, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年者糖尿病患者の心・脳血管障害発症に及ぼす高Lp (a) 血症の影響について: 4年間の追跡調査. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 18) 笹井恵子, 猪狩吉雅, 犬塚有紀, 網代由美子, 井川宗彦, 佐藤周三, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 高齢者における血清レプチン濃度と体格指数との関係. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 19) 折茂 肇¹⁾, 井藤英喜²⁾, 大橋靖雄³⁾, 大内尉義⁴⁾, 斎藤 康⁵⁾, 石川俊次⁶⁾, 中村治雄⁶⁾, 大庭建三, 中野博司 (¹⁾ 東京都老人医療センター, ²⁾ 東京都老人医療センター-内分泌科, ³⁾ 東大生物統計学, ⁴⁾ 東大老年病, ⁵⁾ 千葉大第二内科, ⁶⁾ 防衛医大第二内科): 老年者においても心血管イベント発症は高コレステロール血症治療により抑制される: PATE研究. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 20) 佐藤周三, 大庭建三, 山口 祐, 岡崎恭次, 松浦良樹, 仲地紀勝, 平井眞明, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌

- 平：老年者糖尿病の早期腎症の指標としての尿中NAG指数：5年間の追跡調査による検討。第40回日本老年医学会学術集会，1998。6。
- 21) 鯉淵 仁，大庭建三，松浦良樹，猪狩吉雅，岡崎恭次，佐藤周三，鈴木達也，笹井恵子，中野博司，妻鳥昌平：スルホニル尿素薬療法中の老年糖尿病患者における朝食前血糖値測定の意義。第40回日本老年医学会学術集会，1998。6。
 - 22) 岡崎恭次，松浦良樹，松村典昭，渡邊健太郎，矢野 誠，犬塚有紀，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：老年者のグリベンクラミドの至適投与法に関する検討：1回投与と分割投与による血糖日内変動の比較。第40回日本老年医学会学術集会，1998。6。
 - 23) 永井信也，安室尚樹¹⁾，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平⁽¹⁾ 健康管理科)：老年者の潜在性心不全の診断；老人健康審査における血中BNP測定の有用性について。第40回日本老年医学会学術集会，1998。6。
 - 24) 高井恵美子，岡崎恭次，増谷祐人，西原亜希，猪狩吉雅，矢野 誠，木川好章，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：グリクラジドの至適投与法に関する研究：1回投与と分割投与による血糖日内変動の比較。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
 - 25) 松村典昭，鈴木達也，水野重芳，渡邊健太郎，山口 祐，渡邊威之，佐藤周三，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：ヘモクロマトーシスから2次性糖尿病を発症した溶血性貧血の1例。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
 - 26) 山口 寛，佐藤周三，鯉淵 仁，網代由美子，笹井恵子，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平，清水光義¹⁾，飯野靖彦¹⁾ (¹⁾ 内科第2)：急性肺胞出血を来した急性腎不全の1例。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
 - 27) 永井信也，板垣真一，安室尚樹¹⁾，伊藤正秀²⁾，森山雄吉²⁾ (¹⁾ 健康管理科，²⁾ 第二病院消化器病センター)：大企業における労働者の健康状態について；特に消化器疾患の最近の動向。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
 - 28) 板垣真一，永井信也，安室尚樹¹⁾，伊藤正秀²⁾，森山雄吉²⁾ (¹⁾ 健康管理科，²⁾ 第二病院消化器病センター)：職域の健康管理；中規模工場労働者の血液生化学データの経年変化。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
 - 29) 山口 寛，矢野 誠，岡崎恭次，猪狩吉雅，鯉淵 仁，佐藤周三，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：感染加療後，著明な縮小を認めた巨大肝嚢胞の1例。第28回日本老年医学会関東甲信越地方会，1998。9。
 - 30) 猪狩吉雅：ノスカール錠の中止後も長期間血糖下降が持続した1例。第2回高齢者糖尿病研究会，1998。9。
 - 31) 犬塚有紀：インスリン非依存型糖尿病の頭蓋内動脈血流速：網膜症合併の面よりの検討。第2回高齢者糖尿病研究会，1998。9。
 - 32) 松村典昭：糖尿病患者の心・脳血管障害発症に対する高Lp (a)血症の影響：4年間の追跡調査の検討。第2回高齢者糖尿病研究会，1998。9。
 - 33) 笹井恵子，網代由美子，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：血清レプチン濃度と体格指数および体脂肪分布との関係。第19回日本肥満学会，1998。12。
 - 34) 山口 祐，沖野恵子¹⁾，加藤真紀子¹⁾，上村竜太¹⁾，小倉宏道¹⁾，川口直美¹⁾，関戸司久¹⁾，池崎弘之¹⁾，木内要¹⁾，高山守正¹⁾，高野照夫¹⁾ (¹⁾ 集中治療室)：急性大動脈解離の発症に伴って発見され，多彩な症状を呈した褐色細胞腫の1例。第7回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，1998。12。
 - 35) 増谷祐人，岡崎恭次，西原亜希，高井恵美子，佐藤周三，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：高度脳動脈硬化を認めたにもかかわらず，臨床症状を欠いた2型糖尿病の1例。日本医科大学医学会第97回例会，1999。1。
 - 36) 山口 祐，岡崎恭次，矢野 誠，佐藤周三，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平，清水一雄¹⁾，山田宣孝²⁾ (¹⁾ 外科第2，²⁾ 病理第2)：褐色細胞腫様発作を呈し，副腎皮質および髄質過形成を認めた高齢者の1例。第29回日本老年医学会関東甲信越地方会，1999。3。

[第二病院内科]

研究概要

当内科では、循環器、腎臓病、消化器病について研究を行っている。本年度における主な研究内容は糖尿病に心拍変動の検討、慢性腎不全における加算平均心電図の検討、当科における慢性腎不全の統計学的検討、C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法の検討などである。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 村澤恒男, 森瀬景子, 網谷賢一, 東海林智子, 中村俊彦, 山口朋禎, 西垣朝裕, 伊藤達也, 増田康文, 雪吹周生, 上田征夫, 原文男：安定期維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図の変動：filtered QRSとfiltered P. 臨床透析 1998；14 (6)：885-890.
- 2) 山口朋禎, 雪吹周生, 原文男, 櫛方美文, 上田征夫, 川並汪一¹⁾, 黒木伸一²⁾ (1) 第二病院病理部, 2) 日本電気玉川健康管理センター)：急性心筋梗塞様心電図を呈し経過中に突然死をきたした肥大型心筋症の1例. 心臓 1998；30 (4)：69-73.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 網谷賢一, 寺田秀人, 中村俊彦, 村澤恒男, 原文男, 荒牧琢己¹⁾ (1) 付属病院第一内科)：胆石発作様の症状で発症した自己免疫性肝炎(混合型)の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 2) 櫛方美文, 山口朋禎, 高橋直人, 内田拓実, 寺田秀人, 村澤恒男, 上田征夫, 原文男, 山本 彰¹⁾, 佐藤雅史¹⁾ (1) 第二病院放射線科)：ステント挿入により著しい改善を見た大動脈症候群の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 3) 伊佐治剛, 村澤恒男, 森瀬景子, 網谷賢一, 東海林智子, 中村俊彦, 山口朋禎, 寺田秀人, 上田征夫, 原文男：付属第二病院人工透析室開設以来の血液浄化療法導入患者の分析について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 4) 宜保陽介, 内田拓実, 櫛方美文, 網谷賢一, 山口朋禎, 高橋直人, 寺田秀人, 村澤恒男, 上田征夫, 原文男：X線CT上冠動脈の歩行に一致して著明な石灰化が認められた虚血性心疾患の2例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 5) 津金香代子¹⁾, 吉岡美香¹⁾, 田中久美¹⁾, 中島由美子¹⁾, 菅原 通¹⁾, 新宅孝征¹⁾, 原文男 (1) 第二病院中央検査室)：血小板凝集能解析法についての検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 6) 板倉剛志¹⁾, 鈴木憲康¹⁾, 菅原 通¹⁾, 野本恵子¹⁾, 新宅孝征¹⁾, 原文男 (1) 第二病院中央検査室)：当検査室のける結核菌郡DNA検出法. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 7) 小伊藤保雄¹⁾, 丹羽美和¹⁾, 畑 哲¹⁾, 新宅孝征¹⁾, 原文男 (1) 第二病院中央検査室)：ドライシステムを採用した高感度EIA分析装置の有用性. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 8) 井出尚子¹⁾, 新岡明子¹⁾, 大竹佳世子¹⁾, 新宅孝征¹⁾, 原文男 (1) 第二病院中央検査室)：全自動便潜血免疫分析装置の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 9) 渡部紀子¹⁾, 大竹佳世子¹⁾, 荒井誠一¹⁾, 鈴木久美¹⁾, 越谷美由紀¹⁾, 山賀節子¹⁾, 西島美輝子¹⁾, 新宅孝征¹⁾, 原文男 (1) 第二病院中央検査室)：糖尿病患者におけるパワースペクトル分析の有用性. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 村澤恒男, 森瀬景子, 網谷賢一, 東海林智子, 中村俊彦, 山口朋禎, 増田康文, 上田征夫, 原文男：維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図の変動（続報）～遅延電位と除水率, 血液検査データとの関連. 第41回日本腎臓学会学術総会, 1998. 5.
- 2) 増田康文, 網谷賢一, 中村俊彦, 山口朋禎, 立石淳一, 村澤恒男, 上田征夫, 原文男, 須山出穂¹⁾, 角田誠之¹⁾, 伊藤正秀¹⁾ (第二病院消化器病センター)：慢性腎不全に合併した胃前庭部毛細血管拡張症 (GAVE) に内視鏡的高周波凝固治療が有効であった1例. 第43回日本透析医学会学術集会・総会, 1998. 5.
- 3) 村澤恒男, 森瀬景子, 網谷賢一, 東海林智子, 中村俊彦, 山口朋禎, 増田康文, 雪吹周生, 上田征夫, 原文男：安定期維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図の変動（続報）：糖尿病群と非糖尿病群との比較. 第43回日本透析医学会学術集会・総会, 1998. 5.
- 4) 中村俊彦, 網谷賢一, 東海林智子, 山口朋禎, 増田康文, 村澤恒男, 上田征夫, 原文男：僧帽弁形成術後の溶血による急性腎不全に対し23日間連日の血液浄化療法を施行, 離脱し得た1例. 第43回日本透析医学会学術集会・総会, 1998. 5.
- 5) 稲葉敦彦¹⁾, 門松 豊¹⁾, 村澤恒男¹⁾ (第二病院人工透析室)：TFW15に対するアルブミン保持能力の基礎実験. 第43回日本透析医学会学術集会・総会, 1998. 5.
- 6) 網谷賢一, 雪吹周生, 山口朋禎, 高橋直人, 櫛方美文, 村澤恒男, 原文男, 山下康夫¹⁾, 家所良夫¹⁾, 日置正文¹⁾ (第二病院外科)：巨大Valsalva洞動脈瘤による冠動脈血流障害から無症候性心筋梗塞を発症した若年女性の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第168回学術集会, 1998. 6.
- 7) 梶原景子¹⁾, 佐藤雅史¹⁾, 菊竹晴子¹⁾, 菊池真理¹⁾, 南部春江¹⁾, 高間都支¹⁾, 高橋雅之¹⁾, 山本 彰¹⁾, 雪吹周生, 日置正文²⁾ (第二病院放射線科, ²⁾ 第二病院外科)：未破裂の左Valsalva洞動脈瘤の1例. 第413回日本医学放射線学会関東地方会, 1998. 6.
- 8) 鈴木憲康¹⁾, 板倉剛志¹⁾, 野本恵子¹⁾, 菅原 通¹⁾, 新宅孝征¹⁾, 原文男¹⁾ (第二病院中央検査室)：当院における腸管出血性大腸菌O26 (VT2産生) の検出事例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 9) 野尻陽子¹⁾, 木村陽一¹⁾, 加藤篤衛¹⁾, 三浦祐理子¹⁾, 伊藤文行¹⁾, 櫛方美文, 原文男, 山本 彰²⁾, 高橋政之²⁾ (第二病院皮膚科, ²⁾ 第二病院放射線科)：上大静脈症候群 (SVCS) の1例. 日本皮膚科学会第741回東京地方会, 1998. 10.
- 10) 山本 彰¹⁾, 梶原景子¹⁾, 高間都支¹⁾, 左藤雅史¹⁾, 原文男, 日置正文²⁾ (第二病院放射線科, ²⁾ 第二病院外科)：心筋虚血を伴った左バルサルバ洞動脈瘤の1例. 第3回神奈川SPECT研究会, 1998. 10.
- 11) 中村俊彦, 網谷賢一, 東海林智子, 山口朋禎, 寺田秀人, 増田康文, 村澤恒男, 原文男, 駒崎敏昭¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 馬越正道¹⁾ (第二病院消化器病センター)：頻回の血漿交換療法により救命し得た劇症肝炎 (typeB 亜急性型) の1例. 第31回神奈川県消化器病医学会総会, 1998. 12.

[多摩永山病院内科]

研究概要

当科では, 虚血性心疾患, 不整脈, 高血圧症, 低血圧症, うっ血性心不全などの循環器疾患を中心に, 肝疾患, 糖尿病, 気管支喘息についても臨床研究を行っている。

循環器病学では, 虚血性心疾患に関して, 1) 心筋梗塞患者の心筋 viability を薬剤および運動負荷試験による RI を用い評価し, 24時間ホルター心電図を用いた心拍変動パワースペクトル解析により, 臨床的に検討, 2) 心筋虚血の新しい評価法として doppler flow wire を用いての冠血流予備能の検討, 3) 血管攣縮性狭心症における運動負荷 ST 変化の特徴の検討を行っている。不整脈に関する研究として, 1) 電気生理学的アプローチによる各種不整脈発生機序の検討, 2) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療の応用, 3) 心房細動に対するアブレーション治療

の研究, 4) 抗不整脈の薬理学的効果の検討を行っている。

肝臓病学では, C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法について研究を行っている。

また, 薬剤科と共同して, 1) より安全な治療法確立のため気管支拡張薬, 抗不整脈薬などの使用にあたりTDM (Therapeutic Drug Monitoring) を臨床に取り入れ, 治療薬剤の選択と患者のフォローアップのシステム化, 2) 糖尿病薬 (スルフォニル尿素系製剤, α -グルコシダーゼ阻害剤など) の病態による選択と服薬指導, 3) 気管支喘息患者に対し治療面からの検討をはじめ, 季節変動その他の因子から発生機序の検討を行い, ピーク・フロー・メーターを貸与しそれによる自己管理を徹底させている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Ino T, Tadera T, Miyamoto S, Tanaka K, Ohno T, Nagasawa K, Hayakawa H¹⁾ (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Ventriculoatrial block during atrioventricular nodal reentrant tachycardia utilizing multiple retrograde pathway. J Cardiovasc Electrophysiol 1998 ; 9 : 1206-1213.
- 2) Sasaki S¹⁾, Koumi S²⁾, Sato S³⁾, Murata M¹⁾, Nagasawa K, Sakurai E⁴⁾, Hikichi N⁴⁾, Hayakawa H²⁾ (1) Department of Pharmacy, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital, 2) 1st Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Molecular Pharmacology and Biological Chemistry, Northwestern University Medical School, 4) Department of Pharmaceutics, Tohoku College of Pharmacy) : Kinetics of buccal absorption of propafenone single oral loading dose in healthy humans. Gen Pharmac 1998 ; 31 : 589-591.
- 3) 田寺 長, 井野 威, 宮本新次郎, 田中古登子, 長澤紘一, 小林義典¹⁾, 新 博次¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 付属病院第1内科) : 左側副伝導路例における心房細動発生気序の検討—冠静脈洞 Splitted Potentialとの関連. 臨床心臓電気生理 1998 ; 21 : 209-217.
- 4) 北本 清¹⁾, 秦 哉²⁾, 長澤紘一, 北島武之³⁾, 森 皎祐⁴⁾, 西山敬二⁵⁾, 和田孝雄⁶⁾, 小泉和正⁷⁾, 長澤俊彦¹⁾ (1) 杏林大学医学部第1内科, 2) 杏林大学医学部高齢医学, 3) 東京慈恵会医科大学付属第3病院腎高血圧科, 4) 国家公務員等共済組合連合会立川病院内科, 5) 国立病院東京災害医療センター, 6) 稲城市立病院内科, 7) 稲城市立病院検査科) : 高齢者高血圧症に対する塩酸Benidipineの臨床的有用性に関する検討—多施設共研究—. 新薬と臨床 1998 ; 47 (6) : 991-1008.
- 5) 鈴木 健, 大津文雄, 山中博之, 真鍋辰哉, 長澤紘一 : 経皮的ニトログリセリン製剤連用時におけるニトログリセリン放出様式と耐性の関係. 医学と薬学 1998 ; 40 (2) : 319-327.
- 6) 柴田明佳¹⁾, 鈴木純子¹⁾, 田所久子¹⁾, 佐藤知枝¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健 (1) 多摩永山病院中央検査室) : 酵母様真菌鑑別倍地ATG生寒天倍地の評価. 私立医科大学臨床衛生検査技師会誌KAMRADEN 1998 ; 27 : 14-17.
- 7) 中込明裕, 長澤紘一 : 昇圧薬 (特集: 循環器薬と薬剤干渉). 循環器科 1998 ; 44 (3) : 233-237.
- 8) 佐々木聡¹⁾, 渋谷正則¹⁾, 村田正弘¹⁾, 小海信一, 井野 威, 長澤紘一 (1) 多摩永山病院薬剤科) : メキシレチンのTDM—有効治療域の検討. TDM研究 1998 ; 15 : 211-217.
- 9) 佐々木聡¹⁾, 堀川佳津美¹⁾, 村田正弘¹⁾, 小谷英太郎, 井野 威, 長澤紘一 (1) 多摩永山病院薬剤科) : 抗不整脈薬の処方実態調査. 薬品相互作用研究 1998 ; 21 : 133-138.
- 10) 井野 威, 田寺 長, 宮本新次郎, 田中古登子, 大野忠明, 長澤紘一 : 特異な心電図所見を呈した上室性頻拍の1例. Therapeutic Research 1998 ; 19 (4) : 56-65.

(2) 総説:

- 1) 鈴木 健 : サイアザイド系, K保持性 利尿薬 (連載: ICUにおける心血管作動薬16). 集中治療 1998 ; 10

(9) : 989-991.

2) 井野 威:救急薬 硫酸アトロピン (ICUにおける心血管作動薬22). 集中治療 1998 ; 10 (12) : 1338-1340.

著 書

1) 平田清貴¹⁾, 村田正弘¹⁾, 長澤絏一¹⁾ 多摩永山病院薬剤科): 注意すべき薬の飲み合わせ. 安心して薬を使用するために, 1999 ; 文光堂.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 井野 威, 田寺 長, 大野忠明, 田中古登子, 宮本新次郎, 長澤絏一: 頻拍中に心房興奮様式および周期が複雑に変化した房室結節リエントリー頻拍の1例. 第10回臨床不整脈研究回, 1998. 1.
- 2) 鈴木 健, 山本 剛, 宮本新次郎, 山中博之, 藤田信輔, 長澤絏一: 多変量解析法による運動負荷心血行動態指標と心筋梗塞予後の検討. 第95回日本内科学会, 1998. 4.
- 3) 柴田明佳¹⁾, 鈴木純子¹⁾, 田所久子¹⁾, 佐藤知枝¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健¹⁾ 多摩永山病院中央検査室): 酵母真菌鑑別倍知ATG生寒天地の有用性. 第47回日本臨床衛生検査学会, 1998. 5.
- 4) 井上 淳¹⁾, 千葉逸子¹⁾, 菅野由紀¹⁾, 藤木直美¹⁾, 福田節子¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健¹⁾ 多摩永山病院中央検査室): 1gM性抗マウスr-グロブリン抗体の1例. 第47回日本臨床衛生検査学会, 1998. 5.
- 5) 柴田明佳¹⁾, 田所久子¹⁾, 鈴木純子¹⁾, 佐藤知枝¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健¹⁾ 多摩永山病院中央検査室): 酵母真菌分離鑑別培地の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 6) 佐藤綾子¹⁾, 鈴木摩理¹⁾, 手寫浩恵¹⁾, 阿部純子, 佐藤寛之¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健¹⁾ 多摩永山病院中央検査室): ST上昇発作中20秒以上にわたる心停止による失神発作が出現, 全経過がHolter心電図に記録できた異形狭心症の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 7) 山中博之, 鈴木 健, 山本 剛, 中込明裕, 藤田信輔, 田中邦夫, 長澤絏一: 急性心筋梗塞における¹²³I-BMIPP/²⁰¹Tl心筋 dual SPECT集積乖離の臨床的意義: 心拍変動による検討. 第46回日本心臓病学会, 1998. 9.
- 8) 田中邦夫, 鈴木 健, 青木 聡, 山本 剛, 中込明裕, 小谷英太郎, 高野仁司, 国見聡宏, 内田高浩, 大場崇芳, 藤田進彦, 長澤絏一: 心筋梗塞患者における非責任血管の重要性: Doppler flow wire法による検討. 第39回日本脈管学会総会, 1998. 9.
- 9) 磯田麻里, 阿部純子, 壬生倉徹志, 藤田進彦, 山本 剛, 青木 聡, 中込明裕, 雪吹周生, 藤田信輔, 井野威, 鈴木 健, 長澤絏一: Holter心電図記録中の自然発作においてSA-blockによる失神を来し, CPRにて救命できた異形狭心症の1例. 第169回日本循環器関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 10) 壬生倉徹志, 雪吹周生, 藤田信輔, 山本 剛, 宮本新次郎, 青木 聡, 山中博之, 中込明裕, 井野 威, 鈴木健, 長澤絏一: 冠攣縮性狭心症における運動負荷時ST変化の特徴. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
- 11) 鈴木摩理¹⁾, 手寫浩恵¹⁾, 久保田稔¹⁾, 佐藤綾子¹⁾, 佐藤寛之¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健¹⁾ 多摩永山病院中央検査室): 心房細動例に対するパルスジェネレーター組込み型ホルター心電計の有用性. 第14回循環器情報処理研究会, 1998. 11.
- 12) 森田典威¹⁾, 小林義典¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 林 明聡¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 八島正明¹⁾, 平山悦之¹⁾, 齋藤寛和¹⁾, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾, 宮本新次郎, 田寺 長, 遠藤康実, 井野 威, ¹⁾ 付属病院第1内科): 通常型心房粗動に対するカテーテルアブレーション. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
- 13) 壬生倉徹志, 雪吹周生, 藤田信輔, 山本 剛, 宮本新次郎, 青木 聡, 山中博之, 中込明裕, 井野 威, 鈴木健, 長澤絏一: 冠攣縮性狭心症における運動負荷心電図の特徴. 第33回日本成人病学会, 1999. 1.
- 14) 壬生倉徹志, 藤田信輔, 田寺 長, 遠藤康実, 山中博之, 中込明裕, 雪吹周生, 井野 威, 鈴木 健, 長澤絏

一：心臓 β 受容体ダウンレギュレーションが原因と推測された無症候性褐色細胞腫の1例。第470回日本内科学会関東地方会，1999. 2.

- 15) 大野忠明，山中博之，田寺 長，藤田信輔，井野 威，鈴木 健，長澤紘一：ヒト抗マウス抗体（HAMA）による腫瘍マーカー及び甲状腺ホルモン異常値のため診断に困窮した1例。日本医科大学医学会第97回例会，1999. 2.

2. 内科学第二講座

[付属病院第2内科]

研究概要

内科学第二講座は神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております。神経内科では脳血管障害の病態解明および治療を主要テーマとしております。研究にあたっては動物実験に基づく基礎的なアプローチと、実際の診断・治療に基づく臨床的なアプローチの両面から取り組んでいます。

実験的研究：脳虚血急性期の病態および治療の研究では各種の脳虚血モデルを作成してオートラジオグラフィ法やマイクロアッセイ法およびMRI (MRS) を用いて局所の脳循環代謝を測定し行っている。また、免疫組織化学や in situ hybridization 法を用いてストレス蛋白や遺伝子の発現についても研究を進めている。遅発性神経細胞死、虚血耐性現象や慢性脳循環不全の病態も重要な研究課題の一つである。その他、興奮性アミノ酸拮抗薬、Ca²⁺拮抗薬および免疫抑制薬などの各種の治療薬剤の効果についても検討を行っている。

臨床：脳卒中急性期の早期診断・早期治療に取り組んでおり、MRIを用いたDiffusion, Perfusion Weighted Image による診断法の開発に力を注いでいる。また、脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆などの痴呆性疾患に対し、PET・MRI・SPECTなどの画像診断器機を利用した研究を活発に行っている。さらに脊髄小脳変性症などの変性疾患における歩行時の脳循環代謝の変動についての検討もなされている。

腎臓内科では従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え、糸球体腎炎に対するサイトカインの役割についても研究を進めており、さらに厚生省の腎傷害研究班の一員として多嚢胞腎の調査研究も行っている。また、平成元年度より開始された腎移植は現在症例数も増加し、その内容も充実しつつある。また、腎クリニックや北総病院内科に教室員の派遣を行い、各施設での診療・研究に貢献している。

以上、当教室では神経および腎臓内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの論文を発表している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Katayama Y, Fukuchi T, McKee A, Terashi A : Effect of hyperglycemia on pyruvate dehydrogenase activity and energy metabolites during ischemia and reperfusion in gerbil brain. *Brain Res* 1998 ; 788 (1, 2) : 302-304.
- 2) Fukuchi T, Katayama Y, Kamiya T, McKee A, Kashiwagi F, Terashi A : The effect of duration of cerebral ischemia on brain pyruvate dehydrogenase activity, energy metabolites, and blood flow during reperfusion in gerbil brain. *Brain Res* 1998 ; 792 (1) : 59-65.
- 3) Igarashi H, Katayama Y, Tsuganezawa T, Yamamuro M, Terashi A, Owan C : Three-Dimensional Anisotropy Contrast (3DAC) Magnetic Resonance Imaging of the Human Brain. : Application to Assess Wallerian Degeneration. *Internal Medicine* 1998 ; 37 (8) : 662-668.
- 4) Nakamura T¹⁾, Minamisawa H, Katayama Y, Ueda M, Terashi A, Nakamura K¹⁾, Kudo Y¹⁾ (¹⁾ Laboratory of Cellular Neurobiology, School of Life Science, Tokyo University of Pharmacy and Life Science) : Increased Intracellular Ca²⁺ Concentration in the Hippocampal CA1 Area during Global Ischemia and Reperfusion in the Rat : A Possible Cause of Delayed Neuronal Death. *Neuroscience* 1998 ; 88 (1) : 57-67.
- 5) Ueda M, Katayama Y, Kamiya T, Mishina M, Igarashi H, Okubo S, Senda M, Iwabuchi K, Terashi

- A : Hereditary spastic paraplegia with a thin corpus callosum and thalamic involvement in Japan. *Neurology* 1998 ; 51 (6) : 1751-1754.
- 6) Komaba Y, Senda M, Ohyama M, Mori T, Ishii K, Mishina M, Kitamura S, Terashi A : Bilateral representation of language function Agenesis of corpus callosum by Wada and PET activation. *J Neuroimaging* 1998 ; 8 (4) : 246-249.
 - 7) Osono E, Kurihara S, Hayama N, Sakurai Y, Ohwada K, Onoda N, Takeuchi M, Tomizawa T, Komaba Y, Hashimoto K, Matsunobu S, Yoneshima H, Iino Y : Insertion/Deletion Polymorphism in Intron 16 of the ACE Gene and Left Ventricular Hypertrophy in Patients With End-Stage Renal Disease. *Am J Kidney Dis* 1998 ; 32 (5) : 725-730.
 - 8) Komaba Y, Kitamura S, Terashi A : Effect of Prostaglandin E₁ on cerebral blood flow in patients with chronic cerebral infarction. *Internal Medicine* 1998 ; 37 (10) : 841-846.
 - 9) Mori T, Asano T, Matsui T, Muramatsu H, Ueda M, Kamiya T, Katayama Y, Abe T : Intraluminal increase of superoxide anion following transient focal ischemia in rats. *Brain Res* 1999 ; 816 (2) : 350-357.
 - 10) Sakuraba H, Itoh K, Shimamoto MS, Utsumi K, Kase R, Hashimoto Y, Ozawa T, Ohwada Y, Imatake G, Eguchi M, Furukawa T, Schepers U, Sandhoff K : GM2 gangliosidosis AB variant. Clinical and biochemical studies of a Japanese patients. *Neurology* 1999 ; 52 (2) : 372-377.
 - 11) Ueda M, Hamamoto M, Nagayama H, Otsubo K, Nito C, Miyazaki T, Terashi A, Katayama Y : Susceptibility to neuroleptic malignant syndrome in Parkinson's disease. *Neurology* 1999 ; 52 (4) : 777-781.
 - 12) Utsumi K, Itoh K, Kase R, Shimamoto M, Yamamoto N, Katagiri Y, Tanoue K, Kotani M, Ozawa T, Oguchi T, Sakuraba T : Urinary excretion of the vitronectin receptor (integrin $\alpha v \beta 3$) in patients with Fabry disease. *Clin Chi Acta* 1999 ; 279 (1-2) : 55-68.
 - 13) Utsumi K, Sakuraba H, Iino Y, Katayama Y : Urinary excretion of the vitronectin receptor (integrin $\alpha v \beta 3$) in patients with non-insulin dependent diabetes mellitus. *Clin Exp Nephrol* 1999 ; 3 (1) : 41-45.
 - 14) 久金 誠, 片山泰朗, 五十嵐博中, 赫 彰郎 : 実験的脳虚血モデルにおける magnetite の MRI 造影剤としての有用性に適投与時期の検討. *日医大誌* 1998 ; 65 (2) : 135-139.
 - 15) 石渡明子, 北村 伸, 永積 惇, 赫 彰郎 : 加齢に伴う記憶障害と早期アルツハイマー病の脳血流量 ARG 法 SPECT による検討. *日医大誌* 1998 ; 65 (2) : 140-147.
 - 16) 津金澤俊和, 五十嵐博中, 北村 伸, 赫 彰郎 : 広汎な leuko-araiosis をみる非痴呆症例の白質における拡散係数と拡散異方性に関する検討. *日医大誌* 1998 ; 65 (2) : 167-172.
 - 17) 久金 誠, 片山泰朗, 五十嵐博中, 赫 彰郎 : 実験的脳虚血モデルにおける magnetite の MRI 造影剤としての有用性 病巣検出時期の検討. *日医大誌* 1998 ; 65 (3) : 201-206.
 - 18) 駒場祐一, 北村 伸, 赫 彰郎 : 視床脳血管障害患者の remote effect についての考察 : Positron emission tomography を用いて. *日医大誌* 1998 ; 65 (3) : 207-212.
 - 19) 小林克史, 北村 伸, 赫 彰郎 : 皮質下梗塞に伴う失語症における局所脳血流についての検討. *日医大誌* 1998 ; 65 (3) : 213-219.
 - 20) 桂研一郎, 片山泰朗, 赫 彰郎, Siesjo BK¹⁾ (¹⁾ ルンド大学実験脳研究所) : 高血糖の脳虚血後のエネルギー代謝および細胞内 pH に及ぼす影響. *Brain Hypoxia* 1998 ; 12 : 83-91.
 - 21) 大橋和史, 大須賀恵美子, 新 博次, 加藤貴雄, 小原俊彦, 神谷達司, 坂本静樹, 小林正文, 他29名 : 直接閲覧実施上の問題点の調査と分析 : 模擬モニタリング・監査より. *Jpn J Clin Pharmacol Ther* 1998 ; 29 (3) : 457-470.
 - 22) 西山 稜, 片山泰朗 : 両側総頸動脈狭窄モデルにおける正常血圧及び高血圧ラットの脳梁白質病変の検討. *日医大誌* 1998 ; 65 (6) : 450-458.

- 23) 高崎雄司, 長野具雄, 北村 裕, 橋本網子, 宗像一雄, 落 雅美, 江本直也, 岸田 浩, 山中宣昭, 飯野靖彦, 弦門昭彦, 内藤善哉, 後藤 真: 《Conference Room》早老症に重症狭心症を合併し, 冠動脈バイパス術を施行した1例. 内科 1999; 83 (1): 145-153.
 - 24) 赫 彰郎, 福内靖男, 水野美邦, 岩田 誠: 脳梗塞後遺症に伴う精神症候に対する塩酸チアプリド (グラマールR) の有効性, 安全性の検討: 特に多発小梗塞型脳血管障害 (ラクナ型, ビンスワンガー型) を中心に多施設共同研究. Geriat. Med 1999; 37 (2): 295-307.
 - 25) 大藺英一, 栗原 怜, 大和田一博, 桜井裕成, 小野田教高, 竹内正至, 葉山修陽, 飯野靖彦, 式田竜司, 佐治守, 米島秀雄, 高橋秀実, 大国寿士: 外来維持血液透析患者の上気道における細菌学的検討. 透析会誌 1999; 32 (3): 185-190.
- (2) 綜説:
- 1) 片山泰朗, 五十嵐博中, 赫 彰郎: 脳梗塞急性期の病態からみた治療の考え方. (特集: 脳梗塞急性期の治療). Geriat. Med 1998; 36 (5): 663-670.
 - 2) 片山泰朗, 神谷達司, 赫 彰郎: 神経膠細胞, 脳虚血と脳循環障害のメディエータ. 現代医療 1998; 30 (増刊2): 1397-1402.
 - 3) 片山泰朗, 萩原万里子: 脳血管障害患者の痴呆の進展予防のために 1) 薬物療法. Clinical Pharmacotherapy 1998; 4 (4): 346-352.
 - 4) 酒寄 修, 北村 伸: 脳室周囲異常信号域の臨床的意義. (特集: 2 脳梗塞診断の問題点). 臨床成人病 1998; 28 (6): 679-684.
 - 5) 河邊満彦, 飯野靖彦: CAPD療法 (特集: 目でみる診断法・治療法I). 臨床成人病 1998; 28 (11): 1417-1420.
 - 6) 鎌野千佐子, 松信精一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 透析患者と高脂血症, 動脈硬化症. 透析患者と生活習慣病への対策. (特集: 透析患者と生活習慣病). 治療 1998; 80 (7): 2129-2136.
 - 7) 赫 彰郎, 上田雅之: Gustave Roussy (1874-1948). Cli. Neurosci 1998; 16 (11): 1336.
 - 8) 北村 伸, 赫 彰郎: 痴呆. 神経治療 1998; 15 (4): 345-347.
 - 9) 北村 伸: Millard-Gubler syndrome (橋底部外側症候群). 診断と治療 1998; 86 (増刊号 (Suppl)): 106.
 - 10) 北村 伸: 神経内科領域における脳血流量量の有用性. 千葉核医学研究会誌 1998; 14 (1): 51-57.
 - 11) 五十嵐博中, 片山泰朗: diffusion MRI. (特集: 目でみる診断法・治療法2). 臨床成人病 1998; 28 (12): 1458-1459.
 - 12) 臼田和弘, 片山泰朗: 群発頭痛. (特集: 頭痛の診断と治療). 診断と治療 1998; 86 (6): 887-891.
 - 13) 飯野靖彦, 本田佳子: 合併症を伴う透析患者の栄養指導: 高脂血症. 臨床透析 1998; 14 (14): 1903-1909.
 - 14) 飯野靖彦: ブロックセンターにおける献腎移植の現状と問題点. 今日の移植 1998; 11 (6): 823-826.
 - 15) 葉山修陽: Cholesterol embolization. 日医大誌 1998; 65 (6): 496.
 - 16) 葉山修陽: 腎症 (腎性貧血) のエリスロポエチン療法. 臨床成人病 1998; 28 (11): 1427-1428.
 - 17) 王 恒維, 松信精一, 飯野靖彦: Liddle 症候群. 腎と透析 1998; 45 (1998増刊号): 386-389.
 - 18) 柏木哲也: 目でみるトレーニング. 問題156. medicina 1998; 35 (5): 930-933.
 - 19) 柏木哲也: 目でみるトレーニング. 問題161. medicina 1998; 35 (7): 1279-1282.
 - 20) 柏木哲也: 目でみるトレーニング. 問題169. medicina 1998; 35 (9): 1639-1642.
 - 21) 柏木哲也: 目でみるトレーニング. 問題172. medicina 1998; 35 (10): 1827-1831.
 - 22) 片山泰朗, 上田雅之: 抗リン脂質抗体症候群. Cli. Neurosci 1999; 17 (1): 108.
 - 23) 片山泰朗, 上田雅之, 神谷達司, 五十嵐博中, 北村 伸, 赫 彰郎: 血管性痴呆; ビンスワンガー型痴呆の成因. (特集: 老年期痴呆における最近の知見). 老年期痴呆 1999; 13 (1): 57-65.
 - 24) 片山泰朗, 勝又俊弥, 中沢 勝: 脳卒中慢性期の脳循環測定とその臨床的意義. (特集: 脳卒中診断における脳

循環測定). 脳と循環 1999 ; 4 (1) : 41-44.

- 25) 神谷達司, 片山泰朗: 脳梗塞は小さくとも脳血流低下領域は広汎に及ぶ. Medical Practice 1999 ; 16 (4) : 688.
 - 26) 桂研一郎, 片山泰朗: 脳血管障害の尿 (特集: 尿からわかる成人病). 臨床成人病 1999 ; 29 (2) : 161-166.
 - 27) 北村 伸: 脳血管性痴呆とアルツハイマー病の治療. 日医大誌 1999 ; 66 (1) : 52-55.
 - 28) 北村 伸, 赫 彰郎: ビンスワンガー型脳血管性痴呆の成因と治療 : 新しい観点から. 老年精神 1999 ; 10 (1) : 16-21.
 - 29) 飯野靖彦, 浅野 泰: 腎移植ネットワークの現状. Medical Practice 1999 ; 16 (1) : 143-146.
 - 30) 葉山修陽: 急性腎不全. 医薬ジャーナル 1999 ; 35 (3) : 75-78.
 - 31) 柏木哲也: 目でみるトレーニング. 問題179. medicina 1999 ; 36 (1) : 165-168.
 - 32) 柏木哲也, 飯野靖彦: 移植の適応と問題点になる合併症. 今日の移植 1999 ; 12 (1) : 28-34.
- (3) 症例報告 :
- 1) 雨宮志門, 上田雅之, 大沢弘和, 神谷達司, 片山泰朗, 赫 彰郎: Sulpiride投与が副腎機能不全悪化の誘因と考えられた汎下垂体機能低下症の1例. 神経治療 1998 ; 15 (5) : 527-530.
 - 2) 雨宮志門, 濱本 真, 永山 寛, 大久保誠二, 片山泰朗: Diffusion weighted MRIで経過を観察し得たWernicke脳症. 神経内科 1998 ; 49 (4) : 379-381.
 - 3) 鎌野千佐子, 松信精一, 飯野靖彦, 片山泰朗, 北村博司, 山中宣昭: 難治性ネフローゼ症候群: 2回目の腎生検にて診断された巣状糸球体硬化症の1例. 腎臓 1998 ; 21 (2) : 101-107.
 - 4) 有井一正, 神谷達司, 片山泰朗, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医大脳神経外科): 意識障害にて発症し, 垂直注視麻痺を認め, 両側傍正中視床梗塞症候群と診断した1症例. 日医大誌 1998 ; 65 (4) : 332-335.
 - 5) 北村 伸, 駒場祐一: 小脳梗塞を伴ったEmery-Dreifuss型筋ジストロフィー. 神経内科 1998 ; 49 (Suppl) : 30-31.
 - 6) 白田和弘, 平出智晴, 本橋典久, 野尻陽子, 上田雅之, 勝又俊弥, 駒場祐一, 山室 学, 福地孝明, 五十嵐博中, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 診断に苦慮した髄膜脳炎の1例. 脳神経 1999 ; 51 (3) : 277-287.

著 書

- 1) Igarashi H, Tsuganezawa T, Katayama Y, Yamamuro M, Terashi A, Nakada T : [分担] Three-dimensional anisotropy contrast magnetic resonance imaging of the human pyramidal tract. Current progress in functional brain mapping : Science and applications ; V. Selected aspects of brain mapping. (Yuasa T, Prichard W, Ogawa S, eds), 1998 ; pp165-166, Nishimura/Smith-Gordon and Company Limited, London.
- 2) Hisakane M, Katayama Y, Igarashi H, Terashi A : [共著] The usefulness of MRI with superparamagnetic iron oxide particles in superacute stage cerebral ischemia in rats. Current progress in functional brain mapping : Science and applications ; V. Selected aspects of brain mapping. (Yuasa T, Prichard W, Ogawa S, eds), 1998 ; pp145-146, Nishimura/Smith-Gordon and Company Limited, London.
- 3) Tsuganesawa T, Igarashi H, Kitamura S, Katayama Y, Terashi A : [分担] Brain water diffusion coefficients and diffusion anisotropy in patients with leuko-sraiosis. Current progress in functional brain mapping : Science and applications ; V. Selected aspects of brain mapping. (Yuasa T, Prichard W, Ogawa S, eds), 1998 ; pp149-150, Nishimura/Smith-Gordon and Company Limited, London.
- 4) Katsura K, Siesjo BK : [分担] Acid-Base Metabolism in Ischemia. pH and Brain Function ; Chapter 26 (Kaila K, Ransom BR, eds), 1998 ; pp563-582, wiley-Liss, Inc., London.
- 5) 片山泰朗, 有井孝子: [分担] 脳梗塞後遺症の薬物療法の実例 14 脳血栓症 (穿通枝系): アニラセタム投与により脳血流の改善を認めた1例. 脳梗塞後遺症の薬物療法指針 (平井俊策監修), 1998 ; pp81-84, ヴァンメデ

イカル。

- 6) 片山泰朗, 有井孝子: [分担] 脳梗塞後遺症の薬物療法の実際 29 脳血栓症 (皮質枝系): アニラセタム投与により意欲低下の改善を認めた1例. 脳梗塞後遺症の薬物療法指針 (平井俊策監修), 1998; pp132-134, ヴァンメディカル.
- 7) 坂本静樹, 酒寄 修, 北村 伸, 赫 彰郎: [分担] 脳梗塞後遺症の薬物療法の実際 9 脳梗塞発症後, 意欲低下と抑うつ気分を呈した1例. 脳梗塞後遺症の薬物療法指針 (平井俊策監修), 1998; pp60-63, ヴァンメディカル.
- 8) 南澤宏明: 2.低体温療法: 基礎的実験と虚血性神経細胞障害. 低体温療法 病態から患者管理まで (山本保博, 寺本 明編), 1998; pp11-21, へるす出版.
- 9) 飯野靖彦: [分担] A.生命と水Na. 水とNaの臨床 (丸茂文昭, 飯野靖彦編集), 1998; pp1-11, 治療と診療社.
- 10) 北村 伸, 酒寄 修, 越 泰彦: [単著] 6 ウエルニッケーコルサコフ症候群とその類縁疾患. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 1998; ワールドプランニング.
- 11) 北村 伸: [分担] 無症候性脳出血. 変貌する脳卒中 無症候性脳梗塞をめぐって (尾前照雄, 亀山正邦監修), 1998; p271, メディカルレビュー社.
- 12) 北村 伸: [分担] PET. 脳卒中の画像診断 (山口武典, 橋本信夫編), 1998; pp120-127, 中外医学社.
- 13) 北村 伸, 赫 彰郎: [分担] 無症候性脳梗塞. 脳卒中臨床マニュアル (端 和夫, 上出延治監修), 1998; pp645-654, Springer.
- 14) 北村 伸: [分担] 脳血管障害の機能的診断PET. 日常臨床の為の脳血管障害シリーズII 脳血管障害の診断 (矢崎義雄監修), 1999; pp231-240, 現代医療社.
- 15) 山室 学: [分担] MRS 2.脳血管障害の機能的診断. 脳血管障害の診断 (矢崎義雄監修), 1999; pp241-252, 現代医療社.
- 16) 長尾毅彦, 上田雅之, 濱本 真: [分担] 急性期脳血管障害. 脳血栓と脳塞栓の鑑別. 臨床医のための核医学検査ガイドブック (西村恒彦編), 1999; pp46-48, プリメド社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) Kitamura S, Terashi A: Vascular dementia and Alzheimer's disease. Summer School '98 of the international society of cerebral blood flow and metabolism, 1998. 6.
- 2) 北村 伸: 脳血管性痴呆と白質病変. 第23回日本脳卒中学会 (ランチョンセミナー), 1998. 6.
- 3) 北村 伸: 痴呆性疾患とニューロイメージング. 第22回日本脳神経CI学会総会 (ランチョンセミナー), 1999. 1.
- 4) 片山泰朗: 脳血管障害 脳梗塞の治療の問題点. 第4回日本医師会生涯教育講座, 1999. 2.

(2) シンポジウム:

- 1) 雨宮志門, 濱本 真, 永山 寛, 大久保誠二, 五十嵐博中, 赫 彰郎: 高齢者の非弁膜性心房細動合併脳塞栓症急性期における低容量ヘパリン療法. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
- 2) 有井孝子, 神谷達司, 有井一正, 片山泰朗, 赫 彰郎: ラット局所脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506の神経保護作用の検討: therapeutic windowの検討. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
- 3) 片山泰朗: 脳虚血における脳エネルギー代謝とピルビン酸脱水素酵素 (PDH) 活性. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.

(3) 一般講演:

- 1) Kamiya T, Katayama Y, Muramatsu H, Ueda M, Terashi A: Immunosuppressant FK506 alters HSP72

- expression and prevents delayed neuronal death in the gerbil hippocampus. 28th Annual Meeting Society for Neuroscience (Los Angeles, U.S.A.), 1998. 11.
- 2) 上田雅之, 神谷達司, 片山泰朗, 村松浩美, 赫 彰郎, 森 隆: 虚血性白質病変に対する免疫抑制剤FK506による治療の試み: ラット慢性脳循環不全モデルを用いた検討. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
 - 3) 神谷達司, 上田雅之, 片山泰朗, 赫 彰郎: 脳虚血における免疫抑制剤治療の試み: Gerbil一過性前脳虚血モデルにおけるFK506の神経保護効果の検討. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
 - 4) 五十嵐博中, 上田雅之, 片山泰朗, 津金澤俊和, 赫 彰郎: ラット慢性脳循環不全モデルにおける白質diffusion anisotropyの経時的観察. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
 - 5) 滝 保彦, 神谷達司, 勝又俊弥, 臼田和弘, 大坪孝一, 山室 学, 坂本静樹, 片山泰朗: 真性多血症に合併した脳静脈血栓症の1例. 第463回日本内科学会関東地方会, 1998. 5.
 - 6) 葉山修陽, 金子朋広, 須賀 優, 飯野靖彦, 赫 彰郎, 竹内正至, 栗原 怜: ネフローゼ症候群における血管内皮細胞マーカーについて. 第41回日本腎臓学会学術総会, 1998. 5.
 - 7) 鶴岡秀一, 杉本孝一, 藤村昭夫, 飯野靖彦, 赫 彰郎, Schwartz G J: 代謝性アシドーシスは家兎髄質外側内帯(OMCDi)のH-ATPase依存性の水素イオン分泌を増加させる. 第41回日本腎臓学会学術総会, 1998. 5.
 - 8) 鶴岡秀一, 杉本孝一, 藤村昭夫, 飯野靖彦, 赫 彰郎, Schwartz G J: 炭酸脱水酵素(CA)2,4型アイソフォームのネフロン内局在と代謝性アシドーシスの影響. 第41回日本腎臓学会学術総会, 1998. 5.
 - 9) 河邊満彦, 大沢弘和, 橋本和政, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎: GFR64ml/minから4.2ml/minまでの腎機能障害患者における骨survey. 第41回日本腎臓学会学術総会, 1998. 5.
 - 10) 内海甲一, 久保田憲, 加瀬良一, 伊藤孝司, 新本美智枝, 斉藤 博, 葉山修陽, 飯野靖彦, 桜庭 均: 糖尿病患者における尿中ビトロネクチレセプター(VNR, インテグリン $\alpha v \beta 3$)排泄の増加. 第41回日本腎臓学会学術総会, 1998. 5.
 - 11) 荒木俊彦, 中田悠皓, 赫 彰郎: 内頸動脈狭窄症におけるDIAMOX負荷ARG-SPECT所見について. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
 - 12) 上田 雅之, 濱本 真, 永山 寛, 宮崎徳蔵, 片山泰朗, 赫 彰郎: パーキンソニズム患者における悪性症候群易発症性: 髄液モノアミン代謝物による検討. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
 - 13) 神谷達司, 上田雅之, 片山泰朗, 赫 彰郎: Gerbil一過性前脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506の神経保護作用の検討: 遺伝子発現に及ぼす効果. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
 - 14) 北村純一, 赫 彰郎: 長ループ反射と感覚誘発電位による脳卒中片麻痺の手指の機能回復の検討. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
 - 15) 桂研一郎, 片山泰朗, 赫 彰郎: Acidosisの脳虚血細胞障害に対する影響: 虚血再灌流時のpH, energy metabolismへの影響. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
 - 16) 北村 伸, 酒寄 修, 駒場祐一, 中澤 勝, 赫 彰郎: アルツハイマー病患者の脳血流量の経時的変化についての検討. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
 - 17) 駒場祐一, 酒寄 修, 増谷祐之, 北村 伸, 赫 彰郎: Alzheimer病における側頭頭頂部の脳血流低下の診断的意義. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
 - 18) 三品雅洋, 大山雅史, 北村 伸, 赫 彰郎, 石井賢二, 千田道雄: [^{11}C]flumazenil PETによるベンゾジアゼピン受容体分布定性画像の至適スキャン時間と臨床応用. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
 - 19) 野本達也, 井田雅博, 長尾毅彦, 萩原万里子, 横地正之, 赫 彰郎: 脳梗塞急性期におけるMRI拡散画像の診断的有用性: T2強調画像との比較検討. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
 - 20) 長尾毅彦, 北見聡章, 野本達也, 横地正之, 赫 彰郎: 二次予防療法のワルファリンは減量可能か?. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
 - 21) 大久保誠二, 濱本 真, 永山 寛, 雨宮志門, 宮崎徳蔵, 赫 彰郎: 動脈原性脳塞栓と脳血栓患者におけるプ

- ロトロンビンフラグメントF1+2値の検討. 第39回日本神経学会総会, 1998. 5.
- 22) 飯島真一, 小原功裕, 桶上 駿, 黒沢範夫, 斉藤貴之, 添田耕司, 江崎昌俊, 岡本一弘, 吉村一義, 田部井薫, 飯野靖彦: 離島(伊豆大島)透析室, 臨床工学士派遣と支援対策の経験. 第43回日本透析医学会学術集会総会, 1998. 5.
- 23) 田畑一秀, 市川 匠, 松原美由紀, 工藤美美, 石井清美, 若澤定子, 橋本和政, 大沢弘和, 河邊満彦, 大藪英一, 松信精一, 飯野靖彦, 赫 彰郎: BODY MASS INDEX (BMI) からみた体水分率の検討. 第43回日本透析医学会学術集会総会, 1998. 5.
- 24) 大藪英一, 栗原 怜, 大和田一博, 桜井裕成, 小野田教高, 米島秀雄, 葉山修陽, 松信精一, 青木 宏, 飯野靖彦: 外来維持血液透析患者の上気道常在病原性菌の検討. 第43回日本透析医学会学術集会総会, 1998. 5.
- 25) 若澤 定子, 松原美由紀, 工藤美美, 石井清美, 市川 匠, 田畑一秀, 橋本和政, 大沢弘和, 河邊満彦, 大藪英一, 松信精一, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 高齢外来維持透析患者のdry weight決定における検討. 第43回日本透析医学会学術集会総会, 1998. 5.
- 26) 藤井克彦, 吉田 晃, 青木 宏, 飯野靖彦, 吉田和弘, 秋元成太: ネフローゼ症候群を発症し, 透析を要したMinor glomerular abnormalitiesの1例. 第43回日本透析医学会学術集会総会, 1998. 5.
- 27) 岩崎雄樹, 平山悦之, 宮内靖史, 富田喜文, 関山達也, 高山守正, 岸田 浩, 高野照夫, 荒牧琢己, 河邊満彦, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 慢性透析に伴うカルニチン欠乏による低血糖の1例. 第43回日本透析医学会学術集会総会, 1998. 5.
- 28) 武井寛之, 渡辺めぐみ, 山室 学, 駒場祐一, 松信精一, 大藪英一, 清水光義, 青木 宏, 王 恒維, 鎌野千佐子, 森 貴博, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 妊娠初期に発症したGuillain-Barre症候群に免疫吸着療法が効果であった1例. 第43回日本透析医学会学術集会総会, 1998. 5.
- 29) 勝又俊弥, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗, 寺本 明: 真性多血症に合併した脳静脈洞血栓症の1例. 第145回日本神経学会関東地方会, 1998. 6.
- 30) 山崎峰雄, 荒木俊彦, 森 修, 小柳清光, 片山泰朗: 家族歴を有し, 痴呆で発症したcorticobasal degenerationと考えられる1剖検例. 第145回日本神経学会関東地方会, 1998. 6.
- 31) 田淵紀子, 高木信一, 神谷達司, 水越元気, 駒場祐一, 山室 学, 臼田和弘, 坂本静樹, 片山泰朗: Guillain-Barre症候群を呈した腹腔内リンパ節腫瘍由来が考えられたparaneoplastic syndromeの1例. 第464回日本内科学会関東地方会, 1998. 6.
- 32) 有井一正, 五十嵐博中, 津金澤俊和, 片山泰朗, 赫 彰郎: 大脳白質病変の拡散強調MRI: 認知機能の保たれている症例における拡散係数, Anisotropyの変化. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 33) 山口 博, 五十嵐博中, 片山泰朗, 赫 彰郎: 虚血性脳血管障害に対するPerfusion MRIを用いた局所脳循環動態の解析. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 34) 山室 学, 五十嵐博中, 津金澤俊和, 大坪孝一, 片山泰朗, 赫 彰郎: 脳梗塞の拡散強調画像の経時的変化. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 35) 石渡明子, 北村 伸, 永積 惇, 赫 彰郎: 加齢に伴う記憶障害患者の脳血流量: SPECT-ARG法を用いて. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 36) 赤石治美, 福生吉裕, 永島幹夫, 高木信一, 中島信治, 赫 彰郎: 尿中Caの加齢による変化. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 37) 神谷達司, 上田雅之, 有井孝子, 片山泰朗, 赫 彰郎: Gerbil一過性前脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506の神経保護作用の検討: 遺伝子発現に及ぼす効果. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
- 38) 西山 稜, 片山泰朗, 赫 彰郎: 正常血圧及び高血圧ラットにおける両側総頸動脈狭窄後の脳梁白質の病理変化及び脳血流量変化の検討. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
- 39) 桂研一郎, 片山泰朗, 赫 彰郎: 脳虚血中の増強したAcidosisの脂質代謝に及ぼす影響. 第23回日本脳卒中学

- 会総会, 1998. 6.
- 40) 南澤宏明, 片山泰朗, 赫 彰郎: 脳虚血時の海馬CA1錐体細胞内カルシウムイオン動態. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
 - 41) 大久保誠二, 濱本 真, 永山 寛, 兩宮志門, 五十嵐博中, 山口 博, 片山泰朗, 赫 彰郎: MRI perfusion studyを用いた穿通枝領域小梗塞の発症機序に関する検討. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
 - 42) 長尾毅彦, 北見聡章, 野本達也, 工藤 学, 越村 勲, 平林久吾, 萩原万里子, 横地正之, 赫 彰郎: 心原性脳塞栓症急性期の低用量抗凝固療法: NVAf症例における安全性の検討. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
 - 43) 高橋真理子, 永積 惇, 赫 彰郎, 片山泰朗: 脳ドック受診者における無症候性脳梗塞の予後の追跡調査. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
 - 44) 山口 博, 五十嵐博中, 片山泰朗, 赫 彰郎, 井田正博: 虚血性脳血管障害に対するdynamic contrast enhanced perfusion MRIの臨床応用. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
 - 45) 五十嵐博中, 濱本 真, 山口 博, 片山泰朗, 大久保誠二, 永山 寛, 兩宮志門, 永島淳一, 赫 彰郎: 急性期脳塞栓に於けるperi-infarcted areaの循環動態: T2 dynamic contrast MRIを用いた検討. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
 - 46) 水越元気, 神谷達司, 田淵紀子, 白田和弘, 山室 学, 上田雅之, 高木信一, 坂本静樹, 片山泰朗: 水頭症を合併したりステリア髄膜脳炎の1例. 第465回日本内科学会関東地方会, 1998. 7.
 - 47) 上田雅之, 神谷達司, 片山泰朗, 赫 彰郎: ラット慢性脳循環不全モデル白質病変に対する免疫抑制剤FK506の保護効果: 虚血導入前および後投与による白質病変抑制効果についての検討. 第16回日本神経治療学会総会, 1998. 7.
 - 48) 有井 孝子, 神谷達司, 有井一正, 青山純夫, 片山泰朗, 赫 彰郎: ラット局所脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506の神経保護作用の検討(第2報): therapeutic time windowの検討. 第16回日本神経治療学会総会, 1998. 7.
 - 49) 中沢 勝, 山崎峰雄, 坂本静樹, 片山泰朗, 森 修: 妊娠悪阻の経過中に発症し, protein S欠損症が疑われた脳静脈洞血栓症の1剖検例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 50) 有井一正, 五十嵐博中, 津金澤俊和, 赫 彰郎, 片山泰朗: Binswanger型白質脳症と広汎なLeuko-Araiosisを認める非痴呆例の差異について: MR拡散強調画像を用いた形態学的検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 51) 水越元気, 神谷達司, 田淵紀子, 上田雅之, 白田和弘, 山室 学, 高木信一, 坂本静樹, 赫 彰郎, 片山泰朗: 水頭症を合併したりステリア髄膜脳炎の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 52) 有井孝子, 神谷達司, 上田雅之, 有井一正, 仁藤智香子, 赫 彰郎, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506の神経保護作用の検討: therapeutic time windowの検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 53) 萩原 浩, 神谷達司, 金子明弘, 白田和弘, 山室 学, 坂本静樹, 赫 彰郎, 片山泰朗: 寛解12年後にMLF症候群にて増悪した多発性硬化症の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 54) 仁藤智香子, 神谷達司, 萩原 浩, 駒場祐一, 白田和弘, 山室 学, 坂本静樹, 赫 彰郎, 片山泰朗: 両側内頸動脈閉塞症の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 55) 高橋真理子, 永積 惇, 赫 彰郎, 片山泰朗, 金内秀士: 脳ドック受診者における無症候性脳梗塞の予後追跡調査. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 56) 渡辺めぐみ, 白田和弘, 大塚美穂, 駒場祐一, 山室 学, 五十嵐博中, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 癲癇発作で発症し, MRIで両側海馬に病巣を認めた脳炎の1例. 第466回日本内科学会関東地方会, 1998. 9.
 - 57) 中沢 勝, 山崎峰雄, 坂本静樹, 片山泰朗, 森 修: 妊娠悪阻の経過中に発症し, protein S欠損症が疑われ

- た脳静脈洞血栓症の1剖検例. 第146回日本神経学会関東地方会, 1998. 9.
- 58) 林 美穂, 白田和弘, 山室 学, 新井裕至, 山崎峰雄, 駒場祐一, 五十嵐博中, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 顆粒球減少症に多発性筋炎を合併した1例. 第467回日本内科学会関東地方会, 1998. 10.
- 59) 柏木哲也, 橋本和政, 大藪英一, 松信精一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 多発性嚢胞腎患者のアンジオテンシン変換酵素遺伝子多型. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 60) 岩田ともみ, 白田和弘, 山室 学, 山口 博, 駒場祐一, 五十嵐博中, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 免疫吸着療法が有効であったBickerstaff型脳幹脳炎の1例. 第468回日本内科学会関東地方会, 1998. 11.
- 61) 上田雅之, 三品雅洋, 神谷達司, 片山泰朗, 長友秀樹, 岩淵 潔: 脳梁菲薄化を伴う遺伝性痙性対麻痺における脳内ベンゾジアゼピン受容体. 第147回日本神経学会関東地方会, 1998. 11.
- 62) 葉山修陽, 金子朋広, 須賀 優, 飯野靖彦, 北村博司: 追生検を施行し得た難治性ネフローゼ症候群の1症例. 第28回日本腎臓学会東部学術大会, 1998. 11.
- 63) 鎌野千佐子, 青木 宏, 大沢弘和, 橋本和政, 清水光義, 大藪英一, 松信精一, 飯野靖彦, 片山泰朗, 平松久弥子, 北村博司, 山中宣昭: 線維性半月体と著明な間質性病変を伴った急速進行性腎炎の1例. 第28回日本腎臓学会東部学術大会, 1998. 11.
- 64) 森 貴博, 松信精一, 大藪英一, 飯野靖彦, 片山泰朗, 北村博司, 山中宣昭: 自己抗体陽性を示し, 経過中に腎機能低下を認め特異な血管病変を呈した1例. 第28回日本腎臓学会東部学術大会, 1998. 11.
- 65) 柏木哲也, 鎌野千佐子, 中村 正, 松信精一, 河辺満彦, 葉山修陽, 飯野靖彦, 片山泰朗: 慢性維持透析中の多発性嚢胞腎患者の出産例について. 第28回日本腎臓学会東部学術大会, 1998. 11.
- 66) 須賀 優, 金子朋広, 葉山修陽, 北村博司, 飯野靖彦: 非特異的な組織像でネフローゼを呈したhepatic glomerulopathyの1症例. 第28回日本腎臓学会東部学術大会, 1998. 11.
- 67) 西山 穰, 勝又俊弥, 赫 彰郎, 片山泰朗: 両側総頸動脈狭窄モデルにおける正常血圧及び高血圧ラットの脳梁白質病変の検討: 第2報; 脳血流量の変化. 第10回日本脳循環代謝学会総会, 1998. 11.
- 68) 有井孝子, 神谷達司, 有井一正, 赫 彰郎, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506の神経保護作用の検討: therapeutic time windowの検討. 第10回日本脳循環代謝学会総会, 1998. 11.
- 69) 五十嵐博中, 濱本 真, 山口 博, 大久保誠二, 永山 寛, 雨宮志門, 永島淳一, 赫 彰郎, 片山泰朗: Diffusion MRI, Perfusion MRIによる脳塞栓急性期所見と病巣の進展. 第10回日本脳循環代謝学会総会, 1998. 11.
- 70) 駒場祐一, 北村 伸, 片山泰朗: 小脳脳血管障害におけるSPECTを用いたcrossed cerebellar diaschisisの検討. 第10回日本脳循環代謝学会総会, 1998. 11.
- 71) 石渡明子, 酒寄 修, 北村 伸, 永積 惇, 片山泰朗: 不定愁訴患者の脳血流量について: SPECT-ARG法による検討. 第10回日本脳循環代謝学会総会, 1998. 11.
- 72) 酒寄 修, 石渡明子, 北村 伸, 永積 惇, 片山泰朗: 高血圧症患者の脳血流量について: SPECT-ARG法による検討. 第10回日本脳循環代謝学会総会, 1998. 11.
- 73) 桂研一郎, 赫 彰郎, 片山泰朗, Siesjo BK: 脳虚血中の増強したアシドーシスの脂質代謝に及ぼす影響. 第10回日本脳循環代謝学会総会, 1998. 11.
- 74) 柏木哲也, 鎌野千佐子, 中村 正, 松信精一, 河辺満彦, 葉山修陽, 飯野靖彦, 片山泰朗: 慢性維持透析中の多発性嚢胞腎患者の出産例について. 第28回日本腎臓学会東部学術大会, 1998. 11.
- 75) 鎌野千佐子, 白田和弘, 大沢弘和, 松信精一, 五十嵐博中, 神谷達司, 坂本静樹, 飯野靖彦, 片山泰朗: 糖尿病性腎症によるネフローゼ症候群に化膿性脊椎炎を合併した1例. 第469回日本内科学会関東地方会, 1998. 12.
- 76) 山室 学, 白田和弘, 山口 博, 西山 穰, 片山泰朗: 発作性失語を繰り返した複雑型片頭痛の1症例. 第26回日本頭痛学会総会, 1998. 12.
- 77) 岸雄一郎, 白田和弘, 斉藤サビーネ京子, 駒場祐一, 福地孝明, 五十嵐博中, 片山泰朗: 片頭痛で発症した抗

- リン脂質抗体陽性の若年性脳梗塞の1例. 第26回日本頭痛学会総会, 1998. 12.
- 78) 平出智晴, 白田和弘, 有井孝子, 中澤 勝, 勝又俊弥, 五十嵐博中, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 診断に苦慮し治療に抵抗を示したクリプトコッカス髄膜脳炎の1例. 第470回日本内科学会関東地方会, 1999. 2.
- 79) 野本達也, 勝又俊弥, 上田雅之, 坂本静樹, 片山泰朗: 輸血後20年で急性発症を来したHTLV1陽性脊髄炎の1例. 第148回日本神経学会関東地方会, 1999. 3.
- 80) 和田健太郎, 白田和弘, 野本達也, 青木 宏, 中澤 勝, 勝又俊弥, 五十嵐博中, 坂本静樹, 片山泰朗: 播種性血管内凝固症候群, 心筋炎を合併した髄膜炎の1例. 第471回日本内科学会関東地方会, 1999. 3.

[付属病院リウマチ外科]

研究概要

リウマチ外科における研究課題は, 関節リウマチ (RA) ・全身性変形性関節症 (JOA) のトータルマネージメントと, 滑膜組織および滑膜培養細胞を用いた基礎的研究, 膠原病を代表とした自己免疫疾患の発症機序の解明とその制御に関する検討を行っている。

より具体的に述べれば, 臨床研究として1) 根治的多関節滑膜切除術 (RaMS) による関節リウマチの集学的治療法, 2) より大きな可動域を追及した人工膝関節システムの開発, 3) 慢性関節リウマチ患者さんの全人的ケアのため, 精神・神経—免疫—内分泌システムの相関に関する研究を中心として行っている。

一方, 基礎的研究としては, 1) リウマチ滑膜組織における血管増殖因子の関与, 2) 各種抗リウマチ剤の滑膜培養細胞に対する増殖抑制作用およびそのサイトカイン産生抑制作用, 3) 全身性エリテマトーデス・関節リウマチの発症におけるリンパ球表面分子の役割とその制御, 4) 自己免疫疾患発症の免疫学的解析, Th1/Th2誘導に関する分子群の同定とその機能, 5) JOA発症における免疫学的機序の解明, などを行っている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Nagashima M, Yoshino S, Tanaka H: Granulocyte and monocyte apheresis suppresses symptoms of rheumatoid arthritis a pilot study. *Rheumatol. Int.* 1998; (18): 113-118.
- 2) Oshima H¹⁾, Nakano H¹⁾, Nohara C¹⁾, Kobata T¹⁾, Nakajima A, Jenkins N, Gilbert D, Copeland N, Muto T³⁾, Yagita H¹⁾, Okumura K¹⁾ (1) Dept. of Immunol. Juntendo Univ Sch. of Med., 2) Dept. of Surgery Faculty of Med. Tokyo Univ.): Characterization of murine CD70 by molecular cloning and mAb. *Int. Immunol* 1998; 10: 517-526.
- 3) Nakajima A, Nakajima M¹⁾, Suzuki N, Yoshino S, Yagita H²⁾, Okumura K²⁾ (1) Dept. of Dermatol., 2) Dept. of Immunol. Juntendo. Univ. Sch. of Med.): Selective migration of CCR5⁺ T lymphocytes into inflamed joint of rheumatoid arthritis. *Arthritis Rheum* 1998; 41: s38-s38.
- 4) Nakajima A, Oshima H¹⁾, Akiba H¹⁾, Yoshioka T, Morimoto S¹⁾, Nakajima M²⁾, Yoshino S, Yagita H¹⁾, Okumura K¹⁾ (1) Dept. of Immunol. Juntendo Univ. Sch. of Med., 2) Dept. of Dermatol.): Critical role of OX40/OX40L interaction in the development of autoimmune arthritis. *Arthritis Rheum* 1998; 41: S214-S214.
- 5) Morimoto S¹⁾, Nakajima A, Akiba H¹⁾, Kobata T¹⁾, Tokano Y¹⁾, Takasaki Y¹⁾, Yagita H²⁾, Okumura K²⁾, Hashimoto H¹⁾ (1) Dept. of Rheumatol. Juntendo. Univ., 2) Dept. of Immunol. Juntendo Univ. Sch. of Med.): The effect of anti-OX40 ligand antibody on the development of murine lupus. *Arthritis Rheum* 1998; 41: S174-S174.

- 6) Nakajima A, Morimoto S¹⁾, Azuma M²⁾, Takeda K¹⁾, Oshima H¹⁾, Yoshino S, Yagita H¹⁾, Okumura K¹⁾ (1) Dept. of Immunol. Juntendo Univ.Sch. of Med., 2) Dept. of Immunol. Natl. Child. Res.Cent.) : Anti-Tumor Effect of CD40 Ligand : Elicitation of local and systemic anti-tumor responses by IL-12 and B7. J.Immunol 1998 ; 161 : 1911-1918.
- 7) Matsumura R¹⁾, Umeyama K¹⁾, Kagami M¹⁾, Tomioka H¹⁾, Tanabe E¹⁾, Sugiyama T¹⁾, Nakajima A, Azuma M²⁾, Okumura K³⁾, Sumida T⁴⁾ (1) Dept. of Int. Med. Toho Univ., 2) Dept. of Immunol. Natl. Child. Res. Cent., 3) Dept. of Immunol. Juntendo. Univ. Sch. of Med., 4) Dept. of Rheumatol. Tsukuba Univ.) : Glandular and extraglandular expression of the Fas-Fas ligand and apoptosis in patients with sjogren's syndrome. Clin. Exp. Rheumatol 1998 ; 16 : 561-568.
- 8) Mukasa R¹⁾, Homma T¹⁾, Hosono O¹⁾, Yoshino S, Nishioka K²⁾, Fukuda M³⁾, Morimoto C¹⁾ (1) Dept.of clinical immunology and AIDS Research Center Insititute of Medical Science, University of Tokyo, 2) Rheumatology, Immunology and Genetics Program, Institute of Medical Science, St.Marianna University School of Medicine. , 3) Glycobiology Program, The Burnham Institute, La Jolla Cancer Research Center.) : Human T lymphocyte populations which bind to P-or E-selectin are enriched with cells expressing core 2 o-glycans. Immunology Letters 1999 ; 67 : 117-124.
- 9) Nakajima A, Hirai H, Yoshino S : Reassessment of mirthfule laughter in rheumatoid arthritis. J. Rheumatol 1999 ; 26 : 512-513.
- 10) 吉岡太郎, 吉野槇一, 永島正一, 宮本 洋介, 角本土幸, 志賀弘朗¹⁾ (1) 竹林病院 整形外科) : 人工股関節置換術後に反復性脱臼をきたし摩耗したポリエチレンライナーの再置換術を行った3例. リウマチ科 1998 ; 19 (6) : 623-627.
- 11) 松久威史¹⁾, 羽山亨宏¹⁾, 中村 洋, 吉野槇一, 山田宣孝²⁾ (1) 内視鏡科, 2) 病理) : 慢性関節リウマチ患者における *Helicobacter pylori* 感染, 胃病変の観察. Progression of Digestive Endoxcpsy 1998 ; 53 : 53-57.
- 12) 永島正一, 吉野槇一 : 慢性関節リウマチ. 薬局 1999 ; 50 : 144-150.
- (2) 綜説 :
 - 1) 中村 洋, 吉野槇一, 永島正一, 岡田匡司, 小岩政仁 : (特集 : RAにおける滑膜切除術の再検討) 根治的多関節滑膜切除術3年以上経過例の手術成績. 関節外科 1998 ; 17 : 329-332.
 - 2) 中村 洋 : 特集 リウマチ. 進歩した治療法とその臨床への応用 : 外科的治療の進歩と適用. Medical Practice 1998 ; 15 : 2109-2111.

著 書

- 1) Yoshino S, Nakamura H, Nagashima M, Shiga H, Tachihara A : [分担] Hy-Flex II Total Knee and Ligament Balancing System : Preliminary Report on Concept, Design, Surgical Technique, and Short-Term Clinical results. Joint Arthroplasty (井村慎一), 1999 ; pp402-407, Springer-Verlag Tokyo.
- 2) 永島正一, 吉野槇一, 角本土幸, 黄田道信 : [共著] 慢性関節リウマチ : 最近の動向 Disease modifying antirheumatic drugs (DMARDs) による血管増殖因子およびサイトカイン抑制効果について. 別冊整形外科 (中村孝志), 1998 ; pp64-68, 南江堂.
- 3) 中村 洋, 吉野槇一, 鈴木伸之, 郡司直哉, 吉岡太郎, 平井 博, 立原章年, 河原 徹 : 難治性慢性関節リウマチに対する根治的受関節膜切除術の術後成績 : 術後来有り未変更群と増量群の比較および膚破壊進行. 別冊整形外科 No34 (中村孝志), 1998 ; pp104-106, 南江堂.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 中島敦夫：自己免疫疾患の発症機構の解明とその制御。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.

(2) シンポジウム：

- 1) 中島敦夫：自己免疫疾患治療の新戦略。RAの病態と治療をめぐるミニ国際シンポジウム，1998. 11.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 吉野槇一：慢性関節リウマチ手術療法の適応と評価。第42回日本リウマチ学会総会，1998. 5.
- 2) 中村 洋：「RA難治例の検討」整形外科から—1。第8回日本リウマチ学会近畿支部学術集会，1998. 9.
- 3) 中村 洋：「ひざ関節痛とつきあう」。関節症シンポジウム，1999. 3.

(4) ワークショップ：

- 1) 永島正一，吉野槇一，郡司直哉，高井美和¹⁾，青野浩之¹⁾，笹野 稔¹⁾ (¹⁾ 参天製薬(株) 開発薬理研究グループ)：関節リウマチ滑膜培養細胞のVEGFに対するDMARDs抑制効果—併用療法の基礎的研究—。第42回日本リウマチ学会総会，1998. 5.
- 2) 吉岡太郎，中島敦夫，秋葉久弥¹⁾，吉野槇一，八木田秀雄¹⁾，奥村 康¹⁾ (¹⁾ 順天堂医免疫)：慢性関節リウマチにおけるOX40リガンド—OX40の関与。第42回日本リウマチ学会総会，1998. 5.
- 3) 平井 博，中島敦夫，吉野槇一，福井久司¹⁾，倉 紘平¹⁾，木村喜代史¹⁾ (¹⁾ 日本新薬)：COX-2選択的阻害剤の腎血流量に対する影響。第42回日本リウマチ学会総会，1998. 5.
- 4) 中島敦夫，大島秀男¹⁾，森本真司¹⁾，八木田秀雄¹⁾，吉野槇一，奥村 康¹⁾ (¹⁾ 順天堂医免疫)：Th1介在性自己免疫疾患におけるCD70-CD27 costimulationの役割。第42回日本リウマチ学会総会，1998. 5.
- 5) 中村 洋，吉野槇一，永島正一，吉岡太郎，平井 博，角本土幸：慢性関節リウマチに対する根治的多関節切除術の手指関節破壊抑制効果。第42回日本リウマチ学会総会，1998. 5.
- 6) 中村 洋，吉野槇一，鈴木伸之，郡司直哉，住田孝之¹⁾，西岡久寿樹¹⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医大難治研)：変形性関節症におけるT細胞クロナリテイの解析。第42回日本リウマチ学会，1998. 5.
- 7) 中村 洋，吉野槇一，中島敦夫，河原 徹，岡田匡司，松久威史¹⁾，山田宣孝²⁾ (¹⁾ 内視鏡科，²⁾ 病理)：慢性関節リウマチにおけるHelicobacter Pylori感染。第42回日本リウマチ学会，1998. 5.
- 8) 広畑俊成¹⁾，柳田たみ子¹⁾，中村 洋，吉野槇一，富田哲也²⁾，越智隆弘²⁾ (¹⁾ 帝京大学医学部内科，²⁾ 大阪大学整形外科)：慢性関節リウマチ病態形成におけるEBウイルスの役割。特に骨髄幹細胞のEBウイルス感染について。第42回日本リウマチ学会，1998. 5.
- 9) 中村 洋，吉野槇一，永島正一，吉岡太郎，平井 博，角本土幸：慢性関節リウマチに対する根治的多関節滑膜切除術の手指関節破壊抑制効果。第42回日本リウマチ学会，1998. 5.
- 10) 関根太一¹⁾，加藤智啓¹⁾，増子佳代¹⁾，中村 洋，吉野槇一，西岡久寿樹¹⁾，山本一彦²⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医大難治研，²⁾ 東京大学物療内科)：慢性関節リウマチ患者関節内におけるII型コラーゲン特異的なT細胞の集積。第42回日本リウマチ学会，1998. 5.

(5) 一般講演：

- 1) Nagashima M, Yoshino S, Matsuzaki T, Fujimori J : Clinical Results of Ankle Arthrodesis by Intramedullary Rod with Fins. 5th Combined Symposium of ARO with the Japanese Society for Rheumatoid Arthritis Surgery (Zürich Switzerland), 1998. 6.
- 2) Nakamura H, Yoshino S, Kato T¹⁾, Tsuruha J²⁾, Nishioka K¹⁾, Nakamura H, Yoshino S, Kato T, Tsuruha J, Nishioka K (¹⁾ Rheumatology Immunology Genetics program, St.Marianna Univ.Sch.of Med, ²⁾ Torii Pharmaceutical Co.Ltd.) : T cell mediated inflammatory synovitis in osteoarthritis. Osteo Arthritis Research Society International work shop (Florence, Italy), 1998. 10.
- 3) Nakamura H, Yoshino S, Nagashima M, Yoshioka T, Hirai H, Matsuzaki T : Anti-rheumatic effect of

- synovectomy : three years follow-up study of multiple synovectomy for refractory RA. 1998 National Meeting of American College of Rheumatology (San Diego, USA), 1998. 11.
- 4) Nagashima M, Yoshino S, Gunji N, Suzuki N, Aono H¹⁾, Sasano M¹⁾ (¹⁾ Santen Pharmaceutical Co. Ltd.) : Effects of DMARDs on IL-6,b-FGF,VEGF in cultured synovial cells-basic research of combination therapy. 1998 National Meeting of American College of Rheumatology (San Diego, USA), 1998. 11.
 - 5) Nakajima A, Nakajima M¹⁾, Suzuki N, Yoshino S, Yagita H²⁾, Okumura K²⁾ (¹⁾ Dept. of Dermatol., ²⁾ Dept. of Immunol. Juntendo Univ.) : Selective migration of CCR5⁺T lymphocytes into inflamed joint of rheumatoid arthritis. 1998 National Meeting of American College of Rheumatology (San Diego, USA), 1998. 11.
 - 6) Nakajima A, Oshima H¹⁾, Akiba H¹⁾, Yoshioka T, Morimoto S¹⁾, Nakajima M²⁾, Yoshino S, Yagita H¹⁾, Okumura K¹⁾ (¹⁾ Dept. of Immunol. Juntendo Univ. Sch. of Med., ²⁾ Dept. of Dermatol.) : Critical role of OX40/OX40L interaction in the development of autoimmune arthritis. 1998 National Meeting of American College of Rheumatology (San Diego, USA), 1998. 11.
 - 7) Nagashima M, Yoshino S, Aono H¹⁾, Sasano M¹⁾, Takai M¹⁾ (¹⁾ Santen pharmaceutical Co.Ltd.) : Effects of DMARDs on vascular endothelial growth factor in synoviocytes from patients with Rheumatoid Arthritis. 1998 National Scientific Meeting American College Rheumatology (San Diego, USA), 1998. 11.
 - 8) Nakamura H, Yoshino S, Kato T¹⁾, Tsuruha J²⁾, Nishioka K¹⁾ (¹⁾ Rheumatology Immunology Genetics program, St.Marianna Univ.Sch.of Med, ²⁾ Torii Pharmaceutical Co.Ltd.) : T cell mediated inflammatory pathway in osteoarthritis. 第28回日本免疫学会総会, 1998. 12.
 - 9) 田中秀和, 吉野槿一, 永島正一, 中島敦夫, 横山宗伯¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理) : 関節リウマチ (RA) 滑膜組織におけるオピオイドペプチドの産生と局在について. 第42回日本リウマチ学会総会, 1998. 5.
 - 10) 鈴木伸之 : RA滑膜組織におけるオピオイドレセプターの局在について. 第42回日本リウマチ学会総会, 1998. 5.
 - 11) 吉野槿一, 中村 洋, 永島正一, 中島敦夫, 鈴木伸之, 郡司直哉, 平井 博, 吉岡太郎 : RAに対する楽しい笑いの再評価. 第42回日本リウマチ学会総会, 1998. 5.
 - 12) 河原 徹, 中島敦夫, 吉岡太郎, 平井 博, 永島正一, 吉野槿一 : MDSを合併した慢性関節リウマチの1例. 第39回関東リウマチ研究会, 1998. 6.
 - 13) 中島敦夫 : 全身性エリテマトーデスの病因と治療. 千駄木臨床研修会, 1998. 6.
 - 14) 吉野槿一 : 慢性関節リウマチのトータル.マネージメント. 千駄木臨床研修会, 1998. 6.
 - 15) 吉野槿一 : 高度関節破壊を伴う関節リウマチの対策. 第24回リウマチ中央教育研修会, 1998. 7.
 - 16) 永島正一, 中村 洋, 吉岡太郎, 河原 徹, 吉野槿一 : 人工膝関節置換術後の合併症 : 高度な骨粗鬆症を呈した寝たきり関節リウマチ患者の1例. 第1回東京リウマチ膠原病研究会, 1998. 9.
 - 17) 吉野槿一 : 慢性関節リウマチとその周辺疾患の診断と治療. 第71回日本整形外科学会学術集会, 1998. 10.
 - 18) 石神 伸, 小岩政仁¹⁾, 高橋 央¹⁾, 和宇慶晃一, 栗原 怜²⁾, 米島秀夫²⁾, 吉野槿一 (¹⁾ 春日部秀和病院 整形外科/リウマチ科, ²⁾ 春日部秀和病院 腎臓内科) : 透析患者における大腿骨頸部insufficiency fracture4症例の検討. 第26回日本リウマチ.関節外科学会, 1998. 10.
 - 19) 中村 洋, 吉野槿一, 鶴羽淳一郎, 西岡久寿樹 : 変形性関節症における免疫機構の関与 : 滑膜T細胞の解析. 第26回日本リウマチ.関節外科学会, 1998. 10.
 - 20) 松崎 剛, 吉野槿一, 永島正一, 立原章年, 藤森十郎 : フィン付き髓内釘を用いた足関節固定術の臨床成績. 第26回日本リウマチ関節外科学会, 1998. 10.
 - 21) 勝又信一¹⁾, 小岩政仁¹⁾, 高橋 央¹⁾, 和宇慶晃一¹⁾, 吉野槿一 (¹⁾ 春日部秀和病院整形外科, リウマチ科) : 血液透析患者における大腿骨頸部insufficiency fracture症例の検討. 第37回関東整形災害外科学会, 1998. 11.

- 22) 中島敦夫, 鈴木伸之, 吉野槇一, 松島綱治¹⁾, 八木田秀雄²⁾, 奥村 康²⁾ (1) 東大医衛生, 2) 順天堂大医・免疫) : 慢性関節リウマチにおけるCCR5/CCR4陽性T細胞の発現. 第28回日本免疫学会総会, 1998. 12.
- 23) 石神 伸, 吉野槇一, 永島正一, 吉岡太郎, 平野大地, 立原章年 : Hinge型人工肘関節置換術後に上腕骨骨折をきたした2例. 第9回日本リウマチ学会関東地方会, 1998. 12.
- 24) 吉野槇一, 中村 洋, 永島正一, 平井 博, 平野大地, 吉岡太郎, 立原章年, 石神 伸 : 最低120°の屈曲を期待し, 開発したHy-Flex II Total Knee System. 第29回日本人工関節学会, 1999. 1.

3. 内科学第三講座

[付属病院第3内科（内分泌，消化器，血液内科）]

研究概要

内分泌・代謝領域の基礎的研究では（1）甲状腺状腺腫瘍におけるFibroblast Growth Factorの意義，（2）加齢とレプチン，（3）Growth Hormone-Releasing Peptide（GHRP）受容体発現の調整，（4）GHRPの生理学的意義を追求する目的でGHRP受容体ノックアウトラットの作製を試みた。臨床的研究では（1）日本学術振興会東南アジア学術交流事業の一環としてマレーシア科学大学（USM）とサラセミアに合併する成長障害の内分泌学的背景と矮小陰莖の家系のアンドロゲン受容体解析について共同研究を行い，（2）GHRPの臨床応用に関する多施設共同研究に参加した。

消化器病学は（1）逆流性食道炎，食道運動機能異常に対する病態生理学的検討，（2）上部消化管疾患に対するHelicobacter pylori感染の意義，（3）慢性炎症性腸疾患の病態生理に関する検討，（4）大腸腺腫，癌の病態に関する検討，（5）大腸癌の診断法に関する研究，（6）門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術およびその全身に及ぼす影響に関する検討，（7）慢性活動性C型肝炎の治療と免疫能，など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究を進め，（8）消化管粘膜の分子機構に関する研究，COX-2の消化管癌に対する役割，など基礎的研究も実施されつつある。

血液学領域の基礎的研究では（1）造血器腫瘍の発症，進展，病態に関する分子生物学的解析，（2）造血器腫瘍細胞株樹立に関する研究，（3）遺伝子治療の基礎的研究，（4）巨核球血小板系造血の基礎的研究，（5）血液疾患とサイトカインに関する細胞生物学的研究，などを重点に行い，臨床研究では，（6）造血器腫瘍性疾患の治療合併症の解析，（7）急性白血病の治療方法に関する検討，などを行い，また多施設共同研究に参加した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Futagami S, Kobayashi M, Takahashi H¹⁾, Norose Y¹⁾ (¹⁾ Dept. of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Systemic and local immune responses against Helicobacter pylori urease in patients with chronic gastritis : distinct IgA and IgG productive sites. Gut 1998 ; 43 (2) : 168-175.
- 2) Nakagawa Y, Iwakiri K, Yamada H, Kobayashi M : Effects of body position and liquid meal ingestion on esophageal acid exposure time in healthy subjects. J Gastroenterol 1998 ; 33 (2) : 139-141 .
- 3) Minami S¹⁾, Kamegei J, Sugihara H, Suzuki N, Wakabayashi I (¹⁾ Institute of Gerontology) : Growth hormone inhibits its own secretion by acting on the hypothalamus through its receptors on neuropeptide Y neurons in the arcuate nucleus and somatostatin neurons in the periventricular nucleus. Endocrine Journal 1998 ; 45 (Suppl) : 19-26.
- 4) Emoto N, Onose H, Sugihara H, Minami S, Shimizu K, Wakabayashi I : Fibroblast growth factor-2 free form from extracellular matrix is increased in papillary thyroid carcinomas and Graves' thyroids. Thyroid 1998 ; 8 : 491-497.
- 5) Iwakiri K, Kanazawa H, Matsuzaka S, Tada N, Saitoh H, Yoshimoto H, Nakagawa Y, Osada Y, Sugiura T, Kotoyori M, Mamiya Y, Yamada H, Narahara Y, Kawakami A, Kobayashi M : Effects of transjugular intrahepatic portosystemic shunt (TIPS) on esophageal motor function and gastroesophageal reflux. J Gastroenterol 1998 ; 33 (3) : 305-309.

- 6) Kamegai J, Unterman TG¹, Frohman LA¹, Kineman RD¹ (¹ Department of Medicine, University of Illinois at Chicago) : Hypothalamic/pituitary-axis of the spontaneous dwarf rat : Autofeedback regulation of growth hormone (GH) includes suppression of GH releasing hormone receptor messenger ribonucleic acid. *Endocrinology* 1998 ; 139 : 3554-3560.
- 7) Kishida T, Hoshino T, Li F, Tanaka S, Shinozawa I, Shibata Y, Tatsuguchi A, Sato J, Fujimori S, Yoshida Y, Kobayashi M : Endoscopic diagnosis of lower intestinal lesions of leukaemia and malignant lymphoma. *J Gastroenterol Hepatol* 1998 ; 13 (9) : 961-967.
- 8) Shibasaki T¹, Hotta M², Sugihara H, Wakabayashi I (¹ Department of Physiology, ² Department of Medicine, Tokyo Women's University) : Brain vasopressin is involved in stress-induced suppression of immune function in the rat. *Brain Res* 1998 ; 808 : 84-92.
- 9) Shibasaki T¹, Yamauchi N¹, Takeuchi K, Ishii S, Sugihara H, Wakabayashi I (¹ Department of Physiology) : The growth hormone secretagogue KP-102-induced stimulation of food intake is modified by fasting, restraint stress, and somatostatin in rats. *Neurosci Lett* 1998 ; 255 : 9-12.
- 10) Kamegai J, Wakabayashi I, Miyamoto K¹, Unterman TG², Kineman R², Frohman LA² (¹ Biosignal Research Center, Institute for Molecular and Cellular Regulation, Gunma University, ² Department of Medicine, University of Illinois at Chicago) : Growth hormone-dependent regulation of pituitary GH secretagogue receptor (GHS-R) mRNA levels in the spontaneous dwarf rat. *Neuroendocrinology* 1998 ; 68 : 312-318.
- 11) Inokuchi K, Shinohara T¹, Futaki M, Hanawa H, Tanosaki S, Nomura T, Dan K (¹ Okinaka Memorial Institute for Medical Research) : Establishment of a cell line with variant BCR/ABL breakpoint expressing P180 BCR/ABL from late-appearing Philadelphia-positive acute biphenotypic leukemia. *Genes Chromosomes Cancer* 1998 ; 23 : 227-238.
- 12) Yokose N, Ogata K, Tamura H, An E, Nakamura K, Kamikubo K, Kudoh S¹, Dan K, Nomura T (¹ Fourth Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Pulmonary toxicity after granulocyte colony-stimulating factor-combined chemotherapy for non-Hodgkin's lymphoma. *Br J Cancer* 1998 ; 77 : 2286-2290.
- 13) Tanosaki S, Inokuchi K, Shimada T¹, Dan K (¹ Department of Molecular Biology, Nippon Medical School) : Relationship of microsatellite instability to N-ras mutation and duration of disease-free survival in acute leukemia. *Cancer* 1998 ; 83 : 475-481.
- 14) Inokuchi K, Tarusawa M, Iwakiri R, Yamaguchi H, Dan K : A relapse of acute promyelocytic leukemia after long-term remission of 9.5 years with negative PML-RAR α mRNA. *Am J Hematol* 1998 ; 58 : 154.
- 15) Ogata K, An E, Kamikubo K, Yokose N, Tamura H, Yamada T, Gomi S, Dan K, Nomura T : Repeated cycles of granulocyte colony-stimulating factor-combined postremission chemotherapy for acute myeloid leukemia in a first complete remission. *Stem Cells* 1998 ; 16 : 280-287.
- 16) Tamura H, Ogata K, Mori S¹, An E, Tajika K, Sugisaki Y², Dan K (¹ Department of Pathology, Institute of Medical Science, University of Tokyo) : Lymphoblastic lymphoma of natural killer cell origin presenting as pancreatic tumour. *Histopathol* 1998 ; 32 : 508-511.
- 17) Inokuchi K, Iwakiri R, Futaki M, Hanawa H, Tanosaki S, Yamaguchi H, Dan K : Minimal residual disease of the patients with acute myelogenous leukemia having PML/RAR α or AML1/ETO mRNA and phenotypic analysis of possible T and natural killer cells in bone marrow. *Leukemia and Lymphoma* 1998 ; 29 : 553-561.
- 18) Hamaguchi H¹, Inokuchi K, Nara N¹, Nagata K¹, Yamamoto K¹, Yagasaki F¹, Dan K (¹ Musashino

- Red Cross Hospital) : Alteration in the DCC gene and DCC protein in a novel human myeloid leukemia cell line with trisomy 18 established from overt leukemia after myelodysplastic syndrome (MDS). *Int J Hematol* 1998 ; 67 : 153-164.
- 19) Matsuoka H, Miyake K¹⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular Biology, Nippon Medical School) : Improved methods of HIV vector mediated gene transfer. *Int J Hematol* 1998 ; 67 : 267-273.
- 20) Tajika K, Ikebuchi K¹⁾, Inokuchi K, Hasegawa S, Dan K, Sekiguchi S¹⁾, Nakahata T²⁾, Asano S²⁾ (¹⁾ Hokkaido Red Cross Blood Centre, ²⁾ Institute of Medical Science, University of Tokyo) : IL-6 and SCF exert different effects on megakaryocyte maturation. *Br J Haematol* 1998 ; 100 : 105-111.
- 21) Luo Shan-S, Tamura H, Yokose N, Ogata K, Dan K : Failure to detect anti-HTLV-1 antibody in a patient with adult T-cell Leukemia/lymphoma. *Br J Haematol* 1998 ; 103 : 1207-1208.
- 22) Tamura H, Ogata K, Luo Shan-S, Nakamura K, Yokose N, Dan K, Tohyama K¹⁾, Yoshidai Y²⁾, Hamaguchi H³⁾, Sakamaki H⁴⁾, Kuwaki T⁴⁾, Tahara T⁴⁾, Kato T, Nomura T (¹⁾ Department of Hematology & Oncology, Kyoto University, ²⁾ Musashino Red Cross Hospital, ³⁾ Komagome Hospital, ⁴⁾ Kirin Brewery) : Plasma thrombopoietin (TPO) levels and expression of TPO receptor on platelets in patients with myelodysplastic syndromes. *Br J Haematol* 1998 ; 103 : 778-784.
- 23) Yasukawa M¹⁾, Ohminami H¹⁾, Kaneko S¹⁾, Yakushijin Y¹⁾, Nishimura Y¹⁾, Inokuchi K, Miyakuni T¹⁾, Nakao S²⁾, Kubonishi I¹⁾, Dan K, Fujita S¹⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicine, Ehime University, ²⁾ Third Department of Internal Medicine, Kanazawa University) : CD4+ cytotoxic T-cell clones specific for bcr-abl b3a2 fusion peptide augment colony formation by chronic myelogenous leukemia cells in a b3a2-specific and HLA-DR-restricted manner. *Blood* 1998 ; 92 : 3355-3361.
- 24) Tatsuguchi A, Fukuda Y, Moriyama T, Yamanaka N : Lipomatosis of the small intestine and colon associated with intussusception in the ileocecal region. *Gastrointestinal Endoscopy* 1999 ; 49 (1) : 118-121.
- 25) Onose H, Emoto N, Sugihara H, Shimizu K¹⁾, Wakabayashi I (¹⁾ Department of Surgery) : Overexpression of fibroblast growth factor receptor 3 in a human thyroid carcinoma cell line results in overgrowth of the confluent cultures. *Eur J Endocrinol* 1999 ; 140 : 169-173.
- 26) Ohta Y¹⁾, Suzuki N, Nakamura S¹⁾, Hartwig JH²⁾, Stossel TP²⁾ (¹⁾ National Institute of Neuroscience, ²⁾ Department of Medicine, Harvard Medical School) : The small GTPase RalA targets filamin to induce filopodia. *Proc Natl Acad Sci USA* 1999 ; 96 (5) : 2122-2128.
- 27) Li M¹⁾, Shuto Y, Somogyvari-Vigh A¹⁾, Arimura A¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Tulane University Medical Center) : Prohormone convertases 1 and 2 process proPACAP and generate matured, bioactive PACAP 38 and PACAP 27 in transfected rat pituitary GH4C1 Cells. *Neuroendocrinology* 1999 ; 69 (3) : 217-226.
- 28) Sueoka N : Endoscopic clipping of duodenal Dieulafoy's lesions : alone or combined?. *Gastrointestinal endoscopy* 1998 ; 48 (9) : 336-337.
- 29) Sueoka N, Inokuchi K, Nishigaki H, Futaki M, Inokuchi M, Sugisaki Y, Dan K, Wakabayashi I : Genotype Configuration in a Case of Primary Gastric Lymphoma with T-cell Phenotype. *Cancer Genet Cytogenet* 1998 ; 101 : 103-108.
- 30) 辰口篤志, 岸田輝幸, 佐藤 順, 藤森俊二, 吉田 豊, 小林正文 : 大腸早期癌の部位別発育パターンの違いについて. *消化器内視鏡の進歩* 1998 ; 51 : 50-51.
- 31) 北村 聖¹⁾, 檀 和夫, 安 恵美, 星野哲夫, 関東FOM+SBT/CPZ併用研究会 (¹⁾ 東京大学臨床検査) : 血液疾患合併重症感染症に対する Fosfomycin と Sulbactam/Cefoperazone の併用療法における臨床効果. *感染症学雑誌* 1998 ; 72 (7) : 761-770.
- 32) 柳瀬敏彦¹⁾, 谷口 晋¹⁾, 大庭功一¹⁾, 市野 功¹⁾, 名和田新¹⁾, 若林一二, 佐藤準一²⁾, 古川徳昭²⁾, 黒田康

- 夫²⁾ (1)九州大学医学部, 2)佐賀医科大学): 高血圧を認めない非定型的17 α -hydroxylase欠損症2患者家系のCYP17に共通に見いだされた翻訳開始ATGコドンの変異. ホルモンと臨床 1998; 46 (臨時増刊号): 66-68.
- 33) 星野哲夫, 米澤真興, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 李 峰, 辰口篤志, 佐藤 順, 藤森俊二, 伊月葉子, 立川裕理, 玉川恭士, 田口文彦, 吉田 豊, 岸田輝幸, 小林正文: ランブル鞭毛虫症を合併した大腸アメーバ一赤痢症の1例. 消化器内視鏡の進歩 1998; 52: 150-151.
- 34) 溝口秀昭¹⁾, 北村 聖²⁾, 中尾真二³⁾, 矢崎義雄⁴⁾, 外山圭助⁵⁾, 浦部晶夫⁶⁾, 檀 和夫, 鎌倉正英⁷⁾, 大久保隆男⁸⁾, 松田 保³⁾, 珠久 洋⁹⁾, 仁保喜之¹⁰⁾ (1)東京女子医科大学血液内科, 2)東京大学臨床検査医学, 3)金沢大学第三内科, 4)東京大学第三内科, 5)東京医科大学第一内科, 6)関東通信病院, 7)帝京大学内科, 8)横浜市立大学第一内科, 9)三重大学第二内科, 10)九州大学第一内科): シクロスポリンMEPCの再生不良性貧血および赤芽球瘡に対する臨床使用経験. Biotherapy 1998; 12 (11): 1459-1472.
- 35) 田野崎栄, 明石真言¹⁾, 橘美紀子, 檀 和夫 (1)放射線医学総合研究所): 高アンモニア血症を伴った多発性骨髄腫の2例. 血液フロンティア 1999; 9 (2): 197-201.
- 36) 外山圭助¹⁾, 檀 和夫, 山田 隆 (1)東京医科大学第一内科): 血液疾患に伴う重症感染症に対するCefozopran (CZOP) とTobranycin (TOB) との併用効果の検討. The Japanese Journal of Antibiotics 1999; 52 (2): 153-161.
- 37) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 山田久木, 林 良紀, 中川義也, 川上明彦, 小林正文: 内視鏡的バルーン拡張術が著効した非特異的食道運動異常症の1例. 消化器内視鏡の進歩 1998; 53: 62-65.
- 38) 岩切勝彦, 山田久木, 琴寄 誠, 杉浦俊昭, 林 良紀, 中川義也, 川上明彦, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: 心理的要因により発症したと考えられるhypertensive lower esophageal sphincter (LES) の1例. 日本消化器病学会雑誌 1998; 95 (10): 1117-1120.
- (2) 総説:
- 1) 猪口孝一: DCC遺伝子の機能と癌. 血液・腫瘍科 1998; 37 (4): 288-293.
- 2) 若林一二: Pituitary-GHRP test, insulin tolerance test, bromocriptine test. 総合臨床 1998; 47 (増刊号): 1373-1376.
- 3) 若林一二: Insulin-like growth factor-I (IGF-I), somatomedin C. 総合臨床 1998; 47 (増刊号): 1377-1379.
- 4) 檀 和夫: 赤血球数 (RBC), ヘモグロビン (Hb), ヘマトクリット (Ht). 総合臨床 1998; 47 (増刊): 1175-1177.
- 5) 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 小林正文: 下部食道括約部 (LES) 静止圧に及ぼす体位の影響. 薬理と治療 1998; 26 (5): 673-678.
- 6) 坂本長逸: 胃粘膜傷害治療過程におけるCOX-2の位置付け. Medical Topics Series 1998; 2-11.
- 7) 中塚雄久, 金沢秀典, 楢原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 吉本 均, 小泉信人, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: 門脈圧亢進性胃症の発症因子と対策. 消化器科 1998; 26 (6): 642-648.
- 8) 二神生爾, 坂本長逸: Helicobacter pylori陰性消化性潰瘍とストレス. Helicobacter Research 1998; 2: 25(328)-29(332).
- 9) 杉原 仁: 下垂体卒中と下垂体昏睡. medicina 1998; 35 (11): 358-359.
- 10) 若林一二: 成長ホルモン (GH) 分泌不全性低身長症 (下垂体性小人症). 今日の治療指針 1999; 598.
- 11) 津久井拓: COX-2 (cyclooxygenase-2) と消化管病変. Annual Review消化器 1999; 7-11.
- 12) 坂本長逸: 早期胃癌への国際的関心 —国際誌からのレビュー—. 消化器内視鏡 —電子内視鏡による早期胃癌の診断— 1999; 11: 289-294.
- 13) 小林正文: 悪心・嘔吐. Griatric Medicine 1999; 37 (2): 262-264.
- 14) 杉原 仁, 若林一二: GHRH受容体. 内分泌・糖尿病科 1999; 8 (3): 229-235.
- 15) 若林一二: 無月経・乳汁分泌症候群. 医学と薬学 1999; 41 (3): 353-358.

16) 田近賢二：末梢血幹細胞移植の適応と成績。治療 1999；81（増刊）：617-622.

著書

- 1) Sueoka N, Sakamoto T：〔分担〕Ectopic Gastric Mucosa (2). Atlas of Gastroenterologic Endoscopy By High-Resolution Video-Endoscopy (Kou Nagasako et al (eds)), 1998；pp89-90, Igakusyoin.
- 2) 吉田 豊, 小林正文：〔分担〕糖尿病性胃排泄遅延と消化管運動促進剤。モサプリドと消化管運動 New5-HT4受容体アゴニスト (三輪 剛他編), 1998；pp178-180, メディカルレビュー社.
- 3) 檀 和夫：〔分担〕骨髄像。実践臨床検査医学 (大久保昭行, 中井利昭, 渡辺清明編), 1998；pp383-387, 文光堂.
- 4) 岩切勝彦, 小林正文：〔分担〕治療-2, 生活指導。逆流性食道炎, 病態・診断・治療 (本郷道夫編), 1998；pp145-151, ヴァンメディカル.
- 5) 岸田輝幸, 小林正文：〔分担〕急性食中毒：図解説急・応急処置ガイド。Medical Practice (和田 政他編), 1998；pp842-849, 文光堂.
- 6) 小林正文：〔分担〕アカラシア, 内科的治療。消化器疾患最新の治療 1999-2000 (戸田剛太郎他編), 1998；pp51-54, 江南堂.
- 7) 小林正文：〔分担〕逆流性食道炎, 食道潰瘍, 食道裂孔ヘルニア (高賀須幸男編)。今日の治療指針, 1999；pp392-393, 医学書院.
- 8) 小林正文：〔分担〕逆流性食道炎, 食道潰瘍, 食道裂孔ヘルニア (ポケット判) (高賀須幸男編)。今日の治療指針, 1999；pp392-393, 医学書院.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 山田久木, 岩切勝彦：胃食道逆流の基礎と臨床, nifedipine (10mg) の胃食道逆流に及ぼす影響。第40回日本平滑筋学会総会, 1998. 7.
- 2) 坂本長逸：EGF様構造を有する新たな胃粘膜増殖因子クローニングの試み。日本臨床生理学会, 1998. 10.

(2) パネルディスカッション：

- 1) Kamegai J：Relationship between GHS and GHRH in GH secretion and feeding behavior. 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kitakyushu), 1998. 10.
- 2) 植原義之, 金沢秀典：TIPSによる食道静脈瘤破裂の待期的治療：内視鏡的硬化療法を対照治療法とした randomized controlled trial (RCT)。第40回日本消化器病学会大会, 1998. 4.
- 3) 金沢秀典, 小林正文：胃静脈瘤治療におけるTIPSとBRTOの兼ね合い。第5回日本門脈圧亢進症学会総会, 1998. 9.
- 4) 杉浦敏昭, 岩切勝彦：胃食道逆流症の病態, 逆流性食道炎の食道運動機能。第40回日本消化器病学会大会, 1998. 10.

(3) セミナー：

- 1) 若林一二：Growth Hormone Secretagogueの臨床応用。第9回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1999. 2.

(4) ワークショップ：

- 1) 中野忠澄¹⁾, 周東祐仁, 武井 司¹⁾, 宮川高一¹⁾, 藤浪謙至¹⁾ (1) 東京都多摩老人医療センター内分泌科)：高齢糖尿病患者の管理へのサポーター：高齢者における糖尿病教室。第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 2) 外川春美¹⁾, 周東祐仁, 武井 司²⁾, 宮川高一²⁾, 藤浪謙至²⁾, 中野忠澄²⁾, 秋本倫子³⁾, 福西勇夫³⁾, 御園生香⁴⁾ (1) 東京都多摩老人医療センターリハビリ科, 2) 東京都多摩老人医療センター内分泌科, 3) 東京都精神医

学総合研究所, ⁴⁾ 東京都神経科学総合研究所) : 高齢糖尿病患者の管理へのサポーター : 心理的サポートとしてのグループセラピー. 第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.

3) 金沢秀典, 小林正文 : TIPSによる refractory ascites の治療. 第16回日本画像医学会総会, 1999. 2.

(5) 一般講演 :

- 1) Kamegai J, Aleppo G¹⁾, Frohman LA¹⁾, Kineman RD¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, University of Illinois at Chicago) : Homologous downregulation of growth hormone-releasing hormone receptor (GHRH-R) mRNA is associated with an increase in inducible cAMP early repressor (ICER) mRNA, in vitro and in vivo. The Endocrine Society 80th Annual Meeting (New Orleans), 1998. 6.
- 2) Kamegai J, Wakabayashi I, Unterman TG¹⁾, Frohman LA¹⁾, Kineman RD¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, University of Illinois at Chicago) : Growth hormone-releasing hormone (GHRH) stimulates pituitary GH-secreting receptor (GHS-R) mRNA levels, in vivo. The Endocrine Society 80th Annual Meeting (New Orleans), 1998. 6.
- 3) Ishii S, Shibasaki T¹⁾, Murakami T²⁾, Tamura H, Sugihara H, Minami S, Shima K²⁾, Wakabayashi I (¹⁾ Department of Physiology, ²⁾ Institute of Gerontology and Department of Laboratory Medicine, University of Tokushima) : The causal link between body weight and the expression of the leptin gene in adipose tissue and its region specific response to fasting and subsequent refeeding as a function of age in rats. The Endocrine Society 80th Annual Meeting (New Orleans), 1998. 6.
- 4) Onose H, Emoto N, Sugihara H, Minami S¹⁾, Shimizu K²⁾, Wakabayashi I (¹⁾ Institute of Gerontology, ²⁾ Department of Surgery) : Overexpression of the fibroblast growth factor receptor 3 in a human thyroid carcinoma cell line does not affect growth rate but increases final cell density. The Endocrine Society 80th Annual Meeting (New Orleans), 1998. 6.
- 5) Tanosaki S, Inokuchi K, Yamaguchi H, Matsuoka H, Miyake K, Futaki M, Hamaguchi H, Dan K : Aberrant p73 gene in leukemias with abnormal chromosome 1. 27th Congress of the International Society of Hematology (Amsterdam), 1998. 7.
- 6) Hanawa H, Inokuchi K, Yamaguchi H, Nakamura K, Tanosaki S, Nomura T, Dan K : Detection of the novel c-mpl mRNA isoforms. 27th Congress of the International Society of Hematology (Amsterdam), 1998. 7.
- 7) Miyake K, Inokuchi K, Suzuki K, Tajika K, Gomi S, Dan K, Shimada T : Targeted and efficient gene transfer into hematopoietic cells by high-titer recombinant HIV vectors. 27th Congress of the International Society of Hematology (Amsterdam), 1998. 7.
- 8) Futaki M, Yamashita T¹⁾, Yabe M¹⁾, Kato S¹⁾, D'Andrea AD²⁾, Asano S¹⁾, Nakahata T¹⁾ (¹⁾ Institute of Medical Science, University of Tokyo, ²⁾ Dana-Farber Cancer Institute) : Analyses of Fanconi anemia genes in Japanese patients. 27th Congress of the International Society of Hematology (Amsterdam), 1998. 7.
- 9) Iwakiri K, Sugiura T, Kotoyori M, Nakagawa Y, Hirakawa T, Kawakami A, Kobayashi M : Effect of body position on lower esophageal sphincter pressure. 11th World Congresses of Gastroenterology (Vienna, Austria), 1998. 9.
- 10) Yamada H, Iwakiri K, Kotoyori M, Sugiura T, Nachi M, Nakagawa Y, Hirakawa T, Sesoko M, Kobayashi M : Effect of nifedipine on gastroesophageal reflux. 11th World Congresses of Gastroenterology (Vienna, Austria), 1998. 9.
- 11) Fujimori S, Kishida T, Sato J, Yonezawa M, Shibata Y, Tanaka S, Shinozawa I, Hoshino T, Tatsuguchi A, Fujita Y, Tamagawa Y, Yoshida Y, Hirakawa T, Kobayashi M : Superficial blood flow and blood volume measured by laser-doppler (LD) flowmetry in colorectal tubular adenomas and small adenocarcino-

- mas. 11th World Congresses of Gastroenterology (Vienna, Austria), 1998. 9.
- 12) Sato J, Kishida T, Yonezawa M, Shibata Y, Li F, Hoshino T, Tanaka S, Shinozawa I, Tatsuguchi A, Fujimori S, Tamagawa Y, Hirakawa T, Yoshida Y, Kobayashi M : Relationship between serum and duodenal bile acids. 11th World Congresses of Gastroenterology (Vienna, Austria), 1998. 9.
 - 13) Kishida T, Yonezawa M, Hoshino T, Li F, Tanaka S, Shinozawa I, Shibata Y, Tatsuguchi A, Sato J, Fujimori S, Tamagawa Y, Yoshida Y, Hirakawa T, Kobayashi M : Relationship between serum bile acids and rectal cancer. 11th World Congresses of Gastroenterology (Vienna, Austria), 1998. 9.
 - 14) Tsukui T, Akamatsu T, Wada K, Miura S, Iizumi T, Shinoki K, Tatsuguchi A, Miyake K, Sueoka N, Hirakawa T, Sakamoto C, Kobayashi M : Effects of EGF and rebamipide, an anti-ulcer agent, on cyclooxygenase-1 and -2 expression in gastric epithelial cells in vitro. Otuka GI Forum at Vienna Austria, 1998. 9.
 - 15) Nishigaki H, Sueoka N, Tatsuguchi A, Tsukui T, Sakamoto C, Kobayashi M : Combined magnification video-endoscopy with methylene blue staining for the assesment of intestinal metaplasia in Barrett's with duodenal ulcer. 11th World Congresses of Gastroenterology (Vienna, Austria), 1998. 9.
 - 16) Sueoka N, Nishigaki H, Tatsuguchi A, Tanaka S, Tsukui T, Sakamoto C, Kobayashi M : Combine magnification endoscopy with methylene blue staining for the assessment of gastric metaplasia in the patients with duodenal ulcer. 11th World Congresses of Gastroenterology (Vienna, Austria), 1998. 9.
 - 17) Futagami S, Takahashi H¹⁾, Hiratsuka T, Tatsuguchi A, Hirota K, Fujita Y, Kotoyori M, Yamada H, Sugiura T, Nakagawa Y, Miyake K, Tsukui T, Iwakiri K, Hirakawa T, Kawakami A, Sezoko M, Sakamoto C, Norose Y¹⁾, Futagami A³⁾, Ohashi K²⁾, Kobayashi M (¹⁾ Dept. of Microbiology & Immunology Nippon Medical School., ²⁾ Dept. of Clinical Pharmacology Nippon Medical School., ³⁾ Dept. of Dermatology Nippon Medical School.) : Analysis of immune responses to H. pylori in the sera of the patients with gastroduodenal diseases. 11th World Congresses of Gastroenterology (Vienna Austraria), 1998. 9.
 - 18) Sugisaki Y¹⁾, Hosone M¹⁾, Yokose N, Shiota M²⁾, Mori S²⁾, Izumo T³⁾ (¹⁾ Department of Pathology, ²⁾ Department of Pathology, Institute of Medicine, University of Tokyo, ³⁾ Department of Pathology, Saitama Cancer Center) : Aild with CD5+, CD4+, CD20+, cell population -CD20+ Tcell lymphoma?-. IVth German-Japanese meeting of lymphoma study group, 1998. 10.
 - 19) Minami S¹⁾, Sugihara H, Tamura H, Imaki J²⁾, Wakabayashi I (¹⁾ Institute of Gerontology, ²⁾ Department of Anatomy) : Growth hormone does not act directly on GRF neurons to inhibit its own secretion. 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kitakyushu), 1998. 10.
 - 20) Tamura H, Minami S¹⁾, Sugihara H, Kamegai H, Onose Y, Shuto Y, Ishii S, Emoto N, Wakabayashi I (¹⁾ Institute of Gerontology) : Acute effect of dihydrotestosterone (DHT) on the GH secretory pattern in gonadectomized female rats. 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kitakyushu), 1998. 10.
 - 21) Shuto Y, Parhar I¹⁾, Yamauchi N¹⁾, Kamegai J, Sugihara H, Shibasaki T¹⁾, Wakabayashi I (¹⁾ Departments of Physiology1 & Physiology2) : Production of antisera against growth hormone secretagogue receptor (GHS-R). 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kitakyushu), 1998. 10.
 - 22) Sugihara H, Tamura H, Shuto Y, Kamegai J, Emoto N, Onose H, Ishii S, Minami S¹⁾, Wakabayashi I (¹⁾ Institue of Gerontology) : Inhibition of somatostatin binding by growth horomone releasing peptide (GHRP) in the rat pituitary. 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kitakyushu), 1998. 10.
 - 23) Makino S¹²⁾, Shibasaki T³⁾, Yamauchi N, Nishioka T¹⁾, Mimoto T¹⁾, Wakabayashi I (¹⁾ 2nd Department of Internal Medicine, Kochi Medical School, ²⁾ Osaka Gyomeikan Hospital, ³⁾ Department of Physiology) : Psychological stress increased corticotropin-releasing hormone mRNA and content in the central nucleus of the amygdala but not in the hypothalamic paraventricular nucleus in the rat. 4th International Congress of

Neuroendocrinology (Kitakyushu), 1998. 10.

- 24) Wakabayashi I, Zain F¹⁾, Shuto Y, Wan Mohamad W B²⁾, Mustaffa E²⁾, Mafauzy M²⁾, Zalina I³⁾, Musalmah M⁴⁾, Ibrahim LS⁴⁾, Sugihara H, Shibasaki T³⁾ (1) Department of Pediatrics, University Science Malaysia, 2) Department of Medicine, University Science Malaysia, 3) Department of Physiology, 4) Chemical Pathology and Radiology, University Science Malaysia) : Growth hormone (GH) response to GH-releasing peptide-2 (GHRP-2) is decreased in thalassemic patients with severe growth retardation. 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kitakyushu), 1998. 10.
- 25) 山田久木, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 中川義也, 川上明彦, 小林正文 : Ca拮抗薬 (nifedipine 10mg) の胃食道逆流に及ぼす影響. 第95回日本内科学会総会, 1998. 4.
- 26) 岸田輝幸, 米澤真興, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 李 峰, 辰口篤志, 佐藤 順, 藤森俊二, 吉田 豊, 小林正文 : 直腸癌患者における血清胆汁酸分析の検討. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
- 27) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 山田久木, 平塚哲郎, 二神生爾, 中川義也, 川上明彦, 小林正文 : 胸痛を主症状とする nutcracker esophagus と嚥下困難を主症状とする nutcracker esophagus の食道内圧による検討. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
- 28) 岩切勝彦, 琴寄 誠, 山田久木, 杉浦敏昭, 平塚哲郎, 二神生爾, 中川義也, 川上明彦, 小林正文 : 食道体部に同時性収縮波を有する症例の検討. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
- 29) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 山田久木, 平塚哲郎, 中川義也, 川上明彦, 小林正文 : 食道体部に同期性収縮波を有する症例の食道造影所見 : コルクスクリュウ様所見はびまん性食道痙攣の特徴的所見か? . 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
- 30) 田近賢二, 五味聖二, 中村弘之, 中山一隆, 田村秀人, 長谷川節雄, 檀 和夫 : ICE regimen による自家PBSC T8症例の検討 - Regimen related toxicity を中心に一. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
- 31) 中塚雄久, 杉山弘高¹⁾, 中川洋子¹⁾, 金沢秀典, 黒田 肇, 小林正文, 高橋秀実¹⁾ (1) 微生物免疫学) : 肝細胞癌特異的CTLが認識するClass-1MHC分子拘束性peptideの分離, 解析. 第34回日本肝臓学会総会, 1998. 4.
- 32) 長田祐二, 金沢秀典, 榎原義之, 間宮康貴, 小泉信人, 吉本 均, 斉藤 整, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇, 小林正文, 高橋修司¹⁾, 川俣博志¹⁾ (1) 放射線科) : 門脈血栓症に対するTIPSの有用性. 第34回日本肝臓学会総会, 1998. 4.
- 33) 間宮康貴, 金沢秀典, 榎原義之, 長田祐二, 小泉信人, 吉本 均, 斉藤 整, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文 : 肝硬変における高endothelin-1血症の意義. 第40回日本消化器病学会大会, 1998. 4.
- 34) 西垣 均, 末岡伸夫, 田中 周, 辰口篤志, 青木正明, 香川隆男, 小林正文 : Helicobacter pylori陽性患者における十二指腸潰瘍癒痕周囲の胃上皮化生に関する検討—methylene blueを用いて—. 第55回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 4.
- 35) 西垣 均, 末岡伸夫, 辰口篤志, 田中 周, 津久井拓, 青木正明, 香川隆男, 坂本長逸, 小林正文, 徳永 昭¹⁾ (1) 第1外科) : 十二指腸球部における胃上皮化生と異所性胃粘膜の色素法を用いた拡大内視鏡観察. 第55回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 4.
- 36) 末岡伸夫, 西垣 均 : Barrett食道の発生, 進展における臨床像の検討. 第84回消化器病学会総会, 1998. 4.
- 37) 周東祐仁, 武井 司¹⁾, 宮川高一¹⁾, 藤浪謙至¹⁾, 中野忠澄¹⁾ (1) 東京都多摩老人医療センター内分泌科) : 高齢糖尿病患者における血中レプチン値. 第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 38) 武井 司¹⁾, 周東祐仁, 藤浪謙至¹⁾, 宮川高一¹⁾, 中野忠澄¹⁾ (1) 東京都多摩老人医療センター内分泌科) : 90才以上超高齢糖尿病症例の当センターにおける臨床像. 第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 39) 木村 拓, 猪口孝一, 中山一隆, 松岡弘樹, 塙 秀樹, 田野崎栄, 横瀬紀夫, 安 恵美, 山田 隆, 緒方清行, 檀 和夫 : t (1 ; 17) 核型異常を示した急性前骨髄球性白血病. 第132回日本臨床血液学会例会, 1998. 5.
- 40) 亀谷 純, Kineman RD¹⁾, 若林一二, Frohman LA¹⁾ (1) イリノイ大学内科) : ラット下垂体Growth Hor-

- mone Secretagogue 受容体遺伝子発現におよぼす成長ホルモン (GH) の効果. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
- 41) 江本直也, 小野瀬裕之, 杉原 仁, 南 史朗¹⁾, 清水一雄²⁾, 若林一二 (1) 老人病研究所, ²⁾ 第2外科): 甲状腺乳頭癌細胞における FGF 受容体 (FGFR-3) の過剰発現の効果. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
 - 42) 田村秀樹, 杉原 仁, 南 史朗¹⁾, 江本直也, 小野瀬裕之, 周東祐仁, 石井新哉, 若林一二 (1) 老人病研究所): 成長ホルモン (GH) 分泌促進ペプチドのソマトスタチン (SS) 結合能に与える影響. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
 - 43) 小野瀬裕之, 江本直也, 杉原 仁, 南 史朗¹⁾, 若林一二 (1) 老人病研究所): 軟骨形成細胞株 ATDC5 のプロテオグリカン合成に対する FGF-2 の効果. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
 - 44) 南 史朗¹⁾, 杉原 仁, 田村秀樹, 江本直也, 若林一二 (1) 老人病研究所): 成長ホルモンの急性投与の視床下部へのフィードバック機序. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
 - 45) 鈴木健治¹⁾, 大島久幸¹⁾, 若林一二, 芝崎 保¹⁾ (1) 第2生理): 成長ホルモン放出ペプチドの視床下部内摂食促進作用発現部位の解析. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
 - 46) 武井 司¹⁾, 周東祐仁, 中野忠澄¹⁾ (1) 東京都多摩老人医療センター): 90才以上超高齢糖尿症例の当センターにおける臨床像. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
 - 47) 杉原 仁, 南 史朗¹⁾, 江本直也, 小野瀬裕之, 周東祐仁, 石井新哉, 田村秀樹, 若林一二 (1) 老人病研究所): インスリン様成長因子 (IGF-I) の成長ホルモン (GH) 分泌促進因子 (GRF) 受容体発現に対する効果. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
 - 48) 柴田喜明, 小泉信人, 米澤真興, 星野哲夫, 篠澤 功, 田中 周, 辰口篤志, 佐藤 順, 藤森俊二, 中山一隆, 田村秀樹, 吉田 豊, 岸田輝幸, 小林正文: AIDS に合併したアメーバ性腸炎の1例. 第66回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 6.
 - 49) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 山田久木, 中川義也, 川上明彦, 小林正文: 内視鏡的バルーン拡張術が著効した非特異低値食道運動異常症の1例. 第66回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 6.
 - 50) 西垣 均, 末岡伸夫, 辰口篤志, 津久井拓, 坂本長逸, 小林正文, 長谷川博一¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 恩田昌彦¹⁾ (1) 第1外科): 短期間に増大したI型早期胃癌の1例. 第66回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 6.
 - 51) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 山田久木, 中川義也, 川上明彦, 小林正文: Ca拮抗薬が著効したびまん性食道癌の1例. 第249回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 6.
 - 52) 名知志子, 津久井拓, 中塚雄久, 榎原義之, 間宮康隆, 長田祐二, 吉本 均, 竹内 司, 斉藤 整, 吉沢雅史, 多田教彦, 松坂 聡, 金沢秀典, 黒田 肇, 小林正文: C型慢性肝炎のインターフェロン (IFN) 治療効果に影響を及ぼす宿主要因の検討: HLA との関連について. 第39回消化器免疫学会, 1998. 7.
 - 53) 二神生爾, 坂本長逸, 小林正文, 高橋秀実¹⁾ (1) 微生物免疫): 慢性胃炎患者における Helicobacter pylori urease (H Purease) に対する全身性および局在性の免疫応答の検討. 第4回白河カンファレンス, 1998. 9.
 - 54) 橘美紀子, 三宅一昌, 辰口篤志, 末岡伸夫, 香川隆男, 坂本長逸, 小林正文, 吉行俊郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 恩田昌彦¹⁾ (1) 第1外科): Gastrointestinal stromal tumor (GIST) のI症例. 第251回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 9.
 - 55) 吉本 均, 金沢秀典, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 小泉信人, 中塚雄久, 津久井拓, 斉藤 整, 多田教彦, 松坂 聡, 坂本長逸, 小林正文: Octeriotide の門脈血行動態に及ぼす影響: 超音波ドプラ法による検討. 第5回日本門脈圧亢進症学会総会, 1998. 9.
 - 56) 榎原義之, 金沢秀典, 間宮康貴, 長田祐二, 小泉信人, 吉本 均, 斉藤 整, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文, 高橋修司¹⁾, 川俣博志¹⁾ (1) 放射線科): 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) による refractory ascites の治療. 第5回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会総会, 1998. 9.

- 57) 江本直也, 小野瀬裕之, 杉原 仁, 清水一雄¹⁾, 若林一二 (1) 第2外科): 腫大性甲状腺疾患における細胞外マトリックス・プロテオグリカンの変化. 第41回日本甲状腺学会, 1998. 10.
- 58) 佐藤 順, 岸田輝幸, 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 藤森俊二, 玉川恭士, 吉田 豊, 坂本長逸, 小林正文: 当科における過去5年間のイレウス症例の検討. 第40回日本消化器病学会大会, 1998. 10.
- 59) 徳永 昭¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 奥田武志¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 李 栄浩¹⁾, 平本義浩¹⁾, 池田研吾¹⁾, 小栗 剛¹⁾, 飯田信也¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 末岡伸夫, 坂本長逸, 小林正文, 杉崎祐一²⁾, 山下精彦³⁾ (1) 第1外科, 2) 病理部, 3) 千葉北総病院): 十二指腸潰瘍修復における胃型上皮出現の意義—内視鏡重点生検材料を用いたpS2免疫組織化学. 第40回日本消化器病学会大会, 1998. 10.
- 60) 塩井由美子, 塙 秀樹, 橋本充弘, 安 恵美, 山田 隆, 緒方清行, 檀 和夫: 薬剤による多彩な造血障害をきたした1例. 第133回日本臨床血液学会例会, 1998. 10.
- 61) 山口博樹, 猪口孝一, 中村佳代, 塙 秀樹, 田野崎栄, 松岡弘樹, 三宅弘一, 檀 和夫: 造血管腫瘍におけるBax,bcl-x遺伝子の解析. 第57回日本癌学会総会, 1998. 10.
- 62) 山田久木: Ca拮抗薬(nifedipine 10mg)の胃食道逆流に及ぼす影響. 第3回GERD研究会学術集会, 1998. 11.
- 63) 李 峰, 岸田輝幸, 瀬底正彦, 小林正文: 消化器内視鏡の発展(内科医の立場から). 第9回学校法人日本医科大学外国人留学生研究会, 1998. 11.
- 64) 米澤真興, 山口博樹, 小泉信人, 辰口篤志, 藤森俊二, 佐藤 順, 田中 周, 星野哲夫, 柴田喜明, 篠澤 功, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸, 小林正文: 末梢血幹細胞移植後にサイトメガロウイルス感染と合併したGVHDcolitisを認めた急性白血病の1例. 第67回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 11.
- 65) 柴田喜明, 岸田輝幸, 米澤真興, 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 佐藤 順, 伊月葉子, 藤森俊二, 立川裕理, 玉川恭士, 吉田 豊, 坂本長逸, 小林正文: 当科における内視鏡の大腸粘膜切除術症例の検討. 第56回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 11.
- 66) 緒方清行, 安 恵美, 横瀬紀夫, 田村秀人, 中村恭子, 塩井由美子, 羅 善順, 檀 和夫, 川本雅司¹⁾, 杉崎祐一²⁾ (1) 第1病理, 2) 病理部): Myeloid系抗原を発現した非ホジキンリンパ腫の1例. 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11.
- 67) 横瀬紀夫, 安 恵美, 羅 善順, 田村秀人, 中村恭子, 塙 圭子, 塩井由美子, 緒方清行, 檀 和夫: 肝炎後再生不良性貧血患者の細胞性免疫に関する検討. 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11.
- 68) 猪口孝一, 山口博樹, 松岡弘樹, 塙 秀樹, 田野崎栄, 檀 和夫, 篠原多美子¹⁾ (1) 沖中記念研究所): 急性前骨髄球性白血病に認めたt(1;17)核型異常の分子生物学的解析. 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11.
- 69) 中村弘之, 田近賢二, 水木太郎, 中山一隆, 山口博樹, 五味聖二, 檀 和夫: 会陰部巨大腫瘤を形成した尿道海綿体原発非ホジキンリンパ腫の1例. 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11.
- 70) 山田 隆, 檀 和夫, 田賀井篤平¹⁾ (1) 東京大学理学部): ハイドロキシアパタイトを用いた骨髄長期培養の試み(第2報). 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11.
- 71) 山口博樹, 中村佳代, 塙 秀樹, 田野崎栄, 松岡弘樹, 三宅弘一, 猪口孝一, 檀 和夫: 造血管腫瘍におけるBax,bcl-X遺伝子の解析. 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11.
- 72) 安 恵美, 横瀬紀夫, 橋本充弘, 中村恭子, 塩井由美子, 羅 善順, 緒方清行, 檀和夫, 梶井英治¹⁾ (1) 自治医科大学法医学): クームス試験陰性自己免疫性溶血性貧血(AIHA)を合併し, P-glycoprotein (PGP)の発現を認めたhepatosplenic $\gamma \delta$ T-cell lymphomaの1例. 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11.
- 73) 中山一隆, 田近賢二, 中村弘之, 水木太郎, 山口博樹, 松岡弘樹, 中村恭子, 田村秀人, 五味聖二, 檀 和夫: 当科における難治性NHLに対する自家PBSCTの治療成績. 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11.
- 74) 遠山莊一郎, 塙 秀樹, 横瀬紀夫, 安 恵美, 緒方清行, 檀 和夫: 感染性心内膜炎様症状で発症し, 骨髄, 僧帽弁のみに限局した悪性リンパ腫. 第21回老年人造血管疾患研究会, 1998. 12.
- 75) 佐藤 順, 中塚雄久, 榎原義之, 辰口篤志, 長田祐二, 小泉信人, 金沢秀典, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正

- 文：溶血性貧血を繰り返したWilson病の1例。第252回日本消化器病学会関東支部例会，1998。12。
- 76) 中塚雄久，杉山弘高¹⁾，清水真澄¹⁾，中川洋子¹⁾，高橋秀実¹⁾ (1) 微生物免疫)：マウス肝細胞癌特異的CTLが認識する class-1MHC 分子拘束性 peptide の解析。第28回日本免疫学会，學術集会，1998。12。
- 77) 小野瀬裕之，亀谷 純，周東祐仁，杉原 仁，江本直也，芝崎 保¹⁾，中野忠澄²⁾，若林一二 (1) 第2生理，²⁾ 東京都多摩老人医療センター内分泌科)：視床下部病変の合併が疑われたSheehan症候群。第9回日本間脳下垂体腫瘍学会，1999。2。
- 78) 亀谷 純，田村秀樹，石井新哉，周東祐仁，小野瀬裕之，杉原 仁，江本直也，芝崎 保¹⁾，若林一二 (1) 第2生理)：Cushing病の死亡例について。第9回日本間脳下垂体腫瘍学会，1999。2。
- 79) 水木太郎，山口博樹，橋本充弘，中村恭子，横瀬紀夫，猪口孝一，田近賢二，檀 和夫：血球貪食症候群(HPS)にて発症した横紋筋原発の anaplastic large T cell lymphoma の1例。第134回日本臨床血液学会例会，1999。2。
- 80) 杉崎祐一¹⁾，細根 勝³⁾，森 茂朗⁴⁾，榊原貴子²⁾，檀 和夫 (1) 病理部，²⁾ 皮膚科，³⁾ 多摩永山病院病理部，⁴⁾ 東京大学医科学研究所)：全身の紅皮症とリンパ節腫大を伴ったCLL。第2回血液病理研究会，1999。3。
- 81) 岸田輝幸，米澤真興，柴田喜明，篠澤 功，田中 周，星野哲夫，佐藤 順，藤森俊二，吉田 豊，小林正文：大腸癌患者における血清胆汁分析の検討。第96回日本内科学会総会，1999。3。
- 82) 緒方清行，羅 善順，田村秀人，檀 和夫，野村武夫，通山 薫¹⁾，吉田弥太郎¹⁾，浜口裕之²⁾，坂巻 寿³⁾ (1) 京都大学，²⁾ 武蔵野日赤病院，³⁾ 都立駒込病院)：骨髓異形成症候群(MDS)患者の血中トロンボポイエチン(TPO)濃度と血小板のTPO受容体(TPO-R)発現。第96回日本内科学会講演会，1999。3。
- 83) 柏木亮一¹⁾，坂本長逸，津久井拓，坂根正芳¹⁾，三宅一昌，末岡伸夫，藤森孝博²⁾，田畑文平¹⁾ (1) 田畑胃腸病院，²⁾ 獨協大学第2病理)：多重回帰分析を用いた萎縮性胃炎進展因子に関する検討。日本消化器病学会，1999。10。
- 84) 辰口篤志，二神生爾，三宅一昌，津久井拓，坂本長逸，小林正文：胃潰瘍周辺胃粘膜における cyclooxygenase-2 (COX-2) の局在一免疫組織学的検討一。日本消化器病学会，1999。10。
- 85) 琴寄 誠，岩切勝彦，杉浦敏昭，山田久木，林 良紀，中川義也，川上明彦，小林正文：びまん性食道痙攣の食道内視鏡所見。第67回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1998。11。
- 86) 篠沢 功，米澤真興，平塚哲郎，中村弘之，琴寄 誠，長田祐二，杉浦敏昭，西垣 均，小泉信人，佐藤 順，岩切勝彦，三宅一昌，津久井拓，末岡伸夫，坂本長逸，小林 正文：食道壁内血腫とMallory-Weiss症候群が併存した1例。第67回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1998。11。
- 87) 三宅一昌，二神生爾，津久井拓，末岡伸夫，坂本長逸，小林正文，藤森孝博¹⁾ (1) 獨協大学第2病理)：胃粘膜の萎縮および腸上皮化生の進展因子に関する検討。第96回日本内科学会総会，1999。3。
- 88) 林 良紀，岩切勝彦，琴寄 誠，進士陽子，山田久木，杉浦敏昭，中川義也，川上明彦，坂本長逸，小林正文：内科的治療に難渋している vigorous achalasia の1例。第53回日本消化器病学会関東支部例会，1999。2。

4. 内科学第四講座

[付属病院第4内科]

研究概要

内科学第四講座では呼吸器疾患を対象に平成10年度に以下の臨床的、基礎的研究を展開した。

臨床研究として、①マクロライドやN-acetylcysteine等の薬剤による特発性間質性肺炎およびその急性増悪に対する有効性の検討、②サルコイドーシス患者の気管支肺胞洗浄液中の細胞の解析、③特発性間質性肺炎患者の血中内皮細胞障害マーカーの評価、④高齢者慢性閉塞性肺疾患患者における患者指導に関する研究、テレメディスンによる病診連携、⑤睡眠時無呼吸症候群の血液凝固へ及ぼす影響、⑥慢性閉塞性肺疾患患者と類瘦、成長ホルモンの関連の検討、⑦日常労作（入浴等）の慢性閉塞性肺疾患患者の肺機能に及ぼす影響、⑧肺音および咳嗽の音響学解析、⑨肺癌化学療法の実験的臨床研究 [非小細胞肺癌：weekly CDDP+CPT-11 (phase II), CDDP+CPT-11 vs CDDP+VDS (phase III), low dose CDDP+UFT (phase II), CDDP+taxotere+UFT (phase I, II), 新規抗癌剤 (phase I, II), 小細胞肺癌：alternating chemotherapy], ⑩各種制吐剤の臨床試験等を行った。

基礎研究としては、①ブレオマイシンにより誘発されるマウス肺臓炎に対するマクロライドの予防効果とその機序、②糖尿病モデル動物を用いた実験の間質性肺炎の研究、③培養内皮細胞に対するブレオマイシンの作用、④新規薬剤の実験的間質性肺炎抑制効果の検討、⑤DPBに関する遺伝子の解析、⑥ヒト肺腺癌株 (PC-9) 由来多臓器高転移株を用いたIntegrinと転移臓器特異性に関する検討、⑦Laminin-1 peptides (AC-Y16, AG-73) の腫瘍増殖、実験的転移に及ぼす効果と発現機序、⑧マクロライドの実験的肺転移抑制効果の機序、⑨新規抗癌剤を用いた併用療法のマウスにおける基礎的検討、⑩サルコイドーシスにおけるApoptosis抑制因子の関与、⑪癌遺伝子治療の基礎的研究、⑫細胞周期調節因子のクローニングとゲノム構造の決定、⑬ヒト肺癌における癌抑制遺伝子候補の変異解析、⑭癌発生母地としての肺線維症の分子生物学的研究等の研究を推進した。

研究業績

論文

[1997年度追加分]

原著：

- 1) Matsuzaki Y¹⁾, Saito Y²⁾, Kobayashi K, Yoshiga S³⁾, Shoda J¹⁾, Abei M, Tanaka N¹⁾ (1) Department of Gastroenterology, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba, 2) Division of Gastroenterology, Tsukuba Medical Center Hospital, 3) Division of Gastroenterology, Ushiku Ajiwa General Hospital) : Clinical significance of serum total bile acids and indocyanine green test for the estimation of plasma free etoposide ratio in anicteric hepatocellular carcinoma patients. *Hepatology Research* 1997 ; (9) : 113-123.
- 2) 山野義光, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二 : 担癌マウスにおけるLymphokine Activated Killer (LAK) 細胞およびInterleukin-2 (IL-2) を用いたAdoptive Immunotherapyと抗癌剤の併用効果. *日医大誌* 1997 ; 64 (3) : 1-12.
- 3) 高崎雄司, 神尾和孝, 小野容明, 大櫛陽一 : 非観血的補助呼吸療法の効果発現病態：左心不全とII型呼吸不全について. *日本呼吸器学会雑誌* 1997 ; 35 (第37回総会記録号) : 132-138.

(1) 原著：

- 1) Trawogger R¹⁾, Kolobow T¹⁾, Cereda M¹⁾, Giacomini M¹⁾, Usuki J, Horiba K¹⁾, Ferrans VJ¹⁾ (1) NHLBI, NIH) : Clearance of mucus from endotracheal tubes during intratracheal pulmonary ventilation. *Anesthesi-*

- ology 1997 ; 86 (6) : 1367-1374.
- 2) Yamamoto K¹⁾, Noda K¹⁾, Yoshimura A, Fukuoka M²⁾, Furuse K³⁾, Niitani H⁴⁾ (¹⁾ Kinki University School of Medicine, ²⁾ Osaka Prefectural Habikino Hospital, ³⁾ National Kinki Central Hospital, ⁴⁾ The Tokyo Cooperative Oncology Group) : Phase 1 study of E7010. *Cancer Chemoth Pharm* 1998 ; 42 : 127-134.
 - 3) Yokose N, Ogata K, Tamura H, An E, Nakamura K, Kamikubo K, Kudoh S, Dan K, Nomura T : Pulmonary toxicity after granulocyte colony-stimulating factor-combined chemotherapy for non-Hodgkin's lymphoma. *Brit J Cencer* 1998 ; 77 (12) : 2286-2290.
 - 4) Fukuda Y, Ishizaki M, Kudoh S, Kitaichi M, Yamanaka N : Localization of Matrix Metalloproteinases-1, -2, and -9 and Tissue inhibitor of Methalloproteinase-2 in Interstitial lung diseases. *Lab Invest* 1998 ; 78 (6) : 687-698.
 - 5) Kobayashi K, Takeda F¹⁾, Tramukai S¹⁾, Gotoh H¹⁾, Yoneda S¹⁾, Noguchi Y¹⁾, Ogasawara H¹⁾, Yoshida K¹⁾ (¹⁾ Hospital of Saitama Cancer Centre) : A cross-validation of the European Organization for Research and Treatment of Cancer QLQ-C30 (EORTC QLQ-C30) for Japanese with lung cancer. *Eur J Cancer* 1998 ; 34 (6) : 810-815.
 - 6) Burke L¹⁾, Khan MA, Feedman AN, Gemma A, Rusin M, Guinee DG, Bennett WP, Caporaso NE, Fleming MV, Travis WD, Colby TV, Trastek V, Pairolero PC, Tazelaar HD, Midthun DE, L, LA, H, CC (¹⁾ Laboratory of human Carcinogenesis, National Cancer Institute) : Allelic deletion analysis of the FHIT gene predicts poor survival in non-small cell lung cancer. *Cancer Res* 1998 ; 58 (12) : 2533-2536.
 - 7) Kudoh S, Azuma A, Yamamoto M, Izumi T, Ando M : Improvement of Survival in Patients with diffuse panbronchiolitis treated with Low-Dose Erythromycin treatment. *Am J Resp Crit Care* 1998 ; 157 : 1829-1832.
 - 8) Kida K, Jinno S, Nomura K, Yamada K, Katsura H, Kudoh S : Pulmonary Rehabilitation Program Survey in North America, Eurpe, and Tokyo. *J Cardiopulmonary Rehabil* 1998 ; 18 : 301-308.
 - 9) Murata A, Taniguchi Y, Hashimoto Yasushi , Kaneko Yasuyuki , Takasaki Yuji , Kudoh S : Discrimination of Productive and Non-Productive Cough by Sound Analysis. *Internal Med* 1998 ; 37 (9) : 732-735.
 - 10) Hibino S, Kato K¹⁾, Kudoh S, Yagita H¹⁾, Okumura K¹⁾ (¹⁾ Department of Immunology, Juntendo University School of Medicine) : Tenascin Suppresses CD3-Mediated T Cell Activation. *Biochem Bioph Res Co* 1998 ; 250 (1) : 119-124.
 - 11) Usuki J, Horiba K¹⁾, Chu SC²⁾, Moss J²⁾, Ferrans VJ¹⁾ (¹⁾ Pathology Section, NHLBI, NIH, ²⁾ Pulmonary-Critical Care Medicine Branch, NHLBI, NIH) : Immunohistochemical analysis of proteins of the Bcl-2 family in pulmonary lymphangioleiomyomatosis : association of Bcl-2 expression with hormone receptor status. *Arch Pathol Lab Med* 1998 ; 122 (10) : 895-902.
 - 12) Keicho N, Tokunaga K, Nakata K, Taguchi Y, Azuma A, Bannai M, Emi M, Ohishi N, Yazaki Y, Kudoh S : Contribution of HLA Genes to Genetic Predisposition in Diffuse Panbronchiolitis. *Am J Resp Crit Care* 1998 ; 158 : 846-850.
 - 13) Kurane S, Krauss J¹⁾, Watari E²⁾, Kannagi R³⁾, Chang A⁴⁾, Kudoh S (¹⁾ Cleveland Clinic Foundation, ²⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ³⁾ Aichi Cancer Center Research Institute, ⁴⁾ Division of Surgical Oncology, University of Michigan) : Targeted Gene Transfer for Adenocarcinoma Using a Combination of Tumor-specific Antibody and Tissue-specific Promoter. *Japanese Journal of Cancer Research* 1998 ; 89 (11) : 1212-1219.
 - 14) Kobayashi K¹⁾, Shinbara A¹⁾, Kamimura M¹⁾, Takeda Y¹⁾, Kudo K¹⁾, Kabe J¹⁾, Hibino S, Hino M,

- Shibuya M, Kudoh S (¹ Department of Respiratory Medicine, International Medical Center of Japan) : Irinotecan (CPT-11) in combination with weekly administration of cisplatin (CDDP) for non-small-cell lung cancer. *Cancer Chemoth Pharm* 1998 ; 42 (1) : 53-58.
- 15) Sodeyama N, Ishida K, Jaeckle KA, Zhang L, Azuma A, Yamada A, Mizusawa H, Wada Y : Pattern of epitopic reactivity of the anti-Hu antibody on HuD with and without paraneoplastic syndrome. *J Neurol Neurosurg Ps* 1999 ; 66 (1) : 97-99.
- 16) Keicho N, Tokunaga K, Nakata K, Taguchi Y, Azuma A, Bannai M, Emi M, Ohishi N, Yazaki Y, Kudoh S : Contribution of TAP Genes to Genetic Predisposition for Diffuse Panbronchiolitis. *Tissue Antigens* 1999 ; 53 : 366-373.
- 17) Ishihara Y¹, Sakai H², Nukariya N, Kobayashi K, Yoneda S³, Matuoka R⁴, Hohjo T⁵, Nishiwaki Y⁵, Hoshi A⁶, Kuratomi Y⁷, Nagai A⁷, Kagawa J¹, Kitamura S⁶ (¹ Department of Hygiene and Public Health, Tokyo Women's Medical University, ² Pulmonary Center, Tokyo Women's Medical University, ³ Saitama Cancer Center, ⁴ Showa General Hospital, ⁵ The East Hospital National Cancer Center, ⁶ Department of Pulmonary Medicine, Jichi Medical School, ⁷ Oomiya Medical Center, Jichi Medical School) : A daily form quality of life questionnaire for Japanese patients with lung cancer and summarization techniques for longitudinal assessment. *Respirology* 1999 ; 53-61.
- 18) Takizawa H, Ohtoshi T, Kawasaki S, Kohyama T, Desaki M, Kasama T, Kobayashi K, Nakahara K, Yamamoto K, Matsushima K, Kudoh : Diesel Exhaust Particles Induce NF-kB Sctivation in Human Bronchial Epithelial Cells In Vitro : Importance in Cytokine Trascription1. *J Immunol* 1999 ; 8 (162) : 4705-4711.
- 19) Emi M, Keicho N, Tokunaga K, Katsumata H, Souma S, Nakata K, Taguchi Y, Ohishi N, Azuma A, Kudoh S : Association of deffuse panbronchiolitis with microsatellite polymorphism of the human interleukin 8 (IL-8) gene. *J Hum genet* 1999 ; 44 : 169-172.
- 20) Azuma A, Kudoh S, Ymamoto M, Izumi T, Ando M : Distinguished Improvement of Survial Times of the Patients with Diffuse Panbronchiokitis (DPB) treated with 14-Membrered-ring Macrplide (14-MM). *J Tokyo Medical University* 1998 ; 56 : 439-441.
- 21) 徐 向英¹, 田島広之¹, 渡 潤¹, 隈崎達夫¹, 吉村明修, 安藤真弘, 村田 朗, 工藤翔二, 矢野 侃², 松本満臣³, 松本 徹⁴ (¹ 日本医科大学放射線医学教室, ² 荒川区がん予防センター, ³ 東京都立医療技術短期大学, ⁴ 放射線医学総合研究所) : らせんCTを用いた都市型・施設型肺癌一次検診一初年度の成績とそれに対する臨床的考察一. *胸部CT検診* 1998 ; 5 (2) : 79-82.
- 22) 斉藤好信¹, 三上正志¹, 中村清一¹, 橋本紀子¹, 安部康夫¹, 馬場美智子¹, 滝沢 潤¹, 川上雅彦¹, 亀井克彦² (¹ 都立広尾病院 呼吸器科, ² 千葉大学真菌医学研究センター) : 糖尿病とアルコール性肝硬変を基礎疾患とした肺シェードアレシエリア症の1例. *日本呼吸器学会誌* 1998 ; 36 (5) : 498.
- 23) 神尾孝一郎¹, 吾妻安良太¹, 竹中 圭¹, 山本和男¹, 岡野哲也¹, 渡辺秀一¹, 長谷川浩一¹, 慶長直人², 工藤翔二 (¹ 慈山会医学研究所付属坪井病院内科, ² 東京大学第三内科) : DPBの家族発症が疑われた中国残留孤児の1家系. *THERAPEUTIC RESEARCH* 1998 ; 19 (7) : 2265-2267.
- 24) 清家正博, 安藤真弘, 長谷川浩一¹, 左近司光明¹, 坪井栄孝¹ (¹ 慈山会医学研究所付属坪井病院内科) : 非小細胞肺癌に対するCDDPとUFTの少量連日併用化学療法. *癌と化学療法* 1998 ; 25 (10) : 1539-1542.
- 25) 山本和男, 安藤真弘, 植松和嗣, 日比野俊, 弦間昭彦, 吉村明修, 工藤翔二, 窪倉浩俊¹, 三上 巖¹, 小泉潔¹, 田中茂夫¹, 岡島雄史², 渡 潤², 田島広之², 隈崎達夫², 逸見しのぶ³, 持丸 博³, 福田 悠³, 山中宣昭³ (¹ 日本医科大学第2外科, ² 日本医科大学放射線科, ³ 日本医科大学第1病理) : 高速らせんCTによる肺癌一次検診 (CT検診) で発見されたスリガラス状陰影を呈した肺腺癌の1症例. *日医大誌* 1998 ; 65

- (6) : 481-483.
- 26) 田島廣之, 松本満臣, 隅崎達夫, 渡 潤, 徐 向英, 工藤翔二, 吉村明修, 村田 朗, 宮本忠昭, 松本 徹, 矢野 侃, 田島なつき: 低線量らせんCTを用うた肺癌一次検診: 荒川プロジェクトについて. MEDIX 1998 ; 29.
- 27) 渋谷昌彦, 小久保豊, 武市朗子, 日比野俊, 小野 靖, 篠田欣也, 籾 大同, 松田久仁子, 吾妻安良太, 工藤翔二: 接着・浸潤阻害作用によるクラリスロマイシンの実験的肺転移抑制効果. Jpn. J. Antibiotics 1998 ; 52 (supple. A) : 121-127.
- 28) 倉根修二, 工藤翔二: 抗酸菌結核病床のない大学付属病院および基幹病院での対応. 結核 1999 ; 74 (2) : 139-143.
- 29) 棚橋ひとみ¹⁾, 渋谷敦夫¹⁾, 長 澄人²⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 日本女子大学人間生活学科研究科, ²⁾ 済生会吹田病院): 枕の高さ変化が呼吸機能に及ぼす影響. 日本生理人類学会誌 1999 ; 4 (1) : 35-40.
- 30) 平良 修¹⁾, 松岡 健²⁾, 武内浩一郎³⁾, 浜田 勉⁴⁾, 一和多俊男⁵⁾, 工藤翔二, 渋谷昌彦, 忽滑谷直孝, 福山悦男⁶⁾, 佐久間昭⁷⁾, 仁井谷久暢⁸⁾, 栗原 稔⁹⁾ (¹⁾ 東京医科大学八王子医療センター胸部外科, ²⁾ 東京医科大学霞ヶ浦病院第5内科, ³⁾ 横浜労災病院呼吸器内科, ⁴⁾ 社会保険中央総合病院内科, ⁵⁾ 獨協医科大学越谷病院呼吸器内科, ⁶⁾ 君津中央病院, ⁷⁾ 東京医科歯科大学, ⁸⁾ 東京がん化学療法研究会, ⁹⁾ 昭和大学附属豊洲病院消化器科): 癌化学療法の急性悪心・嘔吐に対する塩酸グラニセトロン注射液と塩酸オンダンセトロン注射液のランダム化比較試験—5HT3受容体拮抗剤の制吐効果と制吐対策費用の比較—. Pharma Medica 1999 ; 17 (4) : 177-187.
- 31) 工藤翔二, 岡村 樹¹⁾, 神野 悟²⁾, 本間 栄³⁾ (¹⁾ 都立駒込病院呼吸器科, ²⁾ 都立老人医療センター呼吸器科, ³⁾ 虎の門病院呼吸器科): 呼吸器疾患における輸液療法のあり方. Medical Tribune 1998 ; 18-19.
- 32) 永井厚志¹⁾, 吉沢靖之²⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 東京女子医科大学第1内科, ²⁾ 東京医科歯科大学呼吸器科): 間質性肺炎をめぐる. 臨床医 1998 ; 24 (12) : 2466-2476.
- 33) 工藤翔二, 森 亨¹⁾, 山岸文雄²⁾, 成田亘啓³⁾ (¹⁾ 結核予防会結核研究所, ²⁾ 国立療養所千葉東病院, ³⁾ 奈良県立医科大学第2内科): 特集 今, 結核を考える. 日本医師会雑誌 1999 ; 121 (3) : 321-335.
- 34) 北村 諭, 工藤翔二, 河野修興, 小林 淳, 中島正光, 原まさ子: 間質性肺炎の診断における血清マーカー—KL-6の臨床的意義. 呼吸 1999 ; 18 (3) : 238-246.
- (2) 綜説:
- 1) Kudoh S : Erythromycin treatment in diffuse panbronchiolitis. Current Opinion in Pulmonary Medicine 1998 ; 4 : 116-121.
- 2) 村田 朗: 診療テクニク”聴診”. SUZUKEN MEDICAL 1998 ; 1 (2) : 7-10.
- 3) 工藤翔二: 巻頭言 結核の逆襲—今なぜ結核か. Modern Physician 1998 ; 18 (3) : 235-236.
- 4) 工藤翔二: 新しい動向とその臨床的意義: 慢性気道感染症とマクロライド. Medical Practice 1998 ; 15 (2) : 281-285.
- 5) 工藤翔二: (特集: 気道支炎の治療) 薬物療法を中心に: 気道における感染と炎症. 今月の治療 1998 ; 6 (5) : 3-6.
- 6) 工藤翔二: 呼吸器・心臓・血管: 肺音の異常. 日本医師会雑誌 1998 ; 119 (8) : 124-128.
- 7) 工藤翔二: 新しい治療 マクロライド長期少量投与. 治療学 1998 ; 32 (10) : 1331-1332.
- 8) 吾妻安良太: 私の処方とその解説: 8. びまん性汎細気管支炎. 今月の治療 1998 ; 6 (5) : 517-520.
- 9) 榎本達治, 吾妻安良太, 都築 閔, 工藤翔二: マクロライド薬の新しい使い方. 臨床医 1998 ; 24 (8) : 1129-1133.
- 10) 工藤翔二: 生涯教育シリーズ47生体・機能検査のABC呼吸器系疾患の検査. 日本医師会雑誌特別号 1998 ; 120 (8) : 31.

- 11) 高崎雄司, 金子泰之, 伊藤永喜, 村田 朗: COPDの急性増悪. メヂチーナ 1998; 35 (11月増刊号): 274-276.
 - 12) 倉根修二, 工藤翔二: 急性気管支炎. 総合臨床 1998; 47 (12): 3116-3119.
 - 13) 吾妻安良太, 工藤翔二: 副鼻腔気管支症候群. Molecular Medicine Vol. 35臨時増刊号 症候・病態の分子メカニズム 1998; 35 (臨時): 247-248.
 - 14) 安藤真弘, 渋谷昌彦: 肺癌マーカー—NSE, SLX, サイトケラチン19フラグメント—. 総合臨床 1998; 47 (増刊号): 697-700.
 - 15) 工藤翔二: (特集: 閉塞性肺疾患の薬物療法) 閉塞障害を特徴とする肺疾患とは. CLINICAL PHARMACOTHERAPY 1998; 4 (2): 93-98.
 - 16) 高崎雄司, 金子泰之: 睡眠時無呼吸症候群. クリニカ 1998; 25 (2): 162-166.
 - 17) 高崎雄司, 金子泰之, 伊藤永喜: 睡眠無呼吸症候群. 救急医学 1998; 22 (9): 1478-1482.
 - 18) 高崎雄司, 金子泰之, 伊藤永喜: 終夜睡眠ポリグラフィー検査 (ポリソムノグラフィー). 日本医師会雑誌特別号 1998; 120 (8): S68-S71.
 - 19) 村田 朗: 在宅酸素療法の現状と展望. 新医療 1999; 5 (293): 128-131.
 - 20) 工藤翔二, 高橋卓夫, 吾妻安良太: オーバービュー: びまん性肺疾患の分子医学. 現代医療 1999; 31 (2): 100-106.
 - 21) 吾妻安良太: 肺の炎症・線維化の分子医学基礎と臨床基礎: 好中球, 接着分子と肺の炎症・線維化. 現代医療 1999; 31 (2): 43-50.
 - 22) 村田 朗: 肺線維症の聴診の特徴. THE LUNG perspective 1999; 7 (2): 214-215.
 - 23) 村田 朗, 高崎雄司, 工藤翔二: 肺癌患者に対する在宅酸素療法. 肺癌の臨床 1999; 2 (2): 221-226.
 - 24) 弦間昭彦, 渋谷昌彦: 化学療法—その標準的療法と最前線—小細胞癌. Medical Practice 1999; 16 (2): 639-642.
 - 25) 弦間昭彦, 工藤翔二: 内科診療のコントラバシ: 非小細胞肺癌治療における化学療法の意義. 内科 1999; 83 (2): 202-206.
 - 26) 植松和嗣, 弦間昭彦: 肺癌の発癌機構とその臨床への応用: 遺伝子異常から. Medical Practice 1999; 16 (4): 569-573.
 - 27) 吾妻安良太: 呼吸器疾患と接着分子. 別冊医学のあゆみ呼吸器疾患—State of arts (Ver. 3) 1999; 別冊: 127-132.
 - 28) 村田 朗, 工藤翔二: 当直救急ガイドIII救急に必要薬物療法 気管支拡張症. 臨床医 1999; 25 (増刊): 744-748.
 - 29) 高崎雄司: 睡眠時無呼吸症候群にポリソムノグラフィーは必要か. The Lung perspective 1999; 17 (2): 194-197.
 - 30) 高崎雄司: 呼吸不全と呼吸筋. 呼吸と循環 1999; 47 (3): 311-312.
 - 31) 高崎雄司, 金子泰之, 伊藤永喜, 村田 朗: 原発性肺胞低換気症候群. メヂチーナ 1999; 36 (6): 968-970.
- (3) 研究報告書:
- 1) 工藤翔二, 吉村明修, 植松和嗣, 清家正博, 弦間昭彦: 肺癌発生母地としての特発性間質性肺炎の遺伝子不安定性の解析. 平成9年度喫煙科学研究財団研究年報 1998; pp503-507.
 - 2) 松田重三¹⁾, 伊藤 章²⁾, 松本孝夫³⁾, 大西健児⁴⁾, 角田隆文⁵⁾, 河合 伸⁶⁾, 倉根修二, 藤田 明⁷⁾ (1) 帝京大学医学部, 2) 横浜市立大学医学部中央検査科, 3) 順天堂大学医学部総合診療科, 4) 都立墨東病院感染症科, 5) 都立荏原病院内科, 6) 杏林大学第1内科, 7) 都立府中病院呼吸器科): HIV患者/エイズ患者の行動疫学的研究. HIV感染症の疫学研究班総会 討議資料 1998; pp112-113.
 - 3) 高崎雄司, 村田 朗, 中広一善, 金子泰之, 伊藤永喜, 望月裕子, 菅野トシエ, 小森和子, 竹内美恵子, 後藤

元, 岡村 樹, 小野田一枝, 合澤亜矢子: 地域の医師会及び開業医との連携による, 高齢, 重症慢性閉塞性肺疾患の包括ケアに関する研究. 平成9年度大気汚染による環境影響に関する総合的研究成果集. 公害健康被害補償予防協会 1999; pp59-67.

- 4) 高崎雄司: 高齢者における睡眠呼吸障害. 高齢者閉塞性肺疾患における総合ケアのあり方に関する研究. 平成10年度厚生科学研究補助金(長寿科学総合研究事業)研究報告書 1999; pp126-128.
- 5) 高崎雄司, 村田 朗, 中広一善, 金子泰之, 伊藤永喜, 望月裕子, 菅野トシエ, 小森和子, 竹内美恵子, 後藤元, 岡村 樹, 小野田一枝, 合澤亜矢子: 地域の医師会及び開業医との連携による, 高齢, 重症慢性閉塞性肺疾患の包括ケアに関する研究. 大気汚染による環境影響に関する総合的研究, 第10回研究懇話会発表要旨集 公健協会 1999; pp56-60.

著 書

- 1) Travis WD¹⁾, Usuki J, Horiba K²⁾, Ferrans VJ²⁾ (¹⁾ Dept. Pulmonary and Mediastinal Pathology, AFIP, ²⁾ Pathology Section, NHLBI, NIH): [分担] Histopathologic studies on lymphangioleiomyomatosis. LAM and Other Diseases Characterized by Smooth Muscle Proliferation (In J. Moss, editor), 1998; pp171-217, Marcel Dekker (New York).
- 2) 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: [分担] 肺癌の治療: 合併症. 肺癌診療ハンドブック, 1997; pp197-204, 中外出版.
- 3) 小林国彦, 渋谷昌彦, 工藤翔二: [分担] 肺癌の治療: 緩和ケア. 肺癌診療ハンドブック, 1997; pp205-207, 中外出版.
- 4) 倉根修二, 渋谷昌彦, 工藤翔二: [分担] 肺癌の治療—肺癌にみられる腫瘍随伴症候群の治療. 肺癌診療ハンドブック, 1997; pp214-215, 中外出版.
- 5) 日野光紀, 渋谷昌彦, 工藤翔二: [分担] 肺癌の治療—インフォームドコンセントとは. 肺癌診療ハンドブック, 1997; pp216-218, 中外出版.
- 6) 倉根修二: [分担] ベスト. 新・内科治療ガイド (Medical Practice編集委員会編), 1998; pp1464-1466, 文光堂.
- 7) 渋谷昌彦: [分担] 肺癌. 内科治療ガイド'98 (Medical Practice編集委員会編), 1998; pp297-301, 文光堂.
- 8) 谷口泰之: [分担] IV. 救急・応急処置の実際/A. 救急・応急処置を必要とする病態と処置法 声門浮腫. 図解救急・応急処置ガイド 救急・応急時に必ず役立つ基本手技と処置のすべて (Medical Practice編集委員会監修: 和田 攻, 大久保昭行, 永田直一, 矢崎義雄) Medical Practice臨時増刊号, 1998; pp559-562, 文光堂.
- 9) 工藤翔二, 吉村明修: [分担] 肺気腫, びまん性汎細気管支炎, 気管支拡張症, リンパ管平滑筋腫症. 最新内科学—内科臨床リファレンスブック 疾患編I, 1998; pp105-110, 中山書店.
- 10) 吉村明修, 工藤翔二: [分担] がん化学療法の有害反応対策とその実際—肺傷害とその対策. がん化学療法の有害反応対策ハンドブック (吉田清一編), 1998; pp192-200, 先端医学社.
- 11) 吉村明修: [分担] C呼吸器疾患—化学物質/放射線による肺障害 放射線肺臓炎. 外来診療のすべて (総監修: 高久史磨 監修: 溝口秀昭, 武藤徹一郎, 矢崎義雄, 狩野庄吾), 1999; pp464-465, メジカルレビュー社.
- 12) 高崎雄司: [分担] 肺動静脈瘻. 今日の治療指針, 1999年度版 (多賀須幸男, 尾形悦郎総編集), 1999; pp328-329, 医学書院.
- 13) 高崎雄司, 金子泰之, 伊藤永喜: [分担] (分担). 睡眠時無呼吸症候群治療の進歩. Annual Review呼吸器 1999, (工藤翔二, 土屋了介, 金沢実, 大田健編集), 1999; pp237-243, 中外医学社.
- 14) 村田 朗, 工藤翔二: [分担] 胸水. 臨床検査ガイド1999~2000, 1999; pp1017-1020, 文光堂.
- 15) 工藤翔二, 忽滑谷直孝: [分担] 動脈血O₂分圧, オキシメーター. 臨床検査ガイド1999-2000: Medical Practice編集委員会編, 1999; pp328-329, 文光堂.

- 16) 村田 朗：〔分担〕身体所見の取り方と意味づけ2.呼吸音，聴診．呼吸器疾患の診かた考えた 鈴木俊介，木田厚瑞 編，1999；pp23-26，中外医学社．
- 17) 倉根修二：〔分担〕つつが虫病．新・内科治療ガイド（Medical Practice編集委員会編），1999；pp1511-1513，文光堂．
- 18) 倉根修二：〔分担〕ライム病．新・内科治療ガイド（Medical Practice編集委員会編），1999；pp1514-1516，文光堂．
- 19) 高崎雄司，金子泰之，伊藤永喜：〔分担〕睡眠時無呼吸症候群．新・内科治療ガイド（Medical Practice編集委員会編），1999；pp536-537，文光堂．
- 20) 阿部信二，吾妻安良太，工藤翔二：〔分担〕びまん性汎細気管支炎とその他の細気管支炎．新・内科治療ガイド（Medical Practice編集委員会編），1999；pp456-459，文光堂．
- 21) 吾妻安良太，工藤翔二：〔分担〕特発性間質性肺炎．新・内科治療ガイド（Medical Practice編集委員会編），1999；pp465-468，文光堂．
- 22) 忽滑谷直孝，渋谷昌彦，工藤翔二：〔分担〕肺・縦隔がん患者へのインフォームド・コンセントの進め方．インフォームド・コンセント ガイダンス：がん診療編 編者：森岡恭彦，1999；pp241-253，先端医学社．

学会発表

〔1997年度追加分〕

一般講演：

- 1) Takenaka K, Shinoda K, Shibuya M, Hibino S, Takeda Y, Gemma A, Kudoh S : Changes in integrin expression and function associated with the ability of human non-small cell lung cancer cells to metastasize. American Association for Cancer Research (San Diego, USA), 1997. 4.
- 2) Balducci E¹⁾, Horiba K¹⁾, Usuki J, Ferrans VJ¹⁾, Moss J¹⁾ (1) NHLBI, NIH) : Expression of a glycosylphosphatidylinositol-linked ADP-ribosyl transferase in human lung ciliated and intermediate epithelial cells. ATS International Conference (San Francisco, USA), 1997. 5.
- 3) Horiba K¹⁾, Tamura K²⁾, Fukuda Y²⁾, Usuki J, Stetler Stevenson W³⁾, Liotta L³⁾, Ferrans VJ¹⁾ (1) Pathology Section, NHLBI, NIH, 2) 1st Dept. Pathology, Nippon Medical School, 3) Pathology Branch, NCI, NIH) : Expression of matrix metalloproteinases and their tissue inhibitors in floppy mitral valves. AHA Scientific Session (Orland, USA), 1997. 10.
- 4) 斉藤好信¹⁾，中村清一¹⁾，三上正志¹⁾，安部康夫¹⁾，佐藤紀子¹⁾，馬場美智子¹⁾，滝沢 潤¹⁾，川上雅彦¹⁾ (1) 都立広尾病院 呼吸器科)：吸入麻酔薬で管理した重症気管支喘息患者の検討．第37回日本胸部疾患学会総会，1997. 4.
- 5) 竹中 圭¹⁾，長谷川浩一¹⁾，米田修一²⁾，酒井 洋²⁾，家城隆次³⁾，田村厚久⁴⁾，小松彦太郎⁵⁾，栗山 喬⁶⁾，平良 修⁷⁾，渋谷昌彦，工藤翔二，仁井谷久暢⁸⁾ (1) 慈山会医学研究所付属坪井病院内科，2) 埼玉県立がんセンター，3) 東京都立駒込病院，4) 国立療養所東京病院，5) 国立療養所中信松本病院，6) 千葉大学，7) 東京医科大学八王子医療センター，8) 東京がん化学療法研究会)：非小細胞癌（NSCLC）に対する Cisplatin（CDDP）＋Carbolatin（CBDCA）併用療法（被検群）と Cisplatin（CDDP）＋Vindesine（VDS）併用療法（対照群）の多施設無作為比較試験．日本癌治療学会，1997. 8.
- 6) 小林国彦：QOL 評価に意味があるか，可能か—国内における QOL 調査票の開発，妥当性検証．第10回日本臨床腫瘍研究会，1998. 2.

(1) 特別講演：

- 1) 渋谷昌彦，小久保豊，武市朗子，日比野俊，小野 靖，篠田欣也，籾 大同，松田久仁子，吾妻安良太，工藤

翔二：接着・浸潤阻害作用によるクラリスロマイシンの実験的肺転移抑制効果。第5回マクロライド新作用研究会，1998. 7.

(2) 教育講演：

- 1) 吾妻安良太，工藤翔二：びまん性肺疾患における気管支鏡生検と胸腔鏡生検における比較。日本気管支学会地方会，1998. 2.

(3) シンポジウム：

- 1) Chu SC¹⁾，Horiba K¹⁾，Usuki J，Avia N¹⁾，Chen C¹⁾，Travis W²⁾，Ferrans VJ¹⁾ (¹⁾ NHLBI，NIH，²⁾ AFIP)：Comprehensive evaluation of 25 patients with lymphangiomyomatosis. ATS International Conference (San Francisco, USA)，1997. 5.
- 2) 弦間昭彦，細谷曜子，植松和嗣，工藤翔二，萩原弘一¹⁾，Harris C.C¹⁾ (¹⁾ Laboratory of Human Carcinogenesis，National Cancer Institute)：原発性肺癌におけるTGF- β 1耐性のメカニズムについて。第39回日本肺癌学会総会，1998. 10.
- 3) 吾妻安良太，工藤翔二，滝沢 始¹⁾ (¹⁾ 東京大学検査部)：上皮細胞とGrowth Factor。肺モデリング研究会，1998. 10.
- 4) 小林国彦：我が国における癌化学療法の実状と将来：副作用対策の新たな試み：下痢を中心に。中心癌治療学会サテライト・シンポジウム (福岡)，1998. 10.
- 5) 忽滑谷直孝：末期癌の疼痛対策 (主として肺癌)。第39回呼吸器学会総会，1999. 3.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 村田 朗，高崎雄司，中広一善，金子泰之，伊藤永喜，橋元恭士，工藤翔二：高齢，重症慢性閉塞性肺疾患患者の包括的ケアに関する研究：在宅医療の現状における問題点。日本医科大学医学会総会，1998. 9.

(5) セミナー：

- 1) 渋谷昌彦：効果判定基準と薬物有害反応：最近の話題。第36回日本癌治療学会総会，1998. 10.

(6) ワークショップ：

- 1) 吉村明修，工藤翔二，福岡正博¹⁾，石岡伸一²⁾，鈴木栄一³⁾，松井 薫⁴⁾ (¹⁾ 近畿大学医学部第4内科，²⁾ 広島大学医学部第2内科，³⁾ 新潟大学医学部第2内科，⁴⁾ 大阪府立羽曳野病院第2内科)：医原性肺疾患：現況と対策 抗癌剤による肺傷害。第38回日本呼吸器学会総会，1998. 4.
- 2) 倉根修二，工藤翔二：“抗酸菌症”結核病床のない大学付属病院および基幹病院での対応。第73回日本結核病学会総会，1998. 4.
- 3) 吾妻安良太：細気管支病変の肺機能と画像診断，DPB。第21回日本気管支学会総会 (広島)，1998. 5.
- 4) 倉根修二：AIDS患者。空の旅研究会 (日本航空医学会総会分科会)，1998. 11.

(7) 一般講演：

- 1) Enomoto T，Arata A，Akira M，Yasuyuki T，Kazuhiro N，Takuo T，Yasuyuki K，Shinji A，Shinichi Y¹⁾，Shoji K (¹⁾ Dept. of joint disease and rheumatism，Nippon Medical School，Tokyo，Japan)：Pulmonary Manifestations in Patients with Rheumatoid Arthritis. 1998 International Conference of American Thoracic Society (Chicago, USA)，1998. 4.
- 2) Usuki J，Horiba K¹⁾，Matsumoto Y²⁾，Chu SC²⁾，Ferrans VJ¹⁾，Moss J²⁾ (¹⁾ Pathology Section，NHLBI，NIH，²⁾ Pulmonary-Critical Care Medicine Branch，NHLBI，NIH)：Inverse correlation between markers of cell proliferation and expression of melanosomal antigens in smooth muscle cells in lymphangiomyomatosis (LAM) and in cultured melanoma cell lines. 1998 International Conference of American Thoracic Society (Chicago, USA)，1998. 4.
- 3) Gemma A，Seike M，Hosoya Y，Taniguchi Y，Uematsu K，Yoshimura A，Shibuya M，Kudoh S：CDKN2 and MTS2 alterations in lung cancer increased during the process of metastasis and chemotherapy

- selection. 1998 International conference of American Thoracic Society (Chicago, USA), 1998. 4.
- 4) Miyamoto H, Abe S, Takahashi T, Azuma A, Enomoto T, Kudoh S, Ohara K¹⁾ (¹⁾ Department of Ophthalmology) : Importance of High Resolution-CT and Broncho-Alveolar Lavage in Early Detection of Pulmonary Involvement in Sarcoidosis. 1998 International Conference of American Thoracic Society (Chicago, USA), 1998. 4.
 - 5) Takasaki Y, Ohta Y, Nishimura M, Kawakami Y, Kimura H, Kuriyama T, Akashiba T, Horie T, Ohi M, Kuno K : Sleep apnea syndrome in Japan : An analysis of its characteristics in pathophysiology and in nasal CPAP effectiveness., 1998.ATS. 1998 International Conference of American Thoracic Society (Chicago, USA), 1998. 4.
 - 6) Ono Y, Takasaki Y, Kamio K, Kamiya U, Iga T, Kobayashi T, Kikuchi N, Matsuura Y, Ohta Y, Yamabayashi H : Effect of nasal CPAP treatment on platelet aggregation in obstructive sleep apnea. 1998 International Conference of American Thoracic Society (Chicago, USA), 1998. 4.
 - 7) Takahashi T, Aso A²⁾, Azuma A, Abe S, Miyamoto H, Enomoto T, Hashimoto Y, Ohara K¹⁾, Ohota S²⁾, Kudoh S (¹⁾ Department of Ophthalmology, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Biochemistry, institute of Gerontology, Nippon Medical School) : Strongly expressed Bcl-2 Protein in BALF cells prepared from sarcoidosis patients. 1998 International Conference of American Thoracic Society (Chicago, USA), 1998. 4.
 - 8) Kobayashi K, Bouscarel B¹⁾, Matsuzaki Y²⁾, Ceryak S¹⁾, Fromm H¹⁾ (¹⁾ Div. Gastroenterology, Dept. Med., The George Washington Univ., ²⁾ Div Gastroenterology, Inst. Clin. Med., Univ. Tsukuba) : Uptake mechanism of irinotecan (CPT-11) and its metabolism (SN-38) by hamster intestinal cells. American Gastroenterological Association (New Orleans, USA), 1998. 5.
 - 9) Hashimoto Y, Takahashi T, Azuma A, Abe S, Miyamoto H, Enomoto T, Akita K¹⁾, Hiraoka M¹⁾, Ohara K¹⁾, Kawanami O²⁾, Kudoh S (¹⁾ Department of Ophthalmology, ²⁾ Department of Pathology Institute of Gerontology) : BALF analysis and pulmonary involvement in patients with ocular sarcoidosis who are proved to have it not by chest X-ray but by chest HRCT. 6th international conference of bronchoalveolar lavage (Corfu, Greece), 1998. 6.
 - 10) Tanaka E, Takahashi T, Azuma A, Hashimoto Y, Miyamoto H, Enomoto T, Satoh M¹⁾, Kawanami O²⁾, Kudoh S (¹⁾ Department of Radiology, ²⁾ Department of Pathology Institute of Gerontology) : Characteristic cell-patterns in Fractionated bronchoalveolar lavage of patients with diffuse panbronchiolitis. 6th international conference of bronchoalveolar lavage (Corfu, Greece), 1998. 6.
 - 11) Takahashi T, Aso A²⁾, Azuma A, Abe S, Miyamoto H, Enomoto T, Hashimoto Y, Ohara K¹⁾, Ohota S²⁾, Kudoh S (¹⁾ Department of Ophthalmology, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Biochemistry, institute of Gerontology, Nippon Medical School) : The expression of Bcl-2 in BALF cells prepared from sarcoidosis patients. 6th international conference of bronchoalveolar lavage (Corfu, Greece), 1998. 6.
 - 12) Murata A, Hashimoto Y, Kaneko Y, Taniguchi Y, Takasaki Y, Kudoh S : Correlation Between Rheological Properties of Productive Cough. The 23rd International Conference on Lung Sounds (Boston, USA), 1998. 10.
 - 13) Nakahiro K, Murata A, Kaneko Y, Takasaki Y, Kudoh S : Effects of Bathing on Lung Mechanics in Patients with Severe COPD. 5th Congress of The Asian Pacific Society of Respiriology (Sydney, Australia), 1998. 10.
 - 14) Gemma A, Ichinose Y, Nakai Y, Kudoh S, Niitani H : A phase II trial of UFT plus Cisplatin (CDDP) in patients with advanced non-small cell lung cancer (NSCLC). First world conference on clinical cooperative research for lung cancer (Brussel, Belgium), 1999. 3.

- 15) 宮本晴子, 谷口泰之, 高橋卓夫, 奥村昌夫, 村田 朗, 吾妻安良太, 工藤翔二: シェーグレン症候群, 慢性関節リウマチ, 原発性胆汁性肝硬変, 橋本病に合併した間質性肺炎の1例. 第456回日本内科学会総会, 1997. 7.
- 16) 武村 明¹⁾, 黒木麗喜¹⁾, 外山勝弘¹⁾, 酒井 洋¹⁾, 野口行雄¹⁾, 米田修一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター-呼吸器科): 肺癌における副腎転移の臨床的検討. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 3.
- 17) 宮本晴子, 榎本達治, 高橋卓夫, 阿部信二, 吾妻安良太, 工藤翔二, 持丸 博¹⁾, 福田 悠¹⁾ (1) 日本医科大学第一病理): 分類不能の間質性肺炎と考えられた症例の臨床的検討. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 3.
- 18) 倉根修二, 渡理英二¹⁾, 細谷曜子, 工藤翔二 (1) 日本医科大学微生物免疫学): 肺腺癌に対するCEA特異的プロモーターと腫瘍特異的モノクローナル抗体を併用した遺伝子治療の基礎的検討. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 3.
- 19) 斉藤好信¹⁾, 三上正志¹⁾, 宇野秀之¹⁾, 橋本紀子¹⁾, 宮坂 崇, 馬場美智子¹⁾, 中村清一¹⁾, 滝沢 潤¹⁾, 川上雅彦¹⁾ (1) 都立広尾病院 呼吸器科): 特発性間質性肺炎患者の余命と各種パラメーターの関係について. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 4.
- 20) 斉藤好信¹⁾, 三上正志¹⁾, 橋本紀子¹⁾, 宮坂 崇, 宇野秀之¹⁾, 中村清一¹⁾, 馬場美智子¹⁾, 滝沢 潤¹⁾, 川上雅彦¹⁾ (1) 都立広尾病院 呼吸器科): 間質性肺炎の生存期間を反映する臨床的パラメーターに関する検討. 第96回日本内科学会総会, 1998. 4.
- 21) 弦間昭彦, 植松和嗣, 萩原弘一¹⁾, 工藤翔二 (1) 東京大学第三内科): ヒトSmadファミリーのメンバーであるhSmad5: そのfull length cDNA, ゲノム構造, プロモーター領域と肺癌における変異解析. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 4.
- 22) 竹中 圭¹⁾, 岡野哲也¹⁾, 神尾孝一郎¹⁾, 山本和男¹⁾, 渡辺秀一¹⁾, 長谷川浩一¹⁾, 清家正博, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二 (1) 坪井病院内科): 特発性間質性肺炎 (IIP) 合併肺癌の肺癌治療に伴うIIP急性増悪についての検討. 第95回日本内科学会総会, 1998. 4.
- 23) 安藤真弘, 小林国彦, 文元日和, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 左近司光明¹⁾, 坪井栄孝¹⁾, 工藤宏一郎²⁾, 武田文和³⁾ (1) 慈山会医学研究所付属坪井病院, 2) 国立国際医療センター, 3) 埼玉県立がんセンター): 緩和ケア用QOL調査書「ケアノート」の開発. 第95回日本内科学会総会, 1998. 4.
- 24) 金子泰之, 伊藤永喜, 中広一善, 村田 朗, 高崎雄司, 工藤翔二: 睡眠時無呼吸症候群とn-CPAP療法. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 5.
- 25) 高崎雄司, 工藤翔二, 村田 朗, 中広一善, 金子泰之, 後藤 元, 岡村 樹, 小野田一枝, 会澤亜矢子, 日野光紀, 久勝章司, 山野義光: 大気汚染による健康影響に関する調査研究II-1 高齢・重症の患者の日常生活, 保健指導のあり方に関する研究II-1 -2地域の医師会及び開業医との連携による高齢, 重症慢性閉塞性肺疾患の包括ケア. 公害健康被害補償予防協会第9回研究懇話会, 1998. 5.
- 26) 清家正博, 安藤真弘, 吉村明修, 日比野俊, 弦間昭彦, 日野光紀, 工藤翔二, 渡 潤¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 小泉潔²⁾, 逸見しのぶ³⁾, 持丸 博³⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 同第2外科, 3) 第1病理): 末梢型小型肺癌の診断に関する問題点の検討. 第21回日本気管支学会総会, 1998. 5.
- 27) 清家正博, 安藤真弘, 小林国彦, 長谷川浩一¹⁾, 左近司光明¹⁾, 渋谷昌彦, 工藤翔二 (1) 慈山会医学研究所付属坪井病院内科): 非小細胞肺癌におけるCDDPとUFTの少量併用化学療法. 第12回進行肺癌治療懇話会, 1998. 6.
- 28) 阿部信二, 菅原 勇¹⁾, 滝沢 始²⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二 (1) 結核予防会結核研究所分子病理科, 2) 東京大学医学部付属病院検査部): ディーゼル排気微粒子により誘導された気道上皮細胞傷害の基礎的検討. 第2回Acute Lung Injury研究会, 1998. 6.
- 29) 高橋卓夫, 吾妻安良太, 工藤翔二: セレクチンリガンド抑制剤Macrospheride-Aによる肺線維症の抑制効果. 第2回間質性肺炎細胞分子病態研究会, 1998. 8.
- 30) 武村 明¹⁾, 黒木麗喜¹⁾, 酒井 洋¹⁾, 小林建三郎²⁾, 鈴木 賢²⁾, 鈴木文直²⁾ (1) 埼玉がんセンター-呼吸器科,

- 2) 同放射線診断部)：HFJVによる呼吸管理下にMetallic Stentを留置し得た食道がん気管浸潤の1例。第86回日本気管支学会関東支部会，1998。9。
- 31) 都築 閱，榎本達治，吉岡央子，日比野俊，吾妻安良太，吉村明修，高崎雄司，工藤翔二，逸見しのぶ¹⁾，持丸 博¹⁾，福田 悠¹⁾ (1) 日本医科大学第一病理)：画像上著変を認めずTBLBで間質の好酸球浸潤を認めたChurg-Strauss症候群の1例。第131回日本呼吸器学会関東地方会，1998。9。
- 32) 橋元恭士，高橋卓夫，宮本晴子，吾妻安良太，工藤翔二，秋田恵子¹⁾，平岡美紀¹⁾，中島花子¹⁾，矢口恵美子¹⁾，大原國俊¹⁾，川並汪一²⁾ (1) 日本医大眼科，2) 日本医大老人病研究所分子病理部門)：0-I期の眼サルコイドーシス患者における胸部High Resolution CT (HRCT)の有用性の検討。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 33) 清家正博，弦間昭彦，細谷曜子，谷口泰之，栗本太嗣，植松和嗣，吉村明修，渋谷昌彦，工藤翔二：肺癌化学療法と転移過程におけるP15，P16の遺伝子異常とFHITの欠失の変化。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 34) 篠田欣也，日比野俊，小野 靖，竹中 圭，松田久仁子，渋谷昌彦，工藤翔二：ヒト肺腺癌高転移株PC9/F9におけるVLA familyと転移臓器特異性の検討。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 35) 小久保豊，渋谷昌彦，日野光紀，日比野俊，吾妻安良太，武市朗子，青山昭徳，松田久仁子，雛 大同，工藤翔二：クラリスロマイシンの実験的肺転移抑制の機序に関する検討。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 36) 田中恵美¹⁾，日野光紀¹⁾，水野杏一¹⁾，高橋卓夫，吾妻安良太，橋元恭士，工藤翔二，佐藤雅史²⁾，川並汪一³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院，2) 日本医科大学第二病院放射線科，3) 日本医科大学老人病研究所分子病理部門)：CT上びまん性粒状影を示した疾患におけるFBALの有用性の検討。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 37) 日高千鶴乃，篠田欣也，服部達也，奈良道哉，宮本晴子，安藤真弘，植松和嗣，弦間昭彦，吉村明修，工藤翔二，清水一雄¹⁾，持丸 博²⁾，福田 悠²⁾ (1) 日本医科大学第2外科，2) 日本医科大学第1病理)：広範囲な気管浸潤を認めた甲状腺癌の1例。第86回日本気管支学会関東支部会，1998。9。
- 38) 弦間昭彦，萩原弘一¹⁾，Bennett WP¹⁾，Harris CC¹⁾ (1) Laboratory of Human Carcinogenesis, National Cancer Institute)：human Smad family genesであるhSmad5 geneのcDNA，ゲノム構造，プロモーター領域とヒト腫瘍での変異解析。第57回日本癌学会総会，1998。9。
- 39) 斉藤 均¹⁾，木村和義¹⁾，小野 靖¹⁾，久勝章司¹⁾，工藤翔二 (1) 博慈会記念病院第一内科)：ステロイド長期投与によって発症した戦争糞線虫症の1例。日本内科学会関東地方会，1998。9。
- 40) 武村 明¹⁾，黒木麗喜¹⁾，外山勝弘¹⁾，酒井 洋¹⁾，野口行雄¹⁾，米田修一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター-呼吸器科)：無症候性非小細胞肺癌脳転移巣に対するDocetaxelとCDDP併用化学療法の検討。第39回日本肺癌学会総会，1998。10。
- 41) 植松和嗣，弦間昭彦，萩原弘一¹⁾，Harris C.C¹⁾，工藤翔二 (1) Laboratory of Carcinogenesis, NIH/NCI)：human Smad familyであるsmad5のfull length cDNA，ゲノム構造，プロモーターのクローニングとヒト肺癌における変異解析。第39回肺癌学会総会，1998。10。
- 42) 吉森浩三¹⁾，水谷清二¹⁾，工藤翔二 (1) 結核予防会複十字病院)：切除不能肺癌におけるCDDP+UFT concurrent RTの成績pilot studyの検討。第39回肺癌学会総会，1998。10。
- 43) 吉村明修，安藤真弘，渋谷昌彦，工藤翔二，飯沼 武¹⁾，宮本忠昭²⁾，松本 徹²⁾，矢野 侃³⁾，松本満臣⁴⁾ (1) 埼玉工業大学，2) 放射線医学総合研究所，3) 荒川区がん予防センター，4) 東京都立医療技術短期大学)：らせんCTによる肺癌1次検診の費用効果分析。第39回日本肺癌学会，1998。10。
- 44) 安藤真弘，清家正博，吉村明修，弦間昭彦，渋谷昌彦，工藤翔二，渡 潤¹⁾，田島広之¹⁾，隈崎達夫¹⁾，小泉潔²⁾，田中茂夫²⁾，持丸 博³⁾，逸見しのぶ⁴⁾，福田 悠³⁾ (1) 日本医科大学放射線科，2) 日本医科大学第2内科，3) 日本医科大学第1病理)：末梢型小型肺癌の診断に関する問題点の検討。第39回日本肺癌学会総会，1998。10。

- 45) 岡野哲也¹⁾, 竹中 圭¹⁾, 神尾孝一郎¹⁾, 山本和男¹⁾, 渡辺秀一¹⁾, 長谷川浩一¹⁾, 清家正博, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二 (1) 坪井病院内科): 特発性間質性肺炎 (IIP) 合併肺癌の肺癌治療に伴うIIP急性増悪についての検討. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 10.
- 46) 清家正博, 弦間昭彦, 谷口泰之, 栗本太嗣, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 肺癌の化学療法と転移過程におけるp15,p16の遺伝子異常とFHITの欠失についての検討. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 10.
- 47) 倉根修二, 細谷曜子, 松田久仁子, 工藤翔二: 肺腺癌に対する遺伝子治療 (CEAプロモーターとモノクローナル抗体の併用効果). 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 10.
- 48) 栗本太嗣, 弦間昭彦, 清家曜子, 清家正博, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: IV期肺癌におけるPTEN/MMAC1遺伝子の変異解析. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 10.
- 49) 安藤真弘, 清家正博, 吉村明修, 弦間昭彦, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 渡 潤¹⁾, 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 小泉潔²⁾, 田中茂夫²⁾, 持丸 博³⁾, 逸見しのぶ³⁾, 福田 悠³⁾ (1) 日本医大放射線科, 2) 日本医大第2外科, 3) 日本医大第1病理): 末梢型小型肺癌の診断に関する問題点の検討. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 10.
- 50) 篠田欣也, 日比野俊, 小野 靖, 竹中 圭, 松田久仁子, 渋谷昌彦, 工藤翔二: ヒト肺腺癌高転移株PC9/F9におけるVLA familyと転移臓器特異性の検討. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 10.
- 51) 奈良道哉, 安藤真弘, 植松和嗣, 中広一善, 小久保豊, 篠田欣也, 榎本達治, 橋元恭士, 小野啓資, 栗本太嗣, 峯岸祐司, 弦間昭彦, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 逸見しのぶ¹⁾, 持丸 博¹⁾, 福田 悠¹⁾ (1) 日本医大第一病理): 潰瘍性病変を呈した中枢発生非小細胞肺癌の1例. 第85回日本気管支学会関東支部会, 1998. 10.
- 52) 岡野哲也¹⁾, 竹中 圭¹⁾, 神尾孝一郎¹⁾, 山本和男¹⁾, 渡辺秀一¹⁾, 長谷川浩一¹⁾, 清家正博, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二 (1) 慈山会医学研究所附属坪井病院内科): 特発性間質性肺炎 (IIP) 合併肺癌の肺癌治療に伴うIIP急性増悪についての検討. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 10.
- 53) 橋元恭士, 村田 朗, 金子泰之, 伊藤永喜, 中広一善, 高崎雄司, 工藤翔二: 湿性咳嗽の音響学的特性と喀痰のレオロジカルな性状との関連. 第23回肺音 (呼吸音) 研究会, 1998. 11.
- 54) 長 澄人¹⁾, 薄葉恵史¹⁾, 鈴木夕子¹⁾, 友田恒一¹⁾, 牧田香理¹⁾, 渋谷敦夫²⁾, 棚橋ひとみ²⁾, 工藤翔二, 成田亘啓³⁾ (1) 済生会吹田病院呼吸器内科, 2) 日本女子大学家政学部, 3) 奈良県立医科大学第二内科): 気道狭窄患者の気管呼吸音の解析—枕の高さによる変化について—. 第23回肺音 (呼吸音) 研究会, 1998. 11.
- 55) 阿部信二, 菅原 勇¹⁾, 滝沢 始²⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二 (1) 結核予防会結核研究所分子病理科, 2) 東京大学医学部付属病院検査部): ディーゼル排気微粒子 (DEP) の気道上皮細胞への影響. アレルギー気道上皮細胞研究会 第2回学術大会, 1998. 11.
- 56) 阿部信二, 山田博之¹⁾, 吾妻安良太, 高橋卓夫, 工藤翔二, 岩井和郎¹⁾, 菅原 勇¹⁾, 渡辺邦友²⁾ (1) 結核予防会結核研究所分子病理科, 2) 岐阜大学医学部付属嫌気性菌実験施設): Propionibacterium acnes投与による実験的肉芽腫の作製. 第18回日本サルコイドーシス学会総会, 1998. 11.
- 57) 松本亜紀, 金子泰之, 日比野俊, 峯岸祐司, 弦間昭彦, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 加藤俊二¹⁾, 徳永昭¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 寺崎泰弘²⁾, 逸見しのぶ²⁾, 持丸 博²⁾ (1) 第一外科, 2) 第一病理): 下血・イレウスを呈した肺腺癌胃小腸転移の1例. 第123回日本肺癌学会関東支部会, 1998. 12.
- 58) 斉藤 均¹⁾, 木村和義¹⁾, 小野 靖¹⁾, 久勝勝司¹⁾, 工藤翔二 (1) 博慈会記念病院第一内科): 不明熱で入院した顕微鏡的多発動脈炎の2例. 日本内科学会関東地方会, 1998. 12.
- 59) 忽滑谷直孝: 癌治療とQOL—21世紀へのstate of artを目指して: Supportive Therapy-5HT3を中心に. Tokyo Cancer Forum, 1999. 1.
- 60) 阿部信二, 菅原 勇¹⁾, 滝沢 始²⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二 (1) 結核予防会結核研究所分子病理科, 2) 東京大学医学部付属病院検査部): ディーゼル排気微粒子 (DEP) による気道上皮細胞傷害. 第1回呼吸器病態研究会, 1999. 1.
- 61) 野呂林太郎, 栗本太嗣, 小野啓資, 中広一善, 吾妻安良太, 吉村明修, 高崎雄司, 工藤翔二, 原口秀司¹⁾, 小

- 泉 潔¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 逸見しのぶ²⁾, 福田 悠²⁾ (¹⁾ 日本医科大学第二外科, ²⁾ 日本医科大学病理部): 下肢静脈血栓症, 心筋梗塞術後に多発性肺梗塞をくり返したプロテインC欠乏症の1例. 第133回日本呼吸器学会関東地方会, 1999. 2.
- 62) 篠田欣也, 小久保豊, 武市朗子, 芻阜大同, 日比野俊, 小野 靖, 松田久仁子, 吾妻安良太, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 接着・浸潤阻害作用によるクラリスロマイシンの実験的肺転移抑制効果. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 63) 金子泰之, 村田 朗, 中広一善, 伊藤永喜, 橋元恭士, 工藤翔二, 高崎雄司: 慢性呼吸不全患者の在宅医療の現状における問題点. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 64) 榎本達治, 白杵二郎, 吾妻安良太, 宮本晴子, 高橋卓夫, 工藤翔二: プレオマイシン肺傷害における高血糖の影響. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 65) 植松和嗣, 持丸 博¹⁾, 吉村明修, 清家正博, 弦間昭彦, 福田 悠¹⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 日本医大第1病理): 肺癌合併特発性間質性肺炎 (IIP) における FHIT 遺伝子異常の解析. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 66) 小久保豊, 安藤真弘, 吉村明修, 弦間昭彦, 青山昭徳, 日野光紀, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 肺癌骨転移の診断における I 型コラーゲン C 末端テロペプチド (ICTP) 血中濃度測定の意義. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 67) 栗本太嗣, 弦間昭彦, 清家曜子, 清家正博, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 遠隔転移を有する原発性肺癌における PTEN/MMAC1 遺伝子の変異解析. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 68) 橋元恭士, 村田 朗, 高崎雄司, 工藤翔二: 湿性咳嗽の音響学的解析と喀痰の物理学的性状の関連. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 69) 高橋卓夫, 吾妻安良太, 李 英姫, 阿部信二, 宮本晴子, 榎本達治, 白杵二郎, 工藤翔二: サルコイド-シス患者におけるアポト-シス関連因子のフローサイトメトリーによる解析の検討. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 70) 弦間昭彦, 清家曜子, 植松和嗣, 清家正博, 栗本太嗣, 吉村明修, 工藤翔二: ヒト M6P/IGF2R 遺伝子のゲノム構造と TGF β 1 耐性細胞株における変異解析. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 71) 吉村明修, 安藤真弘, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 飯沼 武¹⁾, 宮本忠昭²⁾, 松本 徹²⁾, 矢野 侃³⁾, 松本満臣⁴⁾ (¹⁾ 埼玉工業大学, ²⁾ 放射線医学総合研究所, ³⁾ 荒川区がん予防センター, ⁴⁾ 東京都立医療技術短期大学): らせんCTによる肺癌1次検診の費用効果分析. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 72) 小久保豊, 安藤真弘, 吉村明修, 弦間昭彦, 青山昭徳, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 肺癌骨転移の診断における I 型コラーゲン C 末端テロペプチド血中濃度測定の意義. 第39回日本肺癌学会総会, 1999. 3.
- 73) 宮本晴子, 榎本達治, 白杵二郎, 高橋卓夫, 吾妻安良太, 工藤翔二: 間質性肺炎における血清トロンボモジュリンと凝固線溶系のマーカーについて. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 74) 清家正博, 弦間昭彦, 谷口泰之, 栗本太嗣, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 肺癌の化学療法と転移過程における p15,p16 の遺伝子異常と FHIT の欠失についての検討. 第39回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 75) 白杵二郎, Horiba K¹⁾, Matsumoto Y¹⁾, Chu SC¹⁾, Ferrans VJ¹⁾, Moss J¹⁾, 工藤翔二 (¹⁾ NHLBI, NIH): 肺脈管筋腫症 (LAM) の平滑筋細胞および培養メラノーマ細胞における PCNA と HMB-45 反応性. 第99回日本呼吸器学会総会, 1999. 3.
- 76) 中広一善, 高崎雄司, 村田 朗, 金子泰之, 伊藤永喜, 橋元恭士, 工藤翔二: 高齢, 重症慢性閉塞性肺疾患患者の包括的ケアに関する研究: 在宅医療の現状における問題点. 第96回日本内科学会総会, 1999. 3.

5. 精神医学講座

[付属病院神経科・千葉北総病院神経科・多摩永山病院神経科・付属病院東洋医学科]

研究概要

精神生理学, 時間生物学, 脳画像などの生物学的研究, コンサルテーション・リエゾン精神医学, 社会精神医学, 神経症・心身症の研究, 力動精神医学など, 研究は多岐にわたり, 本年は内分泌学的研究や無痙攣性電気痙攣療法の研究が始まった

精神生理学的研究では, 気分障害の脳波分析, 事象関連電位, SPECTによる検討とこれらの関連が追及され, うつ病型による特徴が明らかにされた. 新しい方法論の脳波フラクタル解析のbiasについてはその解決法を見だし, ストレス負荷に対する香りの影響にたいする精神生理学的研究で実際に応用された. 時間生物学では, うつ病の概日リズムや抗うつ薬の及ぼす影響について種々な方法論に体温リズムを加えた検討が進められ, また, 老年痴呆患者の概日リズムについて, PSG, アクチグラフ, メラトニンなどが研究され, 高照度光療法が痴呆患者の認知機能などを改善しそれが概日リズムの正常化に基づくものであることを明らかにした. 睡眠薬や抗不安薬投与時の脳波パワーやPSGなど薬物脳波研究も引き続き行われた. 新たにうつ病のデキサメサゾン-CRH負荷試験の研究が始まった. strokeやhead injury後の精神障害についてのアイオワ大学との共同研究も幾つかがまとまり公刊された. コンサルテーション・リエゾン精神医学では, 脊椎手術患者の精神心理学的側面の研究に新たに心臓手術患者や皮膚科の患者などが対象として加わった. また, せん妄の脳血流量など従来のICU症候群や術後精神障害研究に新しい側面が加わり続けられている. 精神科救急の問題と身体合併症患者についての病院管理学的研究に力が入られた. 社会精神医学では, 女性の就労と自尊心との関連, 神経症や心身医学の領域では, 虚偽性障害やMünchhausen syndrome by proxyの症例が研究され, パセドウ難治例やうつ病尺度の研究, また, 歯科領域セネストパチー症例の研究が前進した. 会食不能症例の研究, 不登校生のエディプス・コンプレックスや転移の問題あるいは暗示の問題の研究, 気分障害の臨床研究として無痙攣性電気痙攣療法による躁転症例の検討が行われた. また難聴者の迫害妄想による放火事例研究がまとめられた.

研究業績

論文

[1997年度追加分]

原著:

- 1) Ymadera H, Kobayashi K, Sugai K, Suda H, Kaneko S: A study of ring 20 chromosome karyotype with epilepsy. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 1998; 52: 63-68.
- 2) Yamadera H, Nakamura S, Suzuki H, Endo S: Effects of trazodone hydrochloride and imipramine on polysomnography in healthy subjects. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 1998; 52: 439-443.
- 3) Uchiyama M¹⁾, Okawa M¹⁾, Ozaki S¹⁾, Shibui K¹⁾, Kim K¹⁾, Kudo Y, Hayakawa Y¹⁾, Kamei Y¹⁾, Urata J¹⁾ (¹⁾ National Center Hospital for Mental, Nervous and Muscular Dis): Circadian characteristics of delayed sleep phase syndrome and non-24-hour sleep-wake syndrome. In *Circadian Clocks Entrainment* 1998; 115-130.
- 4) Kishi Y, Kurosawa H, Endo S: Is propranolol effective in primary polydipsia?. *Int'l J Psychiatry in Medicine* 1998; 28: 315-325.

(1) 原著：

- 1) Shimoda K : The relationship between social impairment and recovery from stroke. *Psychiatry* 1998 ; 61 (Summer) : 101-111.
- 2) Ito H¹⁾, Kishi Y, Kurosawa H : A preliminary study of staff perception of psychiatric services in general hospitals. *Gen Hosp Psychiatry* 1999 ; 21 : 57-61.
- 3) Kato M¹⁾, Kajimura N¹⁾, Okuma T¹⁾, Sekimoto M¹⁾, Watanabe T¹⁾, Yamadera H : Association between δ waves during sleep and negative symptoms in schizophrenia : Pharmacoo-EEG studies by using structurally different hypnotics. *Neuropsychobiology* 1999 ; 39 : 165-172.
- 4) Ito H¹⁾, Kishi Y, Kurosawa H (¹⁾ Department of Health Services Administration Nippon Medical School) : A preliminary study of staff perception of psychiatric services in general hospitals. *Gen Hosp Psychiatry* 1999 ; 21 : 57-61.
- 5) Shimoda K, Robinson RG : The relationship between poststroke depression and lesion location in long-term follow-up. *Biological Psychiatry* 1999 ; 2 (45) : 187-192.
- 6) 遠藤幸彦：不登校生徒の精神療法とエディプス・コンプレックス. *思春期青年期精神医学* 1998 ; 8 (2) : 91-101.
- 7) 伊藤弘人¹⁾, 周 書義¹⁾, 岸 泰宏, 黒澤 尚, 岸本淳司²⁾, 岩崎 栄¹⁾ (¹⁾ 医療管理学教室, ²⁾ 東京大学医学部生物統計学) : 総合病院における精神科医療機能に関する予備的分析. *総合病院精神医学* 1998 ; 10 (1) : 30-36.
- 8) 加藤健太郎¹⁾, 渡部 洋¹⁾, 藤波茂忠 (¹⁾ 東京大学) : うつ病尺度FDI (Fujinami Depression Index) の作成. *東京大学大学院教育研究科紀要* 1998 ; 38 : 259-267.
- 9) 西松能子, 斉藤卓弥, 遠藤俊吉 : Munchausen syndrome by proxyの1症例 : 子供を代理としたMunchausen syndromeについて. *臨床精神医学* 1998 ; 27 (5) : 583-590.
- 10) 黄 珉淑, 西松能子, 遠藤俊吉 : 女性の就労状況と自尊心などの諸要因との関係の検討—第1報. *日本社会精神医学会雑誌* 1998 ; 7 (1) : 29-39.
- 11) 伊藤敬雄, 伊藤理津子¹⁾, 佐藤忠宏¹⁾ (¹⁾ 公徳会佐藤病院) : アルツハイマー型痴呆の自殺企図例についての検討. *臨床精神医学* 1998 ; 27 (11) : 1455-1462.
- 12) 藤波茂忠, 伊藤公一¹⁾, 原田種一¹⁾ : 挙児願望の強いパセドウ病難治例の15年の経緯にみる心身医学的側面. *心療内科* 1998 ; 2 : 465-470.
- 13) 西松能子, 斉藤卓弥 : 隠された自傷行為—虚偽性障害. *臨床精神医学* 1998 ; 27 : 1421-1428.
- 14) 西松能子 : Psychiatric Munchausen's syndromeの2症例. *精神医学* 1998 ; 40 : 1171-1178.
- 15) 渋井佳代¹⁾, 内山 真¹⁾, 大川匡子¹⁾, 亀井雄一¹⁾, 早川達郎¹⁾, 工藤吉尚, 金 圭子¹⁾, 赤松達也¹⁾, 太田克也¹⁾, 石橋健一¹⁾ (¹⁾ 国立精神神経センター) : 月経周期に伴う眠気と睡眠傾向の変動—健常女性6例の検討. *脳と精神の医学* 1999 ; 10 (1) : 53-60.
- 16) 西松能子, 黄 淑, 竹原 恵, 遠藤俊吉 : 女性の就労状況と自尊心など諸要因との関係の検討—第2報. *日本社会精神医学会雑誌* 1999 ; 7 : 239-249.
- 17) 西松能子 : Munchausen症候群の1症例の経過. *精神科治療学* 1999 ; 14 : 327-331.

(2) 綜説：

- 1) Yamadera H, Kato M¹⁾, Tsukahara Y¹⁾, Kajimura N¹⁾, Okuma T¹⁾ : Effects of zopiclone on polysomnography and daytime EEG-vigilance controlled EEG and resting EEG. *Proceeding of III pan-pacific conference on brain topography* (eds.Y.Koga 1998 ; 697-702.
- 2) 岸 泰宏, 黒澤 尚 : 自殺. *ナーシング・トゥデイ* 1998 ; 13 : 66-68.
- 3) 岸 泰宏, 黒澤 尚 : 心理的痛み. *日医会誌特別号* 1998 ; (119) : 281-284.

- 4) 岸 泰宏, 黒澤 尚: 自殺患者によくみられる中毒. *medicina* 1998; (98): 438-440.
 - 5) 山寺博史: (特集: 睡眠薬. 開発中の睡眠薬). *日本臨床* 1998; 56: 515-520.
 - 6) 山寺博史: 事象関連電位と向精神薬治療. *臨床精神薬理* 1998; 1: 1153-1160.
 - 7) 黒澤 尚, 保坂 隆¹⁾, 渡辺俊之¹⁾, 青木孝之¹⁾, 奥山 透¹⁾, 田中昭太郎²⁾, 田中耕二³⁾ (1) 東海大学精神科, 2) 海老名総合病院, 3) 九州厚生年金病院): 総合病院における精神科開設の意義と病院経済. *日本医事新報* 1998; (3866): 69-72.
 - 8) 榎本 稔¹⁾, 松田隆夫¹⁾, 山寺博史 (1) 榎本クリニック): 第10回日本アルコール精神医学会—シンポジウムII 「アルコール症の治療: 各施設の特徴と方法論」. *日本アルコール精神医学誌* 1998; 5: 103-109.
 - 9) 竹澤健司, 黒澤 尚: 高齢者における精神疾患の鑑別. *老化と疾患* 1998; 11 (12): 82-84.
 - 10) 山寺博史: 特集: 脳の謎にせまる. メラトニンと睡眠. *治療* 1999; 81: 11-15.
 - 11) 山寺博史: 特集: 不眠治療へのストラテジー—睡眠の働き—睡眠の特性, 加齢による変化やサーカディアンリズムなどとの関連. *治療* 1999; 82: 11-15.
 - 12) 西松能子: Munchausen syndrome by proxy. *臨床精神医学* 1999; 28: 112-112.
 - 13) 木村真人: 痴呆性老人の臨床的特徴と対応. *日医大誌* 1999; 66 (1): 49-51.
- (3) 研究報告書:
- 1) 黒澤 尚: 精神医療の機能分化に関する研究「総合病院における精神科の役割に関する研究」. 厚生科学研究費補助・精神保健医療研究事業平成9年度研究報告 1998.
 - 2) 黒澤 尚: 循環器疾患における救急医療に関する研究「循環器疾患の救急診療体制に関する研究」. 厚生科学研究費補助・循環器病研究委託事業平成9年度研究報告 1998.
 - 3) 岸 泰宏: 疾患に応じた適性な医療のあり方に関する研究「自殺の実態および自殺予防策の検討に関する研究」. 厚生科学研究費補助・精神保健医療研究事業平成9年度研究報告 1998.
- (4) Proceeding:
- 1) Shimoda K, Robinson RG: Changes in regional brain function on recovery from depression: Relationship with specific clinical dimension. *Journal of neuropsychiatry and clinical neuroscience* 1999; 11 (Winter): 155-155.

著 書

- 1) 岸 泰宏: [分担] 四肢切断症例 両下肢切断症例の精神症状の推移. *精神科ケースライブラリー コンサルテーション・リエゾン精神医療* (編集: 風祭 元, 山脇成人), 1998; pp285-293, 中山書店.
- 2) 黒澤 尚: [共著] 精神障害. 救急救命士標準テキスト改訂4版, 1998; pp601-614, へるす出版.
- 3) 遠藤俊吉: [分担] 意志と欲動の障害B. 個々の欲動の障害. *臨床精神医学講座 第1巻 精神症候と疾病分類・疫学* (浅井昌弘, 小島卓也編), 1998; pp174-184, 中山書店.
- 4) 森 隆夫, 遠藤俊吉: [分担] 産後うつ病. *臨床精神医学講座4 気分障害*, 1998; pp349-357, 中山書店.
- 5) 遠藤俊吉: [分担] 精神作用物質による精神障害. *専門医のための精神医学* (西園昌久他編), 1998; pp280-293, 医学書院.
- 6) 黒澤 尚: [共著] 術後の精神障害とその対策. 改訂版 術前・術後マニュアル (出月康夫編集), 1998; pp102-105, 照林社.
- 7) 黒澤 尚: [共著] 自殺未遂者 救命救急センター内での対応. *コンサルテーション・リエゾン医療* (山脇成人編集), 1998; pp255-263, 中山書店.
- 8) 黒澤 尚, 吉川栄省: [共著] ICUでみられる精神症状. *集中治療医学* (天羽敬祐, 早川弘一, 平澤博之, 田中茂夫編集), 1998; pp192-195, 総合医学社.
- 9) 小井戸隆: [共著] けいれん. *臨床精神医学17 リエゾン精神医学・精神科救急医療* (黒澤 尚, 山脇成人編

- 集), 1998 ; pp375-379, 中山書店.
- 10) 黒澤 尚 : [共著] 術後精神障害の考え方. 臨床精神医学17 リエゾン精神医学・精神科救急医療 (黒澤 尚, 山脇成人編集), 1998 ; pp285-292, 中山書店.
 - 11) 岸 泰宏 : [分担] 脊髄損傷患者. 臨床精神医学講座17 リエゾン精神医学・精神科救急医療 (編集 黒澤 尚, 山脇成人), 1998 ; pp254-261, 中山書店.
 - 12) 黒澤 尚, 山脇成人¹⁾ (¹⁾ 広島大学) : [編集] 臨床精神医学17 リエゾン精神医学・精神科救急医療, 1998 ; 中山書店.
 - 13) 西松能子 : [分担] Munchausen 症候群. 臨床精神医学講座第7巻 人格障害 (牛島定信, 福島章編), 1998 ; pp213-222, 中山書店.
 - 14) 西松能子, 斉藤卓弥 : [分担] 外傷患者. 臨床精神医学講座第17巻 リエゾン精神医学・精神科救急医療 (黒澤 尚, 山脇成人編), 1998 ; pp239-244, 中山書店.
 - 15) 木村真人 : [分担] 精神科救急における精神症状—向精神薬の随伴症状. 臨床精神医学講座第17巻 リエゾン精神医学・精神科救急医療 (黒澤 尚, 山脇成人編), 1998 ; pp417-424, 中山書店.
 - 16) 西松能子 : [分担] ヒステリー. 精神科プラクティス第3巻神経症とその周辺 (黒澤 尚他編), 1998 ; pp156-171, 星和書店.
 - 17) 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : [分担] うつ病の臨床症状と診断・治療. うつ病の診断と治療, 30の大学および施設による診断と治療シリーズ, 1999 ; pp57-65, 真興交易医書出版部.
 - 18) 森 隆夫 : [分担] 抗不安薬. 治療薬ガイド1999—2000, 1999 ; pp31-43, 文光堂.
 - 19) 黒澤 尚, 北西憲二¹⁾, 大野 祐²⁾ (¹⁾ 成増厚生病院, ²⁾ 慶應義塾大学医学部) : [編著] 神経症とその周辺, 1999 ; 星和書店.
 - 20) 遠藤俊吉 : [分担] 心身症. 新内科治療ガイド (矢崎義雄他編), 1999 ; pp393-398, 文光堂.

学会発表

[1997年度追加分]

シンポジウム :

- 1) Yamadera H : Pharmacology-EEG and clinical applications : Effects of zopiclone on polysomnography and daytime EEG. III Pan-pacific conference on brain topography symposium (Chiba), 1997. 1.

(1) 特別講演 :

- 1) 木村真人 : 老年期痴呆についての問題点—主な痴呆疾患の臨床的特徴と対応の仕方. 日本医師会生涯教育講座平成10年度第1回医学講座プログラム, 1998. 5.
- 2) 黒澤 尚 : ICUで見られる精神症状とそれらへの対応. 第43回日本集中治療医学会 近畿地方会, 1998. 6.
- 3) 黒澤 尚 : 救命救急センターでのリエゾン医療—酩酊者を中心に. 第10回日本アルコール精神医学会, 1998. 7.
- 4) 黒澤 尚 : 日本医科大でのリエゾン精神医療の経験から. 第1回北海道リエゾン研究会, 1999. 2.

(2) 招待講演 :

- 1) Ito T, Yamadera H, Suzuki H, Endo S : Therapeutic effects of bright light on circadian and cognitive disturbances in Alzheimer-type dementia. 精神神経センター国際セミナー (Chiba), 1999. 2.

(3) 教育講演 :

- 1) 黒澤 尚 : 精神障害. 第5回日本外科学会 生涯セミナー, 1999. 2.

(4) 学術賞受賞記念講演 :

- 1) 山寺博史 : 開眼時脳波に及ぼす diazepam のトポグラフィ的研究. 第28回日本神経精神薬理学会, 1998. 9.

(5) 記念講演：

- 1) 黒澤 尚：日本総合病院精神医学会—この10年の歩み。第11回日本総合病院精神医学会，1998。12。

(6) シンポジウム：

- 1) Kishi Y：The High Acuity (Type IV) Integrating Medical and Psychiatric Treatment Program：Can We Adopt This Model in Japan?. The 13th Tokyo Institute of Psychiatry International Symposium "Cutting-Edge Medicine and Liaison Psychiatry" (Tokyo), 1998。9。
- 2) 榎本 稔¹⁾，松田隆夫¹⁾，山寺博史¹⁾ (榎本クリニック)：アルコール症の治療—各施設の特徴と方法論 診療所の立場から。第10回日本アルコール精神医学会，1998。7。
- 3) 岸 泰宏，黒澤 尚，長谷川朝穂¹⁾ (1) 千葉県精神医療センター)：医療現場における医療者のストレス"救急医療の現場から。第14回日本ストレス学会学術総会，1998。10。

(7) 一般講演：

- 1) Ymadera H, Suzuki H, Nakamura S, Endo S：The correlation among polysomnography, blood concentrations and body core temperature after trazodone administration on healthy volunteers. International Pharmacology-EEG (IPEG) Society 10th Biennial Congress (Miran), 1998。10。
- 2) Shimoda K, Robinson RG：Changes in regional brain function on recovery from depression：Relationship with specific clinical dimension. 10th American Neuropsychiatric Association annual meeting (Orland), 1999。2。
- 3) 高橋清久¹⁾，大川征子¹⁾，松本三樹¹⁾，三島和夫¹⁾，山寺博史，佐々木三男¹⁾，石東嘉和¹⁾，山田和夫¹⁾，樋口輝彦¹⁾，岡本典雄¹⁾，古田寿一¹⁾，中川博幾¹⁾，太田龍朗¹⁾，黒田健治¹⁾，杉田義朗¹⁾，井上雄一，内村直尚，長山治男，三池輝久，亀井健二：睡眠覚醒リズムに対するメチコパラミン (Me-B12) の効果第二回二重盲験の成績について。日本睡眠学会第23回定期学術大会，1998。1。
- 4) 下田健吾，木村 真人，館野 周，森 隆夫，鈴木博子，遠藤俊吉，水村 直：うつ病における123I-IMP SPECT所見とP300トポグラフィの関連について：縦断的検討。第94回日本精神神経学会総会，1998。4。
- 5) 鈴木博子，木村真人，鈴木英朗，坂本篤裕¹⁾ (1) 麻酔科学)：軽躁状態を呈したnon convulsive ECT施行後のうつ病者について。第94回日本精神神経学会，1998。5。
- 6) 本間房恵：学生相談におけるロールシャッハ・テストの活用。第4回包括システムによる日本ロールシャッハ学会大会，1998。5。
- 7) 鈴木英朗，山寺博史，中村秀一，遠藤俊吉 (1)：塩酸トラゾドン投与による終夜睡眠脳波の変化とトラゾドン血中濃度，直腸温との関連について。第1回日本薬物脳波学会，1998。6。
- 8) 山寺博史，鈴木英朗，中村秀一，遠藤俊吉：塩酸トラゾドン投与による徐波睡眠の変化と血中濃度，直腸温との関連について。日本睡眠学会第23回定期学術大会，1998。6。
- 9) 鬼頭 諭，森 隆夫，木村真人，竹澤健司，遠藤俊吉：フラクタル次元測定上の問題点について。第24回性格・行動と脳波研究会，1998。7。
- 10) 水野淳一郎¹⁾，榎本 稔¹⁾，松田隆夫¹⁾，後藤浩二¹⁾，中村真二¹⁾，宮坂祐子¹⁾，木村以子¹⁾，赤沼真由美¹⁾，高橋富士子¹⁾，本田美都子¹⁾，山寺博史，榎本歌代子¹⁾，石久保亮¹⁾，二村優子¹⁾ (1)：低社会経済状態のアルコール依存症者に対する初期治療の実際とその効果。第10回日本アルコール精神医学会，1998。7。
- 11) 下田健吾，木村 真人，館野 周，森 隆夫，鈴木博子，遠藤俊吉：うつ病における123I-IMP SPECT所見と事象関連電位P300について。第24回性格・行動・脳波研究会，1998。7。
- 12) 小井戸隆，池森紀夫，鈴木博子，遠藤俊吉：会食不能症の2症例：発生規制を中心として。第83回日本心身医学会関東地方会，1998。9。
- 13) 竹澤健司，森 隆夫，木村真人，鬼頭 諭，鈴木博子，葉田道雄，下田健吾，河野貴美子¹⁾，遠藤俊吉 (1) 情報科学センター)：ストレス負荷に対する香りの精神生理学的研究—相関次元を用いた検討 (第3報)。第14回日本催眠学会，1998。9。

- 14) 遠藤幸彦：精神分析と暗示．第14回日本催眠学会，1998．9．
- 15) 遠藤幸彦：神経性無食欲症の精神療法．日本精神分析学会，1998．10．
- 16) 下田健吾，木村 真人，館野 周，森 隆夫，鈴木博子，遠藤俊吉：うつ病における123I-IMP SPECT所見と事象関連電位P300の関連：縦断的検討．第28回脳波筋電図学会学術大会，1998．10．
- 17) 伊藤敬雄，山寺博史，鈴木英朗，中村秀一，伊藤理津子，佐藤忠宏¹⁾，遠藤俊吉⁽¹⁾（公徳会佐藤病院）：アルツハイマー型痴呆患者の生体リズム異常と認知機能障害に対する光療法の治療効果について．第5回日本時間生物学会学術大会，1998．11．
- 18) 鈴木英朗，山寺博史，中村秀一，遠藤俊吉：塩酸トラゾドン投与によると血中濃度，PSGパラメータおよび直腸温の変化の関連について．第28回日本脳波筋電図学術大会，1998．11．
- 19) 鬼頭 諭，森 隆夫，竹澤健司，木村真人，遠藤俊吉：脳波フラクタル次元測定におけるバイアスの検討．第28回日本脳波・筋電図学会学術大会，1998．11．
- 20) 金子和磨，小宅理佳子，鈴木博子，鈴木英朗，木村真人，遠藤俊吉：迫害妄想に基づき自宅に放火した難聴者の一事例．第35回日本犯罪学会総会，1998．11．
- 21) 金子和磨，池森紀夫，小宅理佳子，鈴木英朗，鈴木博子，木村真人，山寺博史，遠藤俊吉：運動性失語と抑うつを呈した側頭葉てんかんの1症例．第54回東京精神医学会，1998．11．
- 22) 岸 泰宏，黒澤 尚，木村真人，伊藤弘人¹⁾（¹⁾医療管理学）：総合病院精神科の役割—アンケート調査の結果から．第11回日本総合病院精神医学会総会，1998．12．
- 23) 伊藤敬雄，木村真人，佐藤忠宏¹⁾，平山理津子¹⁾，遠藤俊吉⁽¹⁾（公徳会佐藤病院）：脳血管性痴呆とアルツハイマー型痴呆を比較して．第11回日本総合病院精神医学会総会，1998．12．
- 24) 鈴木博子，木村真人，榮 兼作，池森紀夫，森 隆夫，遠藤俊吉：精神科救急における大学病院の役割と問題点．第11回日本総合病院精神医学会総会，1998．12．
- 25) 大川匡子¹⁾，内山 真¹⁾，渋井佳代¹⁾，金 圭子¹⁾，工藤吉尚，早川達郎¹⁾，亀井雄一¹⁾，浦田重治郎¹⁾（¹⁾国立精神神経センター精神・保健研究所）：睡眠・覚醒リズム障害の病態解明と病態モデルの開発：睡眠相後退症候群のsleep propensityとメラトニンリズム．厚生省精神・神経疾患研究委託費平成10年度班研究報告会，1998．12．
- 26) 木村真人，南 史朗¹⁾，森 隆夫，鈴木博子，鈴木英朗，下田健吾，小宅理佳子，木村美保，遠藤俊吉⁽¹⁾（老人病研究所疫学部門）：うつ病患者におけるデキサメサゾン—CRH負荷試験の検討．第10回CRH・ACTH研究会，1999．3．
- 27) 下田健吾，木村 真人，館野 周，森 隆夫，鈴木博子，遠藤俊吉：うつ病における123I-IMP SPECT所見と事象関連電位P300の関連：縦断的検討．第21生物学的精神医学会，1999．3．
- 28) 内山 真¹⁾，大川匡子¹⁾，金 圭子¹⁾，渋井佳代¹⁾，工藤吉尚，劉 賢臣¹⁾，早川達郎¹⁾，亀井雄一¹⁾，浦田重治郎¹⁾（¹⁾国立精神神経センター）：概日リズム異常に関連した気分障害について．第21回日本生物学的精神医学会，1999．4．

[付属病院東洋医学科]

研究概要

東洋医学の有用性の研究と東洋医学の病態概念の科学的実証，これが当科の研究目標である。

東洋医学の有用性の研究業績：盗汗と更年期障害の病態理論について東洋医学的に新たな知見を得た。

疲労倦怠感・陽虚証不眠・舌異常感などの東洋医学的病態像を検討した。

漢方薬の副作用について症例に基づいて検討しその発生機序の分類を試みた。

昨年に引き続き花粉症の東洋医学的治療の検討を行い，治療方法の観点から三つに分類されることが確認された。

病態概念の科学的実証研究：建領湯C加味逍遙散，桂枝茯苓丸の新たな運用を検討し発表した。
桃核承気湯の使用目標を明確にした。
アトピー性皮膚炎の温病的治療を検討した。
鍼灸による膝関節治療法を検討した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 三浦於菟：瘀血証盗汗の東洋医学的病態の検討。日本東洋医学会雑誌 1998；48（5）：637-642.
- 2) 三浦於菟：病態理論より見た疎経活血湯。東洋医学 1998；26（6）：46-48.
- 3) 渡邊 裕，三浦於菟，白石佳正，赤池正博，興津 寛，斉藤輝夫，岡田研吉：局所を使わない膝関節の鍼治療。東洋医学 1998；14（2）：57-61.
- 4) 三浦於菟：建領湯加減で全身倦怠感の消失を見た1例。中医臨床 1998；19（3）：270-273.
- 5) 興津 寛，斉藤輝夫，三浦於菟：疲労倦怠感の発生機序に関する考察。中医臨床 1998；19（3）：258-263.
- 6) 三浦於菟，興津 寛，武島英人，篠原明徳，赤池正博，白石佳正，斉藤輝夫，渡邊 裕：腎陽虚不眠の病態。漢方の臨床 1998；45（10）：1314-1318.
- 7) 三浦於菟，興津 寛，武島英人，赤池正博，白石佳正，斉藤輝夫，渡邊 裕：清上防風湯との合方で軽快した花粉症の2例。東静漢方研究室 1998；21（5）：85-91.
- 8) 三浦於菟：補中益気湯の盗汗。東静漢方研究室 1998；21（6）：85-91.
- 9) 三浦於菟：加味逍遙散が奏功した頭痛を主訴とした男性症例。日本東洋心身医学研究会誌 1998；12：12-15.
- 10) 三浦於菟：更年期頻用方剤の検討：桃核承気湯の作用。THE KAMPO 1999；1（2）：17-19.
- 11) 三浦於菟：五行論による“秋名”の一考察。こんてんぼりー 1999；10：15-19.
- 12) 三浦於菟：盗汗の東洋医学的病態像。和漢医薬学雑誌 1999；15（5）：464-465.
- 13) 三浦於菟：漢方薬副作用の東洋医学的検討。漢方と最新治療 1999；8（1）：29-34.

(2) 綜説：

- 1) 三浦於菟：消化器病の漢方治療：下痢を中心として。診療研究 1998；341：10-14.
- 2) 白石佳正，三浦於菟：東洋医学における植物療法と心身の癒し。aromatopia 1998；7（5）：34-37.
- 3) 三浦於菟：実践漢薬学第1回 漢薬学総論：四気五味とその応用。漢方研究 1998；324：465-469.
- 4) 三浦於菟：実践漢薬学第2回 漢薬学各論：解表薬。漢方研究 1999；326：66-72.

著書

- 1) 赤池正博：〔分担〕非B非C型慢性肝炎に対する中医治療の1例。別冊・医学の歩み 肝疾患の漢方治療 症例と処方（編集：山内 浩，鍋谷欣市），1998；pp109-111，医歯薬出版。
- 2) 三浦於菟：〔単著〕東洋医学の生命観，1998；pp1-23，大日本印刷。
- 3) 三浦於菟，斉藤輝夫：〔分担〕慢性肝炎の中医的治療。別冊・医学の歩み：肝疾患の漢方治療（編集：山内浩，鍋谷欣市），1998；pp31-35，医歯薬出版。
- 4) 三浦於菟，岡田研吉：〔共著〕さらさら血液が長生きの秘訣，1998；pp1-207，河出出版。
- 5) 松田裕之，井関利明，佐々木正人，西山賢一，三浦於菟：〔分担〕生命のコミュニケーションの風景からビジネスを考える，1998；pp1-36，大日本印刷。

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 白石佳正：東洋医学の立場から。第2回植物・芳香医学フォーラム，1998. 5.

(2) 一般講演：

- 1) 三浦於菟，興津 寛，武島英人，赤池正博，白石佳正，岡田研吉，斉藤輝夫，渡邊 裕：花粉症の漢方治療と病態。第49回日本東洋医学会学術総会，1998. 5.
- 2) 武島英人，三浦於菟，興津 寛，赤池正博，白石佳正，岡田研吉，斉藤輝夫，渡邊 裕，石橋 晃：桂枝茯苓丸の症例。第49回日本東洋医学会学術総会，1998. 5.
- 3) 興津 寛，武島英人，三浦於菟，赤池正博，白石佳正，岡田研吉，斉藤輝夫，渡邊 裕：補益法によらない疲労倦怠感の治療。第49回日本東洋医学会学術総会，1998. 5.
- 4) 三浦於菟：盗汗の東洋医学的病態像。第15回和漢医薬学会，1998. 8.
- 5) 白石佳正，三浦於菟，斉藤輝夫，渡邊 裕：アトピー性皮膚炎の温病学的治療。第16回日本東方医学会，1998. 9.
- 6) 三浦於菟，興津 寛，武島英人，篠原明德，斉藤輝夫，赤池正博，白石佳正，渡邊 裕：活血薬補血薬の合方加味が有効であった花粉症の2例。第55回日本東洋医学会関東甲信越学術総会，1998. 10.
- 7) 武島英人，興津 寛，赤池正博，岡田研吉，三浦於菟，斉藤輝夫，白石佳正，渡邊 裕：補血薬が有効であった気虚発熱の一例。第55回日本東洋医学会関東甲信越学術総会，1998. 10.
- 8) 興津 寛，篠原明德，武島英人，赤池正博，三浦於菟，斉藤輝夫，白石佳正，渡邊 裕：口腔内，舌の異常感に対し臟腑弁証により治療効果の見られた2症例。第55回日本東洋医学会関東甲信越学術総会，1998. 10.
- 9) 三浦於菟：更年期障害の東洋医学的病態。第8回人体科学学会年次大会，1998. 11.

6. 小児科学講座

[付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

研究概要

小児科学教室では血液・腫瘍性疾患，膠原病・免疫性疾患，内分泌・代謝性疾患，循環器疾患，腎・泌尿器疾患，神経・筋疾患，新生児・未熟児，アレルギー疾患，呼吸器疾患を対象として，主に下記の研究を行っている。

付属病院では，産科および生化学第二との協力のもとに遺伝相談部門を開設している。小児科学教室は付属4病院が常に有機的連携を保ち，患者サイドにたった臨床的研究を心がけている。業績は4病院一括して報告する。

血液・悪性腫瘍：小児悪性腫瘍の治療法の改善，予後因子の解析，晩期障害の検討。鉄欠乏性貧血の病態解析，思春期貧血のマススクリーニングの実施に伴う諸条件の検討。

膠原病・免疫：自己免疫性疾患における自己抗体産生機序の検討。不定愁訴をもつ学童生徒における自己抗体出現の機序と臨床的意義。

内分泌・代謝：肥満児の病態解析と治療法の開発。小人症の治療と随伴する微量元素の代謝。先天性代謝異常児の遺伝子解析。

循環器：薬剤負荷による各種評価法を用いた心筋虚血病変の検討。川崎病後の血管リモデリングに対する遺伝子および分子生物学的検討。心筋細胞の成長・発達に伴う変化に対する分子生理学・分子生物学を用いた検討。

神経・筋：けいれん性疾患脳波学的解析。各種神経疾患におけるSPECTによる脳血流の解析。筋変性疾患の病理組織学的検討と遺伝子解析。

腎・泌尿器：各種腎疾患の病理組織学的検討と免疫学的背景の臨床的検討。乳児期腎臓超音波マススクリーニング検査の臨床的意味付け。

アレルギー：アトピー性疾患病態に関する基礎的・臨床的検討。食餌性アレルギーをもつ乳児の腸管各種免疫グロブリンの解析と蛋白透過性の検討。

呼吸器：小児期適応肺機能検査法の改善と評価。各種疾患における気管支洗浄液の免疫学的，細胞学的検討。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Maeda M, Nakazawa S¹⁾, Yamamoto M (1) Yamanashi Medical University) : Anthracycline cardiotoxicity in children with acute leukemia. *International Journal of Pediatrics Hematology & Oncology* 1998 ; 5 : 67.
- 2) Maeda M, Yamamoto M, Yamauchi K¹⁾ (1) Tokyo Health Service Association) : Prevalence of anemia in Japanese adolescents : 30 year's experience in screening for anemia. *Int J Hematology* 1998 ; 69 : 75-80.
- 3) Kamisago M, Ogawa S, Hino Y, Jimbo O, Nagai Y, Hayashi R, Seki T, Ohkubo T, Zhang J, Yamamoto M : Successful treatment of anomalous origin of the left coronary artery from the pulmonary artery in a 5-week old male infant. *日医大誌* 1998 ; 65 : 312-315.
- 4) Katsube Y, Yokoshiki H¹⁾, Nuguen L¹⁾, Yamamoto M, Sperelakis N¹⁾ (1) University of Cincinnati) : L-type Ca²⁺ currents in ventricular myocytes from neonatal and adult rat. *Canadian Journal of Pharmacology and Physiology* 1998 ; 76 : 873-881.
- 5) Katsube Y, Yokoshiki H¹⁾, Sunagawa M¹⁾, Seki T, Yamamoto M, Sperelakis N¹⁾ (1) University of Cincinnati) : Carbachol inhibition of Ca²⁺ currents in ventricular cells obtained from neonatal and adult rats. *Eu-*

- ropean Journal of Pharmacology 1998 ; 358 : 269-275.
- 6) Asano T, Nachi T, Maruyama K¹⁾, Morita T¹⁾, Murakami M, Yamamoto M (¹⁾ National Tosei Hospital) : Changes in the duration of urinary abnormality of purpura nephritis over the last 15 years. Acta Paediatrica Japonica 1998 ; 40 : 236-238.
 - 7) Asano T, Hayashida M, Ogawa K, Adachi K¹⁾, Teramoto A¹⁾, Yamamoto M (¹⁾ Nippon Medical School, Department of Pathology) : Hypertrophic cranial pachymeningitis in a patient with aplastic anemia. Ann Hematol 1998 ; 77 : 279-282.
 - 8) Itoh Y, Fukunaga Y, Igarashi T, Imai T, Yoshida J, Tsuchiya M, Fujino O, Murakami M, Yamamoto M : Autoimmunity in chronic fatigue syndrome in children. Jpn J Rheumatol 1998 ; 8 (4) : 429-437.
 - 9) Yamauchi H¹⁾, Ishii Y¹⁾, Omori H¹⁾, Yajima T¹⁾, Nitta T¹⁾, Ochi M¹⁾, Fukumi D, Kuramochi Y, Ohkubo T, Ogawa S, Tanaka S¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Modified Fontan Operation : Considerations for the determination of the appropriate procedure. 日医大誌 1999 ; 66 (1) : 28-32.
 - 10) Hayashi R, Ogawa S, Watanabe Z, Yamamoto M : Cardiovascular function before and after iron therapy by echocardiography in patients with iron deficiency anemia. Pediatric International 1999 ; 41 : 13-17.
 - 11) 高瀬真人 : 呼吸音スペクトル解析の臨床応用. 小児科 1998 ; 39 (9) : 991-998.
 - 12) 倉持雪穂, 小川俊一, 上砂光裕, 大久保隆志, 武智信幸, 山内仁紫¹⁾, 井村 肇¹⁾, 中嶋征子²⁾, 山本正生 (¹⁾ 第二外科, ²⁾ 上尾中央病院) : 異なる契機で診断に至った左冠状動脈肺動脈起始症の3症例. 小児科 1998 ; 39 (11) : 1333-1337.
 - 13) 岡部俊成, 飛田正俊, 竹田幸代, 向後俊昭, 野呂瀬嘉彦¹⁾, 大国寿士²⁾, 小野塚春吉³⁾ (¹⁾ 微生物免疫学教室, ²⁾ 老人病研究所免疫部門, ³⁾ 東京都立衛生研究所理化学部) : 小児アトピー性皮膚炎における亜鉛の関連についての検討. 日本小児アレルギー学会雑誌 1998 ; 12 (3) : 244-253.
 - 14) 今井丈英, 千葉 隆, 上砂光裕, 宗像恵美子¹⁾, 安田 正¹⁾, 羽鳥誉之 (¹⁾ 大宮赤十字病院) : 著名な縦隔腫瘍を呈しEBウイルスの関与が示唆された非定型的Hodgkin病の1例. 日本小児呼吸器疾患学会雑誌 1998 ; 9 (2) : 104-109.
 - 15) 立麻典子, 内木場庸子, 入江 学, 前田美穂, 藤野 修, 大木由加志, 山本正生 : 学校検診で発見された下垂体過形成を伴った橋本病の1女兒例. 小児科臨床 1998 ; 51 : 130-134.
 - 16) 望月信幸, 折茂裕美, 朝倉由美, 大木由加志, 山本正生 : 肥満児における体脂肪率と皮脂厚および高インスリン血症, 肝機能障害との関係. 日誌 1998 ; 102 : 124-130.
 - 17) 大久保隆志, 小川俊一, 武智信幸, 倉持雪穂, 山本正生 : 微小血管叢を通じた冠状動静脈瘻を認めた川崎病既往児の1例. 日本小児循環器学会雑誌 1999 ; 14 (5) : 629-634.
 - 18) 栗原真紀子¹⁾, 岩崎志穂²⁾, 木下史子³⁾, 郷田智世⁴⁾, 島崎 英⁵⁾, 杉山幹雄⁶⁾, 高橋理栄子⁷⁾, 西村直子⁸⁾, 藤松真理子, 山田 緑⁹⁾ (¹⁾ 黒部市民病院小児科, ²⁾ 小田原市立病院小児科, ³⁾ 長崎市立市民病院小児科, ⁴⁾ 兵庫県立淡路病院小児科, ⁵⁾ 国立長野病院小児科, ⁶⁾ 群馬県立小児医療センター 未熟児新生児科, ⁷⁾ 大垣市民病院第2小児科, ⁸⁾ 名古屋第1赤十字病院小児科, ⁹⁾ 豊川市民病院小児科) : 「21世紀にむけて新生児医療について考える」 新生児医療の情報開示にどう対応するか? カルテの記載は?. 日本未熟児新生児学会雑誌 1999 ; 2 (1) : 111-113.
 - 19) 前田美穂 : 思春期における鉄欠乏性貧血の実態と検査の重要性および平成9年度の貧血検査の実施成績について. 平成9年度東京都予防医学協会年報 1999 ; 28 : 59-62.
 - 20) 城田和彦, 飛田正俊, 今井丈英, 稲葉八興, 村上由加里, 日野佳昭, 向後俊昭 : 反復性気道感染と成長障害を主訴に受診した原発性免疫不全を伴う軟骨毛髪低形成症の1例. 日誌 1999 ; 103 (3) : 325-328.

(2) 綜説：

- 1) 前田美穂, 山本正生: Ascorbic acid. 小児科診療増刊号 1998; 61: 279.
- 2) 前田美穂, 山本正生: Menatetrenone. 小児科診療増刊号 1998; 61: 280.
- 3) 前田美穂, 山本正生: ϵ -Ascorbic acid. 小児科診療増刊号 1998; 61: 281.
- 4) 折茂裕美: 抗ヒスタミン薬: Diphenhydramine, chlorpheniramine maleate Promethazine hydrochloride. 小児科診療増刊号; 小児の薬 1998; 61: 101-103.
- 5) 大木由加志, 折茂裕美: インスリン, Cペプチド (小児の検査結果の考え方: 数字に振りまわされないために XIII. 内分泌検査. 6. 膵機能検査). 小児内科増刊号 1998; 30: 451-453.
- 6) 大木由加志, 折茂裕美: グルカゴン (小児の検査結果の考え方: 数字に振りまわされないために XIII. 内分泌検査. 6. 膵機能検査). 小児内科増刊号 1998; 30: 453-454.
- 7) 伊藤保彦: 血清補体コンポーネントおよび補体価 CH50, 免疫複合体 (小児の検査結果の考え方: 数字に振りまわされないために). 小児内科増刊号 1998; 30: 308-311.
- 8) 前田美穂: Epstein 症候群. 血液症候群 II. 日本臨床. 領域別症候群シリーズ 1998; 21: 314-315.
- 9) 前田美穂: Sebastien platelet 症候群. 血液症候群 II. 日本臨床. 領域別症候群シリーズ 1998; 21: 320-321.
- 10) 前田美穂: Bernard-Soulier 症候群. 血液症候群 II. 日本臨床. 領域別症候群シリーズ 1998; 21: 339-341.
- 11) 前田美穂: 血球貧食症候群 (HPS): 特にウイルス関連血球貧食血症候群 (VAHS) について. 小児耳鼻咽喉科 1998; 19 (2): 31-34.
- 12) 伊藤保彦, 五十嵐 徹, 福永慶隆: 慢性疲労症候群と自己抗体. 小児科 1998; 39 (13): 1509-1515.
- 13) 浅野 健: 悪性腫瘍に対する新しい治療法. 5. 脳腫瘍 1998; 39: 1403-1412.
- 14) 山本正生, 前田美穂, 山内邦昭¹⁾ (1) 東京都予防医学協会): 鉄欠乏性貧血マスキングの現状と問題点. 小児科 1998; 39 (10): 1219-1225.
- 15) 村上睦美, 安保和俊, 土屋正己: 間質性腎炎. 小児科 1998; 39: 1279-1289.
- 16) 村上睦美, 土屋正己, 安保和俊: 学校検尿のその後: 学校検尿の現状: 有所見率. 腎と透析 1998; 45: 577-582.
- 17) 立麻典子, 村上睦美: 紫斑病性腎炎. 医学と薬学 1999; 41 (2): 189-195.
- 18) 村上睦美, 吉田順子, 立麻典子: IgA 腎症 30 年: 学校検尿が IgA に与えたインパクト. 腎と透析 1999; 46: 33-37.

(3) 研究報告書:

- 1) 前田美穂, 山本正生, 土田 昌宏¹⁾, 中澤真平²⁾ (1) 茨城県立こども病院, 2) 山梨医科大学): 白血病における pirarubicin の心毒性の検討. 厚生省がん研究助成金平成9年度研究報告書: 小児難治性白血病, 二次性白血病の治療法の確立に関する研究 1998; pp47-49.
- 2) 浅野 健: アデノウイルスを用いた多剤薬剤耐性癌細胞への薬剤感受性トポイソメラーゼ II 遺伝子導入による遺伝子治療の試み. 上原記念生命科学財団研究報告集 1998; 12: pp280-282.

著 書

- 1) 千葉 隆, 山本正生: [自著] 小児気管支喘息の診断と治療. 30の大学病院による診断と治療シリ: 小児の発熱・アレルギー・喘息の診断と, 1998; pp169-181, 真興交易医書出版部.
- 2) 藤野 修, 藤田武久: [分担] 2. 予防接種事故: 予防接種の神経症状. 小児科別冊「診療上のアクシデント, インフォームドコンセント・予防・対処」(編集: 青木継稔, 瀧田誠司, 村上睦美, 矢田純一), 1998; pp235-239, 金原出版.
- 3) 村上睦美, 立麻典子: [分担] 腎生検. 小児科別冊「診療上のアクシデント, インフォームドコンセント・予防・対処」(編集: 青木継稔, 瀧田誠司, 村上睦美, 矢田純一), 1998; pp41-44, 金原出版.

- 4) 村上陸美：〔分担〕学校検尿陽性者にはどのように対処すればよいか？. 小児腎疾患Q&A（編集：伊藤 拓，吉川徳茂），1999；pp32-33，医薬ジャーナル社.
- 5) 村上陸美：〔分担〕学校検尿—将来展望. Annual Review腎臓（編集：長沢俊彦，河邊香月，伊藤克己，浅野泰，遠藤 仁），1999；pp191-193，中外医学社.
- 6) 前田美穂：〔分担〕小児のがん；晚期障害. 小児科診療Q&A，1999；pp1737ノ10-1737ノ13，六法出版社.
- 7) 前田美穂：〔自著〕こどもの貧血. HEALTH CAREシリーズ49，1999；予防医学事業中央会.
- 8) 村上陸美：〔分担〕学校検尿. 小児科診療Q&A，1999；pp304-305，六法出版社.

学会発表

(1) 会長講演：

- 1) 橋本 清：欠神てんかんとその周辺. 第40回日本小児神経学会総会，1998. 6.

(2) 特別講演：

- 1) 大木由加志：小児成人病の問題点と治療—肥満を中心に—. 第12回東北小児内分泌懇談会，1998. 4.
- 2) 大木由加志：小児肥満の合併症と治療. 第11回城北肥満研究会，1998. 4.
- 3) 大木由加志：小児・思春期2型糖尿病の治療. 第10回小児インスリン研究会，1999. 1.

(3) 教育講演：

- 1) 村上陸美：検尿陽性児の事後措置. 藤岡多野医師会学術講演会，1998. 4.
- 2) 伊藤保彦：抗Ro/SSA抗体症候群. 第25回横浜内科学会リウマチ膠原病研究会，1998. 6.
- 3) 大木由加志：患者教育におけるSMBGの役割. 第7回SMBGフォーラム，1999. 1.
- 4) 伊藤保彦：小児の慢性疲労症候群. 第20回横浜市東部小児科医会，1999. 3.
- 5) 大木由加志：小児成人病（生活習慣病）の問題点と治療—肥満を中心として—. 第125回富士宮医師会講演会，1999. 3.

(4) シンポジウム：

- 1) Chiba T, Hosobe C, Shirota K, Inaba Y, Imai T, Takase M, Takagi R¹⁾, Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Image Diagnosis of the Sinuses in Asthmatic Children : Comparison of Plain Radiographs and CT Scans. CIIP III (MONACO), 1998. 6.
- 2) Ohki Y : Ketoacidosis : Prevention and treatment (Diabetes in children and adolescents : What is new?). The 22th International Congress of Pediatrics (Amsterdam, Netherlands), 1998. 8.
- 3) 勝部康弘, Nicholas S¹⁾, 山本正生 (¹⁾ University of Cincinnati) : ラット発達心筋のCa²⁺電流に対する β -adrenargenic agonist, isoproterenol,ならびにMuscaric cholinergic agonist, carbacholの効果の差異. 第33回日本小児循環器学会，1997. 7.
- 4) 伊藤保彦：小児慢性疲労症候群の病態. 第23回東日本小児科学会，1998. 11.
- 5) 千葉 隆：小児呼吸器疾患における気管支肺胞洗浄検査. 第31回日本小児呼吸器疾患学会，1998. 11.

(5) セミナー：

- 1) 小川俊一：川崎病冠動脈瘤，特に巨大冠動脈症例の治療と管理. 第34回日本小児循環器学会，1998. 7.

(6) ワークショップ：

- 1) 伊藤保彦，濱田久光，五十嵐徹，福永慶隆，山本正生：小児自己免疫性疲労症候群の免疫遺伝学的背景の検討. 第42回日本リウマチ学会，1998. 5.
- 2) 岸 恵，大木由加志，大川拓也，折茂裕美，入江 学，山本正生：世田谷区肥満検診からみた小児NIDDMの頻度について（小児肥満をめぐる—小児肥満の管理基準設定を目指して—）. 第19回日本肥満学会，1998. 12.
- 3) 伊藤保彦：慢性疲労症候群と自己抗体. 第4回慢性疲労症候群（CFS）研究会（名古屋），1999. 2.

(7) 一般講演：

- 1) Ogawa S, Katsube Y, Ohkubo T, Takechi N, Kuramochi Y, Fukumi D, Uchikoba Y, Hino Y, Jimbo O, Yamamoto M : Early estimation of Anthracycline cardiotoxicity by Signal-averaged electrocardiography in children with acute leukemia. 6th World Congress on Heart Failure-Mechanisms and Management (Washington, U.S.A), 1998. 5.
- 2) Maeda M, Kaneko K, Yamamoto M : Prevalence of transfusion-associated hepatitis C and hepatitis G virus infection in children following treatment for pediatric malignancy. The 22th International Congress of Pediatrics (Amsterdam, Netherlands), 1998. 8.
- 3) Tsuda A, Maeda M, Ohki Y, Yamamoto M : Hemoglobin level and iron status in children with short stature during growth hormone treatment. The 22th International Congress of Pediatrics (Amsterdam, Netherlands), 1998. 8.
- 4) Fujimatsu M, Nakagawa H¹⁾, Fujita T, Hashimoto K, Kitamura J²⁾ (1) Nichinan Gakuen, 2) Department of Rehabilitation, Nippon medical School, Second Hospital) : Contact pressure distribution in supine position in low birth weight infants analyzed photoelastic method 8. 8th INTERNATIONAL CHILD NEUROLOGY CONGRESS (SLOVENIA), 1998. 9.
- 5) Tatsuma N, Asano T, Yoshida J, Ohashi R, Munakata E, Ambo K, Tsuchiya M, Murakami M, Yamamoto M : Angiotensin converting enzyme gene polymorphism with nephritis of Henoch-Schonlein Purpura (HSPN). The 11th Congress of the International Pediatric Nephrology Association (London, U.K), 1998. 9.
- 6) Tsuchiya M, Hino Y, Tatsuma N, Tsugu H, Ambo K, Munakata E, Murakami M : Renal sonographic screening to detect urinary tract abnormalities in early infancy : A5-year single center experience. The 11th congress of the International pediatric Nephrology Association (London, U.K), 1998. 9.
- 7) Maeda M, Tsuchida M¹⁾, Sugita K¹⁾, Hosoya R¹⁾, Tsunematsu T¹⁾, Saito M¹⁾, Yamamoto M, Nakazawa S¹⁾ (1) Tokyo children's cancer study group) : Late effects among long term survivors of acute lymphocytic leukemia in childhood : Tokyo children's cancer study group (TCCSG) report. The 30th SIOP (Yokohama, JAPAN), 1998. 10.
- 8) Katsube Y, Ogawa S, Hino Y, Jinbo O, Ohkubo T, Kuramochi Y, Fukumi D, Uchikoba Y, Kumazaki T¹⁾, Yamamoto M : Efficacy of the newly developed rotational digital angiography system for the evaluation of cardiovascular disease in children. 71st scientific session of American Heart Association (Dallas, U.S.A), 1998. 11.
- 9) 大久保隆志, 小川俊一, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 武智信幸, 濱田久光, 倉持雪穂, 内木場庸子, 福見大地, 前田美穂, 山本正生 : Anthracycline系薬剤治療患児に対する塩酸ドブタミン負荷心エコー・ドップラーによる左室予備能の検討. 第101回日本小児科学会, 1998. 4.
- 10) 岡部俊成, 飛田正俊, 竹田幸代, 坂口雅弘¹⁾, 井上 栄¹⁾, 名知尚子, 村上由加里, 向後俊昭 (1) 国立感染症研究所) : 夏期転地療養施設におけるダニ抗原量と喘息児の発作状況について. 第10回日本アレルギー学会春期臨床大会, 1998. 4.
- 11) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 稲葉利佳子, 折茂裕美, 入江 学, 山本正生 : 成長ホルモン分泌不全性低身長児 (GHD) におけるGH補充療法後3年間のわたる血清脂質の変動について. 第101回日本小児科学会学術集会, 1998. 5.
- 12) 五十嵐徹, 竹田幸代, 武藤隆夫¹⁾, 古井民一郎²⁾, 立麻典子, 西澤善樹, 伊藤保彦, 大木由加志, 福永慶隆, 山本正生, 並松茂樹³⁾, 早坂 清⁴⁾ (1) 武藤医院, 2) 鴨居小児科内科医院, 3) 病理部, 4) 山形大学医学部) : コーンスターチを用いた食事療法を継続している糖尿病3例の臨床経過について. 第101回日本小児科学会, 1998. 5.

- 13) 大川拓也, 大木由加志, 野呂恵子, 折茂裕美, 岸 恵, 入江 学, 伊藤保彦, 山本正生: 摂食障害を合併したIDDMの2例. 第41回日本糖尿病学会, 1998. 5.
- 14) 前田美穂, 金子清志, 津田晃男, 濱田久光, 浅野 健, 福永慶隆, 山本正生: 血液疾患・悪性腫瘍患児におけるHGVの検討. 第101回日本小児科学会, 1998. 5.
- 15) 井田孔明¹⁾, 滝 智彦¹⁾, 林 泰秀¹⁾, 別所文雄¹⁾, 柳沢正義¹⁾, 野呂恵子, 前田美穂, 山本正生 (1) 東京大学医学部小児科): 11; 22転座を伴う二次性白血病におけるMLL-p300キメラ蛋白質の生成. 第101回日本小児科学会, 1998. 5.
- 16) 高瀬真人, 千葉 隆, 今井大洋, 細部千晴, 稲葉八興, 城田和彦, 今井文英: 小児の肺音スペクトルと肺機能. 第101回日本小児科学会, 1998. 5.
- 17) 藤松真理子, 藤田武久, 橋本 清, 中川博文¹⁾ (1) 日南学園): 光弾性手法による低出生体重児背臥位姿勢の接触圧分布解析 (第2報). 第40回日本小児神経学会総会, 1998. 6.
- 18) 藤田武久, 藤松真理子, 橋本 清, 中川博文¹⁾ (1) 日南学園): 光弾性法による低出生体重児腹臥位の接触圧分布解析. 第40回日本小児神経学会総会, 1998. 6.
- 19) 川上康彦, 福永慶隆, 橋本 清: 熱性けいれん患児における髄液ネオプテリン値の検討. 第40回日本小児神経学会総会, 1998. 6.
- 20) 高石康子, 橋本 清, 藤野 修, 藤田武久, 古谷正伸, 榎戸 久, 小松崎英樹, 平山恒憲, 桑原健太郎, 水村直¹⁾ (1) 放射線科): モヤモヤ病患者におけるacetazolamide負荷99mTc-HMPAO SPECTによる脳血管拡張能の検討. 第40回日本小児神経学会総会, 1998. 6.
- 21) 平山恒憲, 橋本 清, 藤田武久, 藤野 修, 高石康子, 仁保幸次¹⁾ (1) 国立療養所福島病院小児科): 重症心身障害者における各種抗痙攣剤と尿中NAG/クレアチニン比の相関の検討. 第40回日本小児神経学会総会, 1998. 6.
- 22) 伊藤保彦, 福永慶隆, 五十嵐徹, 今井大洋, 吉田順子, 土屋正己, 藤野 修, 村上睦美, 山本正生: 小児自己免疫性疲労症候群の免疫遺伝学的背景. 第3回慢性疲労症候群 (CFS) 研究会, 1998. 6.
- 23) 立麻典子, 浅野 健, 吉田順子, 大橋隆治, 安保和俊, 土屋正己, 村上睦美, 山本正生, 本田雅敬¹⁾ (1) 都立清瀬小児病院腎内科): アレルギー性紫斑病におけるACE遺伝子多型の検討. 第33回日本小児腎臓病学会, 1998. 6.
- 24) 五十嵐徹, 竹田幸代: 体温計水銀を散らばした際の処理について. 第59回日本小児科学会茨城地方会, 1998. 6.
- 25) 土屋正己, 日野佳昭, 吉田順子, 大橋隆治, 立麻典子, 安保和俊, 宗像恵美子¹⁾, 芦田光則²⁾, 山本博章³⁾, 村上睦美 (1) 大宮赤十字病院小児科, 2) 勝楽堂病院小児科, 3) 川崎協同こどもクリニック): 先天性腎尿路異常と尿路感染症に関する臨床的検討: 腎超音波スクリーニング検査を背景として. 第33回日本小児腎臓病学会, 1998. 6.
- 26) 西澤善樹, 藤松真理子, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本 清: 骨盤位で出生し, 下顎骨骨折と下垂体機能不全をきたした超低出生体重児の1例. 第34回日本新生児学会総会学術集会, 1998. 7.
- 27) 藤松真理子, 西澤善樹, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本 清: 修正9ヵ月時痙攣で来院し, ケトン血性低血糖症と診断した超低出生体重児の1例. 第34回日本新生児学会総会学術集会, 1998. 7.
- 28) 勝部康弘, 小川俊一, 日野佳昭, 神保 修, 大久保隆志, 倉持雪穂, 内木場庸子, 福見大地, 平山恒夫, 山本正生: タイロシンキナーゼによるCa²⁺ + 電流調節: 特にその発達に伴う変化. 第34回日本小児循環器学会, 1998. 7.
- 29) 浅野 健, 小川俊一, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 大久保隆志, 武智信幸, 倉持雪穂, 内木場庸子, 福見大地, 平山恒夫, 山本正生: 川崎病患児におけるケモカイン (IL-8, MCP-1) の変化. 第34回日本小児循環器学会, 1998. 7.
- 30) 倉持雪穂, 小川俊一, 二宮恵子, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 林 毅陸, 弦間優紀子, 大久保隆志, 武智

- 信幸, 内木場庸子, 福見大地, 平山恒夫, 山本正生: 川崎病既往児の急性期から遠隔期にかけての加算平均心電図の臨床的意義. 第34回日本小児循環器学会, 1998. 7.
- 31) 小川俊一: 心臓病の子どものスポーツ活動をどのように指導したらよいか; 先天性心疾患をもった子どものスポーツ. 第34回日本小児循環器学会, 1998. 7.
- 32) 川上康彦, 藤松真理子, 桑原健太郎, 平山恒憲, 小松崎英樹, 高石康子, 藤田武久, 藤野 修, 橋本 清, 福永慶隆: 熱性けいれん患児における髄液ネオプテリン値の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 33) 高石康子, 橋本 清, 藤野 修, 藤田武久, 小松崎英樹, 川上康彦, 平山恒憲, 桑原健太郎, 藤松真理子, 古谷正伸¹⁾, 榎戸 久²⁾, 水村 直³⁾ (1) 古谷小児科, 2) 下館市民病院小児科, 3) 放射線科): モヤモヤ病患者における acetazolamide 負荷99mTc-HMPAO SPECTによる脳血管拡張能の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 34) 藤松真理子, 桑原健太郎, 平山恒憲, 川上康彦, 小松崎英樹, 高石康子, 藤田武久, 藤野 修, 橋本 清, 中川博文¹⁾ (1) 日南学園): 光弾性手法による低出生体重児背臥位姿勢の接触圧分布解析 (第2報). 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 35) 平山恒憲, 橋本 清, 藤田武久, 藤野 修, 高石康子: 重症心身障害者における各種抗痙攣剤と尿中NAG/クレアチニン比の相関. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 36) 松永成太, 平山恒憲, 西澤善樹, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本 清, 栗原雄司¹⁾, 森山雄吉¹⁾ (1) 第二病院消化器病センター): 組織診断が迷入腺のメッケル憩室を先進部とした腸重積の1例. 第234回日本小児科学会神奈川県地方会, 1998. 9.
- 37) 前田美穂, 金子清志, 津田晃男, 濱田久光, 浅野 健, 福永慶隆, 山本正生: 小児白血病, 悪性腫瘍長期生存例における免疫能の検討—伝生成疾患の抗体保有状況と呼ぶ摂取に関して—. 第40回日本小児血液学会, 1998. 9.
- 38) 大久保隆志, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 武智信幸, 小川俊一, 平山恒夫, 山本正生: 冠動脈病変を合併する川崎病既往児における部分心筋血流予備比の検討. 第34回日本小児循環器学会, 1998. 9.
- 39) 五十嵐 徹, 竹田幸代, 八田真人¹⁾, 伊藤保彦, 金子清志, 前田美穂, 福永慶隆, 山本正生 (1) 白十字総合病院): 茨城県における小学生・中学生の平成9年度の貧血検査の実施成績の検討. 第40回日本小児血液学会, 1998. 9.
- 40) 大久保隆志, 小川俊一, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 武智信幸, 倉持雪穂, 福見大地, 内木場庸子, 山本正生: 部分心筋血流予備比 (FFR myo) による川崎病既往児の心筋虚血の評価. 第46回日本心臓病学会, 1998. 9.
- 41) 太田節雄¹⁾, 生田孝一郎¹⁾, 石本浩市¹⁾, 磯山恵一¹⁾, 内山浩志¹⁾, 大川洋二¹⁾, 沖本由理¹⁾, 小原 明¹⁾, 賀来秀文¹⁾, 金子 隆¹⁾, 熊谷昌明¹⁾, 小池健一¹⁾, 前田美穂, 中澤眞平¹⁾, その他¹⁾ (1) TCCSG): L-95-14プロトコールにおけるL-Asparaginase副作用対策に関する検討. 第40回日本小児血液学会, 1998. 9.
- 42) 真部 淳¹⁾, 花田良二¹⁾, 生田孝一郎¹⁾, 豊田泰徳¹⁾, 沖本由理¹⁾, 石本浩市¹⁾, 磯山恵一¹⁾, 大川洋二¹⁾, 小原明¹⁾, 金子 隆¹⁾, 小池健一¹⁾, 佐藤武幸¹⁾, 前田美穂¹⁾, 中澤眞平¹⁾, その他¹⁾ (1) TCCSG): 急性リンパ性白血病 (ALL) における治療開始1週間後の末梢血芽細胞数の意義; TCCSG L89-12およびTCCSG L92-13プロトコールの解析. 第40回日本小児血液学会, 1998. 9.
- 43) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 入江 学, 山本正生: 肥満検診からみた小児NIDDM患児の頻度について: 13年間にわたる世田谷区肥満検診結果より. 第32回日本小児内分泌学会, 1998. 10.
- 44) 藤松真理子, 平山恒憲, 川上康彦, 小松崎英樹, 高石康子, 藤田武久, 藤野 修, 橋本 清: Shuddering attacksの2例. 第29回日本小児神経学会関東地方会, 1998. 10.
- 45) 勝部康弘, 萩原誠久¹⁾, 笠貫 宏¹⁾, 山本正生 (1) 東京女子医科大学付属心臓血圧研究所循環器内科): 新しいCa²⁺感受性増強剤, levosimendanのヒト心筋イオンチャンネルに及ぼす影響. 第15回日本心電図学会, 1998. 10.

- 46) 金子清志, 前田美穂, 野呂恵子, 濱田久光, 榑崎秀彦, 津田晃男, 浅野 健, 山本正生, 山内邦昭¹⁾ (1) 東京都予防医学協会): 学校検診における貧血の診断方法の検討. 第45回日本小児保健学会, 1998. 10.
- 47) 津田晃男, 前田美穂, 山西慎吾, 濱田久光, 浅野 健, 金子清志, 福永慶隆, 山本正生, 中嶋征子¹⁾, 野呂恵子, 大喜多肇²⁾, 秦 順一²⁾ (1) 上尾中央病院小児科, 2) 慶應義塾大学病理部): 6歳女兒にみられた腎の Ewing's sarcoma family of tumor. 第14回日本小児癌学会, 1998. 10.
- 48) 伊藤保彦, 立麻典子, 五十嵐 徹, 福永慶隆, 山本正生: 自己免疫性疲労症候群患者における圧痛点の分布と線維筋痛症との関連について. 第8回日本小児リウマチ研究会, 1998. 10.
- 48) 大久保隆志, 小川俊一, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 倉持雪穂, 福見大地, 内木場庸子, 山本正生: 発症後5カ月から1年8カ月後の比較的早期にPTCAを施行し良好な結果を得た乳幼児の3症例. 第18回日本川崎病研究会, 1998. 10.
- 50) 土屋正己, 日野佳昭, 吉田順子, 大橋隆治, 立麻典子, 継 仁, 安保和俊, 宗像恵美子¹⁾, 芦田光則²⁾, 山本博章³⁾, 村上睦美, 山本正生 (1) 大宮赤十字病院小児科, 2) 勝楽堂病院小児科, 3) 川崎協同こどもクリニック): 1カ月健診児を対象とした先天性腎尿路異常早期発見のための腎超音波スクリーニング5年間の経験一. 第45回日本小児保健学会, 1998. 10.
- 51) 小川耕一, 川上康彦, 藤田武久, 藤野 修, 松岡和彦, 橋本 清, 山田喜宣¹⁾ (1) 山田小児科医院): 持続する発熱を主訴としたTINU (Tubulo Interstitial Nephritis and Uveitis) 症候群の1例. 第40回神奈川医学会小児科分科会, 1998. 11.
- 52) 前田美穂, 浅野 健, 津田晃男, 濱田久光, 野呂恵子, 金子清志, 山本正生: 鉄欠乏性貧血におけるThrombopoietin値の検討. 第40回日本臨床血液学会, 1998. 11.
- 53) 羽鳥誉之, 早川 潤, 千葉 隆, 高瀬真人, 飛田正俊, 向後俊昭, 神谷紀輝¹⁾, 吉村博邦¹⁾ (1) 北里大学心臓血管外科): 片肺の過膨張により発見された気管支性嚢胞の1例. 第31回日本小児呼吸器疾患学会, 1998. 11.
- 54) 立麻典子, 村上睦美: ケースフォーラム1; 副甲状腺機能低下症に合併したNephrocalcinosisの1例. 第28回日本腎臓学会東部学術大会, 1998. 11.
- 55) 大川洋二¹⁾, 梶原道子¹⁾, 林 泰秀¹⁾, 生田孝一郎¹⁾, 杉田憲一¹⁾, 真部 淳¹⁾, 小原 明¹⁾, 金子 隆¹⁾, 沖本由理¹⁾, 花田良二¹⁾, 熊谷昌明¹⁾, 高山 順¹⁾, 前田美穂, 中澤真平¹⁾, その他¹⁾ (1) TCCSG): 小児急性リンパ性白血病での骨髓球系抗原の予後因子としての評価—TCCSG L92-13, L95-14プロトコールでの検討. 第40回日本臨床血液学会, 1998. 11.
- 56) 高瀬真人, 稲葉八興, 今井丈英, 今井大洋, 千葉 隆: 正常呼吸音スペクトル指標に対する心拍数変化の影響. 第23回肺音(呼吸器)研究会, 1998. 11.
- 57) 稲葉八興, 今井丈英, 今井大洋, 千葉 隆, 高瀬真人: 肺音による気道安定性評価の可能性. 第31回日本小児呼吸器疾患学会, 1998. 11.
- 58) 早川 潤, 羽鳥誉之, 千葉 隆, 稲葉八興, 高瀬真人, 飛田正俊, 向後俊昭: 気管支肺胞洗浄を施行しカリニ肺炎と診断しえた重症複合型免疫不全症の1例. 第31回日本小児呼吸器疾患学会, 1998. 11.
- 59) 稲葉八興, 高瀬真人, 今井丈英, 今井大洋, 千葉 隆: 肺音指標による気道安定性評価の可能性. 第23回肺音(呼吸器)研究会, 1998. 11.
- 60) 今井丈英, 内木場庸子, 上砂光裕, 宗像恵美子¹⁾, 安田 正¹⁾ (1) 大宮赤十字病院小児科): 肺血栓塞栓症をきたしたDuchenne型筋ジストロフィーの1男児例. 第31回日本小児呼吸器疾患学会, 1998. 11.
- 61) 土屋正己, 吉田順子, 大橋隆治, 立麻典子, 安保和俊, 宗像恵美子, 村上睦美, 津田正彦¹⁾, 守屋俊介²⁾, 飯高喜久雄²⁾ (1) 日本大学医学部小児科, 2) 北里大学医学部小児科): Frasier症候群と考えられた1女兒例. 第28回日本腎臓病学会東部学術大会, 1998. 11.
- 62) 福永慶隆, 伊藤保彦, 山本正生: 血中免疫複合体が妊娠中に低下した1例. 第48回日本アレルギー学会, 1998. 12.

- 63) 倉持雪穂, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 大久保隆志, 武智信幸, 福見大地, 内木場庸子, 小川俊一: 川崎病発症後比較的早期に施行したPTCAの有用性. 日本Pediatrics International Cardiology研究会, 1999. 1.
- 64) 藤松真理子, 藤田武久, 藤野 修, 松岡和彦, 橋本 清: ガンマグロブリン大量静注療法によると思われる溶血性貧血をきたした1乳児例. 第236回日本小児科学会神奈川県地方会, 1999. 2.
- 65) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 自己免疫性疲労症候群患者における圧痛点の分布と線維筋痛症との関連について. 第4回慢性疲労症候群(CFS)研究会, 1999. 2.
- 66) 千葉 隆, 山西慎吾, 前田美穂, 福永慶隆, 早川 潤, 羽鳥誉之, 今井丈英, 飛田正俊, 向後俊昭: 慢性活動性EBウイルス感染症の1例. 第97回日本医科大学医学会, 1999. 2.
- 67) 五十嵐徹, 竹田幸代: イオン飲料水の使用法に対する考え方: 母親からのアンケートを中心として. 第61回日本小児科学会茨城地方会, 1999. 2.
- 68) 山西慎吾, 津田晃男, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: 多発性内分泌腺腫症IIB型の1例. 小児がん登録研究会, 1999. 2.
- 69) 吉田順子, 立麻典子, 土屋正己, 村上睦美: Frasier症候群と考えられた1女児例. 第97回日本医科大学医学会例会, 1999. 2.
- 70) 今井丈英, 日野佳昭, 名知尚子, 稲葉八興, 村上由加里, 高瀬真人, 飛田正俊, 向後俊昭: 無菌性髄膜炎の流行期に髄膜炎症状で発症した急性散在性脳脊髄炎の1例. 第403回日本小児科学会東京都地方会, 1999. 2.
- 71) 西澤善樹, 池上 英, 小川耕一, 福井朋子, 藤松真理子, 平山恒憲, 川上康彦, 小松崎英樹, 勝部康弘, 岸恵, 藤田武久, 藤野 修, 松岡和彦, 橋本 清: 1998年秋に流行した麻疹患者の検討: とくに0歳児麻疹について. 第237回日本小児科学会神奈川県地方会, 1999. 3.
- 72) 小川耕一, 平山恒憲, 川上康彦, 藤松真理子, 小松崎英樹, 高石康子, 藤田武久, 藤野 修, 橋本 清: 家族歴で発作性運動誘発性舞蹈アテトーゼを有する乳児けいれん例. 第30回日本小児神経学会関東地方会, 1999. 3.
- 73) 右田 真, 前田美穂, 大木由加志, 福永慶隆: 眼瞼下垂と眼球運動障害を呈したA(H3N2)型インフルエンザ感染によると思われる筋炎の1例. 第474回日本小児科学会東京都地方会, 1999. 3.

7. 放射線医学講座

[付属病院放射線科]

研究概要

1) 核医学分野では gated-SPECT データの機能解析ソフトである QGS プログラムのバージョンアップとして Auto-QUANT™ の臨床応用が開始され、左室容量、左室機能に加え梗塞 volume の定量解析が可能となり、梗塞心のリモデリングを含めた臨床研究が進められている。中枢神経に関しては動態解析法が確立された。動脈硬化症、動脈瘤などについても臨床応用が進められている。

2) 高速らせん CT による 3 次元 CT は、血管病変・骨病変を主体として幅広く定着し、臨床診断上新たな知見を提供している。教室で開発した新たな画像再構成法・表示法は臨床に応用され、研究がすすめられている。らせん CT を用いた肺癌検診については、放医研との共同研究が進んだ。

3) MRI 領域では高速撮像法が定着し、中枢神経系や血管系に応用され、Stanford 大学との共同研究などの研究成果が国内外で発表された。高速拡散強調画像は脳機能の解析に寄与し、高速造影 MR 血管撮像法は骨盤部から下肢までの血管撮影を可能にした。

4) 放射線治療部門では多岐にわたる研究が進んだ。良性疾患の全国データベース作成と治療ガイドライン作成に係わる企画/頭頸部放射線治療の障害軽減/同じく時間・線量配分/小線源治療における障害軽減/chemoradiation therapy/低線量・高線量全身照射/小線量半身照射/インターネット使用“tele-radiotherapy”

5) 血管内治療では、ハイテクリサーチセンター構想の中で IVR センターが遂にスタートしたことが特筆される。疾患別では、大動脈ステント・グラフト治療、閉塞性動脈硬化症に対する PTA・ステント治療、肺血栓塞栓症に対する血栓溶解吸引療法、外傷性出血に対する塞栓術、経内頸静脈の肝内門脈体循環短絡術などの研究が継続し確実な発展がみられている。また、支援画像としてコーンビーム 3 次元 CT の研究も進んでいる。非血管系ではステント治療に進歩が見られ、CT/MRI ガイド下生検は臨床に直結した研究として成果をあげている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kumita S, Kumazaki T, Cho K, Mizumura S, Kijima T, Ishihara M, Nakajo H, Sano J¹⁾, Tada Y¹⁾, Sakai S¹⁾, Kusama Y¹⁾, Munakata K¹⁾ (1) First Department of Internal Medicine) : Rapid data acquisition protocol in ECG-gated myocardial perfusion SPECT with Tc-99m-tetrofosmin. *Ann Nucl Med* 1998 ; 12 (2) : 71-75.
- 2) Hayashi H, Kawamata H, Machida M, Kumazaki T : Tuberculous pericarditis : MRI features with contrast enhancement. *Br J Radiol* 1998 ; 71 : 680-682.
- 3) Amano Y¹⁾, Kumazaki T, Ishihara M (1) Department of Radiology, Stanford University School of Medicine) : Single-shot diffusion-weighted echo-planar imaging of normal and cirrhotic livers using a phased-array multicoil. *Acta Radiologica* 1998 ; 39 : 440-442.
- 4) Amano M¹⁾, Kato T²⁾, Amano Y¹⁾, Kumazaki T (1) Department of Radiology, Stanford University, 2) Department of Gynecology, Cancer Institute Hospital) : Using MR imaging to predict and evaluate the response of invasive cervical carcinoma to systemic chemotherapy. *AJR* 1998 ; 171 (5) : 1335-1339.
- 5) Mizumura S, Kumita S, Cho K¹⁾, Ishihara M, Kijima T, Nakajo H, Kumazaki T (1) Department of Radiology, Chiba-Hokusho Hospital, Nippon Medical School) : The discrepancy between Tc-99 (m) -ECD dy-

- dynamic and static SPET images in patients with ischaemic lesions corresponds to reduced vasoreactivity to acetazolamide. *Nuclear Medicine Communications* 1998 ; 19 (11) : 1073-1079.
- 6) Amano Y¹⁾, Gemma K, Kawamata H, Kumazaki T (¹⁾ Department of Radiology, Stanford University School of Medicine) : Intraluminal signal intensity of iliac artery stents investigated by contrast-enhanced three-dimensional MR angiography. *Computerized Medical Imaging and Graphics* 1998 ; 22 : 9-12.
 - 7) Kumazaki T : Development of rotational digital angiography and new cone-beam 3D image. Clinical value in vascular lesions. *Computer Methods and Programs in Biomedicine* 1998 ; 57 : 139-142.
 - 8) Amano Y¹⁾, Gemma K, Kawamata H, Kumazaki T (¹⁾ Department of Radiology, Stanford University School of Medicine) : Fat-Suppressed Gadolinium-Enhanced Three-Dimensional Magnetic Resonance Angiography Adequately Depicts the Status of Iliac Arteries Following Atherectomy and Stent Placement. *Cardiovascular and Interventional Radiology* 1998 ; 21 : 345-347.
 - 9) Amano Y¹⁾, Machida T, Kumazaki T (¹⁾ Department of Radiology Stanford University School of Medicine) : Spinal cord infarcts contrast enhancement of the cauda equina : two cases. *Neuroradiology* 1998 ; 40 : 669-672.
 - 10) Amano Y¹⁾, Kumazaki T (¹⁾ Department of Radiology, Stanford University School of Medicine) : Correlation between water content and magnetization transfer ratio of the water component in bone marrow using gradient-echo imagings : normal case study. *Skeletal Radiol* 1998 ; 27 : 484-487.
 - 11) Amano Y¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Stanford University School of Medicine) : Correspondence : MRI diagnosis of bone marrow infarction in the child with leukaemia. *Clinical Radiology* 1998 ; 53 : 77-77.
 - 12) Takagi R, Hayashi H, Kobayashi H¹⁾, Kumazaki T, Isayama K²⁾, Ikeda Y²⁾, Teramoto A³⁾ (¹⁾ Koga Hospital, ²⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, ³⁾ Department of Neurosurgery) : Three-dimensional CT angiography of intracranial vasospasm following subarachnoid haemorrhage. *Neuroradiology* 1998 ; 49 : 631-635.
 - 13) Murakami R¹⁾, Tajima H, Kumazaki T, Yamamoto K¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Tama-Nagayama Hospital Nippon Medical School) : Effect of iodixanol on renal function immediately after abdominal angiography : Clinical comparison with iomeprol and ioxaglate. *Acta Radiologica* 1998 ; 39 : 368-371.
 - 14) Ishihara M, Kumita S, Mizumura S, Kumazaki T : Crossed cerebellar diaschisis : The role of motor premotor areas in functional connections. *J Neuroimaging* 1999 ; 9 (1) : 30-33.
 - 15) Murakami R¹⁾, Tajima H, Kumazaki T, Yamamoto K¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School) : Correspondence : Effect of iodixanol on renal function immediately after abdominal angiography : Clinical comparison with iomeprol and ioxaglate. Reply. *Acta Radiologica* 1999 ; 40 : 111-112.
 - 16) 高木 亮, 林 宏光, 若林洋行, 中條秀信, 市川太郎, 小林尚志¹⁾, 隈崎達夫, 青木祐子²⁾, 高木 博²⁾ (¹⁾ 古賀病院医学研究所, ²⁾ 日立メディコ) : Multi Angle Reconstruction Plan (MARP) 法を用いた脳動脈瘤の3次元CT血管造影法の評価. *日本医学放射線学会誌* 1998 ; 58 (5) : 238-240.
 - 17) 高橋修司, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 隈崎達夫, 恩田昌彦¹⁾ (¹⁾ 第一外科) : 治療に難渋した経皮経肝胆道ドレナージチューブによる仮性肝動脈瘤形成の1例. *日本腹部救急医学会雑誌* 1998 ; 18 (4) : 591-594 .
 - 18) 高木 亮, 林 宏光, 若林洋行, 池田幸穂¹⁾, 村井保夫²⁾, 野手洋治²⁾, 寺本 明²⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 救急医学, ²⁾ 脳神経外科) : 高濃度造影剤を用いた脳動脈瘤の3次元CT血管造影法. *Progress in Medicine* 1998 ; 18 (5) : 1095-1101.
 - 19) 市川和雄, 高木 亮, 林 宏光, 川俣博志, 隈崎達夫, 吉田陽一¹⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 脳神経外

- 科) : コーンビーム3次元CTがIVR術前評価に有用であった巨大内頸動脈瘤の1例. 臨床放射線 1998 ; 43 (5) : 621-624.
- 20) 林 宏光, 川俣博志, 高木 亮, 天野康雄¹⁾, 若林洋行, 市川和雄, 隈崎達夫 (1) スタンフォード大学放射線科) : 3D-CTA, 3D-MRAによる Minimally Invasive Vascular Imaging : Update. 脈管学 1998 ; 38 (6) : 309-314.
- 21) 渡 潤¹⁾, 田島廣之, 岡島雄史, 隈崎達夫, 久志本成樹²⁾, 山本保博²⁾, 益子邦洋²⁾ (1) 下谷病院放射線科, 2) 救急医学) : 金属ステント留置により救命し得た気道熱傷の1例. 臨床放射線 1998 ; 43 (6) : 735-737.
- 22) 木島鉄仁, 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 隈崎達夫 (1) 千葉北総病院放射線科) : 閉塞性動脈硬化症における Tc-99m-tetrofosmin 運動負荷下肢シンチグラフィー動態像に認められる : 過性軟部描出亢進現象と虚血下肢高集積像の病態解析. 核医学 1998 ; 35 (5) : 305-313.
- 23) 石原眞木子, 林 宏光, 天野康雄¹⁾, 高木 亮, 中原 圓, 趙 圭一²⁾, 岡田 進²⁾, 隈崎達夫²⁾ (1) スタンフォード大学放射線科, 2) 千葉北総病院放射線科) : EPI diffusion studyによるADC比 (ANR) 画像を用いた大脳連合線維の評価 : 脳梁膝の拡散異方性と精神機能の関係について. 日本磁気共鳴医学会誌 1998 ; 58 (7) : 204-211.
- 24) 林 宏光, 高木 亮, 石原眞木子, 隈崎達夫, 小林尚志¹⁾, 青木祐子²⁾ (1) 古賀病院医学研究所, 2) 日立メデイコ) : 3次元CT作成における最適閾値設定法 (Optimal Threshold setting Plan : OPT Plan) の有用性 : 肝腫瘍ならびに肝実質病変に対する初期臨床経験. 日本医学放射線学会誌 1998 ; 58 (7) : 353-359.
- 25) 後藤慎介, 田島廣之 : 重症骨盤骨折におけるCT診断の有用性に関する研究. 日本腹部救急医学会雑誌 1998 ; 18 (8) : 1075-1084.
- 26) 田島廣之, 隈崎達夫, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 高山守正¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室) : 急性肺動脈血栓塞栓症に対するt-PA動注血栓溶解療法 : 特に超選択的動注法について. 日本脈管学会誌 1998 ; 38 (9) : 649-652.
- 27) 高橋修司, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 高浜克也, 隈崎達夫 : 門脈圧亢進症を呈した脾動静脈奇形の1例. 臨床放射線 1998 ; 43 (9) : 1065-1068.
- 28) 町田 幹¹⁾, 林 宏光, 高木 亮, 市川太郎, 高橋修司, 川俣博志, 田島廣之, 隈崎達夫 (1) 第2病理) : 小腸原発間質腫瘍により経過中に腸重積をきたした1例 : CTによる画像評価を中心に. 臨床放射線 1998 ; 43 (9) : 1057-1060.
- 29) 徐 向英, 田島廣之, 渡 潤¹⁾, 隈崎達夫, 吉村明修²⁾, 安藤真弘²⁾, 村田 朗²⁾, 工藤翔二²⁾, 矢野 侃³⁾, 松本満臣⁴⁾, 松本 徹⁵⁾ (1) 下谷病院放射線科, 2) 第四内科, 3) 荒川がん予防センター, 4) 都立技術医療短大, 5) 放医研) : らせんCTを用いた都市型・施設型肺癌一次検診 : 初年度の成績とそれに対する臨床的考察. 胸部CT検診 1998 ; 5 (2) : 79-82.
- 30) 吉川 晃, 市川太郎 : 高速らせんCTによるAngio-CTの解析 : 特に原発性肝細胞癌診断の臨床的有用性に関する研究. 日医大誌 1998 ; 65 (5) : 367-376.
- 31) 古川一博, 田島廣之, 渡 潤¹⁾, 岡島雄史, 隈崎達夫, 松崎 栄²⁾, 橋本恭士³⁾, 工藤翔二³⁾ (1) 下谷病院放射線科, 2) 第一外科, 3) 第四内科) : CT透視下にカテーテル留置治療した肺アスペルギローマの1例 : 空洞内抗真菌剤治療. 臨床放射線 1998 ; 43 (13) : 1853-1855.
- 32) 市川和雄, 隈崎達夫, 林 宏光, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史 : 血管性病変におけるImage Intensifier (I.I.) 検出型コーンビーム3次元CTの初期臨床経験. 脈管学 1999 ; 39 (2) : 93-98.
- 33) 宮下次廣, 館野 温, 隈崎達夫, 百束比古¹⁾, 堀内淳一²⁾ (1) 形成外科, 2) 博慈会記念総合病院放射線科) : 胸骨部ケロイド治療における切除術, 術後照射および自己管理プログラム併用の有用性. 日本放射線腫瘍学会誌 1999 ; 11 (1) : 33-36.
- 34) 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 水村 直, 木島鉄仁²⁾, 中條秀信, 隈崎達夫, 佐野純子³⁾, 多田裕美子³⁾, 酒井俊

太³⁾, 哲翁弥生³⁾, 草間芳樹³⁾, 宗像一雄³⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 大洗海岸病院放射線科, 3) 第一内科): Tc-99m-Tetrofosminを用いた運動負荷時心拍同期心筋SPECTデータ収集. ニュータウンカンファレンス 報文集 1999; 23: 100-103.

(2) 綜説:

- 1) 田島廣之, 隈崎達夫, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 植田侯平, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室): 肺血栓塞栓症に対するIVR. 日本血管造影インターベンショナルラジオロジー学会誌 1998; 13 (2): 177-182.
- 2) 高木 亮, 林 宏光, 市川和雄, 隈崎達夫: 脳動脈瘤の画像診断. カレントセラピー 1998; 16 (6): 1145-1148.
- 3) 高橋 修司: 腹部外傷性出血に対する緊急TAE. 医学のあゆみ 1998; 187 (6): 592-596.
- 4) 田島廣之, 隈崎達夫: 肺血栓塞栓症の診断と治療. 画像診断 1998; 18 (8): 860-871.
- 5) 石原眞木子, 林 宏光, 天野康雄¹⁾, 高木 亮, 汲田伸一郎, 趙 圭一²⁾, 水村 直, 高浜克也, 市川太郎, 土橋俊男³⁾, 檜 利夫³⁾, 隈崎達夫, 森谷浩人⁴⁾, 高橋良行⁴⁾ (1) スタンフォード大学放射線科, 2) 千葉北総病院放射線科, 3) 附属病院放射線科技師, 4) GE-YMSアプリケーションリサーチグループ): MRI高速撮像法の臨床応用: 機能画像およびMR angiographyを中心に. 映像情報MEDICAL 1998; 30 (18): 1143-1150.
- 6) 市川和雄, 林 宏光, 隈崎達夫: 血管造影像の立体視: 回転デジタル血管撮影システムの開発とコーンビームCTへの応用. 日本バイオレオロジー学会誌 1998; 12 (3): 148-156.
- 7) 林 宏光, 高木 亮, 市川太郎, 阿部 豊, 高浜克也, 山田 明, 若林洋行, 隈崎達夫, 小林尚志¹⁾ (1) 古賀病院附属医学研究所): 3次元CTの現況と展望. 新医療 1998; 25 (10): 73-75.
- 8) 天野康雄¹⁾ (1) スタンフォード大学放射線科): Magnetic Resonance Imaging高速撮像技術を用いた躯幹部血管撮像法の検討. 日医大誌 1998; 65 (5): 435-436.
- 9) 田島廣之, 松本満臣¹⁾, 隈崎達夫, 渡 潤²⁾, 徐 向英, 工藤翔二³⁾, 吉村明修³⁾, 村田 朗³⁾, 宮本忠昭⁴⁾, 松本 徹⁴⁾, 矢野 侃⁵⁾, 田島なつき⁶⁾ (1) 都立医療技術短大, 2) 下谷病院放射線科, 3) 第4内科, 4) 放医研, 5) 荒川がん予防センター, 6) 伊利医院): 低線量らせんCTを用いた肺癌一次検診: 荒川プロジェクトについて. MEDIX 1998; 29: 4-7.
- 10) 天野康雄, 田島廣之, 田島なつき¹⁾, 保坂純郎²⁾, 岡田 進²⁾, 隈崎達夫 (1) 伊利医院, 2) 千葉北総病院放射線科): 下肢の造影MRArteriographyおよび造影MRVenography. 日濁医報 1998; 43 (3): 403-410.
- 11) 川俣博志, 林 宏光, 隈崎達夫: 血栓閉塞型大動脈解離におけるUlcerlike Projection. 脈管学 1998; 38 (11): 777-781.
- 12) 高橋修司, 田島廣之, 川俣博志, 隈崎達夫: インターベンショナル・ラジオロジー. Phama Medica 1998; 16 (創刊号): 19-24.
- 13) 林 宏光, 川俣博志, 高木 亮, 田島廣之, 隈崎達夫: 大動脈疾患と血栓; 2.血栓の画像診断. 血栓と循環 1999; 7: 24-31.
- 14) 林 宏光, 隈崎達夫: 高速らせんCTと3次元画像: 新たな画像診断法の創成. 日医大誌 1999; 66 (1): 2-3.

(3) 研究報告書:

- 1) 田島廣之: 重症骨盤骨折の出血に関する研究: 回転デジタル血管撮影を用いた診断と治療. 文部省科学研究基盤研究C- (2) 課題番号08671057 1998.

著 書

- 1) 小塚隆弘¹⁾, 平松京一²⁾, 隈崎達夫, 片田和廣³⁾, 宍戸文男⁴⁾ (1) 羽曳野病院, 2) 慶応大学放射線科, 3) 藤田保健衛生大学診療放射線技術学科, 4) 福島県立医大放射線科): [分担] 高速らせんCTの実際: 臨床応用UP-DATE, 1998; メディカルジャーナル社.

- 2) 高木 亮, 中條秀信, 林 宏光: [分担] 高速らせんCTにおける頭頸部疾患の造影; 症例4. 脳動静脈奇形の破裂による脳内出血および脳室内出血. 高速らせんCTの実際: 臨床応用UPDATE (小塚隆弘, 平松京一, 隈崎達夫, 片田和廣, 宍戸文男監編), 1998; pp20-24, メディカルジャーナル社.
- 3) 高木 亮, 若林洋行, 小林尚志¹⁾ (古賀病院附属医学研究所): [分担] 高速らせんCTにおける頭頸部疾患の造影; 症例6. 右聴神経鞘腫. 高速らせんCTの実際: 臨床応用UPDATE (小塚隆弘, 平松京一, 隈崎達夫, 片田和廣, 宍戸文男監編), 1998; pp29-32, メディカルジャーナル社.
- 4) 市川太郎, 隈崎達夫: [分担] 高速らせんCTにおける腹部疾患の造影; 症例8. 臍鉤部癌. 高速らせんCTの実際: 臨床応用UPDATE (小塚隆弘, 平松京一, 隈崎達夫, 片田和廣, 宍戸文男監編), 1998; pp123-126, メディカルジャーナル社.
- 5) 市川太郎, 隈崎達夫: 高速らせんCTにおける腹部疾患の造影; 症例9. 肝細胞癌TAE後再発. 高速らせんCTの実際: 臨床応用UPDATE (小塚隆弘, 平松京一, 隈崎達夫, 片田和廣, 宍戸文男監編), 1998; pp127-130, メディカルジャーナル社.
- 6) 市川太郎, 隈崎達夫: [分担] 高速らせんCTにおける腹部疾患の造影; 症例10. 胆嚢癌. 高速らせんCTの実際: 臨床応用UPDATE (小塚隆弘, 平松京一, 隈崎達夫, 片田和廣, 宍戸文男監編), 1998; pp131-134, メディカルジャーナル社.
- 7) 隈崎達夫: [分担] 高速らせんCTにおける血管性疾患の造影: 各論. 高速らせんCTの実際: 臨床応用UPDATE (小塚隆弘, 平松京一, 隈崎達夫, 片田和廣, 宍戸文男監編), 1998; p159, メディカルジャーナル社.
- 8) 林 宏光, 川俣博志, 若林洋行: [分担] 高速らせんCTにおける血管性疾患の造影; 症例1. 卵巣腫瘍下大静脈内フィルター留置. 高速らせんCTの実際: 臨床応用UPDATE (小塚隆弘, 平松京一, 隈崎達夫, 片田和廣, 宍戸文男監編), 1998; pp160-163, メディカルジャーナル社.
- 9) 林 宏光, 中條秀信, 森下 実: [分担] 高速らせんCTにおける血管性疾患の造影; 症例2. 大動脈縮窄症. 高速らせんCTの実際: 臨床応用UPDATE (小塚隆弘, 平松京一, 隈崎達夫, 片田和廣, 宍戸文男監編), 1998; pp164-167, メディカルジャーナル社.
- 10) 林 宏光, 川俣博志, 松田 亮: [分担] 高速らせんCTにおける血管性疾患の造影; 症例3. 動脈硬化性腎動脈狭窄 (PTA施行例). 高速らせんCTの実際: 臨床応用UPDATE (小塚隆弘, 平松京一, 隈崎達夫, 片田和廣, 宍戸文男監編), 1998; pp168-171, メディカルジャーナル社.
- 11) 林 宏光, 弦間和仁¹⁾ (多摩永山病院放射線科): [分担] 高速らせんCTにおける血管性疾患の造影: 症例4. 閉塞性動脈硬化症 (atherectomy施行例). 高速らせんCTの実際: 臨床応用UPDATE (小塚隆弘, 平松京一, 隈崎達夫, 片田和廣, 宍戸文男監編), 1998; pp172-175, メディカルジャーナル社.
- 12) 林 宏光, 高木 亮, 高浜克也: [分担] 高速らせんCTにおける血管性疾患の造影; 症例5. 冠動脈および左鎖骨下動脈バイパス術後. 高速らせんCTの実際: 臨床応用UPDATE (小塚隆弘, 平松京一, 隈崎達夫, 片田和廣, 宍戸文男監編), 1998; pp176-179, メディカルジャーナル社.
- 13) 林 宏光, 隈崎達夫: [分担] 高速らせんCTによる血管病変の3次元画像診断: 末梢血管病変を中心に. 循環器の画像診断と治療, 1998; インターメディカ (ビデオ).
- 14) 隈崎達夫: [分担] IV大動脈は画像診断でどこまでわかるか: 4血管造影は必要か. 心臓病診療プラクティス. 17血管疾患を診る (高本眞一, 松尾 汎編集), 1998; pp64-67, 文光堂.
- 15) 林 宏光, 隈崎達夫: [分担] IV.Virtual CT endoscopy “cruising eye view” による血管病変の評価. 心臓病診療プラクティス. 17血管疾患を診る (高本眞一, 松尾 汎編集), 1998; pp68-71, 文光堂.
- 16) 林 宏光, 隈崎達夫: [分担] 血管病変の3D-CTA・3D-MRA: 治療支援画像としての可能性を探る. 血管内治療学会ビデオライブラリー, 1998; 岩波映画.
- 17) 林 宏光, 隈崎達夫: [分担] 消化管へのvirtual CT endoscopyの応用. 消化管疾患state of arts (ver.2). I胃・腸 (玉熊正悦, 望月英隆編集), 1998; pp172-174, 医歯薬出版.

- 18) 宮下次廣：〔分担〕血管リンパ系疾患の画像診断「リンパ系疾患」．必修放射線医学改訂第4版（高橋睦正編），1999；pp409-414，南江堂．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Kumazaki T：Cone beam CT employing Image Intensifier. CAR '98 (Tokyo), 1998. 6.
- 2) 隈崎達夫, 林 宏光：血管疾患の三次元血管造影とインターベンション. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 3) 川俣博志, 隈崎達夫, 田島廣之, 林 宏光, 高橋修司, 市川和雄, 後藤慎介, 岡島雄史：血管病変の診断および血管内治療における回転デジタル血管撮影の有用性について. 第26回日本血管外科学会総会, 1998. 5.
- 4) 田島廣之：癌の診断と治療：最近の進歩. 相模女子大学特別講演会, 1998. 6.
- 5) 汲田伸一郎：QGSプログラムの臨床応用. Nuclear Medicine Technical Conference, 1998. 8.
- 6) 汲田伸一郎：Tc-99m Tetrofosmin Gated SPECTを用いた心機能解析. 名古屋マイオビュー講演会, 1998. 9.
- 7) 隈崎達夫：血管造影の新しい画像診断と血管内治療：患者さんにやさしい医療を目指して. 第17回合同医学集談会, 1998. 9.
- 8) 林 宏光：血管病変の3次元CT診断；CT内視鏡の開発から最新の話まで. 第3回サンフレッチェセミナー, 1998. 10.
- 9) 隈崎達夫：IVRと支援画像診断の将来展望：IVRセンター設立を目指して思うこと. 薬理学的血管造影講演会, 1998. 10.
- 10) 隈崎達夫：画像診断：最近の進歩. 第390回実地医家のための会, 1998. 10.
- 11) 汲田伸一郎：心電図同期法を併用したTc-99m MIBI心筋シンチグラフィの臨床応用. 第4回心臓核医学懇話会, 1998. 11.
- 12) 林 宏光：血管病変の画像診断；非侵襲的診断法の現状と展望. 第4回Four Seasons Forum, 1999. 1.
- 13) 林 宏光：MARP法とOPT planを用いた3次元CTの臨床応用. 第1回Volume CT User Meeting, 1999. 2.
- 14) 汲田伸一郎：米国核医学の動向. 第24回ニュータウンカンファレンス, 1999. 2.

(2) 招待講演：

- 1) 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 中條秀信, 水村 直, 木島鉄仁²⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 大洗海岸病院放射線科)：QGSプログラムを用いた心機能解析：新しい解析プログラムQGS+QPSの臨床応用. 住友金属ユーザーズミーティング, 1998. 10.

(3) 教育講演：

- 1) Ichikawa T, Kobayashi H¹⁾, Kumazaki T (¹⁾ Koga Hospital)：IV.3D-CT Portovenography. The 8th Asian & Oceanian Congress of Radiology (Kobe), 1998. 4.
- 2) 市川太郎：脾臓のMRI. 第7回茨城画像セミナー, 1998. 6.
- 3) 市川太郎：肝胆脾の画像診断：CT・MRI. 第9回臨床画像研究会, 1998. 7.
- 4) 林 宏光, 隈崎達夫：最先端の血管イメージングと血管内治療「大動脈の画像診断：低侵襲的診断法の発達と侵襲的診断法の役割」. 第4回日本血管内治療学会, 1998. 7.
- 5) 市川太郎：Angio-CTの実際. 第3回フォーシーズンズ研究会, 1998. 10.
- 6) 隈崎達夫：血管疾患の新しい3次元画像診断とIVR：高速らせんCT及び回転DSAを駆使して. 第19回和歌山画像医学研究会, 1998. 12.

(4) シンポジウム：

- 1) Kumazaki T, Kawamata H, Takahashi S, Hayashi H, Ichikawa T：Rapid Circumferential Rotato-Digital Angiography -Value for Diagnostics and Intervention on Vascular Lesion-. 7th International and Interdisciplinary Symposium on Endoluminal Stents&Grafts (Nara), 1998. 5.

- 2) Kawamata H : TIPS Case Discussion. 7th International and Interdisciplinary Symposium on Endoluminal Stents & Grafts (Nara), 1998. 5.
- 3) Kumita S, Cho K¹⁾, Nakajo H, Ishihara M, Kumazaki T (¹⁾ Dept of Radiology, Chiba-hokusoh Hospital Nippon Medical School) : Evaluation of left ventricular function during stress using ECG-gated myocardial SPECT. Cardiolute International Symposium, 1998. 9.
- 4) Tajima H, Kumazaki T, Kawamata H, Takahashi S, Goto S, Okajima Y, Ichikawa K, Nakahara M¹⁾, Hosaka J²⁾ (¹⁾ Dept of Radiology, Kita-murayama Hospital, ²⁾ Dept of Radiology, Chiba-hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : Interventional radiology for acute pulmonary thromboembolism using rotational digital angiography system. 3rd Symposium of Scandinavia Japan Radiological Society (Kobe), 1998. 11.
- 5) Takagi R, Hayashi H, Kobayashi H¹⁾, Inoue K²⁾, Wakabayashi H, Kumazaki T (¹⁾ Koga Hospital, ²⁾ Dept of Radiology, Chiba-hokusoh Hospital Nippon Medical School) : Three-dimensional CT Angiography for intracranial aneurysm using a multi-angle reconstruction plan method. 3rd Symposium of Scandinavia Japan Radiological Society (Kobe), 1998. 11.
- 6) Nakahara M¹⁾, Tajima H, Hayashi H, Kumazaki T (¹⁾ Dept of Radiology, Kita-murayama Hospital) : Value of Magnetization transfer imaging as a sensitive technique to reflect histopathological changes in the periventricular white matter. 3rd Symposium of Scandinavia Japan Radiological Society (Kobe), 1998. 11.
- 7) 林 宏光, 高木 亮, 天野康雄, 川俣博志, 隈崎達夫 : 骨盤・四肢領域の3次元画像診断 : 治療支援画像としての可能性を探る。(主題 : 3D imagingの役割). 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 8) 川俣博志, 隈崎達夫, 田島廣之, 林 宏光, 高橋修司, 市川和雄, 後藤慎介, 岡島雄史, 植田候平 : 回転デジタル血管撮影のIVRへの応用。(主題 : IVRにおけるエックス線機器の最前線). 第27回日本血管造影インターベンショナルラジオロジー学会, 1998. 5.
- 9) 市川和雄, 隈崎達夫, 林 宏光, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史 : II検出型コーンビーム3次元CT : IVR術中支援画像としての有用性について。(主題 : IVRにおけるエックス線機器の最前線). 第27回日本血管造影インターベンショナルラジオロジー学会, 1998. 5.
- 10) 高橋修司, 川俣博志, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 植田候平, 田島廣之, 隈崎達夫 : TIPSの治療成績について。(主題 : 門脈圧亢進症のIVR). 第27回日本血管造影インターベンショナルラジオロジー学会, 1998. 5.
- 11) 隈崎達夫 : 非イオン性X線造影剤の遅発性副作用②心臓・血管領域。(主題 : 非イオン性X線造影剤 臨床の実際と課題). 第7回造影剤と放射線シンポジウム, 1998. 6.
- 12) 田島廣之, 隈崎達夫 : 左門脈の形態と意義2) Angiographyによる左門脈。(主題 : 血管の解剖学). 日本解剖学会関東地方会第8回懇話会, 1998. 6.
- 13) 田島廣之, 隈崎達夫, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 植田候平, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾ (¹⁾ 集中治療室) : 急性肺血栓塞栓症に対する各種血管内治療法. 第4回日本血管内治療学会, 1998. 7.
- 14) 田島廣之, 隈崎達夫, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 植田候平, 高山守正¹⁾, 子島潤¹⁾, 高野照夫¹⁾ (¹⁾ 集中治療室) : 急性肺血栓塞栓症に対するInterventional Radiologyの進歩. 第39回日本脈管学会総会, 1998. 9.
- 15) 林 宏光, 隈崎達夫 : 血管病変の画像診断 ; 高速らせんCTの登場は臨床に何をもたらしたか, そして何をもたらすのか. 第39回日本脈管学会総会, 1998. 9.
- 16) 田島廣之, 隈崎達夫 : 肺動脈造影とIVR (主題 : 急性肺血栓塞栓症). 第34回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 1998. 10.
- 17) 田島廣之 : 救急医療の現場で放射線科医は何をすべきか. 第34回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 1998. 10.
- 18) 隈崎達夫 : 救急医療の現場で放射線科医は何をすべきか (特別発言). 第34回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 1998. 10.

- 19) 林 宏光, 若林洋行, 井上幸平¹⁾, 山田 明, 中條秀信, 高木 亮, 市川太郎, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科) : 肝胆脾領域の3次元CT ; 治療支援画像としての可能性をめぐって. 第18回日本画像医学会, 1999. 2.
- 20) 高木 亮 : 脳動脈瘤のCT Aingigraphy-半自動再構成処理 (MARP) 法の臨床応用. 第18回日本画像医学会, 1999. 2.
- (5) ランチョンセミナー :
- 1) 隈崎達夫 : 3次元血管撮影と Intervention. 第4回日本血管内治療学会, 1998. 7.
 - 2) 林 宏光, 隈崎達夫 : 血栓閉鎖型大動脈解離の画像診断 : Ulcerlike projection の自然史と血栓化偽腔の解釈を中心に (主題 : 急性大動脈解離をめぐる諸問題). 第34回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 1998. 10.
- (6) 一般講演 :
- 1) Amano Y¹⁾, Kumazaki T, Ishihara M, Hayashi H, Watari J²⁾, Amano M¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Stanford University, ²⁾ Department of Radiology, Shitaya Hospital) : Single-shot diffusion-weighted echo-planar MR imagings of normal and cirrhotic livers using a phased-array multicoil. 6th International Society for Magnetic Resonance in Medicine (Sydney), 1998. 4.
 - 2) Nakahara M, Hayashi H, Takagi R, Ishihara M, Amano Y¹⁾, Kumazaki T (¹⁾ Department of Radiology, Stanford University School of Medicine) : Evaluation of Magnetization Transfer in Periventricular White Matter. 6th International Society for Magnetic Resonance in Medicine (Sydney), 1998. 4.
 - 3) Ishihara M, Hayashi H, Amano Y¹⁾, Takagi R, Nakahara M, Cho K¹⁾, Kumazaki T (¹⁾ Department of Radiology, Stanford University School of Medicine) : Assessment of deterioration in diffusional anisotropy of commissural Association fibers using diffusion-weighted echo planar imaging with FLAR in patients with multiple lacunar infarctions. 6th International Society for Magnetic Resonance in Medicine (Sydney), 1998. 4.
 - 4) Kawamata H, Kumazaki T, Hayashi H, Tajima H, Takahashi S, Goto S, Ichikawa K, Okajima Y, Kichikawa K¹⁾, Uchida H¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Nara Medical University) : Rotational Digital Angiographic Evaluation of Aortic Aneurysms for the Endovascular Stent-Grafts Treatment. 7th International and Interdisciplinary symposiums on Endovascular Stents & Grafts and 14th Annual Meeting of Japanese Society of Endoluminal Metallic Stents & Grafts. (Nara), 1998. 5.
 - 5) Goto Y¹⁾, Nagao H¹⁾, Nagao T¹⁾, Hayashi H (¹⁾ Research and development center, Hitachi medical corporation) : Automatic path finding algorithm. 12th international symposium and exhibition. Computer assisted radiology and surgery, 1998. 6.
 - 6) Mizumura S, Kumita S, Cho K¹⁾, Ishihara M, Kijima T, Nakajo H, Kumazaki T (¹⁾ Department of Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital) : Discrepancy between Tc-99m ECD Dynamic and Static SPECT Images in Patients with Chronic Intracranial Artery Occlusion Corresponds to Reduced Response to Diamox. Society of Nuclear Medicine 45th Annual Meeting. (Toronto), 1998. 6.
 - 7) Tajima H, Kumazaki T, Kawamata H, Takahashi S, Goto S, Okajima Y, Ichikawa K : Gallbladder visualization on CT shortly after angiography with two dimeric contrast media. 18th World Congress of the International Union of Angiology. (Tokyo), 1998. 9.
 - 8) Tajima H, Kumazaki T, Tajima N¹⁾, Okada S²⁾, Hosaka J²⁾ (¹⁾ Iri-clinic, ²⁾ Dept of Radiology, Chiba-hokusoh Hospital Nippon Medical School) : High Resolution Gadolinium Enhanced MR Venography of Varicose Vein. 18th World Congress of the International Union of Angiology. (Tokyo), 1998. 9.
 - 9) Hayashi H, Takagi R, Kawamata H, Ichikawa K, Ichikawa T, Kumazaki T : Three-dimensional CT Angiographic Assessment of Aorto-arterial Pathology with Use of Various Postprocessing Technique. 18th World Congress of the International Union of Angiology. (Tokyo), 1998. 9.
 - 10) Takagi R, Hayashi H, Kobayashi H¹⁾, Amano Y²⁾, Kumazaki T (¹⁾ Koga Hospital, ²⁾ Department of Radi-

ology, Stanford University School of Medicine) : Three-dimensional-CT Angiography for Intracranial Aneurysm : New Semiautomated Reconstruction Technique. 84th Scientific Assembly and Annual Meeting of the Radiological Society of North America. (Chicago), 1998. 12.

- 11) Kumazaki T, Hiramatsu K¹⁾, Matsuyama S²⁾, Uchida H³⁾, Okazaki M⁴⁾, Munakata K⁵⁾, Degawa T⁶⁾, Hamada C⁷⁾, Yamagushi K⁸⁾, Katayama H⁹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Keio University, ²⁾ Department of Radiology, Tokai University, ³⁾ Department of Radiology, Nara Medical University, ⁴⁾ Department of Radiology, Fukuoka University, ⁵⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁶⁾ Department of Internal Medicine, Tokyo seaman's insurance hospital, ⁷⁾ Faculty of Medicine, University of Tokyo, ⁸⁾ Department of Radiology, Yamagata University, ⁹⁾ Department of Radiology, Juntendo University) : The study of delayed adverse events and adverse reactions to a Non-Ionic contrast medium, Iohexol : Adverse events and adverse reactions following interventional radiology with iohexol. ECR'99. (Vienna), 1999. 3.
- 12) 隈崎達夫, 川俣博志, 田島廣之, 落 雅美¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 小川 龍²⁾, 高山守正³⁾, 吉川公彦⁴⁾, 打田日出夫⁴⁾ (¹⁾ 第2外科, ²⁾ 麻酔科, ³⁾ 集中治療室, ⁴⁾ 奈良県立医大放射線科) : 大動脈ステントグラフト術における回転デジタル血管撮影の有用性. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 13) 宮下次廣, 館野 温, 高浜克也, 阿部 豊, 吉川 晃, 町田 幹, 井上幸平, 石王道人, 隈崎達夫, 堀内淳一¹⁾ (¹⁾ 博慈会記念総合病院放射線科) : 良性疾患の放射線治療. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 14) 田島廣之, 隈崎達夫, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史, 市川和雄, 高山守正¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高野照夫¹⁾ (¹⁾ 集中治療室) : 急性肺血栓塞栓症に対するt-PA動注血栓溶解療法について. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 15) 汲田伸一郎, 趙 圭一, 水村 直, 木島鉄仁, 中條秀信, 古川一博, 清水康弘, 秋山一義¹⁾, 大石卓爾, 隈崎達夫 (¹⁾ 坪井病院放射線科) : 短時間収集法に基づく運動負荷時心拍同期心筋SPECTデータ収集. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 16) 市川太郎, 隈崎達夫, 宮下次廣, 林 宏光, 高木 亮, 館野 温, 中原 圓, 若林洋行, 吉川 晃, 石原眞木子 : 肝血管筋脂肪腫のCT : 肝細胞癌との鑑別. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 17) 林 宏光, 川俣博志, 市川太郎, 高木 亮, 中原 圓, 若林洋行, 山田 明, 隈崎達夫, 吉川公彦¹⁾, 打田日出夫¹⁾ (¹⁾ 奈良県立医大放射線科) : 大動脈瘤のStent-graft治療における3次元CT血管造影法の有用性 : 初期臨床応用. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 18) 渡 潤¹⁾, 田島廣之, 徐 向英, 隈崎達夫, 工藤翔二²⁾, 吉村明修²⁾, 村田 朗²⁾, 松本満臣³⁾, 宮本忠昭⁴⁾, 矢野 侃⁵⁾ (¹⁾ 下谷病院放射線科, ²⁾ 第4内科, ³⁾ 都立医療短大, ⁴⁾ 放射線医学研究所, ⁵⁾ 荒川区がん予防センター) : らせんCTを用いた肺癌一次検診 : 初年度の臨床成績. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 19) 川俣博志, 隈崎達夫, 田島廣之, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 町田 幹, 森下 実, 小林尚志¹⁾ (¹⁾ 福岡徳州会病院) : 多目的型Measuring Guide Wireの作製とその臨床応用 : 閉塞性動脈硬化症に対するIVRを中心として. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 20) 水村 直, 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 木島鉄仁, 中條秀信, 秋山一義²⁾, 清水康弘, 古川一博, 大石卓爾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 坪井病院放射線科) : Dynamic SPECT, Static SPECT収集法を用いたTc-99m ECD動態解析 : Diamox負荷SPECTとの比較. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 21) 高橋修司, 川俣博志, 田島廣之, 後藤慎介, 市川和雄, 井上幸平, 松田 亮, 岡島雄史, 隈崎達夫, 大矢 徹¹⁾ (¹⁾ 日産玉川病院放射線科) : TIPSの臨床的治療成績について : 当教室に於ける5年間の検討. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 22) 後藤慎介, 川俣博志, 高橋修司, 植田候平, 岡島雄史, 市川和雄, 石王道人, 田島廣之, 隈崎達夫, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学) : 重症骨盤骨折に合併した止血困難な頭部外傷に対する外頸動脈塞栓術について. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.

- 23) 木島鉄仁, 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 水村 直, 中條秀信, 古川一博, 清水康弘, 秋山一義²⁾, 大石卓爾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 坪井病院放射線科): 急性心筋梗塞における I-123 9MPA と Tc-99m MIBI の心筋集積: 再灌流療法の影響. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 24) 中原 圓, 林 宏光, 石原真木子, 高木 亮, 渡 潤¹⁾, 町田 幹, 宮下次廣, 市川太郎, 高浜克也, 隈崎達夫 (¹⁾ 下谷病院放射線科): 側脳室周囲白質のMTRの変化. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 25) 高浜克也, 林 宏光, 石原真木子, 中原 圓, 渡 潤¹⁾, 石王道人, 吉川 晃, 阿部 豊, 山田 明, 隈崎達夫 (¹⁾ 下谷病院放射線科): Fast SE法を用いた超常磁性酸化鉄 (SPIO) の肝実質陰性造影効果についての基礎的検討: Conventional SE法との比較. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 26) 若林洋行, 高木 亮, 林 宏光, 中條秀信, 市川太郎, 古川一博, 隈崎達夫, 小林尚志¹⁾, 青木祐子²⁾, 高木博²⁾ (¹⁾ 福岡徳州会病院, ²⁾ 日立メディコ): 脳動脈瘤診断における Multi Angle Reconstruction Plan (MARP) 法を用いた3次元CT血管造影法. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 27) 岡島雄史, 田島廣之, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 市川和雄, 町田 幹, 森下 実, 松田 亮, 隈崎達夫: 回転血管撮影を用いた頭頸部腫瘍・血管性病変に対する塞栓術. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 28) 趙 圭一¹⁾, 汲田伸一郎, 水村 直, 木島鉄仁, 中條秀信, 矢野 潔¹⁾, 安藤 順¹⁾, 保坂純郎¹⁾, 岡田 進¹⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科): 呼吸同期心筋 SPECT の開発と臨床応用. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 29) 石原真木子, 林 宏光, 中原 圓, 高木 亮, 渡 潤¹⁾, 植田候平, 館野 温, 高浜克也, 古川一博, 隈崎達夫 (¹⁾ 下谷病院放射線科): FLAIR EPI 拡散強調像を用いた多発性脳梗塞における交連連合線維の組織水拡散評価. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 30) 中條秀信, 汲田伸一郎, 水村 直, 木島鉄仁, 趙 圭一¹⁾, 古川一博, 清水康弘, 秋山一義²⁾, 大石卓爾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 坪井病院放射線科): 急性心筋梗塞における新しい心筋脂肪酸代謝製剤 I-123 9MPA の心筋集積: Dynamic SPECT データを用いた再灌流療法の効果判定. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 31) 市川和雄, 隈崎達夫, 田島廣之, 林 宏光, 石王道人, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史: 血管性病変に対する II 検出型コーンビーム3次元CTの応用: 回転デジタル血管撮影との比較. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 32) 山田 明, 林 宏光, 高木 亮, 若林洋行, 中條秀信, 松田 亮, 森下 実, 川俣博志, 市川太郎, 隈崎達夫: 骨盤部閉塞性動脈硬化症の3D-CTA, 3D-MRA: 血管造影との比較検討. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 33) 清水康弘, 水村 直, 汲田伸一郎, 大石卓爾, 趙 圭一¹⁾, 木島鉄仁, 中條秀信, 秋山一義²⁾, 古川一博, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 坪井病院放射線科): ¹²³I-IMP 脳血流 SPECT を用いた多発白質梗塞における客観的痴呆評価. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 34) 古川一博, 汲田伸一郎, 水村 直, 木島鉄仁, 趙 圭一¹⁾, 中條秀信, 清水康弘, 秋山一義²⁾, 大石卓爾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 坪井病院放射線科): Tc-99m 心拍同期心筋 SPECT データを用いた左室容量算出: 左室壁厚による影響を考慮して. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 35) 町田 幹, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 植田候平, 田島廣之, 隈崎達夫, 大矢 徹¹⁾ (¹⁾ 日産玉川病院放射線科): TIPS 前における CO₂-DSA を用いた閉塞肝静脈造影の有用性. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 36) 矢野 潔¹⁾, 趙 圭一¹⁾, 保坂純郎¹⁾, 安藤 順¹⁾, 片桐究代¹⁾, 石原真木子, 市川太郎, 岡田 進¹⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科): 代償性肝硬変における肝機能と腹部大動脈造影効果に関する検討. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 37) 森下 実, 田島廣之, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 植田候平, 岡島雄史, 市川和雄, 隈崎達夫: 外傷性肺

- 動脈損傷に対するTAE. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 38) 徐 向英, 館野 温, 渡 潤¹⁾, 田島廣之, 宮下次廣, 隈崎達夫⁽¹⁾ 下谷病院放射線科): 高線量率イジリウム気管支内照射を併用した肺癌の治療. 第57回日本医学放射線学会総会, 1998. 4.
- 39) 高橋修司, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 隈崎達夫, 山本保博¹⁾ (1) 救急医学): 外傷性会陰部損傷の1例. 第12回日本外傷学会, 1998. 5.
- 40) 市川和雄, 隈崎達夫, 林 宏光, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史: 血管性病変におけるコーンビーム3次元CT: IVR術中支援画像としての有用性について. 第57回日本血管外科学会総会, 1998. 5.
- 41) 石原真木子: 肝細胞癌の自然破裂例におけるCTの重要性. 第12回千駄木肝カンファレンス, 1998. 5.
- 42) 古川一博, 市川太郎, 岡島雄史, 田島廣之, 川俣博志, 高浜克也, 石原真木子, 隈崎達夫: 隣併存腫瘍の1例. 第413回日本医学放射線学会関東地方会, 1998. 6.
- 43) 渡 潤¹⁾, 田島廣之, 徐 向英, 隈崎達夫⁽¹⁾ 下谷病院放射線科): らせんCTによる肺癌一次検診: 荒川区の成績. 第2回胸部CT検診読影セミナー, 1998. 6.
- 44) 森下 実, 田島廣之, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 植田候平, 高浜克也, 岡島雄史, 市川和雄, 隈崎達夫: テンポラリー下大動脈フィルター留置が有用であった下肢深部静脈血栓症の1例. 第10回関東IVR研究会, 1998. 7.
- 45) 林 宏光, 石原真木子, 中原 圓, 高浜克也, 古川一博, 松田 亮, 高木 亮, 市川太郎, 隈崎達夫, 森谷浩人¹⁾, 高橋良行¹⁾ (1) GE横河メディカルシステム): Moving Table MR Angiographyによる大血管一末梢血管病変の診断. 第26回日本磁気共鳴医学会, 1998. 9.
- 46) 高浜克也, 林 宏光, 石原真木子, 高木 亮, 中原 圓, 市川太郎, 土橋俊男¹⁾, 榎 利夫¹⁾, 佐々木禎之¹⁾, 隈崎達夫⁽¹⁾ 付属病院放射線科技師): 超常磁性酸化鉄 (SPIO) を用いた肝腫瘍性病変の評価: 撮像開始時間の違いによる肝一腫瘍コントラストの比較. 第26回日本磁気共鳴医学会, 1998. 9.
- 47) 石原真木子, 林 宏光, 高木 亮, 中原 圓, 高浜克也, 古川一博, 井上幸平¹⁾, 松田 亮, 趙 圭一¹⁾, 市川太郎, 隈崎達夫, 柁沢宏之²⁾, 高橋良行²⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) GE横河メディカルシステム): 局所脳拡散テンソル解析による大脳白質障害の評価 (第一報). 第26回日本磁気共鳴医学会, 1998. 9.
- 48) 高木 亮, 天野康雄¹⁾, 石原真木子, 林 宏光, 高浜克也, 中原 圓, 山王なほ子²⁾, 野手洋治²⁾, 寺本 明²⁾, 隈崎達夫⁽¹⁾ スタンフォード大学放射線科, 2) 脳神経外科): MTCを利用した下垂体腺腫の術前評価における検討. 第26回日本磁気共鳴医学会, 1998. 9.
- 49) 吉川 晃, 市川太郎, 林 宏光, 高木 亮, 若林洋行, 石原真木子, 高浜克也, 松田 亮, 隈崎達夫, 杉崎祐一¹⁾ (1) 付属病院病理部): 高速らせんCTによるAngio-CTの解析: 特に原発性肝細胞癌診断の臨床的有用性に関する研究. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 50) 松田 亮, 林 宏光, 石原真木子, 高木 亮, 中原 圓, 高浜克也, 井上幸平¹⁾, 隈崎達夫⁽¹⁾ 千葉北総病院放射線科): 骨盤部閉塞性動脈硬化症におけるMR angiography: 血管造影法との比較検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 51) 森下 実, 高橋修司, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 植田候平, 岡島雄史, 市川和雄, 隈崎達夫: 深部静脈血栓症に対するテンポラリー下大静脈フィルター留置下血栓溶解療法. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 52) 徐 向英, 田島廣之, 渡 潤¹⁾, 隈崎達夫, 吉村明修²⁾, 安藤真弘²⁾, 村田 朗²⁾, 工藤翔二²⁾, 王 若皎³⁾, 矢野 侃⁴⁾ (1) 下谷病院放射線科, 2) 第4内科, 3) 第2病理, 4) 荒川がん予防センター): 肺野型微小肺癌—CT画像と病理像の対比—. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 53) 中澤 賢, 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 水村 直, 木島鉄仁²⁾, 中條秀信, 隈崎達夫⁽¹⁾ 千葉北総病院放射線科, 2) 大洗海岸病院放射線科): 心拍同期心筋SPECTを用いた心筋血流・心機能同時評価: 新しい機能解析ソフト

- ウェアQGS+TMプログラムの臨床応用. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 54) 吉田太郎, 高浜克也, 林 宏光, 石原真木子, 中原 圓, 市川太郎, 隈崎達夫, 池田真人¹⁾, 竹永清人¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 真々田裕宏²⁾, 田尻 孝²⁾, 恩田昌彦²⁾, 廣瀬洋一郎³⁾, 山中宣昭³⁾, 内藤義哉⁴⁾ (1) 第一内科, 2) 第一外科, 3) 第一病理, 4) 第2病理): 肝特異性MRI造影剤 (Feridex) による肝細胞腺腫の診断. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 55) 館野展之, 田島廣之, 川俣博志, 高橋修司, 市川和雄, 隈崎達夫, 落 雅美¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 高山守正²⁾, 高野照夫²⁾, 小川 龍³⁾ (1) 第2外科, 2) 集中治療室, 3) 麻酔科): 慢性期DeBakeyIIIb型大動脈解離に対してstent-graftによるentry閉鎖術が奏功した1例. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 56) 福嶋善光, 市川和雄, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史, 隈崎達夫, 長田祐二¹⁾, 若林一二¹⁾, 高山守正²⁾, 高野照夫²⁾, 山田宣孝³⁾, 杉崎祐一³⁾ (1) 第三内科, 2) 集中治療室, 3) 病理部): 肺血栓塞栓症に対する血栓吸引療法が有用であった上肢静脈血栓症の1例. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 57) 川俣博志, 隈崎達夫, 田島廣之, 林 宏光, 高橋修司, 市川和雄, 岡島雄史, 落 雅美¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 高山守正²⁾, 高野照夫²⁾, 小川 龍³⁾, 吉川公彦⁴⁾, 打田日出夫⁴⁾ (1) 第2外科, 2) 集中治療室, 3) 麻酔科, 4) 奈良医大放射線科): Penetrating Atherosclerotic Ulcerに起因する腹部大動脈瘤に対するstent-graft留置術. 第39回日本脈管学会総会, 1998. 9.
- 58) 市川和雄, 隈崎達夫, 林 宏光, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史: 腹部大動脈瘤に対するコーンビーム3次元CT: Aortic Stent-Graft留置術における応用. 第39回日本脈管学会総会, 1998. 9.
- 59) 安藤真弘¹⁾, 清家正博¹⁾, 吉村明修¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 渋谷昌彦¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 渡 潤²⁾, 田島廣之, 隈崎達夫, 小泉 潔³⁾, 田中茂夫³⁾, 持丸 博⁴⁾, 邊見しのぶ⁴⁾, 福田 悠⁴⁾ (1) 第4内科, 2) 下谷病院放射線科, 3) 第2外科, 4) 第1病理): 末梢型小型肺癌の診断に関する問題点の検討. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 10.
- 60) 高浜克也, 林 宏光, 石原真木子, 高木 亮, 中原 圓, 井上幸平¹⁾, 松田 亮, 市川太郎, 隈崎達夫 (1) 千葉北総病院放射線科): 肝特異性MRI造影剤 (Feridex) による肝細胞腺腫の診断. 第34回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 1998. 10.
- 61) 川俣博志, 田島廣之, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 隈崎達夫, 大坂信太郎¹⁾, 楠本春彦¹⁾ (1) 狭山中央病院): 腹部鈍的外傷による胆嚢単独損傷の1例. 第8回救急放射線研究会, 1998. 10.
- 62) 汲田伸一郎, 木島鉄仁¹⁾, 趙 圭一, 中條秀信, 水村 直, 古川一博, 隈崎達夫, 佐野純子, 草間芳樹, 宗像一雄 (1) 大洗海岸病院放射線科, 2) 千葉北総病院放射線科, 3) 第1内科): 心筋梗塞例における¹²³I-9MPA心筋シンチグラフィ: 心拍同期心筋SPECTによる壁運動との対比. 第38回日本核医学会総会, 1998. 10.
- 63) 水村 直, 汲田伸一郎, 石原真木子, 趙 圭一¹⁾, 木島鉄仁²⁾, 中條秀信, 秋山一義, 大石卓爾, 隈崎達夫 (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 大洗海岸病院放射線科): 虚血脳組織における^{99m}Tc-ECD超早期・平衡時所見の乖離機序—Diamox負荷時との動態比較—. 第38回日本核医学会総会, 1998. 10.
- 64) 趙 圭一¹⁾, 汲田伸一郎, 水村 直, 木島鉄仁²⁾, 中條秀信, 石原真木子, 櫻井 実³⁾, 岡田 進¹⁾, 隈崎達夫 (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 大洗海岸病院放射線科, 3) 千葉北総病院放射線科技師): 心拍同期心筋SPECTによる急性心筋梗塞の局在評価: New QGSTMプログラムによる局所心機能定量値を用いたクラスター分析. 第38回日本核医学会総会, 1998. 10.
- 65) 石原真木子, 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一¹⁾, 木島鉄仁²⁾, 中條秀信, 秋山一義, 大石卓爾, 隈崎達夫 (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 大洗海岸病院放射線科): MRIを用いた脳体積シュミレーションによるSPECTの部分容積効果補正: ファントムによる検討. 第38回日本核医学会総会, 1998. 10.
- 66) 中條秀信, 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一¹⁾, 木島鉄仁²⁾, 隈崎達夫, 佐野純子³⁾, 草間芳樹³⁾, 宗像一雄³⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 大洗海岸病院放射線科, 3) 第1内科): 心拍同期心筋SPECTデータを用いた左室収縮能解析: New-QGSプログラムを用いた局所壁運動と心筋血流情報の同時評価. 第38回日本核医学会総会, 1998. 10.

- 67) 秋山一義, 汲田伸一郎, 水村 直, 石原眞木子, 趙 圭一¹⁾, 木島鉄仁²⁾, 中條秀信, 大石卓爾, 隈崎達夫
(¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 大洗海岸病院放射線科): 動脈硬化症例における脳循環不全: 血管内治療における術前検査法として. 第38回日本核医学会総会, 1998. 10.
- 68) 木島鉄仁¹⁾, 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一²⁾, 石原眞木子, 中條秀信, 秋山一義, 大石卓爾, 隈崎達夫
(¹⁾ 大洗海岸病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院放射線科): ASOにおける^{99m}Tc-tetrofosmin運動負荷下肢シンチグラフィ: PTA治療前後の比較. 第38回日本核医学会総会, 1998. 10.
- 69) 櫻井 実¹⁾, 中村亜矢¹⁾, 鬼塚鉄雄¹⁾, 川村義彦¹⁾, 趙 圭一²⁾, 岡田 進²⁾, 汲田伸一郎, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科技師, ²⁾ 千葉北総病院放射線科): 180度収集心筋SPECTにおける収集開始角度と心筋軸との関係: 360度再構成画像との比較. 第38回日本核医学会総会, 1998. 10.
- 70) 中村亜矢¹⁾, 櫻井 実¹⁾, 鬼塚鉄雄¹⁾, 川村義彦¹⁾, 趙 圭一²⁾, 岡田 進²⁾, 汲田伸一郎, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科技師, ²⁾ 千葉北総病院放射線科): ^{99m}Tc心筋SPECT180度再構成画像における偽欠損の検討: 心筋軸と偽欠損の関係について. 第38回日本核医学会総会, 1998. 10.
- 71) 宮下次廣, 館野 温, 隈崎達夫: 子宮に隣接する腸管の検討 (1) 特に年齢, 肥満度との関係について. 日本放射線腫瘍学会第11回学術大会, 1998. 11.
- 72) 館野 温, 宮下次廣, 隈崎達夫: 子宮に隣接する腸管の検討 (2) 特に子宮屈曲・子宮厚と隣接腸管の距離について. 日本放射線腫瘍学会第11回学術大会, 1998. 11.
- 73) 徐 向英, 田島廣之, 渡 潤¹⁾, 石王道人, 岡島雄史, 後藤慎介, 隈崎達夫 (¹⁾ 下谷病院放射線科): 気道狭窄に対する金属ステントによる治療. 第9回外国人留学生研究会, 1998. 11.
- 74) 岡島雄史, 田島廣之, 石王道人, 市川太郎, 松田 亮, 森下 実, 館野展之, 隈崎達夫, 渡 潤¹⁾ (¹⁾ 下谷病院放射線科): CTガイド下生検が有用であった稀な胸壁発生のMFH. 第414回日本医学放射線学会関東地方会, 1998. 12.
- 75) 林 宏光, 隈崎達夫: 心血管・IVR領域の放射線科診療用語: 放射線科診療用語集改訂に伴うアンケート結果報告. 第48回心臓血管放射線研究会, 1999. 1.
- 76) 林 宏光, 高木 亮, 市川太郎, 隈崎達夫, 小林尚志¹⁾, 後藤良洋²⁾, 青木祐子²⁾ (¹⁾ 古賀病院付属医学研究所, ²⁾ 日立メディコアプリケーション): 自動的視点更新による仮想CT内視法を用いた管腔臓器・構造物のCurved Planar Reconstruction Images. 第4回3次元CT・MRI研究会, 1999. 2.
- 77) 高木 亮, 山王なほ子¹⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 脳神経外科): 下垂体腫瘍におけるMTC画像の初期臨床応用. 第9回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1999. 2.
- 78) 川俣博志, 隈崎達夫, 市川和雄, 田島廣之, 高橋修司, 岡島雄史, 飯泉 匡¹⁾, 田近賢二¹⁾, 高山守正²⁾, 上村竜太²⁾, 高野照夫²⁾, 落 雅美³⁾, 田中茂夫³⁾, 小川 龍³⁾ (¹⁾ 第3内科, ²⁾ 集中治療室, ³⁾ 第2外科): 開窓部付きステント・グラフトを用いることにより前脊髄動脈を温存し得た胸腹部大動脈瘤切迫破裂の1例. 第15回日本Metallic Stents & Grafts研究会, 1999. 2.
- 79) 徐 向英, 田島廣之, 渡 潤¹⁾, 石王道人, 岡島雄史, 後藤慎介, 隈崎達夫 (¹⁾ 下谷病院放射線科): 気道狭窄に対する金属ステントによる治療成績. 第124回日本肺癌学会関東地方会, 1999. 3.
- 80) 川俣博志: Penetrating Atherosclerotic Ulcerの画像診断とステントグラフト治療 (主題: 動脈硬化症の基礎と臨床: 最近の話題). 第11回千駄木脈管カンファレンス, 1999. 3.
- 81) 高橋修司, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 隈崎達夫, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学): TAEにて救命し得た重症弛緩出血の1例. 第32回日本腹部救急医学会総会, 1999. 3.
- 82) 中條秀信, 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 隈崎達夫, 佐野純子²⁾, 宗像一雄²⁾, 岸田 浩²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 第1内科): 心拍同期心筋シンチと冠動脈MRAの夢の共演: 21世紀の心筋画像へ向けて. 第24回ニュータウンカンファレンス, 1999. 3.

[第二病院放射線科]

研究概要

放射線診断学：1) 呼吸器疾患に対し，気管支鏡を用いたBAL，肺生検を施行し，画像診断の向上に力を注いでいる。肺切除病理標本とCT画像の比較検討から，詳細な画像所見の分析を試みている。

2) 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし，結核，癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている。肺癌の早期診断および早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している。

3) 上部消化管の消化性潰瘍のX線診断学において単に潰瘍のみの形態的診断に止まらず，潰瘍形成の背景となる攻撃因子（胃分泌機能）および粘膜自体の防御因子等粘膜のもつ機能を画像に表現する。いわゆる Functional radiology に目標をおき，また *H. Pylori* の胃粘膜の胃粘膜変化についても研究中である。

4) 腸管微細粘膜像と生理機能との関係解明を研究中である。

5) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し，より効率の良い，より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である。

6) MRIを用いた婦人科，産科学的診断について研究中である。

Interventional radiology：1) 悪性胆道閉塞患者に対し，減黄およびQOL向上を目的とし，ステント挿入および放射線治療を施行している。さらにこの分野での研究に取り組んでいる。

2) 悪性肝臓腫瘍の治療として経動脈塞栓術，経皮的エタノール注入療法を集学的治療に組み込んでいる。

放射線治療学：1) 肺癌に対して，放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる。

核医学：1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。

2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

1) 梶原景子，佐藤雅史，山本 彰，久吉隆郎¹⁾，松本光司²⁾ (1) 第二病院外科，²⁾ 第二病院病理部)：肺腺癌の肺胞進展におけるCT値と病理含気率に関する検討。日医放学会誌 1998；58 (7)：372-374。

(2) 総説：

1) 前田昭太郎¹⁾，細根 勝¹⁾，片山博徳¹⁾，佐藤雅史，福田 悠²⁾，浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院病理部，²⁾ 日医大病理学)：石灰化病変の病理（特集：石灰化病変の画像診断）。臨床画像 1998；14 (7)：784-792。

2) 松島秀和¹⁾，小林泰之¹⁾，藤澤英文¹⁾，佐藤晃司¹⁾，南 茂¹⁾，澤田明宏¹⁾，松浦克彦¹⁾，田中 修¹⁾，佐藤雅史 (1) 自治医大大宮医療センター放射線科)：胸部 肺，気管・気管支，胸膜，縦隔（特集：石灰化病変の画像診断）。臨床画像 1998；14 (7)：822-834。

3) 佐藤雅史，久吉隆郎¹⁾ (1) 第二病院外科)：胸膜炎，膿胸，胸壁の結核。臨床画像 1998；14 (10増刊)：58-65。

著書

1) 佐藤雅史：〔分担〕16. 多発性不鮮明陰影 17. びまん性粒状影 18. 微細網状影。胸部X線「超」講義（ジェームズ・C・リード著，蜂屋順一・土井 修監訳），1998；pp249-292，医学書院MYW。

2) 林 敏彦，佐藤雅史：〔分担〕右上葉円形無気肺MRIと病理所見の対比。III まれな呼吸器疾患：画像と病理像からみた呼吸器疾患。臨床画像SPECIAL（遠藤啓吾編集），1998；pp244-245，メジカルビュー社。

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 佐藤雅史：フィルム・インタープリテーション・セッション．第57回日医放学会総会，1998．4．
- 2) 佐藤雅史：結核の画像診断．神奈川県放射線医学会第36回例会，1998．7．
- 3) 佐藤雅史：フィルムリーディングセッション 2) 胸部．第34回日医放学会秋季臨床大会，1998．10．
- 4) 佐藤雅史：症例検討会．神奈川県放射線医学会第37回例会，1998．11．

(2) 一般講演：

- 1) 高橋政之，菊池真理，山本 彰，菊竹晴子，梶原景子，岡田 静，南部春江，高間都支，佐藤雅史，渡部英之¹⁾ (1) 大宮共立病院)：大腸炎症性疾患による腸管の変形像についての検討．第57回日医放学会総会，1998．4．
- 2) 菊竹晴子，梶原景子，岡田 静，菊池真理，南部春江，高間都支，高橋政之，山本 彰，佐藤雅史，徳田 均¹⁾ (1) 社会保険中央病院内科)：サルコイドーシス肺野病変のCT像．第57回日医放学会総会，1998．4．
- 3) 山本 彰，八畝 彰，高橋政之，高間都支，岡田 静，菊池真理，南部春江，梶原景子，菊竹晴子，佐藤雅史：ヘリカルCTを用いた肺癌検診のための基礎的検討：第1報 小低吸収域病変の検出能，ファントムを用いて．第57回日医放学会総会，1998．4．
- 4) 菊池真理，梶原景子，菊竹晴子，南部春江，高間都支，高橋政之，山本 彰，佐藤雅史：喀痰細胞診にて異型細胞を呈した肺梗塞の1例．第19回胸部放射線研究会東京部会，1998．6．
- 5) 梶原景子，佐藤雅史，菊竹晴子，菊池真理，南部春江，高間都支，高橋政之，山本 彰，雪吹周生¹⁾，日置正文²⁾ (1) 第二病院内科，²⁾ 第二病院外科)：未破裂の左Valsalva洞動脈瘤の1例．第413回日医放学会関東地方会，1998．6．
- 6) 梶原景子，佐藤雅史，山本 彰，菊竹晴子，菊池真理，南部春江，高間都支，高橋政之：肺腺癌の肺胞進展のCT値と病理学上の含気率との相関．第66回日本医科大学医学会総会，1998．9．
- 7) 山本 彰，梶原景子，高橋政之，高間都支，菊池真理，南部春江，菊竹晴子，佐藤雅史：門脈亢進症をとまわらない脾静脈瘤 (splenic vein aneurysm) の1例．第66回日本医科大学医学会総会，1998．9．
- 8) 高橋政之，山本 彰，梶原景子，菊竹晴子，菊池真理，南部春江，高間都支，佐藤雅史：左胆管の異所性開口の2例．第66回日本医科大学医学会総会，1998．9．
- 9) 宜保陽介¹⁾，内田拓実¹⁾，櫛方美文¹⁾，網谷賢一¹⁾，山口朋禎¹⁾，高橋直人¹⁾，寺田秀人¹⁾，村澤恒男¹⁾，上田征夫¹⁾，原文男¹⁾，山本 彰，佐藤雅史 (1) 第二病院内科)：X線CT上冠動脈の走行に一致して著明な石灰化が認められた虚血性心疾患の2例．第66回日本医科大学医学会総会，1998．9．
- 10) 櫛方美文¹⁾，山口朋禎¹⁾，高橋直人¹⁾，内田拓実¹⁾，寺田秀人¹⁾，村澤恒男¹⁾，上田征夫¹⁾，原文男¹⁾，山本 彰，佐藤雅史 (1) 第二病院内科)：ステント挿入により著しい改善を見た上大静脈症候群の1例．第66回日本医科大学医学会総会，1998．9．
- 11) 田中恵美¹⁾，日野光紀¹⁾，水野杏一¹⁾，高橋卓夫²⁾，吾妻安良太²⁾，橋元恭士²⁾，工藤翔二²⁾，佐藤雅史，川並汪一³⁾ (1) 千葉北総病院内科，²⁾ 内科第4，³⁾ 老研分子病理部門)：CT上びまん性粒状影を示した疾患におけるFBALの有用性の検討．第66回日本医科大学医学会総会，1998．9．
- 12) 南部春江，佐藤雅史，梶原景子，菊竹晴子，菊池真理，高間都支，高橋政之，山本 彰：右肺尖部に巨大腫瘍を形成したextra-abdominal desmoid tumorの1例．第12回胸部放射線研究会，1998．10．
- 13) 野尻陽子¹⁾，木村陽一¹⁾，加藤篤衛¹⁾，三浦祐理子¹⁾，伊藤文行¹⁾，櫛方美文²⁾，原文男²⁾，山本 彰，高橋政之 (1) 第二病院皮膚科，²⁾ 第二病院内科)：上大静脈症候群 (SVCS) の1例．日本皮膚科学会第741回東京地方会，1998．10．
- 14) 山本 彰，梶原景子，高間都支，佐藤雅史，原文男¹⁾，日置正文²⁾ (1) 第二病院内科，²⁾ 第二病院外科)：心筋虚血を伴った左バルサルバ洞動脈瘤の1例．第3回神奈川SPECT研究会，1998．10．
- 15) 梶原景子，佐藤雅史，菊竹晴子，南部春江，山本博人，高橋政之，山本 彰：10年間経過観察した気管支閉鎖

- 症の1例：粘液栓はどこへいった。第20回胸部放射線研究会東京部会，1998。12.
- 16) 山本 彰，梶原景子，高橋政之，山本博人，菊竹晴子，佐藤雅史，平井真実¹⁾ (¹⁾ メディカルコミュニティー・マイ)：門脈圧亢進症を伴わない Splenic vein aneurysm の1例：3D-CT，血管内視による観察も含め。第414回日医放射学会関東地方会，1998。12.
- 17) 高橋政之，佐藤雅史，山本博人，菊池真理，南部春江，梶原景子，菊竹晴子，山本 彰：肝原発性腫瘍との鑑別診断が困難であった転移性卵黄嚢腫 (Yolk Sac Tumor) の1例。第414回日医放射学会関東地方会，1998。12.

[多摩永山病院放射線科]

研究概要

1. 当院，救命救急センターと共同で頭部外傷，胸，腹部臓器損傷におけるMRI診断の有用性について研究を続けている。
2. 非イオン性造影剤の腎機能に及ぼす影響について検討している。
3. 川崎市主催の住民検診を利用した肺癌の集団検診に参加し，肺癌における集検の有用性の確立を目指している。
4. 胸部疾患におけるCTガイド下針生検の精度の向上と普及に努めている。さらに腹部臓器におけるCTガイド下穿刺の有用性についても検討を加えている。
5. コンピューターを活用した医療画像処理の研究を続けている。
6. IVRに関しては，悪性腫瘍に対する動注を含めた集学的治療，救急患者のカテーテル治療についての研究を行っている。
7. 細気管支肺胞上皮癌の自然史につきX線診断学的に検討を続けている。
8. 婦人科，整形外科領域におけるMRI診断について研究，検討が行われている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kobayashi Y, Murakami R, Sugizaki K, Yamamoto K, Sasaki S¹⁾, Tajima N²⁾, Onda M³⁾, Kumazaki T²⁾ (¹⁾ Department of obstetrics and Gynecology, Tama-Nagayama hospital, ²⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Pathology, Nippon medical School) : Primary leiomyoma of the Ovary. *European Radiology* 1998 ; 8 (8) : 1444-1446.
- 2) Murakami R, Tajima H¹⁾, Kumazaki T¹⁾, Yamamoto K (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Effect of iodixanol on renal function immediately after abdominal angiography. *Acta radiologica* 1998 ; (39) : 368-371.
- 3) Murakami R, Tajima H¹⁾, Kumazaki T¹⁾, Yamamoto K (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Effect of iodixanol on renal function immediately after abdominal angiography. ; Clinical comparison with iomeprol and inxaglate.repiy. *Acta radiologica* 1999 ; (40) : 111-112.
- 4) 内木場庸子¹⁾，千葉 隆¹⁾，村上由加里¹⁾，向後俊昭¹⁾，吉田 豊¹⁾，戸田茂樹²⁾，松本正博²⁾，志村俊郎²⁾，島田早苗³⁾，山本 鼎 (¹⁾ 多摩永山病院小児科，²⁾ 同脳神経外科，³⁾ 同耳鼻咽喉科)：副鼻腔炎に続発した化膿性髄膜炎，硬膜化膿瘍の1例。小児耳鼻咽喉科 1998 ; 19 (2) : 28-30.
- 5) 玉井 仁：パソコンでデジタル血管造影を動画表示するには。映像情報 (M) 1999 ; 31 (4) : 131-135.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 玉井 仁, 山田丈士¹⁾, 小倉順子, 小林由子, 村上隆介, 山本 鼎, 隈崎達夫²⁾ (1) 法医, 2) 付属病院放射線科)：デジタル血管造影のパソコンによる動画表示. 第57回日医放学会総会, 1998. 4.
- 2) 杉崎健一¹⁾, 篠原義智¹⁾, 山本 鼎, 隈崎達夫²⁾ (1) 多摩南部地域病院放射線科, 2) 付属病院放射線科)：脊髄損傷におけるMRI像の検討：予後予測の可能性について. 第57回日医放学会総会, 1998. 4.
- 3) 村上隆介, 山本 鼎, 小林由子, 山田丈士¹⁾, 小倉順子, 弦間和仁, 玉井 仁, 隈崎達夫²⁾, 杉崎健一³⁾, 篠原義智³⁾ (1) 法医学, 2) 付属病院放射線科, 3) 多摩南部地域病院放射線科)：無気肺を呈した細気管支肺胞上皮癌の画像診断. 第57回日医放学会総会, 1998. 4.
- 4) 小林由子, 小倉順子, 村上隆介, 山田丈士¹⁾, 玉井 仁, 弦間和仁, 山本 鼎, 田島なつき²⁾, 隈崎達夫²⁾, 杉崎健一³⁾ (1) 法医学, 2) 付属病院放射線科, 3) 多摩南部地域病院放射線科)：子宮内膜病変のMRI：正常例と有疾患症例の比較. 第57回日医放学会総会, 1998. 4.
- 5) 小倉順子, 小林由子, 杉崎健一¹⁾, 山田丈士²⁾, 弦間和仁, 玉井 仁, 山本 鼎, 村上隆介, 細根 勝³⁾, 隈崎達夫⁴⁾ (1) 多摩南部地域病院放射線科, 2) 法医学, 3) 多摩永山病院病理部, 4) 付属病院放射線科)：術後再発卵巣癌のMRI. 第57回日医放学会総会, 1998. 4.
- 6) 玉井 仁, 小倉順子, 小林由子, 山本 鼎, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科)：パソコンによる血管造影の動画表示：第2報. 第17回日本医用画像工学会大会, 1998. 7.
- 7) 篠原義智¹⁾, 渡 潤²⁾, 山本 鼎, 隈崎達夫²⁾ (1) 多摩南部地域病院放射線科, 2) 付属病院放射線科)：肺末梢肺癌に対するCTガイド下肺針生検法：Biopsy Gumによる組織診と従来の吸引細胞診との比較および併用の有用性について. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 10.

(2) 公開講座：

- 1) 山本 鼎：肺がん診療の問題点. 多摩永山病院第6回公開講座, 1998. 7.

(3) ミニレクチャー：

- 1) 山本 鼎：肺胞上皮癌のX線像. 第15回多摩画像医学カンファレンス, 1999. 1.

[千葉北総病院放射線科]

研究概要

当科における研究内容として、MRI関係、核医学関係、CT関係、インターベンショナルラジオロジー関係に分けられる。

MRIについては、MRIの造影剤の安全性に関するもの、MRIの高速シーケンスに関するもの、脳出血および頭部外傷のMRIに関するものなどについて研究を行った。造影剤の安全性については、腎不全患者における造影剤の使用の可否について、基礎的検討および臨床的検討を行った。このような腎不全患者における検討は過去にあまりみられず、造影剤の臨床使用において有用な情報を提供できた。高速シーケンスについては、最近使用可能になったEPI法を用いた検討を行った。骨盤内臓器については、ダイナミック・スタディを含む造影剤を用いたEPI法の有用性につき検討した。頭部については、脳出血におけるEPI像の特徴について検討し新知見を得た。また、通常のスピエンコード法では得られなかった、頭部外傷におけるび慢性軸索損傷の所見が、EPIおよびT2*法にて詳細に得られることを報告した。

核医学関係では、呼吸同期心筋SPECTを開発し、心電同期とあわせて心筋梗塞や心臓の壁肥厚等につき定量的・統計学的な詳細な検討を行った。さらに、種々の撮像法における画像を比較検討して真の画像とアーチファクトとの関係を明確にした。

CT関係では、肝硬変患者における肝臓および大動脈の造影パターンを検討し、肝機能と造影パターンとの間に有

意な相関があることを明らかにした。

インターベンショナル・ラジオロジー関係では、新たに開発した静脈血栓症症例に対する大静脈フィルターに関する基礎的検討の報告を引き続き行い、臨床例における静脈フィルター使用における問題点などについて検討を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hosaka J¹⁾, Roy S²⁾, Kvernebo K³⁾, Enge I²⁾, Laerum F²⁾ (1) Dep. of Radiology, Chiba-hokuso Hospital, Nippon Medical School and Section for experimental Radiology, Institute for surgical research, National Hospital, University of Oslo, 2) Section for experimental Radiology, Institute for surgical research, National Hospital, University of Oslo, 3) Dep. of Cardiovascular surgery, Ullevaal Hospital, University of Oslo) : In vitro function of an adjustable temporary venous spring filter : comparison with the temporary RF02 filter and the permanent Greenfield vena cava filter. Academic Radiology 1998 ; 5 : 620-625.
- 2) Cho K, Kumita Shin-¹⁾, Okada S, Kumazaki T¹⁾ (1) Hospital Nippon Medical School) : Development of respiratory gated myocardial SPECT system. Journal of Nuclear Cardiology 1999 ; 6 (1) : 20-28.
- 3) 片桐究代, 岡田 進, 隈崎達夫¹⁾, 坪井成美²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 千葉北総病院泌尿器科) : 透析によるガドリニウム造影剤の除去 : 基礎的及び臨床的研究. 日本医学放射線学会雑誌 1998 ; 58 (13) : 739-744.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Hosaka J, Ando J, Cho K, Okada S, Kumazaki T¹⁾ (1) Dep. of Radiology, Nippon Medical School) : Deep venous thrombosis after orthopedic surgery. Progress in Radiology, 3rd symposium of Scandinavia Japan Radiologic Society, 1998. 11.
- 2) 玉井健介¹⁾, 中嶋隆夫¹⁾, 小林俊之¹⁾, 村田修二¹⁾, 保坂純郎, 白井康正²⁾ (1) 千葉北総病院整形外科, 2) 付属病院整形外科) : 股関節手術後の深部静脈血栓症の検討. 第25回日本股関節学会, 1998. 10.

(2) 一般講演：

- 1) Katagiri K, Okada S, Kumazaki T¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : Clearance of Gadolinium Contrast Agent by Hemodialysis : In vitro and Clinical Studies. International Society for Magnetic Resonance in Medicine. Sixth Scientific Meeting and Exhibition, 1998. 4.
- 2) Cho K, Kumita Shin-¹⁾, Mizumura S¹⁾, Kijima T²⁾, Nakajo H¹⁾, Ishihara M¹⁾, Okada S, Kumazaki T¹⁾ (1) Dept. of Radiology, Nippon Medical School Hospital) : COMPARISON OF MYOCARDIAL WALL THICKENING BETWEEN THE COUNT-INCREASE AND GEOMETRY METHODS USING ECG-GATED MYOCARDIAL SPECT WITH Tc-99m MIBI IN PATIENTS WITH ACUTE MYOCARDIAL INFARCTION. Joint EANM and WFNMB&B Congress, 1998. 8.
- 3) 伊藤公一郎, 片桐究代, 安藤 順, 趙 圭一, 保坂純郎, 田島なつき, 岡田 進, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : Multishot Multislice SE-EPIによるT1強調像：女性骨盤部における検討. 第57回日本放射線学会学術発表会, 1998. 4.
- 4) 片桐究代, 安藤 順, 岡田 進, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 隈崎達夫¹⁾, 坪井成美²⁾, 横山博美³⁾, 久島英二⁴⁾, 田口雪江⁴⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 千葉北総病院泌尿器科, 3) 医新会クリニック泌尿器科, 4) 千葉北総病院血液透析) : 透析によるガドリニウム造影剤の除去 : 基礎的検討及び臨床的検討. 第57回日本放射線学会学術発表会, 1998. 4.
- 5) 岡田 進, 片桐究代, 矢野 潔, 安藤 順, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 川勝樹夫¹⁾, 隈

- 崎達夫²⁾ (1) 佼成病院放射線科, 2) 付属病院放射線科) : 脳出血のEPI, 臨床的および基礎的検討. 第57回日本放射線学会学術発表会, 1998. 4.
- 6) 安藤 順, 岡田 進, 矢野 潔, 片桐究代, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : 頭部外傷のEPIおよびT2*強調像の有用性について. 第57回日本放射線学会学術発表会, 1998. 4.
- 7) 趙 圭一, 汲田伸一郎¹⁾, 水村 直¹⁾, 木島鉄仁¹⁾, 中條秀信¹⁾, 矢野 潔, 安藤 順, 保坂純郎, 岡田 進, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : 呼吸同期心筋SPECTの開発と臨床応用. 第57回日本放射線学会学術発表会, 1998. 4.
- 8) 矢野 潔, 趙 圭一, 保坂純郎, 安藤 順, 片桐究代, 石原眞木子¹⁾, 市川太郎¹⁾, 岡田 進, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : 代償性肝硬変における肝機能と腹部大動脈造影効果に関する検討. 第57回日本放射線学会学術発表会, 1998. 4.
- 9) 内山史生, 岡田 進, 井上幸平, 片桐究代, 安藤 順, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 大秋美治¹⁾, 河村亮²⁾, 鴨井青龍²⁾, 隈崎達夫³⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 同産婦人科, 3) 付属病院放射線科) : Adenoacanthomaに合併した子宮筋層内Sex-cord like tumorの1例. 第18回千葉MR研究会, 1998. 7.
- 10) 保坂純郎, 岡田 進, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : 血栓形成による内腔占拠を来したAntheor temporary filterの1例. 第10回関東IVR研究会, 1998. 7.
- 11) 岡田 進, 片桐究代, 内山史生, 井上幸平, 矢野 潔, 安藤 順, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 隈崎達夫¹⁾, 横山博美²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 医新会クリニック泌尿器科) : 透析患者におけるガドリニウム造影剤の安全性についての検討. 第26回日本磁気共鳴医学会大会, 1998. 9.
- 12) 趙 圭一, 汲田伸一郎¹⁾, 水村 直¹⁾, 木島鉄仁¹⁾, 石原眞木子¹⁾, 櫻井 実²⁾, 岡田 進, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 北総病院中央画像検査室) : 心拍同期心筋SPECTによる急性心筋梗塞の局在診断: New QGSTMプログラムによる局所心機能定量値を用いたクラスター分析. 第38回日本核医学会, 1998. 10.

8. 皮膚科学講座

[付属病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚の炎症反応におけるストレス関連ホルモン：免疫担当細胞，マスト細胞，自律神経，微小循環系に対するCRHの作用メカニズム，CRHが及ぼす情動，異常搔破行動への影響，アトピー性皮膚炎患者への精神医学的，心理学的アプローチ
2. 自己免疫性水疱症の発症機序：免疫担当細胞（特にランゲルハンス細胞，マスト細胞）の動態について。
3. 腫瘍免疫機構の解明：皮膚腫瘍の免疫組織化学，電顕的解析．特にマスト細胞の動態について．悪性腫瘍におけるin vitro制癌剤感受性試験および温熱感受性試験法の開発
4. 蕁疹，接触皮膚炎の原因抗原の解析：他抗原物質との交叉反応，抗原決定基の研究．遅延型過敏反応のin vitro測定法の開発
5. ヘリコバクタ・ピロリ感染症と難治性皮膚疾患との関係：慢性蕁麻疹，掌蹠膿疱症，乾癬，アトピー性皮膚炎が対象
6. 紫外線の発癌メカニズム：皮膚ランゲルハンス細胞の動態を中心に研究
7. 真菌感染と生体防御機構

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Aoki M, Aoki R, Akimoto M¹⁾, Hara K²⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, 2) First Department of Pathology, Aichi Medical University) : Primary Cutaneous Langerhans Cell Histiocytosis in an Adult. *Am J Dermatopathol* 1998 ; 20 : 281-284.
- 2) 中島美知子, 佐々木りか子, 金田一純子¹⁾ (1) 国立小児病院) : 先天性無汗性外胚葉形成不全症の4例. *日小児皮会誌* 1998 ; 17 (1) : 33-36.
- 3) 中島美知子, 佐々木りか子 : Bloch-Sulzberger 症候群の1男児例. *日小児皮会誌* 1998 ; 17 (1) : 39-43.
- 4) 沼野香世子, 米山英子, 藤本和久, 畑三恵子, 川名誠司 : 抗真菌外用剤の感作性と交叉感作について. *Dermatological Mycology Club 例会記録集* 1998 ; 103-107.
- 5) 沼野香世子, 藤本和久, 畑三恵子, 川名誠司, 荒牧琢己¹⁾ (1) 第1内科) : リシノプリルによる多型滲出性紅斑型蕁疹の1例. *日本皮膚アレルギー学会雑誌* 1998 ; 6 : 164-166.
- 6) 新見やよい, 本田光芳 : 胸囲結核の1例. *臨床皮膚科* 1998 ; 52 (13) : 1112-1114.
- 7) 青木恵理, 青木見佳子, 川名誠司 : Lichen planus-like keratosis の1例. *皮膚科の臨床* 1999 ; 41 : 240-241.
- 8) 尾見徳弥, 本田光芳, 三橋 清¹⁾, 百束比古¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 形成外科, 2) 病理学第2) : 27歳の女性に生じたPaget病において乳輪平滑筋がNeurogenic Metaplastic Hyperproliferationを呈した1例. *日皮膚理組織会誌* 1999 ; 14 : 4-7.

(2) 総説：

- 1) 川名誠司 : アレルギー性血管炎における血管内皮細胞傷害. *日医大誌* 1998 ; 65 (3) : 195-200.
- 2) 佐々木りか子 : (特集：私の処方 (薬物治療)) 湿疹・アトピー性皮膚炎. *小児科臨床* 1998 ; 51 : 345-350.
- 3) 川名誠司 : 蕁麻疹と全身疾患. *皮膚科の臨床* 1998 ; 40 (4) : 581-586.
- 4) 佐々木りか子 : (特集：新生児のスクリーニング) 皮膚科異常のスクリーニング. *周産期医学* 1998 ; 28

- (5) : 641-644.
- 5) 佐々木りか子：(特集：アトピー性皮膚炎のトピックス 病態から治療まで) 小児期の特徴とその経過. 皮膚科の臨床 1998 ; 40 (6) : 922-925.
 - 6) 藤本和久：銅と皮膚疾患. 日本医事新報 1998 ; 3872 : 113-114.
 - 7) 川名誠司：蕁麻疹様血管炎 (Urticarial vasculitis). デルマ 血管炎と皮膚 1998 ; 16 : 51-56.
 - 8) 中島美知子, 佐々木りか子：新生児の皮膚疾患. 産婦人科治療 1999 ; 78 (1) : 95-98.
 - 9) 佐々木りか子：局所ステロイド薬の使い方と注意点 (1) 皮膚科領域. アレルギーの臨床 1999 ; 19 (4) : 319-322.
 - 10) 佐々木りか子：(特集：実地医家の小児プライマリーケア) 小児に多い皮膚疾患. 臨床と研究 1999 ; 76 (3) : 438-442.

著 書

- 1) 青木見佳子, 本田光芳：〔分担〕外用剤による皮膚炎. 小児科別冊 診療上のアクシデント (青木継稔, 瀧田誠司, 村上睦美, 矢田純一編), 1998 ; pp153-157, 金原出版.
- 2) 畑三恵子, 本田光芳：〔分担〕小児の湿疹. 小児科診療Q&A, 1998 ; pp1442-1443, 六法出版社.
- 3) 藤本和久：〔分担〕光線過敏型薬疹・苔癬型薬疹. 目でみる薬の副作用 薬疹と接触皮膚炎 (本田光芳, 矢島純編), 1998 ; pp88-91, 薬業時報社.
- 4) 藤本和久：〔分担〕虫による皮膚炎. 目でみる薬の副作用 薬疹と接触皮膚炎 (本田光芳, 矢島純編), 1998 ; pp24-29, 薬業時報社.
- 5) 青木見佳子：〔分担〕プロポリスによる接触皮膚炎. 目でみる薬の副作用 薬疹と接触皮膚炎 (本田光芳, 矢島純編), 1998 ; pp34-37, 薬業時報社.
- 6) 新見やよい：〔分担〕漢方薬による接触皮膚炎. 目でみる薬の副作用 薬疹と接触皮膚炎 (本田光芳, 矢島純編), 1998 ; pp38-41, 薬業時報社.
- 7) 青木見佳子：〔分担〕固定疹型薬疹. 目でみる薬の副作用 (本田光芳, 矢島純編), 1998 ; pp80-83, 薬業時報社.
- 8) 畑三恵子：〔分担〕湿疹型薬疹. 目で見る薬の副作用 薬疹と接触皮膚炎 (本田光芳, 矢島純編), 1998 ; pp84-87, 薬業時報社.
- 9) 新見やよい：〔分担〕蕁麻疹型薬疹. 目でみる薬の副作用 薬疹と接触皮膚炎 (本田光芳, 矢島純編), 1998 ; pp96-99, 薬業時報社.
- 10) 新見やよい：〔分担〕植物による接触皮膚炎. 目でみる薬の副作用 薬疹と接触皮膚炎, 1998 ; pp42-45, 薬業時報社.
- 11) 畑三恵子：〔分担〕抗生剤によるアレルギー性接触皮膚炎. 目でみる薬の副作用 薬疹と接触皮膚炎, 1998 ; pp54-57, 薬業時報社.
- 12) 青木見佳子：〔分担〕金属によるアレルギー性接触皮膚炎. 目でみる薬の副作用 薬疹と接触皮膚炎, 1998 ; pp62-65, 薬業時報社.
- 13) 畑三恵子：〔分担〕化粧品によるアレルギー性接触皮膚炎. 目でみる薬の副作用 薬疹と接触皮膚炎, 1998 ; pp66-69, 薬業時報社.
- 14) 川名 誠司：〔分担〕蛍光顕微鏡と共焦点レーザー顕微鏡. 皮膚科診療プラクティス 3. 皮膚病理を読む 皮膚病理がみえてくる (熊切正信, 宮地良樹, 瀧川雅浩編), 1998 ; pp182-183, 文光堂.
- 15) 川名誠司：〔分担〕うっ滞性皮膚炎. 皮膚疾患最新の治療 1999—2000 (新村真人, 瀧川雅浩編), 1999 ; p22, 南江堂.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Hata M, Numano K, Tachihara R, Kawana S : Allergic contact dermatitis due to topical medicaments in children. 8th International Congress Pediatric Dermatology, 1998. 5.
- 2) 佐々木りか子 : Effective topical tacalcitol treatment for Netherton's syndrome. 第8回国際小児皮膚科学会, 1998. 5.
- 3) Tachihara R, Kawana S, Matsuhisa T¹⁾, Yamada N²⁾, Matsukura N³⁾ (¹⁾ Department of Gastrointestinal-endoscopy, ²⁾ Department of Pathology, ³⁾ Department of Surgery) : *Helicobacter pylori* as an underlying pathogen of chronic urticaria. 3rd International Investigative Dermatology, 1998. 5.
- 4) 青木恵理, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 川名誠司 : 小児腹壁遠心性脂肪萎縮症の1例. 第738回日本皮膚科学会東京地方会, 1998. 1.
- 5) 立原利江子, 青木見佳子, 川名誠司, 土佐真美子¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 形成外科) : 趾間から生じたSCCの1例. 日本皮膚科学会第737回東京地方会, 1998. 4.
- 6) 佐々木りか子, 中島美知子, 中野美和子¹⁾, 宮内 潤²⁾, 畑三恵子, 斉藤幸雄³⁾, 山本一哉⁴⁾ (¹⁾ 国立小児病院外科, ²⁾ 国立小児病院病理, ³⁾ 斉藤皮膚科, ⁴⁾ 愛育病院皮膚科) : 14歳男児の背部に生じたSquamous Cell Carcinomaの1例 : 先天性巨大母斑上に生じた症例. 第97回日本皮膚科学会総会, 1998. 4.
- 7) 森本健介, 中村健一, 楠 俊雄, 川名誠司, 田中道雄¹⁾ (¹⁾ 流山市) : *T. violaceum*による成人ケルスス禿瘡の1例. 日本皮膚科学会第737回東京地方会, 1998. 4.
- 8) 金子勝美, 青木見佳子, 川名誠司, 服部怜美, 佐藤元泰¹⁾ (¹⁾ 東京都) : 木村病の1例. 第97回日本皮膚科学会総会, 1998. 5.
- 9) 沼野香世子, 米山英子, 藤本和久, 畑三恵子, 川名誠司 : 抗真菌剤外用薬によるアレルギー性接触皮膚炎—その抗原, 感作性について—. 第97回日本皮膚科学会総会, 1998. 5.
- 10) 尾見徳弥, 本田光芳, 山本一哉¹⁾, 岩崎賢二²⁾ (¹⁾ 愛育病院皮膚科, ²⁾ (株)ユニテック) : レーザー脱毛に関する病理組織学的検索. 第97回日本皮膚科学会総会, 1998. 5.
- 11) 竹内淳子, 新見やよい, 川名誠司, 楠 俊雄¹⁾, 斎藤 裕²⁾ (¹⁾ 清瀬市, ²⁾ 文京区) : 落葉状天疱瘡の2例. 日本皮膚科学会第738回東京地方会, 1998. 6.
- 12) 菊池伊豆実, 金子勝美, 青木見佳子, 川名誠司, 末延自頭¹⁾ (¹⁾ 所沢市) : 澄明細胞汗腺腫の1例. 第22回日本小児皮膚科学会, 1998. 6.
- 13) 中島美知子, 佐々木りか子, 伊藤裕司¹⁾, 河野寿夫¹⁾, 山本一哉²⁾ (¹⁾ 国立小児病院新生児科, ²⁾ 愛育病院皮膚科) : エトレチナートを使用した非水疱型魚鱗癬様紅皮症の1例. 第22回日本小児皮膚科学会学術大会, 1998. 6.
- 14) 佐々木りか子, 中島美知子, 恒松由紀子¹⁾, 宮内 潤²⁾ (¹⁾ 国立小児病院血液, ²⁾ 国立小児病院病理) : Langerhans cell histiocytosis 6例の検討. 第22回日本小児皮膚科学会学術大会, 1998. 6.
- 15) 落合廣武, 青木見佳子, 畑三恵子, 川名誠司 : 硫酸フラジオマイシンによる接触皮膚炎. 日本皮膚科学会第738回東京地方会, 1998. 6.
- 16) 橋本綱子, 青木見佳子, 川名誠司, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 形成外科) : 経過中に退色がみられた悪性黒色腫の2例. 第14回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 1998. 7.
- 17) 沼野香世子, 畑三恵子, 川名誠司 : リシノプリルによる薬疹の1例. 第28回日本皮膚アレルギー学会, 1998. 7.
- 18) 尾見徳弥, 本田光芳, 三橋 清¹⁾, 百束比古¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 形成外科, ²⁾ 第2病理) : 27歳の女性に生じたPaget病においてNeurogenic Metaplastic Hyperproliferationがみられた1例. 第14回日本皮膚病理組織学会, 1998. 7.
- 19) 五十嵐司, 青木見佳子, 川名誠司, 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 形成外科) : 多数の角質囊腫を伴った有棘細胞癌の1例. 第14回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 1998. 7.

- 20) 菊地伊豆実, 金子勝美, 青木見佳子, 川名誠司, 末延自顕¹⁾ (1) 所沢市) : 澄明細胞汗腺腫の1例. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 21) 秋田政彦, 立原利江子, 畑三恵子, 川名誠司, 石丸さやか¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 形成外科) : Eccrine porocarcinomaの1例. 日本皮膚科学会第741回東京地方会, 1998. 9.
- 22) 中川絵里, 五十嵐 司, 青木見佳子, 川名誠司 : Hidradenomaの2例. 日本皮膚科学会第740回東京地方会, 1998. 9.
- 23) 弓削真由美, 高田香織, 五十嵐 司, 川名誠司 : 急性発症したBehçet病の1例. 日本皮膚科学会第740回東京地方会, 1998. 9.
- 24) 青木見佳子, 川名誠司, 楠 俊雄¹⁾ (1) 清瀬市) : Lichen aureusの2例. 日本皮膚科学会第49回中部支部学術大会, 1998. 10.
- 25) 新見やよい, 川名誠司, 早田孝敬¹⁾, 宮田 新²⁾ (1) 荒川区, ²⁾ 墨田区) : Folliculosebaceous cystic hamartomaの2例. 第49回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 1998. 10.
- 26) 竹山玲子, 青木 恵理, 立原利江子, 新見やよい, 川名誠司, 斎藤 裕¹⁾ (1) 文京区) : 深在性エリテマトーデスの2例. 日本皮膚科学会第741回東京地方会, 1998. 10.
- 27) 森本健介, 菊地伊豆実, 新見やよい, 川名誠司, 荻生真章¹⁾ (1) 新宿区) : Mycobacterium marinumによる皮膚非定型抗酸菌症の1例. 日本皮膚科学会第741回東京地方会, 1998. 10.
- 28) 森本健介, 中村健一, 楠 俊雄, 川名誠司, 田中道雄¹⁾ (1) 流山市) : T.violaceumによる成人ケルスス禿瘡の1例. 第42回日本医真菌学会総会, 1998. 10.
- 29) 金子勝美, 青木見佳子, 川名誠司, 志賀俊哉¹⁾, 坂本篤裕¹⁾, 仲吉 隆²⁾, 小泉 潔²⁾ (1) 麻酔科, ²⁾ 第2外科) : 肢端紅痛症の1例. 日本皮膚科学会第742回東京地方会, 1998. 11.
- 30) 山西貴仁, 立原利江子, 川名誠司, 畑三恵子 : ノルフロキサシンによる固定薬疹の1例. 日本皮膚科学会第742回東京地方会, 1998. 11.
- 31) 池村暁子, 五十嵐司, 川名誠司, 高木 修¹⁾ (1) 浦和市) : マダニ刺症の2例. 日本皮膚科学会第742回東京地方会, 1998. 11.
- 32) 沼野香世子, 荒牧 純, 藤本和久, 畑三恵子, 川名誠司 : 当科における固定薬疹の統計. 第48回日本アレルギー学会総会, 1998. 12.
- 33) 畑三恵子, 江川ゆり, 藤本和久, 矢島 純, 服部怜美, 本田光芳, 川名誠司 : 27年間のペニシリン系, セフェム系抗生物質, 薬疹例. 第48回日本アレルギー学会, 1998. 12.
- 34) 岩崎容子, 新見やよい, 川名誠司, 中山重男¹⁾ (1) 荒川区) : 小児の膿疱性乾癬の1例. 日本皮膚科学会第744回東京地方会, 1999. 1.
- 35) 木村陽一, 新見やよい, 青木恵理, 川名誠司, 神谷俊次¹⁾ (1) 荒川区) : Livedoid vasculitisの1例. 日本皮膚科学会第744回東京地方会, 1999. 1.
- 36) 立原利江子, 森本健介, 川名誠司, 山科育子¹⁾ (1) 第1内科) : デビス紫斑が疑われたpurpura simplexの1例. 第22回皮膚脈管懇話会・第13回膠原病研究会, 1999. 1.
- 37) 青木見佳子, 川名誠司 : Multiple trichodiscomas and acrochordons. 日本皮膚科学会第62回東京支部学術大会, 1999. 2.
- 38) 新見やよい, 川名誠司, 楠 俊雄¹⁾ (1) 清瀬市) : Intercellular IgA vesiculopustular dermatosis. 第62回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 1999. 2.
- 39) 五十嵐司, 森本健介, 青木見佳子, 川名誠司, 糸井由里恵¹⁾, 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 形成外科) : 母斑細胞母斑上に生じた悪性黒色腫の1例. 第62回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 1999. 2.
- 40) 堺 則康, 渡辺 淳¹⁾, 中島英逸¹⁾, 山本基子¹⁾, 島田 隆¹⁾, 西山康裕²⁾, 青木恵理, 川名誠司 (1) 第2生化学, ²⁾ 第2内科) : Ehlers - Danlos症候群IV型 (EDSIV) の遺伝子診断. 日本皮膚科学会第745回東京地方会,

[第二病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚腫瘍の臨床診断, 病理組織的検索, 電顕, 酵素抗体法, 形成外科的治療
2. ポリ・モノクローナル抗体を用いた梅毒疹の特異的診断. HIV感染と梅毒の併発による梅毒の進行や抗体価の異常等の検索. T.Pallidumのcross reactivityの検討
3. GUPのPCRを用いた早期診断
4. 接触皮膚炎, 薬疹では国際的な方法で原因物質の検索をする.
5. アトピー性皮膚炎の増悪因子としてのブドウ球菌やM.furfurの果たす役割を特に成人型について検討する.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 岩崎容子, 伊東文行: Clear cell syringoma. 皮膚病診療 1998; 20 (10): 883-886.
- 2) 小坂祥子, 三浦祐理子, 矢代加奈, 木村陽一, 伊東文行: Clear cell フマル酸ケトチフェン点眼液による接触皮膚炎の4例. 日本皮膚アレルギー学会雑誌 1998; 6: 151-156.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 畑三恵子: 健康食品・嗜好品; プロポリス, ウコンによる接触皮膚炎と胡椒によるアナフィラキシーショックを中心に. 第62回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 1999. 2.

(2) 一般講演:

- 1) Sakakibara T, Kato T, Ito F: Q-switched ruby laser treatment for nevus of Ota and ashy dermatosis. The First Joint Meeting of Korean-Japanese Society for Dermatologic Surgery The 16th Congress of JSDS, Cheju Korea, 1998. 5.
- 2) Yashiro K, Ito F: Abrasion and pressure therapy for hypertrophic scar or keloid. 第16回日本臨床皮膚外科学会, 1998. 5.
- 3) 岩崎容子, 三浦祐理子, 加藤篤衛, 矢代加奈, 木村陽一, 堺 則康, 伊東文行, 北村 伸¹⁾ (1) 第二病院内科): 神経ベーチェット病の1例. 第97回日本皮膚科学会総会, 1998. 5.
- 4) 野尻陽子, 木村陽一, 加藤篤衛, 三浦祐理子, 伊東文行, 櫛方美文, 原文男¹⁾, 山本 彰²⁾, 高橋政之²⁾ (1) 第二病院内科, 2) 第二病院放射線科): 上大静脈症候群 (SVCS) の1例. 日本皮膚科学会第741回東京地方会, 1998. 10.
- 5) 鈴木かやの, 岩崎容子, 榊原貴子, 伊東文行: テガフルによる薬疹の1例. 日本皮膚科学会第741回東京地方会, 1998. 10.
- 6) 榊原貴子, 沼野香世子, 山西貴仁¹⁾, 畑三恵子, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): アリルイソプロピルアセチル尿素による固定薬疹の1例. 日本皮膚科学会第742回地方会, 1998. 11.
- 7) 木村 陽一, 三浦祐理子, 小坂祥子, 鈴木かやの, 畑三恵子, 松本光司¹⁾ (1) 第二病院病理部): 血管芽細胞腫の1例. 日本皮膚科学会第742回東京地方会, 1998. 11.
- 8) 岩切加奈, 三浦祐理子, 沼野香世子, 弓削真由美, 畑三恵子: プロピオン酸アルクロメタゾン・ベンダザックによるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 日本皮膚科学会第742回東京地方会, 1998. 11.

(3) 展示：

- 1) 野尻陽子, 矢代加奈, 三浦祐理子, 伊東文行：脛骨前粘液水腫。第14回日本臨床皮膚科医学会, 総会・臨床学術大会, 1998. 4.
- 2) 木村陽一, 鈴木かやの, 加藤篤衛, 伊東文行：無色素性悪性黒色腫。第14回日本臨床皮膚科医学会, 総会臨床学術大会, 1998. 4.
- 3) 矢代加奈, 堺 則康, 野尻陽子, 三浦祐理子, 横山 泉, 伊東文行, 岩崎 隆¹⁾ (1) 川崎市)：剥削, 圧迫法によるケロイド, 肥厚性癬痕の治療経験。第97回日本皮膚科学会総会, 1998. 5.

[多摩永山病院皮膚科]

研究概要

1. Contact hypersensitivity (UVB照射時の遅延型過敏反応の抑制) についての研究
2. GVHDの発現についての基礎的研究
3. 電子顕微鏡による組織内スピロヘータの証明, スピロヘータの構造解析に関する研究
4. 病理組織学的, 電子顕微鏡的アプローチによる皮膚腫瘍の発生および診断に関する研究

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 濱崎せり, 五十嵐司, 立原利江子, 西原 潔, 中村進一, 飯田章太郎¹⁾, 松久威史¹⁾, 山本泰一²⁾ (1) 多摩永山病院内視鏡科, ²⁾ 戸田中央臨床検査研究所)：顆粒細胞腫の2例。日本皮膚科学会東京支部東京地方会, 1998. 9.

[千葉北総病院皮膚科]

研究概要

- 1) 薬疹, 接触皮膚炎：patch scratch test, challenge testによる原因物質の確認と, アレルギーカードの発行
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断および病理学的研究：とくに電顕, 酵素抗体法を用いた研究
- 3) 円形脱毛症におけるHLAタイプの検索
- 4) アトピー性皮膚炎における精神的要素の研究

研究業績

著 書

- 1) 服部怜美：〔分担〕接触皮膚炎。皮膚疾患最新の治療1999—2000 (新村雅人, 瀧川雅浩編集), 1998；南光堂。

学会発表

(1) 一般講演

- 1) 服部怜美, 山西貴仁, 天野薫子, 小黑辰夫¹⁾, 早澤久美¹⁾, 大秋美治¹⁾ (1) 千葉北総病院病理部)：Film sheet resin embedding methodを電子顕微鏡検査に応用したcystic basal cell carcinomaの1例。第14回日本皮膚悪性腫瘍学会, 1998. 7.
- 2) 服部怜美, 山西貴仁, 東 直行, 金子勝美, 北原東一, 川名誠司¹⁾, 本田光芳²⁾ (1) 付属病院皮膚科, ²⁾ 横浜市)：固定疹の6例。第28回日本皮膚アレルギー学会, 1998. 7.

- 3) 高田香織, 山西貴仁, 服部怜美, 秋元正宇¹⁾ (1) 千葉北総病院形成外科) : 下口唇に生じた巨大な有棘細胞癌の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 4) 服部怜美, 山西貴仁, 北原東一, 東 直行, 金子勝美, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科) : 固定疹の6例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 5) 山西貴仁, 服部怜美, 森本健介, 小関正倫¹⁾ (1) 清瀬市) : 菌状息肉症の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 6) 栗原和久, 服部怜美, 東 直行, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科) : アリルイソプロピルアセチル尿素による固定薬疹の2例. 第23回日本接触皮膚炎学会, 1998. 12.
- 7) 服部怜美, 栗原和久, 荒牧 純, 高田香織, 大秋美治¹⁾, 秋元正宇²⁾ (1) 千葉北総病院病理部, ²⁾ 千葉北総病院形成外科) : 皮膚悪性腫瘍の6例. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.
- 8) 高田香織, 荒牧 純, 栗原和久, 服部怜美, 秋元正宇¹⁾ (1) 千葉北総病院形成外科) : 下口唇に生じた巨大な有棘細胞癌の1例. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.

9. 外科学第一講座

[付属病院第1外科]

研究概要

教室では消化器外科学，一般外科学，さらにその関連領域に関する以下のテーマについて臨床的，基礎的研究を進めており，その成果を積極的に学会ならびに学会誌および専門誌に発表し，着実な評価を得ている。

1. 創傷治癒，外科侵襲，外科感染症の基礎的研究を基に積極的に臨床応用を図っている。
 2. 急性腹症の病態の解析，とくにジッツマークを用いたイレウスの新しい診断と治療の選択法は，臨床上の有用性に対して内外で高い評価を得ている。
 3. 腹腔鏡下手術は，その適応範囲を拡げ，胆嚢摘出術はもとより，胃・十二指腸潰瘍の穿孔性腹膜炎に対しても積極的に用い，さらに早期胃癌，早期大腸癌，門脈圧亢進症にも応用され，良好な成績を得ている。患者に対して侵襲の少ない手術として評価を得ている。
 4. 進行食道癌，胃癌，大腸癌に対する手術と化学療法の組み合わせにより，患者のQOLの向上を図っている。
 5. 肝硬変症，門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療により，病態に応じた治療法の選択が可能となり，良好な成績をあげている。
 6. 内視鏡下手術の進歩により，早期胃癌に対するEMR，また，総胆管結石，膵石に対する内視鏡的摘出術，閉塞性黄疸に対する内視鏡的減黄術等，種々の内視鏡下手術に取り組んでいる。
 7. ヘリコバクター・ピロリの胃炎，胃潰瘍，胃癌との関係の臨床的および基礎的な研究が進められている。
 8. 遺伝子治療の研究にも取り組んでおり，胃癌における遺伝子治療もその基礎的研究が進行している。
 9. 食道癌，肝臓癌，膵臓癌に対する基礎的，臨床的研究が進められ，手術法の進歩とあいまって手術成績の向上が得られつつある。
 10. 乳癌手術に対して積極的に縮小手術を取り入れ良好な成績をあげており，さらに進行乳癌に対する動注化学療法，化学内分泌療法を組み合わせた治療法を採用し，患者のQOLの向上に努め良好な成績を得ている。
- 教授，助教授，講師の指導の下に，これらの各テーマに若手医局員が配属され，日夜熱心に研究が行われており，下記のごとく内外の学会誌，専門誌に発表された。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Vitale N, Horiba K, Ferrans VJ, Moss J, Vaughan M : Localization of ADP-ribosylation factor domain protein 1 (ARD1) In lysosomes and Golgi apparatus. Proc Natl Acad Sci USA 1998 ; 95 (15) : 8613-8618.
- 2) Minobe K, Onda M, Iida A, Kasumi F, Sakamoto G, Nakamura Y, Emi M : Allelic Loss on Chromosome 9q is Associated with Lymph Node Metastasis of Primary Breast Cancer. Jpn J Cancer Res 1998 ; 89 : 916-922.
- 3) Usuki J, Horiba K, Chu S C, Moss J, Ferrans VJ : Immunohistochemical analysis of proteins of the Bcl-2 family in pulmonary lymphangiomyomatosis : Association of Bcl-2 expression with hormone receptor status. Arch Pathol Lab Med 1998 ; 122 (10) : 895-902.
- 4) Takita M, Onda M, Tokunaga A : Immunochemical demonstration of angiogenic growth factors and EGF receptor in hepatic metastases and primary human gastric cancer. 日医大誌 1998 ; 65 (5) : 358-366.
- 5) Segura AM, Luna RE, Horiba K, Stetler-Stevenson WG, McAllister HAJ, Willerson JT, Ferrans VJ :

- Immunohistochemistry of matrix metalloproteinases and their inhibitors in thoracic aortic aneurysms and aortic valves of patients with Marfan's syndrome. *Circulation* 1998 ; 19 : 331-337.
- 6) Tomtitichong P¹⁾, Onda M, Matsukura N, Tokunaga A, Kato S, Matsuhisa T²⁾, Yamada N³⁾, Hayashi A⁴⁾ (¹⁾ Faculty of Medicine, Thammasat University, Thailand, ²⁾ Department of Gastrointestinal Endoscopy, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ³⁾ the Second Department of Pathology, ⁴⁾ Mitsubishi-Kagaku Bio-Clinical Laboratory) : Helicobacter pylori Infection in the Remnant Stomach After Gastrectomy : With Special Reference to the Difference Between Billroth I and II Anastomoses. *J Clin Gastroenterol* 1998 ; 27 (1) : S154-S158.
 - 7) Nakajima N, Kawanami O, Jin E, Ghazizadeh M, Honda M, Asano G, Horiba K, Ferrans V.J : Immunohistochemical and ultrastructural studies of basal cells, Clara cells and bronchiolar cuboidal cells in normal human airways. *Pathol Int* 1998 ; 48 (12) : 944-953.
 - 8) Shirakawa T, Onda M, Tokunaga A : Release of immunosuppressive substances after gastric resection is more prolonged than after mastectomy in humans. *Int Surg* 1998 ; 83 : 210-214.
 - 9) Okawa K, Onda M, Miyashita M, Sasajima K : Systemic and pulmonary responses of inflammatory cytokines following esophagectomy. *日医大誌* 1998 ; 65 : 42-49.
 - 10) Kiyama T, Witte MB, Thornton FJ, Barbul A : The route of nutrition support affects the early phase of wound healing. *Journal of Parenteral & Enteral Nutrition* 1998 ; 22 (5) : 276-279.
 - 11) Kurose K, Bando K, Fukino K, Sugisaki Y, Araki T, Emi M : Somatic Mutations of the PTEN/MMAC1 Gene in Fifteen Japanese Endometrial Cancers : Evidence for Inactivation of Both Alleles. *Jpn J Cancer Res* 1998 ; 89 : 842-848.
 - 12) Takubo K, Nakamura K, Sawabe M, Arai T, Esaki Y, Miyashita M, Mafune K, Tanaka Y, Sasajima K : Primary undifferentiated small cell carcinoma of the esophagus. *Hum Pathol* 1999 ; 30 (2) : 216-221.
 - 13) Kawamura N, Nagai H, Bando K, Koyama M, Matsumoto S, Tajiri T, Onda M, Fujimoto J, Ueki T, Konishi N, Shiba T, Emi M : PTEN/MMAC1 Mutations in Hepatocellular Carcinomas : Somatic Inactivation of Both Alleles in Tumors. *Jpn J Cancer Res* 1999 ; 90 : 413-418.
 - 14) Nakamura Y, Onda M, Uchida E : Analysis of K-ras codon 12 point mutations using duodenal lavage fluid for diagnosis of pancreatic carcinoma. *Pancreas* 1999 ; 18 : 133-140.
 - 15) Bando K, Matsumoto S, Onda M, Akiyama F, Sakamoto G, Yoshimoto M, Kasumi F, Nakamura Y, Emi M : Frequent Allelic Loss at 6q26-27 in Breast Carcinomas of the Solid-tubular Histologic Type. *Breast Cancer* 1998 ; 5 (2) : 127-130.
 - 16) 坂東功一, 恩田昌彦, 宮下正夫, 高橋由至, 瀧田雅仁, 松谷 毅, 大川敬一, 松田 健, 笹島耕二, 山下精彦¹⁾, 氏原康之²⁾, 田久保海誉³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 館山病院外科, ³⁾ 東京都老人医療センター病理) : CDDP+5-FU+Leucovorin術前化学療法にて病理組織学的Grade3が得られた食道癌の1例. *癌と化学療法* 1998 ; 25 (6) : 915-918.
 - 17) 谷合信彦, 江上 格¹⁾, 岡崎滋樹¹⁾, 和田雅世¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 恩田昌彦, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科) : 胆嚢動脈が供血路であった肝細胞癌の1切除例. *日消誌* 1998 ; 95 (6) : 563-566.
 - 18) 秋谷行宏, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之 : 血清総コレステロール値を用いた術後感染症の早期診断 : 多変量解析による検討. *日消外会誌* 1998 ; 31 : 1781-1787.
 - 19) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 柳 健, 山村 進, 中村慶春, 小林 匡, 山中洋一郎, 田尻 孝, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理第2) : 膵臓癌における vascular endothelial growth factor の発現とその意義 : 肝転移再発との関連性から. *日消外会誌* 1998 ; 31 (7) : 1767-1772.
 - 20) 内田英二, 恩田昌彦, 田尻 孝 : 膵臓癌の遺伝子学的診断 : その臨床的意義 (特集膵炎と膵癌). *Medical Prac-*

tice 1998 ; 15 (8) : 1374-1375.

- 21) 田久保海誉, 真船健一, 田中洋一, 笹島耕二: 噴門部の病理. 日外会誌 1998 ; 99 (9) : 547-551.
 - 22) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 沖野哲也, 李 榮浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 飯田信也, 木山輝郎, 吉田 寛, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理第2): 胃内分泌細胞癌の5例. 消化器癌の発生と進展 1998 ; 10 : 399-401.
 - 23) 真々田裕宏¹⁾, 木内博之²⁾, 水谷 崇¹⁾, 小林 匡²⁾, 森 正陽²⁾, 中村 孝²⁾, 福岡 猛²⁾, 田尻 孝, 内田英二, 恩田昌彦 (1) 北村山公立病院消化器科, 2) 北村山公立病院外科): 巨大な膵貯留嚢胞の1切除例. 胆と膵 1998 ; 19 : 995-999.
 - 24) 松田範子, 恩田昌彦, 森山雄吉¹⁾, 徳永 昭, 松倉則夫, 吉村成子 (1) 第二病院消化器病センター): 減圧症患者の傾向と罹患リスクの検討. 日高圧医誌 1998 ; 32 : 259-265.
 - 25) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 西久保秀紀, 松本智司, 山本一仁, 金子昌裕, 山下精彦¹⁾, 沖浜裕司²⁾, 松田 健²⁾, 江上 格²⁾, 吉岡正智²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 多摩永山病院外科): 食道静脈瘤に対する部分脾動脈塞栓術 (PSE) 併用内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL) の有用性の検討. Gastroenterological Endoscopy 1998 ; 40 : 2113-2118.
 - 26) 谷合信彦, 橋本正好¹⁾, 恩田昌彦, 田中宣威²⁾, 田尻 孝, 瀬谷知子¹⁾ (1) 三菱大倉山病院外科, 2) 千葉北総病院外科): 魚骨による Meckel憩室穿孔の1例. 日臨外会誌 1998 ; 59 : 2603-2606.
 - 27) 長谷川博一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 大川敬一, 吉行俊郎, 加藤俊二, 徳永 昭, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): *Helicobacter pylori* 除菌療法後の抗生剤耐性菌出現の検索. Prog Dige Endosco 1998 ; 52 : 94-95.
 - 28) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 金子昌裕, 土屋喜一, 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 東京都老人総合研究所臨床病理): 食道粘表皮癌の2例. Gastroenterological Endoscopy 1998 ; 40 : 1167-1171.
 - 29) 中村 賢, 田久保海誉, 田中洋一, 真船健一, 笹島耕二, 宮下正夫, 江崎行芳, 加藤基伸, 押村満男: 腫瘍マーカーとしてのテロメラーゼ活性: 食道癌を例として. 腫瘍マーカー研究会誌 1998 ; 12 : 117-119.
 - 30) 川野陽一, 恩田昌彦, 宮下正夫, 吉行俊郎, 松谷 毅, 倉持晋久, 萩原信敏, 土屋喜一, 笹島耕二, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 下部食道癌穿孔による汎発性腹膜炎に対し, 腹膜炎手術後に内視鏡的ステント挿入した1例. Prog Dige Endosco 1998 ; 53 : 73-75.
 - 31) 松倉則夫, 恩田昌彦, 加藤俊二, 長谷川博一, 吉行俊郎, 徳永 昭, 山田宣孝¹⁾ (1) 病理第2): *Helicobacter pylori* の除菌治療による腸上皮化生の可逆性の検討 Preliminary results. 消化器癌の発生と進展 1998 ; 10 : 53-56.
 - 32) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 吉行俊郎, 松倉則夫: 抗癌剤感受性テスト: 胃癌: Dihydropyrimidine dehydrogenase (DPD) や薬物代謝酵素 glutathione S-transferase, チトクローム p450 の酵素活性の遺伝的個体差からみた抗癌剤の感受性判定の試み. 癌治療と宿主 1998 ; 10 : 394-399.
 - 33) 山村 進, 恩田昌彦, 宮下正夫, 笹島耕二, 徳永 昭, 吉田 寛, 山下精彦¹⁾, 弦間和仁²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 放射線科): 巨大な胃平滑筋肉腫に対し術前動脈塞栓術が有効であった1例. 日臨外会誌 1999 ; 60 : 421-425.
- (2) 総説:
- 1) 古川清憲, 恩田昌彦: 感染症対策: チェックしておくべき検査 (AIDS, 肝炎など). 外科 1998 ; 60 (6) : 703-708.
 - 2) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝: 経門脈的静脈瘤塞栓術 (PTO, TIO) の適応と手技 (特集: 今日の食道・胃静脈瘤治療のすべて). 外科治療 1998 ; 79 (6) : 671-675.
 - 3) 内田英二, 恩田昌彦, 田尻 孝, 小林 匡, 相本隆幸, 中村慶春, 山村 進, 松下 晃, 柳 健, 小川芳雄, 有馬保生, 江上 格¹⁾, 山下精彦²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 千葉北総病院外科): 内視鏡的乳頭バルーン拡張

術 (EPBD) による経乳頭の胆管結石摘出術. 日医大誌 1998 ; 65 (4) : 328-331.

- 4) 美濃部かおり, 松本智司, 江見 充¹⁾ (1) 老人病研究所分子生物) : 切除乳癌組織の遺伝子診断. 乳癌の臨床 1998 ; 13 (3) : 541-546.
- 5) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 藤田逸郎 : 術後局所浸出液へのサイトカイン出現. Biomedical Perspectives 1998 ; 7 : 19-26.
- 6) 宮下正夫, 恩田昌彦, 笹島耕二 : ステロイド療法. 救急医学 1998 ; 22 : 1885-1888.
- 7) 高崎秀明, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 吉村和泰, 横山滋彦, 永嶋裕司 : (特集 : 絞扼性イレウスの診断と治療) その問題点について : 当科における絞扼性イレウス症例の検討. 日腹部救急医学会誌 1998 ; 18 : 519-524.
- 8) 松倉則夫, 恩田昌彦, 徳永 昭, 山田宣孝¹⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理第2) : *Helicobacter pylori* 感染と胃癌との関係. 日医大誌 1998 ; 65 (5) : 441-442.
- 9) 坂東功一, 江見 充¹⁾, 中村祐輔 (1) 老人病研究所分子生物) : 乳癌の遺伝子から見たハイリスクグループ. 日乳癌検診会誌 1998 ; 7 : 247-256.
- 10) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 白川 毅, 平本義浩, 小栗 剛, 寺本 忠, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫 : 胃癌化学療法の効果 : 術前内視鏡生検材料における Thymidylate Synthase の発現. 消化器癌の発生と進展 1998 ; 10 : 379-380.
- 11) 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘 : エンドトキシン up date, 抗エンドトキシン療法 : 抗エンドトキシン抗体, 抗メデイエーター抗体の有効性? . 集中治療 1999 ; 11 : 153-159.
- 12) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 藤田逸郎, 木山輝郎, 李 榮浩 : 外科手術後局所浸出液中の免疫抑制物質と細胞増殖因子. 侵襲と免疫 1999 ; 8 : 27-32.
- 13) 牧野浩司, 恩田昌彦, 宮下正夫, 野村 務, 丸山 弘, 長澤重直, 土屋喜一, 萩原信敏, 笹島耕二, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 外科的侵襲とリンパ球のアポトーシス. 侵襲と免疫 1999 ; 8 : 22-26.

著 書

- 1) 恩田昌彦 : [分担] 急性腹膜炎・横隔膜下膿瘍. 今日の治療指針1998 (和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明編), 1998 ; pp407-408, 医学書院.
- 2) 徳永 昭, 恩田昌彦, 藤田逸郎, 白川 毅 : [分担] 創傷治療. 臨床侵襲学 (小川道雄, 齋藤英昭編), 1998 ; pp374-381, へるす出版.
- 3) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 斎藤忠生, 丸山 弘, 秋谷行宏, 芦苺正幸, 前澤勝美, 田中宣威¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : [分担] エンドキシンショック時の微小循環変化に及ぼす mast cell の影響. エンドキシン研究1 : 基礎と臨床. 日本エンドトキシン研究会編 (日本エンドトキシン研究会 近藤元治, 吉川敏一, 玉熊正悦, 小玉正智, 中野昌康編), 1998 ; pp123-127, 菜根出版 (東京).
- 4) 横山滋彦, 恩田昌彦 : [分担] イレウスの治療における long tube の意義と選択的小腸造影. 別冊医学のあゆみ 消化器疾患 state of arts ver2. I. 胃・腸 (玉熊正悦, 望月英隆編), 1998 ; pp178-179, 医師薬出版.
- 5) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 丸山 弘, 秋谷行宏, 芦苺正幸, 前澤勝美, 田中宣威¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : [分担] 胃癌術後に発症した緑膿菌による重症壊死性筋膜炎の1例. 日本外科感染症研究第10巻 日本外科感染症研究会編 (日本外科感染症研究会 岩井重富編), 1998 ; pp127-131, サイエッド・パブリケーションズ (東京).
- 6) 金子昌裕, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 隈崎達夫¹⁾, 荒牧琢己²⁾ (1) 放射線科, 2) 第1内科) : [分担] 肝性脳症をともなう門脈 : 大循環シャントに対し血管塞栓術が有効であった直腸静脈瘤の1例. 示唆に富む肝疾患 (佐藤俊一編), 1999 ; pp131-136, 新興医学出版社 (東京).

- 7) 徳永 昭, 恩田昌彦, 木山輝郎: [分担] 創傷治癒の分子機構. 外科分子病態学 (小川道雄, 齋藤英昭編), 1999; pp139-141, 医学書院.
- 8) 田尻 孝, 恩田昌彦, 有馬保生: [分担] IV消化器疾患5. 急性胆嚢炎. 経静脈治療オーダーマニュアル (和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明, 島崎修次, 飯野靖彦編), 1999; pp207-210, メディカルレビュー社.
- 9) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 藤田逸郎, 木山輝郎, 李 榮浩: [分担] 外科手術後局所侵出液中の免疫抑制作用と細胞増殖因子. Surgical Trauma & Immunological Responses (小川道雄, 北島政樹編), 1999; pp27-32, メジカルビュー社.

学会発表

[1997年度追加分]

一般講演:

- 1) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 土屋喜一, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 術前ステロイド投与量とサイトカインの変動. 第4回外科侵襲とサイトカイン研究会, 1998. 2.
- 2) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 土屋喜一, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 食道癌手術における術前ステロイド投与量の検討. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 3) 牧野浩司: 外科的侵襲とT-cell apoptosis. 第5回外科侵襲とサイトカイン研究会, 1998. 12.

(1) シンポジウム:

- 1) 松倉則夫: Basic and Clinical Research in Gastric Cancer. Can we regard intestinal metaplasia as a premalignant condition? From clinicopathological basis. 第11回国際がん研究シンポジウム, 1998. 4.
- 2) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 松田範子, 長谷川博一, 山下精彦¹⁾, 徳永 昭 (1) 千葉北総病院外科): 残胃におけるHelicobacter pyloriの感染と残胃炎, 残胃癌の発生. 第70回胃癌学会, 1998. 6.
- 3) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 長谷川博一, 宮下正夫, 樋口勝美, 古川清憲, 笹島耕二, 田尻孝, 山下精彦¹⁾, 徳永 昭 (1) 千葉北総病院外科): 術後高度肝障害発生の危険因子: 手術侵襲や薬物解毒酵素Glutathione S transferase M1 (GSTM1) 遺伝子欠損による影響. 第23回外科系連合学会, 1998. 6.
- 4) 鈴木英之, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 丸山 弘, 秋谷行宏, 荻苺正幸, 前澤勝美, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 消化器外科領域における血中エンドトキシンと血液培養成績の検討. 第4回日本エンドトキシン研究会, 1998. 9.
- 5) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝: 内視鏡的食道静脈瘤治療の功罪. 第5回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会総会, 1998. 9.
- 6) 松倉則夫, 島田 隆¹⁾ (1) 生化第2): 自殺遺伝子による胃癌の遺伝子治療の問題点と対策 (主題: 消化器癌に対する遺伝子治療の展望). 第40回日本消化器病学会大会, 1998. 10.
- 7) 森山雄吉¹⁾, 恩田昌彦, 松田範子, 谷合信彦, 吉田 寛, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻 孝, 内山喜一郎, 京野昭二 (1) 第二病院消化器病センター): 食道静脈瘤治療中あるいは肝切除後の肝機能増悪例に対する高気圧酸素療法 (難治性疾患の高圧酸素治療). 第33回日本高気圧環境医学会総会, 1998. 11.
- 8) 古川清憲, 恩田昌彦: 深在性真菌症の治療指針: 外科領域から. 第11回日本外科感染症研究会, 第2回日中外科感染症シンポジウム合同学会, 1998. 12.
- 9) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 小林 匡, 相本隆幸, 山村 進, 柳 健, 松下 晃, 会田邦晴, 田尻 孝, 山下精彦: 重症急性膵炎における膵酵素阻害剤動注療法の適応とタイミング: 予後点数の推移から. 第32回日本腹部救急医学会総会, 1999. 3.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 内田英二, 恩田昌彦：重症急性膵炎の早期重症判定と後期膿瘍形成の予測：重症度判定基準予後因子およびCT所見のスコア化の有用性。第29回日本膵臓学会大会, 1998. 4.
- 2) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 真々田裕宏, 松本智司, 山本一仁, 金子昌裕, 峯田 章, 吉岡正人, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科)：長期予後とQOLからみた食道静脈瘤治療成績。第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 3) 樋口勝美, 相本隆幸, 加藤修司¹⁾, 廣井 信, 武内俊章¹⁾, 恩田昌彦, 古川清憲, 源河敦史, 美濃部かおり, 古川恵子 (1) 総合会津中央病院外科)：閉経前進行・再発乳癌における治療。第21回福島・宮城乳腺疾患研究会, 1998. 9.
- 4) 松本智司, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 吉岡正人, 峯田 章, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科)：Vp3肝細胞癌を伴った食道静脈瘤症例の問題点と治療法の選択 (門脈塞栓を伴う食道静脈瘤症例の問題と治療。第5回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会総会, 1998. 9.
- 5) 小川芳雄, 恩田昌彦, 田尻 孝, 有馬保生, 内田英二, 吉田 寛, 斎藤忠生, 小林 匡, 横山滋彦, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 見, 伊藤誠二, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科)：緊急胆道ドレナージ手技選択の検討：緊急胆道ドレナージ手技の選択とその得失。第31回日本腹部救急医学会総会, 1998. 9.
- 6) 永嶋裕司, 恩田昌彦, 田中宣威¹⁾, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 佐々部一 (1) 千葉北総病院外科)：癒着性イレウスの再発症例の検討。第31回日本腹部救急医学会総会, 1998. 9.
- 7) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝：食道静脈瘤に対する内視鏡的治療成績の検討：血行動態からみた治療効果予測。第2回日本肝臓学会大会, 1998. 10.
- 8) 田尻 孝, 恩田昌彦, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 松崎 栄, 小嶋隆行, 山本一仁, 金子昌裕, 秋丸琥甫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科)：食道・胃静脈瘤の新しい治療戦略としてのInterventional radiology (IVR)。第99回日本外科学会総会, 1999. 3.

(3) ワークショップ：

- 1) 吉田 寛, 田尻 孝：食道静脈瘤に対する各種内視鏡的治療の選択。第55回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 4.
- 2) 丸山 弘, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 秋谷行宏, 前澤勝美, 芦荊正幸, 吉村和泰, 高崎秀明, 田中宣威¹⁾ (1) 千葉北総病院外科)：大腸手術例における予防投与抗菌薬の臨床的検討。第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 3) 田尻 孝：PSE (門脈圧亢進症の治療におけるIVRの進歩)。第18回日本画像医学会, 1999. 2.

(4) 一般講演：

- 1) Okazaki I.J, Lesma E.A, Moss J, Horiba K, Ferrans V.J, Bortell R, Madison J.M, Mordes J.P, Greiner D.L, Rossini A.A：Identification of Rat RT6.1 alloantigen, a glycosylphosphatidyl-inositol-linked ADP-ribosyltransferase in bronchial epithelial cells. ATS International conference (Chicago), 1998. 4.
- 2) Usuki J, Horiba K, Matsumoto Y, Chu S.C, Ferrans V.J, Moss J：Inverse correlation between markers of cell proliferation and expression of melanosomal antigen in smooth muscle cells in lymphangioliomyomatosis (LAM) and in cultured melanosoma cell lines. ATS International conference (Chicago), 1998. 4.
- 3) Kato S, Onda M, Matsuda N, Yoshida H, Umehara M, Matsukura N, Tokunaga A, Tajiri T, Naito Z¹⁾ (1) 病理第2)：GENETIC POLYMORPHISMS OF ALCOHOL METABOLIC ENZYMES FOR LIVER CIRRHOSIS AND HEPATOCELLULAR CANCER. AGA (DDW 98 USA), 1998. 5.
- 4) Takahashi Y, Onda M, Tanaka N¹⁾, Seya T, Kanazawa Y, Yoshimura K, Yamada T, Koizumi M (1) 千葉北総病院外科)：The effect of a Gastrin antagonist (Proglumide) on human colorectal neuroendocrine cell

- carcinoma (NEC) cell line. World Congress of Gastroenterology, 1998. 9.
- 5) Takahashi Y, Onda M, Tanaka N¹⁾, Seya T, Yamada T ^{(1) 千葉北総病院外科} : The effect of Gastrin and its receptor antagonist on human colorectal neuroendocrine cell carcinoma (NEC) cell line. 16th World Congress Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae (Madrid), 1998. 9.
 - 6) Suzuki H, Onda M, Furukawa K, Maruyama H, Akiya Y, Maezawa K, Ashikari M, Tanaka M : A device of chemical intestinal preparation for colorectal operations. 16th World Congress Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae (Madrid), 1998. 9.
 - 7) Hagiwara N, Onda M, Sasajima K, Miyashita M, Okawa K, Matsutani T, Tsuchiya Y, Yamashita K¹⁾, Takubo K²⁾ ^{(1) 千葉北総病院外科, 2) 東京都老人総合研究所臨床病理} : Properties of Mucoepidermoid carcinoma of the Esophagus. VII World Congress International Society for Diseases of the Esophagus (Montreal), 1998. 9.
 - 8) Miyashita M, Onda M, Matsutani M, Tsuchiya Y, Hagiwara N, Okawa K, Maruyama H, Nomura T, Makino H, Sasajima K, Yamashita K¹⁾ ^{(1) 千葉北総病院外科} : Serum circulating cytokeratin 19 fragment may indicate prognosis of squamous cell carcinoma of the esophagus. VII World Congress International Society For Diseases Of The Esophagus (Montreal), 1998. 9.
 - 9) Matsukura N, Onda M, Kato S, Hasagawa H, Yoshiyuki T, Yamahatsu J, Tokunaga A : *H. pylori* infection in the remnant stomach after gastrectomy. 16th World Congress Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae (Madrid), 1998. 9.
 - 10) Matsukura N, Onda M, Hasegawa H, Suzuki S¹⁾, Shimada T¹⁾ ^{(1) 2nd Department Biochem} : Suicide gene therapy for gastric cancer in dogs induced by ENNG. 16th World Congress Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae (Madrid), 1998. 9.
 - 11) Tajiri T, Onda M, Yoshida H, Umehara M, Mamada Y, Matsumoto S, Kaneko M, Yamamoto K, Tani-ai N, Nishikubo H, Yamashita K¹⁾, Kumazaki T²⁾ ^{(1) 千葉北総病院外科, 2) 放射線科} : Treatment of Spontaneous Ruptured Hepatocellular Carcinoma. 16th World Congress Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae (Madrid, Spain), 1998. 9.
 - 12) Yoshioka M, Onda M, Tajiri T, Toba M, Yoshida H, Mamada Y, Matsumoto S, Yamamoto K, Kaneko M : A Case Report of Obstinate Esophago-Gastric Varices with Unusual Hemodynamic Changes. 16th World Congress Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae (Madrid, Spain), 1998. 9.
 - 13) Kaneko M, Onda M, Tajiri T, Toba M, Yoshida H, Mamada Y, Matsumoto S, Yamamoto K, Kumazaki T¹⁾ ^{(1) 放射線科} : A Case of PBC with Hepatic Encephalopathy -Use of 3 Dimensional-CT (3D-CT) to Examine Portal Systemic Shunts. 16th World Congress Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae (Madrid, Spain), 1998. 9.
 - 14) Yoshimura K, Onda M, Tanaka N, Furukawa K, Yokoi K : Growth of the Desmoid Tumor in the Patients with Familial Adenomatous polyposis. 16th World Congress Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae, (Madrid, Spain), 1998. 9.
 - 15) Hiramoto Y, Onda M, Tokunaga A, Ikeda K, Okino T, Lee Y, Iida S, Kiyama T, Yoshiyuki T, Hasegawa H, Matsukura N : Growth Factor Expression in the Healings of Stapled Esophagojejunal Anastomosis after Total Gastrectomy in Swine. 16th World Congress Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae (Madrid, Spain), 1998. 9.
 - 16) Bando K, Matsumoto S, Onda M¹⁾, Akiyama F²⁾, Sakamoto G²⁾, Yoshimoto M³⁾, Kasumi F³⁾, Nakamura Y⁴⁾, Emi M ^{(1) 第一外科, 2) 癌研・病理, 3) 癌研・外科, 4) 東大・医科研} : Frequent allelic loss at 6q26-27 in breast carcinomas of the solid tubular histologic type. Am. Soc. Hum. Genet., Ann. Mtg, 1998. 10.

- 17) Kurose K³⁾, Bando K, Fukino K³⁾, Sugisaki T¹⁾, Araki T²⁾, Emi M³⁾ (1) 病理, 2) 産婦人科, 3) 老研分子生物) : Somatic mutations of the PTEN/MMAC1 gene in fifteen Japanese endometrial cancers : evidence for inactivation of both alleles. Am. Soc. Hum. Genet., Ann. Mtg, 1998. 10.
- 18) Yokomuro S, Sakamoto T¹⁾, Ezure T¹⁾, Murase N¹⁾, Lunz J¹⁾, Anthony D¹⁾ (1) Thomas E. Starzl Transplantation Institute, Departments of Pathology and Surgery, University of Pittsburgh, Pittsburgh) : INTERLEUKIN-6 (IL-6) PROMOTES MOUSE BILE DUCT EPITHELIAL CELL VIABILITY AND GROWTH, IN VITRO. American Association for the study of Liver Diseases. 49th Annual Meeting, 1998. 11.
- 19) Yokomuro S, Sakamoto T¹⁾, Ezure T¹⁾, Murase N¹⁾, Lunz J¹⁾, Anthony D¹⁾ (1) Thomas E. Starzl Transplantation Institute, Departments of Pathology and Surgery, University of Pittsburgh) : GROWTH CONTROL IN CHOLANGIOCARCINOMA. A study of IL6/gp130 and HGF/met Stimulation and Activin and TGF- α Inhibition. American Association for the study of Liver Diseases. 49th Annual Meeting, 1998. 11.
- 20) Tajiri T, Onda M, Akimaru K, Toba M, Umehara M, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Matsumoto S, Yamamoto K, Kaneko M, Yamashita K¹⁾, Kumazaki T²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 放射線科) : Recurrence Rate After Endoscopic Therapies Investigated By Hemodynamic Flow Of Esophageal Varices. 98 ELSA (Endoscopic Laparoscopic Surgery of Asia) (China), 1998. 11.
- 21) Gonzalez A, Segura A.M, Horiba K, Luna R.E, Stetler-Stevenson W.G, Willerson J.T, McAllister H.A.J, Ferrans V.J : Matrix Metalloproteinases and their inhibitors in granulomatous lesions of pulmonary and cardiac sarcoidosis. 71-st scientific session of AHA (Dallas), 1998. 11.
- 22) Nagai H²⁾, Kim Y¹⁾, Bando K, Kawamura N²⁾, Koyama M²⁾, Emi M²⁾ (1) 老研分子生物) : Detection and Molecular Cloning of Frequently Aberrated in Human Hepatocellular Carcinoma. Human Genome Mapping, 1999. 3.
- 23) 土屋喜一, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 松谷 毅, 大川敬一, 萩原信敏, 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 東京都老人総合研究所臨床病理) : 食道癌術前化学療法の転位陽性リンパ節個数と予後の検討. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 24) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 飯田信也, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院) : 表層拡大型胃癌の内視鏡診断と切除範囲の決定. 第55回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 4.
- 25) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 田中茂夫¹⁾, 山下精彦²⁾ (1) 第2外科, 2) 千葉北総病院外科) : 重症心疾患を有する胃癌患者における心機能と手術危険度の評価. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 26) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 田中宣威, 丸山 弘, 秋谷行宏, 芦苅正幸, 前澤勝美 : 当教室における血液培養成績とSIRSの検討. 第13回日本Shock学会総会, 1998. 4.
- 27) 峯田 章, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 吉岡正人, 隈崎達夫¹⁾ (1) 放射線科) : 直腸静脈瘤の出血に対し内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL) を施行した2症例. 第7回食道胃静脈瘤造影研究会, 1998. 4.
- 28) 小林 匡, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 中村慶春, 相本隆幸, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理) : 膵頭部癌の術後局所再発における神経浸潤の意義. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 29) 小林 匡, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 中村慶春, 相本隆幸, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理) : ヒト膵癌における肝転移と Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF) の発現との関連性. 第29回日本膵臓学会, 1998. 4.
- 30) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 柳 健, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡,

- 山中洋一郎, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 病理第2) : ハムスター実験腫瘍株 (PGHAM-1) の腹膜播種性転移の経時的検討. 第29回日本膵臓学会大会, 1998. 4.
- 31) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 伊藤誠二, 内田英二, 小川芳雄, 鈴木英之, 横室茂樹, 相本隆幸, 中村慶春, 山村 進, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 総胆管結石に対する治療法の検討. 第34回日本胆道学会総会 (DDW-Japan), 1998. 4.
- 32) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 松谷 毅, 吉行俊郎, 宮下正夫, 樋口勝美, 松倉則夫, 古川清憲, 笹島耕二, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 胃癌, 食道癌, 乳癌手術例の検討による術後高度肝障害発症の危険因子の解析. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 33) 加藤俊二, 恩田昌彦, 田尻 孝, 松田範子, 山本一仁, 金子昌裕, 吉田 寛, 梅原松臣, 松倉則夫, 徳永 昭, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : アルコールや発癌物質の代謝および活性化酵素の遺伝的個体差からみた肝硬変から肝癌へと進行する高危険度群の予測. 第34回日本肝臓学会, 1998. 4.
- 34) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 徳永 昭, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 胃の多段階発がん過程におけるペプシノーゲン (PG) I値, ペプシノーゲンI/II (PG I/II) 比, 血清Helicobacter pylori (HP) 抗体価および発がん物質の代謝活性化に關与する酵素の遺伝子多様性の關連. 第84回日本消化器病学会, 1998. 4.
- 35) 徳永 昭, 恩田昌彦, 奥田武志, 平本義浩, 池田研吾, 白川 毅, 瀧田雅仁, 小栗 剛, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾, 末岡信夫²⁾, 小林正文²⁾, 杉崎裕一³⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 第3内科, 3) 病理部) : 消化管潰瘍修復におけるpS2蛋白質の意義: 十二指腸潰瘍内視鏡生検を用いた免疫組織化学. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
- 36) 徳永 昭, 恩田昌彦, 藤田逸郎, 白川 毅, 瀧田雅仁, 池田研吾, 平本義浩, 寺本 忠, 小栗 剛, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 癌手術における侵襲定量化の試み: 胃癌術後腹腔侵出液サイトカインと末梢血免疫反応との関係. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 37) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 山村 進, 山本一仁, 相本隆幸, 小林 匡, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 隈崎達夫²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 放射線科) : 急性膵炎の入院初期CT所見による後期膿瘍形成の予測. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 38) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 柳 健, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 十二指腸洗浄液の腫瘍診断における有用性: K-ras変異解析およびCEA濃度測定. 第29回日本膵臓学会大会, 1998. 4.
- 39) 吉岡正人, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷谷信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 山下精彦¹⁾, 峯田 章, 隈崎達夫²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 放射線科) : 食道静脈瘤難治例に対し左胃動脈塞栓術 (LGE) が有効であった1症例. 第55回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 4.
- 40) 金子昌裕, 恩田昌彦, 田尻 孝, 小川芳雄, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 松本智司, 廣瀬洋一郎, 山本一仁, 坂東功一, 山下精彦¹⁾, 水村 直²⁾, 汲田伸一郎²⁾, 隈崎達夫²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 放射線科) : 99mTc-GSAによるScintiphotosplenoportography (SSP) の経験. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
- 41) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 中村慶春, 小林 匡, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理) : 術後局所再発からみた膵頭部癌における神経浸潤の意義. 第29回日本膵臓学会総会, 1998. 4.
- 42) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 中村慶春, 小林 匡, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理) : 膵臓癌におけるVEGFの発現とその意義: とくに肝転移再発との関連性から. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 43) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 柳 健, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡,

- 山中洋一郎, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 第2病理): ハムスター実験腫瘍における腹膜播種性転移機序の解明. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 44) 笹島耕二, 恩田昌彦, 宮下正夫, 松谷 毅, 萩原信敏, 土屋喜一, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 食道癌術後の多臓器障害とTNF. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 45) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 寺本 忠, 小栗 剛, 藤田逸郎, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫: 消化管の創傷治癒: プタ胃全摘, 食道空腸器械吻合創の治癒過程をモデルとした実験的研究. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 46) 池田研吾, 恩田昌彦, 平本義浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 寺本 忠, 小栗 剛, 藤田逸郎, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫: 消化管創傷治癒モデル作製の試み: プタ胃全摘, 食道空腸器械吻合創治癒過程の研究. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
- 47) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 寺本 忠, 藤田逸郎, 奥田武志, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾ (1) 多摩永山病院病理): プタ胃全摘食道空腸器械吻合創の治癒過程に発現する増殖因子と受容体. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
- 48) 柴美佳子, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 小泉岐博, 真々田裕宏, 吉田 寛, 木山輝郎, 梅原松臣, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻 孝: 残胃癌と肝細胞癌の併存した1例. 第249回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 5.
- 49) 美濃部かおり^{1, 2)}, 江見 充¹⁾, 中村祐輔³⁾, 坂元吾偉⁴⁾, 吉本賢隆⁵⁾, 霞富士雄⁵⁾, 古川清憲²⁾, 樋口勝美²⁾, 恩田昌彦²⁾ (1) 老人病研究所・分子生物, 2) 第1外科, 3) 東大・医科研, 4) 癌研・病理, 5) 癌研・乳腺外科): 乳癌におけるMicrosatellite Instabilityの検討. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 50) 美濃部かおり^{1, 2)}, 古川清憲¹⁾, 樋口勝美¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 江見 充²⁾ (1) 第1外科, 2) 老人病研究所分子生物学): 乳癌の染色体異常. 遺伝子異常. 日本医大医学会第95回例会, 1998. 5.
- 51) 古川清憲, 恩田昌彦, 樋口勝美, 美濃部かおり, 古川恵子, 有馬保生, 田中宣威¹⁾, 宮下次廣²⁾, 内藤善哉³⁾, 杉崎祐一³⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 放射線科, 3) 病理): n因子からみた腋窩リンパ節郭清について. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 52) 古川恵子, 恩田昌彦, 古川清憲, 樋口勝美, 美濃部かおり, 有馬保生, 田中宣威¹⁾, 内藤善哉²⁾, 杉崎祐一²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 病理): 卵巣転移により発見された乳癌の1例. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 53) 樋口勝美, 恩田昌彦, 古川清憲, 源河敦史, 美濃部かおり, 古川恵子: 教室における乳房温存療法の成績. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 54) 坂東功一, 永井尚生¹⁾, 松本智司, 田尻 孝, 恩田昌彦, 江見 充¹⁾ (1) 老人病研究所分子生物): 肝臓癌の染色体・遺伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 5.
- 55) 坂東功一^{1, 2)}, 恩田昌彦, 松本智司^{1, 2)}, 中村祐輔³⁾, 坂元吾偉⁴⁾, 吉本賢隆⁵⁾, 霞富士雄⁵⁾, 江見 充¹⁾ (1) 老人研分子生物, 2) 第1外科, 3) 東大・医科研, 4) 癌研・病理, 5) 癌研・乳腺外科): 6q26-27における染色体欠失と乳癌組織型との相関. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 56) 小川芳雄, 恩田昌彦, 田尻 孝, 伊藤誠二, 有馬保生, 内田英二, 樋口勝美, 斎藤忠生, 横室茂樹, 横山滋彦, 相本隆幸, 丸山 弘, 中村慶春, 山下精彦¹⁾, 黒田 肇²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 第3内科): 腹腔鏡下胆嚢摘出術における胆道損傷の3例. 第27回日本胆道外科研究会, 1998. 5.
- 57) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 白川 毅, 瀧田雅仁, 奥田武志, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾ (1) 多摩永山病院病理部): 消化管の創傷治癒: プタ食道空腸器械吻合創の治癒過程に発現する増殖因子と受容体. 第50手術手技研究会, 1998. 5.
- 58) 土屋喜一, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 松谷 毅, 大川敬一, 萩原信敏, 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 東京都老人総合研究所臨床病理): 転移個数より見た胸部食道癌リンパ節郭清の検討. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 6.

- 59) 土屋喜一, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 萩原信敏, 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 東京都老人総合研究所臨床病理) : 術前化学療法が画像上CRであった食道類基底細胞癌の1例. 第52回食道疾患研究会, 1998. 6.
- 60) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 飯田信也, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 遠位側胃切除後の再建術式とその機能的評価の試み : 放射線不透過マーカーによる検査とアンケート調査による. 第70回日本胃癌学会総会, 1998. 6.
- 61) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 飯田信也, 木山輝郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 重症心疾患を有する胃癌患者の術前心機能と手術危険度の評価. 第23回日本外科系連合学会学術集会, 1998. 6.
- 62) 長谷川博一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 内藤善哉¹⁾, 加藤俊二, 吉行俊郎, 飯田信也, 徳永 昭, 山下精彦²⁾ (1) 第2病理, 2) 千葉北総病院外科) : Epstein-Barr virusと*Helicobacter pylori*に感染した胃癌症例について. 第23回外科系連合学会学術集会, 1998. 6.
- 63) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 土屋喜一, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 食道癌手術におけるIL-10, IL-12の変動について. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 6.
- 64) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 丸山 弘, 松谷 毅, 土屋喜一, 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 東京都老人総合研究所臨床病理) : 食道原発悪性黒色腫の1例. 第52回日本食道疾患研究会, 1998. 6.
- 65) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 李 栄浩, 平本義浩, 池田研吾, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫 : 噴門側胃切除後の再建術式とその機能評価の試み. 第28回胃外科・術後障害研究会, 1998. 6.
- 66) 徳永 昭, 恩田昌彦, 池田研吾, 平本義浩, 白川 毅, 瀧田雅仁, 藤田逸郎, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 樋口勝美, 松倉則夫, 古川清憲, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 手術後の免疫抑制と創, 腹腔侵出液. 第23回日本外科系連合学会, 1998. 6.
- 67) 丸山 弘, 恩田昌彦, 古川清憲, 田尻 孝, 吉田 寛, 鈴木英之, 秋谷行宏, 松谷 毅, 芦苺正幸, 前澤勝美 : 肝細胞癌に対する肝切除後感染症の発症要因の検討. 第46回日本化学療法学会総会, 1998. 6.
- 68) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 白川 毅, 平本義浩, 小栗 剛, 寺本 忠, 藤田逸郎, 飯田信也, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫 : 内視鏡生検材料による胃癌術前化学療法効果予測の試み : 免疫染色 (TS, EGFR, dThdPase) との関連. 第70回日本胃癌学会, 1998. 6.
- 69) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 李 栄浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 小栗 剛, 寺本 忠, 藤田逸郎, 飯田信也, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫 : 消化管器械吻合創治癒過程の解析 : プタ胃全摘食道空腸器械吻合創の経時的観察. 第23回日本外科系連合学会学術集会, 1998. 6.
- 70) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 沖野哲也, 飯田信也, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾ (1) 多摩永山病院病理部) : 消化管器械吻合創治癒過程の解析 : プタ胃全摘食道空腸器械吻合創に発現する増殖因子と受容体. 第23回日本外科系連合学会学術集会, 1998. 6.
- 71) 谷合信彦, 橋本正好¹⁾, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛 (1) 三菱大倉山病院外科) : 魚骨によるMeckel憩室穿孔の1例. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 72) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 沖野哲也, 李 栄浩, 池田研吾, 平本義浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 藤田逸郎, 飯田信也, 木山輝郎, 長谷川博一, 松倉則夫 : 消化管の創傷治癒 : プタ胃全摘・食道空腸器械吻合創の内視鏡的, 組織化学的研究. 第35回日本外科代謝栄養学会, 1998. 7.
- 73) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 心疾患合併胃癌患者の術前心機能評価. 第52回

日本消化器外科学会総会, 1998. 7.

- 74) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 梅原松臣, 吉田 寛, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 峯田 章, 吉岡正人, 山下精彦¹⁾, 田島廣之²⁾, 隈崎達夫²⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 放射線科, 3) 第2病理): 肝癌破裂例の治療成績と病理学的特徴. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 75) 鈴木英之, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 樋口勝美, 斎藤忠生, 丸山 弘, 秋谷行宏, 芦刈正幸, 前澤勝美, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 大腸疾患手術症例における化学的腸管処置法の検討: 単一施設における prospective study. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 76) 芦刈正幸, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏, 前澤勝美: 重症感染症時の脂質代謝に関する臨床的・実験的検討. 第35回日本外科代謝栄養学会, 1998. 7.
- 77) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 伊藤誠二, 内田英二, 樋口勝美, 小川芳雄, 梅原松臣, 斎藤忠生, 吉田 寛, 鈴木英之, 相本隆幸, 横山滋彦, 丸山 弘, 中村慶春, 真々田裕宏, 松本智司, 山本一仁, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 悪性胆道狭窄に対する Expandable Metallic Stent (EMS) の功罪. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 78) 松倉則夫, 恩田昌彦, 徳永 昭, 秋谷行宏, 池田研吾, 白川 毅, 大川敬一, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 山下精彦, 山田宣孝¹⁾ (1) 第2病理): 残胃と *Helicobacter pylori* 感染: 慢性活動性胃炎との関係について (第3報). 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 79) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 松倉則夫, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院): 胃癌術後の肝機能におよぼす薬剤の影響と薬物代謝酵素の遺伝的個体差の関連. 第52回日本消化器外科学会, 1998. 7.
- 80) 徳永 昭, 恩田昌彦, 平本義浩, 池田研吾, 李 栄浩, 沖野哲也, 白川 毅, 瀧田雅仁, 寺本 忠, 藤田逸郎, 奥田武志, 飯田信也, 木山輝郎, 長谷川博一, 松倉則夫: 消化管の創傷治療: プタ胃全摘, 食道空腸機械吻合創傷治療における増殖因子の出現. 第35回日本外科代謝栄養学会, 1998. 7.
- 81) 徳永 昭, 恩田昌彦, 藤田逸郎, 白川 毅, 瀧田雅仁, 池田研吾, 平本義浩, 寺本 忠, 小栗 剛, 奥田武志, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 胃癌手術後血中免疫マーカーの変動と腹腔侵出液サイトカイン: 乳癌手術との対比. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 82) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 市川太郎²⁾, 田島廣之²⁾, 隈崎達夫²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 放射線科): CT所見による急性膵炎後期膿瘍形成の早期予測. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 83) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 柳 健, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 山中洋一郎, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 病理第2): 膵癌腹膜播種に及ぼす細胞接着 peptide (RGD) の抑制効果に関する基礎的研究. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 84) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 松下 晃, 柳 健, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 山口敏和²⁾, Yun S²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) BML研究所): 術前術後の膵液および十二指腸洗浄液における K-ras 癌遺伝子解析. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 85) 秋谷行宏, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘, 芦刈正幸, 前澤勝美, 田中宣威, 山下精彦¹⁾, 青戸泰二²⁾, 野本剛史²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 中央検査部): 当科において検出分離された細菌の β ラクタマーゼ活性に関する検討. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 86) 小泉岐博, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良¹⁾, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 菅 隼人, 金沢義一, 佐々部一, 山田岳史, 永嶋裕司, 高橋由至, 杉浦 篤, 田中元子 (1) 千葉北総病院外科): 2cm以下進行大腸癌における臨床病理学的検討. 第49回大腸癌研究会, 1998. 7.
- 87) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 白川 毅, 平本義浩, 小栗 剛, 寺本 忠, 藤田逸郎, 飯田信也,

- 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 胃癌術前化学療法効果予測の試み術前内視鏡生検材料の免疫染色 (TS, dThdPase) との関連. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 88) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 沖野哲也, 李 栄浩, 奥田武志, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫: 消化管の創傷治癒: プタ食道空腸器械吻合創の治癒過程に発現する増殖因子と受容体. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 89) 柳 健, 恩田昌彦, 内田英二, 小林 匡, 会田邦晴, 相本隆幸, 横山 正, 井上松応, 中村慶春, 山村 進, 松下 晃, 江上 格¹⁾, 田尻 孝, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 病理第2): ハムスター腺癌細胞株の同種脾内移植による肝転移の特性の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 90) 土屋喜一, 恩田昌彦, 宮下正夫, 笹島耕二, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 大川敬一, 萩原信敏, 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 東京都老人総合研究所臨床病理): 食道癌進展におけるCYFRA21-1の有用性. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 91) 松田範子, 恩田昌彦, 加藤俊二, 吉田 寛, 梅原松臣, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 肝硬変, 肝がんの発症とアセトアルデヒド代謝酵素 Acetaldehyde Dehydrogenase 2 (ALDH2) の遺伝子多型性, 飲酒歴との関連. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 92) 白川 毅, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 李 栄浩, 小泉岐博, 飯田信也, 長谷川博一, 有馬保生, 松倉則夫, 徳永昭, 田尻 孝, 杉崎祐一¹⁾, 斎藤忠生²⁾ (1) 病理部, 2) 波崎済生病院外科): 粘膜下腫瘍形態を呈した胃寄生虫性肉芽腫を腹腔鏡下に切除した1例. 第251回消化器病学会関東支部例会, 1998. 9.
- 93) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 吉田 寛, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 峯田 章, 吉岡正人, 秋丸琥甫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): QOLからみた手術療法の意義. 第5回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会総会, 1998. 9.
- 94) 吉岡正人, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 山本一仁, 金子昌裕, 峯田 章, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 特異な血行動態を呈し保存的治療に難渋した食道胃静脈瘤の1例. 第5回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会総会, 1998. 9.
- 95) 長谷川博一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 沖野哲也, 平本義浩, 池田研吾, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 徳永昭: 出血性胃潰瘍に対する *Helicobacter pylori* の関与と最近の当科での治療. 第7回潰瘍病態研究会, 1998. 9.
- 96) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 田久保海誉¹⁾, 松谷 毅, 土屋喜一, 野村 務, 牧野浩司, 大川敬一, 山下精彦²⁾ (1) 東京都老人総合研究所臨床病理, 2) 千葉北総病院外科): 食道原発粘表皮癌7例の臨床病理学的検討. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 97) 二見良平, 恩田昌彦, 加藤俊二, 松本智司, 倉持晋久, 吉行俊郎, 小川芳雄, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 著明な腹水と遊離ガス像を呈した虫垂憩室炎穿孔の1例. 第251回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 9.
- 98) 美濃部かおり^{1,2)}, 恩田昌彦²⁾, 古川清憲²⁾, 樋口勝美²⁾, 霞富士雄³⁾, 中村祐輔⁴⁾, 江見 充¹⁾ (1) 老人研・分子生物, 2) 第1外科, 3) 癌研・乳腺外科, 4) 東大・医科研): ゲノム不安定性を示す乳癌に認められたPTENの変異. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 99) 峯田 章, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 吉岡正人, 隈崎達夫¹⁾ (1) 放射線科): 種々の治療に抵抗した食道静脈瘤の1例. 第5回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会総会, 1998. 9.
- 100) 小林 匡, 恩田昌彦, 内田英二, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 中村慶春, 相本隆幸, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理第2): 粘液性腺癌患者の生物学的悪性度の検討. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 101) 小林 匡, 恩田昌彦, 内田英二, 柳 健, 松下 晃, 中村慶春, 相本隆幸, 会田邦晴, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 第2病理): 膵頭部癌の術後局所再発における神経浸潤の意義. 第66回日本医科大学

学医学会総会, 1998. 9.

- 102) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 小林 匡, 相本隆幸, 井上松応, 中村慶春, 松下 晃, 柳 健, 田尻 孝, 内藤善哉, 浅野伍朗: ハムスター膵腫腹膜播種の解明ならびに細胞接着 peptide (RGD) の転移抑制効果に関する基礎的研究. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 103) 松下 晃, 恩田昌彦, 内田英二, 小林 匡, 会田邦晴, 相本隆幸, 井上松応, 中村慶春, 山村 進, 柳 健, 田尻 孝, 江上 格¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 病理第2): ハムスター膵腫移植モデルにおける潜在性肝転移の分子生物学的検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 104) 松倉則夫, 恩田昌彦, 加藤俊二, 長谷川博一, 吉行俊郎, 徳永 昭, 山下精彦¹⁾, 山田宣孝²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 病理第2): *H. pylori* の除菌治療による腸上皮化生の可逆性の検討. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 105) 工藤光洋¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永 昭, 恩田昌彦, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理第2): 胃癌組織および背景胃粘膜におけるチトクロム p450 2E1 の発現. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 106) 内藤善哉¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 松倉則夫, 徳永 昭, 恩田昌彦, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理第2): 胃癌組織および背景胃粘膜における染色体不安定性ならびに p53 発現, EB virus の関連について. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 107) 沖野哲也, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 李 栄浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理第2): 胃内内分泌細胞癌の5例. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 108) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 松田範子, 池田研吾, 平本義浩, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 5FU系薬物 + CDDP 術前化学療法の効果と薬物の解毒や活性化に関する glutathione S transferase (GST), cytochrome p450 (CYP) 酵素の遺伝子多様性との関連. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 109) 徳永 昭, 恩田昌彦, 白川 毅, 池田研吾, 李 栄浩, 沖野哲也, 藤田逸郎, 奥田武志, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫: 癌手術後の局所浸出液 (創液, 腹腔浸出液) 中の免疫抑制物質と細胞増殖因子. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 110) 坂東功一, 永井尚生¹⁾, 河村直樹¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 恩田昌彦, 江見 充¹⁾ (1) 老研分子生物): 肝臓における第4番染色体長腕上の欠失領域の解析. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 111) 黒瀬圭輔¹⁾, 坂東功一, 吹野晃一²⁾, 横田 隆²⁾, 小西英喜¹⁾, 米山剛一¹⁾, 土居大祐¹⁾, 太田雄治郎¹⁾, 荒木勤¹⁾, 江見 充²⁾ (1) 産婦人科, 2) 老研分子生物): 子宮体癌にて同定された13種の新規 PTEN 遺伝子体細胞変異. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 112) 永井尚生¹⁾, 坂東功一, 河村直樹¹⁾, 小山雅章¹⁾, 江見 充¹⁾ (1) 老研分子生物): 肝臓の染色体欠失領域の解析. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 113) 河村直樹¹⁾, 永井尚生¹⁾, 坂東功一, 小山雅章¹⁾, 江見 充¹⁾, 柴 忠義²⁾ (1) 老研分子生物, 2) 北里大・理学): 肝細胞癌におけるゲノム不安定性と標的遺伝子の異常の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 114) 坂東功一¹⁾, 永井尚生²⁾, 河村直樹²⁾, 小山雅章²⁾, 松本智司¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 江見 充²⁾, 恩田昌彦¹⁾ (1) 第1外科, 2) 老研分子生物): 肝臓における第4番染色体欠失の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 115) 黒瀬圭輔³⁾, 坂東功一, 吹野晃一³⁾, 横田 隆³⁾, 江見 充³⁾, 杉崎祐一¹⁾, 小西英喜²⁾, 米山剛一²⁾, 土居大祐²⁾, 太田雄治郎²⁾, 荒木 勤²⁾ (1) 病理, 2) 産婦人科, 3) 老研分子生物): 日本人子宮体癌患者において同定された PTEN/MMAC1 遺伝子体細胞変異. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 116) 中村慶春, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 水谷 崇, 飯田信也, 菅 隼人, 山田岳史, 瀧田雅仁, 秋谷行宏, 大野智康, 吉岡正智¹⁾, 内田英二, 田尻 孝, 恩田昌彦 (1) 多摩永山病院外科): 膵・胆管合流異常における膵炎合併症例の検討. 第21回日本膵管胆道合流異常研究会, 1998. 9.
- 117) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 田尻 孝, 山口敏和¹⁾, Yun S¹⁾ (1) BML 研究所): 膵臓の診断における十二指腸洗浄液の有用性: K-ras 点突然変異解析. 第57回日本

癌学会総会, 1998. 9.

- 118) 吉田太郎¹⁾, 高濱克也¹⁾, 林 宏光¹⁾, 石原眞木子¹⁾, 中原 円¹⁾, 市川太郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 池田眞人²⁾, 竹永清人²⁾, 荒牧琢己²⁾, 真々田裕宏, 田尻 孝, 恩田昌彦, 廣瀬洋一郎³⁾, 山中宣昭³⁾, 内藤善哉⁴⁾ (1) 放射線科, 2) 内科第1, 3) 病理第1, 4) 病理第2) : 肝特異性MRI造影剤 (Feridex) による肝細胞線種の診断. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 119) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 松下 見, 柳 健, 田尻 孝, 山下精彦, 山口敏和¹⁾, Yun S¹⁾ (1) BML研究所) : 膵癌におけるK-ras癌遺伝子解析: 術前術後の膵液および十二指腸洗浄液の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 120) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 見, 柳 健, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 病理第2) : ハムスター膵癌腹膜播種性転移に及ぼすRGD peptideの転移抑制効果に関する基礎的研究. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 121) 金子昌裕, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 廣瀬洋一郎, 山本一仁, 峯田 章, 吉岡正人, 後藤慎介¹⁾, 高橋修司¹⁾, 川俣博志¹⁾, 田島広之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (1) 放射線科) : 門脈大循環シャントに対するinterventional radiologyの検討 (巨大門脈大循環シャント症例の問題点と治療). 第5回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会総会, 1998. 9.
- 122) 秋谷行宏, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 水谷 崇, 飯田信也, 菅 隼人, 中村慶春, 瀧田雅仁, 山田岳史, 大野智康, 吉岡正智¹⁾, 内田英二, 田尻 孝, 恩田昌彦 (1) 多摩永山病院外科) : 膵炎合併の合流異常症例の検討: 特に術後経過不良例について. 第21回日本膵管胆道合流異常研究会, 1998. 9.
- 123) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 白川 毅, 平本義浩, 小栗 剛, 寺本 忠, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫: 胃癌化学療法の効果: 術前内視鏡生検材料におけるThymidylate Synthaseの発現. 第9回日本消化器癌発生学会, 1998. 9.
- 124) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 沖野哲也, 李 榮浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 飯田信也, 木山輝郎, 吉田 寛, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理第2) : 胃内内分泌細胞癌の5例. 第9回消化器癌発生学会, 1998. 9.
- 125) 前澤勝美, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏, 芦刈正幸, 田中宣威¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : 重症腹膜炎時の血中患とサイトカインバランスの経時的検討. 第4回日本エンドトキシン研究会, 1998. 9.
- 126) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 金子昌裕 : 食道静脈瘤に対する部分脾動脈塞栓術 (PSE) 併用内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL) の有用性の検討. 第2回日本肝臓学会大会, 1998. 10.
- 127) 柳 健, 恩田昌彦, 内田英二, 小林 匡, 相本隆幸, 井上松応, 中村慶春, 山村 進, 松下 見, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理第2) : ハムスター膵癌の膵内移植モデルにおける肝転移の特性の検討. 第57日本癌学会総会, 1998. 10.
- 128) 杉浦 篤, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和康, 瀬谷知子, 山田岳史, 高橋由至, 小泉岐博 : 大腸癌におけるdThdPase活性と再発の検討. 第57回日本癌学会総会, 1998. 10.
- 129) 櫻澤信行, 杉山賢司, 田中宣威¹⁾, 恩田昌彦, 江角浩安²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 国立がんセンター研究所支所, がん治療開発部) : ヒト大腸aberrant crypt foci (ACF) の一部は多クローン性である. 第22回分子生物学学会, 1998. 10.
- 130) 松田範子, 恩田昌彦, 加藤俊二, 金子昌裕, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 松本智司, 真々田裕宏, 吉田 寛, 梅原松臣, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科) : glutathione S transferase (GST) 酵素の遺伝子多様性による酵素活性の個体差と肝硬変, 肝癌の発症. 第2回日本肝臓学会大会, 1998. 10.
- 131) 高橋由至, 恩田昌彦, 田中宣威¹⁾, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 山田岳史, 小泉岐博, 高藤英

- 正²⁾ (1) 千葉北総病院外科, ²⁾ 共利研): 直腸 neuroendocrine cell carcinoma (NEC) 細胞株の浸潤における EGF の効果. 第57回日本癌学会総会, 1998. 10.
- 132) 松下 晃, 恩田昌彦, 内田英二, 小林 匡, 相本隆幸, 井上松応, 中村慶春, 山村 進, 柳 健, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理第2): ハムスター膵癌移植モデルにおける膵原発巣切除後の潜在性肝転移の検討. 第57回日本癌学会総会, 1998. 10.
- 133) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 平本義浩, 吉行俊郎, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 笹島耕二, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 薬物代謝酵素 glutathione S transferase (GST) や cytochrome p450 (CYP) の酵素活性の遺伝的個体差からみた術前化学療法の薬物感受性判定の試み. 第36回日本癌治療学会, 1998. 10.
- 134) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松田範子, 金子昌裕, 松本智司, 真々田裕宏, 吉田 寛, 梅原松臣, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): Acetaldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) 遺伝子多様性による酵素活性の個体差および飲酒歴と肝硬変, 肝癌の発症. 第2回日本肝臓学会, 1998. 10.
- 135) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 笹島耕二, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 消化管手術後障害: 胃切除後の骨粗鬆症様症状とMD法骨量測定による骨代謝障害の評価. 第85回日本消化器病学会, 1998. 10.
- 136) 徳永 昭, 恩田昌彦, 奥田武志, 李 栄浩, 沖野哲也, 平本義浩, 池田研吾, 小栗 剛, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾, 末岡信夫²⁾, 坂本長逸²⁾, 小林正文²⁾, 杉崎裕一³⁾ (1) 千葉北総病院外科, ²⁾ 第3内科, ³⁾ 病理部): 十二指腸潰瘍修復における胃型上皮出現の意義: 内視鏡重点生検材料を用いた pS2 免疫組織化学. 第40回日本消化器病学会大会, 1998. 10.
- 137) 徳永 昭, 恩田昌彦, 白川 毅, 池田研吾, 平本義浩, 李 栄浩, 沖野哲也, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 癌手術操作による局所浸出液 (創液, 腹腔浸出液) の免疫抑制作用と細胞増殖因子. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 138) 河村直樹¹⁾, 永井尚生¹⁾, 坂東功一, 小山雅章¹⁾, 江見 充¹⁾ (1) 老研分子生物): ゲノム不安定性を示すヒト原発性肝癌における標的遺伝子の異常の解析. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 139) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 柳 健, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 膵癌診断における十二指腸洗浄液中 K-ras 変異解析および CEA 濃度測定. 第40回日本消化器病学会大会, 1998. 10.
- 140) 内田英二, 恩田昌彦, 松下 晃, 柳 健, 山村 進, 中村慶春, 井上松応, 相本隆幸, 小林 匡, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 第2病理): 膵頭部癌の術後局所再発における神経浸潤の意義. 第57回日本癌学会総会, 1998. 10.
- 141) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 小林 匡, 相本隆幸, 山村 進, 柳 健, 松下 晃, 田尻 孝, 山下精彦: 予後点数の推移からみた急性膵炎の経過判定および膵酵素阻害剤動注療法の評価. 第40回日本消化器病学会大会, 1998. 10.
- 142) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 白川 毅, 沖野哲也, 李 栄浩, 平本義浩, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 胃癌術前化学療法の効果予測: 術前内視鏡生検材料における thymidylate synthase の発現. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 143) 富樫晃祥, 恩田昌彦, 田中宣威¹⁾, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 横山滋彦, 高橋由至, 杉浦篤, 小泉岐博, 田中元子, 柴美佳子 (1) 千葉北総病院外科): 大腸印環細胞癌の5例. 第53回日本大腸肛門病学会総会, 1998. 10.
- 144) 丸山 弘, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 秋谷行宏, 前澤勝美, 芦荊正幸, 吉村和泰, 高崎秀明, 田中宣威¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 大腸待期手術例における化学的腸管処置法の検討. 第53回日本大腸肛門病学会総会, 1998. 10.

- 145) 沼野藤雅, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 内田英二, 小川芳雄, 吉田 寛, 瀬谷知子, 小林 匡, 野村 務, 中村慶春, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 腹腔鏡下にて確定診断された先天性胆嚢欠損症の1例. 第67回消化器内視鏡学会 関東地方会, 1998. 11.
- 146) 松田範子, 恩田昌彦, 森山雄吉¹⁾, 徳永 昭, 松倉則夫, 加藤俊二, 吉村成子 (1) 第二病院消化器センター): 減圧症罹患と骨密度の関係. 第33回日本高気圧環境医学会総会, 1998. 11.
- 147) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 李 栄浩, 沖野哲也, 平本義浩, 池田研吾, 木山輝郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 心疾患を有する胃癌患者における血液検査を用いた手術危険度の判定の試み. 第59回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 148) 古川清憲, 恩田昌彦, 吉村和泰, 鈴木清憲, 木山輝郎, 横山滋彦, 丸山 弘: 教室における鼠径ヘルニアの手術術式. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 149) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 伊藤誠二, 内田英二, 小川芳雄, 梅原松臣, 斎藤忠生, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 横山滋彦, 丸山 弘, 中村慶春, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 悪性胆道狭窄に対する Expandable metallic stent (EMS) の有用性と合併症の検討. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 150) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 伊藤誠二, 内田英二, 樋口勝美, 小川芳雄, 斎藤忠生, 吉田 寛, 横室茂樹, 小林 匡, 野村 務, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 腹腔鏡下胆嚢摘出術 (LC) における手技上の留意点と対策. 第51回手術手技研究会, 1998. 11.
- 151) 松倉則夫, 山田宣孝¹⁾ (1) 病理第2): *H.pylori* 除菌治療による腸上皮化生の可逆性の検討. 第56回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 11.
- 152) 松倉則夫, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 山下精彦¹⁾, 山田宣孝²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 病理第2): *H.pylori* 起因と胆汁逆流起因胃炎. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 153) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 笹島耕二, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 簡便なMD法骨量測定による胃切除後骨代謝障害の評価と骨粗鬆症様症状との関連. 第60回日本臨床外科医学会総会, 1998. 11.
- 154) 李 栄浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 沖野哲也, 平本義浩, 池田研吾, 白川 毅, 瀧田雅仁, 相本隆幸, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾, 西 恵吾²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 西クリニック): 急速に発育した胃癌の2例. 第50回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 155) 徳永 昭, 恩田昌彦, 白川 毅, 藤田逸郎, 李 栄浩, 沖野哲也, 平本義浩, 池田研吾, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 古川清憲, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 外科手術後の局所浸出液中増殖因子, アラキドン酸代謝濃度と免疫抑制: 胃癌および乳癌手術を対象として. 第50回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 156) 加藤修志¹⁾, 秋丸琥甫, 樋口勝美, 相本隆幸, 武内俊章¹⁾ (1) 総合会津中央病院): 胃切除術後の空腸パウチを用いた再建の功罪. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 157) 内田英二, 恩田昌彦, 小林 匡, 田尻 孝, 相本隆幸, 中村慶春, 山村 進, 松下 晃, 柳 健, 小川芳雄, 有馬保生, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): ニトログリセリンを併用した乳頭拡張バルーンによる内視鏡的総胆管結石摘出術. 第10回日本肝胆膵外科学会, 1998. 11.
- 158) 内田英二, 恩田昌彦, 小林 匡, 田尻 孝, 相本隆幸, 中村慶春, 山村 進, 松下 晃, 柳 健, 有馬保生, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): ニトログリセリン処置を併用した乳頭拡張バルーンによる内視鏡的総胆管結石摘出術. 第56回日本消化器内視鏡学会総会: , 1998. 11.
- 159) 内田英二, 恩田昌彦, 田尻 孝, 小林 匡, 相本隆幸, 中村慶春, 山村 進, 松下 晃, 柳 健, 有馬保生: 乳頭拡張バルーンを用いた内視鏡的総胆管結石摘出術: ニトログリセリン処置の併用: 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 160) 沖野哲也, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 李 栄浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫,

- 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 病理第2): 胃内分泌細胞ガンの5例. 第60日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 161) 廣瀬洋一郎, 恩田昌彦, 田尻 孝, 有馬保生, 内田英二, 小川芳雄, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 丸山 弘, 山本一仁, 金子昌裕, 芦刈正幸, 山下精彦¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 病理第2): 興味ある腫瘍像を呈した日本住血吸虫症合併肝癌の1例. 第32回日本肝臓学会東部会, 1998. 12.
- 162) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 藤田逸郎: 外科手術後局所浸出液中の免疫抑制物質と細胞増殖因子. 第5回外科侵襲とサイトカイン研究会, 1998. 12.
- 163) 平方敦史, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 牧野浩司, 水口義昭, 加藤俊二, 高崎秀明, 宮下正夫, 松倉則夫, 徳永 昭, 落 雅美¹⁾, 田中茂夫¹⁾ (1) 第2外科): 虚血性心疾患合併胃癌: MIDCABと胃全摘術の一期的施行例. 第252回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 12.
- 164) 有馬保生, 恩田昌彦, 田中宣威, 田尻 孝, 古川清憲, 内田英二, 樋口勝美, 高崎秀明, 小川芳雄, 斎藤忠生, 吉田 寛, 横山滋彦, 中村慶春, 山下精彦¹⁾, 黒田 肇²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 第3内科): 癒着性イレウスに対する腹腔鏡下癒着剝離術の検討. 第11回日本内視鏡外科学会総会, 1998. 12.
- 165) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 飯田信也, 池田研吾, 平本義浩, 李 栄浩, 丸山 弘, 古川清憲: 腹膜炎ラットにおける大腸吻合部治癒: 食餌開始時期の検討. 第28回創傷治癒研究会, 1998. 12.
- 166) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭: Heat Shock Protein72の誘導による線維芽細胞の活性化. 第5回外科侵襲とサイトカイン研究会, 1998. 12.
- 167) 加藤俊二, 恩田昌彦, 田尻 孝, 松田範子, 金子昌裕, 山本一仁, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 梅原松臣, 松倉則夫, 徳永 昭, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 術後肝障害発生の要因: 術後肝障害, 肝不全予測のための glutathione S-transferaseM1 (GSTM1) 遺伝子欠損の役割. 第32回日本肝臓学会東部会, 1998. 12.
- 168) 飯田信也¹⁾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾, 水谷 崇²⁾, 江上格²⁾, 吉岡正智²⁾, 小林正文⁴⁾, 末岡伸夫⁴⁾, 浅野伍朗⁵⁾, 前田昭太郎³⁾, 細根 勝³⁾, 片山博徳 (1) 千葉北総病院外科, 2) 多摩永山病院外科, 3) 多摩永山病院病理部, 4) 第三内科, 5) 病理第2): 消化管の創傷治癒: ヒト十二指腸潰瘍における増殖因子および増殖因子受容体の局在・発現の解析. 第28回創傷治癒研究会, 1998. 12.
- 169) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 李 栄浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 藤田逸郎, 飯田信也, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫: プタを用いた食道空腸器械吻合創治癒過程の実験. 第28回創傷治癒研究会, 1998. 12.
- 170) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 李 栄浩, 池田研吾, 白川 毅, 瀧田雅仁, 奥田武志, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫: 消化管の創傷治癒: プタ食道空腸器械吻合創の治癒過程に発現する増殖因子と受容体. 第28回創傷治癒研究会, 1998. 12.
- 171) 土屋喜一, 恩田昌彦, 宮下正夫, 笹島耕二, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 大川敬一, 萩原信敏, 長澤重直, 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 東京都老人総合研究所臨床病理): 食道扁平上皮癌と cytokeratin 19. 食道悪性度セミナー, 1999. 1.
- 172) 田中元子, 恩田昌彦, 田中宣威¹⁾, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 高橋由至, 杉浦 篤, 小泉岐博 (1) 千葉北総病院外科): 下部直腸癌リンパ節廓清の成績の検討. 第50回大腸癌研究会, 1999. 1.
- 173) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 金子昌裕, 峯田 章, 吉岡正人, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 食道静脈瘤に対する内視鏡治療の長期予後の検討. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 174) 柳 健, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 山村 進, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 病理第2): 膵癌における原発巣と肝転移巣の生物学的特性の実験的検討: 血管新生因子 (VEGF) について. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.

- 175) 勝田美和子, 恩田昌彦, 田尻 孝, 有馬保生, 内田英二, 小川芳雄, 吉田 寛, 真々田裕宏, 野村 務, 小林 匡, 谷合信彦, 美濃部かおり, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): PTGBD後に腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した気腫性胆嚢炎の1例. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 176) 高橋由至, 恩田昌彦, 田中宣威¹⁾, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 山田岳史, 小泉岐博, 田中元子 (1) 千葉北総病院外科): 直腸neuroendocrine cell carcinoma (NEC) 細胞株の浸潤におけるEGF, TGF- β の効果. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 177) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 李 栄浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 平本義浩, 藤田逸郎, 飯田信也, 木山輝郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫: 消化管術後縫合不全症例に対する血液凝固第XIII因子製剤 (フィブログロミンPTM) の効果: 創傷治癒と血中サイトカイン・増殖因子の変動. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 178) 牧野浩司, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 吉行俊郎, 野村 務, 長澤重直, 松谷 毅, 大川敬一, 土屋喜一, 萩原信敏, 柳 健, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 食道神経内分泌細胞癌 (大細胞癌) の1症例. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 179) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 大川敬一, 土屋喜一, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 食道癌患者における, 腫瘍マーカーとしての抗p53抗体測定の有用性について. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 180) 芦荊正幸, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏, 前澤勝美, 田中宣威¹⁾, 山下精彦¹⁾, 青戸泰二²⁾, 野本剛史²⁾ (1) 千葉北総病院外科, ²⁾ 中央検査部): 当科において検出分離された β ラクタマーゼ活性に関する検討. 第2報. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 181) 小林 匡, 恩田昌彦, 内田英二, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 中村慶春, 相本隆幸, 会田邦晴, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 病理第2): 粘液性膵嚢胞疾患の臨床病理学的検討: 特に増殖能に関連して. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 182) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 柳 健, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院外科, ²⁾ 病理第2): 細胞接着peptide (RGD) の膵癌腹膜播種抑制効果に関する実験的検討. 第53回日本消化器外科学会, 1999. 2.
- 183) 宮下正夫, 恩田昌彦, 笹島耕二, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 長澤重直, 土屋喜一, 萩原信敏, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 全身と局所からみた手術侵襲と生体反応. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 184) 松下 晃, 恩田昌彦, 内田英二, 柳 健, 山村 進, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾, 山口敏和³⁾, Yun S³⁾ (1) 多摩永山病院外科, ²⁾ 病理第2, ³⁾ BML研究所): 膵癌潜在性肝転移の実験モデルを用いた分子生物学的検討. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 185) 松倉則夫, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 沖野哲也, 池田研吾, 木山輝郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 徳永 昭, 山下精彦¹⁾, 山田宣孝²⁾ (1) 千葉北総病院外科, ²⁾ 病理第2): 残胃の癌からみた残胃における2つの発癌過程 (仮説). 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 186) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 飯田信也, 池田研吾, 平本義浩, 李 栄浩, Adrian B¹⁾ (1) ジョンスホプキンス大学外科): ラット腹膜炎下大腸吻合部治癒における食餌開始時期の影響. 第79回日本消化器外科学会, 1999. 2.
- 187) 野村 務, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 大川敬一, 松谷 毅, 長澤重直, 萩原信敏, 土屋喜一, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 食道癌術後管理における早期経腸栄養の有用性. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 188) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 松倉則夫, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 術後肝

- 障害発生の諸因子の解析：手術侵襲や使用薬物および薬物代謝酵素の遺伝的個体差の生物学的意義。第53回日本消化器外科学会，1999. 2.
- 189) 徳永 昭，恩田昌彦，白川 毅，池田研吾，平本義浩，李 榮浩，寺本 忠，奥田武志，藤田逸郎，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，松倉則夫，山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科)：胃癌手術操作による局所浸出液（創液，腹腔浸出液）の免疫抑制作用と細胞増殖因子：根治度別の検討。第53回日本消化器外科学会総会，1999. 2.
- 190) 中村慶春，恩田昌彦，内田英二，柳 健，松下 晃，山村 進，相本隆幸，小林 匡，有馬保生，秋丸琥甫，田尻 孝，山下精彦¹⁾，田島廣之²⁾，隈崎達夫²⁾，江上 格³⁾ (1) 千葉北総病院外科，²⁾ 放射線科，³⁾ 多摩永山病院外科)：重症急性膵炎に対する早期動注療法の適応。第53回日本消化器外科学会総会，1999. 2.
- 191) 坂東功一，恩田昌彦，田尻 孝，江見 充¹⁾，永井尚生¹⁾，鳥羽昌仁，小川芳雄，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，西久保秀紀，松本智司，山本一仁，廣瀬洋一郎，金子昌裕，吉岡正人，峯田 章，山下精彦²⁾ (1) 老研・分子生物学部門，²⁾ 千葉北総病院外科)：肝細胞癌における第4番染色体長腕の高頻度欠失。第53回日本消化器外科学会総会，1999. 2.
- 192) 有馬保生，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，伊藤誠二，内田英二，小川芳雄，梅原松臣，齋藤忠生，横室茂樹，吉田 寛，小林 匡，野村 務，真々田裕宏，横山滋彦，谷合信彦，相本隆幸，中村慶春，山村 進，山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科)：胆管結石に対する治療方針：特に腹腔鏡下手術の適応について。第53回日本消化器外科学会総会，1999. 2.
- 193) 増田剛太郎，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，梅原松臣，吉田 寛，野村 務，真々田裕宏，谷合信彦，金子昌裕，吉岡正人，峯田 章，山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科)：右副腎皮質癌術後9年で局所及び肝転移再発に対しIVC切除，肝尾状葉さらに左葉部分切除を行った1例。第53回日本消化器外科学会総会，1999. 2.
- 194) 内田英二，恩田昌彦，中村慶春，山村 進，相本隆幸，小林 匡，松下 晃，柳 健，田尻 孝，山下精彦¹⁾，山口敏和²⁾，Yun S²⁾ (1) 千葉北総病院外科，²⁾ BML研究所)：膵頭十二指腸切除術術後の膵液におけるK-ras癌遺伝子解析。第53回日本消化器外科学会総会，1999. 2.
- 195) 山本一仁，羽尾邦彦，横山滋彦，鶴田宏之，松谷 毅，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，金子昌裕，吉岡正人，峯田 章：血管内留置式カテーテルを用いた進行性膵体尾部癌の治療法について。第19回リザーバー研究会，1999. 2.
- 196) 長澤重直，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，松谷 毅，大川敬一，土屋喜一，萩原信敏，山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科)：教室における食道癌と重複悪性疾患の検討。第99回日本消化器外科学会，1999. 2.
- 197) 長谷川博一，恩田昌彦，松倉則夫，内藤善哉¹⁾，富樫晃祥，沖野哲也，李 榮浩，平本義浩，池田研吾，丸山弘，木山輝郎，吉行俊郎，加藤俊二，徳永 昭 (1) 病理第2)：先端巨大症に合併した出血性胃癌の1例。第53回日本消化器外科学会総会，1999. 2.
- 198) 進士誠一，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，源河敦史，真々田裕宏，永嶋裕司，松下 晃，渡辺綾子¹⁾，佐藤 順¹⁾，岸田輝幸¹⁾，小林正文¹⁾ (1) 第3内科)：S状結腸を先進部とした特発性腸重積症の1例。第243回日本消化器病学会関東地方会，1999. 2.
- 199) 谷合信彦，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，鳥羽昌仁，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，金子昌裕，峯田章，吉岡正人，山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科)：食道静脈瘤の治療戦略：再発症例における長期予後の検討。第99回日本外科学会総会，1999. 3.
- 200) 柳 健，恩田昌彦，内田英二，松下 晃，山村 進，井上松応，中村慶春，横山 正，相本隆幸，小林 匡，会田邦春，田尻 孝，江上 格¹⁾，内藤善哉²⁾，浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院外科，²⁾ 病理第2)：ハムスター実験膵癌における原発巣と肝転移巣の比較から見た血管新生因子（VEGF）発現の意義。第99回日本外科学会総会，1999. 3.
- 201) 土屋喜一，恩田昌彦，宮下正夫，笹島耕二，野村 務，牧野浩司，松谷 毅，大川敬一，萩原信敏，長澤重直，

- 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 東京都老人総合研究所臨床病理): 食道癌腫瘍マーカーとしての血清CYFRA21-1の有用性と免疫組織学的検討. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 202) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 李 榮浩, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 田中茂夫¹⁾, 高野照夫²⁾, 山下精彦³⁾ (1) 第2外科, 2) 集中治療室, 3) 千葉北総病院外科): 重症心疾患を有する胃癌患者の術前心機能評価における消化器外科医と循環器内科医との連携. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 203) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 梅原松臣, 吉田 寛, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 山本一仁, 金子昌裕, 峯田 章, 吉岡正人, 秋丸琥甫: 長期予後からみた原発性肝癌に対する門脈塞栓術の位置づけ. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 204) 吉岡正人, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 山本一仁, 金子昌裕, 峯田 章, 山下精彦¹⁾, 長谷川博一, 徳永 昭, 西 恵吾²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 西クリニック): AFP産生胃癌術後急速に発育し自然破裂を来した肝腫瘍の1例. 第32回日本腹部救急医学会総会, 1999. 3.
- 205) 前澤勝美, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏, 芦荻正幸, 田中宣威¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): CLPモデルを用いた重症腹膜炎時のサイトカインバランスと血中エンドトキシンの経時的検討. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 206) 樋口勝美, 相本隆幸, 廣井 信, 武内俊章, 島貫公義, 恩田昌彦, 古川清憲, 源河敦史, 美濃部かおり, 古川恵子: 乳癌補助療法の実状と問題点. 第5回東北乳癌疾患研究会, 1999. 3.
- 207) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 柳 健, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 病理第2): 細胞接着peptide (RGD) による膵癌腹膜播種の抑制効果に関する検討. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 208) 宮下正夫, 恩田昌彦, 笹島耕二, 萩原信敏, 土屋喜一, 松谷 毅, 大川敬一, 長澤重直, 牧野浩司, 野村 務, 丸山 弘, 山下精彦¹⁾, Cawley H, Trivers G, Harris C (1) 千葉北総病院外科): 食道癌患者における血清抗p53抗体の臨床的有用性. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 209) 松下 晃, 恩田昌彦, 内田英二, 柳 健, 山村 進, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 山口敏和²⁾, Yun S²⁾ (1) 病理第2, 2) BML研究所): 膵癌潜在性肝転移の実験モデルを用いた分子生物学的検討. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 210) 柏原 元, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 斎藤忠生, 会田邦晴, 源河敦史, 永嶋裕司: 注腸前処置でクエン酸マグネシウム下剤服用を契機として発症した絞扼性イレウスの1例. 第772回外科集談会, 1999. 3.
- 211) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 長谷川博一, 徳永 昭, 五十嵐健人¹⁾, 鈴木 聡¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化第2): 自殺遺伝子による胃癌治療における遺伝子の分布と副作用. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 212) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 飯田信也, Adrian B¹⁾ (1) Johns Hopkins Univ., Dept. of Surg): ラット皮膚創傷治癒における栄養補給経路の影響. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 213) 野村 務, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 大川敬一, 松谷 毅, 長澤重直, 萩原信敏, 土屋喜一, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 術後SIRS, 各種栄養代謝およびサイトカインに対する術前ステロイド投与の影響. 第32回日本腹部救急学会総会, 1999. 3.
- 214) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 徳永 昭, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): *Helicobacter Pylori* AHPA_j感染や血清ペプシノーゲン値 (PG) および発癌物質の活性化酵素の遺伝的個体差による胃癌や残胃の癌発生の危険性の予測. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 215) 徳永 昭, 恩田昌彦, 永嶋裕司, 水谷 崇, 小林 匡, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 高崎秀明, 宮下正夫, 松倉則夫, 古川清憲, 田中宣威¹⁾, 山下精彦¹⁾, 滝沢隆雄²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 下谷病院外科): 消化管

- における Oncologic Emergencies 病態からの解析. 第32回日本腹部救急医学会総会, 1999. 3.
- 216) 秋丸琥甫, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 金子昌裕, 吉岡正人, 峯田 章, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 腹膜による下大動脈再建の試み. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 217) 中村慶春¹⁾, 江上 格¹⁾, 岡崎滋樹¹⁾, 和田雅世¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 飯田信也¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 内田英二, 田尻孝, 山下精彦²⁾, 恩田昌彦 (1) 多摩永山病院外科, ²⁾ 千葉北総病院外科): 膵胆管合流異常症例における膵炎合併例の検討. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 3.
- 218) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 金子昌裕, 峯田章, 吉岡正人, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 食道静脈瘤の長期予後に対する血管塞栓術の効果に関する検討. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 3.
- 219) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 小林 匡, 相本隆幸, 山村 進, 柳 健, 松下 晃, 会田邦晴, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 予後点数の推移からみた重症急性膵炎に対する膵酵素阻害剤持続動注療法の適応および開始時期. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 3.
- 220) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 隈崎達夫²⁾, 江上 格³⁾ (1) 千葉北総病院外科, ²⁾ 放射線科, ³⁾ 多摩永山病院外科): 急性膵炎の重症度判定 (予後点数とCTスコア). 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 221) 柳 健, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 山村 進, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院外科, ²⁾ 病理第2): 実験膵癌における原発巣と肝転移巣の比較から見た血管新生因子 (VEGF) 発現の意義. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 222) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 真々田裕宏, 谷合信彦, 金子昌裕, 峯田 章, 吉岡正人, 有馬保生, 内田英二, 秋丸琥甫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 胃静脈瘤に対する治療方針. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 223) 江上 聡, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 金子昌裕, 永嶋裕司, 高橋由至, 杉浦 篤, 小泉岐博, 田中元子, 松田明久, 隈崎達夫¹⁾, 田中宣威²⁾ (1) 放射線科, ²⁾ 千葉北総病院外科): 緊急血管造影検査にて診断し緊急手術にて救命し得た大腸憩室大量出血の2例. 第32回日本腹部救急医学会総会, 1999. 3.
- 224) 永嶋裕司, 恩田昌彦, 田中宣威¹⁾, 徳永 昭, 古川清憲, 高崎秀明, 加藤俊二, 吉村和泰, 吉行俊郎, 鈴木英之, 二見良平, 横山滋彦 (1) 千葉北総病院外科): 腸重積出緊急手術を施行した原発性肺癌の小腸転移の1例. 第32回日本腹部救急医学会総会, 1999. 3.
- (5) ビデオクリニク:
- 1) 田尻 孝, 恩田昌彦, 有馬保生, 内田英二, 樋口勝美, 小川芳雄, 吉田 寛, 斎藤忠生, 横室茂樹, 横山滋彦, 丸山 弘, 中村慶春, 伊藤誠二, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): Pitfallから学ぶ安全な胆嚢摘出術. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- (6) ビデオセッション:
- 1) 田尻 孝, 恩田昌彦, 有馬保生, 内田英二, 樋口勝美, 小川芳雄, 吉田 寛, 斎藤忠生, 横室茂樹, 横山滋彦, 丸山 弘, 中村慶春, 伊藤誠二, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 合併症から学ぶ安全な腹腔鏡下胆嚢摘出術. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 2) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 真々田裕宏, 谷合信彦, 金子昌裕, 峯田 章, 吉岡正人, 小川芳雄, 有馬保生, 内田英二, 秋丸琥甫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 胃静脈瘤に対する内視鏡的硬化結紮術. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.

[多摩永山病院外科]

研究概要

(1) 消化器外科領域：臨床的研究を中心として、治療成績の向上をめざしている。

1) 中心的研究課題である肝・胆・膵疾患に関する研究を継続的に行っている。

2) 鏡視下手術は胆嚢・胆管結石に加え、大腸疾患、胃疾患、食道疾患などに対し適応を広げ、治療成績の向上をめざした臨床的研究。

3) 小児外科領域では先天性疾患、外傷などの臨床的研究。

4) 病理組織学および分子生物学的手法を用いた消化器各疾患における早期診断・治療のための基礎研究。

(2) 胸部外科は平成9年9月に外科に新設され、胸部疾患ならび血管病変（大静脈、末梢動脈、静脈疾患）に対する外科治療を中心とした臨床的研究を行っている。胸部疾患は肺癌、肺良性腫瘍、縦隔腫瘍（胸腺腫など）、肺炎腫、自然気胸など年々増加の傾向を示し、各疾患に対する鏡視下手術も積極的に取り入れ治療成績の向上をめざしている。血管病変は大動脈瘤をはじめ、閉塞性動脈硬化症、Buerger病、深部静脈血栓症、下肢静脈瘤など血管外科領域に対する治療および臨床的研究を行い治療成績の向上に努めている。

(3) 乳腺外科は病理部と提携し、迅速穿刺吸引細胞診を行い、早期診断および治療成績の向上を目標とした臨床病理学的研究を継続している。

研究業績

論文

(1) 原著：

1) Maeda S¹⁾, Hosone M¹⁾, Katayama H¹⁾, Isobe H¹⁾, Yanagida Y¹⁾, Egami K, Yoshioka M, Asano G²⁾ (1) Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, 2) Second Department of Pathology) : Raped diagnosis at the outpatient clinic for breast tumors by fine needle aspiration cytology : The utility. J Nippon Med Sch 1998 ; 65 : 66-70.

2) Wada M, Onda M¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Kiyama T¹⁾, Yoshiyuki T¹⁾, Matsukura N¹⁾, Furukawa K¹⁾, Egami K, Yamashita K¹⁾ (1) 外科学第1) : Spontaneous gastrointestinal perforation in patients with lymphoma receiving chemotherapy and steroids : report of three cases. J Nippon Med Sch 1999 ; 66 : 37-40.

3) Nakamura Y, Onda M¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) 外科学第1) : Analysis of K-ras codon 12 point mutations using duodenal lavage fluid for diagnosis of pancreatic carcinoma. Pancreas 1999 ; 18 : 133-144.

4) 秋谷行宏, 恩田昌彦¹⁾, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之¹⁾ (1) 外科学第1) : 血清総コレステロール値を用いた術後感染症の早期診断 : 多変量解析による検討. 日消外会誌 1998 ; 31 : 1781-1787.

5) 山田岳史, 江上 格, 恩田昌彦, 岡崎滋樹, 和田雅世, 内田英二, 田尻 孝, 吉岡正智 : 膵胆管合流異常における膵炎. 胆膵の生理機能 1998 ; 15 : 61-63.

(2) 綜説：

1) 池田研吾, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 瀧田雅仁, 白川 毅¹⁾, 平本義浩¹⁾, 小栗 剛¹⁾, 寺本 忠¹⁾, 飯田信也, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 長谷川博一¹⁾, 松倉則夫¹⁾ (1) 外科学第1) : 胃癌化学療法の効果 : 術前内視鏡生検材料における Thymidylate Synthase の発現. 消化器癌の発生と進展 1998 ; 10 : 379-380.

(3) 研究報告書：

1) 飯田信也, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 白川 毅¹⁾, 瀧田雅仁, 平本義浩¹⁾, 池田研吾, 水谷 崇, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 山下精彦¹⁾, 浅野伍朗²⁾, 前田昭太郎³⁾, 片山博徳³⁾ (1) 外科学第1, 2) 病理学第2, 3) 多摩永山病院病理部) : 消化管の創傷治療 : ヒト十二指腸潰瘍における塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) および線維芽細胞増殖因子 (bFGF) の発現の解析. Progress in Medicine 1998 ; 18 : pp2059-2060.

学会発表

(1) プレナリーセッション：

- 1) 飯田信也, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 池田研吾, 平本義浩¹⁾, 瀧田雅仁, 白川 毅¹⁾, 水谷 崇, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 山下精彦¹⁾, 浅野伍朗²⁾, 前田昭太郎³⁾, 片山博徳³⁾ (1) 外科学第1, 2) 病理学第2, 3) 多摩永山病院病理部)：消化管の創傷治療：ヒト十二指腸潰瘍における TGF- α /EGFR, p S-2 および bFGF/FGFR の発現の解析. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.

(2) 一般講演：

- 1) Iida S, Egami K, Matsushima S, Okazaki S, Wada M, Yamamoto H, Mizutani T, Kan H, Nakamura Y, Yamada T, Takita M, Akiya Y, Ohno T, Yoshioka M, Onda M¹⁾ (1) 外科学第1)：Mediastinoscopy-Assisted Transhiatal Esophagectomy for esophageal cancer. The 15th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, 1998. 10.
- 2) 秋谷行宏, 江上 格, 和田雅世, 松島申治, 山本英希, 水谷 崇, 飯田信也, 菅 隼人, 中村慶春, 瀧田雅仁, 山田岳史, 大野智康, 吉岡正智, 沖浜裕司¹⁾, 松田 健¹⁾, 細根 勝²⁾, 前田昭太郎²⁾, 恩田昌彦³⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 同病理部, 3) 外科学第1)：特異な脾内進展を呈した膵 Malignant islet cell tumor の1例. 第253回日本消化器病学会関東地方会, 1998. 2.
- 3) 池田研吾, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 平本義浩¹⁾, 瀧田雅仁, 白川 毅¹⁾, 寺本 忠¹⁾, 小栗 剛¹⁾, 藤田逸郎, 飯田信也, 水谷 崇, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 長谷川博一¹⁾, 松倉則夫¹⁾ (1) 外科学第1)：消化管の創傷治療：プタ胃全摘, 食道空腸器械吻合創の治療過程をモデルとした実験的研究. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 4) 中村慶春, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 松下 昭¹⁾, 山村 進¹⁾, 山本一仁¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 小林 匡¹⁾, 有馬保生¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 山下精彦¹⁾, 隈崎達夫²⁾ (1) 外科学第1, 2) 放射線科)：急性膵炎の入院初期CT所見による後期膿瘍形成の予測. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 5) 山田岳史, 恩田昌彦¹⁾, 田中宣威¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 古川清憲¹⁾, 樋口勝美¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 横山滋彦¹⁾, 金沢義一¹⁾, 高橋由至¹⁾, 田中元子¹⁾, 小泉岐博¹⁾ (1) 外科学第1)：大腸 Neuroendocrine cell carcinoma (NECC) の増殖に及ぼすガストリン, ソマトスタチンの効果. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 6) 飯田信也, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 池田研吾, 平本義浩¹⁾, 瀧田雅仁, 白川 毅¹⁾, 水谷 崇, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 山下精彦¹⁾, 浅野伍朗²⁾, 前田昭太郎³⁾, 片山博徳³⁾ (1) 外科学第1, 2) 病理学第2, 3) 多摩永山病院病理部)：消化管の創傷治療：ヒト十二指腸潰瘍における増殖因子およびその受容体の発現の解析. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 7) 池田研吾, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 平本義浩¹⁾, 瀧田雅仁, 白川 毅¹⁾, 寺本 忠¹⁾, 小栗 剛¹⁾, 藤田逸郎, 飯田信也, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 長谷川博一¹⁾, 松倉則夫¹⁾ (1) 外科学第1)：消化管創傷治療モデル作製の試み：プタ胃全摘, 食道空腸器械吻合創治療過程の研究. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
- 8) 中村慶春, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 松下 晃¹⁾, 柳 健¹⁾, 山村 進¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 小林 匡¹⁾, 有馬保生¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 山下精彦¹⁾ (1) 外科学第1)：十二指腸洗浄液の膵癌診断における有用性：K-ras 変異解析および CEA 濃度測定. 第29回日本膵臓学会大会, 1998. 4.
- 9) 和田雅世, 江上 格, 松田 健¹⁾, 吉岡正智, 恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第1)：小児重度外傷における重症度と肝外傷. 第12回日本小児救急医学会, 1998. 6.
- 10) 池田研吾, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 瀧田雅仁, 白川 毅¹⁾, 平本義浩¹⁾, 小栗 剛¹⁾, 寺本 忠¹⁾, 藤田逸郎, 飯田信也, 水谷 崇, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫 (1) 外科学第1)：内視鏡生検材料による胃癌術前化学療法効果予測の試み：免疫染色 (TS, EGFR, dThPase) との関連. 胃癌学会, 1998. 6.
- 11) 池田研吾, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 平本義浩¹⁾, 李 榮浩¹⁾, 瀧田雅仁, 白川 毅¹⁾, 小栗 剛¹⁾, 寺本 忠¹⁾, 藤田逸郎, 飯田信也, 吉行俊郎¹⁾, 長谷川博一¹⁾, 松倉則夫¹⁾ (1) 外科学第1)：消化管器械吻合創治療過程の解

- 析：ブタ胃全摘食道空腸器械吻合創の経時的観察。第23回日本外科系連合学会学術集会，1998. 6.
- 12) 中村慶春，恩田昌彦¹⁾，内田英二¹⁾，柳 健¹⁾，松下 晃¹⁾，山村 進¹⁾，相本隆幸¹⁾，小林 匡¹⁾，吉田 寛¹⁾，有馬保生¹⁾，田尻 孝¹⁾，山下精彦¹⁾，市川太郎²⁾，田島廣之²⁾，隈崎達夫²⁾ (1) 外科学第1，²⁾ 放射線科)：CT所見による急性膵炎後期膿瘍形成の早期予測。第52回日本消化器外科学会総会，1998. 7.
 - 13) 秋谷行宏，恩田昌彦¹⁾，古川清憲¹⁾，鈴木英之¹⁾，丸山 弘¹⁾，芦刈正幸¹⁾，前澤勝美¹⁾，田中宣威¹⁾，山下精彦¹⁾，青戸泰二²⁾，野本剛史²⁾ (1) 外科学第1，²⁾ 付属病院中央検査部)：当科において検出分離された細菌のβラクタマーゼ活性に関する検討。第52回日本消化器外科学会総会，1998. 7.
 - 14) 池田研吾，恩田昌彦¹⁾，徳永 昭¹⁾，瀧田雅仁，白川 毅¹⁾，平本義浩¹⁾，小栗 剛¹⁾，寺本 忠¹⁾，藤田逸郎，飯田信也，水谷 崇，木山輝郎¹⁾，吉行俊郎¹⁾，加藤俊二¹⁾，宮下正夫¹⁾，松倉則夫¹⁾，山下精彦¹⁾ (1) 外科学第1)：胃癌術前化学療法効果予測の試み：術前内視鏡生検材料の免疫染色 (TS,EGFR,dThPase) との関連。第52回日本消化器外科学会総会，1998. 7.
 - 15) 山田岳史，江上 格，恩田昌彦¹⁾，岡崎滋樹，和田雅世，内田英二¹⁾，田尻 孝¹⁾，吉岡正智 (1) 外科学第1)：膵胆管合流異常における膵炎。第15回日本胆膵生理機能研究会，1998. 7.
 - 16) 飯田信也，江上 格，松島申治，岡崎滋樹，和田雅世，山本英希，水谷 崇，菅 隼人，中村慶春，山田岳史，瀧田雅仁，秋谷行宏，大野智康，吉岡正智，沖浜裕司，松田健¹⁾，松久威史²⁾，恩田昌彦³⁾ (1) 多摩永山病院消化器科，²⁾ 同内視鏡科，³⁾ 外科学第1)：当科における食道癌の治療成績：縦隔鏡補助下食道抜去術の有用性について。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.
 - 17) 菅 隼人，江上 格，松島申治，岡崎滋樹，和田雅世，山本英希，水谷 崇，飯田信也，中村慶春，山田岳史，瀧田雅仁，秋谷行宏，大野智康，吉岡正智，前田昭太郎¹⁾，細根 勝¹⁾，恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院病理部，²⁾ 外科学第1)：嚢胞形成を伴った若年性乳腺髄様癌の1例。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.
 - 18) 中村慶春，江上 格，岡崎滋樹，和田雅世，水谷 崇，飯田信也，菅 隼人，山田岳史，瀧田雅仁，秋谷行宏，大野智康，吉岡正智，内田英二¹⁾，田尻 孝¹⁾，恩田昌彦¹⁾ (1) 外科学第1)：膵・胆管合流異常における膵炎合併症例の検討。第21回日本膵胆道合流異常研究会，1998. 9.
 - 19) 秋谷行宏，江上 格，岡崎滋樹，和田雅世，水谷 崇，飯田信也，菅 隼人，中村慶春，瀧田雅仁，山田岳史，大野智康，吉岡正智，内田英二¹⁾，田尻 孝¹⁾，恩田昌彦 (1) 外科学第1)：膵炎合併の合流異常症例の検討 特に術後経過不良例について。第21回日本膵胆道合流異常研究会，1998. 9.
 - 20) 山本英希，江上 格，松島申治，岡崎滋樹，和田雅世，水谷 崇，飯田信也，菅 隼人，中村慶春，山田岳史，瀧田雅仁，秋谷行宏，大野智康，吉岡正智：Morgagniヘルニアの1例。第57回城西外科学研究会，1998. 9.
 - 21) 大野智康，江上 格，松島申治，岡崎滋樹，和田雅世，山本英希，水谷 崇，飯田信也，菅 隼人，中村慶春，山田岳史，瀧田雅仁，秋谷行宏，吉岡正智：巨大腹部腫瘍，胃結腸癒，腹水を呈した胃癌の1切除例。第57回城西外科学研究会，1998. 9.
 - 22) 池田研吾，恩田昌彦¹⁾，徳永 昭¹⁾，瀧田雅仁，白川 毅，平本義浩¹⁾，小栗 剛¹⁾，寺本 忠¹⁾，飯田信也，木山輝郎，吉行俊郎¹⁾，加藤俊二¹⁾，長谷川博一¹⁾，松倉則夫¹⁾ (1) 外科学第1)：胃癌化学療法の効果：術前内視鏡生検材料におけるThymidylate Synthaseの発現。第9回日本消化器癌発生学会，1998. 9.
 - 23) 山田岳史，恩田昌彦¹⁾，田中宣威¹⁾，古川清憲¹⁾，高崎秀明¹⁾，瀬谷知子¹⁾，金沢義一¹⁾，高橋由至¹⁾，小泉岐博¹⁾，田中元子¹⁾ (1) 外科学第1)：大腸癌患者における血清p 53抗体の検出。第53回日本大腸肛門病学会総会，1998. 10.
 - 24) 中村慶春，恩田昌彦¹⁾，内田英二¹⁾，松下 晃¹⁾，柳 健¹⁾，山村 進¹⁾，相本隆幸¹⁾，小林 匡¹⁾，有馬保生¹⁾，田尻 孝¹⁾，山下精彦¹⁾ (1) 外科学第1)：膵癌診断における十二指腸洗浄液中K-ras変異解析およびCEA濃度測定。第40回日本消化器病学会大会，1998. 10.
 - 25) 飯田信也，恩田昌彦¹⁾，徳永 昭¹⁾，池田研吾，平本義浩¹⁾，松倉則夫¹⁾，江上 格，前田昭太郎²⁾，細根 勝²⁾，片山博徳²⁾，末岡伸夫³⁾，小林正文 (1) 外科学第1，²⁾ 多摩永山病院病理部，³⁾ 内科学第3)：消化管の創傷治

- 癒：ヒト十二指腸潰瘍治療過程における増殖因子およびその受容体等の局在ならびに発現の解析。第40回日本消化器病学会大会，1998。10。
- 26) 松島申治，山本英希，江上 格，星野有哉¹⁾，小泉 潔¹⁾，田中茂夫¹⁾ (1) 外科学第2)：胸腺腫切除後再発，転移例の検討。第39回日本肺癌学会総会，1998。10。
- 27) 中村慶春，恩田昌彦¹⁾，内田英二¹⁾，柳 健¹⁾，松下 晃¹⁾，山村 進¹⁾，相本隆幸¹⁾，小林 匡¹⁾，田尻孝¹⁾，山口敏和²⁾，暁 青²⁾ (1) 外科学第1，2) BML研究所)：膵癌の診断における十二指腸洗浄液の有用性：K-ras点突然変異解析。第57回日本癌学会総会，1998。10。
- 28) 池田研吾，恩田昌彦¹⁾，徳永 昭¹⁾，瀧田雅仁，白川 毅¹⁾，沖野哲也¹⁾，李 栄浩¹⁾，平本義浩¹⁾，木山輝郎¹⁾，吉行俊郎¹⁾，加藤俊二¹⁾，松倉則夫¹⁾ (1) 外科学第1)：胃癌術前化学療法の効果予測：術前内視鏡生検材料におけるThymidylate Synthaseの発現。第36回日本癌治療学会，1998。10。
- 29) 山田岳史，江上 格，松島申治，岡崎滋樹，和田雅世，山本英希，水谷 崇，飯田信也，菅 隼人，中村慶春，瀧田雅仁，秋谷行宏，吉岡正智：当科における大腸癌肝転移の治療方針。第60回日本臨床外科学会総会，1998。11。
- 30) 磯部宏昭¹⁾，前田昭太郎¹⁾，細根 勝¹⁾，原 博¹⁾，片山博徳¹⁾，柳田裕美¹⁾，日吾美栄子¹⁾，阿部久美子¹⁾，江上 格，浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院病理部，2) 病理学第2)：膵臓腫瘍に対する術中迅速細胞診—2ポイント採取法—。第37回日本臨床細胞学会秋期大会，1998。11。
- 31) 山田岳史，江上 格，松島申治，岡崎滋樹，和田雅世，山本英希，水谷 崇，飯田信也，菅 隼人，瀧田雅仁，長澤重直，石塚朋樹，工藤秀徳，吉岡正智：肝門部胆管癌の治療成績と長期生存例。第10回日本肝胆膵外科学会，1998。11。
- 32) 池田研吾，恩田昌彦¹⁾，徳永 昭¹⁾，平本義浩¹⁾，李 栄浩¹⁾，瀧田雅仁，白川 毅¹⁾，藤田逸郎，飯田信也，吉行俊郎¹⁾，木山輝郎¹⁾，長谷川博一¹⁾，松倉則夫¹⁾ (1) 外科学第1)：ブタを用いた食道空腸器械吻合創治療過程の実験。第28回創傷治療研究会，1998。12。
- 33) 飯田信也，恩田昌彦¹⁾，徳永 昭¹⁾，平本義浩¹⁾，池田研吾，吉行俊郎¹⁾，松倉則夫¹⁾，山下精彦¹⁾，水谷 崇，江上 格，吉岡正智，小林正文²⁾，末岡伸夫²⁾，浅野伍朗³⁾，前田昭太郎⁴⁾，細根 勝⁴⁾，片山博徳⁴⁾ (1) 外科学第1，2) 内科学第3，3) 病理学第2，4) 多摩永山病院病理部)：消化管の創傷治療：ヒト十二指腸潰瘍における増殖因子および増殖因子受容体の局在・発現の解析。第28回創傷治療研究会，1998。12。
- 34) 中村慶春，恩田昌彦¹⁾，内田英二¹⁾，柳 健¹⁾，松下 晃¹⁾，山村 進¹⁾，相本隆幸¹⁾，小林 匡¹⁾，有馬保生¹⁾，秋丸琥甫¹⁾，田尻 孝¹⁾，山下精彦¹⁾，田島廣之²⁾，隈崎達夫²⁾，江上 格 (1) 外科学第1，2) 放射線科)：重症急性膵炎に対する早期動注療法の適応。第53回日本消化器外科学会総会，1999。2。
- 35) 井上泰夫，福嶋善光¹⁾，松久威史¹⁾，秋谷行宏，水谷 崇，江上 格 (1) 多摩永山病院内視鏡科)：食道末梢神経鞘腫の1例。第253回日本消化器病学会関東地方会，1999。2。
- 36) 中村慶春，恩田昌彦¹⁾，内田英二¹⁾，柳 健¹⁾，松下 晃¹⁾，山村 進¹⁾，相本隆幸¹⁾，小林 匡¹⁾，有馬保生¹⁾，田尻 孝¹⁾，山下精彦¹⁾，隈崎達夫²⁾，江上 格¹⁾ (1) 外科学第1，2) 放射線科)：急性膵炎の重症度判定：予後点数とCTスコア。第99回日本外科学会総会，1999。3。
- 37) 池田研吾，江上 格，松島申治，和田雅世，山本英希，水谷 崇，飯田信也，藤田逸郎，中村慶春，山田岳史，秋谷行宏，加藤圭介，大野智康，吉岡正智，恩田昌彦¹⁾ (1) 外科学第1)：肝のinflammatory pseudotumorの1例。第772回外科集談会，1999。3。
- 38) 加藤圭介，江上 格，松島申治，和田雅世，山本英希，飯田信也，水谷 崇，藤田逸郎，中村慶春，大野智康，山田岳史，秋谷行宏，池田研吾，吉岡正智：破裂肝癌に対し主腫瘍切除，娘腫瘍エタノール注入療法を行った1例。第58回城西外科研究会，1999。3。

[多摩永山病院消化器科]

研究概要

当科は消化器全般の内科的・外科的疾患をその診療の対象とし、それらに関する研究と、幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指している。現在、地域中核病院の診療科として、消化器疾患に対する以下のような診療ならびに研究活動を続けている。

- 1) 患者数の増加に伴って上部および下部消化管内視鏡検査件数も増え続けているが、それらの検査診断技術の向上に努めている。
- 2) 各種消化器疾患の内視鏡的治療および内視鏡下手術について臨床研究を行っている。早期癌の内視鏡的治療、総胆管結石・肝内結石・胆道狭窄の内視鏡的処置などにつき研究および治療成績の向上に努力している。
- 3) 炎症性腸疾患の診断と治療について、とくに潰瘍性大腸炎の薬物療法を中心とした臨床研究を続けている。
- 4) イレウス、腹膜炎など、急性腹症の病態と治療について、研究を継続中である。
- 5) 肝硬変症、門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療と病態に応じた治療法の選択により、放射線科・外科との共同で良好な治療成績を得ている。
- 6) C型慢性活動性肝炎に対するインターフェロン療法、肝細胞癌に対する治療についても、症例を蓄積中である。
- 7) 胃炎、消化性潰瘍に対するヘリコバクター・ピロリの除菌療法についても症例を蓄積している。
- 8) GERD (Gastro-esophageal Reflux Disease) についての臨床研究を開始している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Egami K¹⁾, Onda M²⁾, Uchida E²⁾, Matsuda T, Watanabe A²⁾, Arima Y²⁾, Kim T²⁾, Tajiri T²⁾, Okazaki S¹⁾, Kobayashi M³⁾ (1) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, 2) First Department of Surgery, Nippon Medical School, 3) Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Clinicopathological studies on association of gallbladder carcinoma and pancreaticobiliary maljunction. J Nippon Med Sch 1998 ; 65 : 1-7.
- 2) 松田 健, 沖浜裕司, 相本隆幸, 谷合信彦, 横山 正, 江上 格¹⁾, 岡崎滋樹¹⁾, 和田雅世¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 外科学第1) : 脾の solid and cystic tumor : 自験例ならびに本邦報告405例の臨床的検討. 多摩消化器シンポ誌 1998 ; 12 : 28-35.
- 3) 谷合信彦, 恩田昌彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 鳥羽昌仁¹⁾, 梅原松臣¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 西久保秀紀¹⁾, 松本智司¹⁾, 山本一仁¹⁾, 金子昌裕¹⁾, 山下精彦¹⁾, 沖浜裕司, 松田 健, 江上 格²⁾, 吉岡正智²⁾ (1) 外科学第1, 2) 多摩永山病院外科) : 食道静脈瘤に対する部分脾動脈塞栓術 (PSE) 併用内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL) の有用性の検討. Gastroenterological Endoscopy 1998 ; 40 : 2113-2118.
- 4) 松田 健, 沖浜裕司, 藤田逸郎, 寺本 忠, 江上 格¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 外科学第1) : 消化器癌終末期医療の検討. 多摩消化器シンポジウム誌 1999 ; 13 : 72-78.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 佐々部一, 沖浜裕司, 松田 健, 金沢義一, 工藤秀徳, 江上 格¹⁾, 松島申治¹⁾, 岡崎滋樹¹⁾, 和田雅世¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 外科学第1) : 当科における消化性潰瘍手術症例の検討. 第18回多摩消化器シンポジウム, 1999. 2.

(2) 一般講演：

- 1) 和田雅世¹⁾、江上 格¹⁾、松田 健、吉岡正智¹⁾、恩田昌彦²⁾、山本保博³⁾、大塚敏文³⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 外科学第1, 3) 救急医学科)：小児重度外傷における重症度と肝外傷。第12回日本小児救急医学会, 1998. 6.
- 2) 菅 隼人¹⁾、江上 格¹⁾、松島申治¹⁾、岡崎滋樹¹⁾、和田雅世¹⁾、山本英希¹⁾、水谷 崇¹⁾、飯田信也¹⁾、長澤重直¹⁾、石塚朋樹¹⁾、山田岳史¹⁾、瀧田雅仁¹⁾、工藤秀徳¹⁾、吉岡正智¹⁾、松田 健 (1) 多摩永山病院外科)：穿孔性虫垂炎の治療上の問題点。第31回日本腹部救急医学会総会, 1998. 9.
- 3) 佐々部一、沖浜裕司、松田 健、工藤秀徳、恩田昌彦¹⁾ (1) 外科学第1)：当科における消化器癌終末期医療の現状：とくに癌告知と緩和医療上の問題点を中心として。第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 4) 工藤秀徳、沖浜裕司、松田 健、佐々部一、江上 格¹⁾、岡崎滋樹¹⁾、和田雅世¹⁾、吉岡正智¹⁾、恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 外科学第1)：化学療法が奏効した胃悪性リンパ腫の1例。第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 5) 飯田信也¹⁾、江上 格¹⁾、松島申治¹⁾、岡崎滋樹¹⁾、和田雅世¹⁾、山本英希¹⁾、水谷 崇¹⁾、菅 隼人¹⁾、中村慶春¹⁾、山田岳史¹⁾、瀧田雅仁¹⁾、秋谷行宏¹⁾、大野智康¹⁾、吉岡正智¹⁾、沖浜裕司、松田 健、松久威史²⁾、恩田昌彦³⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 同内視鏡科, 3) 外科学第1)：当科における食道癌の治療成績：縦隔鏡補助下食道拔去術の有用性について。第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 6) 松田 健、沖浜裕司、佐々部一、工藤秀徳、江上 格¹⁾、松島申治¹⁾、岡崎滋樹¹⁾、和田雅世¹⁾、吉岡正智¹⁾、恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 外科学第1)：集学的治療が奏効した副腎転移胃悪性リンパ腫の長期緩解の1例。日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
- 7) 沖浜裕司、松田 健、佐々部一、工藤秀徳、江上 格¹⁾、岡崎滋樹¹⁾、和田雅世¹⁾、水谷 崇¹⁾、飯田信也¹⁾、恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 外科学第1)：総胆管のMetallic Stentsを抜去した1例。第67回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 11.
- 8) 秋谷行宏¹⁾、江上 格¹⁾、和田雅世¹⁾、松島申治¹⁾、山本英希¹⁾、水谷 崇¹⁾、飯田信也¹⁾、菅 隼人¹⁾、中村慶春¹⁾、瀧田雅仁¹⁾、山田岳史¹⁾、大野智康¹⁾、吉岡正智¹⁾、沖浜裕司、松田 健、細根 勝²⁾、前田昭太郎²⁾、恩田昌彦³⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 同病理部, 3) 外科学第1)：特異な脾内進展を呈した脾 Malignant islet cell tumor の1例。第253回日本消化器病学会関東支部例会, 1999. 2.
- 9) 金沢義一、沖浜裕司、松田 健、佐々部一、恩田昌彦¹⁾ (1) 外科学第1)：大腸リンパ管腫の3自験例と本邦報告例の臨床的検討。第254回日本消化器病学会関東支部例会, 1999. 5.
- 10) 松田 健、沖浜裕司、佐々部一、金沢義一、恩田昌彦¹⁾ (1) 外科学第1)：横行結腸リンパ管腫の1内視鏡的切除例と本邦報告234例の臨床的検討。第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1999. 6.

[千葉北総病院外科]

研究概要

消化器外科ならびに一般外科疾患を対象として臨床的研究を行い、治療成績を中心としてその成果を学会および学会誌で報告している。

開院後4年目であるが、外来・入院患者とも徐々に増加し、それに伴い年間手術件数も500例を超え、来年度はさらに増える見通しで地域における基幹病院として、また千葉北部地区の学会・研究会にも積極的に参加し、その重責を担っている。

1) 胃癌・大腸癌を中心とした消化器癌に乳癌、甲状腺癌を加えた悪性疾患が主たる対象疾患で、とくに食道、胃、大腸癌が多く、これらに対し手術、化学療法を組み合わせ集学的治療をさらに精度を高めるため、専門的な診療、研究体制を整いつつある。また、胃、大腸の早期癌に対しては従来よりEMRを行っているが、腹腔鏡下胆摘手術をさらに発展させ胃、大腸腫瘍にも腹腔鏡下外科的切除を積極的に取り入れている。

- 2) 良性疾患には従来の手技。手法を基本に新しい手技を取り入れている。
- 3) 院内において内科，病理，放射線科と合同 conference を定期的に行っており，個々の症例について臨床的検討をより深めている。

研究業績

著書

- 1) 京野昭二，森山雄吉，松倉則男，山下精彦：〔分担〕血清ペプシノーゲンの異常高値を契機として発見された早期胃癌の1例。ペプシノーゲン法（編集：三木一正），1998；pp43-48，医学書院。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 田中宣威，恩田昌彦，横山滋彦，永嶋裕司，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，瀬谷知子，佐々部一：大腸癌術後腸管麻痺に対する大建中湯の効果。第16回関東東洋医学研究会，1998。6。

(2) 一般講演：

- 1) Seya T, Onda M, Tanaka N, Yoshimura K, Kanazawa Y, Yamada T, Naitoh Z¹⁾, Asano G¹⁾ (1) 2nd Dept. of Patho) : Correlation of 5-Fluorouracil Chemotherapy and Thymidylate Synthase Expression in Advanced Colorectal Carcinoma. XXXIIIrd congress of the European Society for Surgical Research (ESSR) . (Padua, Italy), 1998. 4.
- 2) Tanaka N, Onda M, Seya T, Furukawa K, Takasaki H, Kan H, Naitoh Z¹⁾, Asano G¹⁾ (1) 2nd Dept. of patho) : Expression of Basic Fibroblast Growth Factor (bFGF) , Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF) and Platelet Derived Growth Factor (PDGF) in human colorectal cancer. XXXIIIrd congress of the European Society for Surgical Research (ESSR) (Padua, Italy), 1998. 4.
- 3) Seya T, Onda M, Tanaka N, Takasaki H, Yoshimura K, Kanazawa Y, Takahashi Y, Sugiura A, Naitoh Z¹⁾, Asano G¹⁾ (1) 2nd Dept. of Patho) : Correlation of 5-Fluorouracil chemotherapy and thymidylate synthase expression in colorectal cancer. 11th World Congress of Gastroenterology, (Wien), 1998. 9.
- 4) Seya T, Onda M, Tanaka N, Furukawa K, Yoshimura K, Kanazawa Y, Takahashi Y, Naitoh Z¹⁾, Asano G¹⁾ (1) 2nd Dept. of Patho) : Thymidylate synthase expression in advanced colorectal cancer. 16th World Congress Collegium Internationale Chirurgical Digestivaeof. (Madrid), 1998. 9.
- 5) Tanaka N, Onda M, Seya T, Furukawa K, Yoshimura K, Kanazawa Y, Yamada T, Takahashi Y, Naitoh Z¹⁾, Asano G¹⁾ (1) 2nd Dept. of Patho) : Expression of Matrix Metalloprotease-9 and Type IV collagen in Colorectal Cancer (CRC) and its Liver Metastasis. 11th World Congress of Gastroenterology (Vienna), 1998. 9.
- 6) Tanaka N, Onda M, Seya T, Furukawa K, Naitoh Z¹⁾, Asano G¹⁾ (1) 2nd Dept. of Patho) : Expression of MMP-9, TIMP-1 and Type IV collagen in Colorectal Cancer and its Liver Metastasis. 16th World Congress Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae, 1998. 9.
- 7) 森 正陽，森山雄吉，京野昭二，横井公則，石川紀行，菅 隼人，藤田逸郎，松崎 栄，佐々部一，広井 信，山下精彦，恩田昌彦¹⁾ (1) 第1外科) : イレウス手術症例の検討：術後イレウスを中心として。第30回日本腹部救急医学会総会，1998。3。
- 8) 瀬谷知子，恩田昌彦¹⁾，田中宣威，古川清憲¹⁾，高崎秀明¹⁾，吉村和泰¹⁾，金沢義一¹⁾，山田岳史¹⁾，高橋由至¹⁾，内藤善哉²⁾，浅野伍朗²⁾ (1) 第1外科，2) 病理第2) : 大腸癌原発巣における Thymidine synthetase (TS) および p53 癌抑制遺伝子の発現。第98回日本外科学会総会，1998。4。
- 9) 瀬谷知子，恩田昌彦，田中宣威，古川清憲，高崎秀明，樋口勝美，吉村和泰，金沢義一，山田岳史：大腸癌原

- 発巢および肝転移巢における HGF と c-met protooncogene product の発現. 第 84 回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
- 10) 田中宣威, 恩田昌彦, 瀬谷知子, 金沢義一, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 山田岳史, 高橋由至, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理第 2): 大腸癌原発巢および肝転移における bFGF, VEGF および dThdPase の発現. 第 98 回日本外科学会総会, 1998. 4.
 - 11) 田中宣威, 恩田昌彦, 瀬谷知子, 金沢義一, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 山田岳史, 高橋由至, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理第 2): 大腸癌原発巢および肝転移における VEGF, dThdPase および Factor VIII (F8) の発現. 第 84 回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
 - 12) 瀬谷知子, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 山田岳史, 杉浦 篤, 高橋由至, 小泉岐博, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第 2): 大腸癌原発巢および肝転移巢における Thymidylate synthase の発現. 第 57 回日本癌学会総会, 1998. 9.
 - 13) 田中宣威, 恩田昌彦, 瀬谷知子, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 山田岳史, 高橋由至, 小泉岐博, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第 2): 大腸癌原発巢および肝転移における Matrix Metalloprotease-9 および IV 型 Collagen の発現. 第 57 回日本癌学会総会, 1998. 9.
 - 14) 田中宣威, 恩田昌彦, 瀬谷知子, 古川清憲, 横井公良, 高崎秀明, 吉村和泰, 金沢義一, 高橋由至, 杉浦 篤, 小泉岐博, 浅野伍朗¹⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学第 2): 大腸癌原発巢における Thymidylate Synthase (TS) の発現. 第 36 回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
 - 15) 石川紀行, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 瀬谷知子: フェーター乳頭癌術後血友病 A が判明した 1 例. 第 10 回千葉 Critical Care Medicine 研究会, 1998. 12.
 - 16) 京野昭二, 森 正陽, 石川紀行, 横井公良, 田中宣威, 山下精彦, 渡 淳¹⁾ (1) 千葉北総病院内科): 早期胃癌に対する多段階治療: 特に高分化癌粘膜内 (m) 癌を中心として. 第 11 回日本内視鏡外科学会総会, 1998. 12.
 - 17) 瀬谷知子, 恩田昌彦, 田中宣威, 横井公良, 山下精彦, 高崎秀明, 吉村和泰, 金沢義一, 山田岳史, 高橋由至, 小泉岐博, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第 2): 大腸癌原発巢, リンパ節および肝転移巢における Thymidylate synthase の発現. 第 99 回日本外科学会総会, 1999. 3.
 - 18) 田中宣威, 恩田昌彦, 瀬谷知子, 横井公良, 石川紀行, 山下精彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 山田岳史, 高橋由至, 小泉岐博, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第 2): 大腸癌原発巢における MMP-9, type IV collagen, TIMP-1 の発現. 第 99 回日本外科学会総会, 1999. 3.

10. 外科学第二講座

[付属病院第2外科]

研究概要

外科学第二講座は付属病院第二外科，付属第二病院外科，付属第二病院消化器病センター，千葉北総病院胸部外科，多摩永山病院胸部外科，多摩永山病院内視鏡センターにおいて教育，研究，診療を担っている。付属病院第二外科では以下の項目を重点的に研究している。

1) 心臓血管外科では年間約200例の開胸術を行い，虚血性心疾患が最も多く，続いて先天性心疾患，心臓弁膜疾患，胸部大動脈瘤がこれにつぐ。したがって，虚血性心疾患領域での研究が多い。また，不整脈外科の研究は教室では特に力を注いでおり，新しい研究発表も多い。大動脈瘤の手術症例数も多く，手術手技の工夫，長期予後の改善に関する研究が多い。

2) 呼吸器外科では悪性腫瘍に加えて，最近では肺気腫に対する外科治療として volume reduction surgery の工夫がなされ，研究発表も多い。さらに開胸手術に対して video assisted thoracoscopic surgery (VATS) に関する手術手技の工夫，研究に力を注いでいる。基礎的研究としては FISH 法による遺伝子診断にて，肺癌手術症例の予後判定，化学療法，放射線療法の選択に関する研究が続けられている。

3) 内分泌外科では甲状腺疾患，上皮小体，副腎腫瘍に関する研究が目立つ。パセドウ病に対する外科手術に際し，切除された甲状腺を凍結保存し，術後に甲状腺機能低下をきたす症例に再移植する方法は新しい治療法として注目を集めている。さらに甲状腺疾患，乳腺疾患に対する内視鏡下手術は術後の QOL の改善も含めて注目されつつある。

その他，海外留学先での遺伝子診断，治療の研究も盛んである。

研究業績

論文

[1997年度追加分]

原著：

- 1) Koizumi K, Haraguchi S, Akiyama H, Mikami I, Fukushima M, Kubokura H, Okada D, Tanaka S : Minimally Invasive Combined Therapy for Patients with Small Peripheral Stage I Lung Cancer by means of Thoracoscopic Partial Resection and Concurrent Internal Radio-therapy. VATS '97: 4th International Symposium on Thoracoscopy and Video-assisted Thoracic Surgery 1998 ; 2 : 117-123

(1) 原著：

- 1) Kitamura Y, Shimizu K, Ito K, Tanaka T : p53 gene mutation is not associated with tumorigenesis of medullary thyroid carcinoma. Thyroidol Clin Exp 1998 ; 171-174.
- 2) Lee R¹⁾, Nitta T, Schmid RA¹⁾, Schuessler RB¹⁾, Harris KM¹⁾, Gay WAJ¹⁾ (1) Washington University School of Medicine, Cardiothoracic Surgery) : Retrograde infusion of lidocaine or L-arginine before reperfusion reduces myocardial infarct size. Ann Thorac Surg 1998 ; 65 : 1353-1359.
- 3) Robotin MC¹⁾, Schuessler RB¹⁾, Nitta T, Bromberg B¹⁾, Cox JL¹⁾, Huddleston C¹⁾ (1) Washington University School of Medicine, Cardiothoracic Surgery) : Inducibility of Atrial Flutter Following Extracardiac Fontan Operations. Proceedings of the 2nd World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery 1998 ; 479-482.
- 4) Tenjin T, Suzuki S, Tanaka S : Measurement of c-myc gene amplification in colorectal carcinoma by dual color FISH. Cytometry Reseach 1998 ; 8 (1) : 27-31.

- 5) Tenjin T, Kubokura H, Mikami I, Suzuki S, Koizumi K, Tanaka S : A study of the relationship c-myc gene amplification and chromosome 8 copy number in breast cancer by interphase cytogenetics. *Cytometry Research* 1998 ; 8 (2) : 63-66.
- 6) Koizumi K, Haraguchi S, Akiyama H, Mikami I, Fukushima M, Kubokura H, Okada D, Tanaka S : THORACOSCOPIC REPAIR OF DIAPHRAGMATIC DISORDERS -REPORTS OF TWO CASES : HEPATIC HYDROTHORAX AND CATAMENIAL PNEUMOTHORAX. 6th World Congress of ENDOSCOPIC SURGERY 1998 ; 3 (6) : 1161-1166.
- 7) Yamauchi H¹⁾, Ninomiya J¹⁾, Imura H¹⁾, Iwaki H¹⁾, Hinokiyama K¹⁾, Sakamoto S¹⁾, Tanaka S¹⁾, Kumazaki T²⁾ (¹⁾ The Second Department of Surgery, ²⁾ The Department of Radiology) : Total Cavopulmonary Connection without the prosthetic material : Post operative evaluation with Rotational Stereo-Digital Angiography. *Proceeding of the second world congress of pediatric cardiology and cardiac surgery* 1998 ; 175-178.
- 8) Hirai K¹⁾, Muhammad A¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology and Laboratory Medicine, University of Cincinnati Medical Center) : Modulation of Adenosine Effects in Attenuation of Ischemia and Reperfusion Injury in Rat Heart. *J Mol Cell Cardiol* 1998 ; (30) : 1803-1815.
- 9) Katoh S¹⁾, Akimaru K, Ishiguro S¹⁾, Miyake K¹⁾ (¹⁾ Sougou Aizuchyuou Hospital) : Esophago-jejuno-duodenal anastomoses with a short duodenum. 8th World Congress of the International Gastro-Surgical Club 1998 ; 191-195.
- 10) Kaneya H, Sugimoto K, Tanaka S, Yamashita K : Morphological and functional changes in rat endothelial cells after ischemia-reperfusion. *Biomedical Research* 1998 ; 19 (6) : 369-376.
- 11) Tanaka S : An overview of the fifth-generation implantable cardioverter defibrillator. *Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery* 1998 ; 4 (6) : 303-311.
- 12) Kiyoshi Koizumi, Haraguchi S, Akiyama H, Mikami M, Fukushima M, Tanaka S : VATS Lobectomy for Primary Lung Cancer -Experiences based on Provisional Indications-. *Surgery Today* 1998 ; 28 (1) : 36-40.
- 13) Koizumi K, Haraguchi S, Akiyama H, Mikami M, Fukushima M, Kawamoto M, Tanaka S : Thoracoscopic Enucleation of Submucosal Bronchogenic Cyst of the Esophagus -Report of Two Cases-. *Surgery Today* 1998 ; 28 (4) : 446-450.
- 14) Koizumi K, Haraguchi S, Akiyama H, Mikami I, Fukushima M, Kubokura H, Okada D, Tanaka S : Minimally Invasive Combined Therapy for Patients with Small Peripheral Stage I Lung Cancer by Means of Thoracoscopic Partial Resection and Concurrent Internal Radio-therapy. *VATS '97 : 4th International Symposium on Thoracoscopy and Video-Assisted Thoracic Surgery* 1998 ; 2 : 117-123.
- 15) Ochi M, Yamauchi S, Yajima T, Bessho R, Tanaka S : The Clinical Significance of Performing preoperative Angiography of the Internal Thoracic Artery in Coronary Bypass Surgery. *Surgery Today* 1998 ; 28 : 503-508.
- 16) Nagahama M, Shimizu K, Kanno S, Aida N, Kitamura Y, Kitagawa W, Akazu H, Tanaka S : A CASE OF TERTIARY HYPERPARATHYROIDISM. *JAFES (Journal of Asean Federation of Endocrine societies)* 1998 ; 16 : 59-64.
- 17) Enomoto Y, Shimizu K, Haraguchi S, Omori H, Kitamura Y, Kitagawa W, Fukunari N, Ishii R, Tanaka S : Vertebral Metastasis from Follicular Carcinoma of the Thyroid Representating the Elevation of Serum Thyroglobulin (Proceedings). *医学と薬学* 1998 ; 39 : 559-560.
- 18) Ishii R, Shimizu K, Nagahama M, Kitamura Y, Akasu H, Igarashi T, Aida N, Ito K, Tanaka S : Clinical Study on Medullary Carcinoma of the Thyroid with Postoperative Elevation of Calcitonin and/or CEA

- (Proceedings). 医学と薬学 1998 ; 39 : 562-562.
- 19) Shimizu K, Akira S, Kitamura Y, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka S : Video-Assisted Neck Surgery (VANS) : Endoscopic resection of a large thyroid nodule extending to the upper mediastinum with the aim of scarless neck surgery. *Thyroidol Clin Exp* 1998 ; 10 : 241-244.
 - 20) Kitamura Y, Shimizu K, Ito K, Tanaka S : p53 gene mutation is not associated with tumorigenesis of medullary thyroid carcinoma. *Thyroidol Clin Exp* 1998 ; 10 : 171-174.
 - 21) Shimizu K, FACS, Akira S, Tanaka S : Video-Assisted Neck Surgery : Endoscopic Resection of Benign Thyroid Tumor Aiming at Scarless Surgery on the Neck. *J Surg Oncol* 1998 ; 69 : 178-180.
 - 22) Yamauchi H, Ishii Y, Omori H, Takakusaki Y, Yamada K, Yajima T, Takashi N, Ochi M, Fukumi D¹⁾, Kuramochi Y¹⁾, Okubo T¹⁾, Ogawa S¹⁾, Tanaka S (¹⁾ Department of Pediatrics) : Modified Fontan operation. Considerations for the determination of the appropriate procedure. *J Nippon Med Sch* 1999 ; 66 (1) : 28-32.
 - 23) Nitta T, Lee R, Schuessler RB, Boineau JP, Cox JL (¹⁾ Washington University School of Medicine, Cardiothoracic Surgery) : Radial Approach : A New Concept in Surgical Treatment for Atrial Fibrillation : 1. Concept, anatomical and physiological bases, and development of a procedure. *Ann Thorac Surg* 1999 ; 67 (1) : 27-35.
 - 24) Nitta T, Lee R, Watanabe H, Harris KM, Erikson JM, Schuessler RB, Boineau JP, Cox JL (¹⁾ Washington University School of Medicine, Cardiothoracic Surgery) : Radial Approach : A New Concept in Surgical Treatment for Atrial Fibrillation : 2. Electrophysiological Effects and Atrial Contribution to Ventricular Filling. *Ann Thorac Surg* 1999 ; 67 (1) : 36-50.
 - 25) Hirai K¹⁾, Yokoyama M¹⁾, Asano G¹⁾, Tanaka S (¹⁾ Department of Pathology) : Expression of Cathepsin B and Cystatin C in Human Colorectal Cancer. *HUM PATHOL* 1999 ; (30) : 680-686.
 - 26) Kitamura Y, Minobe K, Nakata T, Shimizu K, Tanaka S : Ret/PTC3 is the most frequent of gene rearrangement in papillary thyroid carcinomas in Japan. *J Hum Genet* 1999 ; 44 : 96-102.
 - 27) Shimizu K, Akira S, Kitamura Y, Kitagawa W, Akasu H, Takatsu K, Araki T, Tanaka S : Video-Assisted Neck Surgery (VANS) : Endoscopic Resection for Three Cases of Micro-Papillary Carcinoma of the Thyroid with a Very Minimal Neck Wound Using the Gasless Anterior Neck Lift Method : A Comparison with 30 Benign Thyroid and Parathyroid Tumors. *European Surgical Research : Clinical and Experimental Surgery (Abstract)* 1999 ; 120-121.
 - 28) Shimizu K, FACS, Akira S, Ali YJ, FRCS, MS, Kitamura Y, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka S : Video-Assisted Neck Surgery : Endoscopic Resection of Thyroid Tumors with Very Minimal Neck Wound. *J Am Coll Surg* 1999 ; 188 : 697-703.
 - 29) Kitamura Y, Minobe K, Nakata T, Shimizu K, Tanaka K, Fujimori M, Yokoyama S, Ito K, Onda M, Emi M : Ret/PTC 3 is the most frequent form of gene rearrangement in papillary thyroid carcinomas in Japan. *J Hum Genet* 1999 ; 44 : 96-102.
 - 30) 窪倉浩俊 : 気管支鏡を経胸腔的に用いて診断のついた肺大細胞癌の1症例. *埼玉医会誌* 1998 ; 32 (5) : 659-662.
 - 31) 新田 隆, 石井律子, 石井庸介, 小笠原英継, 三上 徹, 山田研一, 菅野重人, 落 雅美, 田中茂夫 : 心房細動に対するRadial Approachの経験. *心臓* 1998 ; 30 (1) : 9-10.
 - 32) 三上 徹, 山本光伸¹⁾, 西村仁志¹⁾, 小泉 潔, 五味淵誠, 田中茂夫 (¹⁾ 埼玉県立がんセンター胸部外科) : 子宮筋腫術後17年目に発見された多発性肺腫瘍 : いわゆるBenign metastasizing leiomyomaの1例. *日胸外会誌* 1998 ; 46 (7) : 634-638.

- 33) 塩谷 猛, 窪倉浩俊, 鈴木章一, 川村一彦, 内山喜一郎, 渋谷哲男, 田中茂夫: 大腸内視鏡によりS状結腸穿孔をきたした潰瘍性大腸炎患者の1治験例. 日本外科系連合学会誌 1998; 22 (4): 662-665.
- 34) 田中茂夫¹⁾, 安田慶秀²⁾, 松居喜郎²⁾, 三井利夫³⁾, 軸屋智昭³⁾, 小柳 仁⁴⁾, 川田志明⁵⁾, 四津良平⁵⁾, 三崎拓郎⁶⁾, 小坂井嘉夫⁷⁾, 松田 輝⁸⁾, 松浦雄一郎⁹⁾, 末田泰二郎⁹⁾, 安田久喬¹⁰⁾, 川内義人¹⁰⁾, 早川 弘一, 桜井正之, 山口 巖, 笠貫 宏, 細田瑳一, 小川 聡, 宮崎 利久, 井上 博, 藤木 明, 下村克朗, 栗原隆志, 堀 正二, 星野四郎, 梶山悟郎, 松浦秀夫, 竹下 彰, 橋木晶子 (1) 第二外科, 2) 北海道大学医学部循環器外科, 3) 筑波大学臨床医学系外科, 4) 東京女子医大循環器外科, 5) 慶応大学医学部胸部外科, 6) 富山医科薬科大学医学部, 7) 国立循環器センター心臓血管外科, 8) 大阪大学第一外科, 9) 広島大学医学部第一外科, 10) 九州大学医学部心臓血管研究施設外科, 第1内科, 北海道大学医学部, 筑波大学臨床慶医学系内科, 東京女子医科大学循環器内科, 富山医科薬科大学医学部第一内科, 国立循環病センター心臓内科, 大阪大学医学部第一内科, 広島大学医学部第一内科, 九州大学医学部心臓血管研究施設内科): 致死性不整脈に対する第4世代植込み型除細動器: VENTAK-MINI植込み型除細動器の効果と安全. 不整脈 1998; 14 (3): 309-321.
- 35) 田中茂夫: 植込み型除細動器. 循環器 1998; 266-270.
- 36) 平井恭二: Pathobiochemistry of postischemic reperfusion injury 特にFree radicalに関する研究. 日医大誌 1998; 65 (6): 46-47.
- 37) 秋丸琥甫, 加藤修志, 石黒慎吾, 三宅健治: 胃全摘後の小腸捻転による小腸大量切除の1例. 日腹部救急医学会誌 1998; 18 (4): 581-585.
- 38) 笠貫 宏¹⁾, 細田瑳一¹⁾, 小柳 仁¹⁾, 北畠 顕, 桜井政之, 安田慶秀, 松井喜郎, 平盛勝彦, 千葉直樹, 川副浩平, 八木葉子, 山口 巖, 三井利夫, 早川弘一, 加藤貴雄, 田中茂夫, 新田 隆, 柴田 昭, 相沢義房, 林純一, 渡辺 弘, 伊藤明男, 坪井直也, 田島一喜, 井上 博, 三崎拓郎, 鎌倉史朗, 栗田隆志, 小坂井嘉夫, 松田 暉, 松浦雄一郎, 泰江弘文, 奥村 謙, 宮内好正 (1) 東京女子医科大学心臓血圧研究所循環器内科): 心室性頻脈性不整脈に対する第4世代植込み型除細動器: Jewel Plus 7220型の有用性の検討. 不整脈 1998; 14 (3): 295-308.
- 39) 落 雅美: ICUにおける心血管作動薬: アドレナリン作動薬: エピネフリン・ノルエピネフリン. 集中治療 1998; 10: 1213-1236.
- 40) 落 雅美, 田中茂夫: 縫合・吻合法のバイプルーIII部位(術式)別の縫合・吻合法: 人工弁の縫着. 臨床外科(増刊号) 1998; 53: 121-126.
- 41) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 北村 裕, 田中茂夫: 内分泌外科シリーズ: 第7報: 甲状腺原発悪性リンパ腫の診断と治療. 日医大誌 1998; 65: 320-323.
- 42) 塩谷 猛, 渡辺秀裕, 渋谷哲男, 小熊將之, 内山喜一郎, 田中茂夫: 痔瘻を契機として発見された肛門管顆粒細胞腫の1例. 日本大腸肛門病学会誌 1999; 52 (2): 150-155.
- 43) 田中茂夫: 植込み型除細動器の最近の適応. 循環科学 1999; 19 (2): 114-125.
- 44) 落 雅美: 心臓ペースメーカー: 合併症とその対策. 目で見える循環器病シリーズ: 心臓ペースメーカー, 植込み型除細動器. 1999; 111-120.
- 45) 清水一雄: 甲状腺外科: 今日の治療: トピックス: 甲状腺の鏡下手術とハーモニックスカルペルの応用. 外科治療 1999; 81: 56-60.
- 46) 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 赤須東樹, 田中茂夫: Video-assisted neck surgery: 内分泌外科領域における内視鏡下頸部手術: 甲状腺, 上皮小体腫瘍20例の経験. 日臨外会誌 1999; 60: 599-604.
- (2) 綜説:
- 1) Prystowsky EV: Future expectations of implantable cardioverter defibrillator therapy. PACE 1995; 18: 609-615.
- 2) Tanaka S: Patient selection for implantable cardioverter defibrillators. Reprinted from Annals Thoracic and

Cardiovascular Surgery 1998 ; 4 (3) : 107-109.

- 3) Tanaka S : Patient selection for implantable cardioverter defibrillations. Ann Thorac Cardiovasc Surg 1999 ; 4 : 107-109.
 - 4) Tanaka S : An overview of the fifth-generation implantable cardiovasc defibrillator. Ann Thorac Cardiovasc Surg 1999 ; 4 : 303-311.
 - 5) Kodaira Y, Ikuta K, Tanaka S, Yokomuro K : Antigen-driven clonal accumulation of peritoneal $\gamma \delta$ T cell in vivo. Immunological Investigations 1999 ; 28 : 137-148.
 - 6) 田中茂夫, 早川弘一, 三井利夫, 山口 叢, 小柳 仁, 細田瑳一, 笠貫 宏, 川島康生, 小坂井嘉夫, 下村克明, 栗田隆志, 川田志明, 小川 聡, 三崎拓郎, 井上 博, 松田 暉, 堀 正二, 松浦雄一郎, 梶山梧郎, 安井久喬, 樗木明子, 安田慶秀, 桜井正之: 致死性不整脈に対する植込み型除細動器. 心臓ペースング 1997 ; (13) : 16-26.
 - 7) 田中茂夫: 植込み型徐細動器 (ICD) による致死性不整脈治療の適応と将来の展望. セタピューティック. リサーチ 1998 ; 19 (4) : 123-130.
 - 8) 田中茂夫: 植込み型徐細動器: 適応と有用性. 内科 1998 ; 82 (1) : 111-115.
 - 9) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 北村 裕, 田中茂夫: 内分泌外科シリーズ: 第7報: 甲状腺原発悪性リンパ腫の診断と治療. 日医大誌 1998 ; 65 (4) : 320-323.
 - 10) 田中茂夫: 非薬物療法への期待: 植込み型除細動器: 適応と有用性. 内科 1998 ; 82 : 110-116.
 - 11) 小泉 潔, 勝見 敦, 益子邦洋, 山本保博, 秋山博彦, 原口秀司, 田中茂夫, 大塚敏文: 胸部外傷に対する胸腔鏡下手術 (特集: 腹部救急疾患に対する腹腔鏡下手術). 日本内視鏡外科学会誌 1998 ; 2 (6) : 550-556.
 - 12) 小泉 潔: 気管支・胸膜・縦隔の検査: 胸腔鏡検査: 生涯教育シリーズ-47生体・機能検査のABC. 日医師会誌特別号 1998 ; 120-8 : 77-79.
 - 13) 田中茂夫: 植込み型除細動器の最近の適応. 循環科学 1999 ; 19 (2) : 22-25.
 - 14) 新田 隆: 不整脈外科の現況と将来の展望. 不整脈 1999 ; 15 (1) : 6-16.
 - 15) 田中茂夫, 早川弘一, 安田慶秀, 松井喜郎, 桜井正之, 三井利夫, 軸屋智明, 山口 叢, 小柳 仁, 笠貫 宏, 細田瑳一, 川田志明, 四津良平, 小川 聡, 宮崎利久, 三崎拓郎, 井上 博, 藤木 明, 小坂井嘉夫, 下村克朗, 栗田隆志, 松田 暉, 堀 正二, 星田四郎, 松浦雄一郎, 末田泰次郎, 梶山梧郎, 松浦秀夫, 安井久喬, 川内義人, 竹下 彰, 樗木明子: 致死性不整脈に対する第4世代植込み型除細動器: VENTAK-MINI植込み型除細動器の効果と安全性: 不整脈 1999 ; 14 : 309-321.
 - 16) 田中茂夫: 植込み型除細動器. CARDIAC PRACTICE 1999 ; 10 (2) : 61-65.
 - 17) 田中茂夫: 植込み型除細動器 (ICD) の進歩: 第5世代ICDへの期待. 医学へのあゆみ 1999 ; 189 : 380-383.
 - 18) 北村 裕, 清水一雄, 田中茂夫: 甲状腺髄様癌 (特集: 甲状腺・上皮小体をめぐって). JOHNS 1999 ; 15 : 917-921.
- (3) Reply to Editor :
- 1) Nitta T, Schuessler RB, Boineau JP, Nitta T, Schuessler RB, Boineau JP (¹ Washington University School of Medicine, Cardiothoracic Surgery) : Reply to CORRESPONDENCE : Radial and Modified Papworth Maze Procedures for Atrial Fibrillation made by Large SR, Grace AA. Ann Thorac Surg 1998 ; 66 : 2156.
- (4) 症例報告 :
- 1) Ochi M, Yamauchi S, Yajima T, Bessho R, Yamada K, Tanaka S : Hexatuple coronary bypass with in situ arterial grafts. The Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 1998.

著 書

- 1) 早川弘一, 田中茂夫: [編集] 特集: Coronary interventionの最近の動向. 集中治療, 1998; pp587-587, 総合医学社.
- 2) 田中茂夫, 天羽敬助, 早川弘一: [分担] 集中治療医学: この10年の進歩をめぐって. 集中治療医学—最先端の動向—(天羽敬祐編), 1998; pp1-16, 総合医学社.
- 3) 清水一雄: [分担] 9. クッシング症候群. 経静脈治療オーダーマニュアル'98(和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明, 島崎修次, 飯野靖彦編), 1998; pp281-285, メディカルレビュー.
- 4) 北村 裕, 田中茂夫, 江見 充: [分担] 癌の遺伝子診断法の進歩 Chapter 4. イラスト医学&サイエンスシリーズ 癌化のメカニズムを解く(横田 淳編), 1998; pp104-109, 羊土社.
- 5) 矢島俊巳, 山田研一, 別所竜蔵, 新田 隆, 田中茂夫: [分担] 植え込み型除細動器(ICD)の現状と展望. Heart View(井上 博編), 1998; pp72(920)-76(924), メジカルビュー.
- 6) 秋丸琥甫, 本田治久: [共著] ウサギの胸腺全摘出法. 図解・実験動物技術集II(日本実験動物技術者協会編), 1998; pp131-134, 東京アドストリー-DTP出版部.
- 7) 田中茂夫: [分担] ICDの現状と将来の展望. 植え込み型除細動器の臨床(日本心臓ペースング・電気生理学植え込み型除細動器調査委員会編集), 1998; pp208-209, 医学書院.
- 8) 田中茂夫: [分担] 心臓ペースメーカー. 21世紀への人工臓器(岡田昌義, 安田 康編), 1998; pp89-102, 先端医療技術研究所.
- 9) 新田 隆: [分担] 心房細動に対する新しい術式: Radial incision approach. 心房細動・粗動・頻拍(編 早川弘一, 笠貫 宏), 1999; pp236-237, 医学書院.
- 10) 田中茂夫: [分担] 植え込み型心房除細動器. 心房細動・粗動・頻拍(編早川弘一, 笠貫 宏), 1999; pp208-209, 医学書院.
- 11) 田中茂夫: [分担] レート応答ペースング. 心臓ペースメーカー・植え込み型除細動器(編田中茂夫), 1999; pp74-85, メディカルビュー社.
- 12) 田中茂夫: [分担] ICD 植え込み術の適応. 心臓ペースメーカー・植え込み型除細動器(編田中茂夫), 1999; pp190-198, メディカルビュー社.

学会発表

(1) 招待講演:

- 1) 田中茂夫: 植え込み型除細動器(ICD)の最近の動向と安全管理. 日本ME学会専門別研究会98年度第3回CE(Clinical Engineering), 1998. 10.
- 2) 新田 隆: 心房細動に対する新しい手術: Radial Incision Approach. 第18回心機能研究会, 1999. 1.
- 3) 新田 隆: 心房細動に対する新しい手術: Radial Approach. 第12回赤城循環器フォーラム, 1999. 1.
- 4) 新田 隆: 心房細動の興奮伝播: 256チャンネル3次元動的マッピングによる検討. 新潟不整脈外科フォーラム99, 1999. 3.

(2) シンポジウム:

- 1) Koizumi K, Haraguchi S, Akiyama H, Mikami I, Fukushima M, Kubokura H, Okada D, Tanaka S: VATS LOBECTOMY FOR LUNG CANCER COMBINED WITH CHRONIC OBSTRUCTIVE LUNG DISEASE: efficacy of VATS. 5th International Symposium on Thoracoscopy and Video-assisted Thoracic Surgery, 1998. 5.
- 2) 新田 隆, 石井律子, 石井庸介, 小笠原英継, 三上 徹, 山田研一, 菅野重人, 矢島俊巳, 山内茂生, 田中茂夫: 心房細動の治療: Catheter ablationかMaze手術か心房細動に対する新しい手術法: Radial Approach. 第13回日本心臓ペースング電気生理学学会学術大会, 1998. 5.

- 3) 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 新田 隆, 菅野重人, 別所竜蔵, 山田研一, 石井庸介, 小笠原英俊, 田中茂夫: "side by side stitch": 応用範囲が広く良好な開存が得られる血管吻合の運針法とそのコツ. 日本血管外科学会総会, 1998. 5.
 - 4) 矢島俊巳, 山田研一, 別所竜蔵, 新田 隆, 田中茂夫: 各世代ICDの植込み手技とその問題点. 心臓病学会, 1998. 10.
 - 5) 落 雅美, 矢島俊巳, 新田隆, 山田研一, 大久保直子, 石井庸介, 小笠原英継, 吉野直之, 田中茂夫, 高山守正, 高野照夫: 急性心筋梗塞後不安定狭心症 (PIUA) に対する外科治療の方針と成績. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1998. 12.
 - 6) 矢島俊巳, 新田 隆, 田中茂夫: ペースメーカーと植込み型除細動器の同時植込み症例の検討. 医工学治療学会, 1999. 2.
 - 7) 新田 隆, 宮脇佳世, 坂本俊一郎, 吉野直之, 大森裕也, 宮城泰雄, 石井庸介, 小笠原英継, 大久保直子, 山田研一, 田中茂夫: 心房細動に対する次世代の手術: Radial Incision Approach. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) Ochi M, Yajima T, Nitta T, Yamada K, Ishii Y, Ogasawara H, Tanaka S: LITA-LAD anastomosis in MIDCABG- Extended parachute technique. 18th World Congress of the International Union of Angiology, 1998. 9.
- (4) セミナー:
- 1) 新田 隆: 心房細動に対する新しい手術: Radial Approach. 榊原記念病院講演会, 1998. 4.
 - 2) 新田 隆: ペースメーカー. 第13回日本心臓ペースング電気生理学学会学術大会, 1998. 5.
- (5) ワークショップ:
- 1) Ochi M, Yamada K, Ohkubo N, Ishii Y, Ogasawara H, Fujii M, Yoshino N, Miyawaki K, Tanaka S: Simultaneous left subclavian artery reconstruction in a patient undergoing CABG: Use of the left ITA as a graft after reconstruction. German-Japanese Society for vascular surgery, 1998. 10.
 - 2) 落 雅美, 山田研一, 大久保直子, 石井庸介, 小笠原英継, 吉野直之, 宮脇佳世, 佐々木孝, 仲 吉隆, 渡辺嘉之, 田中茂夫: 両側内胸動脈を用いた composite graft と sequential 吻合を併用した多枝血行再建. 心臓血管外科ウィンターセミナー, 1999. 1.
- (6) 海外留学者講演:
- 1) 新田 隆: Repolarization Dynamics Assessed by Activation-recovery Interval Mapping During Initiation of Reentrant Ventricular Tachycardia. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- (7) 一般講演:
- 1) Katoh S, Akimaru K: Esophago-jejuno-duodenal anastomoses with a short duodenum (Modified Roux-en-Y reconstruction). The 8th world congress of the international gastro-surgical club (Strasbourg, France), 1998. 4.
 - 2) Ogasawara H, Ochi M, Yajima T, Nitta T, Yamada K, Ishii Y, Tanaka S: Concomitant Arterial Lesions in Patients Undergoing Coronary Artery Bypass Grafting. INTERNATIONAL SOCIETY OF CARDIO-THORACIC SURGEONS—JAPAN CHAPTER—THE 11TH ANNUAL MEETING, 1998. 7.
 - 3) Ishii Y, Ochi M, Yajima T, Nitta T, Yamada K, Ogasawara H, Tanaka S: Initial Experience of Minimally Invasive Direct Coronary Artery Bypass Grafting. INTERNATIONAL SOCIETY OF CARDIO-THORACIC SURGEONS The XIth annual meeting, 1998. 7.
 - 4) Mikami I, Koizumi K, Okada D, Kubokura H, Fukushima M, Akiyama H, Haraguchi S, Tanaka S: Clinical evaluation on VATS-lobectomy for stage I non-small cell lung cancer in elderly patients. 国際胸部心

臓血管外科学会, 1998. 7.

- 5) Ishii Y, Ochi M, Yajima T, Nitta T, Bessho R, Yamada K, Ogasawara H, Tanaka S : Simultaneous Subclavian Artery Reconstruction in Patients Undergoing Coronary Artery Bypass Grafting. 18th World Congress of the International Union of Angiology, 1998. 9.
- 6) Ochi M, Yajima T, Nitta T, Yamada K, Ishii Y, Ogasawara H, Tanaka S : Sequential grafting using right gastroepiploic artery. 18th World Congress of the International Union of Angiology, 1998. 9.
- 7) Nitta T, Sakamoto S, Nishina D, Suzuki S, Ogasawara H, Ishii Y, Mikami I, Yamada K, Kanno S, Tanaka S : Initial Experience of Radial Approach : A New Concept in Surgical Treatment for Atrial Fibrillation. Seventy-first Scientific Sessions of American Heart Association, 1998. 11.
- 8) Nitta T, Schuessler RB¹⁾, Rokkas CK¹⁾, Branham BH¹⁾, Boineau JP¹⁾ (¹⁾ Washington University School of Medicine, Cardiothoracic Surgery) : Cryoablation of Central Common Pathway Guided by Return Cycle Mapping After Entrainment of Ventricular Tachycardia. Seventy-first Scientific Sessions of American Heart Association, 1998. 11.
- 9) Nitta T, Sakamoto S, Miyagi Y, Ogasawara H, Ishii Y, Yamada K, Kanno S, Tanaka S : Initial Experience with the Radial Incision Approach for Atrial Fibrillation. Thirty-fifth Annual Meeting of The Society of Thoracic Surgeons, 1999. 1.
- 10) Nitta T, Ishii Y, Ogasawara H, Ohkubo N, Kanno S, Tanaka S : Radial Approach for Atrial Fibrillation. Thirty-fifth Annual Meeting of The Society of Thoracic Surgeons, 1999. 1.
- 11) Akimaru K : Cytology for hepatobiliary and pancreatic surgery. The 5th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Mai University, Chian Mai, Thai), 1999. 1.
- 12) Maruyama Y, Shimizu K, Akasu H, Kitagawa W, Iida T, Yamada N¹⁾, Asano G¹⁾, Tanaka S (¹⁾ Department of Pathology) : Hyalinizing trabecular adenoma of thyroid : A case report. Ashian-Pacific Endocrine Conference, 1999. 2.
- 13) 窪倉浩俊, 秋山博彦, 西村仁志, 山本光伸, 三上 巖, 真崎義隆, 原口秀司, 田中茂夫 : pT3N0M0における臨床的検討. 第15回日本呼吸器外科学会総会, 1998. 5.
- 14) 川島徹生¹⁾, 相田成隆¹⁾, 鈴木章一¹⁾, 川村一彦¹⁾ (¹⁾ 栃木県・県南総合病院外科) : 胆嚢捻転症の2例. 第93回栃木県臨床外科集談会, 1998. 10.
- 15) 山内仁紫, 石井庸介, 坂本俊一郎, 仁科 大, 田中茂夫 : Terminal blood cardioplegiaにおける白血球除去の効果. 第22回日本心筋保護研究会, 1998. 4.
- 16) 三上 巖, 小泉 潔, 天神敏博, 山下浩二, 福島光浩, 窪倉浩俊, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 秋山博彦, 原口秀司, 田中茂夫 : 気腫性肺疾患に対する外科治療の評価と問題点. 第15回日本呼吸器外科学会総会, 1998. 4.
- 17) 北川 亘, 清水一雄, 北村 裕, 赤須東樹, 山下浩二, 石井律子, 三村 孝³⁾, 長浜充二³⁾, 伊藤公一³⁾, 伊藤國彦³⁾, 川俣博志¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 若林一二²⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 第3内科, ³⁾ 伊藤病院) : Basedow病術後再発に発生した downhill esophagus varix の1例. 第10回日本内分泌外科学会総会, 1998. 5.
- 18) 山内仁紫, 井村 肇, 石井庸介, 坂本俊一郎, 仁科 大, 大森裕也, 田中茂夫 : 人工物を使用しない Total cavopulmonary connection. 第35回日本小児外科学会総会, 1998. 5.
- 19) 小笠原英継, 新田 隆, 山田研一, 石井庸介, 菅野重人, 矢島俊巳, 宮城泰雄, 鈴木世考, 落 雅美, 田中茂夫 : 深大腿動脈の分枝に発生した真性動脈瘤の1治験例. 第26回日本血管外科学会学術総会, 1998. 5.
- 20) 北村 裕, 江見 充¹⁾, 清水一雄, 田中茂夫 (¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門) : 多内分泌腺腫症の遺伝子診断. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 5.
- 21) 窪倉浩俊, 三上 巖, 鈴木成治, 天神敏博, 小泉 潔, 田中茂夫 : Dual color FISH法を用いたI期肺癌細胞に

- における8番染色体数的異常率とc-myc遺伝子増幅率の関係. 第8回日本サイトメトリー学会総会, 1998. 6.
- 22) 藤井正大¹⁾, 加瀬川均¹⁾, 下川智樹¹⁾, 松下 恭¹⁾, 鈴木裕子¹⁾, 遠山悟史¹⁾, 鎌田 聡¹⁾, 維田隆夫, 川瀬光彦¹⁾ (1) 榊原記念病院心臓血管外科): intervalvular fibrous body再建を伴う4度目のDVRを施行した1手術例. 第106回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1998. 6.
- 23) 赤須東樹, 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 田中茂夫: PEITが有効であった咽頭浸潤を呈する再発性甲状腺乳頭癌の手術不能例. 甲状腺PEIT研究会, 1998. 6.
- 24) 天神敏博, 三上 巖, 窪倉浩俊, 鈴木成治, 小泉 潔, 田中茂夫: 乳癌における8番染色体数的異常率におけるc-myc amplification rateと病理学的因子の関係. 第8回日本サイトメトリー学会, 1998. 6.
- 25) 藤井正大¹⁾, 鎌田 聡¹⁾, 加瀬川均¹⁾, 鈴木裕子¹⁾, 遠山悟史¹⁾, 維田隆夫, 川瀬光彦²⁾, 田村浩一²⁾ (1) 榊原記念病院心臓血管外科, 2) 病理第1): 糖尿病合併症例において橈骨動脈は第4の動脈グラフトとして有用か: 病理学的考察から. 第3回冠動脈外科学会, 1998. 7.
- 26) 石井庸介, 山内仁紫, 井村 肇, 鈴木世考, 仁科 大, 坂本俊一郎, 榎本 豊, 田中茂夫: 小児期 Annulo-aortic ectasiaの長期予後と手術適応. 第34回日本小児循環器学会総会, 1998. 7.
- 27) 藤井正大¹⁾, 加瀬川均¹⁾, 遠山悟史¹⁾, 笠原勝彦¹⁾, 泊 史朗¹⁾, 田淵賢治¹⁾, 横山元泰¹⁾, 鎌田 聡¹⁾, 維田隆夫¹⁾, 川瀬光彦¹⁾ (1) 榊原記念病院心臓血管外科): stentless valve (FreeStyle弁)置換後のPVEに対して再度stentless valve置換を施行した1手術例. 第107回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 28) 北村 裕, 清水一雄, 伊藤公一²⁾, 田中茂夫, 江見 充¹⁾ (1) 老人病研究所分子生物学部門, 2) 伊藤病院): 甲状腺髄様癌に対する遺伝性症例鑑別のための遺伝子診断の必要性について. 第66回日本医科大学医学部総会, 1998. 9.
- 29) 北村 裕, 清水一雄, 田中茂夫, 伊藤公一²⁾, 江見 充¹⁾ (1) 老人病研究所分子生物学部門, 2) 伊藤病院): 予後不良甲状腺癌における染色体欠失の検討. 第31回甲状腺外科研究会, 1998. 9.
- 30) 窪倉浩俊, 三上 巖, 鈴木成治, 天神敏博, 小泉 潔, 田中茂夫, 金子安比古: Dual color FISH法を用いた肺腺癌細胞における8番染色体数的異常率とc-myc遺伝子増幅率の関係. 第57回日本癌学会総会, 1998. 10.
- 31) 北川 亘, 清水一雄, 宮脇佳世, 赤須東樹, 北村 裕, 明楽重人¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 小野瀬裕之²⁾, 若林一二²⁾, 田中茂夫 (1) 産婦人科, 2) 第3内科): Video-Assisted Neck Surgery (VANS) 内視鏡下上皮小体摘出術の経験: つり上げ法による試み. 第31回甲状腺外科研究会, 1998. 10.
- 32) 山内仁紫, 石井庸介, 小笠原英継, 三上 巖, 山田研一, 大久保直子, 菅野重人, 矢島俊巳, 新田 隆, 落雅美, 田中茂夫: Blood cardioplegiaにおける白血球除去の効果. 第50回日本胸部外科学会総会, 1998. 10.
- 33) 新田 隆, 仁科 大, 鈴木世考, 石井庸介, 小笠原英継, 大久保直子, 山田研一, 菅野重人, 山内仁紫, 矢島俊巳, 落 雅美, 田中茂夫: 拡張型心筋症に対するBatista手術とLVAD. 第51回日本胸部外科学会総会, 1998. 10.
- 34) 天神敏博, 三上 巖, 窪倉浩俊, 小泉 潔, 清水一雄, 田中茂夫: 乳癌に対するdual color FISH法による染色体異常の観察. 第57回日本癌学会総会, 1998. 10.
- 35) 藤井正大¹⁾, 鎌田 聡¹⁾, 加瀬川均¹⁾, 下川智樹¹⁾, 松下 恭¹⁾, 村上 浩¹⁾, 遠山悟史¹⁾, 維田隆夫¹⁾, 川瀬光彦¹⁾, 田村浩一²⁾ (1) 榊原記念病院心臓血管外科, 2) 病理第1): 動脈グラフトとしての橈骨動脈の有用性について: 50例の病理組織学的検討. 第51回日本胸部外科学会総会, 1998. 10.
- 36) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 北村 裕, 三島陽一¹⁾, 柏木哲也¹⁾, 田中茂夫 (1) 板橋駅前クリニック): MIBIシンチを用いても同定し得なかった胸腺内余剰上皮小体を有した二次性上皮小体機能亢進症の1症例. 第31回甲状腺外科研究会, 1998. 10.
- 37) 赤須東樹, 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 石井律子, 田中茂夫: 凍結保存甲状腺組織自家移植によるホルモン補充の基礎実験: パセドウ病術後永続的甲状腺機能低下症に対する治療を目的として. 第4回日本凍結保存胸部組織移植研究会, 1998. 10.

- 38) 赤須東樹, 清水一雄, 田中茂夫, 久喜邦康¹⁾ (1) 久喜医院) : Video-Assisted Neck Surgery (VANS) : 内視鏡下甲状線腫摘出術の1例. 第16回埼玉県外科集談会, 1998. 10.
- 39) 矢島俊巳, 山田研一, 石井庸介, 山内仁紫, 新田 隆, 落 雅美, 田中茂夫 : ペースメーカーコーティング様式による筋電位抑制および筋刺激の検討. 第18回心電図学会, 1998. 10.
- 40) 落 雅美, 矢島俊巳, 新田 隆, 山田研一, 菅野重人, 朽方規喜, 石井庸介, 小笠原英継, 田中茂夫 : Minimally Invasive Direct CABG (MIDCABG) の適応と問題点. 第51回日本胸部外科学会総会, 1998. 10.
- 41) 落 雅美, 矢島俊巳, 新田 隆, 別所竜蔵, 山田研一, 石井庸介, 小笠原英継, 田中茂夫, 本間 博 : 術後ドブタミン負荷心エコーと造影所見から判定した右胃大網動脈の血流供給予備能. 第51回日本胸部外科学会総会, 1998. 10.
- 42) 北村 裕, 清水一雄, 伊藤公一²⁾, 田中茂夫, 江見 充¹⁾ (1) 老人病研究所, 2) 伊藤病院) : 甲状腺腫瘍に対する遺伝子診断の必要性について : 連続症例による検討. 第43回日本人類遺伝学会総会, 1998. 10.
- 43) 北村 裕, 清水一雄, 伊藤公一²⁾, 田中茂夫, 江見 充¹⁾ (1) 老人病研究所, 2) 伊藤病院) : 予後不良甲状腺癌の検討 : 臨床的特徴とヘテロ接合性消失 (LOH) の解析. 第57回日本癌学会総会, 1998. 10.
- 44) 窪倉浩俊, 小泉 潔, 岡田大輔, 福島光浩, 三上 巖, 秋山博彦, 山下浩二, 原口秀司, 天神敏博, 田中茂夫 : 原発性肺癌に対する VATS lobectomy : 当科における38症例の検討. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 11.
- 45) 藤井正大¹⁾, 鎌田 聡¹⁾, 加瀬川均¹⁾, 遠山悟史¹⁾, 鈴木裕子¹⁾, 笠原勝彦¹⁾, 維田隆夫, 川瀬光彦¹⁾, 住吉徹也²⁾, 細田瑳一²⁾, 田村浩一³⁾ (1) 榊原記念病院心臓血管外科, 2) 榊原記念病院内科, 3) 病理第1) : バイパスグラフトにおける橈骨動脈の年齢に関する検討 : 高齢者にとっても有用か?. 第12回日本冠疾患学会, 1998. 11.
- 46) 渡辺嘉之, 矢島俊巳, 大久保直子, 山田研一, 小笠原英継, 石井庸介, 宮城泰雄, 丸山雄二, 佐々木孝, 仲吉隆, 宮脇佳世, 山内仁紫, 新田 隆, 落 雅美, 田中茂夫, 吉野直之, 高草木幸子 : 82歳, 遠位弓部大動脈瘤に対して Elephant trunk 法施行した1例. 第10回日本血管外科学会地方会, 1998. 11.
- 47) 三上 巖, 小泉 潔, 原口秀司, 秋山博彦, 窪倉浩俊, 福島光浩, 岡田大輔, 山下浩二, 天神敏博, 五味淵誠, 田中茂夫 : 80歳以上肺癌手術症例の検討. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 11.
- 48) 加藤修志¹⁾, 秋丸琥甫, 樋口勝美, 相本隆幸, 武内俊章¹⁾ (1) 総合会津中央病院外科) : 胃切除術後の空腸パウチを用いた再建の功罪. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 49) 窪倉浩俊, 岡田大輔, 福島光浩, 三上 巖, 秋山博彦, 山下浩二, 原口秀司, 天神敏博, 小泉 潔, 田中茂夫 : 当科における VATS lobectomy 41 症例の検討と評価. 第11回内視鏡外科学会総会, 1998. 12.
- 50) 落 雅美, 山田研一, 大久保直子, 石井庸介, 小笠原英継, 吉野直之, 宮脇佳世, 佐々木孝, 仲吉 隆, 渡辺嘉之, 田中茂夫 : 左鎖骨下動脈閉塞を合併する左冠動脈主幹部病変への CABG と鎖骨下動脈同時再建 : 再建側内胸動脈使用例. 第13回心臓血管外科ウインターセミナー, 1999. 1.
- 51) 新田 隆, 渡辺嘉之, 北川彰信, 藤井正大, 小笠原英継, 石井庸介, 大久保直子, 山田研一, 矢島俊巳, 田中茂夫 : 3次元動画表示が可能な256チャンネルマッピングシステム. 第13回不整脈外科研究会, 1999. 2.
- 52) 藤井正大¹⁾, 鎌田 聡¹⁾, 加瀬川均¹⁾, 笠原勝彦¹⁾, 遠山悟史¹⁾, 維田隆夫¹⁾, 川瀬光彦¹⁾, 田村浩一²⁾ (1) 榊原記念病院心臓血管外科, 2) 病理第1) : 冠危険因子からみた橈骨動脈のグラフトとしての有用性 : 病理組織学的検討から. 第29回日本心臓血管外科学会総会, 1999. 2.
- 53) 藤井正大¹⁾, 鎌田 聡¹⁾, 加瀬川均¹⁾, 維田隆夫, 川瀬光彦¹⁾, 田村浩一²⁾ (1) 榊原記念病院心臓血管外科, 2) 病理第1) : 病理組織学的検討からみた橈骨動脈の特性について. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 54) 石井庸介, 新田 隆, 大森裕也, 坂本俊一郎, 仁科 大, 鈴木世考, 吉野直之, 宮城泰雄, 小笠原英継, 大久保直子, 山田研一, 田中茂夫 : 心房細動に対する新しい術式 : Radial Incision Approach. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.

- 55) 石井庸介, 新田 隆, 大森裕也, 坂本俊一郎, 仁科 大, 鈴木世考, 吉野直之, 宮城泰雄, 藤井正大, 小笠原英継, 大久保直子, 山田研一, 田中茂夫: 心房細動に対する新しい術式: Radial Incision Approach. 第63回日本循環器学会総会, 1999. 3.
- 56) 三上 巖, 小泉 潔, 原口秀司, 秋山博彦, 窪倉浩俊, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 山下浩二, 天神敏博, 田中茂夫: 右心機能からみた肺癌に対する VATS 肺葉切除術と定型的肺葉切除術との比較, 検討. 日本外科学会総会, 1999. 3.
- 57) 落 雅美, 矢島俊巳, 新田 隆, 山田研一, 大久保直子, 石井庸介, 小笠原英継, 田中茂夫: minimally invasive direct CABG (MIDCABG) の適応と新しい展開. 第99回日本外科学会, 1999. 3.
- 58) 落 雅美, 矢島俊巳, 新田 隆, 山田研一, 大久保直子, 石井庸介, 藤井正大, 田中茂夫: グラフトとして適当な右胃大網動脈の内径に関する検討: 術後ドブタミン負荷心エコーとグラフト造影からの判定. 第63回日本循環器学会総会, 1999. 3.
- 59) 北村 裕, 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 長浜充二²⁾, 伊藤公一²⁾, 田中茂夫, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門, ²⁾ 伊藤病院): 甲状腺癌死亡症例41例における染色体領域のヘテロ接合性消失 (LOH) の検討. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 60) 秋丸琥甫, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷谷信彦, 金子昌裕, 吉岡正人, 峯田 章, 山下精彦: 腹膜による下大静脈再建の試み. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.

(8) Video :

- 1) Koizumi K, Haraguchi S, Akiyama H, Mikami I, Fukushima M, Kubokura H, Okada D, and Tanaka S : THORACOSCOPIC REPAIR OF DIAPHRAGMATIC DISORDERS -REPORTS OF TWO CASES : HEPATIC HYDROTHORAX AND CATAMENIAL PNEUMOTHORAX. 6th World Congress of Endoscopic Surgery : 6th Internatinal Congress of European Association for Endoscopic Surgery : EAES, 1998. 5.

[第二病院外科]

研究概要

心臓血管外科, 呼吸器外科, 乳線甲状腺内分泌外科領域の臨床研究を中心としている。

(1) 心臓血管外科領域: 開心術の周術期における心機能に対する諸種の薬剤の薬理効果についての研究を行っており, 術後合併症に対する薬剤の効果, 術後管理における有効な心機能改善法の開発に努めている。また, 高齢者や合併症を有する心血管手術例の分析, 人工弁と心機能の研究を行っている。手術手技に関する研究としては, 人工弁置換術等に対する Minimally invasive surgery や心臓手術への胸腔鏡の応用がある。

(2) 呼吸器外科領域: 肺癌症例でOK432に対する Lymphocyte stimulation test を行い免疫療法の定量的な効果予測を研究中である。再発肺癌や二次肺癌に対して積極的に手術を行い成績を分析, 非癌性肺腫瘍性疾患ではリンパ系腫瘍の検討を行い, 病理遺伝子診断と臨床経過の不一致について報告した。また, 比較的頻度の少ない胸壁腫瘍に対し積極的に切除再建法を行い, stainless steel mesh を用いた胸壁再建術や胸腔鏡を併用した手術を行い, 術後の呼吸機能の検討も行っている。

(3) 乳線甲状腺内分泌外科領域: 男性乳癌などの特殊な乳癌に対する臨床研究の他に, 進行性・再発乳癌に対しては術前に局所動注療法施行後に原発巣切除を行い, 集学的治療の有効性妥当性について分析中である。

研究業績

論文

〔1997年度追加分〕

原著：

- 1) 朽方規喜, 寺田功一¹⁾, 落 雅美¹⁾, 浅野哲雄¹⁾, 日置正文, 田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院第2外科) : 修正大血管転位症 (SLL) に合併した Annuloaortic ectasia, 大動脈弁閉鎖不全に対して cabrol 手術を施行した1例. 日心臓血管外会誌 1998 ; 27 (2) : 104-106.

(1) 原著：

- 1) Hioki M, Iedokoro Y, Yamagishi S, Yamashita, Orii K, Hirano S, Hirata T, Kutsukata N, Masuda S, Hisayoshi T, Tanaka S¹⁾ (¹⁾ Second Department of surgery, Nippon) : Mitral valve replacement and preservation of subvalvular apparatus using Cox's maze operation. Asian Cardiovasc Thorac Ann 1998 ; 216-218.
- 2) Iedokoro Y, Hioki M, Mishima T, Kawamura J, Yamagishi S, Orii K, Yamashita Y, Hirata T, Masuda S, Tanaka S¹⁾ (¹⁾ Second Department of Surgery) : Early experience of minimally invasive valve surgery. J Nippon Med Sch 1998 ; 65 (5) : 63-65.
- 3) 梶原景子¹⁾, 佐藤雅史¹⁾, 山本 彰¹⁾, 久吉隆郎, 松本光司²⁾ (¹⁾ 第二病院放射線科, ²⁾ 第二病院病理部) : 肺腺癌の肺胞進展におけるCT値と病理合気率に関する検討. 日医放線会誌 1998 ; 58 (7) : 42-44.
- 4) 佐藤雅史¹⁾, 久吉隆郎 (¹⁾ 第二病院放射線科) : 胸膜炎, 膿胸, 胸壁の結核. 臨床画像 1998 ; 14 (10) : 58-65.

(2) 綜説：

- 1) 日置正文, 織井恒安, 家所良夫, 田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院第2外科) : ICUにおける心血管作働薬：ループ系利尿薬. 集中治療 1998 ; 10 (9) : 985-988.

学会発表

〔1997年度追加分〕

(1) 一般講演：

- 1) Yamashita K, Shimizu K, Kitagawa W, Kitamura Y, Akasu H, Ishii R, Mimura T³⁾, Nagahama M³⁾, Ito Jr³⁾, Ito K³⁾, Kawamata H¹⁾, Kumazaki T¹⁾, Wakabayashi K²⁾, Tanaka S (¹⁾ Dept of Radiology, ²⁾ Dept of Internal Medicine (III), ³⁾ Hospital, Tokyo, Japan) : A CASE OF DOWNHILL ESOPHAGEAL VARICES ASSOCIATED WITH RECURRENT GRAVES' DISEASE. 6th Biennial Congress Asian Association of Endocrine Surgeons, 1998. 3.
- 1) Hisayoshi T, Hirata T, Iedokora Y, Hioki M, Tanaka S¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Chest wall resection under thoracoscopic assistance. VATS'98 5th International Symposium of Thoracoscopic Surgery, 1998. 4.
- 2) Masuda S, Hioki M, Iedokoro Y, Orii K, Tanaka Shigeo¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Clinical investigation in patients 75years old and older with in fra-renal abdominal aortic aneurysm. International Union of Angiology 18th World Congress, 1998. 9.
- 3) 久吉隆郎, 平田知己, 山岸茂樹, 山下康夫, 織井恒安, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院第2外科) : Stainless steel mesh と marlex mesh による胸壁再建：進行乳癌の1例. 第15回日本呼吸器外科学会総会, 1998. 4.
- 4) 山下浩二, 小泉 潔, 三上 巖, 天神敏博, 福島光浩, 窪倉浩俊, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 原口秀司¹⁾,

- 秋山博彦²⁾, 田中茂夫⁽¹⁾ 防衛医科大学校第2外科, ²⁾ 埼玉がんセンター): 末梢性cT1N0非小細胞肺癌における腫瘍径とリンパ節転移との関連. 日本呼吸器外科学会総会(東京), 1998. 4.
- 5) 山下康夫, 日置正文, 久吉隆郎, 家所良夫, 増田 栄, 平田知己, 平野滋之, 織井恒安, 山岸茂樹, 川村 純, 三嶋拓也, 松本光司¹⁾, 田中茂夫²⁾ ⁽¹⁾ 第二病院病理部, ²⁾ 付属病院第2外科): 原発巣がspontaneous regressionした胸壁悪性黒色腫の1例. 第769回外科集談会, 1998. 6.
- 6) 三嶋拓也, 家所良夫, 川村 純, 山岸茂樹, 織井恒安, 山下康夫, 平田知己, 増田 栄, 日置正文, 田中茂夫¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院第2外科): パンヌス形成による弁機能不全をきたした僧帽弁位SJM弁の1治療例. 第106回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1998. 6.
- 7) 山岸茂樹, 日置正文, 久吉隆郎, 家所良夫, 増田 栄, 平田知己, 平野滋之, 山下康夫, 織井恒安, 川村 純, 三嶋拓也, 田中茂夫¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院第2外科): 両側葉間発育を来した子宮肉腫肺転移の1切除例. 第106回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1998. 6.
- 8) 網谷賢一¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 高橋直人¹⁾, 櫛方美文¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 原文男¹⁾, 山下康夫, 家所良夫, 日置正文⁽¹⁾ 第二病院内科): 巨大Valsalva洞動脈瘤による冠動脈血流障害から無症候性心筋梗塞を発症した若年女性の1例. 第168日本循環器関東甲信越地方会学術集会, 1998. 6.
- 9) 織井恒安, 日置正文, 家所良夫, 増田 栄, 久吉隆郎, 平田知己, 平野滋之, 山下康夫, 山岸茂樹, 三嶋拓也, 川村 純, 田中茂夫¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院第2外科): 冠動脈バイパス手術における順行性心筋保護法と逆行性, 逆行性心筋保護併用法の比較検討. 第3回日本冠動脈外科学会学術大会, 1998. 7.
- 10) 家所良夫, 日置正文, 増田 栄, 久吉隆郎, 織井恒安, 平田知己, 平野滋之, 山下康夫, 山岸茂樹, 三嶋拓也, 川村 純, 田中茂夫¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院第2外科): 左冠動脈閉塞を伴った巨大Valsalva洞瘤の1手術例. 第3回日本冠動脈外科学会学術大会, 1998. 7.
- 11) 山下浩二¹⁾, 秋山博彦, 窪倉浩俊¹⁾, 西村仁志¹⁾, 山本光伸¹⁾, 土屋永寿²⁾, 西田一典²⁾ ⁽¹⁾ 埼玉県立がんセンター胸部外科, ²⁾ 同病理部): 肝臓癌の肺転移が疑われた3重複癌(肺×2・肝)の1症例. 第122回日本肺癌学会関東部会(東京), 1998. 7.
- 12) 川村 純, 日置正文, 家所良夫, 増田 栄, 久吉隆郎, 平田知己, 平野滋之, 山下康夫, 織井恒安, 山岸茂樹, 三嶋拓也, 田中茂夫¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院第2外科): 心不全により発症した慢性I型解離性大動脈瘤の1治療例. 第107回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 13) 山岸茂樹, 日置正文, 久吉隆郎, 家所良夫, 平田知己, 山下康夫, 松本光司¹⁾, 佐藤雅史²⁾, 田中茂夫³⁾ ⁽¹⁾ 第二病院病理部, ²⁾ 同放射線科, ³⁾ 付属病院第2外科): 多彩な発育形態を呈した子宮肉腫肺転移の2切除例. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 10.
- 14) 久吉隆郎, 平田知己, 山岸茂樹, 山下康夫, 増田 栄, 織井恒安, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院第2外科): 高度胸郭変形を合併した肺癌手術症例の検討. 第39回日本肺癌学会総会, 1998. 10.
- 15) 山下浩二¹⁾, 秋山博彦¹⁾, 西村仁志¹⁾, 山本光伸¹⁾, 田中茂夫⁽¹⁾ 埼玉県立がんセンター胸部外科): 原発性肺癌の縮小手術症例の治療成績の検討. 肺癌学会総会(金沢), 1998. 10.
- 16) 家所良夫, 日置正文, 増田 栄, 織井恒安, 川村 純, 三嶋拓也, 山岸茂樹, 山下康夫, 平野滋之, 平田知己, 久吉隆郎, 田中茂夫¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院第2外科): 腹部大動脈瘤術後約5年を経て発症した大動脈: 十二指腸瘻の1手術例. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 17) 川村 純, 日置正文, 三嶋拓也, 山岸茂樹, 織井恒安, 山下康夫, 平野滋之, 平田知己, 増田 栄, 家所良夫, 久吉隆郎, 田中茂夫¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院第2外科): 炎症性変化を伴った乳線アポクリン癌の1例. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 18) 山岸茂樹, 日置正文, 久吉隆郎, 家所良夫, 増田 栄, 平田知己, 平野滋之, 山下康夫, 織井恒安, 川村 純, 三嶋拓也, 的場康徳¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 田中茂夫²⁾ ⁽¹⁾ 第二病院消化器病センター, ²⁾ 付属病院第2外科): 胃癌と同時発生した原発不明の転移性胸壁扁平上皮癌の1切除例. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.

- 19) 平田知己, 久吉隆郎, 日置正文, 家所良夫, 増田 栄, 平野滋之, 山下康夫, 織井恒安, 山岸茂樹, 川村 純, 三嶋拓也, 田中茂夫¹⁾ (1) 付属病院第2外科): 乳房切除術と開胸手術を施行した症例の術後経過と呼吸運動機能. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 20) 三嶋拓也, 久吉隆郎, 川村 純, 山岸茂樹, 織井恒安, 山下康夫, 平野滋之, 平田知己, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾ (1) 付属病院第2外科): 気管浸潤, 頸部・上縦隔リンパ節転移を伴った高度進行甲状腺癌の1手術例. 第60回日本臨床外科学会, 1998. 11.
- 21) 久吉隆郎, 日置正文, 家所良夫, 平田知己, 増田 栄, 平野滋之, 織井恒安, 山下康夫, 山岸茂樹, 三嶋拓也, 川村 純, 田中茂夫¹⁾ (1) 付属病院第2外科): 胸壁浸潤乳癌症例に対する集学的治療と胸壁切除再建術の意義. 第60回日本臨床外科学会, 1998. 11.
- 22) 増田 栄, 日置正文, 川村 純, 三嶋拓也, 山岸茂樹, 織井恒安, 山下康夫, 平野滋之, 平田知己, 家所良夫, 久吉隆郎, 田中茂夫¹⁾ (1) 付属病院第2外科): 術前選択的動注化学療法を施行した局所進行乳癌. 第60回日本臨床外科学会, 1998. 11.
- 23) 増田 栄, 久吉隆郎, 三嶋拓也, 川村 純, 山岸茂樹, 織井恒安, 平田知己, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾ (1) 付属病院第2外科): Thoracocervical desmoidの1手術例. 第108回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1998. 12.
- 24) 久吉隆郎, 平田知己, 山岸茂樹, 日置正文, 田中茂夫¹⁾ (1) 付属病院第2外科): 胸壁切除再建術における胸腔鏡観察併用法の利点について. 第11回日本内視鏡外科学会総会, 1998. 12.
- 25) 日置正文, 家所良夫, 川村 純, 三嶋拓也, 山岸茂樹, 織井恒安, 山下康夫, 平田知己, 増田 栄, 田中茂夫¹⁾ (1) 付属病院第2外科): 経後腹膜到達法による腹部大動脈瘤手術例の検討. 第29回日本心臓血管外科学会総会, 1999. 2.
- 26) 日置正文, 増田 栄, 三嶋拓也, 川村 純, 山岸茂樹, 織井恒安, 平田知己, 久吉隆郎, 家所良夫, 田中茂夫¹⁾ (1) 付属病院第2外科): modified retroperitoneal approachによる腹部大動脈瘤70例の手術経験. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 27) 久吉隆郎, 日置正文, 家所良夫, 平田知己, 増田 栄, 平野滋之, 織井恒安, 山岸茂樹, 田中茂夫¹⁾ (1) 付属病院第2外科): 金属性メッシュと marlex mesh による胸壁再建法について. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 28) 山下浩二¹⁾, 秋山博彦, 西村仁志¹⁾ 山本光伸¹⁾, 西田一典²⁾, 土屋永寿²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, 2) 同病理部): 腎癌肺門リンパ節転移の1症例. 第124回日本肺癌学会関東部会 (東京), 1999. 3.

[多摩永山病院内視鏡科]

研究概要

当内視鏡科では従来より消化器全般にわたる幅広い研究を行っている。アジア諸国における上部消化管内視鏡検査も順調に進行し、間もなく1,000例に達する。日本とタイ王国 (チェンマイ)、中国 (北京)、ベトナム国 (ホー・チ・ミン) における胃十二指腸疾患、ヘリコバクター・ピロリ感染の相違も徐々に解明されてきた。今年度は中国 (福州、上海)、ミャンマーでの調査も検討中である。

1) 症例の蓄積に伴い、ヘリコバクター・ピロリに関する研究発表が当科における大きなウエイトを占めている。論文、海外における特別講演、シンポジウム、国内学会でのワークショップ講演も数多く行った。

2) The Updated Sydney Systemに先駆けて考案した慢性胃炎の病理組織学的診断基準 (1995年) について第2病理学教室と共同で学会発表し、論文にもまとめた。

3) 昨年度に引き続き、慢性関節リウマチ患者における胃潰瘍、胃炎を中心とした胃疾患、ヘリコバクター・ピロリ感染の特徴について学会、論文発表した。

4) 食道顆粒膜細胞腫、食道末梢神経鞘腫、大腸アメーバ赤痢、大腸平滑筋腫などのまれな消化管疾患についての

症例報告も行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Matsuhisa T : Endoskopische beobachtungen über Beziehungen der *Helicobacter-pylori*-infektion zu Magenschleimhautveränderungen und Serum-Pepsinogen-Spiegeln. *Verdaunungskrankheiten* 1998 ; 16 (4) : 206-211.
- 2) Tomtitchong P¹⁾, Onda M²⁾, Matsukura N²⁾, Tokunaga A²⁾, Kato S²⁾, Matsuhisa T, Yamada N³⁾, Hayashi A⁴⁾ (1) タイ王国 Thammasat 大学外科, 2) 付属病院第1外科, 3) 第2病理学教室, 4) 三菱化学研究所) : *Helicobacter pylori* infection in the remnant stomach after gastrectomy : With special reference to the difference between Billroth I and II anastomose. *Journal of Clinical Gastroenterology* 1998 ; 27 (suppl. 1) : 154-158.
- 3) 松久威史 : 非 *H. pylori* ・非 NSAIDs 消化性潰瘍の臨床. *消化器科* 1998 ; 26 (4) : 379-388.
- 4) 松久威史, 中村 洋¹⁾, 吉野榎一¹⁾, 山田宣孝²⁾ (1) 付属病院リウマチ外科, 2) 第2病理学教室) : NSAIDs を長期投与中の慢性関節リウマチ患者にみられた自覚症状, 胃病変, 病理組織学的胃炎に対するレバミピドの臨床的有用性. *消化器科* 1998 ; 27 (1) : 118-130.
- 5) 松久威史, 森 洋, 権田昌洋, 日下部史郎 : *Helicobacter pylori* 感染診断におけるヘリコチェックの有用性. *臨床と研究* 1998 ; 75 : 2279-2282.
- 6) 松久威史, 権田昌洋, 羽山亭宏, 井上泰夫, 森 洋, 吉原一郎, 新井朱音, 山田宣孝¹⁾ (1) 第2病理学教室) : *Helicobacter pylori* 感染消化性潰瘍における慢性活動性胃炎の年齢層別観察. *消化器内視鏡の進歩* 1998 ; 52 : 90-91.
- 7) 井上泰夫, 権田昌洋, 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (1) 第2病理学教室) : *Helicobacter pylori* 感染からみた組織学的胃炎像 : The Sydney System に基づく. *消化器内視鏡の進歩* 1998 ; 52 : 92-93.
- 8) 松久威史, 羽山亭宏, 中村 洋¹⁾, 吉野榎一¹⁾, 山田宣孝²⁾ (1) 付属病院リウマチ外科, 2) 第2病理学教室) : 慢性関節リウマチ患者における *Helicobacter pylori* 感染, 胃病変の観察. *消化器内視鏡の進歩* 1999 ; 53 : 53-57.
- 9) 日下部史郎, 松久威史 : *Helicobacter pylori* 陽性胃潰瘍の除菌治療を契機に十二指腸潰瘍, 食道炎をきたした1例. *消化器内視鏡の進歩* 1999 ; 53 : 148-149.
- 10) 権田昌洋, 井上泰夫, 松久威史 : 十二指腸ポリープのポリペクトミー後に心因性夢幻状態を呈した1症例. *消化器内視鏡の進歩* 1999 ; 53 : 166-167.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 松久威史 : 「ヘリコバクター・ピロリ菌」感染機序・診断・除菌治療. 第139回東京保険医協会南多摩支部研究会, 1998. 6.

(2) シンポジウム：

- 1) Matsuhisa T : How to diagnose *Helicobacter pylori* infection. The 1st Vietnam-Japan *Helicobacter pylori* Symposium, Ho Chi Minh City (ベトナム国・ホー・チ・ミン), 1998. 5.
- 2) Matsuhisa T : *H. pylori* infection in Japan. The 1st Vietnam-Japan *Helicobacter pylori* Symposium, Ho Chi Minh City (ベトナム国・ホー・チ・ミン), 1998. 5.
- 3) Matsuhisa T : Endoscopic diagnosis of atrophic gastritis in relation to *H. pylori*. The 1st Vietnam-Japan *Helicobacter pylori* Symposium, Ho Chi Minh City (ベトナム国・ホー・チ・ミン), 1998. 5.

- cobacter pylori* Symposium, Ho Chi Minh City (ベトナム国・ホー・チ・ミン), 1998. 5.
- 4) Matsuhisa T : *H. pylori* infection in China and Thailand compare with Japan. The 1st Vietnam-Japan *Helicobacter pylori* Symposium, Ho Chi Minh City (ベトナム国・ホー・チ・ミン), 1998. 5.
 - 5) Matsuhisa T : Eradication therapy of *H. pylori* in Japan. The 1st Vietnam-Japan *Helicobacter pylori* Symposium, Ho Chi Minh City (ベトナム国・ホー・チ・ミン), 1998. 5.
 - 6) Matsuhisa T : Comparison of gastroduodenal disease and *Helicobacter pylori* infection in Asian people. Chaing Mai University Symposium (タイ王国・チェンマイ), 1999. 1.
 - 7) 松久威史 : 日本中国の胃十二指腸疾病和幽門螺旋菌感染の比較. 第4回中日友好*Helicobacter pylori*与胃・十二指腸疾患Symposium (中国・北京), 1999. 3.
- (3) セミナー :
- 1) Matsuhisa T : *Helicobacter pylori* infection in Vietnam and Japan. Scientific Seminar in Ho Chi Minh City, Endoscopic and histological Diagnosis of Gastroduodenal Disease, Endoscopical Division (ベトナム国・ホー・チ・ミン), 1998. 11.
 - 2) Matsuhisa T : Endoscopic diagnosis of gastroduodenal disease . Scientific Seminar in Ho Chi Minh City, Endoscopic and histological Diagnosis of Gastroduodenal Disease, Endoscopical Division (ベトナム国・ホー・チ・ミン), 1998. 11.
 - 3) Yamashita T¹⁾, Matsuhisa T (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター) : *Helicobacter pylori* infection in Japanese children. Scientific Seminar in Ho Chi Minh City, Endoscopic and histological Diagnosis of Gastroduodenal Disease, Endoscopical Division (ベトナム国・ホー・チ・ミン), 1998. 11.
- (4) ワークショップ :
- 1) 中村 洋¹⁾, 吉野禎一¹⁾, 中村敦夫¹⁾, 河原 徹¹⁾, 岡田匡司¹⁾, 松久威史, 山田宣孝²⁾ (¹⁾ 付属病院リウマチ外科, ²⁾ 第2病理学教室) : 慢性関節リウマチ患者における*Helicobacter pylori*感染. 第42回日本リウマチ学会総会, 1998. 5.
 - 2) 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室) : Sydney分類の評価—3定点生検の有用性について—: 慢性胃炎の診断 : Sydney分類の評価. 第86回日本消化器病学会大会, 1998. 10.
- (5) 一般講演 :
- 1) Matsuhisa T, Nakamura H¹⁾, Yoshino S¹⁾, Yamada N²⁾ (¹⁾ 付属病院リウマチ外科, ²⁾ 第2病理学教室) : Evaluation of rebamipide in patients with rheumatoid arthritis. GI Forum in Vienna (オーストリア国・ウイーン), 1998. 9.
 - 2) Matsuhisa T, Nakamura H¹⁾, Yoshino S¹⁾, Yamada N²⁾ (¹⁾ 付属病院リウマチ外科, ²⁾ 第2病理学教室) : Evaluation of rebamipide in patients with rheumatoid arthritis under NSAIDs and steroid therapy (オーストリア国・ウイーン). 11th World Congress of Gastroenterology (Vienna), 1998. 9.
 - 3) 権田昌洋, 松久威史, 温 敏¹⁾, 山田宣孝²⁾ (¹⁾ 付属病院病理部, ²⁾ 第2病理学教室) : The Sydney Systemに基づく組織学的胃炎および*H. pylori*感染のGrade評価についての提言. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
 - 4) 松久威史, 羽山享宏, 井上泰夫, 森 洋, 権田昌洋, 飯田章太郎, 吉原一郎, 新井朱音, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室) : *Helicobacter pylori*感染からみた組織学的活動性と胃粘膜萎縮. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.
 - 5) 松久威史, 羽山享宏, 井上泰夫, 森 洋, 権田昌洋, 加藤木隆司, 飯田章太郎, 吉原一郎, 新井朱音, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室) : *Helicobacter pylori*感染と活動性score : 年齢層別観察を含めて. 第55回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 4.
 - 6) 権田昌洋, 井上泰夫, 松久威史 : 心因性夢幻状態を十二指腸ポリペクトミー後に呈した1症例. 第66回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 6.

- 7) 日下部史郎, 松久威史: *Helicobacter pylori*陽性胃潰瘍の除菌治療を契機に十二指腸潰瘍, 食道炎を来した1症例. 第66回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 6.
- 8) 松久威史, 羽山享宏, 飯田章太郎, 吉原一郎, 井上泰夫, 森 洋, 中村 洋¹⁾, 吉野楨一¹⁾, 山田宣孝²⁾ (¹⁾ 付属病院リウマチ外科, ²⁾ 第2病理学教室): 慢性関節リウマチ患者における *Helicobacter pylori* 感染の検討. 第66回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 6.
- 9) 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室): 老年者胃潰瘍における背景胃粘膜: *Helicobacter pylori* 感染との関連を含めて. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 10) 松久威史, 井上泰夫, 森 洋, 権田昌洋, 飯田章太郎, 吉原一郎, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室): *Helicobacter pylori* 感染消化性潰瘍における活動性スコアの観察. 第4回日本ヘリコバクター学会, 1998. 6.
- 11) 権田昌洋, 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室): The Sydney Systemに基づく組織学的胃炎, *Helicobacter pylori* 感染の診断基準. 第4回日本ヘリコバクター学会, 1998. 6.
- 12) 松久威史: 慢性関節リウマチ患者における *Helicobacter pylori* 感染. 第2回多摩H.p研究会, 1998. 7.
- 13) 権田昌洋, 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室): 表層性胃炎における *Helicobacter pylori* 感染の観察. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 14) 羽山享宏, 日下部史郎, 井上泰夫, 松久威史, 前田昭太郎¹⁾, 山田宣孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 第2病理学教室): 内視鏡的切除を行った食道顆粒細胞腫の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 15) 飯田信也¹⁾, 江上 格¹⁾, 松島申二¹⁾, 岡崎滋樹¹⁾, 和田雅也¹⁾, 山本英希¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 管 隼人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 山田岳史¹⁾, 瀧田雅仁¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 大野智康¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 沖浜裕司²⁾, 松田 健²⁾, 松久威史, 恩田昌彦³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同消化器科, ³⁾ 付属病院第1外科): 当科における食道癌の治療成績: 縦隔鏡補助下食道抜去術の有用性について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 16) 日下部史郎, 松久威史: 胃潰瘍の除菌療法により異時性に十二指腸潰瘍, 食道炎を発症した1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 17) 森 洋, 権田昌洋, 日下部史郎, 松久威史: *Helicobacter pylori* 感染診断に用いるヘリコチェックの有用性について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 18) 松久威史, 向後俊昭¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院小児科): 小児における *Helicobacter pylori* 感染. 第1報: 血清抗体, ペプシノゲン値からの観察. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 19) 松久威史, 井上泰夫: 小児における *Helicobacter pylori* 感染. 第2報: 内視鏡的にみられた結節性過形成. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 20) 井上泰夫, 松久威史, 前田昭太郎¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部): 内視鏡的に切除した大腸平滑筋腫の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 21) 権田昌洋, 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室): *Helicobacter pylori* 感染からみた萎縮性胃炎. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
- 22) 日下部史郎, 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室): NSAIDsによる上部消化管病変: *Helicobacter pylori* 感染を含めて. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
- 23) 松久威史, 権田昌洋: *Helicobacter pylori* 感染例における慢性活動性胃炎像. 第56回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 11.
- 24) 松久威史, 日下部史郎, 羽山享宏, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室): *Helicobacter pylori* 陽性消化性潰瘍の病理組織学的胃炎: 胃潰瘍と十二指腸潰瘍の相違. 第67回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 11.
- 25) 権田昌洋, 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室): 表層性胃炎と *Helicobacter pylori* 感染の関係について. 第67回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 11.
- 26) 吉原一郎, 権田昌洋, 日下部史郎, 森 洋, 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第2病理学教室): *Helicobacter pylori* 除菌治療により縮小, 消失した胃ポリープの5症例. 第67回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 11.

- 27) 羽山享宏, 日下部史郎, 井上泰夫, 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (1) 第2病理学教室) : 内視鏡的に切除し得た食道顆粒細胞腫の2例. 第252回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 12.
- 28) 井上泰夫, 松久威史, 秋谷行宏¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 江上 格¹⁾ (1) 多摩永山病院外科) : 食道末梢神経鞘腫の1例. 第253回日本消化器病学会関東支部例会, 1999. 2.
- 29) 日下部史郎, 井上泰夫, 松久威史 : 便潜血反応を契機に発見された大腸赤痢アメラバ症の1例. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.
- 30) 井上泰夫, 松久威史, 秋谷行宏¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 江上 格¹⁾ (1) 多摩永山病院外科) : 食道に発生した巨大末梢神経鞘腫の1例. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.
- 31) 松久威史 : Updated Sydney Systemの有用性について. 第3回多摩H. p研究会, 1999. 3.
- (6) 公開講座 :
 - 1) 松久威史 : ピロリ菌と胃がん. 日本医科大学付属多摩永山病院第7回公開講座, 1999. 3.
- (7) ラウンドテーブルディスカッション :
 - 1) 松久威史 : 緊急内視鏡の定義. 第67回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 11.

[千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]

研究概要

千葉北総病院胸部外科は主に心臓血管の循環器疾患と, 肺・呼吸器・胸壁疾患の外科治療を行っている. 本年度は千葉北総病院には各センターが開設されたが胸部外科は循環器センターと呼吸器センターの症例の手術を行っている. 両センターではこれまで以上に他科との連絡が密となり, 昨年度にくらべて手術症例が増加し治療内容も充実した.

1. 呼吸器外科領域の手術適応に関し, 運動負荷試験による呼吸, 循環機能の詳細な検討
2. 術後QOLの改善, 向上のため術後疼痛についての研究
3. 肺葉切除術後の血行循環動態に関する研究と術後管理への応用
4. 病理部と共同で肺癌の発癌機序に関する研究
5. 胸腔胸下手術を含めた手術手技の開発
6. 不整脈の外科に関する研究とくに開心術症例での心内電位の計測, 心臓ペースメーカーの機能評価に関する研究

研究業績

論文

- (1) 原著 :
 - 1) 三上 巖¹⁾, 山本光伸¹⁾, 西村仁志¹⁾, 小泉 潔²⁾, 五味潤誠²⁾, 田中茂夫²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, 2) 付属病院第2外科) : 肺癌術前検査において認められた副腎腫瘍4例の検討. 日胸外会誌 1997 ; 45 (10) : 1733-1737.
 - 2) 三上 巖¹⁾, 山本光伸¹⁾, 西村仁志¹⁾, 小泉 潔²⁾, 五味潤誠²⁾, 田中茂夫²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, 2) 付属病院第2外科) : 子宮筋腫術後17年目に発見された多発性肺腫瘍 (いわゆる benign metastasizing leiomyoma) の1例. 日胸外会誌 1998 ; 46 (7) : 634-638.
- (2) 総説 :
 - 1) 山内茂生 : ペースメーカーこの1年の進歩 : ペースメーカー新機能. 人工臓器 1998 ; 27 (5) : 798-799.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 真崎義隆, 五味淵誠, 山内茂生, 別所竜蔵, 佐地嘉章, 田中茂夫¹⁾, 山本光伸²⁾, 西村仁志²⁾ (1) 付属病院第2外科, 2) 埼玉県立がんセンター胸部外科)：呼吸器外科領域に於ける無水エタノール注入療法の有用性について。第15回日本呼吸器外科学会総会, 1998. 4.
- 2) 佐地嘉章, 五味淵誠, 山内茂生, 真崎義隆, 別所竜蔵, 榎本 豊, 田中茂夫：胸筋温存肺癌手術例の検討。第15回日本呼吸器外科学会総会, 1998. 4.
- 3) 五味淵誠, 真崎義隆, 山内茂生, 別所竜蔵, 藤井正大, 佐地嘉章, 大森裕也, 木下裕康, 田中茂夫, 笹井 巧¹⁾ (1) 海老名総合病院呼吸器外科)：気腫性変化を伴う肺手術症例へのGRF glueの有効性の検討。第15回日本呼吸器外科学会総会, 1998. 4.
- 4) 佐地嘉章, 山内茂生, 別所竜蔵, 榎本 豊, 早川秀幸, 真崎義隆, 五味淵誠：破裂性胸部下行大動脈瘤術後間質性肺炎の治療に難渋したI症例。第10回東葛心臓血管外科研究会, 1998. 5.
- 5) 佐地嘉章, 山内茂生, 別所竜蔵, 榎本 豊, 真崎義隆, 五味淵誠, 田中茂夫：大動脈四尖弁による閉鎖不全症のI手術例。第106回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1998. 6.
- 6) 日野光紀¹⁾, 服部達也¹⁾, 田中恵美¹⁾, 上原隆志¹⁾, 臼杵二郎¹⁾, 古田知行¹⁾, 林原賢治¹⁾, 水野杏一¹⁾, 五味淵誠, 真崎義隆, 大秋美治²⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 同病理部)：血痰精査で来院し気管内にポリープ状発育を呈した腺様嚢胞癌のI例。第5回東葛肺癌研究会, 1998. 6.
- 7) 木下裕康, 五味淵誠, 山内茂生, 真崎義隆, 別所竜蔵, 佐地嘉章, 榎本 豊, 田中茂夫：胆管癌術後2年に気管支胆汁瘻を来した1例。第107回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 8) 五味淵誠, 真崎義隆, 山内茂生, 三上 巖, 佐地嘉章, 藤井正大, 大森裕也, 坂本俊一郎, 木下裕康, 田中茂夫, 笹井 巧¹⁾ (1) 海老名総合病院呼吸器外科)：肺手術術後合併症の予防と対策。第51回日本胸部外科学会総会, 1998. 10.
- 9) 五味淵誠, 真崎義隆, 木下裕康, 仁科 大, 佐地嘉章, 山内茂生：80歳以上の高齢者肺癌症例に対する胸腔鏡下手術の経験。第81回臨床呼吸生理研究会, 1998. 10.
- 10) 宮城泰雄, 山内茂生, 大森裕也, 宮本哲也, 北川彰信, 真崎義隆, 五味淵誠：VSP手術の1例。第11回東葛心臓血管外科研究会, 1998. 11.
- 11) 三上 巖¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 原口秀司²⁾, 秋山博彦³⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 山下浩二³⁾, 天神敏博¹⁾, 五味淵誠¹⁾, 田中茂夫¹⁾ (1) 付属病院第2外科, 2) 防衛医科大学第二外科, 3) 埼玉県立がんセンター胸部外科)：80歳以上肺癌手術症例の検討。第39回日本肺癌学会総会, 1998. 11.
- 12) 仁科 大, 五味淵誠, 真崎義隆, 佐地嘉章, 榎本 豊, 山内茂生, 田中茂夫, 大秋美治¹⁾ (1) 千葉北総病院病理部)：肺原発lymphoepithelioma like carcinomaと考えられた1例。第108回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1998. 12.
- 13) 大森裕也, 五味淵誠, 真崎義隆, 山内茂生, 宮城泰雄, 佐地嘉章, 宮本哲也, 佐々木孝, 仲吉 隆, 北川彰信, 渡辺嘉之, 丸山雄二, 高草木幸子, 田中茂夫¹⁾ (1) 付属病院第2外科)：横隔膜原発巨大悪性腫瘍を疑った1例。日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.

11. 脳神経外科学講座

[付属病院脳神経外科]

研究概要

本年度の論文業績は、英文原著17編、和文原著11編、総説22編、研究報告書2編、著書（分担）10編であった。

英文原著のうち11編は教室員が筆頭著者であり、6編は共著であった。その内容面では、下垂体研究8編、症例報告3編、画像診断（血管障害）2編、腫瘍2編、神経移植1編、NPH1編という分布であった。

和文原著のうち8編は教室員が筆頭著者であり、3編は共著であった。その内容面では症例報告5編、慢性意識障害2編、血管障害、腫瘍、外傷、その他が各1編であった。総説や分担執筆著書の大半は下垂体関連であった。

現在、当教室の研究グループは下垂体、腫瘍、血管、外傷に分かれている。下垂体の臨床および研究が教室の中核であるため、自から研究業績も最多となっている。その他の腫瘍についてはグリオーマと頭蓋底腫瘍の研究がみられる。血管障害に関しては、主に画像診断についての研究が報告された。一方、外傷の研究は和文論文1編のみであり、次年度以降の健闘が待たれる。注目されるのは神経移植の研究が芽生してきたことである。慢性意識障害の管理についての報告もいくつかなされた。また、臨床の教室として多くの症例報告が多分野にわたってなされたことは評価できよう。

当教室では一昨年より博士論文は原則として英文の投稿論文に限ると決めている。そのためもあり今回英文原著のうち3編は博士論文であった。それらを含め一般的には英文原著の大半は基礎研究か症例報告である、臨床の教室であるからには臨床材料を用いた研究も求められるが、この点本年度は、画像診断の2題と海綿静脈洞サンプリングの報告があり、比較的バランスが良くとれていたと思われる。

研究業績

論文

[1998年度追加分]

(1) 原著：

- 1) Sanno N, Shimura T¹⁾, Takumi I, Tahara S, Node Y, Aihara K²⁾, Osamura RY³⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches, ³⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : An adult case of cerebral primitive neuroectodermal tumor. Acta Neurochir (Wien) 1998 ; (140) : 445-446.
- 2) Murai Y, Ikeda Y, Teramoto A, Tsuji Y : Magnetic resonance imaging- documented extravasation as an indicator of acute hypertensive intracerebral hemorrhage. J Neurosurg 1998 ; (88) : 650-655.
- 1) Teramoto A, Yoshida Y, Sanno N, Nemoto S : Cavernous sinus sampling in patients with adrenocorticotrophic hormone-dependent Cushing's syndrome with emphasis on inter and intracavernous adrenocorticotrophic hormone gradients. J Neurosurg 1998 ; (89) : 762-768.
- 2) Kitamura T, Teramoto A : The clinical efficacy of very small diameter neuroendoscopy in spinal cord stimulation. Minim Invas Neurosurg 1998 ; (41) : 118.
- 3) Yoshida D¹⁾, Harashima K, Node Y, Kojima T, Shimura T²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Malignant fibrous histiocytoma in the parietal bone : A case report. Neuro Med Chir 1998 ; (38) : 359-362.

- 4) Yoshida D¹⁾, Piepmeier JM²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital, ²⁾ エール大学脳神経外科) : Estramustine phosphate inhibits matrix metalloproteinase-mediated cell invasion of U87MG human glioblastoma cells. *Br J Cancer* 1998 ; (77) : 21-25.
- 5) Sanno N, Teramoto A, Sugiyama M, Matsuno A¹⁾, Takumi I, Tahara S, Osamura RY²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Teikyo University of Medicine, ²⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Expression of Pit-1 mRNA and actvin/inhibin subunits in clinically nonfunctioning pituitary adenomas. *Horm Research* 1998 ; (50) : 11-17.
- 6) Sanno N, Osamura RY¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Catalyzed reporter deposition method for amplifying endocrine products. *Endocrine Pathology* 1998 ; (9) : 195-199.
- 7) Kogure K, Tanuma N¹⁾, Teramoto A, Matsumoto Y¹⁾ (¹⁾ Department of Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : Quantitative analysis of pro-v and anti-inflammatory cytokine mRNA in neural graft rejection. *J Neuroimmunol* 1998 ; (87) : 114-120.
- 8) Sugiyama M, Sanno N, Teramoto A, Osamura RY¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Detection of inhibin alpha and deta A subunits (inhibin A, B, actirin A, AB) in the human pituitary gland and in pituitary adenomas by immunohistochemistry and nonradioisotopic in situ hybridization. *Endocrine Pathology* 1998 ; (9) : 125-134.
- 9) Takumi I, Steiner DF¹⁾, Sanno N, Teramoto A (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Howard Hunghes Medical Institute, University of Chicago) : Localization of prohormone convertases 1/3 and 2 in the human pituitary gland pituitary adenomas : Analysis by immunohistochemistry, immunoelectron microscopy, and laser scanning microscopy. *Modern Pathology* 1998 ; (11) : 232-238.
- 10) Lin C, Node Y, Teramoto A : Treatment of posterior skull base tumor. *J Nippon Med Sch* 1998 ; (65) : 316-319.
- 11) Muramatsu H¹⁾, Toda S, Watanabe A, Matsumoto M²⁾, Node Y, Shimura T²⁾, Teramoto A (¹⁾ Cardiovascular Medicine and Rehabilitation Kasugai Rehabilitation Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Treatment of ventriculoperitoneal shunt dysfunction in patients with nomal pressure hydrocephalus during rehabilitation therapy : Valiable effects of a programmable valve shunt system. *J Yamanashi Med Asso* 1998 ; (26) : 254-258.
- 12) Osamura RY¹⁾, Sanno N, Tahara S, Kurotani R¹⁾, Itoh Y¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Functional differentiation and its regulation in pituitary cells. *Acta Histochem Cytochem* 1998 ; (31) : 281-286.
- 13) Matsuno A¹⁾, Nagashima T, Takekoshi S, Utsunomiya H, Sanno N, Osamura RY²⁾, Watanabe K, Tamura A, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Teikyo University of Medicine, ²⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Ultrastructural simultaneous identification of growth hormone and its messenger ribonucleic acid. *Endocrine J* 1998 ; (45) : 101-104.
- 14) Takagi R¹⁾, Hayashi H¹⁾, Kobayashi H¹⁾, Isayama K²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Radiology, ²⁾ Department of Neurosurgery, Mejiro Hospital) : Three-dimensional CT angiography of intracranial vasospasm following subarachnoid hemorrhage. *Neuroradiology* 1998 ; (40) : 631-635.
- 15) Asano T, Hayashida M, Ogawa K, Adachi K, Teramoto A, Yamamoto Y : Hypertrophic cranial pachymeningitis in a patient with aplastic anemia. *Ann Hematol* 1998 ; (77) : 279-282.
- 16) 山田昌興, 山口文雄, Morrison RS¹⁾, 高橋 弘²⁾, 寺本 明 (¹⁾ ワシントン大学脳神経外科, ²⁾ 第二病院脳神経外科) : FGFR1発現抑制によるヒト膠芽腫細胞の増殖抑制効果. *脳と神経* 1998 ; (50) : 1101-1105.
- 17) 玉置智規, 諫山和男¹⁾, 木村昭夫²⁾, 辺見 弘²⁾, 山本保博²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 目白病院脳神経外科, ²⁾ 高度救命

救急センター)：急性硬膜下血腫に対する穿頭血腫洗浄除去術 (HITT) 時における循環動態の変動. 救急医学 1998 ; (22) : 223-228.

- 18) 玉置智規, 諫山和男¹⁾, 柴田泰史²⁾, 木村昭夫³⁾, 山本保博³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 目白病院脳神経外科, ²⁾ 中央検査部, ³⁾ 高度救命救急センター)：脳内出血急性期における動脈血中ケトン体比 (AKBR) の変動. 脳神経外科 1998 ; (26) : 591-597.
 - 19) 草彌博昭¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科)：脳ドックにて偶然発見された無症候性脳梁形成不全症の2症例. 健康医学 1998 ; (13) : 325-327.
 - 20) 草彌博昭¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 松本正博¹⁾, 木暮一成, 寺本 明⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科)：微量元素補助食品カキリコにより全身状態の著しい改善を見た遷延性意識障害の1例. JJPEN 1998 ; (20) : 529-532.
 - 21) 金 景成, 山王なほ子, 渡辺 玲, 足立好司, 野手洋治, 寺本 明, 高木 亮¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科)：Accessory middle cerebral artery に合併した前交通動脈瘤の1例：三次元CT angiography による評価. 救急医学 1998 ; (22) : 116-118.
 - 22) 大山健一, 林 伸吉, 田原重志, 太組一郎, 山王なほ子, 喜多村孝幸, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (1) 東海大学病態診断系病理学)：Double pituitary adenoma の3例. ホルモンと臨床 1998 ; (46) : 74-77.
 - 23) 内木場庸子¹⁾, 千葉 隆¹⁾, 村上由加里¹⁾, 向後俊昭¹⁾, 吉田 豊¹⁾, 戸田茂樹, 松本正博²⁾, 志村俊郎²⁾, 島田早苗³⁾, 山本 鼎⁴⁾ (1) 多摩永山病院小児科, ²⁾ 同脳神経外科, ³⁾ 同耳鼻咽喉科, ⁴⁾ 同放射線科)：副鼻腔炎に続発した, 化膿性髄膜炎, 硬膜下膿瘍の1例. 小児耳鼻咽喉科 1998 ; (19) : 28-30.
 - 24) 大橋一善¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 村井保夫, 佐藤秀貴¹⁾, 布施 明¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 高度救命救急センター)：「コッドマン」ICP モニタリングシステムの使用経験. 脳神経外科 1998 ; (8) : 967-971.
 - 25) 松居 徹, 藤原 悟, 高橋 弘, 塩貝敏之, 上田守三, 大平貴之, 竹村栄一, 横山哲也, 山城勝美, 片山容一, 神野哲夫, 太田富雄：慢性期重症意識障害に対する脳脊髄刺激療法の現況. 脳神経外科ジャーナル 1998 ; (7) : 14-23.
 - 26) 志村俊郎¹⁾, 松本正博¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科)：頸肩腕症候群に伴う緊張型および混合型頭痛患者における塩酸チザニジンの使用経験：脳外科外来における頭痛日記による自覚症状の週間推移を中心に. 診断と新薬 1998 ; (35) : 103-111.
- (2) 綜説：
- 1) 高橋 弘¹⁾, 足立好司, 山口文雄, 志村俊郎²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 第二病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科)：原発悪性グリオーマに対する新しい化学療法の試み. Neuro-Oncology 1998 ; (8) : 45-47.
 - 2) 野手洋治：経頭蓋超音波ドプラー検査について. Brain 1998 ; (51) : 4-5.
 - 3) 山王なほ子, 寺本 明：下垂体疾患はどこまでなおるか：長期予後：ゴナドトロピン産生下垂体腺腫. ホルモンと臨床 1998 ; (46) : 669-675.
 - 4) 寺本 明：間脳下垂体腫瘍学の診断と治療. 日本医事新報 1998 ; (3848) : 22-26.
 - 5) 寺本 明：Cushing 病の手術. Clinical Neuroscience 1998 ; (16) : 106-107.
 - 6) 寺本 明, 大平貴之, 岡 一成：神経内視鏡手術の現状と将来. Clinical Neuroscience 1998 ; (16) : 1430-1442.
 - 7) 寺本 明：臨床医学の真実. Brain Nursing 1998 ; (14) : 1.
 - 8) 寺本 明, 吉田陽一, 山王なほ子：Cushing 症候群に対する海綿静脈洞 multi-spot sampling の意義. ホルモンと臨床 1998 ; (46) : 61-64.
 - 9) 志村俊郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科)：Bristowe syndrome (脳梁症候群). 診断と治療 1998 ; (86) : 23.
 - 10) 野手洋治, 寺本 明：脳血管障害 (慢性期). 消化器外科 1998 ; (21) : 561.
 - 11) 喜多村孝幸：神経内視鏡：水頭症. Clinical Neuroscience 1998 ; (16) : 1393-1395.

- 12) 喜多村孝幸, 寺本 明: 支援機器としての神経内視鏡: 下垂体腫瘍. *Clinical Neuroscience* 1998 ; (16) : 1400-1402.
- 13) 山王なほ子, 寺本 明, Lloyd RV¹⁾, 長村義之²⁾ (¹⁾ Department of Laboratory Medicine and Pathology and Division, ²⁾ 東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫における in situ reverse transcription polymerase chain reaction (RT-PCR) 法による微量遺伝子の解析. *ホルモンと臨床* 1998 ; (46) : 99-103.
- 14) 山王なほ子, 菅原 明¹⁾, 太組一朗, 杉山 誠, 田原重志, 小松原清光, 長村義之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫における retinoid X receptor の発現: in situ reverse transcription-polymerase chain reaction (RT-PCR) 法による検討. *ホルモンと臨床* 1998 ; (46) : 104-107.
- 15) 山王なほ子, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学): In situ PCR 法による微量遺伝子の解析. *臨床検査* 1998 ; (42) : 996-1002.
- 16) 山王なほ子, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫の分子病理学的アプローチ. *病理と臨床* 1998 ; (16) : 664-670.
- 17) 山王なほ子: ヒト下垂体腺腫における視床下部ホルモン・視床下部ホルモン受容体遺伝子の検出: in situ RT-PCR 法の応用. *日医大誌* 1998 ; (65) : 101-104.
- 18) 田原重志, 長村義之¹⁾, 山王なほ子, 寺本 明 (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学): 分子生物学的手法による下垂体腺腫の機能分化の解析と分類. *ホルモンと臨床* 1998 ; (46) : 24-29.
- 19) 田原重志, 山王なほ子, 太組一朗, 杉山 誠, 小松原清光, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学): 正常ヒト下垂体細胞および下垂体腺腫における Rab3 蛋白の免疫組織科学的検討. *ホルモンと臨床* 1998 ; (46) : 111-115.
- 20) 田原重志, 山王なほ子, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学): 下垂体細胞における分泌顆粒放出の分子機構: Rab3 isoform の働きについて. *病理と臨床* 1998 ; (16) : 755-758.
- 21) 田原重志, 山王なほ子, 太組一朗, 杉山 誠, 小松原清光, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学): ACTH 産生腺腫の発生・分化に関する分子病理学的検討. *ACTH Related Peptides* 1998 ; (9) : 45-51.
- 22) 高木 亮¹⁾, 林 光宏¹⁾, 若林洋行¹⁾, 池田幸穂²⁾, 村井保夫, 野手洋治, 寺本 明, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 高度救命救急センター): 高濃度造影剤を用いた脳動脈瘤の三次元CT血管造影法. *Progress in Medicine* 1998 ; (18) : 1095-1101.
- 23) 松野 彰¹⁾, 片上秀喜²⁾, 田原重志, 山王なほ子, 長村義之³⁾, 寺本 明, 田中秀樹¹⁾, 村上峰子¹⁾, 和田浩美¹⁾, 荻野良郎⁴⁾, 清水直容⁵⁾, 長島 正¹⁾ (¹⁾ 帝京大学市原病院脳神経外科, ²⁾ 宮崎医科大学第三内科, ³⁾ 東海大学病態診断系病理部, ⁴⁾ 兵庫医科大学脳神経外科, ⁵⁾ 帝京大学第三内科): Growth hormone releasing hormone (GHRH) による成長ホルモン (GH) の autocrine or paracrine regulation: 血漿 GHRH が高値を示した GHRH-GH 産生下垂体腺腫. *ホルモンと臨床* 1998 ; (46) : 19-25.

著 書

- 1) Yoshida D, Piepmeier JM : [分担] Surgery of posterior fossa intra-axial tumor. *The Practice of Neurosurgery*, CD-ROM version (Tindall G, Barrow D, Cooper P, eds), 1998 ; pp985-994, Williams & Wilkins.
- 2) Kawamoto T, Ikeda Y, Teramoto A, Yamamoto Y, Okabe E, Lee C : [分担] Protective effects of L-histidine (singlet oxygen scavenger) on transient forebrain ischemia, ischemic and traumatic brain edema in the rat. *Microcirculation Annual vol.14* (Tsuchiya M, Asano M, Nozaka Y, eds), 1998 ; pp13-14, Nippon Igakkan.
- 3) Byrne T, Piepmeier JM, Yoshida D : [分担] Imaging and clinical features of gliomas. *The Practice of Neurosurgery*, CD-ROM version (Tinball G, Barrow D, Cooper P, eds), 1998 ; pp637-647, Williams &

Wilkins.

- 4) 寺本 明：〔共著〕低体温療法の歴史的変遷. 低体温療法（山本保博，寺本 明編），1998；pp3-8，へるす出版.
- 5) 寺本 明：〔分担〕Transssphenoidal approachとtransethmoidal approach. 脳神経外科手術のための解剖学（松谷雅生他編），1998；pp92-99，メジカルビュー社.
- 6) 寺本 明：〔分担〕先端巨大症.（矢崎義雄，和田 攻，大久保昭行，永田直一編）新内科治療ガイド'98，1998；pp1100-1102，文光堂.
- 7) 山本保博¹⁾，寺本 明⁽¹⁾（高度救命救急センター）：〔共著〕低体温療法（山本保博，寺本 明編），1998；へるす出版.
- 8) 喜多村孝幸，間中信也：〔共著〕頭痛との付き合い方，1998；保健同人社.
- 9) 山王なほ子，寺本 明：〔分担〕ACTH産生腫瘍. Neurosurgery Headline 4 間脳下垂体の腫瘍性病変III 下垂体腺腫（生塩之敬，山浦 晶編），1998；pp69-79，三輪書店.
- 10) 長村義之¹⁾，山王なほ子⁽¹⁾（東海大学病態診断系病理部）：〔分担〕下垂体腺腫の分子生物学. Neurosurgery Headline 4 間脳下垂体の腫瘍性病変III 下垂体腺腫（生塩之敬，山浦 晶編），1998；pp43-53，三輪書店.
- 11) 田島廣之¹⁾，吉田陽一⁽¹⁾（付属病院放射線科）：〔分担〕脳疾患のIVR. 救急疾患のIVR（隈崎達夫，石川 徹編），1998；p6，メジカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Teramoto A：Management of pituitary adenomas. 3rd meeting of NUZYNA, 1998. 10.
- 2) 寺本 明：治る痴呆治らない痴呆. 第24回日本脳神経財団市民講演会，1998. 5.
- 3) 寺本 明：下垂体機能低下を伴う脳腫瘍. 第4回Novo Nordisk成長ホルモン研究会，1998. 6.
- 4) 寺本 明：Cushing病の診断と治療：外科的観点から. 第6回NEIC研究会，1998. 9.
- 5) 山王なほ子：下垂体腺腫における視床下部ホルモン及び視床下部ホルモンレセプター：in situ RT-PCR法を用いた微量遺伝子の検出. 第37回宮城内分泌懇話会特別講演，1998. 11.

(2) 教育講演：

- 1) 金 景成：もやもや病に関して. 平壤医科大学教育講演，1998. 9.
- 2) 寺本 明：Cushing病の診断と治療. 第20回埼玉内分泌代謝研究会，1998. 6.

(3) シンポジウム：

- 1) Teramoto A：Management of Cushing's disease with emphasis of cavernous sinus sampling. 7th Pituitary Pathologists'Club Meeting, 1998. 10.
- 2) 寺本 明：Clinically non-functioning adenomaの臨床と病理. 第17回日本内分泌学会学術集会総会，1998. 4.
- 3) 山王なほ子：ヒト下垂体腺腫における視床下部ホルモン・視床下部ホルモン受容体遺伝子の検出：in situ RT-PCR法の応用. 日本医科大学医学会第8回公開シンポジウム，1998. 6.
- 4) 野手洋治¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，村井保夫，石野真輔¹⁾，大橋一善¹⁾，山本保博¹⁾，寺本 明⁽¹⁾（高度救命救急センター）：当施設における高齢者くも膜下出血の検討. 第12回日本老年脳神経外科研究会，1999. 2.

(4) セミナー：

- 1) 山王なほ子：In situ RT-PCR法による微量遺伝子の細胞レベルでの検出：下垂体腺腫における分子病理学的解析. 第16回脳腫瘍病理学会，1998. 5.
- 2) 寺本 明：蝶形骨下垂体手術のコツ. 第17回日本脳神経外科女医会，1998. 10.

(5) 一般講演：

- 1) Teramoto A：Pituitary incidentalomas in 1,000 autopsy specimens：their incidence and clinical significances.

- 25th International Symposium of GH and Growth Factors in Endocrinology and Metabolism, 1998. 4.
- 2) Tahara S, Ikeda Y¹⁾, Teramoto A, Takagi R²⁾, Yamamoto Y¹⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, ²⁾ Department of Radiology) : Postoperative three-dimensional CT angiography in the evaluation of proximal clipping for ruptured vertebral aneurysms. 66th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons, 1998. 4.
 - 3) Murai Y, Ikeda Y¹⁾, Teramoto A, Yokota H¹⁾, Tsuji Y (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine) : Usefulness of extravasation on magnetic resonance imaging in management of patients with acute hypertensive intracerebral hemorrhage. 66th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons, 1998. 4.
 - 4) Kitamura T, Teramoto A : Neuroendoscopic surgery of intraventricular tumor with obstructive hydrocephalus. 21st Ernst-Moritz-Arndt Universität Seminar, 1998. 5.
 - 5) Kitamura T, Teramoto A : The clinical efficacy of very small diameter neuroendoscopy in spinal cord stimulation. 1st Congress on Endoscope assisted Microneurosurgery, 1998. 6.
 - 6) Yoshida D¹⁾, Shimura T²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Apoptosis by estramustine phosphate. 49th Annual Meeting of the German Society of Neurosurgery, 1998. 6.
 - 7) Sanno N, Tahara S, Komatsubara K, Teramoto A, Irie M : 20 kilodalton human GH expression in pituitaries and GH producing adenomas. Growth Hormone Research Society Conference, 1998. 9.
 - 8) Sanno N, Teramoto A, Osamura RY¹⁾, Lloyd RV²⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, ²⁾ Department of Laboratory Medicine and Pathology and Division) : Expression of gonadotropin releasing hormone and pituitary adenomas. 7th Meeting of International Pituitary Pathologists' Club Meeting, 1998. 10.
 - 9) Tahara S, Kurotani R¹⁾, Komatsubara K, Itoh Y¹⁾, Sanno N, Teramoto A, Osamura RY¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Expression of pituitary homeobox 1 (Ptx1) in human non-neoplastic pituitaries and pituitary adenomas. 7th International Pituitary Pathology Club Meeting, 1998. 10.
 - 10) Sanno N, Teramoto A : The management of pituitary incidentaloma. 3rd Asian Women's Neurosurgical Association Conference, 1998. 10.
 - 11) Yoshida D¹⁾, Shimura T²⁾, Takahashi H¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Drug induced apoptosis by estramustine phosphate on human glioma cell line. 48th Annual Meeting of the Congress of Neurosurgical Surgeons, 1998. 10.
 - 12) Yamaguchi F, Morrison RS¹⁾, Yamada SM, Fukino K, Takahashi H²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Washington University School of Medicine, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital) : Molecular diagnosis of glioma malignancy utilizing alternative splicing pattern of FGF receptor 1. 48th Annual Meeting of the Congress of Neurological Surgeons, 1998. 10.
 - 13) Muramatsu H¹⁾, Watanabe A, Matsumoto M²⁾, Shimura T²⁾, Teramoto A (¹⁾ Cardiovascular Medicine and Rehabilitation Kasugai Rehabilitation Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Pleural effusion appeared during rehabilitation therapy for a patient with ventriculoperitoneal shunt placement : a case report. American Academy of Physical Medicine and Rehabilitation, 1998. 11.
 - 14) Shiraiishi K : Chronic subdural hematoma may be enlarged by enhanced Ang-4 and ET-1. 28th Annual Meet-

- ing, Society for Neuroscience, 1998. 11.
- 15) 杉山 誠, 山王なほ子, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (1) 東海大学病態診断系病理学) : 正常下垂体及び下垂体腺腫におけるインヒピン α , β A サブユニットの局在と機能発現について. 第9回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1999. 2.
 - 16) 高橋 弘¹⁾, 足立好司, 山口文雄, 志村俊郎²⁾, 寺本 明, 長村義之³⁾ (1) 第二病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院脳神経外科, 3) 東海大学病態診断系病理学) : 原発悪性グリオーマに対する新しい化学療法の試み. 第15回ニューロオンコロジーの会, 1998. 4.
 - 17) 田原重志, 山王なほ子, 杉山 誠, 太組一朗, 小松原清光, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (1) 東海大学病態診断系病理学) : 正常ヒト下垂体細胞および下垂体細胞および下垂体腺腫におけるRab3蛋白発現の機能的意義の解析. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
 - 18) 吉田大蔵¹⁾, 志村俊郎²⁾, 寺本 明, 相原 薫³⁾ (1) 第二病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院脳神経外科, 3) 中央電子顕微鏡研究施設) : 抗microtubule剤, estramustineによるヒト malignant glioma細胞におけるapoptosis誘発実験. 第16回日本脳腫瘍病理学会, 1998. 5.
 - 19) 山王なほ子, 志村俊郎¹⁾, 太組一朗, 田原重志, 相原 薫²⁾, 野手洋治, 寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 中央電子顕微鏡研究施設) : 成人に発生した primitive neuroectodermal tumor (PNET) の1例. 第39回日本神経病理学会総会学術研究会, 1998. 5.
 - 20) 田原重志, 山王なほ子, 杉山 誠, 太組一朗, 長村義之¹⁾ (1) 東海大学病態診断系病理学) : 正常ヒト下垂体細胞および下垂体腺腫におけるRab3蛋白の免疫組織科学的検討. 第39回日本神経病理学会学術研究会, 1998. 5.
 - 21) 村井保夫, 池田幸穂¹⁾, 布施 明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 村上 守¹⁾, 大橋一善¹⁾, 石之神小織¹⁾, 山本保博¹⁾, 寺本明, 高木 亮²⁾ (1) 高度救命救急センター, 2) 付属病院放射線科) : 超急性期脳内出血 three-dimensional CT angiography (3D-CTA) の有用性. 第12回神経救急研究会, 1998. 5.
 - 22) 吉田陽一, 小南修史, 足立好司, 山王なほ子, 喜多村孝幸, 野手洋治, 寺本 明 : 鎖骨下動脈狭窄に対する経血管形成術. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 5.
 - 23) 吹野晃一, 寺本 明, 江見 充¹⁾, 高橋 弘²⁾ (1) 老人病研究所分子生物学部門, 2) 第二病院脳神経外科) : 脳腫瘍の染色体・遺伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 5.
 - 24) 村井保夫, 寺本 明, 池田幸穂¹⁾, 布施 明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 村上 守¹⁾, 大橋一善¹⁾, 石之神小織¹⁾, 山本保博¹⁾, 高木 亮²⁾ (1) 高度救命救急センター, 2) 付属病院放射線科) : 超急性期脳内出血 three-dimensional CT angiography (3D-CTA) の臨床的意義. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
 - 25) 小島豊之, 野手洋治, 喜多村孝幸, 饒波正博, 寺本 明 : 大脳半球に発生した類上皮腫の1例. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
 - 26) 玉置智規, 高橋 弘¹⁾, 野手洋治, 寺本 明 (1) 第二病院脳神経外科) : 頸部超音波断層法 (B-mode法) とMRI画像上の梗塞巣およびPVH所見の関連性の件等. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
 - 27) 金 景成, 山王なほ子, 渡辺 玲, 足立好司, 野手洋治, 寺本 明, 高木 亮¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : Accessory middle cerebral arteryに合併した前交通動脈瘤の1例 : 3D-CT angiographyによる検討を踏まえて. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
 - 28) 大橋一善¹⁾, 村上 守¹⁾, 村井保夫, 石之神小織¹⁾, 直江康孝¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 布施 明¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 高度救命救急センター) : 慢性腎不全患者における脳内出血例の検討. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
 - 29) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 星野 茂¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科) : 前交通動脈瘤に対する orbitocranial approach : interhemispheric approach との比較. 第27回脳卒中の外科学会, 1998. 6.
 - 30) 佐藤秀貴¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 諫山和男²⁾, 村上 守¹⁾, 直江康孝¹⁾, 石之神小織¹⁾, 大橋一善¹⁾, 村井保夫, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 高度救命救急センター, 2) 目白病院脳神経外科) : Occipital transtentorial approach にて clipping し得た SCA distal aneurysm の1例. 第27回日本脳卒中の外科学会, 1998. 6.

- 31) 山王なほ子：内分泌腺のincidentaloma，下垂体腺腫のincidentaloma：その臨床．第71回日本内分泌学会総会クリニカルアワー，1998．6．
- 32) 山王なほ子：下垂体・下垂体腺腫における視床下部ホルモンとその意義．第71回日本内分泌学会研究奨励賞受賞講演，1998．6．
- 33) 田原重志，山王なほ子，杉山 誠，太組一朗，小松原清光，寺本 明：正常ヒト下垂体細胞および下垂体腺腫におけるRab3蛋白の免疫組織化学的検討．第71回日本内分泌学会学術総会，1998．6．
- 34) 高橋 弘¹⁾，山口文雄¹⁾，草彌博昭²⁾，寺本 明⁽¹⁾ 第二病院脳神経外科，²⁾ 多摩永山病院脳神経外科：小児悪性グリオーマに対するQOL重視手術と術後intensive palliative therapyの重要性．第26回日本小児神経外科学会，1998．6．
- 35) 山田昌興，吉田大蔵¹⁾，高橋 弘¹⁾，寺本 明⁽¹⁾ 第二病院脳神経外科：生下時より認められた頭蓋骨cavernous angiomaの1例．第26回日本小児神経外科学会，1998．6．
- 36) 野手洋治，寺本 明：高齢者の髄膜腫の治療．第11回日本老年脳神経外科研究会，1998．6．
- 37) 大橋一善¹⁾，村上 守¹⁾，村井保夫，石之神小織¹⁾，直江康孝¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，布施 明¹⁾，池田幸穂¹⁾，山本保博¹⁾ ⁽¹⁾ 高度救命救急センター）：コッドマンICRモニタリングシステムの使用回数．第4回脳代謝モニタリング研究会，1998．6．
- 38) 野手洋治，小松原清光，田原重志，寺本 明：前頭蓋底手術における抗生剤選択の臨床的研究．第10回日本頭蓋底外科学会，1998．6．
- 39) 水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，鈴木紀成¹⁾，寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科：治療に難渋したbasilar bifurcation giant aneurysmの1例．第33回関東脳神経外科懇話会，1998．6．
- 40) 大山健一，清水健司，喜多村孝幸，野手洋治，寺本 明：真性多血症に合併した深部静脈洞血栓症の1例．第70回日本脳神経外科学会関東地方会，1998．6．
- 41) 野手洋治，林 靖人¹⁾，寺本 明⁽¹⁾ 第二病院脳神経外科：無症候性髄膜腫の治療方針．第7回日本脳ドック学会総会，1998．6．
- 42) 玉置智規：頸部超音波断層法（B-mode法）の有用性．第2回千駄木ニューロカンファレンス，1998．7．
- 43) 足立好司，高橋 弘¹⁾，寺本 明⁽¹⁾ 第二病院脳神経外科：ラット脳腫瘍モデルにおける腫瘍浸潤細胞の解析．第11回「脳と免疫」研究会，1998．7．
- 44) 山王なほ子，田原重志，小松原清光，寺本 明，長村義之¹⁾ ⁽¹⁾ 東海大学病態診断系病理学）：下垂体腺腫の増殖・分化に関する諸因子の検討．第13回下垂体研究会学術集会，1998．8．
- 45) 田原重志，山王なほ子，太組一朗，小松原清光，杉山 誠，寺本 明，伊東良子¹⁾，黒谷玲子¹⁾，長村義之¹⁾ ⁽¹⁾ 東海大学病態診断系病理学）：下垂体細胞における分泌顆粒放出の分子機構：ヒト下垂体腺腫を用いた病理学的検討．第13回下垂体研究会学術集会，1998．8．
- 46) 草彌博昭¹⁾，志村俊郎¹⁾，斎藤寛浩，松本正博¹⁾，寺本 明⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科：家族性多発海綿状血管腫の1例．第71回日本脳神経外科学会関東地方会，1998．9．
- 47) 金 景成¹⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科：椎骨動脈環椎部窓形成による脊髄圧迫にて後部神経痛を来した1例．第71回日本脳神経外科学会関東地方会，1998．9．
- 48) 林 靖人¹⁾，山口文雄¹⁾，吉田大蔵¹⁾，高橋 弘¹⁾，寺本 明⁽¹⁾ 第二病院脳神経外科：多発性脳梗塞を合併した周産期脳内出血の1例．第71回日本脳神経外科学会関東地方会，1998．9．
- 49) 太組一朗，山王なほ子，杉山 誠，寺本 明：下垂体腺腫におけるPC（prohormone convertase）の発現：免疫組織化学による検討．第66回日本医科大学医学会総会，1998．9．
- 50) 大山健一，林 靖人¹⁾，山口文雄¹⁾，吉田大蔵¹⁾，高橋 弘¹⁾，寺本 明⁽¹⁾ 第二病院脳神経外科：頭重感で発症した大脳神経膠腫症の1症例．第66回日本医科大学医学会総会，1998．9．
- 51) 寺尾 健，吹野晃一，足立好司，寺本 明：胃癌の髄膜硬膜下血腫を合併した1症例．第66回日本医科大学医

学会総会, 1998. 9.

- 52) 山崎道生, 古川哲也, 木暮一成, 山王なほ子, 足立好司, 野手洋治, 寺本 明: 家族内発生した von Hippel-Lindau 病の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 53) 村松 光¹⁾, 松本正博²⁾, 志村俊郎²⁾, 渡辺 玲, 野手洋治, 寺本 明 (1) 春日居リハビリテーション病院内科, 2) 多摩永山病院脳神経外科): 脳室腹腔シャント留置患者に認められた胸水貯留: リハビリテーション治療経過中慢性期の稀な合併症. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 54) 山田昌興, Morrison RS¹⁾, 山口文雄²⁾, 高橋 弘²⁾, 寺本 明 (1) ワシントン大学脳神経外科, 2) 第二病院脳神経外科): ヒト膠芽腫に対する FGFR1 アンチセンス遺伝子療法の研究. 第6回遺伝子療法懇話会, 1998. 9.
- 55) 野手洋治¹⁾, 高橋 弘²⁾, 志村俊郎³⁾, 寺本 明 (1) 高度救命救急センター, 2) 第二病院脳神経外科, 3) 多摩永山病院脳神経外科): 画像上頭蓋咽頭腫と鑑別が困難であった鞍上部腫瘍の2例. 第3回日本脳腫瘍の外科学会, 1998. 10.
- 56) 野手洋治¹⁾, 吉田大蔵²⁾, 太組一朗, 林 靖人²⁾, 寺本 明 (1) 高度救命救急センター, 2) 第二病院脳神経外科): 錐体骨尖端部類上皮腫の1例. 第3回日本脳腫瘍の外科学会, 1998. 10.
- 57) 高橋 弘¹⁾, 足立好司, 山口文雄, 吉田大蔵¹⁾, 志村俊郎²⁾, 寺本 明 (1) 第二病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院脳神経外科): 悪性グリオーマに対する combined platinum 化学療法 (PEC regimen) の有用性について. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 58) 野手洋治¹⁾, 寺本 明 (1) 高度救命救急センター): 高齢者の髄膜腫の治療方針. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 59) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 上山博康²⁾ (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 旭川赤十字病院): 前交通動脈瘤に対する orbitocranial approach: interhemispheric, petronal approach との比較. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 60) 足立好司, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (1) 第二病院脳神経外科): NK細胞の抗グリオーマ活性を増強するインターロイキン12の実験的検討. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 61) 山王なほ子, 太組一朗, 杉山 誠, 田原重志, 小松原清光, 寺本 明: 下垂体腺腫における微量遺伝子の解析: in situ RT-PCR法の応用. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 62) 山王なほ子, 太組一朗, 杉山 誠, 田原重志, 小松原清光, 寺本 明: TSH産生下垂体腺腫15例の長期予後. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 63) 佐藤秀貴¹⁾, 村井保夫, 池田幸穂²⁾, 石野真輔¹⁾, 大橋一善¹⁾, 大山健一, 山本保博¹⁾, 寺本 明 (1) 高度救命救急センター, 2) 昭和大学医学部脳神経外科): 重症頭部外傷に対する低体温療法. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 64) 喜多村孝幸, 寺本 明: 経蝶形骨手術における disposable neuroendoscopy (CLARUS, malleable type) の有用性. 第5回日本神経内視鏡研究会, 1998. 11.
- 65) 喜多村孝幸, 金 景成, 吉田陽一, 石井雄道, 寺本 明: 神経内視鏡が診断・治療に極めて有用であった, くも膜のう胞を合併した中脳水道星細胞腫の1例. 第5回日本神経内視鏡研究会, 1998. 11.
- 66) 草彌博昭¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 松本正博¹⁾, 饒波正博¹⁾, 寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科): 脳神経外科領域における深在性真菌症. 早期発見の重要性について. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
- 67) 足立好司, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (1) 第二病院脳神経外科): ラット実験脳腫瘍における腫瘍真潤リンパ球のフェノタイプ解析. 第7回日本脳腫瘍カンファレンス, 1998. 11.
- 68) 山口文雄, 山田昌興¹⁾, 吹野晃一, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (1) 第二病院脳神経外科): MCNUによるCFR (cysteine-rich FGF receptor) の発現誘導. 第7回日本脳腫瘍カンファレンス, 1998. 11.
- 69) 吉田陽一, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 根本 繁²⁾ (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 東京警察病院脳神経外科): 鎖骨下動脈狭窄病変に対する経皮血管形成術の検討. 第14回日本脳血管内治療学会, 1998. 11.

- 70) 寺尾 健, 吹野晃一, 足立好司, 野手洋治¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 高度救命救急センター) : 胃癌の髄膜転移に慢性硬膜下血腫合併した1症例. 第72回脳神経外科学会関東地方会, 1998. 11.
- 71) 原島克之¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 渡辺国博, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 当初診断が困難であった両側頸部内頸動脈狭窄症の1例. 第72回日本脳神経外科学会関東地方会, 1998. 11.
- 72) 野手洋治¹⁾, 高橋 弘²⁾, 志村俊郎³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 高度救命救急センター, ²⁾ 第二病院脳神経外科, ³⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : 真性多出血に合併した深部静脈洞血栓症の1例. 第22回日本脳神経CI学会総会, 1999. 1.
- 73) 野手洋治¹⁾, 高橋 弘²⁾, 志村俊郎³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 高度救命救急センター, ²⁾ 第二病院脳神経外科, ³⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : 画像上頭蓋咽頭腫と鑑別が困難であった神経膠腫の2例. 第22回日本脳神経CI学会総会, 1999. 1.
- 74) 栗屋 栄¹⁾, 前川正義¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 目白病院脳神経外科) : 脳梗塞に対する初診時3D-CTAngiography (以下, 3D-CTA) の有用性. 第22回脳神経CI学会総会, 1999. 1.
- 75) 高木 亮¹⁾, 山王なほ子, 野手洋治²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 高度救命救急センター) : 下垂体腺腫におけるMTC画像の初期臨床的評価. 第9回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1999. 2.
- 76) 小松原清光, 田原重志, 山王なほ子, 太組一朗, 杉山 誠, 長村義之¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 東海大学病態診断系病理学) : ヒト下垂体腺腫におけるp27蛋白質の免疫組織化学的検討. 第9回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1999. 2.
- 77) 田原重志, 山王なほ子, 太組一朗, 小松原清光, 杉山 誠, 長村義之¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 東海大学病態診断系病理学) : 正常ヒト下垂体および下垂体腺腫におけるPituitary homeo box 1 (Ptx1) の発現. 第9回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1999. 2.
- 78) 吹野晃一, 北村 裕¹⁾, 江見 充¹⁾, 杉山 誠, 太組一朗, 田原重志, 小松原清光, 山王なほ子, 寺本 明⁽¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門) : 下垂体腺腫におけるMEN1遺伝子変異の検討. 第9回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1999. 2.

[第二病院脳神経外科]

研究概要

第二病院脳神経外科は, 付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら, 脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経奇形などあらゆる脳神経疾患の外科的治療を対象として臨床的, 基礎的研究を行っている。

特に, 悪性脳腫瘍に関しては, 多くの基礎的研究に基づいて, 腫瘍抗原に対するモノクローナル抗体を用いた特異的免疫療法と各種のBRM製剤を用いた非特異的免疫療法を臨床的に応用し, 確実な効果をあげてきている。

また, 分子生物学的基礎研究も盛んで, 脳腫瘍の悪性度にしたがって発現が異なる成長因子受容体を遺伝子レベルで解析する研究や, 癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の基礎的研究, さらに遺伝子銃を用いた新しい遺伝子導入の研究などが将来の遺伝子治療を目指して行われている。

一方, 臨床的には従来摘出困難と思われていた脳幹部などの腫瘍に関しても積極的に手術療法を施行し, 悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法として新しい免疫化学療法を行い, 良好な結果をおさめてきている。

脳血管障害や頭部外傷に関しては, 超音波ドップラーやSPECTを用いて脳循環を詳細に測定することにより, 非観血的に正確な病態把握を行う臨床的研究が盛んである。

小児疾患に関しても, 腫瘍性疾患の治療を主体に行っているが, 中枢神経奇形についても, 形成外科と協力しながら積極的に治療に取り組んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yoshida D, Piepmeier JM¹⁾, Bergenheim T²⁾, Henriksson R²⁾, Teramoto A³⁾ (¹⁾ Yale University, School of Medicine, ²⁾ Umea University, ³⁾ Nippon Medical School Hospital) : Suppression of matrix metalloproteinase-2-mediated cell invasion in U87MG, human glioma cells by anti-microtubule agent ; in vitro study. *Brit J Cancer* 1998 ; 77 (1) : 21-25.
- 2) Yamada S¹⁾, Floyd B¹⁾, Lloyd D¹⁾, Yamada S (¹⁾ Loma Linda University Medical Center) : Surgical Techniques for Arteriovenous Malformations in Functional Areas : Focus on the Superior Temporal Gyrus. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 1998 ; 38 (suppl) : 222-226.
- 3) Yoshida D, Harashima K¹⁾, Node Y²⁾, Kojima T²⁾, Shimura T³⁾, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Nippon Medical School Hospital, ³⁾ Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Malignant Fibrous Histiocytoma in the Parietal Bone : A Case Report. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 1998 ; 38 (6) : 359-362.
- 4) 高橋 弘, 足立好司¹⁾, 山口文雄, 志村俊郎²⁾, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院, ²⁾ 多摩永山病院) : 原発性グリオーマに対する新しい化学療法の試み. *Neuro-Oncology* 1998 ; 8 (1) : 45-47.
- 5) 山田昌興, 山口文雄, Morrison RS²⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院, ²⁾ ワシントン大学) : FGFR1発現抑制によるヒト膠芽腫細胞の増殖抑制効果. *脳神経* 1998 ; 50 (12) : 1101-1105.
- 6) 山口文雄, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院) : 転移性脳腫瘍. *日医大誌* 1999 ; 66 (1) : 56-58.
- 7) 高橋 弘 : Neuroimaging Quiz-gangliocytoma の1例. *Clin Neurosci* 1999 ; 17 (3) : 99-100.

著書

- 1) Yoshida D, Piepmeier JM¹⁾ (¹⁾ Yale University, School of Medicine) : [分担] Surgery of posterior fossa intra-axial tumors. *The Practice of Neurosurgery, CD-ROM version* (Tindal G, Barrow D, Cooper P, eds), 1998 ; pp985-994, Williams & Wilkins.
- 2) Byrne T¹⁾, Piepmeier JM¹⁾, Yoshida D (¹⁾ Yale University, School of Medicine) : [分担] Imaging and clinical features of gliomas. *The practice Neurosurgery, CD-ROM version* (Tindal G, Barrow D, Cooper P, eds), 1998 ; pp637-647, Williams & Wilkins.
- 3) Yamada S¹⁾, Knierim D¹⁾, Yamada S (¹⁾ Loma Linda University Medical Center) : [分担] Somatosensory Evoked Potentials and Controlled Hypotension. *Arteriovenous Malformations in Functional Areas of the Brain* (Yamada S, eds), 1999 ; pp219-223, Futura Publishing Company, Inc.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 高橋 弘 : 最近の脳神経外科の動向. 第288回富士宮市医師会学術講演会, 1998. 7.

(2) 宿題講演：

- 1) 高橋 弘, 神野哲夫¹⁾, 太田富雄¹⁾, 片山容一¹⁾, 上田守三¹⁾, 大平貴之¹⁾, 塩貝敏之¹⁾, 鈴木明文¹⁾, 竹内栄一¹⁾, 藤原 悟¹⁾, 松居 徹¹⁾, 山城勝美¹⁾, 山本隆充¹⁾, 横山哲也¹⁾ (¹⁾ 慢性期意識障害スコアリング委員会) : 慢性期意識障害スコアリング. 第7回意識障害の治療研究会, 1998. 7.

(3) 一般講演：

- 1) Yoshida D, Teramoto A¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Hospital) : Apoptosis by estramustine phosphate. 49th Annual Meeting of the German Society of Neurosurgery, 1998. 6.

- 2) Yamaguchi F, Morrison RS¹⁾, Yamada SM, Fukino K²⁾, Takahashi H, Teramoto A²⁾ (1) University of Washington Medical Center, 2) Nippon Medical School Hospital) : Molecular diagnosis of glioma malignancy utilizing alternative splicing pattern of FGF receptor1. The 48th Annual Meeting of the Congress of Neurological Surgeons, 1998. 10.
- 3) Yoshida D, Shimura T¹⁾, Takahashi H, Teramoto A²⁾ (1) Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 2) Nippon Medical School Hospital) : Drug induced apoptosis by estramustine phosphate on human glioma cell line,U87MG. The 48th Annual Meeting of the Congress of Neurosurgical Surgeons, 1998. 10.
- 4) 吉田大蔵, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明¹⁾, 相原 薫²⁾ (1) 付属病院, 2) 中央電顕施設) : 抗microtubule剤, Estramustineによるヒト malignant glioma細胞におけるapoptosis誘発実験. 第16回日本脳腫瘍病理学会, 1998. 2.
- 5) 吹野晃一¹⁾, 寺本 明¹⁾, 江美 充²⁾, 高橋 弘 (1) 付属病院, 2) 老人病研究所) : 脳腫瘍の染色体・遺伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 5.
- 6) 吉田大蔵, 志村俊郎¹⁾, 渡辺国博²⁾, 相原 薫³⁾, 寺本 明⁴⁾ (1) 多摩永山病院, 2) 東戸塚記念病院, 3) 中央電顕施設, 4) 付属病院) : Estramustine薬剤誘発性apoptosisにおけるBcl 2蛋白の意義. 第17回日本脳腫瘍病理学会, 1998. 5.
- 7) 野手洋治¹⁾, 林 靖人, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院) : 興味ある画像所見を呈した異物性肉芽腫の1例. 第21回日本脳神経CI学会総会, 1998. 5.
- 8) 玉置智規¹⁾, 高橋 弘, 野手洋治¹⁾, 諫山和男²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院, 2) 松江病院) : 頸部超音波断層法(B-mode法)とMRI画像所見(脳硬塞およびPVH)の関連性. 第23回日本脳卒中学会総会, 1998. 6.
- 9) 高橋 弘, 山口文雄¹⁾, 草薨博昭²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院, 2) 多摩永山病院) : 小児悪性グリオーマに対するQOL重視手術と術後intensive palliative therapyの重要性. 第26回日本小児神経外科学会, 1998. 6.
- 10) 山田昌興, 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院) : 生下時より認められた頭蓋骨 cavernous angiomaの1例. 第26回日本小児神経外科学会, 1998. 6.
- 11) 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院) : ラット脳腫瘍モデルにおける腫瘍浸潤細胞の解析. 第11回「脳と免疫」研究会, 1998. 7.
- 12) 野手洋治¹⁾, 高橋 弘, 志村俊郎²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院, 2) 多摩永山病院) : 画像上頭蓋蓋咽頭腫と鑑別が困難であった鞍上部腫瘍の2例. 第3回日本脳腫瘍の外科学会, 1998. 9.
- 13) 林 靖人, 山口文雄¹⁾, 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院) : 多発性脳硬塞を合併した周産期脳内出血の1例. 第71回日本脳神経外科学会関東地方会, 1998. 9.
- 14) 大山健一, 林 靖人, 山口文雄, 吉田大蔵, 高橋 弘 : 頭重感で発症した大脳神経膠腫の1症例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 15) 山田昌興, Morrison RS¹⁾, 山口文雄, 高橋 弘, 寺本 明²⁾ (1) ワシントン大学, 2) 付属病院) : ヒト膠芽腫に対するFGFR1アンチセンス遺伝子療法の研究. 第6回遺伝子療法懇話会, 1998. 9.
- 16) 高橋 弘, 足立好司¹⁾, 山口文雄, 吉田大蔵, 志村俊郎²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院, 2) 多摩永山病院) : 悪性グリオーマに対するCombined platinum化学療法(PEC regimen)の有用性について. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 17) 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院) : NK細胞の抗グリオーマ活性を増強するインターロイキン12の実験的検討. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 18) 野手洋治¹⁾, 吉田大蔵, 太組一朗²⁾, 林 靖人, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院, 2) 松江病院) : 錐体骨尖端部類上皮腫の1例. 第3回日本脳腫瘍の外科学会, 1998. 10.
- 19) 山口文雄, 山田昌興, 吹野晃一¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院) : MCNUによるCFR(cysyeine-rich FGF receptor)の発現誘導. 第7回日本脳腫瘍カンファレンス, 1998. 11.
- 20) 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院) : ラット実験脳腫瘍における腫瘍浸潤リンパ球のフェノタイ

[多摩永山病院脳神経外科]

研究概要

多摩永山病院脳神経外科は, 日本脳神経外科学会専門医訓練施設として, 診療, 教育, 研究を付属病院脳神経外科教室の指導の下に行っている。

当科の第1の研究テーマは, 主として外傷性びまん性脳損傷と急性期脳血管障害の症例において, 持続頭蓋内圧測定(光センサー硬膜下法), 脳血流測定(超音波ドップラー法), SPECT, およびトレンドグラフを用いた電気生理学的検査(聴性脳幹反応, 体性感覚誘発電位), MRI・MRAなどの多くの諸検査により経時的な測定をすることにより, その軸索損傷および脳虚血の病態解明を行っている。

第2のテーマは頭痛患者外来において筋弛緩剤チザニジン投与による頭痛日記とTranscranialドップラーによる脳血流測定を行うことにより, その臨床薬理学的効果を正常成人例と対比し検討している。

第3のテーマは悪性脳腫瘍の治療に伴う臨床および病理形態学的研究を行っている。

第4のテーマは脳下垂体腫瘍の臨床内分泌学的研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Yoshida D¹⁾, Harashima K¹⁾, Node Y¹⁾, Kojima T¹⁾, Shimura T, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Malignant Fibrous Histiocytoma in the Parietal Bone : Case Report. *Neurol Med Chir* 1998 ; 38 (6) : 359-362.
- 2) Sanno N¹⁾, Shimura T, Takumi I¹⁾, Tahara S¹⁾, Node Y¹⁾, Aihara K²⁾, Osamura RY³⁾, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, 2) Central Institute for Microscopic Researches, Nippon Medical School, 3) Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : An Adult case of Cerebral Primitive Neuroectodermal Tumour. *Acta Neurochir* 1998 ; 140 : 445-446.
- 3) Muramatsu H¹⁾, Toda S, Watanabe A, Matsumoto M, Node Y²⁾, Shimura T, Teramoto A²⁾ (1) Department of Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Treatment of Ventriculoperitoneal Shunt Dysfunction in Patients with Normal Pressure Hydrocephalus During Rehabilitation Therapy : Valuable Effects of a Programmable Valve Shunt System. *山梨医学* 1998 ; 26 : 254-258.
- 4) 高橋 弘¹⁾, 足立好司²⁾, 山口文雄²⁾, 志村俊郎, 寺本 明²⁾ (1) 第二病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 原発悪性グリオーマに対する新しい化学療法の試み. *Neuro-Oncology* 1998 ; 8 (1) : 45-47.
- 5) 内木場庸子¹⁾, 千葉 隆¹⁾, 村上由加里¹⁾, 向後俊昭¹⁾, 吉田 豊¹⁾, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 島田早苗²⁾, 山本 鼎³⁾ (1) 多摩永山病院小児科, 2) 同耳鼻咽喉科, 3) 同放射線科) : 副鼻腔炎に続発した, 化膿性髄膜炎, 硬膜下膿瘍の1例. *小児耳鼻咽喉科* 1998 ; 19 (2) : 28-30.
- 6) 草彌博昭, 志村俊郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 脳ドックにて偶然発見された無症候性脳梁形成不全症の2症例. *健康医学* 1998 ; 13 (3) : 325-327.
- 7) 草彌博昭, 志村俊郎, 松本正博, 木暮一成, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 微量元素補助食品カキリコにより全身状態の著しい改善を見た遷延性意識障害者の1例. *JJPEN* 1998 ; 20 (6) : 529-532.
- 8) 草彌博昭, 寺本 明¹⁾, 志村俊郎 : 脳神経外科領域の慢性意識障害患者における栄養管理. *JJPEN* 1998 ; 20 (6) : 533-536.

- 9) 志村俊郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : Bristowe syndrome (脳梁症候群). 診断と治療 1998 ; 86 (増刊) : 23.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Shimura T : Electron Microscopic and Immunohistochemical Studies of Acute Stages of Severe Brain Injury in Rat. Kazakh State Medical University Almaty City, Republic of Kazakhstan, 1998. 4.

(2) 一般講演 :

- 1) Yoshida D¹⁾, Teramoto A¹⁾, Shimura T (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Apoptosis by Estramustine phosphate. German Society of Neurological Surgery (Hanover Germany), 1998. 6.
- 2) Muramatsu H¹⁾, Watanabe A, Matsumoto M, Shimura T, Teramoto A²⁾ (1) Kasugai Rehabilitation Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Pleural Effusion Appeared During Rehabilitation Therapy for a patient With Ventriculoperitoneal Shunt Placement : A Case Report. American Academy of Physical Medicine and Rehabilitation (Washington USA), 1998. 11.
- 3) 水谷暢秀, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 両側基底核及び視床に広範な病変を来した深部静脈血栓症において, 画像上再開通を確認した1治験例. 第21回日本脳神経CI学会総会, 1998. 2.
- 4) 野手洋治¹⁾, 松本正博, 古川哲也²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科) : 転移性脳腫瘍の原発巣, 組織診断とMRIおよび手術所見との関連性について. 第21回日本脳神経CI学会総会, 1998. 2.
- 5) 高橋 弘¹⁾, 足立好司²⁾, 山口文雄²⁾, 志村俊郎, 寺本 明¹⁾ (1) 第二病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 原発悪性グリオーマに対する新しい化学療法の試み. 第15回ニューロ・オンコロジーの会, 1998. 4.
- 6) 山王なほ子¹⁾, 志村俊郎, 太組一朗¹⁾, 田原重志¹⁾, 相原 薫²⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 中央電子顕微鏡研究施設) : 成人に発生したPrimitive neuroectodermal tumor (PNET) の1例. 第39回日本神経病理学会総会学術研究会, 1998. 5.
- 7) 吉田大蔵¹⁾, 志村俊郎, 寺本 明²⁾, 相原 薫³⁾ (1) 第二病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科, 3) 中央電顕施設) : 抗microtubule剤, Estramustineによるヒト malignant glioma細胞におけるapoptosis誘発実験. 第16回日本脳腫瘍病理学会, 1998. 5.
- 8) 村松 光¹⁾, 松本正博, 志村俊郎, 渡辺 玲²⁾, 野手洋治²⁾, 寺本 明²⁾ (1) 春日居リハビリテーション病院内科, 2) 付属病院脳神経外科) : 脳室腹腔シャント留置患者に認められた胸水貯留 : リハビリテーション治療経過中慢性期の稀な合併症. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 9) 草彌博昭, 志村俊郎, 斉藤寛浩, 松本正博, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 家族性多発性海綿状血管腫の1例. 第71回日本脳神経外科学会関東地方会, 1998. 9.
- 10) 野手洋治¹⁾, 高橋 弘²⁾, 志村俊郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 第二病院脳神経外科) : 画像上頭蓋咽頭腫と鑑別が困難であった鞍上部腫瘍の2例. 第3回日本脳腫瘍の外科学会, 1998. 9.
- 11) 草彌博昭, 志村俊郎, 松本正博, 饒波正博, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 脳神経外科領域における深在性真菌症 : 早期発見の重要性について. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.

[千葉北総病院脳神経外科]

研究概要

開設後5年が経過した千葉北総病院脳神経外科は, 付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら, 脳血管障害・

頭部外傷・脳腫瘍を中心とした臨床的および基礎的研究を行った。平成10年10月より脳神経センターが開設され、stroke care unit (SCU) 創設の準備段階に入った。

1) 脳血管障害：脳血管攣縮に対する新しい治療法であるmicroballoon catheterを用いたPTAおよび塩酸パパベリン動注療法の有効性を確認した。前交通動脈瘤に対する新しい手術法であるorbitocranial approachによる手術症例の経験を重ね、従来の方法であるinterhemispheric approachおよびpterional approachとの比較を行い、orbitocranial approachの利点を報告した。血行再建術においてはradial artery graftを用いるhigh flow bypassを行った。血管内手術では鎖骨下動脈狭窄病変に対するPTAの検討を行った。

2) 頭部外傷：頭部外傷はアルツハイマー病のひとつの環境因子である。慢性期の振盪性脳外傷を研究するため、ラットのfluid percussion脳外傷2～6カ月後の、組織学的検索を行った。外傷6カ月後、無数の正常神経細胞がリン酸化タウとアミロイドベーター蛋白免疫染色で陽性となった。大脳皮質の神経細胞数は徐々に外傷後減少し、外傷6カ月後には42%減少した。これらの結果、この動物モデルは、アルツハイマー病などの神経変性疾患の、よい動物モデルになることを証明した。

3) 脳腫瘍：種々の出血性脳腫瘍例に対する術前の人工塞栓術の有効性を確認した。新たに導入した骨メス(Maidas Rex) を使用して行う、頭蓋底外科のうち、lower lateral suboccipital approachの検討を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hoshino S, Tamaoka A¹⁾, Takahashi M²⁾, Kobayashi S, Furukawa T, Oaki Y³⁾, Mori O³⁾, Matsuno S¹⁾, Shoji S¹⁾, Inomata M⁴⁾, Teramoto A⁵⁾ (1) 筑波大学神経内科, 2) 山之内製薬, 3) 千葉北総病院病理部, 4) 保健化学研究所, 5) 付属病院脳神経外科) : Emergence of immunoreactivities for phosphorylated tau and amyloid- β protein in chronic stage of fluid percussion injury in rat brain. Neuro Report 1998 ; (9) : 1879-1883.
- 2) 本間正人¹⁾, 横田裕行²⁾, 小林士郎, 山本保博³⁾, 大塚敏文³⁾ (1) 国立病院東京災害医療センター救命救急センター, 2) 多摩永山病院救命救急センター, 3) 救急医学) : 多発外傷を伴った頭部外傷の検討. 日本救急医学会雑誌 1998 ; (9) : 182-190.

(2) 綜説：

- 1) 小林士郎, 横田裕行¹⁾, 益子邦洋²⁾ (1) 多摩永山病院救命救急センター, 2) 千葉北総病院救命救急センター) : 脳死判定. Medical Practice 1998 ; (15) : 1016-1033.

著書

- 1) 金 景成, 小林士郎 : [分担] X線angiography. 脳血管障害の診断 (矢崎義雄 監修), 1999 ; pp175-187, 現代医療社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 小林士郎：神経外傷学の進歩。釧路脳神経懇話会，1998。9。

(2) シンポジウム：

- 1) 林 伸吉, 小林士郎, 野手洋治¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 寺本 明²⁾, 横田裕行 (1) 付属病院救命救急センター, 2) 同脳神経外科, 3) 多摩永山病院救命救急センター) : Eldealy abuseに認められた老人頭部外傷例. 第22回日本神経外傷学会, 1999。3。

(3) 一般講演：

- 1) Takumi I, Isayama K¹⁾, Kobayashi S, Kishimoto A¹⁾, Teramoto A²⁾ (1) 松江病院脳神経外科, 2) 付属病院

- 脳神経外科) : Intracisternal accessory nerve neurinoma originated from CI ventral root : report of a case. 12th Japan Neurosurgery English Forum, 1999. 3.
- 2) 水成隆之, 小林士郎, 星野 茂, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 前交通動脈瘤に対する orbitocranial approach : interhemispheric approach との比較. 第27回脳卒中の外科学会, 1998. 6.
 - 3) 水成隆之, 小林士郎, 鈴木紀成, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 治療に難渋した basilar bifurcation giant aneurysm の1例. 第33回関東脳神経外科懇話会, 1998. 6.
 - 4) 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 椎骨動脈環椎部窓形成による脊髄圧迫にて後頭神経痛を来した1例. 第71回日本脳神経外科学会関東地方会, 1998. 9.
 - 5) 水成隆之, 小林士郎 : 巨大脳底動脈瘤の2症例. 第4回埼玉頭蓋底外科学会, 1998. 11.
 - 6) 原島克之, 水成隆之, 小林士郎, 渡部国博, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 当初診断が困難であった両側頸部内頸動脈狭窄症の1例. 第72回日本脳神経外科学会関東地方会, 1998. 11.
 - 7) 木暮一成, 金澤隆三郎, 水成隆之, 小林士郎 : Interhemispheric SDHで発症した A2-A3 aneurysm の1例. 第35回東葛地区脳神経外科研究会, 1998. 11.
 - 8) 吉田陽一¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 根本 繁²⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 警察病院脳神経外科) : 鎖骨下脳脈狭窄病変に対する経皮血管形成術の検討. 第14回日本脳血管内治療学会, 1998. 11.
 - 9) 原島克之, 水成隆之, 林 伸吉, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 上山博康²⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 旭川赤十字病院脳神経外科) : IC cavernous portion giant aneurysm に対し IC trapping, RA graft を行った1例. 第36回東葛地区脳神経外科研究会, 1999. 3.
 - 10) 水成隆之, 寺尾 健, 金澤隆三郎, 原島克之, 木暮一成, 林 伸吉, 小林士郎 : 解離性脳動脈瘤の1例. 第2回房総EVENING FORUM, 1999. 3.

12. 整形外科科学講座

[付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]

研究概要

現代の整形外科科学の研究範囲は膨大な範囲に涉っているので、そのすべてを網羅することは到底不可能であるが、出来るだけ広範囲にしかも深く研究するのが教室の使命であると考えている。

研究項目は：

- 1) 電気生理学；脊髄電位，神経電位，交感神経電位，筋電図，電気刺激および電磁場刺激による骨・軟骨・神経の再生。
- 2) Biomechanics；脊椎，膝関節，股関節，仙腸関節，肩関節などのBiomechanics.
- 3) 軟骨再生と移植；将来には骨銀行のみでなく軟骨銀行をめざしている。
- 4) 人工関節，人工靭帯，人工骨の開発実験および関節（主として股・膝関節）の同種移植。
- 5) 脊椎管内血管の解剖学。
- 6) 脊髄馬尾の解剖学。
- 7) 手根骨動態。
- 8) 職業性腰痛の疫学・予防対策。
- 9) Back Schoolの実施。
- 10) 交感神経電気活動状況。
- 11) 疼痛発生の基礎研究およびレーザー治療による除痛効果の基礎研究。
- 12) スポーツ医学外来（各種スポーツ障害・外傷の治療）。
- 13) 脚および骨延長の基礎と臨床。
- 14) 臨床的研究；伝統的に脊髄・脊髄疾患に対する治療例が圧倒的に多く，その手術法の開発と予後の検索を行っている。また，現代の流れで，交通事故の外傷，老人の人工関節置換術や，骨粗鬆症，若者のスポーツ医学や近年急増している骨・軟部悪性腫瘍等に関して先進的かつ独自のな治療法を試みている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakamura I¹⁾, Sasaki T¹⁾, Tanaka S¹⁾, Takahashi N¹⁾, Jimi E¹⁾, Kurokawa T, Kita Y¹⁾, Ihara S¹⁾, Suda T¹⁾, Fukui Y¹⁾ (1) Dept. of Biochemistry, School of Dentistry, Showa University) : Phosphatidylinositol-3 kinase is involved in ruffled border formation in osteoclasts. J Cell Physiol 1997 ; 172 (2) : 230-239.
- 2) Kosaki K¹⁾, Ando J¹⁾, Korenaga R¹⁾, Kurokawa T, Kamiya A¹⁾ (1) Dept. of Orthop. Surg, Tokyo Univ.) : Fluid shear stress increases the production of granulocyte- macrophage colony : stimulating factor by endothelial cells via mRNA stabilization. Circ Res 1998 ; 82 (7) : 794-802.
- 3) Nakamura K¹⁾, Kurokawa T, Hoshino Y¹⁾, Saita K¹⁾, Takeshita K¹⁾, Kawaguchi H¹⁾ (1) Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Conservative treatment for cervical spondylotic myelopathy : achievement and sustainability of a level of no disability. J Spinal Disord 1998 ; 11 (2) : 175-179.
- 4) Mamada K¹⁾, Nakamura K¹⁾, Matsushita T¹⁾, Okazaki H¹⁾, Shiro R¹⁾, Ou W¹⁾, Tanaka K¹⁾, Kurokawa T (1) Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : The diameter of callus in leg lengthening : 28 tibial lengthen-

- ings in 14 patients with achondroplasia. *Acta Orthop scand* 1998 ; 69 (3) : 306-310.
- 5) Miura T¹⁾, Nakamura K¹⁾, Tanaka H¹⁾, Kawaguchi H¹⁾, Takeshita K¹⁾, Kurokawa T (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Resection of cervical spinal neurinoma including affected nerve root : recovery of neurological deficit in 15 cases. *Acta Orthop Scand* 1998 ; 69 (3) : 280-282.
 - 6) Saita K¹⁾, Nakamura K¹⁾, Takeshita K¹⁾, Kawaguchi H¹⁾, Kurokawa T (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Tethered cord syndrome : ventral displacement of the spinal cord at the thoracolumbar junction in magnetic resonance imaging. *Eur J Radio* 1998 ; 27 (3) : 254-257.
 - 7) Kitagawa Y, Shirai Y, Sawaizumi T, Aoki T : Radiographic analysis of the sesamoid bones at the MP joint of the thumb. *日手の外科会誌* 1998 ; 15 : 8-12 .
 - 8) Shirai Y, Miyamoto M, Genbum Y, Kaneda K : Combination of Low back pain and previous low back pain and stiffness of shoulder in construction employees. *J Nippon Med Sch* 1998 ; 65 (4) : 307-311.
 - 9) Takano M, Tanuma K¹⁾, Ito H¹⁾, Shirai Y (¹⁾ Dept. of Anatomy II) : Veins of the lumbar spinal ganglia in human adults and fetuses. *J Nippon Med Sch* 1998 ; 65 (4) : 298-306.
 - 10) Kobayashi M¹⁾, Hyodo A¹⁾, Kurokawa T, Ueno S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Biomedical Engineering, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo) : The first component of polyphasic motor evoked potentials is resistant to suppression by paired transcranial magnetic stimulation in humans. *J Neurol Sci* 1998 ; 159 (2) : 166-169.
 - 11) Tsukamoto K¹⁾, Ota N, Shirai Y, Emi M¹⁾ (¹⁾ Dept. of Molecular Biology, Institute of Gerontology) : A highly polymorphic CA repeat marker at the human interleukin 6 receptor (IL6R) locus. *Journal of Human Genetics* 1998 ; 43 : 289-290.
 - 12) Tsukamoto K¹⁾, Ota N, Shirai Y, Emi M¹⁾ (¹⁾ Dept. of Molecular Biology, Institute of Gerontology) : A highly polymorphic CA repeat marker at the human tumor necrosis factor alpha (TNF α) locus. *Journal of Human Genetics* 1998 ; 43 : 278-290.
 - 13) Mori A, Shirai Y, Nakayama Y, Narita T : Three- dimensional gradient- echo MR imaging of chronic partial anterior cruciate ligament tears. *J Nippon Med Sch* 1998 ; 65 : 429-431.
 - 14) Nakayama Y, Shirai Y, Narita T, Mori A : Enlargement of bone tunnels after anterior cruciate ligament reconstruction. *J Nippon Med Sch* 1998 ; 65 : 377-381.
 - 15) Mori A, Shirai Y, Nakayama Y, Narita T, Iizawa N, Hayashi H : Early postoperative athletic rehabilitation program for muscle strengthening after anterior cruciate ligament reconstruction. *Jpn J Orthop Sports Med* 1998 ; 18 : 349-356.
 - 16) Mori A, Shirai Y, Nakayama Y, Narita T, Iizawa N, Hayashi H : Reconstructed anterior cruciate ligament ; a functional evaluation in postoperative sports activities using the KT2000 knee arthrometer. *Jpn J Orthop Sports Med* 1998 ; 18 : 357-364.
 - 17) Tanaka S¹⁾, Takahashi T¹⁾, Takayanagi H¹⁾, Miyazaki T¹⁾, Oda H¹⁾, Nakamura K¹⁾, Hirai H¹⁾, Kurokawa T (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Modulation of osteoclast function by adenovirus vector : induced epidermal growth factor receptor. *J Bone Miner Res* 1998 ; 13 (11) : 1714-1720.
 - 18) Kato T¹⁾, Kawaguchi H¹⁾, Hanada K¹⁾, Aoyama I¹⁾, Hiyama Y¹⁾, Nakamura T¹⁾, Kuzutani K¹⁾, Tamura M¹⁾, Kurokawa T, Nakamura K¹⁾ (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Single local injection of recombinant fibroblast growth factor : 2 stimulates healing of segmental bone defects in rabbits. *J Orthop Res* 1998 ; 16 (6) : 654-659.
 - 19) Shirai Y : Low Back Pain : Clinical comprehension and prevention of the highe incidence occupational disease. *Asian Medical Journal* 1998 ; 41 (12) : 610-618.

- 20) Tanaka K¹⁾, Nakamura K¹⁾, Matsushita T¹⁾, Horinaka S¹⁾, Kusaba I¹⁾, Kurokawa T (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Callus formation in the humerus compared with the femur and tibia during limb lengthening. Arch Orthop Trauma Surg 1998 ; 117 (4-5) : 262-264.
- 21) Matsushita T¹⁾, Nakamura K¹⁾, Okazaki H¹⁾ Kurokawa T (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : A simple technique for correction of complicated tibial deformity including rotational deformity. Arch Orthop Trauma Surg 1998 ; 117 (4-5) : 259-261.
- 22) Nakamura K¹⁾, Miyoshi K¹⁾, Haga N¹⁾, Kurokawa T (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Risk factors of myelopathy at the atlantoaxial level in spondyloepiphyseal dysplasia congenita. Arch Orthop Trauma Surg 1998 ; 117 (8) : 468-470.
- 23) Nakamura K¹⁾, Matsushita T¹⁾, Mamada K¹⁾, Okazaki H¹⁾, Ou W¹⁾, Okuma Y¹⁾, Kurokawa T (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Changes of callus diameter during axial loading and after fixator removal in leg lengthening. Arch Orthop Trauma Surg 1998 ; 117 (8) : 464-467.
- 24) Kodama Y¹⁾, Takeuchi Y¹⁾, Suzawa M¹⁾, Fukumoto S¹⁾, Murayama H¹⁾, Yamato H¹⁾, Fujita T¹⁾, Kurokawa T, Matsumoto T¹⁾ (¹⁾ The 4th Dept. Int. Med. Tokyo Univ.) : Reduced Expression of Interleukin-11 in Bone Marrow Stromal Cells of Senescence- Accelerated Mice (SAMP6) : Relationship to Osteopenia with Enhanced Adipogenesis. J. Bone Mineral Research 1998 ; 13 (9) : 1370-1377.
- 25) Kobayashi M¹⁾, Ueno S¹⁾, Kurokawa T (¹⁾ Dept. of Biomedical Engineering, Graduate School of Medicine, Univ. Tokyo) : Importance of soft tissue inhomogeneity in magnetic peripheral nerve stimulation. Electroencephalography and Clinical Neurophysiology 1998 ; 105 : 406-413.
- 26) Ota N, Nakajima T¹⁾, Shirai Y, Emi M¹⁾ (¹⁾ Dept. of Molecular Biology, Institute of Gerontology) : Isolation and radiation hybrid mapping of a highly polymorphic CA repeat sequence at the human nuclear factor kappa-beta subunit 1 (NFKB1) locus. Journal of Human Genetics 1999 ; 44 : 129-130.
- 27) Matsushita T¹⁾, Nakamura K¹⁾, Kurokawa T (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Tensile force in limb lengthening : histogenesis of only mechanical elongation. Orthopedics 1999 ; 22 (1) : 61-63.
- 28) Hoshino Y¹⁾, Kurokawa T, Hongo T¹⁾, Sasaki S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Abnormally large evoked potentials arising from dorsal column fibers in the region of chronically compressed spinal cord. Clin Neurophysiol 1999 ; 110 (2) : 305-316.
- 29) Murashima R¹⁾, Nakamura K¹⁾, Matsushita T¹⁾, Kurokawa T (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Remission of idiopathic thrombocytopenic purpura after femoral lengthening : Clinical case followed for 5 years. Arch Orthop Trauma Surg 1999 ; 119 (1-2) : 100-102.
- 30) Kurokawa T : Limb Lengthening and Deformity correction by Ilizarov 's Distraction Histiogenesis. Asian Medical Journal 1999 ; 42 : 47-50.
- 31) Nakagawa T¹⁾, Fujita N²⁾, Oh-Hara T²⁾, Kurokawa T, Nakamura K¹⁾, Tsuruo T²⁾ (¹⁾ Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Univ., ²⁾ Institute of Molecular and Cellular Biosciences, Tokyo Univ.) : Interleukin-1 alpha induced cyclooxygenase-2 expression in bone-derived endothelial cells. J Cell Physiol 1999 ; 179 (2) : 226-232.
- 32) Okazaki H¹⁾, Kurokawa T, Nakamura K¹⁾, Matsushita T¹⁾, Mamada K¹⁾, Kawaguchi H¹⁾ (¹⁾ Dept of Orthop. Surg., Tokyo Univ.) : Stimulation of bone formation by recombinant fibroblast growth factor-2 in callosity bone lengthening of rabbits. Calcif Tissue Int 1999 ; 64 (6) : 542-546.
- 33) 宮本雅史, 白井康正, 武内俊次, 元文芳和, 青木孝文, 金田和容 : 新入看護職員を対象とした腰痛教室. 整形・災害外科 1998 ; 41 : 223-230.
- 34) 南野光彦, 白井康正, 武内俊次, 青木孝文, 赤石文洋, 清水要吉 : 頸椎間歇的介達牽引による頸部筋血流の変

- 化. 運動・物理療法 1998 ; 9 : 291-295.
- 35) 青木孝文, 白井康正, 武内俊次, 金 竜, 南部昭彦, 萬歳祐子: 足部の絞扼性神経障害に対するインテグ法の応用. 脳波と筋電図 1998 ; 26 : 169.
- 36) 上坂真司, 中山義人, 藤井信人, 橋田雅美, 吉原 潔, 白井康正: 変形性膝関節症における関節液中コンドロイチン硫酸濃度: X線grade分類による検討. 関節の外科 1998 ; 25 : 5-8.
- 37) 橋口 宏, 山田哲士: Intramedullary Hip Screw (IMHS) の術後評価. 骨折 1998 ; 20 (1) : 174-176.
- 38) 橋口 宏, 山田哲士: 腓骨遠位部骨折に対するStainless Steel Taper (SST) nailの術後成績. 骨折 1998 ; 20 (2) : 682-684.
- 39) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 千葉由雄, 林 英俊, 小野寺剛: 橈骨遠位端関節内骨折に対する吸収性骨接合材の使用成績. 骨折 1998 ; 20 : 321-323.
- 40) 南 和文, 白井康正: 股関節臼蓋形成術に使用する補填材の工夫. Hip Joint 1998 ; 24 : 468-471.
- 41) 橋口 宏: 肩腱板広範断裂の治療成績. 東北整災外紀 1998 ; 42 (1) : 44-46.
- 42) 水江史樹, 伊藤博元, 高山景範, 井出勝彦, 丸山晴久: Wolter Clavicular Plateによる鎖骨遠位端骨折の治療成績. 肩関節 1998 ; 22 (2) : 213-216.
- 43) 沢泉卓哉, 白井康正, 伊藤博元, 青木孝文, 橋口 宏, 六郷知行, 萬歳祐子: 小児上腕骨顆上骨折に対する簡便な経皮的整復法2. 骨折 1998 ; 20 (2) : 554-556.
- 44) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 中原義人, 六郷知行: 成人弾指指の腱鞘病理像からみた発症原因に対する考察. 日手の外科会誌 1998 ; 15 : 276-279.
- 45) 高山景範, 白井康正, 伊藤博元, 橋口 宏, 井出勝彦, 水江史樹, 丸山晴久: 巨大な腫瘍を呈した肩峰下滑液包炎の1例. 臨整外 1998 ; 33 (9) : 1111-1115.
- 46) 田中功一, 中山義人, 藤井信人, 橋田雅美, 吉原 潔, 上坂真司, 梶原浩嗣, 尾崎大也, 白井康正: 橈骨遠位端骨折の治療成績. 神奈川整災外会誌 1998 ; 11 (2) : 31-34.
- 47) 尾崎大也, 白井康正, 中山義人, 橋田雅美, 藤井信人, 吉原 潔, 上坂真司, 梶原浩嗣, 田中功一: 大腸菌による化膿性椎間板炎の1例. 神奈川整災外会誌 1998 ; 11 (2) : 73-75.
- 48) 武田知通, 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 森 淳, 林 英俊, 萬歳祐子: サッカー選手における床反力計を用いたターン動作の解析. 日臨バイオメカ会誌 1998 ; 19 : 521-525.
- 49) 白井康正: 腰痛: 職業性疾病の予防と臨床: 産業医活動の基礎と実際. 日医師会誌 1998 ; 120 (3) : 453-458.
- 50) 沢泉卓哉, 白井康正, 中原義人, 南部昭彦, 六郷知行: Rolando骨折に対する創外固定. 日手の外科会誌 1998 ; 15 : 21-24.
- 51) 玉井健介, 白井康正, 武内俊次, 小林俊之, 村田修二: 大腿骨頭壊死症の自然経過. Hip Joint 1998 ; 24 : 307-309.
- 52) 橋口 宏, 熊坂庸恵: 肩鎖関節脱臼に対する吸収性骨接合材を用いたWeaver変法の治療成績. 東北整災外紀 1998 ; 42 (2) : 245-247.
- 53) 青木孝文, 白井康正, 藤井信人, 星川裕一, 太田信孝: 足関節顆部骨折の術後療法におけるダイナミックキャスト法の使用について. 東日本整災会誌 1998 ; 10 : 400-404.
- 54) 吉原 潔, 中山義人, 藤井信人, 橋田雅美, 上坂真司, 白井康正: 髓内釘の遠位スクリュー挿入法の工夫. 東日本整災会誌 1998 ; 10 : 397-399.
- 55) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 武田知通, 南部昭彦: 橈骨頭と尺骨鉤状突起骨折の観血的治療における吸収性骨接合材の使用経験. 日手の外科会誌 1999 ; 15 : 885.
- 56) 田中功一, 中山義人, 藤井信人, 井出勝彦, 吉原 潔, 上坂真司, 梶原浩嗣, 尾崎大也, 村重良一, 森 淳, 白井康正: 大腿骨顆部冠状骨折の3例. 神奈川整災外会誌 1999 ; 11 (5) : 209-212.

(2) 綜説：

- 1) 宮本雅史, 白井康正：腰痛症. 医学と薬学 1998；39 (5)：921-927.
- 2) 武内俊次, 白井康正, 伊藤博元：自己血輸血, 回収式の実際. 骨・関節・靭帯 1998；11 (6)：629-633.
- 3) 中山義人, 成田哲也：下腿骨近位骨折. MB Orthop 1998；11：121-127.
- 4) 伊藤博元：上腕骨中枢端部骨折の治療. MB Orthopaedics 1998；11 (11)：16-23.
- 5) 宮本雅史, 白井康正：坐骨神経痛. CLINICAL NEUROSCIENCE 1999；17：342-343.

著 書

- 1) 宇野康弘¹⁾, 成田哲也⁽¹⁾ 大蔵省東京病院リハビリテーション室)：〔分担〕バスケットコートでのリハビリテーション. 整形外科アスレチックリハビリテーション実践マニュアル, 1998；pp171-180, 全日本病院出版会.
- 2) 伊藤博元：〔分担〕肩関節脱臼. 肩の痛み (三笠元彦編), 1998；pp148-157, 南江堂.
- 3) 伊藤博元：〔分担〕肩鎖関節脱臼. 肩の痛み (三笠元彦編), 1998；pp157-161, 南江堂.
- 4) 白井康正：〔分担〕四肢の牽引. 救急処置の基本手技—改定第3版— (杉本 侃編), 1998；pp340-347, 永井書店.
- 5) 伊藤博元：〔分担〕鎖骨骨折. 肩診療ハンドブック (福田宏明他編), 1998；pp188-191, 医学書院.
- 6) 伊藤博元：〔分担〕胸骨骨折. 肩診療ハンドブック (福田宏明他編), 1998；pp192-193, 医学書院.
- 7) 伊藤博元, 高山景範：〔分担〕鎖骨遠位端骨融解. 肩診療ハンドブック (福田宏明他編), 1998；pp267-269, 医学書院.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 黒川高秀：脊椎形成術の展開：椎弓形成術と椎体形成術. 第71回日本整形外科学会学術集会, 1998. 4.
- 2) 黒川高秀：物理療法が整形外科治療にはたす役割. 第10回日本理学診療医学会, 1998. 7.

(2) 招待講演：

- 1) 黒川高秀：思春期特発性側弯症に対する多椎体楔状骨切り術. 第1回日中脊椎外科学会 (北京), 1998. 5.

(3) 教育講演：

- 1) Shirai Y：Pain attenuation by Lower Level Laser Therapy. Special Instructive Lecture at 2nd Taiwan Orthopaedic Research meeting in Taiwan (Taipei), 1998. 9.
- 2) 白井康正：スポーツによる仙腸関節障害. 第33回埼玉整形外科学会教育研修, 1998. 3.
- 3) 白井康正：腰の痛みと骨粗鬆症. 生涯学習健康講座「長寿アカデミア」, 1998. 4.
- 4) 黒川高秀：仮骨延長法による脚延長法の進歩. 第71回日本整形外科学会学術集会, 1998. 4.
- 5) 白井康正：相撲選手と仙腸関節. 徳島大学医学会招待講演 (第10回徳島脊椎外科学会), 1998. 8.
- 6) 白井康正：建設業従事者の腰痛. 高知医科大学整形外科研修会教育講演, 1998. 8.
- 7) 白井康正：相撲と腰痛. 青森スポーツ研究会 (青森県教育委員会主催), 1998. 10.

(4) シンポジウム：

- 1) Ito H：A cute posterior fracture dislocation of the shoulder：A case report. The 8th Shino - Japanese Orthopaedic Symposium (Miyazaki), 1998. 4.
- 2) Nakayama Y：The remodeling process of the graft after ACL reconstruction in humans. The 8th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium (Miyazaki), 1998. 4.
- 3) Shirai Y：Low back pain in Construction. The 8th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium (Miyazaki), 1998. 4.
- 4) 黒川高秀：整形外科における学際領域：21世紀に向けての展開. 第71回日本整形外科学会学術集会, 1998. 4.

- 5) 黒川高秀：メカニカルストレスを利用した複合組織形成術：イリザロフ法による脚延長術。第111回日本医学会シンポジウム，1998。8。
 - 6) 玉井健介，白井康正，中嶋隆夫，小林俊之，村田修二，保坂純郎¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科)：股関節手術後の深部静脈血栓症の検討。第25回日本股関節学会，1998。10。
 - 7) 黒川高秀：いわゆる神経原性骨関節症。第40回基礎歯科学会，1998。10。
 - 8) 黒川高秀：バイオメカニクスの新しい展開：メカニカルストレスと組織形成。日本エム・イー学会フォーラム，1998。12。
 - 9) 井出勝彦，中山義人，藤井信人，吉原 潔，上坂真司，梶原浩嗣，田中功一，尾崎大也，村重良一，白井康正：上腕骨近位端骨折に対するKirschner網線髄内固定法。第26回神奈川関節外科学会，1999。3。
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 青木孝文，白井康正，武内俊次，沢泉卓哉，金 竜，服部幹彦：廃用性筋萎縮の電気診断：筋放電の周波数解析を中心として。第71回日本整形外科学会学術集会，1998。4。
 - 2) 森 淳，白井康正，中山義人，成田哲也，武田知通，服部幹彦：膝前十字靭帯再建後アスレチックリハビリテーションの術後成績に及ぼす影響。第24回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会，1998。9。
 - 3) 宮本雅史，白井康正，武内俊次，元文芳和，金田和容，柴田靖章：当院新入看護職員の腰痛に関する追跡調査。第6回日本腰痛研究会，1998。11。
 - 4) 南部昭彦，白井康正，武内俊次，青木孝文，金 竜，萬歳祐子：筋交感神経電位と前脛骨筋内血流量の相関。第28回日本脳波・筋電図学会学術大会，1998。11。
 - 5) 金田和容，白井康正，宮本雅史，元文芳和：建設業従事者における腰痛の疫学調査。第6回腰痛研究会，1998。11。
- (6) 一般講演：
- 1) Uchiyama M, Nakajima Y, Sakuma Y¹⁾, Kato M¹⁾ (¹⁾ Dept. of Physiology I) : Folliculo-stellate cells of the rat pituitary responded to ATP by increasing intracellular Ca²⁺ concentration. FAOPS 98, 1998。10。
 - 2) Miyamoto M, Shirai Y, Gembun Y, Kaneda K : Epidemiologic study on low back pain and occupational factors among professional drivers. 12th WPOA (Fukuoka), 1998。11。
 - 3) 白井康正：勤労者の腰痛：建設業勤務者の腰痛危険因子。第12回西太平洋整形外科学会(福岡)，1998。11。
 - 4) 尾崎大也，白井康正，中山義人，橘田雅美，藤井信人，吉原 潔，上坂真司，梶原浩嗣，田中功一：大腸菌による化膿性椎間板炎の1例。第102回神奈川整形災害外科医会，1998。2。
 - 5) 宮本雅史，白井康正，元文芳和，金田和容，柴田靖章，小野寺剛：陸上貨物運送事業に携わる運転手の腰痛に関する疫学的検討。第71回日本整形外科学術集会，1998。4。
 - 6) 橋口 宏，飯沢典茂，熊坂庸恵，山田哲士，白井康正：大腿骨転子部転子下骨折に対する髄内釘型 Hip Screw Systemの問題点。第71回日本整形外科学会学術集会，1998。4。
 - 7) 宮本雅史，白井康正，元文芳和，青木孝文，金田和容，柴田靖章：頸椎症性頸髄症に対する棘突起縦割式脊柱管拡大術の治療成績。第36回関東整形災害外科学会，1998。5。
 - 8) 北川泰之，白井康正，沢泉卓哉：母指MP関節種子骨のX線学的検討(第1報：正常例)。第41回日本手の外科学会学術集会，1998。5。
 - 9) 橋口 宏，熊坂庸恵：肩鎖関節脱臼に対する吸収性骨接合材を用いたWeaver変法の治療成績。第91回東北整形災害外科学会，1998。5。
 - 10) 青木孝文，白井康正，沢泉卓哉，中原義人，六郷知行：成人弾発指の腱鞘病理像からみた発症原因に対する考察。第41回日本手の外科学会学術集会，1998。5。
 - 11) 中山義人，白井康正，成田哲也，森 淳：ヒト再建前十字靭帯の成熟過程。第6回よこはま整形外科学スポーツフォーラム，1998。5。

- 12) 沢泉卓哉, 白井康正, 中原義人, 南部昭彦, 六郷知行: Rolando骨折に対する創外固定. 第41回日本手の外科学会, 1998. 5.
- 13) 金田和容, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 柴田靖章, 小野寺剛: 建設作業員の腰痛調査. 第36回関東整形災害外科学会, 1998. 5.
- 14) 元文芳和, 白井康正, 宮本雅史, 金田和容, 柴田靖章, 小野寺剛: 脊椎手術患者の術前後における精神状態の検討. 第27回日本脊椎外科学会, 1998. 6.
- 15) 吉原 潔, 中山義人, 藤井信人, 田中功一, 白井康正, 青木孝文: 腰椎椎間板ヘルニアにおける多裂筋の組織化学的变化. 第27回日本脊椎外科学会, 1998. 6.
- 16) 田中功一, 白井康正, 中山義人, 藤井信人: 超高齢者における大腿骨頸部外側骨折の予後. 第10回神奈川整形災害外科医会, 1998. 6.
- 17) 太田信孝, 白井康正, 江見 充¹⁾ (1) 老人病研究所分子生物学部門: 骨粗鬆症の遺伝的素因解析. 日本医科大学医学部第95回例会, 1998. 6.
- 18) 星川裕一, 白井康正, 玉井健介, 中嶋隆夫, 小林俊之, 熊坂庸恵, 村田修二, 江川慶長: 腸腰筋断裂血腫による大腿神経麻痺の1例. 第589回関東整形災害外科学会東京地方会, 1998. 6.
- 19) 高山景範, 今野俊介, 白井康正, 伊藤博元, 鈴木康之: 上腕骨近位端骨折, 脱臼骨折に対する観血的整復固定術の治療成績. 第24回日本骨折治療学会, 1998. 7.
- 20) 北川泰之, 白井康正, 青木孝文, 丸山晴久, 南部昭彦, 高比良薫, 浅野伍朗¹⁾, 杉崎祐一²⁾, 前田昭太郎³⁾ (1) 病理学第2, 2) 付属病院病理部, 3) 多摩永山病院病理部: 腓骨遠位端骨腫瘍. 第31回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 1998. 7.
- 21) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 星川裕一, 山田哲士: 足関節顆部骨折に対する吸収性骨接合材の臨床応用. 第24回日本骨折治療学会, 1998. 7.
- 22) 中嶋隆夫, 白井康正, 玉井健介, 小林俊之, 村田修二: Lisfranc関節脱臼および脱臼骨折の治療経験. 第24回日本骨折治療学会, 1998. 7.
- 23) 村田修二, 白井康正, 玉井健介, 中嶋隆夫, 小林俊之: 距骨骨折の治療経験. 第24回日本骨折治療学会, 1998. 7.
- 24) 上坂真司, 中山義人, 藤井信人, 井出勝彦, 吉原 潔, 梶原浩嗣, 田中功一, 尾崎大也, 白井康正: 膝OAにおけるヒアルロン酸ナトリウム関節内注入療法後の関節液中コンドロイチン硫酸濃度の変化. 第27回リウマチの外科研究会, 1998. 8.
- 25) 八百板仁志, 白井康正, 折茂英生¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学第2: ラット大腿骨々折モデルにおけるBMPおよびDlx遺伝子の発現の変化について. 第16回日本骨代謝学会, 1998. 8.
- 26) 北川泰之, 白井康正, 沢泉卓哉, 角田 隆, 丸山晴久, 前田昭太郎¹⁾ (1) 多摩永山病院病理部: 手に発生した骨軟部腫瘍に対する穿刺吸引細胞診の経験. 第47回東日本整形災害外科学会, 1998. 9.
- 27) 洪川正人, 白井康正, 武内俊次, 沢泉卓哉, 青木孝文: 末梢神経伸張障害に関する実験的研究: その経時的変化について. 第13回日本整形外科学会基礎学術集会, 1998. 9.
- 28) 上坂真司, 白井康正, 中山義人, 藤井信人, 吉原 潔: 変形性膝関節症における関節液中コンドロイチン硫酸濃度: X線分類および臨床評価との関連について. 第13回日本整形外科学会基礎学術集会, 1998. 9.
- 29) 八百板仁志, 白井康正, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学第2: ラット大腿骨骨節修復過程におけるBMPおよびDlx遺伝子の経時的発現について. 第13回日本整形外科学会基礎学術集会, 1998. 9.
- 30) 栗山直之, 白井康正, 武内俊次, 青木孝文, 金 竜, 南部昭彦: 腰痛者における傍脊柱筋の動作: 筋電図学的検討. 第13回日本整形外科学会基礎学術集会, 1998. 9.
- 31) 間瀬泰克, 白井康正, 渡邊 誠, 南 和文, 肥沼正明, 梶本陽司: 投球障害肩に対する鏡視下Bennett病変形成術の経験. 第24回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 1998. 9.

- 32) 藤井信人, 白井康正, 中山義人, 青木孝文, 井出勝彦, 吉原 潔, 上坂真司, 田中功一, 梶原浩嗣, 尾崎大也, 村重良一: 足趾の骨延長. 第28回神奈川関節外科研究会, 1998. 9.
- 33) 高山景範, 白井康正, 伊藤博元, 橋口 宏, 井出勝彦, 水江史樹: 上腕骨近位端粉碎骨折の手術治療成績. 第25回日本肩関節学会, 1998. 10.
- 34) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 武田知通, 南部昭彦: 橈骨頭と尺骨鉤状突起骨折の観血的治療における吸収性骨接合材の使用経験. 第4回神奈川手・肘の外科研究会, 1998. 10.
- 35) 沢泉卓哉, 白井康正, 青木孝文, 星川裕一: 橈骨頭の不安定性に対して手術的に治療した1例. 第4回神奈川手・肘の外科研究会, 1998. 10.
- 36) 太田信孝, 塚元和弘¹⁾, 白井康正, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所分子生物学部門): 骨粗鬆症における遺伝子多型と骨密度の検討. 第43回日本人類遺伝学会, 1998. 10.
- 37) 玉井健介, 白井康正, 肥沼正明, 藤井信人, 今野俊介, 中嶋隆夫, 小林俊之, 村田修二: 超高齢者の非転位型大腿骨頸部内側骨折の治療. 第25回日本股関節学会, 1998. 10.
- 38) 金田和容, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和: 腰痛の危険因子について: 建設業従事者を対象として. 第46回日本災害医学会総会, 1998. 10.
- 39) 萬歳祐子, 白井康正, 武内俊次, 青木孝文, 金田琴恵, 金 竜, 南部昭彦: 筋交感神経基礎活動と感覚神経伝導速度の関連についての検討. 第28回日本脳波・筋電図学会学術大会, 1998. 11.
- 40) 元文芳和, 白井康正, 宮本雅史, 金田和容, 中井文彦, 柴田靖章, 小野寺剛, 杉山 修: 仙腸関節炎の治療経験. 第6回日本腰痛研究会, 1998. 11.
- 41) 金 竜, 白井康正, 武内俊次, 青木孝文, 南部昭彦, 萬歳祐子, 江川慶長, 服部幹彦: 頸髄損傷患者のF波の経時的変化と臨床症状との関連性について. 第28回日本脳波・筋電図学会学術大会, 1998. 11.
- 42) 渋川正人, 白井康正, 武内俊次, 沢泉卓哉, 青木孝文: 末梢神経伸張障害に関する実験的研究: その経時的変化について. 第28回日本脳波・筋電図学会学術大会, 1998. 11.
- 43) 橋口 宏: 人工骨を用いた上腕骨近位端骨折の治療経験. 第92回東北整形災害外科学会, 1998. 11.
- 44) 青木孝文, 白井康正, 武内俊次, 金 竜, 南部昭彦: 肘部管症候群の鑑別に対する知覚性インテグレーション法の臨床応用. 第28回日本脳波・筋電図学会学術大会, 1998. 11.
- 45) 栗山直之, 金田琴恵: 当院における橈骨遠位端骨折の治療成績. 第45回印刷局医学研究発表会, 1998. 11.
- 46) 小林俊之, 白井康正, 玉井健介, 中嶋隆夫, 村田修二, 太田信孝: 骨 Paget 病の1例. 第592回関東整形災害外科学会月例会, 1998. 12.
- 47) 間瀬泰克, 白井康正, 渡邊 誠, 南 和文, 梶本陽司, 小野寺剛: ACL部分断裂に対する鏡視下 ACL部分再建の試み. 第24回日本関節鏡学会, 1998. 12.
- 48) 柴田靖章, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 北川泰之, 山田哲士: 悪性化した多発性神経線維腫症の1例. 第593回関東整災地方会, 1999. 1.
- 49) 星川裕一, 白井康正, 玉井健介, 中嶋隆夫, 小林俊之, 村田修二: Metal - backed acetabular component 破損の1例. 第29回日本人工関節学会, 1999. 1.
- 50) 中嶋隆夫, 白井康正, 玉井健介, 小林俊之, 村田修二, 星川裕一, 保坂純郎¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科): 人工股関節全置換術: 人工骨頭置換術後の深部静脈血栓症の検討. 第29回日本人工関節学会, 1999. 1.
- 51) 今野俊介, 白井康正, 高山景範, 沢泉卓哉, 六郷知行, 鈴木康之: 橈骨遠位端骨折と橈骨頭脱臼とを合併した小児例. 第37回関東整形災害外科学会, 1999. 1.
- 52) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 中原義人, 六郷知行, 南部昭彦, 萬歳祐子: 骨性マレット指に対する小切開ピンニング法の成績不良例の検討. 第13回東日本手の外科研究会, 1999. 2.
- 53) 伊藤博元, 白井康正, 元文芳和, 角田 隆: 下腿開放性難治骨折に対する電気刺激および超音波刺激の治療経験. 第26回日本生体電気刺激研究会, 1999. 2.

- 54) 沢泉卓哉, 白井康正, 伊藤博元, 南野光彦, 家田俊也, 金 竜, 南部昭彦, 六郷知行: 小児上腕骨顆上骨折に対するてこを利用した簡便な経皮的整復法. 第11回日本肘関節研究会, 1999. 2.
- 55) 江川慶長, 林 英俊: 肩関節物縮に対し関節鏡視下授動術を施行した2例. 第83回信州整形外科懇談会, 1999. 2.
- 56) 林 英俊, 江川慶長: 当院における肩関節鏡視下手術について. 第83回信州整形外科懇談会, 1999. 2.
- 57) 田中功一, 白井康正, 中山義人, 藤井信人, 小浜金吾, 中瀬 猛: Self centering機構を有する人工骨頭におけるinner head脱臼の1例. 第105回神奈川整形災害外科医会, 1999. 2.
- 58) 間瀬泰克, 白井康正, 渡邊 誠, 南 和文, 肥沼正明, 梶本陽司: 膝屈筋腱による近位脛腓靭帯再建の試み. 第20回東京膝関節学会, 1999. 2.
- 59) 中嶋祐作, 内山真紀¹⁾, 加藤昌克¹⁾, 佐久間康夫¹⁾ (¹⁾生理学第1): アセチルコリンはラット下垂体濾胞星状細胞に作用し細胞内Ca²⁺濃度を上昇する. 第76回日本生理学会大会, 1999. 3.
- 60) 村田修二, 白井康正, 玉井健介, 中嶋隆夫, 小林俊之, 星川裕一, 六郷知行: 片側の烏口突起骨折を伴う両側鎖骨骨折の1例. 第595回関東整形災害外科学会月例会, 1999. 3.

13. 産婦人科学講座

[付属病院産婦人科]

研究概要

研究は周産期，婦人科腫瘍，生殖，手術を3つの柱として広く行っている。

周産期領域では，ヒツジを用いた慢性実験により胎児中枢神経障害と体温との関連性の追求を継続しており，その成績をまとめ，日本産科婦人科学会総会特別講演において荒木 勤教授が「胎児の体温調節」として発表した。

その他，周産期領域では，adenosineとIUGRとの関連性，さらにendotoxinの胎児に対する影響などが国際的な評価を得た研究としてあげられる。また，婦人科腫瘍学においては，老人病研究所との共同研究により子宮筋腫の発生における染色体転座様式を発見した点がepoch makingな点であろう。

手術学においては，当教室における腹腔鏡下手術での術式改良が認められ，国際的な雑誌に掲載された業績としてまずあげられる。

その他，周産期領域では，超音波検査による双胎妊娠の臨床的な病態解明や，臍帯の付着異常を検出する臨床研究が行われた。さらに，予備的検討であるが妊娠悪阻の病態解明が継続的に行われている。また，妊娠中毒症胎盤と一酸化窒素との関連性も引き続き検討されている。

婦人科腫瘍学では子宮肉腫の臨床的統計をまとめ，不妊症においては子宮鏡GIFTなどの臨床研究が行われた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Oya A, Asakura H, Takeuchi K, Koshino T, Araki T : The possible role of nonshivering thermogenesis in hyperemesis gravidarum. *Journal of Japan Society for the Study of Toxemia of Pregnancy* 1997 ; 133-134.
- 2) Otsubo Y, Hori H, Nishino T, Araki T : Comparison of nitric oxide synthase in normal human placenta from 37 to 41 weeks gestation. *J Matern Fetal Invest* 1998 ; 8 : 133-136.
- 3) Otsubo Y, Hori H, Sawa R, Yoneyama Y, Nishino T, Araki T : Inducible nitric oxide synthase in human placenta. *Placenta* 1998 ; 19 : 23-23.
- 4) Sekiya T, Ishikawa K, Yoshimatu K, Fukami T, Kikuchi S, Araki T : Detection rate of the cervical gland and sonography in the assessment of cervical maturation. *Ultrasound Obstet gynecol* 1998 ; 328-333.
- 5) Yoneyama Y, Sawa R, Kubonoya K, Suzuki S, Otsubo Y, Power GG, Araki T : Evidence for mechanism of the acute phase response to endotoxin in late-gestation goats. *Am J Obstet Gynecol* 1998 ; 179 : 750-755.
- 6) Kubonoya K, Yoneyama Y, Sawa R, Power GG, Araki T : Brain temperature and metabolic responses during umbilical cord occlusion in fetal sheep. *Pflug Arch Eur J Phy* 1998 ; 436 : 667.
- 7) Otsubo Y, Hori H, Sawa R, Yoneyama Y, Araki T : Inducible nitric oxide synthase in human placenta. *Placenta* 1998 ; 19 : 23-23.
- 8) Suzuki S, Yoneyama Y, Takeuchi T, Sawa R, Hayashi Z, Takeshita T, Araki T : Maternal plasma adenosine levels in pregnancies complicated by toxemia. *Placenta* 1998 ; 19 : 48-48.
- 9) Shimizu K, Akira S, Kitamura Y, Kitagawa W : Video-Assisted Neck Surgery (VANS) : Endoscopic resection of a large thyroid nodule extending to the upper mediastinum with the aim of scarless surgery. *Thyroidal Clin Exp* 1998 ; 10 : 241-244.
- 10) Shimizu K, Akira S, Tanaka S : Video-Assisted Neck Surgery : Endoscopic resection of benign thyroid

- tumor aiming at scarless surger on the neck. *J Surg Oncol* 1998 ; 69 : 178-180.
- 11) Yoneyama K, Shinagawa S, Otsubo Y, Takeuchi T, Okudaira S, Araki T : Invasive complete mole in an elderly woman. *Placenta* 1998 ; 19 : 556-556.
 - 12) Kurose K, Iida A¹⁾, Araki T, Sakamoto G²⁾, Kasumi F³⁾, Nakamura Y⁴⁾, Emi M¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門, ²⁾ 癌研・病理, ³⁾ 癌研・外科, ⁴⁾ 東大・医科研) : Frequent allelic loss at 7p14-15 associated with aggressive histologic types of breast cancer. *Jap J Cancer Res* 1998 ; 89 : 533-538.
 - 13) Kurose K, Bando K¹⁾, Fukino K¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Araki T, Emi M¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門, ²⁾ 附属・病理) : Somatic mutations of the PTEN/MMAC1 gene in fifteen Japanese endometrial cancers : evidence for inactivation of both alleles. *Jpn J Cancer Res* 1998 ; 89 : 842-848.
 - 14) Kurose K, Araki T, Matsunaka T¹⁾, Takada Y¹⁾, Emi M²⁾ (¹⁾ 西条中央病院・内科, ²⁾ 老人病研究所分子生物学部門) : Variant manifestation of Cowden Disease in Japan : Hamartomatous polyposis of the digestive tract with mutations of the PTEN gene. *Am J Hum Genet* 1999 ; 64 : 308-310.
 - 15) Suzuki S, Ishikawa G, Sawa R, Yoneyama Y, Otsubo Y, Araki T : Iatrogenic monoamniotic twin gestation with progressive twin-twin syndrome. *Fetal Diagn Ther* 1999 ; 14 : 98-101.
 - 16) Yoneyama Y, Suzuki S, Sawa R, Otsubo Y, Kijima K, Kuwabara Y, Kim Y, Power GG, Araki T : Effects of Fetal Endotoxin Administration on Plasma Prostaglandin F₂ α and Cortisol Levels in Late Gestation Fetal Goats. *J Soc Gynecol Invest* 1999 ; 6 : 455-445.
 - 17) Kubonoya K, Yoneyama Y, Sawa R, Suzuki S, Kitamura T, Yamada T, Araki T, Power GG : Histological changes in the brain of near-term fetal sheep exposed to repeated cord occlusion with and without hypothermia. *J Soc Gynecol Invest* 1999 ; 6 : 243-243.
 - 18) Akira S, Yamanaka A, Ishihara T, Takeshita T, Araki T : Gasless laparoscopic ovarian cystectomy during pregnancy : Comparison with laparotomy. *Am J Obstet Gynecol* 1999 ; 180 : 554-557.
 - 19) 加藤久盛, 土居大祐, 小野瀬亮, 中山裕樹, 岡島弘幸 : 子宮頸癌・a期(新規約)の臨床的取扱いについて : 新FIGO分類による子宮頸癌・a1, a2期の臨床的取扱いについての検討. *産科と婦人科* 1998 ; 9 : 1147-1152.
 - 20) 竹内正人, 兼子和彦 : 分娩室での母体の緊急事態・子宮内反症. *ペリネイタルケア* 1998 ; 17 : 313-317.
 - 21) 荒木 勤 : 会陰切開における縫合の工夫. *産婦人科の実際* 1998 ; 47 (9) : 1295-1300.
 - 22) 荒木 勤 : 双胎妊娠の膜性診断法. *産婦人科の実際* 1998 ; 47 : 743-748.
 - 23) 荒木 勤 : 中高年女性の尿失禁とその対策. *産婦人科治療* 1998 ; 409-414.
 - 24) 竹内正人, 進 純郎, 兼子和彦 : 双胎妊娠の胎児の健康診断法. *産婦人科実際* 1998 ; 47 : 777-784.
 - 25) 竹内正人, 進 純郎 : おなかが張るのは即切迫早産ではない. *助産婦雑誌* 1998 ; 52 : 564-569.
 - 26) 竹内正人, 進 純郎 : Stuck Twinへの対応. *臨床婦人科産科* 1998 ; 52 : 1284-1287.
 - 27) 山田 隆, 米山芳雄, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 小西英喜, 奥平さやか, 大坪保雄, 荒木 勤 : 産褥深部静脈血栓症の管理およびリスクファクターの検討. *日本産婦人科新生児血液学会誌* 1998 ; 8 (2) : 81-82.
 - 28) 瑪依努爾, 進 純郎, 米山芳雄, 小西英喜, 荒木 勤 : 腹圧性尿失禁に対する薬物療法の有用性検討. *日産婦東京会誌* 1998 ; 47 : 139-142.
 - 29) 橋本政子, 隈田香織, 野本剛史, 里村克章, 米山芳雄 : 日立7150型自動分析装置を用いたランピアラテックスRUBELLA, ランピアラテックスTOXOの検討. *医学と薬学* 1998 ; 40 : 561-568.
 - 30) 里見操緒, 米山芳雄, 澤倫太郎, 大坪保雄, 窪谷 潔, 進 純郎, 荒木 勤 : 骨髄異形成症候群合併妊娠の妊娠管理と胎児予後. *日本産婦人科新生児血液学会誌* 1998 ; 8 (3) : 91-97.
 - 31) 窪谷 潔, 澤 倫太郎, 米山芳雄, 鈴木俊治, 大坪保雄, 進 純郎, Power G.G, 荒木 勤 : ヒツジ胎仔臍帯圧迫モデルにおける胎仔脳温および大動脈温の変化の検討. *日本産科婦人科栄養・代謝研究会会誌* 1998 ; 4 : 84-85.

- 32) 明楽重夫：子宮外妊娠 一内視鏡手術のこつと，その落とし穴一．日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 1998；14：175-180.
- 33) 明楽重夫，土居大祐，小木三郎，山中温子，可世木久幸，荒木 勤：婦人科領域における新しい腹腔鏡診断法．日本内視鏡外科学会雑誌 1998；6：457-462.
- 34) 中井章人，朝倉啓文，三宅秀彦，越野立夫，荒木 勤：母体運動による胎児心機能変化に関する研究．日産婦学会誌 1998；50 (10)：757-764.
- 35) 木村昭裕，中山裕樹，岡島弘幸：平成9年度神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告．日本産科婦人科学会神奈川地方部会誌 1999；(35)：132-137.
- 36) 金 栄淳，大坪保雄，加藤真紀子，石川 源，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：産褥期に発症した潰瘍性大腸炎．日本産科婦人科学会東京地方部会誌 1999；48：24-27.
- 37) 奥平さやか，米山剛一，武内 務，峯 克也，竹下俊行，荒木 勤：後陰円蓋から発生した子宮内膜症性ポリープ．日産婦東京会誌 1999；47：501-505.

(2) 綜説：

- 1) 馬依努爾，進 純郎，荒木 勤：中高年女性の尿失禁とその対策．産婦治療 1998；409-414.
- 2) 荒木 勤：Scarless wound healingにおけるべからず集．産婦人科の実際 1998；47：1307-1309.
- 3) 荒木 勤：わが国における卒後研修指導の現状とその問題点．日産婦会誌 1998；50 (9)：329-332.
- 4) 竹下俊行，明楽重夫，荒木 勤：不育症の取り扱い．日医大誌 1998；65：421-424.
- 5) 中山裕樹，加藤久盛，岡島弘幸，安本茂：子宮体癌，頸癌，異形成のテロメラゼ活性．日本臨床 1998；56：1305-1309.
- 6) 山中温子，明楽重夫，小木三郎，大村 浩，竹下俊行，荒木 勤：当科における細型腹腔鏡システムの検討．日産婦内視鏡会誌 1998；14 (1)：83-86.
- 7) 米山芳雄，荒木 勤：胎児の呼吸機能．周産期医学 1998；17 (732)：737-798.
- 8) 米山芳雄，進 純郎，荒木 勤：尿失禁．産婦人科の実際 1998；47：2141-2148.
- 9) 澤倫太郎，鈴木俊治，荒木 勤：双胎間輸血症候群の診断と治療法．産婦人科の実際 1998；47：799-803.
- 10) 鈴木俊治，申 桂華，荒木 勤：多胎妊娠をめぐる最近の話題．産婦人科治療 1998；77：264-268.
- 11) 明楽重夫：内視鏡外科手術に関するアンケート調査：第4回集計結果報告，産婦人科領域の内視鏡下手術について．日本内視鏡外科学会雑誌 1998；6：558-565.
- 12) 朝倉啓文，荒木 勤：妊娠に伴う生理的変化：体温調節の変化．ペリネータルケア 1998；17：552-638.
- 13) 朝倉啓文：産婦人科診療の保険とレセプト．日産婦学会誌 1998；50 (7)：180-183.
- 14) 朝倉啓文，林 瑞成，武井麟太郎，桑原慶充，鈴木俊治，沢倫太郎，米山芳雄，荒木 勤：診断に苦慮した卵管間質部妊娠．日医大誌 1998；35 (5)：425-428.
- 15) 荒木 勤：わが国における卒後研修指導の現状とその問題点．産婦人科治療 1998；77 (6)：672-676.
- 16) 明楽重夫，竹下俊行，荒木 勤：胚移植法 (IVF-ET) の現状と未来．日医大誌 1999；66：45-48.

著 書

- 1) 大坪保雄，荒木 勤：重症妊娠悪阻とWernicke脳症．医学のあゆみ，1998；pp818-819.
- 2) 田中 彰，荒木 勤：B群溶連菌感染症．妊産婦の感染症治療の手引き (松田静治編)，1998；pp98-100，ヴァンメディカル社.
- 3) 田中 彰，荒木 勤：梅毒．妊産婦の感染症治療の手引き (松田静治編)，1998；pp101-105，ヴァンメディカル社.
- 4) 荒木 勤，米山芳雄：〔分担〕妊娠前の健康相談．女性と予防医学 新女性医学大系，1998；pp197-202，中山書店.

- 5) 澤倫太郎, 荒木 勤: [分担] 常位胎盤早期剥離. 産科出血の臨床, 1998; pp84-89, メディカルビュー社.
- 6) 黒瀬圭輔, 江見 充: [分担] BRCA1, BRCA2と乳癌. がん遺伝子・がん抑制遺伝子, 1998; pp268-272, 中外医学社.
- 7) 荒木 勤: [分担] 性器結核と治療は. 産婦人科領域感染症Q&A, 1998; pp62-63, 医薬ジャーナル社.
- 8) 荒木勤: [分担] 産婦人科領域の尿路感染症は?. 産婦人科領域感染症Q&A, 1998; pp64-65, 医薬ジャーナル社.
- 9) 荒木 勤: [共著] 基本分娩介助学. 基本分娩介助学, 1998; 医学書院.
- 10) 荒木 勤: [編集] 婦人科出血の臨床. 婦人科出血の臨床, 1998; pp1-273, メジカルビュー社.
- 11) 荒木 勤: [分担] 帝王切開術と産科手技—安全な母児管理を目指して. 鉗子分娩, 1998; メジカルビュー社.
- 12) 荒木 勤: 性器結核と治療は?. 産婦人科領域, 1998; pp62-63, 医薬ジャーナル社.
- 13) 荒木 勤: 産婦人科領域の尿路感染症は?. 産婦人科領域, 1998; pp64-65, 医薬ジャーナル社.
- 14) 荒木 勤: [分担] 閉経後女性の泌尿生殖器系のトラブル. 新老年学第2版, 1999; 東京大学出版会.
- 15) 竹下俊行, 荒木 勤: [共著] 子宮内膜炎, 子宮筋層炎. 新女性医学大系 10.女性と感染症, 1999; pp197-201, 中山書店.
- 16) 田中 彰: B群溶連菌. New Epoch産科外来診療 (岡井 崇), 1999; p164, 医学書院.
- 17) 田中 彰: リステリア. New Epoch産科外来診療 (岡井 崇), 1999; p165, 医学書院.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 荒木 勤: 胎児の体温調節機構に関する研究. 第50回日本産科婦人科学会総会, 1998. 4.
- 2) 荒木 勤: よい経膈分娩へのプレリユード. 第72回兵庫県産科婦人科学会総会, 1998. 6.
- 3) 荒木 勤: 脳性麻痺予防のための胎児低脳温療法. 第67回大分産科研究会, 1998. 10.
- 4) 荒木 勤: 胎児の脳障害. 第20回北海道産科研究会, 1998. 11.
- 5) 荒木 勤: 満足のゆくお産へのプレリユード. 第3回島根県母性衛生学会総会, 1999. 3.

(2) 教育講演:

- 1) 明楽重夫: 子宮外妊娠: 内視鏡手術のこつと, その落とし穴. 日本産科婦人科内視鏡学会第5回学術研修会, 1998. 8.
- 2) 竹下俊行: 不育症の取り扱い: 免疫療法の最近の話題. 葛飾区産婦人科集談会, 1998. 11.
- 3) 米山剛一: 卵巣成熟嚢胞性奇形種悪性転化例の臨床的検討. 第9回埼玉県婦人科がん研究会, 1999. 2.

(3) シンポジウム:

- 1) 鈴木俊治, 進 純郎, 荒木 勤: 双胎妊娠とウエイトコントロール. 第22回日本産婦人科栄養代謝研究会, 1998. 8.
- 2) 米山芳雄: 妊娠中の栄養管理. 第20回日本臨床栄養学会総会, 1998. 11.
- 3) 米山芳雄, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 大坪保雄, 荒木 勤: 妊婦の安静時エネルギー代謝量の測定. 第20回日本臨床栄養学会, 1998. 11.

(4) パネルディスカッション:

- 1) 米山芳雄: 女性の頻尿. 第8回女性排尿障害研究会, 1998. 5.

(5) 一般講演:

- 1) Shimizu K, Akira S, Kitamura W, Kitagawa A, Akasu A: Video-Assisted Neck Surgery (VANS): Endoscopic hemithyroidectomy with pre-and paratracheal lymph nodes dissection for a patient with minimally invasive follicular carcinoma. 2nd Japan-Korea China Thyroid Conference, 1998. 4.
- 2) Yoneyama K, Shinagawa S, Otsubo Y, Takeuchi T, Okudaira S, Araki T: Invasive complete mole in an

- elderly woman. The 4th Conference of the International Federation of Placental Associations (Tokyo), 1998. 4.
- 3) Hayashi Z, Kijima K, Suzuki S, Sawa R, Yoneyama K, Yoneyama Y, Araki T : Clinical usefulness of rotational digital subtraction pelvic angiography for trophoblastic disease. The 4th Conference of the International Federation of Placental Associations (Tokyo), 1998. 4.
 - 4) Power GG, Kubonoya K, Suzuki S, Murata T : Brain temperature responses to cord occlusion in fetal sheep : role of cerebral metabolic rate, blood flow and adenosine. 25th Fetal and Neonatal Physiology Society, 1998. 9.
 - 5) Otsubo Y, Hori H, Sawa R, Yoneyama Y, Araki T : Inducible nitric oxide synthase in human placenta. The 4th Conference of the International Federation of Placental Associations (Tokyo), 1998. 10.
 - 6) Suzuki S, Yoneyama Y, Takeuchi T, Sawa R, Hayashi Z, Takeshita T, Araki T : Maternal plasma adenosine levels in pregnancies complicated by toxemia. The 4th Conference of the International Federation of Placental Associations (Tokyo), 1998. 10.
 - 7) Suzuki S, Yoneyama Y, Takeuchi T, Sawa R, Kubonoya K, Araki T : The relationship between uterine artery Doppler velocimetry and maternal plasma adenosine levels in pregnancies complicated by preeclampsia. The 11th World Congress of the International Society for the Study of Hypertension in pregnancy (Kobe), 1998. 10.
 - 8) Kurose K, Bando K¹⁾, Fukino K¹⁾, Sugisaki T²⁾, Araki T, Emi M¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門, ²⁾ 附属・病理) : Somatic mutations of the PTEN/MMAC1 gene in fifteen Japanese endometrial cancers : Evidence for inactivation of both alleles. Am. Soc. Hum. Genet., Ann. Mtg, 1998. 10.
 - 9) Iida A¹⁾, Mine N, Fukino K¹⁾, Kurose K, Yokota T¹⁾, Nobe Y¹⁾, Katsumata H¹⁾, Nagai H¹⁾, Emi M¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門) : Construction of PAC contig of TOC region deleted in breast cancer at 17q25.1. Am. Soc. Hum. Genet., Ann. Mtg, 1998. 10.
 - 10) Kogi S, Suzuki S, Kawase R, Yoneyama Y, Araki T : Umbilical cord entanglement in monoamniotic twin pregnancies. 10th Congress of the Federation of the Asia and Oceania Perinatal Societies. Seoul, Korea, 1998. 11.
 - 11) Shimizu K, Akira S, Kitamura W, Kitagawa A, Akasu A : Video-Assisted Neck Surgery (VANS) : Endoscopic resection for three cases of micro-papillary carcinoma of the thyroid with very minimal neck wound using the gasless anterior neck lift method : A comparison with 30 benign thyroid and parathyroid tumors. 34th Congress of the European Society of Surgical Research, 1999. 1.
 - 12) Yoneyama Y, Suzuki S, Sawa R, Otsubo Y, Kijima K, Kuwabara Y, Kim Y, Power GG, Araki T : Effects of Fetal Endotoxin Administration on Plasma Prostaglandin F₂ α and Cortisol Levels in Late Gestation Fetal Goats. The 47th Annual Scientific Meeting of the Society for Gynecologic Investigation (Atlanta, USA), 1999. 3.
 - 13) Kubonoya K, Yoneyama Y, Sawa R, Suzuki S, Kitamura T, Yamada T, Araki T, Power GG : Histological changes in the brain of near-term fetal sheep exposed to repeated cord occlusion with and without hypothermia. The 47th Annual Scientific Meeting of the Society for Gynecologic Investigation (Atlanta, USA), 1999. 3.
 - 14) 中山裕樹, 松下径広, 宮城悦子, 小野瀬亮, 加藤久盛, 土居大祐, 仲沢経夫 : 子宮体癌腹腔細胞診迅速診断の意義. 第37回日本臨床細胞学会秋期大会, 1998. 1.
 - 15) 中山裕樹, 松下径広, 宮城悦子, 小野瀬亮, 加藤久盛 : 血清CA125値による子宮体癌の診断と予後判定. 第3回日本産婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会, 1998. 2.
 - 16) 加藤久盛, 松下径広, 宮城悦子, 小野瀬亮, 中山裕樹 : 子宮体癌における頸管浸潤の評価方法について : 特に

- 癌研式頸管切除器を用いて。第6回公立がんセンター成人病センター講演会, 1998. 2.
- 17) 渡辺美千明, モハマド・ガジザデ¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所病理部門): 胞状奇胎のPloidy解析をパラフィン包埋組織切片から行なうための細胞遺伝学的手法とAgNORカウント。第50回日産婦学会総会, 1998. 4.
 - 18) 黒瀬圭輔, 江見充, 土居大祐 太田雄治郎, 米山剛一, 小西英喜, 荒木 勤: 日本人子宮体癌患者において同定したPTEN遺伝子両側対立遺伝子の不活化。第51回日本産科婦人科学会学術講演会, 1998. 4.
 - 19) 鴨井青龍, 高橋 肇, 里見操緒, 武内 務, 太田雄治郎, 米山剛一, 小西英喜, 河村 克, 荒木 勤: 子宮頸部腺癌に対する術前BOAI法の病巣部免疫担当細胞に与える影響。第51回日本産科婦人科学会学術講演会, 1998. 4.
 - 20) 米山剛一, 太田雄治郎, 土居大祐, 黒瀬圭輔, 小西英喜, 鴨井青龍, 荒木 勤: 卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の臨床的因子に関する検討。第51回日本産科婦人科学会学術講演会, 1998. 4.
 - 21) 加藤久盛, 土居大祐, 小野瀬亮, 中山裕樹, 岡島弘幸: 新FIGO分類による子宮頸癌a1, a2期の臨床的取扱いについての検討。第50回日本産科婦人科学会学術講演会, 1998. 4.
 - 22) 小野瀬亮, 加藤久盛, 土居大祐, 中山裕樹, 岡島弘幸: 子宮頸部腺癌治療法の検討。第50回日本産科婦人科学会学術講演会, 1998. 4.
 - 23) Otsubo Y, Hori H, Sawa R, Yoneyama Y, Nishino T, Araki T: Inducible nitric oxide synthase in human placenta. The 4th Conference of the International Federation of Placental Associations, 1998. 4.
 - 24) 荻原弘光, 大坪保雄, 山田 隆, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 帝王切開既往妊婦の前置胎盤: 癒着胎盤の取り扱い: 2症例からの検討。第21回日本産婦人科手術学会, 1998. 4.
 - 25) 中山裕樹, 土居大祐, 小野瀬亮, 加藤久盛, 岡島弘幸: 子宮体癌病巣体部限局例の臨床病理学的検討。第50回日本産科婦人科学会学術講演会, 1998. 5.
 - 26) 中山裕樹, 土居大祐, 小野瀬亮, 加藤久盛, 岡島弘幸: 卵巣癌診断における子宮内膜吸引細胞診の価値。第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
 - 27) 木村昭裕, 中山裕樹, 岡島弘幸, : 平成9年度神奈川県産婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告。第333回日産婦神奈川地方部会, 1998. 7.
 - 28) 中山裕樹, 松下径広, 宮城悦子, 小野瀬亮, 加藤久盛: 当院での外陰Paget病の臨床病理学的検討。第27回日本婦人科病理・コルポスコピー学会, 1998. 7.
 - 29) 加藤久盛, 松下径広, 宮城悦子, 小野瀬亮, 中山裕樹: 上皮性卵巣癌の初回治療時におけるCA125の推移と予後。第27回日本婦人科病理・コルポスコピー学会, 1998. 7.
 - 30) 山田 隆, 米山芳雄, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 小西英喜, 奥平さやか, 大坪保雄, 荒木 勤: 産褥深部静脈血栓症の管理およびリスクファクターの検討。第8回日本産婦人科・新生児血液学会, 1998. 7.
 - 31) 山田 隆, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 明楽重夫, 朝倉啓文, 進純 郎, 荒木 勤: 前回帝王切開創に癒着胎盤を認めた1例: 術前診断における超音波パルス反射法の有用性。第95回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1998. 7.
 - 32) 大下知子, 石川博臣: 転移性臍癌 (Sister Mary Joseph's nodule) に大量腹水を伴った子宮体癌の1例。第307回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1998. 9.
 - 33) 渡辺美千明, 林 隆: 術前診断が困難であった子宮腺棘細胞癌の1例。第48回日産婦栃木地方部会, 1998. 9.
 - 34) 林 隆, 吉松和彦: 卵巣嚢腫核出術後, 妊娠14週で突然自然流産を来した1症例。第48回日産婦栃木地方部会, 1998. 9.
 - 35) 林 隆, 吉松和彦: 抑うつと腸閉塞を合併した卵巣甲状腺腫の1例。第48回日産婦栃木地方部会, 1998. 9.
 - 36) 奥平さやか, 米山剛一: 後陰門蓋から発生した子宮内膜症ポリープ。第307回日産婦東京地方部会, 1998. 9.
 - 37) 黒瀬圭輔, 板東功一¹⁾, 吹野晃一¹⁾, 横田 隆¹⁾, 小西英喜, 米山剛一, 土井大祐, 太田雄治郎, 荒木 勤, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所分子生物部門): 子宮体癌にて同定された13種類の新規PTEN遺伝子体細胞変異。

第57回日本癌学会総会, 1998. 9.

- 38) 太田雄治郎, 米山剛一, 土居大祐, 武内 務, 八田充子, 黒瀬圭輔, 河合尚基¹⁾, 小西英喜, 荒木 勤⁽¹⁾ 東京都保健医療公社東部地域病院): 子宮頸部腫瘍の follow up における HPV 検出と型別判定の意義. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 39) 米山剛一, 武内 務, 小西英喜, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 太田雄治郎, 荒木 勤: Pure primary squamous cell carcinoma of the ovary の1例. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 40) 土居大祐, 太田雄治郎, 米山剛一, 武内 務, 小西英喜, 荒木 勤: 胃癌合併妊娠3例の検討. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 41) 小林 肇, 太田雄治郎, 林 隆, 米山剛一, 八木修立郎, 土居大祐, 荒木 勤: 傍大動脈リンパ節転移により著目な胃拡張を来した子宮頸癌. 第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 10.
- 42) 米山剛一, 土居大祐, 太田雄治郎, 西 弥生, 峯 克也, 荒木 勤: 子宮体部原発癌肉腫の臨床病理学的検討. 第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 10.
- 43) 八木修立郎, 土居大祐, 米山剛一, 太田雄治郎, 小林 肇, 荒木 勤: 子宮肉腫との鑑別に苦慮した著明な感染性子宮筋腫. 第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 10.
- 44) 松下径広, 宮城悦子, 小野瀬亮, 加藤久盛, 中山裕樹: 膣癌の臨床学的検討. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 45) 中山裕樹: 卵巣癌の治療の基準化に向けての consensus conference 卵巣に腫瘍を認めた場合の取扱いと術前診断. 日本産科婦人科学会腫瘍委員会卵巣癌小委員会, 1998. 11.
- 46) 宮城悦子, 松下径広, 小野瀬亮, 加藤久盛, 中山裕樹, 田村 猛, 仲沢経夫, 土居大祐: 婦人科細胞診に出現した胃癌症例16例の臨床細胞学的検討. 第37回日本臨床細胞学会秋期大会, 1998. 11.
- 47) 松下径広, 宮城悦子, 小野瀬亮, 加藤久盛, 中山裕樹, 土居大祐, 仲沢経夫: 膣原発悪性黒色腫の4例. 第37回日本臨床細胞学会秋期大会, 1998. 11.
- 48) 品川志野, 大下知子: 子宮原発の sex-cord like tumor の1例. 第308回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1998. 12.
- 49) 田中 彰, 菊谷真理子, 小林三平, 高田秀一: 双胎の一方子宮内, 一方子宮外妊娠の1症例. 第332回日産婦神奈川地方部会, 1998.
- 50) 田中 彰: GBS: 性器からの分離状況と予防対策の考察. 第16回日産婦感染症研究会, 1998.
- 51) 関谷隆夫, 吉松和彦, 小田部徹, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤, 菊谷真理子, 田中 彰: Hysteroscopy (HFS) と Sonohysterography (SHG) および3D超音波画像を利用した子宮腔内病変の多角的な検索. 日産婦内視鏡学会, 1998.
- 52) 山田 隆, 上村竜太, 稲見光春, 小木三郎, 小谷英太郎, 川口直美, 小倉宏道, 池崎弘之, 横山弘之, 木内要, 高山守正, 高野照夫, 北川彰信, 石井庸介, 大久保直子, 落 雅美, 田中茂夫: くり返すIABP依存の難治性心不全を呈した急性広範前壁下壁梗塞に対して心室瘤切除と血行再建が有効であった1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会・第171回学術集会, 1999. 3.
- 53) 石川博臣, 大下知子: 酢酸ブセレリン療法中に大量出血を来した粘膜下筋腫の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1998. 5.
- 54) 鈴木俊治, 米山芳雄, 澤倫太郎, 窪谷 潔, Power G.G, 荒木 勤: ヒツジ胎仔臍帯圧迫モデルにおけるアデノシンと胎仔脳温調節機構との関係の検討. 第50回日本産科婦人科学会総会, 1998. 4.
- 55) 窪谷 潔, 米山芳雄, 澤倫太郎, 鈴木俊治, Power G.G, 北村泰子, 鈴木俊治, 荒木 勤: ヒツジ胎仔低酸素症モデルにおける急速胎仔低体温導入法の検討. 第50回日本産科婦人科学会総会, 1998. 4.
- 56) 品川寿弥, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 西野武士, 荒木 勤: 妊娠中毒症胎盤における一酸化窒素合成酵素活性の検討. 第50回日本産科婦人科学会総会, 1998. 4.

- 57) 朝倉啓文, 大屋敦子, 澤倫太郎, 米山芳雄, 澤倫太郎, 大坪保雄, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤: 妊娠悪阻における非震性熱産生 (NST) の役割. 第50回日本産科婦人科学会総会, 1998. 4.
- 58) 加藤久盛, 土居大祐, 小野瀬亮, 中山裕樹, 岡島弘幸: 新FIGO分類による子宮頸癌Ia1,Ia2期の臨床的取り扱いについての検討. 第50回日本産科婦人科学会総会, 1998. 4.
- 59) 小野瀬亮, 加藤久盛, 土居大祐, 中山裕樹, 岡島弘幸: 子宮頸部腺癌治療法の検討. 第50回日本産科婦人科学会総会, 1998. 4.
- 60) 中山裕樹, 土居大祐, 小野瀬亮, 加藤久盛, 岡島弘幸: 子宮体癌病巣体部限局例の臨床病理学的検討. 第50回日本産科婦人科学会総会, 1998. 4.
- 61) 山中温子, 竹下俊行, 明楽重夫, 可世木久幸, 荒木 勤: 子宮鏡GIFTの妊娠予後改善にむけての一考察. 第43回日本不妊学会学術講演会, 1998. 4.
- 62) 竹下俊行, 高橋秀実, 荒木 勤: 抗接着分子抗体投与による免疫学的流産の防止: その作用機所の解析. 第50回日本産科婦人科学会総会, 1998. 4.
- 63) 清水一雄, 明楽重夫, 北川 亘, 赤須東樹, 北村 裕: 内視鏡下甲状腺腫摘出術の3症例報告: 頸部創のない手術をめざして. 第60回日本甲状腺学会, 1998. 4.
- 64) 清水一雄, 明楽重夫, 北川 亘, 赤須東樹, 北村 裕: Video-Assisted Neck Surgery (VANS): 内分泌外科領域における内視鏡下頸部手術15例の経験. 第31回甲状腺外科研究会, 1998. 4.
- 65) 林 瑞成, 桑原慶充, 木島一洋, 大村 浩, 朝倉啓文, 荒木 勤: 糖尿病およびパセドウ病合併妊娠の子宮内胎児死亡後急激に敗血症, DIC, および甲状腺クリーゼを発症した自験例. 第96回日本産科婦人科学会関東連合地方学会, 1998. 4.
- 66) 黒瀬圭輔, 江見 充¹⁾, 八田充子, 松下径広, 米山剛一, 小西英喜, 荒木 勤 (1) 老人病研究所分子生物学部門): 子宮平滑筋腫におけるHMGL-C遺伝子の再構成・融合異常. 第50回日本産科婦人科学会学術講演会総会, 1998. 4.
- 67) 渡辺美千明, モハマド・ガジザデ¹⁾, 八田充子, 松下径広, 米山剛一, 小西英喜, 鴨井青龍, 荒木 勤 (1) 老人病研究所分子病理部門): 胞状奇胎のPloidy解析をパラフィン包埋組織切片から行うための細胞遺伝学的手法とAgNORカウント. 第50回日本産科婦人科学会学術講演会総会, 1998. 4.
- 68) 鴨井青龍, Steven GS¹⁾, 米山剛一, 小西英喜, 荒木 勤 (1) メリーランド大学病理): 癌抑制遺伝子からみた悪性卵巣腫瘍のclonalityの検討. 第50回日本産科婦人科学会学術講演会総会, 1998. 4.
- 69) 窪谷 潔, 米山剛一, 弘末卓也, 奥平さやか, 武内 務, 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤: Kruckenberg腫瘍合併妊娠の1症例. 第95回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 4.
- 70) 奥平さやか, 米山剛一, 武内 務, 峯 克也, 竹下俊行, 荒木 勤: 後膣円蓋から発生した子宮内膜症性ポリープ. 第307回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1998. 4.
- 71) 朝倉啓文, 市川 尚, 佐藤 仁, 兼子和弘, 中林正一, 石渡 勇, 寺内弘和, 佐々木誠, 高橋恒男, 足高貝原, 小川隆吉, 谷川 端, 高橋克一, 坂元正一, 安藤一人: 正期産仮死児調査報告, 日本母性保護産婦人科医会医事紛争対策委員会. 第49回日母大会, 1998. 4.
- 72) 朝倉啓文: 全国正期産仮死児調査報告. 第10回日母全国医事紛争対策担当者連絡協議会, 1998. 4.
- 73) 黒瀬圭輔, 江見 充¹⁾, 荒木 勤, 中村祐輔²⁾, 坂元吾偉³⁾, 吉本賢隆³⁾, 霞富士雄⁴⁾ (1) 老人病研究所分子生物学部門, 2) 東大・医科研, 3) 癌研・病理, 4) 癌研・外科): 散発性乳癌における第7番染色体欠失地図の作製. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 74) 飯田有俊¹⁾, 黒瀬圭輔, 江見 充¹⁾, 中村祐輔²⁾, 坂元吾偉³⁾, 吉本賢隆³⁾, 霞富士雄⁴⁾ (1) 老人病研究所分子生物学部門, 2) 東大・医科研, 3) 癌研・病理, 4) 癌研・外科): 乳癌における第22番染色体の共通欠失領域は22q13.1領域IL2RB-D22S279の2cMである. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 75) 山田 隆, 米山芳雄, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 小西英喜, 奥平さやか, 大坪保雄, 荒木 勤: 産褥深部静脈血栓

- 症の管理およびリスクファクターの検討。第8回日本産婦人科新生児血液学会，1998。6。
- 76) 石川 源，桑原慶充，沖野恵子，里見 操，木島一洋，鈴木俊治，米山芳雄，澤倫太郎，朝倉啓文，荒木 勤：クリーゼにより緊急帝王切開となった重症筋無力症合併妊娠の管理経験。第96回分娩と麻酔研究会，1998。6。
- 77) 西 弥生，大坪保雄，市川雅男，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，進 純郎，荒木 勤：妊娠33週にタンポナーデをきたした悪性リンパ腫合併妊娠の1例。第95回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1998。6。
- 78) 黒瀬圭輔，土居大祐，太田雄治郎，米山剛一，小西英喜，江見 充¹⁾，荒木 勤⁽¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門)：子宮体癌・子宮平滑筋腫における染色体異常・遺伝子異常。日本医科大学医学会第95回例会，1998。6。
- 79) 中山裕樹，土居大祐，小野瀬亮，加藤久盛，岡島弘幸：卵巣癌診断における子宮内膜吸引細胞診の価値。第39回日本臨床細胞学会総会，1998。6。
- 80) 里見操緒，竹下俊行，明楽重夫，可世木久幸，荒木 勤，高橋秀実¹⁾ (⁽¹⁾ 微生物学・免疫学)：流産モデルマウス (CBAXDBA/2) における抗接着分子抗体投与の母体免疫系への影響。第16回日本受精着床学会，1998。7。
- 81) 米山芳雄，澤倫太郎，鈴木俊治，窪谷 潔，進 純郎，朝倉啓文，河村 克，荒木 勤：ヤギ胎仔のエンドトキシンに対する発熱反応とその調節機構の検討。第34回日本新生児学会，1998。7。
- 82) 鈴木俊治，窪谷 潔，米山芳雄，澤倫太郎，大坪保雄，進 純郎，Power GG，荒木 勤：ヒツジ胎仔臍帯 repeated occlusion における胎仔脳温および大動脈温の変化に関する検討。第34回日本新生児学会，1998。7。
- 83) 米山剛一，武内 務，八田充子，奥平さやか，土居大祐，明楽重夫，荒木 勤，海老澤雅子，工藤翔二：CA125が高値を示した結核性胸膜炎の1例。第16回日本産婦人科感染症研究会学術講演会，1998。7。
- 84) 武内 務，米山剛一，奥平さやか，土居大祐，小西英喜，荒木 勤，田淵紀子，片山泰朗：子宮内膜組織診で発見されparaneoplastic syndromeを合併したmalignant neuroendocrine tumorの1例。第27回日本婦人科病理・コルポスコピー学会学術集会，1998。7。
- 85) 米山剛一，大村 浩，渡辺昇一，土居大祐，太田雄治郎，荒木 勤：扁平上皮癌を呈した卵巣成熟嚢胞性奇形腫の悪性転化例。第27回日本婦人科病理・コルポスコピー学会学術集会，1998。7。
- 86) 鈴木俊治，米山芳雄，窪谷 潔，澤倫太郎，朝倉啓文，河村 克，荒木 勤：母体低酸素ストレス下の胎仔脳温変化の観察。第22回日本産科婦人科栄養・代謝研究会，1998。8。
- 87) 山中温子，明楽重夫，小木三郎，大村 浩，竹下俊行，荒木 勤：当科における細型腹腔鏡システムの検討。第38回日本産科婦人科内視鏡学会，1998。8。
- 88) 石川 源，小木三郎，武井麟太郎，川瀬里衣子，関谷伊久乃，林 端成，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：既往帝王切開婦人の子宮峡部の厚みによる子宮破裂予知に関する検討：頸管熟化との関連性。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 89) 武井麟太郎，山田 隆，米山芳雄，鈴木俊治，澤倫太郎，朝倉啓文，荒木 勤：深部静脈血栓症の管理と肺塞栓症にいたるリスクファクターについての検討。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 90) 川瀬里衣子，石川 源，桑原慶充，沖野恵子，里見操緒，木島一洋，林 端成，奥平さやか，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：激症型重症筋無力症合併妊娠。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 91) 鈴木俊治：ヒツジ胎仔臍帯圧迫モデルにおけるアデノシンと胎仔脳温調節との関係。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 92) 黒瀬圭輔，坂東功一¹⁾，吹野晃一¹⁾，横田 隆¹⁾，小西英喜，米山剛一，土居大祐，太田雄治郎，荒木 勤，江見 充¹⁾ (⁽¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門)：子宮体癌にて同定された13種の新規PTEN遺伝子体細胞変異。第57回日本癌学会総会，1998。9。
- 93) 米山剛一，申 桂華，大村 浩，渡辺昇一，土居大祐，太田雄治郎，荒木 勤：扁平上皮癌化した卵巣成熟嚢胞性奇形腫の悪性転化例：症例および悪性転化6例の検討。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 94) 藤田千歳¹⁾，矢野 侃¹⁾，米山剛一，杉崎祐一²⁾，前田昭太郎³⁾ (⁽¹⁾ 荒川区がん予防センター，⁽²⁾ 病理部，⁽³⁾ 多

- 摩永山病院病理部)：子宮がん検診の頸部スメアにて卵巣癌を推定し得たnormal-sized ovary carcinoma syndromeの1例。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.
- 95) 黒瀬圭輔，坂東功一¹⁾，吹野見一¹⁾，横田 隆¹⁾，江見 充¹⁾，杉崎祐一²⁾，小西英喜，米山剛一，土居大祐，太田雄治郎，荒木 勤⁽¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門，²⁾ 病理部)：日本人子宮体癌患者において同定されたPTEN/MMAC1遺伝子体細胞変異。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.
- 96) 米山剛一，金 栄淳，石原楷介，越野立夫，荒木 勤：CA125が高値を呈し，Meigs症候群と鑑別が困難であった結核性胸腹膜炎の1例。第327回四水会，1998. 9.
- 97) 石川 源，加藤真紀子，大坪保雄，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，大坪保雄，朝倉啓文，荒木 勤：浣腸後，急性腹症として発症した産褥性潰瘍性大腸炎の1例。第49回日本母性衛生学会，1998. 10.
- 98) 武井麟太郎，山田 隆，米山芳雄，鈴木俊治，澤倫太郎，朝倉啓文，荒木 勤：深部静脈血栓症より肺塞栓症にいたるリスクファクターについての検討。第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1998. 10.
- 99) 川瀬里衣子，石川 源，沖野恵子，桑原慶充，木島一洋，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：劇症型重症筋無力症合併妊婦の管理。第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1998. 10.
- 100) 小木三郎，石川 源，山中温子，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：妊娠中の母体脳出血の取り扱い。第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1998. 10.
- 101) 太田雄治郎，米山剛一，土居大祐，武内 務，八田充子，黒瀬圭輔，河合尚基¹⁾，小西英喜，荒木 勤⁽¹⁾ 東京都保健医療公社東部地域病院)：子宮頸部腫瘍のfollow upにおけるHPV検出と型別判定の意義。第36回日本癌治療学会総会，1998. 10.
- 102) 米山剛一，武内 務，小西英喜，黒瀬圭輔，土居大祐，太田雄治郎，荒木 勤：Pure primary squamous cell carcinoma of the ovaryの1例。第36回日本癌治療学会総会，1998. 10.
- 103) 土居大祐，太田雄治郎，米山剛一，武内 務，小西英喜，荒木 勤：胃癌合併妊娠3例の検討。第36回日本癌治療学会総会，1998. 10.
- 104) 渡辺昇一，大村 浩，米山剛一，関谷伊久乃，土居大祐，太田雄治郎，荒木 勤：卵巣成熟嚢胞性奇形腫の扁平上皮癌への悪性転化。第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1998. 10.
- 105) 小林 肇，太田雄治郎，林 隆，米山剛一，八木修立郎，土居大祐，荒木 勤：傍大動脈リンパ節転移により著明な胃拡張をきたした子宮頸癌。第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1998. 10.
- 106) 峯 克也，米山剛一，渡辺昇一，大村 浩，関谷伊久乃，土居大祐，太田雄治郎，荒木 勤：診断に苦慮した子宮粘液平滑筋肉腫。第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1998. 10.
- 107) 米山剛一，土居大祐，太田雄治郎，西 弥生，峯 克也，荒木 勤：子宮体部原発癌肉腫の臨床病理学的検討。第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1998. 10.
- 108) 八木修立郎，土居大祐，米山剛一，太田雄治郎，小林 肇，荒木 勤：子宮肉腫との鑑別に苦慮した著明な感染性子宮筋腫。第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1998. 10.
- 109) 中山裕樹，松下径広，宮城悦子，小野瀬亮，加藤久盛，土居大祐，仲沢経夫：子宮体癌腹腔細胞診迅速診断の意義。第37回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会，1998. 10.
- 110) 土居大祐，太田雄治郎，松原美幸¹⁾，渡会泰彦¹⁾，川本雅司²⁾，杉崎祐一¹⁾，米山剛一⁽¹⁾ 付属病院病理部，²⁾ 第1病理)：子宮内膜細胞診で発見されparaneoplastic syndromeを合併したneuroendocrine carcinomaの1例。第37回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会，1998. 10.
- 111) 宮城悦子，松下径広，小野瀬亮，加藤久盛，中山裕樹，田村 猛，仲沢経夫，土居大祐：婦人科細胞診に出現した胃癌症例15例の臨床細胞学的検討。第37回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会，1998. 10.
- 112) 松下径広，宮城悦子，小野瀬亮，加藤久盛，中山裕樹，土居大祐，仲沢経夫：臆原発悪性黒色腫の4例。第37回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会，1998. 10.
- 113) 黒瀬圭輔，荒木 勤，松中 豪¹⁾，高田泰治¹⁾，江見 充²⁾ ⁽¹⁾ 西条中央病院・内科，²⁾ 老人病研究所分子生物

- 学部門)：日本人非定型Cowden病患者におけるPTEN遺伝子胚細胞変異の同定。日本人類遺伝学会第43回大会，1998. 10.
- 114) 山中温子，沖野恵子，斎藤糧三，林 隆，小木三郎，窪谷 潔，明楽重夫，竹下俊行，荒木 勤：潜在性プロラクチン血症の診断におけるTRH負荷後15分値測定の有用性。第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1998. 10.
- 115) 鈴木俊治，米山芳雄，窪谷 潔，澤倫太郎，大坪保雄，進 純郎，Power GG，荒木 勤：ヒッジ胎仔臍帯圧迫モデルにおける胎仔脳温および大動脈温の変化の検討。第11回国際妊娠高血圧症会議，1998. 11.
- 116) 隈田香織，橋本政子，野本 剛史，里村克章，米山芳雄：日立7150型自動分析装置を用いたランピアラテックスRUBELLA，ランピアラテックスTOXOの検討。第11回国際妊娠高血圧症会議，1998. 11.
- 117) 渡辺昇一，米山芳雄，澤倫太郎，鈴木俊治，荒木 勤：更年期女性の頻尿原因の検討。第13回日本更年期医学会，1998. 11.
- 118) 武井麟太郎，石川 源，澤倫太郎，鈴木俊治，米山芳雄，竹下俊行，荒木 勤，村田和也¹⁾，中島基広¹⁾，平野公晟¹⁾ (¹⁾ 薬剤部)：重症妊娠悪阻症におけるビタミンB12投与方法の再検討。第20回日本臨床栄養学会総会，1998. 11.
- 119) 荏原弘光，大坪保雄，山田 隆，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：帝王切開既往妊婦の前置胎盤一癒着胎盤の取り扱い。第21回日本産婦人科手術学会，1998. 11.
- 120) 武井麟太郎，大坪保雄，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，進 純郎¹⁾，竹内正人¹⁾，兼子和彦¹⁾，荒木 勤 (¹⁾ 葛飾赤十字産院)：Wernicke-Korsakoff症候群を合併した重症妊娠悪阻50症例の検討。第96回日本医科大学医学会例会，1998. 11.
- 121) 柴田浩之，竹内正人，進 純郎，鈴木俊治，金 栄淳，荒木 勤：双胎妊娠の母体BMIと妊娠中毒症罹患率との相関。第20回日本臨床栄養学会，1998. 11.
- 122) 渡辺昇一，関口敦子，金 栄淳，鈴木俊治，米山芳雄，竹下俊行，荒木 勤：悪阻妊婦の体温調節一脂肪酸代謝，甲状腺機能との関連性一。第20回日本臨床栄養学会，1998. 11.
- 123) 金 栄淳，大坪保雄，加藤真紀子，石川 源，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：産褥期に発症した潰瘍性大腸炎。第308回日本産科婦人科学会東京地方部会，1998. 12.
- 124) 明楽重夫，土居大祐，荒木 勤：子宮頸癌I期に対する腹腔鏡下骨盤リンパ節郭清術の経験。第11回日本内視鏡外科学会総会，1998. 12.
- 125) 中川洋子，清水真澄，本間季里，竹下俊行，高橋秀実：HIV-env抗原特異的キラーT細胞の認識エピトープに関する研究—細胞外processingの可能性について(II)。第28回日本免疫学会総会，1998. 12.
- 126) 米山剛一，奥平さやか，武内 務，峯 克也，竹下俊行，荒木 勤：後陰円蓋に生じた子宮内膜症性ポリープ。第20回エンドメトリオーシス研究会，1999. 1.
- 127) 小林 肇，明楽重夫，大村 浩，米山剛一，竹下俊行，荒木 勤：子宮下部後腹膜発生が考えられた子宮内膜症性嚢胞の1例。第20回エンドメトリオーシス研究会，1999. 1.
- 128) 貝原賢二，三並伸二，斎藤 恵，平田昌二，関谷隆夫，竹下俊行，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：新しい卵管内圧測定法の開発—卵管内圧モニタリングは不妊治療に有効か—。第119回日本不妊学会関東地方部会，1999. 2.
- 129) 山中温子，石川 源，里見操緒，明楽重夫，竹下俊行，荒木 勤：ART後にまれな子宮外妊娠をきたした2症例。第119回日本不妊学会関東地方部会，1999. 2.
- 130) 黒瀬圭輔，江見 充¹⁾，土居大祐，太田雄治郎，米山剛一，小西英喜，荒木 勤 (¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門)：子宮体癌におけるPTEN遺伝子体細胞変異同定による両側対立遺伝子不活化の証明。第3回日本産婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会，1999. 2.
- 131) 林 瑞成，小林 肇，鈴木俊治，米山剛一，石原楷輔，越野立夫，荒木 勤：当科における子宮内反症の取り

扱い。第329回四水会，1999. 3.

(6) クリニカルカンファランス：

1) 荒木 勤：わが国における卒後研修の実態について。第50回日本産科婦人科学会総会，1998. 4.

[第二病院産婦人科]

研究概要

当科では多数の分娩を取り扱っている点や患者数が多いことから，臨床的研究を柱としておりますが，近年では婦人科腫瘍学や病理学などの基礎的研究も盛んに行われるようになりました。

1. 産科学領域の基礎的研究

ラットを用いたHELLP症候群モデルを作製し，妊娠中毒症の病態解明に関する臨床病理学的研究を行い良好な結果を得ている。また，多数の分娩を生かした産科統計学的研究も行っている。

2. 超音波診断学

本邦に初めて超音波断層装置が導入されて以来，石原教授を中心に研究を行ってきた分野で，産科領域では前置胎盤や常位胎盤早期剥離の診断および予後の予測，また切迫早産や正常分娩における子宮頸管の評価およびこうした超音波所見と頸管熟化との関連など，多くのテーマで研究を行っている。一方，婦人科では卵巣や子宮腫瘍の診断のほか，不妊症における子宮内膜像の評価などの研究を行っている。さらに超音波ドブラ診断装置や三次元超音波画像を用いた胎児および腫瘍の診断は，近年の超音波医学をリードしている。

3. 内視鏡診断治療学

現在，内視鏡を用いた診断や治療が普及してきたが，当科では可世木助教授を中心にこうした一般的な方法に加え，新しい内視鏡治療器具や内視鏡下レーザー手術，超音波内視鏡の開発など斬新な研究を行っている。さらに最近では内視鏡技術の教育面でも実物に近い練習機器を作製し，卒後教育に応用している。

4. 産婦人科腫瘍学

当院には各科共用の研究室に加え，老人病研究所が併設しており，小西講師を中心として婦人科腫瘍の遺伝子レベルの研究も行われるようになり，CINとHPVの遺伝子レベルの研究，転移のメカニズムに対する研究が，とくに現在では新しい化学療法剤の導入による副作用の評価に関する研究が進行しております。

以上，現在の私どもの活動です。今後も教室全体の方針のもと，臨床研修および研究活動にふさわしい環境を作りたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Sekiya T, Ishihara K, Yoshimatu K, Fukami T, kikuchi S, Araki T : Detection rate of the cervical gland area during pregnancy using transvaginal sonography in the assessment of cervical maturation. *Ultrasound in Obstetrics and Gynecology* 1998 ; 12 (5) : 328-333.
- 2) Watanabe M, Ghazizadeh M¹⁾, Konishi H, Araki T ⁽¹⁾ 老人病研究所) : Analysis interphase cytogenetic and AgNOR analysis of hydatidiform moles. *J Clin Pathol* 1998 ; 51 (6) : 438-443.
- 3) 木村昭裕，柳沢和孝，木挽貞慈，日野 侃，田島敏久，高橋亨正，五来逸雄，斎藤 馨，秦 宏樹，篠塚孝男，清水 篤，関谷隆夫，雨宮 清，中山裕樹，岡島弘幸：平成9年度神奈川県産科婦人科医会 婦人科悪性腫瘍登録集計報告。日産婦神奈川地方部会雑誌 1998 ; 35 (2) : 45-50.
- 4) 可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：不妊症の画像診断 子宮内腔（ヒステロスコープ）。産科と婦人科 1998 ; 65 : 51-56.

- 5) 石原楷輔：子宮頸部の観察：早産予知の情報として。臨床婦人科産科 1998；52（4）：480-488.
 - 6) 石原楷輔：前置胎盤・低置胎盤の診断。臨床婦人科産科 1998；52（4）：490-497.
 - 7) 進 純郎¹⁾，米山芳雄¹⁾，小西英喜，荒木 勤（¹⁾ 付属病院産婦人科）：腹圧性尿失禁に対する薬物療法の有効性の検討。日産婦東京地方部会誌 1998；47（2）：139-142.
 - 8) 可世木久幸：子宮腔内腫瘍像とその取り扱い。日母医報 1998；581：10-11.
 - 9) 石原楷輔：胎盤と疾患 低・前置胎盤。周産期医学28 1998；763-768.
 - 10) 可世木久幸，北川 優，西中健二：子宮筋腫による卵管狹窄は起こりうるのだろうか？。臨床婦人科産科 1998；52：792-795.
 - 11) 松島 隆，小西公磨，貝原賢二，塚田克也，関谷隆夫，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：内視鏡手術練習法の開発：鳥賊の墨袋摘出術。日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 1998；14（1）：155-157.
 - 12) 小田部徹，関谷隆夫，石原楷輔：出血時における閉経期子宮の超音波学的考察。日産婦神奈川地方部会誌 1999；35（2）.
 - 13) 斎藤 恵，小田部徹，深見武彦，林 康子，小林三平，塚田克也，関谷隆夫，石原楷輔，荒木 勤：切迫早産治療中にHELLP症候群発症強く疑わせた1例。日産婦神奈川地方部会誌 1999；35（2）.
 - 14) 貝原賢二，斎藤 恵，林 康子，松島 隆，関谷 隆，可世木久幸，石原楷輔：常位胎盤早期剥離に超音波検査は有用か？。神奈川地方部会誌 1999；35（2）.
 - 15) 中野眞左男，内田伸弘，奥山大輔，可世木久幸，見常多喜子，小林圭子，関谷隆夫，鈴木 真，田口 明，中村英世，萩庭一元，平林史樹，吉原 一，住吉好雄，安達健二，浜田 宏：新生児クレチン症検査におけるコード含有消毒剤の影響。日産婦神奈川地方部会雑誌 1999；35（2）：58-60.
 - 16) 石原楷輔：頸管短縮と切迫早産。産科と婦人科65 1999；381-387.
 - 17) 可世木久幸：気腹法。臨床婦人科産科 1999；52：1470-1475.
- (2) 綜説：
- 1) 石原楷輔：子宮頸管の評価。周産期の超音波診断ABC 1998.
 - 2) 関谷隆夫，石原楷輔：どうあるべきか21世紀の妊婦検診：中期以降の超音波検査。産婦人科の実際 1998；48（2）：213-221.
 - 3) 関谷隆夫，斎藤糧三，小田部徹，深見武彦，石原楷輔：21世紀に繋がる生涯研修：子宮頸部経腔超音波所見と早産の予測。日産婦神奈川地方部会雑誌 1998；35（2）：71-76.
 - 4) 関谷隆夫，深見武彦，石原楷輔，荒木 勤：（特集：周産期医療における新しい研究視点）：切迫早産の超音波経腔走査画像による予後の判定。産婦人科の世界 1998；51（3）：247-256.
 - 5) 関谷隆夫，石原楷輔：超音波診断update：スクリーニングから精査の時代へ：妊娠初期の超音波検査。臨床放射線 1998；43（10）：1611-1619.

著 書

- 1) 関谷隆夫：〔自著〕D.妊娠後期の診療4. 前回帝切例への対応。産婦人科外来診療のNew Epoch, 1998；医学書院.
- 2) 関谷隆夫，石原楷輔：〔自著〕6. 胎児異常D.回施異常。新女性医大系，1998；中山書店.
- 3) 関谷隆夫，林 康子，可世木久幸，石原楷輔：〔自著〕泌尿生殖器系の先天異常。先天異常新生児ガイドブック 神奈川県産科婦人科医会異常分娩先天異常対策部編，1998；pp29-38，神奈川県日本産科婦人科医会.
- 4) 可世木久幸，関谷隆夫，石原楷輔，荒木 勤：〔分担〕不妊症の診断 子宮性不妊の診断。図説産婦人科VIEW-32（星 和彦，吉村泰典，武谷雄二編），1998；pp54-67，MEDIKAL VIEW.
- 5) 可世木久幸：〔分担〕Asherman症に対する手術。図説産婦人科view-34（川上征治，矢島 聡編），1998；pp84-97，MEDICAL VIEW.

- 6) 可世木久幸：〔分担〕癒着胎盤. 今日の産婦人科治療指針（第2版）（武田佳彦，武谷雄二），1999；pp1-287, 医学書院.
- 7) 可世木久幸，関谷隆夫：〔分担〕子宮筋腫 手術療法. 新女性学体系39（植木 貫編），1999；pp253-286, 中山書店.
- 8) 可世木久幸：〔分担〕HIT（子宮鏡下卵管内受精）. 新女性学体系16（久保晴海編），1999；pp275-280, 中山書店.
- 9) 可世木久幸，石原楷輔：〔分担〕胎児の異常 進入異常. 新女性学体系26（寺尾俊彦編），1999；pp124-127, 中山書店.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 石原楷輔：経腔超音波：子宮頸管の評価. The 23rd Ian Donald Inter-University School of Medical Ultrasound, 1998. 7.
- 2) 石原楷輔：最近の超音波診断. 三多摩地区産婦人科医師会学術講演会, 1998. 11.
- 3) 石原楷輔：更年期外来における経腔超音波検査とカラードブラの臨床応用. 川崎市医学会学術講演会, 1998. 4.
- 4) 石原楷輔：最新の超音波外来：カラードブラの臨床応用を含めて. 沖縄市産婦人科医学会学術講演会, 1998. 4.
- 5) 石原楷輔：最新の超音波外来とカラードブラの臨床応用. 鳥取市産婦人科医学会学術講演会, 1998. 5.
- 6) 石原楷輔：更年期外来における経腔超音波検査とカラードブラの臨床応用. 小田原市産婦人科医学会学術講演会, 1998. 6.
- 7) 石原楷輔：外来における経腔超音波とカラードブラの臨床応用. 松本市産婦人科医学会学術講演会, 1998. 6.
- 8) 石原楷輔：最新の超音波外来：カラードブラ，3次元画像の臨床応用. 佐世保市産婦人科医学会学術講演会, 1998. 6.
- 9) 石原楷輔：経腔超音波外来の進歩—カラードブラ，3次元画像の臨床応用—. 甲府市産婦人科医学会学術講演会, 1998. 7.
- 10) 石原楷輔：日常診療のための超音波診断：最新の超音波外来. 城北産婦人科医学会学術講演会, 1998. 7.
- 11) 石原楷輔：産婦人科領域における超音波検査のポイント. 神奈川県保険医協会学術講演会, 1998. 11.
- 12) 石原楷輔：経腔超音波外来の進歩：カラードブラ，3次元画像の臨床応用. 郡山市産婦人科医学会学術講演会, 1998. 11.
- 13) 石原楷輔：更年期外来における超音波の活用. 川越市母性保護産婦人科医学会秋期学術講演会, 1998. 11.
- 14) 石原楷輔：産婦人科領域における超音波検査のポイント. 神奈川県保険医協会学術講演会, 1998. 11.
- 15) 石原楷輔：妊娠初期の異常. 東京MEセミナー, 1999. 1.
- 16) 石原楷輔：妊娠初期，卵巣腫瘍および三次元画像の超音波診断. 練馬区産婦人科医学会学術講演会, 1999. 2.

(2) 教育講演：

- 1) 関谷隆夫：産婦人科ドブラ検査の実際1：総論. 第335回日産婦神奈川地方部会, 1998. 11.
- 2) 関谷隆夫：産婦人科ドブラ検査の実際2：産科編. 第336回日産婦神奈川地方部会, 1998. 12.
- 3) 関谷隆夫：産婦人科ドブラ検査の実際3：婦人科編. 第337回日産婦神奈川地方部会, 1999. 1.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 小西英喜：「産道裂傷」：教室で行う会陰切開縫合法. 日産婦神奈川地方部会例会, 1998. 9.

(4) 一般講演：

- 1) Takashi M, Takada K：Fibronectin in the developing corpus luteum of rats：Neovascularization and extracellular matrices. 4th international Symposium on Predictive Oncology and Therapy (Nice, France.), 1998. 8.

- 2) Fukami T, Sekiya T, Yoshimatsu, Ishihara K, Araki T : The new ultrasonographic assessment of the risk of preterm labor : a comparison of cervical gland area and cervical length. 8th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology (Edinburgh), 1998. 11.
- 3) Sekiya T, Fukami T, Yoshimatsu K, Ishihara K, Araki T : What is atypical sonographic pattern of endometrial texture in infertile woman ? . 8th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, 1998. 11.
- 4) 関谷隆夫, 小田部徹, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤 : 内視鏡とSHGおよび3D超音波画像を用いた子宮腔内病変の検索. 第21回日本産婦人科内視鏡学会, 1998. 5.
- 5) 松島 隆, 可世木久幸 : LAVHとは. 第4回神奈川産婦人科内視鏡下手術研究会, 1998. 2.
- 6) 貝原賢二, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔 : 我々の行っているヒト卵管通水左測定法. 第338回神奈川県地方部会, 1998. 2.
- 7) 松島 隆, 塚田克也, 松本光司 : 腔原発amelanotic malignant melanomaの1例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 8) 深見武彦, 関谷隆夫, 吉松和彦, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔 : 子宮頸部超音波所見からみた切迫早産予後の検討. 第50回日本産婦人科学会総会, 1998. 4.
- 9) 貝原賢二, 齊藤 恵, 関谷隆夫, 小西英喜, 石原楷輔 : 当科における過去5年間の帝王切開困難例の検討. 第332回神奈川県地方部会, 1998. 5.
- 10) 黒瀬圭輔¹⁾, 土居大佑¹⁾, 太田雄治郎¹⁾, 米山剛一¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 江見 充²⁾, 小西英喜 (¹⁾ 付属病院産婦人科, ²⁾ 老人病研究会) : 子宮体癌・子宮平滑筋腫における染色体・遺伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 5.
- 11) 齊藤 恵, 貝原賢二, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤 : 当科における過去5年間の常位胎盤早期剥離の検討. 第95回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 6.
- 12) 窪谷 潔¹⁾, 米山剛一¹⁾, 弘末卓也¹⁾, 小西英喜, 奥平さやか¹⁾, 武内 務¹⁾, 澤倫太郎¹⁾, 進 純郎¹⁾, 荒木 勤 : Krukenberg腫瘍合併妊娠の1症例. 第95回日産婦関東連合地方部会, 1998. 6.
- 13) 小田部徹, 可世木久幸, 松島 隆, 塚田克也, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤 : 子宮体癌化療中のソノヒステログラフィー. 第27回日本婦人科病理・コルポスコピー学会, 1998. 7.
- 14) 松島 隆, 小西公麿, 貝原賢二, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤 : 内視鏡手術練習法の開発 : 鳥賊の墨袋摘出術. 第38回日本産婦人科内視鏡学会, 1998. 8.
- 15) 林 隆¹⁾, 吉松和彦, 渡辺美千明¹⁾, 赤池 康¹⁾ (¹⁾ 付属病院産婦人科) : 卵巣囊腫核出術後, 妊娠14週で突然自然流産を来した1症例. 第48回日産婦栃木地方部会, 1998. 9.
- 16) 林 隆¹⁾, 吉松和彦, 渡辺美千明¹⁾, 真柄久美子²⁾, 石塚 修²⁾, 清水輝彦³⁾ (¹⁾ 付属病院産婦人科, ²⁾ 下都賀総合病院内科, ³⁾ 下都賀総合病院精神神経科) : 抑うつと腸閉塞を合併した卵巣甲状腺腫の1例. 第48回日産婦栃木地方部会, 1998. 9.
- 17) 関谷隆夫, 小田部徹, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤 : cinememoryを用いた3次元超音波断層法の活用. 第96回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 10.
- 18) 松島 隆, 可世木久幸, 関谷隆夫, 深見武彦, 小田部徹, 小西公麿, 石原楷輔, 荒木 勤¹⁾ (¹⁾ 付属病院産婦人科) : 当科における腹腔鏡補助下腔式子宮摘出術 (LAVH) の現況. 第96回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 10.
- 19) 齊藤良明¹⁾, 太田吉男¹⁾, 大庭孝男¹⁾, 大塚俊司¹⁾, 新井 悟¹⁾, 松本光司¹⁾, 松島 隆, 塚田克也 (¹⁾ 第二病院病理部) : 腔壁原発のamelanotic melanomaの1例. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 10.
- 20) 齊藤 恵, 林 康子, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔 : 前置胎盤における超音波画像と産科出血に関する検討. 第96回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 10.

- 21) 三並伸二, 林 康子, 塚田克也, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: SLE合併妊娠の分娩について. 第12回分娩監視研究会, 1998. 10.
- 22) 小田部徹, 深見武彦, 塚田克也, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 閉経期子宮内腔の観察. 第96回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 10.
- 23) 米山剛一¹⁾, 武内 務¹⁾, 小西英喜, 黒瀬圭輔¹⁾, 土居大佑¹⁾, 太田雄治郎¹⁾, 荒木 勤⁽¹⁾ 付属病院産婦人科): Pure primary squamous cell carcinoma of the ovaryの1例. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 24) 太田雄治郎¹⁾, 米山剛一¹⁾, 土居大佑¹⁾, 武内 務¹⁾, 八田充子¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 河合尚基¹⁾, 小西英喜, 荒木 勤⁽¹⁾ 付属病院産婦人科): 子宮頸部腫瘍のfollow upにおけるHPV検出と型別判定の意義. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 25) 土居大佑¹⁾, 太田雄治郎¹⁾, 米山剛一¹⁾, 武内 務¹⁾, 小西英喜, 荒木 勤⁽¹⁾ 付属病院産婦人科): 胃癌合併妊娠3例検討. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 26) 関谷隆夫, 田口 明, 中村英世, 萩原一元, 平原史樹, 吉原 一, 住吉好雄, 安達健二, 浜田 宏: 新生児クレチン症検査におけるヨード含有消毒剤の影響. 神奈川県産婦人科医会, 1998. 10.
- 27) 関谷隆夫: 産婦人科ドブラ查の実際1. 第335回日産婦神奈川地方部会, 1998. 11.
- 28) 関谷隆夫: 産産・早産の管理. 日産婦神奈川地方部会 (平成10年度日医生涯教育講座研修会), 1998. 11.
- 29) 林 康子, 小田部徹, 関谷隆夫, 斎藤糧三, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔: 診断に苦慮した常位胎盤早期剥離の3例. 第335回日産婦神奈川地方部会, 1998. 11.
- 30) 関谷隆夫, 長田久文, 今井一夫, 甘 彰華, 高橋恒男, 萩庭一元, 渡辺英夫, 持丸文雄, 長谷川進, 西脇俊幸, 浜田 宏: 産婦人科勤務医待遇調査全国: 神奈川比較. 第335回日産婦神奈川地方部会, 1998. 12.
- 31) 斉藤 恵, 林 康子, 関谷隆夫, 可世木久幸, 小西英喜, 石原楷輔: 前置胎盤の超音波画像と産科出血に関する検討. 第336回日産婦神奈川地方部会, 1998. 12.
- 32) 三並伸二, 小田部徹, 林 康子, 小西英喜, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: 更年期外来における経腔超音波検査は有用か?. 第13回日本更年期学会, 1998. 12.
- 33) 貝原賢二, 三並伸二, 斉藤 恵, 平田昌二, 関谷隆夫, 竹下俊行¹⁾, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤⁽¹⁾ 付属病院産婦人科): 我々の行っている卵管通水左測定法. 第231回日本不妊学会関東地方部会, 1999. 2.
- 34) 黒瀬圭輔¹⁾, 江見 充²⁾, 土居大佑¹⁾, 太田雄治郎¹⁾, 米山剛一¹⁾, 小西英喜, 荒木 勤⁽¹⁾ 付属病院産婦人科, ²⁾ 老人病研究所分子生物学部門): 子宮体癌細胞におけるPTEN遺伝子体細胞変異同定による両側対立遺伝子不活化の証明. 第3回日本産婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会学術集会, 1999. 2.
- 35) 小西英喜: 子宮頸部の上皮内病変 (CINとHPV感染). 川崎市産婦人科医会研究会, 1999. 3.
- 36) 松島 隆: CINの取扱い. 川崎市産婦人科医会研究会, 1999. 3.
- 37) 塚田克也: CINの病理. 川崎市産婦人科医会研究会, 1999. 3.

[多摩永山病院産婦人科]

研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下のごとくである。

1) 妊婦とスポーツ: 妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的および精神神経的側面から幅広く研究を行っている。身体面では, 超音波パルスドブラを用いた運動中の母児の血行動態変化, 心機能変化の評価を始め, スポーツが妊娠, 分娩に与える影響, 予後を広範囲に調査している。また, 精神神経学的にも種々の感情調査に加え, β -エンドルフィン, NK活性などの測定を通じ, より科学的な側面からその変化を捉えようとしている。

2) 出生前診断: 従来より行っている羊水・絨毛染色体検査に加え, 非侵襲的な母体尿中hCG β -core fragmentによる出生前診断の可能性を検討している。

3) 周産期領域：臨床面では妊娠中毒症、子宮内胎児発育遅延に対し、超音波断層装置、生化学検査などを用いその病態生理の解明に勤め、成果をあげつつある。また、胎児、新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い、脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血再灌流傷害の関係を検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Sasaki S, Haukong B¹⁾, Isozaki T (1) 中国・山東医科大学)：IL-6 antisense oligonucleotides inhibit the growth of choriocarcinoma cell vitro. International Journal of Obstet. & Gynecol 1998；60：129-130.
- 2) 堀川佳津美¹⁾, 伊藤淳雄¹⁾, 村田正弘¹⁾, 中井章人²⁾, 三宅秀彦²⁾, 佐々木茂²⁾, 越野立夫²⁾ (1) 多摩永山病院薬剤科, 2) 多摩永山病院産婦人科)：特集：喘息 up to date：重症妊娠中毒症に伴う急性うっ血性心不全に対する心房性ナトリウム利尿ペプチド製剤 (カルペリチド[®]) の使用経験. Pharma Medica 1998；16 (5)：99-104.
- 3) 佐々木茂：早産の管理. 母性衛生 1998；39 (2)：(1) 9-14.
- 4) 梅沢勝弘, 三宅秀彦, 三田俊二, 白井文男, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫：消化管閉鎖・穿孔による著明な胎児腹水を伴った羊水過多の1例. 日産婦東京会誌 1998；47 (2)：170-174.
- 5) 中井章人, 朝倉啓文, 三宅秀彦, 越野立夫, 荒木 勤：母体運動による胎児心機能変化に関する検討. 日産婦誌 1998；50 (10)：757-764.
- 6) 藤井俊彦, 中井章人, 磯崎太一, 阿部俊之, 三宅秀彦, 三田俊二, 白井文男, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫：直腸癌術後1年で発症した原発性卵管癌の1例. 日産婦東京会誌 1998；47 (4)：570-573.
- 7) 三田俊二, 中井章人, 三宅秀彦, 磯崎太一, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫：妊娠中毒症症状を伴わない子癇様発作の1例. 日産婦東京会誌 1999；48 (1)：58-61.

(2) 綜説：

- 1) 佐々木茂：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：III.妊娠中期：76.妊娠線の予防法はあるでしょうか？. 周産期医学 1998；28 (増刊号)：174-176.
- 2) 松本譲二, 越野立夫：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：105. 帝王切開の決定にX線を撮ると言われて心配です. 周産期医学 1998；28 (増刊号)：244-245.
- 3) 越野立夫, 三宅秀彦：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：106. 胎盤機能検査で低値と言われて心配です. 周産期医学 1998；28 (増刊号)：246-247.
- 4) 松本譲二, 越野立夫：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：107. 分娩入院時の浣腸は必要なのでしょうか？. 周産期医学 1998；28 (増刊号)：248-249.
- 5) 松本譲二, 越野立夫：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：108. 会陰切開は必要でしょうか？. 周産期医学 1998；28 (増刊号)：250-251.
- 6) 越野立夫, 三宅秀彦：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：109. 分娩監視装置をつけることは必要でしょうか？. 周産期医学 1998；28 (増刊号)：252-253.
- 7) 松本譲二, 越野立夫：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：111. 呼吸法を練習していなかったのですが？. 周産期医学 1998；28 (増刊号)：256-257.
- 8) 越野立夫, 中井章人：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：112. 吸引・鉗子分娩になってしまったが心配です. 周産期医学 1998；28 (増刊号)：258-259.
- 9) 越野立夫, 中井章人：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：113. 外陰部の静脈瘤がひどいのですがお産は大丈夫でしょうか？. 周産期医学 1998；28 (増刊号)：260-261.
- 10) 越野立夫, 中井章人：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：114. 分娩誘発をす

ると言われて心配です。周産期医学 1998；28（増刊号）：262-264.

- 11) 越野立夫, 中井章人：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：117. 予定日になってもお産が始まらないのですが？. 周産期医学 1998；28（増刊号）：270-271.
- 12) 越野立夫, 横田明重：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：120. 分娩の所要時間はどれくらいかかるのでしょうか？. 周産期医学 1998；28（増刊号）：276-277.
- 13) 越野立夫, 横田明重：周産期相談300：お母さんへの回答マニュアル：産科編：V. 分娩：121. 子宮筋腫があります。帝王切時に処置するのでしょうか？. 周産期医学 1998；28（増刊号）：278-279.
- 14) 越野立夫, 中井章人：フィットネス出産へのアプローチ：マタニティエアロビクダンス（特集：フィットネス出産準備教育）. 助産婦雑誌 1998；52（11）：942-945.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Sasaki S：Pathogenesis of trophoblastic Diseases. 26th Congress of Hungarian Obstetricians & Gynecologists. (Pecs, Hungary), 1998. 4.

(2) 教育講演：

- 1) 佐々木茂：出生前診断：最近の話題. 練馬産婦人科医会, 1998. 6.
- 2) 佐々木茂：母体マーカーと出生前診断：出生前診断をめぐるバイオエシックス. 江戸川産婦人科医会, 1998. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) 中井章人, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤：妊娠高血圧における腎実質内の血流動態の変化. 第19回日本妊娠中毒症学会, 1998. 10.

(4) ワークショップ：

- 1) Flam F¹⁾, Hanckock BW²⁾, Kaern J³⁾, Sasaki S⁴⁾, Steigard SJ⁵⁾ (1) Sweden, 2) U.K., 3) Norway, 4) Japan, 5) Australia)：When to start chemotherapy for persistent mole and when to stop. IXth World Congress of Gestational Trophoblastic Diseases. (Jerusalem, Israel), 1998. 11.
- 2) Mita S：Hepatoid carcinoma of the ovary：A case report. Fifth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology. (Chiang Mai, Thailand), 1999. 1.
- 3) 越野立夫：マタニティスポーツの現状と将来：運動療法となりえるか：マタニティスポーツの現状解説. 第12回女性スポーツ医学研究会学術集会, 1998. 12.

(5) 海外留学者講演：

- 1) 中井章人：ラット脳梗塞モデルにおけるミトコンドリア機能に関する研究. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.

(6) 一般講演：

- 1) Mita S, Koshino T, Sasaki S, Maeda S¹⁾, Hosono M¹⁾ (1) Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital Pathology)：A case of hepatoid carcinoma tentatively diagnosed as adenocarcinoma of ovarian origin prior to operation based on cytologic findings of the endometrium. XIII International Congress of Cytology (Tokyo, Japan), 1998. 5.
- 2) Sasaki S, Isozaki T, Nakai A, Miyake H, Mita S, Yokota A, Koshino T：Gestational trophoblastic diseases and its clinical management in our hospital. IXth World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases (Jerusalem, Israel), 1998. 11.
- 3) 三田俊二, 中井章人, 梅沢勝弘, 磯崎太一, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤, 前田昭太郎¹⁾ (1) 多摩永山病院病理部)：子宮内膜細胞診で卵巣由来の腺癌と推定診断した卵巣原発 hepatoid carcinoma の1例. 第95回日本産

- 科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 6.
- 4) 三宅秀彦, 中井章人, 阿部俊之, 磯崎太一, 松本譲二, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤: 急性心不全を伴った重症妊娠中毒症に対する α -hANP 製剤の使用経験. 第95回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 6.
 - 5) 國重浩二, 横田明重, 大屋敦子, 白井文男, 三田俊二, 越野立夫, 荒木 勤: 前回帝王切開後に子宮破裂, 癒着前置胎盤を来し, 帝王切開に苦勞した症例. 第95回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 6.
 - 6) 弘末卓也, 大坪保雄, 澤倫太郎, 石原楷輔, 越野立夫, 荒木 勤: 免疫吸着療法にて症状の改善をみたギランバレー症候群合併妊娠の1例. 第95回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 6.
 - 7) 松本譲二, 阿部俊之, 三宅秀彦, 越野立夫, 荒木 勤: 脳梗塞既往の抗リン脂質抗体症候群妊婦の1例. 第118回日本不妊症学会関東連合地方部会, 1998. 6.
 - 8) 三田俊二, 中井章人, 藤井俊彦, 磯崎太一, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 前田昭太郎¹⁾ (1) 多摩永山病院病理部: 卵巣癌に原発したhepatoid carcinomaの1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 9) 三宅秀彦, 中井章人, 阿部俊之, 磯崎太一, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫: 重症妊娠中毒症に対する α -hANP 製剤の効果. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 10) 藤井俊彦, 磯崎太一, 中井章人, 阿部俊之, 三宅秀彦, 三田俊二, 白井文男, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫: 直腸癌術後に1年で発症した原発性卵管癌の1例. 第307回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1998. 9.
 - 11) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 澤田名美枝¹⁾, 東 敬子¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 森川記代子¹⁾, 阿部久美子¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 原 博¹⁾, 三田俊二²⁾, 越野立夫²⁾, 張 晶³⁾, 浅野伍朗³⁾, 十蔵寺新⁴⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 同産婦人科, 3) 病理第2, 4) 東府中病院産婦人科: 子宮内膜細胞診におけるセルブロック法の有用性について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 12) 斉藤由紀¹⁾, 中村 愛¹⁾, 竹内直美¹⁾, 竹本寿江¹⁾, 中井章人, 酒井和子¹⁾, 越野立夫, 荒木 勤 (1) 多摩永山病院周産期棟: 母体体重変化と周産期予後に関する検討. 第39回日本母性衛生学会総会, 1998. 10.
 - 13) 磯崎太一, 阿部俊之, 中井章人, 白井文男, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤: 帝切後難治性汎発性腹膜炎を発症し治療に苦慮した1症例. 第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 10.
 - 14) 三宅秀彦, 松本譲二, 三田俊二, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤: 術前診断が困難であった巨大子宮頸管腺腫瘍の1例. 第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1998. 10.
 - 15) 松本譲二, 三宅秀彦, 磯崎太一, 越野立夫, 荒木 勤: 原発性アルドステロン症の妊婦の1例. 第35回日本臨床生理学会総会, 1998. 10.
 - 16) 阿部俊之, 中井章人, 三田俊二, 三宅秀彦, 磯崎太一, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫: 最近見直されている疾患: 妊娠中毒症と子癇発作. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
 - 17) 三田俊二, 中井章人, 三宅秀彦, 磯崎太一, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫: 妊娠中毒症症状を伴わない子癇様発作の1例. 第308回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1998. 12.
 - 18) 近江禎子¹⁾, 飯野 治¹⁾, 横山和子¹⁾, 中井章人 (1) 多摩永山病院麻酔科, 2) 同産婦人科: 帝王切開時の臍帯動静脈血ガス分析: 母体の血圧の酸素投与の影響について. 日本麻酔学会第46回大会, 1998. 12.
 - 19) 神戸 仁, 中井章人, 大屋敦子, 山口 稔, 朝倉啓文, 越野立夫: 妊娠中の運動による感情変化と母体血中NK活性. 第12回女性スポーツ医学研究会学術集会, 1998. 12.
 - 20) 関谷伊久乃, 中井章人, 三宅秀彦, 白井文男, 三田俊二, 磯崎太一, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫: 正常2倍体の部分胞状奇胎に臍帯ヘルニアを伴った1症例. 第12回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第309回日産婦東京地方部会例会, 1999. 3.

[千葉北総病院産婦人科]

研究概要

医局の特徴は、産婦人科と新生児管理を切り離さず、母子センターとして総合的に機能させているところにある。周産期管理とそれに引き続く母児管理は、同施設内のGCU (growing care unit) において行っている。現在、周産期管理の側からみた新生児管理と新生児管理の側からみた周産期管理の相互の観点から総合的研究を始めている。また、成田国際空港にも近く、近隣地域の救命救急センターとして、核的存在ともなっており、他科と並診を余儀なくされる産婦人科救急疾患も多数存在し、産婦人科医としての救命救急医療についての研究も行っている。現在のところ、臨床的研究が主であるが、今後基礎的研究も発展させたいと考えている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shimizu Y¹⁾, Kamoi S, Amada S²⁾, Hasumi K¹⁾, Akiyama F¹⁾, Silverberg Steven G³⁾ (1) Cancer Institute Hospital, 2) Kyushu University Medical Center, 3) University Maryland Medical System) : Toward the development of a universal grading system for ovarian epithelial carcinoma. I. Prognostic significance of histopathologic features : problems involved in the architectural grading system. *Gynecol Oncol* 1998 ; 70 (1) : 2-12.
- 2) Schlesinger C¹⁾, Kamoi S, Asher Susan M²⁾, Kendell M³⁾, Lage Janice M²⁾, Silverberg Steven G³⁾ (1) City of Hope Medical Center, 2) Georgetown University Medical Center, 3) University of Maryland School of Medicine) : Endometrial polyps : a comparison study of patients receiving tamoxifen with two control groups. *Int J Gynecol Pathol* 1998 ; 17 (4) : 302-311.
- 3) 松本謙二, 平田昌二¹⁾, 三田俊二¹⁾, 竹内正也¹⁾, 佐々木茂¹⁾, 越野立夫¹⁾, 荒木 勤¹⁾ (1) 産婦人科学教室) : 腹膜神経膠腫症の1例. *日本産科婦人科学会関東連合地方部会会報* 1998 ; 35 (4) : 417-419.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 高橋 肇, 鴨井青龍, 里見操緒, 武内 務, 岩崎卓爾, 若月雅美, 河村 堯 : 子宮筋腫により術前診断が困難であった早期子宮内細胞癌の1例. *日本産科婦人科学会千葉地方部会*, 1998. 1.
- 2) 何 群¹⁾, 大秋美治¹⁾, 森 修¹⁾, 鴨井青龍, 河村 堯 (1) 千葉北総病院病理部) : 子宮内膜癌に合併した筋層内間質腫瘍の1例. 第9回日本病理協会関東支部千葉地区集会 (千葉), 1998. 3.
- 3) 松本謙二, 阿部俊之, 三宅秀彦, 越野立夫, 荒木 勤 : 脳梗塞既往の抗リン脂質抗体症候群妊婦の1例. 第118回日本不妊学会関東地方部会, 1998. 6.
- 4) 岩崎卓爾, 里見操緒, 高橋 肇, 品川志野, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 大秋美治¹⁾, 荒木 勤 (1) 千葉北総病院病理部) : 術後, 胃壁内転移をみとめた卵巣癌の1例. 第27回日本婦人科病理・コルポスコピー学会, 1998. 7.
- 5) 鴨井青龍, 大秋美治¹⁾, 高橋 肇, 河村 堯, 荒木 勤, 杉崎祐一²⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 付属病院病理部) : 子宮頸部腺癌における術前動注化学療法の病理組織学的効果判定の試み. 第27回日本婦人科病理・コルポスコピー学会学術集会, 1998. 7.
- 6) 里見操緒, 高橋 肇, 品川志野, 岩崎卓爾, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯 : OHSSに腹水再静注法を試みた1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 7) 鴨井青龍 : Immunohistochemical Distinction of Endometrial and Endocervical Adenocarcinoma : Site of Ori-

gin versus Pathway of Differentiation. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.

- 8) 岩崎卓爾, 里見操緒, 高橋 肇, 品川志野, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 大秋美治¹⁾, 荒木 勤⁽¹⁾ (千葉北総病院病理部): 胃壁内への術後転移をみとめた卵巣癌の1例. 第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1998. 10.
- 9) 里見操緒, 高橋 肇, 品川志野, 岩崎卓爾, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 荒木 勤: 腹水濾過濃縮再静注法が著効したOHSSの1例. 第96回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1998. 10.
- 10) 松本讓二, 三宅秀彦, 磯崎太一, 越野立夫, 荒木 勤: 原発性アルドステロン症の妊婦の1例. 第35回日本臨床生理学会総会, 1998. 10.
- 11) 里見操緒, 鴨井青龍, 高橋 肇, 武内 務, 岩崎卓爾, 若月雅美, 松本讓二, 河村 堯, 新井 悟¹⁾, 森修¹⁾, 大秋美治¹⁾ (1) 千葉北総病院病理部): 絨毛遺残に合併したtrophoblastic embolismの1例. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.

14. 耳鼻咽喉科学講座

[付属病院耳鼻咽喉科]

研究概要

教室の主研究テーマは、耳科学、聴覚学、平衡神経科学、免疫学、アレルギー学、頭頸部腫瘍学であるが、新たに音声言語あるいは嚥下に関する研究も始まり軌道にのりつつある。本年度は、厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究部分科会の分科会長として八木が3年目に入り、メニエール病や遅発性内リンパ水腫に関する研究がさらに加速され、3年間の総括を行った。この研究は、3年間の研究成果の評価を受け、さらに3年間の継続研究が行われる予定である。また、眼球運動の三次元解析に関する研究も、本年度は大きなソフトウェアの改良などの研究進歩があった。これらの研究の一部は、国際学会でも発表されている。また、厚生科学研究費補助金、感覚器障害研究事業として2年度目の研究が行われ、その一部が英文論文として発表されるようになった。聴覚学に関しては、耳鳴の発生機序とその治療に関する研究が大きな進歩をみせている。また、真珠腫性中耳炎の骨破壊に関与するサイトカインの研究も軌道にのってきている。免疫学では、呼吸上皮の検討や内耳での免疫応答に関する研究が、一層の展開を見せている。アレルギー学ではその基礎と免疫治療薬物治療に関する研究も引き続き積極的に行われている。また、腫瘍の増殖に関する分子生物学的研究も進行しており、その一部が学会口演や原著として発表されている。また、文部省科学研究費の基礎研究や奨励研究の研究費を得て、それぞれの分野で研究が活発に行われている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Pawankar R, Tomiyama S, Jinnouchi K, Ikezono T, Nonaka M, Yagi T : Intracellular adhesion molecule-1 expression in the inner ear following secondary immune reaction in the endolymphatic sac. 頭頸部自律神経 1998 ; 12 : 16-23.
- 2) Yao XL¹⁾, Ikezono T, Cowan M¹⁾, Logan C¹⁾, Angus CW¹⁾, Shelhamer JH¹⁾ (¹⁾ NIH, CC, CCMD) : Interferon-gamma stimulates human Clara cell secretory protein production by human airway epithelial cells. Am J Physiol 1998 ; 274 (5) : L864-869.
- 3) Pawankar R, Ra C¹⁾ (¹⁾ Juntendo University School of Medicine) : IgE-Fc epsilonRI-mast cell axis in the allergic cycle. Clin Exp Allergy 1998 ; 28 (3) : 6-14.
- 4) Okubo K, Okuda M : Time-course changes in nasal airway resistance after house dust antigen challenge : With special reference to late phase response. Allergol Int 1998 ; 47 (3) : 225-232.
- 5) Pawankar R, Suzuki K¹⁾, Okuda M, Azuma M¹⁾, Yagi T, Okumura K¹⁾, Ra C¹⁾ (¹⁾ Juntendo University School of Medicine) : Mucosal immunology of the upper airway : Reassessing the roles of mast cells and T cells in the pathogenesis of allergic rhinitis. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 1998 ; 16 (2) : 28-30.
- 6) Hano T¹⁾, Pawankar R, Nonoyama S¹⁾, Yata J¹⁾, Ra C²⁾, Nakahata T³⁾ (¹⁾ Tokyo Medical and Dental School, ²⁾ Juntendo University School of Medicine, ³⁾ Tokyo University Medical Research Center) : Human mast cells produce IL-13 by high-affinity IgE receptor cross-linking : Enhanced IL-13 production by IL-4-primed human mast cells. J Allergy Clin Immunol 1998 ; 102 (3) : 491-502.
- 7) Kobayashi H¹⁾, Okayama Y¹⁾, Ishizuka T¹⁾, Pawankar R, Ra C²⁾, Mori M¹⁾ (¹⁾ Gunma University School of Medicine, ²⁾ Juntendo University School of Medicine) : Production of IL-13 by human lung mast cells in response to Fcepsilon receptor cross-linkage. Clin Exp Allergy 1998 ; 28 (10) : 1219-1227.

- 8) Pawankar R, Azuma M¹⁾, Okuda M, Ra C¹⁾, Okumura K¹⁾ (1) Juntendo University School of Medicine) : Heterogeneity of nasal and peripheral blood gamma-delta T cells in allergic rhinitis. *Kr J Rhinology* 1998 ; 5 (2) : 21-23.
- 9) Yagi T, Hatano G¹⁾, Morizono T²⁾ (1) 新松戸中央病院, 2) 静岡済生会総合病院) : Role of dorsal neck proprioceptive inputs to vestibular compensation in humans. *J Nippon Med Sch* 1998 ; 65 : 291-297.
- 10) Ohkubo K, Baraniuk JN¹⁾, Hohman R²⁾, Merida M¹⁾, Hersh LB³⁾, Kaliner MA⁴⁾ (1) Georgetown University, 2) Oncor, Inc., 3) University of Kentucky, 4) Washington Hospital Center) : Aminopeptidase activity in human nasal mucosa. *J Allergy Clin Immunol* 1998 ; 102 (10) : 741-750.
- 11) Nonaka M, Pawankar R, Saji F, Yagi T : Effect of Roxythromycin on IL-8 synthesis and proliferation of nasal polyp fibroblasts. *Acta Otolaryngol* 1998 ; 539 : 71-75.
- 12) Ohkubo K, Ikeda M, Pawankar R, Goto M, Yagi T, Okuda M : Mechanisms of IL-6, IL-8, and GM-CSF release in nasal secretions of allergic patients after nasal challenge. *Rhinology* 1998 ; 36 (4) : 156-161.
- 13) Kurosaki S, Otsuka H, Kunitomo M, Pawankar R : Fibroin allergy : IgE mediated hypersensitivity to silk suture materials. *J Nippon Med Sch* 1998 ; 66 (1) : 41-45.
- 14) Nakamizo M, Pawankar R, Ohkubo K : Presence of endothelin-1 in human salivary glands and tumors. *J Nippon Med Sch* 1998 ; 65 (6) : 471-477.
- 15) Pawankar R, Tomiyama S, Jinnouchi K, Ikezono T, Nonaka M, Yagi T : Intercellular adhesion molecule-1 expression in the inner ear of rats following secondary immune reaction in the endolymphatic sac. *Acta Otolaryngol (suppl)* 1998 ; 539 : 5-12.
- 16) Yagi T, Kamura E, Shitara A : Three-dimensional analysis of pressure nystagmus in labyrinthine fistulae. *Acta Otolaryngol* 1999 ; 119 : 150-153.
- 17) Okubo K, Pawankar R, Goto M, Yagi T : Adhesive explant culture of allergic nasal mucosa : Effect of emedastine difumarate, an anti-allergic drug. *Jpn J Pharmacol* 1999 ; 79 (3) : 351-357.
- 18) 馬場俊吉, 渡邊健一, 神尾友信, 八木聰明 : 予後からみた突発性難聴. *Audiol Jpn* 1998 ; 41 : 107-111.
- 19) 八木聰明, 大山義雄, 嘉村恵理子, 設楽明子, 粉川隆行, 阿部 聡¹⁾, 西辻順一¹⁾ (1) アレイ) : 新しい眼球運動三次元解析システムについて. *耳喉頭頸* 1998 ; 70 : 241-247.
- 20) 森園徹志 : 静岡県下過去7年間の花粉飛散と患者動向について. *臨床と研究* 1998 ; 75 : 2238-2239.
- 21) 渡邊健一, 神尾友信, 大河原大次, 馬場俊吉, 八木聰明 : 高度感音難聴症例における歪成分耳音響放射. *耳鼻* 1998 ; 44 : 229-232.
- 22) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明 : 線維芽細胞の増殖及びサイトカイン産生に対するマクロライドの影響について. *頭頸部自律神経* 1998 ; 12 : 56-59.
- 23) 八木聰明 : 加齢と難聴. *産婦人科治療* 1998 ; 76 : 1002-1006.
- 24) Nonaka M, Pawankar R, Saji F, Yagi T : Effects of macrolide antibiotics on fibroblasts. *Jpn J Antibiot* 1998 ; 51 : 112-115.
- 25) 大橋和史¹⁾, 大須賀恵美子¹⁾, 新 博次²⁾, 加藤貴雄²⁾, 小原俊彦²⁾, 神谷達司³⁾, 坂本静樹³⁾, 小林正文⁴⁾, 三宅一昌⁴⁾, 猪口孝一⁴⁾, 岩切勝彦⁴⁾, 吉村明修⁵⁾, 篠田欣也⁵⁾, 日比野俊⁵⁾, 大久保公裕, 子島 潤⁶⁾, 平野公成⁷⁾, 岸田俊雄, 吉村頼彦, 清野雄治, 原 春喜, 水谷 元, 辻出清和, 川口政良, 井上晃一, 窪田博明, 大北理子, 大内博英, 川北範夫, 田中茂樹, 宮本都男, 江面晶男, 天沼秀一, 柳沢憲一, 岡田達典, 小作 寛, 浜島 啓 (1) 臨床薬理センター, 2) 第1内科, 3) 第2内科, 4) 第3内科, 5) 第4内科, 6) 集中治療室, 7) 薬剤部) : 直接閲覧実施上の問題点の調査と分析: 模擬モニタリング, 監査より. *臨床薬理* 1998 ; 29 (3) : 457-470.
- 26) 八木聰明 : 前庭性眼球運動とその三次元解析. *都医師会誌* 1998 ; 51 : 75-80.

- 27) 八木聰明：めまいと眼振三次元解析. 医学のあゆみ 1998 ; 186 : 208-209.
- 28) 大久保公裕, 後藤 稔, 八木聰明, 田中 晃¹⁾, 吉田博一¹⁾, 馬場廣太郎¹⁾, 鈴木重剛, 大橋晋吾, 服部康夫, 滝沢竜太, 大塚博邦, 頼 徳成, 添野真一, 島田早苗, 野中玲子, 小坂和己, 青木秀治, 市川菊乃²⁾, 目沢朗憲³⁾, 関はるみ⁴⁾, 大西正樹⁵⁾, 鈴木香代⁶⁾, 佐地富砂子⁶⁾, 上野博史⁶⁾, 池田雅一⁷⁾, 富山俊一⁸⁾, 岩瀬朗子⁹⁾, 関根啓一¹⁰⁾, 島田 均¹¹⁾, 鶴窪一行¹²⁾ (1) 獨協医大, 2) 同愛記念病院, 3) 博慈会記念病院, 4) 関耳鼻科, 5) 大西耳鼻科, 6) 海老名総合病院, 7) 下谷病院, 8) 大宮中央総合病院, 9) 太田福島総合病院, 10) 本島総合病院¹¹⁾ つるくぼ耳鼻科) : スギ花粉症 (1995年) におけるペミロラストカリウム (アレギサル^R) の臨床効果の検討. 耳鼻 1998 ; 44 (4) : 376-389.
- 29) 大久保公裕, 後藤 稔 : アレルギー性鼻炎に対する減感作療法のインフォームドコンセント. 耳鼻 1998 ; 44 (4) : 396-400.
- 30) 渡邊健一, 鈴木香代, 小坂和己, 岩崎智治, 野中玲子, 野中 学, 青木秀治, 八木聰明 : 日本医科大学付属千葉北総病院におけるめまい外来の統計的検討. 耳喉頭頸 1998 ; 70 : 435-438.
- 31) 高橋光明¹⁾, 富山俊一 (1) 旭川医大) : モルモット内リンパ囊の抗原排除能. 日耳鼻 1998 ; 101 (9) : 1088-1092.
- 32) 富山俊一, 陣内 賢, 池園哲郎, Pawankar R, 八木聰明 : 内耳自己免疫病 : 細胞性免疫との関係. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 1998 ; 16 (2) : 164-165.
- 33) 渡邊健一, 野中 学, 小坂和己, 嘉村恵理子, 青木秀治, 八木聰明, 大秋美治¹⁾ (1) 北総病院病理部) : 外耳道骨部に発生した母斑細胞母斑の1例. 耳鼻 1998 ; 44 : 335-337.
- 34) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明 : 鼻腔線維芽細胞の特殊性 : Lipopolysaccharide に対する反応について. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 1998 ; 16 (2) : 62-63.
- 35) 佐地富砂子, 野中 学, Pawankar R, 八木聰明 : 鼻茸線維芽細胞からの RANTES 産生. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 1998 ; 16 (2) : 64-65.
- 36) 大久保公裕, Pawankar R, 後藤 稔, 八木聰明 : アレルギー鼻粘膜 adhesive explant culture. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 1998 ; 16 (2) : 94-95.
- 37) 八木聰明 : 回旋性眼振の定量的評価. Clin Neurosci 1998 ; 16 : 952-953.
- 38) 陣内 賢, 中溝宗永, 横島一彦, 渡邊健一, 後藤 稔, 矢嶋裕徳, 大河原大次 : 耳下腺上皮性腫瘍の臨床統計的考察. 耳喉頭頸 1998 ; 70 (9) : 589-593.
- 39) 渡邊健一, 神尾友信, 大河原大次, 馬場俊吉, 八木聰明 : 機能性難聴症例における歪成分耳音響放射. 耳鼻 1998 ; 44 : 675-678.
- 40) 八木聰明 : 眼球運動三次元解析の重要性. 耳鼻臨床 1998 ; 91 : 873-879.
- 41) 大久保公裕, 藤田洋祐¹⁾, 奥田 稔 (1) 藤田耳鼻咽喉科医院) : アレルギー性鼻炎に対する薬物治療 : Symptom-Medication Score による評価. アレルギーの領域 1998 ; 5 (11) : 15-23.
- 42) 渡邊健一, 嘉村恵理子, 小坂和己, 野中玲子, 鈴木香代, 野中 学, 青木秀治, 八木聰明 : 日本医科大学付属千葉北総病院における鼓室形成術の検討. 日医大誌 1998 ; 65 : 382-386.
- 43) 横島一彦, 山岸茂夫, 後藤 稔, 大久保公裕, 奥田 稔, 八木聰明 : ハウスダスト鼻アレルギーの減感作療法における増量法についての検討. 耳喉頭頸 1998 ; 70 (11) : 722-727.
- 44) 矢嶋裕徳, 横島一彦, 陣内 賢, 中溝宗永, 富山俊一, 土佐真美子¹⁾, 百束比古¹⁾, 杉崎祐一²⁾ (1) 形成外科, 2) 病理部) : 多発性対称性脂肪腫の1症例. 耳喉頭頸 1998 ; 70 (12) : 839-842.
- 45) 大久保公裕, 奥田 稔, 八木聰明, 大塚博邦, 今野昭義¹⁾, 藤田洋祐¹⁾, 石井豊太²⁾, 宇佐神篤³⁾, 馬場駿吉⁴⁾, 坂倉康夫⁵⁾, 生駒尚秋⁶⁾, 石川 暁⁷⁾, 信太隆夫⁸⁾ (1) 千葉大, 2) 国立相模原病院, 3) 県西部浜松医療センター, 4) 名古屋市大, 5) 三重大, 6) 鳥取大, 7) 熊本大, 8) 日本臨床アレルギー研究所) : スギ花粉症に対するプルラン結合アレルギーによる免疫療法. アレルギー科 1998 ; 6 (6) : 485-493.

- 46) 高橋光明¹⁾, 富山俊一⁽¹⁾ 旭川医大): 内リンパ水腫作成動物の対側内耳の変化. *Otol Jpn* 1998; 8 (5): 521-525.
- 47) 奥田 稔, 八木聰明, 大久保公裕, 野中 学, 後藤 稜, 大塚博邦, 後藤裕一, 森山 寛¹⁾, 遠藤朝彦¹⁾, 今井 透¹⁾, 山口龍二¹⁾, 濱田幸雄¹⁾, 石井哲夫²⁾, 三田奈保子²⁾, 荒牧 元²⁾, 石井香澄²⁾, 大谷裕美子²⁾, 伊藤光子²⁾, 山本信和³⁾, 小田明子³⁾, 臼井信郎⁴⁾, 原俊彰⁴⁾, 石塚洋一⁵⁾, 小川明⁶⁾, 大沼秀行⁶⁾, 森田一郎⁶⁾, 調所廣之⁷⁾ (1) 慈恵医大, 2) 東京女子医大, 3) 河北総合病院, 4) 東邦大, 5) 帝京大, 6) 国家公務員等共済組合連合会総合病院, 7) 関東労災病院): NR-03カプレットのアレルギー性鼻炎に対する臨床的検討. *Prog Med* 1999; 19 (1): 137-149.
- 48) 嘉村恵理子, 八木聰明: Off vertical axis rotationによる眼球運動の三次元解析. *日耳鼻* 1999; 102: 42-49.
- 49) 大久保公裕: スギ花粉症に対する新しい免疫療法. *治療* 1999; 81 (増刊): 579-583.
- 50) 横島一彦, 中溝宗永, 後藤 稜, 陣内 賢, 矢嶋裕徳: 上咽頭癌に対する手術法 Maxillary swing approach の経験. *耳喉頭頸* 1999; 71 (2): 123-126.
- 51) 後藤 稜: プラディキニン鼻誘発反応におけるアンジオテンシン変換酵素の関与: 正常者と鼻アレルギー患者の比較. *日耳鼻* 1999; 102: 218-225.
- 52) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明: 鼻腔線維芽細胞からの RANTES 産生: 気道の他の部位の線維芽細胞との違い. *日鼻誌* 1999; 38 (1): 53-58.
- 53) 大久保公裕, Pawankar R, 奥田 稔: プルラン結合スギ抗原と T 細胞反応. *アレルギー・免疫* 1999; 6 (2): 72-76.
- 54) 山岸茂夫, 横島一彦, 中溝宗永, 相原康孝, 池園弘美, 馬場俊吉, 八木聰明: 両側顔面神経麻痺を主訴とした HIV 感染症の 1 例. *耳喉頭頸* 1999; 71 (3): 167-169.
- 55) 大久保公裕: 鼻アレルギーの発症機序から見た難治化の要因. *アレルギーの臨床* 1999; 19 (3): 17-21.
- (2) 綜説:
- 1) Pawankar R: Reassessing the role of mast cells and T cells in the pathogenesis of allergic rhinitis. *Kr J Rhinology* 1999; 6 (1): 10-17.
 - 2) Pawankar R, Yamagishi S, Takizawa R, Okuda M, Yagi T: Novel integrated roles of mast cells in allergic rhinitis and its relation to IgE. *日鼻誌* 1999; 38 (1): 159-168.
 - 3) 大久保公裕: 鼻粘膜のペプチド分解酵素. *耳喉頭頸* 1998; 70 (9): 549-556.
 - 4) 八木聰明: 耳鳴り・難聴. *BRAIN* 1998; 53: 2-3.
 - 5) 大久保公裕: 病院での花粉症の治療. *Prog Med* 1998; 18 (12): 2807-2811.
 - 6) 大久保公裕: アレルギー疾患の治療ガイドライン (鼻アレルギー (含花粉症) の診断と治療の使い方. *耳鼻* 1998; 43 (3): 403-405.
 - 7) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎の基礎と臨床. *診断と治療* 1999; 87 (2): 275-281.
 - 8) Pawankar R: アレルギー性疾患の病因: 肥満細胞と $\gamma\delta$ T 細胞の新たな役割について. *感染 炎症 免疫* 1999; 29 (1): 10-19.
 - 9) 大久保公裕: 小児科境界領域のアレルギー性鼻炎の診断と治療. *小児内科* 1999; 31 (3): 371-375.
- (3) 研究報告書:
- 1) 八木 聰明, Pawankar R, 池園哲郎, 馬場俊一, 相原康孝: Immune regulation in inner ear diseases: Alteration in lymphocyte profile. 厚生省特定疾患 前庭機能異常調査研究分科会 平成10年度報告書 1999; pp13-14.
 - 2) 八木聰明, 大久保公裕, 池園哲郎, 高橋光明¹⁾, 山下敏夫²⁾, 渡辺行雄³⁾, 久保 武⁴⁾ (1) 旭川医大, 2) 関西医大, 3) 富山医薬大, 4) 大阪大): 遅発性内リンパ水腫患者の発症機序の免疫学的考察 (ウシ内耳抗原との反応). 厚生省特定疾患 前庭機能異常調査研究分科会 平成10年度報告書 1999; pp10-12.

- 3) 八木聰明, 池園哲郎, Pawankar R, 富山俊一, 石崎正通¹⁾, 大久保公裕, 相原康孝, 陣内 賢¹⁾ 第1病理): リンパ球受け身移入による自己免疫性迷路炎: リンパ球の内耳へのホーミング. 厚生省特定疾患 前庭機能異常調査研究分科会 平成10年度報告書 1999; pp15-17.
- 4) 高橋光明¹⁾, 富山俊一¹⁾ 旭川医大): 内リンパ水腫作成動物における内耳自己抗体の検討. 厚生省特定疾患 前庭機能異常調査研究分科会 平成10年度報告書 1999; pp33-36.
- 5) 富山俊一, 陣内 賢, 池園哲郎, Pawankar R, 八木聰明: 実験的自己迷路炎: 細胞性免疫発症機序について. 厚生省特定疾患 前庭機能異常調査研究分科会 平成10年度報告書 1999; pp72-76.
- 6) 富山俊一: 実験的自己免疫迷路炎: 血清自己抗体. 厚生省特定疾患 前庭機能異常調査研究分科会 平成10年度報告書 1999; pp77-81.
- 7) 富山俊一: 実験的自己免疫迷路炎: 内耳自己抗体の免疫組織化学的検討. 厚生省特定疾患 前庭機能異常調査研究分科会 平成10年度報告書 1999; pp82-85.

著 書

- 1) Pawankar R: [分担] Nasal mucosal immune system: Roles of mast cells and T cells as effector and immunoregulatory cells. *Immunity* (ed. G.P.Talwaj), 1998; pp472-479, Monduzzi Editore.
- 2) Okuda M, Otsuka H, Kawabori S¹⁾, Ohnishi M, Sakaguchi K²⁾, Ohkubo K, Pawankar R, Seki H³⁾, Yokoshima K, Ra C¹⁾ (¹⁾ Asahikawa Medical School, ²⁾ Sakaguchi ENT clinic, ³⁾ Seki ENT clinic): [分担] Nasal mast cell heterogeneity. *The Nose* (edr. P.Gaowenberge et al), 1998; pp21-25, Kuglar Publications.
- 3) Okuda M, Ohkubo K, Miura I¹⁾ (¹⁾ Japan Athma and Allergy Clinic): [分担] Mast cell stabilizers for the treatment of allergic rhinitis. *The Nose* (edr. P.Gaowenberge et al), 1998; pp285-289, Kugler publications.
- 4) Pawankar R: [分担] A review of the scientific sessions of SERIN. *UCB Newsletter*, 1998; pp1-5, *Excerpta Medica*.
- 5) Pawankar R: [分担] Allergic rhinitis: diagnosis and pathophysiology. *Practice in Otolaryngology* (ed. V.P.dood et al), 1999; pp81-90, *Mrittika International*.
- 6) Pawankar R, Sood V¹⁾ (¹⁾ Sood ENT Clinic): [分担] Pathogenesis of nasal polyps. *Practice in Otolaryngology* (ed. V.P.dood et al), 1999; pp42-49, *Mrittika International*.
- 7) 八木聰明: [分担] 当科におけるめまい・慢性中耳炎の診断と治療. *めまい・慢性中耳炎の診断と治療*, 1998; pp76-83, 新興交易医学出版部.
- 8) 八木聰明: [分担] CCDカメラを用いて眼振をどのように解析するか. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニカルトレンドII* (野村茶也ほか編), 1998; pp118-119, 中山書店.
- 9) 大久保公裕: [分担] Q36血管収縮薬はどう使うのですか. *アレルギー診療のちょっとしたコツ* (中村武正編), 1998; pp100-102, 日本医学出版.
- 10) 大久保公裕: [分担] Q37減感作(免疫)療法の位置づけについて教えて下さい. *アレルギー診療のちょっとしたコツ* (中村武正編), 1998; pp103-105, 日本医学出版.
- 11) 大久保公裕: [分担] Q38手術はどのようなときに考えるのですか. *アレルギー診療のちょっとしたコツ* (中村武正編), 1998; pp106-108, 日本医学出版.
- 12) 大久保公裕, Pawankar R, 奥田 稔, 八木聰明: [分担] ヒト鼻粘膜上皮層におけるの preproendothelin 発現. 気道壁の病態 Pathogenesis of airway wall: 第10回気道病態シンポジウム (泉 孝英編), 1998; pp7-11, *メディカルジャーナル社*.
- 13) 大久保公裕: [分担] サイトカイン, ケモカイン産生細胞としての鼻粘膜上皮細胞3) エンドセリン (鼻アレルギーと鼻粘膜上皮細胞). 第3回那須ティーチン記録集 (今野服義編), 1998; pp50-58, 日本アレルギー協会.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Pawankar R : Pathogenesis of allergic rhinitis. Association of the Indian College of Allergologists (New Delhi, India), 1998. 11.
- 2) Pawankar R : Regulation of allergic inflammation by mast cells. Allergy Series, Institute of Allergy (Brussels, Belgium), 1998. 11.
- 3) Pawankar R : Recent advances in the diagnosis and management of allergic rhinitis. Special Lecture : All India Institute of Medical Sciences (New Delhi, India), 1998. 11.
- 4) Yagi T : Three dimensional analysis of the vestibular related eye movements. Special Lecture in Hangang, Sacred Hospital, Hallym University, 1998. 12.
- 5) Pawankar R : Allergic rhinitis : The concept of localized allergy. Korean Rhinology Society, Seoul National University (Seoul, Korea), 1999. 2.
- 6) Pawankar R : Roles of gamma delta T cells in allergy. Kyung Hee University (Seoul, Korea), 1999. 2.
- 7) Pawankar R : Cytokines in Allergic Rhinitis and Sinusitis. St. Lukes Medical Centre (Manila, Philippines), 1999. 2.
- 8) Pawankar R : アレルギー性—鼻炎における免疫応答. 第12回熊本鼻過敏症研究会, 1998. 7.
- 9) 八木聡明 : めまい診断と眼球運動記録. 第80回日本耳鼻咽喉科学会宮崎県地方部会, 1998. 12.
- 10) 富山俊一 : 内耳免疫 : 基礎と臨床. 第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1999. 3.

(2) 招待講演：

- 1) Tomiyama S : An animal model of autoimmune inner ear disease. 5th International Academic Conference of Immunobiology on Otolaryngology, Rhinology, and Laryngology (Cienna, Italy), 1998. 10.
- 2) Pawankar R : Evidence for local IgE synthesis : Roles for nasal mast cells in the induction of IgE. The 3rd Symposium on Experimental Rhinology and Immunology of the Nose (Ghent, Belgium), 1998. 11.
- 3) Pawankar R : Update on Allergic Rhinitis. 18th International Symposium on Allergy & Infection of the Nose (Manila, Philippines), 1999. 2.
- 4) 大久保公裕, 後藤 穰, 奥田 稔 : スギ花粉症に対するメガネ, マスクの実験的効果. 第9回日光カンファレンス, 1998. 6.
- 5) 富山俊一 : 内耳免疫機構と内耳免疫障害 : 特に前庭障害について. 第17回日本平衡神経学会専門会員の会勉強会, 1998. 7.
- 6) 大久保公裕 : サイトカイン, ケモカイン産生細胞としての鼻粘膜上皮細胞 3) エンドセリン. 第3回那須ティーチン, 1998. 7.
- 7) 大久保公裕 : 鼻アレルギーの診断と治療. 深谷市, 大里郡医師会学術講演会, 1998. 10.
- 8) 大久保公裕 : 鼻アレルギーの診断と治療. 北埼玉群日本医師会生涯教育講座, 1998. 10.
- 9) 大久保公裕 : アレルギー疾患ガイドライン. 東京都耳鼻咽喉科医学会学術講演会, 1999. 1.
- 10) 大久保公裕 : 空中浮遊スギ花粉の動態と実験的スギ花粉予防. 第3回スギ花粉症講演会, 1999. 1.
- 11) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の最近の知見. いわき市医師会耳鼻咽喉科部会研究会, 1999. 1.
- 12) 大久保公裕 : in vivo, ex vivoにおける鼻粘膜アレルギー反応. 熊本県医師会学術講演会, 1999. 1.
- 13) 大久保公裕 : 花粉症の基礎と臨床について. 柏地区医師会学術講演会, 1999. 2.
- 14) 大久保公裕 : 花粉症の基礎と臨床. 福岡市内科医会学術講演会, 1999. 2.
- 15) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の病態と治療. 第59回徳島県耳鼻咽喉科医会, 1999. 2.
- 16) Pawankar R : アレルギー性疾患の病因 : 肥満細胞の新たな役割について. Dermatology Forum, 1999. 3.

(3) 教育講演：

1) 大久保公裕：点鼻用アレルギー用剤の使い方について：専門家からの意見。第10回薬物治療研究会，1999. 2.

(4) シンポジウム：

- 1) Pawankar R, Yamagishi S, Detpithak N¹⁾, Okuda M, Yagi T (¹⁾ Kawila Hospital) : Novel roles for mast cells in the pathogenesis of allergic rhinitis. The Third Asian Research Symposium in Rhinology (Nagoya, Japan), 1998. 8.
 - 2) Cho JS¹⁾, Pawankar R, Cha C¹⁾ (¹⁾ Kyung Hee University School of Medicine) : Functional Heterogeneity of nasal mucosal gamma-delta T cells. The 3rd Symposium on Experimental Rhinology and Immunology of the Nose (Genr, Belgium), 1998. 11.
 - 3) Pawankar R : Mucosal Immunity : Nasal mucosal immune system. 10th International Congress of International Immunology Society (New Delli, India), 1998. 11.
 - 4) Pawankar R, Yamagishi S, Detpithak N¹⁾, Yagi T (¹⁾ Nippon Medical School, ²⁾ Kawila Hospital) : Nasal mast cells in perennial allergic rhinitis express increased levels of beta 1 integrins. 4th Asian Research Symposium in Rhinology (Manila, Phillipines), 1999. 2.
 - 5) Pawankar R, : Local IgE synthesis and its functional significance in allergic rhinitis. 18th International Symposium on Allergy & Infection of the Nose (Manila, Phillipines), 1999. 2.
 - 6) Ra C¹⁾, Pawankar R, Nishiyama C¹⁾ (¹⁾ Juntendo University School of Medicine) : Mast cell a conductor of allergic inflammation. Allergy Forum (Tokyo, Japan), 1998. 7.
 - 7) Pawankar R, Okuda M, Yagi T : Characteristics and roles of nasal mast cells in allergic rhinitis. 第37回日本鼻科学会総会，1998. 10.
 - 8) Kobayashi T¹⁾, Okayama Y¹⁾, Ishizuka T¹⁾, Pawankar R, Ra C²⁾, Mori M¹⁾ (¹⁾ Gunma University School of Medicine, ²⁾ Juntendo University School of Medicine) : Production of IL-13 in lung mast cells. Symposium in Asthma (Sendai, Japan), 1999. 2.
 - 9) 大久保公裕，後藤 稔，Pawankar R：鼻粘膜ロイコトリエン受容体と拮抗薬の臨床効果。第10回日本アレルギー学会春期臨床大会，1998. 4.
 - 10) 大久保公裕，Pawankar R，後藤 稔，奥田 稔：プルラン結合アレルギーンによる免疫療法-modified allergen-。第10回日本アレルギー学会春期臨床大会，1998. 4.
 - 11) Pawankar R：アレルギー性鼻炎鼻粘膜における肥満細胞の新たな役割。第3回ARIS研究会，1998. 9.
 - 12) 大久保公裕，山岸茂夫，後藤 稔，奥田 稔，八木聡明：下鼻甲介粘膜高周波電気凝固術。第37回日本鼻科学会総会（第27回鼻科学臨床問題懇話会），1998. 10.
 - 13) 大久保公裕，Pawankar R，奥田 稔：鼻粘膜アレルギー反応：in vivo, ex vivo. 第11回気道病態シンポジウム，1999. 1.
 - 14) 大久保公裕，Pawankar R，奥田 稔：アレルギー性鼻炎の発症機序と抗アレルギー薬の効果発現機序。第72回日本薬理学会年会，1999. 3.
 - 15) 後藤 稔，大久保公裕：各種環境下の浮遊スギ花粉粒子の動態。第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，1999. 3.
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 後藤 稔：当科アレルギー外来における患者動態。第33回東海耳鼻咽喉科アレルギー懇話会，1999. 1.
- (6) セミナー：
- 1) Pawankar R : Versatile roles of mast cells in allergic diseases. 第3回アレルギー研究会，1998. 4.
 - 2) Pawankar R¹⁾, Ra C²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, ²⁾ Juntendo University School of Medicine) : Pathogenesis of allergic rhinitis. A localized disease. 第10回Seminar in Allergy and Immunology, Juntendo University

School of Medicine, 1998. 6.

- 3) 大久保公裕：直接閲覧に必要なカルテの見方：耳鼻咽喉科．日本医科大学公開講座，1998. 5.
 - 4) 大久保公裕：直接閲覧に必要なカルテの見方（第2回）：耳鼻咽喉科．日本医科大学公開講座，1998. 7.
 - 5) 大久保公裕：鼻アレルギー．板橋区薬剤師会研修会，1998. 10.
 - 6) 大久保公裕：鼻アレルギーの診断と治療．足立区薬剤師会研修会，1998. 11.
- (7) ワークショップ：
- 1) 大久保公裕：鼻粘膜のSPと分解酵素NEP．第1回SP研究会，1998. 6.
- (8) 一般講演：
- 1) Pawankar R, Okuda M, Yssel H¹⁾, Ra C²⁾, Okumura K²⁾ (¹⁾ DNAX Research Institute, ²⁾ Juntendo University School of Medicine) : Nasal mast cells in perennial allergic rhinitis express increased levels of the Fc epsilon RI and can induce IgE synthesis in B cells. 8th International Congress of Rhinology & 17th ISIAN (Manila, Philippines), 1998. 7.
 - 2) Nonaka M, Pawankar R, Saji F, Yamagishi S, Yagi T : Eotaxin synthesis by nasal fibroblasts. 10th International Congress of Rhinology, 1998. 7.
 - 3) Yagi T, Kamura E, Shitara A : 3D analysis of pressure nystagmus in labyrinthine fistulae. Collegium ORLAS (Copenhagen, Denmark), 1998. 8.
 - 4) Yamagishi S, Ohnishi M, Pawankar R, Nonaka M, Ohkubo K, Goto M : IL-1 and TNF-alpha mediated regulation of IL-6, IL-8 and GM-CSF release from cultured nasal epithelial cells. The Third Asian Research Symposium in Rhinology, 1998. 8.
 - 5) Sueng Guen Y¹⁾, Cho JS¹⁾, Pawankar R, Cha C¹⁾ (¹⁾ Kyung Hee University School of Medicine) : Functional Heterogeneity of peripheral and nasal mucosal gamma-delta T cells in allergic rhinitis. The Third Asian Research Symposium in Rhinology, 1998. 8.
 - 6) Yagi T, Kamura E, Shitara A : 3D analysis of the eye movements during OVAR. Satellite Symposium to the 20th Meeting of the Barany Society (Wergang, Germany), 1998. 9.
 - 7) Yagi T, Shitara A, Kamura E : Three dimensional analysis of otolith ocular reflex. 20th Meeting of the Barany Society (Wergang, Germany), 1998. 9.
 - 8) Ikezono T¹⁾, Tomiyama S, Pawankar R, Jinnouchi K, Suzuki Y¹⁾, Kosaka K, Yagi T (¹⁾ Iseaki Municipal Hospital) : Passive transfer of the autoimmune labyrinthitis. 5th International Academic Conference on Immunobiology in Otolaryngology, Rhinology and Laryngology (Gienna, Italy), 1998. 10.
 - 9) Nakamizo M, Pawankar R, Jinnouchi K, Yokoshima K, Yajima H, Yagi T : Expression of tryptase in benign and malignant tumors of the salivary glands. 1st World Congress on Head and Neck Oncology (Madrid, Spain), 1998. 12.
 - 10) Cho JS¹⁾, Pawankar R, Kim SW¹⁾ (¹⁾ Kyung Hee University School of Medicine) : Peripheral blood and sinus mucosa T cells in allergic patients. 4th Asian Research Symposium in Rhinology (Manila, Philippines), 1999. 2.
 - 11) Pawankar R, Azuma M¹⁾, Matsuda H¹⁾, Okuda M, Ra C¹⁾, Okumura K¹⁾ (¹⁾ Juntendo University School of Medicine) : Specificity of nasal gamma-delta T cells in perennial allergic rhinitis. 第48回日本アレルギー学会総会，1998. 12.
 - 12) Pawankar R, Takizawa R, Goto M, Goto Y, Okubo K, Nonaka M, Yamagishi S, Otsuka H, Okuda M, Yagi T : Effect of pullulan immunotherapy on nasal T cell cytokine profile, mast cells and lymphocytes. 第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，1999. 3.
 - 13) 山岸茂夫, 大西正樹, 野中 学, Pawankar R, 後藤 穰, 大久保公裕, 八木聰明：中和抗体（抗TNF-a抗体,

- 抗IL-1b抗体, 抗IL-1a抗体)が鼻粘膜上皮細胞のサイトカイン産生に及ぼす影響. 第10回日本アレルギー学会
春期臨床大会, 1998. 4.
- 14) 滝沢竜太, 森園徹志, 日賀一成, 佐々木徹¹⁾, 矢島 洋²⁾ (1) 静岡済生会総合病院, 2) 矢島耳鼻咽喉科医院):
茶による鼻アレルギー症例の検討. 第54回日耳鼻静岡県地方部会, 1998. 4.
 - 15) 佐々木徹¹⁾, 滝沢竜太, 森園徹志, 日賀一成, 原田 努¹⁾, 植田 洋²⁾ (1) 静岡済生会総合病院, 2) 浜松医科大学):
内頸動脈瘤の1例. 第54回日耳鼻静岡県地方部会, 1998. 4.
 - 16) 池園哲郎, 富山俊一, Pawankar R, 陣内 賢, 鈴木 豊¹⁾, 小坂和巳, 八木聰明 (1) 伊勢崎市民病院): 自己
免疫性内耳炎の受け身移入. 第99回日本耳鼻咽喉科学会総会, 1998. 5.
 - 17) 陣内 賢, 富山俊一, Pawankar R, 池園哲郎, 八木聰明: 蝸牛内エンドセリン変換酵素の分布. 第99回日本
耳鼻咽喉科学会総会, 1998. 5.
 - 18) 富山俊一, 池園哲郎, 陣内 賢, Pawankar R, 八木聰明: 内耳自己免疫病: 臓器特異的抗原性の実験動物で
の検討. 第99回日本耳鼻咽喉科学会総会, 1998. 5.
 - 19) 後藤 稔, Pawankar R, 大久保公裕, 八木聰明: スギ花粉症患者の血管透過性・腺分泌の変化: プラディキ
ニン, メサコリン誘発による反応性について. 第99回日本耳鼻咽喉科学会総会, 1998. 5.
 - 20) 長谷川俊史¹⁾, Pawankar R, 田代紀陸¹⁾, 古川 漸¹⁾, 奥村 康²⁾, 羅 智靖²⁾ (1) 山口大, 2) 順天堂大): ヒ
ト血小板における高親和性IgE受容体 (Fc ϵ RI) の機能. 第101回日本小児科学会学術集会, 1998. 5.
 - 21) 森園徹志, 植田尚男¹⁾, 滝沢竜太, 橋本泰幸²⁾, 日賀一成 (1) 植田耳鼻咽喉科医院, 2) 静岡済生会総合病院):
1998年春のスギ・ヒノキ科花粉飛散状況. 第99回日耳鼻総会, 1998. 5.
 - 22) 中溝宗永, 横島一彦, 後藤 稔, 陣内 賢, 矢嶋裕徳, 八木聰明: 上咽頭に対する手術法: Maxillary Swing
Approachの経験. 第22回日本頭頸部腫瘍学会, 1998. 6.
 - 23) 山岸茂夫, 横島一彦, 中溝宗永, 相原康孝, 池園弘美, 馬場俊吉, 八木聰明: 両側顔面神経麻痺を主訴とした
HIV感染症の1例. 第21回顔面神経研究会, 1998. 6.
 - 24) 神尾友信, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聰明: バンドノイズマスキによる耳鳴抑制効果とDPOAEの変化. 第
18回耳鳴研究会, 1998. 7.
 - 25) 佐々木徹¹⁾, 森園徹志, 滝沢竜太, 日賀一成, 矢島 洋¹⁾ (1) 静岡済生会総合病院, 2) 矢島耳鼻咽喉科医院):
1998年春のスギ・ヒノキ科花粉飛散状況. 第55回日耳鼻静岡県地方部会, 1998. 7.
 - 26) 滝沢竜太, 森園徹志, 日賀一成, 佐々木徹¹⁾, 佐宗春美¹⁾, 野口 愷²⁾ (1) 静岡済生会総合病院, 2) 野口耳鼻咽
喉科医院): 咽頭に穿孔をきたし縦隔炎に進展した急性咽頭炎の1症例. 第55回日耳鼻静岡県地方部会, 1998. 7.
 - 27) 中溝宗永, 横島一彦, 後藤 稔, 陣内 賢, 矢嶋裕徳, 笹島耕二¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 八木聰明 (1) 第1外科): 縦
隔気管孔形成を行った下咽頭・頸部食道癌の3症例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 8.
 - 28) 青柳美生, 三枝英人, 秋山秀子¹⁾, 新美成二²⁾, 八木聰明 (1) 第2内科, 2) 東大音声言語医学): 嚥下のリハビ
リテーションが有効であった構音障害の1例. 第128回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会, 1998. 9.
 - 29) 森園徹志, 後藤 稔, 佐々木徹¹⁾, 島田健一 (1) 静岡済生会総合病院): 上顎洞腺様嚢胞癌術後の問題点. 第7
回静岡県頭頸部腫瘍研究会, 1998. 9.
 - 30) 今島直俊, 相原康孝, 大久保公裕, 八木聰明: 過去3年間の術後性頬部嚢腫の検討. 第129回日本耳鼻咽喉科学
会東京都地方部会, 1998. 10.
 - 31) 中溝宗永, Pawankar R, 陣内 賢, 横島一彦, 矢嶋裕徳, 八木聰明: 唾液腺腫瘍におけるTNF α の発現. 第
36回日本癌治療学会, 1998. 10.
 - 32) 秋元利香, Pawankar R, 八木聰明, 馬場俊吉: 先天性及び後天性真珠腫におけるTNF- α とICAM-1の発現.
第8回日本耳科学会, 1998. 10.
 - 33) 馬場俊吉, 渡邊健一, 神尾友信, 八木聰明: 突発性難聴の予後因子と周波数の検討. 第43回日本聴覚医学会,
1998. 10.

- 34) 神尾友信, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聰明: RIの有無とマスク後効果との関係. 第43回日本聴覚医学会, 1998. 10.
- 35) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明: 鼻腔線維芽細胞のEotaxin産生. 第37回日本鼻科学会総会, 1998. 10.
- 36) 佐地富砂子, 野中 学, Pawankar R, 八木聰明: 培養線維芽細胞のケモカイン (RANTES) 産生. 第37回日本鼻科学会総会, 1998. 10.
- 37) 島田健一, 森園徹志, 後藤 稔, 佐々木徹¹⁾ (1) 静岡済生会総合病院): 異所性耳下腺の1例. 第56回日耳鼻静岡県地方部会, 1998. 10.
- 38) 佐々木徹¹⁾, 森園徹志, 滝沢竜太, 日賀一成, 荒木圭介²⁾ (1) 静岡済生会総合病院, 2) 浜松医科大学): 顎下腺扁平上皮癌の2症例. 第56回日耳鼻静岡県地方部会, 1998. 10.
- 39) 矢嶋裕徳, 相原康孝, 佐久間文子¹⁾, 八木聰明 (1) 神尾記念病院): 一側内耳機能廃絶者に対する下肢, 体幹筋への振動刺激による重心動揺. 第57回日本平衡神経科学会, 1998. 11.
- 40) 設楽明子, 嘉村恵理子, 八木聰明: 傾斜刺激 (rollとpitch) による眼球運動の三次元解析. 第57回日本平衡神経科学会, 1998. 11.
- 41) 矢嶋裕徳, 中溝宗永, 横島一彦, 後藤 稔, 三枝英人, 渡邊健一, 八木聰明, 相原 薫¹⁾, 杉崎祐一²⁾ (1) 中央電頭, 2) 病理部): 下咽頭悪性線維性組織球腫の1例. 第50回日本気管食道科学会, 1998. 11.
- 42) 八木聰明, 嘉村恵理子, 設楽明子: 圧迫眼振の三次元解析から見た半規管の機能軸. 第57回日本平衡神経科学会, 1998. 11.
- 43) 大久保公裕, Pawankar R: アレルギー抗原誘発とエンドセリンの発現の関連性. 第48回日本アレルギー学会総会, 1998. 12.
- 44) 山地健人¹⁾, 中村 伸²⁾, 常松雅子¹⁾, 永井博武³⁾, 大久保公裕, 角尾 肇¹⁾ (1) 明治乳業研究所, 2) 京大霊長研, 3) 岐阜薬大): サル花粉症モデル: その作出および減感作用ペプチドのin vitro反応性検討. 第48回日本アレルギー学会総会, 1998. 12.
- 45) 後藤 稔, Pawankar R, 大久保公裕: スギ花粉症患者の鼻粘膜上皮層擦過片中NEPの変化. 第48回日本アレルギー学会総会, 1998. 12.
- 46) 長谷川俊史¹⁾, Pawankar R, 田代紀陸¹⁾, 古川 漸¹⁾, 奥村 康²⁾, 羅 智靖²⁾ (1) 山口大, 2) 順天堂大): ヒト血小板における高親和性IgE受容体 (FcεRI) の機能の検討. 第48回日本アレルギー学会総会, 1998. 12.
- 47) 横島一彦, 中溝宗永, 矢嶋裕徳, 山岸茂夫, 陣内 賢, 八木聰明: 根治治療を目的に転院した頭頸部悪性腫瘍患者の検討. 第9回日本頭頸部外科学会, 1999. 1.
- 48) 中溝宗永, 横島一彦, 陣内 賢, 矢嶋裕徳, 山岸茂夫, 粉川隆行, 中嶋博史, 八木聰明: 頭頸部再建における遊離皮弁移植の成績. 第9回頭頸部外科学会, 1999. 1.
- 49) 長谷川純, 愛野威一郎, 三枝英人, 横島一彦, 八木聰明, 宮本雅史¹⁾, 元文芳和¹⁾, 金田和容¹⁾ (1) 整形外科): Forestier病の1例. 第130回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会, 1999. 1.
- 50) 小津千佳, 山岸茂夫, 池園弘美, 木下俊之¹⁾, 相原康孝, 八木聰明 (1) 北村山公立病院): 当院における顔面神経麻痺症例の統計学的検討. 第130回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会, 1999. 1.
- 51) 森園徹志, 矢島 洋¹⁾ (1) 矢島耳鼻咽喉科医院): 背部・頸部に発生した腹壁外デスマイオイドの1例. 第9回日本頭頸部外科学会, 1999. 1.
- 52) 八木聰明, 嘉村恵理子, 設楽明子: ヒトOVARによる眼球運動の三次元解析: 耳石機能と頭位変化に伴うめまい検査の再評価. 第17回静岡県耳鼻咽喉科アレルギー 1999. 2.
- 53) 森園徹志: 1998年春のスギ花粉飛散と患者動向について. 第17回静岡県耳鼻咽喉科アレルギー研究会, 1999. 2.
- 54) 池園哲郎, Pawankar R, 富山俊一, 石崎正通¹⁾, 大久保公裕, 相原康孝, 陣内 賢, 八木聰明 (1) 第1病理): 自己免疫性内耳炎: recipientマウスの内耳の組織学的変化. 第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会,

1999. 3.

- 55) 中溝宗永, Pawankar R, 横島一彦, 矢嶋裕徳, 粉川隆行, 中嶋博史, 八木聰明: 唾液腺腫瘍におけるトリプターゼの発現. 第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1999. 3.
- 56) 大久保公裕, 池園哲郎, 富山俊一, 八木聰明, 久保 武¹⁾, 渡辺行雄²⁾, 高橋光明³⁾, 友田幸一⁴⁾ (1) 大阪大, 2) 富山医科薬科大, 3) 旭川医大, 4) 金沢医大): 遅発性内リンパ水腫患者血清中の内耳抗原に対する抗体の存在. 第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1999. 3.
- 57) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明: 鼻副鼻腔線維芽細胞からのRANTES産生: 他の部位の線維芽細胞との比較. 第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1999. 3.

[第二病院耳鼻咽喉科]

研究概要

基礎的研究はアレルギーの発生機序について行われ, 肥満細胞とそれから遊離されるケミカル・メディエーターについて研究が進んでいる. 臨床的研究はアレルギーのほか, 平衡神経学, 耳科学など耳鼻咽喉科学の広範囲にわたり, 症例報告も下咽頭梨状窩瘻, 内頸動脈瘤, 蝶形洞髄膜脳瘤, 外耳道骨部の母斑細胞母斑などまれな症例を経験した. 今後の課題として研究室のより有効な活用法の検討や, 老人病研究所との共同研究が可能であると考えている. また, 来年度末で閉校となる丸子看護専門学校校舎の活用法は, 法人と協議して進めていかなければならない.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Otuka H, Kusumi T, Kanai S¹⁾, Koyama M, Kuno Y, Takizawa R (1) Toray Reserch Centre): Stem cell factor mRNA expression and production in human nasal epithelial cells: Contribution to the accumulation of mast cells in the nasal epithelium of allergy. J Allergy Clin Immunol 1998; 102 (5): 757-764.
- 2) Fujikura T, Otuka H: Monocyte Chemotactic and Activating Factor/Monocyte Chemoattractant Protein 1-Mediated Histamin Release From Human Nasal Mucosa. Arch Otolaringol Head Neck Surg 1998; 124 (12): 1334-1335.
- 3) Kurosaki S, Otsuka H, Kunitomo M, Koyama M, Pawankar R, Matsumoto K¹⁾ (1) Department of Pathology, Nippon Medical School): Fibroin allergy: IgE mediated hypersensitivity to silk suture materials. J Nippon Med Sch 1999; 66 (1): 41-44.
- 4) 渡邊健一, 鈴木香代, 小坂和己, 岩崎智治, 野中玲子, 野中 学, 青木秀治, 八木聰明: 日本医科大学附属千葉北総病院におけるめまい外来の統計的検討. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 1998; 70 (7): 435-438.
- 5) 渡邊健一, 野中 学, 小坂和己, 嘉村恵理子, 青木秀治, 八木聰明, 大秋美治¹⁾ (1) 千葉北総病院病理部): 外耳道骨部に発生した母斑細胞母斑の1例. 耳鼻と臨床 1998; 44 (4): 335-337.
- 6) 大久保公裕, 後藤 穰, 八木聰明, 田中 晃¹⁾, 吉田博一¹⁾, 馬場廣太郎¹⁾, 鈴木重剛, 大橋吾吾, 服部康夫, 滝沢竜太, 大塚博邦, 頼 徳成, 添野真一, 島田早苗, 野中玲子, 小坂和己, 青木秀治, 市川菊乃²⁾, 目沢朗憲³⁾, 関はるみ⁴⁾, 大西正樹⁵⁾, 鈴木香代⁶⁾, 佐治真砂子⁶⁾, 上野博史⁶⁾, 池田雅一⁷⁾, 富山俊一⁸⁾, 岩瀬朗子⁹⁾, 関根啓一¹⁰⁾, 島田 均¹¹⁾, 鶴窪一行¹²⁾ (1) 獨協医科大学附属病院耳鼻咽喉科気管食道科, 2) 同愛記念病院耳鼻咽喉科, 3) 博慈会記念総合病院耳鼻咽喉科, 4) 関耳鼻咽喉科医院, 5) 大西耳鼻咽喉科, 6) 海老名総合病院耳鼻咽喉科, 7) 下谷病院耳鼻咽喉科, 8) 大宮中央総合病院耳鼻咽喉科, 9) 太田福島総合病院耳鼻咽喉科, 10) 関根クリニック, 11) 本島総合病院耳鼻咽喉科, 12) つるくほ耳鼻咽喉科): スギ花粉症 (1995年) におけるペミロラストカリウム (アレグサール) の臨床効果の検討. 耳鼻と臨床 1998; 44 (4): 376-389.

- 7) 大塚博邦, 國友万由美: 鼻アレルギーおよび花粉症の診断における試験管内IgE測定の意義について. 日本鼻科学会誌 1998; 37 (2): 32-37.
 - 8) 渡邊健一, 嘉村恵理子, 小坂和己, 野中玲子, 鈴木香代, 野中 学, 青木秀治, 八木聰明: 日本医科大学付属千葉北総病院における鼓室形成術の検討. 日医大誌 1998; 65 (5): 32-36.
 - 9) 木下俊之, 斎藤明彦¹⁾, 粉川隆行 (¹⁾ 北村山公立病院耳鼻咽喉科): 頸部リンパ節結核の1症例. 北村山病医誌 1998; 3 (1): 79-81.
 - 10) 奥田 稔, 八木聰明, 大久保公裕, 野中 学, 後藤 穰, 大塚博邦, 後藤裕一: NR-03カプレットのアレルギー性鼻炎に対する臨床的検討. ライフサイエンス・メディカ 1998; 19: 137-149.
- (2) 総説:
- 1) 大塚博邦: 鼻抗原誘発テストの診断意義. アレルギーの領域 1998; 5: 47-57.
 - 2) 大塚博邦: スギ花粉症の対策. Medical Practice 1998; 19: 2154-2155.
 - 3) 大塚博邦: 鼻茸総論. Excerpta Medica Newsletter Allergy Update 1999; 11: 1-7.

学会発表

- (1) 特別講演:
- 1) 青木秀治: めまいの外来診療. 川崎市耳鼻咽喉科医学会学術講演会, 1999. 1.
- (2) 一般講演:
- 1) 滝沢竜太, 森園徹志¹⁾, 日賀一成, 佐々木徹¹⁾, 矢島 洋²⁾ (¹⁾ 静岡済生会総合病院耳鼻咽喉科, ²⁾ 静岡市): 茶による鼻アレルギー症例の検討. 日本耳鼻咽喉科学会第54回静岡県地方部会, 1998. 4.
 - 2) 佐々木徹¹⁾, 森園徹志¹⁾, 滝沢竜太, 日賀一成, 橋本泰幸²⁾, 原田 努³⁾ (¹⁾ 静岡済生会総合病院耳鼻咽喉科, ²⁾ 沼津市立病院耳鼻咽喉科, ³⁾ 静岡済生会総合病院脳神経外科): 内頸動脈瘤の1例. 日本耳鼻咽喉科学会第54回静岡県地方部会, 1998. 4.
 - 3) 嘉村恵理子, 渡邊健一, 小坂和己, 野中 学, 青木秀治: 日本医科大学付属千葉北総病院における鼓室形成術の検討. 第49回日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会, 1998. 6.
 - 4) 佐々木徹¹⁾, 森園徹志¹⁾, 滝沢竜太, 日賀一成, 矢島 洋²⁾, 静岡県花粉症調査委員会 (¹⁾ 静岡済生会総合病院耳鼻咽喉科, ²⁾ 静岡市): 1998年春のスギ・ヒノキ科花粉飛散状況. 日本耳鼻咽喉科学会第55回静岡県地方部会, 1998. 7.
 - 5) 小坂和己, 野中 学, 渡邊健一, 嘉村恵理子, 青木秀治, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾ (¹⁾ 日本医大脳神経外科): 蝶形骨洞髄膜脳瘤の1例. 第37回日本鼻科学会, 1998. 10.
 - 6) 青木秀治, 嘉村恵理子, 黒崎貞行: めまい検査としての重心動揺検査の臨床的意義について—同一検査日に行った眼球運動検査の所見から—. 第57回日本平衡神経科学会, 1998. 11.
 - 7) 木下俊之, 斎藤明彦¹⁾ (¹⁾ 北村山公立病院耳鼻咽喉科): 下咽頭梨状窩瘻による急性化膿性甲状腺炎の1症例. 日本耳鼻咽喉科学会山形県地方部会第80回例会, 1998. 12.
 - 8) 藤倉輝道: 鼻粘膜におけるCC Chemokine mRNAの発現と抑制. 第48回日本アレルギー学会総会, 1998. 12.
 - 9) 藤倉輝道, 秋元理香, 佐地富砂子: 鼻粘膜におけるCC Chemokine mRNA発現へのエバスタチンの影響. 第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1999. 3.

[多摩永山病院耳鼻咽喉科]

研究概要

頭頸部領域の穿刺吸引細胞診の有用性と応用についての検索
扁桃前後のアプノメーターによる呼吸動態について

鼻疾患の手術前後における呼吸動態についての研究
呼吸器粘膜の傷害修復過程における細胞増殖動態の研究

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 内木場庸子¹⁾，千葉 隆¹⁾，村上由加里¹⁾，向後俊昭¹⁾，吉田 豊¹⁾，戸田茂樹¹⁾，松本正博²⁾，志村俊郎²⁾，鳥田早苗，山本 鼎³⁾ (1) 多摩永山病院小児科，(1) 同脳神経外科，(3) 放射線科)：副鼻腔炎に続発した，化膿性髄膜炎，硬膜下膿瘍の1例。小児耳鼻咽喉科 1998；19 (2)：28-30.
- 2) 三枝英人，豊田雅基，頼 徳成，添野真一，鳥田早苗，後藤 穰，八木聰明，新美成二¹⁾ (1) 東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室)：フィブリン糊による喉頭直達鏡下遊離粘膜移植術。日気食会報 1998；49 (6)：502-507.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 頼 徳成，町野 満，服部康夫，鳥田早苗：挿管によるラット気管粘膜 傷害の修復過程における細胞増殖動態 (第2報)。第99回日本耳鼻咽喉科学会総会，学術講演会，1998. 5.
- 2) 豊田雅基，頼 徳成，鳥田早苗，服部康夫：傷害とその再生に関する実験的研究 (第2報)。第37回日本鼻科学会総会，学術講演会，1998. 10.

[千葉北総病院耳鼻咽喉科]

研究概要

耳科学，聴覚学，平衡神経学，アレルギー学を中心に臨床にそくした研究が行われている。聴覚学では突発性難聴の臨床経過，耳鳴の発生機序とマスクによる治療や客観的評価の研究が進んでいる。平衡神経学では重心動揺計を用いた平衡機能検査，めまい外来の統計など臨床を中心にした研究と基礎研究として眼球運動の三次元解析を付属病院と共同で行っている。耳科学では開院以来の鼓室形成術の術後成績をまとめた。アレルギー学ではマクロライド抗生物質の線維芽細胞に対する影響など組織培養を中心に基礎的研究を行っている。また，文部省科学研究の基礎研究費を得てアレルギーの研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nonaka M, Pawankar R¹⁾, Saji F¹⁾, Yagi T¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科)：Effect of Roxithromycin on IL-8 Synthesis and Proliferation of Nasal Polyp Fibroblasts. Acta Otolaryngol (Stockh) Suppl 1998；539：71-75.
- 2) Pawankar R¹⁾, Tomiyama S¹⁾, Jinnouchi K¹⁾, Ikezono T¹⁾, Nonaka M, Yagi T¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科)：Intercellular Adhesion Molecule-1 Expression in the Inner Ear of Rats following Secondary Immune Reaction in the Endolymphatic Sac. Acta Otolaryngol (Stockh) Suppl 1998；539：5-14.
- 3) Pawankar R¹⁾，富山俊一¹⁾，陣内 賢¹⁾，池園哲朗¹⁾，野中 学，八木聰明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科)：Intracellular Adhesion Molecule-1 Expression in the Inner Ear Following Secondary Immune Reaction in the Endolymphatic Sac. 自律神経 1998；12 (1)：16-23.

- 4) Toshiaki Y¹⁾, Eriko K, Shitara A¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科) : Three-Dimensional Analysis of Pressure Nystagmus in Labyrinthine Fistulae. Acta Otolaryngol (Stockh) 1999 ; 119 : 150-153.
- 5) 八木聰明¹⁾, 大山義雄²⁾, 嘉村恵理子, 設楽明子¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 阿倍 聡³⁾, 西辻順一³⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科, 2) 伊勢崎市民病院耳鼻咽喉科, 3) アレイ株式会社) : 新しい眼球運動三次元解析システムについて. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 1998 ; 70 (4) : 241-247.
- 6) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科) : 線維芽細胞の増殖及びサイトカイン産生に対するマクロライドの影響について. 自律神経 1998 ; 12 (1) : 56-59.
- 7) 馬場俊吉, 渡邊健一, 神尾友信, 八木聰明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科) : 予後からみた突発性難聴. Audiology Japan 1998 ; 41 (3) : 107-111.
- 8) 渡邊健一, 鈴木香代, 小坂和己, 岩崎智治, 野中玲子, 野中 学, 青木秀治, 八木聰明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科) : 日本医科大学千葉北総病院におけるめまい外来の統計的検討. 耳喉頭頸 1998 ; 70 (7) : 435-438.
- 9) 渡邊健一, 神尾友信, 大河原大次¹⁾, 馬場俊吉, 八木聰明²⁾ (1) 神尾記念病院, 2) 付属病院耳鼻咽喉科) : 高度感音難聴症例における歪成分耳音響放射. 耳鼻と臨床 1998 ; 44 : 229-232.
- 10) 渡邊健一, 野中 学, 小坂和己, 嘉村恵理子, 青木秀治, 八木聰明¹⁾, 大秋美治²⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科, 2) 千葉北総病院病理部) : 外耳道骨部に発生した母班細胞母班の1例. 耳鼻と臨床 1998 ; 44 (4) : 335-337.
- 11) 野中 学, Pawankar R¹⁾, 佐地富砂子¹⁾, 八木聰明¹⁾ (1) 日本医大付属病院耳鼻咽喉科) : 鼻腔線維芽細胞の特殊性 : Lipopolysaccharide に対する反応について. 耳鼻免疫アレルギー 1998 ; 16 (2) : 62-63.
- 12) 佐地富砂子¹⁾, 野中 学, Pawankar R¹⁾, 八木聰明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科) : 鼻茸線維芽細胞からの RANTES 産生. 耳鼻免疫アレルギー 1998 ; 16 (2) : 64-65.
- 13) 陣内 賢¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 渡邊健一, 後藤 稔¹⁾, 矢嶋裕徳¹⁾, 大河原大次²⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科, 2) 神尾記念病院) : 耳下腺上皮性腫瘍の臨床統計的考察. 耳喉頭頸 1998 ; 70 (9) : 589-593.
- 14) 渡邊健一, 嘉村恵理子, 小坂和己, 野中玲子, 鈴木香代, 野中 学, 青木秀治, 八木聰明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科) : 日本医科大学附属千葉北総病院における鼓室形成術の検討. 日医大誌 1998 ; 65 (5) : 382-386.
- 15) 渡邊健一, 神尾友信, 大河原大次¹⁾, 馬場俊吉, 八木聰明²⁾ (1) 神尾記念病院, 2) 付属病院耳鼻咽喉科) : 機能的難聴症例における歪成分耳音響放射. 耳鼻と臨床 1998 ; 44 : 675-678.
- 16) 奥田 稔¹⁾, 八木聰明²⁾, 大久保公裕²⁾, 野中 学, 後藤 稔²⁾, 大塚博邦³⁾, 後藤裕一³⁾, 森山 寛⁴⁾, 遠藤朝彦⁴⁾, 今井 透⁵⁾, 山口龍二⁵⁾, 濱田幸雄⁵⁾, 石井哲夫⁶⁾, 三田奈保子⁶⁾, 荒牧 元⁷⁾, 石井香澄⁷⁾, 大谷裕美子⁷⁾, 伊藤光子⁸⁾, 山本信和⁹⁾, 小田明子⁹⁾, 白井信郎¹⁰⁾, 原 俊彰¹⁰⁾, 石塚洋一¹¹⁾, 小川 明¹²⁾, 大沼秀行¹²⁾, 森田一郎¹²⁾, 調所廣之¹³⁾ (1) 日本臨床アレルギー研究所, 2) 日本医大付属病院耳鼻咽喉科, 3) 日本医大付属第二病院耳鼻咽喉科, 4) 慈恵医大付属病院耳鼻咽喉科, 5) 大森赤十字病院耳鼻咽喉科, 6) 東京女子医大病院耳鼻咽喉科, 7) 東京女子医大第二病院耳鼻咽喉科, 8) 至誠会第二病院耳鼻咽喉科, 9) 河北総合病院耳鼻咽喉科, 10) 東邦医大付属大橋病院, 11) 帝京大学付属溝口病院耳鼻咽喉科, 12) 国家公務員等共済組合連合会総合病院三宿病院耳鼻咽喉科, 13) 関東労災病院耳鼻咽喉科) : NR-03カプレットのアレルギー性鼻炎に対する臨床的検討. Prog Med 1999 ; 19 (1) : 137-149.
- 17) 嘉村恵理子, 八木聰明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科) : Off Vertical Axis Rotation による眼球運動の三次元解析. 日本耳鼻咽喉科学会会報 1999 ; 102 (1) : 42-49.

(2) 綜説 :

- 1) 馬場俊吉 : 耳内異物, 鼻内異物の除去. 治療 1998 ; 80 (11) : 3030-3033.
- 2) 野中 学, 八木聰明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科) : 急性中耳炎と内耳障害. 専門医通信 1998 ; 57 : 12-13.

著 書

- 1) 馬場俊吉 : [共著] 耳鳴り. 耳鼻咽喉科日常診療の手引き, 1998 ; pp19-24, 臨床医薬研究協会.

- 2) 馬場俊吉：〔分担〕メニエール病。家庭医学館，1999；pp1141-1143，小学館。
- 3) 馬場俊吉：〔分担〕内耳炎/ウイルスによる内耳障害。家庭医学館，1999；pp1143-1143，小学館。
- 4) 馬場俊吉：〔分担〕Residual Inhibition。耳鳴の検査，1999；pp69-79，金原出版。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 馬場俊吉：突発性難聴。東京都耳鼻咽喉科医会学術講演会，1999。1。

(2) 一般講演：

- 1) Nonaka M, Pawankar R¹⁾, Saji F¹⁾, Yamagishi S¹⁾, Yagi T¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科)：Eotaxin Synthesis by Nasal Polyp Fibroblasts. 10th Congress of International Rhinologic Society (Austria), 1998. 7.
- 2) Yamagishi S¹⁾, Ohnishi M¹⁾, Pawankar R¹⁾, Nonaka M, Okubo K¹⁾, Gotoh M¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科)：IL-1 and TNF- α -mediated Regulation of IL-6, IL-8, and GM-CSF Release from Cultured Nasal Epithelial Cells. The Third Asian Research Symposium in Rhinology (Japan), 1998. 8.
- 3) 斎藤明彦¹⁾, 後藤 稔¹⁾, 山岸茂夫¹⁾, 岩崎智治¹⁾, 野中 学, 大久保公裕¹⁾, 八木聡明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科)：平成5～8年度のアレルギー外来統計。第40回臨床アレルギー研究会，1998。5。
- 4) 嘉村恵理子, 渡邊健一, 小坂和己, 野中 学, 青木秀治：日本医科大学付属千葉北総病院における鼓室形成術の検討。第49回千葉県地方部会，1998。6。
- 5) 神尾友信, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聡明：バンドノイズマスクによる耳鳴抑制とDPOAEの変化。耳鳴研究会，1998。7。
- 6) 馬場俊吉, 渡邊健一, 神尾友信, 八木聡明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科)：突発性難聴の予後因子と周波数の検討。第43回日本聴覚医学会，1998。10。
- 7) 神尾友信, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聡明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科)：RIの有無とマスク後効果との関係。第43回日本聴覚医学会，1998。10。
- 8) 野中 学, Pawankar R¹⁾, 佐地富砂子¹⁾, 八木聡明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科)：鼻腔線維芽細胞のEotaxin産生。第37回日本鼻科学会総会，1998。10。
- 9) 佐地富砂子¹⁾, 野中 学, Pawankar R¹⁾, 八木聡明¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科)：培養線維芽細胞のケモカイン(RANTES)産生。第37回日本鼻科学会総会，1998。10。
- 10) 小坂和己, 野中 学, 渡邊健一, 嘉村恵理子, 青木秀治, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾ (1) 千葉北総病院脳神経外科)：蝶形洞髄膜脳瘤の1例。第37回日本鼻科学会総会，1998。10。
- 11) 野中玲子, 小坂和己, 嘉村恵理子, 野中 学, 馬場俊吉：扁桃により血中IgAと尿中IL-6値が改善したIgA腎症の1症例。第50回千葉県地方部会，1998。11。
- 12) 嘉村恵理子, 神尾友信, 小坂和己, 野中玲子, 野中 学, 馬場俊吉：外耳道血管腫の1例。第51回千葉県地方部会，1999。2。
- 13) 野中 学, Pawankar R¹⁾, 佐地富砂子¹⁾, 八木聡明¹⁾ (1) 日本医大付属病院耳鼻咽喉科)：鼻・副鼻腔線維芽細胞からのRANTES産生：他の部位の線維芽細胞との比較。第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，1999。3。
- 14) Pawankar R¹⁾, Takizawa R¹⁾, Gotoh M¹⁾, Okubo K¹⁾, Gotoh Y²⁾, Nonaka M, Yamagishi S¹⁾, Otsuka H²⁾, Okuda M³⁾, Yagi T¹⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科, 2) 第二病院耳鼻咽喉科, 3) 日本臨床アレルギー研究所)：Effect of Pullulan Immunotherapy on Nasal T Cell Cytokine Profile, Mast Cells and Lymphocytes. 第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，1999。3。

15. 泌尿器科学講座

[付属病院泌尿器科]

研究概要

泌尿器科学講座では泌尿器腫瘍学，尿路結石学，尿路神経学，泌尿器内視鏡学，男性学（Andrology），腎移植学，婦人科的泌尿器科学，血液浄化療法を中心に研究を行っている。

1) 泌尿器腫瘍学：Cytokeratin19 fragmentの尿路腫瘍における腫瘍マーカーとしての意義，ヒト泌尿器腫瘍細胞内におけるメタルチオネインおよび金属結合蛋白質の役割，ヒト泌尿器腫瘍の遺伝子治療の基礎的検討，尿路上皮内癌に対するBCG注入療法，浸潤性尿路腫瘍に対する手術療法・化学療法を中心とした集学的治療，QOLを重視した尿路変向術，前立腺癌に対する早期発見，手術療法・ホルモン療法を中心に研究している。

2) 尿路結石学：腎結石，尿管結石に対する体外衝撃波結石破碎術，経尿道的結石碎石術など臨床的研究を行っている。

3) 尿路神経学：前立腺肥大症に対する α blockerの早期臨床効果，排尿障害自覚症状スコアの各種排尿障害に対する有用性，排尿障害患者に対するPressure flow studyの有用性について検討し，臨床応用している。

4) 泌尿器内視鏡学：前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺切除術法，極細尿管鏡，腹腔鏡下手術の有用性について研究している。さらに，尿路疾患に対する細径プローブ超音波診断装置の開発を行っている。

5) 男性学（Andrology）：基礎的には雄ラットの性行動における勃起活動のモニタリングを，臨床的には勃起障害の病態と治療についての研究を行っている。

6) 腎移植学：ブタ腎のヒトへの異種移植に関する基礎的検討を行っている。

7) 婦人科的泌尿器科学：腹圧性尿失禁に対する薬物療法を中心とした保存的療法について検討している。

8) 血液浄化療法：腎機能障害者に対する血液透析の造影剤除去効率の検討，様々な疾患に対する血液浄化療法の有用性について臨床的検討を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ierino FL¹⁾, Yamada K, Hatch T¹⁾, Sachs DH¹⁾ (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Mechanism of tolerance to class I- mismatched renal allografts in miniature awinw : Regulation of interleukin-2 receptor alpha-chain expression on CD8 peripheral blood lymphocytes of tolerant animals. Transplantation 1998 ; 66 (4) : 454-460.
- 2) Coignoul PF¹⁾, Menard MT¹⁾, Alexandre GP¹⁾, Franssen C¹⁾, Meurisse M¹⁾, Van Calster P¹⁾, Coignoul F¹⁾, Mawulawde K¹⁾, Choo JK¹⁾, Yamada K, Erhorn AE¹⁾, Slisz JK¹⁾, Chiotellis P¹⁾, Aretz HT¹⁾, Sachs DH¹⁾, Madsen JC (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Creation of the thymoheart allograft : Implantation of autologous thymus into the heart prior to procurement.. Transplantation 1998 ; 66 (6) : 810-814.
- 3) Allan JS¹⁾, Slisz JK¹⁾, Vesga L¹⁾, Arn JS¹⁾, Yamada K, Sachs DH¹⁾, Madsen JC¹⁾ (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Enhanced efficacy of repeated anti- CD8 monoclonal antibody therapy by high-dose cyclosporine treatment.. Transplantation Proc. 1998 ; 30 (8) : 4062-4063.

- 4) Menard MT¹⁾, Yamada K, Mawlawde K¹⁾, Lambright D¹⁾, Choo JK¹⁾, Erborn AE¹⁾, Slisz J¹⁾, Chiotellis P¹⁾, Sachs DH¹⁾, Madsen JC¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Thymoheart creation and transplantation in miniature swine. *Surgical Forum* 1998 ; 360-362.
- 5) Ohgaki K, Iida A¹⁾, Kasumi F²⁾, Sakamoto G³⁾, Akimoto M, Nakamura Y⁴⁾, Emi M¹⁾ (¹⁾ Dep. of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, ²⁾ Dep. of Surgery, Cancer Institute, ³⁾ Dep. of Pathology, Cancer Institute, ⁴⁾ Laboratory of Molecular Medicine, Institute of Medical Science, University of Tokyo) : Mapping of a New Target Region of Allelic Loss to a 6-cM Interval at 21q21 in Primary Breast Cancers. *GENES* 1998 ; 23 : 244-247.
- 6) Hamasaki T, Hattori T, Kimura G, Nakazawa N¹⁾ (¹⁾ Dep. of Pathology, Nippon Medical School) : Tumor progression and expression of matrix metalloproteinase-2 (MMP-2) mRNA by human urinary bladder cancer cells. *Urol Res* 1998 ; 26 : 371-376.
- 7) He Q¹⁾, Ohaki Y¹⁾, Mori O¹⁾, Asano G²⁾, Tsuboi N (¹⁾ Dep. of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Dep. of Pathology, Nippon Medical School) : A case report of renal cell tumor in a 45-year-old female mimicking lower portion nephrogenesis. *Pathology International* 1998 ; 48 : 249-251.
- 8) Ierino FL¹⁾, Yamada K, Hatch T¹⁾, Rembert J¹⁾, Sachs DH¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Peripheral tolerance to class I mismatched renal allografts in miniature swine : Donor antigen-activated PBL from tolerant swine inhibit anti-donor CTL reactivity. *Journal of Immunology* 1999 ; 162 (1) : 550-559.
- 9) Kovlowski T¹⁾, Shimizu A¹⁾, Lambright D¹⁾, Yamada K, Fuchimoto Y¹⁾, Glaser R¹⁾, Monroy R¹⁾, Xu Y¹⁾, Awwad M¹⁾, Colvin RB¹⁾, Cosimi AB¹⁾, Robson SC¹⁾, Fishman J¹⁾, Spitzer TR¹⁾, Cooper DK¹⁾, Sachs DH (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Porcine kidney and heart transplantation in baboons undergoing a tolerance induction regimen and antibody adsorption. *Transplantation* 1999 ; 67 (1) : 18-30.
- 10) Osawa S, Terashima Y, Kimura G, Akimoto M : Antitumor effects of the angiogenesis inhibitor AGM-1470 on rat urinary bladder tumours induced by N-butyl-N- (4-hydroxybutyl) nitrososamine. *British Journal of Urology* 1999 ; 83 (1) : 123-128.
- 11) Kondo Y, Yanagiya T¹⁾, Himeno S¹⁾, Yamabe Y¹⁾, Schwartz D²⁾, Akimoto M, Lazo JS²⁾, Imura N¹⁾ (¹⁾ Department of Public Health, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato University, ²⁾ Department of Pharmacology, School of Medicine and the Molecular Therapeutics Program of the Pittsburgh) : SIMIAN VIRUS 40-TRANSFORMED METALLOTHIONEIN NULL CELLS SHOWED INCREASED SENSITIVITY TO CADMIUM BUT NOT TO ZINC, COPPER, MERCURY OR NICKEL. *Life Sciences* 1999 ; 64 (11) : 145-150.
- 12) Yamada K, Ierino FL¹⁾, Gianello PR¹⁾, Fishbein J¹⁾, Lorf T¹⁾, Shimizu A¹⁾, Colvin RB¹⁾, Sachs DH¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Role of the thymus in transplantation tolerance miniature swine. II. effect of steroids and age on the induction of tolerance to class I mismatched renal allografts. *Transplantation* 1999 ; 67 (3) : 458-467.
- 13) Yamada K, Shimizu A¹⁾, Ierino FL¹⁾, Gargollo P¹⁾, Barthe R¹⁾, Colvin RB¹⁾, Sachs DH¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Allogeneic thymokidney transplants induce stable tolerance in miniature swine . *Transplantation Proc.* 1999 ; 31 (1-2) : 1199-1200.
- 14) Yamada K, Menard M¹⁾, Mawlawde K¹⁾, Slisz J¹⁾, Choo JK¹⁾, Erhorn AE¹⁾, Aretz TA¹⁾, Shimizu A¹⁾, Sachs DH¹⁾, Madsen JC¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : The effects of Heart/ kidney vs double heart transplantation on tolerance induction and prevention of cardiac

- allograft vasculopathy (CAV) in miniature swine recipients. *Transplantation* 1999 ; 31 (1-2) : 108.
- 15) Wu A¹⁾, Esnaola NF¹⁾, Yamada K, Shimizu A¹⁾, Huang C¹⁾, Wain J¹⁾, Zhao T¹⁾, Neville D¹⁾, Cooper DK¹⁾, Sykes M¹⁾, Sachs DH¹⁾ (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Xenogeneic thymic transplantation in a pig to non-human primate model . *Transplantation Proc.* 1999 ; 31 (1-2) : 957.
- 16) 根本 勺, 服部智任, 内木場拓史, 千賀康弘¹⁾, 木村 剛, 秋元成太 (1) 北村山公立病院泌尿器科) : 尿管を主訴に発見された後腹膜線維肉腫. *臨泌* 1998 ; 52 (9) : 323-325.
- 17) 根本 勺, 村田浩克¹⁾, 北原 研²⁾, 金村三樹郎²⁾, 横山正夫²⁾, 高橋敬一³⁾, 成瀬好洋⁴⁾, 幕内晴朗¹⁾ (1) 虎の門病院産婦人科, 2) 同泌尿器科, 3) 同循環器外科) : 右房内に下大静脈腫瘍塞栓が進展した Intravenous Leiomyomatosis の1例. *泌尿器外科* 1998 ; 11 (6) : 719-721.
- 18) 横山正夫¹⁾, 根本 勺, 金村三樹郎¹⁾, 北原 研¹⁾, 小田裕之¹⁾, 村田浩克¹⁾, 松永義弘¹⁾ (1) 虎の門病院泌尿器科) : 精巣胚細胞腫瘍52例 (53腫瘍) の治療成績. *泌尿紀要* 1998 ; 44 (11) : 789-794.
- 19) 根本 勺, 松永義弘¹⁾, 村田浩克¹⁾, 小田裕之¹⁾, 北原 研¹⁾, 金村三樹郎¹⁾, 横山正夫¹⁾ (1) 虎の門病院泌尿器科) : 海綿腎に合併した尿路結石に対する ESWL の経験. *西日泌* 1998 ; 60 (12) : 805-808.
- 20) 内木場拓史, 服部智任, 堀内和孝, 木村 剛, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太 : 上部尿路上皮内癌に対する BCG 注入療法. *BCG, BRM 療法研究会会誌* 1998 ; 22 : 79-80.
- 21) 千賀康弘, 佐藤正広¹⁾ (1) 北村山公立病院臨床工学室) : 当院における慢性維持透析患者のシャントトラブルの統計とその臨床的検討. *北村山公立病院医学雑誌* 1998 ; 3 (1) : 1-6.
- 22) 佐藤正広¹⁾, 千賀康弘 (1) 北村山公立病院臨床工学室) : 高性能透析膜はいつから使用すべきか? : 透析患者の血中 β MG 値経過観察からの一考察. *北村山公立病院医学雑誌* 1998 ; 3 (1) : 22-28.
- 23) 佐伯和則¹⁾, 金 應文¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 掃部弘行¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 千賀康弘, 塩路 豪 (1) 北村山公立病院内科,) : “透析心” と呼ばれる心機能障害について. *北村山公立病院医学雑誌* 1998 ; 3 (1) : 11-17.
- 24) 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 小黑辰夫¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 三枝順子¹⁾, 早沢久美¹⁾, 安藤 哲¹⁾, 於保倫之助²⁾, 岡田進³⁾, 坪井成美 (1) 千葉北総病院病理部, 2) 千葉北総病院内科, 3) 千葉北総病院放射線科) : 排尿障害と歩行障害で発症した intravascular malignant lymphomatosis. *日医大誌* 1998 ; 65 : 249-251.
- 25) 片桐究代¹⁾, 岡田 進¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 坪井成美 (1) 付属病院放射線科) : 透析によるガドニウム造影剤の除去 : 基礎的および臨床研究. *日本医学放射線学会雑誌* 1998 ; 58 : 739-744.
- (2) 研究報告書 :
- 1) 井村伸正¹⁾, 近藤幸尋 (1) 北里大学薬学部) : 癌化の進行におけるメタロチオネインの役割 医科学応用研究財団研究報告. *Research Papers of the Suzuken Memorial Foundation* 1998 ; 16 : pp128-129.
- (3) 総説 :
- 1) Yoshida K : Development of User Friendly Ureteronephroscope. *Jap J Endourol ESWL* 1998 ; 11 (1) : 23-29.
- 2) 堀内和孝, 秋元成太 : 日常診療の指針 : 前立腺肥大症の温熱療法. *外科治療* 1997 ; 76 (4) : 455-456.
- 3) 堀内和孝, 秋元成太 : 前立腺肥大症の診断 (特集 : 排尿障害). *クリニカ* 1998 ; 25 (6) : 393-398.
- 4) 木村 剛, 秋元成太 : 進行性胚細胞腫瘍の化学療法. *癌と化学療法* 1998 ; 25 (12) : 1873-1890.
- 5) 堀内和孝, 秋元成太 : 前立腺肥大症の排尿障害に対する薬物療法の実際. *診断と新薬* 1998 ; 35 (12) : 1189-1198.
- 6) 坪井成美, 秋元成太 : 内視鏡手術の発展と看護. *泌尿器科領域. OPE nursing* 1998 ; 13 : 481-483.

著 書

- 1) 秋元成太, 堀内和孝 : [共著] 泌尿器科診断学 画像診断 : X線検査. 新 図説泌尿器科学講座 1 (吉田

修：監修), 1999 ; pp153-175, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 秋元成太 : 前立腺肥大症の内視鏡的治療. 国際内視鏡シンポジウム (瀋陽・中国), 1998. 6.

(2) 招待講演 :

- 1) 秋元成太 : 前立腺癌診断・治療の新しい試み : 基礎と臨床. 沖縄泌尿器科治療懇話会 (那覇), 1998. 11.

(3) シンポジウム :

- 1) Yamada K, Menard M¹⁾, Mawlawde K¹⁾, Slisz J¹⁾, Choo JK¹⁾, Erhorn AE¹⁾, Aretz TH¹⁾, Shimizu A¹⁾, Sachs DH¹⁾, Madsen JC¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Cardiac allograft vasculopathy (CAV) in miniature swine recipients of heart/ kidney transplants. 第34回日本移植学会総会 (東京), 1998. 12.
- 2) 服部智任, 秋元成太 : 腎盂尿管腫瘍に対して腎温存は可能か?. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 3) 堀内和孝 : 上部尿路結石の治療はどれがベストか. 第12回日本Endourology. ESWL学会 (浜松), 1998. 10.

(4) 一般講演 :

- 1) Kondo Y, Endo W¹⁾, Mita M¹⁾, Himeno S¹⁾, Akimoto M, Imura N¹⁾ (¹⁾ Department of Public Health, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato University) : Metallothionein prevents carcinogenicity of N-butyl-N-(4-hydroxybutyl) nitrosamine in mice. the 89th American Association for Cancer Research (New Orleans, USA), 1998. 3.
- 2) Yamada K, Mawlawde K¹⁾, Menard M¹⁾, Slisz J¹⁾, Choo JK¹⁾, Erhorn AE¹⁾, Aretz TH¹⁾, Shimizu A¹⁾, Sachs DH¹⁾, Madsen JC¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Both central and peripheral mechanisms play a role in tolerance induction and in the prevention of cardiac allograft vasculopathy (CAV) in recipients of heart/ kidney transplants. XVI Annual Scientific Meeting of American Society of Transplantation Physicians (Chicago, USA), 1998. 5.
- 3) Yamada K, Shimizu A¹⁾, Ierino FL¹⁾, Gargollo P¹⁾, Barthe R¹⁾, Colvin RB¹⁾, Sachs DH¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Allogeneic thymokidney transplants induce stable tolerance in miniature swine. XVI Annual Scientific Meeting of American Society of Transplantation Physicians (Chicago, USA), 1998. 5.
- 4) Wu A¹⁾, Esnaola F¹⁾, Yamada K, Shimizu A¹⁾, Huang C¹⁾, Wain J¹⁾, Zhao T¹⁾, Neville D¹⁾, Cooper DKC¹⁾, Sykes M¹⁾, Sachs DH¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Xenogeneic thymic transplantatin in a pig tonon human primate model. XVI Annual Scientific Meeting of American Society of Transplantation Physicians (Chicago, USA), 1998. 5.
- 5) Yamada K, Menard K¹⁾, Mawlawde K¹⁾, Slisz J¹⁾, Choo JK¹⁾, Erhorn AE¹⁾, Aretz TH¹⁾, Shimizu A¹⁾, Sachs DH¹⁾, Madsen JC¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : The effects of heart/ kidney vs double heart transplantation on tolerance induction and prevention of cardiac allograft vasculopathy (CAV) in miniature swine recipients. XXIII Annual Scientific Meeting of American Society of Transplantation Surgeons (Chicago, USA), 1998. 5.
- 6) Yamada K, Shimizu A¹⁾, Ierino FL¹⁾, Gargollo P¹⁾, Barthe R¹⁾, Colvin RB¹⁾, Sachs DH¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Allogeneic thymokidney transplants induce stable tolerance in miniature swine. XVII World Congress of the Transplantation Society (Montreal, Canada), 1998. 7.

- 7) Yamada K, Menard M¹⁾, Mawlawde K¹⁾, Slisz J¹⁾, Choo JK¹⁾, Erhorn AE¹⁾, Aretz TH¹⁾, Shimizu A¹⁾, Sachs DH¹⁾, Madsen JC¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : The effects of Heart/ kidney vs double heart transplantation on tolerance induction and prevention of cardiac allograft vasculopathy (CAV) in miniature swine recipients. XVII World Congress of the Transplantation Society (Montreal, Canada), 1998. 7.
- 8) Wu A¹⁾, Esnaola NF¹⁾, Yamada K, Shimizu A¹⁾, Huang C¹⁾, Wain J¹⁾, Zhao T¹⁾, Neville D¹⁾, Cooper DKC¹⁾, Sykes M¹⁾, Sachs DH¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Xenogeneic thymic transplantation in a pig tonon human primate model. XVII World Congress of the Transplantation Society (Montreal, Canada), 1998. 7.
- 9) Fuchimoto Y¹⁾, Yamada K, Shimizu A¹⁾, Yasumoto A¹⁾, Sawada T¹⁾, Sachs DH¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Rerationship between chimerism and tolerance in kidney transplantation. XVII World Congress of the Transplantation Society (Montreal, Canada), 1998. 7.
- 10) Shimizu A¹⁾, Yamada K, Sachs DH¹⁾, Colvin RB¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : Peritubular capillary injury and subsequent remodeling in chronic renal allograft rejection. XVII World Congress of the Transplantation Society (Montreal, Canada), 1998. 7.
- 11) Ierino FL¹⁾, Banerjee PT¹⁾, Gojo BS¹⁾, Giovino M¹⁾, Xu Y¹⁾, Gere J¹⁾, Kaynor C¹⁾, Awwad M¹⁾, Monroy R¹⁾, Rembert J¹⁾, Hatch T¹⁾, Foley A¹⁾, Kozlowski T¹⁾, Yamada K, Neethling F¹⁾, Bailin M, Cooper DKC, Cosimi AB, Guern CL, Sachs DH (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : A genetic approach toward tolerance in a pig to baboon xenotransplantation model. XVII World Congress of the Transplantation Society (Montreal, Canada), 1998. 7.
- 12) Miura T, Kondo Y¹⁾, Akimoto M, Sakuma Y¹⁾ (¹⁾ Dep. of Physiology, Nippon Medical School) : RAT PERINEAL MUSCLE ELECTROMYUOGRAPHY DURING MATING BEHAVIOR FOR THE EVALUATION OF PENILE ERECTILE FUNCTION. The 15th Japan-Korea Urological Congress (Tokyo, Japan), 1998. 9.
- 13) Hara S¹⁾, Sakurai A¹⁾, Kondo Y, Imura N¹⁾ (¹⁾ Department of Public Health, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato Univercity) : Regulation of nuclear factor- κ B (NF- κ B) activity by metallothionein (MT). International Conference on Metal-Binding Proteins in Biology (Banff, Canada), 1998. 10.
- 14) Yamada K, Menard M¹⁾, Mawlawde K¹⁾, Slisz J¹⁾, Choo JK¹⁾, Erhorn AE¹⁾, Aretz TH¹⁾, Shimizu A¹⁾, Sachs DH¹⁾, Madsen JC¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : The effects of Heart/ kidney vs double heart transplantation on tolerance induction and prevention of cardiac allograft vasculopathy (CAV) in miniature swine recipients. American College of Surgeon (Orlando, USA), 1998. 11.
- 15) Menard MT¹⁾, Yamada K, Mawlawde K¹⁾, Slisz J¹⁾, Chiotellis P¹⁾, Sachs DH¹⁾, Madsen JC¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital) : "Thymoheart" creation and transplantation in miniature swine. American College of Surgeon (Orlando, USA), 1998. 11.
- 16) Yanagiya T¹⁾, Himeno S¹⁾, Kondo Y, Imura N¹⁾ (¹⁾ Department of Public Health, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato Univercity) : Reduced uptake and increased efflux of cadmium in cadmium-resistant metallothionein null cells. Society of Toxicology (New Orleans, USA), 1999. 3.
- 17) 秋元成太 : 前立腺肥大症に対する薬物療法. 第1回日中泌尿器科手術会議 (西安 中国), 1997. 5.
- 18) 内木場拓史, 堀内和孝, 木村 剛, 服部智任, 藤原博通, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太 : 表在性膀胱腫瘍に対するBCG膀胱内注入療法の再発予防効果. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 19) 山形健治, 木村 剛, 堀内和孝, 塩路 豪, 坪井成美, 秋元成太, 藤岡良彰¹⁾, 大場修司²⁾ (¹⁾ 河北総合病院

- 泌尿器科, ²⁾ 国立東静岡病院泌尿器科)：尿尿管癌の13例. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 20) 大垣憲司, 飯田有俊¹⁾, 窪田吉信²⁾, 小川 修³⁾, 吉田 修⁴⁾, 秋元成太, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門, ²⁾ 横浜市立大学泌尿器科, ³⁾ 秋田大学泌尿器科, ⁴⁾ 京都大学泌尿器科)：膀胱癌における第8番染色体短腕欠失の検討. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 21) 近藤幸尋, 鈴木康友, 根本 勺, 秋元成太：P-237メタロチオネイン欠乏マウスを用いた N-butyl-N- (4-hydroxybutyl) nitrosamine (BBN) による腫瘍細胞発生に関する検討. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 22) 木村 剛, 後神秀樹¹⁾, Xu Zhao-D¹⁾, Wilczynski S¹⁾, 秋元成太, 山口 (藤田) 陽子¹⁾ (¹⁾ Beckman Research Institute of the City of Hope)：前立腺・膀胱癌組織における Insulin-like growth factor II の発現・局在の検討. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 23) 赤坂修治, 鈴木 聡¹⁾, 清水宏之, 五十嵐健人¹⁾, 寺島保典, 藤岡良彰²⁾, 島田 隆¹⁾, 秋元成太 (¹⁾ 付属病院第2生化学教室, ²⁾ 河北総合病院泌尿器科)：ラット膀胱癌に対する自殺遺伝子治療の検討. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 24) 鈴木康友, 近藤幸尋, 根本 勺, 秋元成太：ホルモン非依存性前立腺癌における抗酸化酵素の役割と酸化促進剤投与によるレドックス系への影響. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 25) 坪井成美, 西村泰司¹⁾, 堀内和孝, 木村 剛, 近藤幸尋, 服部智任, 吉田和弘, 秋元成太, 菱沢利行²⁾ (¹⁾ 付属千葉北総病院泌尿器科, ²⁾ 藤間病院)：人間ドックで発見された腎腫瘍の検討. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 26) 堀内和孝, 松沢一郎, 濱崎 務¹⁾, 大澤秀一¹⁾, 阿部裕行¹⁾, 坪井成美, 吉田和弘, 西村泰司, 秋元成太 (¹⁾ 千葉北総病院泌尿器科)：細径プローブ超音波は上部尿路腫瘍の深達度診断に有用か?. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 27) 大澤秀一¹⁾, 坪井成美, 西村泰司¹⁾, 阿部裕行¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 渡辺 潤, 秋元成太 (¹⁾ 千葉北総病院泌尿器科)：浸潤性膀胱腫瘍に対するTUR-Btと動注療法による膀胱温存の試み. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 28) 三浦剛史¹⁾, 近藤保彦²⁾, 秋元成太, 佐久間康夫²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院泌尿器科, ²⁾ 生理学第1)：雄ラット性行動における p-chlorophenylamine 投与の効果：陰経筋電図記録による勃起障害の評価. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 29) 渡辺 潤, 木村 剛, 堀内和孝, 広瀬始之¹⁾, 川村直樹²⁾, 本田 了²⁾, 矢島勇臣²⁾, 大場修司³⁾, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太 (¹⁾ 第二病院泌尿器科, ²⁾ 海老名総合病院泌尿器科, ³⁾ 国立東静岡病院泌尿器科)：異時発生両側精巣腫瘍4例の臨床経験. 第86回日本泌尿器科学会総会 (鹿児島), 1998. 4.
- 30) 大場修司¹⁾, 清水宏之¹⁾ (¹⁾ 国立東静岡病院泌尿器科)：当院泌尿器科における腹腔鏡手術の経験. 第1回静岡内視鏡外科研究会 (浜松), 1998. 5.
- 31) 木村 剛, 橋本義孝, 藤原博通, 三浦剛史, 内木場拓史, 服部智任, 吉田和弘, 秋元成太：長期留置用ダブルルーメンカテーテルの是非. 第43回日本透析医学会学術集会・総会 (横浜), 1998. 5.
- 32) 渡辺 潤, 堀内和孝, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太：回腸導管術後患者のQOL：若年者と高齢者のアンケート調査のアンケート調査による比較. 第11回老人泌尿器研究会 (札幌), 1998. 5.
- 33) 堀内和孝, 吉田和弘, 大垣憲司, 松沢一郎, 鈴木康友, 渡辺 潤, 近藤幸尋, 秋元成太：造影剤投与腎機能障害者に対する血液透析に対する血液透析の有用性：造影剤除去効果および腎機能への影響. 第43回日本透析医学会学術集会・総会 (横浜), 1998. 5.
- 34) 藤井克彦¹⁾, 吉田 晃¹⁾, 青木 宏²⁾, 飯野靖彦²⁾, 吉田和弘, 秋元成太 (¹⁾ 付属病院人工透析室, ²⁾ 付属病院第2内科)：ネフローゼ症候群を発症し、透析を要した Minor glomerular abnormalities の1例. 第43回日本透析医学会学術集会・総会 (横浜), 1998. 5.

- 35) 吉田和弘, 堀内和孝, 塩路 豪, 根本 勺, 山形健治, 坪井成美, 秋元成太, 高野照夫¹⁾ (1) 付属病院集中治療室): 集中治療室における血液浄化法の意義. 第43回日本透析医学会学術集会・総会(横浜), 1998. 5.
- 36) 吉田和弘: 泌尿器科カルテの見方・読み方: 前立腺肥大症(1). 日本医科大学公開講座(東京), 1998. 5.
- 37) 橋本義孝, 木村 剛, 坪井成美, 秋元成太: 前立腺小細胞癌の1例. 第526回日本泌尿器科学会東京地方会(東京), 1998. 6.
- 38) 千賀康弘, 堀内和孝, 秋元成太: ESWLを施行した基礎疾患を有する高齢尿路結石症例の検討. 第40回日本老年医学会学術集会(福岡), 1998. 6.
- 39) 内木場拓史, 服部智任, 堀内和孝, 木村 剛, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太: 上部尿路上皮内癌に対するBCG注入療法. 第26回BCG. BRM療法研究会(東京), 1998. 7.
- 40) 松沢一郎, 山形健治, 橋本義孝, 木村 剛, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太: 後腹膜脂肪腫の1例. 第527回日本泌尿器科学会東京地方会(東京), 1998. 7.
- 41) 清水宏之¹⁾, 大場修司¹⁾, 秋元成太 (1) 国立東静岡病院泌尿器科): 両側腎周囲血腫を伴った成人T細胞性白血病(ATL)の1例. 第527回日本泌尿器科学会東京地方会(東京), 1998. 7.
- 42) 吉田和弘: 泌尿器科カルテの見方・読み方: 前立腺肥大症(2). 日本医科大学公開講座(東京), 1998. 7.
- 43) 吉田和弘: 前立腺癌の診断と最近の話題. 海老名市・綾瀬市合同医師会講座(東京), 1998. 7.
- 44) 吉田和弘, 坪井成美, 秋元成太: 外傷性勃起障害に対しシリコンプロステシス挿入より2児を得た1例. 第16回日本アンドロロジー学会(神戸), 1998. 7.
- 45) 内木場拓史, 堀内和孝, 服部智任, 藤原博通, 根本 勺, 鈴木康友, 秋元成太: 表在性膀胱腫瘍に対する再発予防BCG注入療法: 無効例および再発因子の検討. 第63回日本泌尿器科学会東部総会(前橋), 1998. 9.
- 46) 橋本義孝, 木村 剛, 坪井成美, 藤原博通, 大垣憲司, 三浦剛史, 内木場拓史, 鈴木康友, 渡辺 潤, 秋元成太: 単純性腎囊胞壁に合併した腎細胞癌の1例. 第63回日本泌尿器科学会東部総会(前橋), 1998. 9.
- 47) 藤原博通, 服部智任, 塩路 豪, 渡辺 潤, 木村 剛, 堀内和孝, 秋元成太, 田中宣威¹⁾, 恩田昌彦¹⁾ (1) 付属病院第1外科): 瘻孔部に粘液腺癌を合併した膀胱S状結腸瘻の1例. 第528回日本泌尿器科学会東京地方会(東京), 1998. 9.
- 48) 大垣憲司, 秋元成太, 飯田有俊¹⁾, 江見 充¹⁾ (1) 老人病研究所分子生物学部門): 膀胱癌の遠隔転移に関わる第8番染色体短腕上癌抑制因子の限局化. 第66回日本医科大学医学会総会(東京), 1998. 9.
- 49) 清水有二¹⁾, 平岡保紀¹⁾, 小川秀彌²⁾ (1) 多摩永山病院泌尿器科, 2) 関東通信病院泌尿器科・泌尿器科): 馬蹄腎, 囊胞腎, 巨大水腎症合併の1例. 第63回日本泌尿器科学会東部総会(前橋), 1998. 9.
- 50) 木村 剛, 橋本義孝, 坪井成美, 服部智任, 堀内和孝, 山形健治, 近藤幸尋, 吉田和弘, 秋元成太: 治療に難渋した全尿路上皮内癌(IS). 第63回日本泌尿器科学会東部総会(前橋), 1998. 9.
- 51) 坪井成美, 塩路 豪, 藤原博通, 木全亮二, 堀内和孝, 吉田和弘, 秋元成太, 大澤秀一¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 吉田順子²⁾, 村上睦美²⁾ (1) 千葉北総病院泌尿器科, 2) 同小児科): 小児尿管膀胱逆流現象に対するGAXコラーゲン注入療法. 第66回日本医科大学医学会総会(東京), 1998. 9.
- 52) 堀内和孝, 松沢一郎, 木全亮二, 塩路 豪, 藤原博通, 橋本義孝, 渡辺 潤, 山形健治, 服部智任, 近藤幸尋, 木村 剛, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太: 泌尿器科疾患に対する細径プローブ超音波診断. 第66回日本医科大学医学会総会(東京), 1998. 9.
- 53) 吉田和弘, 坪井成美, 秋元成太: 前立腺癌細胞における微割. 第31回臨床電子顕微鏡学会(東京), 1998. 9.
- 54) 吉田和弘, 坪井成美, 秋元成太: 腎癌組織内毛細血管構造に関する1考察. 第31回臨床電子顕微鏡学会(東京), 1998. 9.
- 55) 橋本義孝, 木村 剛, 三浦剛史, 服部智任, 堀内和孝, 坪井成美, 秋元成太: 腹腔鏡用トロッカー及び腎盂鏡を用いて経皮的に摘出した膀胱異物. 第12回日本Endourology. ESWL学会(浜松), 1998. 10.
- 56) 内木場拓史, 堀内和孝, 大垣憲司, 服部智任, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太: 表在性膀胱腫瘍に対するBCG

- 膀胱内注入療法：投与回数による再発予防効果の検討。第36回日本癌治療学会総会（福岡），1998。10。
- 57) 山形健治，松沢一郎，鈴木康友，堀内和孝，坪井成美，吉田和弘，秋元成太：尿路原発小細胞癌の4例。第36回日本癌治療学会総会（福岡），1998。10。
- 58) 山形健治，服部智任，近藤幸尋，堀内和孝，坪井成美，秋元成太：腎温存療法を施行した尿管腫瘍の1例。第12回日本Endourology. ESWL学会（浜松），1998。10。
- 59) 大垣憲司，飯田有俊¹⁾，窪田吉信²⁾，小川 修³⁾，吉田 修⁴⁾，秋元成太，江見 充¹⁾（¹⁾老人病研究所分子生物学部門，²⁾横浜市立大学泌尿器科，³⁾秋田大学泌尿器科，⁴⁾京都大学泌尿器科）：膀胱癌における第8番染色体短腕欠失の検討。第57回日本癌学会総会（横浜），1998。10。
- 60) 桐山 功¹⁾，小川秀彌¹⁾，堀 夏樹¹⁾，田中求平¹⁾，平岡保紀²⁾，秋元成太（¹⁾関東通信病院泌尿器科，²⁾多摩永山病院泌尿器科）：膀胱癌に対する動注化学療法 of の検討。第36回日本癌治療学会総会（福岡），1998。10。
- 61) 大場修司¹⁾，清水宏之¹⁾，杉山 彰²⁾（¹⁾国立東静病院泌尿器科，²⁾同放射線科）：前立腺全摘出術例におけるCT, MRI, USの有用性の研究。第53回国立病院療養所総合医学会（金沢），1998。10。
- 62) 近藤幸尋，遠藤和香子¹⁾，姫野誠一郎¹⁾，木村 剛，秋元成太，井村伸正¹⁾（¹⁾北里大学薬学部）：膀胱癌の発癌、増殖におけるメタロチオネインの役割。第57回日本癌学会総会（横浜），1998。10。
- 63) 堀内和孝，吉田和弘，渡辺 潤，服部智任，木村 剛，近藤幸尋，坪井成美，秋元成太：上部尿路腫瘍に対する細径プローブ超音波診断：深達度診断における有用性と課題。第36回日本癌治療学会総会（福岡），1998。10。
- 64) 服部智任，木村 剛，近藤幸尋，三浦剛史，根本 勺，堀内和孝，坪井成美，吉田和弘，秋元成太，川村直樹¹⁾（¹⁾海老名総合病院泌尿器科）：両側腎盂尿管腫瘍同時発症例に対する治療法の検討。第36回日本癌治療学会総会（福岡），1998。10。
- 65) 坪井成美，堀内和孝，吉田和弘，秋元成太，大澤秀一¹⁾，濱崎 務¹⁾，阿部裕行¹⁾，西村泰司¹⁾（¹⁾千葉北総病院泌尿器科）：小児VURに対するGAXカラーゲン注入療法。第12回日本Endourology. ESWL学会（浜松），1998。10。
- 66) 長谷目悦子¹⁾，清水宏之²⁾，大場修司²⁾（¹⁾国立東静病院内科，²⁾同泌尿器科）：腹腔内遊離体の1例。第79回沼津医師会臨床医学集談会（沼津），1998。11。
- 67) 吉田和弘，堀内孝和，木村 剛，坪井成美，秋元成太：保存期腎不全に対する非イオン性造影剤の影響と透析意義。第28回日本腎臓学会東部総会（東京），1998。11。
- 68) 藤原博通，渡辺 潤，木村 剛，堀内和孝，秋元成太，本田 了¹⁾（¹⁾海老名総合病院泌尿器科）：同時発見された両側同組織性精巢非セミノーマ。第522回日本泌尿器科学会東京地方会（東京），1998。12。
- 69) 清水宏之¹⁾，大場修司¹⁾，秋元成太，角 泰廣²⁾，尾関 豊²⁾（¹⁾国立東静病院泌尿器科，²⁾同外科）：食道癌腎転移の1例。第529回日本泌尿器科学会東京地方会（東京），1998。12。
- 70) 木全亮二，渡辺 潤，服部智任，堀内和孝，坪井成美，吉田和弘，秋元成太：異物に起因する壊死性筋膜炎の1例。第529回日本泌尿器科学会東京地方会（東京），1998。12。
- 71) 間庭裕子¹⁾，加治裕子¹⁾，横川文江¹⁾，小林京子¹⁾，久保田麻美¹⁾，坪井成美，西村泰司²⁾，荻野淑郎¹⁾，菱沢利行¹⁾（¹⁾藤間病院）：超音波検査で発見された膀胱腫瘍。日本総合健診医学会第27回大会（名古屋），1999。1。
- 72) 木全亮二，松沢一郎，木村 剛，坪井成美，吉田和弘，秋元成太，川村直樹¹⁾，本田 了¹⁾，矢島勇臣¹⁾（¹⁾海老名総合病院泌尿器科）：膀胱肉腫様癌の1例。第530回日本泌尿器科学会東京地方会（東京），1999。1。
- 73) 大垣憲司，渡辺 潤，服部智任，堀内和孝，根本 勺，内木場拓史，坪井成美，吉田和弘，秋元成太：BCG腎盂内注入療法に続発した急性間質性肺炎。第531回日本泌尿器科学会東京地方会（東京），1999。2。
- 74) 大垣憲司，飯田有俊¹⁾，江見 充¹⁾，秋元成太（¹⁾老人病研究所分子生物学部門）：膀胱癌の遠隔転移に関わる第8番染色体短腕上癌抑制因子の限局化。第8回泌尿器科細胞解析研究会（宇部），1999。2。
- 75) 柳谷隆宏¹⁾，姫野誠一郎¹⁾，井村伸正¹⁾，近藤幸尋，蛭沼利江子²⁾，榎本秀一²⁾（¹⁾北里大学薬学部，²⁾理化学

研究所)：メタロチオネイン遺伝子を欠損したカドミウム耐性細胞における金属輸送の変化。日本薬学会第119年会(徳島)，1999. 3.

- 76) 柳谷隆宏¹⁾，姫野誠一郎¹⁾，井村伸正¹⁾，近藤幸尋，蛭沼江利子²⁾，榎本秀一²⁾ (¹⁾ 北里大学薬学部，²⁾ 理化学研究所)：カドミウム耐性細胞を利用した微量元素の取り込み機構の解析。理研シンポジウム「生体微量元素'99」(和光)，1999. 3.

[第二病院泌尿器科]

研究概要

第二病院泌尿器科では，尿路感染症，MRSA感染症，膀胱腫瘍，特に膀胱腔内注入療法など主に臨床的各研究を行っている。最近は男子不妊症，尿失禁に関する臨床的研究にも力をいれている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakamoto Y¹⁾，Motohashi S¹⁾，Kasahara H¹⁾，Numazawa K (¹⁾ Mitaka Kitaguchi Hospital)：Irreversible tubulointerstitial nephropathy associated with prolonged massive intake of vitamin C. *Nephrol Dial Transplant* 1998；13：754-756.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 赤坂修治，鈴木 聡¹⁾，清水宏之，五十嵐健人¹⁾，寺島保典²⁾，藤岡良彰³⁾，島田 隆¹⁾，秋元成太²⁾ (¹⁾ 第2生化学教室，²⁾ 付属病院泌尿器科，³⁾ 河北総合病院泌尿器科)：ラット膀胱癌に対する自殺遺伝子治療の検討。第86回日本泌尿器科学会総会(鹿児島)，1998. 4.
- 2) 平岡保紀¹⁾，岩本和矢¹⁾，高橋洋文¹⁾，清水有二¹⁾，左 維¹⁾，林 昭棟¹⁾，沼沢和夫，小川秀弥²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院泌尿器科，²⁾ 関東通信病院泌尿器科)：尿失禁に対する経腔恥骨結合尿道吊り上げ術：第1報手術手技。第86回日本泌尿器科学会総会(鹿児島)，1998. 4.
- 3) 大場修司¹⁾，清水宏之 (¹⁾ 国立東静岡病院泌尿器科)：当院泌尿器科における腹腔鏡手術の経験。第1回静岡内視鏡外科研究会(浜松)，1998. 5.
- 4) 清水宏之，大場修司¹⁾，秋元成太²⁾ (¹⁾ 国立東静岡病院泌尿器科，²⁾ 付属病院泌尿器科)：両側腎周囲血腫を伴った成人T細胞性白血病(ATL)の1例。第527回日本泌尿器科学会東京地方会(東京)，1998. 7.
- 5) 佐藤三洋，赤坂修治，藤岡良彰¹⁾，山形健治²⁾，秋元成太²⁾ (¹⁾ 河北総合病院泌尿器科，²⁾ 付属病院泌尿器科)：胃癌を原発とした転移性膀胱腫瘍の1例。第528回日本泌尿器科学会東京地方会(東京)，1998. 9.
- 6) 内木場拓史，堀内和孝¹⁾，服部智任¹⁾，藤原博通¹⁾，根本 勺¹⁾，鈴木康友¹⁾，秋元成太¹⁾ (¹⁾ 付属病院泌尿器科)：表在性膀胱腫瘍に対する再発予防BCG注入療法：無効例および再発因子の検討。第63回日本泌尿器科学会東部総会(前橋)，1998. 9.
- 7) 清水有二¹⁾，岩本和矢¹⁾，左 維¹⁾，高橋洋文¹⁾，林 昭棟¹⁾，沼沢和夫，平岡保紀¹⁾，小川秀弥²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院泌尿器科，²⁾ 関東通信病院泌尿器科)：馬蹄腎・囊胞腎・巨大水腎症合併の1例。第63回日本泌尿器科学会東部総会(前橋)，1998. 9.
- 8) 赤坂修治，木村 剛¹⁾，清水宏之，秋元成太¹⁾，五十嵐健人²⁾，鈴木 聡²⁾，島田 隆²⁾ (¹⁾ 付属病院泌尿器科，²⁾ 第2生化学教室)：ラット膀胱癌に対する自殺遺伝子治療の検討。第66回日本医科大学医学会総会(東京)，1998. 9.

- 9) 大場修司¹⁾, 清水宏之, 杉山 彰²⁾ (1) 国立東静岡病院泌尿器科, 2) 国立東静岡病院放射線科): 前立腺癌全摘出術例におけるCT・MRI・USの有用性の研究. 第53回国立病院療養所総合医学会(金沢), 1998. 10.
 - 10) 内木場拓史, 堀内和孝¹⁾, 大垣憲司¹⁾, 服部智任¹⁾, 坪井成美¹⁾, 吉田和弘¹⁾, 秋元成太¹⁾ (1) 付属病院泌尿器科): 表在性膀胱腫瘍に対するBCG膀胱内注入療法: 投与回数による再発予防効果の検討. 第36回日本癌治療学会総会(福岡), 1998. 10.
 - 11) 長谷目悦子¹⁾, 清水宏之, 大場修司²⁾ (1) 国立東静岡病院内科, 2) 国立東静岡病院泌尿器科): 腹腔内遊離体の1例. 第79回沼津医師会臨床医学集談会(沼津), 1998. 11.
 - 12) 清水宏之, 大場修司¹⁾, 秋元成太²⁾, 角 泰廣³⁾, 尾関 豊³⁾ (1) 国立東静岡病院泌尿器科, 2) 付属病院泌尿器科, 3) 国立東静岡病院外科): 食道癌腎転移の1例. 第527回日本泌尿器科学会東京地方会(東京), 1998. 12.
- (2) ビデオ:
- 1) 岩本和矢¹⁾, 左 維¹⁾, 高橋洋文¹⁾, 清水有二¹⁾, 林 昭棟¹⁾, 沼沢和夫, 平岡保紀¹⁾, 小川秀弥²⁾ (1) 多摩永山病院泌尿器科, 2) 関東通信病院泌尿器科): 蒸散ウェッジ型ループを用いた経尿道的前立腺剥離切除術. 第86回日本泌尿器科学会総会(鹿児島), 1998. 4.

[多摩永山病院泌尿器科]

研究概要

当科は開設して10年になる。研究業績の主なものは次のようなものである。

前立腺肥大症：前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は1984年に開始して以来1,800例を超えている。本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である。

前立腺癌：平岡式経尿道的前立腺剥離切除術（剥離TURP）は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある。この特徴を生かして、内腺を完全切除したあと、外腺を生検切除する平岡式剥離TURP法を開発した。これにより前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり、外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるといふ新しい道を開いている。最近では早期前立腺癌に対して、会陰式根治的前立腺全摘術を施行し、限局性進行前立腺癌に対するネオアジュバント療法として、ホルモンと放射線療法の併用を行っている。

膀胱癌：進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見をわれわれは行っている。最近、治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発とCDDPと放射線照射との併用治療を行っている。

腎細胞癌：腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し、インターフェロンを動注し、腫瘍壊死を起こさせる方法を行っている。3～6カ月後に腫瘍核出術、腎部分切除術が腎摘出術を行っている。今までの研究では、9割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている。

腹圧性尿失禁：女子腹圧性尿失禁に対して、恥骨結合に孔をあけて、膀胱頸部と尿道を糸で吊り上げて恥骨結合に固定する、平岡式恥骨固定式膀胱頸部吊り上げ術を施行している。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 渡辺千寿子¹⁾, 鈴木伸弘¹⁾, 飯塚尚久¹⁾, 山根雅昭¹⁾, 江川 充²⁾, 清水有二, 鈴木 衛³⁾ (1) 東京警察病院耳鼻咽喉科, 2) 東京警察病院小児科, 3) 東京医大耳鼻咽喉科学教室): BOR症候群と思われる家族性の側頸瘻症例. 東京医大誌 1998; 56 (1): 99-108.
- 2) 甲田雅一¹⁾, 宇田川郁子¹⁾, 福原淳子¹⁾, 竹内美香¹⁾, 田村恵子¹⁾, 宮沢郁夫¹⁾, 本間請子¹⁾, 村橋 勲²⁾, 清水有二 (1) 東京警察病院`臨床検査第一部, 2) 東京警察病院泌尿器科): クラミジア抗原検出キット

著書

- 1) 平岡保紀：〔分担〕前立腺肥大症の治療。year note 1999 SELECTED ARTICLES (Okaniwa Y ed), 1998；pp651-661, MEDIC MEDIA.
- 2) 平岡保紀：〔分担〕前立腺肥大症の治療。year note 1999 Informed Consent Access Manual (Okaniwa Y ed), 1998；pp171-173, MEDIC MEDIA.
- 3) 平岡保紀：〔自著〕前立腺肥大症を完全に治す本。前立腺肥大症を完全に治す本, 1999；pp1-200, (株) マキノ出版.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 平岡保紀, 岩本和矢, 高橋洋文, 清水有二, 左 維, 林 昭棟, 沼沢和夫, 小川秀彌¹⁾ (1) 関東通信病院泌尿器科)：尿失禁に対する経陰恥骨結合尿道吊り上げ術：第1報 手術手技。第86回日本泌尿器科学会総会, 1998. 4.
- 2) 清水有二, 平岡保紀, 高橋洋文, 岩本和矢, 左 維, 林 昭棟, 沼沢和夫, 小川秀彌¹⁾ (1) 関東通信病院泌尿器科)：馬蹄腎・嚢胞腎・巨大水腎症合併の1例。第63回日本泌尿器科学会東部総会, 1998. 9.
- 3) 桐山 功¹⁾, 堀 夏樹¹⁾, 田中求平¹⁾, 小川秀彌¹⁾, 平岡保紀, 秋元成太²⁾ (1) 関東通信病院泌尿器科, 2) 附属病院泌尿器科)：膀胱癌に対する動注化学療法 of の検討。第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 4) 平岡保紀, 清水有二, 高橋洋文, 岩本和矢, 左 維, 沼沢和夫：Stage T2 T3に対する放射線, CDDP, ホルモン併用のNeoadjuvant療法でのdown stagingの試み。第14回前立腺シンポジウム, 1998. 12.

(2) ビデオ講演：

- 1) 岩本和矢, 平岡保紀, 高橋洋文, 清水有二, 左 維, 林 昭棟, 沼沢和夫, 小川秀彌¹⁾ (1) 関東通信病院泌尿器科)：蒸散ウェッジ型ループを用いた経尿道的な前立腺剥離切除術。第86回日本泌尿器科学会総会, 1998. 4.

[千葉北総病院泌尿器科]

研究概要

1) 泌尿器内視鏡学：前立腺肥大症および膀胱腫瘍に対する経尿道的な手術において、新型の帯状電極とより高い電気メスの出力を組み合わせた方法が出血が少ないなどの利点から最も有用な治療法と考え症例を増やし検討中である。

また、膀胱腫瘍に対する経尿道的な切除術において腫瘍の浸潤度診断および上皮内癌の存在が問題となるが、我々の考案した吸引により粘膜を持ち上げたのちスネアーで切除する方法は従来のパンチ生検より上皮内癌の検出率が高く極めて有用である。

現在、筋層を含む十分な組織を同法で切除し正確な腫瘍の浸潤度診断を行える内視鏡を開発中である。

2) 泌尿器腫瘍学：近年増加と一途を辿っている前立腺癌に対する外来での経直腸的な前立腺生検を感染の合併症をきたすことなく安全に行える方法を考案し検討中である。

3) 尿路感染症学：以前から前立腺炎において白血球が前立腺液中に長期生存する機序解明の研究をしてきたが、今回は白血球の長期生存とアポトーシスの関連性を検討するために経過の長い前立腺炎における前立腺液中の白血球のbcl-2の発現を検討している。

4) 婦人泌尿器科学：尿道に極めて細いカテーテルを留置するだけで、尿失禁を治療する全く新しい治療法の有効性を検討中である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Abe H, Nishimura T, Ito H¹⁾, Oka F¹⁾, Ikeda K¹⁾ (1) 第二病院泌尿器科) : Bladder-preserving treatment for vesical transitional cell carcinoma associated with adenocarcinoma and squamous cell carcinoma. Nishinohon J. Urol 1998 ; 60 (4) : 334-336.
- 2) Nishimura T, Abe H, Osawa S, Hamasaki T : Which electrode would you prefer when you apply transurethral vaporization of the prostate (TVP) to larger prostate glands?. Jpn J Endourol ESWL 1998 ; 11 (1) : 51-54.
- 3) Osawa S, Terashima Y¹⁾, Kimura G¹⁾, Akimoto M¹⁾ (1) 付属病院泌尿器科) : Antitumor effects of the angiogenesis inhibitor AGM-1470 on rat urinary bladder tumors induced by N-butyl- (4-hydroxybutyl) nitrosamine. British Journal of Urology 1999 ; 83 (1) : 123-128.

(2) 綜説：

- 1) 西村泰司, 阿部裕行 : 前立腺炎症候群の診断 1. 4検体分割採取法の今日的有用性と限界. Prog Med 1998 ; 18 (9) : 2153-2157.
- 2) 西村泰司, 阿部裕行 : 腎外傷. 臨泌 1999 ; 53 (4 (増刊)) : 271-275.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 西村泰司 : Thick Loop を用いた TUR-P (付 TUR-Bt). 第24回泌尿器科移行手技関東地区研究会, 1999. 1.

(2) 一般講演：

- 1) Miura T, Kondo Y¹⁾, Akimoto M¹⁾, Sakuma Y²⁾ (1) Department of Urology, Fuzoku Hospital, 2) Department of Physiology) : Rat perineal muscle electromyography during mating behavior for the evaluation of penile erectile function. The 15th Japan-Korea urological congress (Tokyo), 1998. 9.
- 2) 大澤秀一, 坪井成美, 西村泰司, 阿部裕行, 浜崎 務, 渡辺 潤¹⁾, 秋元成太¹⁾ (1) 付属病院泌尿器科) : 浸潤性膀胱腫瘍に対する TUR-Bt と動注療法による膀胱保存の試み. 第86回日本泌尿器科学会総会, 1998. 4.
- 3) 阿部裕行, 西村泰司, 大澤秀一, 浜崎 務 : 吸引とスネアーを併用した膀胱生検の検討. 第86回日本泌尿器科学会総会, 1998. 4.
- 4) 堀内和孝¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 浜崎 務¹⁾, 大沢秀一, 阿部裕行, 坪井成美¹⁾, 吉田和弘¹⁾, 西村泰司, 秋元成太¹⁾ (1) 付属病院泌尿器科) : 細径プローブ超音波は上部尿路腫瘍の深達度診断に有用か?. 第86回日本泌尿器科学会総会, 1998. 4.
- 5) 三浦剛史, 近藤保彦¹⁾, 秋元成太, 佐久間康夫¹⁾ (1) 生理学第1) : 雄ラット性行動における p-chlorophenylalanine 投与の効果 : 会陰筋電図記録による勃起機能の評価. 第86回日本泌尿器科学会総会, 1998. 4.
- 6) 西村泰司, 阿部裕行, 大澤秀一, 浜崎 務 : VIP を対象とした会員制クリニックにおける前立腺癌検診. 第69回千葉泌尿器科集談会, 1998. 6.
- 7) 西村泰司, 阿部裕行, 浜崎 務, 大澤秀一 : バードマックスブレイドおよび王冠ループを用いた TURP の経験. 第69回千葉泌尿器科集談会, 1998. 6.
- 8) 大澤秀一, 西村泰司, 浜崎 務, 阿部裕行, 秋元正宇¹⁾, 黒田周一¹⁾ (1) 千葉北総病院形成外科) : 大腿部薄筋皮弁による膀胱皮膚瘻閉鎖術の経験. 第63回日本泌尿器科学会東部総会, 1998. 9.
- 9) 三浦剛史, 大澤秀一, 阿部裕行, 西村泰司 : 雄ラットにおける性行動中の会陰筋電図モニタリング. 第70回千葉泌尿器科集談会, 1998. 12.

16. 眼科学講座

[付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科]

研究概要

臨床研究：ぶどう膜炎外来では、大原國俊教授、山口恵子助手を中心に、眼サルコイドーシスについて臨床研究を行った。自験例の眼所見と全身所見の組み合わせを解析し、眼サルコイドーシスの診断基準の妥当性について検討した。その一部は、当教室が主催した第18回日本サルコイドーシス学会で発表した。斜視弱視外来では、茨木信博助教授、中西史憲助手を中心に、斜視の治療法について臨床研究を継続した。角膜アレルギー外来では、高橋浩講師が難治性角膜潰瘍の症例を蓄積し、治療法の研究を行った。緑内障外来では、棚津直久兼任講師、山田幸永兼任講師により、難治例の手術治療について研究を継続した。第二病院、多摩永山病院、千葉北総病院では、清水暢夫助教授、中山滋章助教授、中西史憲助手が臨床症例について検討した。

基礎研究：茨木信博助教授を中心に、水晶体上皮細胞について細胞科学的研究を行った。樹立した不死化ヒト水晶体上皮細胞株をもちいて、細胞外基質、血清蛋白、ICAM-1の影響を検討した。細胞ストレスの水晶体上皮細胞への影響を遺伝子レベルで研究した。高橋浩講師は、角膜上皮細胞について、グルコーストランスポータを指標に糖尿病上皮障害モデルを作成し、血糖値の影響を研究した。

小林茂樹助手は米国 Washington 大学で *in vitro* 下における加圧による視神経乳頭 astrocyte 機能の変動を研究した。中村弘研究生は、Heidelberg retina tomograph を用いて正常者視神経乳頭の形状解析を行い、視神経形状から緑内障診断を行うための基礎研究を行った。その他、多数の臨床報告を教室から発表した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yoshida Y, Saiga T, Yakahashi H, Hara A : Optic neuritis and human T-lymphotropic virus type 1-associated myelopathy : A case report. *Ophthalmologica* 1998 ; 212 : 73-76.
- 2) Akahoshi T : Phaco Prechop : Manual nucleofracture Prior to Phacomulsification. *Operative Techniques in Cataract and Refractive Surgery* 1998 ; 1 : 69-91.
- 3) Ibaraki N, Chen SC¹⁾, Lin LR¹⁾, Okamoto H¹⁾, Pipas JM¹⁾, Reddy VN¹⁾ (¹⁾ Oakland University) : Human lens epithelial cell line. *Exp Eye Res* 1998 ; 67 (11) : 577-585.
- 4) Kunimatsu S¹⁾, Araie M¹⁾, Ohara K, Hamada C¹⁾ (¹⁾ University of Tokyo) : Ultrasound biomicroscopy of ciliary body cysts. *American Journal of Ophthalmology* 1999 ; 127 (1) : 48-55.
- 5) Carper DA, Sun JK, Iwata T, Zigler JS J, Ibaraki N, Lin LR, Reddy VN (¹⁾ NEI/NIH, ²⁾ Michigan Univ.) : Oxidative stress induces differential gene expression in a human lens epithelial cell line. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 1999 ; 40 (2) : 400-406.
- 6) Iwata T, Sato A, Jimenez J, McGowan M, Moroni M, Dey A, Ibaraki N, Reddy VN, Carper D : Osmotic response element is required for the induction of aldose reductase by tumor necrosis factor- α . *J. Biol. Chem* 1999 ; 274 : 7993-8001.
- 7) Shirato S¹⁾, Inoue R, Hukushima K, Suzuki Y (¹⁾ University of Tokyo) : Clinical evaluation of SITA : A new family of perimetric testing strategies. *Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol* 1999 ; 237 : 29-34.
- 8) 中村 弘, 前田利根¹⁾, 鈴木康之, 井上洋一¹⁾ (¹⁾ オリンピアクリニク) : Scanning laser tomograph を用いた正常眼の視神経乳頭評価. *日眼会誌* 1998 ; 102 : 378-382.

- 9) 呉 朋子¹⁾, 木戸口裕¹⁾, 菊池三季¹⁾, 赤星隆幸 (¹⁾ 三井記念病院) : 5.5mm アクリルソフト眼内レンズの使用経験. 眼科臨床医報 1998 ; 92 (2) : 164-167.
 - 10) 佐々木郁子, 国松志保, 大原國俊 : 地図状脈絡膜炎の所見を呈したサルコイドーシスの1例. 臨床眼科 1998 ; 52 (4) : 595-598.
 - 11) 大山夏子, 国松志保, 鈴木康之, 大原國俊 : 原田病における網膜神経線維層厚の変化. 臨床眼科 1998 ; 52 (6) : 1075-1079.
 - 12) 秋田恵子, 矢口智恵美, 大原國俊, 吾妻安良太, 高橋卓夫¹⁾, 阿部信二¹⁾, 工藤翔二¹⁾ (¹⁾ 第4内科) : 眼サルコイドーシス診断の問題点. 臨床眼科 1998 ; 52 (6) : 1139-1141.
 - 13) 水谷由紀夫, 水谷 諭¹⁾, 高橋 浩, 大原國俊, 水谷由紀夫, 水谷 聡¹⁾, 高橋 浩, 大原國俊 (1 愛知医科大学) : コンタクトレンズの角膜内皮に対する影響. 日コレ誌 1998 ; 40 (3) : 164-171.
 - 14) 高橋 浩, 佐々木郁子, 国松志保, 鈴木康之, 大原國俊, 新見やよい : 緑内障を併発した非典型的癥痕性結膜上皮疾患の1例. 眼紀 1998 ; 49 (12) : 1010-1013.
 - 15) 瀬津直久 : 眼内レンズの術後屈折予測. あたらしい眼科 1998 ; 15 (12) : 1651-1656.
 - 16) 山口 貴, 中元兼二, 清水洋一 : 続発緑内障を生じた小児 black ball hemorrhage の1例. 眼科臨床医報 1998 ; 93 : 413-415.
 - 17) 中村 弘, 林 康司¹⁾, 前田利根¹⁾, 井上洋一¹⁾ (¹⁾ オリンピアクリニック) : Octopus 101/G2プログラムの有用性の検討. あたらしい眼科 1998 ; 15 : 845-848.
 - 18) 大原國俊 : 角膜内皮の障害の修復機構. 眼科診療Q & A 1999 ; 24 (1) : 112-113.
 - 19) 坪井俊一¹⁾, 中村 弘, 前田利根¹⁾, 井上洋一¹⁾ (¹⁾ オリンピアクリニック) : Heidelberg Retina Tomograph における新しい緑内障診断指標の検討. 臨眼 1999 ; 53 (1) : 43-46.
 - 20) 岸岡浩之, 茨木信博, 大原國俊 : 乳児期に眼内レンズ挿入術を施行した先天性白内障の1症例. IOL&RS 1999 ; 13 (1) : 47-51.
 - 21) 中村 弘, 林 康司¹⁾, 前田利根¹⁾, 井上洋一¹⁾ (¹⁾ オリンピアクリニック) : 緑内障での視野障害を反映するHRTパラメータ. 臨眼 1999 ; 53 : 149-152.
 - 22) 林 康司¹⁾, 中村 弘, 前田利根¹⁾, 井上洋一¹⁾ (¹⁾ オリンピアクリニック) : 若年者と中高年者の正常眼圧緑内障の比較. あたらしい眼科 1999 ; 16 (3) : 423-426.
 - 23) 瀬津直久 : 加齢と白内障の進行による水晶体厚の変化. 臨床眼科 1999 ; 53 (5) : 923-926.
- (2) 綜説 :
- 1) 水谷由紀夫 : コンタクトレンズの展望 : 1996年度. 眼科 1998 ; 40 (9) : 1105-1123.
 - 2) 鈴木康之 : 視野のセクター解析. 神経眼科 1998 ; 15 (3) : 258-263.
 - 3) 茨木信博, 大原國俊 : 眼科系疾患の検査. 生態・機能検査のABC (石井裕正, 工藤翔二, 矢崎義雄監修), 日本医師会雑誌特別号 1998 ; 120 (8) : 293.
 - 4) 茨木信博 : 細隙灯顕微鏡検査. 生態・機能検査のABC (石井裕正, 工藤翔二, 矢崎義雄監修), 日本医師会雑誌特別号 1998 ; 120 (8) : 296.
 - 5) 高橋 浩, 大原國俊 : 角膜内皮細胞顕微鏡検査. 生態・機能検査のABC (石井裕正, 工藤翔二, 矢崎義雄監修), 日本医師会雑誌特別号 1998 ; 120 (8) : 302.
 - 6) 鈴木康之 : 精密眼科測定. 生態・機能検査のABC (石井裕正, 工藤翔二, 矢崎義雄監修), 日本医師会雑誌特別号 1998 ; 120 (8) : 295.
 - 7) 鈴木康之 : 視野検査. 生態・機能検査のABC (石井裕正, 工藤翔二, 矢崎義雄監修), 日本医師会雑誌特別号 1998 ; 120 (8) : 307-309.
 - 8) 水谷由紀夫 : 合併症と対策 1. 一般的な角膜上皮障害 (特集 : ディスポーザブルコンタクトレンズのすべてIV). 眼科臨床プラクティス1-2 60-64. 1998 1998 ; 1 : 60-64.

著 書

- 1) 鈴木康之：〔分担〕 遺伝子座が同定された緑内障．（新家 真編）新図説眼科総合診療講座第4巻緑内障，1998；pp22-23，メジカルビュー社．
- 2) 鈴木康之：〔分担〕 遺伝子座が同定されていない緑内障．（新家 真編）新図説眼科総合診療講座第4巻緑内障，1998；pp24-25，メジカルビュー社．
- 3) 鈴木康之：〔共著〕 緑内障．（藤田敏郎監修）薬物治療ガイド 発症メカニズムと原因薬物，1998；pp265-269，南山堂．
- 4) 鈴木康之：〔共著〕 白内障．（藤田敏郎監修）薬物治療ガイド 発症メカニズムと原因薬物，1998；pp270-272，南山堂．
- 5) 鈴木康之：〔共著〕 正常眼圧緑内障の診断「視野」．（北澤克明，沖坂重邦編）正常眼圧緑内障の治療戦略，1998；pp16-25，メディカル葵出版．
- 6) 赤星隆幸：〔監修〕 Phaco Prechop. The Recent Advance in Ophthalmic Surgery No. 11（赤星隆幸），1998；pp1-10，サージカルインフォメーションシリーズ．
- 7) 鈴木康之：〔分担〕 血流改善薬と神経保護作用剤の可能性．（三嶋 弘，二井広紀編）緑内障の薬物療法，1998；pp487-492，あたらしい眼科．
- 8) 中村 弘，安田典子¹⁾ ⁽¹⁾ 東京警察病院）：原発閉塞隅角緑内障 3（特集：発作とその処置）．新図説臨床眼科講座：緑内障，1998；pp144-146，メジカルビュー社．
- 9) 中村 弘，安田典子¹⁾ ⁽¹⁾ 東京警察病院）：レーザー虹彩切開術．新図説臨床眼科講座：緑内障，1998；pp273-275，メジカルビュー社．
- 10) 安田典子¹⁾，中村 弘 ⁽¹⁾ 東京警察病院）：原発閉塞隅角緑内障 1（病像）．新図説臨床眼科講座：緑内障，1998；pp140-141，メジカルビュー社．
- 11) 安田典子¹⁾，中村 弘 ⁽¹⁾ 東京警察病院）：原発閉塞隅角緑内障 2（管理方針）．新図説臨床眼科講座：緑内障，1998；pp142-143，メジカルビュー社．
- 12) 山下英俊，鈴木康之，臼井智彦：〔分担〕 眼科用剤．（矢崎義雄監修）ポケット治療薬 1999，1999；pp521-542，羊土社．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 大久保彰：家族性滲出性硝子体網膜症（FEVR）の臨床．第93回日本医大眼科症例検討会，1998611．
- 2) 鈴木康之：正常眼圧緑内障の診断．国際緑内障フォーラム '98，1998． 4．
- 3) 鈴木康之：緑内障遺伝子の UP-TO DATE：ミオシリン／TIGR 遺伝子変異と緑内障．第102回日本眼科学会総会，1998． 4．
- 4) 鈴木康之：GDxによる緑内障早期診断．Fujisawa Satellite Seminar，1998． 6．
- 5) 鈴木康之：正常眼圧緑内障の診断と治療．第8回青森眼科セミナー，1998． 8．
- 6) 鈴木康之：眼圧・隅角検査．第12回緑内障アカデミー，1998． 8．
- 7) 赤星隆幸：最近の白内障手術：角膜切開無縫合白内障手術と Phaco prechop．第7回眼科手術セミナー，1998． 11．
- 8) 小林茂樹：視神経篩板状神経膠細胞に対する圧力の影響．東京大学眼科症例検討会，1998． 11．
- 9) 赤星隆幸：角膜切開無縫合白内障手術と Phaco prechop．第97回東邦大学眼科学術研究会，1998． 12．
- 10) 鈴木康之：正常眼圧緑内障の治療．第5回緑内障フロンティアの会，1999． 3．

(2) シンポジウム：

- 1) Hernandez MR¹⁾，Pena JDO¹⁾，Doyle MC¹⁾，Ricard CS¹⁾，Kobayashi S，Selvidgr J¹⁾ ⁽¹⁾ Washington Uni-

- versity) : Astrocytes in glaucomatous optic neuropathy : In situ and in vitro studies. 98 ARVO (Florida), 1998. 5.
- 2) Ibaraki N : Strategies for prevention : Posterior capsule opacification in vivo and in vitro. 98 ARVO (Florida), 1998. 5.
 - 3) Hernandez MR¹⁾, Pena JDO¹⁾, Doyle MC¹⁾, Ricard CS¹⁾, Kobayashi S, Selvidge J : Cellular and molecular changes in the lamina cribrosa. 98 ARVO (Florida), 1998. 5.
 - 4) Suzuki Y, Ishii K¹⁾, Tomidokoro A¹⁾, Araie M¹⁾ (¹⁾ University of Tokyo) : Blood flow regulation in optic nerve head. XIII International congress of eye research, 1998. 7.
 - 5) Ibaraki N : Human lens epithelial cell line. NEI/ NIH conference (Maryland), 1998. 10.
 - 6) Ibaraki N, Oharazawa H, Matsui H, Lin LR¹⁾, Reddy VN¹⁾ (¹⁾ Washington University) : Serum-free culture of human lens epithelial cells. Venkat Reddy International Symposium (Virginia), 1998. 10.
 - 7) Carper D¹⁾, Zigler JS J¹⁾, Ibaraki N, Lin LR²⁾, Reddy VN²⁾ (¹⁾ National Eye Institute, ²⁾ Washington University) : Differential display analysis of a human lens epithelial cell line exposed to oxidative stress. Venkat Reddy International Symposium (Virginia), 1998. 10.
 - 8) 茨木信博 : 水晶体上皮細胞の細胞科学. 第13回眼内レンズ屈折手術学会, 1998. 5.
 - 9) 堀田一樹 : 黄斑部手術後の視機能低下 : 黄斑円孔を中心に. 第37回日本網膜硝子体学会, 1998. 5.
 - 10) 鈴木康之 : 眼圧降下による眼血流変化. 第18回日本眼薬理学会, 1998. 9.
 - 11) 鈴木康之 : 正常眼圧緑内障の診断 : 視野検査の役割. 第9回日本緑内障学会, 1998. 9.
 - 12) 鈴木康之 : 術後感染症の予防と処置 : 白内障, 緑内障, 網膜硝子体, 外眼部手術の現状. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- (3) 一般講演 :
- 1) Akahoshi T : Clear corneal cataract surgery and acrysof implantation : Clinical results. '98 ASCRS (San Diego), 1998. 4.
 - 2) Akahoshi T : 8337 acrysof implantation. '98 ASCRS (San Diego), 1998. 4.
 - 3) Akahoshi T : Film festival Theater : Phaco prechop : Soft and hard. '98 ASCRS (San Diego), 1998. 4.
 - 4) Akahoshi T : Phaco prechop. '98 Innovations in small incision surgery (San Diego), 1998. 4.
 - 5) Akahoshi T : The concept and technique of prechopping. '98 Advances in cataract surgery from around the world (San Diego), 1998. 4.
 - 6) Akahoshi T : Phaco prechop : High vacuum phaco with the LEGACY. '98 ASCRS (San Diego), 1998. 4.
 - 7) Akahoshi T : New phaco prechop. '98 ASCRS (San Diego), 1998. 4.
 - 8) Akahoshi T : Phaco education by Phaco Prechop. '98 ASCRS (San Diego), 1998. 4.
 - 9) Kobayashi S, Ricard CS¹⁾, Pena JDO¹⁾, Hernandez MR¹⁾ (¹⁾ Washington University) : Selective expression of neural cell adhesion molecule (NCAM) 180 in optic nerve head (ONH) astrocytes exposed to elevated hydrostatic pressure. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
 - 10) Ricard CS¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Pena JDO¹⁾, Selvidge J¹⁾, Hernandez MR¹⁾ (¹⁾ Washington University) : Differential expression of neural cell adhesion molecule (NCAM) isoforms in normal human optic nerve head (ONH) and in glaucoma. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
 - 11) Hayahsi K¹⁾, Nakamura H, Maeda T¹⁾, Inoue Y¹⁾ (¹⁾ Olympia Eye Hospital) : Peripapillary halo and the visual field in glaucoma. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
 - 12) Takahashi H, Ohara K, Omura T¹⁾ (¹⁾ わかもと製薬研究所) : Glucose transporter 1 (GULT1) expression in diabetic corneal wound repair. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
 - 13) Wang YQ¹⁾, He HY²⁾, Zigler JS J¹⁾, Iwata T¹⁾, Ibaraki N, Reddy VN³⁾, Carper D¹⁾ (¹⁾ National Eye In-

- stitute, ² Harvard Medical School, ³ Oakland University) : bFGF suppresses serum starvation-induced apoptosis in a human lens epithelial cell line. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
- 14) Hernandez MR¹, Pena JDO¹, Doyle MC¹, Ricard CS¹, Kobayashi S, Selvidge JA¹ (¹ Washington University) : Cellular and molecular changes in the lamina cribrosa. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
- 15) Oharazawa H, Ibaraki N, Matsui H, Ohara K, Reddy VN¹ (¹ Oakland University) : Inhibitory effects of RGD-peptide on cell attachment in a human lens epithelial cell line. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
- 16) Ayaki M¹, Azuma N², Majima Y³, Ibaraki N, Singh DP⁴, Shinohara T⁴ (¹ Kameda Medical Center, ² Kamogawa Japan National Children's Hospital, ³ Fujita Health and Hygiene University, ⁴ Harvard Medical School) : Antibodies from atopic dermatitis patients killed lens epithelial cells in culture. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
- 17) Ricard CS¹, Kobayashi S, Pena JDO¹, Selvidge J¹, Hernandez MR¹ (¹ Washington University) : Differential expression of neural cell adhesion molecule (NCAM) isoforms in normal human optic nerve head (ONH) and in glaucoma. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
- 18) Kobayashi S, Ricard CS¹, Pena JDO¹, Hernandez MR¹ (¹ Washington University) : Selective expression neural cell adhesion molecule (NCAM) 180 i optic nerve head (ONH) astrocytes exposed to elevated hydrostatic pressure. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
- 19) Akahoshi T : Phaco prechop. IV Congresso Internacional de Catarata e cirurgia refrativa (Brasil), 1998. 5.
- 20) Akahoshi T : Phaco prechop Soft & hard. IV Congresso Internacional de Catarata e cirurgia refrativa (Brasil), 1998. 5.
- 21) Akahoshi T : Mechanical nucleofracture. IV Congresso Internacional de Catarata e cirurgia refrativa (Brasil), 1998. 5.
- 22) Nakamura H, Goto K¹, Maeda T², Inoue T², Inoue Y² (¹ Medical Office Ministry of Finance, ² Olympia Eye Hospital) : The significance of upper eyelid retraction in exophthalmos of dysthyroid ophthalmopathy. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
- 23) Ibaraki N, Oharazawa H, Matsui H, Lin LR¹, Reddy VN¹ (¹ Oakland University) : Effects of extracellular matrix on cell attachment and migration in a human lens epithelial cell line. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
- 24) Suzuki Y, Ohta S¹, Shirato S², Taniguchi F², Araie M² (¹ Institute Gerontology, Nippon Medical School, ² University of Tokyo) : Mutations in TIGR gene in Japanese with familial and non-familial primary open angle glaucoma. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
- 25) Kunitatsu S, Suzuki Y, Shoji Y¹, Suzuki J², Araie M², Shirato S² (¹ Musashino Red Cross Hospital, ² University of Tokyo) : The nerve fiber layer thickness in high myopia. '98 ARVO (Florida), 1998. 5.
- 26) Akahoshi T : Phaco prechopper. IV Congresso Internacional de Catarata e cirurgia refrativa (Brasil), 1998. 5.
- 27) Akahoshi T : Phaco prechop : Soft and hard. 11th Annual meeting of German Ophthalmic Surgeons International Symposium (Germany), 1998. 5.
- 28) Shirato S¹, Suzuki Y, Taniguchi F¹, Ohta S² (¹ University of Tokyo, ² Institute Gerontology, Nippon Medical School) : TIGR gene mutations found in primary open angle glaucoma patients in Japan. Closed meeting of the glaucoma society of International congress of ophthalmology (Edinburgh), 1998. 6.
- 29) Suzuki Y, Araie M¹, Shibata T², Kitazawa Y³, Yamamoto T³, Abe H⁴, Shirakashi M⁴, Mishima H⁵, Okada Y⁵ (¹ 東京大学, ² 東京大学疫学・生物統計学, ³ 岐阜大学, ⁴ 新潟大学, ⁵ 広島大学) : Optimal Sectorization of visual field for detecting glaucoma progression. 28th International congress of ophthalmology (Amsterdam), 1998. 6.
- 30) Ibaraki N, Oharazawa H, Matsui H, Lin LR¹, Reddy VN¹ (¹ Oakland University) : Culture of human

- lens epithelial cells in serum-free condition. The 2nd Asian Cataract Research Conference (Pusan), 1998. 6.
- 31) Matsui H, Oharazawa H, Ibaraki N, Ohara K, Lin LR¹⁾, Reddy VN¹⁾ (¹⁾ Oakland University) : Inhibitory effects of RGD-peptide for cell attachment of human lens epithelial cell line. The 2nd Asian Cataract Research Conference (Pusan), 1998. 6.
 - 32) Akahoshi T : Mechanical nucleofracture. 28th International congress of Ophthalmology (Amsterdam), 1998. 6.
 - 33) Nakamura H, Nanno M¹⁾, Ishii Y¹⁾, Yabe H¹⁾, Yasuda N¹⁾ (¹⁾ Tokyo Metropolitan Police Hospital) : Surgical results and complications of primary trabeculectomy with mitomycin C for open angle glaucoma. ICO 28 (Amsterdam), 1998. 7.
 - 34) Ricard CS¹⁾, Kobayashi S, Pena JDO¹⁾, Selvidge J¹⁾, Hernandez MR¹⁾ (¹⁾ Washington University) : Glaucomatous human optic nerve head (ONH) and astrocytes exposed neural cell adhesion molecule (NCAM). ICER (Paris), 1998. 7.
 - 35) Akahoshi T : Topical anesthesia with Oxybuprocaine : Clinical and animal study. 16th Congress of the European society of cataract & Refractive surgeons (Nice), 1998. 9.
 - 36) Akahoshi T : New phaco prechop. 16th Congress of the European society of cataract & Refractive surgeons (Nice), 1998. 9.
 - 37) Akahoshi T : Phaco prechop Soft & Hard. 16th Congress of the European society of cataract & Refractive surgeons (Nice), 1998. 9.
 - 38) Akahoshi T : Phaco prechop. II International Conference on Advances in Ophthalmology (India), 1998. 9.
 - 39) Akahoshi T : Clinical experience of 9.000 acrysof implantation. II International Conference on Advances in Ophthalmology (India), 1998. 9.
 - 40) Akahoshi T : Live surgery : Phaco prechop. 5th Ophthalmological congress of Saarc countries (India), 1998. 9.
 - 41) Akahoshi T : Anaesthesia for clear corneal cataract surgery. 5th Ophthalmological congress of Saarc countries (India), 1998. 9.
 - 42) Akahoshi T : Phaco prechop : Mechanical nucleofracture prior to Phacoemulsification. 5th Ophthalmological congress of Saarc countries (India), 1998. 9.
 - 43) Akahoshi T : Acrysof advantage. 5th Ophthalmological congress of Saarc countries (India), 1998. 9.
 - 44) Akahoshi T : Clinical experience of 10.000 acrysof IOLs. '98 Cataract & Refractive surgery meeting (Egypt), 1998. 11.
 - 45) Akahoshi T : Clear corneal cataract surgery. '98 Cataract & Refractive surgery meeting (Egypt), 1998. 11.
 - 46) Akahoshi T : Phaco prechop. '98 Cataract & Refractive surgery meeting (Egypt), 1998. 11.
 - 47) Akahoshi T : Phaco prechop soft & hard. '98 Cataract & Refractive surgery meeting (Egypt), 1998. 11.
 - 48) Akahoshi T : Phaco education by Phaco prechop. '98 Cataract & Refractive surgery meeting (Egypt), 1998. 11.
 - 49) Akahoshi T : Surgical complications. 11th International meeting on cataract, Implant (Implant), 1998. 11.
 - 50) Akahoshi T : Phaco prechop technique. 11th International meeting on cataract, Implant (Implant), 1998. 11.
 - 51) Akahoshi T : Live surgery : Phaco prechop. 11th International meeting on cataract, Implant (Implant), 1998. 11.
 - 52) Akahoshi T : Application of Phaco prechop technique to complicated cataract surgery. 11th International

- meeting on cataract, Implant, Microsurgery and refractive keratoplasty (Implant), 1998. 11.
- 53) Akahoshi T : Advantage of acrysof. '98 Acrysof user meeting (Seoul), 1998. 12.
- 54) Akahoshi T : Live surgery : Phaco prechop. '98 Live surgery & video symposium (Seoul), 1998. 12.
- 55) Akahoshi T : Video symposium : Phaco prechop. '98 Live surgery & video symposium (Seoul), 1998. 12.
- 56) Mizutani Y : The effects of contact lenses on the corneal endothelium. CLAO annual meeting (Seoul), 1999. 1.
- 57) Ibaraki N, Oharazawa H, Maysui H, Lin LR¹⁾, Reddy VN¹⁾ (1) Oakland University) : Effects of extracellular matrix on cell attachment, migration and proliferation in human lens epithelial cell line. XIII International Congress of Eye Research (Paris), 1998. 7.
- 58) 高松倫也¹⁾, 三嶋 弘¹⁾, 岡田康志¹⁾, 鈴木康之, 新家 真²⁾, 山上淳吉²⁾, 阿曾夏江²⁾, 北澤克明³⁾, 山本哲也³⁾, 辻 明³⁾, 阿部春樹⁴⁾, 白柏基宏⁴⁾, 船木繁雄⁴⁾, 柴田大朗⁵⁾ (1) 広島大学, 2) 東京大学, 3) 岐阜大学, 4) 新潟大学, 5) 東京大学疫学・生物統計学) : 緑内障視野のクラスター分割最適化に関する検討. 第102回日本眼科学会総会, 1998. 4.
- 59) 国松志保, 鈴木康之, 小関信之¹⁾, 庄司信行²⁾, 白土城照³⁾, 新家 真³⁾ (1) 東京都老人医療センター, 2) 武蔵野赤十字病院, 3) 東京大学) : 近視型視神経乳頭における緑内障変化のHeidelberg Retina Tomographによる形状解析. 第102回日本眼科学会総会, 1998. 4.
- 60) 山崎芳夫¹⁾, 小関信之²⁾, 吉川啓司³⁾, 松元 俊⁴⁾, 国松志保, 鈴木康之, 新家 真⁵⁾ (1) 日本大学, 2) 東京都老人医療センター, 3) 吉川眼科クリニック, 4) 東京通信病院, 5) 東京大学) : Heidelberg Retina Tomograph (HRT) による緑内障性視神経乳頭変化の評価 : 近視眼と非近視眼との比較. 第102回日本眼科学会総会, 1998. 4.
- 61) 石井 清¹⁾, 鈴木康之, 新家 真²⁾ (1) 大宮赤十字病院, 2) 東京大学) : 視神経乳頭末梢循環の眼圧変動に対する自動調節機能の検討. 第102回日本眼科学会総会, 1998. 4.
- 62) 石田恭子¹⁾, 北澤克明¹⁾, 山本哲也¹⁾, 辻 明¹⁾, 柴田大朗²⁾, 新家 真³⁾, 山上淳吉³⁾, 阿曾夏江³⁾, 鈴木康之, 三嶋 弘⁴⁾, 岡田康志⁴⁾, 高松倫也⁴⁾, 阿部春樹⁴⁾, 白柏基宏⁴⁾, 船木繁雄 (1) 岐阜大学, 2) 東京大学, 疫学・生物統計学, 3) 東京大学, 4) 新潟大学) : 正常眼圧緑内障における視野障害への関与因子とその閾値. 第102回日本眼科学会総会, 1998. 4.
- 63) 船木繁雄¹⁾, 阿部春樹¹⁾, 白柏基宏¹⁾, 鈴木康之, 新家 真²⁾, 山上淳吉²⁾, 阿曾夏江²⁾, 北澤克明³⁾, 山本哲也³⁾, 辻 明³⁾, 三嶋 弘⁴⁾, 岡田康志⁴⁾, 高松倫也⁴⁾, 柴田大朗⁵⁾ (1) 新潟大学, 2) 東京大学, 3) 岐阜大学, 4) 広島大学, 5) 東京大学疫学・生物統計学) : 早期緑内障眼の視野障害に対する屈折および眼圧の影響 : 多数例での検討. 第102回日本眼科学会総会, 1998. 4.
- 64) 谷口富美子¹⁾, 鈴木康之, 白土城照²⁾, 太田成男³⁾ (1) 大宮赤十字病院, 2) 東京大学, 3) 老人病研究所) : 3世代8人にTIGR遺伝子変異を認めた成人発症型原発開放隅角緑内障の一家系. 第102回日本眼科学会総会, 1998. 4.
- 65) 鈴木淳子¹⁾, 白土城照¹⁾, 新家 真¹⁾, 国松志保, 鈴木康之 (1) 東京大学) : 強度近視眼における網膜神経線維層厚. 第102回日本眼科学会総会, 1998. 4.
- 66) 国松志保, 鈴木康之, 小関信之¹⁾, 庄司信行²⁾, 白土城照³⁾, 新家 真³⁾ (1) 東京都老人医療センター, 2) 武蔵野赤十字病院, 3) 東京大学) : 近視型視神経乳頭における緑内障性変化のHeidelberg Retina Tomographによる形状解析. 第102回日本眼科学会総会, 1998. 4.
- 67) 高橋 浩, 大原國俊, 大村武雄¹⁾ (1) わかもと製薬研究所) : 糖尿病ラット角膜上皮創傷治療課程におけるグルコーストランスポーター1発現. 第102回日本眼科学会総会, 1998. 4.
- 68) 山本成徑¹⁾, 村上喜三雄¹⁾, 福興貴秀¹⁾, 富田美智子¹⁾, 尾崎憲子, 菅田安男¹⁾, 矢野啓子²⁾, 高原真理子²⁾, 鶴岡一英²⁾, 大橋笛美²⁾ (1) 都立駒込病院, 2) 都立大久保病院) : 逆転写酵素阻害剤とプロテアーゼ酵素阻害剤併用療法により維持できたAIDS患者に合併したサイトメガロウイルス網膜炎. 第102回日本眼科学会総会,

1998. 4.
- 69) 小原澤英彰, 松井洋法, 高橋雄二¹⁾, 茨木信博, 大原國俊 (1) 済生会宇都宮病院): ヒト水晶体上皮細胞株の細胞接着に対するRGDペプチドの抑制効果. 第102回日本眼科学会総会, 1998. 4.
- 70) 岸岡浩之, 茨木信博, 大原國俊: 乳児期に眼内レンズ移植術を施行した先天性白内障の1症例. 第13回眼内レンズ屈折手術学会, 1998. 5.
- 71) 高橋雄二¹⁾, 大久保彰, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 橋本尚子¹⁾, 大久保好子²⁾ (1) 済生会宇都宮病院, ²⁾ おおくぼ眼科): Foldable Lensを用いた白内障・緑内障同時手術の術後早期成績. 第13回眼内レンズ屈折手術学会, 1998. 5.
- 72) 大久保彰, 高橋雄二¹⁾, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 橋本尚子¹⁾, 大久保好子²⁾ (1) 済生会宇都宮病院, ²⁾ おおくぼ眼科): 経過観察12年目に発症した家族性滲出性硝子体網膜症 (FEVR) 裂孔原性網膜剥離. OSW in 仙台, 1998. 5.
- 73) 瀬津直久: 平均音速による眼軸長計算の誤差について. 第13回眼内レンズ屈折手術学会, 1998. 5.
- 74) 平岡美紀, 大原國俊: 前房レンズ挿入眼に緑内障発作をおこしたサルコイドーシスの1例. OSW in 仙台, 1998. 5.
- 75) 矢口智恵美, 国松志保, 瀬津直久, 鈴木康之, 大原國俊: 隅角全周に白色腫瘤を呈した緑内障眼に対するトラベクトミーと腫瘤試験切除. OSW in 仙台, 1998. 5.
- 76) 忍足 and 浩¹⁾, 平岡智之¹⁾, 小田 仁¹⁾, 堀田一樹, 平形明人¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (1) 杏林大学): アトピー性皮膚炎に伴う網膜剥離に対する硝子体手術の検討. 第37回日本網膜硝子体学会, 1998. 5.
- 77) 岡野 敬¹⁾, 堀田一樹, 小田 仁¹⁾, 忍足 and 浩¹⁾, 平岡智之¹⁾, 平形明人¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (1) 杏林大学): 特発性黄斑円孔手術前後の自覚症状と他覚的所見. 第37回日本網膜硝子体学会, 1998. 5.
- 78) 堀田一樹, 平形明人¹⁾ (1) 杏林大学): SLOによるクリスタリン網膜症の経過観察. OSW in 仙台, 1998. 5.
- 79) 赤星隆幸: 硬い核のPhaco prechop. 第13回日本眼内レンズ屈折手術学会, 1998. 5.
- 80) 赤星隆幸: 軟らかい核のPhaco prechop. 第13回日本眼内レンズ屈折手術学会, 1998. 5.
- 81) 赤星隆幸, 國富由紀子¹⁾, 加賀谷文絵¹⁾, 丸尾京子¹⁾, 松元由法²⁾, 高梨利一郎²⁾ (1) 三井記念病院眼科, ²⁾ 同病理科): ベノキシール点眼麻酔による白内障手術. 第13回日本眼内レンズ屈折手術学会, 1998. 5.
- 82) 岸岡浩之, 中原美和子, 神元亜希子, 茨木信博, 大原國俊: 加齢性白内障手術患者における全身合併症. OSW in 仙台, 1998. 5.
- 83) 中村 弘, 南野麻美¹⁾, 石井 暁¹⁾, 矢部浩也¹⁾, 安田典子¹⁾ (1) 東京警察病院): マイトマイシンC併用線維柱帯切除術の手術成績と合併症. OSW in 仙台, 1998. 5.
- 84) 松田整二¹⁾, 杉田元太郎²⁾, 水谷由紀夫, 高橋 浩, 大原國俊 (1) 誠心眼科病院, ²⁾ 眼科杉田病院): コンタクトレンズ長期使用者の角膜内皮に白内障手術の及ぼす影響. 第41回日本コンタクトレンズ学会総会, 1998. 6.
- 85) 大塚千明, 国松志保, 茨木信博, 大原國俊: サルコイドーシスが疑われた非典型的な原田病の1例. 第15回関東眼科学会, 1998. 6.
- 86) 矢口智恵美, 平岡美紀, 五十嵐勉, 神元亜希子, 大塚千明, 高橋 浩, 茨木信博, 大原國俊: 慢性関節リウマチにおける眼合併症の頻度. 第32回日本眼炎症学会, 1998. 6.
- 87) 鈴木輝彦, 長松淳一, 塚本佐知子, 中山滋章: 7年後に病変の拡大を呈した卵黄様黄斑変性症の1症例. 第15回関東眼科学会, 1998. 6.
- 88) 蝦原 淳, 三浦雅博, 中元兼二, 藤井博明, 清水洋一: 妊娠中毒症に合併した漿液性網膜剥離の1例. 第15回関東眼科学会, 1998. 6.
- 89) 水谷由紀夫, 水谷 聡¹⁾, 高橋 浩, 大原國俊 (1) 愛知医科大学): コンタクトレンズ長期使用と角膜内皮. 第41回日本コンタクトレンズ学会総会, 1998. 6.
- 90) 茨木信博: 老人性白内障の成因: 自己免疫機構の関与について. 第3回日本医科大学感染・免疫・アレルギー

- 研究会講演, 1998. 6.
- 91) 赤星隆幸: Phaco prechop. '98 岩手IOLライブサージェリー研究会, 1998. 6.
 - 92) 赤星隆幸: 最近の白内障手術. '98 高知県白内障手術研究会, 1998. 7.
 - 93) 赤星隆幸: 最近の白内障手術: ペノキシル麻酔による角膜切開無縫合白内障手術. '98 茨城県眼科医会学術講演会, 1998. 7.
 - 94) 庄司信行¹⁾, 新家 真²⁾, 鈴木康之, 小関信之³⁾, 高山 淳³⁾, 白土城照⁴⁾ (1) 武蔵野赤十字病院, 2) 東京大学, 3) 東京都老人医療センター, 4) 東京医科大学): 視神経乳頭解析装置TopSSにおける乳頭境界線の検討. 第36回北日本眼科学会, 1998. 7.
 - 95) 赤星隆幸: Phaco prechop. '98 三井記念病院白内障ビスコサージェリーセミナー, 1998. 8.
 - 96) 赤星隆幸: 新しいPhaco prechopperによる核分裂. 第702回東京眼科集談会, 1998. 8.
 - 97) 石井 暁, 原田拓二, 長松淳一, 今泉信一郎: 緑内障における視神経乳頭の長期観察. 第9回日本緑内障学会, 1998. 9.
 - 98) 谷口富美子¹⁾, 鈴木康之, 新家 真²⁾, 鈴木 香²⁾, 白土城照³⁾, 葛西洋芳⁴⁾ (1) 大宮赤十字病院, 2) 東京大学, 3) 東京医科大学, 4) わかもと製薬株式会社): 培養牛線維柱帯細胞におけるMYOC/TIGR遺伝子の発現. 第9回日本緑内障学会, 1998. 9.
 - 99) 北田浩美¹⁾, 中村 弘, 南野麻美¹⁾, 小林博和¹⁾, 安田典子¹⁾ (1) 東京警察病院): 濾過胞を有する眼に対する超音波白内障手術の眼圧・濾過胞への影響. 第9回日本緑内障学会, 1998. 9.
 - 100) 松尾 寛¹⁾, 鈴木康之, 新家 真¹⁾, 原 岳¹⁾, 白土城照²⁾ (1) 東京大学, 2) 東京医科大学): 5-FU併用線維柱帯切除術後の濾過胞形状の検討. 第9回日本緑内障学会, 1998. 9.
 - 101) 角田典哉¹⁾, 鈴木康之, 新家 真²⁾, 小関信之³⁾, 白土城照⁴⁾ (1) 東京厚生年金病院, 2) 東京大学, 3) 東京老人医療センター, 4) 東京医大・八王子医療センター): Frequency Doubling Perimeterとハンフリー自動静的視野計の比較. 第9回日本緑内障学会, 1998. 9.
 - 102) 井上立州¹⁾, 鈴木康之, 新家 真²⁾, 白土城照³⁾ (1) 大宮赤十字病院, 2) 東京大学, 3) 東京医大・八王子医療センター): TOPプログラムにおける緑内障の精密閾値検査. 第9回日本緑内障学会, 1998. 9.
 - 103) 三村達哉¹⁾, 新家 真¹⁾, 鈴木康之, 小関信行¹⁾, 重枝 崇¹⁾, 白土城照²⁾ (1) 東京大学, 2) 東京医科大学): 正常眼圧緑内障 (NTG) に対する代謝拮抗剤併用線維柱帯切除術の長期成績. 第9回日本緑内障学会, 1998. 9.
 - 104) 山口 貴, 平岡美紀, 大原國俊, 西横貴代美¹⁾, 太田成男¹⁾, 鈴木康之 (1) 老人病研究所): ウサギ眼組織におけるWater channel protein. 第18回日本眼薬理学会, 1998. 9.
 - 105) 井上立州¹⁾, 葛西洋芳²⁾, 鈴木康之, 新家 真³⁾ (1) 大宮赤十字病院, 2) わかもと製薬, 3) 東京大学): 培養ウサギ, ヒトテノン囊線維芽細胞に対する細胞内情報伝達系酵素阻害剤の影響. 第18回日本眼薬理学会, 1998. 9.
 - 106) 秋田恵子, 瀬津直久, 高橋 浩, 茨木信博, 国松志保¹⁾ (1) 東京大学分院): 網膜剥離手術後も高眼圧が持続したSchwartz症候群の1例. 第94回日本医大眼科症例検討会, 1998. 9.
 - 107) 秋庭幹生, 長松淳一, 塚本佐知子, 中山滋章: 多角的な方法を用いて診断した反応性リンパ過形成の1例. 第94回日本医大眼科症例検討会, 1998. 9.
 - 108) 蝦原 淳, 三浦雅博, 藤井博明, 鈴木輝彦: Congenital Retinal Macrovesselの1例. 第94回日本医大眼科症例検討会, 1998. 9.
 - 109) 中村 弘, 南野麻美¹⁾, 矢部浩也¹⁾, 石井 暁, 安田典子¹⁾ (1) 東京警察病院): マイトマイシンC併用線維柱帯切除術後の浅前房に関与する因子の検討. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
 - 110) 小田 仁¹⁾, 堀田一樹, 平岡智之¹⁾, 平形明人¹⁾, 忍足浩和¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (1) 杏林大学): 硝子体出血をきたした広範な網膜下出血の検討. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
 - 111) 松尾 寛¹⁾, 鈴木康之, 新家 真¹⁾, 原 岳²⁾, 白土城照³⁾ (1) 東京大学, 2) 大宮日赤病院, 3) 東京医科大学): MMC併用線維柱帯切除術後の濾過胞形状の検討. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.

- 112) 山本成径¹⁾, 村上喜三雄¹⁾, 福興貴秀¹⁾, 富田美智子¹⁾, 尾崎憲子, 菅田安男¹⁾ (1) 都立駒込病院): 強力な抗HIV治療導入後発症したサイトメガロウイルス網膜炎の2例. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- 113) 三村達哉¹⁾, 新家 真¹⁾, 鈴木康之, 小関信之¹⁾, 重枝 崇¹⁾, 白土城照²⁾ (1) 東京大学, 2) 東京医科大学): 正常眼圧緑内障 (NTG) に対する代謝拮抗剤併用線維柱帯切除術の予後に関する因子. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- 114) 伊藤由香¹⁾, 川島秀俊¹⁾, 神原千浦¹⁾, 安孫子育美¹⁾, 渋井洋文¹⁾, 釜田恵子¹⁾, 佐々木洋¹⁾, 大久保彰¹⁾, 大原國俊 (1) 自治医科大学): 自治医大眼科におけるサルコイドーシス患者の統計的考察. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- 115) 秋田恵子, 禰津直久, 高橋 浩, 茨木信博, 国松志保: 網膜復位後も高眼圧が持続したSchwartz症候群の1例. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- 116) 吉川順子¹⁾, 堀田一樹, 忍足和浩¹⁾, 平形明人¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (1) 杏林大学): 術前視力良好な裂孔原性網膜剥離復位術の検討. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- 117) 国松志保¹⁾, 鈴木康之, 新家 真²⁾, 北澤克明³⁾, 富田剛司³⁾, 山田敬子³⁾, 阿部春樹⁴⁾, 白柏基宏⁴⁾, 船木繁雄⁴⁾ (1) 東京大学・分院, 2) 東京大学, 3) 岐阜大学, 4) 新潟大学): 正常および緑内障強度近視眼の網膜神経線維層厚測定値の検討. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- 118) 船木繁雄¹⁾, 阿部春樹¹⁾, 船木繁雄¹⁾, 阿部春樹¹⁾, 白柏基宏¹⁾, 新家 真²⁾, 鈴木康之, 国松志保²⁾, 北澤克明³⁾, 富田剛司³⁾, 内田英哉³⁾ (1) 新潟大, 2) 東京大, 3) 岐阜大): Nerve Fiber Analyzer GDxによる緑内障診断の有用性について. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- 119) 内田英哉¹⁾, 富田剛司¹⁾, 山田敬子¹⁾, 山本哲也¹⁾, 北澤克明¹⁾, 新家 真²⁾, 鈴木康之, 国松志保²⁾, 阿部春樹³⁾, 白柏基宏³⁾, 船木繁雄³⁾ (1) 岐阜大学, 2) 東京大学, 3) 新潟大学): コンピュータ画像解析装置の診断プログラムによる緑内障性視野障害の検出能力. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- 120) 鈴木康之, 山上淳吉¹⁾, 新家 真¹⁾, 柴田大朗²⁾, 北澤克明³⁾, 山本哲也³⁾, 石田恭子³⁾, 阿部春樹⁴⁾, 白柏基宏⁴⁾, 船木繁雄⁴⁾, 三嶋 弘⁵⁾, 二井宏紀⁵⁾, 高松倫也⁵⁾ (1) 東京大学, 2) 東京大生物統計学, 3) 岐阜大学, 4) 新潟大学, 5) 広島大学): 主成分分析による緑内障性視野欠損の新たな視野指標の検討. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- 121) 小関信之¹⁾, 新家 真²⁾, 鈴木康之, 国松志保²⁾, 吉川啓司³⁾, 山崎芳夫⁴⁾, 松元 俊⁵⁾ (1) 東京都老人医療センター, 2) 東京大学, 3) 吉川眼科クリニック, 4) 日本大学, 5) 東京通信病院): Heidelberg Retina Tomograph緑内障判定プログラムによる診断: 近視型と非近視型乳頭との比較. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- 122) 赤星隆幸: 超音波を用いない白内障手術へのPhaco prechopの応用. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
- 123) 赤星隆幸: 最近の白内障手術について. 山形県眼科医会集談会, 1998. 11.
- 124) 秋田恵子, 矢口智恵美, 中嶋花子, 松井洋法, 茨木信博, 高橋卓夫¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 大原國俊 (1) 第4内科): 眼サルコイドーシスにおける臨床診断基準の問題点. 第18回日本サルコイドーシス学会総会, 1998. 11.
- 125) 本間 博¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 大塚俊昭¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 内田拓実¹⁾, 清野靖彦¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾, 平岡美紀, 大原國俊, 高橋卓夫²⁾, 工藤翔二²⁾ (1) 第4内科, 2) 第1内科): 心筋integrated backscatterによる心サルコイドーシス検出の試み. 第18回日本サルコイドーシス学会総会, 1998. 11.
- 126) 高橋卓夫¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 阿部信二¹⁾, 李 英姫¹⁾, 榎本達治¹⁾, 宮本晴子¹⁾, 臼杵二郎¹⁾, 秋田恵子, 矢口智恵美, 中嶋花子, 茨木信博, 大原國俊 (1) 第4内科): 眼サルコイドーシスにおける気管支肺胞洗浄法の診断的意義. 第18回日本サルコイドーシス学会総会, 1998. 11.
- 127) 矢口智恵美, 秋田恵子, 中嶋花子, 茨木信博, 高橋卓夫¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 大原國俊 (1) 第4内科): 遷延性眼サルコイドーシスの特徴. 第18回日本サルコイドーシス学会総会, 1998. 11.

- 128) 赤星隆幸, 杉浦康弘¹⁾ (1) 杉浦眼科医院): 最近の白内障手術: 点眼麻酔による耳側角膜切開無縫合超音波日帰り手術. 第2回春日都市医師会医学集談会, 1998. 12.
- 129) 若山かおり, 大原國俊, 鈴木康之, 国松志保¹⁾ (1) 東京大学分院): 太田母癥に合併した緑内障の1例. 第95回日本医大眼科症例検討会, 1998. 12.
- 130) 中嶋花子, 秋田恵子, 大原國俊: 重度の前眼部炎症にステロイド内服治療を行った急性前部ぶどう膜炎の1例. 第95回日本医大眼科症例検討会, 1998. 12.
- 131) 高橋 琢, 清水暢夫, 山口郁子: 細動脈瘤を伴った先天性網膜動脈吻合の1例. 第95回日本医大眼科症例検討会, 1998. 12.
- 132) 小原澤英彰, 茨木信博, 松井洋法, Fan W, Shinohara T¹⁾, Sighn DP¹⁾, Chylack LT J¹⁾ (1) ハーバード大学): Lens epithelium derived growthfactorが水晶体上皮細胞の接着能に及ぼす影響. 第25回水晶体研究会, 1999. 1.
- 133) 赤星隆幸: アクリル・インジェクター. 第22回日本眼科手術学会総会, 1999. 1.
- 134) 高橋雄二¹⁾, 大久保彰, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 加来昌子¹⁾, 大久保好子²⁾ (1) 済生会宇都宮病院, 2) おおくぼ眼科): 非穿孔隅角繊維柱帯切除術の短期術後成績. 第22回日本眼科手術学会総会, 1999. 1.
- 135) 五十嵐勉, 大塚千明, 高橋 浩, 大原國俊, 矢口智恵美: 眼精疲労に対し, シアノコバラミン (サンコバR) 点眼液を処方されている患者におけるドライアイの頻度. 第23回角膜カンファランス, 1999. 2.
- 136) 高橋 浩, 北原由紀, 大原國俊: 強膜菲薄化を合併したテリエン周辺角膜変性症様周辺角膜菲薄疾患の1例. 第23回角膜カンファランス, 1999. 2.
- 137) 大塚千明, 田村めぐみ, 高橋 浩, 茨木信博, 大原國俊: デスメ膜が残存した全層角膜移植術の1例. 第23回角膜カンファランス, 1999. 2.
- 138) 鈴木輝彦, 中西史憲: 近医より紹介された緑内障の1例. 第3回千葉緑内障研究会, 1999. 3.
- 139) 北原由紀, 高橋 浩, 大原國俊: 強膜菲薄化を認めたテリエン角膜周辺変性症の1例. 第96回日本医大眼科症例検討会, 1999. 3.
- 140) 山口 貴, 大原國俊: ステロイド視野改善の認められた虚血性視神経症の1例. 第96回日本医大眼科症例検討会, 1999. 3.
- 141) 矢口智恵美, 茨木信博, 大原國俊: 緑内障で発見された転移性悪性腫瘍の1例. 第95回日本医大眼科症例検討会, 1999. 3.

17. 麻酔科学講座

[付属病院麻酔科]

研究概要

本年度も、本教室のテーマであるショックの病態生理と治療、手術侵襲とその防御、麻酔と循環動態、術後疼痛管理、ペインクリニック、外科系集中治療管理にそって臨床および基礎的研究が幅広くなされた。以下に本年度に成果をあげた主な研究テーマを示す。

臨床的研究：(1) 外科侵襲と麻酔による修飾(アルドステロン変動, サイトカイン変動) (2) ショックの病態と治療 (3) 麻酔時に循環動態心機能の解析 (4) 心疾患患者の心機能評価(TEE) (5) 麻酔, 手術中の体液代謝(膠質浸透圧変化, 循環血流量測定) (6) 術後鎮痛法の研究(硬膜外鎮痛法) (7) 外科系患者の集中治療(サイトカインと循環抑制, ステロイド・プロテアーゼインヒビターの侵襲抑制, 呼吸不全への新たな治療法) (8) 手術患者の免疫機能の研究 (9) 外来麻酔の研究(日帰り麻酔) (10) 慢性疼痛治療(交感神経ブロック, 薬物療法)。

基礎的研究：(1) 心臓および血管灌流モデル, 生体内顕微鏡を用いた麻酔薬・循環系薬物研究(VIP, 吸入麻酔の虚血心保護作用) (2) ショックモデルを用いた臓器障害発生機序の研究(サイトカイン, NOSインヒビター) (3) 培養細胞を用いた臓器障害発生機序(フリーラジカル, NOとアポトーシス)の研究など。

研究業績

論文

[1997年度追加]

原著：

- 1) Sejourne F¹⁾, Suzuki H¹⁾, Aikan-Onyuksel H¹⁾, Gao XP¹⁾, Ikezaki H, Rubinstein I¹⁾ (1) Department of Pharmaceutics and Pharmacodynamics, University of Illinois at Chicago, USA) : Mechanisms of vasodilation elicited by VIP in sterically stabilized liposomes in vivo. *Am J Physiol* 1997 ; 273 : 287-292.

(1) 原著：

- 1) Ikezaki H, Paul S¹⁾, Alkan-Onyuksel H¹⁾, Patel M¹⁾, Gao XP¹⁾, Rubinstein I¹⁾ (1) Department of Medicine, University of Illinois at Chicago, Chicago, Illinois 60612, USA) : Vasodilation elicited by liposomal is unimpeded by anti-VIP antibody in hamster cheek pouch. *Am J Physiol* 1998 ; 275 : 56-62.
- 2) Ikezaki H, Onyuksel H¹⁾, Rubinstein I¹⁾ (1) Department of Medicine, University of Illinois at Chicago, Illinois) : Liposomal VIP attenuates pnenyiepnrine-and ANGII-induced vasoconstriction in vivo. *Am J Physiol* 1998 ; 275 : 588-595.
- 3) Shiga T, Takeda S, Nakanishi K, Takano T¹⁾, Sakamoto A, Ogawa R (1) 付属病院集中治療室) : Transesophageal echocardiographic evaluation during negative-pressure ventilation using the Hayek Oscillator. *J Cardiothoracic Vasc Anesth* 1998 ; 12 (5) : 527-532.
- 4) Takeda S, Nejima J¹⁾, Takano T¹⁾, Nakanishi K, Takayama M¹⁾, Sakamoto A, Ogawa R (1) 付属病院集中治療室) : Respiratory management of patients with acute myocardial infarction complicated by pulmonary edema. *Jpn Circ J* 1998 ; 62 : 553-558.
- 5) Iwaki H¹⁾, Sakamoto A, Tanaka S¹⁾ (1) 2nd dept. of Surgery) : Effect of temperature and preservation time on the pharmacological response of isolated vascular endothelium and smooth muscle function. *J Nippon Med Sch* 1999 ; 66 : 15-20.

- 6) 森山みちる, 坂本篤裕, 小川 龍: 心肺疾患を合併する腹部救急手術患者の麻酔. 日腹部救急医学会誌 1998 ; 18 (6).
- 7) 志賀俊哉, 星野 健, 篁 武郎, 坂本篤裕, 小川 龍: 慢性疼痛患者に対するベンゾジアゼピンテストの有用性. 臨床麻酔 1998 ; 22 (7) : 1029-1030.
- 8) 加藤 実, 天羽啓祐, 小川 龍: 長時間作用性局所麻酔薬, 塩酸ロポバカインの浸潤麻酔効果の用量反応性—第II相試験. ペインクリニック 1998 ; 19 : 389-396.
- 9) 加藤 実, 天羽啓祐, 小川 龍: 長時間作用性局所麻酔薬, 塩酸ロポバカインの浸潤麻酔による鎮痛効果と安全性の効果の検討—第III相試験. ペインクリニック 1998 ; 19 : 756-764.
- 10) 大島正行, 紙谷裕昭, 横山健至, 岩田隆成, 島田洋一, 小川 龍: 帝王切開後におけるフルルビプロフェンアキセチルの鎮痛効果. ペインクリニック 1998 ; 19 : 551-553.
- 11) 金 徹, 小林正雄, 斎藤敏之, 坂本篤裕, 小川 龍: 術中ヘパリンを使用し硬膜外カテーテル留置により硬膜外血腫を生じた1症例. ペインクリニック 1999 ; 20 (2) : 183-186.

(2) 綜説:

- 1) 竹田晋浩, 小林徳行, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室): 集中治療中の合併症: 循環器合併症. ICUとCCU 1998 ; 22 (12) : 881-885.
- 2) 竹田晋浩, 小川 龍: 中枢レベルでの鎮静法の意義. 集中治療 1998 ; 10 : 964-972.
- 3) 坂本篤裕, 小川 龍, 高尾あや子¹⁾ (1) 榊原記念病院麻酔科): 開心術中の血管拡張薬の使い方. 日本心臓血管麻酔学会誌 1998 ; 2 (1) : 38-42.
- 4) 坂本篤裕, 小川 龍: Third Space Mystery (特集: 外傷患者のFluid Resuscitation輸液と輸血). Life Support and Anesthesia 1998 ; 5 (12) : 1212-1217.
- 5) 小川 龍: 術中管理からみた体液調査: 食道癌の場合. 麻酔47 (suppl) 1998 ; 172-176.
- 6) 小川 龍: Down regulation. 麻酔47 (suppl) 1998 ; 88-92.
- 7) 島田洋一, 小川 龍: 硬膜外麻酔による無痛分娩の実際. 産婦治療 1998 ; 77 : 536-541.
- 8) 小川 龍: DICの治療. JOHNS 1998 ; 14 : 407-410.
- 9) 小川 龍: ICUにおける侵襲と生体反応. 集中治療 1998 ; 10 : 926-932.
- 10) 小川 龍: ショック・心停止. 消化器外科 1998 ; 4 : 875-876.
- 11) 小川 龍: 注射用ステロイド薬の臨床適用と問題点: SIRS対策としてのステロイド. アレルギー・免疫 1999 ; 6 : 104-108.
- 12) 小川 龍: 敗血症: 敗血症に対する組織・臓器反応. Anesthesia 21Century 1999 ; 1 : 50-53.
- 13) 小川 龍: ショックに備える. 新宿医師会雑誌 1999 ; 440 : 10-20.
- 14) 志賀俊哉, 小川 龍: 麻酔中の左室拡張能の把握法. Cardiovascular Anesthesia (日本心臓血管麻酔学会誌) 1999 ; 2 : 30-36.

著 書

- 1) 小川 龍: [分担] 敗血症ショック, ステロイドの是非. 敗血症の新しい展開 (舟田 久編), 1998 ; pp93-100, 医薬ジャーナル.
- 2) 小川 龍: [自著] 抗炎症薬を用いたSIRSの病態の調節とMOFの予防. SIRS (全身性炎症反応症候群), 1998 ; 医歯薬出版.
- 3) 小川 龍: [分担] 悪性高熱. 薬の副作用チェックマニュアル (高橋隆一, 石本二見男, 上島国利, 塚田理康, 松本和則編), 1998 ; pp318-321, 中外医学社.
- 4) 小川 龍: [分担] 気になる英語医学用語の解釈 (石川直樹, 阿部 弘, 市川陽一, 小川 龍, 上島国利, 寺野 彰編), 1999 ; 診断と治療社.

- 5) 和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明, 島崎修次, 飯野保彦: [共著] 経静脈オーダーマニュアル (和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明, 島崎修次, 飯野靖彦編), 1999; メヂカルビュー社.
- 6) 小川 龍: [分担] 麻酔科の輸液 (越川昭三, 藪田敬二郎, 丸茂文昭, 黒川 清, 小川 龍, 北島政樹編), 1999; pp416-427, 中外医学社.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 寺嶋克幸, 小川 龍: 糖尿病患者の術前評価と術中管理. 第20回日本麻酔・薬理学会総会, 1998. 6.
- 2) 坂本篤裕, 小川 龍: 麻酔管理における Thiobarbiturates の有用性. 第20回日本麻酔薬理学会総会, 1998. 6.
- 3) 竹田晋浩, 夏目隆史¹⁾, 池崎弘之¹⁾, 高野照夫¹⁾, 中西一浩, 坂本篤弘, 小川 龍 (¹⁾ 付属病院集中治療室): 急性呼吸不全に対する Noninvasive ventilation. Positive pressure ventilation (Nasal CPAP) と Negative pressure ventilation (External high-frequency oscillation) の効果. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.

(2) セミナー:

- 1) 志賀俊哉: 麻酔中の左室拡張期機能の把握法. 第2回麻酔と循環器用薬セミナー, 1998. 11.

(3) ワークショップ:

- 1) 小川 龍, 坂本篤裕, 星野 健: 電気痙攣療法の麻酔. 第11回日本総合病院精神医学会, 1998. 12.

(4) 一般講演:

- 1) Takeda S, Lindahl SG, Eriksson LI, Ogawa R: The action of opioid on respiratory neuron activities from whole cell recording in brainstem-spinal cord preparation. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 2) Moriyama M, Sakamoto A, Ogawa R: Preoperative risk factor and outcome in patient with emergent abdominal surgery. 5th America-Japan Anesthesia Conference (Matsuyama), 1998. 10.
- 3) Nakanishi K, Takeda S, Ikezaki H, Terajima K, Ogawa R: RELATIONSHIP OF THE PROINFLAMMATORY CYTOKINES TO MYOCARDIAL DYSFUNCTION AFTER SUBTOTAL ESOPHAGECTOMY. 5th America-Japan Anesthesia Conference (Matsuyama), 1998. 10.
- 4) Kitamura A, Nakajima Y, Kishikawa H, Nagano T¹⁾, Matsuda H¹⁾, Sato R²⁾, Aramaki T¹⁾, Ogawa R (¹⁾ 第1内科, ²⁾ Northwestern University Medical School): Nitric oxide-mediated apoptosis in hepatocyte is associated with stimulation on K⁺ channels. 43th Annual Meeting of the Biophysical Society (Baltimore), 1999. 2.
- 5) Oi Y, Aneman A¹⁾, Dahlqvist M¹⁾, Swensson M²⁾, Evert S²⁾, Haljamae H¹⁾ (¹⁾ Department of Anesthesiology and Intensive Care, Sahlgren's University Hospital, ²⁾ Department of Physiology, Goteborg University): Effect of hypertonic dextran on intestinal mucosal perfusion during porcine endotoxin shock. 19th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brussel), 1999. 3.
- 6) 赤田信二, 志賀俊哉, 金 徹, 中西一浩, 小川 龍, 子島 潤¹⁾, 高野照夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院集中治療室): 急性胸部大動脈解離患者における胃粘膜pH. 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.
- 7) 志賀俊哉, 寺嶋克幸, 松村純也, 坂本篤裕, 小川 龍: 心拍動下冠動脈バイパス術中の心筋障害とモニタリング. 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.
- 8) 小川 龍, 岸川洋昭, 北村 晶, 坂本篤裕: 一酸化窒素による血管内皮細胞の障害. 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.
- 9) 鈴木博子¹⁾, 木村真人¹⁾, 鈴木英朗¹⁾, 遠藤俊吉¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 神経科): 軽躁状態を呈した Non convulsive ETC術後のうつ病患者について. 第94回日本精神神経学会総会, 1998. 5.
- 10) 志賀俊哉, 篁 武郎, 星野 健, 坂本篤裕, 小川 龍: 慢性疼痛患者に対するベンゾジアゼピンテストの有用性. 第32回日本ペインクリニック学会総会, 1998. 7.

- 11) 杉山長良, 竹田晋浩¹⁾, 石田浩康¹⁾, 石川 源¹⁾, 中山一隆²⁾, 井上哲夫²⁾, 高野照夫¹⁾, 小川 龍⁽¹⁾ 付属病院集中治療室, ²⁾ 千葉北総病院麻酔科): 抗腫瘍療法中, 気管支内ステント留置とNO吸入で呼吸不全を防いだ症例. 第20回日本呼吸療法医学会学術総会, 1998. 7.
- 12) 杖下隆哉, 本郷 卓, 北村 晶, 坂本篤裕, 小川 龍: 慢性リウマチ患者の麻酔管理上における問題点. 第38回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 13) 山崎健一朗, 北村 晶, 坂本篤裕, 小川 龍: 痙攣性発声障害患者の麻酔管理. 第38回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 14) 仲吉 隆¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 三上 巖¹⁾, 天神敏博¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 福島光浩¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 川島徹生¹⁾, 榎本豊¹⁾, 宮本哲也¹⁾, 高草木幸子¹⁾, 志賀俊哉, 坂本篤裕, 田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 第2外科): 上肢の特発性肢端紅痛症に対する胸腔鏡下交感神経切除術の1例. 第107回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 15) 杉山長良, 河原裕泰, 北村 晶, 望月 徹¹⁾, 山本保博¹⁾, 小川 龍⁽¹⁾ 救急医学): Human Immunodeficiency Virus (HIV) 感染患者及びAcquired Immunodeficiency Syndrome発症者の緊急麻酔の問題点. 第38回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 16) 志賀俊哉, 坂本篤裕, 小川 龍: 上肢の特発性肢端紅痛症 (erythromelalgia) に対する胸腔鏡下交感神経切除術の1例. 第18回日本臨床麻酔学会総会, 1998. 10.
- 17) 角田 健, 藤田和明¹⁾, 山田光輝¹⁾, 野本幸子²⁾, 小川 龍⁽¹⁾ 多摩永山病院麻酔科, ²⁾ 関東労災病院麻酔科): Propofolを用いたPatient Controlled Sedation (PCS) 第3報. 第18回日本臨床麻酔学会総会, 1998. 10.
- 18) 渡邊朋子, 坂本篤裕, 小川 龍: 手術中のアルドステロン分泌過剰とその対策. 第14回体液・代謝管理研究会, 1999. 1.
- 19) 鈴木規仁¹⁾, 池崎弘之¹⁾, 設楽敏朗¹⁾, 杖下隆哉¹⁾, 中西一浩, 竹田晋浩, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 小川 龍⁽¹⁾ 付属病院集中治療室): 右室駆出率測定用スワングアンツカテーテルを用いた食道癌術後管理の検討. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.
- 20) 山崎健一朗, 角田 健, 赤田信二, 星野 健, 北村 晶, 小川 龍: 慢性前立腺炎による難治性の陰部痛の治療. 第1回ペインクリニック学会東京地方会, 1999. 3.

[第二病院麻酔科]

研究概要

帝王切開術における術後疼痛, とくに後陣痛に対するNSAIDsの効果を検討し, 良好な鎮痛効果が得られることを明らかにするとともに, 本邦における無痛分娩の現況とその展望ならびに麻酔科医の関わり合いを調査するなど, 従来どおり産科麻酔についての研究を継続した. また, 新しい知見が得られているケタミンの鎮静効果や, ペインクリニックにおける低用量投与の有用性, さらに, 重炭酸ナトリウム投与後の呼吸終末二酸化炭素濃度の変化と心拍出量の関連, 自己血輸血の現状などについて検討し報告した.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Suzuki M, Edmonds L J¹⁾, Tsueda K¹⁾, Malkani L¹⁾, Roberts S¹⁾ (¹⁾ University of Louisville School of Medicine): EFFECT KETAMINE ON BISPECTRAL INDEX AND LEVELS OF SEDATION. Journal of Clinical Monitoring and Computing 1998; 14 (5): 373-373.
- 2) 大島正行, 紙谷裕昭, 横山健至, 岩田隆成, 島田洋一, 小川 龍¹⁾ (¹⁾ 付属病院麻酔科): 帝王切開後におけるフルビプロフェンアキセチルの鎮痛効果. ペインクリニック 1998; 19 (4): 551-553.

- 3) 鈴木万三, 菊谷健彦, 赤羽日出男, 杉本季久造, 島田洋一: 重炭酸ナトリウム投与後の呼気終末二酸化炭素濃度変化の解析. 日臨麻会誌 1998; 18 (5): 509-513.
- 4) 島田洋一, 小川 龍¹⁾ (1) 付属病院麻酔科): 硬膜外麻酔による無痛分娩の実際. 産婦治療 1998; 77 (5): 536-541.
- 5) 大島正行, 横山健至, 岩田隆成, 鈴木恵一郎, 杉本季久造, 島田洋一: 硬膜外麻酔により一過性に電撃痛をみた多発性神経炎を既往に有する1症例. ペインクリニック 1999; 20 (2): 283-284.

(2) 綜説:

- 1) 島田洋一: 麻酔と環境汚染. 日医大誌 1998; 65 (6): 494-495.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 島田洋一: 無痛分娩とその現況. 第18回日本臨床麻酔学会総会, 1998. 10.

(2) シンポジウム:

- 1) 島田洋一: 硬膜外麻酔の偶発症・後遺症無痛分娩におよぼす影響. 第336回日産婦神奈川地方部会合同第97回分娩と麻酔研究会, 1998. 12.

(3) 一般講演:

- 1) 井上雅則¹⁾, 井梅和美¹⁾, 花出 豊¹⁾, 新宅孝征¹⁾, 島田洋一 (1) 第二病院中央検査室): 第二病院における自己血輸血の現状. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 2) 横山健至, 岩田隆成, 鈴木恵一郎, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一: 周術期心筋虚血を再発した1症例: 術前冠動脈造影の意義. 第18回日本臨床麻酔学会総会, 1998. 10.
- 3) 岩田隆成, 菊谷健彦, 横山健至, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一: 挿管困難が予想された強直性脊椎炎を合併した1症例. 第18回日本臨床麻酔学会総会, 1998. 10.
- 4) 大島正行, 横山健至, 岩田隆成, 鈴木恵一郎, 杉本季久造, 島田洋一: 硬膜外麻酔により一過性に疼痛再現をみた多発性神経炎の既往を有する1症例. 第18回日本臨床麻酔学会総会, 1998. 10.
- 5) 内木亮介, 大島正行, 鈴木万三, 木下隆央, 丸茂穂積, 杉本季久造, 島田洋一: 不随意運動に少量ケタミンが有効であった1症例. 第13回日本ペインクリニック学会東京地方会, 1999. 3.

[多摩永山病院麻酔科]

研究概要

当教室は, 以下に記す継続的研究内容を持ち研究報告を行っている.

[1] 脊椎麻酔

(1) 塩酸プロピバカインの臨床試験, (2) 高比重液, 等比重液を使用した脊麻の比較, (3) 0.5%等比重プロピバカインの薬液注入速度と脊麻の広がり, (4) 脊椎麻酔高のプロポフォール鎮静効果への影響, (5) RA患者と非RA患者に対する脊麻の比較, (6) 脊麻針の切片の向きと0.5%等比重プロピバカインを用いた脊麻の広がり, (7) open-end pencil point針の臨床検討, (8) 等比重脊麻薬のbaricity, (9) 29G針による脊麻, (10) 0.25%高比重プロピバカインを用いた脊麻.

[2] 麻酔中の不整脈

(1) 脊椎麻酔中の突然の徐脈, (2) 脊椎麻酔下プロポフォール鎮静中に生じたwandering pacemaker, (3) 脊麻下THA中の心房細動.

[3] プロポフォール

(1) 咳込み発生率—ミダゾラムとの比較, (2) patient controlled sedation (PCS), (3) 体脂肪率とプロポフォール

ル必要量。

[4] 術後鎮痛

(1) 小児の術後鎮痛, (2) 人工関節置換術後の鎮痛。

[5] ペインクリニック

(1) 左側腰部交感神経節アルコールブロック後の特発性全身性無汗症, (2) 環椎異形成による頸性頭痛, (3) 末期癌患者に対する塩酸メチルフェニデート, (4) Spinal feeding Arteries and Sympatholytic nerve block.

[6] その他

(1) MRIによる腰椎彎曲度の検討, (2) 腕神経叢ブロック, (3) 産科麻酔, (4) 低流量麻酔, (5) 外来鏡視下手術の麻酔, (6) ショック時の輸液, (7) 硬膜外麻酔が持続脊麻となった症例の検討, (8) 食道裂孔ヘルニア合併患者の麻酔 (症例報告)。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hirata K^{1, 2)}, Matsumoto Y^{2, 3)}, Matsumoto M²⁾, Fukuoka M³⁾, Murata M¹⁾, Yamada K (1) 多摩永山病院薬剤部, 2) 昭和薬科大学薬剤学部, 3) 昭和薬科大学薬物動態学部) : Pharmacokinetics of propofol infusions in Japanese patients. Jpn J Clin Pharmacol Ther 1998 ; 29 (4) : 707-714.
- 2) 志賀麻記子, 横山和子, 益田律子¹⁾, 雨宮志門²⁾ (1) 千葉北総病院麻酔科, 2) 第2内科) : 左側腰部交感神経節アルコールブロック後, 特発性全身性無汗症となった1症例. 日本ペインクリニック学会誌 1998 ; 5 (2) : 134-136.
- 3) 近江禎子, 横山和子, 柴崎敬乃 : Midazolam 鎮静中の咳嗽発生はあるか. Pharmacoaesthesiology 1998 ; 11 (2) : 72.
- 4) 鈴木 太¹⁾, 小川節郎¹⁾, 花岡一雄²⁾, 釘宮豊城³⁾, 横山和子, 一色 淳⁴⁾, 細山田明義⁵⁾, 菊地博達⁶⁾, 沼田克雄⁷⁾ (1) 駿河台日本大学病院麻酔科, 2) 東京大学医学部附属病院麻酔科, 3) 順天堂大学附属順天堂医院麻酔科, 4) 東京医科大学病院麻酔科, 5) 昭和大学病院麻酔科, 6) 東邦大学医学部附属大森病院麻酔科, 7) 自治医科大学救急部 (現 : 医療法人長谷川会湘南ホスピタル, コントローラー)) : 脊椎麻酔におけるAJ-007 (塩酸プロピバカイン) の臨床試験 : 等比重および高比重製剤の臨床用量の検討. 麻酔 1998 ; 47 (4) : 447-465.
- 5) 石原之法, 山田光輝 : プロポフォル麻酔. 日医大誌 1998 ; 65 (5) : 444.
- 6) 横山和子 : 医療の質向上が基本 : 医療関係者の意識改革から始めよう. 病院経営新事情 1998 ; 4-11.
- 7) 石原之法 : 輸液の量に関する controversy. LISA 1998 ; 5 (12) : 1204.
- 8) 益田律子¹⁾, 横山和子, 井上哲夫¹⁾ (1) 千葉北総病院麻酔科) : 高比重脊椎麻酔薬の広がりについて. 麻酔 1998 ; 47 (12) : 1444-1450.
- 9) 横山和子, 近江禎子, 森 秀樹¹⁾ (1) 日下部病院) : 術後鎮痛により胃潰瘍の発見が遅延した1例. 日臨外会誌 1999 ; 60 (1) : 107-109.

(2) 綜説：

- 1) Yokoyama K : Hyperbaric versus isobaric solution in spinal Anesthesia. Silver Jubilee Celebrating programme book 1999 ; 52-53.
- 2) Yokoyama K : Postoperative pain management in children. Silver Jubilee Celebrating programme book 1999 ; 87-89.
- 3) 横山和子 : 低流量麻酔の使い方. 日臨麻会誌 1999 ; 19 (1) : 9-15.

著書

- 1) Shibazaki Y, Nasuhara H, Yokoyama K : [分担] Propofol sedation during spinal anesthesia. *New Balanced Anesthesia* (K. Mori, A. Okumura, Y. Hanato, K. Shingu, K. Fukuda編), 1998 ; pp167-168, EX-CERPTA MEDICA.
- 2) 横山和子 : [分担] 脊椎麻酔下に突然くる徐脈. *麻酔緊急 vol.1* (花岡一雄編), 1998 ; pp124-126, 克誠堂出版.
- 3) 横山和子 : [分担] 脊椎麻酔. 専門医のための麻酔科学レビュー '98 (天羽敬祐監修), 1998 ; pp126-130, 総合医学社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 横山和子 : 脊椎麻酔の現状と安全性. 日本麻酔学会東海北陸地方会 第63回北陸学会, 1998. 9.
- 2) 横山和子 : 外来 (鏡視下) 手術の麻酔. 第24回日本関節鏡学会, 1998. 12.

(2) 教育講演 :

- 1) Yokoyama K : Hyperbaric versus isobaric solution in spinal anesthesia. *Silver Jubilee Celebrations Bangladesh Society of Anaesthesiologist* (Dhaka, Bangladesh), 1999. 2.
- 2) Yokoyama K : Postoperative analgesia in children. *Silver Jubilee Celebrations Bangladesh Society of Anaesthesiologist* (Dhaka, Bangladesh), 1999. 2.
- 3) 横山和子 : 低流量麻酔の使い方. 第18回日本臨床麻酔学会, 1998. 10.
- 4) 横山和子 : 産婦人科の麻酔. 多摩産婦人科医師会, 1998. 12.

(3) 一般講演 :

- 1) Yokoyama K, Shibazaki Y : Reduced postoperative analgesic demand after general anesthesia in comparison to combined epidural : General anesthesia in patients undergoing abdominal surgery. *8th World Congress The Pain Clinic* (Tenerife Canary, SPAIN), 1998. 5.
- 2) Masuda R¹⁾, Yokoyama K, Tanuma K²⁾, Inoue T¹⁾ (1) 千葉北総病院麻酔科, 2) 解剖学第2) : Spinal Feeding Arteries and Sympatholytic Nerve Blocks. *8th World Congress The Pain Clinic* (Tenerife Canary, SPAIN), 1998. 5.
- 3) Oumi S, Yokoyama K : Comparison rheumatoid arthritis with non-rheumatoid arthritis patients on the spread of spinal anesthesia with 0.5% plain bupivacaine. *10th Asian Australasian Congress of Anesthesiologists* (Taipei, TAIWAN), 1998. 5.
- 4) 近江禎子, 志賀麻記子, 横山和子 : 薬液注入速度と脊椎麻酔の広がりについて : 0.5%等比重ブピバカイン 4.0ml. 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.
- 5) 志賀麻記子, 横山和子, 近江禎子 : MRIによる腰椎彎曲度の検討. 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.
- 6) 益田律子, 横山和子 : 脊椎麻酔高の相違がプロポフォール鎮静効果に及ぼす影響について. 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.
- 7) 柴崎敬乃, 横山和子, 近江禎子 : Propofol鎮静の咳込み発生率について. 第20回日本麻酔・薬理学会総会, 1998. 6.
- 8) 近江禎子, 横山和子, 柴崎敬乃 : Midazolam鎮静中の咳嗽発生はあるか. 第20回日本麻酔・薬理学会総会, 1998. 6.
- 9) 益田律子¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 志賀麻記子, 横山和子 (1) 千葉北総病院麻酔科) : 塩酸メチルフェニデートがQOL向上に奏功した末期癌患者の4症例. 第32回日本ペインクリニック学会総会, 1998. 7.
- 10) 横山和子 : 腕神経叢ブロック時の針切片の向きと局所麻酔薬の分布について. 第32回日本ペインクリニック学

会総会, 1998. 7.

- 11) 南須原宏城, 横山和子, 山田光輝: 食道裂孔ヘルニアを合併した症例の術式麻酔の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 12) 近江禎子, 志賀麻記子, 横山和子: 側臥位での0.5%等比重ブピバカイン脊椎麻酔の麻酔発現側に関する検討. 第18回日本臨床麻酔学会, 1998. 10.
- 13) 近江禎子, 志賀麻記子, 横山和子: 慢性関節リウマチ患者と非慢性関節リウマチ患者での脊椎麻酔の広がりとの比較. 第18回日本臨床麻酔学会総会, 1998. 10.
- 14) 横山和子: 新しい脊椎麻酔針・open-end pencil point針の臨床検討. 第18回日本臨床麻酔学会総会, 1998. 10.
- 15) 角田 健¹⁾, 藤田和明, 山田光輝, 野本幸子²⁾, 小川 龍¹⁾ (1) 付属病院麻酔科, 2) 関東労災病院麻酔科): プロポフォールを用いたpatient controlled sedation (PCS) 第3報. 第18回臨床麻酔学会総会, 1998. 10.
- 16) 志賀麻記子, 横山和子, 志賀弘朗¹⁾, 西島 徹¹⁾ (1) 財団法人竹林病院整形外科): 人工関節置換術後の鎮痛について. 第11回局所麻酔学会総会, 1998. 11.
- 17) 益田律子¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 横山和子 (1) 千葉北総病院麻酔科): 等比重脊椎麻酔薬における臨床上的baricityについて. 第11回局所麻酔学会総会, 1998. 11.
- 18) 近江禎子, 志賀麻記子, 横山和子: 脊椎麻酔針の切片の向きと麻酔の広がりについて: 0.5%等比重ブピバカイン4.0ml. 第11回局所麻酔学会総会, 1998. 11.
- 19) 飯野 治, 横山和子: 肺高血圧合併ASDの高令者に対し脊椎麻酔を選択した1症例. 第11回局所麻酔学会総会, 1998. 11.
- 20) 南須原 宏城, 近江禎子, 横山和子: 硬膜外麻酔にて持続局麻となった12症例の検討. 第11回局所麻酔学会総会, 1998. 11.
- 21) 柴崎敬乃, 横山和子: 脊椎麻酔中にpropofol鎮静により発生したwandering pacemakerの1症例. 三多摩麻酔学会, 1999. 3.
- 22) 飯野 治, 横山和子: 脊椎麻酔下に右人工股関節再置換中に出現した心房細動の1症例. 三多摩麻酔学会, 1999. 3.
- 23) 石原之法, 山田光輝: 環椎の異形成により激しい頸性頭痛を訴えた1症例. 日本ペイン・クリニック学会東京地方会, 1999. 3.

[千葉北総病院麻酔科]

研究概要

付属病院および多摩永山病院との密接な連携のもと、「外科的侵襲に対する生体防御反応の調節・抑止」, 「硬膜外および脊椎麻酔の手法, 生体への影響」をテーマに, よりよい麻酔法の探求実践を目指した研究活動が展開された。手術室や病室, ペインクリニックにおける日常の臨床現場から患者の苦痛の除去, QOLの改善を目的とした実践手法に新たな知見が得られつつある。とくに, 本施設独特な気管内挿管困難対策, 硬膜外穿刺手法, 脊椎麻酔の応用の具体策など麻酔臨床の基本に関する啓蒙活動が重ねられている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Okuda Y¹⁾, Suzuki K¹⁾, Kitajima T¹⁾, Masuda R, Asai T²⁾ (1) First Department of Anesthesiology, Dokkyo University School of Medicine, 2) Department of Anesthesiology, Kansai Medical University): Lumbar epidural block for painful legs and moving toes syndrome: A report of three cases. Pain 1998; 78

(2) : 145-147.

- 2) 志賀麻記子¹⁾, 横山和子¹⁾, 益田律子, 雨宮志門²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院麻酔科, ²⁾ 付属病院第2内科): 左側腰部交感神経節アルコールブロック後, 特発性全身性無汗症となった1症例. 日本ペインクリニック学会誌 1998; 5 : 134-137.
- 3) 益田律子, 横山和子¹⁾, 井上哲夫 (¹⁾ 多摩永山病院麻酔科): 高比重脊椎麻酔薬の広がりについて. 麻酔 1998; 47 (12) : 1444-1450.

(2) 総説:

- 1) 井上哲夫: 挿管困難と対策 (特集: 呼吸管理に必要な知識とケアのポイント). 臨床看護 1998; 24 : 865-871.
- 2) 井上哲夫: マスク換気と挿管手技 (特集: 実践麻酔シリーズ). Anesthesia Network (A net) 1998; 2 : 14-19.
- 3) 益田律子, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院麻酔科): 星状神経節ブロックに合併した頸椎化膿性椎体椎間板炎の臨床的検討. ペインクリニック 1999; 22 (2) : 170-175.

著書

- 1) 井上哲夫: [共著] 喉頭鏡がアクセスできない (barrel-chest). 麻酔緊急「あなたならどうする」のコツとポイント. vol.2 (花岡一雄編集), 1998; pp18-19, 克誠堂出版.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 井上哲夫: ヒトにおける上気道管理の基本手技と困難時の対策. 第9回獣医呼吸器談話会学術集会, 1998. 9.

(2) シンポジウム:

- 1) 井上哲夫: セボフルレン (主題: 麻酔ガスはこれからどうなるか). 第2回日本医療ガス学会総会, 1998. 6.

(3) パネルディスカッション:

- 1) 益田律子, 井上哲夫, 吉河達祐, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院麻酔科): 脊椎麻酔高の相違がプロポフォール鎮静効果に及ぼす影響について. 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.

(4) ワークショップ:

- 1) 小倉 明: 硬膜外穿刺手技. 第5回硬膜外麻酔研究会, 1998. 2.

(5) 一般講演:

- 1) Masuda R, Inoue T, Tanuma K¹⁾, Yokoyama K²⁾ (¹⁾ The 2nd Department of Anatomy, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Anesthesiology, Tamagayama Hospital, Nippon Medical School): Spinal Feeding Arteries and Sympathetic Nerve Blocks. The 8th World Congress The Pain Clinic (Spain, Tenerife), 1998. 5.
- 2) Masuda R, Inoue T, Yokoyama K¹⁾, Ohmi S¹⁾, Shiga M¹⁾ (¹⁾ Department of Anesthesiology, Tamagayama Hospital, Nippon Medical School): Effects of epidural local anaesthetic for gastrointestinal function in postoperative analgesia with morphine. XVII Annual ESRA Congress (Geneva), 1998. 9.
- 3) 吉河達祐, 輪嶋善一郎, 今永和幸, 益田律子, 井上哲夫: プロポフォール静脈内注入時の血管痛に対する硬膜外麻酔の効果 (3). 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.
- 4) 小倉 明, 加藤啓一¹⁾, 種田益造¹⁾, 内山 陸¹⁾, 田島夕紀子¹⁾, 小澤和紀¹⁾, 養田 靖¹⁾, 根本英徳¹⁾ (¹⁾ 日本赤十字社医療センター麻酔科): 硬膜外麻酔を併用したプロポフォールによる全身麻酔時におけるエアウェイとしてのCOPAの重要性. 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.
- 5) 小倉 明, 吉河達祐, 井上哲夫: 硬膜外造影所見と局所麻酔薬注入による無痛域との関係: 正中法と旁正中法との比較. 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.

- 6) 根本英徳¹⁾, 内山 睦¹⁾, 加藤啓一¹⁾, 田島夕紀子¹⁾, 種田益造¹⁾, 養田 靖¹⁾, 小倉 明, 小澤和紀¹⁾ (¹⁾ 日本赤十字社医療センター麻酔科): アイゼンメンジャー症候群合併妊娠患者における帝王切開術の周術期管理経験. 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.
- 7) 加藤啓一¹⁾, 種田益造¹⁾, 内山 睦¹⁾, 田島夕紀子¹⁾, 小倉 明, 小澤和紀¹⁾, 養田 靖¹⁾, 根本英徳¹⁾ (¹⁾ 日本赤十字社医療センター麻酔科): 硬膜外カテーテル径がデイスポーザブル持続注入器流量に及ぼす影響. 第45回日本麻酔学会総会, 1998. 4.
- 8) 益田律子, 井上哲夫, 志賀麻記子¹⁾, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院麻酔科): 塩酸メチルフェニデートがQOL向上に奏功した末期癌の4症例. 第43回日本ペインクリニック学会総会, 1998. 7.
- 9) 吉河達祐, 原田昌明, 小倉 明, 井上哲夫: 肺リンパ管筋腫症 (LAM) の麻酔経験. 第38回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 10) 奥田泰久¹⁾, 鈴木圭子¹⁾, 卜部和昌¹⁾, 滝口鉄郎¹⁾, 見塩六生¹⁾, 北島敏光¹⁾, 益田律子 (¹⁾ 獨協医科大学第一麻酔科): "Painful legs and moving toes"5例の治療経験. 第12回日本ペインクリニック学会東京地方会, 1998. 10.
- 11) 小倉 明, 吉河達祐, 井上哲夫: 旁正中法による硬膜外穿刺時におけるランドマークとしての皮膚: 椎間板間距離の重要性. 第18回臨床麻酔学会総会, 1998. 10.
- 12) 吉河達祐, 輪嶋善一郎, 小倉 明, 今永和幸: プロポフォール静脈内注入時の血管痛に対する硬膜外麻酔の効果 (4). 第18回日本臨床麻酔学会総会, 1998. 10.
- 13) 益田律子, 井上哲夫, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院麻酔科): 等比重脊椎麻酔薬における臨床上の baricity について. 第11回日本局所麻酔学会, 1998. 11.
- 14) 益田律子, 井上哲夫, 小倉 明, 池田健次: 下肢外傷手術における術後くも膜下モルヒネ鎮痛効果と SpO₂ の変動. 第13回日本ペインクリニック学会東京地方会, 1999. 3.
- 15) 小倉 明, 吉河達祐, 益田律子, 井上哲夫: 旁正中法による硬膜外穿刺時におけるランドマークとしての皮膚: 椎間板間距離の重要性. 第13回日本ペインクリニック学会東京地方会, 1999. 3.

18. 救急医学講座

[付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・千葉北総病院救命救急センター・新東京国際空港クリニック]

研究概要

平成9年度より臨床研究班，基礎研究班が整理設置されたが，おのおのの班活動が軌道に乗り成果を出している。班別に10年度の研究概要を述べる。

1. 外傷班：本邦でも診断学的腹腔洗浄のスタンダードに成りつつある大友の基準が，J Traumaに掲載された。また，救命困難であった重症外傷に対して，Damage Controlを積極的に行い，その過程での急速加温輸液法の重要性，Abdominal Compartment Syndromの回避の重要性を指摘した。

2. 熱傷班：東京スキンバンクのシステムの構築，人工被覆材特に人工真皮における患者熱傷部の生着についての病理学的検討を行った。

3. 脳外科班：脳低体温療法の適応限界の検討，クモ膜下出血における急性期の管理法についての検討，頭部外傷における凝固線溶系の亢進の解明を行った。

4. 災害班：トリアージの標準タッグ化とその活用に関して発表した。国外活動としては，班員が国際緊急援助隊として2度自然災害に派遣され災害の分析を行った。また，ドイツ高速列車事故を現地調査し報告した。

5. 感染症班：MRSAに対するST合剤の予防投与の効果の検討，MRSA感染症に対するPCRの検討，VCM低感受性MRSAに関する研究を行った。

6. 整形班：重症骨盤骨折における経皮的スクリュー固定の検討を行った。

7. 中毒班：Triage（簡易スクリーニング）を用いて臨床スクリーニング方法の確立を試みた。今後は微量な中毒物質検出可能な機器を整備できたのでスクリーニングと合わせて検討したい。

8. 病態生理班：頭部外傷の凝固線溶系，とくに重症例における過剰線溶に関して解明を試みた。

9. 基礎研究班：救急医学領域では多臓器不全は致命的の合併症である。近年腸管低灌流は多臓器不全の原因として注目されている。ラットの小腸虚血・再灌流モデルを作成し，小腸，肺，肝障害の発生機序を検討しているが，平成10年度は腸管リンパやプロスタグランジンE1のサブタイプ（EP4）が遠隔臓器障害発生に及ぼす影響を検討した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Otomo Y, Henmi H, Mashiko K, Kato K, Koike K, Koido Y, Kimura A, Honma M, Inoue J, Yamamoto Y : New Diagnostic Peritoneal Lavage Criteria for Diagnosis of Intestinal Injury. J Trauma 1998 ; 44 : 991-999.
- 2) Suzaki S : Kostenprofile der internationalen Repatriierung mit Lini Linienflugzeugen nach Japan. ADAC World Congress Aeromedical Service AIRMED 1996 Kongressbericht 1998 ; 531-533.
- 3) Koike K, Yamamoto Y , Peterson VM : Myelopoietic Effects of Interleukin-1a in a Murine Model of Thermal Injury. 熱傷 1998 ; 24 : 11-20.
- 4) Koike K, Yamamoto Y, Peterson VM : Myelopoietic Effects of Interleukin-6 in a Murine Model of Thermal Injury. 熱傷 1998 ; 24 : 247-255.
- 5) Kimura A, Mochizuki T, Nishizawa K, Mashiko K, Yamamoto Y : Trimethoprim-sulfamethoxazole for the prevention of MRSA pneumonia in severely burned patients. J Trauma 1998 ; 45 : 383-387.

- 6) Harada N, Okajima K, Kushimoto S, Isobe H, Tanaka K : Antithrombin reduces ischemia/reperfusion injury of rat liver by increasing the hepatic level of prostacyclin. *Blood* 1999 ; 93 (1) : 157-164.
- 7) Hisayasu S¹⁾, Miyauchi M, Akiyama K²⁾, Gotoh T²⁾, Satoh S²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Tsukuba Lab, Hisamitsu Pharmaceutical Co.Inc, Ibaragi, Japan) : In vivo targeted gene transfer into liver cells mediated by a novel galactosyl-D-lysine/D-serine copolymer. *Gene Therapy* 1999 ; 6 : 689-693.
- 8) 田中秀治, 辺見 弘 : スキンバンクネットワークと死体同種皮膚移植. *低温医学* 1998 ; 24 : 64-72.
- 9) 川井 真, 大泉 旭, 原 義明, 加藤 宏, 野崎正太郎, 山本保博 : 多発外傷における Orthopaedic Missed injury の検討. *日本外科系連合学会誌* 1998 ; 3 (2) : 231-236.
- 10) 川井 真, 大泉 旭, 原 義明, 加藤 宏, 野崎正太郎, 高野研一朗, 大木更一郎, 白井康正, 山本保博 : 軟部組織損傷に対する集学的初期治療戦略 : 特にGIII型開放創に対して. *骨折* 1998 ; 20 (1) : 18-21.
- 11) 川井 真, 勝見 敦, 辻井厚子, 後藤真弓, 宮内雅人, 久志本成樹, 辺見 弘, 山本保博 : 皮膚凍結保存の臨床現状と人工真皮の将来. *低温医学* 1998 ; 24 (2) : 57-62.
- 12) 柴田泰史¹⁾, 久志本成樹, 山本保博 (¹⁾ 付属病院中央検査部) : コバスマイラプラス自動分析装置による動脈血中ケトン体比測定試薬の検討. *日救急医学会関東誌* 1998 ; 19 (1) : 160-161.
- 13) 大友康裕, 辺見 弘, 本間正人, 井上潤一, 松島俊介, 塩崎隆博, 倉本憲明 : 新しい病院災害訓練の試み : 同時多数外傷患者に対する院内対応. *日本集団災害医療研究会誌* 1998 ; 3 : 58-67.
- 14) 井上潤一, 大友康裕, 松浦有里子, 加藤 宏, 塩崎隆博, 松島俊介, 本間正人, 原口義座, 辺見 弘 : 義歯による食道異物の4例. *日救急医学会関東誌* 1998 ; 19 : 52-53.
- 15) 小林辰輔, 大友康裕, 井上潤一, 本間正人, 加藤 宏, 松島俊介, 塩崎隆博, 松浦有里子, 辺見 弘 : 止血に難渋した特発性門脈圧亢進症合併消化管出血の1例. *日救急医学会関東誌* 1998 ; 19 : 68-69.
- 16) 松島俊介, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 塩崎隆博, 辺見 弘 : 経カテーテルの血栓溶解療法抵抗性腸骨下肢静脈血栓症の1例. *日救急医学会関東誌* 1998 ; 19 : 224-225.
- 17) 玉置智規¹⁾, 諫山和男²⁾, 柴田泰史³⁾, 木村昭夫, 山本保博, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科, ²⁾ 目白病院脳神経外科, ³⁾ 付属病院中央検査部) : 脳内出血急性期における動脈血中ケトン体比 (AKBR) の変動. *脳外* 1998 ; 26 (7) : 591-597.
- 18) 牧野俊郎, 前田容子 : 国際空港と救急医療. *日本医事新報* 1998 ; 372 : 7-11.
- 19) 柴田泰史¹⁾, 里村克章¹⁾, 久志本成樹, 木村昭夫, 山本保博, 西澤健司²⁾ (¹⁾ 付属病院中央検査部, ²⁾ 同薬剤部) : 敗血症性DICに対するATIII製剤投与による血中メディアエーターの変動. *バイオメディカル* 1998 ; 8 : 19-27.
- 20) 本間正人, 大友康裕, 井上潤一, 加藤 宏, 小山 敦, 松浦有里子, 辺見 弘, 原口義座 : 当院における救急搬送の現状から見た問題点. *日救急医学会関東誌* 1998 ; 19 : 242-243.
- 21) 井上潤一, 大友康裕, 本間正人, 加藤 宏, 原口義座, 辺見 弘 : Abdominal apoplexy の3例. *日救急医学会関東誌* 1998 ; 19 : 150-151.
- 22) 松浦有里子, 井上潤一, 大友康裕, 本間正人, 加藤 宏, 小山 敦, 原口義座, 辺見 弘 : B-RTOが著効した胃静脈瘤の2例. *日救急医学会関東誌* 1998 ; 19 : 30-31.
- 23) 大橋一善 : コッドマン : ICPモニタリングシステムの使用経験. *脳神経外科* 1998.
- 24) 池田幸穂¹⁾, 山本保博, 諫山和男, 佐藤秀貴, 布施 明, 直江康孝, 村上 守, 大橋一善, 寺本 明²⁾, 高木亮³⁾ (¹⁾ 昭和大学脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科, ³⁾ 同放射線科) : 高度救命救急センターにおけるクモ膜下出血の現状と急性期管理 : 最近2年分の分析. *脳卒中* 1998 ; 20 (6) : 627-631.
- 25) 須崎紳一郎, 二宮宣文, 小井土雄一, 勝見 敦, 久野将宗, 石原 哲 : ドイツ列車事故にみる救急救助. *LiSA (Life Support and Anesthesia)* 1998 ; 5 (9) : 904-907.

- 26) 岩瀬史明, 勝見 敦, 直江康孝, 大泉 旭, 吉田竜介, 須崎紳一郎, 山本保博: 画像診断上形態学的変化を呈さなかった激症肝炎の1例. 日救急医学会関東誌 1998; 19 (1): 66-67.
- 27) 小山 敦, 弥富俊太郎, 石之神小織, 望月 徹, 久志本成樹, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 山本保博: TAE後脾仮性嚢胞の1例. 日救急医学会関東誌 1998; 19 (1): 178-179.
- 28) 勝見 敦, 須崎紳一郎, 山本保博, 西村博行, 夏川周介, 奥寺 敬: ヘリコプター救急搬送. Emergency Nursing 1998; 11 (8): 764-768.
- 29) 新井正徳, 勝見 敦, 久志本成樹, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 山本保博: TAEを施行した肝外傷症例におけるDPLカテーテル留置の有用性. 日救急医学会関東誌 1998; 19 (2): 454-455.
- 30) 中井 浩, 望月 徹, 吉田竜介, 佐藤秀貴, 川井 真, 須崎紳一郎, 山本保博: 大動脈炎症候群に合併した小腸穿孔の1症例. 日救急医学会関東誌 1998; 19 (2): 486-487.
- 31) 上笹 宙, 勝見 敦, 大泉 旭, 須崎紳一郎, 山本保博: ボタン電池誤飲に対して緊急内視鏡を施行した2症例. 日救急医学会関東誌 1998; 19 (2): 616-617.
- 32) 小川理郎, 小池 薫, 森田良平, 東 和明, 工廣紀斗司, 原 義明, 犬塚 祥, 益子邦洋: 耳下腺炎, MOFで発症したシェーグレン症候群の1例. 日救急医学会関東誌 1998; 19: 244-245.
- 33) 森田良平, 原 義明, 東 和明, 工廣紀斗司, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋: 開放性Floating kneeの1例. 日救急医学会関東誌 1998; 19: 306-307.
- 34) 東 和明, 犬塚 祥, 早川秀幸, 近藤久禎, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 益子邦洋: Systemic Inflammatory Response Syndrome (SIRS) 症例におけるsuper antigenの検討. 日救急医学会関東誌 1998; 19: 162-163.
- 35) 工廣紀斗司, 森田良平, 東 和明, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋, 山本保博: Body Packerにおけるスクリーニングとしての腹部エコーの有用性. 日救急医学会関東誌 1998; 19: 72-73.
- 36) 本間正人, 大友康裕, 井上潤一, 加藤 宏, 小山 敦, 松浦有里子, 原口義座, 辺見 弘: 当院における救急ヘリコプター搬送の現状と問題点. 日救急医学会関東誌 1998; 19 (2): 646-647.
- 37) 布施 明, 池田幸穂, 石之神小織, 大橋一善, 村井保夫, 小井土雄一, 山本保博: 重症破裂脳動脈瘤に対して急性期血管内手術を施行した1例. 日救急医学会関東誌 1998; 19 (1): 116-118.
- 38) 宮内雅人, 吉田竜介, 久野将宗, 望月 徹, 川井 真, 須崎紳一郎, 山本保博: 救命救急センターにおけるAIDS症例の検討. 日救急医学会関東誌 1999; 19 (2): 656-657.
- 39) 東 和明, 犬塚 祥, 中村 敏, 原 義明, 工廣紀斗司, 小川理郎, 小池 薫, 益子邦洋: PMX施行症例におけるsuperantigenの検討. エンドトキシン血症治療研究会誌 1998; 2: 43-49.
- 40) 佐藤秀貴, 池田幸穂, 横田裕行²⁾, 小関一英¹⁾, 直江康孝¹⁾, 村上 守, 布施 明, 石野真輔, 大橋一善, 二宮宣文, 山本保博 (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター): 重傷頭部外傷に対する低体温療法の有用性と問題点. 神経外傷 1998; 21: 39-43.
- 41) 渡 潤, 田島廣之, 岡島雄史, 隈崎達夫, 久志本成樹, 山本保博, 益子邦洋: 金属ステント留置により救命し得た気道熱傷の1例. 臨床放射線 1998; 43 (6): 735-737.
- 42) 本間正人, 横田裕行, 小林士郎, 山本保博, 大塚敏文: 多発外傷を伴った頭部外傷の検討. 日救急医学会誌 1998; 9 (5): 182-90.
- 43) 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 大友康裕, 原口義座, 辺見 弘: 頭部外傷と凝固線溶異常. バイオメディカル 1998; 8: 81-86.
- 44) 本間正人: 脳死とは: その原因と病態. Emergency nursing 1998; 11 (12): 1124-1128.
- 45) 本間正人, 高里良男: 頭部外傷と集中治療. Brain nursing 1998; 12 (10): 879-884.
- 46) 山田憲彦, 箱崎幸也, 桑原紀之, 辺見 弘: 全国ネット広域搬送の必要性と特殊性. 日本集団災害医療研究会誌 1998; 3 (2): 137-142.

- 47) 池田幸穂, 山本保博: 外傷性脳浮腫に対する選択的k-opioid受容体拮抗薬の効果に関する実験的研究. 日救医学会誌 1999; 10 (1): 28-29.
 - 48) 大友康裕, 辺見 弘, 益子邦洋, 小井土雄一, 望月 徹, 本間正人, 井上潤一, 山本保博: 診断的腹腔洗浄法による横隔膜損傷診断. 日外傷会誌 1999; 13: 19-24.
 - 49) 池田幸穂, 山本保博, 黒川 顕, 横田裕行, 諫山和男, 猪鹿倉恭子, 佐藤秀貴, 布施 明, 村上 守, 直江康孝, 大橋一善, 石之神小織, 村井保夫, 玉置智規, 寺本 明, 高木 亮: クモ膜下出血急性期の管理. 脳神経外科ジャーナル 1999; 8 (3): 161-167.
 - 50) 本間正人: 中心静脈路の確保. レジデントノート 1999; 1 (1): 112-114.
 - 51) 辺見 弘: 臓器提供への対応. 医療 1999; 53 (3): 194-204.
- (2) 綜説:
- 1) 小池 薫, 山本保博: MOFの現状と治療の将来. ICUとCCU 1999; 23: 165-171.
 - 2) Koike K, Yamamoto Y: Splanchnic hypoperfusion in critically ill patients. 日外傷会誌 1999; 13: 80-87.
 - 3) 小井土雄一, 益子邦洋, 山本保博: 組織の剥離法と切離法. 救急医 1999; 23 (5): 506-508.
 - 4) 大友康裕: 腹腔穿刺・腹腔洗浄法. 救急医 1998; 22: 430-433.
 - 5) 今 明秀: 胸痛を呈することの多い消化管疾患は何か. JIM 1998; 8: 552-555.
 - 6) 大泉 旭, 川井 真, 山本保博: 脊椎骨折(含脊髓損傷)の救急処置と搬送時の注意点. 救急医療ジャーナル 1998; (32): 17-20.
 - 7) 池田幸穂, 山本保博: 脳血管攣縮: 最新の処方. CLINICAL NEUROSCIENCE 1998; 16 (11): 114-116.
 - 8) 山本保博: 災害医療体制の現状と将来像について(特集: 防災まちづくり). 消防科学と情報 1998; 55: 7-12.
 - 9) 久志本成樹, 須崎紳一郎: ショックの鑑別診断と初期治療の考え方. 内科 1998; 81 (5): 810-813.
 - 10) 須崎紳一郎, 山本保博: 心筋トロポニンT迅速判定キット. 救急医 1998; 22 (7): 799-803.
 - 11) 小池 薫: 多臓器不全とホスホリパーゼA2. 炎症と免疫 1998; 6: 24-29.
 - 12) 辺見 弘: 国立病院東京災害医療センターにおける災害対応: 特に防災訓練について. 消防研修 1998; 63: 33-41.
 - 13) 辺見 弘: 体液管理・輸血マニュアル: 体液分布と異常: 出血の理解. エキスパートナース 1998; 11 (臨時増刊号): 15-17.
 - 14) 小井土雄一, 山本保博: 心肺停止. Medical Practice 1998; 15 (臨時増刊): 480-484.
 - 15) 山本保博(特集: 多臓器不全(MOF)は防げるのか). ICUとCCU 1999; 23 (3): 163-164.
 - 16) 小池 薫, 山本保博: 多臓器不全の現状と治療の将来(特集: 多臓器不全(MOF)は防げるのか). ICUとCCU 1999; 23 (3): 165-171.
 - 17) 久志本成樹, 山本保博: SIRS (systemic inflammatory response syndrome) 一概念: 定義と臨床的意義. 日本臨床 1999; 57 (1): 227-235.
 - 18) 久志本成樹, 山本保博: MOFからの回避策. ICUとCCU 1999; 23 (3): 207-217.
 - 19) 久志本成樹, 新井正徳, 増野智彦: 急性腹症: Diagnostic peritoneal lavage. カレントセラピー 1999; 17 (4): 685-690.
 - 20) 大泉 旭, 川井 真, 山本保博: 骨盤骨折の基本的治療. 救急医 1999; 23 (3): 331-334.
- (3) 研究報告書:
- 1) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 犬塚 祥, 小井土雄一, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文: 広域災害医療の在り方の研究報告書. 広域災害医療の在り方の研究報告書 1998; pp31-37.

著 書

- 1) 吉田竜介：〔分担〕4.教育・訓練体制について。平成9年度 海外救急事情調査報告書（欧州編／豪州編）（財団法人救急振興財団企画調査課編集），1998；pp26-33，財団法人救急振興財団企画調査課。
- 2) 二宮宣文：〔分担〕消防機関における活動マニュアル。災害の初動期における活動マニュアルとその運用に関する研究班研究報告書，1998；pp71-85，災害の初動期における活動マニュアルとその運用に関する研究班。
- 3) 辺見 弘：〔分担〕化学損傷。救急救命士標準テキスト（厚生省救急救命士教育研究会監修），1998；pp536-540，へるす出版。
- 4) 辺見 弘：〔分担〕大気汚染。救急救命士標準テキスト（厚生省救急救命士教育研究会監修），1998；pp540-544，へるす出版。
- 5) 山本保博，藤田昌文：〔分担〕有機リン剤中毒。話題の病気ファイル「月刊ナーシング」編集部・編，1998；pp251-254，学研。
- 6) 山本保博：〔分担〕腹腔穿刺，腹腔洗浄。救急認定医のための診療指針（日本救急医学会監修），1998；pp546-548，へるす出版。
- 7) 山本保博：〔分担〕中心静脈カテーテル挿入。救急認定医のための診療指針（日本救急医学会監修），1998；pp574-577，へるす出版。
- 8) 山本 保博：〔監修〕第13回救急救命士国家試験問題（山本保博監修），1998；へるす出版。
- 9) 牧野俊郎，山本保博，黒川 顕，須崎紳一郎，吉田竜介，富岡譲二，小池 薫：〔共著〕第13回日本救急救命士国家試験問題解答解説集。第13回救急救命士国家試験問題解答解説集（山本保博監修），1998；へるす出版。
- 10) 辺見 弘：〔分担〕小児熱傷の輸液。症例で学ぶ：小児体液・電解質異常と輸液（小板橋靖編），1998；pp274-283，永井書店。
- 11) 小井土雄一：〔翻訳〕アトラス救急処置マニュアル（First aid manual原書第7版），1998；南江堂。
- 12) 大友康裕：〔翻訳〕アトラス救急処置マニュアル（First aid manual原書第7版），1998；南江堂。
- 13) 吉田竜介：〔分担〕救急救命士の蘇生教育と問題点。CPR：救命蘇生（監修須崎紳一郎），1998；pp191-195，メディカル・サイエンス・インターナショナル。
- 14) 大友康裕：〔分担〕開胸心マッサージ：現代における復活。CPR：救命蘇生（監修須崎紳一郎編），1998；pp41-53，メディカル・サイエンス・インターナショナル。
- 15) 原 義明，本間正人，岩瀬史明，辻井厚子，稲田真治，小井土雄一，山本保博：〔分担〕救急現場における医療材料。医療材料用具マニュアル（八木義弘監修），1998；pp199-208，診断と治療社。
- 16) 佐藤秀貴，高橋 聡，大泉 旭，野崎正太郎，宮内雅人，小井土雄一，山本保博：〔分担〕救急医療。医療材料用具マニュアル（八木義弘監修），1998；pp307-313，診断と治療社。
- 17) 山本保博：〔監修〕第14回救急救命士国家試験問題。第14回救急救命士国家試験問題（山本保博監修），1998；へるす出版。
- 18) 山本保博：〔分担〕Foleyカテーテルと時間尿量測定。救急処置の基本手技（杉本 侃編集），1998；pp367-371，永井書店。
- 19) 村上 守，柴田泰史¹⁾ 西澤健司²⁾（¹⁾ 付属病院中央検査部，²⁾ 同薬剤部）：〔分担〕低体温療法時におけるエネルギー代謝と栄養管理。低体温療法：病態から管理まで（山本保博，寺本 明編集），1998；pp88-99，へるす出版。
- 20) 大泉 旭：〔分担〕医療材料用具マニュアル（八木義弘監修）。救急現場における医療材料，1998；pp308-310，診断と治療社。
- 21) 布施 明：〔分担〕3.低体温療法の実際。低体温療法：病態から患者管理まで（寺本 明，山本保博編集），1998；pp22-34，へるす出版。
- 22) 布施 明，中林基明：〔分担〕4.重症頭部外傷における低体温療法。低体温療法：病態から患者管理まで（寺

- 本 明, 山本保博編), 1998 ; pp35-49, へるす出版.
- 23) 牧野俊郎, 山本保博, 黒川 顕, 須崎紳一郎, 吉田竜介, 富岡譲二, 小池 薫 : [共著] 第14回日本救急救命士国家試験問題解答解説集. 第14回救急救命士国家試験問題解答解説集 (山本保博監修), 1998 ; へるす出版.
 - 24) 本間正人 : [分担] 低体温療法と呼吸管理. 低体温療法 : 病態から患者管理まで (寺本 明, 山本保博編集), 1998 ; pp73-80, へるす出版.
 - 25) 本間正人 : [分担] 救急医療 (診断的腹腔洗浄). 医療材料用具マニュアル (八木義弘監修), 1998 ; pp203-204, 診断と治療社.
 - 26) 木村昭夫, 中林基明 : [分担] 低体温療法と感染. 低体温療法 : 病態から患者管理まで (寺本 明, 山本保博編集), 1998 ; pp108-115, へるす出版.
 - 27) 山本 保博 : [編集] 低体温療法 : 病態から患者管理まで. 低体温療法 : 病態から患者管理まで (寺本 明, 山本保博編集), 1998 ; へるす出版.
 - 28) 山本 保博 : [分担] 14低体温療法の今後と将来の展望. 低体温療法 : 病態から患者管理まで (寺本 明, 山本保博編集), 1998 ; pp149-153, へるす出版.
 - 29) 吉田竜介, 山本保博 : [分担] 心肺蘇生. 疾患別最新処方 (監修矢崎義雄・戸田剛太郎), 1998 ; pp6-7, メジカルビュー社.
 - 30) 小井土雄一, 山本保博 : [共著] 心肺停止. Medical Practice 図解救急・応急処置ガイド, 1998 ; pp480-484, 文光堂.
 - 31) 二宮宣文 : [分担] 災害医療総論. 国際災害看護マニュアル, 1998 ; pp17-28, 国際看護交流協会.
 - 32) 二宮宣文 : [分担] 災害外科. 国際災害看護マニュアル, 1998 ; pp29-38, 国際看護交流協会.
 - 33) 辺見 弘 : [分担] 開胸心サージ. 今日の治療指針 多賀須幸男 尾形悦郎編, 1998 ; pp50-50, 医学書院.
 - 34) 黒川 顕, 須崎紳一郎 : [共著] 第13回日本救急救命士国家試験問題解答解説集. 第13回救急救命士国家試験問題解答解説集 (山本保博監修), 1998 ; pp52-63, へるす出版.
 - 35) 黒川 顕, 須崎紳一郎, 牧野俊郎, 吉田竜介, 富岡譲二, 小池 薫 : [共著] 第14回日本救急救命士国家試験問題解答解説集. 第14回救急救命士国家試験問題解答解説集 山本保博監修, 1998 ; pp59-93, へるす出版.
 - 36) 須崎紳一郎 : [分担] 心肺蘇生への長い道のり. CPR : 救命蘇生 (須崎紳一郎監修), 1998 ; pp1-6, メディカルサイエンスインターナショナル.
 - 37) 須崎紳一郎 : [分担] なぜ心マッサージか. CPR : 救命蘇生 (須崎紳一郎監修), 1998 ; pp9-16, メディカルサイエンスインターナショナル.
 - 38) 須崎紳一郎 : [分担] 善きサマリア人の法 : CPR 施行の法的根拠. CPR : 救命蘇生 (須崎紳一郎監修), 1998 ; pp241-247, メディカルサイエンスインターナショナル.
 - 39) 須崎紳一郎 : [分担] 睡眠薬中毒 (図解救急・応急処置ガイド). Medical Practice, 1998 ; pp97-99, 文光堂.
 - 40) 大友康裕 : [分担] 電撃傷と雷撃傷. 今日の治療指針 (多賀須幸男, 尾形悦郎編), 1999 ; pp37-38, 医学書院.
 - 41) 大友康裕 : [分担] ハチ刺症. 今日の治療指針 (多賀須幸男, 尾形悦郎編), 1999 ; pp133-133, 医学書院.
 - 42) 山本保博 : [編著] 輸液・輸血・救急薬. 輸液・輸血・救急薬 (山本保博他編著), 1999 ; メディカ出版.
 - 43) 山本保博, 牧野俊郎 : [分担] 4.災害時における救急医療体制と今後の課題. 奥尻からの一今再び, 北海道南西沖地震を検証一 (金子正光, 山本保博監修), 1999 ; pp158-165, 荘道社.
 - 44) 牧野俊郎, 山本保博, 平田清貴, 田口吉子 : [共著] 1999年・2000年度輸液・輸血・救急薬 TODAY, 1999 ; メディカ出版.
 - 45) 山本保博 : [編集] 家庭医学館ホームメディカ (柳下徳雄総編集), 1999 ; 小学館.
 - 46) 山本保博 : [監修] トリアージ : その意義と実際 (国際災害研究会編集), 1999 ; 荘道社.
 - 47) 山本保博 : [分担] 急性中毒. 新・内科治療ガイド : 治療戦略の立て方と病態に応じた治療の実際 (Medical Practice 編集委員会・編), 1999 ; pp1326-1332, 文光堂.

- 48) 大友康裕, 京極多歌子: [分担] トリアージタッグの機能, トリアージタッグの種類. In トリアージ [その意義と実際] (国際災害研究会編), 1999; pp20-30, 荘道社.
- 49) 二宮宣文, 山本保博, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 勝見 敦, 久野将宗, 石原 哲: [分担] 新幹線高速走行時における転覆事故にたいする災害医療に関する研究事業報告書. 1999; pp1-54, 高速鉄道事故救護医療研究グループ.
- 50) 二宮宣文, 小井土雄一: [分担] トリアージ・タッグの記載方法. トリアーの意義と実際, 1999; pp31-46, 荘道社.
- 51) 須崎紳一郎: [共訳] ワシントンマニュアル (高久史磨, 和田 攻監訳), 1999; pp203-219, メディカルサイエンスインターナショナル.
- 52) 本間正人: [翻訳] 中毒ハンドブック (坂本哲也監訳), 1999; pp208-222, メディカル・サイエンス・インターナショナル.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 山本保博: 大規模災害時における緊急医療対応について. 第12回東北救急医学会総会, 1998. 5.
- 2) 辺見 弘: 災害時後方医療施設の役割. 第1回東京都災害研修会, 1998. 5.
- 3) 田中秀次, 辺見 弘: Skinbank. 第17回日本熱傷学会講習会, 1998. 6.
- 4) 辺見 弘: 災害拠点病院の連係と役割. 第1回千葉県医師会災害研究会, 1998. 6.
- 5) 山本保博: 災害医療におけるトリアージの重要性について. 第17回福岡救急医学会, 1998. 9.
- 6) 辺見 弘: 災害拠点病院の機能と役割. 第16回救急医療学術講習会, 1998. 9.
- 7) 須崎紳一郎: 航空救急搬送と International Repatriation. 第16回山形ショック研究会, 1999. 2.
- 8) 大友康裕: 新興再興感染症患者の救急搬送に関する諸問題: 「伝染病予防法」改正に伴う患者移送の指針も含めて. 第7回全国救急隊員シンポジウム, 1999. 2.
- 9) 辺見 弘: 広域災害について: 災害拠点病院の使命と役割. 第17回救急医療・災害医療シンポジウム, 1999. 3.

(2) 教育講演:

- 1) Yamamoto Y: Standardization of Triage in Japan. The 4th Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine (Sapporo Japan), 1998. 9.

(3) 記念講演:

- 1) 山本保博: 災害時における救助と控減症候群. 第1回全国消防救助シンポジウム, 1998. 10.

(4) シンポジウム:

- 1) 益子邦洋, 犬塚 祥, 小池 薫, 小川理郎, 原 義明, 中村 敏, 工廣紀斗司, 山本保博, 辺見 弘: 多発外傷治療における胸部外科医の関わり. 第12回日本外傷学会, 1998. 5.
- 2) 辺見 弘: 国立病院から見た21世紀の救急医療体制への対応. 第1回日本臨床救急医学会総会, 1998. 5.
- 3) 須崎紳一郎, 山本保博, 二宮宣文, 大友康裕, 上原鳴夫, 倉田 毅, 田伏真人, 辻守 康, 大友弘土, 角田隆文: 新しい時代の感染症患者搬送のあり方について (厚生科学研究「新興再興感染症患者の救急搬送に関する研究」). 第1回日本臨床救急医学会総会, 1998. 6.
- 4) 辺見 弘, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 荒井他嘉司: 国立病院の立場から21世紀の救急医療体制への対応. 第1回日本臨床救急医学会総会, 1998. 6.
- 5) 川井 真, 大泉旭, 原 義明, 加藤 宏, 野崎正太郎, 久志本成樹, 山本保博, 白井康正¹⁾ (1) 整形外科): 脂肪塞栓症候群21例の検討: SIRSとの関連. 第24回日本骨折治療学会, 1998. 7.
- 6) 松浦有里子, 本間正人, 大友康裕, 辺見 弘, 正岡博幸, 高里良男: 軽度低体温療法の多発外傷患者への応用.

第1回日本脳低温療法研究会, 1998. 10.

- 7) 須崎紳一郎: 実践から見た医療規制の問題点. 第44回日本宇宙航空環境医学会総会, 1998. 11.
 - 8) 佐藤, 秀貴, 横田裕行, 池田幸穂, 石野真輔, 村井保夫, 大橋一善, 野手洋治, 山本保博: 低体温療法の適応と限界. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 11.
 - 9) 小池 薫, 趙 圭一, 横田裕行, 東 和明, 犬塚 祥, 益子邦洋, 山本保博: MOF治療の新たな展開: 腸管低灌流の改善は多臓器不全の予防と治療に役立つか. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.
 - 10) 大友康裕, 倉本憲明, 辺見 弘, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 小山 敦: 重度外傷に対する非観血的治療の進歩: 腹部実質臓器損傷および骨盤骨折に対する血管造影の適応基準: ヘリカル造影CTにおける extravasation の意義. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.
 - 11) 二宮宣文, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 横田裕行, 黒川 顕, 北上眞実, 今野和行, 山本保博: 救命救急士の実働前後における当高度救命救急センターCPA患者の救命率・社会復帰率の動向. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.
 - 12) 二宮宣文, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 横田裕行, 黒川 顕, 北上眞実, 今野和行, 山本保博: 救命救急士の実働前後における当高度救命救急センターのCPA患者の救命率・社会復帰率の動向. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.
 - 13) 中井 浩, 山本保博, 須崎紳一郎, 小井土雄一: エンドトキシン血症を呈し, 経過中, 血球貪食症候群を合併した1例. 第3回エンドトキシン血症治療研究会, 1999. 1.
 - 14) 野手洋治, 佐藤秀貴, 村井保夫, 石野真輔, 大橋一善, 山本保博, 寺本 明¹⁾: 当施設における高齢者くも膜下出血の検討. 第12回日本老年脳神経外科研究会, 1999. 2.
 - 15) 佐藤秀貴, 野手洋治, 横田裕行, 石野真輔, 村井保夫, 大橋一善, 池田幸穂, 山本保博: 高度救命センターにおける重症頭部外傷の治療. 第22回日本神経外傷学会, 1999. 3.
- (5) フォーラムセッション:
- 1) 牧野俊郎, 小井土雄一, 吉田竜介, 二宮宣文, 山本保博, 原田尚重, 土佐亮一, 平間久雄: CPA患者の救命率向上に不可欠な新食道閉鎖式エアウェイ. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.
 - 2) 牧野俊郎, 小井土雄一, 吉田竜介, 二宮宣文, 山本保博, 原田尚茂, 土佐亮一, 平間久雄, 樋熊正人, 柴田稔, 河井研二: CPA患者の救命率向上に不可欠な新食道閉鎖式エアウェイ (スミウエイWB). 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.
- (6) ワークショップ:
- 1) 辺見 弘: 熱傷医療の経済性. 第24回日本熱傷学会総会, 1998. 5.
 - 2) 牧野俊郎: 空港災害. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.
 - 3) 望月 徹, 青砥泰二¹⁾, 宮内雅人, 丸山正明, 西澤健司²⁾, 柴田泰史¹⁾, 木村昭夫, 山本保博⁽¹⁾ 付属病院中央検査部, ⁽²⁾ 同業剤部): 当救命救急センターにおけるヘテロVRSaの検出状況について. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- (7) 一般講演:
- 1) Yoshida R, Yamamoto Y, Koido Y: The Japanese Characteristic Problems of Suffocated Victims in Prehospital Phase. 4th Congress of the European Resuscitation Council (ERC) (Copenhagen, Denmark), 1998. 6.
 - 2) Homma M, Otomo Y, Henmi H, Arai T: Helicopter emergency ambulance service in Tokyo. 4th Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine (Sapporo Japan), 1998. 9.
 - 3) Oizumi A, Kawai M, Kato H, Hara Y, Nozaki S, Yamamoto Y: The clinical experience of primary wound coverage by artificial dermis in treating Gustilo IIIb open fractures. Annual Meeting of Orthopaedic Trauma Association (Vancouver Canada), 1998. 10.
 - 4) Koike K, Yamamoto Y, Hori Y, Ono T: Intestinal Ischemia and Reperfusion-Induced Lung Injury Is Me-

- diated By Type II Phospholipase A2. International Symposium Growth Factors and Nutrients in Intestinal Health and Disease (Osaka, Japan), 1998. 11.
- 5) Azuma K, Inuduka S, Koike K, Mashiko Y, Yamamoto Y : Superantigens and endotoxin in infectious SIRS. The 31st world congress of the international college of surgeon, Buenos Aires (Argentina), 1998. 11.
 - 6) Kushimoto S, Shibata Y, Ikeda Y, Ishino S, Sato H, Murai Y, Ohashi K, Yamamoto Y : Role of excessive fibrinolysis in patients with severe head injury. Society of Critical Care Medicine, 28th Educational and Scientific Symposium (San Francisco, CA, USA), 1999. 1.
 - 7) Harada N, Okajima K, Kushimoto S, Isobe H : Antithrombin reduces ischemia/reperfusion injury of rat liver by increasing the hepatic level of prostacyclin. Society of Critical Care Medicine, 28th Educational and Scientific Symposium (San Francisco, CA, USA), 1999. 1.
 - 8) 小山 敦, 望月 徹, 小井土雄一, 吉田竜介, 須崎紳一郎, 山本保博, 安 恵美, 倉根修二, 工藤翔二 : 大腸穿孔をきたした AIDS 症例の 1 例. 第 21 回過大侵襲研究会, 1998. 4.
 - 9) 中村 敏, 早川秀幸, 近藤久禎, 東 和明, 工廣紀斗司, 原 義明, 嶋村文彦, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋 : Multidisciplinary approach にもかかわらず DIC で死亡した外傷性ショックの 1 例. 第 21 回過大侵襲研究会, 1998. 4.
 - 10) 今島直俊, 中村 敏, 小川理郎, 早川秀幸, 近藤久禎, 東 和明, 工廣紀斗司, 原 義明, 嶋村文彦, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋 : 硫黄化合物の服用により短時間で死亡した 1 症例. 第 1 回千葉県救急医療研究会, 1998. 4.
 - 11) 小井土雄一, 岩瀬史彦, 村上 守, 東 和明, 吉田竜介, 二宮宣文, 須崎紳一郎, 山本保博, 岡島雄史, 隈崎 達夫 : 胸部刺創術後に発症した肺内仮性動脈瘤に対し TAE が有効であった 1 例. 第 12 回日本外傷学会, 1998. 5.
 - 12) 小池 薫, 趙 圭一, 東 和明, 森田良平, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦洋, 山本保博, 岡田 進 : 感染源不明の SIRS に対する腸管洗浄治療は腸管血流を改善することを示唆した 1 例 : RI アンギオグラフィーを用いた検討. 第 12 回日本外傷学会, 1998. 5.
 - 13) 横田裕行, 黒川 顕, 畝本恭子, 辻井厚子, 富岡譲二, 高橋 聡, 加地正人, 中林基明, 山本保博, 益子邦洋, 池田幸穂, 川井 真, 小池 薫, 犬塚 祥, 小川理郎, 佐藤秀貴 : 頸椎脱臼症例における総頸・椎骨動脈撮影の意義. 第 12 回日本外傷学会, 1998. 5.
 - 14) 犬塚 祥, 東 和明, 小川理郎, 中村 敏, 工廣紀斗司, 原 義明, 小池 薫, 益子邦洋, 山本保博 : 脾温存 膈尾側切除・空腸瘻増設術を施行した鈍の外傷による胃・膈合併損傷の 1 例. 第 12 回日本外傷学会, 1998. 5.
 - 15) 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 近藤久禎, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 益子邦洋, 横田裕行, 山本保博 : 外傷性横隔膜損傷と鑑別が困難であった横隔膜弛緩症の 1 例. 第 12 回日本外傷学会, 1998. 5.
 - 16) 工廣紀斗司, 近藤久禎, 早川秀幸, 東 和明, 中村 敏, 原 義明, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 益子邦洋, 牧野俊郎, 山本保博 : 航空機の乱気流事故による外傷患者の経験. 第 12 回日本外傷学会, 1998. 5.
 - 17) 本間正人, 大友康裕, 井上潤一, 加藤 宏, 辺見 弘 : 頭部外傷後は一般外傷に比べ凝固異常を来しやすいか?. 第 12 回日本外傷学会, 1998. 5.
 - 18) 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 辺見 弘, 山本保博 : 外傷患者の早期 DIC 診断における CRP と Fibrinogen の意義. 第 12 回日本外傷学会, 1998. 5.
 - 19) 松浦有里子, 本間正人, 大友康裕, 井上潤一, 加藤 宏, 小林辰輔, 正岡博幸, 高里良男, 辺見 弘, 山本保博 : 脳低温療法を施行した多発外傷の 1 症例. 第 12 回日本外傷学会, 1998. 5.
 - 20) 小林辰輔, 大友康裕, 井上潤一, 本間正人, 加藤 宏, 松浦有里子, 辺見 弘, 山本保博 : 右中間気管支幹挫滅断裂, 肺挫傷 (右上葉) に対する右中下葉切除後の重度呼吸不全に対して PCPS を施行して救命し得た 1 例. 第 12 回日本外傷学会, 1998. 5.
 - 21) 井上潤一, 大友康裕, 本間正人, 加藤 宏, 小林辰輔, 松浦有里子, 辺見 弘, 山本保博 : 膈損傷に対する脾

- 温存臍体尾部切除術の検討. 第12回日本外傷学会, 1998. 5.
- 22) 小井土雄一: 胸部刺創術後に発症した肺内仮性動脈瘤に対してTAEが有効であった1例. 第12回日本外傷学会, 1998. 5.
 - 23) 大橋一善, 村上 守, 村井保夫, 石之神小織, 直江康孝, 佐藤秀貴, 布施 明, 池田幸穂, 山本保博: 慢性腎不全患者における脳内出血例の検討. 第27回日本脳卒中学会の外科学会, 1998. 5.
 - 24) 横田裕行, 黒川 顕, 畝本恭子, 辻井厚子, 富岡譲二, 高橋 聡, 加地正人, 須崎紳一郎: 当施設における死体検案の実態と問題点. 第1回日本臨床救急医学会総会, 1998. 6.
 - 25) 新井正徳, 勝見 敦, 久志本成樹, 小井土雄一, 野崎正太郎, 須崎紳一郎, 山本保博: TAEを施行した肝外傷症例におけるDPLカテーテル留置の有用性. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
 - 26) 中井 浩, 望月 徹, 吉田竜介, 佐藤秀貴, 山本修三, 川井 真, 須崎紳一郎, 山本保博: 大動脈炎症候群に合併した小腸穿孔の1症例. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
 - 27) 上笹 宙, 勝見 敦, 大泉 旭, 田辺晴山, 宮崎善史, 須崎紳一郎, 山本保博: ボタン電池誤飲に対して緊急内視鏡を施行した2症例. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
 - 28) 宮内雅人, 吉田竜介, 久野将宗, 望月 徹, 川井 真, 須崎紳一郎, 山本保博: 救命救急センターにおけるAIDS症例の検討. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
 - 29) 近藤久禎, 早川秀幸, 東 和明, 工廣紀斗司, 中村 敏, 原 義明, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 益子邦洋, 牧野俊郎, 山本保博: ユナイテッド航空機乱気流事故による外傷患者の特徴について. 第1回日本臨床救急医学会, 1998. 6.
 - 30) 早川秀幸, 東 和明, 近藤久禎, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋: 急激な経過で死亡した激症型肺炎球菌感染症の1例. 第1回日本臨床救急医学会, 1998. 6.
 - 31) 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 松島俊介, 塩崎隆博, 大友康裕, 原口義座, 辺見 弘: 迅速なヘリコプター搬送にて救命し得た腹部大動脈瘤破裂の1例. 第1回日本臨床救急医学会総会, 1998. 6.
 - 32) 今 明秀, 小関一英: 診断開腹の遅れた消化管損傷の検討: 診断的腹腔洗浄法の意義. 平成10年埼玉県外科学会総会第15回救急シンポジウム, 1998. 6.
 - 33) 今 明秀, 小関一英, 金 史英, 弥富俊太郎, 直江康孝, 増野智彦: 骨盤骨折後の肺塞栓の3例. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
 - 34) 今 明秀, 小関一英, 金 史英, 弥富俊太郎, 直江康孝, 増野智彦: 消化管損傷に対する診断的腹腔洗浄法の有用性. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 6.
 - 35) 井上潤一, 大友康裕, 塩崎隆博, 松島俊介, 小林辰輔, 松浦有里子, 加藤 宏, 本間正人, 原口義座, 石原剛, 田倉健一, 辺見 弘: 当センターにおけるヘリコプター搬送の現況について. 第1回日本臨床救急医学会総会, 1998. 6.
 - 36) 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 松島俊介, 塩崎隆博, 大友康裕, 原口義座, 辺見 弘: 迅速なヘリコプター搬送にて救命し得た腹部大動脈瘤の1例. 第1回日本臨床救急医学会総会, 1998. 6.
 - 37) 松浦有里子, 辺見 弘, 原口義座, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 小山 敦, 倉本憲明: B-RTOが著効した胃静脈瘤の2例. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
 - 38) 井上潤一, 辺見 弘, 原口義座, 大友康裕, 本間正人, 加藤 宏, 小山 敦, 松浦有里子, 倉本憲明: Abdominal apoplexyの3例. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
 - 39) 本間正人, 辺見 弘, 原口義座, 大友康裕, 井上潤一, 加藤 宏, 小山 敦, 松浦有里子: 当院における救急搬送の現状から見た問題点. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
 - 40) 玉井英世, 登坂直規, 倉田 潔, 木村昭夫: 臀部刺創後に発生した仮性動脈瘤破裂に対し経動脈塞栓術が奏効した1例. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
 - 41) 大橋一善, 村上 守, 村井保夫, 石之神小織, 直江康孝, 佐藤秀貴, 布施 明, 池田幸穂, 山本保博: コッド

- マン：ICPモニタリングシステムの使用経験。第4回脳循環代謝モニタリング研究会，1998。6。
- 42) 大泉 旭，川井 真，水江史樹，原 義明，加藤 宏，野崎正太郎，山本保博：後方骨盤輪損傷に対する経皮的スクリー固定法の試み。第24回日本骨折治療学会，1998。7。
 - 43) 小池 薫，山本保博，堀 洋三，小野 隆：小腸虚血・再灌流による肺障害：II型ホスホリパーゼA2の役割。第19回日本炎症学会総会，1998。9。
 - 44) 中田恵理，三谷真実江，目黒真喜子，亀山雅弥，飯野幸永，水野杏一，牧野俊郎：国際空港における救急医療体制の中での臨床検査部門の役割。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
 - 45) 三谷真実江，目黒真喜子，中田恵理，亀山雅弥，飯野幸永，水野杏一，牧野俊郎：新東京国際空港クリニックにおけるDRI-Chem（富士AUTO-5）有用性。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
 - 46) 目黒真喜子，中田恵理，三谷真実江，亀山雅弥，飯野幸永，水野杏一，牧野俊郎：新東京国際空港クリニックにおけるポータブル血液ガス電解質分析装置i-STATの有用性。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
 - 47) 本間正人，辺見 弘，脇本浩明¹⁾，正岡博幸¹⁾，高里良男¹⁾（¹⁾東京災害医療センター脳神経外科）：頭部外傷急性期の凝固線溶異常：一般外傷，脳血管障害との比較から。第57回日本脳神経外科学会総会，1998。10。
 - 48) 石野真輔，久志本成樹，柴田泰史¹⁾池田幸穂，佐藤秀貴，村井保夫，大橋一喜，大山健一，山本保博（¹⁾）：重症頭部外傷急性期病態における過剰線溶の関与。第57回日本脳神経外科学会総会，1998。10。
 - 49) 大友康裕，辺見 弘，本間正人，井上潤一，友保洋三，倉本憲明，小島廸子，荒井他嘉司：新しい病院災害訓練の試み：同時多数外傷患者に対する院内対応。第53回国立病院療養所総合医学会，1998。10。
 - 50) 井上潤一，大友康裕，本間正人，加藤 宏，原口義座，辺見 弘：当院におけるヘリコプター搬送の現況について。第53回国立病院療養所総合医学会，1998。10。
 - 51) 川井 真，佐藤秀貴，久志本成樹，山本保博：スポーツにおける危機管理対策について：K-1の経験から。第26回日本救急医学会総会，1998。11。
 - 52) 本間正人，大友康裕，井上潤一，加藤 宏，原口義座，辺見 弘：外傷急性期における凝固線溶の検討。第26回日本救急医学会総会，1998。11。
 - 53) 吉田竜介，小井土雄一，望月 徹，宮内雅人，山本保博：HIV診療拠点病院としての当院救命救急センターにおけるAIDS診療の問題点。第26回日本救急医学会総会，1998。11。
 - 54) 望月 徹，西澤健司¹⁾，宮内雅人，木村昭夫，山本保博（¹⁾付属病院薬剤部）：重症熱傷とガス壊疽症例に対するST合剤予防的投与のMRSA肺炎発生抑制効果。第26回日本救急医学会総会，1998。11。
 - 55) 久野将宗，須崎紳一郎，二宮宣文，小井土雄一，勝見 敦，山本保博，石原 哲：ドイツInter City Express脱線事故後のヘリコプターによる患者搬送。第5回日本エアレスキュー研究会，1998。11。
 - 56) 須崎紳一郎，吉田竜介，富岡譲二，二宮宣文，筑井久美，山本保博：国際航空患者搬送における人工呼吸管理：International Repatriationに伴う諸問題：第5報。第5回日本エアレスキュー研究会，1998。11。
 - 57) 須崎紳一郎，勝見 敦，富岡譲二，山本保博，松田 潔，奥寺 敬：長野オリンピック冬季大会におけるヘリコプター救急搬送協力。第26回日本救急医学会総会，1998。11。
 - 58) 小井土雄一，新井正徳，加地正人，望月 徹，久志本成樹，須崎紳一郎，益子邦洋，黒川 顕，山本保博：肝損傷におけるTAEの適応の限界。第26回日本救急医学会総会，1998。11。
 - 59) 稲田眞治，山本保博，須崎紳一郎，小井土雄一，増野智彦：下行結腸の後腹膜穿通により発症した下肢ガス壊疽の1例。第22回過大侵襲研究会，1998。11。
 - 60) 久志本成樹，柴田泰史，石野真輔，池田幸穂，山本保博：重症頭部外傷急性期病態における過剰線溶の関与。第26回日本救急医学会総会，1998。11。
 - 61) 原田直明，岡嶋研二，久志本成樹，森 正和：ラットの肝虚血再灌流障害におけるメシル酸ガベキサートの効果。第26回日本救急医学会総会，1998。11。
 - 62) 本間正人，大友康裕，井上潤一，松島俊介，塩崎隆博，原口義座，辺見 弘：災害拠点基地における患者輸送

- 医療拠点 (Staging Unit) の必要性：点から点への搬送から面から面への搬送へ。第6回エアースキュー研究会，1998. 11.
- 63) 本間正人，辺見 弘，益子邦洋，山本保博，松田 潔：ERP分類に基づいた腓管損傷の治療方針の決定。第60回日本臨床外科医学会総会，1998. 11.
- 64) 後藤真弓，大橋 勉，窪田靖志，金子明彦：ポリウレタン樹脂製硬膜外カテーテルの実験的検討。第11回日本局所麻酔学会，1998. 11.
- 65) 牧野俊郎，浅野悦洋，前田容子，山本保博，大塚敏文：国際空港と航空機災害の対応について。第44回日本宇宙航空環境医学会総会，1998. 11.
- 66) 二宮宣文，浅井康文，甲斐達朗，大友康裕，金田正樹，杉本勝彦，松阪正訓，小井土雄一，山本保博：災害の初動期における活動マニュアルとその運用に関する研究。第26回日本救急医学会総会，1998. 11.
- 67) 柴田泰史¹⁾，野本剛史¹⁾，里村克章¹⁾，久志本成樹，石野真輔，池田幸穂，山本保博⁽¹⁾ 付属病院中央検査部)：頭部外傷急性期におけるフィブリノゲン分解産物およびフィブリン分解産物の分別測定による線溶動態の検討。第26回日本救急医学会総会，1998. 11.
- 68) 本間正人，井上潤一，加藤 宏，大友康裕，原口義座，辺見 弘：頭部外傷と凝固線溶異常 (第2報)。第9回バイオメヂカル，1998. 12.
- 69) 花田隆造，倉本憲明，加藤 宏，後藤真弓，大橋 勉：術直後に明らかとなった下肢静脈血栓症の1例。第7回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，1998. 12.
- 70) 東 和明，小林辰輔，犬塚 祥，益子邦洋，小池 薫：PMX施行症例におけるスーパーアンチゲンの検討。第3回エンドトキシン血症治療研究会，1999. 1.
- 71) 大山健一，玉置智規¹⁾，野手洋治，寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科)：真性多血症に合併した深部静脈洞血栓症の1例。第22回日本脳神経CI学会総会，1999. 1.
- 72) 野手洋治，高橋 弘，志村俊郎，寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科)：画像上頭蓋咽頭腫と鑑別が困難であった神経膠腫の2例。第22回日本脳神経CI学会総会，1999. 1.
- 73) 宮田美穂，須崎紳一郎，川井 真，二宮宣文，小池 薫，中井 浩，久野将宗：ビールの多飲によるものと思われる低Na血症の1症例。第46回日本救急医学会関東地方会，1999. 2.
- 74) 佐藤秀貴，野手洋治，大橋一善，石野真輔，小井土雄一，川井 真，須崎紳一郎，山本保博：破裂後頭蓋窩動脈瘤の治療。第46回日本救急医学会関東地方会，1999. 2.
- 75) 佐藤秀貴，野手洋治，石野真輔，大橋一善，小井土雄一，川井 真，須崎紳一郎，山本保博：救命センターにおける後頭蓋窩破裂動脈瘤の治療戦略。第46回救急医学会関東地方会，1999. 2.
- 76) 長嶺あきつ，佐藤秀貴，稲田真治，大橋一善，石野真輔，野手洋治，小池 薫，山本保博：重症なViral Encephalitisの2例。第46回日本救急医学会関東地方会，1999. 2.
- 77) 本間正人，大友康裕，井上潤一，松島俊介，塩崎隆博，原口義座，辺見 弘：災害時におけるヘリコプター搬送：ヘリコプターを使うからヘリコプターをどのように使うか？。第4回日本集団災害医療研究会，1999. 2.
- 78) 今 明秀，小関一英，金 史英，直江康孝，土佐亮一，幸田俊一郎：両親間の合意が得られなかったエホバの証人の腹部外傷。第46回日本救急医学会関東地方会，1999. 2.
- 79) 難波江功二，大友康裕，井上潤一，加藤 宏，松島俊介，塩崎隆博，野崎正太郎，小川太志，原口義座，辺見 弘：最近経験したコレラ患者の1例：行政対応の問題点について。第46回日本救急医学会関東地方会，1999. 2.
- 80) 小川太志，大友康裕，井上潤一，加藤 宏，松島俊介，塩崎隆博，野崎正太郎，原口義座，辺見 弘：軽微な外力で発症した腎破裂の1例。第46回日本救急医学会関東地方会，1999. 2.
- 81) 松島俊介，大友康裕，井上潤一，加藤 宏，塩崎隆博，野崎正太郎，小川太志，原口義座，辺見 弘：最近経験した成人腸重積症の2例。第46回日本救急医学会関東地方会，1999. 2.
- 82) 辺見 弘，大友康裕，本間正人，井上潤一，加藤 宏，松島俊介，塩崎隆博，荒井他嘉司：災害時トリアージ

- における Revised trauma score (RTS) の意義. 第4回日本集団災害医療研究会, 1999. 2.
- 83) 玉井英世, 登坂直規, 倉田 潔, 木村昭夫: 中核型2次救急施設を開設して: その使命と問題点. 第46回日本救急医学会関東地方会, 1999. 2.
- 84) 二宮宣文, 小井土雄一, 勝見 敦, 久野将宗, 須崎紳一郎, 山本保博, 石原 哲: ドイツICE列車事故から何を学ぶか?. 第4回日本集団災害医療研究会, 1999. 2.
- 85) 宮内雅人, 山本修三, 大木更一郎, 望月 徹, 吉田竜介, 小井土雄一, 山本保博: 帝王切開後羊水塞栓症によりCPAに陥った1症例. 第46回日本救急医学会関東地方会, 1999. 2.
- 86) 小井土雄一, 浅利 靖, 中村 健, 山本 甚, 今野孝雄, 大塚 恵, 金沢 豊, 荒井尚之, 西村満治, 古屋年章, 秋山純一: パプア・ニューギニア国津波災害における医療活動報告. 第4回日本集団災害医療研究会, 1999. 2.
- 87) 金沢 豊, 荒井尚之, 浅利 靖, 中村 健, 小井土雄一, 今野孝雄, 山本 甚, 大塚 恵, 西村満治, 古屋年章, 秋山純一: パプア・ニューギニア国津波災害における水質調査について. 第4回日本集団災害医療研究会, 1999. 2.
- 88) 浅利 靖, 小井土雄一, 中村 健, 山本 甚, 今野孝雄, 大塚 恵, 金沢 豊, 荒井尚之, 西村満治, 古屋年章, 秋山純一: パプア・ニューギニア国津波災害, 被災後1週間のassessment. 第4回日本集団災害医療研究会, 1999. 2.
- 89) 大塚 恵, 金沢 豊, 山本 甚, 今野孝雄, 浅利 靖, 小井土雄一, 中村 健, 荒井尚之, 西村満治, 古屋年章, 秋山純一: パプア・ニューギニア国津波災害における災害看護について. 第4回日本集団災害医療研究会, 1999. 2.
- 90) 本間正人, 大友康裕, 辺見 弘: 外傷における凝固線溶異常: 凝固線溶マーカーを用いた急性期の検討. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 91) 本間正人, 脇本浩明¹⁾, 正岡博幸¹⁾, 高里良男¹⁾ (¹⁾ 東京災害医療センター脳神経外科): 頭部外傷は凝固線溶異常を起こしやすいか?: Tissue Factor (TF), Tissue Factor Pathway Inhibitor (TFPI) の検討から. 第22回日本神経外傷研究会, 1999. 3.
- 92) 宮内雅人, 瀬尾継彦, 望月 徹, 小池 薫, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 山本保博: 急性閉塞性化膿性胆管炎(AOSC)から急激にDIC, 敗血症性ショック, 多臓器不全を併発した1症例. 第32回日本腹部救急医学会総会, 1999. 3.
- 93) 久志本成樹, 小池 薫, 新井正徳, 山本保博: 肝虚血再灌流障害における微小血栓の役割. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 94) 本間正人, 大友康裕, 原口義座, 辺見 弘: 外傷の重症度と急性期凝固線溶分子マーカー. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.
- 95) 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 辺見 弘: 十二指腸静脈瘤破裂による大量消化管出血の1例. 第32回日本腹部救急医学会総会, 1999. 3.
- 96) 本間正人, 大友康裕, 辺見 弘: 外傷における凝固線溶異常: 凝固線溶マーカーを用いた急性期の検討. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 97) 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 辺見 弘: 外科的SIRS症例の早期DIC診断におけるCRPとFibrinogenの意義. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- (8) ビデオセッション:
- 1) 佐藤秀貴, 諫山和男, 石野真輔, 大橋一善, 池田幸穂, 村井保夫, 山本保博: Occipital transtentorial approachにてclippingし得たSCA distal aneurysmの1例. 第27回日本脳卒中の外科学会, 1998. 5.
- 2) 佐藤秀貴, 野手洋治, 横田裕行, 石野真輔, 村井保夫, 大橋一善, 池田幸穂, 山本保博, 小南修二: clippingできずにcoilingとしたIC blistering aneurysmの1例. 第3回埼玉頭蓋底外科研究会, 1998. 11.

(9) フォーラム：

- 1) 中野渡雄一，横田裕行，富岡譲二，加地正人，辻井厚子，高橋 聡，黒川 顕，益子邦洋，犬塚 祥，小池 薫：脂肪塞栓症候群における脳内の病態の検討。第12回日本外傷学会，1998。5。
- 2) 小池 薫，山本保博，Peterson VM：熱傷後のIL-6治療が末梢白血球数と食細胞増殖能に及ぼす影響。第24回日本熱傷学会総会，1998。5。

(10) ラウンドテーブルディスカッション：

- 1) Henmi H：Simulation Models for Different Types of Disaster. Internatiol Round Table Discussion on Disaster Medical Systems for the Futures (Tokyo, Japan), 1999。3。
- 2) 辺見 弘：消防防災ヘリコプターをつかった救急業務のあり方について：東京災害医療センターのヘリコプター搬送例の検討。第26回日本救急医学会総会，1998。11。
- 3) 小井土雄一，吉田竜介，二宮宣文，山本保博：救急救命士の病院実習：救急救命士の病院実習検討委員会報告を受けて。第26回日本救急医学会総会，1998。11。

(11) その他：

- 1) 新井正徳，勝見 敦，久志本成樹，小井土雄一，須崎紳一郎，山本保博：腹部外傷における Abdominal Compartment Syndrome (ACS) の治療戦略。第32回日本腹部救急医学会総会，1999。3。

[多摩永山病院救命救急センター]

研究業績

論 文

(1) 原著：

- 1) 平田清貴，村田正弘¹⁾，黒川 顕，松本宣明¹⁾，富岡譲二，松本光雄¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院薬剤部)：Acute drug poisoning at critical care departments in Japan. 病院薬学 1998；24：340-348。
- 2) 平田清貴，村田正弘¹⁾，黒川 顕，松本宣明¹⁾，猪熊朋子¹⁾，松本光雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院薬剤部)：迅速定量法 (FPIA 法) による急性ベンゾジアゼピン系薬物中毒における体内動態予測。病院薬学 1998；24：349-355。
- 3) Nihira M¹⁾，Hayashida M¹⁾，Ohno Y¹⁾，Yokota H，Inuzuka S¹⁾，Yamamoto Y²⁾ (¹⁾ 法医，²⁾ 付属病院高度救命救急センター)：Urinalysis of body packer in Japan. J Analytical Toxicology 1998；22：61-65。
- 4) 横田裕行，布施 明¹⁾，二宮宣文¹⁾，池田幸穂¹⁾，小関一英¹⁾，黒川 顕，山本保博¹⁾，大塚敏文¹⁾，小林士郎²⁾，寺本 明²⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター，²⁾ 付属病院脳神経外科)：重症頭部外傷における低体温療法時の循環・呼吸器合併症。脳神経外科ジャーナル 1998；7：9-13。
- 5) 本橋典久，横田裕行，小坂祥子，中林基明，加地正人，富岡譲二，高橋 聡，辻井厚子，畝本恭子，黒川 顕：広範な脳内病変をきたした脂肪塞栓症候群の1例。Therapeutic Research 1998；19：2795-2800。
- 6) 松浦有里子¹⁾，加藤一良¹⁾，横田裕行，小柳正雄¹⁾，近藤久貞¹⁾，小川理郎¹⁾，犬塚 祥²⁾，小池 薫¹⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター，²⁾ 千葉北総病院救命救急センター)：治療に難渋した腹部外傷の1例。Therapeutic Research 1998；19：2779-2782。
- 7) 本間正人¹⁾，横田裕行，小林士郎²⁾，山本保博¹⁾，大塚敏文¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター，²⁾ 付属病院脳神経外科)：多発外傷を伴った頭部外傷の検討。日本救急医学会雑誌 1998；9：1820-2190。
- 8) 長谷川友紀¹⁾，大塚敏文²⁾，横田裕行，有賀 徹³⁾，真鍋 肇⁴⁾ (¹⁾ 東邦大学公衆衛生学，²⁾ 付属病院高度救命救急センター，³⁾ 昭和大学救急医学，⁴⁾ 厚生省保険医療局)：臓器提供施設の整備状況に関する研究。移植 1998；33：381-390。
- 9) 富岡譲二：ICUにおけるQuality of Deathの提言。ICUとCCU 1998；22 (11)：843-848。

10) 池田幸穂¹⁾, 山本保博¹⁾, 黒川 顕, 横田裕行, 諫山和男¹⁾, 猪鹿倉恭子, 佐藤秀貴¹⁾, 布施 明¹⁾, 村上 守¹⁾, 直江康孝²⁾, 大橋一善¹⁾, 石之神小織, 村井保夫¹⁾, 玉置智規¹⁾, 寺本 明²⁾, 高木 亮¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター, 2) 付属病院脳神経外科): クモ膜下出血急性期の管理. 脳神経外科ジャーナル 1999; 8: 161-167.

(2) 総説:

- 1) 黒川 顕: 心肺蘇生術と臨床工学. Clinical Engineering 1998; 9: 511-517.
- 2) 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター): 救命救急部救急医療の立場からみた臓器提供システムに関する問題点. 今日の移植 1998; 11: 115-117.
- 3) 横田裕行, 黒川 顕, 畝本恭子, 中林基明: 穿頭術・脳室ドレナージ. 救急医学 1998; 22: 462-463.
- 4) 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター): 厚生省脳死判定基準による脳死判定の進め方. 救急医学 1998; 22: 750-759.
- 5) 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター): 持続脳温判定. 救急医学 1998; 23: 929-932.
- 6) 小林士郎¹⁾, 横田裕行¹⁾, 益子邦洋 (1) 付属病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院救命救急センター): 脳死判定. 図説救急・応急処置ガイド 1998; 15: 1016-1033.
- 7) 富岡譲二: 蘇生における New Airway. CPR: 救命蘇生 1998; 17-25.
- 8) 富岡譲二: パラコート中毒. Medical Practice 1998; 15: 832-836.
- 9) 黒川 顕: 急性中毒情報ファイルシート No.105 シアン/シアン化物. 中毒研究 1999; 12: 109-112.
- 10) 黒川 顕: ベッドサイドモニター 間接熱量測定. 救急医学 1999; 23: 179-182.
- 11) 横田裕行, 畝本恭子, 黒川 顕: 脳酸素モニター. 救急医学 1999; 23: 221-226.
- 12) 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 穿頭, 頭蓋内モニタリング, 脳室ドレナージ. 救急医学 1999; 23: 528-533.
- 13) 横田裕行, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): 低体温療法の現状と問題点. Clinical neuroscience 1999; 17: 572-575.

(3) 研究報告書:

- 1) 大塚敏文¹⁾, 横田裕行, 三宅邦明²⁾, 篠田伸夫³⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター, 2) 自治省消防庁救急救助課救急指導係長, 3) 財団法人救急振興財団): 平成10年度海外救急事情調査報告書(米国編). 平成10年度海外救急事情調査報告書(米国編) 1999.

著 書

- 1) 黒川 顕, 須崎紳一郎¹⁾, 牧野俊郎¹⁾, 吉田竜介¹⁾, 富岡譲二, 小池 薫¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター): [分担] 第13回救急救命士国家試験問題 解答・解説集. 救急救命士国家試験問題 解答・解説集, 1998; pp3-16, へるす出版.
- 2) 黒川 顕, 須崎紳一郎¹⁾, 牧野俊郎¹⁾, 吉田竜介¹⁾, 富岡譲二, 小池 薫¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター): [分担] 第14回救急救命士国家試験問題 解答・解説集. 救急救命士国家試験問題 解答・解説集, 1998; pp3-15, へるす出版.
- 3) 黒川 顕: [分担] 医薬品中毒. 疾患別再診処方, 1998; pp56-57, メジカルビュー社.
- 4) 黒川 顕: [分担] 全脳虚血(来院時心肺停止を含む)における低体温療法. 低体温療法—病態から患者管理まで—, 1998; pp64-69, へるす出版.
- 5) 益子邦洋¹⁾, 大友康裕¹⁾, 横田裕行, 木村昭夫¹⁾, 小井土雄一¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター): [翻訳] 心肺蘇生法. アトラス 応急処置マニュアル(大塚敏文編), 1998; pp41-58, 南江堂.
- 6) 横田裕行, 佐藤秀貴¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター): [共著] 低体温療法の循環管理. 低体温療法 病

態から患者管理まで (山本保博, 寺本 明編), 1998 ; pp81-87, へるす出版.

- 7) 益子邦洋¹⁾, 大友康裕¹⁾, 横田裕行, 木村昭夫¹⁾, 小井土雄¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター): [翻訳] 意識障害. アトラス 応急処置マニュアル (山本保博, 寺本 明編), 1998 ; pp107-121, 南江堂.
- 8) 益子邦洋¹⁾, 大友康裕¹⁾, 横田裕行, 木村昭夫¹⁾, 小井土雄¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター): [翻訳] 救急救命処置. アトラス 応急処置マニュアル (山本保博, 寺本 明編), 1998 ; pp251-280, 南江堂.
- 9) 富岡譲二: [分担] 第13回救急救命士国家試験問題 解答・解説集. 第13回救急救命士国家試験問題 解答・解説集, 1998 ; へるす出版.
- 10) 富岡譲二: [分担] 第14回救急救命士国家試験問題 解答・解説集. 第14回救急救命士国家試験問題 解答・解説集, 1998 ; へるす出版.
- 11) 横田裕行: [自著] 突然の頭痛. 今日の治療指針 (日野原重明, 阿部正和編), 1999 ; pp6-7, 医学書院.
- 12) 横田裕行: [自著] 出血性ショック. 経静脈治療オーダーマニュアル99 (和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明編), 1999 ; pp36-39, メディカルレビュー.
- 13) 富岡譲二: [分担] パラコート・ジクワット中毒. 今日の治療指針 (日野原重明, 阿部正和編), 1999 ; pp119-120, 医学書院.
- 14) 黒川 顕: [分担] ショックの重症度と合併症. 今日の治療指針 (日野原重明, 阿部正和編), 1999 ; pp4-5, 医学書院.
- 15) 黒川 顕: [分担] 末梢静脈穿刺法. 今日の治療指針 (日野原重明, 阿部正和編), 1999 ; pp57-57, 医学書院.
- 16) 黒川 顕: [分担] 顔面・頸部. 救急救命士標準テキスト (厚生省救急救命士教育研究会編), 1999 ; pp360-367, へるす出版.

学会発表

(1) 招待講演:

- 1) 横田裕行: 救急医療における脳死—その病態と臓器移植の関連. 救命救急講演会, 1998. 9.

(2) 教育講演:

- 1) 富岡譲二: Monitorization del paciente critico. VI Jornadas Crucinas de Cirugia, 1998. 8.
- 2) 富岡譲二: Como desarrollar el equipo medico de emergencia en los hospitales. II seminario taller del sistema integrado de servicios medicos de emergencia, 1998. 8.
- 3) 富岡譲二: Cruso Avanzado en medicina de emergencia. II seminario taller del sistema integrado de servicios medicos de emergencia, 1998. 8.
- 4) 富岡譲二: Manejo del paciente en emergencia. Cruso de Tecnicos Instructores en Radiologia Medica, 1998. 12.
- 5) 富岡譲二: Manejo de equipo de UTI. II seminario internacional de Emergencia y Manejo del Paciente Critico, 1998. 12.
- 6) 富岡譲二: Trauma hepatico y esplenico. II Seminario internacional de Emergencia y Manejo del paciente Critico, 1998. 12.
- 7) 富岡譲二: 頸椎・頸髄損傷. 救急救命士中央会, 1998. 6.

(3) シンポジウム:

- 1) 黒川 顕, 横田裕行, 緋田雅美, 遠藤三代子: 21世紀の救急看護の展望—医師の立場から—. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.

(4) 一般講演:

- 1) 山下照代, 高橋 聡, 中林基明, 鈴木崇生, 中野渡雄一, 加地正人, 辻井厚子, 富岡譲二, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 骨盤骨折にabdominal compartmentを合併した1症例. 第21回過大侵襲研究会, 1998. 4.

- 2) 猪鹿倉恭子, 横田裕行, 辻井厚子, 中野渡雄一, 富岡譲二, 高橋 聡, 加地正人, 中林基明, 黒川 顕: 痙攣重積状態管理に難渋したウイルス性脳炎が疑われた1症例. 第12回日本神経救急研究会, 1998. 5.
- 3) 横田裕行, 黒川 顕, 畝本恭子, 辻井厚子, 富岡譲二, 高橋 聡, 加地正人, 中林基明, 山本保博¹⁾, 益子邦洋²⁾, 池田幸穂¹⁾, 川井 真¹⁾, 小池 薫¹⁾, 犬塚 祥²⁾, 小川理郎²⁾, 佐藤秀貴¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 千葉北総病院救命救急センター): 頸椎脱臼症例における総頸・椎骨動脈撮影の意義. 第12回日本外傷学会, 1998. 5.
- 4) 中野渡雄一, 横田裕行, 富岡譲二, 加地正人, 辻井厚子, 高橋 聡, 黒川 顕, 益子邦洋¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 小池 薫²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 付属病院高度救命救急センター): 脂肪船側症候群における脳内の病態の検討. 第12回日本外傷学会, 1998. 5.
- 5) 横田裕行, 黒川 顕, 畝本恭子, 辻井厚子, 富岡譲二, 高橋 聡, 加地正人, 須崎紳一郎¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター): 当施設における死体検案の実態と問題点. 第1回日本臨床救急医学会, 1998. 6.
- 6) 小川理郎¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 栄 兼作¹⁾, 近藤久貞¹⁾, 田中敏春¹⁾, 筑井久美¹⁾, 工広紀斗司¹⁾, 原 義明¹⁾, 中村敏¹⁾, 嶋村文彦¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 千葉北総病院救命救急センター): 当院への救急搬送の現状からみた問題点. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
- 7) 高田広嗣, 辻井厚子, 加地正人, 中林基明, 畝本恭子, 山下照代, 高橋 聡, 横田裕行, 黒川 顕: 歯科器具誤飲による小腸穿孔を来した1例. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
- 8) 原 俊輔, 加地正人, 富岡譲二, 高橋 聡, 辻井厚子, 畝本恭子, 中林基明, 鈴木克昌, 中野渡雄一, 横田裕行, 黒川 顕: A郡溶連菌による壊死性菌膜炎をきたした2症例. 第45回日本救急医学会関東地方会, 1998. 6.
- 9) 富岡譲二: 救急救命士の卒前・卒後教育へのインターネットの応用 第2報: 救急隊員のための情報センターの構築. 第1回日本臨床救急医学会, 1998. 6.
- 10) 黒川 顕, 横田裕行, 畝本恭子, 富岡譲二, 高橋 聡, 辻井厚子, 加地正人, 中林基明, 山下照代, 中野渡雄一, 鈴木崇生, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター): 救急医療と臓器移植. 第1回日本臨床救急医学会総会, 1998. 6.
- 11) 鈴木克昌, 原 俊輔, 中野渡雄一, 加地正人, 横田裕行, 黒川 顕: 心肺蘇生後IABPにより回復した1例. 第13回日本救命医療研究会, 1998. 9.
- 12) 横田裕行, 中林基明, 佐藤秀貴¹⁾, 猪鹿倉恭子, 池田幸穂¹⁾, 黒川 顕, 山本保博¹⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 付属病院脳神経外科): 頭蓋内圧からみた重症頭部外傷の低体温療法適応と効果. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 13) 佐藤秀貴¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 横田裕行, 直江康孝, 小関一英²⁾, 布施 明¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 大橋一善¹⁾, 村井保夫¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 川口市立医療センター救命救急センター): 重症頭部外傷患者に対する脳低体温療法の適応と限界. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 14) 猪鹿倉恭子, 中林基明, 横田裕行, 黒川 顕, 池田幸穂¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター): 重症くも膜下出血に対する軽度低体温療法—開始時期および持続期間の検討—. 第1回日本脳低温療法研究会, 1998. 10.
- 15) 上田康晴, 山下照代, 中林基明, 加地正人, 中村敏弘, 高橋 聡, 横田裕行, 黒川 顕: 人工呼吸管理下における各種鎮静法の検討. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
- 16) 横田裕行, 黒川 顕, 畝本恭子, 高橋 聡, 辻井厚子, 加地正人, 中林基明, 鈴木克昌, 中野渡雄一, 益子邦洋²⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 千葉北総病院救命救急センター): 脳死体からの臓器提供における救急医の役割. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.
- 17) 中野渡雄一, 横田裕行, 富岡譲二, 加地正人, 辻井厚子, 高橋 聡, 畝本恭子, 中林基明, 黒川 顕, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 脂肪塞栓症候群における経時的MRIの有用性. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.

- 18) 畝本恭子, 石之神小織, 中林基明, 鈴木克昌, 上田康晴, 高橋 聡, 横田裕行, 黒川 顕, 小南修司¹⁾ (1) 海老名総合病院脳神経外科): 直達手術が困難な重症クモ膜下出血に対する血管内治療の効果と問題点. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
- 19) 牧 真彦, 鈴木克昌, 中村敏弘, 加地正人, 辻井厚子, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 心, 横隔膜, 肝, 下大静脈を損傷した刺創の1救命例. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
- 20) 上田康晴: アムリノン持続投与の検討. 第7回救急医学フォーラム, 1998. 12.
- 21) 中村敏弘, 上田康晴, 山下照代, 鈴木克昌, 中林基明, 加地正人, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 当センターにおける呼吸理学療法の現状と今後の課題について. 東京医科大学合同カンファランス, 1999. 1.
- 22) 中村敏弘, 上田康晴, 辻井厚子, 高橋 聡, 横田裕行, 黒川 顕: 熱傷患者におけるプロポフォールの使用経験. 第7回日本熱傷学会関東地方会, 1999. 1.
- 23) 横田裕行, 加地正人, 辻井厚子, 高橋 聡, 畝本恭子, 黒川 顕, 久保田稔¹⁾, 杉原秀人¹⁾, 山本保博²⁾ (1) 多摩永山病院中央検査室, 2) 付属病院高度救命救急センター): ヒト心房性利尿ホルモン (HANP) の動態からみたエンドトキシン吸着カラムの効果. 第3回エンドトキシン血症治療研究会, 1999. 1.
- 24) 鈴木克昌, 加地正人, 牧 真彦, 石之神小織, 辻井厚子, 高橋 聡, 横田裕行, 黒川 顕: 鈍的外傷の心破裂によるCPAOAの1例. 第46回日本救急医学会関東地方会, 1999. 2.
- 25) 上田康晴, 中村敏弘, 加地正人, 鈴木克昌, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 当センターにおけるAcute lung injuryの検討. 第10回急性臓器不全研究会, 1999. 2.
- 26) 上田康晴, 中村敏弘, 中林基明, 山下照代, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕, 平田清貴: CHDF時におけるプロポフォールの薬物動態. 第46回日本救急医学会関東地方会, 1999. 2.
- 27) 牧 真彦, 加地正人, 中林基明, 畝本恭子, 高橋 聡, 横田裕行, 黒川 顕: 熱傷治癒期にTSSを来した1例. 第46回救急学会関東地方会, 1999. 2.
- 28) 横田裕行, 中林基明, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕, 佐藤秀貴¹⁾, 野手洋治¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター): 単純頭部外傷における血管内皮損傷の意義. 第22回日本神経外傷研究会, 1999. 3.
- 29) 佐藤秀貴¹⁾, 野手洋治¹⁾, 横田裕行, 石野真輔¹⁾, 村井保夫¹⁾, 大橋一善¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター): 高度救命センターにおける重症頭部外傷の治療. 第22回日本神経外傷研究会, 1999. 3.
- 30) 林 伸吉¹⁾, 小林士郎¹⁾, 佐藤秀貴²⁾, 横田裕行, 寺本 明³⁾ (1) 日本医科大学付属千葉北総病院脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 3) 付属病院脳神経外科): elderly abuseに認められた頭部外傷例の検討. 第22回日本神経外傷研究会, 1999. 3.
- 31) 黒川 顕, 横田裕行, 畝本恭子, 富岡譲二, 辻井厚子, 高橋 聡, 加地正人, 中野渡雄一, 中林基明: 蘇生術非適応症例 (DNR) をめぐる諸問題 救命救急医療の現場におけるDNRの実態. 第1回日本臨床救急医学会総会, 1998. 6.
- 32) 池田幸穂¹⁾, 山本保博¹⁾, 黒川 顕, 横田裕行, 諫山和男¹⁾, 猪鹿倉恭子, 佐藤秀貴¹⁾, 布施 明¹⁾, 村上 守¹⁾, 大橋一善¹⁾, 村井保夫¹⁾, 寺本 明²⁾, 高木 亮³⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター, 2) 付属病院脳神経外科, 3) 付属病院放射線科): 高度救命救急センターにおけるクモ膜下出血の現状. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
- 33) 黒川 顕, 横田裕行, 畝本恭子, 高橋 聡, 辻井厚子, 富岡譲二, 加地正人, 中林基明, 鈴木克昌, 山下照代, 中野渡雄一: 当施設における死体検案の実態と問題点. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.

[千葉北総病院救命救急センター]

研究概要

当施設は千葉県北総地域の救急医療機関として1994年1月に開設され、それ以来丸5年が経過した。その間、千葉県最初の日本救急医学会指導医指定施設、県の基幹災害拠点病院、さらに1999年4月からは救命救急センターにも認定され、臨床実績は年々増加している。それとともに当院に多い外傷症例を中心とした研究業績も着々と蓄積されてきた。近年では基幹災害拠点病院として整備されたヘリポートを利用した救急患者のヘリ搬送ネットワークの構築や災害医療に関する研究などがなされている。また、千葉ニュータウン内にある東京電機大学との共同研究のプロジェクトが発足し、具体化に向け定期的な会合がもたれている。さらに救急医学のメインテーマである重症患者における敗血症・多臓器不全患者の病態の解明のために、検体保存のシステムを確立しており、今後多方面からの検討を加える予定である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kimura A, Mochizuki T, Nishizawa K, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T : Trimethoprim-Sulfamethoxazole for the Prevention of Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus Pneumonia in Severely Burned Patients. *Journal of Trauma* 1998 ; 45 (2) : 383-387.
- 2) 宮内雅人, 相星淳一, 須崎紳一郎, 木村昭夫, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博 : エンドトキシン吸着療法 (PMX) におけるサイトカインの変動. *エンドトキシン血症治療研究会誌* 1997 ; 1 (1) : 3-8.
- 3) 森田良平, 原 義明, 東 和明, 工廣紀斗司, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋 : 開放性floating kneeの1例. *日救急医会関東誌* 1998 ; 19 (1) : 306-307.
- 4) 工廣紀斗司, 森田良平, 東 和明, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋, 山本保博¹⁾ (1) 救急医学科) : Body packerにおけるスクリーニングとしての腹部エコーの有用性. *日救急医会関東誌* 1998 ; 19 (1) : 72-73.
- 5) 小川理郎, 小池 薫, 森田良平, 東 和明, 工廣紀斗司, 原 義明, 犬塚 祥, 益子邦洋 : 耳下腺炎, MOFで発症したシェーグレン症候群の1例. *日救急医会関東誌* 1998 ; 19 (1) : 244-245.
- 6) 東 和明, 犬塚 祥, 早川秀行, 近藤久禎, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 益子邦洋 : Systemic Inflammatory Response Syndrome (SIRS) 症例における super antigen の検討. *日救急医会関東誌* 1998 ; 19 (1) : 162-163.
- 7) 工廣紀斗司, 益子邦洋, 犬塚 祥, 小池 薫, 小川理郎, 中村 敏, 原 義明, 東 和明, 森田良平 : 多発外傷に難治性出血性胃潰瘍を併発した1例. *THERAPEUTIC RESEARCH* 1998 ; 19 (9) : 2832-2836.
- 8) 嶋村文彦, 益子邦洋 : 救急患者にみられる呼吸不全の病態と治療 : 胸部外傷. *救急医学* 1998 ; 22 (10) : 1431-1436.
- 9) 東 和明, 犬塚 祥, 中村 敏, 原 義明, 工廣紀斗司, 小川理郎, 小池 薫, 益子邦洋 : PMX 施行症例における superantigen の検討. *エンドトキシン血症治療研究治療研究会誌* 1998 ; 2 (1) : 43-50.
- 10) 中村 敏, 森田良平, 東 和明, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋, 小津千佳¹⁾, 小坂和己¹⁾ (1) 千葉北総病院耳鼻咽喉科) : 急激な経過で呼吸不全に陥った深頸部膿瘍の2例. *日外感染症研* 1998 ; 10 : 212-216.
- 11) 田中敏春, 榮 兼作, 近藤久禎, 筑井久美, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦洋 : 心破裂を伴った多発外傷の1救命例. *日救急医会関東誌* 1998 ; 19 (2) : 564-565.
- 12) 東 和明, 田中敏春, 近藤久禎, 榮 兼作, 筑井久美, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦

洋：意識障害にて発症した劇症型A群連鎖球菌感染症の1例．日本救急医学会関東地方会雑誌 1998；19 (2)：582-584.

- 13) 榮 兼作, 近藤久禎, 田中敏春, 筑井久美, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦洋, 黒澤尚¹⁾ (¹⁾千葉北総病院神経科)：入院後汎血球減少を呈したアルコール依存症例の検討．日本救急医学会関東地方会 1998；19 (2)：654-655.
- 14) 今島直俊, 中村 敏, 小川理郎, 早川秀明, 近藤久禎, 東 和明, 工廣紀斗司, 原 義明, 嶋村文彦, 小池薫, 犬塚 祥, 益子邦洋：硫黄化合物の服用により短時間で死亡した1症例．千葉県救急医療研究会記録集 1999；1：26-29.
- 15) 大友康弘¹⁾, 辺見 弘¹⁾, 益子邦洋, 小井土雄一²⁾, 望月 徹²⁾, 本間正人¹⁾, 井上潤一¹⁾, 山本保博²⁾ (¹⁾国立病院東京災害医療センター救命救急センター, ²⁾救急医学科)：診断的腹腔洗浄法による横隔膜損傷診断．日外傷会誌 1999；13 (1)：19-24.

(2) 綜説：

- 1) 益子邦洋：総務庁，交通事故における応急手当普及促進方策に関する調査研究委員会の活動：秋田市から何を学ぶか．アスカ21 1998；7 (2)：12-14.
- 2) 工廣紀斗司：胸腔穿刺ドレナージ．救急医学 1998；22 (4)：428-429.
- 3) 犬塚 祥, 益子邦洋：開胸式心マッサージ．救急医学 1998；22 (4)：404-405.
- 4) 益子邦洋：急性腹症傷病者搬送中に起こりうる合併症．救急医療ジャーナル 1998；6 (30)：19-21.
- 5) 益子邦洋：プレホスピタルケアの世界基準をめざせ．てあて 1998；(7)：2-3.
- 6) 益子邦洋：腹部外傷におけるdamage control surgery．医学のあゆみ 1998；185 (11)：816-817.
- 7) 犬塚 祥, 益子邦洋：破裂性腹部大動脈瘤．救急医学 1998；22 (6)：729-731.
- 8) 益子邦洋：自治省消防庁「救命効果検証委員会」が活動を開始．アスカ21 1998；7 (3)：13-14.
- 9) 工廣紀斗司, 益子邦洋：けが．小児科診療 1998；61 (8)：1413-1417.
- 10) 益子邦洋, 犬塚 祥, 工廣紀斗司：胸腔鏡による緊急手術．オペナーシング '98秋季増刊号「緊急手術看護マニュアル」 1998；('98春季増刊号)：230-236.
- 11) 益子邦洋：交通事故患者の救命にヘリコプターの活用を図れ．アスカ21 1998；(28)：10-11.
- 12) 益子邦洋, 肥田誠治：救急医療機器の使い方コツとポイント「コンビチュープ」．救急医療ジャーナル 1998；6 (33)：48-51.
- 13) 犬塚 祥：部位別の消毒法とその範囲．治療 1998；80 (11)：6-8.
- 14) 益子邦洋, 辺見 弘, 大塚敏文：本邦公共輸送機関内における救急救命処置の現状と問題点．交通安全と健康：第2回日中国際会議論文集 1998；163-166.
- 15) 中村 敏, 益子邦洋：結膜・角膜の異物除去．治療 1998；80 (11)：146-149.
- 16) 犬塚 祥：I 日常診療に必要な応急処置：虫刺傷．Medical Practice：「図解救急，応急処置ガイド」～救急・応急時に必ず役立つ基本手技と処置のすべて 1998；15 (臨時増刊号)：102-103.
- 17) 小林士郎, 横田裕行, 益子邦洋：VII. 救急医療に必要な知識：脳死判定．Medical Practice 臨時増刊号「図解救急・応急処置ガイド」 1998；15 (臨時増刊号)：1016-1033.
- 18) 工廣紀斗司, 益子邦洋, 犬塚 祥, 嶋村文彦：胸部外傷 (特集：救急疾患における鏡視下手術I胸部)．救急医学 1999；23 (1)：8-13.
- 19) 益子邦洋：数字の一人歩き．アスカ21 1999；8 (1)：10-11.
- 20) 勝見 敦¹⁾, 増野智彦¹⁾, 新井正徳¹⁾, 益子邦洋, 山本保博¹⁾ (¹⁾救急医学科)：腹部外傷における腹腔鏡手術．救急医学 1999；23 (1)：70-78.
- 21) 益子邦洋：小外科テクニック (特集：実地医家のための図解)．治療 1998；80 (11)．

(3) 研究報告書：

- 1) 益子邦洋：エイズ治療拠点病院における救急医療体制に関する研究。平成9年度厚生省エイズ対策研究事業「HIV感染症の医療体制に関する研究」報告書 1998；pp100-128.
- 2) 円山啓司¹⁾，大塚敏文²⁾，加藤哲実³⁾，鈴木彦弥⁴⁾，関口清春⁵⁾，益子邦洋，宮坂雄平⁶⁾，吉武祥夫⁷⁾，矢代隆義⁸⁾，佐々木順司⁹⁾，角田 隆¹⁰⁾，鷲坂長美¹¹⁾，生亀孝志¹²⁾，竈原多己夫¹²⁾，宇野太加緒¹²⁾（¹⁾ 市立秋田総合病院 中央診療部手術室，²⁾ 日本医科大学，³⁾ 秋田市消防本部 警防課，⁴⁾ 秋田市消防本部 警防課 救急救助係，⁵⁾ 日本赤十字社 事業局救護・福祉部，⁶⁾ 日本医師会，⁷⁾ (社) 日本交通福祉協会，⁸⁾ 警察庁交通局交通企画課長，⁹⁾ 文部省体育局学校健康教育課長，¹⁰⁾ 厚生省健康政策局指導課，¹¹⁾ 自治省消防庁救急救助課，¹²⁾ 総務庁長官官房交通安全対策室)：交通事故における応急手当普及促進方策に関する調査研究。交通事故における応急手当普及促進方策に関する調査研究報告書 1999.

著 書

- 1) 川井 真¹⁾，益子邦洋（¹⁾ 救急医学科）：〔分担〕熱傷ショック。経静脈治療オーダーマニュアル '98（和田孝雄，小川 龍，林田憲明編），1998；pp55-59，メディカルレビュー社。
- 2) 大塚敏文¹⁾，益子邦洋，大友康弘²⁾，横田裕行³⁾，木村昭夫⁴⁾，小井土雄一⁵⁾，中村京太⁵⁾，石川尚子⁵⁾（¹⁾ 日本医科大学，²⁾ 国立病院東京災害医療センター救命救急センター，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院救急医学，⁴⁾ 国立国際医療センター緊急部，⁵⁾ 日本医科大学救急医学）：〔翻訳〕アトラス応急処置マニュアル第7版（Jemima Dunne），1998；南江堂。
- 3) 原 義明，本間正人¹⁾，岩瀬史明²⁾，辻井厚子³⁾，稲田眞治⁴⁾，小井土雄一⁴⁾，山本保博⁴⁾（¹⁾ 国立病院東京災害医療センター救命救急センター，²⁾ 塩川病院，³⁾ 日本医科大学附属多摩永山病院救命救急センター，⁴⁾ 日本医科大学附属病院高度救命センター）：〔分担〕救急現場における医療材料。医療材料マニュアル，1998；pp199-208，診断と治療社。
- 4) 益子邦洋：〔分担〕胸部・腹部外傷。改定第3版 症患別最新処方（矢島義雄，戸田剛太郎監修），1998；pp38-39，メジカルビュー社。
- 5) 益子邦洋：〔分担〕Damage control SurgeryおよびPlanned Reoperation。今日の治療指針1999（多賀須幸男，尾形悦郎編），1999；pp51-52，医学書院。
- 6) 益子邦洋：〔分担〕高温による障害（熱中症）。今日の治療指針1999（多賀須幸男，尾形悦郎編），1999；pp137-138，医学書院。
- 7) 大塚敏文，益子邦洋：〔分担〕治療学（救急治療）4 出血性疾患。改定第5版 内科学書（島田 馨編），1999；pp187-189，中山書店。
- 8) 大塚敏文，益子邦洋：〔分担〕治療学（救急治療）5 急性腹症。改定第5版 内科学書（島田 馨編），1999；pp189-192，中山書店。
- 9) 益子邦洋：〔分担〕外傷の応急処置 7. 多発外傷。新臨床外科学第3版（島田 馨編），1999；pp183-186，医学書院。
- 10) 川井 真，益子邦洋：〔分担〕熱傷ショック。経静脈治療オーダーマニュアル '99（和田孝雄，小川 龍，林田憲明編），1999；pp55-59，メディカルレビュー社。
- 11) 益子邦洋：〔分担〕救急検査の理解。系統看護学講座（加来信雄，藤井千穂，葛西 猛，千代孝夫，高橋章子編），1999；pp128-138，医学書院。

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 益子邦洋：救急医療。第57回日本医学放射線学会総会 1998. 4.

- 2) 益子邦洋：産業医に必要な救命救急処置。日本医科大学医師会産業医講習会 1998. 7.
- 3) 益子邦洋：緊急検査データの評価。日本救急医学会 1998. 10.
- 4) 益子邦洋：災害時救急医療のあり方。千葉県歯科医師会 1999. 2.
- (2) シンポジウム：
- 1) 益子邦洋，犬塚 祥，小池 薫，小川理郎，原 義明，中村 敏，工廣紀斗司，山本保博¹⁾，辺見 弘²⁾
(¹⁾ 救急医学教室，²⁾ 国立病院東京震災医療センター)：多発外傷治療における胸部外科医の関わり。第12回日本外傷学会 1998. 5.
- (3) フォーラムセッション：
- 1) 中野渡雄一¹⁾，横田裕行¹⁾，富岡譲二¹⁾，加地正人¹⁾，辻井厚子¹⁾，高橋 聡¹⁾，黒川 顕¹⁾，益子邦洋，犬塚 祥，小池 薫 (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター)：脂肪塞栓症候群における脳内の病態の検討。第12回日本外傷学会 1998. 5.
- (4) 一般講演：
- 1) Kondo H, Takuhiro K, Inutsuka S, Chikui K, Tanaka T, Nakamura S, Hara Y, Ogawa S, Shimamura H, Mashiko K, Makino T¹⁾, Ninomiya N, Yamamoto Y²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School New Tokyo International Airport Clinic, ²⁾ Nippon Medical School Emergency and Critical Care Medicine)：The Assessment about The Management for The United Air Turbulence Accident in Narita Airport. 4th Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine (Sapporo, Japan). 1998. 9.
- 2) Azuma K, Inuduka S, Koike K, Mashiko Y, Yamamoto Y：Superantigens and Endotoxin in Infectious SIRS. International Symposium Growth Factors Nutrients in Intestinal Health and Disease (Vancouver) (Buenos Aires). 1998. 11.
- 3) Mashiko K：Liberal Use Of Primary Repair is Warranted for the Colonic Injury：A Recent Trend. International Symposium Growth Factors Nutrients in Intestinal Health and Disease (Vancouver) (Buenos Aires). 1998. 11.
- 4) Mashiko K, Azuma K, Inuzuka S, Yamamoto Y, Tanaka S：Cooperative Work of Emergency Surgeon and Cardiovascular Surgeon improved the Outcome of Blunt Cardiac Rupture (Buenos Aires). International Symposium Growth Factors Nutrients in Intestinal Health and Disease (Vancouver) (Buenos Aires). 1998. 11.
- 5) 原 義明，川井 真¹⁾，大泉 旭¹⁾，加藤 宏¹⁾，水江史樹¹⁾，野崎正太郎¹⁾，山本保博¹⁾，白井康正²⁾ (¹⁾ 救急医学教室，²⁾ 整形外科学教室)：Floating knee 症例の検討。第24回日本骨折治療学会 1998. 7.
- 6) 工廣紀斗司，藤井千穂¹⁾，有賀 徹²⁾，相馬一玄³⁾，荒木恒敏⁴⁾，木村昭夫⁵⁾，益子邦洋 (¹⁾ 川崎医科大学救急医学教室，²⁾ 昭和大学救急医学教室，³⁾ 北里大学救命救急医学教室，⁴⁾ 久留米大学高度救命救急センター，⁵⁾ 国立国際医療センター緊急部)：HIV感染者の救急医療体制に関する検討。第21回過大侵襲研究会 1998. 4.
- 7) 早川秀幸，東 和明，近藤久禎，工廣紀斗司，原 義明，中村 敏，小川理郎，小池 薫，犬塚 祥，益子邦洋：急激な経過で死亡した激症型肺炎球菌感染症の1例。第21回過大侵襲研究会 1998. 4.
- 8) 近藤久禎，早川秀幸，東 和明，工廣紀斗司，中村 敏，原 義明，小川理郎，犬塚 祥，小池 薫，益子邦洋，牧野俊郎¹⁾，山本保博²⁾ (¹⁾ 新東京国際空港クリニック，²⁾ 救急医学教室)：ユナイテッド航空機乱気流事故による外傷患者の特徴について。第21回過大侵襲研究会 1998. 4.
- 9) 今島直俊，中村 敏，小川理郎，早川秀幸，近藤久禎，東 和明，工廣紀斗司，原 義明，嶋村文彦，小池 薫，犬塚 祥，益子邦洋：硫黄化合物の服用により短時間で死亡した1症例。第1回千葉県救急医療研究会 1998. 4.
- 10) 犬塚 祥，東 和明，小川理郎，中村 敏，工廣紀斗司，原 義明，小池 薫，益子邦洋，山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学教室)：脾温存腓尾側切除・空腸瘻増設術を施行した鈍的外傷による胃・脾合併損傷の1例。第12回日本

外科学会 1998. 5.

- 11) 工廣紀斗司, 近藤久禎, 早川秀幸, 東 和明, 中村 敏, 原 義明, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 益子邦洋, 牧野俊郎¹⁾, 山本保博²⁾ (1) 新東京国際空港クリニック, (2) 救急医学教室): 航空機の乱気流事故による外傷患者の経験. 第12回日本外科学会 1998. 5.
- 12) 横田裕行¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 辻井厚子¹⁾, 富岡譲二¹⁾, 高橋 聡¹⁾, 加地正人¹⁾, 中林基明¹⁾, 山本保博²⁾, 益子邦洋, 池田幸穂, 川井 真, 小池 薫, 犬塚 祥, 小川理郎, 佐藤秀貴 (1) 多摩永山病院救命救急センター, (2) 救急医学教室): 頸椎脱臼症例における総頸・椎骨動脈撮影の意義. 第12回日本外科学会 1998. 5.
- 13) 東 和明, 田中敏春, 近藤久禎, 榮 兼作, 筑井久美, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦洋: 意識障害で発症した劇症型溶連菌感染症の1剖検例. 第1回日本臨床救急医学会総会 1998. 6.
- 14) 田中敏春, 嶋村文彦, 原 義明, 榮 兼作, 近藤久禎, 筑井久美, 工廣紀斗司, 中村 敏, 犬塚 祥, 益子邦洋: 心破裂を伴った多発外傷の1救命例. 第1回日本臨床救急医学会総会 1998. 6.
- 15) 小川理郎, 犬塚 祥, 榮 兼作, 近藤久禎, 田中敏春, 筑井久美, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 多摩永山病院救命救急センター): 当院への救急搬送の現状からみた問題点. 第45回日本救急医学会関東地方会 1998. 6.
- 16) 榮 兼作, 近藤久禎, 田中敏春, 筑井久美, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦洋, 黒澤 尚: 入院後汎血球減少を呈したアルコール依存症例の検討. 第1回日本臨床救急医学会総会 1998. 6.
- 17) 筑井久美, 工廣紀斗司, 嶋村文彦, 榮 兼作, 森田良平, 近藤久禎, 田中敏春, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦洋: 重傷A型肝炎からMOFに陥った1例. 第1回日本臨床救急医学会総会 1998. 6.
- 18) 仁平 信¹⁾, 林田眞喜子¹⁾, 大野曜吉¹⁾, 犬塚 祥, 益子邦洋 (1) 法医学): クロロピクリン中毒症例. 第20回日本中毒学会総会 1998. 7.
- 19) 東 和明, 中村 敏, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋: 出血性ショックで発症した小腸絞扼性イレウス1例. 1998. 8.
- 20) 近藤久禎, 田中敏春, 筑井久美, 中村 敏, 工廣紀斗司, 原 義明, 嶋村文彦, 犬塚 祥, 益子邦洋, 二宮宣文¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 救急医学教室): 基幹災害医療センターとしての災害教育について 千葉県消防・救急隊災害医療セミナー. 1998. 9.
- 21) 工廣紀斗司, 藤井千穂¹⁾, 有賀 徹²⁾, 相馬一亥³⁾, 荒木恒敏⁴⁾, 木村昭夫⁵⁾, 益子邦洋 (1) 川崎医科大学救急医学科, (2) 昭和大学救急医学科, (3) 北里大学救命救急医学, (4) 久留米大学高度救命センター, (5) 国立国際医療センター緊急部): HIV患者の救急医療体制に関する今後の展望. 第13回日本救命医療研究会 1998. 9.
- 22) 原 義明, 近藤久禎, 中村 敏, 工廣紀斗司, 嶋村文彦, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦洋, 野崎正太郎, 大泉旭, 川井 真: 単独四肢外傷でショックを呈した症例の検討. 第13回日本救命医療研究会 1998. 9.
- 23) 犬塚 祥, 工廣紀斗司, 嶋村文彦, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 益子邦洋, 加藤一良¹⁾, 山本保博²⁾ (1) 付属病院, (2) 救急医学): 出血性胃十二指腸潰瘍に対する内視鏡的クリッピング術の有用性. 第13回日本救命医療研究会 1998. 9.
- 24) 中村 敏, 近藤久禎, 田中敏春, 筑井久美, 工廣紀斗司, 原 義明, 嶋村文彦, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦洋: 外傷性眼球突出の2例: その取り扱いについて. 第13回日本救命医療研究会 1998. 9.
- 25) 田中敏春, 嶋村文彦, 近藤久禎, 筑井久美, 工廣紀斗司, 中村 敏, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦洋: ARDSにステロイドが奏功したMOFの1症例. 第13回日本救命医療研究会 1998. 9.
- 26) 益子邦洋, 滝口雅博¹⁾ (1) 弘前大学医学部附属病院救急部): 航空機に搭載する救急用医薬品・資器材等整備の必要性: 機内発生疾病ならびに搭載品目の検討. 第13回日本救命医療研究会 1998. 9.

- 27) 宮崎善史, 犬塚 祥, 丸山正明, 小川理郎, 原 義明, 嶋村文彦, 工廣紀斗司, 中村 敏, 筑井久美, 益子邦洋: 胸腹部の多臓器損傷により出血性ショックに陥った背部刺創の1例. 第66回日本医科大学医学会総会 1998. 9.
- 28) 原 義明, 川井 真, 野崎正太郎, 加藤 宏, 大泉 旭, 益子邦洋, 山本保博¹⁾, 白井康正²⁾ (1) 救急医学, 2) 整形外科): 上腕骨骨折に対する Unreamed Intramedullary Nail の有用性. 第53回国立病院療養所総合医学会 1998. 10.
- 29) 宮崎善史, 丸山正明, 犬塚 祥, 山田将紀, 小林辰輔, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 小川理郎, 益子邦洋: 悪性症候群と診断されたMOFに至ったヘルペス脳炎の1救命例. 第7回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1998. 12.
- 30) 東 和明, 小林辰輔, 犬塚 祥, 益子邦洋, 小池 薫¹⁾ (1) 高度救命救急センター): PMX施行症例における SUPERANTIGEN の検討. 第3回エンドトキシン血症治療研究会 1999. 1.
- 31) 小林辰輔, 犬塚 祥, 宮崎善史, 山田将紀, 肥田誠治, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 小川理郎, 丸山正明, 益子邦洋: 術前診断しえた出血性十二指腸平滑筋腫の1例. 第46回日本救急医学会関東地方会 1999. 2.
- 32) 工廣紀斗司, 犬塚 祥, 肥田誠治, 宮崎善史, 山田将紀, 小林辰輔, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 小川理郎, 丸山正明, 益子邦洋: 鏡腔鏡下手術が奏功した特発性血気胸の1例. 第46回日本救急医学会関東地方会 1999. 2.
- 33) 肥田誠治, 宮崎善史, 山田将紀, 小林辰輔, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 小川理郎, 丸山正明, 犬塚 祥, 益子邦洋: 医原性食道穿孔による縦隔洞炎および右膿腦の治療例. 第46回日本救急医学会関東地方会 1999. 2.
- 34) 山田将紀, 工廣紀斗司, 宮崎善史, 小林辰輔, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 小川理郎, 丸山正明, 犬塚 祥, 益子邦洋: 剖検で内腸骨動脈瘤脈破裂が判明した来院時心肺停止の1例. 第32回日本腹部救急医学会総会 1999. 3.
- (5) ビデオセッション:
- 1) 犬塚 祥, 工廣紀斗司, 嶋村文彦, 宮崎善史, 筑井久美, 丸山正明, 中村 敏, 原 義明, 小川理郎, 益子邦洋: 鈍的外傷による心嚢横隔膜ヘルニアの1例. 第66回日本医科大学医学会総会 1998. 9.

19. 形成外科学講座

[付属病院形成外科・第二病院形成外科]

研究概要

本年度はケロイドに対するNMR装置による成分分析において、乳酸値が有意に高いという新知見を得ることができた。また、講座として引き続き同種血管束移植によるprefabricated flap作成の試みにおいて同種異系同士による移植実験がなされ新知見が得られた。さらに臨床においては穿通枝を付加した真皮下血管網皮弁が新しく開発され脚光を浴びた。また、引き続き内視鏡を用いた両側乳房再建では世界をリードしている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Aoki M¹, Aoki R, Akimoto M², Hara K³ (1) 付属病院皮膚科, 2) 千葉北総病院形成外科, 3) 愛知医大第1病理) : Primary Cutaneous Langerhans Cell Histiocytosis in an Adult. The American Journal of Dermatopathology 1998 ; 20 (1) : 281-284.
- 2) 井上幸彦¹, 岡 敏行, 井上尚子¹, 利根川均, 大久保正智², 百東比古, 古月顕宗³ (1) 総合会津中央病院形成外科, 2) 第二病院形成外科, 3) 総合会津中央病院整形外科) : 形成外科領域におけるスノーボード外傷の治療経験. 形成外科 1998 ; 41 (8) : 765-770.
- 3) 平井 隆 : 外科医が知っておきたい体表の外科治療 赤痣, 青痣, 黒痣の外科治療. 外科治療 1998 ; 79 (4) : 411-414.
- 4) 矢嶋祐徳¹, 横島一彦¹, 陣内 賢¹, 中溝宗永¹, 富山俊一¹, 土佐眞美子, 百東比古, 杉崎祐一² (1) 付属病院耳鼻科, 2) 同病理部) : 多発性対称性脂肪腫症の1症例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 1998 ; 70 (12) : 839-842.
- 5) 百東比古 : (特集：実地医家のための図解小外科テクニック) ピアス孔の作成とその合併症の治療. 治療 1998 ; 80 (11) : 86-89.
- 6) 岡 敏行, 百東比古, 糸井由里恵, 青木 律, 秋元正宇¹, 青木見佳子² (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 付属病院皮膚科) : Cervico-facial flapにより再建した悪性線維組織球腫の1例. Skin Cancer 1999 ; 14 (1) : 52.
- 7) 宮下次廣¹, 館野 温¹, 隈崎達夫¹, 百東比古, 堀内淳一² (1) 付属病院放射線科, 2) 博慈会総合病院放射線科) : 胸骨部ケロイド治療における切除後, 術後照射および自己管理プログラム併用の有用性. 日本放射線腫瘍学会誌 1999 ; 14 (1) : 33-36.
- 8) 岡 敏行¹, 百東比古¹, 糸井由里恵¹, 青木 律¹, 秋元正宇², 青木見佳子³ (1) 付属病院形成外科, 2) 千葉北総病院形成外科, 3) 付属病院皮膚科) : Cervico-facial flapにより再建した悪性線維性組織球腫の1例. Skin Cancer 1999 ; 14 (1) : 52-56.
- 9) 尾見徳弥¹, 本田光芳¹, 三橋 清, 百東比古, 浅野伍朗² (1) クイーンズスクエアメディカルセンター皮膚科, 2) 第2病理) : 27歳の女性に生じたPaget病において乳輪平滑筋がNeurogenic Metaplastic Hyperproliferationを呈した1例. 日本皮膚病理組織学会 1999 ; 14 (1) : 4-7.

(2) 綜説：

- 1) 百東比古 : 乳房異物の診断と治療 (特集：頸部と躯幹の形成外科). 形成外科 1998 ; 133-139.
- 2) 青木 律, 百東比古, 秋元正宇 : 頤頸部癭痕拘縮の形成術：皮弁による再建 (特集：頸部と躯幹の形成外科). 形成外科 1998 ; 29-37.

著 書

- 1) 百束比古：〔分担〕乳房異物の除去と再建手術：とくに自家組織による再充填術について．形成外科 ADVANCE シリーズ 美容外科 最近の進歩（波利井清紀監修，大森善太郎編著），1998；pp133-140，克誠堂．

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 百束比古，平井 隆：顔面の高度変形，組織欠損の再建における Flap prefabrication の有用性について．第24回日本熱傷学会総会・学術集会，1998．5．

(2) パネルディスカッション：

- 1) 青木 律，百束比古，平井 隆，大木更一郎¹⁾，川井 真¹⁾，山本保博¹⁾（¹⁾ 付属病院高度救命救急センター）：広範囲熱傷患者の長期予後と QOL．第24回日本熱傷学会総会・学術集会，1998．5．

(3) 一般講演：

- 1) Sano K, Hyakusoku H, Takashi H, Ritsu A：Reconstruction of anteromedial chest wall after cardiac arterial by-pass grafting using rectus abdominis pectoralis major muscle. The 4th Korea-Japan congress of Plastic and Reconstructive Surgery（慶州），1998．5．
- 2) Oka T, Takashi H, Hyakusoku H, Chigira M：Single-hair harvesting technique using an injection. The 4th Korea-Japan congress of Plastic and Reconstructive Surgery（慶州），1998．5．
- 3) Hyakusoku H, Jian-Hua G, Chun-mei Wang, Dept. of Plastic and Reconstructive：Reconstruction of the postburn neck scar contracture using unipedicled or microvascular augmented subdermal vascular network flaps. Sino-Japanese beijing international symposium on burns（北京），1998．10．
- 4) Ishimaru S¹⁾, Wang Chun-¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Hirai T, Oki K¹⁾（¹⁾ 高度救命救急センター）：Reconstruction of severely burned ear using the prefabricated or secondary vascularized flaps（experimental study）. Sino-Japanese beijing international symposium on burns（北京），1998．10．
- 5) Yamamoto T, Hyakusoku H, Wang Chun-：Our original local flap methods in reconstructing scar contracture of the elbow and axilla. Sino-Japanese beijing international symposium on burns（北京），1998．10．
- 6) Kawahara S, Aoki R, Hyakusoku H, Oki K¹⁾, Kawai M¹⁾, Yamamoto Y¹⁾（¹⁾ 高度救命救急センター）：Long term follow-up study of the 74 extensively burned patients. Sino-Japanese beijing international symposium on burns（北京），1998．10．
- 7) Hyakusoku H, Aoki R：Bilaterally Divided Free TRAM Flaps for the Re-Augmentation of Silicone Implanted Breasts（Trial of Endoscopy-Aided Operation）. 6th International Congress of Oriental Aesthetic Plastic Surgery（香港），1998．12．
- 8) Chigira M, Hyakusoku H, Iwakiri I, Wang C：Long Term Follow-Ups of Keloids and Hypertrophic Scars Including Earlobe Keloids Caused by Piercing with Postoperative Electron Beam irradiations. 6th International Congress of Oriental Aesthetic Plastic Surgery（香港），1998．12．
- 9) Hirai T, Oka T, Hyakusoku H：Eyebrow Reconstruction Using Beards. 6th International Congress of Oriental Aesthetic Plastic Surgery（香港），1998．12．
- 10) 青木 律，百束比古：新しい皮下茎皮弁としてのバックマン型皮弁（仮称）の考察．第41回日本形成外科学会学術集会，1998．4．
- 11) 村上正洋¹⁾，石井和博¹⁾，百束比古，秋元正字²⁾（¹⁾ 大浜第一病院形成外科，²⁾ 千葉北総病院形成外科）：Rotation Subcutaneous Pedicled Flap Methodの適応と長期結果．第41回日本形成外科学会学術集会，1998．4．
- 12) 佐野和史，百束比古，青木 律：内胸動脈肋間穿通枝を支点とした大胸筋皮弁翻転による縦隔部充填．第41回日本形成外科学会学術集会，1998．4．

- 13) 青木 律, 百束比古: フラッシュランプによる皮膚表在性疾患の治療経験. 第41回日本形成外科学会学術集会, 1998. 4.
- 14) 平井 隆, 三橋 清¹⁾, 井上幸彦, 百束比古¹⁾ (東戸塚記念病院形成外科): 打ち込み型アンカリングピンを用いた tissue suspension 法の経験. 第41回日本形成外科学会学術集会, 1998. 4.
- 15) Yamamoto T¹⁾, Cordy MS¹⁾, Batchelor AG¹⁾, Kay SP¹⁾, Nishikawa H¹⁾, 百束比古¹⁾ (St. James's University Hospital, Leeds, U.K.): Composite Auricular Free Flapによる鼻翼ならびに鼻柱の再建—St. James's University Hospitalにおける4例—. 第41回日本形成外科学会学術集会, 1998. 4.
- 16) Yamamoto T¹⁾, O'Sullivan ST¹⁾, Kelly E J¹⁾, Nishikawa H¹⁾, Knight SL¹⁾, Kay SP¹⁾, Bachelor AG¹⁾, 百束比古¹⁾ (St. James's University Hospital, Leeds, U.K.): St. James's University Hospitalにおける遊離外側上腕皮弁169例の検討. 第41回日本形成外科学会学術集会, 1998. 4.
- 17) 土佐眞美子, 青木 律, 百束比古, 青木見佳子¹⁾ (1) (付属病院皮膚科): 高齢者の Langerhans cell histiocytosis の1例. 第41回日本形成外科学会学術集会, 1998. 4.
- 18) 岩切 致, 百束比古, 有吉雅徳, 青木 律, 青木見佳子¹⁾ (1) (付属病院皮膚科): 皮膚悪性腫瘍における人工真皮の適応 (第2報). 第41回日本形成外科学会学術集会, 1998. 4.
- 19) 千明美保¹⁾, 百束比古, 三橋 清²⁾, 宮下次廣³⁾ (1) (船橋病院形成外科, 2) 東戸塚記念病院形成外科, 3) 付属病院放射線科): ピアスにより発生したケロイド様腫瘍に対する切除後電子線療法の有効性について. 第41回日本形成外科学会学術集会, 1998. 4.
- 20) 秋元正宇¹⁾, 黒田周一¹⁾, 百束比古¹⁾ (千葉北総病院形成外科): 超音波3次元表示装置の開発と臨床応用: 第2報: 鼻骨骨折の診断と術後評価. 第41回日本形成外科学会学術集会, 1998. 4.
- 21) 岡 敏行, 平井 隆, 千明美保, 百束比古: 先天性無毛症の手術経験 単一毛包移植ドナーとしての顎下部髭の利用. 第41回日本形成外科学会学術集会, 1998. 4.
- 22) 立原利江子¹⁾, 青木見佳子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 土佐眞美子, 百束比古¹⁾ (付属病院皮膚科): 趾間から生じた SCC の1例. 日本皮膚科学会第737回東京地方会, 1998. 4.
- 23) 大木更一郎¹⁾, 勝美 敦¹⁾, 川井 真¹⁾, 百束比古, 山本保博¹⁾ (1) (高度救命救急センター): 顔面熱傷に対する早期テルゲーマス使用の有用性. 第24回日本熱傷学会総会・学術集会, 1998. 5.
- 24) 橋本綱子¹⁾, 青木見佳子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 畑三恵子¹⁾, 百束比古¹⁾ (付属病院皮膚科): 経過中に退色が見られた悪性黒色腫の2例. 第14回日本皮膚悪性腫瘍学会学術集会, 1998. 7.
- 25) 五十嵐司¹⁾, 青木見佳子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 青木 律, 百束比古¹⁾ (付属病院皮膚科): 多数の角質嚢腫を伴った有棘細胞癌の1例. 第14回日本皮膚悪性腫瘍学会学術集会, 1998. 7.
- 26) 尾見徳弥¹⁾, 本田光芳¹⁾, 三橋 清, 百束比古, 浅野伍朗¹⁾ (1) (付属病院皮膚科, 2) 第2病理): 27歳の女性に生じた Paget 病において Neurogenic Metaplastic hyperproliferation がみられた1例. 第14回日本皮膚病理組織学会, 1998. 7.
- 27) 井上幸彦¹⁾, 井上尚子¹⁾, 仲田幸世¹⁾, 百束比古, 石丸さやか¹⁾ (総合会津中央病院形成外科): 穿通枝を microvascular augmentation とした浅頸動脈 (SCA) 真皮下毛血管網皮弁. 日本形成外科学会関東支部第209回東京地方会, 1998. 7.
- 28) 岩切 致, 平井 隆, 青木 律, 百束比古: 形成外科領域における超音波診断装置の有用性. 日本形成外科学会関東支部第209回東京地方会, 1998. 7.
- 29) 土佐眞美子, 百束比古, 青木 律, 茂木信博¹⁾ (1) (付属病院眼科): 術後球後血腫 (?) による眼球突出の治療経験. 日本美容外科学会: 第72回学術集会, 1998. 7.
- 30) 青木 律, 百束比古, 岡 敏彦, 簡野晃次¹⁾ (1) (西新井皮膚科形成外科クリニック): 外国人 (台湾, タイ国, 韓国) における顔面注入異物後遺症例の経験と国際的警鐘の必要性の提言. 日本美容外科学会 第72回学術集会, 1998. 7.

- 31) 簡野晃次¹⁾, 青木 律¹⁾, 高 建華¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 西新井皮膚科形成外科クリニック): 漢方薬草を併用したケミカルピーリングの効果について. 日本美容外科学会 第72回学術集会, 1998. 7.
- 32) 大木更一郎¹⁾, 村上正洋²⁾, 高木 亮³⁾, 郡家正彦, 平井 隆, 百東比古 (1) 高度救命救急センター, 2) 大浜第一病院形成外科, 3) 付属病院放射線科): 診断が困難であった外側直筋断裂を伴う頬骨骨折の1例. 第16回日本頭蓋顎顔面外科学術集会, 1998. 9.
- 33) 郡家正彦, 百東比古, 岡 敏行: 著明な閉口障害を呈した乳児の下顎頭腫瘍の1例. 第16回日本頭蓋顎顔面外科学術集会, 1998. 9.
- 34) 山本 達, 百東比古, 青木 律: 広範囲頬部再建を要した皮膚悪性腫瘍症例の検討. 第16回日本頭蓋顎顔面外科学術集会, 1998. 9.
- 35) 大木更一郎¹⁾, 村上正洋²⁾, 高木 亮³⁾, 郡家正彦, 平井 隆, 百東比古 (1) 高度救命救急センター, 2) 大浜第一病院形成外科, 3) 付属病院放射線科): Target 3DCTによる顎関節突起部骨折の評価. 第16回日本頭蓋顎顔面外科学術集会, 1998. 9.
- 36) 山本 達, Nishikawa H¹⁾ (1) Dept. of Plastic, Hand and Reconstructive Surgery, St.Jame's University Hospital, UK): (St.Jame's University Hospitalでの形成外科研修: 特にmicrosurgeryを用いた再建外科について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 37) 岩切 致, 平井 隆, 青木 律, 百東比古, 秋元正宇¹⁾, 黒田周一¹⁾ (1) 千葉北総病院形成外科): 形成外科皮膚科領域の超音波診断装置の利用. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 38) 嘉陽宗隆¹⁾, 大久保正智²⁾, 木村 剛³⁾, 百東比古 (1) 北村山公立病院形成外科, 2) 第二病院形成外科, 3) 付属病院泌尿器科): Peyronie病の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 39) 大木更一郎¹⁾, 王 春梅, 平井 隆, 百東比古 (1) 高度救命救急センター): Cryopreservationによる同種血管移植法: 血管新生過程の走査電子顕微鏡による観察. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 40) 高田香織¹⁾, 山西貴仁¹⁾, 服部怜美¹⁾, 秋元正宇²⁾ (1) 千葉北総病院皮膚科, 2) 千葉北総病院形成外科): 下口唇に生じた巨大な有棘細胞癌の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 41) 王 梅春, 岩切 致, 百東比古, 平川慶子¹⁾, 植草協子¹⁾, 仁平 信¹⁾, 大野曜吉¹⁾ (1) 法医): ケロイドと肥厚性癬痕の分類についての代謝学的検討: ¹H-NMR法による分析. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 42) 河原理子, 百東比古, 青木 律, 岩切 致, 王 春梅, 宮下廣次¹⁾ (1) 付属病院放射線科): 当科における肥厚性癬痕およびケロイドの治療方針について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 43) 岡 敏彦, 土佐真美子, 河原理子, 平井 隆, 百東比古: 超音波脂肪分解装置を利用した脂肪吸引による多発性脂肪腫症の治療経験. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 44) 佐野和史, 百東比古, 岡 敏文: 当科における漏斗胸手術の実際. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 45) 百東比古, 青木 律: Supercharging DIEA皮弁による乳房再建. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 46) 青木 律, 百東比古: フラッシュランプによる皮膚表在性疾患の治療経験. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 47) 黒田周一¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 百東比古 (1) 千葉北総病院形成外科): 2次元超音波画像の3次元表示化による鼻骨骨折の評価. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 48) 秋元正宇¹⁾, 黒田周一¹⁾, 百東比古 (1) 千葉北総病院形成外科): イントラネットを活用した形成外科臨床画像整理システムの構築. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 49) 村上正洋, 石井和博¹⁾ (1) 大浜第一病院形成外科): 掻破吸引法による腋臭症手術とvisual analogue scale methodを用いた術後評価の試み. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 50) 仲田幸世¹⁾, 井上幸彦¹⁾, 井上尚子¹⁾, 百東比古, 石丸さやか (1) 総合会津中央病院形成外科): 背部肋間穿通枝をmicrovascular augmentationとした真皮下血管網皮弁. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 51) 井上尚子¹⁾, 井上幸彦¹⁾, 仲田幸世¹⁾, 百東比古 (1) 総合会津中央病院): 総合会津中央病院形成外科における

- 手術症例の分析. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 52) 井上幸彦¹⁾, 井上尚子¹⁾, 仲田幸世¹⁾, 百束比古, 平川慶子²⁾, 植草協子²⁾ (1) 総合会津中央病院形成外科, 2) 法医): 体内埋入異物の核磁気共鳴装置を用いた分析方法と結果. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 53) 千明美保¹⁾, 百束比古 (1) 船橋病院形成外科): 当院における褥創の治療と展望. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 54) 青木 律¹⁾, 土佐眞美子, 百束比古, 糸井由里恵, 青木見佳子¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 口腔粘膜扁平苔癬より発症した多発性有棘細胞癌の治療経験 一両側遊離前腕皮弁を用いた再建一. 第15回日本皮膚悪性腫瘍学会総会学術集会, 1998. 10.
- 55) 岡 敏行, 百束比古, 糸井由里恵, 青木 律, 秋元正宇¹⁾, 青木見佳子²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 付属病院皮膚科): Cervico-Facial Flapにより再建した悪性線維性組織球腫の1例. 第15回日本皮膚悪性腫瘍学会総会学術集会, 1998. 10.
- 56) 平井 隆, 青木 律, 百束比古: 脱毛レーザー照射後に生じた上口唇部ケロイドの治療経験. 第21回日本美容外科学会総会 (第73回学術集会), 1998. 10.
- 57) 青木 律, 百束比古: フラッシュランプによる母斑の治療. 第21回日本美容外科学会総会 (第73回学術集会), 1998. 10.
- 58) 簡野晃次: レーザー機器の導入について. 第21回日本美容外科学会総会 (第73回学術集会), 1998. 10.
- 59) 山村三和¹⁾, 井上幸彦²⁾ (1) 第二病院形成外科, 2) 総合会津中央病院形成外科): 豊胸術のunfavorable resultとその回復手術 (自家組織による再建を中心に). 第21回日本美容外科学会総会 (第73回学術集会), 1998. 10.
- 60) 大久保正智¹⁾, 百束比古, 沖永真奈恵²⁾ (1) 第二病院形成外科, 2) 乃木坂クリニック): Qスイッチルビレーザーによる扁平母斑の治療経験. 第21回日本美容外科学会総会 (第73回学術集会), 1998. 10.
- 61) 井上幸彦¹⁾, 井上尚子¹⁾, 百束比古, 青木 律, 佐野和史, 高 建華 (1) 総合会津中央病院形成外科): 肋間穿通枝をmicrovascular augmentationとした真皮下血管網皮弁について. 第25回日本マイクロサージャリー学会総会, 1998. 10.
- 62) 百束比古, 平井 隆, 大木更一郎¹⁾ (1) 高度救命救急センター): Prefabricated free flapおよびfree vascular bundle transferによるsecondary vascularized flapによる再建術の現況と展望. 第25回日本マイクロサージャリー学会総会, 1998. 10.
- 63) 高 建華¹⁾, 百束比古, 青木 律 (1) 中国第一軍医大学南方病院形成外科): ランダム皮弁の生着に対する皮弁茎幅の検討 一真皮下血管網皮弁と通常皮弁における実験的研究一. 第7回日本形成外科学会基礎学術集, 1998. 10.
- 64) 岩切 致, 王 春梅, 百束比古, 平川慶子¹⁾, 仁平 信¹⁾ (1) 法医学): ¹H-NMR法を用いた瘢痕組織の代謝学的分析 (第2法). 第7回日本形成外科学会基礎学術集会, 1998. 10.
- 65) 大木更一郎¹⁾, 山本保博¹⁾, 石丸さやか, 平井 隆, 百束比古 (1) 高度救命救急センター): Cryopreservationによる同種血管移植法. 第4報: 同種異系を用いたモデルについて. 第7回日本形成外科学会基礎学術集会, 1998. 10.
- 66) 石丸さやか, 青木 律, 糸井由里江, 岡 敏行, 岩切 致, 河原理子, 百束比古: ラットCO₂レーザーピーリング創の治療過程におけるサイトカインの測定. 第7回日本形成外科学会基礎学術集会, 1998. 10.
- 67) 青木 律, 百束比古, 石丸さやか, 岡 敏行: フラッシュランプ照射野の病理組織学的検討. 第7回日本形成外科学会基礎学術集会, 1998. 10.
- 68) 土佐眞美子, 大木更一郎¹⁾, 河原理子, 百束比古 (1) 高度救命救急センター): 真皮下血管網皮弁の生着過程に関する実験的研究: 樹脂鋳型標本による観察. 第7回日本形成外科学会基礎学術集会, 1998. 10.
- 69) 大木更一郎¹⁾, 山本保博¹⁾, 平井 隆, 百束比古, 田沼久美子²⁾ (1) 高度救命救急センター, 2) 第2解剖学): Secondary Vascularized Flapにおけるラテックスを用いた立体的血管構築の観察. 第7回日本形成外科学会基

礎学術集会, 1998. 10.

- 70) 村上正洋¹⁾, 石井和博¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ (大浜第一病院形成外科): われわれの行っている高度頸部瘢痕拘縮の再建法とその長期成績. 第89回沖縄県医師会医学会総会, 1998. 10.
- 71) 秋田政彦¹⁾, 立原利江子¹⁾, 畑三恵子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 石丸さやか, 百束比古⁽¹⁾ (付属病院皮膚科): Eccrine porocarcinomaの1例. 日本皮膚科学会第741回東京地方会(四地区分会), 1998. 10.
- 72) 千明美保, 百束比古, 山本 達, 平井 隆: 被膜形成された乳腺下注入自家脂肪の1例. 日本形成外科学会 第211回東京地方会, 1998. 12.
- 73) 石丸さやか¹⁾, 青木 律, 河原理子, 百束比古⁽¹⁾ (第二病院形成外科): 熱傷モデルとしてラットCO₂レーザーピーリング創治癒過程におけるサイトカインの経時的変化—キチン綿とアルギン酸塩被覆材における検討—. 第7回日本熱傷学会関東地方会, 1999. 1.
- 74) 岩切 致, 百束比古, 王 春梅, 青木 律, 山村三和¹⁾, 山本 達⁽¹⁾ (第二病院形成外科): 異物埋入乳房の摘出および即時再建における内視鏡の利用. 第4回形成外科内視鏡手術研究会, 1999. 2.
- 75) 岩切 致, 百束比古, 王 春梅, 青木 律, 山村三和¹⁾, 山本 達⁽¹⁾ (第二病院形成外科): 異物埋入乳房の摘出および即時再建における内視鏡の利用. 第4回形成外科内視鏡手術研究会, 1999. 2.
- 76) 五十嵐司¹⁾, 青木見佳子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 糸井由里恵, 青木 律, 百束比古⁽¹⁾ (付属病院皮膚科): 母斑細胞母斑上に生じた悪性黒色腫の1例. 第62回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 1999. 2.
- 77) 黒田周一¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 山本 達, 百束比古⁽¹⁾ (千葉北総病院形成外科): 腹直筋皮弁とその変法による各種再建術. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.

[第二病院形成外科]

研究業績

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 大久保正智: 21世紀の大学病院に美容外科は必要か?. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 5.
- 2) 嘉陽宗隆¹⁾, 大久保正智, 木村 剛²⁾ (1) 北村山公立病院形成外科, (2) 付属病院泌尿器科): Peyronie病の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 3) 百束比古¹⁾, 青木 律¹⁾, 山村三和, 井上幸彦²⁾ (1) 付属病院形成外科, (2) 総合会津中央病院形成外科): 豊胸術のunfavorable resultとその回復手術(自家組織による再建を中心に). 第21回日本美容外科学会総会(第73回学術集会), 1998. 10.
- 4) 大久保正智, 百束比古¹⁾, 沖永真奈恵²⁾ (1) 付属病院形成外科, (2) 乃木坂クリニック): Qスイッチルビーレーザーによる扁平母斑の治療経験. 第21回日本美容外科学会総会(第73回学術集会), 1998. 10.
- 5) 岩切 致¹⁾, 百束比古¹⁾, 王 春梅¹⁾, 青木 律¹⁾, 山村三和, 山本 達¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 異物埋入乳房の摘出および即時再建における内視鏡の利用. 第4回形成外科内視鏡手術研究会, 1999. 2.
- 6) 岩切 致¹⁾, 百束比古¹⁾, 王 春梅¹⁾, 青木 律¹⁾, 山村三和, 山本 達¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 異物埋入乳房の摘出および即時再建における内視鏡の利用. 第4回形成外科内視鏡手術研究会, 1999. 2.

[千葉北総病院形成外科]

研究概要

千葉北総病院にて形成外科の診療を開始してはや3年半が経過した。診療開始より1年後、日本形成外科学会認定医教育関連施設となり、本年、日本形成外科学会認定医施設へと昇格した。これで形成外科認定医養成のための独立

した施設としての体制が整ったことになる。本院では、外傷、特に顔面外傷が比較的多く、この特性を生かした顔面外傷の診断、治療技術のための研究、また学内LANを利用したイントラネット技術の基礎、応用の研究を行っている。外傷では、軟部組織用超音波診断装置とコンピュータを組み合わせた3次元超音波表示装置を独自に開発し、これを顔面骨折に適用しその評価を行っている。本研究は非侵襲検査である超音波検査によって骨折の診断、整復の評価を行うものであり、その成果はAsian Pacific Cranio-facial Association 2nd Conferenceおよび国内学会にて報告することができた。また、イントラネット技術の研究では、形成外科における臨床画像の取り扱いをテーマに、異機種相互接続可能な画像データベースシステムの開発を行ない、ほぼ実用的な運用ができるまでになった。その基礎技術の一部は専門誌に報告することができた。本年度は、引き続き以上の研究と、さらに新たなテーマとして非線形大変形有限要素法の技術を用いた皮弁手術のコンピュータシミュレーションの研究を行う。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 秋元正宇：ADBコンバータの製作（前編）。トランジスタ技術 1998；35（10）：355-362.
- 2) 秋元正宇：ADBコンバータの製作（後編）。トランジスタ技術 1998；35（11）：328-338.
- 3) 岡 敏行¹⁾，百束比古¹⁾，糸井由里恵¹⁾，青木 律¹⁾，秋元正宇，青木見佳子²⁾（¹⁾ 附属病院形成外科，²⁾ 同皮膚科）：Cervico-facial flapにより再建した悪性線維性組織球腫の1例。Skin Cancer 1999；14（1）：52-56.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Akimoto M, Kuroda S, Hyakusoku H¹⁾（¹⁾ 附属病院形成外科）：Three dimensional ultrasound image：Development and clinical application. Asian Pacific Craniofacial Association 2nd Conference (Adelaide), 1998. 11.
- 2) 服部怜美¹⁾，栗原和久¹⁾，荒牧 純¹⁾，高田香織¹⁾，大秋美治²⁾，秋元正宇（¹⁾ 千葉北総病院皮膚科，²⁾ 同病理部）：皮膚悪性腫瘍の5例。日本医科大学医学会第97回例会，1998. 2.
- 3) 村上正洋¹⁾，石井和博¹⁾，百束比古²⁾，秋元正宇（¹⁾ 大浜第一病院形成外科，²⁾ 附属病院形成外科）：Rotation Subcutaneous Pedicled Flap Methodの適応と長期結果。第41回日本形成外科学会学術集会，1998. 4.
- 4) 千明美保，百束比古¹⁾，三橋 清²⁾，宮下次廣³⁾（¹⁾ 附属病院形成外科，²⁾ 東戸塚記念病院形成外科，³⁾ 附属病院放射線科）：ピアスにより発生したケロイド様腫瘍に対する切除後電子線療法の有効性について。第41回日本形成外科学会学術集会，1998. 4.
- 5) 秋元正宇，黒田周一，百束比古¹⁾（¹⁾ 附属病院形成外科）：超音波3次元表示装置の開発と臨床応用 第2報：鼻骨骨折の診断と術後評価。第41回日本形成外科学会学術集会，1998. 4.
- 6) 岩切 致¹⁾，平井 隆¹⁾，青木 律¹⁾，百束比古¹⁾，秋元正宇，黒田周一（¹⁾ 附属病院形成外科）：形成外科皮膚科領域の超音波診断装置の利用。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.
- 7) 高田香織¹⁾，山西貴仁¹⁾，服部怜美¹⁾，秋元正宇（¹⁾ 千葉北総病院皮膚科）：下口唇に生じた巨大な有棘細胞癌の1例。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.
- 8) 黒田周一，秋元正宇，百束比古¹⁾（¹⁾ 附属病院形成外科）：2次元超音波画像の3次元表示化による鼻骨骨折の評価。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.
- 9) 秋元正宇，黒田周一，百束比古¹⁾（¹⁾ 附属病院形成外科）：イントラネットを活用した形成外科臨床画像整理システムの構築。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.
- 10) 千明美保，百束比古¹⁾（¹⁾ 附属病院形成外科）：当院における褥創の治療と展望。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.

- 11) 岡 敏行¹⁾, 百束比古¹⁾, 糸井由里恵¹⁾, 青木 律¹⁾, 秋元正宇, 青木見佳子²⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科, ²⁾ 同皮膚科) : Cervico-Fascial Flapにより再建した悪性線維性組織球腫の1例. 第15回日本皮膚悪性腫瘍学会, 1998. 10.
- 12) 千明美保, 百束比古¹⁾, 山本 達¹⁾, 平井 隆¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科) : 被膜形成された乳腺下注入自家脂肪の1例. 第221回日本形成外科学会東京地方会, 1998. 12.
- 13) 高田香織¹⁾, 山西貴仁¹⁾, 服部怜美¹⁾, 秋元正宇 (¹⁾ 千葉北総病院皮膚科) : 下口唇に生じた巨大な有棘細胞癌の1例. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.
- 14) 秋元正宇, 黒田周一, 山本 達¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科) : 腹直筋皮弁とその変法による各種再建術. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.

20. 付属病院付置施設等

[付属病院集中治療室]

研究概要

集中治療室は都内21施設よりなる東京都CCUネットワークの事務局としてその中心的役割を果たし、その豊富な症例を背景に、心肺血管緊急症の臨床に即した病態、診断、治療、あるいは疫学、社会学に関する研究を継続する一方、新しい診断治療法についても研究を進めた。また、心不全の病態生理に関する実験的研究も実施した。

急性心筋梗塞の課題は早期収容、早期診断、ポンプ不全の救命、発症予防である。東京都CCUネットワークを通じて集積されたデータをもとに疫学的社会的観点から循環器救命疾患を総括、年次報告として発表し、体制改善のための基礎資料を提供した。本年はとくに急性冠症候群の発症状況に焦点を当て詳細に分析した。早期診断では全国に先駆け導入したトロポニンTおよびトロポニンI測定の意義、第二世代トロポニンT迅速測定法の実地臨床における有用性を示した。治療では専用の緊急心血管造影診断治療室を活用、積極的に経皮的冠血管形成術（PTCA）やステント、DCAなどのインターベンションを実施した。このうち圧センサー付冠ガイドワイヤーを用い再灌流療法後の冠病態が慢性期心機能に及ぼす効果を示した。また、新世代の血栓溶解療法薬、抗凝固薬、抗血小板薬の全国的治療の中心施設として活動した。発症予防に関しては積極的血清脂質低下療法の研究（Coronary Lipid Study）を継続、他の因子特に女性ホルモン（Coronary And Sex Hormone（CASH）Study）やLupus Anticoagulantなどについてもデータを集積している。心不全に対しては厚生省委託研究の一環として、コンダクタンスカテーテルを用いた圧容積関係Emax、あるいは神経体液因子による心不全治療効果判定法につき研究を進めた。また、重症心不全に対する心移植の臨床的適応基準につき自験例を分析し検討を加えた。薬物治療では、フォルスコリン誘導体の効果に関する多施設共同研究の中心施設として活動する一方、心筋 β アドレナリン受容体と細胞内刺激伝達系に及ぼす効果を実験的に調べ発表した。本年度特筆すべき活動のひとつは、閉鎖性肥大型心筋症に対する経皮的な筋中隔焼灼術（PTSMA）を積極的に実施し、その有用性を示したことである。これに加え人工臓器を用いてインスリン抵抗性を評価し冠動脈疾患との関連につき研究した。重症呼吸不全では、当施設のテーマである各種基礎疾患にもとづくARDSの病態の解明と治療法に関する研究を継続、サイトカインやエンドセリンの関与、PDE阻害薬の肺コンプライアンスに対する効果、マスクCPAPおよび体外式高頻度陰圧換気法（Hayek Oscillator）の有用性を検討し、さらに食道癌手術など術前呼吸不全を来しやすい疾患に対する予防的抗炎症薬投与の効果についても検討を加え発表した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Takeda S, Nejima J, Takano T, Nakanishi K¹⁾, Takayama M, Sakamoto A¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) 麻酔科) : Effect of Nasal Continuous Positive Airway Pressure on Pulmonary Edema Complicating Acute Myocardial Infarction. Japanese Circulation Journal 1998 ; 62 (8) : 553-558.
- 2) Tokuyama K, Kiuchi K, Nejima J, Takayama M, Takano T, Hayakawa H¹⁾ (1) 内科第1) : Potential role of primary hypercoagulability and antiphospholipid antibody as a risk factor of acute pulmonary thromboembolism. JOURNAL of CARDIOLOGY 1998 ; 32 (4) : 263-268.
- 3) 清野精彦¹⁾, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 大林完二²⁾ (1) 内科第1, 2) 大林医院) : 循環器診療における心筋 Troponin T 全血迅速判定法の有用性に関する検討 : 東京地区循環器実施診療における評価. JOURNAL of CARDIOLOGY 1998 ; 31 (5) : 281-287.
- 4) 関戸司久, 高野 照夫, 高山守正, 早川弘一 (1) 内科第1) : 最近10年間の感染性心内膜炎の動向 : 臨床的・微

生物学的・治療的特徴の分析. JOURNAL of CARDIOLOGY 1999 ; 33 (4) : 209-215.

(2) 総説 :

- 1) 小谷英太郎, 高野照夫:救命救急外来における心疾患. 総合臨床 1998 ; 47 (4) : 648-656.
- 2) 関戸司久, 高野照夫:心不全を合併している狭心性の治療. medicina 1998 ; 35 (4) : 676-680.
- 3) 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 川俣博志¹⁾, 高橋修司¹⁾, 後藤慎介¹⁾, 岡島雄史¹⁾, 市川和雄¹⁾, 植田候平¹⁾, 高山守正, 高野照夫 (¹⁾放射線科):肺血栓塞栓症に対するIVR. IVR 1998 ; 177-182.
- 4) 木内 要, 高野照夫:ショック時の心機能不全の病態と新しい薬物療法. Intensive & Critical Care Medicine 1998 ; 10 (4) : 387-396.
- 5) 子島 潤, 木内 要, 高野照夫:急性心不全の病態. 医薬の門 1998 ; 38 (4) : 207-214.
- 6) 清野精彦¹⁾, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 大林完二²⁾ (¹⁾内科第1, ²⁾大林内科医院):急性心筋梗塞の早期診断と心筋トロポニンT全血迅速判定法の活用. 治療 1998 ; 80 (4) : 1650-1656.
- 7) 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 川俣博志¹⁾, 高橋修司¹⁾, 後藤慎介¹⁾, 岡島雄史¹⁾, 市川和雄¹⁾, 植田候平¹⁾, 高山守正, 高野照夫 (¹⁾放射線科):肺血栓塞栓症に対するIVR. IVR 1998 ; 13 (2) : 177-182.
- 8) 太田眞夫¹⁾, 子島 潤, 高野照夫 (¹⁾内科第1):ACE阻害薬AII受容体拮抗薬. 集中治療 1998 ; 10 (5) : 552-556.
- 9) 高山守正, 坪 宏一, 酒井俊太, 関戸司久, 大久保直子, 木内 要, 子島 潤, 高野照夫, 弦間和仁¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 落 雅美²⁾, 田中茂夫²⁾ (¹⁾放射線科, ²⁾第2外科):急性大動脈解離:この致死性の疾患をどう診断・治療するか. 日医大誌 1998 ; 65 : 176-179.
- 10) 子島 潤, 高野照夫:急性期救命治療:劇症型心筋炎に対する体外循環補助の有効性と問題点. Heart View 1998 ; 2 (6) : 696-701.
- 11) 高山守正:一次救急と重症循環器疾患の取り扱い. ICUとCCU 1998 ; 22 (6) : 405-411.
- 12) 木内 要, 高野照夫:心不全に対する薬物治療の実際:急性心不全(慢性心不全の急性増悪を含む)の病態と治療手順. Medicaol Practice 1998 ; 15 (6) : 943-948.
- 13) 高山守正:(特集:Coronary interventionの最近の動向)不安定狭心症のCoronary intervention. 集中治療 1998 ; 10 (6) : 623-630.
- 14) 木内 要, 高野照夫:心筋梗塞の薬物治療:心不全対策. 今月の治療 1998 ; 6 : 1201-1204.
- 15) 高山守正:閉塞性肥大型心筋症に対する中隔心筋アブレーション. medicina 1998 ; 35 (8) : 1430-1434.
- 16) 木内 要, 高野照夫:循環作動薬. Intensive & Critical Care Medicine 1998 ; 10 : 50-60.
- 17) 小倉宏道, 高野照夫:循環動態のモニタリング. medicina 1998 ; 35 (11) : 32-37.
- 18) 高野照夫:急性心筋梗塞における救急医療の実績. Medical Technology 1998 ; 26 (11) : 1188-1192.
- 19) 高野照夫, 上村竜太, 木内 要:心原性ショックの新しい治療. 現代医療 1998 ; 30 (IV) : 3213-3220.
- 20) 竹田晋浩, 小林徳行¹⁾, 高野照夫 (¹⁾麻酔科):(特集:集中治療中の合併症). 循環器合併症. ICUとCCU 1998 ; 22 (12) : 881-885.
- 21) 子島 潤:心原性ショックの機械的治療. Therapeutic Research 1998 ; 19 (12) : 3685-3873.
- 22) 木内 要:炭酸水素ナトリウム. Intensive & Critical Care Medicine 1999 ; 11 : 81-82.
- 23) 高野照夫:心筋梗塞と狭心性の最近の話題. 埼玉県医師会雑誌 1999 ; 33 (3) : 442-446.
- 24) 高山守正:G抗凝固薬 ヘパリン, ワーファリン. 集中治療 1999 ; 11 (2) : 183-186.
- 25) 清野精彦, 竹田晋浩, 高野照夫:急性心不全の治療戦略をたてる:急性心不全における人工呼吸管理と離脱の仕方について. 集中治療 1999 ; 11 (3) : 277-282.

著 書

- 1) 高山守正, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾放射線科):〔分担〕急性心筋梗塞へのPrimary Stenting. 救急疾患のIVR一手技の

実際とポイント, 1998 ; pp22-25, メジカルビュー社.

2) 高野照夫 : [分担] ショック. 内科学書2, 1999 ; pp1133-1138, 南江堂.

3) 高野照夫 : [分担] 急性心不全と心原性ショック. 循環器救急と画像診断, 1999 ; pp20-34, 中外医学社.

学会発表

(1) 教育講演 :

1) 高野照夫 : 難治性心不全の集中治療の限界と心移植. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.

(2) シンポジウム :

1) 竹田晋浩¹⁾, 夏目隆史¹⁾, 池崎弘行, 高野照夫, 中西一浩²⁾, 坂本篤裕²⁾, 小川 龍²⁾ (1) 小山市民病院, (2) 麻酔科) : 急性呼吸不全に対するNoninvasive ventilation. Positive pressure ventilation (Nasal CPAP) とNegative pressure ventilation (External high-frequency oscillation) の効果. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.

(3) 一般講演 :

1) 高橋裕裕, 高山守正, 関戸司久, 小谷英太郎, 上村竜太, 木内 要, 高野照夫, 徳山権一¹⁾, 石井健輔¹⁾, 高木啓倫¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 笠神康平¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 内田高浩¹⁾, 安武正弘¹⁾, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾ (1) 内科第1) : 冠動脈造影にて観察されるEmoty Lipid Pool像の画像上の特徴と臨床背景. 第6回心血管イメージング研究会, 1998. 12.

2) 小谷英太郎, 関戸司久, 上村竜太, 酒井俊太¹⁾, 高山守正, 吉田博史²⁾, 高久 俊²⁾, 石井健輔²⁾, 桜井 薫²⁾, 内田高浩²⁾, 星野公彦²⁾, 安武正弘²⁾, 富田喜文²⁾, 草間芳樹²⁾, 宗像一雄²⁾, 高野照夫 (1) 千葉北総病院内科, (2) 内科第1) : 左前下行枝完全閉塞症例の近位部病変真腔確認にperfusion balloonが有用であった1例. 第12回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 1998. 4.

3) 川嶋修司¹⁾, 高山守正, 石井健輔¹⁾, 高木啓倫¹⁾, 高久 俊¹⁾, 吉田博史¹⁾, 上村竜太, 桜井 薫¹⁾, 小谷英太郎, 関戸司久, 内田高浩¹⁾, 星野公彦¹⁾, 安武正弘¹⁾, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 木内 要, 子島 潤, 高野照夫 (1) 内科第1) : 左前下行枝近位部の多量閉塞血栓がIVUS操作により回旋枝起始部を亜閉塞したLupus Anticoagulant陽性の若年男性急性心筋梗塞の1例. 第83回日本シネアンジオ研究会, 1998. 6.

4) 和田健太郎, 上村竜太, 大久保直子, 関戸司久, 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 矢島俊巳¹⁾, 田中茂夫¹⁾ (1) 第2外科) : 心電図で広範囲心筋虚血所見を示した心原性ショックに陥ったValsalva洞動脈瘤破裂 (TypeIIIa) の1例. 第168回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1998. 6.

5) 高山守正, 竹永清人¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 本間 博¹⁾, 小倉宏道, 小谷英太郎, 上村竜太, 関戸司久, 内田高浩¹⁾, 星野公彦¹⁾, 安武正弘¹⁾, 富田喜文¹⁾, 宗像一雄¹⁾ (1) 内科第1) : 閉塞性肥大型心筋症に対し心筋コントラストエコーによる至適中隔枝を標的とする経皮的な中隔心筋焼灼術 (PTSMA) を施行した1例. 第7回日本心血管インターベンション学会学術集会, 1998. 6.

6) 関戸司久, 高山守正, 上村竜太, 桜井 薫¹⁾, 小谷英太郎, 内田高浩¹⁾, 星野公彦¹⁾, 安武正弘¹⁾, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 高野照夫, 三木章伍²⁾ (1) 内科第1, (2) 鐘淵化学) : ステンント後拡張バルン deflate時のバルンステント間発生摩擦力の検討. 第7回日本心血管インターベンション学会学術集会, 1998. 6.

7) 上村竜太, 高山守正, 小谷英太郎, 桜井 薫¹⁾, 関戸司久, 内田高浩¹⁾, 星野公彦¹⁾, 安武正弘¹⁾, 木内 要, 富田喜文¹⁾, 子島 潤, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第1) : Pressure wireによる急性心筋梗塞の慢性期左室機能の改善を予測する冠血行因子の検討. 第7回日本心血管インターベンション学会学術集会, 1998. 6.

8) 上村竜太, 高山守正, 小谷英太郎, 関戸司久, 酒井俊太, 木内 要, 安武正弘¹⁾, 富田喜文¹⁾, 子島 潤, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第1) : Pressure wireによる冠血行動態の定量評価と虚血性心電図変化の検討. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.

- 9) 徳山権一, 木内 要, 上村竜太, 小谷英太郎, 川口直美, 小倉宏道, 関戸司久, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 早川弘一¹⁾ (1) 内科第1) : 急性肺血栓塞栓症における先天性血栓症素因と抗リン脂質抗体の役割. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 10) 西山康裕, 小谷英太郎, 日高千鶴子, 池田真人, 鈴木世孝¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫 (1) 第2外科) : 気胸手術後, 急性心筋梗塞および多彩な合併症を生じたEhlers-Danlos症候群の1例. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 11) 北山浩気¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 木内 要, 遠藤孝雄¹⁾, 新 博次¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科第1) : 抗精神薬はQT dispersionも延長させるか. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 12) 高山守正, 関戸司久, 上村竜太, 小谷英太郎, 酒井俊太¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 木内 要, 子島 潤, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第1) : 梗塞発症24時間以後のTIMIO病変への遅延期再灌流の至適時期はいつか?. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 13) 菊池有紀子, 岩崎雄樹, 石井庸介, 上村竜太, 小谷英太郎, 川口直美, 小倉宏道, 関戸司久, 池崎弘之, 木内 要, 富田喜文¹⁾, 子島 潤, 高山守正, 岸田 浩¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第1) : 急性心筋梗塞を契機に発見された冠動脈左室瘻の1例. 第169回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 14) 木村祐子¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 星野公彦¹⁾, 富田喜文¹⁾, 斉藤寛和¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾, 川口直美, 高山守正, 高野照夫 (1) 内科第1) : 急性のペースング不全にステロイドパルス治療が奏効した心筋炎の1例. 第169回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 15) 小谷英太郎, 高山守正, 田畑美弥子¹⁾, 川俣博志²⁾, 高橋裕裕, 鈴木規仁, 上村竜太, 関戸司久, 木内 要, 斉藤 勉¹⁾, 子島 潤, 隈崎達夫²⁾, 高野照夫, 宮武佳子³⁾ (1) 内科第1, ²⁾ 放射線科, ³⁾ 東京都立駒込病院循環器内科) : 右室転移肝癌による切迫流出路閉塞に対し栄養血管である右冠動脈右室枝へのChemoembolizationにより治療した1例. 第13回日本心血管インターベンション関東甲信越地方会, 1998. 10.
- 16) 小倉宏道, 淀川顕司, 相澤瑞穂, 川口直美, 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 加藤貴雄¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科学第1) : 心房梗塞による心電図P波の形態変化—右冠動脈近位部完全閉塞例における検討. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 17) 高山英男¹⁾, 田中啓治¹⁾, 田中 隆¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 子島 潤, 高野照夫, 加藤貴雄²⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部, ²⁾ 内科学第1) : カリウムチャンネル遮断薬MS-551が心筋梗塞急性期の循環動態に及ぼす影響. 第15回日本心電学会学術集会, 1998. 10.
- 18) 上村竜太, 高山守正, 小谷英太郎, 桜井 薫¹⁾, 関戸司久, 酒井俊太, 内田高浩¹⁾, 星野公彦¹⁾, 安武正弘¹⁾, 木内 要, 富田喜文¹⁾, 子島 潤, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第1) : Pressure wireによる急性心筋梗塞の慢性期左心機能に影響を及ぼす冠血行因子の検討. 第12回日本冠疾患学会学術大会, 1998. 11.
- 19) 小谷英太郎, 高山守正, 上村竜太, 関戸司久, 酒井俊太¹⁾, 安武正弘¹⁾, 木内 要, 今泉孝敬¹⁾, 子島 潤, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第1) : 急性心筋梗塞STENT治療における血栓溶解療法先行投与の再狭窄抑制効果. 第12回日本肝疾患学会学術大会, 1998. 11.
- 20) 野村敦宣¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 田中啓治¹⁾, 田中 隆¹⁾, 高山英男¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 高野照夫, 加藤貴雄²⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部, ²⁾ 内科第1) : 急性心筋梗塞に伴う虚血性不整脈に対するカリウムチャンネル遮断薬MS-551の有用性. 第12回日本冠疾患学会学術大会, 1998. 11.
- 21) 上村竜太, 高山守正, 桜井 薫¹⁾, 小谷英太郎, 関戸司久, 酒井俊太¹⁾, 内田高浩¹⁾, 安武正弘¹⁾, 木内 要, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第1) : AMI急性期インターベンションにおけるPressure wireの役割. 第6回心血管内イメージング研究会, 1998. 12.
- 22) 上村竜太, 小谷英太郎, 関戸司久, 小倉宏道, 川口直美, 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫 : IABP support中にpressurewireにて冠動脈内圧測定が可能であった1症例. 第19回IABP研究会, 1999. 2.
- 23) 高山守正, 関戸司久, 小谷英太郎, 上村竜太, 川口直美, 小倉宏道, 池崎弘之, 木内 要, 安武正弘¹⁾, 草間

- 芳樹¹⁾, 高野照夫, 早川弘一¹⁾ (1) 内科第1) : 心臓集中治療における急性心筋梗塞への冠動脈Stent治療の普及と第二世代Stentによる成績向上. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.
- 24) 設楽敏朗, 池崎弘之, 高野照夫, 竹田晋浩¹⁾, 小川 龍¹⁾ (1) 麻酔科) : 集中治療におけるBiPAP利用に対する再考. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.
- 25) 鈴木規仁¹⁾, 池崎弘之, 設楽敏朗, 杖下降哉¹⁾, 中西一浩¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 高山守正, 高野照夫, 小川 龍¹⁾ (1) 内科第1) : 右室駆出率測定用スワンガンツカテーテルを用いた食道癌術後管理の検討. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.
- 26) 坏 宏一, 子島 潤, 木内 要, 高山守正, 高野照夫, 島井新一郎¹⁾, 早川弘一¹⁾, 杉本忠彦²⁾, 佐々木健志²⁾ (1) 内科第一, 2) 海老名総合病院附属東病院) : 急性大動脈解離160例の年代による治療法の変遷と予後の改善. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.
- 27) 徳山権一, 木内 要, 上村竜太, 小谷英太郎, 川口直美, 小倉宏道, 関戸司久, 子島 潤, 高山守正, 清野精彦¹⁾, 高野照夫, 早川弘一¹⁾ (1) 内科第1) : 急性肺血栓塞栓症の短期予後規定因子は何か?. 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.
- 28) 木内 要, 高野照夫, 淀川顕司, 子島 潤, 高山守正, 早川弘一¹⁾ (1) 内科第1) : 重症左心不全における右心機能の役割: 右心機能と神経液性因子. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 29) 上村竜太, 高山守正, 小谷英太郎, 関戸司久, 酒井俊太, 木内 要, 子島 潤, 高野照夫, 桜井 薫¹⁾, 内田高浩¹⁾, 安武正弘¹⁾, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾ (1) 内科第1) : 急性心筋梗塞に対する急性期PTCA後の梗塞部壁運動障害回復と冠内圧動態との関係. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 30) 小谷英太郎, 高山守正, 上村竜太, 関戸司久, 石井健輔¹⁾, 高木啓倫¹⁾, 笠神康平¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 内田高浩¹⁾, 安武正弘¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 木内 要, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 子島 潤, 宗像一雄¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第1) : 急性心筋梗塞STENT治療における血栓溶解薬先行投与の再狭窄予防効果. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 31) 高山守正, 本間 博¹⁾, 松崎つや子²⁾, 草間芳樹¹⁾, 関戸司久, 小谷英太郎, 上村竜太, 桜井 薫¹⁾, 内田高浩¹⁾, 安武正弘¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第1, 2) 生理機能センター) : 経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSMA) における心筋コントラストエコー使用の有用性. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 32) 高山守正, 草間芳樹¹⁾, 本間 博¹⁾, 富田喜文¹⁾, 松崎つや子²⁾, 関戸司久, 小谷英太郎, 上村竜太, 桜井 薫¹⁾, 内田高浩¹⁾, 安武正弘¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 高野照夫, 早川弘一¹⁾ (1) 内科第1, 2) 生理機能センター) : 閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術の臨床成績. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.
- 33) 柏木睦美¹⁾, 清野精彦¹⁾, 塚本 浩¹⁾, 高野照夫, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科学第1) : 閉経女性において経皮estrogen補充治療は皮膚血流量を減じ反応性充血を抑制するが, 血流依存性血管拡張反応には影響しない. 第63回日本循環器学会学術集会, 1999. 3.

[付属病院病理部]

研究概要

本年も, 各臓器毎に病理学教室を初めとする各領域の研究者との共同研究が目立った。

心血管系では, 病態・病因の解析に向けての研究の一部がfloppy mitral valveについての論文, 大動脈解離のclinico-pathologicalな解析として纏められたが, 今後も, 生検・剖検症例を用いた研究として, 新しい手法を取り入れた解析が計画されている。

*H. pylori*と消化器疾患に関する研究が, 海外の研究者も加えた共同研究の形で, 温助手, 病理部兼務医の山田助教 (病理学第2) を中心に継続されており, その一部が纏められた。日常の診断業務の検体が研究対象としてに生か

されている好例としてさらなる発展が期待される。

腎炎の発症進展機構の解明に向けての研究は、病理学教室の腎臓斑の研究に参画する形で継続されており、血管内皮細胞に焦点を当てた腎病変の解析の研究は、腎臓研究の新しい視点として、世界の腎臓研究者の注目を浴びている。一方、三次元の画像解析による腎病変の研究では、その成果の一部を国際学会に報告、論文作成中である。共焦点レーザー顕微鏡が手軽に利用できる環境が整い、新しいツールを駆使しての三次元解析を初めとする研究の成果が新年度には報告出来る状況にある。

リンパ腫を中心とした造血器疾患の研究は、学内外の血液病理医の協力を得て昨年スタートしたリンパ腫勉強会(千駄木)が、東大医科研、埼玉県立がんセンターの各病理部の他、本学・内科、耳鼻科、小児科、順大内科、東京医歯大内科、北里大内科、都老人研などからの参加を得て順調に運営されており、それを契機に貴重な症例が集積されるようになった。そのうちの幾つかが報告されたが、新年度は纏まった解析へと発展させる予定である。

細胞診についても、技師を中心に学会報告が成され、その一部は現在投稿中である。この領域でも、従来の症例報告の止まらず新しい手技を用いての検索が計画されている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Zhang Y¹⁾, Yamada N²⁾, Wen M (¹⁾ PLA Institute for Digestive, Nanfang Hospital, Guangzhou, China, ²⁾ 病理学第2) : Gastrospirillum hominis and Helicobacter pylori infection in Thai individuals : Comparison of histopathological changes of gastric mucosa. Pathology Intenational 1998 ; 48 : 507-551.
- 2) Tamura K, Fukuda Y¹⁾, Ferrans VJ²⁾ (¹⁾ 病理学第1, ²⁾ NHLBI) : Elastic fiber abnormalities associated with a leaflet perforation in floppy mitral valve. J Heart Valve Dis 1998 ; 7 (4) : 460-466.
- 3) Kurose K¹⁾, Bando K¹⁾, Fukino K¹⁾, Sugisaki Y, Araki T²⁾, Emi M¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, NMS, ²⁾ Department of Obsterics and Gynecology) : Somatic mutations of the PTEN1 MMAC1 gene in fifteen Japanese endometrial cancers : evidence for inactivation of both alleles. Jpn J Cancer 1998 ; 89 : 842-848.
- 4) Tamura H¹⁾, Ogata K¹⁾, Mori S²⁾, An E¹⁾, Tajika K¹⁾, Sugisaki Y, Dan K¹⁾ (¹⁾ 内科学第3, ²⁾ 東大医科研病理研究部) : Lymphoblastic lymphoma of natural killer cell origin, presenting as pancreatic tumour. Histopathology 1998 ; 32 : 508-511.
- 5) Kitamura H¹⁾, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Sugisaki Y, Yamanaka N¹⁾ (¹⁾ 病理学第1) : Apoptosis in glomerular endothelial cells during the development of glomerulosclerosis in the remnant-kidney model. Experimental Nephrology 1998 ; 6 : 328-336.
- 6) Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Kitamura H¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Sugisaki Y, Yamanaka N¹⁾ (¹⁾ 病理学第1) : Recovery of damaged glomerular capillary network with endothelial cell apoptosis in experimental proliferative glomerulonephritis. Nephron 1998 ; 79 : 206-214.
- 7) 渡辺健一¹⁾, 三枝英人¹⁾, 陣内 賢¹⁾, 大河原大次¹⁾, 大久保公裕¹⁾, 杉崎祐一, 八木聡明¹⁾ (¹⁾ 耳鼻咽喉科学) : 耳下腺Oncocytomaの1例. 耳鼻と臨床 1998 ; 44 (1) : 5-7.
- 8) 渡辺健一¹⁾, 後藤 稜¹⁾, 陣内 賢¹⁾, 秋元利香¹⁾, 大河原大次¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 大久保公裕¹⁾, 八木聡明¹⁾, 内藤善哉²⁾, 杉崎祐一 (¹⁾ 耳鼻咽喉科学, ²⁾ 病理学第2) : 11歳男児にみられた上咽部癌の1症例. 耳鼻・頭頸外科 1998 ; 70 (3) : 183-186.
- 9) 田村浩一 : 急性大動脈解離手術例の遠隔成績に関連する因子—剖検例からの検討— (特集：急性大動脈解離手術例の遠隔成績). 胸部外科 1998 ; 51 (8) : 616-620.
- 10) 川本雅司¹⁾, 島澤晴彦²⁾, 松原美幸, 渡会泰彦 (¹⁾ 病理学第1, ²⁾ 下谷病院臨床病理) : 明瞭な細胞質内小腺腔

を有した離乳後乳腺内の線維腺腫の1例. 日臨細胞会誌 1998 ; 37 (4) : 400-404.

- 11) 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 松原美幸, 杉崎祐一, 横山宗伯²⁾, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 病理学第2) : 軟部組織細胞診. 病理と臨床 1998 ; 16 (8) : 954-964.
- 12) 松原美幸, 横山宗伯¹⁾, 渡会泰彦, 杉崎祐一, 前田昭太郎²⁾ (¹⁾ 病理学第2, ²⁾ 多摩永山病院病理部) : 小細胞型骨肉腫の1例. 日臨細胞会誌 1998 ; 37 (6) : 608-612.
- 13) 矢嶋裕徳¹⁾, 横島一彦¹⁾, 陣内 賢¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 富山俊一¹⁾, 土佐真由美¹⁾, 百束比古²⁾, 杉崎祐一 (¹⁾ 耳鼻咽喉科学, ²⁾ 形成外科学) : 多発性対称性脂肪瘤症の1症例. 耳鼻・頭頸外科 1998 ; 70 (12) : 839-842.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Maeda S¹⁾, Hosone M¹⁾, Sugisaki Y, Matubara M, Asano G²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 病理学第2) : Fine needle aspiration cytology of soft tissue tumors - how to make a correct diagnosis. The 13th international congress of cytology abstract form (Tokyo), 1998. 5.
- 2) 温 敏, 益田幸成¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (¹⁾ 病理学第1) : Basic study for glomerular scarring : A three-dimensional analysis of the non-anastomozed glomerular lobule. The 2nd international forum : The frontiers of nephrology (Tokyo), 1998. 10.
- 3) Hosone M¹⁾, Maeda S¹⁾, Sugisaki Y, Mori S²⁾, Shiota M²⁾, Izumo T³⁾, Asano G⁴⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 東大医科研病理研究部, ³⁾ 埼玉立がんセンター病理部, ⁴⁾ 病理学第2) : A case of EBV virus-related Hodgkin's disease developed after a 7 year remission period of the lymphadenopathy suspected of angioimmunoblastic T cell lymphoma (AILD). 4th meeting of the german-japanese lymphomastudy group (Frankfurt), 1998. 10.
- 4) Kitamura H¹⁾, Masuda Y¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Sugisaki Y, Yamanaka N¹⁾ (¹⁾ 病理学第1) : The failure of glomerular repair by the inhibition of intraglomerular angiogenesis in experimental glomerulonephritis. American Society of Nephrology 31th annual meeting (Philadelphia), 1998. 10.
- 5) Ohashi R¹⁾, Sugisaki Y, Yamanaka N¹⁾ (¹⁾ 病理学第1) : Peritubular capillary injury and its effect of renal function in rat experimental glomerulonephritis. American Society of Nephrology 31th annual meeting (Philadelphia), 1998. 10.
- 6) Sugisaki Y, Hosone M¹⁾, Yokose N²⁾, Shiota M³⁾, Mori S³⁾, Izumo T⁴⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 内科学第3, ³⁾ 東大医科研病理研究部, ⁴⁾ 埼玉県立がんセンター病理部) : AILD with CD5⁺, CD4⁺, CD20⁺ cell population -CD20⁺ T cell lymphoma?. 4th meeting of the german-japanese lymphoma study group (Frankfurt), 1998. 10.
- 7) 王 培栄¹⁾, 北村博司¹⁾, 益田幸成¹⁾, 石崎正通¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (¹⁾ 病理学第1) : The development of glomerular injure induced by monoclonal anti-Thy1.1 antibody (OX-7) in SHR-SP. 第41回日本腎臓学会学術総会, 1998. 5.
- 8) 松並茂樹, 温 敏, 杉崎祐一 : PAM染色変法によるブロック染色の有用性. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 9) 温 敏, 山田宣孝¹⁾, 田村浩一, 杉崎祐一 (¹⁾ 病理学第2) : G.hominisとH.pylori感染の病理組織学的検討. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 10) 相田成隆¹⁾, 温 敏, 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理学第2) : 甲状腺濾胞癌における被膜侵襲の3次元元的検討. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 11) 権田昌洋¹⁾, 松久威史¹⁾, 温 敏, 山田宣孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科, ²⁾ 病理学第2) : The Sydney Systemに基づく組織学的胃炎及びH.pylori感染のGrade評価についての提言. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.

- 12) 松本光司¹⁾, 温 敏²⁾, 山田宣孝³⁾, 森山昌樹³⁾, 浅野伍朗³⁾ (1) 第二病院病理部, 2) 付属病院病理部, 3) 病理学第2) : Ossifying fibromyxoid tumor of soft part 4例の検討. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 13) 田村浩一, 飯田久美¹⁾, 杉崎祐一 (1) 病理学第2) : 僧帽弁形成術後の弁膜組織反応に関する検討. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 14) 飯田久美¹⁾, 田村浩一, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第2) : 正常僧帽弁弁膜内の血管に関する検討. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 15) 益田幸成¹⁾, 北村博司¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 神長ちふみ¹⁾, 石崎正通¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : Thy-1腎炎障害・増殖期のメサンギウム転送障害. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 16) 北村博司¹⁾, 益田幸成¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : 長期透析患者の1剖検例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 17) 神長ちふみ¹⁾, 石崎正通¹⁾, 北村博司¹⁾, 益田幸成¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : Mongolian gerbilにおける抗Thy-1. 1腎炎へのMMP9の関与. 第41回日本腎臓学会学術総会, 1998. 5.
- 18) 松原美幸, 横山宗伯¹⁾, 川本雅司²⁾, 田村浩一, 村瀬幸広, 浅川一恵, 杉崎祐一 (1) 病理学第2, 2) 病理学第1) : 骨外性粘液型軟骨肉腫の1例. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
- 19) 渡会泰彦, 佐藤春明, 永井祥子, 釜口晴美, 野沢さくえ, 田村浩一, 杉崎祐一, 横山宗伯¹⁾ (1) 病理学第2) : 尿路変更術後の尿細胞像について : Indiana pouch法と回腸導管法の差異について. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
- 20) 飯田久美¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 田村浩一, 福田 悠²⁾, 三浦洋司³⁾, 北村 裕⁴⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第2, 2) 病理学第1, 3) 内科学第1, 4) 外科学第2) : 重症の狭心症を合併したWerner症候群の病理学的検討. 第30回日本結合組織学会学術大会, 1998. 6.
- 21) 三枝順子¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 早沢久美¹⁾, 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 渡会泰彦, 松原美幸, 杉崎祐一, 片山博徳²⁾, 前田昭太郎²⁾, 浅野伍朗³⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 病理学第2) : 脳腫瘍圧挫細胞診における核所見の検討 : その1 Glia系腫瘍について. 日本臨床細胞診学会総会, 1998. 6.
- 22) 清水秀樹¹⁾, 三枝順子¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 早沢久美¹⁾, 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 渡会泰彦, 松原美幸, 杉崎祐一, 片山博徳²⁾, 前田昭太郎²⁾, 浅野伍朗³⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 病理学第2) : 脳腫瘍圧挫細胞診における核所見の検討 : その2Glia系腫瘍以外について. 日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
- 23) 大橋隆治¹⁾, 宗像恵美子²⁾, 今井丈英²⁾, 安田 正²⁾, 吉田順子¹⁾, 立麻典子¹⁾, 安保和俊¹⁾, 土屋正巳¹⁾, 村上睦美¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭²⁾ (1) 日本医大小児科, 2) 病理学第1) : 多彩な組織像を呈したIgA腎症の1例. 関東小児腎臓研究会, 1998. 6.
- 24) 鴨井青龍¹⁾, 大秋美治²⁾, 高橋 肇¹⁾, 河村 堯¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 杉崎祐一 (1) 産婦人科学教室, 2) 千葉北総病院病理部) : 子宮頸部癌における術前動注化学療法の病理組織学的効果判定の試み. 第27回日本婦人科病理・コルポスコピー学会学術集会, 1998. 7.
- 25) 村瀬幸広, 渡会泰彦, 松原美幸, 並松茂樹, 浅川一枝, 佐藤春明, 釜口晴美, 永井祥子, 尾崎正行, 鈴木あかね, 温 敏, 田村浩一, 杉崎祐一 : Endocrine featureを示した乳癌の1症例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 26) 吉川 晃¹⁾, 市川太郎¹⁾, 林 広光¹⁾, 高木 亮¹⁾, 若林洋行¹⁾, 石原真紀子¹⁾, 松田 亮¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 杉崎祐一 (1) 付属病院放射線科) : 高速らせんCTによるAngio-CTの解析 : 特に原発性肝細胞癌診断の臨床的有用性に関する研究. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 27) 劉 愛民¹⁾, 劉 巧鈴¹⁾, 鈴木克哉¹⁾, 相原 薫¹⁾, 王 若皎²⁾, 浅野伍朗²⁾, 杉崎祐一 (1) 中央電子顕微鏡施設, 2) 病理学第2) : 小児のいわゆる小円形細胞腫瘍群の電顕的検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 28) 中沢 勝¹⁾, 山崎峰雄¹⁾, 坂本静樹¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 森 修²⁾, 杉崎祐一 (1) 内科学第2, 2) 病理学第2) : 妊娠悪阻の経過中に発症し, protein S欠損症が疑われた脳静脈洞血栓症1剖検例. 第66回日本医科大学医学会総

- 会, 1998. 9.
- 29) 枝川聖子¹⁾, 清水 一¹⁾, 渡会泰彦, 太田吉尾²⁾, 片山博徳³⁾, 小黒辰夫⁴⁾, 杉崎祐一, 松本光司²⁾, 前田昭太郎³⁾, 大秋美治¹⁾, 川並汪一¹⁾ (1) 老人病研究所病理部門, (2) 第二病院病理部, (3) 多摩永山病院病理部, (4) 千葉北総病院病理部): 気管支細胞洗浄法によるサルコイドーシスの分析. 日本臨床細胞学会秋期大会, 1998. 9.
- 30) 土居大祐¹⁾, 太田雄治郎¹⁾, 松原美幸, 渡会泰彦, 川本雅司, 杉崎祐一, 米山剛一¹⁾ (1) 産婦人科学): 子宮内膜細胞診で発現されparaneoplastic syndromeを合併したneuroendocrine carcinomaの1例. 日本臨床細胞学会秋期大会, 1998. 9.
- 31) 浅見英一¹⁾, 藤山淳三²⁾, 松原美幸, 三宅真司⁴⁾, 上野喜三郎³⁾, 佐藤之俊⁵⁾, 清水禎彦⁶⁾, 坂本穆彦⁷⁾ (1) 東京多摩老人医療センター臨床病理科, (2) 複十字病院臨床検査科, (3) 複十字病院呼吸外科, (4) 東京医科大学病院病理部, (5) BML病理細胞診センター, (6) 埼玉医科大学第二病理学教室, (7) 杏林大学医学部病理学教室): 喀痰中に出現した肺良性腺系異型細胞の細胞学的検討. 日本臨床細胞学会秋期大会, 1998. 9.
- 32) 島澤晴彦¹⁾, 川本雅司²⁾, 松原美幸, 渡会泰彦, 河本陽子³⁾ (1) 下谷病院臨床病理, (2) 病理学教室第1, (3) 病理学教室第2): 明瞭な細胞質内小腺腔を有した離乳後乳腺内の線維腺腫の1例. 日本臨床細胞診学会秋期大会, 1998. 9.
- 33) 藤井正大¹⁾, 鎌田 聡¹⁾, 加瀬川均¹⁾, 下川智樹¹⁾, 松下 恭¹⁾, 村上 浩¹⁾, 遠山悟史¹⁾, 維田隆夫¹⁾, 川瀬光彦¹⁾, 田村浩一 (1) 榊原記念病院外科): 動脈グラフトとしての橈骨動脈の有用性について: 50例の病理組織学的検討. 第51回日本胸部外科学会総会, 1998. 10.
- 34) 飯田久美¹²⁾, 田村浩一, 浅野伍朗¹⁾, 田中茂夫²⁾ (1) 病理学第2, (2) 外科学第2): 正常弁と疾患弁における比較. 第51回日本胸部外科学会総会, 1998. 10.
- 35) 黒瀬圭輔¹⁾, 板東功一¹⁾, 吹野見一¹⁾, 横田 隆¹⁾, 江見 充¹⁾, 小西英喜²⁾, 米山剛一²⁾, 土居大裕²⁾, 太田雄治郎²⁾, 荒木 勤²⁾, 杉崎祐一 (1) 老人病研究所分子生物学部門, (2) 付属病院産婦人科): 日本人子宮体癌患者において同定されたPTEN/MMAC1遺伝子細胞変異. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 10.
- 36) 福本裕子¹⁾, 馬淵浩輔¹⁾, 葉梨亜矢¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 松尾省吾¹⁾, 橋本英洋¹⁾, 渡辺国博²⁾, 鈴木紀茂²⁾, 山王直子²⁾, 杉崎祐一 (1) 下谷病院, (2) 脳神経外科): X線CTにて脳梗塞と初期鑑別が困難であった多形性膠芽腫の1例. 第29回日本老年医学会関東甲信越地方会, 1998. 11.
- 37) 矢嶋裕徳¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 後藤 譲¹⁾, 三枝英人¹⁾, 渡辺健一¹⁾, 八木聰明¹⁾, 相原 薫²⁾, 杉崎祐一 (1) 耳鼻咽喉科, (2) 中央電子顕微鏡施設): 下咽頭悪性線維性組織球腫の1例. 第50回日本気管食道科学会, 1998. 11.
- 38) 杉崎祐一, 細根 勝¹⁾, 森 茂郎²⁾, 榊原貴子³⁾, 壇 和夫⁴⁾ (1) 多摩永山病院病理部, (2) 東大医科研病理部, (3) 付属病院皮膚科, (4) 付属病院血液内科): 全身の紅皮症とリンパ節腫大を伴ったCLL. 第2回日本血液病理研究会, 1999. 3.

[付属病院中央検査部]

研究概要

当検査部はベットサイドに密着した検体検査システム改革の充実を図りつつ, 本年度も広範囲に渡る研究活動が行われた。

各分野における概要は (1) 免疫学分野におけるHCV抗体第三世代および非特異症例の解析, 風疹・トキソプラズマ検出法の自動化への試み, (2) 細菌学分野では腸球菌とバンコマイシン (VCM), ヘテロVRSAの検索, 血液分離菌の動向調査, 全自動細菌検査装置の試み, (3) 血液学分野では異常ヘモグロビン症例の検索, 末梢血幹細胞分析システムの検討, (4) 凝固学分野では血漿中ヘパラスチンテストの検索, (5) 生理学分野では耳鼻科領域における臨床検査支援体制と医療費収入の分析, (6) 高度救命救急分野では急性期における動脈血ケトン対比, 重傷頭部外傷急

性期のフィブリン分解産物と線溶系の解析，低体温療法時のエネルギー代謝と栄養管理について，センター内ヘテロVRSAの検索，DIC時のAT III 投与とメディエーターの変動に関して，(7) 生化学一般分野ではLDLコレステロールの検出法と症例別利用効果，便潜血検出における精度分析について，(8) 輸血学分野ではGVHD予防の放射線照射におけるMAP血中カリウム値への影響，(9) その他，管理分野において新東京国際空港クリニックにおける臨床検査支援体制の充実，施設管理上での細菌学的院内清浄度のチェックおよび各種委員会などへの学術的協力，公共機関を通じた首都圏の検査精度管理状況の調査など，数々の継続課題と共にきわめて多岐に渡る活動が行われ着実な成果により多方面において安定した評価が得られている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 橋本政子，隅田香織，野本剛史，里村克章，米山芳雄¹⁾ (1) 産婦人科)：日立7150形自動分析装置を用いたランピアラテックスRUBELLA，ランピアラテックスTOXOの検討。医学と薬学 1998；40 (3)：561-568.
- 2) 柴田泰史，里村克章，久志本成樹¹⁾，木村昭夫¹⁾，山本保博¹⁾，西澤健司²⁾ (1) 救急医学，²⁾ 薬剤部)：敗血症性DICに対するATIII製剤投与による血中メディエーターの変動。バイオメディカル 1998；(8)：19-21.
- 3) 柴田泰史，久志本成樹¹⁾，山本保博¹⁾ (1) 救急医学)：コバスマラプラス自動分析装置による動脈血中ケトン体比測定試薬の検討。日救急医学会関東誌 1998；19 (1)：160-161.
- 4) 玉置智規¹⁾，諫山和男²⁾，柴田泰史，木村昭夫³⁾，山本保博³⁾，寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科，²⁾ 目白病院脳神経外科，³⁾ 救急医学)：脳内出血急性期における動脈中ケトン体比 (AKBR) の変動。脳外 1998；26 (7)：591-597.
- 5) 園部一成，橋本政子，森本 進，野本剛史，里村克章：HCV抗体検出試薬の第三世代と称するに基づいた改良と感度の関連性。臨床検査機器・試薬 1998；21 (2)：219-223.

著書

- 1) 村上 守¹⁾，柴田泰史，西澤健司²⁾ (1) 救急医学，²⁾ 薬剤部)：〔分担〕低体温療法時におけるエネルギー代謝と栄養管理。低体温療法：病態から管理まで (山本保博，寺本 明編)，1998；pp88-99，へるす出版.
- 2) 野本剛史：〔分担〕平成10年度第17回東京都衛生検査所精度管理事業報告書，1999；東京都衛生局医療計画部.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 望月 徹¹⁾，青砥泰二，宮内雅人¹⁾，丸山正明¹⁾，西澤健司²⁾，柴田泰史，木村昭夫¹⁾，山本保博¹⁾ (1) 救急医学，²⁾ 薬剤部)：当救命救急センターにおけるヘテロVRSAの検出状況。第99回日本外科学会総会，1999. 3.

(2) パネルディスカッション：

- 1) Kushimoto S¹⁾，Shibata Y，Ikeda Y¹⁾，Ishino S¹⁾，Sato H¹⁾，Murai Y¹⁾，Ohashi K¹⁾，Yamamoto Y¹⁾ (1) 救急医学)：Role of excessive fibrinolysis in patients with severe head injury. Society of Critical Care Medicine, 28th Educational and Scientific Symposium, 1999. 1.
- 2) 篠山明弘，青砥泰二，野本剛史，里村克章：全自動細菌検査装置の比較検討について。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.
- 3) 青砥泰二，野本剛史，里村克章：腸球菌の検出状況とバンコマイシン (VCM) に対する薬剤感受性の現状。第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.
- 4) 後藤明子，青砥泰二，野本剛史，里村克章：当院における血液分離菌の最近の動向。第66回日本医科大学医学

会総会, 1998. 9.

- 5) 前田良子, 青砥泰二, 野本剛史, 里村克章: 臨床分離株のヘテロVRSA (バンコマイシン軽度耐性黄色ブドウ球菌) の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 6) 中村祐三, 野本剛史, 里村克章: IMI (immature leukocyte information) チャンネルを利用した, 末梢血幹細胞分析システムについて: (第1報). 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 7) 間宮一夫, 長谷川栄子, 福田高久, 野本剛史, 里村克章: 血漿を検体に用いたヘパプラスチンテストについて. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 8) 山下純一, 日ノ澤進一郎, 山本信也, 野本剛史, 里村克章: トリグリセライド高値検体におけるLDL-コレステロール直接測定法の有用性. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 9) 日ノ澤進一郎, 野本剛史, 里村克章, 福生吉裕¹⁾ (第2内科): HPLC法によるHbA1C測定時に発見された異常ヘモグロビンの1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 10) 三橋 太, 橋本政子, 野本剛史, 里村克章: 抗HIV抗体検出において非特異的反応を認めた1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 11) 亀山澄子, 植田貴子, 高橋亜紀子, 吉野早恵子, 橋本政子, 野本剛史, 里村克章: 放射線照射MAP血中のカリウム値の変化. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 12) 石野真輔¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 柴田泰史, 池田幸穂¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 村井保夫¹⁾, 大橋一喜¹⁾, 大山健一¹⁾, 山本保博¹⁾ (救急医学): 重傷頭部外傷急性期病態における過剰線溶の関与. 第57回日本脳神経外科学会総会, 1998. 10.
 - 13) 柴田泰史, 野本剛史, 里村克章, 久志本成樹¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 山本保博¹⁾ (救急医学): 頭部外傷急性期におけるフィブリノゲン分解産物およびフィブリン分解産物の分析測定による線溶動態の検討. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.
 - 14) 久志本成樹¹⁾, 柴田泰史, 石野真輔¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 山本保博¹⁾ (救急医学): 重傷頭部外傷急性期病態における過剰線溶の関与. 第26回日本救急医学会総会, 1998. 11.
- (3) 一般講演:
- 1) 野本剛史, 石渡統夫¹⁾, 町田幸雄¹⁾, 亀山雅弥¹⁾ (千葉北総病院): 新東京国際空港クリニックにおける診療支援体制: 特に臨床検査領域について. 第47回日本臨床衛生検査学会, 1998. 5.
 - 2) 町田幸雄¹⁾, 亀山雅弥¹⁾, 石渡統夫¹⁾, 本宮とき子¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 野本剛史 (千葉北総病院): 耳鼻科領域における診療支援体制: 特に診療支援と医療費収入について. 第47回日本臨床衛生検査学会, 1998. 5.
 - 3) 園部一成, 田尾清一, 萩原直久, 野本剛史, 里村克章: 便潜血検査における機器・試薬性能と精度の向上について. 第30回日本臨床自動化学会, 1998. 9.
 - 4) 隅田香織, 橋本政子, 野本剛史, 里村克章, 米山芳雄¹⁾ (産婦人科): 日立7150形自動分析装置を用いたランピアラテックスRUBELLA, ランピアラテックスTOXOの検討. 第30回日本臨床自動化学会, 1998. 9.
 - 5) 日ノ澤進一郎, 山本信也, 野本剛史: LDL-コレステロール直接測定法の評価と有用性. 第35回関東甲信地区医学検査学会, 1998. 9.

[付属病院薬剤部]

研究概要

付属病院における薬剤師数は, 平成10年4月より医療法で定められた特定機能病院の薬剤師配置基準数となった. そして, 研究テーマも徐々にではあるが特定機能病院に求められる薬剤師業務から派生したテーマが増加してきた. また, 今年度は, 薬科大学との共同研究が増加した.

研究内容は, 継続してきたテーマでは抗菌薬の薬物動態と臨床効果として「肺炎患者におけるアルベカシンの血中

濃度と臨床効果」, 重症口内炎としては「ポラプレジンの酢酸誘発実験的口内炎モデルに対する治療効果」などについてまとめ発表した。

安全性に関しては, (1) 医療用医薬品のほかに一般用医薬品を服用している場合の併用禁忌薬剤はどのようなものがあるか (2) 糖尿病用薬の処方過誤は患者に重大な影響を与えることから, その安全性確保のためのチェックシステムの構築について検討し発表した。薬剤の使用性に関しては, 高齢者を含む手指機能障害者にとってはPTP包装からの取り出しが困難な薬剤もあることから, 剤形の大きさ, 包装の問題などについて検討し発表した。また, 薬剤の安定性に関しては, ビタミンB₁は亜硫酸水素ナトリウムにより分解することから, 高カロリー輸液に含まれる亜硫酸水素ナトリウムのビタミンB₁への影響について検討し発表した。病棟業務に関しては, 平成10年4月より注射薬のみでも薬剤管理指導料が請求可能となったことから, 注射薬投与患者に対する薬剤師の役割について検討し発表した。

現在は, 国民から必要とされる職種のみが生き残れる時代である。薬剤部も患者の利益を守るため, 薬学的な視点に立ち, 医療の質の向上と医療経済的な役割を推進するための研究を継続していきたいと考えている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Nishizawa K, Hirano M, Mochizuki T¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Yamamura S²⁾, Momose Y²⁾ (1) Department of Emergency, 2) Toho University School of Pharmaceutical Sciences) : Evaluation of the Antimicrobial Activity of Carbapenem and Cephem Antibiotics against *Pseudomonas aeruginosa* isolated from hospitalized patients. *Journal of Infect. and Chemoth* 1998 ; 4 : 174-176.
- 2) Nishizawa K, Yamamura S²⁾, Momose Y²⁾, Hirano M, Kimura A¹⁾, Mochizuki T¹⁾, Yamamoto Y¹⁾ (1) Department of Emergency, 2) Toho University School of Pharmaceutical Sciences) : Prediction of plasma levels of aminoglycoside antibiotics in patients with severe illness by means of an artificial neural networks simulator. *J Pharm Pharmaceut Sci* 1998 ; 1 (3) : 95-101.
- 3) Kimura A¹⁾, Tohru M¹⁾, Nishizawa K²⁾, Mashiko K¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Otsuka T¹⁾ (1) Department of Emergency) : Trimethoprim-Sulfamethoxazole for the Prevention of Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* Pneumonia in Severely Burned Patients. *The Journal of Trauma Injury Infection and Critical Care* 1998 ; 45 (2) : 383-387.
- 4) Katayama S, Ohshita J, Sugaya K, Hirano M, Yamamura S¹⁾ (1) Toho University School of Pharmaceutical Sciences) : New medicinal treatment for severe gingivostomatitis. *International Journal of Molecular Medicine* 1998 ; 2 : 675-679.
- 5) 村田和也, 中嶋基広, 平野公晟 : 高カロリー輸液中におけるビタミンB₁安定性の検討. *PHYSICIANS' THERAPY MANUAL* 1998 ; 4 (11).
- 6) 望月 徹¹⁾, 青砥泰二²⁾, 宮内雅人¹⁾, 丸山正明¹⁾, 西澤健司, 柴田泰史²⁾, 木村昭夫¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 救急医学, 2) 中央検査室) : 当救命救急センターにおけるヘテロVRSAの検出状況について. *日外会誌* 1999 ; 100 : 79-79.

(2) 総説:

- 1) 片山志郎 : よりよい癌疼痛緩和ケアを行うために. *都薬雑誌* 1998 ; 4 (20) : 25-32.
- 2) 伊勢雄也, 片山志郎, 鈴木 勉¹⁾ (1) 星薬科大学薬学部) : 癌疼痛治療に用いる製剤の区分. *Pharm Tech Japan* 1998 ; 3 (15) : 111-119.
- 3) 片山志郎, 伊勢雄也, 鈴木 勉¹⁾ (1) 星薬科大学薬学部) : チーム医療における薬剤師の役割. 癌患者の対症療法 1999 ; 10 : 45-49.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Yamamura S¹⁾, Momose Y¹⁾, Nishizawa, Hirano M, Kimura A²⁾, Mochizuki T²⁾, Yamamoto Y²⁾
(¹⁾ Toho University School of Pharmaceutical Sciences, (²⁾ Department of Emergency) : Prediction of plasma levels of aminoglycoside antibiotics in patients with severe illness by means of an artificial neural networks simulator. Drug development through biopharmaceutical sciences (Hatyai, Thailand), 1998. 11.
- 2) 西澤健司, 中嶋基広, 平野公晟, 望月 徹¹⁾, 山本保博¹⁾, 山村重雄²⁾, 百瀬弥寿徳²⁾ (¹⁾ 救急医学, ²⁾ 東邦大学薬学部) : 肺炎患者における Arbekacin 血中濃度と臨床効果. 第15回日本TDM学会学術大会, 1998. 5.
- 3) 中嶋基広, 西澤健司, 平野公晟 : 注射薬投与患者における薬剤管理指導業務. 日本薬学会第7回クリニカルファーマシーシンポジウム, 1998. 6.
- 4) 濃沼政美, 村田和也, 平野公晟 : 注射薬調剤の問題点. 関東私立医大薬剤部研究会, 1998. 7.
- 5) 五味麻子, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟 : 薬剤部における糖尿病薬チェックシステムの有用性について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 6) 川瀬晴子, 菅谷量俊, 西澤健司, 平野公晟 : 当院におけるDI業務の検討 (第2報). 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 7) 伊勢雄也, 村田和也, 中嶋基広, 平野公晟 : 注射薬投与患者における薬剤師の役割. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 8) 村田和也, 中嶋基広, 平野公晟 : 高カロリー輸液用総合ビタミン剤の考察 : ビタミンB₁について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 9) 菅谷量俊, 川瀬晴子, 西澤健司, 平野公晟, 福生吉裕¹⁾ (¹⁾ 第二内科) : 医療用医薬品と一般用医薬品の併用による問題点. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 10) 川瀬晴子, 西澤健司, 平野公晟, 三原 潔¹⁾, 越前宏俊¹⁾, 力久忠昭¹⁾, 緒方宏泰¹⁾ (¹⁾ 明治薬科大学薬学部) : 熱傷患者におけるアルベカシンの投与計画法の検討. 第8回日本病院薬学会, 1998. 9.
- 11) 菅谷量俊, 川瀬晴子, 西澤健司, 平野公晟, 福生吉裕¹⁾ (¹⁾ 第二内科) : 医療用医薬品と一般用医薬品の併用による問題点. 第5回日本未病システム学会, 1998. 10.
- 12) 武井麟太郎¹⁾, 石川 源¹⁾, 澤倫太郎¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 村田和也, 中嶋基広, 平野公晟 (¹⁾ 産婦人科) : 重症妊娠悪阻症例におけるビタミンB₁投与方法の再検討. 第20回日本臨床栄養学会総会, 1998. 10.
- 13) 本城和義, 村田和也, 佐治名保子, 石原朋子, 濃沼政美, 江口博美, 赤木千世, 伊勢雄也, 平野公晟 : 注射薬供給業務における薬剤師の役割 (その6) —すべての入院患者における注射薬の適正使用をめざして—. 関東ブロック第28回学術大会, 1998. 10.
- 14) 望月 徹¹⁾, 西澤健司, 宮内雅人¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学) : 重症熱傷とガス壊疽症例に対するST合剤予防的投与法のMRSA肺炎抑制効果. 第26回日本救急医学会学術総会, 1998. 11.
- 15) 菅谷量俊, 村田和也, 西澤健司, 平野公晟, 濱田久光¹⁾, 前田美穂¹⁾ (¹⁾ 小児科) : 小児に対するPropofolの有用性の検討. 日本薬学会第119年会, 1999. 3.
- 16) 市東友和¹⁾, 加藤恵子¹⁾, 橋口政行¹⁾, 越前宏俊¹⁾, 力久忠昭¹⁾, 西澤健司, 平野公晟 (¹⁾ 明治薬科大学薬学部) : 抗生剤不応患者における院内真菌感染症発現に関する因子の検討. 日本薬学会第119年会, 1999. 3.
- 17) 西澤健司, 片山志郎, 平野公晟, 山村重雄¹⁾, 百瀬弥寿徳¹⁾ (¹⁾ 東邦大学薬学部) : 重症患者におけるアルベカシンの薬物動態と血行動態やバイタルサインの相関. 日本薬学会第119年会, 1999. 3.
- 18) 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟, 山村重雄¹⁾, 百瀬弥寿徳¹⁾ (¹⁾ 東邦大学薬学部) : ポラプレジックの酢酸誘発実験的口内炎モデルに対する治療効果. 日本薬学会第119年会, 1999. 3.
- 19) 濃沼政美, 村田和也, 平野公晟 : PTPシート剤形の検討 (1). 日本薬学会第119年会, 1999. 3.
- 20) 山村重雄¹⁾, 百瀬弥寿徳¹⁾, 西澤健司¹⁾, 片山志郎, 平野公晟 (¹⁾ 東邦大学薬学部) : ニューラルネットワーク

シミュレータによる重症患者における抗菌剤の体内動態の予測. 日本薬学会第119年会, 1999. 3.

- 21) 望月 徹¹⁾, 青砥泰二²⁾, 宮内雅人¹⁾, 丸山正明¹⁾, 西澤健司, 柴田泰史²⁾, 木村昭夫¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 救急医学, 2) 中央検査室): 当救命救急センターにおけるヘテロVISAの検出状況について. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.

[付属病院生理機能センター]

研究概要

当センターでは、臨床医からの検査依頼に対して迅速にかつ付加価値の高い検査データを寄与することを心掛けている。

このため、検査技術員は専門分野での資格修得、勉強会の実施、研究会への参加などにより、質的向上に努力している。

今年度は超音波心エコーに加えて、昨年度より医師と協力してトレッドミル検査に力を入れ、高齢者のTreadmill運動負荷試験 (TMET) の臨床的有用性について、また本年度より新規検査項目として導入した短潜時体性感覚誘発電位 (SSEP) 検査について従来のモニタージュを改良し、各波成分の同定法を検討するなど幅広い分野での学会発表も行われ、成果を収めている。

今後も技術員の専門知識・技術の向上に努め、臨床側の要求を満たすべく、積極的に新しい検査法の導入も進めたいと考えている。

研究業績

原著

- 1) Honma H, Kishida H¹⁾, Tsuchida T¹⁾, Morita N¹⁾, Tomita Y¹⁾, Seino Y¹⁾, Takano T¹⁾, Nishigaki R¹⁾, Asago G¹⁾ (1) 第1内科学). Cardiovascular Imaging In-a-month (English Text) A 68-Year-Old Man With Complete Atrioventricular Block and Congestive Heart Failure. J Cardiol 1999; 33 (2): 111-115.
- 2) 青木 亘: ABR検査の実際. Medical Technology 1999; 27 (2): 151-155.
- 3) 本間 博: ICUにおける心血管作動薬27, H.抗血小板薬, アスピリン, チクロピジン, ジピリダモール, シロスタゾール, その他. 集中治療 1999; 11 (3): 289-293.

学会発表

(1) パネルディスカッション:

- 1) 藤井克彦, 吉田 晃, 青木 宏¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 吉田和弘²⁾, 秋元成太²⁾ (1) 内科学第2, 2) 泌尿器科学): ネフローゼ症候群を発症し、透析を要したminor glomerular abnormalitiesの1例. 第43回日本透析医学会, 1998. 5.
- 2) 関口由紀子, 菅谷寿理, 五十嵐亜希, 小松裕子, 石井玲子, 水瀬 学, 与那嶺弘子, 瀬川純子, 平野美子, 中村利枝, 野原秀明, 斉藤公一, 本間 博, 黒田 肇, 高橋 啓¹⁾, 及川恵子¹⁾, 富村正登¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 福間長知¹⁾, 斉藤 勉¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科学第1): 高齢者のtreadmill運動負荷試験成績. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 3) 佐藤淳子, 松崎つや子, 加藤政利, 五十嵐亜希, 斉藤公一, 本間 博, 黒田 肇, 大塚俊昭¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 菅原博子¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 内田拓実¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科学第1): 心筋integrated backscatter値の加齢および壁厚による影響. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 4) 中村利枝, 青木 亘, 関口由紀子, 小松裕子, 五十嵐亜希, 石井玲子, 水瀬 学, 与那嶺弘子, 瀬川純子, 平野美子, 野原秀明, 菅谷寿理, 斉藤公一, 本間 博, 黒田 肇, 野手 洋治¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科学): 短潜時体性感覚誘発電位 (SSEP) 検査におけるモニタージュおよび各波成分の同定と基準値に関する検討. 第

66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.

- 5) 小野いすず¹⁾, 小野卓哉¹⁾, 斎藤寛和¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 大野則彦¹⁾, 松本 真¹⁾, 小林義典¹⁾, 本間 博, 斉藤公一, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科学第1) : 起立性洞頻脈症候群 (POTS) の自律神経学的特徴 : 薬理学的自律神経負荷試験による検討. 日本医科大学医学会第97回例会, 1998. 11.

(2) 一般講演 :

- 1) 内田拓実¹⁾, 本間 博, 松崎つや子, 佐藤淳子, 水瀬 学, 漆澤亜希, 伊藤恵子¹⁾, 菅原博子¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科学第1) : ドプタミン負荷心エコー法に対する acoustic densitometry 法の臨床的意義. 日本超音波医学会 第71回学術集会, 1998. 5.
- 2) 本間 博, 草間芳樹¹⁾, 大塚俊昭¹⁾, 西垣龍太郎¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 内田拓実¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科学第1) : ドプタミン負荷心エコー法と integrated backscatter 法との併用による心筋 viability 評価. 第46回循環器負荷研究会, 1998. 8.
- 3) 松崎つや子, 本間 博, 佐藤淳子, 水瀬 学, 五十嵐亜希, 加藤政利, 中村利枝, 斉藤公一, 黒田 肇, 土田貴也¹⁾, 富田善文¹⁾, 清野精彦¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 高野照夫¹⁾ (1) 内科学第1) : Integrated backscatter 法により治療効果が示されたサルコイド-シスの1例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第10回学術集会, 1998. 10.
- 4) 本間 博, 草間芳樹¹⁾, 大塚俊昭¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 内田拓実¹⁾, 清野精彦¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾, 平岡美紀²⁾, 大原國俊²⁾, 高橋卓夫²⁾, 工藤翔二²⁾ (1) 内科学第1, 2) 内科学第4) : 心筋 integrated backscatter による心サルコイド-シス検出の試み. 第18回日本サルコイド-シス学会総会, 1998. 11.
- 5) 本間 博, 草間芳樹¹⁾, 大塚俊昭¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 内田拓実¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科学第1) : ドプタミン負荷心エコー法と integrated backscatter による心筋 viability 評価. 第63回日本循環器学会総会・学術集会, 1999. 3.
- 6) 本間 博, 草間芳樹¹⁾, 大塚俊昭¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 内田拓実¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科学第1) : ドプタミン負荷心エコー法と integrated backscatter との併用による心筋 viability 評価. 第96回日本内科学会講演会, 1999. 3.

[付属病院看護部]

研究概要

1. 人口の高齢化に伴い, 介護を必要とする者の増加や医療提供システムの変化から, 在宅医療に関連した課題も多い. 付属病院の在宅医療における訪問看護活動から, 在宅酸素療法患者を抱える家族を対象とした研究調査を行い, 家族の介護負担感とその影響要因の分析を行った.

2. 母性領域では, 大学病院における妊産婦・家族の希望を取り入れたバースプランの有効性を, 1) 出産に対する満足度, 2) 看護ケアに対する満足度の点から分析した. また, 妊産婦の出産満足度調査を行い, その関連要因を分析した.

3. 高度救命救急センター看護部においては, 災害医療拠点病院における危機管理への取り組みから, 震災初動期を想定した看護部人員確保の状況分析, NPAC看護診断データを用いた事例研究, 重症熱傷患者の術後早期リハビリテーションの検討, 悲嘆プロセスに焦点を当てて脳死状態になった患者家族の精神的援助の検討などを行った.

4. 職場は多様な価値観や思想をもつ人々の集まりであり, それをまとめていくには組織文化の形成が重要であるといわれている. 看護集団を対象に組織文化の特性と構造を明らかにするとともに, 看護ケア特性との関連性についての検討を行った.

研究業績

論文

(1) 原著

- 1) 佐藤憲明：NPAC看護診断データベースを用いた事例研究：危機的患者の心理プロセスに焦点を当てて。日本救急医学会関東地方会雑誌 1998；19（2）：pp306-307.

(2) 綜説：

- 1) 佐藤憲明：これから看護の世界には「量から質への転換」が必要。ばんぼう 1998；199（1）：182-182.
- 2) 佐藤憲明：救急認定看護師による事例解説：突然の腹痛：急性腹症。ナース専科 1998；18（10）：82-85.

著書

- 1) 藤田昌久：〔分担〕救急法と看護。メディサイトクイックマスターブックス 基礎看護学3（臨床看護総論），1998；pp179-193，医学芸術社.
- 2) 周藤和美：〔分担〕放射線療法と看護。メディサイトクイックマスターブックス 基礎看護学3（臨床看護総論），1998；pp163-171，医学芸術社.
- 3) 太田久子：〔分担〕集中治療と看護。メディサイトクイックマスターブックス 基礎看護学3（臨床看護総論），1998；pp172-178，医学芸術社.
- 4) 長谷川幸子，長谷川幹¹⁾（¹⁾桜新町リハビリテーションクリニック）：〔共著〕リハビリ医の妻が脳卒中になった時 発病から復職まで，1999；日本醫事新報社.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 佐野野子，山下いずみ，田口涼子，背戸陽子，戸澤 薫，藤田昌久，早坂百合子：重症熱傷患者に於ける術後早期リハビリテーションに向けて：関節拘縮予防に対する標準看護計画の作成。第24回日本熱傷学会総会，1998. 5.
- 2) 瀧川真朱美，佐藤憲明，早坂百合子：NPAC看護診断データベースを用いた事例研究：危機的患者の心理プロセスに焦点を当てて。第45回救急医学会関東地方会看護部会，1998. 6.
- 3) 小森邦子，瀬川佳奈，奥原直美：在宅酸素療法患者を抱える家族の介護負担感とその影響要因について。第8回日本呼吸管理学会学術集会，1998. 7.
- 4) 前原美紀，中峯聡子，斑目由美：当院における出産満足度に関連する要因。第39回日本母性衛生学会総会，1998. 10.
- 5) 木野毅彦，佐藤憲明，藤田昌久，大槻義昭，伊藤博希，渡辺里奈，市原友成，早坂百合子：震災事直後を想定した災害拠点病院における看護人員確保についての検討。第26回日本救急医学会総会看護部会，1998. 11.
- 6) 武石知子，高橋恵子，牧田典子，矢吹詩織，佐藤憲明，早坂百合子：脳死状態になった患者家族の精神的援助の実際：思春期における悲嘆プロセスに焦点を当てた因子探索型事例研究。第26回日本救急医学会総会 看護部会，1998. 11.
- 7) 斑目由美，宇佐美歎子：大学病院におけるパス・プラン。第29回日本看護学会母性看護，1998. 11.
- 8) 原 千鶴：看護集団が形成する組織文化と看護ケア特性。第18回日本看護科学学会学術集会，1998. 12.

[付属病院放射線科技師室]

研究概要

放射線科技術部門は，診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である。一般撮影，CT，RI，MRI，血管

造影および放射線治療などに関する研究を日常的に行っている。一般撮影部門では、各メーカーより開発されているスクリーン・フィルムのそれぞれの物理特性を研究し、部位毎に最適な組み合わせによる、高画質なX線写真を各科に提供するように進めている。血管撮影部門では、回転デジタル血管装置と専用の画像処理ワークステーションを使用し、多方向からの血管像の観察を可能にする研究を進めている。現在は、再構成時間の短縮、ポリウムデータからの正確な距離の計測および体積計算などをテーマとし、またCT部門では、三次元画像の作製に関する研究を進めている。今年度は、三次元画像の対軸方向の伸びに関する研究を撮像条件、三次元作成法の違いから評価し、臨床応用を行った。MRI部門では、造影剤を用いたMR Angiographyの画質改善に対する研究、最新の撮像法である、EPIを用いた研究およびMRI撮像時に画像に影響をおよぼす可能性のある歯科用金属材料について、材質の違いによる影響の差および影響範囲を少なくする撮像法などについて研究を行った。

放射線科技術部門は診療用画像検査全般を扱う部門であり、それぞれの部門毎に研究テーマをもち「正確な画像診断」を行えるデータを提供できるよう研究に取り組んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 土橋俊男, 富里謙一¹⁾, 榎 利夫²⁾, 藤田 功, 鈴木 健⁽¹⁾ 千葉北総病院中央画像検査室, ²⁾ 浦和市立病院中央放射線科)：Echo planar imaging (EPI) を用いたfluid attenuated inversion recovery (FLAIR) 法の検討：Null pointについて。日放線技会誌 1998；54 (4)：499-504.
- 2) 土橋俊男, 藤田 功¹⁾, 榎 利夫, 北川松雄⁽¹⁾ 浦和市立病院中央放射線科)：歯科用磁性アタッチメントのMR画像への影響。日放線技会誌 1998；54 (4)：517-520.
- 3) 土橋俊男, 吉澤賢史, 榎 利夫, 藤田 功¹⁾, 鈴木 健⁽¹⁾ 浦和市立病院中央放射線科)：Spectrally selected inversion recovery pulseを用いた脂肪抑制の検討。日放線技会誌 1998；54 (5)：646-652.
- 4) 土橋俊男, 榎 利夫, 藤田 功¹⁾, 鈴木 健⁽¹⁾ 浦和市立病院中央放射線科)：高速SE画像におけるsusceptibilityの影響について：高速SE法とSE法の画像歪みの比較。日放線技会誌 1998；54 (7)：884-890.
- 5) 土橋俊男, 佐々木禎之, 吉澤賢史, 榎 利夫, 北川松雄)：造影剤タイミングモニタリング機能 (Smart Prep法) を使用した造影三次元MR Angiographyの有用性。日放線技会誌 1998；54 (9)：1155-1163.
- 6) 土橋俊男, 藤田 功¹⁾, 吉澤賢史, 榎 利夫, 北川松雄, 鈴木 健⁽¹⁾ 浦和市立病院中央放射線科)：高速FLAIR法のCSF flow artifact低減について：180° inversion pulseの励起幅の検討。日放線技会誌 1998；54 (10)：1234-1240.
- 7) 土橋俊男, 中田 稔¹⁾, 藤田 功²⁾, 千葉ミチ子, 吉澤賢史, 佐々木禎之, 榎 利夫, 北川松雄, 鈴木 健⁽¹⁾ 第一勧業銀行健康管理室, ²⁾ 浦和市立病院中央放射線科)：歯科用金属材料のMR画像への影響。日放線技会誌 1998；54 (11)：1309-1315.

(2) 総説：

- 1) 土橋俊男, 富里謙一¹⁾, 榎 利夫, 藤田 功²⁾, 北川松雄, 鈴木 健⁽¹⁾ 千葉北総中央画像検査室, ²⁾ 浦和市立病院中央放射線科)：Echo Planar-Fluid Attenuated Inversion Recovery (EPI-FLAIR) 法を用いた画像歪みの検討。日放線技会誌東京部会雑誌 1998；(68)：78-83.
- 2) 赤坂晃彦, 大貫洋子, 大湾朝仁, 新田武史, 隈崎達夫¹⁾ (1) 放射線医学)：デジタルイメージングの落とし穴：回転デジタルアンギオグラフィー。INNERVISION 1999；14 (1)：10-20.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 土橋俊男：各モダリティーにおけるピットフォールとその対策/MRI：アーチファクトを中心に。日本放射線

- 技術学会東京部会, 1998. 5.
- 2) 土橋俊男：各モダリティにおけるピットフォールとその対策 (Part 2) /MRI：臨床例を中心に. 日本放射線技術学会東京部会, 1998. 11.
- (2) 一般講演：
- 1) 土橋俊男, 榎 利夫, 佐々木禎之, 吉澤賢史, 北川松雄, 鈴木 健, 中田 稔¹⁾ (1) 第一勧業銀行健康管理室)：歯科用金属材料 (歯科用合金) のMRIへの影響について. 日本放射線技術学会, 1998. 4.
 - 2) 小林宏之, 谷越雅幸, 水谷光樹, 岩崎 淳, 松本 剛, 吉澤賢史：胸部撮影用スクリーン/フィルムの画質特性. 日本放射線技術学会, 1998. 4.
 - 3) 榎 利夫, 小林宏之, 土橋俊男, 鈴木 健：MIP画像におけるスラブ内ゼロフィル補間の検討. 日本放射線技術学会, 1998. 4.
 - 4) 吉澤賢史, 土橋俊男, 榎 利夫, 佐々木禎之, 北川松雄, 鈴木 健：Spectrally selected inversion recovery pulseを用いた脂肪抑制併用3D-MRAの検討. 日本放射線技術学会, 1998. 4.
 - 5) 村木巖太郎, 濱口雄慈, 鈴木 健, 山田公治¹⁾, 橋本尚明¹⁾ (1) 茨城県立中央病院地域がんセンター)：三次元画像における体軸方向の伸びの検討 (第2報)：ソフト間の違い. 日本放射線技術学会, 1998. 4.
 - 6) 千葉ミチ子, 土橋俊男, 佐々木禎之, 吉澤賢史, 榎 利夫, 北川松雄, 鈴木 健：Smart Prep法を使用した造影3次元MR-Angiographyの初期経験. 日本放射線技術学会東京部会, 1998. 5.
 - 7) 土橋俊男, 榎 利夫, 北川松雄, 森谷浩人¹⁾ (1) GE横河メディカルシステム)：Double inversion pulseを用いたblack-blood imagingの検討. 日本磁気共鳴医学会, 1998. 9.
 - 8) 千葉ミチ子, 土橋俊男, 佐々木禎之, 吉澤賢史, 榎 利夫, 北川松雄, 鈴木 健：造影剤タイミング・モニタリング機能 (Smart Prep) を用いた造影3次元MR-Angiographyの試み. 日本放射線技術学会, 1998. 10.
 - 9) 赤坂晃彦, 大貫洋子, 新田武史, 大湾朝仁, 吉澤 賢史, 佐久間治子：回転DSAからの三次元処理画像. 日本放射線技術学会, 1998. 10.
 - 10) 尾科隆司, 北俣真一, 小菅 豊, 鈴木 健, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 放射線医学)：左室機能 (QGS) 3-D画像のQuick File化. 日本放射線技術学会, 1998. 10.

[ワクチン療法研究施設]

研究概要

1972年 (昭和47年) の当施設開設以来, 当施設に登録された悪性腫瘍患者累積数は, 1999年 (平成5年) 3月31日現在, 338,319例を算した. 丸山千里先生のご逝去後も以前同様, 日に新患50名前後, 再来・郵送を含めて, 500名もの多数の紹介患者を迎えている. 従来からの2万数千名にのぼる共同治験医師に, さらに新しい協力医療機関の参入がみられ, 世界に先駆けて非特異的癌免疫療法を唱導された故丸山千里先生の丸山ワクチンという偉大な遺産が, 進行期癌の治療において一層定着しつつある. また, SSMの濃厚溶液が放射線療法による白血球減少抑制剤として健保適用となったことは, 基礎的ならびに臨床的研究が評価された結果である. 現在, 産婦人科領域の悪性腫瘍の放射線療法併用時における臨床効果について, 全国の国公立大学・国公立病院等において治験が進められている.

1979年から1998年3月までの患者累積数は, 228,301例であり, そのうち22,165例 (9.71%) が3年以上の長期にわたるSSM加療例であった. これらの症例の多くが進行期癌であるにも拘わらず, 良好な一般状態 (Performance Status ; PS) を維持しつつ長期延命する症例が多数を占めていることは, SSMが癌治療における全身療法として重責を果たしている結果と考えられ, その治療状況や成績について検討を重ねてきた.

現在は, SSMの本来の使用目的ともいえるBiological Response Modifiers (BRM) としての作用および癌免疫療法としての作用について, とくに進行期癌患者におけるquality of life (QOL) 向上と延命効果の立場から, 当施設ならではの膨大な患者数を基にした臨床生命表を作成し, 検討を続行中である. また, SSMの経口投与の可能性なら

びに癌予防への応用についても検討を重ねている。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Fujita K, Iida K, Hirai T, Goto H, Arai Y, Iwaki H, Miyazaki S, Takahara M, Otake M : The Clinical Statistics of Cancer Patients in Treatment with an Extract from Human Tubercle Bacilli (SSM, generally called "Maruyama Vaccine") and some Clinical Cases. 5th Hong Kong International Cancer Congress (Hong Kong), 1998. 11.
- 2) Iida K, Fujita K, Hirai T, Goto H, Arai Y, Iwaki H, Miyazaki S, Takahara M, Otake M : Effect of Oral Administration of an Extract from Human Tubercle Bacilli (SSM) on the Incidence of Tumor in Mice. 5th Hong Kong International Cancer Congress (Hong Kong), 1998. 11.
- 3) 菅沼 (清水) 眞澄¹⁾, 飯田和美, 加藤一良²⁾, 七戸和博¹⁾ (¹⁾ 実験動物管理室, ²⁾ 形成外科) : PF1022A のフィラリアに対する影響. 第98回日本薬理学会関東部会, 1998. 6.
- 4) 七戸和博¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄¹⁾, 飯田和美 (¹⁾ 実験動物管理室) : ガン細胞の増殖に及ぼすベネフィンの影響. 第22回日本比較臨床血液学会, 1998. 6.
- 5) 藤田敬四郎, 飯田和美, 平井敏之, 後藤博一, 新井愛彦, 宮崎定活, 岩城弘子, 大竹 稔 : 当施設における結核菌体抽出物質 (SSM) 使用登録癌患者の現況. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 6) 藤田敬四郎, 飯田和美, 平井敏之, 後藤博一, 新井愛彦, 宮崎定活, 大竹 稔 : 当施設における結核菌体抽出物質 (SSM) 使用登録癌患者の現況 (第20報). 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 7) 飯田和美, 藤田敬四郎, 平井敏之, 後藤博一, 新井愛彦, 宮崎定活, 大竹 稔 : マウス実験皮膚腫瘍発生に対する人型結核菌体抽出物質 (SSM) 経口投与の影響. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10

21. 第二病院付置施設等

[第二病院消化器病センター]

研究概要

消化器病センターは1989年より日本医科大学付属第二病院の診療科として診療を開始した。1991年、独立した診療科として運営細則が制定され、消化器外科医、消化器内科医の協力のもとに、消化器疾患の診断から治療まで幅広く診療を行っている。初代部長三樹勝教授、二代部長馬越正通教授の後任を受け、1998年4月より第3代部長森山雄吉教授が着任した。消化器外科、消化器内科、内視鏡の各専門分野の充実が進み、臨床面だけでなく、臨床腫瘍学および消化器病学の研究にも力を入れている。

研究内容：1) 消化器癌の集学的治療、2) 腸閉塞の保存的・外科的治療、3) 再建法・吻合法の工夫、4) 上部消化管穿孔に対する大網移植術、5) 自己血輸血、6) 鏡視下手術の技術改良と適応拡大、7) 消化管・胆道・血管内へのステント留置、8) 大腸癌転移に関する免疫組織化学・分子生物学的研究、9) 肝移植の基礎的研究、10) ヘリコバクター・ピロリと上部消化管病変（胆汁逆流、微量元素との関連から）、11) 肝細胞癌大腸癌の発癌に関する基礎的研究、とくに癌抑制遺伝子（老人病研究施設との合同研究）、12) functional dyspepsiaの病態生理、13) 胆石胆汁の微量元素分析、14) 電子内視鏡画像処理と病理組織所見との検討、15) 胃癌の免疫組織化学、16) 血液浄化法（血漿交換療法、PMX）、である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Uchiyama K, Aida N¹⁾, Shibuya T, Tanaka S¹⁾ (1) Second Department of Surgery) : Early Carcinoma of the Gallbladder Accompanied by Hemobilia: Report of a Case. Surg. Today Jpn. J. Surg 1998; 28: 763-767.
- 2) Obara K, Imai S¹⁾, Uchiyama S¹⁾, Moriyama Y (1) Tokyu Hospital) : A case with subcapsular hematoma of the liver following laparoscopic cholecystectomy. J Nippon Med Sch 1998; 65 (6) : 32-34.
- 3) Naito E, Pausawasdi A¹⁾, Miki M²⁾, Tanaka M³⁾ (1) Department of Surgery, Faculty of Medicine, Siriraj Hospital Mahidol University, Bangkok, Thailand., 2) Shiroishi-central Hospital, 3) Laboratory of Chemistry, Nippon Medical School) : Comparative Studies on Iodine Levels in Gallstone and Bile of Japanese and Thailanders (Chiang mai and Bangkok). Journal of The Medical Association of Thailand 1999; 82.
- 4) 松田範子¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 森山雄吉, 徳永 昭¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 吉村成子²⁾ (1) 第1外科, 2) 吉村せいこクリニック) : 減圧症患者の傾向と罹患リスクの検討. 高気圧環境医学会誌 1997; 32 (4) : 259-265.
- 5) 角田誠之, 伊藤正秀, 福田達也, 櫻井四郎¹⁾, 湯川雅枝²⁾ (1) 大妻女子大学社会情報学部, 2) 国立放射線医学総合研究所環境衛生部) : 大腸粘膜内微量元素の検討—第3報—. 日本大腸検査学会誌 1998; 15 : 181-184.
- 6) 重田明子, 伊藤正秀, 平野文也, 吉野雅則, 角田誠之, 馬越正通, 小山譲治¹⁾ (1) 小山内科医院) : 直腸癌術後吻合部発癌との鑑別を要した大腸結核の1例. 日本大腸検査学会誌 1998; 15 : 169-172.
- 7) 塩谷 猛¹⁾, 渡辺秀裕²⁾, 澁谷哲男, 小熊将之, 内山喜一郎, 松本光司³⁾, 田中茂夫²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター—腹部外科, 2) 第2外科, 3) 第二病院病理部) : 痔瘻を契機として発見された肛門管顆粒細胞腫の1例. 日本大腸肛門病学会誌 1999; 52 : 150-155.
- 8) 堀口 実, 岩淵正之¹⁾, 川端啓介¹⁾ (1) 都立松沢病院外科) : 術前に胆管癌と診断された胆嚢扁平上皮癌の1切除例と本邦切除例28例の検討. 胆道 1999; 13 : 21-31.
- 9) 須田雍夫¹⁾, 桑原良夫²⁾, 塩谷 猛, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター—腹部外科, 2) 同 臨床

病理部)：早期胃癌における Thymidylate Synthase および Thymidine Phosphorylase の発現。癌と化学療法 1999；26：321-327.

(2) 綜説：

- 1) 森山雄吉，京野昭二¹⁾ (1) 千葉北総病院外科)：イレウス 診療手技マニュアル。臨床医 24 増刊号 1998；549-553.

著 書

- 1) 渡辺昌則，森山雄吉：〔分担〕イレウス管留置法 図解救急応急処置ガイド。内科総合誌 Medical Practice 臨時増刊号 (和田 攻編)，1998；pp358-363，文光堂。
- 2) 京野昭二¹⁾，森山雄吉，松倉則夫²⁾，山下精彦²⁾ (1) 千葉北総病院外科，²⁾ 第1外科)：〔共著〕血清ペプシノゲンIの異常高値を契機として発見された早期胃癌の1例。ペプシノゲン法 (三木一正編)，1998；pp43-48，医学書院。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 内山喜一郎：消化器外科領域における多科共同手術についての検討。第23回日本外科系連合学会学術集会，1998. 6.
- 2) 森山雄吉，恩田昌彦¹⁾，松田範子¹⁾，谷合信彦¹⁾，吉田 寛¹⁾，板倉則夫¹⁾，徳永 昭¹⁾，田尻 孝¹⁾，内山喜一郎，京野昭二²⁾ (1) 第1外科，²⁾ 千葉北総病院外科)：食道静脈瘤治療中あるいは肝切除後の肝機能増悪例に対する高気圧酸素療法。第33回日本高気圧環境医学会総会，1998. 11.

(2) 一般講演：

- 1) Tanaka Y¹⁾，Iwanami K¹⁾，Shioya T¹⁾，Hashiguchi Y¹⁾，Sakamoto H¹⁾，Uchida K¹⁾，Takeuchi O¹⁾，Sekine T¹⁾，Suda Y¹⁾ (1) Department of Surgery Saitama Cancer Center)：Surgical results for multiple superficial carcinomas of the esophagus. The 8th World Congress of The International Gastro-surgical Club (京都)，1998. 4.
- 2) Tsunoda S，Ito M，Fukuda T¹⁾，Sakurai S¹⁾，Yukawa M²⁾ (1) Department of Environmental Sciences，School of Social Information Studies，Otsuma Women's University，²⁾ National institute of Radiological Sciences)：Application of PIXE analysis to determination of trace elements in colonic tumor disease-The eighth report. 11th World Congress of Gastroenterology (Viena Austria)，1998. 9.
- 3) Yang W，Wang X，Wang J，Dong X，Zhang Q，Zhao J，Suyama H，Naitoh E，Shigeta S，Ito M，Uchiyama K，Moriyama Y：Genetic Expression Change in Rectal Carcinoma Treated with Preoperative Radiation. The 44th Annual Congress of the Japanese Section International College of Surgeons (福岡)，1998. 11.
- 4) 内藤英二，栗原雄司，小峰 修，内山喜一郎，渋谷哲男，森山雄吉，松本光司¹⁾ (1) 第二病院病理部)：痔瘻より発生したと思われた粘液嚢胞腺癌の1例。第4回日中大腸肛門病学会交流会 (福岡)，1998. 10.
- 5) 楊 為戒，伊藤正秀，須山出穂，角田誠之，小山雅章，田中賢助，重田明子，陸川秀智，堀口 実，吉森 勝，伊達治起，井上直己，豊島 明，森山雄吉：下血に対する大腸内視鏡検査のタイミング (第3報)。第4回日中大腸肛門病学会交流会 (福岡)，1998. 10.
- 6) 田中賢助，伊藤正秀，角田誠之，小山雅章，重田明子，須山出穂，陸川秀智，堀口 実，豊島 明，吉森 勝，伊達治起，井上直己，斎藤 勉，森山雄吉：出血性直腸炎難治例の内視鏡的臨床的経過の検討 (第3報)。第4回日中大腸肛門病学会交流会 (福岡)，1998. 10.
- 7) 駒崎敏昭，伊藤正秀，須山出穂，角田誠之，小山雅章，重田明子，田中賢助，陸川秀智，堀口 実，吉森 勝，

伊達治起, 井上直己, 齋藤 勉, 楊 為戈, 森山雄吉: 便潜血反応陽性を契機に発見された直腸 Schwannoma の1例. 第4回日中大腸肛門病学会(福岡), 1998. 10.

- 8) 橋口陽二郎¹⁾, 関根 毅¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 塩谷 猛, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 武内 脩¹⁾, 須田雍夫¹⁾, 黒住昌史²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, 2) 同 臨床病理部): 局在部位からみた直腸癌の臨床病理学的特徴と治療上の問題点. 第48回大腸癌研究会, 1998. 1.
- 9) 塩谷 猛, 田中洋一¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 橋口陽二郎¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 武内 脩¹⁾, 関根 毅¹⁾, 須田雍夫¹⁾, 椿本智子²⁾, 中島哲夫²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, 2) 同 放射線治療部): 縦隔リンパ節転移巣が食道内に穿破した肝癌の1例. 第249回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 5.
- 10) 増田康文¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 中村俊彦¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 立石淳一¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 上田征夫¹⁾, 原 文男¹⁾, 須山出穂, 角田誠之, 伊藤正秀 (1) 第二病院内科): 慢性腎不全に合併した胃前庭部毛細血管拡張症 (GAVE) に内視鏡の高周波凝固治療が有効であった1例. 第43回日本透析医学会学術集会, 1998. 5.
- 11) 小山雅章, 江見 充²⁾, 伊藤正秀¹⁾, 森山雄吉¹⁾ (1) 老人病研究所分子生物部門): 脾癌, 大腸癌の遺伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 5.
- 12) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通, 森山雄吉: 消化性潰瘍の背景胃粘膜と *Helicobacter Pylori*, 粘膜内 Zn 濃度, 逆流胆汁酸 TCDC との関連. 第4回日本ヘリコバクター学術集会, 1998. 6.
- 13) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 天神敏博, 塩谷 猛, 有田 淳, 江連 司, 平井恭二, 南部弘太郎, 小笠原英継, 大場英巳, 馬越正通: 食道類基底細胞癌の3症例. 第52回日本食道疾患研究会, 1998. 6.
- 14) 岩波弘太郎¹⁾, 田中洋一¹⁾, 塩谷 猛, 橋口陽二郎¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 竹内 脩¹⁾, 関根 毅¹⁾, 須田雍夫¹⁾, 藤樹敏雄²⁾, 砂倉端良³⁾, 西田 一典⁴⁾, 田久保海誉⁵⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, 2) 同 消化器科, 3) 同 放射線治療部, 4) 同 臨床病理部, 5) 東京都老人総合研究所臨床病理部門): 食道癌放射線治療後の食道狭窄を外科治療し組織学的に Grade3 と証明された1症例. 第52回日本食道疾患研究会, 1998. 6.
- 15) 田中洋一¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 塩谷 猛, 橋口陽二郎¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 竹内 脩¹⁾, 関根 毅¹⁾, 須田雍夫¹⁾, 西田一典²⁾, 田久保海誉³⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, 2) 同 臨床病理部, 3) 東京都老人総合研究所臨床病理部門): 食道癌術後肺転移治療後の長期生存例について. 第52回日本食道疾患研究会, 1998. 6.
- 16) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 尾形昌男, 大坂信太郎, 塩谷 猛, 岩村太郎, 中山弘道, 有田 淳, 亀谷肇, 南部弘太郎, 小原邦彦, 渡辺善正, 松本光司¹⁾, 馬越正通 (1) 第二病院病理部): 食道早期粘表皮癌の1例. 第52回日本消化器外科学会総会, 1998. 7.
- 17) 金田利彦¹⁾, 仁科 大¹⁾, 名取譲治¹⁾, 榊原重泰¹⁾, 内山喜一郎, 森山雄吉 (1) 海老名総合病院外科): 巨大嚢胞性肝症瘍の1症例. 神奈川県消化器病医学会総会, 1998. 8.
- 18) 内山喜一郎, 渋谷哲男, 原 一郎, 重光剛志, 栗原雄司, 的場康徳, 渡辺昌則, 小熊将之, 森山雄吉: Gemella morbillorum による肝膿瘍の1例. 第31回日本腹部救急医学会総会, 1998. 8.
- 19) 角田誠之, 伊藤正秀, 福田達也, 森山雄吉, 櫻井四郎¹⁾, 湯川雅枝²⁾ (1) 大妻女子大学社会情報学部, 2) 国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 大腸粘膜内微量元素の検討—第11報—金属薄膜法による PIXE 分析の応用. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 20) 重田明子, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 須山出穂, 陸川秀智, 堀口 実, 吉森 勝, 伊達治起, 井上直己, 齋藤 勉, 楊 為戈, 豊島 明, 福田達也, 河西 徹, 森山雄吉: 胃ポリペクトミー後癒痕部に著明な肉芽腫隆起を形成した1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 21) 須山出穂, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 重田明子, 陸川秀智, 堀口 実, 吉森 勝, 伊達治起, 井上直己, 豊島 明, 齋藤 勉, 福田達也, 河西 徹, 楊 為戈, 森山雄吉: 大腸内視鏡検査による出血源不明例の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 22) 小山雅章, 永井尚生¹⁾, 坂東功一¹⁾, 河村直樹¹⁾, 江見 充¹⁾, 伊藤正秀²⁾, 森山雄吉²⁾ (1) 老人病研究所分子生物学部門): 肝細胞癌における第16番染色体のヘテロ接合性の消失 (LOH) の解析. 第66回日本医科大学

学会総会, 1998. 9.

- 23) 永井信也¹⁾, 板垣真一¹⁾, 安室尚樹¹⁾, 伊藤正秀, 森山雄吉⁽¹⁾ 第二病院健康管理科): 職域の健康管理: 1. 大企業における労働者の健康状態について: 特に消化器疾患の最近の動向. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 24) 板垣真一¹⁾, 永井信也¹⁾, 安室尚樹¹⁾, 伊藤正秀, 森山雄吉⁽¹⁾ 第二病院健康管理科): 職域の健康管理: 2. 中規模工場労働者の血液生化学データの経年変化. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 25) 田中賢助, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 重田明子, 須山出穂, 陸川秀智, 堀口 実, 豊島 明, 吉森 勝, 伊達治起, 井上直己, 斎藤 勉, 森山雄吉: 出血性直腸炎難治例の経過 (第4報). 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 26) 楊 為戈, 伊藤正秀, 須山出穂, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 重田明子, 陸川秀智, 堀口 実, 吉森 勝, 伊達治起, 井上直己, 豊島 明, 河西 明, 福田達也, 斎藤 勉, 森山雄吉: 下血に対する大腸内視鏡検査のタイミング (第4報). 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 27) 角田誠之, 伊藤正秀, 櫻井四郎¹⁾, 湯川雅枝²⁾ ⁽¹⁾ 大妻女子大学社会情報学部, ²⁾ 国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 良性胃疾患の胃粘膜内微量元素の検討: 背景胃粘膜の病理組織学所見との対比. 第16回PIXEシンポジウム, 1998. 10.
- 28) 豊島 明, 遠藤 健, 高山尚久: 難治性痔瘻を合併した潰瘍性大腸炎の1切除例. 第53回日本大腸肛門病学会総会, 1998. 10.
- 29) 重田明子, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 須山出穂, 陸川秀智, 堀口 実, 吉森 勝, 伊達治起, 井上直己, 森山雄吉: 治療経過中に潰瘍性大腸炎 (UC) とクローン病の鑑別が問題になった3症例. 第4回日中大腸肛門病学会学术交流会, 1998. 10.
- 30) 渋谷哲男, 内山喜一郎, 小熊将之, 塩谷 猛, 平野文也, 内藤英二, 渡辺昌則, 的場康德, 坊 英樹, 森山雄吉: 化学療法が効を奏した直腸癌の1例. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 31) 田中賢助, 伊藤正秀, 小山雅章, 角田誠之, 須山出穂, 重田明子, 陸川秀智, 堀口 実, 吉森 勝, 井上直己, 伊達治起, 馬越正通: 当科における食道粘膜剥離の2例. 第66回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1998. 10.
- 32) 塩谷 猛^{1) 2)}, 須田雍夫, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 関根 毅¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 橋口陽二郎¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾ ⁽¹⁾ 埼玉県立がんセンター腹部外科, ²⁾ 第二病院消化器病センター): 胃癌を中心とした3重複癌の検討. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 33) 須田雍夫, 桑原良夫²⁾, 塩谷 猛, 岩波弘太郎¹⁾, 橋口陽二郎¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 関根毅¹⁾, 赤沢修吾³⁾ ⁽¹⁾ 埼玉県立がんセンター腹部外科, ²⁾ 同 臨床病理部, ³⁾ 同 消化器科): 早期胃癌におけるThymidylate Synthase (TS) とThymidine Phosphorylase (TP). 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 34) 岩波弘太郎¹⁾, 須田雍夫¹⁾, 内田健二¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 赤沢修吾²⁾, 橋口陽二郎¹⁾, 田中 洋一¹⁾, 塩谷 猛, 黒住昌史³⁾, 関根 毅¹⁾ ⁽¹⁾ 埼玉県立がんセンター腹部外科, ²⁾ 同 消化器科, ³⁾ 同 臨床病理部): 胃内分泌細胞癌の2例. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 35) 内田健二¹⁾, 須田雍夫¹⁾, 塩谷 猛, 岩波弘太郎¹⁾, 橋本陽二郎¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾, 関根 毅¹⁾ ⁽¹⁾ 埼玉県立がんセンター腹部外科): 深達度別に見た胃癌の予後因子の検討. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 36) 的場康德: Expanded Metallic Stentの回収と再留置に難治性胆管炎を合併した1例. 第36回日本癌治療学会総会, 1998. 10.
- 37) 角田誠之, 伊藤正秀, 福田達也, 森山雄吉, 櫻井四郎¹⁾, 湯川雅枝²⁾ ⁽¹⁾ 大妻女子大学社会情報学部, ²⁾ 国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 大腸粘膜内微量元素の検討—第9報—金属薄膜法によるPIXE分析の応用. 第56回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 11.
- 38) 豊島 明, 遠藤 健, 大和田晴彦, 高山尚久: イレウスにて発症した小腸子宮内膜症の1例. 第60回日本臨床

外科学会総会, 1998. 11.

- 39) 渋谷哲男, 内山喜一郎, 小熊将之, 塩谷 猛, 平野文也, 内藤英二, 渡辺昌則, 的場康徳, 坊 英樹, 森山雄吉: 吻合器による人工肛門の作製. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 40) 内藤英二, 伊藤正秀, 角田誠之, 渡辺昌則, 重田明子, 小峰 修, 田中賢助, 森山雄吉: 内視鏡的に回収し得ず小腸穿孔を合併した上部消化管異物の1例. 第56回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 11.
- 41) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 平野文也, 尾形昌男, 塩谷 猛, 亀谷 肇, 坊 英樹, 駒崎敏昭, 渡辺善正, 吉野雅則, 小峰 修, 広田 淳, 千原直人, 重光剛志, 森山雄吉: 直腸肛門管悪性黒色腫の1切除例. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 42) 内山喜一郎, 渋谷哲男, 小熊将之, 重光剛志, 栗原雄司, 的場康徳, 渡辺昌則, 森山雄吉: 下大静脈狭窄に対するステント治療の検討. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 43) 渡辺昌則, 栗原雄司, 内藤英二, 内山喜一郎, 伊藤正秀, 渋谷哲男, 馬越正通, 森山雄吉: T細胞性胃悪性リンパ腫の1例. 第60回日本臨床外科医学会総会, 1998. 11.
- 44) 塩谷 猛, 橋口陽二郎¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 小林純哉¹⁾, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 武内 修¹⁾, 関根 毅¹⁾, 須田雍夫¹⁾, 出雲俊之²⁾, 大倉康男²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, (2) 同 臨床病理部): 大腸イレウスを初発症状とした膵尾部癌の1例. 第16回埼玉県外科集談会, 1998. 11.
- 45) 松田範子¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 森山雄吉, 徳永 昭¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 吉村成子²⁾ (1) 第1外科, (2) 吉村せいこクリニック): 減圧症罹患と骨密度の関係. 第33回日本高気圧環境医学会総会, 1998. 11.
- 46) 小林純哉, 坂本裕彦¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 塩谷 猛^{1) 2)}, 橋口陽二郎¹⁾, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 武内 修¹⁾, 関根 毅¹⁾, 須田雍夫¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, (2) 第二病院消化器病センター): 巨大後腹膜脂肪肉腫の1切除例. 第16回埼玉県外科集談会, 1998. 11.
- 47) 的場康徳, 内山喜一郎, 伊藤正秀, 渋谷哲男, 森山雄吉: 十二指腸潰瘍穿孔術後の非減酸療法の検討. 第56回日本消化器内視鏡学会総会, 1998. 11.
- 48) 小山雅章, 伊藤正秀: 肝癌の検討. 平成10年度学術フロンティア推進事業「多因子性疾患の遺伝要因解明」プロジェクト研究者会議, 1998. 11.
- 49) 岩波弘太郎¹⁾, 須田雍夫¹⁾, 塩谷 猛, 橋口陽二郎¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 武内 修¹⁾, 関根 毅¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター): 噴門側胃切除後に発生した幽門側残胃癌の2例と本邦報告例の検討. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.
- 50) 角田誠之, 伊藤正秀, 森山雄吉, 櫻井四郎¹⁾, 湯川雅枝²⁾ (1) 大妻女子大学社会情報学部, (2) 国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 良性胃疾患の胃粘膜内微量元素の検討 (第2報). 第31回神奈川県消化器病医学会総会, 1998. 12.
- 51) 中村俊彦¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 東海林智子¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 寺田秀人¹⁾, 増田康文¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 原 文男¹⁾, 駒崎敏昭, 馬越正通 (1) 第二病院内科): 頻回の血漿交換療法により救命し得た劇症肝炎 (TypeB亜急性型) 1例. 第31回神奈川県消化器病医学会総会, 1998. 12.
- 52) 小林純哉¹⁾, 田中洋一¹⁾, 塩谷 猛, 橋口陽二郎¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 武内 修¹⁾, 関根 毅¹⁾, 須田雍夫¹⁾, 大倉康男²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, (2) 同 臨床病理部): EMR後にリンパ節転移の発見された長径5mmのm3食道癌症例. 第40回食道色素研究会, 1998. 12.
- 53) 橋口陽二郎¹⁾, 関根 毅¹⁾, 小林純哉¹⁾, 塩谷 猛, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 竹内 修¹⁾, 須田雍夫¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科): びまん浸潤型大腸癌 (4型) の臨床病理学的特徴. 第36回埼玉県医学会総会, 1999. 2.
- 54) 小林純哉¹⁾, 田中洋一¹⁾, 塩谷 猛, 橋口陽二郎¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 竹内 修¹⁾, 関根 毅¹⁾, 須田雍夫¹⁾, 大倉康男²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, (2) 同 臨床病理部): 食道癌術後肺転移再発症例の検討. 第36回埼玉県医学会総会, 1999. 2.

- 55) 橋口陽二郎¹⁾, 関根 毅¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 小林純哉¹⁾, 塩谷 猛, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 武内 脩¹⁾, 須田 雍夫¹⁾, 大倉康男²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, (2) 同 臨床病理部): 直腸癌局所再発に対する術中照射の効果と適応. 第53回日本消化器外科学会総会, 1999. 2.
- 56) 塩谷 猛, 橋口陽二郎¹⁾, 関根 毅¹⁾, 小林純哉¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 武内 脩¹⁾, 須田 雍夫¹⁾, 出雲俊之²⁾, 大倉康男²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, (2) 同 臨床病理部): 胃悪性リンパ腫, 日本住血吸虫症を合併した直腸カルチノイドの1例. 第772回外科集談会, 1999. 3.
- 57) 橋口陽二郎¹⁾, 関根 毅¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 小林純哉¹⁾, 塩谷 猛, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 武内 脩¹⁾, 須田 雍夫¹⁾, 黒住昌史²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, (2) 同 臨床病理部): 直腸癌局所再発に対する術前照射の意義: とくに術中照射との関連において. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 58) 駒崎敏昭, 菊池真理¹⁾, 的場康徳, 内山喜一郎, 原 一郎, 渋谷哲男, 山本博人¹⁾, 渡部英之¹⁾, 佐藤雅史¹⁾, 森山雄吉 (1) 第二病院放射線科): 悪性胆道閉塞に対する Expandable Metallic Stent の適応と限界. 第60回日本臨床外科学会総会, 1998. 11.

[第二病院リハビリテーションセンター]

研究概要

リハビリテーション科では脳外科, 神経内科, 整形外科, 小児科など臨床の各科の患者の治療にあたり, 患者層は多彩であるとともに, スタッフも医師をはじめ理学療法士, 作業療法士, 言語療法士, ソシアルワーカー, 看護婦といわゆるコメディカルとのチーム医療が実践されている。研究面にもこのことが反映され, 各スタッフがそれぞれ関心ある領域の研究が行われている。

リハ医学の基礎的な分野では主として随意運動の電気生理学的研究が引き続き行われ, またリハビリテーションの科学的・理論的整理を行っている。

理学療法・作業療法分野では高次脳機能障害の臨床的研究および退院後の自立性維持のための家屋環境につき追跡調査を続けながら, その問題点などの検討を行っている。言語療法関係では言語の「意味」をめぐる様々な障害について引き続き臨床的な研究を行っている。ソシアルワーカー分野では障害者の職場復帰など社会的援助について検討を行っている。

研究業績

論文

(1) 綜説:

- 1) Kurusu K: Long-loop reflexes in hand muscles as compared to those in foot muscles in normal subjects: Recent Advances in Human Neurophysiology. Elsevier Science B.V 1998; 926-928.
- 2) 竹内孝仁: II 老人 褥瘡処置 リハビリ 在宅医療. 臨床研修イラストレイテッド1基本手技 (一般処置) 1998; 135-141.
- 3) 竹内孝仁: ケアマネジャーに求められる役割・資質とは. ばんぼう 1998; 120-122.
- 4) 竹内孝仁: 地域リハビリテーション方法論. 介護支援専門員 標準テキスト 1998; 2: 90-98.
- 5) 竹内孝仁: 「知る」の周辺. 精神看護 1998; 1 (3): 78-79.
- 6) 竹内孝仁: 1. 保健・医療・福祉における訪問活動の動向. 作業療法ジャーナル 1998; 32 (5): 338-342.
- 7) 竹内孝仁: 福祉施設におけるサービス評価. 経営協 (全社協) 1998; 170 (5): 5-8.
- 8) 竹内孝仁: 介護保険はコミュニティーケアなくして成り立たない. 総合ケア 1998; 8 (6): 70-72.
- 9) 竹内孝仁: 言葉なき社会の悲劇. 精神看護 1998; 1 (4): 92-93.
- 10) 竹内孝仁: 栄養士か「食生活士」か. 医療' 98 1998; 14 (9): 54-55.

- 11) 竹内孝仁：介護支援専門員（ケアマネジャー）. *Clinical Rehabilitation* 1998；7（9）：941-941.
- 12) 竹内孝仁：ケアマネジャーに求められる役割とは. *あさひView* 1998；6（6）：9-10.
- 13) 竹内孝仁：竹内孝仁：施設介護の実践とその評価（長嶋紀一他編） 第IV章3 アクティビティ・プログラム. *ワールドプランニング* 1998；160-167.
- 14) 竹内孝仁：あなたはファッションナブルですか. *精神看護* 1998；1（5）：86-87.
- 15) 竹内孝仁：行政が利用者側に立ちサービスの「質」を徹底管理. *ばんふう* 1998；9：38-40.
- 16) 竹内孝仁：ソーシャルワークの歴史のないところにケアマネジャーを輸入した日本の不幸. *老人保健福祉ジャーナル* 1998；9（5）：8-10.
- 17) 竹内孝仁：介護保険事業計画策定の基本的視点. *総合ケア* 1998；8（10）：67-76.
- 18) 竹内孝仁：痴呆性老人とグループホーム—グループホームがめざすもの、そしてその普及に向けて. *総合ケア* 1998；8（10）：14-25.
- 19) 竹内孝仁：要介護認定をよみとく：今年の認定はこう変わる 二次判定の「あいまいさ」どう克服するかが課題. *老人保健福祉ジャーナル* 1998；9（6）：10-13.
- 20) 竹内孝仁：寝たきりはなぜ起こる：その予防は可能か. *CLINICIAN* 1998；45（475）：8-30.
- 21) 竹内孝仁：寝たきりの定義. *CLINICIAN* 1998；45（475）：31-34.
- 22) 竹内孝仁：ウソの文化. *精神看護* 1998；1（6）：72-73.
- 23) 竹内孝仁：地域リハビリテーション：ケアマネジメントと老人保健施設. *老健* 1998；9（4）：18-23.
- 24) 竹内孝仁：施設介護の実践とその評価：第IV章 施設介護の実践とその評価 3. アクティビティ・プログラム 6) 社会的リハビリテーション. *ワールドプランニング* 1998；160-169.
- 25) 竹内孝仁：サービスの質をめぐる：イギリスのケアマネジメントとサービスの質の保証から学ぶ. *総合ケア* 1998；8（12）：26-37.
- 26) 竹内孝仁：ケアマネジャーのための事例研究1：ニーズをとらえ職種間の連携、在宅生活が広がる. *月刊ケアマネジメント* 1998；8（88）：30-33.
- 27) 竹内孝仁：家族のニーズ分析し退所計画に反映 地域密着とデイケア機能で在宅支援. *ばんふう* 1998；12：114-115.
- 28) 竹内孝仁：癒しの人間学 治しと癒し①. *看護学雑誌* 1998；63（1）：76-80.
- 29) 竹内孝仁：外傷性頸部症候群診療の現状と問題点：レセプト調査を中心に. *Orthopaedics* 1998；12（1）：9-13.
- 30) 竹内孝仁：「8つのニーズ把握」から「ケアの中身」へケアパッケージの贅肉削ぎ落とすケーススタディ. *月刊ケアマネジメント* 1999；10（1）：12-15.
- 31) 竹内孝仁：アセスメント、フォローアップの失敗は在宅生活の危機に. *月刊ケアマネジメント* 1999；10（1）：28-31.
- 32) 竹内孝仁：高齢社会ビッグバン：介護保険と医療・保健・介護（福祉）のシステムの構築を目指して. *総合ケア* 1999；9（1）：22-39.
- 33) 竹内孝仁：癒しの人間学② 人はなぜ「病氣」になるのか. *看護学雑誌* 1999；63（2）：176-180.
- 34) 竹内孝仁：医療展望 介護保険と市民参加. *月刊新医療* 1999；2：19-19.
- 35) 竹内孝仁：リハビリ幻想に答えられるか. *作業療法ジャーナル* 1999；33（2）：91-91.
- 36) 竹内孝仁：高齢社会ビッグバン②：どうする対人援助職の人材確保. *総合ケア* 1999；9（2）：22-41.
- 37) 竹内孝仁：癒しの人間学③ 癒しの時間論. *看護学雑誌* 1999；63（3）：270-275.
- 38) 竹内孝仁：ケアマネジメントの視点から. *日本心療内科学会誌* 1999；3（1）：85-88.
- 39) 竹内孝仁：癒しの人間学④ 癒しの空間論. *看護学雑誌* 1999；63（4）：380-384.
- 40) 竹内孝仁：臨床研修イラストレイテッド 奈良信雄共著. 羊土社 1999；149-152.

(2) 研究報告書：

- 1) 竹内孝仁：特別養護老人ホーム 老人保健施設 サービス評価事業報告書（平成9年度）. 東京都高齢者施策推進室 1998.
- 2) 竹内孝仁：東京都区西南部保健医療圏 地域保健医療計画. 東京都 1998.
- 3) 竹内孝仁：平成10年度住宅改造・福祉機器相談体制整備検討委員会報告書. 神奈川県 受託機関 鶴巻温泉病院 1999.
- 4) 竹内孝仁：市民活動モデル調査報告書：世田谷区における市民活動のネットワーク形成に関する調査. 世田谷区 1999.

著 書

- 1) 竹内孝仁：〔自著〕介護基礎学. 介護基礎学, 1998；医歯薬出版.
- 2) 竹内孝仁：〔自著〕地域リハビリテーション白書2. 1998；三輪書店.
- 3) 竹内孝仁：〔自著〕脳卒中のリハビリテーション看護：急性期から退院指導，ケアマネージメントまで. 脳卒中のリハビリテーション看護—急性期から退院指導，ケアマネージメントまで, 1999；メディカ出版.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 来栖宏二：長ループ反射の上肢と下肢の相違. 日本リハビリテーション医学会, 1998. 5.
- 2) 井上直子, 木村義徳, 宮田光明, 榎本雪絵, 北村純一, 来栖宏二, 竹内孝仁：条件別立ち上がり動作における酸素摂取量の比較検討. 第33回日本理学療法学会, 1998. 5.
- 3) 三松ゆかり：神奈川県内大学病院における転院援助困難ケースの要因分析：ソーシャルアクションにむけて. 第18回日本社会事業学会, 1998. 5.
- 4) 熊耳さやか, 望月秀樹, 富田義昭, 榎本雪絵, 新貝尚子, 竹内孝仁, 長田優香：リステリア性髄膜炎により重度の脳障害を呈した症例に対する作業療法の経験. 第46回神奈川リハビリテーション研究会, 1999. 3.

[第二病院健康管理科]

研究概要

健康管理科では、人間ドック受診者を対象とした生活習慣病の診断と予防について、また老人健康診査の受診者を対象とした現代老人の健康度と生活習慣との関連について2つの大きな主題として研究をすすめている。

前者の研究テーマに関しては、人間ドック受診者で、腹部超音波検査において脂肪肝と診断された症例の身体計測上の肥満度、および生体インピーダンス法による体脂肪率について検討した。その結果より、脂肪肝の診断および体脂肪率・BMI測定が生活習慣病の指導に役立つことを発表した。また、人間ドックにおいて、丁寧な面接事後指導が生活習慣病の予防に有効であることを報告した。

老人健康診査受診者を対象とした研究では、見かけ上の肥満はないが体脂肪率の高い“隠れ肥満”に、高血圧・高脂血症などの生活習慣病の合併が高率であることを報告した。また、血中BNP（B型ナトリウムペプチド）の測定結果から老年者には自覚症状の乏しい潜在性の心不全が高率に存在すること、および血中BNPの測定がこの診断に有効であることを発表した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 永井信也, 安室尚樹, 鈴木達也¹⁾, 笹井恵子¹⁾, 中野博司¹⁾, 大庭建三¹⁾, 妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：老年健康診査における隠れ肥満の検出と生活習慣病について。川崎医師会医会誌 1998；15：25-28.
- 2) 永井信也, 安室尚樹, 鈴木達也¹⁾, 笹井恵子¹⁾, 中野博司¹⁾, 大庭建三¹⁾, 妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：人間ドックの事後指導の評価：生活習慣病について。健康医学 1998；13 (3)：260-263.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 岡崎恭次¹⁾, 松浦良樹¹⁾, 鯉淵 仁¹⁾, 松村典昭¹⁾, 矢野 誠¹⁾, 安室尚樹, 鈴木達也¹⁾, 中野 博司¹⁾, 大庭建三¹⁾, 妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：グリベンクラミドの至適投与法に関する検討：朝1回投与と朝夕割投与の血糖日内変動による検討。第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 2) 松浦良樹¹⁾, 大庭建三¹⁾, 岡崎恭次¹⁾, 猪狩吉雅¹⁾, 佐藤周三¹⁾, 永井信也, 鈴木達也¹⁾, 笹井恵子¹⁾, 中野博司¹⁾, 妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：グリベンクラミドの投与量と血糖コントロール：血糖日内変動からの検討。第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 3) 永井信也, 安室尚樹, 中野博司¹⁾, 大庭建三¹⁾, 妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：老年者の潜在性心不全の診断：老人健康診査における血中BNP測定の有用性について。第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 4) 永井信也, 安室尚樹, 鈴木達也¹⁾, 笹井恵子¹⁾, 中野博司¹⁾, 大庭建三¹⁾, 妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：人間ドックで診断された脂肪肝症例の肥満度と体脂肪率について。第39回日本人間ドック学会, 1998. 8.
- 5) 永井信也, 板垣真一, 安室尚樹, 伊藤正秀¹⁾, 森山雄吉¹⁾ (1) 第二病院消化器病センター)：職域の健康管理：(1) 大企業における労働者の健康状態について：特に消化器疾患の最近の動向。第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 6) 板垣真一, 永井信也, 安室尚樹, 伊藤正秀¹⁾, 森山雄吉¹⁾ (1) 第二病院消化器病センター)：職域の健康管理：(2) 中規模工場労働者の血液生化学データの経年変化。第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.

[第二病院病理部]

研究概要

これまでと同様に、外科病理症例の積み重ねによるケース・スタディや診断の難解な症例の免疫組織学的および電子顕微鏡的な検索と言った病院病理学業務に沿った研究が主体である。また、一昨年より導入したパソコンによる診断のデータベース化により、細胞診および組織診の診断精度の向上を図っているが、各臓器別あるいは疾患別のデータ抽出が容易となったため、今後疾患の統計学的な解析を行っていく予定である。スタッフ（医師2名、技師5名）の少ない当病理部としては、各分野への細分化された研究を充分に行うことは出来ないが、それぞれの得意分野から徐々に研究を進展させてゆきたいと考えている。また、昨年の年報でも述べたが、平成5年より続けている臓器移植の際の保存再灌流障害（肺、肝臓、小腸、心臓）に関する群馬大学との共同研究は、この1年の間に国内外で高い評価を得たが、さらに課題を進展させ継続中である。また、平成7年より慶応大学医学部で行われている生体肝移植症例の臨床病理学的検討に関する共同研究も継続中であるが、症例を積み重ねることにより、さらに詳細な検討を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kobayashi J¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Iwanami K¹⁾, Matsumoto K, Muramoto M²⁾, Morishita Y¹⁾
(¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室, ²⁾ 藤沢薬品) : The effect of FR167653 in extended liver resection with ischemia in dogs. *HEPATOLOGY* 1998 ; 28 (2) : 459-465.
- 2) Iwanami K¹⁾, Takeyoshi T¹⁾, Ohwada S¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Kawata K¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾
(¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Intramucosal pH and intestinal mucosal damage in ischemia-reperfusion injury. *Transpl Int* 1998 ; 11 (6) : 401-407.
- 3) Otani Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Yokoe T¹⁾, Iino Y¹⁾, Matsumoto K, Muramoto M²⁾, Satoh S²⁾, Morishita Y¹⁾
(¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室, ²⁾ 藤沢薬品) : Effects of FR167653 on pulmonary ischemia-reperfusion injury in rats: A preliminary study. *Transplant proc* 1998 ; 30 (7) : 3368-3369.
- 4) Iwanami K¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Ogawa T¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Kawata K¹⁾, Aiba M¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Comparative study of intramucosal pH in histologic damage from small-bowel ischemia-reperfusion injury. *Transplant Proc* 1998 ; 30 (7) : 3467-3468.
- 5) Koyano T¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Satoh Y¹⁾, Ishikawa S¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Effect of FR167653 on ischemia-reperfusion injury of the canine heart : Ultrastructural study. *Transplant Proc* 1998 ; 30 (7) : 3370-3371.
- 6) Iwanami K¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Ogawa T¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Kawata K¹⁾, Iino Y¹⁾, Yokoe T¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Effect of Lazaroid U-74389G on prolonged hepatic ischemia-reperfusion injury. *Transplant Proc* 1998 ; 30 (7) : 3703-3704.
- 7) Kobayashi J¹⁾, Ohwada S¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohya T¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Kamoshita N¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Normothermic perfusion using diluted ameliorates ischemia-reperfusion injury on the canine liver. *Transplant Proc* 1998 ; 30 (7) : 3761-3762.
- 8) Takeyoshi I¹⁾, Iwanami K¹⁾, Ohwada S¹⁾, Takahashi T¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Kamoshita N¹⁾, Ohya T¹⁾, Ogawa T¹⁾, Yokoe T¹⁾, Iino Y¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Effect of Lazaroid U-74389G on lung ischemia-reperfusion injury. *Transplant Proc* 1998 ; 30 (7) : 3364-3365.
- 9) Takeyoshi I¹⁾, Kamoshita N¹⁾, Ohwada S¹⁾, Takahashi T¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Iwanami K¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Ogawa T¹⁾, Iino Y¹⁾, Yokoe T¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : FR167653 ameliorates pulmonary ischemia-reperfusion injury in dogs. *Transplant Proc* 1998 ; 30 (7) : 3342-3343.
- 10) Takahashi T¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Koyano T¹⁾, Yamagishi T¹⁾, Ohshima K¹⁾, Ishikawa S¹⁾, Ohtaki A¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Lazaroid U-74389G ameliorates ischemia-reperfusion injury in canine hearts : A histologic study. *Transplant Proc* 1998 ; 30 (7) : 3334-3336.
- 11) Koyano T¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Takahashi T¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Ishikawa S¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Effect of FR167653 on ischemia-reperfusion injury : Evaluation through preservation and transplantation in canine hearts. *J Heart Lung Transplant* 1998 ; 17 : 1247-1254.
- 12) Aiba M¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Sunose Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Tsutsu-

- mi H¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : The effects of FK409, a novel nitric oxide donor, on extended liver resection with ischemia in dogs. *Gastroenterol* 1998 ; 114 : A1200-1201.
- 13) Takahashi T¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Koyano T¹⁾, Ymagishi T¹⁾, Ohshima K¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Cardioprotective effects of Lazaroid U-74389G on ischemia-reperfusion injury in canine hearts. *J Heart Lung Transplant* 1999 ; 18 : 285-291.
- 14) Kurosaki S¹⁾, Otsuka H¹⁾, Kunitomo M¹⁾, Koyama M¹⁾, Pawankar R¹⁾, Matsumoto K (¹⁾ 耳鼻咽喉科学教室) : Fibrin allergy : IgE mediated hypersensitivity to silk suture materials. *J Nippon Med Sch* 1999 ; 66 (1) : 41-44.
- 15) Otani Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Koibuchi Y¹⁾, Yokoe T¹⁾, Inoue Y¹⁾, Matsumoto K, Satoh S²⁾, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室, ²⁾ 藤沢薬品) : FR167653 ameliorates pulmonary ischemia-reperfusion injury. *Transplan Proc* 1999 ; 31 (2) : 1010-1011.
- 16) 小林純哉¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 川島吉之¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : 血行遮断を伴うイヌの拡大肝切除におけるIL-1b・TNFaの産生阻害剤FR167653の有用性. *日消外会誌* 1998 ; 31 (4) : 1049.
- 17) 小林純哉¹⁾, 大和田進¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大矢敏裕¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 川島吉之¹⁾, 餐場正明¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : 灌流下肝切除術 : 低温及び常温血液灌流の比較. *日本低体温研究会誌* 1998 ; 18 : 17-24.
- 18) 竹吉 泉¹⁾, 鴨下憲和¹⁾, 松本光司, 村元正和²⁾, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室, ²⁾ 藤沢薬品) : 肺の虚血再灌流障害に対するFR167653の有用性. *今日の移植* 1998 ; 11 (2) : 245-247.
- 19) 竹吉 泉¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 大和田進¹⁾, 川島吉之¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 鴨下憲和¹⁾, 飯野佑一¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : 肺の虚血再灌流障害に対するLazaroid U-74389Gの効果. *日外会誌* 1998 ; 99 (5) : 334.
- 20) 岩波弘太郎¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 小川哲史¹⁾, 川島吉之¹⁾, 小林純哉¹⁾, 川田 清¹⁾, 飯野佑一¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : 血行遮断を伴う拡大肝切除におけるLazaroid U-74389Gの効果. *日外会誌* 1998 ; 99 (6) : 399.
- 21) 梶原景子¹⁾, 佐藤雅史¹⁾, 山本 彰¹⁾, 久吉隆郎²⁾, 松本光司 (¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 同外科) : 肺腺癌の肺胞進展におけるCT値と病理含気率に関する検討. *日本医放会誌* 1998 ; 58 (6) : 42-44.
- 22) 岩波弘太郎¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 小川哲史¹⁾, 小林純哉¹⁾, 川田 清¹⁾, 長谷川豊¹⁾, 飯野佑一¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : イヌ小腸の虚血再灌流障害時における腸管粘膜pHと粘膜の病理組織学的障害との関係について. *日消外会誌* 1998 ; 30 (7) : 1824.
- 23) 塩谷 猛¹⁾, 渡辺秀裕²⁾, 渋谷哲男¹⁾, 内山喜一郎¹⁾, 松本光司, 田中茂夫²⁾ (¹⁾ 第二病院消化器センター, ²⁾ 同外科) : 痔瘻を契機として発見された肛門管顆粒細胞腫の1例. *日大腸肛門会誌* 1999 ; 52 (2) : 150-155.
- (2) 綜説 :
- 1) 大塚俊司, 鈴木慶治¹⁾, 川津邦雄²⁾ (¹⁾ 国立療養所多磨全生園研究検査科, ²⁾ 国立感染症研究所ハンセン病研究センター) : ファイト法 : 日常染色ガイドンス (組織内病原体の染色法・抗酸菌染色法). *検査と技術* 1999 ; 27 : 61-64.

著 書

- 1) 上田善彦¹⁾, 藤森孝弘¹⁾, 平林かおる¹⁾, 松本光司, 岡 一雄²⁾, 飯高和成¹⁾, 松岡博昭²⁾, 加藤健一³⁾, 安藤保³⁾ (¹⁾ 獨協医科大学第二病理学教室, ²⁾ 同循環器内科, ³⁾ 同小児科学第一) : [分担] 腎移植. *臨床医のための生検診断* (上田善彦, 藤森孝博, 飯高和成), 1998 ; pp83-87, 新興医学出版.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Takeyoshi I¹⁾, Otani Y¹⁾, Koibuchi Y¹⁾, Yokoe I¹⁾, Inoue Y¹⁾, Matsumoto K, Muramoto M²⁾, Satoh S²⁾, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室, ²⁾ 藤沢薬品) : The effect of FR167653 on pulmonary ischemia-reperfusion injury : Optimal dose and administration timing. 第34回日本移植学会総会, 1998. 11.

(2) 一般講演：

- 1) Takahashi T¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Koyano T¹⁾, Yamagishi T¹⁾, Oshima K¹⁾, Ishikawa S¹⁾, Ohtaki A¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : The effect of Lazaroid U-74389G on cardiac ischemia-reperfusion injury in dogs. The 18th Annual Meeting and Scientific Sessions of International Society for Heart and Lung Transplantation (Chicago), 1998. 4.
- 2) Mohara J¹⁾, Takahashi T¹⁾, Oshima K¹⁾, Aiba M¹⁾, Yamagishi T¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ishikawa S¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : The effect of Celsior solution on 12-hour cardiac preservation. The 18th Annual Meeting and Scientific Sessions of International Society for Heart and Lung Transplantation (Chicago), 1998. 4.
- 3) Ohshima K¹⁾, Morishita Y¹⁾, Yamagishi T¹⁾, Mohara J¹⁾, Takahashi T¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Ishikawa S¹⁾, Matsumoto K (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Long-term heart preservation using a new portable hypothermic perfusion apparatus : A preliminary study. The 18th Annual Meeting and Scientific Sessions of International Society for Heart and Lung Transplantation (Chicago), 1998. 4.
- 4) Otani Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Koibuchi Y¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Effects of FR167653 on pulmonary ischemia-reperfusion injury in rats : A study of optimal dose. The 18th Annual Meeting and Scientific Sessions of International Society for Heart and Lung Transplantation (Chicago), 1998. 4.
- 5) Takeyoshi I¹⁾, Iwanami K¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Kawada K¹⁾, Aiba M¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Ohya T¹⁾, Kawashima K¹⁾, Yamada T¹⁾, Kawate S¹⁾, Nakasone Y¹⁾, Arai K¹⁾, Ogawa T¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾, Ohwada S, Iino Y (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : The effects of FR167653 on small bowel ischemia-reperfusion injury in dogs. Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (AGA) and American Association for the study of Liver Diseases (AASLD) at Digestive Disease Week (DDW) (New Orleans), 1998. 6.
- 6) Takeyoshi I¹⁾, Iwanami K¹⁾, Kamoshita N¹⁾, Takahashi T¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Ohya T¹⁾, Ogawa T¹⁾, Ohwada S¹⁾, Iino Y¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : The effect of Lazaroid U-74389G on lung ischemia-reperfusion injury. Int Heart and Lung Transplantation (Chicago), 1998. 6.
- 7) Aiba M¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Sunosew Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : The effects of FK409, a novel nitric oxide donor, on extended liver resection with ischemia in dogs. Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (AGA) and American Association for the study of Liver Diseases (AASLD) at Digestive Disease Week (DDW) (New Orleans), 1998. 6.
- 8) Ohshima K¹⁾, Morishita Y¹⁾, Yamagishi T¹⁾, Mohara J¹⁾, Takahashi T¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Ishikawa S¹⁾, Matsumoto K (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Long-term heart preservation using a new portable hypothermic perfusion apparatus. The 17th World Congress of The Transplantation Society (Montreal), 1998. 7.
- 9) Otani Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Koibuchi Y¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部第二外科学教室) : Effects of FR167653 on pulmonary ischemia-reperfusion injury. The 17th World Congress of The

Transplantation Society (Montreal), 1998. 7.

- 10) Mohara J¹⁾, Takahashi T¹⁾, Ohshima K¹⁾, Yamagishi T¹⁾, Koyano T¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ishikawa S¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : A comparative study of the Celsior and the University of Wisconsin solution based upon 12-hr preservation followed by transplantation in canine models. The 19th annual meeting and scientific sessions of the international society of heart and lung transplantation (San Francisco), 1999. 2.
- 11) 松本光司, 温 敏¹⁾, 山田宣孝²⁾, 浅野伍朗²⁾, 松本俊治³⁾ (1) 付属病院病理部, 2) 病理学第2, 3) 順天堂大学第一病理学教室) : Ossifying fibromyxoid tumor of soft part 4例の検討. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 12) 渡邊善正, 松本光司, 新井 悟¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 病理学第2) : 側頸嚢胞内の異所性甲状腺原発と考えられた乳頭癌の1例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 13) 松島 隆¹⁾, 塚田克也¹⁾, 松本光司 (1) 第二病院産婦人科) : 腫原発amelanotic malignant melanomaの1例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 14) 岩波弘太郎¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 小林純哉¹⁾, 齋場正明¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 血行遮断を伴う拡大肝切除におけるLazaroid U-74389Gの効果. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 15) 須納瀬豊¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 小林純哉¹⁾, 齋場正明¹⁾, 川島吉之¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 山田達也¹⁾, 堤裕史¹⁾, 川田 清¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 血行遮断を伴う拡大肝切除術におけるFR167653の効果および投与時間の検討. 第98回日本外科学会総会, 1998. 4.
- 16) 茂原 淳¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 大嶋清宏¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 齋場正明¹⁾, 山岸敏治¹⁾, 石川 進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : Celsior液の心保護効果: 12時間浸漬保存を通しての評価. 第5回日本臓器保存生物医学学会総会, 1998. 5.
- 17) 太田吉男, 大庭孝男, 斉藤良明, 大塚俊司, 新井 悟¹⁾, 松本光司, 平田知己²⁾, 佐藤春明³⁾, 相田昌子³⁾, 枝川聖子⁴⁾, 清水 一⁴⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 第二病院外科, 3) 付属病院病理部, 4) 老人病研究所) : 胸壁より発生した骨外性骨肉腫の1例. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
- 18) 斉藤良明, 太田吉男, 大庭孝男, 大塚俊司, 松本光司, 新井 悟¹⁾, 松島 隆²⁾, 塚田克也²⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 第二病院産婦人科) : 腫原発amelanotic melanomaの1例. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
- 19) 山下康夫¹⁾, 日置正文¹⁾, 久吉隆郎¹⁾, 家所良夫¹⁾, 増田 栄¹⁾, 平田知己¹⁾, 平野滋之¹⁾, 織井恒安¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 川村 純¹⁾, 三嶋拓也¹⁾, 松本光司, 田中茂夫²⁾ (1) 第二病院外科, 2) 外科第2) : 原発巣がspontaneous regressionした胸壁悪性黒色腫の1例. 第769回外科集談会, 1998. 6.
- 20) 篠田昌宏¹⁾, 島津元秀¹⁾, 若林 剛¹⁾, 田辺 稔¹⁾, 星野 健¹⁾, 加藤悠太郎¹⁾, 原田裕久¹⁾, 横山穰太郎¹⁾, 倉持 茂²⁾, 松本光司, 北島政樹¹⁾ (1) 慶応大学医学部外科学教室, 2) 同病理診断部) : 移植肝生検における小葉中心領域病変の臨床的意義の検討. 第16回肝移植研究会, 1998. 7.
- 21) 齋場正明¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 川島吉之¹⁾, 小林純哉¹⁾, 岩波 弘太郎¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 山田達也¹⁾, 堤裕史¹⁾, 川田 清¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 肝温阻血再灌流障害に対するFK409 (NO donor) の有用性. 第16回肝移植研究会, 1998. 7.
- 22) 齋場正明¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 川島吉之¹⁾, 小林純哉¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 山田達也¹⁾, 堤裕史¹⁾, 川田 清¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 血行遮断を伴う拡大肝切除におけるFK409 (NO donor) の有用性: 肝血行動態を中心に. 血行遮断を伴う拡大肝切除におけるFK409 (NO donor) の有用性: 肝血行動態を中心に, 1998. 7.
- 23) 大塚俊司, 太田吉男, 大庭孝男, 斉藤良明, 長澤由英, 松本光司: 悪性腫瘍におけるTNF α , interleukin-6の発現性について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 24) 山田宣孝¹⁾, 相田成隆¹⁾, 矢島幹久²⁾, 浅野伍朗¹⁾, 温 敏³⁾, 佐藤春明³⁾, 村瀬幸宏³⁾, 大塚俊司, 松本光

- 司, 早澤久美⁴⁾, 森 修⁴⁾ (1) 病理学第2教室, ²⁾ 多磨全生園, ³⁾ 付属病院病理部, ⁴⁾ 千葉北総病院病理部) : 日本医大第一病院病理部総括 : 8年間のデータ集積. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 25) 大嶋清宏¹⁾, 森下靖雄¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 山岸敏治¹⁾, 茂原 淳¹⁾, 石川 進¹⁾, 大滝章男¹⁾, 松本光司 (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 新しい冠灌流装置を用いた長時間心保存の実験的研究. 第51回日本胸部外科学会総会, 1998. 10.
- 26) 長澤由英, 太田吉男, 大庭孝男, 斉藤良明, 大塚俊司, 松本光司, 菊池真理¹⁾, 佐藤雅史¹⁾ (1) 第二病院放射線科) : 喀痰細胞診にて異型細胞の認められた肺梗塞の1例. 第37回日本臨床細胞学会秋季大会学術集会, 1998. 11.
- 27) 枝川聖子¹⁾, 清水 一¹⁾, 渡会泰彦²⁾, 片山博徳³⁾, 太田吉男, 小黒辰夫⁴⁾, 杉崎裕一²⁾, 松本光司, 前田昭太郎³⁾, 大秋美治⁴⁾, 川並汪一¹⁾ (1) 老人病研究所, ²⁾ 付属病院病理部, ³⁾ 多摩永山病院病理部, ⁴⁾ 千葉北総病院病理部) : 気管支肺胞洗浄法によるサルコイドーシスの分析. 第37回日本臨床細胞学会秋季大会学術集会, 1998. 11.
- 28) 棚橋美文¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 饗場正明¹⁾, 川島吉之¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 富沢直樹¹⁾, 鴨下憲和¹⁾, 松本光司, 大和田進¹⁾, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 肺温阻血再灌流障害に対するNOドナーFK409の有用性. 第34回日本移植学会総会, 1998. 11.
- 29) 饗場正明¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 川島吉之¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 山田達也¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 川田 清¹⁾, 小林純哉¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 肝温阻血再灌流障害に対するFK409 (NO donor) の有用性. 第34回日本移植学会総会, 1998. 12.
- 30) 川島吉之¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 饗場正明¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 小林純哉¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 山田達也¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 川田清¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 肝阻血再灌流障害に対するサイトカイン産生抑制剤FR167653の効果. 第34回日本移植学会総会, 1998. 12.
- 31) 茂原 淳¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 大嶋清宏¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 山岸敏治¹⁾, 小谷野哲也¹⁾, 石川 進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : Celsior液の心保護効果 : 12時間浸漬保存後の同所性心移植を通しての評価. 第34回日本移植学会総会, 1998. 12.
- 32) 大嶋清宏¹⁾, 森下靖雄¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 山岸敏治¹⁾, 茂原 淳¹⁾, 石川 進¹⁾, 大滝章男¹⁾, 松本光司 (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 新しい冠灌流装置による12時間心保存の実験的研究. 第34回日本移植学会総会, 1998. 12.
- 33) 石川 仁¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 饗場正明¹⁾, 川島吉之¹⁾, 富沢直樹¹⁾, 鴨下憲和¹⁾, 小林純哉¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 大矢敏裕¹⁾, 小林哲史¹⁾, 大和田進¹⁾, 松本光司, 佐藤 晋²⁾, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室, ²⁾ 藤沢薬品) : 肺の虚血再灌流障害に対するIL-1b,TNF-a産生抑制剤FR167653の効果 : 投与量の検討. 第34回日本移植学会総会, 1998. 12.
- 34) 竹吉 泉¹⁾, 石川 仁¹⁾, 饗場正明¹⁾, 川島吉之¹⁾, 大谷嘉己¹⁾, 鯉渕幸生¹⁾, 鴨下憲和¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 小川哲史¹⁾, 大和田進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 肺の虚血再灌流に対するIL-1及びTNF-a産生阻害剤FR167653の有用性. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 35) 棚橋美文¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 饗場正明¹⁾, 川島吉之¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 富沢直樹¹⁾, 鴨下憲和¹⁾, 松本光司, 大和田進¹⁾, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 肺温阻血再灌流に対するNOドナーFK409の有用性. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 36) 饗場正明¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 岩崎 茂¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 富沢直樹¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 川島吉之¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 肺移植におけるFR167653の有用性に関する実験的検討. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.
- 37) 岩崎 茂¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 川島吉之¹⁾, 小川哲史¹⁾, 川手 進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学医学部第二外科学教室) : 肺虚血再灌流障害に対するPlatelet-Activating Factor

(PAF)拮抗剤FR128998の効果。第99回日本外科学会総会，1999。3。

- 38) 須納瀬豊¹⁾，竹吉 泉¹⁾，大和田進¹⁾，岩崎 茂¹⁾，堤 裕史¹⁾，川島吉之¹⁾，小川哲史¹⁾，川手 進¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾ ⁽¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：血行遮断を伴う拡大肝切除術におけるPlatelet-Activating Factor (PAF)拮抗剤FR128998の効果。第99回日本外科学会総会，1999。3。
- 39) 茂原 淳¹⁾，高橋 徹¹⁾，大嶋清宏¹⁾，竹吉 泉¹⁾，山岸敏治¹⁾，堤 裕史¹⁾，小谷野哲史¹⁾，石川 進¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾ ⁽¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：同所性心移植におけるCelsior液の心保護効果。第17回日本心臓移植研究会，1999。3。
- 40) 茂原 淳¹⁾，高橋 徹¹⁾，大嶋清宏¹⁾，竹吉 泉¹⁾，山岸敏治¹⁾，堤 裕史¹⁾，小谷野哲史¹⁾，石川 進¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾ ⁽¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：同所性心移植実験からみたCelsior液の心筋保護効果：UW液との比較検討。第23回日本心筋保護研究会，1999。3。

[第二病院中央検査室]

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 井出尚子，新岡明子，大竹佳代子，新宅孝征，原 文男：全自動便潜血免疫分析装置の検討。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 2) 小伊藤保雄，丹羽美和，畑 哲，新宅孝征，原 文男：ドライシステムを採用した高感度EIA分析装置の有用性。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 3) 渡部紀子，大竹佳代子，荒井誠一，鈴木久美，越谷美由紀，山賀節子，西島美輝子，新宅孝征，原 文男：糖尿病患者におけるパワースペクトル分析の有用性。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 4) 鈴木憲康，坂倉剛志，野本恵子，菅原 通，新宅孝征，原 文男：当院における腸管出血性大腸菌O26 (VT2産生)の検出事例。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 5) 津金香代子，吉岡美香，田中久美，中島由美子，菅原 通，新宅孝征，原 文男：血小板凝集能解析法についての検討。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 6) 井上雅則，井梅和美¹⁾，花出 豊¹⁾，新宅孝征¹⁾，島田洋一¹⁾ ⁽¹⁾第二病院血液室)：第二病院における自己血輸血の現状。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。
- 7) 坂倉剛志，鈴木憲康，菅原 通，野本恵子，新宅孝征，原 文男：当検査室における結核菌群DNA検出法(PCR法)。第66回日本医科大学医学会総会，1998。9。

[第二病院薬剤科]

研究概要

「適正な薬物療法の実践」のため，病院薬剤師は医療の中で何をしなければならないかを基本柱として，昨年に引き続きテーマとした。また，病院という大きな組織の中で病院薬剤師は多様な業務を行い，いかに多くのリスクマネジメントに直面しているにも関わらず病院薬剤師の必要性が認知されていない現状を，シンポジウムの場で講演した。

さらには，臨床上適応外使用されている薬剤の実態調査など医療に直結した研究も行った。

病院薬剤師員数が改正され，特定機能病院以外の各病院では薬剤師数の削減が余儀なくされている中，当第二病院においては「患者第一」を考えた業務の一環として病棟業務に力を入れ臨床に貢献し，また，確実に医師などから評

価を頂いている。病院薬剤師として「良質な薬物療法の提供」を行い、「適正な薬物療法の実践」を使命として日々精進している。

研究業績

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 小坂好男：「薬の使用にあたって」科学的薬物療法と経済性：薬剤師ができる今後の課題：経済性から観ると。第8回日本病院薬学会年会，1998. 9.

(2) セミナー：

- 1) 小坂好男：DI業務の実際。奈川県病院薬剤師会実務者研修会，1998. 6.
- 2) 赤羽伸一：薬の知識①。日本医科大学公開講座，1998. 10.
- 3) 森田秋夫：薬の知識②。日本医科大学公開講座，1998. 10.
- 4) 小坂好男：病棟活動とTDM。神奈川県病院薬剤師会TDMセミナー，1999. 2.
- 5) 今野よしゑ：病棟業務担当者になって学んだこと。第4回川崎南部医療圏病院薬剤師セミナー，1999. 3.

(3) 一般講演：

- 1) 野口周作，小坂好男；菊池有道²⁾，山口文雄¹⁾，高橋 弘¹⁾，飯塚かおり²⁾ (¹⁾脳神経外科，²⁾看護部)：患者QOLへの薬剤師の関わり(第IV報)。第7回クリニカルファーマシーシンポジウム，1998. 6.
- 2) 古宮理絵，小坂好男，中山 薫，赤羽伸一，島田慰彦，森田秋夫，菊池有道：当院における2週間実習の現状：薬学生が病院実習に望むもの。第28回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会，1998. 8.
- 3) 菊池有道，有吉恵美子¹⁾，岩田陽子¹⁾，大内文伸¹⁾，桜井民雄¹⁾，佐藤安信¹⁾，佐貫美智留¹⁾，根津良幸¹⁾，三溝和男¹⁾，黒山政一¹⁾ (¹⁾神奈川県病院薬剤師会 get the answers委員会)：神奈川県病院薬剤師会におけるくすりGet the Answersかながわ活動。第28回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会，1998. 8.
- 4) 小坂好男，岩田政則¹⁾，木村利美¹⁾，許斐吟子¹⁾，佐川賢一¹⁾，竹内尚子¹⁾，永野弘子¹⁾，中村和夫¹⁾，深谷真理子¹⁾，山崎 顕¹⁾，城武昇一¹⁾ (¹⁾神奈川県病院薬剤師会薬事情報委員会)：神奈川県内病院における医薬品情報の管理に関する現状分析。第8回日本病院薬学会年会，1998. 9.
- 5) 渋谷正則，赤羽伸一，森田秋夫，菊池有道：外来患者への情報提供のあり方について。第6回神奈川県病院薬剤師会学術大会，1999. 2.
- 6) 小坂好男，木村利美¹⁾，許斐吟子¹⁾，西郷勝行¹⁾，竹内尚子¹⁾，永野弘子¹⁾，中村和夫¹⁾，深谷真理子¹⁾，山崎 顕¹⁾，佐川賢一¹⁾，酒井英洋¹⁾ (¹⁾神奈川県病院薬剤師会薬事情報委員会)：適応外使用についての調査報告：現状と問題点。第6回神奈川県病院薬剤師会学術大会，1999. 2.

22. 多摩永山病院付置施設等

[多摩永山病院病理部]

研究概要

組織培養, 免疫組織化学, 電子顕微鏡部門が充実し, 病理学教室から大学院生が病理部に配属され, また臨床医の病理部での研究も行われるようになり, さらにタイ国病理学者の留学も今年で5年目となり, 研究部門もさらに充実してきた。

現在の主な研究テーマは以下のとおりである。

(1) 乳腺腫瘍: 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立, 2) 乳癌における, ホルモンレセプターと細胞骨格および接着因子の関係について, 3) 転移性乳癌の臨床病理学的研究 (とくに接着因子と基底膜分解酵素について)

(2) 骨軟部腫瘍: 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用), 2) 骨肉腫の鑑別診断に対するオステオカルチン, オステオネクチン, コラーゲンIの有用性について, 3) Solitary fibrous tumorの組織発生について。

(3) 子宮癌: 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用): とくにセルブロック法。

(4) リンパ節病変: 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索, 免疫細胞学的アプローチ, 2) リンパ節病変の分子生物学的検索, 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学。

(5) 体腔液の細胞診断法の確立 (免疫組織化学的, 電顕的検索の併用): とくにセルブロック法。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Maeda S, Asano G²⁾, Yosioka M¹⁾, Egami K¹⁾, Yanagida Y, Isobe H, Katayama H, Hosone M (1) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical S, 2) Second Department Pathology, Nippon Medical School): Rapid diagnosis at the outpatient clinic for breast tumors by fine needle aspiration cytology. 日医大誌 1998; 65 (5): 66-70.
- 2) Hasegawa T¹⁾, Shimoda T²⁾, Yokoyama R³⁾, Beppu Y³⁾, Hirohashi S¹⁾, Maeda S (1) Pathology Division, National Cancer Center Research Institute, 2) Clinical Laboratory Division National Cancer Center Hospital, 3) Orthopedic Division National Cancer Center Hospital): Intracortical osteoblastic osteosarcoma with oncogenic rickets. Skeletal Radiol 1999; 28 (1): 41-45.
- 3) 前田昭太郎, 浅野伍朗²⁾, 福田 悠²⁾, 佐藤雅史¹⁾, 片山博徳, 細根 勝 (1) 第二病院放射線科, 2) 病理学第2): 石灰化病変の画像診断: 石灰化病変の病理, 臨床画像 1998; 14 (7): 784-792.
- 4) 細根 勝, 浅野伍朗¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 磯部宏昭, 片山博徳, 前田昭太郎 (1) 病理学第2): リンパ節の細胞診: 穿刺吸引細胞診の有用性と今後の展望. 病理と臨床 1998; 16 (8): 965-976.
- 5) 前田昭太郎, 浅野伍朗²⁾, 横山宗伯²⁾, 杉崎祐一¹⁾, 松原美幸¹⁾, 片山博徳, 細根 勝 (1) 附属病院病理部, 2) 病理学第2): 軟部腫瘍細胞診. 病理と臨床 1998; 16 (8): 954-964.
- 6) 細根 勝, 浅野伍朗¹⁾, 片山博徳, 磯部宏昭, 前田昭太郎 (1) 病理学第2): リンパ節の細胞診における pitfalls: その原因分類と対策. 日本臨床細胞学会関東連合会誌 1998; 47-52.
- 7) 古谷能祥¹⁾, 山田和昭¹⁾, 前田昭太郎 (1) 国立病院東京災害医療センター臨床検査科): 脳原発悪性腫瘍の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 1998; 37 (5): 525-529.

- 8) 松原美幸¹⁾, 横山宗伯²⁾, 渡会泰彦¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 前田昭太郎⁽¹⁾ 附属病院病理部, ²⁾ 病理学第2) : 小細胞型骨肉腫の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 1998 ; 37 (6) : 608-612.

学会発表

[1997年度追加分]

一般講演 :

- 1) 小倉順子¹⁾, 細根 勝, 山本 鼎¹⁾, 玉井 仁¹⁾, 村上隆介¹⁾, 杉崎健一²⁾, 小林由子¹⁾, 滝川崇弘¹⁾, 山田丈士¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 多摩南部地域病院放射線科) : 卵巣癌手術後再発におけるMRI. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 2) 清水有二¹⁾, 細根 勝, 小倉順子²⁾, 左 維¹⁾, 林 昭棟¹⁾, 沼沢和夫¹⁾, 高橋 文¹⁾, 岩本和矢¹⁾, 平岡保紀¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院泌尿器科, ²⁾ 多摩永山病院放射線) : 一部腎嚢胞様所見を呈した両側同期性多発性腎細胞癌. 第62回日本泌尿器科学会東部総会, 1997. 10.

(1) 特別講演 :

- 1) 前田昭太郎 : 細胞診の有用性 : とくにその工夫点について. 日本臨床細胞学会山口県支部総会及び第40回学術集会, 1998. 9.
- 2) 前田昭太郎 : 穿刺吸引細胞診による迅速診断の有用性. 第13回日本臨床細胞学会長野県支部総会, 1999. 2.

(2) 教育講演 :

- 1) 細根 勝 : 悪性リンパ腫の病理とREAL分類. 第77回放射線多摩川カンファレンス, 1998. 6.

(3) シンポジウム :

- 1) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 磯部宏昭, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理学第2) : 細胞診におけるpitfallsとその対策 : リンパ節. 第12回日本臨床細胞学会関東連合会, 1998. 9.

(4) セミナー :

- 1) Maeda S : The utility of cytopathology in various fields of medicine. Seminar of "Lectures no Gynaecologic and Non-Gynaecologic Cytopathology" (Thailand), 1999. 1.
- 2) Katayama H : A Simple Cell Block Method for an Endometrial Cytologic Diagnosis. Seminar of "Lectures no Gynaecologic and Non-Gynaecologic Cytopathology" (Thailand), 1999. 1.

(5) ワークショップ :

- 1) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Asano G¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School) : FNA cytology of breast tumor -Significance of the consideration of histological type and the pitfalls to avoid. Fifth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology, 1999. 1.
- 2) Hosone M, Maeda S, Katayama H, Asano G¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School) : Combination Analysis of FNA Cytology and Immunocytochemistry : Non-Hodgkin's Lymphomas. Fifth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology, 1999. 1.
- 3) Katayama H, Maeda S, Hosone M, Asano G¹⁾ (¹⁾ 病理学第2) : Peripheral Primitive Neuroectodermal Tumor of A Spinal Cord : A case report. Fifth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology, 1999. 1.
- 4) Mita S : Hepatoid Carcinoma of ovary : A case report. Fifth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology, 1999. 1.

(6) 一般講演 :

- 1) Hosone M, Maeda S, Katayama H, Isobe H, Asano G : Retrospective Study of Nodal Non-Hodgkin's Lymphoma : Combination Analysis of FNA Cytomorphology and Immunocytochemistry. XII th International

Congress of Cytology, 1998. 4.

- 2) Katayama H, Maeda S, Hosone M, Kosino T, Juzouji S : A Simple Cell Block Method for an Endometrial Cytologic Diagnosis. XII th International Congress of Cytology, 1998. 4.
- 3) Maeda S, Hosone M, Sugisaki Y, Matubara M, Asano G : Fine Needle Aspiration Cytology of Soft Tissue Tumors : How To Make a Correct Diagnosis. XII th International Congress of Cytology, 1998. 4.
- 4) Mita S, Kosino T, Sasaki S, Maeda S, Hosone M : A Case of Hepatoid Carcinoma Tentatively Diagnosis as Adenocarcinoma of Ovarian Origin Prior to Surgery Based on Cytologic Findings of the Endometrium. XIIIth International Congress of Cytology, 1998. 4.
- 5) Rangdaeng S, Sonsuwan N, Maeda S : Fine Needle Aspiration Cytology of Chondrosarcoma of the Mandible : A Case Report. XII th International Congress of Cytology, 1998. 4.
- 6) Hosone M, Asano G, Izumo T²⁾, Shiota M¹⁾, Mori S¹⁾, Sugisaki Y, Shoyaro M (¹⁾ University of Tokyo, ²⁾ Saitama Cancer Center) : A case of EB virus -related Hodgkin's disease developed after a 7-year remission period of the lymphadenopathy suspected of angioimmunoblastic T-cell lymphoma (AILD). The 4th Meeting of the German -Japanese Lymphoma Study Group, 1998. 10.
- 7) Maruyama H, Maeda S, Hosone M, Asano G¹⁾ (¹⁾ 病理学第2) : Immunohistochemical Localization of Osteocalcin, Osteonectin and Type I Collagen in Osteosarcoma. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 8) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 澤田名美枝, 張 晶¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理学第2) : 子宮内膜細胞診におけるセルブロック法の有用性について. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 9) 張 晶¹⁾, 若 皎¹⁾, 川原清子¹⁾, 藤井文雄¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 片山博徳, 前田昭太郎 (¹⁾ 病理学第2) : アルコール性肝線維症並びに肝硬変における細胞外基質の動態. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 10) 細根 勝, 澤田名美枝, 前田昭太郎, 片山博徳, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理学第2) : 急速な臨床経過をたどったEB virus+ CD56+ aggressiveNK/T-cell lymphomaの1例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 11) 前田昭太郎, 細根 勝, 丸山晴久, 澤田名美枝, 片山博徳, 森 修¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理学第2) : 脊髄原発の末梢性PNET (primitive neuroectodermal tumor). 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 12) 白井千博¹⁾, 前田昭太郎 (¹⁾ 川崎臨港病院泌尿器科) : 悪性ととの鑑別に難渋した陳旧性陰囊水腫の1例. 第45会神奈川県泌尿器科医会, 1998. 6.
- 13) 東 敬子, 前田昭太郎, 細根 勝, 澤田名美枝, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 森川記代子, 小黒辰夫¹⁾, 大秋美治¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院病理部, ²⁾ 病理学第2) : 末梢性PNET 3例 : 電顕的PAM染色による検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 14) 羽山亨宏¹⁾, 日下部史郎¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 松久威史¹⁾, 前田昭太郎, 山田宣孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科, ²⁾ 病理学第2) : 内視鏡的切除を行った食道顆粒細胞腫の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 15) 磯部宏昭, 前田昭太郎, 細根 勝, 原 博, 片山博徳, 柳田裕美, 森川記代子, 日吾美栄子, 阿部久美子, 江上 格¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 病理学第2) : 膵臓腫瘍に対する術中迅速細胞診の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 16) 菅 隼人¹⁾, 江上 格¹⁾, 松島伸二¹⁾, 岡崎滋樹¹⁾, 和田雅世¹⁾, 山本英希¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 飯田信也¹⁾, 中村春¹⁾, 山田岳史¹⁾, 瀧田雅仁¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 大野智康¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 前田昭太郎, 細根 勝, 恩田昌彦²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 外科学第1) : 嚢胞形成を伴った若年性乳腺髄様癌の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 17) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 澤田名美枝, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 森川記代子, 阿部久美子, 日吾美栄子, 原 博, 三田俊二¹⁾, 越野立夫¹⁾, 張 晶²⁾, 浅野伍朗²⁾, 十蔵寺新³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院産婦人科, ²⁾ 病理学第2, ³⁾ 東府中病院産婦人科) : 子宮内膜細胞診におけるセルブロック法の有用性について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.

- 18) 藤田千歳¹⁾, 矢野 侃¹⁾, 米山剛一²⁾, 杉崎祐一³⁾, 前田昭太郎¹⁾ (荒川区がん予防センター, ²⁾ 附属病院産婦人科, ³⁾ 附属病院病理部): 子宮がん検診の頸部スミアにて卵巣癌を推定し得た normal-sized ovary carcinoma の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 19) 三田俊二¹⁾, 中井章人¹⁾, 藤井俊彦¹⁾, 磯崎太一¹⁾, 横田明重¹⁾, 佐々木茂¹⁾, 越野立夫¹⁾, 前田昭太郎¹⁾ (多摩永山病院産婦人科): 卵巣に原発した hepatoid carcinoma の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 20) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 江上 格¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 病理学第2): 白血化をきたし胃巨大皺襞症を呈した mantle cell lymphoma の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 21) 澤田名美枝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 細根 勝, 前田昭太郎, 頼 徳成²⁾, 島田早苗²⁾ (¹⁾ 病理学第2, ²⁾ 多摩永山病院耳鼻咽喉科): 術中迅速診において穿刺吸引細胞診の併用が有効であった扁桃原発 Burkitt's lymphoma の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 22) 井上泰夫¹⁾, 松久威史¹⁾, 前田昭太郎¹⁾ (多摩永山病院内視鏡科): 内視鏡的に切除した大腸平滑筋腫の1例. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 23) 東 敬子, 浅野伍朗²⁾, 大秋美治¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 前田昭太郎¹⁾ (千葉北総病院病理部, ²⁾ 病理学第2): 脊髄原発の末梢性 PNET2 症例の電子顕微鏡学的検討. 第30回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1998. 9.
- 24) 磯部宏昭, 浅野伍朗²⁾, 志村俊郎¹⁾, 柳田裕美, 日吾美栄子, 阿部久美子, 片山博徳, 原 博, 細根 勝, 前田昭太郎¹⁾ (多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 病理学第2): 術中迅速細胞診が有用であった pilocytic astrocytoma の1例. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 10.
- 25) 三枝順子¹⁾, 浅野伍朗³⁾, 前田昭太郎, 片山博徳, 杉崎祐一²⁾, 松原美幸²⁾, 渡会泰彦²⁾, 大秋美治¹⁾, 森修¹⁾, 早沢久美¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 清水秀樹¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院病理部, ²⁾ 附属病院病理部, ³⁾ 病理学第2): 脳腫瘍圧挫細胞診における核所見の検討: その1 Glia系腫瘍について. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 10.
- 26) 清水秀樹¹⁾, 浅野伍朗³⁾, 前田昭太郎, 片山博徳, 杉崎祐一²⁾, 松原美幸²⁾, 渡会泰彦²⁾, 大秋美治¹⁾, 森修¹⁾, 早沢久美¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 三枝順子¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院病理部, ²⁾ 附属病院病理部, ³⁾ 病理学第2): 脳腫瘍圧挫細胞診における核所見の検討: その1 Glia系腫瘍について. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 10.
- 27) 秋山幹生¹⁾, 前田昭太郎, 細根 勝, 中山滋章¹⁾, 片岡美和子¹⁾, 長松淳一¹⁾, 塚本佐知子¹⁾ (多摩永山病院眼科): 多角的な方法を用いて診断した反応性リンパ組織過形成の1症例. 日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
- 28) 細根 勝, 前田昭太郎: 表皮内浸潤をきたし Paget 病との鑑別が困難であった浸潤性乳管癌の1例. 第三回多摩乳腺懇話会, 1998. 11.
- 29) 杉崎祐一¹⁾, 細根 勝, 森 茂郎²⁾ (¹⁾ 附属病院病理部, ²⁾ 東大医科研病理研究部): Castleman's disease/HV 様所見を伴った classical HD. 文部省基盤研究班 (A) (1) 班, 平成10年度第二回班会議, 1999. 1.
- 30) 秋谷行宏¹⁾, 江上 格¹⁾, 和田雅世¹⁾, 松島申治¹⁾, 山本英希¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 飯田信也¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 瀧田雅仁¹⁾, 山田岳史¹⁾, 大野智康¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 沖浜裕司²⁾, 松田 健²⁾, 細根 勝, 前田昭太郎, 恩田昌彦³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同消化器科, ³⁾ 第1外科): Malignant islet cell tumor の1例. 消化器病学会, 1999. 2.
- 31) 杉崎祐一¹⁾, 細根 勝, 森 茂郎²⁾, 榎原貴子³⁾, 壇 和夫⁴⁾ (¹⁾ 附属病院病理部, ²⁾ 東大医科研病理研究部, ³⁾ 附属病院皮膚科, ⁴⁾ 同血液内科): 全身の紅皮病とリンパ節腫大を伴った CLL. 第2回血液病理研究会, 1999. 3.

[多摩永山病院中央検査室]

研究概要

当検査室における主な研究目的は、臨床検査学の進歩のなかで、新しい検査法および検査技術を検討すると共に臨

床への応用と意義を考察し、新検査法の実現を追っている。また、日常、臨床検査全体の精度管理、検査方法及び迅速測定を実施し、各種検査における臨床との関連を見つ、質の向上と検査測定法の確立を目指している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 柴田明佳, 鈴木純子, 田所久子, 佐藤知枝, 池野廣幸, 鈴木 健：酵母様真菌鑑別培地 ATG 生寒天培地の評価。私立医科大学臨床検査技師会誌 (KAMERADEN) 1998 ; (27) : 21-24.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 柴田明佳, 鈴木純子, 田所久子, 佐藤知枝, 池野廣幸, 鈴木 健：酵母様真菌鑑別培地 ATG 生寒天培地の有用性。第47回日本臨床衛生検査学会, 1998. 5.
- 2) 井上 淳, 千葉逸子, 菅野由紀, 藤木直美, 福田節子, 池野廣幸, 鈴木 健：IgM 性抗マウス γ -グロブリン抗体の1例。第47回日本臨床衛生検査学会, 1998. 5.
- 3) 柴田明佳, 鈴木純子, 田所久子, 佐藤知枝, 池野廣幸, 鈴木 健：酵母様真菌鑑別培地の検討。第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 4) 佐藤綾子, 鈴木摩理, 手寫浩恵, 佐藤寛之, 池野廣幸, 鈴木 健, 阿部純子¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院内科)：ST 上昇発作中の20秒以上にもわたる心停止による失神発作が出現、全経過がHolter 心電図に記憶できた異型狭心症の1例。第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 5) 田所久子, 佐藤知枝, 柴田明佳, 鈴木純子, 池野廣幸, 鈴木 健：最近5年間の結核菌検出状況。日本医科大学医学会第96回例会, 1998. 11.
- 6) 鈴木摩理, 手寫浩恵, 久保田稔, 佐藤綾子, 佐藤寛之, 池野寛之, 鈴木 健：心房細動例に対するパルスジェネレーター組み込み型ホルター心電計の有用性。第14回循環器情報処理研究会, 1998. 11.
- 7) 池野廣幸, 佐野和三¹⁾, 横沢光博²⁾, 原 哲朗³⁾ (¹⁾ 駿河台日本大学病院, ²⁾ 東京共済病院, ³⁾ 明治製菓薬品総合研究所)：呼吸器感染症主要起因菌に対する経口セフェム剤の抗菌力。第73回日本感染症学会, 1999. 2.

[多摩永山病院薬剤科]

研究概要

現在、薬剤科は、入院患者に対する薬剤管理指導業務、外来患者の調剤薬についての情報提供など、医薬品の適正使用の推進に積極的に取り組んでいる。

こうした中から、メサラジン使用状況及びその有効性について、妊娠中毒、糖尿病における医薬品の適正使用についておよび医薬品情報の評価などを行い、また救命救急センターにおいては、CHDF 時の薬物動態の検討、MRSA 感染発症の防止の検討、薬物中毒について研究活動の成果をまとめた。

一方、薬科大学の大学院生を定期的受け入れることにより、それらの薬科大学と共同で基礎的研究を行っている。

薬剤師を取り巻く環境は、大きく変化しており、薬剤師の責務は益々重くなってきたが、医薬品の適正使用への協力を通して薬剤師の質的向上ひいては医療の質の向上のために、これからも研究を続けていきたいと考えている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hirata K, Matsumoto Y, Tomioka J, Kurokawa A, Murata M, Matsumoto M : Acute drug poisoning at critical care departments in Japan. *Jpn J Hosp Pharm* 1998 ; 24 : 340-348.
- 2) Hirata K, Matsumoto Y, Matsumoto M, Fukuoka M, Murata M, Yamada K : Pharmacokinetics of Propofol Infusions in Japanese Patients. *Jpn J Clin Pharmacol Ther* 1998 ; 24 : 101-108.
- 3) 堀川佳津美, 伊藤淳雄, 村田正弘, 中井章人¹⁾, 佐々木茂¹⁾, 越野立夫¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院産婦人科) : 重症妊娠中毒症に伴う急性うっ血性心不全に対する心房ナトリウム利尿ペプチド製剤 (カルペリチド) の使用経験. *Pharma Medica* 16 (5) : 99-104 1998 ; 16 (5) : 99-104.
- 4) 伊藤淳雄 : 薬学生の病院実習について. *ファルマシア* 1998 ; 34 (8) : 26-33.
- 5) 伊藤淳雄 : 薬物治療の検討と報告について : 糖尿病疾患の患者の薬物治療計画に関して. *Pharm D* 1998 ; 1 (1) : 98-104.
- 6) 平田清貴, 村田正弘, 黒川 顕¹⁾, 松本宜明²⁾, 猪熊朋子²⁾, 松本光雄²⁾ (¹⁾ 救急医学, ²⁾ 昭和薬科大学) : 迅速定量法 (FPIA 法) による急性ベンゾジアゼピン系薬物中毒における体内動態予測. *病院薬学* 1998 ; 24 : 349-356.
- 7) 宿前貴子 : アスピリン100年 : そしてこれから. *都薬雑誌* 1999 ; 21 (1) : 25-31.

著書

- 1) 大津史子¹⁾, 田中依子²⁾, 西谷篤彦³⁾, 福本眞理子⁴⁾, 松山賢治⁵⁾, 望月真弓⁶⁾, 宿前貴子⁷⁾ (¹⁾ 名城大学薬学部医薬情報センター, ²⁾ 東京薬科大学薬学部, ³⁾ 東京大学医学部附属病院分院薬剤部, ⁴⁾ 北里大学薬学部, ⁵⁾ 武庫川女子大学薬学部医療薬剤学, ⁶⁾ 千葉大学大学院薬学研究科, ⁷⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院薬剤科) : [共著] これからの薬剤師のための医薬品情報と科学論文の評価 (監訳乾 賢一, 訳者代表西谷篤彦), 1998 ; pp130-153, 薬業時報社.
- 2) 平田清貴, 牧野俊郎, 田口吉子, 山本保博 : [共著] 1999・2000年度 輸液・輸血・救急薬 TODAY, 1999 ; メディカ出版.
- 3) 平田清貴, 村田正弘, 長澤絃一¹⁾ (¹⁾ 内科学第1) : 安心して薬を使用するために : 注意すべき薬の飲み合わせ (編集村田正弘, 長澤絃一). 1999 ; 分光堂.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 畝本賜男 : 薬剤師を取り巻く諸問題 : 実務面からの提言. 第47回医薬品相互作用研究会シンポジウム, 1998. 11.

(2) 一般講演：

- 1) Honeda H¹⁾, Unemoto T, Inoue K¹⁾, Murata M, Kogo H¹⁾ (¹⁾ School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy and Life Science) : Testosterone relaxes rat thoracic aorta : Comparison between Wistar-Kyoto and spontaneously hypertensive rats. 第13回国際薬理学会 (ドイツミュンヘン), 1998. 7.
- 2) 平田清貴, 村田正弘, 稲葉育広, 上田康晴¹⁾, 横田裕行¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 緋田雅美²⁾, 松本宜明³⁾, 福岡正道³⁾, 松本光雄³⁾ (¹⁾ 救急医学, ²⁾ 看護部, ³⁾ 昭和薬科大学) : Mupirocin鼻腔用軟膏の三次救急医療施設におけるMRSA感染症発症防止効果の検討. 日本薬学会第119年会, 1998. 3.
- 3) 木本陶子, 畝本賜男, 村田正弘 : 市販後調査における薬剤師の役割 : ペンタサ錠服用患者の追跡調査を例として. 第47回医薬品相互作用研究会, 1998. 5.

- 4) 平田清貴, 稲葉育広, 村田正弘, 富岡謙二¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 松本宜明²⁾, 松本光雄²⁾ (1) 救急医学, 2) 昭和薬科大学) : 急性毒物中毒と薬剤師. 第7回日本薬学会クリニカルファーマシーシンポジウム, 1998. 6.
- 5) 平田清貴, 村田正弘, 黒川 顕¹⁾, 松本宜明²⁾, 大都留修³⁾, 松本光雄²⁾ (1) 救急医学, 2) 昭和薬科大学, 3) 科学警察研究所) : 急性ベンゾジアゼピン系薬物中毒の実態 (三次救急医療と警察事例の比較). 第20回日本中毒学会総会, 1998. 7.
- 6) 木本陶子, 畝本賜男, 村田正弘, 水船裕子¹⁾, 松本有右¹⁾, 下平秀夫¹⁾, 朝長文彌¹⁾ (1) 八王子薬剤センター) : 薬物療法における薬剤師評価の基準 : 潰瘍性大腸炎に対するメサラジン製剤の使用追跡. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 7) 木本陶子, 畝本賜男, 村田正弘, 水船裕子¹⁾, 松本有右¹⁾, 下平秀夫¹⁾, 朝長文彌¹⁾ (1) 八王子薬剤センター) : 医薬品適正使用における薬剤師の関与 : メサラジン錠服用患者の追跡調査を例にして. 第8回日本病院薬学学会年会, 1998. 9.
- 8) 川上康晴¹⁾, 橋本 清¹⁾, 藤野 修¹⁾, 藤田武久¹⁾, 高石康子¹⁾, 榎戸 久¹⁾, 小松崎英樹¹⁾, 平山恒憲¹⁾, 桑原健太郎¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 平田清貴, 松本宜明²⁾ (1) 小児科学, 2) 昭和薬科大学) : 痙攣重積に対する Flunitrazepam 静注の効果. 第32回日本てんかん学会, 1998. 10.
- 9) 伊藤淳雄 : 臨床薬剤師の現状と将来展望. 第1回薬科大学院生会, 1998. 10.
- 10) 上田康晴¹⁾, 中村敏弘¹⁾, 中林基明¹⁾, 山下照代¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 横田裕行¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 平田清貴 (1) 救急医学) : CHDF時におけるプロポフォール[®]の薬物動態. 第46回日本救急医学会関東地方会, 1999. 2.
- 11) 畝本賜男, 本多秀雄¹⁾, 安藤陽子¹⁾, 望月卓哉¹⁾, 田村和弘¹⁾, 藤平篤志¹⁾, 向後博司¹⁾ (1) 東京薬科大学) : 高血圧自然発症ラット (SHR) の摘出大動脈標本における 17 β -estradiol (E2) の弛緩反応. 日本薬学会第119年会, 1999. 3.

23. 千葉北総病院付置施設等

[千葉北総病院内科]

研究概要

内科4教室から医局員の派遣を受け臨床的研究を積極的に行っている。そのため研究も心臓、肝臓、神経、腎臓、消化器、呼吸器疾患および糖尿病、代謝とほぼ内科領域全般を網羅している。

心臓では、虚血性心疾患が中心。心臓カテーテル検査による冠動脈形成術やNew Deviceを研究。冠動脈血管内視鏡、血管内超音波による動脈硬化や血管内血栓の評価、再狭窄の機序を研究中である。

肝臓では、肝機能障害の患者に対し各肝炎ウイルスマーカーの測定、画像診断および肝生検を実施。組織学的に慢性活動性肝炎と診断された症例にインターフェロン療法による治療効果の検討を行っている。

神経では、CT、MRI検査による各種筋疾患の経時変化、治療効果の検討、および電気生理検査による中枢、末梢神経疾患の定量的評価、検討を行っている。

腎臓では、蛋白尿から急性、慢性腎不全まで腎生検を含め幅広く診断、医療を行っている。特に、慢性腎不全の人工透析だけでなく他疾患の体外循環治療も積極的に行っている。

消化器では、食道蠕動異常と胸部症状との関連、ヘリコバクターピロリ除菌による胃、十二指腸潰瘍再発予防効果の検討を行っている。

呼吸器では、肺癌に対する併用療法、および各種間質性肺炎での気管支肺胞洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析、検討を行っている。

研究業績

論文

[1997年度追加分]

(1) 原著：

- 1) 松浦有里子, 横田裕行, 加藤一良, 犬塚祥, 小池 薫, 小川理郎, 谷本佐理名, 大塚敏文, 日野光紀, 大秋美治: 急激な臨床症状を呈した急性好酸球性肺炎の1例. 日救急医関東誌 1997; 18 (1): 212-213.
- 2) 日野光紀, 小林国彦, 阿部信二, 大久保照義, 水野杏一, 工藤翔二: 気管支肺胞洗浄液中のCA19-9が高値を呈した両側性再膨張性肺水腫の1例. 気管支学 1997; 19 (7): 540-544.
- 3) Osono E, Kurihara S, Hayama N, Sakurai Y, Ohwada K, Onoda N, Takeuchi M, Tomizawa T, Komaba Y, Hashimoto K, Matsunobu S, Yoneshima H, Iino Y: Insertion/Deletion Polymorphism in Intron 16 of the ACE Gene and Left Ventricular Hypertrophy in Patients With End-Stage Renal Disease. Am J Kidney Dis 1998; 32: 725-730.
- 4) Sakuraba H, Itoh K, Shimamoto MS, Utsumi K, Kase R, Hashimoto Y, Ozawa T, Ohwada Y, Imataka G, Eguchi M, Furukawa T, Schepers U, Sandhoff K: GM2 gangliosidosis AB variant. Clinical and biochemical studies of a Japanese patients. Neurology 1999; 52: 372-377.
- 5) Utsumi K, Itoh K, Kase R, Shimamoto M, Yamamoto N, Katagiri Y, Tanoue K, Kotani M, Ozawa T, Oguchi T, Sakuraba H: Urinary excretion of the vitronectin receptor (integrin $\alpha v \beta 3$) in patients with Fabry disease. Clin Chi Acta 1999; 279: 55-68.
- 6) Utsumi K, Sakuraba H, Iino Y, Katayama Y: Urinary excretion of the vitronectin receptor (integrin $\alpha v \beta 3$) in patients with non-insulin dependent diabetes mellitus. Clin Exp Nephrol 1999; 3: 41-45.
- 7) 山本 剛, 葉山修陽, 笠神康平, 横山真也, 上村竜太, 小林利行, 大国眞一, 水野杏一: 冠動脈疾患を伴った

慢性血液透析患者における凝固系の意義. J Jpn Coron Assoc 1998 ; 4 (2) : 47-51.

- 8) 里村公生¹⁾, 悦田浩邦¹⁾, 正田浩之¹⁾, 西川健一郎¹⁾, 田畑博嗣¹⁾, 高瀬凡平¹⁾, 荒川 宏¹⁾, 渋谷利雄¹⁾, 大鈴木文孝¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 防衛医科大学第一内科) : 冠攣縮性狭心症における血中フィブリノゲン値の意義. 循環器科 1998 ; 44 (3) : 263-267.
- 9) 高野雅充, 酒井俊太, 大国眞一, 水野杏一 : Cutting balloon angioplastyにおける血管内エコーの有用性. J Jpn Coron Assoc 1998 ; 4 (3) : 123-127.
- 10) 大国眞一, 水野杏一, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 付属病院第1内科) : 経皮的冠動脈形成術 (PTCA) 後再狭窄のメカニズム : 冠動脈血管内視鏡による検討. 脈管学 1998 ; 38 (11) : 795-801.
- 11) 水野杏一 : インターベンション時の血管内視鏡の有用性. 脈管学 1999 ; 39 (1) : 29-33.
- 12) 高崎雄司, 長野具雄, 北村裕, 橋本網子, 宗像一雄, 落 雅美, 江本直也, 岸田 浩, 山中宣昭, 飯野靖彦, 弦門昭彦, 内藤善哉, 後藤 真 : 《原著》早老症に重症狭心症を合併し, 冠動脈バイパス術を施行した1例. 内科 1999 ; 83 : 145-153.
- 13) 大藪英一, 栗原 怜, 大和田一博, 桜井裕成, 小野田教高, 竹内正至, 葉山修陽, 飯野靖彦, 式田竜司, 佐治守, 米島秀雄, 高橋秀実, 大国寿士 : 外来維持血液透析患者の上気道における細菌学的検討. 透析会誌 1999 ; 32 : 185-190.

(2) 総説 :

- 1) Takano M, Mizuno K : Coronary angiography. Quarterly Bulletin of Angiology 1998 ; 2 (2) : 1-3.
- 2) 里村公生¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 防衛医科大学第一内科) : 冠動脈再狭窄の臨床—血管内視鏡から. Heart View 1998 ; 2 (3) : 32(296) -36(300).
- 3) 水野杏一, 嶽山陽一¹⁾ (1) 防衛医科大学第一内科) : 急性心筋梗塞における再灌流療法の遠隔期成績. 医学と薬学 1998 ; 39 (3) : 471-472.
- 4) 大野則彦, 水野杏一 : 一時的ペースメーカー挿入. 救急医学 1998 ; 22 (4) : 424-425.
- 5) 酒井俊太, 水野杏一 : 内視鏡・血管内エコーによる冠動脈病変の診断. Medicina 1998 ; 35 (4) : 723-727.
- 6) 田畑博嗣¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 防衛医科大学第一内科) : 新しい抗血栓薬の効果. 血栓と循環 1998 ; 6 (2) : 59(147)-65(153).
- 7) 水野杏一 : 再灌流療法後の急性冠閉塞予防. 呼吸と循環 1998 ; 46 (8) : 743-749.
- 8) 佐野純子, 水野杏一 : (C交感神経系) β 遮断剤. 集中治療 1998 ; 10 (8) : 895-899.
- 9) 松本 真, 水野杏一 : (C交感神経系) 中枢性, 節遮断, ラウオルフィア. 集中治療 1998 ; 10 (8) : 901-903.
- 10) 水野杏一 : 急性冠症候群の血管内視鏡所見. 集中治療 1998 ; 10 (10) : 1069-1074.
- 11) 岡松健太郎, 水野杏一 : 血管内視鏡. 循環 1998 ; 19 (10) : 24-27.
- 12) 酒井俊太, 水野杏一 : 冠血管内視鏡. Heart View 1998 ; 2 (12) : 28-33.
- 13) 河邊満彦, 飯野靖彦 : CAPD療法 (特集 : 目でみる診断法・治療法I). 臨床成人病 1998 ; 28 : 1417-1420.
- 14) 葉山修陽 : Cholesterol embolization. 日医大誌 1998 ; 65 : 496.
- 15) 葉山修陽 : 腎症 (腎性貧血) のエリスロポエチン療法. 臨床成人病 1998 ; 28 : 1427-1428.
- 16) 張 静, 水野杏一 : 血管内視鏡による冠動脈プラークの検出. Pharma Medica 1999 ; 17 (1) : 75-81.
- 17) Mizuno K, Sakai S, Okuni S, Jing Z, Hayakawa H¹⁾ (1) 付属病院第1内科) : The development and clinical feasibility of percutaneous transluminal coronary angiography. J Nippon Med Sch 1999 ; 66 (1) : 7-14.
- 18) 酒井俊太, 水野杏一 : 血管内視鏡. The Lipid 1999 ; 10 (1) : 61-67.
- 19) 水野杏一 : 貴方も名医—肺梗塞. Clinic Magazine 1999 ; 335 : 81-82.
- 20) 葉山修陽 : 急性腎不全. 医薬ジャーナル 1999 ; 35 : 75-78.
- 21) 鎌野千佐子, 松信精一, 飯野靖彦, 片山泰朗, 北村博司, 山中宣昭 : 難治性ネフローゼ症候群 : 2回目の腎生検にて診断された巣状糸球体硬化症の1例. 腎臓 1998 ; 21 : 101-107.

著書

〔1997年度追加分〕

- 1) 日野光紀, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 共著 インフォームドコンセントとは. 肺癌診療ハンドブック中外医学社, 1997; pp216-218, 中外医学社.
- 1) 荒川 宏¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 防衛医科大学第一内科): [分担] レーザー血管形成術. 循環器疾患最新の治療 1998-1999 (監修杉本恒明, 編集矢崎義雄, 篠山重威), 1998; pp281-284, 南江堂.
- 2) 水野杏一: [分担] Lipid Research Clinics. DATA update 循環器系 (編集山口 徹, 日和田邦男, 斉藤 康), 1998; pp278-279, 先端医学社.
- 3) 水野杏一: レーザー治療. Key Word 1998-2000 高脂血症・動脈硬化 (編集萩原俊男, 斉藤 康, 馬淵 宏), 1998; pp202-203, 先端医学社.
- 4) 飯野靖彦: [分担] 水とNaの臨床A.生命と水Na. (丸茂文昭飯野靖彦編集), 1998; pp1-11, 治療と診療社.
- 5) 水野杏一: [分担] 動脈硬化の臨床診断の進歩. 動脈硬化をめぐる最近の話題 (編集斉藤 康), 1999; pp122-127, 医事出版社.
- 6) 水野杏一: [分担] 急性冠症候群における血管内視鏡の役割. 循環器救急と画像診断 (編集斉藤宗靖, 玉木長良), 1999; pp107-110, 中外医学社.
- 7) 水野杏一, 北村克弘²⁾ (1) 防衛医科大学第一内科): [分担] 冠動脈血管内視鏡で明らかになった冠疾患の病態. 最新虚血性心疾患: 新しい展開と診療の実際 (編集矢崎義雄), 1999; pp148-153, 永井書店.
- 8) 水野杏一: [分担] 新しい検査法. 内科学書 (編集島田 馨), 1999; pp1114-1116, 中山書店.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 水野杏一: 急性冠疾患に対する血管内視鏡による検討. 横浜内科学会例会, 1998. 5.
- 2) 水野杏一: 血管内視鏡の開発と臨床応用. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 3) 水野杏一: 心血管イベント発症と抑制の機序: 冠動脈血管内視鏡による検討. 平成10年度動脈硬化学会冬季大会, 1998. 12.

(2) シンポジウム:

- 1) 水野杏一, 大國眞一, 酒井俊太, 今泉孝敬¹⁾, 荒井恒憲²⁾, 石原美弥²⁾, 菊地 真²⁾, 桜田真己²⁾, 内海 厚²⁾, 福田 勝²⁾, 溝口多聞²⁾, 山懸俊彦²⁾, 竹内 清²⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部, 2) 防衛医科大学第一内科): 冠動脈血管内視鏡の開発と臨床. 第37回日本ME学会大会, 1998. 5.
- 2) 水野杏一: 酸化LDLと冠動脈疾患の臨床. 第30回日本動脈硬化学会総会, 1998. 6.
- 3) 宮本 明¹⁾, Abela GS, 水野杏一 (1) 防衛医科大学第一内科): 血管内視鏡による易破綻性プラークの定量的評価の試み3. 第9回日本脈管学会総会, 1998. 9.
- 4) 酒井俊太, 小川晃生, 稲見茂信, 岡松健太郎, 大野則彦, 横山真也, 松本 真, 北村克弘¹⁾, 大村和子, 福岡祐美子, 大國眞一, 水野杏一 (1) 防衛医科大学第一内科): 冠動脈内視鏡を治療戦略ガイドランスとして用いたカテーテルインターベンション. 第39回日本脈管学会総会, 1998. 9.
- 5) 水野杏一: 虚血性心疾患. 第21回日本血栓止血学会学術集会, 1998. 9.

〔1997年度追加分〕

一般講演:

- 1) 小俣雅念, 日野光紀, 林原賢治, 古田知行, 榎本達治, 橋元喬士, 伊藤永喜, 田中恵美, 奈良道哉, 於保倫之助, 市堰 肇, 新井裕至, 水野杏一: 治療に難渋した多発性脳結核腫をともなう粟粒結核の1例. 第91回日本胸部疾患学会関東部会, 1997. 5.

- 2) 伊藤永喜, 日野光紀, 林原賢治, 古田知行, 榎本達治, 小俣雅稔, 奥村昌夫, 大秋美治: 高カルシウム血症と血中G-CSF高値を認めた肺扁平上皮癌の1例. 第三回東葛肺癌研究会, 1997. 6.
 - 3) 伊藤永喜, 日野光紀, 林原賢治, 古田知行, 榎本達治, 小久保豊, 小俣雅念, 奥村昌夫, 水野杏一, 大秋美治, 工藤翔二: 診断に苦慮した肺動脈原発の肺血管肉腫の1剖検例. 第119回肺癌学会関東部会, 1997. 7.
 - 4) 奥村昌夫, 日野光紀, 林原賢治, 古田知行, 榎本達治, 伊藤永喜, 小俣雅念, 横田裕行, 加藤一良, 大秋美治, 水野杏一: 気管支肺胞洗浄液 (BAL) にて診断しえたpneumocystis carinii肺炎3症例の検討. 日本医科大学第92回例会, 1997. 10.
 - 5) 上原隆志, 日野光紀, 平松久弥子, 海老澤雅子, 伊藤永喜, 林原賢治, 古田知行, 工藤翔二, 葉山修陽, 大秋美治: 顕微鏡的多発動脈炎の治療経過中に2種の肺病変を呈した1例. 第127回日本胸部疾患学会関東部会, 1997. 11.
 - 6) 海老澤雅子, 伊藤永喜, 日野光紀, 林原賢治, 古田知行, 上原隆志, 榎原桂太郎, 水野杏一, 工藤翔二, 真崎義隆, 五味潤誠, 大秋美治: 抗癌剤化学療法中にG-CSF値を追った肺未分化大細胞癌の1例. 第四回東葛肺癌研究会, 1997. 12.
 - 7) 海老澤雅子, 伊藤永喜, 日野光紀, 林原賢治, 古田知行, 上原隆志, 榎原桂太郎, 水野杏一, 工藤翔二, 真崎義隆, 五味潤誠, 大秋美治: 抗癌剤化学療法中にG-CSF値を追った肺未分化大細胞癌の1例. 第120回肺癌学会関東部会, 1997. 12.
- (3) 一般講演:
- 1) Okamatsu K, Ohno N, Matsumoto M, Sakai S, Ohkuni S, Imaizumi T¹⁾ (1) 付属千葉北総病院集中治療部): Assessment of relation between plaque and coronary artery distensibility determined by simultaneous intracoronary pressure and ECG recordings and intracoronary ultrasound imaging. 18th World Congress of the International Union of Angiology (Tokyo), 1998. 9.
 - 2) Sano J, Mizuno K, Ohkuni S, Ohmura K, Fukuma Y, Imaizumi T¹⁾, Sakai S, Okamatsu K, Matsumoto S, Ohno N (1) 千葉北総病院集中治療部): Inhibition of coronary artery disease (CAD) with green (Japanese) tea. Is it the Japanese paradox?. 18th World Congress of the International Union of Angiology (Tokyo), 1998. 9.
 - 3) Sakai S, Ibuki C¹⁾, Okamatsu K, Ohkuni S, Takayama M¹⁾, Imaizumi T²⁾, Uemura R, Sekido M¹⁾, Tomita Y¹⁾, Kusama K¹⁾, Munakata K¹⁾, Takano T¹⁾, Lee T¹⁾ (1) 付属病院第1内科, 2) 千葉北総病院集中治療部): Clinical and angiographic predictors of the coronary dissections in cutting balloon angioplasty. 18th World Congress of the International Union of Angiology (Tokyo), 1998. 9.
 - 4) Sano J, Okamatsu K, Takano M, Ohno N, Matsumoto S, Tomimura M, Sakai S, Ohmura K, Fukuma Y, Ohkuni S, Mizuno K: Why Japanese have low frequency of coronary artery disease? Effect of green tea on coronary stenosis. 71st Scientific Sessions of American Heart Association (Dallas U.S.A.), 1998. 11.
 - 5) Sakai S, Mizuno K, Okamatsu K, Yokoyama S, Ohno N, Matsumoto S, Ohkuni S, Imaizumi T¹⁾, Tanaka K¹⁾, Takayama M²⁾, Munakata K²⁾, Takano T²⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部, 2) 付属病院集中治療室): Coronary angioscopic findings in the infarct related lesion before and after stent implantation in patients with acute myocardial infarction. 71st Scientific Sessions of American Heart Association (Dallas U.S.A.), 1998. 11.
 - 6) 岡松健太郎, 高野雅充, 横山真也, 大野則彦, 松本 真, 北村克弘¹⁾, 酒井俊太, 佐野純子, 水野杏一, 早川弘一²⁾ (1) 防衛医科大学第一内科, 2) 付属病院第1内科): 血管内エコー (IVUS) 像, 心電図 (ECG) および冠動脈内圧同時記録法によるCoronary Artery Distensibility (DIST) とプラークとの関係. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
 - 7) 横山真也, 水野杏一, 大國眞一, 酒井俊太, 多田裕美子, 大村和子, 松本 真, 岡松健太郎, 大野則彦, 三浦

- 洋司, 小川見生, 小原俊彦¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 田中啓治¹⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部) : 血管内視鏡ガイド下インターベンションが有用であった症例. 第12回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 1998. 4.
- 8) 品田卓郎¹⁾, 森田典成¹⁾, 土田貴也¹⁾, 吉田博史¹⁾, 高山英男¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 田中啓治¹⁾, 瀬尾継彦, 酒井俊太, 大國眞一, 水野杏一 (1) 千葉北総病院集中治療部) : PCPSとカテーテルインターベンションによって救命しえた右肺動脈主幹部完全閉塞の1例. 第168回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1998. 6.
- 9) 大塚美穂, 酒井俊太, 石井新哉, 大野則彦, 松本 真, 福間祐美子, 大村和子, 大國眞一, 水野杏一, 今泉孝敬¹⁾, 田中啓治¹⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部) : 心不全を契機に診断された偽性特発性副甲状腺機能低下症の1例. 第168回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1998. 6.
- 10) 横山真也, 水野杏一, 大國眞一, 佐野純子, 酒井俊太, 多田裕美子, 松本 真, 大野則彦, 岡松健太郎, 小川見生 : 抗高脂血症薬投与によるトロンビモジュリンの増加とその意義. 第30回日本動脈硬化学会総会, 1998. 6.
- 11) 岡松健太郎, 横山真也, 大野則彦, 松本 真, 酒井俊太, 大國眞一, 今泉孝敬¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院集中治療部) : 経皮的冠動脈形成術 (PTCA) 後に認められた coronary artery distensibility (DIST) の改善とその意義. 第4回日本血管内治療学会, 1998. 7.
- 12) 張 静, 岡松健太郎, 稲見茂信, 大野則彦, 横山真也, 松本 真, 大村和子, 福間裕美子, 酒井俊太, 大國眞一, 水野杏一 : 急性心筋梗塞に対しステントは他のインターベンションに比べ効果があるか—血管内視鏡による血栓の観察. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 13) 里村公生¹⁾, 磯田菊生¹⁾, 山岸 正¹⁾, 田原敬典¹⁾, 西川健一郎¹⁾, 荒川 宏¹⁾, 渋谷利雄¹⁾, 大鈴木孝¹⁾, 水野杏一 (1) 防衛医科大学第一内科) : 冠動脈軽~中等度狭窄病変ではどのような症例に血管内視鏡検査を行うか. 第46回日本心臓病学会学術集会, 1998. 9.
- 14) 土田貴也¹⁾, 吉田博史¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 池田真人¹⁾, 高山英男¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 野村敦宣¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 田中啓治¹⁾, 大國眞一, 水野杏一, 牧野俊郎²⁾, 小林一士²⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部, 2) 新東京国際空港クリニック) : ドイツからの機内で発症し, pulse infusion thrombolysis (PIT) が有効であった肺動脈血栓塞栓症 (traveller's thrombosis) の1例. 第169回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 15) 大野則彦, 相沢瑞穂, 張 静, 稲見茂信, 岡松健太郎, 松本 真, 大村和子, 福間祐美子, 酒井俊太, 大國眞一, 水野杏一, 田邊 潤¹⁾, 池田真人¹⁾, 高山英男¹⁾, 野村敦宣¹⁾, 今泉孝敬²⁾, 田中啓治²⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部, 2) 付属病院第1内科) : ステント留置後閉塞に対し, 血管内視鏡にて no reflow を確認し, 適切な治療を選択し得た1例. 第13回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 1998. 9.
- 16) 張 静, 水野杏一, 稲見茂信, 岡松健太郎, 大野則彦, 横山真也, 松本 真, 大村和子, 酒井俊太, 福間祐美子, 大國眞一 : 抗高脂血症剤による接着因子の変化. 第19回日本臨床薬理学会, 1998. 11.
- 17) 岡松健太郎, 稲見茂信, 大野則彦, 松本 真, 大村和子, 福間祐美子, 酒井俊太, 大國眞一, 今泉孝敬¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院集中治療部) : Acute coronary syndrome (ACS) における coronary artery distensibility (DIST) の検討. 第12回日本冠疾患学会, 1998. 11.
- 18) 稲見茂信, 相沢瑞穂, 張 静, 岡松健太郎, 大野則彦, 松本 真, 大村和子, 福間祐美子, 酒井俊太, 大國眞一, 水野杏一 : 心筋梗塞に対する各インターベンション1ヶ月後の血管内視鏡による観察. 第12回日本冠疾患学会, 1998. 11.
- 19) 大野則彦, 松本 真, 海老沢雅子, 相沢瑞穂, 張 静, 稲見茂信, 岡松健太郎, 大村和子, 福間裕美子, 酒井俊太, 大國眞一, 水野杏一, 小野卓哉²⁾, 野村敦宣¹⁾, 齋藤寛和²⁾, 新 博次²⁾, 早川弘一²⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部, 2) 付属病院第1内科) : ジソピラミドが有効であった排便時失神の1例. 第169回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1998. 12.
- 20) 田邊 潤¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 野村敦宣¹⁾, 高山英男¹⁾, 松田裕之¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 田中啓治¹⁾, 酒井俊太, 水野杏一, 宮崎義也, 石橋 巖, 沖本光典 (1) 千葉北総病院集中治療部) : 開頭術中に左内胸

- グラフト (LITAG) の閉塞を起こし、血管内エコーと内視鏡にて確認しつつ緊急ステント留置術を行った、稀な発症機序を有すると思われたAMIの1例。第170回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1998. 12.
- 21) 高橋保裕¹⁾, 酒井俊太, 田邊 潤, 稲見茂信, 横山真也, 大場崇芳, 張 静, 松本 真, 大村和子, 大國眞一, 水野杏一, 清宮康嗣¹⁾, 松田裕之¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高山守正, 山内茂生¹⁾ (千葉北総病院集中治療部): Empty lipid pool像を血管内視鏡と血管内エコーで観察した非Q波前壁梗塞の1例。第171回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1999. 2.
 - 22) 竹永清人, 土田貴哉, 稲見茂信, 横山真也, 大場崇芳, 張 静, 松本 真, 大村和子, 酒井俊太, 大國眞一, 水野杏一: β -blocker投与により冠動脈攣縮が誘発されたと推測された1例。日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.
 - 23) 酒井俊太, 稲見茂信, 横山真也, 大場崇芳, 松本 真, 張 静, 大村和子, 大國眞一, 水野杏一, 清宮康嗣¹⁾, 松田裕之¹⁾, 野村敦宣¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 田中啓治¹⁾, 早川弘一²⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部, 2) 付属病院第1内科): 冠動脈インターベンション時の冠動脈内視鏡施行の意義に関する検討。第63回日本循環器学会総会, 1999. 3.
 - 24) 岡松健太郎, 水野杏一, 大國眞一, 酒井俊太, 大村和子, 松本 真, 横山真也, 稲見茂信, 竹永清人, 張 静, 早川弘一¹⁾ (1) 付属病院第1内科): Acute coronary syndrome (ACS) 発症におけるcoronary artery distensibility (DIST) の重要性。第63回日本循環器学会総会, 1999. 3.
 - 25) 稲見茂信, 竹永清人, 土田貴也, 張 静, 大場崇芳, 横山真也, 松本 真, 大村和子, 酒井俊太, 大國眞一, 水野杏一: STENTの再狭窄が少ない機序—血管内視鏡による検討。第63回日本循環器学会総会, 1999. 3.
 - 26) 横山真也, 水野杏一, 稲見茂信, 大場崇芳, 松本 真, 張 静, 大村和子, 酒井俊太, 大國眞一: 急性冠疾患に関する黄色プラークの意義。第63回日本循環器学会総会, 1999. 3.
 - 27) 大場崇芳, 水野杏一, 大國眞一, 稲見茂信, 横山真也, 松本 真, 張 静, 大村和子, 酒井俊太, 田中啓治¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 竹永清人, 早川弘一²⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部, 2) 付属病院第1内科): 炎症性疾患は急性冠症候群の発症因子になりうるか?—冠動脈内視鏡による検討—。第63回日本循環器学会総会, 1999. 3.
 - 28) 水野杏一, 佐野純子, 大國眞一, 酒井俊太, 大村和子, 松本 真, 横山真也, 稲見茂信: 何故日本人には喫煙者が多いにもかかわらず、冠動脈疾患が少ないか。第96回日本内科学会講演会, 1999. 3.
 - 29) 大村和子, 水野杏一, 宮内靖史¹⁾, 小林義典¹⁾, 斎藤寛和¹⁾, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 付属病院第1内科): I群抗不整脈薬により心房粗動に移行した心房細動例の臨床的特徴。第96回日本内科学会講演会, 1999. 3.
 - 30) 日野光紀, 服部達也, 田中恵美, 上原隆志, 白杵二郎, 古田知行, 林原賢治, 水野杏一, 五味潤誠, 真崎義隆, 大秋美治: 血痰精査で来院し気管支内にポリープ状発育呈した腺様嚢胞癌の1例。第5回東葛肺癌研究会, 1998. 6.
 - 31) 峰岸祐司, 日野光紀, 古田知行, 小久保豊, 柚 知行, 上原隆志, 田中恵美, 五味潤誠, 真崎義隆, 大秋美治: Lymphoepithelioma-like carcinomaが疑われた小型肺癌の1例。第6回東葛肺癌研究会, 1998. 11.
 - 32) 葉山修陽, 金子朋広, 須賀 優, 飯野靖彦, 赫 彰郎, 竹内正至, 栗原 怜: ネフローゼ症候群における血管内皮細胞マーカーについて。第41回日本腎臓学会学術総会, 1998. 5.
 - 33) 河邊満彦, 大沢弘和, 橋本和政, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎: GFR64ml/min.から4.2ml/min.までの腎機能障害患者における骨survey。第41回日本腎臓学会学術総会, 1998. 5.
 - 34) 内海甲一, 久保田憲, 加瀬良一, 伊藤孝司, 新本美智枝, 斎藤 博, 葉山修陽, 飯野靖彦, 桜庭 均: 糖尿病患者における尿中ビトロネクチンレセプター (VNR,インテグリン $\alpha v \beta 3$) 排泄の増加。第41回日本腎臓学会学術総会, 1998. 5.
 - 35) 飯島真一, 小原功裕, 樋上駿, 黒沢範夫, 斎藤貴之, 添田耕司, 江崎昌俊, 岡本一弘, 吉村一義, 田部井薫,

- 飯野靖彦：離島（伊豆大島）透析室，臨床工学士派遣と支援対策の経験．第43回日本透析医学会学術集会総会，1998．5．
- 36) 大藪英一，栗原 怜，大和田一博，桜井裕成，小野田教高，米島秀雄，葉山修陽，松信精一，青木 宏，飯野靖彦：外来維持血液透析患者の上気道常在病原性菌の検討．第43回日本透析医学会学術集会総会，1998．5．
- 37) 藤井克彦，吉田 晃，青木 宏，飯野靖彦，吉田和弘，秋元成太：ネフローゼ症候群を発症し，透析を要した Minor glomerular abnormalities の1例．第43回日本透析医学会学術集会総会，1998．5．
- 38) 岩田ともみ，白田和弘，山室 学，山口 博，駒場祐一，五十嵐博中，神谷達司，坂本静樹，片山泰朗：免疫吸着療法が有効であった Bickerstaff 型脳幹脳炎の1例．第468回日本内科学会関東地方会，1998．11．
- 39) 葉山修陽，金子朋広，須賀 優，飯野靖彦，北村博司：追生検を施行し得た難治性ネフローゼ症候群の1症例．第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998．11．
- 40) 鎌野千佐子，青木 宏，大沢弘和，橋本和政，清水光義，大藪英一，松信精一，飯野靖彦，片山泰朗，平松久弥子，北村博司，山中宣昭：線維性半月体と著明急速進行性腎炎の1例．第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998．11．
- 41) 森 貴博，松信精一，大藪英一，飯野靖彦，片山泰朗，北村博司，山中宣昭：自己抗体陽性を示し，経過中に腎機能低下を認め特異な血管病変を呈した1例．第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998．11．
- 42) 柏木哲也，鎌野千佐子，中村 正，松信精一，河辺満彦，葉山修陽，飯野靖彦，片山泰朗：慢性維持透析中の多発性嚢胞患者の出産例について．第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998．11．
- 43) 須賀 優，金子朋広，葉山修陽，北村博司，飯野靖彦：非特異的な組織像でネフローゼを呈した hepatic glomerulopathy の1症例．第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998．11．
- 44) 柏木哲也，鎌野千佐子，中村 正，松信精一，河辺満彦，葉山修陽，飯野靖彦，片山泰朗：慢性維持透析中の多発性嚢胞腎患者の出産例について．第28回日本腎臓学会東部学術大会，1998．11．
- 45) 鎌野千佐子，白田和弘，大沢弘和，松信精一，五十嵐博中，神谷達司，坂本静樹，飯野靖彦，片山泰朗：糖尿病性腎症によるネフローゼ症候群に化膿性脊椎炎を合併した1例．第469回日本内科学会関東地方会，1998．12．

[千葉北総病院集中治療部]

研究概要

本年はわが国で初めて脳死臓器移植が行われた脳死移植元年にあたる．千葉北総病院集中治療部も開院からすでに5年を経過し，救命された多くの症例のなかにも心臓移植の適応となりうる症例が認められるようになった．

心筋梗塞は5年間で336例となり，このうち極めて重篤であったLMT梗塞が6例あった．これらに対し gtx を用いた Y 字ステント留置と PCPS および CHDF の併用療法を行ってきた．これによってほとんど突然死同然であった LMT 梗塞も救命することが可能となった．しかし，救命できても心機能の低下は著明であり，左室駆出率20%をしたまわり，日常生活が困難な症例がある．この様な38歳のLMT梗塞が当院で初めての移植適応者として申請中である．

本年のもう一つの特徴は血液浄化法と経皮的心肺補助法の併用療法についての研究がまとまったことである．これについていくつかのシンポジウムにて発表し，新しい治療法と認識された．

これからの目標を以下に列挙した．新東京国際空港を中心とした国際循環器疾患患者移送システム（ヘリ移送やフライングドクターも含めて）に関する研究を救命救急部と協力しながら行い，この構築に努力する．急性大動脈解離ならびに肺血栓塞栓症のカテーテル治療に関して，体系づくりを行う．近年進歩の著しい頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーションを緊急治療法として集中治療で用いる．今までに経皮的心肺補助法と血液浄化法を同時に行う方法を考案したが，さらにこれを発展させ，簡易的多臓器不全治療装置を完成させたい．付属千葉北総病院でこの5年間に集積した急性心筋梗塞や急性心不全などの貴重な臨床データを見直す時期にきたと考えている．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 小原俊彦, 田中啓治, 清宮康嗣, 丸山光紀, 笠神康平, 田中 隆, 高山英男, 今泉孝敬, 加藤孝雄¹⁾ (1) 第一内科)：心原性ショックに伴う難治性心室性不整脈にカリウムチャネル遮断薬 MS-551 が著効を示した1例。集中治療 1998；10：1120-1125.

著書

- 1) 田中啓治：〔分担〕急性心不全, 肺水腫. 疾患別最新処方 (矢崎義雄, 戸田剛太郎監修), 1998；pp22-23, メジカルビュー社.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 松田裕之, 田中啓治, 高橋保裕, 愛須紀子, 清宮康嗣, 野村敦宣, 今泉孝敬：PCPSから多臓器補助システムへの発展の可能性 (主題；PCPSの現状と将来への展望). 第12回日本医工学治療学会学術集会, 1999. 2.
- 2) 清宮康嗣, 田中啓治, 田邊 潤, 池田真人, 高山英男, 野村敦宣, 今泉孝敬：急性心不全に対する血液浄化法の適応 (主題；クリティカルケアにおける持続的血液浄化法の適応と有用性). 第26回日本集中治療医学会総会, 1999. 3.
- 3) 清宮康嗣, 田中啓治, 田邊 潤, 池田真人, 高山英男, 野村敦宣, 今泉孝敬：急性心筋梗塞に伴う難治性心不全に対する血液浄化法の適応. 第26回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.

(2) 一般講演：

- 1) 愛須紀子, 高橋保裕, 野村敦宣, 清宮康嗣, 松田裕之, 今泉孝敬, 田中啓治, 大場崇芳¹⁾, 川口祥子¹⁾, 東直行²⁾, 服部怜美²⁾, 保坂純郎³⁾, 岡田 進³⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 同 皮膚科, 3) 同 放射線科)：ハイドロライザーによる血栓吸引療法を行った急性肺血栓塞栓症を伴う Klippel-Trenaury-weber 症候群 (KTWS) の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第171回学術集会, 1998. 2.
- 2) 高橋保裕¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 横山真也¹⁾, 張 静¹⁾, 松本 真¹⁾, 大村和子¹⁾, 大國眞一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 清宮康嗣, 松田裕之, 今泉孝敬, 田中啓治, 高山守正²⁾, 山内茂生³⁾ (1) 千葉北総病院循環器センター, 2) 付属病院集中治療室, 3) 千葉北総病院胸部外科)：“Empty lipid pool” 像を血管内視鏡と血管内エコーで観察した非Q波前壁梗塞の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第171回学術集会, 1998. 2.
- 3) 田邊 潤, 今泉孝敬, 野村敦宣, 酒井俊太¹⁾, 高山英男, 岡松健太郎¹⁾, 池田真人, 田中啓治, 宮崎義也²⁾, 石橋 巖²⁾, 沖本光典³⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 千葉県救急医療センター循環器科, 3) 同 外科)：開頭術中に左内胸動脈グラフト (LITAG) 閉塞を起こし, 緊急ステント留置術を行い救命しえた発症機序希有な1例. 第26回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 4) 今泉孝敬, 田中啓治, 野村敦宣, 小原俊彦, 高山英男, 吉田博史, 森田典成, 品田卓也, 土田貴也, 田邊 潤, 池田真人：大動脈バルンポンピング (IABP) 抜去時における経皮的血管縫合器 (Proster-XL) の有用性について. 第26回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 5) 高山英男, 野村敦宣, 今泉孝敬, 田中啓治：心不全急性増悪期の血中 ANP 濃度と BNP 濃度の関係：サブセットを用いた検討. 第26回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 6) 田中啓治, 吉田博史, 野村敦宣, 高山英男, 今泉孝敬, 益子邦彦¹⁾, 牧野俊郎²⁾ (1) 千葉北総病院救急救命部, 2) 新東京空港クリニック)：海外, 航空機内, 空港で発症した重症循環器疾患患者の新東京国際空港：病院間移送について. 第26回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 7) 酒井俊太¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 横山真也¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 松本 真¹⁾, 張 静¹⁾, 大村和子¹⁾, 大國眞一¹⁾, 水野杏

- 一¹⁾、清宮康嗣、松田裕之、野村敦宣、今泉孝敬、田中啓治、早川弘一²⁾ (1) 千葉北総病院内科、²⁾ 第一内科)：冠動脈インターベンション時の冠動脈内視鏡施行の意義に関する検討。第63回日本循環器学会総会・学術集会、1998. 3.
- 8) 清宮康嗣、高橋保裕、愛須紀子、松田裕之、高山英男、野村敦宣、小原俊彦、今泉孝敬、田中啓治、加藤貴雄¹⁾ (1) 第一内科)：急性心筋梗塞に伴う虚血性不整脈に対するカリウムチャンネル遮断薬MS-551の有用性。第63回日本循環器学会総会・学術集会、1998. 3.
- 9) 品田卓郎、森田典成、土田貴也、吉田博史、高山英男、小原俊彦、今泉孝敬、田中啓治、瀬尾継彦¹⁾、酒井俊太¹⁾、大國眞一¹⁾、水野杏一¹⁾ (1) 千葉北総病院内科)：PCPSとカテーテルインターベンションによって救命しえた右肺動脈主幹部完全閉塞の1例。日本循環器学会関東甲信越地方会第168回学術集会、1998. 6.
- 10) 大塚美穂¹⁾、酒井俊太¹⁾、石井新哉¹⁾、大野則彦¹⁾、松本 真¹⁾、福間祐美子¹⁾、大村和子¹⁾、大國眞一¹⁾、水野杏一¹⁾、今泉孝敬、田中啓治 (1) 千葉北総病院内科)：心不全を契機に診断された偽性特発性副甲状腺機能低下症の1例。日本循環器学会関東甲信越地方会第168回学術集会、1998. 6.
- 11) 今泉孝敬、田中啓治、土田貴也、吉田博史、高山英男、石井健輔、小原俊彦、岡田 進¹⁾、隈崎達夫¹⁾ (1) 千葉北総病院放射線科)：重篤な合併症を伴った急性大動脈解離に対する緊急カテーテルインターベンションの有用性。第46回日本心臓病学会学術集会、1998. 9.
- 12) 田中啓治、土田貴也、吉田博史、高山英男、小原俊彦、今泉孝敬：ACE阻害薬を服用中に急性増悪した慢性心不全患者の病態。第46回日本心臓病学会学術集会、1998. 9.
- 13) 今泉孝敬、高山英男、小原俊彦、田中啓治：急性大動脈解離に対する緊急カテーテルインターベンションの有用性。第12回千葉県重症患者管理研究会、1998. 9.
- 14) 土田貴也、吉田博史、田邊 潤、池田真人、高山英男、小原俊彦、野村敦宣、今泉孝敬、田中啓治、大國眞一¹⁾、水野杏一¹⁾、牧野俊郎²⁾、小林一士³⁾ (1) 千葉北総病院内科、²⁾ 新東京国際空港クリニック、³⁾ 横須賀共済病院循環器内科)：ドイツからの機内で発症し、pulse infusion thrombolysis (PIT) が有効であった肺動脈血栓塞栓症 (travellers thrombosis) の1例。日本循環器学会関東甲信越地方会第169回学術集会、1998. 9.
- 15) 高山英男、田中啓治、田中 隆、小原俊彦、今泉孝敬、子島 潤、高野照夫¹⁾、加藤貴雄²⁾ (1) 付属病院集中治療室、²⁾ 第一内科)：カリウムチャンネル遮断薬MS-551が心筋梗塞急性期の循環動態に及ぼす影響。第15回日本心電学会学術集会、1998. 10.
- 16) 高山英男、小原俊彦、今泉孝敬、田中啓治：慢性不全急性増悪期の血中ANP濃度とBNP濃度の関係：サブセットを用いた検討。第35回日本臨床生理学会総会、1998. 10.
- 17) 吉田博史、田中啓治、野村敦宣、高山英男、今泉孝敬、益子邦彦¹⁾、牧野俊郎²⁾、濱本 紘³⁾ (1) 救命救急部、²⁾ 新東京国際空港クリニック、³⁾ 榎原記念病院)：ハワイで発症しチャーター機で帰国、新東京国際空港と病院間をへり移送し緊急ステント留置術を行った急性心筋梗塞の1例。第7回日本集中治療医学会関東甲信越地方会、1998. 12.
- 18) 田邊 潤、今泉孝敬、野村敦宣、高山英男、松田裕之、高橋保裕、愛須紀子、清宮康嗣、田中啓治、酒井俊太¹⁾、水野杏一¹⁾、宮崎義也²⁾、石橋 巖²⁾、沖本光典³⁾ (1) 千葉北総病院内科、²⁾ 千葉県救急医療センター循環器科、³⁾ 千葉県救急医療センター外科)：開頭術中に左内胸グラフト (LITAG) の閉塞を起こし、血管内エコーと内視鏡にて確認しつつ緊急ステント留置術を行った、稀な発症機序を有すると思われたAMIの1例。日本循環器学会関東甲信越地方会第170回例会、1998. 12.

[千葉北総病院病理部]

研究概要

開院以来、診療各科より病理部に提出された症例を用い、病理組織診断に寄与する疾患の形態学的解析を中心に行

っている。また、あわせて新しい方法論の開発も継続中である。

1) 消化器系腫瘍の検索については、これまでの大腸癌に引き続き、消化管間質系腫瘍に関する臨床病理学的検索を行った。

2) アルツハイマー病を中心とする中枢神経系変性疾患につき、その発生機序の解明を法医学教室、病理学第二講座との共同研究で進行中である。

3) 婦人科病理につき当院産婦人科と共同で、子宮癌に対する治療における病理組織形態や細胞診像の変化を中心に検索中である

4) これまで脳腫瘍や乳腺腫瘍症例における細胞像の解析を進めてきたが、さらに脳腫瘍の細胞像につき各種組織型の細胞診的な特徴の解析を行った。また、細胞診検体に対しての電子顕微鏡を用いた超微形態像の観察についても引き続き進行中である。

5) これまで行ってきた新しい電顕試料作成法である薄層広視野樹脂包埋法 (Film sheet epoxy resin embedding method (FSEM)) に加え、光顕試料作成時の標本カセットの改良を試みた。

6) 診療各科より提出された症例の中から稀有な症例を中心に、光顕、電顕、免疫組織学的検索を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) He Q¹⁾, Ohaki Y, Mori O, Asano G²⁾, Asano T³⁾ (1) Department of Pathology, Nippon Medical School, Hokusou, Hospital, 2) 2nd. Department of Pathology, Nippon Medical School, 3) Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, Hokusou, Hospital) : Solitary fibrous tumor of the pleura : report of a case with immunohistochemical and ultrastructural study. Medical Electron Microscopy 1998 ; 31 : 147-150.
- 2) Hoshino S¹⁾, Tamaoka A²⁾, Takahashi M³⁾, Kobayashi S⁴⁾, Furukawa T⁴⁾, Oaki Y⁵⁾, Mori O⁵⁾, Matsuno S²⁾, Shoji S²⁾, Inomata M⁶⁾, Teramoto A⁷⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Hokusoh Hospital, 2) Department of Neurology, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba, 3) Yamanouchi Pharmaceutical, 4) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Hokusoh Hospital, 5) Department of Pathology, Nippon Medical School, Hokusoh Hospital, 6) Health Science Research Institute, 7) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Emergence of immunoreactivities for phosphorylated tau and amyloid- β protein in chronic stage of fluid percussion injury in rat brain. Neuro Report 1998 ; 9 (8) : 1879-1883.
- 3) He Q¹⁾, Mori O, Ohaki Y, Asano G²⁾, Tuboi N³⁾ (1) Department of Pathology, Nippon Medical School, Hokusou Hospital, 2) 2nd. Department of Pathology, Nippon Medical School, 3) Department of Urology, Nippon Medical School) : A case report of renal cell tumor in a 45-year-old female mimicking lower portion nephrogenesis. Pathology International 1998 ; 48 : 416-420.
- 4) Tanaka N¹⁾, Onda M, Seya T, Kanazawa Y, Naito Z²⁾, Asano G²⁾, Oguro T (1) First Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Establishment and Characterization of a human rectal neuroendocrine carcinoma xenograft into nude mouse. Digestion 1999 ; 60 : 117-124.
- 5) 森 修, 大秋美治, 小黑辰夫, 清水秀樹, 三枝順子, 早澤久美, 安藤 哲, 於保倫之助¹⁾, 岡田 進²⁾, 坪井成美³⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 同放射線科, 3) 同泌尿器科) : 排尿障害と歩行障害で発症した intravascular malignant lymphomatosis. 日医大誌 1998 ; 65 (3) : 249-251.
- 6) 渡辺健一¹⁾, 野中 学, 小坂和己, 嘉村恵理子, 青木秀治, 八木聡明²⁾, 大秋美治 (1) 千葉北総病院耳鼻科,

2) 付属病院耳鼻科) : 外耳道部に発生した母斑細胞性母斑の1例. 耳鼻と臨床 1998 ; 44 : 335-337.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演 :

- 1) 上原隆志¹⁾, 日野光紀¹⁾, 平松久弥子¹⁾, 海老沢雅子¹⁾, 伊藤永喜¹⁾, 古田知行¹⁾, 林原賢治¹⁾, 工藤翔二²⁾, 葉山修陽¹⁾, 大秋美治¹⁾ (千葉北総病院内科, ²⁾ 第4内科) : 顕微鏡的多発性動脈炎の治療経過中に2種類の肺病変を呈した1例. 第132回日本結核病学会関東支部, 第127回日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 1997. 1.

(1) 一般講演 :

- 1) Kawanami O¹⁾, Ghazizadeh M¹⁾, Jin E¹⁾, Takemura T²⁾, Ohaki Y (¹⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital) : Mosaic distribution of endothelial cell markers in microvasculatures of pulmonary and bronchial arteries in occupational and institutional lung diseases. The First Korea-Japan Joint Symposium of Occupational Lung Disease (Seoul), 1998. 8.
- 2) Shimizu H¹⁾, Ghazizadeh M¹⁾, Egawa S¹⁾, Jin E¹⁾, Kawanami O¹⁾, Ohaki Y (¹⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School) : Ploidy analysis in bronchioloalveolar cell carcinoma. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 3) Jin E¹⁾, Ghazizadeh M¹⁾, Kawanami O¹⁾, Ohaki Y, Takemura T²⁾ (¹⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital) : Phenotypic shift of pulmonary capillary endothelium from alveolar to bronchial type in adenocarcinoma of the lung. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 4) 何 群, 大秋美治, 森 修, 鴨井青龍¹⁾, 河村 堯¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院産婦人科) : 子宮内膜癌に合併した間質 sex-cord腫瘍の1例. 第9回日本病理医協会関東支部, 千葉地区集会 (千葉), 1998. 3.
- 5) 何 群, 大秋美治, 森 修, 森山雄吉¹⁾, 喬 炎²⁾, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 第2病理) : 大腸癌における予後推定因子の形態学的, 細胞生物学的検討. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 6) 金 恩京¹⁾, ガジザデモハマド¹⁾, 大秋美治, 武村民子²⁾, 川並汪一¹⁾ (¹⁾ 日本医大老人病研究所, ²⁾ 日赤医療センター病理) : 細気管支肺胞上皮癌における肺胞毛細血管内皮細胞の再生機序. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 7) 秦 漢, 大秋美治, 森 修, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理) : 後腹膜に発生した巨大 inflammatory myofibroblastic tumor の1例—光顕的, 電顕的, 免疫組織学的検索. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 8) 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 丸山晴久¹⁾, 澤田名美枝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 森 修, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 第2病理) : 脊髄原発の末梢性 PNET (primitive neuroectodermal tumor) の2症例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 9) 森 修, 大秋美治, 於保倫之助¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科, ²⁾ 第2病理) : 進行性の対麻痺と膀胱直腸障害で発症した Intravascular malignant lymphomatosis. 第39回日本神経病理学会総会学術研究会, 1998. 5.
- 10) 山崎峰雄¹⁾, 荒木俊彦²⁾, 森 修, 新井裕至¹⁾, 赫 彰朗¹⁾, 小柳清光³⁾ (¹⁾ 第2内科, ²⁾ 川口市立医療センター神経内科, ³⁾ 東京都神経科学総合研究所神経病理学研究部門) : 家族歴を有し, 痴呆で発症した corticobasal degeneration と考えられる1剖検例. 第39回日本神経病理学会総会学術研究会, 1998. 5.
- 11) 山崎峰雄¹⁾, 小柳清光²⁾, 中村綾子²⁾, 内原俊記²⁾, 新井裕至¹⁾, 森 修, 赫 彰朗¹⁾, 中野今治³⁾ (¹⁾ 第2内科, ²⁾ 東京都神経科学総合研究所神経病理学研究部門, ³⁾ 自治医科大学神経内科) : Hallervorden-Spatz 症候

群と Gerstmann-Strausler-Scheinker 症候群亜型で認められた Gallyas 陽性 Tau 陽性グリア。39回日本神経病理学会総会学術研究会, 1998. 5.

- 12) 清水秀樹¹⁾, 三枝順子, 小黒辰夫, 早澤久美, 森 修, 大秋美治, 渡会泰彦¹⁾, 松原美幸¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 片山博徳²⁾, 前田昭太郎²⁾, 浅野伍朗³⁾ (1) 附属病院病理部, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 第2病理): 脳腫瘍圧挫細胞診における核所見の検討: その2 Glia系腫瘍以外について。第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
- 13) 三枝順子, 清水秀樹, 小黒辰夫, 早澤久美, 森 修, 大秋美治, 渡会泰彦¹⁾, 松原美幸¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 片山博徳²⁾, 前田昭太郎²⁾, 浅野伍朗³⁾ (1) 附属病院病理部, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 第2病理): 脳腫瘍圧挫細胞診における核所見の検討: その1 Glia系腫瘍について。第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
- 14) 日野光紀¹⁾, 服部達也, 田中恵美, 上原隆志, 白杵二郎, 古田知行, 林原賢治, 水野杏一, 五味淵誠²⁾, 真崎義隆, 大秋美治 (1) 千葉北総病院内科, 2) 千葉北総病院胸部外科): 血痰精査で来院し気管内にポリープ状発育を呈した腺様嚢胞癌の1例。第5回東葛肺癌研究会, 1998. 6.
- 15) 山崎峰雄¹⁾, 荒木俊彦²⁾, 森 修, 小柳清光³⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医大第2内科, 2) 川口市立医療センター神経内科, 3) 東京都神経科学総合研究所神経病理学研究部門): 家族歴を有し, 痴呆で発症した corticobasal degeneration と考えられる1剖検例。第145回日本神経学会関東地方会, 1998. 6.
- 16) 岩崎卓爾¹⁾, 里見操緒¹⁾, 高橋 肇¹⁾, 品川志野¹⁾, 若月雅美¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 河村 堯¹⁾, 大秋美治, 荒木勤²⁾ (1) 千葉北総病院産婦人科学, 2) 産婦人科学): 術後, 胃壁内転移を認めた卵巣癌の1例。第27回日本産婦人科病理, コルポスコピー学会学術集会, 1998. 7.
- 17) 鴨井青龍¹⁾, 大秋美治, 高橋 肇¹⁾, 河村 堯¹⁾, 荒木 勤²⁾, 杉崎祐一³⁾ (1) 千葉北総病院産婦人科, 2) 産婦人科学, 3) 附属病院病理部): 子宮頸部腺癌における術前動注化学療法の病理組織学的効果判定の試み。第27回日本産婦人科病理, コルポスコピー学会学術集会, 1998. 7.
- 18) 三枝順子, 早澤久美, 安藤 哲, 清水秀樹, 小黒辰夫, 森 修, 大秋美治, 松山郁生¹⁾, 土屋真一¹⁾ (1) 長野県がん検診センター病理部): Tissue cassette (固定・包埋用) 改良型を用いた試料作成の検討。第35回関東甲信地区医学検査学会, 1998. 9.
- 19) 相馬広明¹⁾, 大澤洋之¹⁾, 渡辺芳明¹⁾, 畑 俊夫¹⁾, 小黒辰夫, 工藤玄恵²⁾ (1) 埼玉医科大学産婦人科, 2) 東京医科大学病理学): 原因不明の反復胎児水腫胎盤の電顕的検索から得た情報: Gaucher細胞の検出。第30回日本臨床電子顕微鏡学会, 1998. 9.
- 20) 東 恵子¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 小黒辰夫, 大秋美治, 浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 第2病理): 脊髄原発の末梢性PNET2症例の電子顕微鏡的検討。第30回日本臨床電子顕微鏡学会, 1998. 9.
- 21) 早澤久美, 小黒辰夫, 森 修, 新井 悟, 大秋美治, 服部怜美¹⁾ (1) 千葉北総病院皮膚科): 同一個体内に色素性, 常色性の病変が異時性に隣接して発生した基底細胞腫の1例 光顕的, 電顕的, 免疫組織学的検討。第30回日本臨床電子顕微鏡学会, 1998. 9.
- 22) 小黒辰夫, 森 修, 大秋美治, 中沢南堂¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 第2病理): 乳癌の細胞質内小腺腔 (ICLs) の形成過程における超微形態学的観察。第30回日本臨床電子顕微鏡学会, 1998. 9.
- 23) 何 群, 大秋美治, 森 修, 新井 悟, 小黒辰夫, 清水秀樹, 早澤久美, 三枝順子, 安藤 哲, 田中宣威¹⁾, 山下精彦¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 第2病理): Gastrointestinal stromal tumor (GIST) の光顕的, 電顕的, 免疫組織化学的検討。第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 24) 東 敬子¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 澤田名美枝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 森川記代子¹⁾, 小黒辰夫, 大秋美治, 浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 第2病理): 末梢性PNETの3例: 電顕的PAM染色による検討。第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 25) 山田宣孝¹⁾, 相田成隆¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 矢鳥幹久¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 温 敏²⁾, 佐藤春明²⁾, 村瀬幸宏²⁾, 大塚俊司³⁾, 松本光司⁴⁾, 早澤久美, 森 修 (1) 第2病理, 2) 附属病院病理部, 3) 第二病院病理部): 日本医大第一病院病理部総括: 8年間のデータ集計。第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.

- 26) 中沢 勝¹⁾, 山崎峰雄¹⁾, 坂本静樹¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 森 修⁽¹⁾ (第2内科): 妊娠悪阻の経過中に発症し, protein-S欠損症が疑われた脳静脈洞血栓症の1剖検例. 第146回日本神経学会関東地方会, 1998. 9.
- 27) 新井 悟, 大秋美治, 森 修, 日野光紀¹⁾, 五味潤誠²⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 千葉北総病院胸部外科): Lymphangioliomyomatosis (LAM) の1例. 第10回日本病理医協会関東支部, 千葉地区集会, 1998. 10.
- 28) 岩崎卓爾¹⁾, 里見操緒¹⁾, 高橋 肇¹⁾, 品川志野¹⁾, 若月雅美¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 河村 堯¹⁾, 大秋美治, 荒木勤²⁾ (1) 千葉北総病院産婦人科, 2) 産婦人科学): 胃壁内への術後転移を認めた卵巣癌の1例. 第96回日本産婦人科学会関東連合地方部会, 1998. 10.
- 29) 枝川聖子¹⁾, 清水 一, 渡会泰彦²⁾, 太田吉男³⁾, 片山博徳⁴⁾, 小黑辰夫⁵⁾, 杉崎祐一²⁾, 松本光司³⁾, 前田昭太郎⁴⁾, 大秋美治, 川並汪一¹⁾ (1) 大学老人病研究所病理部門, 2) 附属病院病理部, 3) 第二病院病理部, 4) 多摩永山病院病理部): 気管支肺胞洗浄法によるサルコイドーシスの分析. 第37回日本臨床細胞診学会秋期大会, 1998. 11.
- 30) 何 群, 大秋美治, 森 修, 新井 悟, 小黑辰夫, 清水秀樹, 早澤久美, 三枝順子, 安藤 哲, 田中宣威¹⁾, 山下精彦¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 第2病理): Gastrointestinal stromal tumorの免疫組織化学的検討. 第9回日本医科大学外国人留学生研究会, 1998. 11.
- 31) 仁科 大¹⁾, 五味潤誠¹⁾, 真崎義隆¹⁾, 佐地嘉章¹⁾, 榎本 豊¹⁾, 山内茂生¹⁾, 田中茂生¹⁾, 大秋美治 (1) 千葉北総病院胸部外科): 肺原発lymphoepithelioma like carcinomaと考えられた1例. 第108回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1998. 12.
- 32) 三枝順子, 安藤 哲, 早澤久美, 清水秀樹, 小黑辰夫: Tissue cassette改良型を用いた試料作成の検討 (第2報). 第20回千葉県臨床衛生検査学会, 1999. 2.
- 33) 服部怜美¹⁾, 栗原和久¹⁾, 荒巻 純¹⁾, 高田香織¹⁾, 大秋美治, 秋元正字²⁾ (1) 千葉北総病院皮膚科, 2) 同形成外科): 皮膚悪性腫瘍の6例. 日本医大医学会第97回例会, 1999. 2.
- 34) 里見操緒¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 高橋 肇¹⁾, 武内 務¹⁾, 岩崎卓爾¹⁾, 若月雅美¹⁾, 松本讓二¹⁾, 河村 堯¹⁾, 新井悟, 森 修, 大秋美治 (1) 千葉北総病院産婦人科): 絨毛遺残に合併したtrophoblastic embolismの1例. 日本医大医学会第97回例会, 1999. 2.
- 35) 工藤秀徳¹⁾, 田中宣威¹⁾, 京野昭二¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 松本智司¹⁾, 井上松応¹⁾, 山下直行¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 大川敬一¹⁾, 古川恵子¹⁾, 大秋美治 (1) 千葉北総病院外科): 肝動脈塞栓術後急激な増大を来した巨大肝細胞癌の1切除例. 日本医大医学会第97回例会, 1999. 2.

[千葉北総病院中央検査室]

研究概要

臨床検査体制の拡充を図るために検査機器と試薬の有用性, 検査精度および迅速性について評価をおこなうとともに, 臨床支援の医療収入についての経済効果, 日常検査を通して得られた稀な検査成績や症例, 新東京国際空港クリニックにおける検査機器や試薬および運用方法など多方面から検討と考察を行いその成果を学会に発表した。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 町田幸雄, 亀山雅弥, 石渡統夫, 本宮とき子, 野本剛史¹⁾, 飯野幸永 (1) 付属病院中央検査部): 耳鼻科領域における診療支援体制: 特に診療支援と医療費収入について. 第47回日本臨床衛生検査学会, 1998. 5.
- 2) 野本剛史¹⁾, 石渡統夫, 町田幸雄, 亀山雅弥 (1) 付属病院中央検査部): 新東京国際空港クリニックにおける診療支援体制: 特に臨床検査領域について. 第47回日本臨床衛生検査学会, 1998. 5.

- 3) 岡本直人, 柳下照子, 笹原よし子, 市原準平, 飯野幸永, 水野杏一¹⁾ (1) 千葉北総病院内科): クロモアガーカンジダ培地導入における有用性について. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 4) 柳下照子, 笹原よし子, 岡本直人, 市原準平, 飯野幸永, 水野杏一¹⁾ (1) 千葉北総病院内科): 過去4年間の当院における血液培養分離菌の検出状況. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 5) 中田恵理, 三谷真実江, 目黒真喜子, 亀山雅弥, 飯野幸永, 水野杏一¹⁾, 牧野俊郎²⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 新東京国際空港クリニック): 国際空港における救急医療体制の中での臨床検査部門の役割. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 6) 三谷真実江, 目黒真喜子, 中田恵理, 亀山雅弥, 飯野幸永, 水野杏一¹⁾, 牧野俊郎²⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 新東京国際空港クリニック): 新東京国際空港クリニックにおけるDRI-Chem (富士AUTO-5) の有用性. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 7) 目黒真喜子, 中田恵理, 三谷真実江, 亀山雅弥, 飯野幸永, 水野杏一¹⁾, 牧野俊郎²⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 新東京国際空港クリニック): 新東京国際空港クリニックにおけるポータブル血液ガス・電解質分析装置i-STATの有用性. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 8) 石渡統夫, 町田幸雄, 岡本直人, 小林美実, 飯野幸永, 水野杏一¹⁾ (1) 千葉北総病院内科): 不規則性抗体についての統計学的検討. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 9) 小林美実, 石渡統夫, 町田幸雄, 亀山雅弥, 飯野幸永, 水野杏一¹⁾ (1) 千葉北総病院内科): 心雑音を伴わない大動脈四尖弁の1症例. 第66回日本医科大学医学学会総会, 1998. 9.
- 10) 石渡統夫, 岡本直人, 町田幸雄, 亀山雅弥, 飯野幸永: 抗Kp1抗体を認めた1症例. 第35回関東甲信地区医学検査学会, 1998. 10.

[千葉北総病院薬剤科]

研究概要

医療に貢献できる薬剤師の育成を目標として研究を行った。本年度は、外国人患者に対する薬剤情報提供、MRSA感染症に対する抗菌剤のメカニズム解明など、現場の薬剤師の視点でみた研究を行った。

研究業績

論文

(1) 総説:

- 1) 浜田康次: 誰もが気になる薬の疑問. ナーシング・トゥデイ 1998; 13 (4): 24-27.
- 2) 浜田康次: 薬害. 薬局 1998; 49 (4): 138-139.
- 3) 浜田康次: ダイオキシシン汚染. 薬局 1998; 49 (6): 138-139.
- 4) 浜田康次: 医療経済学. 薬局 1998; 49 (7): 124-125.
- 5) 浜田康次: リスク・マネジメント. 薬局 1998; 49 (8): 138-139.
- 6) 浜田康次: 医療のビッグバン (1). 薬局 1998; 49 (9): 124-125.
- 7) 浜田康次: 医療のビッグバン (2). 薬局 1998; 49 (10): 126-127.
- 8) 浜田康次: 医薬品の副作用死. 薬局 1998; 49 (11): 126-127.
- 9) 浜田康次: ノープレス・オブリージ. 薬局 1998; 49 (12): 126-127.
- 10) 浜田康次: 病院に就職する方法. ぴーぱ 1999; 3 (1): 78-79.
- 11) 浜田康次: 日本人と情報. 薬事日報 1999; (9081): 6-6.
- 12) 浜田康次: クリティカル・パス. 薬局 1999; 50 (2): 120-121.
- 13) 浜田康次: 顧客満足. 薬局 1999; 50 (3): 138-139.

著 書

- 1) 浜田康次¹⁾, 村田正弘²⁾, 百瀬和享³⁾, 柴田徹一⁴⁾, 河野健治⁵⁾, 土屋文人⁶⁾, 清水秀行⁷⁾, 武政文彦⁸⁾, 加賀谷肇⁹⁾, 石射正英¹⁰⁾, 小清水敏昌, 亀井淳三, 毛利公則 (1) 千葉北総病院薬剤科, 2) 多摩永山病院薬剤科, 3) 昭和大学薬学部, 4) 東海大学病院, 5) 新潟薬科大学, 6) 帝京大学市原病院, 7) 帝京大学市原病院, 8) 東和薬局, 9) 北里大学病院, 10) 北里大学薬学部): [共著] 用語解説. 病院実習プレトレーニング, 1998; pp152-159, ミクス.
- 2) 浜田康次¹⁾, 小清水敏昌²⁾, 古泉秀夫³⁾, 水垣一郎⁴⁾, 望月真弓⁵⁾, 加藤義男⁶⁾, 中島恵美⁷⁾, 藤上雅子⁸⁾, 堀口雅巳⁹⁾, 小山弘子¹⁰⁾, 岡本清司, 佐々木弥生, 久保田真矢, 石沢淳子, 青木 仕, 藤井 俊志 (1) 千葉北総病院薬剤科, 2) 順天堂浦安病院, 3) 国際医療センター, 4) 新香里病院, 5) 千葉大大学院, 6) 国際薬制研究交流センター, 7) 共立大学, 8) 柏戸病院, 9) 望星薬局, 10) 日本ロシュ, 福神, 厚生省健康政策局, 茨城県薬剤師会, 日本中毒情報センター, 順天堂大学, 福岡通信病院): [共著] 医薬品情報における情報源. 医薬品情報学, 1998; pp9-24, 朝倉書店.
- 3) 浜田康次: [自著] 重大な副作用ガイドブック, 1999; pp1-362, メディカルアシスト.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 宿澤美穂, 高田雅史, 佐治 守, 片岡博邦: MRSA 感染治療剤としての *gentianá@violet* の抗菌効果に関するメカニズムの解明. 関東ブロック第28回学術大会 (山梨), 1998. 8.
- 2) 保坂洋二¹⁾, 片岡博邦, 伊東頼子¹⁾, 牧野俊郎¹⁾ (1) 新東京国際空港クリニック): 外国人患者に対する薬剤情報提供の試み. 第8回日本病院学会 (横浜), 1998. 9.
- 3) 保坂洋二, 片岡 博邦, 伊東頼子¹⁾, 牧野俊郎¹⁾, 河原崎美恵子²⁾, 川崎睦子²⁾, 渡辺恭子²⁾, 小川茂子²⁾, 長沢敏子²⁾ (1) 新東京国際空港クリニック, 2) 千葉北総病院看護部): 外国人患者に対する薬剤情報提供の評価. 第31回日本薬剤師会学術大会 (札幌), 1998. 9.

[千葉北総病院中央画像検査室]

研究概要

中央画像検査室では, 診療用画像検査全般を取り扱う部門であることから, それぞれの画像検査についての研究を日常的に行っています. 一般撮影部門では, CRの画像処理パラメータの条件に対する検討や骨密度測定 of 精度向上および撮影時の整位の研究開発を各診療科との連携において進めています. 透視撮影部門では, 胃前壁二重造影を中心に体型別撮影技術の研究開発が中心となっています. MRI検査部門では, 造影3D MRAの血流背景信号の抑制による検出能の改善, クエン酸鉄アンモニウム製剤を用いた消化管信号の除去, STAR法を用いた頭部MRAの撮像条件の検討を中心に骨盤部の疑解像信号抑制やMRCP等の研究も進めています. CT検査部門では, 3DCTの信頼性の向上を目的に設定条件の検討を行っています. RI検査部門では, SPECTにおける呼吸動態と心筋の信号検出能との関係に対する検討やMRIとRIの技術を応用した循環器系の研究を進めています. 特にMRI検査部門では, 日本放射線技術学会において年間最優秀論文賞をはじめ数々の賞を受ける等目覚ましいものがあります. 今後の課題として放射線治療部門の創設に伴う治療技術の研究や画像診断を総合的取り扱った研究等があり, 他にも課題は多く存在しているものと認識しています.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 加藤丈司, 川村義彦, 富里謙一, 斉藤晴美：造影MR angiographyのシミュレーションによる検討：造影タイミングとk空間走査が血管像に及ぼす影響. 日本放射線技術学会雑誌 1998；54 (4)：505-511.
- 2) 加藤丈司, 川村義彦：Spectral selective inversion pulseを併用した造影3D MR angiography. 日本放射線技術学会雑誌 1998；54 (5)：624-629.

著書

- 1) 加藤丈司, 川村義彦：〔共著〕造影剤を使用するMRアンギオグラフィ：造影MRA撮影のテクニック. デジタルイメージングの落とし穴：CT/MRI検査の進め方とスキャンテクニック, 1999；pp206-212, 医療科学社.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 川村義彦, 渡辺典男, 杉原素子¹⁾, 金場敏憲¹⁾, 間藤方雄¹⁾, 春名克彦²⁾ (¹⁾ 国際医療福祉大学, ²⁾ 自治医科大学附属病院)：日本における医療画像の現況. 郵政省通信放送機構直轄研究開発, 1998. 8.

(2) シンポジウム：

- 1) 渡辺典男：患者さんに優しい撮影技術. 日本放射線技術学会, 1998. 11.

(3) 一般講演：

- 1) Kato J, Saito H, Tomisato K, Kawamura Y, Tajima N¹⁾, Okada S¹⁾, Kumazaki T²⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School Hospital)：Examination of Intra-gastrointestinal Tract Signal Elimination in MRCP：Combined Use of Positive Contrast Agent and Fast Inversion Recovery. International Society for Magnetic Resonance in Medicine, Seventh Annual Meeting of the Section for Magnetic Resonance Technologist (Sydney), 1998. 4.
- 2) 加藤丈司, 川村義彦：Spectral selective inversion pulseを併用した造影3D MR angiography. 日本放射線技術学会, 1998. 4.
- 3) 加藤丈司, 川村義彦, 富里謙一, 斉藤晴美：造影MR angiographyのシミュレーションによる検討：造影タイミングとk空間走査が血管像に及ぼす影響. 日本放射線技術学会, 1998. 4.
- 4) 丸山智之, 高岡慎一, 渡辺典男, 川村義彦：CRに於ける周波数処理の影響：ノイズに現れる周波数特性. 日本放射線技術学会, 1998. 4.
- 5) 渡辺典男, 丸山智之, 高岡慎一, 川村義彦：CRに於ける周波数処理時の階調処理について. 日本放射線技術学会, 1998. 4.
- 6) 渡辺典男, 丸山智之, 高岡慎一, 川村義彦：患者さんに優しい撮影技術：腰椎単純撮影. 日本放射線技術学会, 1998. 4.
- 7) 吉澤賢史, 土橋俊男¹⁾, 槇利夫¹⁾, 佐々木禎之¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科)：spectrally selected inversion recovery pulseを用いた脂肪抑制併用造影3D-MRAの検討. 日本放射線技術学会, 1998. 4.
- 8) 丸山智之, 高岡慎一, 渡辺典男, 川村義彦：患者さんに優しい撮影技術：股関節単純撮影. 日本放射線技術学会, 1998. 5.
- 9) 齋藤晴美, 土橋俊男²⁾, 櫻井実, 加藤丈司, 川村義彦, 趙圭一¹⁾, 石原真木子²⁾, 林宏光²⁾, 汲田伸一郎²⁾, 岡田進¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 森谷浩人³⁾, 高橋良行³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 付属病院放射線科, ³⁾ GE-YMS)：心拍同期法を併用した造影3D-MR Coronary Angiography：呼吸停止下における3枝同時描出の試み. 日本磁気共鳴医学会, 1998. 9.

- 10) 櫻井 実, 中村亜矢, 鬼塚鉄雄, 川村義彦, 趙 圭一¹⁾, 岡田 進¹⁾, 汲田伸一郎²⁾, 隈崎達夫²⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 付属病院放射線科) : ^{99m}Tc心筋SPECT180度再構成画像における偽欠損の検討: 心筋軸と偽欠損について. 第28回千葉核医学研究会, 1998. 9.
- 11) 櫻井 実, 中村亜矢, 鬼塚鉄雄, 川村義彦, 趙 圭一¹⁾, 岡田 進¹⁾, 汲田伸一郎²⁾, 隈崎達夫²⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 付属病院放射線科) : 180度収集心筋SPECTにおける収集開始角度と心筋軸と関係: 360度再構成画像との比較. 第38回日本核医学学会, 1998. 10.
- 12) 中村亜矢, 櫻井 実, 鬼塚鉄雄, 川村義彦, 趙 圭一¹⁾, 岡田 進¹⁾, 汲田伸一郎²⁾, 隈崎達夫²⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 付属病院放射線科) : ^{99m}Tc心筋SPECT180度収集再構成画像における偽欠損の検討: 心筋軸と偽欠損の関係について. 第38回核医学会総会, 1998. 10.
- 13) 渡辺典男, 丸山智之, 川村義彦: 整形外科領域のCR画像(四肢骨): 異なる周波数領域の両立. 日本放射線技術学会, 1998. 11.
- 14) 中村亜矢, 櫻井 実, 鬼塚鉄雄, 川村義彦: 心筋SPECTにおける心筋軸と再構成角度の相違: 360度再構成と180度再構成画像の比較. 第20回日本放射線技術学会秋期学会研究会発表会, 1998. 11.

[千葉北総病院歯科]

研究概要

高齢化社会に伴い有病者や身体障害者における口腔衛生管理は重要な課題となっております。ブラークコントロールを成功させる要因としては、ブラークコントロールの重要かつ必要性を認識させるモチベーションと、患者自身の有するブラッシングの能力との二つが考えられますが、有病者におきましては、もう一要因として、有病原因の特異性を理解し、介助者によるブラークコントロールの重要性が挙げられます。有病状態とブラークコントロールとの関係、および新しく開発された介助者による口腔内ケア器械を用いたブラークコントロールの効果について研究。

また、近年行われている歯周組織再生誘導法(Guided Tissue Regeneration: GTR法)は、歯周組織の再生を目的として開発されたバリアーとなる膜を用いることにより上皮と歯肉結合組織由来の細胞が歯根面に接するのを阻止し、歯根膜由来の細胞を誘導することにより付着器官を再生させる概念による術式である。その応用方法として、架橋アルギン酸ゲル移植材を実験的に作製したClass II分岐部骨欠損部、インプラント治療の応用によりGTR法の概念に基づく歯周組織再生が得られるかについて研究している。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 鴨井久博, 長内麻子¹⁾, 藤田博之¹⁾, 松村彰子¹⁾, 佐藤 聡¹⁾, 鴨井久一¹⁾ (1) 日本歯科大学歯学部歯周病学教室) : 実験的骨欠損部に対する吸収性補填材の応用. 第28回日本口腔インプラント学術大会, 1998. 9.
- 2) 太田有利子, 鴨井久博, 清水美穂, 長内麻子¹⁾, 藤田博之¹⁾, 吉田晶子¹⁾, 菅又 香¹⁾, 鴨井久一¹⁾ (1) 日本歯科大学歯学部歯周病学教室) : デント・エラック^(R) 使用による入院患者の口腔内ケアについて. 第41回秋季日本歯周病学会学術大会, 1998. 10.
- 3) 鴨井久博, 長内麻子¹⁾, 藤田博之¹⁾, 菅又 香¹⁾, 吉田晶子¹⁾, 鴨井久一¹⁾ (1) 日本歯科大学歯学部歯周病学教室) : 集団検診におけるPeriodontal Screening and Recording (PSR) の応用. 第1回日本歯科人間ドック学術大会, 1999. 2.

〔4〕 付 置 研 究 施 設

1. 老人病研究所

[病理部門]

研究概要

研究の背景，経緯，結果とその意義：

1) 上皮細胞の特徴に関しては，サイトケラチン亜型により気道基底細胞が少なくとも2種類の亜型で構成される事実を把握した。この発見は気道上皮細胞の幹細胞を見出す試みに弾みをつけると思われる。つまり，基底細胞は，むしろClara細胞から誘導される可能性を示す有力な根拠となり“この細胞がbronchioloalveolar carcinomaの発生母細胞である”仮説を示唆することになるかも知れない。

2) 微小血管の内皮細胞は，その表現型がheterogeneousである。肺動脈系の肺泡毛細血管は抗凝固因子であるトロンボモジュリン (TM) によく反応し，血液凝固因子である第八因子関連抗原 (Factor VIII) には陰性を示した。気管支動脈由来の間質結合組織系の毛細血管はすべからくFactor VIII陽性で，逆にTMには反応しなかった。肺の気管支動脈並びに肺動脈の二重血管系が毛細血管のレベルにおいてその表現型に明らかな違いのある事実は，この領域の研究に興味ある示唆を与えることになろう。そして，両者の微小血管の対面する境界領域では，毛細血管と小静脈の内皮細胞が両者の抗原性を発現するために，あたかもモザイク構造というべきパターンを示す。このモザイク構造にはいわゆる bronchopulmonary anastomosis の血管を含むことから，この領域の内皮細胞は，気管支動脈系すなわち系統的血管系の内皮細胞と，肺特有の肺動脈系の内皮細胞の機能的な特徴を具備している細胞集団であるといえる。この細胞群が肺における様々な傷害に反応することで内皮細胞の増生，新生血管の発生に深く関与すると言える。肺における血管病変の基本的な概念を構成する上で不可欠の発見であると思われる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Watanabe M¹⁾, Ghazizadeh M, Konishi H¹⁾, Araki T¹⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology) : Interphase cytogenetic and AgNOR analyses of hydatidiform mole. *Journal of Clinical Pathology* 1998 ; (51) : 438-443.
- 2) Nakajima M, Kawanami O, Jin E, Ghazizadeh M, Honda M¹⁾, Asano G²⁾, Horiba K³⁾, Ferrans V.J⁴⁾ (1) Department of Dermatology, 2) 2nd Department of Pathology, 3) Department of 1st Surgery, 4) NHLBI, NIH, USA) : Immunohistochemical and ultrastructural studies of basal cells, Clara cells and bronchiolar cuboidal cells in normal human airways. *Pathology International* 1998 ; 48 : 944-951.
- 3) Kisikawa T¹⁾, Ghazizadeh M, Sasaki Y¹⁾, Springer Georg F²⁾ (1) Central Institute for Electron Microscopic Researchs, 2) H. M. Bligh Cancer Research Laboratories, Finch University of Health Sciences/Chicago Medical School) : Specific role of T and Tn tumor-associated antigens in adhesion between a human breast carcinoma cell line and a normal human breast epithelial cell line. *Japanese Journal of Cancer Research* 1999 ; 90 : 326-332.
- 4) 山口朋禎¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 原文男¹⁾, 櫛方美文¹⁾, 上田征夫¹⁾, 川並汪一, 黒木伸一²⁾ (1) 第1内科, 2) 日本電気玉川健康管理センター) : 急性心筋梗塞様心電図を呈し経過中に突然死をきたした肥大型心筋症の1例. *心臓* 1998 ; 30 (4) : 69-73.
- 5) 川並汪一, 金 恩京 : 間質性肺炎と肺微小血管内皮細胞 : 障害と修復に対する領域別の特異性. *Molecular Medicine* 1999 ; 36 : 74-85.

著 書

- 1) 川並汪一, 持丸 博¹⁾ (第1病理) : [分担] 肺炎としての急性好酸球性肺炎. 新しい肺胞性肺炎間質性肺炎の臨床 (本間日臣), 1998 ; pp49-59, 克誠堂.
- 2) 川並汪一 : [分担] トロンボモジュリン. KEY WORD 呼吸器疾患 (山木戸道郎, 日和田邦男, 小倉 剛), 1999 ; pp132-133, 先端医学社.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Ohkuni H¹⁾, Kanoh T²⁾, Suzuki T²⁾, Ishimori M³⁾, Todome Y¹⁾, Ghazizadeh M (¹⁾ Department of Immunology and Infectious Diseases, ²⁾ Department of Environmental Health, Tokyo Metropolitan Research Laboratory of Public Health, ³⁾ Department of Economy Science, Tokyo Bunka Junior College) : Adjuvant activity of polycyclic aromatic hydrocarbons in diesel exhaust on IgE antibody production in mice. The Fourth International Congress of Immunology & Allergy (Isfahan), 1998. 5.
- 2) Todome Y¹⁾, Ohkuni H¹⁾, Watanabe Y¹⁾, Ghazizadeh M (¹⁾ Department of Immunology and Infectious Diseases) : Purification and partial characterization of a novel human platelet aggregation factor in the extracellular products of streptococcus mitis, strain Nm-65. The Fourth International Congress of Immunology & Allergy (Isfahan), 1998. 5.
- 3) Inoue K¹⁾, Ghazizadeh M, Todome Y²⁾, Ohkuni H²⁾ (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches, ²⁾ Department of Immunology and Infectious diseases) : Relationship of tumor infiltrating cytotoxic T lymphocytes and expression of HLA-DR and CA125 antigens in human ovarian carcinomas. The Fourth International Congress of Immunology & Allergy (Isfahan), 1998. 5.
- 4) Kawanami O, Ghazizadeh M, Jin E, Takemura T¹⁾, Ohaki Y²⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center, ²⁾ Surgical Pathology Section Hokuso Hospital) : Mosaic distribution of endothelial cell markers in microvascular pulmonary and bronchial arteries in occupational and interstitial lung disease. The 1st Korea-Japan Joint Symposium of Disease (Seoul), 1998. 8.
- 5) Ghazizadeh M, Liu Ai-M¹⁾, Jin E, Inoue K¹⁾, Hamaoka K²⁾, Onouchi Z²⁾, Shimizu H, Egawa S, Kawanami O, Todome YU³⁾, Ohkuni H³⁾, Asano G⁴⁾ (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches, ²⁾ Children's Research Hospital, Kyoto Prefectural University of Medicine, ³⁾ Department of Immunology and Infectious Diseases, ⁴⁾ 2nd Department of Pathology) : Expression of vascular endothelial growth factor and its receptors Flt-1 and KDR in Kawasaki disease. Sixth International Kawasaki Disease Symposium (Hawaii), 1999. 2.
- 6) Liu Ai-M¹⁾, Ghazizadeh M, Hamaoka K²⁾, Onouchi Z²⁾, Asano G³⁾ (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches, ²⁾ Children's Research Hospital, Kyoto Prefectural University of Medicine, ³⁾ 2nd Department of Pathology) : Coronary microvascular lesions in Kawasaki disease-An ultrastructural study. Sixth International Kawasaki Disease Symposium (Hawaii), 1999. 2.
- 7) 金 恩京, 藤原正和, ガジザデ モハマッド, 姜 莉, 武村民子¹⁾, 大秋美治²⁾, 川並汪一 (¹⁾ 日本赤十字医療センター病理部, ²⁾ 千葉北総病院病理部) : 正常及び癌における気管支微小血管と肺胞毛細血管の発現抗原の違い. 第11回気道病態シンポジウム, 1999. 1.

(2) 一般講演 :

- 1) Kawanami O, Ghazizadeh M, Jin E, Takemura T¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center) : Mosaic distribution of thrombomodulin and von Willebrand factor in the endothelial cells at anastomotic microvessels between pulmonary and bronchial arteries. 9th. Annual Lung Development Research

- Conference-Injury and Repair- (Tokyo), 1998. 6.
- 2) Tanaka E¹⁾, Takahashi T¹⁾, Azuma A¹⁾, Enomoto T¹⁾, Miyamoto H¹⁾, Sato M²⁾, Kawanami O, Kudoh S¹⁾ : Characteristic cell patterns in fractionated bronchioalveolar lavage of patients with diffuse panbronchiolitis. 6th International Conference on Bronchioalveolar Lavage (Corfu), 1998. 6.
 - 3) Ghazizadeh M, Watanabe M¹⁾, Shimizu H, Egawa S, Jin E, Kawanami O, Araki T¹⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology) : Analysis of ploidy in hydatidiform moles. 87th Japan Pathology Society Congress, 1998. 4.
 - 4) Kawanami O, Ghazizadeh M, Jin E, Takemura T¹⁾ (1) Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center) : Mosaic distribution of thrombomodulin and von Willebrand factor in the endothelial cells at anastomotic microvessels between pulmonary and bronchial arteries. 87th Japan Pathology Society Congress, , 1998. 4.
 - 5) Shimizu H, Ghazizadeh M, Egawa S, Jin E, Ohaki Y¹⁾, Kawanami O (1) Surgical Pathology Section, Hokuso Hospital) : Ploidy analysis in bronchioalveolar cell carcinoma. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 6) Jin E, Ghazizadeh M, Kawanami O, Ohaki Y¹⁾, Takemura T²⁾ (1) Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center, 2) Surgical Pathology Section, Hokuso Hospital) : Phenotypic shift to pulmonary capillary endothelium from alveolar to bronchial type in adenocarcinoma of the lung. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 7) 金 恩京, ガジザデ モハマッド, 武村民子¹⁾, 川並汪一 (1) 日本赤十字医療センター病理部) : 細気管支肺胞上皮癌における血管内皮細胞の再生機序. 第87回臨床病理学会, 1998. 4.
 - 8) 渡辺美千明¹⁾, ガジザデ モハマッド, 八田充子¹⁾, 松下径広¹⁾, 米山剛一¹⁾, 小西秀喜¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 荒木勲¹⁾ (1) 産婦人科) : 胎状奇胎のploidy解析をパラフィン包埋組織切片から行うための細胞遺伝学的手法とAgNORカウント. 第50回日本産婦人科学会総会, 1998. 4.
 - 9) 今井 順¹⁾, 長江 康¹⁾, 矢野正雄¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, ガジザデ モハマッド, 平出星夫²⁾, 望月英隆³⁾ (1) 第2病理, 2) 防衛医科大研究センター, 3) 同第一外科) : 乳癌におけるTn抗原発現性と臨床病理学的関連についての検討. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
 - 10) 今井 順¹⁾, 矢野正雄¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, ガジザデ モハマッド, 平出星尾²⁾, 望月英隆³⁾ (1) 第2病理, 2) 防衛医大研究センター, 3) 同第一外科) : 乳癌のTn抗原発現性の臨床病理学的意義. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
 - 11) 枝川聖子, 清水 一, 渡会泰彦¹⁾, 太田吉男²⁾, 片山博徳³⁾, 小黒辰夫⁴⁾, 杉崎祐一¹⁾, 松本光司²⁾, 前田昭太郎³⁾, 大秋美治⁴⁾ (1) 付属病院病理部, 2) 第二病院病理部, 3) 多摩永山病院病理部, 4) 千葉北総病院病理部) : 気管支肺胞洗浄法によるザルコイドーシスの分析. 第37回日本臨床細胞学会秋季大会, 1998. 11.
 - 12) 藤原正和, 金 恩京, ガジザデ モハマッド, 姜 莉, 永島幹夫, 川並汪一, 武村民子¹⁾ (1) 日本赤十字医療センター病理部) : 末梢発生腺癌における肺胞毛細血管内皮細胞の急速な形態学的転換と気管支循環系の役割. 第39回呼吸器学会総会, 1999. 3.
 - 13) 金 恩京, 藤原正和, ガジザデ モハマッド, 姜 莉, 永島幹夫, 川並汪一, 武村民子¹⁾ (1) 日本赤十字医療センター病理部) : 肺動脈: 気管支動脈循環の微小血管内皮細胞. 第39回呼吸器学会総会, 1999. 3.

[生化学部門]

研究概要

生化学部門 (大学院細胞生物学科目) 研究室は, 「細胞死のメカニズムの解明」, 「神経細胞死が進行するアルツハ

イマー病などの脳変性疾患の解明」, 「ミトコンドリアゲノムの体細胞変異の意義とメカニズム」などの解明を当面の目的に研究を進めている。いずれのテーマもミトコンドリア機能を重視しながら研究を進めているところに特徴がある。a) ミトコンドリアゲノムの変異解析では、9年来の問題が解決できるような大きな発展があった。1990年に太田らをはじめとして、いくつかのグループによってミトコンドリア脳筋症の原因がミトコンドリア tRNA 遺伝子の点変異であることを明らかにした。ミトコンドリア tRNA 遺伝子の点変異によってどのようにミトコンドリア脳筋症が発症するのが永らく謎であったが、tRNA のアンチコドンの第一文字の塩基が修飾されなくなるということで、翻訳時に異常蛋白が合成されるということがわかった。

b) アルツハイマー病では昨年度に発見された危険因子のミトコンドリア蛋白 DLST (ジヒドロリポアミドサクシニル転移酵素) 解析を進めた。遺伝子多型によって分類された DLST 遺伝子型でアルツハイマー病と相関関係がある遺伝子型をもつ健常人は、血糖濃度が高い、肝細胞の障害、心拍排出量の低下など全身にわたって機能低下が観察された。また、DLST 遺伝子ではイントロンのなかばから転写開始することが発見され、アルツハイマー病の発症機序との関連も示唆された。

c) 細胞死のメカニズムに関しては、ミトコンドリア蛋白アポトーシス誘導因子 Bax の解析が進んだ。Bax の致死作用には ATP 合成酵素の活性が必須であることを明らかにすることができた。また、アポトーシス誘導の経路は従来いわれてきた経路とは別にもうひとつあることを示唆した。また、アポトーシスを抑制する因子である Bcl-xL に部位特異的変異を導入して、一段とアポトーシス抑制活性を向上させた人工的蛋白の作製に成功した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Okazaki M, Ishibashi Y, Asho S, Ohta S : Overexpressed mitochondrial Hinge protein, a cytochrome *c* binding protein accelerates apoptosis by enhancing the release of cytochrome *c* from mitochondria. *Biochem Biophys Res Commun* 1998 ; 243 (1) : 131-136.
- 2) Ishibashi Y, Nishimaki K, Asho S, Nanbu-Wakao R¹⁾, Yamada T²⁾, Ohta S (¹⁾ ヘルックス研究所, ²⁾ 東邦大・理・生物分子科学) : Pore formation Domain of human pro-apoptotic Bax induces mammalian apoptosis as well as bacterial death without antagonizing anti-apoptotic factors. *Biochem Biophys Res Commun* 1998 ; 243 (13) : 609-616.
- 3) Asoh S, Nishimaki K, Nanbu-wakao R¹⁾, Ohta S (¹⁾ ヘルックス研究所) : A trace amount of the human pro-apoptotic factor Bax induces bacterial death accompanied by damage of DNA. *J Biol Chem* 1998 ; 273 (18) : 11384-11391.
- 4) Yasukawa T¹⁾, Suzuki T¹⁾, Ueda T¹⁾, Hayashi J-I²⁾, Ohta S, Watanabe K¹⁾ (¹⁾ 東大大学院・工学, ²⁾ 筑波大・生物) : Stability of mitochondrial tRNA molecules with pathogenic point mutations. *Nucleic Acids Symposium Series* 1998 ; 39 : 257-258.
- 5) Takahashi T¹⁾, Asho S, Azuma A¹⁾, Abe S¹⁾, Miyamoto H¹⁾, Enomoto T¹⁾, Hashimoto Y¹⁾, Ohara K²⁾, Ohta S, Kudoh S¹⁾ (¹⁾ 付属病院第4内科, ²⁾ 付属病院眼科) : The expression of Bcl-2 in BALF cells prepared from sarcoidosis patients. *Sarcoidosis Vasculitis and Diffuse Lung Diseases* 1998 ; 15 : 197-197.
- 6) Ito S¹⁾, Ohta S, Nishimaki K, Kagawa Y²⁾, Miyazaki R¹⁾, Kuno S-Y¹⁾, Komatsuzaki Y³⁾, Mizusawa H⁴⁾, Hayashi J-I¹⁾ (¹⁾ 筑波大・生物, ²⁾ 女子栄養大, ³⁾ 初石病院, ⁴⁾ 東京医科歯科大・神経内科) : Functional integrity of mitochondrial genomes in human platelets and autopsied brain tissues from elderly patients with Alzheimer's disease. *Proc Natl Acad Sci* 1999 ; 96 : 2099-2103.
- 7) Kamino K, Wijmsman E¹⁾, Anderson L¹⁾, Nemens E¹⁾, Yamagata H²⁾, Ohta S, Bird T D¹⁾, Schellenberg G, D¹⁾ (¹⁾ Geriatric Research, Education and Clinical Center, ²⁾ 愛媛大学・医・老年医学) : A Family with Late-

onset Alzheimer's Disease Carrying a Val91Met Mutation of the Apolipoprotein A-II Gene Suggests Altered Plasma Lipid Metabolism in Alzheimer's Disease. In : Alzheimer's disease & related disorders (edited by K Iqbal, D.F. Swab, B. Winblad and H. M. Wisniewski) 1999 ; 501-506.

(2) 総説 :

- 1) Ohta S : Pore-Forming Structure and Bifunction of the Pro-Apoptotic Factor, Bax. In : Apoptosis : its roles and mechanism (Yamada, T & Hashimoto, T eds) Business Center for Academic Societies Japan 1998 ; 65-84.

著 書

- 1) 太田成男 : [分担] Alzheimer病とミトコンドリア異常. Annual Review「神経—変性疾患」(後藤文男, 高倉公朋, 木下真男, 柳澤信夫, 清水輝男編集), 1998 ; pp237-243, 中外医学社.
- 2) 太田成男 : [分担] 疾病とアポトーシス. 図説 分子病態学 (市ノ瀬白帝, 鈴木宏治編集), 1998 ; pp53-56, 中外医学社.
- 3) 麻生定光, 太田成男 : [共著] アポトーシスと癌治療. 医薬ジャーナル, 1998 ; pp93-104, 医薬ジャーナル社.
- 4) 太田成男 : [分担] ミトコンドリア病. 臨床化学 (ミトコンドリア特集), 1998 ; pp160-170, 日本臨床化学会.
- 5) 有富正治¹⁾, 太田成男 : [共著] アポトーシス関連蛋白質の構造生物学-TNF関連, Fas関連, Bcl-2ファミリーおよびカスパーゼファミリー蛋白質の構造解析の現状. 構造生物学のフロンティア—シグナル伝達とDNAトランスアクション 「蛋白質 核酸 酵素」, 1999 ; pp395-403, 共立出版.
- 6) 太田成男, 石橋佳朋 : [共著] アポトーシスの分子機構. 脳と発達 (日本小児神経学会), 1999 ; pp122-128, 診断と治療社.
- 7) 太田成男 : [分担] アポトーシスにおけるミトコンドリアの新たな役割. アポトーシスの最前線と疾患, 1999 ; pp853-860, 最新医学社.
- 8) 麻生定光, 太田成男 : [分担] ミトコンドリア障害とアポトーシス. アポトーシスと疾患—中枢神経疾患編 (水野美邦編集), 1999 ; 医薬ジャーナル.
- 9) 太田成男 : [分担] アポトーシスにおけるミトコンドリアの関与. 臓器別アポトーシス証明法 (大槻勝紀, 小路武彦, 渡辺慶一, 編集), 1999 ; pp237-243, 南江堂.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Takahashi T¹⁾, Asho S, Azuma A¹⁾, Abe S¹⁾, Miyamoto H¹⁾, Enomoto T¹⁾, Hashimoto Y¹⁾, Ohara K²⁾, Ohta S¹⁾, Kudoh S¹⁾ (¹⁾ 付属病院第四内科, ²⁾ 付属病院眼科) : Strongly expressed Bcl-2 protein in BALF cells prepared from sarcoidosis patients. American Thoracic Society (Chicago), 1998. 4.
- 2) Takahashi T¹⁾, Asho S, Azuma A¹⁾, Abe S¹⁾, Miyamoto H¹⁾, Enomoto T¹⁾, Hashimoto Y¹⁾, Ohara K²⁾, Ohta S, Kudoh S¹⁾ (¹⁾ 付属病院第四内科, ²⁾ 付属病院眼科) : The expression of Bcl-2 in BALF cells prepared from sarcoidosis patients. 6th International Conference on Bronchoalveolar Lavage (Greece), 1998. 6.
- 3) Kamino K, Wijsman E¹⁾, Anderson L¹⁾, Nemens E¹⁾, Yamagata H²⁾, Ohta S, Bird T.D¹⁾, Schellneberg G.D¹⁾ (¹⁾ Geriatric Research, Education and Clinical Center, ²⁾ 阪大・医・四内) : A family with late-onset Alzheimer's disease carrying Val91Met mutation of apolipoprotein A-II gene. 6th International conference on Alzheimer's disease and related disorders (Amsterdam), 1998. 7.
- 4) Ohta S, Asho S, Kamino K, Ishibashi Y, Nishimaki K, Takase C¹⁾, Nakano K¹⁾, Matsuda S²⁾ (¹⁾ 鹿児島女子短大・生化, ²⁾ 鹿屋体育大・生物) : Genetic Association of Alzheimer's Disease with the Nuclear gene Encoding DLST of the Mitochondrial α -Ketoglutarate Dehydrogenase Complex. Mitochondrial Dysfunction in

- Human Pathology (Melbourne), 1998. 9.
- 5) Yasukawa T¹⁾, Suzuki T¹⁾, Ueda T¹⁾, Nishimaki K, Watanabe K¹⁾, Ohta S (¹⁾ 東大大学院・工・化学生命工学) : Abnormalities in stability and aminoacylation of the mutant mitochondrial tRNA^{Leu} molecule derived from a patient with fatal cardiomyopathy. Mitochondrial Dysfunction in Human Pathology (Melbourne), 1998. 9.
 - 6) Ohta S, Asho S, Kamino K, Ishibashi Y, Takase C¹⁾, Nakano K¹⁾, Matsuda S²⁾ (¹⁾ 鹿児島女子短大・生化, ²⁾ 鹿屋体育大・生物) : Genetic Association of Alzheimer's Disease with the Nuclear Gene Encoding DLST of the Mitochondrial α -ketoglutarate Dehydrogenase Complex. Gordon Research Conference Mitochondria and Chloroplasts (Switzerland), 1998. 9.
 - 7) Ohta S, Nishimaki K, Tanaka R, Ishibashi Y, Asho S : Bacterial cell death induced by the proapoptotic factor Bax is suppressed by mutations in the ATP synthase gene. IBC's Fifth Annual Conference on Apoptosis (San Francisco), 1998. 12.
 - 8) Asho S, Mori T¹⁾, Ohta S (¹⁾ 埼玉医大) : Mitochondrial dysfunction enhances the Fas expression. IBC's Fifth Annual Conference on Apoptosis (San Francisco), 1998. 12.
 - 9) 太田成男 : アポトーシスの分子機構 (シンポジウム : アポトーシスと疾患). 第40回小児神経学会総会, 1998. 6.
 - 10) 安川武宏¹⁾, 鈴木 勉¹⁾, 上田卓也¹⁾, 林 純一²⁾, 太田成男, 渡辺公綱¹⁾ (¹⁾ 東大大学院・工・化学生命工学, ²⁾ 筑波大・生物学) : ミトコンドリア病患者由来変異 tRNA の安定性. 第25回核酸化学シンポジウム, 1998. 9.
 - 11) 太田成男 : 老化とミトコンドリア機能 (シンポジウム ; 活性酸素と老化). 第15回臨床フリーラジカル会議, 1999. 2.
 - 12) 太田成男 : ミトコンドリア病発症の分子機構 (シンポジウム ; オルガネラ研究のブレイクスルー). 第39回日本植物生理学会, 1999. 3.
- (2) セミナー :
- 1) Asho S : Mitochondrial dysfunction enhances the Fas Expression. NHLBI-LBG Seminar (Bethesda), 1998. 12.
- (3) 一般講演 :
- 1) 高瀬千義¹⁾, 中野恭子¹⁾, 中河志朗²⁾, 太田成男, 松田貞幸³⁾ (¹⁾ 鹿児島女子短大・生化, ²⁾ 鹿大・医・一解剖, ³⁾ 鹿屋体育大・生物) : 脳・骨格筋に分子量の小さいジヒドロリポアミド・サクシニル転移酵素が存在する. 第71回日本生化学会大会, 1998. 10.
 - 2) 西槇喜代美, 麻生定光, 表 弘志¹⁾, 二井将光¹⁾, 太田成男 (¹⁾ 阪大・生産研) : Bax 蛋白による大腸菌の致死作用や大腸菌の ATP 合成酵素の変異によって抑制される. アポトーシス研究会第7回研究集会, 1998. 8.
 - 3) 田中理絵, 石橋佳朋, 太田成男 : Bax および BH3, BH1 領域を欠く Bax (112-192) によるアポトーシス. アポトーシス研究会第7回研究集会, 1998. 8.
 - 4) 山口 貴¹⁾, 平岡美紀¹⁾, 大原国俊¹⁾, 西槇喜代美, 太田成男, 鈴木康之²⁾ (¹⁾ 付属病院眼科, ²⁾ 東大・眼科) : ウサギ眼組織における water channel protein. 日本眼薬理学会, 1998. 9.
 - 5) 横田恵理子¹⁾, 園田よし子¹⁾, 太田成男, 笠原 忠¹⁾ (¹⁾ 共立薬大・生化) : アラキドン酸リポキシゲナーゼ阻害剤で誘導されるアポトーシスにおける caspase 活性化と Bcl-2 ファミリータンパク質. 第71回日本生化学会大会, 1998. 10.
 - 6) 西槇喜代美, 麻生定光, 表 弘志¹⁾, 二井将光¹⁾, 太田成男 (¹⁾ 阪大・生産研) : Bax 蛋白による大腸菌の致死作用は大腸菌の ATP 合成酵素の変異によって抑制される. 第21回日本分子生物学会年會, 1998. 12.
 - 7) 田中理絵, 石橋佳朋, 太田成男 : Bax および BH3, BH1 領域を欠く Bax (112-192) によるアポトーシス誘導活性. 第21回日本分子生物学会年會, 1998. 12.

- 8) 麻生定光, 若尾りか¹⁾, 西楨喜代美, 田中理絵, 太田成男⁽¹⁾ (ヘリックス研究所): アポトーシス促進因子ヒト Bax 耐性を付与する大腸菌 RNaseEN 末端半分のペプチドの発現は活性酸素の産生を抑制する. 第21回日本分子生物学会, 1998. 12.
- 9) 安川武宏¹⁾, 鈴木 勉¹⁾, 上田卓也¹⁾, 太田成男, 渡辺公綱¹⁾ (1) 東大大学院・工・化学生命工学): 乳幼児致死性心筋症患者由来点変異を持つミトコンドリア tNRAlle はアミノアシル化の効率が低い. 第21回日本分子生物学会, 1998. 12.

[免疫部門]

研究概要

I. 免疫学的研究

1) 慢性関節リウマチ (RA) の発病機構の解明を目的とした研究を行っている: 細菌細胞壁ペプチドグリカン (PG) をラットに投与することにより, 病理学的にヒト RA に極めて類似した多発性関節炎モデルの作出に成功し, このラットから樹立した PG 反応性 T-細胞 cell line の解析と, RA と変形性関節症患者由来の培養滑膜細胞の PG に対する反応性の相違を遺伝子レベルで検討している.

II. 感染症ないしは感染アレルギーの研究

1) *Streptococcus pyogenes* の産生する Streptococcal pyogenic exotoxin-B (cystein proteinase) がヒト培養マスト細胞ならびに好塩基球を刺激して, ヒスタミンを遊離させることを明らかにし, *Streptococcus pyogenes* の感染により起こる敗血症性ショックの病態成立にヒスタミンが関与することを示唆した. 現在この放出機構についての検討が行われている.

2) 緑色レンサ球菌群の一つである *Streptococcus mitis* の一部の菌株 (Nm-65株) の培養上清にヒト血小板凝集因子の存在することを見出し, 本凝集因子 (Sm-hPAF) の精製を試み, その生化学的, 生物学的, 免疫学的性状について報告するとともに, Cassette-PCR 法を用いて遺伝子のクローニングを行い, 分泌型 Sm-hPAF をコードする遺伝子の全塩基配列を決定した. 現在, その発現系の検討を行っている.

3) 上記の Sm-hPAF による Platelet rich plasma (PRP) を用いた血小板凝集反応は全てのヒトの PRP で起こるわけではなく, この反応を阻害する因子を血漿中に持つヒトが存在することが明らかにされた. この阻害因子の精製とその性状の検討が行われている.

なお, 平成9年-11年度の厚生科学研究補助金, 新興・再興感染症研究事業「劇症型 A 群レンサ球菌感染症の分子発病機構」研究班班長として, 当該部門責任者が研究班を組織し, その発病機構解明のための研究を総括するとともに, 同部門責任者が会長となって第80回日本細菌学会関東支部総会 (平成10年11月25, 26日) が開催された.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kawamura Y¹⁾, Hou X-G¹⁾, Todome Y²⁾, Sultana F¹⁾, Hirose K¹⁾, Shu S-S¹⁾, Ezaki T¹⁾, Ohkuni H⁽¹⁾ 岐阜大・医・微生物): *Streptococcus peroris* sp. nov. and *Streptococcus infantis* sp. nov., new members of the *Streptococcus mitis* group, isolated from human clinical specimens. Int. J. System. Bacteriol 1998; 48: 921-927.
- 2) 木村昭夫¹⁾, 留目優子, 大国寿士, 櫻田紳策, 山本保博²⁾ (1) 国立国際医療センター救急部, 2) 救急医学): Moderate hyperthermia 下における多核白血球の遊走並びに貪食能の検討. 救急医学誌 1998; 9: 18-19.
- 3) 清水可方¹⁾, 五十嵐英夫²⁾, 村井貞子³⁾, 大国寿士, 渡辺治雄⁴⁾, 内山竹彦⁵⁾, 大江健二¹⁾ (1) 旭中央病院, 2) 都衛研, 3) 東邦医療短大, 4) 国立感染症研, 5) 東京女子医大): 本邦における劇症型 A 群レンサ球菌感染症の現況と診断基準案の提示. 感染症誌 1998; 72: 258-265.

- 4) 木村昭夫¹⁾, 留目優子, 大国寿士, 櫻田紳策, 渡邊ユキノ, 倉田 潔¹⁾, 木村荘介¹⁾ (1) 国立国際医療センター救急部) : 中等度低体温下における単球の遊走, 食食並びに殺菌能の検討. 救急医学誌 1998 ; 9 : 332-335.
- 5) 岡部俊成¹⁾, 飛田正俊¹⁾, 竹田幸代¹⁾, 向後俊昭¹⁾, 野呂瀬嘉彦²⁾, 大国寿士, 小野塚春吉³⁾ (1) 多摩永山病院小児, 2) 微生物免疫, 3) 都衛研) : 小児アトピー性皮膚炎における亜鉛の関連性についての検討. 小児アレルギー誌 1998 ; 12 : 244-253.
- 6) 大藪英一¹⁾, 栗原 怜¹⁾, 大和田一博¹⁾, 桜井裕成¹⁾, 小野田教高¹⁾, 竹内正至¹⁾, 葉山修陽²⁾, 飯野靖彦³⁾, 式田竜司⁴⁾, 佐治 守⁴⁾, 米島秀雄¹⁾, 高橋秀実²⁾, 大国寿士 (1) 春日部秀和病院, 2) 微生物免疫, 3) 内科第2, 4) 第一病院感染対策) : 外来維持血液透析患者の上気道における細菌学的検討. 透析会誌 1998 ; 32 : 185-190.

(2) 総説 :

- 1) 大国寿士 : 特集 : 感染症シリーズ 9. 劇症型溶連菌感染症. 医療 1998 ; 52 : 571-574.

(3) 研究報告書 :

- 1) 大国寿士 : 厚生省科学研究費補助金「新興・再興感染症研究事業」“劇症型A群レンサ球菌感染症の分子発症機構”研究班 (主任研究者 大国寿士). 平成10年度研究報告書総括研究報告 1999.
- 2) 櫻田紳策, 留目優子, 渡邊ユキノ, 大国寿士 : SPE-Bのマスト細胞に対する作用. 厚生省科学研究費補助金「新興・再興感染症研究事業」“劇症型A群レンサ球菌感染症の分子発症機構”研究班 (班長 大国寿士) 平成10年度班会議, 1999. 2.

著 書

- 1) 大国寿士 : [分担] レンサ球菌属. 微生物学免疫学 (監修 緒方幸雄, 編集 内山竹彦, 伊藤正彦, 神谷 茂), 1998 ; pp82-86, 医学教育出版.
- 2) 大国寿士, 留目優子, 渡邊ユキノ : [分担] レンサ球菌性毒素性ショック症候群. 知っておきたい現代感染症事情1 (中山宏明, 多田 功, 南嶋洋一編), 1999 ; pp16-23, 医歯薬出版.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 大国寿士 : 溶連菌感染に関する最近の話題. 国立小児病院医療研究センターセミナー, 1998. 10.

(2) 招待講演 :

- 1) Ohkuni H, Kato T¹⁾, Suzuki T¹⁾, Ishimori M²⁾, Todome Y, Ghazizadeh M³⁾ (1) 都衛研, 2) 東京文化女子短大, 3) 病理部門) : Adjuvant activity of polycyclic aromatic hydrocarbons in diesel exhaust on IgE antibody production in mice. The Fourth International Congress of Immunology and Allergy (Isfahan, Iran), 1998. 5.

(3) シンポジウム :

- 1) Liu Ai-M¹⁾, Ghazizadeh M²⁾, Inoue Y¹⁾, Hamaoka K³⁾, Onouchi Z³⁾, Ohkuni H, Aihara K¹⁾, Asano G⁴⁾ (1) 中央電子顕微鏡研究施設, 2) 病理部門, 3) 京都府立医大, 4) 病理第2) : Coronary microvascular lesions in Kawasaki disease : An ultrastructural study. Sixth International Kawasaki Disease Symposium (Waikoloa, Hawaii), 1999. 2.
- 2) Ghazizadeh M¹⁾, Liu Ai-M²⁾, Jin E²⁾, Inoue K²⁾, Hamaoka K³⁾, Onouchi Z³⁾, Shimizu H¹⁾, Egawa S¹⁾, Kawanami O¹⁾, Todome Y, Ohkuni H, Asano G⁴⁾ (1) 病理部門, 2) 中央電子顕微鏡研究施設, 3) 京都府立医大, 4) 病理第2) : Expression of vascular endothelial growth factor and its receptors Flt-1 and KDR in Kawasaki disease. Sixth International Kawasaki Disease Symposium (Waikoloa, Hawaii), 1999. 2.

(4) 一般講演 :

- 1) Watanabe Y, Todome Y, Sakurada S, Ohkuni H, Ohta S¹⁾, Zabriskie JB²⁾, Fischetti VA²⁾ (1) 生化学部門, 2) Rockefeller Univ.) : Cloning and sequence analysis of *Streptococcus mitis*-derived human blood platelet ag-

- gregation factor gene. American Society for Microbiology Conference on Streptococcal Genetics (Vichy, France), 1998. 4.
- 2) Todome Y, Ohkuni H, Watanabe Y, Ghazizadeh M¹⁾ (¹⁾ 病理部門) : Purification and partial characterization of a novel human platelet aggregation factor in the extracellular products of *Streptococcus mitis*, strain Nm-65. The Fourth International Congress of Immunology and Allergy (Isfahan, Iran), 1998. 5.
 - 3) 渡邊ユキノ, 留目優子, 櫻田紳策, 大国寿士 : *Streptococcus mitis* Nm-65株の産生するヒト血小板凝集因子の遺伝子クローニング. 第71回日本細菌学会総会, 1998. 4.
 - 4) 一幡良利¹⁾, 碓井之雄²⁾, 遠藤美代子³⁾, 五十嵐英夫³⁾, 留目優子, 大国寿士 (¹⁾ 筑波医療短大, ²⁾ 青葉学園短大, ³⁾ 都衛研) : A群レンサ球菌の病原性と生物学的性状について. 第71回日本細菌学会総会, 1998. 4.
 - 5) 留目優子, 渡邊ユキノ, 櫻田紳策, 大国寿士 : *Streptococcus mitis*の産生するヒト血小板凝集因子の反応を抑制する血漿成分の精製とその定量法に関する検討. 第71回日本細菌学会総会, 1998. 4.
 - 6) 櫻田紳策, 渡邊ユキノ, 留目優子, 大国寿士 : *Streptococcus mitis* 菌体成分並びに代謝物質による血管内皮細胞の活性化機構. 第71回日本細菌学会総会, 1998. 4.
 - 7) 櫻田紳策, 渡邊ユキノ, 留目優子, 大国寿士 : 血管内皮細胞における転写因子NF- κ Bの活性化に対するエリスロマイシンの影響. 第5回マクロライド新作用研究会, 1998. 7.
 - 8) 深水 真¹⁾, 菊地俊彦¹⁾, 李 偉¹⁾, 鈴木和子¹⁾, 亀井裕子¹⁾, 宮永嘉隆¹⁾, 渡邊ユキノ, 留目優子, 大国寿士 (¹⁾ 東京女子医大第二病院・眼科) : ヒト結膜分離表皮ブドウ球菌のDNA解析とその由来. 第52回日本臨床眼科学会, 1998. 10.
 - 9) 渡邊ユキノ, 留目優子, 櫻田紳策, 大国寿士 : *Streptococcus mitis* Nm-65株が産生する血小板凝集因子の遺伝子に関する研究. 第18回日本川崎病研究会, 1998. 10.
 - 10) 留目優子, 渡邊ユキノ, 櫻田紳策, 大国寿士 : *Streptococcus mitis* 由来ヒト血小板凝集反応を抑制する血漿成分の性状とその定量法に関する検討. 第18回日本川崎病研究会, 1998. 10.
 - 11) 櫻田紳策, 留目優子, 渡邊ユキノ, 大国寿士 : Streptococcal pyogenic exotoxin-B (SPE-B) のヒト培養マスト細胞に対する作用. 第80回日本細菌学会関東支部総会, 1998. 11.
 - 12) 櫻田紳策, 渡邊ユキノ, 留目優子, 大国寿士, Durasamy K¹⁾, 齋藤博久¹⁾ (¹⁾ 小児医療センター) : A群レンサ球菌 (*Streptococcus pyogenes*) 代謝物質によるヒトマスト細胞並びに好塩基球からのヒスタミン遊離能についての検討. 第28回日本免疫学会, 1998. 12.
 - 13) 渡邊ユキノ, 櫻田紳策, 留目優子, 大国寿士 : *Streptococcus gordonii* GP 251株を用いた*S. mitis* 由来ヒト血小板凝集因子の発現系構築のための基礎的検討. 第72回日本細菌学会総会, 1999. 3.
 - 14) 大国寿士, 櫻田紳策, 留目優子, 渡邊ユキノ : Streptococcal cystein proteinase (SCP) のマスト細胞に対する作用. 第72回日本細菌学会総会, 1999. 3.

[疫学部門]

研究概要

1) ホルモン分泌における超日リズムの発現機構と意義を解明することを目的として成長ホルモンについて研究を行い, 分泌抑制因子であるソマトスタチンの重要性を明らかにしてきた. ソマトスタチンの分泌あるいはソマトスタチン細胞の活動に周期性を与えるメカニズムとして, アンドロゲンによる視床下部機能修飾作用が重要であり, 現在, このアンドロゲン感受性機構の解明に取り組んでいる.

2) 成長ホルモンが視床下部に作用して自己の分泌を制御する自己分泌調節機構について, 成長ホルモンの作用部位を検討し, 視床下部のニューロペプチドY細胞とソマトスタチン細胞が標的細胞であるとの説を提唱し, 検討をすすめている.

3) 新しい神経ペプチド, プロラクチン分泌促進ペプチドのメッセンジャーRNAのラット脳内の局在部位を明らかにした。現在, このペプチドの生理的作用と特性を検討中である。

4) 甲状腺乳頭癌の原因遺伝子を検索し, 新規遺伝子ELKSがc-retのチロシンキナーゼをコードする領域と融合していることを明らかにし, ELKS遺伝子およびその産物の特徴と甲状腺濾胞細胞の癌化の関連について研究をおこなってきた。

5) 多施設共同研究として, 文部省学術フロンティア事業「多因子性疾患の遺伝要因解明・学際的共同研究プロジェクト」に参加している。

研究業績

論文

[1997年度追加分]

原著:

- 1) Minami S, Sarkar DK¹⁾ (¹⁾ Department of VCAPP Washington State Univ.) : Transforming growth factor β -1 inhibits prolactin secretion and lactotropic cell proliferation in the pituitary of estrogen-treated Fischer 344 rats. *Neurochem Int* 1997 ; 30 : 499-506.

(1) 原著:

- 1) Nakata T, Yoshimoto M¹⁾, Kasumi F¹⁾, Akiyama F²⁾, Sakamoto G²⁾, Nakamura Y³⁾, Emi M⁴⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Cancer Institute, ²⁾ Department of Pathology, Cancer Institute, ³⁾ Laboratory of Molecular Medicine, Institute of Medical Science, Tokyo Univ., ⁴⁾ Department of Molecular Biology) : Identification of a new commonly deleted region within a 2-cM interval of chromosome 11p11 in breast cancers. *European Journal of Cancer* 1998 ; 34 : 417-421.
- 2) Minami S, Kamegai J¹⁾, Sugihara H¹⁾, Suzuki N¹⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine) : Growth hormone inhibits its own secretion by acting on the hypothalamus through its receptors on neuropeptide Y neurons in the arcuate nucleus and somatostatin neurons in the periventricular nucleus. *Endocrine Journal* 1998 ; 45 : S19-S26.
- 3) Emi M¹⁾, Matsushima M²⁾, Katagiri T²⁾, Yoshimoto M³⁾, Kasumi F³⁾, Yokota T¹⁾, Nakata T, Miki Y²⁾, Nakamura Y²⁾ (¹⁾ Department of Molecular Biology, ²⁾ Laboratory of Molecular Medicine, Institute of Medical Science, Tokyo Univ., ³⁾ Department of Surgery, Cancer Institute Hospital) : Multiplex mutation screening of the BRCA1 gene in 1000 Japanese breast cancers. *Jpn J Cancer Res* 1998 ; 89 : 12-16.
- 4) Emoto N¹⁾, Onose H¹⁾, Sugihara H¹⁾, Minami S, Shimizu K²⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, ²⁾ Department of Surgery) : Fibroblast growth factor-2 free form from extracellular matrix is increased in papillary thyroid carcinomas and graves' thyroids. *Thyroid* 1998 ; 8 : 491-497.
- 5) Emoto N¹⁾, Onose H¹⁾, Yamada H²⁾, Minami S, Tushima T³⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, ²⁾ Diabetes Center, Tokyo Women's Medical College, ³⁾ Department of Medicine, Institute of Clinical Endocrinology, Tokyo Women's Medical College) : Growth factors increase pericellular proteoglycans independently of their mitogenic effects on A10 rat vascular smooth muscle cells. *Int J Biochem Cell Biol* 1998 ; 30 : 47-54.
- 6) Emi M¹⁾, Yamaki E¹⁾, Hirayama T²⁾, Katsumata H, Pozharov V³⁾, Wu L³⁾, Hopkins P³⁾, Williams R³⁾ (¹⁾ Department of Molecular Biology, ²⁾ Department of Pediatrics, ³⁾ Utah Univ.) : Familial hypercholesterolemia kindred in Utah with novel C54S mutations of the LDL receptor gene. *Jpn Heart J* 1998 ; 39 : 785-789.

(2) 綜説：

- 1) 南 史朗：成長ホルモンの中枢性自己分泌調節機構。日医大誌 1998；65 (5)：409-412.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 南 史朗：成長ホルモンの中枢性分泌調節機構。新任教授特別講演，第66回日本医科大学医学会総会，1998. 9.

(2) シンポジウム：

- 1) 南 史朗：成長ホルモンの中枢性自己分泌調節機構「神経内分泌学の基礎と臨床：最近の話題」。日本医科大学医学会第8回公開シンポジウム，1998. 6.

(3) 一般講演：

- 1) Ishii S¹⁾, Shibasaki T¹⁾, Murakami T²⁾, Tamura H¹⁾, Sugihara H¹⁾, Minami S, Shima K²⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, ²⁾ Department of Medicine, Tokushima Univ.) : The causal link between body weight and the expression of the leptin gene in adipose tissue and its region specific response to fasting and subsequent refeeding as a function of age in rats. The 80th Annual Meeting of the Endocrine Society (New Orleans), 1998. 6.
- 2) Onose H¹⁾, Emoto N¹⁾, Sugihara H¹⁾, Minami S, Shimizu K²⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, ²⁾ Department of Surgery) : Overexpression of the fibroblast growth factor receptor 3 in a human thyroid carcinoma cell line does not affect growth rate but increases final cell density. The 80th Annual Meeting of the Endocrine Society (New Orleans), 1998. 6.
- 3) Nakata T, Katsumata H, Fujimori M¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Shimizu K²⁾, Ito K³⁾, Minami S, Emi M⁴⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Shinsyu Univ., ²⁾ Department of Surgery, ³⁾ Ito Hospital, ⁴⁾ Department of Molecular Biology) : Cloning of a novel fusion gene in papillary thyroid carcinoma. The 2nd Japan-Korea-China Thyroid Conference (Tokyo), 1998. 10.
- 4) Onodera H¹⁾, Imaki J¹⁾, Minami S, Yoshida K²⁾, Yamashita K¹⁾ (¹⁾ Department of Anatomy, ²⁾ Department of Ophthalmology, Hokkaido Univ.) : Differential expression of c-fos mRNA in the rat neocortex by in situ hybridization. The 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kokura), 1998. 10.
- 5) Minami S, Sugihara H¹⁾, Tamura H¹⁾, Imaki J²⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, ²⁾ Department of Anatomy) : Growth hormone does not act directly on GRF neurons to inhibit its own secretion. The 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kokura), 1998. 10.
- 6) Tamura H¹⁾, Minami S, Sugihara H¹⁾, Kamegai J¹⁾, Onose H¹⁾, Shuto Y¹⁾, Ishii S¹⁾, Emoto N¹⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine) : Acute effect of dihydrotestosterone (DHT) on the GH secretory pattern in gonadectomized female rats. The 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kokura), 1998. 10.
- 7) Sugihara H¹⁾, Tamura H¹⁾, Shuto Y¹⁾, Kamegai J¹⁾, Emoto N¹⁾, Onose H¹⁾, Ishii S¹⁾, Minami S, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine) : Inhibition of somatostatin binding by growth hormone releasing peptide (GHRP) in the rat pituitary. The 4th International Congress of Neuroendocrinology (Kokura), 1998. 10.
- 8) Iida A¹⁾, Mine N¹⁾, Fukino K¹⁾, Kurose K¹⁾, Yokota T¹⁾, Nobe Y¹⁾, Katsumata H, Nagai H¹⁾, Emi M¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular Biology) : Construction of PAC contig of TOC region deleted in breast cancer at 17q25.1. Am Soc Hum Genet Ann Mtg (Denver), 1998. 10.
- 9) 小野瀬裕之¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 林 良紀¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 江本直也¹⁾, 南 史朗, 芝崎 保²⁾, 若林一二¹⁾ (¹⁾ 内

- 科学第3, ²⁾ 生理学第2) : 尿崩症で発症したサルコイドーシスの1例. 第8回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1998. 1.
- 10) 鈴木 博, 尾沢ますみ, 勝又晴美, 高橋修和, 西尾 治¹⁾ (¹⁾ 公衆衛生院) : 1996年及び1997年タイ国で分離されたインフルエンザウイルスの抗原変異. 第72回日本感染症学会総会, 1998. 3.
- 11) 木村真人¹⁾, 南 史朗, 森 隆夫¹⁾, 坂本博子¹⁾, 鈴木英朗¹⁾, 下田健吾¹⁾, 小宅理佳子¹⁾, 木村美保¹⁾ (¹⁾ 神経科) : うつ病患者におけるデキサメタゾン-CRH負荷試験の検討. 第10回CRH・ACTH研究会, 1998. 3.
- 12) 江本直也¹⁾, 小野瀬裕之¹⁾, 南 史朗, 杉原 仁¹⁾, 若林一二¹⁾, 清水一雄²⁾ (¹⁾ 内科学第3, ²⁾ 外科学第2) : 甲状腺腫における組織内遊離FGF-2量の検討. 第95回日本内科学会講演会, 1998. 4.
- 13) 勝又晴美, 江見 充¹⁾, 南 史朗 (¹⁾ 分子生物学) : 遺伝子突然変異検出の進歩. 日本医科大学第95回例会, 1998. 4.
- 14) 中田朋子, 霞富士雄¹⁾, 坂元吾偉²⁾, 吉本賢隆²⁾, 中村祐輔³⁾, 江見 充⁴⁾ (¹⁾ 癌研・外科, ²⁾ 同病理, ³⁾ 東大・医科研, ⁴⁾ 分子生物学) : 乳癌における第11番染色体短腕欠失とホルモン依存性の消失. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 15) 中田朋子, 江見 充¹⁾, 清水一雄²⁾, 田中茂夫²⁾ (¹⁾ 分子生物学, ²⁾ 外科学第2) : 甲状腺癌における融合遺伝子異常. 日本医科大学第95回例会, 1998. 5.
- 16) 杉原 仁¹⁾, 南 史朗, 江本直也¹⁾, 小野瀬裕之¹⁾, 周東祐仁¹⁾, 石井新哉¹⁾, 田村秀樹¹⁾, 若林一二¹⁾ (¹⁾ 内科学第3) : インスリン様成長因子 (IGF-I) の成長ホルモン (GH) 分泌促進因子 (GRF) 受容体発現に対する効果. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
- 17) 江本直也¹⁾, 小野瀬裕之¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 南 史朗, 清水一雄²⁾, 若林一二¹⁾ (¹⁾ 内科学第3, ²⁾ 外科学第2) : 甲状腺乳頭癌におけるFGF受容体 (FGF-3) の過剰発現の効果. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
- 18) 田村秀樹¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 南 史朗, 江本直也¹⁾, 小野瀬裕之¹⁾, 周東祐仁¹⁾, 石井新哉¹⁾, 若林一二¹⁾ (¹⁾ 内科学第3) : 成長ホルモン (GH) 分泌促進ペプチドのソマトスタチン (SS) 結合能に与える影響. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
- 19) 小野瀬裕之¹⁾, 江本直也¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 南 史朗, 若林一二¹⁾ (¹⁾ 内科学第3) : 軟骨形成細胞株ATDC5のプロテオグリカン合成に対するFGF-2の効果. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
- 20) 南 史朗, 杉原 仁¹⁾, 田村秀樹¹⁾, 江本直也¹⁾, 若林一二¹⁾ (¹⁾ 内科学第3) : 成長ホルモン急性投与の視床下部へのフィードバック機序. 第71回日本内分泌学会学術総会, 1998. 6.
- 21) 中田朋子, 江見 充¹⁾, 南 史朗, 北村 裕¹²⁾, 清水一雄²⁾, 田中茂夫²⁾ (¹⁾ 分子生物学, ²⁾ 外科学第2) : 甲状腺乳頭癌において検出された新規融合遺伝子ELKS-c-retの解析. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 22) 勝又晴美, 野辺由紀子¹⁾, 八巻恵美¹⁾, 南 史朗, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 分子生物学) : 変異対立遺伝子間の相互作用 : 高LDL血症2家系におけるLDL受容体の変異の解析. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 23) 野辺由紀子¹⁾, 勝又晴美, 八巻恵美¹⁾, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 分子生物学) : ユタ州FH大家系における4種の新規LDL受容体遺伝子変異の同定. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 24) 八巻恵美¹⁾, 勝又晴美, 野辺由紀子¹⁾, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 分子生物学) : 非典型アポE遺伝子タイプを持つ家族性III型高脂血症患者8例の解析. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 25) 中田朋子, 藤森 実¹⁾, 横山史朗¹⁾, 清水一雄²⁾, 田中茂夫²⁾, 伊藤國彦³⁾, 江見 充⁴⁾ (¹⁾ 外科学第2, ²⁾ 信州大・外科学第2, ³⁾ 伊藤病院, ⁴⁾ 分子生物学) : 甲状腺乳頭癌における新規融合遺伝子ELKS-c-retの解析. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 26) 勝又晴美, 野辺由紀子¹⁾, 八巻恵美¹⁾, Hopkins P²⁾, Williams R²⁾, 南 史朗, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 分子生物学, ²⁾ ユタ大学・心血管遺伝研) : 高LDL血症2家系におけるLDL受容体の異なる変異対立遺伝子間の相互作用. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 27) 野辺由紀子¹⁾, 勝又晴美, 八巻恵美¹⁾, 江見 充¹⁾, Hopkins P²⁾, Williams R²⁾ (¹⁾ 分子生物学, ²⁾ ユタ大学・心血管遺伝研) : 心筋梗塞多発ユタFH大家系における4種の新規LDL受容体遺伝子変異の同定. 日本人類遺伝

学会第43回大会, 1998. 10.

- 28) 江見 充¹⁾, 勝又晴美, 野辺由紀子¹⁾, Wu L²⁾, Hopkins P²⁾ (1) 分子生物学, 2) ユタ大学・心血管遺伝研): 家族性III型高脂血症患者8例における非典型アポE遺伝子タイプの同定. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 29) 中田朋子, 勝又晴美, 南 史朗, 江見 充¹⁾, 清水一雄²⁾, 藤森 実³⁾, 横山史朗³⁾, 伊藤公一⁴⁾ (1) 分子生物学, 2) 外科学第2, 3) 信州大・外科学第2, 4) 伊藤病院): 甲状腺乳頭癌における新規融合遺伝子のクローニング. 第41回日本甲状腺学会, 1998. 10.
- 30) 鈴木 博, 西尾 治¹⁾, 加藤由美子¹⁾, 南 史朗 (1) 公衆衛生院): タイ国におけるインフルエンザウイルスの抗原変異. 第46回日本ウイルス学会総会, 1998. 10.
- 31) 西尾 治¹⁾, 鈴木 博, 南部みほ²⁾, 秋山美穂³⁾, 加藤由美子¹⁾, 松井清彦¹⁾, 久松 栄¹⁾, 長谷川斐子⁴⁾ (1) 公衆衛生院, 2) 東農大, 3) チャネルサイエンス, 4) 感染研): 輸入食品のウイルス学的安全性について. 第46回日本ウイルス学会総会, 1998. 10.
- 32) 原田 純¹⁾, Goto-Mandeville R¹⁾, 田代茂樹¹⁾, 高木 豪¹⁾, 佐野祐治¹⁾, 中田朋子, 野村信夫²⁾, 江見 充³⁾, 宮園浩平⁴⁾, 石井俊輔¹⁾ (1) 理研・筑波センター・分子遺伝, 2) かずさDNA研, 3) 分子生物学, 4) 癌研・生化学): ヒトSchnurri-2はSmadを細胞質にとどめてBMP, TGF α シグナル伝達を阻止する. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.

[分子生物学部門]

研究概要

老人病研究所・分子生物学部門は, 日本医科大学大学院分子生物学科目であるとともに, 丸子アイソトープおよび組換えDNA実験施設を兼ねている. 現在20名の研究者(教職員6名, 学内・学外からの院生・研究生他14名)が日夜, 本学学術フロンティア推進事業, 共同研究推進センターとして, ヒトゲノムプロジェクトの推進を基盤とした様々なヒト疾患の遺伝子レベルでの病因解明と診断法の開発に取り組んでいます.

1) ヒトゲノム解析プロジェクト(文部省ゲノムサイエンス計画研究, 文部省総合がん総括班研究): 我々は乳癌, 膀胱癌, 甲状腺癌の検体を用いて, 高頻度な異常を見出した染色体について高精度ゲノム欠失地図を作製し, 共通して欠失するゲノム領域の, ショットガン法によるゲノムシーケンシングを行い, コンピュータを用いたエキソン予測法により未知の遺伝子をクローニングしています.

2) ヒトcDNAプロジェクト(文部省ゲノムサイエンス計画研究, 文部省総合がん総括班研究): 癌を始めとする各種疾患で染色体位置を限局化したものに対して, それら領域よりESTを多数同定し, cDNA発現プロファイル解析を行なうことにより, 疾患関連遺伝子をクローニングしています.

3) ヒトDNA多型(SNP)解析プロジェクト(厚生省長寿科学研究, 厚生省特定疾患): ヒト疾患に対する遺伝的感受性を規定しているヒト遺伝子多型解析を用いて骨粗鬆症, 高脂血症, 高血圧症の候補遺伝子について, 大規模な人口の解析から各遺伝子座の遺伝的多様性と表現型間の関係を検討しています.

4) 乳癌・甲状腺癌の遺伝子診断(文部省がん診断治療研究, 同基盤(c), 厚生省がん研究助成金, 車両財団研究助成): 乳癌および甲状腺癌の遺伝子診断の研究については, 多形性DNAマーカーを用いた解析から癌の悪性度, 転移, 再発, 生命予後に関わる遺伝的変化の特定と臨床応用を目指しています.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Emi M, Matsushima M¹⁾, Katagiri T¹⁾, Yoshimoto M²⁾, Kasumi F²⁾, Yokota T, Nakata T, Miki Y²⁾,

- Nakamura Y¹⁾ (¹⁾ IMS, Univ. Tokyo, ²⁾ Cancer Inst.) : Multiplex mutation screening of the BRCA1 gene in 1000 Japanese breast cancers. *Jpn J Cancer Res* 1998 ; 89 : 12-16.
- 2) Watanabe I, Tsukamoto K, Shiba T¹⁾, Emi M (¹⁾ Kitasato Univ.) : Isolation and radiation hybrid mapping of dinucleotide repeat polymorphism at the human matrix Gla protein (MGP) locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 75-76.
 - 3) Tsukamoto K, Ito N, Yoshimoto M¹⁾, Kasumi F¹⁾, Akiyama F¹⁾, Sakamoto G¹⁾, Nakamura Y²⁾, Emi M (¹⁾ Cancer Inst., ²⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Allelic loss on chromosome 1p is associated with progression and lymph node metastasis of primary breast carcinoma. *Cancer* 1998 ; 82 : 317-322.
 - 4) Iida A, Kurose K, Isobe R, Akiyama F¹⁾, Sakamoto G¹⁾, Yoshimoto M¹⁾, Kasumi F¹⁾, Nakamura Y²⁾, Emi M (¹⁾ Cancer Inst., ²⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Mapping of a new target region of allelic loss to a 2-cM interval at 22q13.1 in primary breast cancer. *Genes Chrom Cancer* 1998 ; 21 : 108-112.
 - 5) Tsukamoto K, Inoue S¹⁾, Hosoi T¹⁾, Orimo H¹⁾, Emi M (¹⁾ Univ. Tokyo) : Isolation, and radiation hybrid mapping of dinucleotide repeat polymorphism at the human estrogen receptor beta locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 73-74.
 - 6) Nakata T, Yoshimoto M¹⁾, Kasumi F¹⁾, Akiyama F¹⁾, Sakamoto G¹⁾, Nakamura Y²⁾, Emi M (¹⁾ Cancer Inst., ²⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Identification of a new commonly deleted region within a 2-cM interval of 11p11 in breast cancers. *Eur J Cancer* 1998 ; 34 : 417-421.
 - 7) Bando K, Matsumoto S, Onda M¹⁾, Akiyama F²⁾, Sakamoto G²⁾, Yoshimoto M²⁾, Kasumi F²⁾, Nakamura Y³⁾, Emi M (¹⁾ Dept. Surgery I, ²⁾ Cancer Inst., ³⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Frequent Allelic Loss at 6q26-27 in Breast Carcinomas of the Solid-tubular Histologic Type. *Breast Cancer* 1998 ; 5 : 127-130.
 - 8) Kurose K, Iida A, Araki T¹⁾, Sakamoto G²⁾, Kasumi F²⁾, Nakamura Y³⁾, Emi M (¹⁾ Dept. Ob. and Gyn., ²⁾ Cancer Inst., ³⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Frequent Allelic Loss at 7p14-15 Associated with Aggressive Histologic Types of Breast Cancer. *Jpn J Cancer Res* 1998 ; 89 : 533-538.
 - 9) Tsukamoto K, Haruta K¹⁾, Shiba T¹⁾, Emi M (¹⁾ Kitasato Univ.) : Isolation and mapping of a polymorphic CA repeat sequence at the human interleukin 6 locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 71-72.
 - 10) Kamigaki M¹⁾, Tsuji M¹⁾, Ishii J¹⁾, Hata A²⁾, Chiba H²⁾, Akita H²⁾, Hirayama T, Emi M (¹⁾ Hokkaido Cent. Hosp., ²⁾ Univ. Hokkaido) : Familial Hypercholesterolemia with Cholesteryl Ester Transfer Protein Deficiency. *Intern Med* 1998 ; 37 : 523-527.
 - 11) Orimo H¹⁾, Ikejima M¹⁾, Nakajima E¹⁾, Emi M, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Dept. Biochem. II) : A novel missense mutation and frameshift mutations in the type II receptor of transforming growth factor- β gene in sporadic colon cancer with microsatellite instability. *Mutation Research Genomics* 1998 ; 382 : 115-120.
 - 12) Minobe K, Onda M¹⁾, Iida A, Kasumi F²⁾, Sakamoto G²⁾, Nakamura Y³⁾, Emi M (¹⁾ Dept. Surg. I, ²⁾ Cancer Inst., ³⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Allelic Loss on Chromosome 9q Is Associated with Lymph Node Metastasis of Primary Breast Cancer. *Jpn J Cancer Res* 1998 ; 89 : 916-922.
 - 13) Kurose K, Bando K, Fukino K, Sugisaki Y¹⁾, Araki T²⁾, Emi M (¹⁾ Div. Surg. Pathol., ²⁾ Dept. Ob. Gyn.) : Somatic Mutations of the PTEN/MMAC1 Gene in Fifteen Japanese Endometrial Cancers : Evidence for Inactivation of Both Alleles. *Jpn J Cancer Res* 1998 ; 89 : 842-848.
 - 14) Yamaki E, Hirayama T, Wu L¹⁾, Hopkins P¹⁾, Williams R¹⁾, Emi M (¹⁾ Univ. Utah) : Molecular Genetic Diagnosis of a Family with Hypercholesterolemia by a Mismatched PCR-RFLP Method for Genotyping Single Base Substitution of the LDL Receptor Gene. *Jpn Heart J* 1998 ; 39 : 681-686.
 - 15) Tsukamoto K, Watanabe I¹⁾, Shiba T¹⁾, Emi M (¹⁾ Kitasato Univ.) : Isolation of a polymorphic CA repeat sequence at the human progesterone receptor (PGR) locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 287-288.

- 16) Tsukamoto K, Watanabe I¹, Shiba T¹, Emi M (¹ Kitasato Univ.) : Isolation and radiation hybrid mapping of a dinucleotide repeat polymorphism at the human calcium-sensing receptor (CASR) locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 280-282.
- 17) Tsukamoto K, Emi M : A polymorphic CA repeat sequence at the human calcitonin locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 146-147.
- 18) Ogaki K, Iida A, Kasumi F¹, Sakamoto G¹, Akimoto M², Nakamura Y³, Emi M (¹ Cancer Inst., ² Dept. Urol., ³ IMS, Univ. Tokyo) : Mapping of a New Target Region of Allelic Loss to a 6-cM Interval at 21q21 in Primary Breast Cancers. *Genes Chrom Cancer* 1998 ; 23 : 244-247.
- 19) Emi M, Yamaki E, Hirayama T, Katsumata H, Pozharov V¹, Wu L¹, Hopkins P¹, Williams R¹ (¹ Univ. Utah) : Familial Hypercholesterolemia Kindred in Utah with Novel C54S Mutations of the LDL Receptor Gene. *Jpn Heart J* 1998 ; 39 : 785-789.
- 20) Tsukamoto K, Ota N, Shirai Y¹, Emi M (¹ Dept. Orthoped.) : A highly polymorphic CA repeat marker at the human interleukin 6 receptor (IL6R) locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 289-290.
- 21) Tsukamoto K, Ota N, Shirai Y¹, Emi M (¹ Dept. Orthoped.) : A highly polymorphic CA repeat marker at the human tumor necrosis factor alpha (TNFA) locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 278-279.
- 22) Hirayama T, Yamaki E, Hata A¹, Tsuji M², Hashimoto K³, Yamamoto M³, Emi M (¹ Univ. Hokkaido, ² Hokkaido Cent. Hosp., ³ Dept. Pediatr.) : Five familial hypercholesterolemic kindreds in Japan with novel mutations of the LDL receptor gene. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 250-254.
- 23) Keicho N¹, Tokunaga K¹, Nakata T, Taguchi Y², Azuma A³, Bannai M⁴, Emi M, Ohishi N¹, Yazaki Y¹, Kudoh S³ (¹ Univ. Tokyo, ² Tenri Hosp., ³ Dept. Intern. Med. IV, ⁴ Jpn. Red Cross Tokyo Metropol. Blood Ctr.) : Contribution of HLA Genes to Genetic Predisposition in Diffuse Panbronchiolitis. *Am J Respir Crit Care Med* 1998 ; 158 : 846-850.
- 24) Nagai H, Ponglikitmongkol M¹, Fujimoto J², Yamamoto H², Kim S Y³, Konishi N⁴, Matsubara K⁵ (¹ Mahidol Univ., ² Hyogo Med. Coll., ³ KIST., ⁴ Nara Med. Univ., ⁵ Osaka Univ.) : Genomic Aberrations in Early Stage Human Hepatocellular Carcinomas. *Cancer* 1998 ; 82 : 454-461.
- 25) Nakamura M¹, Konishi N¹, Inui T¹, Hiasa Y¹, Nagai H, Tsunoda S¹, Nakase H¹, Tsuzuki T¹, Aoki H¹, Sakitani H¹, Aoyama N¹, Sakaki T¹ (¹ Nara Med. Univ.) : Genetic variations in recurrent astrocytic tumors detected by restriction landmark genomic scanning. *Brain Tumor Pathol* 1998 ; 15 : 1-6.
- 26) Ueda T¹, Emi M, Suzuki H¹, Komiya A¹, Akakura K¹, Ichikawa T¹, Shiraishi T², Masai M³, Igarashi T¹, Ito H¹ (¹ Chiba Univ., ² Mie Univ., ³ Teikyo Univ.) : Identification of a 1-cM Region of Common Deletion on 13q14 Associated with Metastasis of Human Prostate Cancer. *Genes Chrom Cancer* 1999 ; 24 : 183-190.
- 27) Yokota T, Yoshimoto M¹, Akiyama F¹, Sakamoto G¹, Kasumi F¹, Nakamura Y², Emi M (¹ Cancer Inst., ² IMS, Univ. Tokyo) : Localization of a Tumor Suppressor Gene Associated with Progression of Human Breast Cancer Within a 1-cM Interval of 8p22-p23.1. *Cancer* 1999 ; 85 : 447-452.
- 28) Fukino K, Iida A, Teramoto A¹, Sakamoto G², Kasumi F², Nakamura Y³, Emi M (¹ Dept. Neurosurg., ² Cancer Inst., ³ IMS, Univ. Tokyo) : Frequent Allelic Loss at the TOC locus on 17q25.1 in Primary Breast Cancers. *Genes Chrom Cancer* 1999 ; 24 : 345-350.
- 29) Ohgaki K, Iida A, Ogawa O¹, Kubota Y², Akimoto M³, Emi M (¹ Univ. Kyoto, ² Yokohama City Univ., ³ Dept. Urol.) : Localization of Tumor Suppressor Gene Associated with Distant Metastasis of Urinary Bladder Cancer to a 1-Mb Interval on 8p22. *Genes Chrom Cancer* 1999 ; 25 : 1-5.
- 30) Yokota T, Yoshimoto M¹, Akiyama F¹, Sakamoto G¹, Kasumi F¹, Nakamura Y², Emi M (¹ Cancer

- Inst., ² IMS, Univ. Tokyo) : Frequent Multiplication of chromosomal region 8q24.1 associated with aggressive histologic types of Breast Cancers. *Cancer Lett* 1999 ; 139 : 7-13.
- 31) Kurose K, Araki T¹, Matsunaka T², Takada Y², Emi M (¹ Dept. Ob. Gyn., ² Saijo Cent. Hosp.) : Variant manifestation of Cowden Disease in Japan : Hamartomatous polyposis of the Digestive Tract with Mutation of the PTEN Gene. *Am J Hum Genet* 1999 ; 64 : 308-310.
- 32) Ohgaki K, Minobe K, Kurose K, Iida A, Ogawa O¹, Kubota Y², Akimoto M³, Emi M (¹ Univ. Kyoto, ² Yokohama City Univ, ³ Dept. Urol.) : Two Target Regions of Allelic Loss on Chromosome 9 in Urinary Bladder Cancers. *Jpn J Cancer Res* 1999 ; 90 : 1-8.
- 33) Nakata T, Kitamura Y, Shimizu K¹, Tanaka S¹, Fujimori M², Yokoyama S², Ito K³, Emi M (¹ Dept. Surgery II, ² Shinshu Univ., ³ Ito Hosp.) : Fusion of a Novel Gene ELKS, to c-net due to Tyanslocation t (10 ; 12) (q11 ; p13) in a Papillary Thyroid Carcinoma. *Genes Chrom Cancer* 1999 ; 25 : 97-103.
- 34) Miyao M¹, Hosoi T¹, Emi M, Tsukamoto K, Inoue S¹, Hoshino S¹, Shiraki M², Orimo H², Ouchi Y¹ (¹ Univ. Tokyo, ² Tokyo Metropol. Geriat. Hosp.) : Association of bone mineral density with a dinucleotide repeat polymorphism at the calcitonin locus. *Calcified Tissue Int* 1999 ; 65.
- 35) Tsukamoto K, Yoshimoto M¹, Kasumi F¹, Akiyama F¹, Sakamoto G¹, Nakamura Y², Emi M (¹ Cancer Inst., ² IMS, Univ. Tokyo) : Frequent Multiplication of Chromosome 1q in Non-invasive and Papillotubular Carcinoma of the Breast. *Cancer Lett* 1999 ; 141 : 21-28.
- 36) Kitamura Y, Nakata T, Minobe K, Shimizu K¹, Tanaka S¹, Fujimori M², Yokoyama S², Ito K³, Onda M⁴, Emi M (¹ Dept. Surgery II, ² Shinshu Univ., ³ Ito Hosp., ⁴ Dept. Surgery I) : Ret/PTC3 is the most frequent form of gene rearrangement among papillary thyroid carcinomas in Japan. *J Hum Genet* 1999 ; 44 : 96-102.
- 37) Emi M, Yoshimoto M¹, Sato T¹, Matsumoto S, Utada Y¹, Iwase T¹, Ito I¹, Minobe K, Tada T, Katagiri T, Bando K, Akiyama F¹, Harada Y¹, Fukino K, Sakamoto G¹, Matsushima M², Iida A, Saito H¹, Miki Y¹, Kasumi F¹, Nakamura Y² (¹ Cancer Inst., ² IMS, Univ. Tokyo) : Allelic Loss at of BRCA1, BRCA2, 1p34 13q12, 17p13.3 & 17q21.1 Correlates with Poor Postoperative prognosis in Breast Cancer. *Genes Chrom Cancer* 1999 ; 26 : 134-141.
- 38) Ota N, Nakajima T, Takeuchi T, Shirai Y¹, Emi M (¹ Dept. Orthoped.) : Isolation and radiation hybrid mapping of a highly polymorphic CA repeat sequence at the human nuclear factor kappa-beta subunit 1 (NFkB1) locus. *J Hum Genet* 1999 ; 44 : 129-130.
- 39) Keicho N¹, Tokunaga K¹, Nakata K², Taguchi Y³, Azuma A⁴, Tanabe K¹, Matsushita M¹, Emi M, Ohishi N¹, Kudoh S⁴ (¹ Univ. Tokyo, ² Toranomon Hosp., ³ Tenri Hosp., ⁴ Dept. Intern. Med. IV) : Contribution of TAP genes to genetic predisposition in diffuse panbronchiolitis. *Tissue Antigen* 1999 ; 53 : 366-373.
- 40) Tsukamoto K, Yoshida H¹, Watanabe S¹, Suzuki T¹, Miyao M², Hosoi T², Orimo H², Emi M (¹ Tokyo Metropol. Inst. Gerontol., ² Univ. Tokyo) : Association of radial bone mineral density with CA repeat polymorphism at the human interleukin 6 locus in postmenoposal Japanese women. *J Hum Genet* 1999 ; 44 : 148-151.
- 41) Nakajima T, Ota N, Shirai Y¹, Hata A², Yoshida H³, Watanabe S³, Suzuki T³, Hosoi T⁴, Orimo H⁴, Emi M (¹ Dept. Orthoped., ² Asahikawa Med. Coll., ³ Tokyo Metropol. Inst. Gerontol., ⁴ Tokyo Metropol. Geriat. Hosp.) : Ethnic difference in contribution of Sp1 site variation of COL1A1 gene in genetic predisposition to osteoporosis. *Calcified Tissue Int* 1999 ; 65.
- 42) Tsukamoto K, Orimo H¹, Hosoi T¹, Miyao M¹, Yoshida H², Watanabe S², Suzuki T², Emi M

- (¹ Faculty of Medicine, Univ. Tokyo, ² Tokyo Metropol. Inst. Gerontol.) : Association of bone mineral density with polymorphism of the human calcium-sensing receptor locus. *Calcified Tissue Int* 1999 ; 65.
- 43) Emi M, Keicho N¹, Tokunaga K², Katsumata H, Souma S, Nakata K³, Taguchi K⁴, Ohishi N¹, Azuma A⁵, Kudoh S⁵ (¹ Dept. Resp. Med., Univ. Tokyo, ² Dept. Hum. Genet., Univ. Tokyo, ³ Toranomon Hosp., ⁴ Tenri Hosp., ⁵ Dept. Intern. Med. IV) : Association of diffuse panbronchiolitis with microsatellite polymorphism at the human interleukin 8 (IL-8) locus. *J Hum Genet* 1999 ; 44 : 169-172.
- 44) Pineau P¹, Nagai H, Prigent S¹, Wei Y¹, Gyapay G², Weissenbach J¹, Tiollais P¹, Buendia M¹, Dejean A¹ (¹ Inst. Pasteur, ² Genethon) : High density mapping of three major regions of deletion on chromosome 8p in human hepatocellular carcinoma. *Oncogene* 1999 ; 18 : 3127-3134.
- 45) Nagai H, Kim S Y¹, Yasuda T², Ohmachi Y², Yokouchi H², Monden M², Konishi N³, Nogami M⁴, Okumura K⁴, Matsubara K² (¹ KIST, ² Osaka Univ., ³ Nara Med. Univ., ⁴ Mie Univ.) : A Novel Sperm Specific Hypomethylation Sequence is a Demethylation Hotspot in Human Hepatocellular Carcinomas. *Gene* 1999.
- 46) Koyama M, Ito M¹, Nagai H, Emi M, Moriyama Y¹ (¹ Inst. Digest. Dis., Second Hosp.) : Inactivation of Both Alleles of the DPC4/SMAD4 Gene in Advanced Colorectal Cancers : Identification of Seven Novel Somatic Mutations in Tumors from Japanese Patients. *Mutation Research Genomics* 1999 ; 406 : 71-77.
- 47) Bando K, Nagai H, Matsumoto S, Koyama M, Kawamura N, Onda M¹, Emi M (¹ Dept. Surgery I) : Localization of a Tumor Suppressor Gene Associated with Progression of Hepatocellular Carcinoma Within a 1-cM Region on 4q35. *Genes Chrom Cancer* 1999 ; 25 : 284-289.
- 48) Tsukamoto K, Yoshida H¹, Watanabe S¹, Suzuki T¹, Miyao M², Hosoi T², Orimo H¹, Emi M (¹ Tokyo Metropol. Inst. Gerontol., ² Univ. Tokyo) : Association of Bone Mineral Density with CA Repeat Polymorphism of the Human Matrix Gla protein Gene in Japanese. *J Bone Miner Metab* 1999 ; 18.
- 49) Minobe K, Bando K, Fukino K, Soma S, Kasumi F¹, Sakamoto G¹, Onda M², Nakamura Y³, Emi M (¹ Cancer Inst., ² Dept. Surgery I, ³ IMS, Univ. Tokyo) : Somatic Mutation of the PTEN/MMAC gene in Japanese Breast Cancer with Microsatellite Instability. *Cancer Lett* 1999 ; 141.
- 50) Saeki R¹, Nagai H, Kaneko S¹, Unoura M¹, Yamanaka N², Okamoto E², Kobayashi K¹, Matsubara K³ (¹ Kanazawa Univ., ² Hyogo Med. Coll., ³ Nara IST.) : Intratumoral Genomic Heterogeneity in Human Hepatocellular Carcinoma Detected by Restriction Landmark Genomic Scanning. *J Hepat* 1999.
- 51) Kawamura N, Nagai H, Bando K, Koyama M, Matsumoto S, Tajiri T¹, Onda M¹, Fujimoto J², Ueki T², Konishi N³, Shiba T⁴, Emi M (¹ Dept. Surgery I, ² Hyogo Med. Coll., ³ Nara Med. Univ., ⁴ Kitasato Univ.) : PTEN/MMAC1 Mutations in Hepatocellular Carcinomas : Somatic Inactivation of Both Alleles in Tumors. *Jpn J Cancer Res* 1999 ; 90 : 413-418.

(2) 綜説 :

- 1) 美濃部かおり, 松本智司, 江見 充 : 切除乳癌組織の遺伝子診断 (特集: 乳癌の発生・進展・転移機構). *乳癌の臨床* 1998 ; 13 : 541-546.
- 2) 野口眞三郎¹, 野水 整², 福富 隆³, 三木義男⁴, 江見 充, 秋山 太⁵, 春日井努⁶, 小山博記⁷ (¹ 大阪大・腫瘍外科, ² 星総合病院・外科, ³ 国立がんセンター・外科, ⁴ 癌研・遺伝子診断部, ⁵ 癌研・病理, ⁶ 大阪成人病センター・病理, ⁷ 大阪成人病センター・外科) : 遺伝性乳癌 (特集: 乳癌をめぐる最近の話題). *Pharma Medica* 1998 ; 16 : 83-88.
- 3) 坂東功一, 江見 充, 中村祐輔¹ (¹ 東大・医科研) : 乳癌の遺伝子から見たハイリスクグループ. *日本乳癌検診学会誌* 1998 ; 7 : 247-256.
- 4) 吹野晃一, 江見 充, 中村祐輔¹ (¹ 東大・医科研) : 癌と遺伝子 (特集: 臨床医に必要な遺伝医学). *臨床医*

1999 ; 25 : 1285-1289.

- 5) 中島敏明, 江見 充: 動脈硬化と遺伝子多型 (特集: 老年医学の展望). 日本老年医学会雑誌 1999 ; 36 : 113-117.

著 書

- 1) 北村 裕, 田中茂夫¹⁾, 江見 充⁽¹⁾ 外科第1): [分担] 癌の遺伝子診断法の進歩. 癌化のメカニズムを解く (横田 淳編), 1998 ; pp104-109, 羊土社.
- 2) 黒瀬圭輔, 江見 充: [分担] BRCA1, BRCA2と乳癌. がん遺伝子・がん抑制遺伝子 (渋谷正史, 山本 雅編), 1998 ; pp268-272, 中外医学社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 江見 充: 乳癌, 甲状腺癌の遺伝子異常とDNA診断. 第9回横浜市大大学院医学学術セミナー, 1998. 9.

(2) シンポジウム:

- 1) Emi M: International Symposium on Lipoprotein metabolism & Atherogenesis. International Symposium on Lipoprotein metabolism & Atherogenesis (Kyoto), 1998. 12.
- 2) 江見 充: 高脂血症の家系分析. 日本血栓止血学会総会・第5回TVMフォーラム, 1998. 9.

(3) 一般講演:

- 1) Emi M, Hirayama T, Yamaki E, Hata A¹⁾, Tsuji M²⁾, Hashimoto K³⁾, Yamamoto M³⁾ (1) 北大・公衆衛生学, 2) 北海道社会保険中央病院・内科, 3) 小児科学): Five Familial Hypercholesterolemia Pedigrees in Japan with Novel Mutations of the LDL Receptor Gene. Am. Soc. Hum. Genet. Ann. Mtg (Denver), 1998. 10.
- 2) Nagai H, Kim Y¹⁾, Bando K, Kawamura N, Koyama M, Emi M (1) KIST): Analysis of a gene frequently aberrated in human hepatocellular carcinoma. Am. Soc. Hum. Genet. Ann. Mtg (Denver), 1998. 10.
- 3) Bando K, Matsumoto S, Onda M¹⁾, Akiyama F²⁾, Sakamoto G²⁾, Yoshimoto M³⁾, Kasumi F³⁾, Nakamura Y⁴⁾, Emi M (1) 外科第1, 2) 癌研・病理, 3) 癌研・外科, 4) 東大・医科研): Frequent allelic loss at 6q26-27 in breast carcinomas of the solid-tubular histologic type. Am. Soc. Hum. Genet. Ann. Mtg (Denver), 1998. 10.
- 4) Iida A, Mine N, Fukino K, Kurose K, Yokota T, Nobe Y, Katsumata H, Nagai H, Emi M: Construction of PAC contig of TOC region deleted in breast cancer at 17q25.1. Am. Soc. Hum. Genet. Ann. Mtg (Denver), 1998. 10.
- 5) Fukino K, Iida A, Teramoto A¹⁾, Sakamoto G²⁾, Kasumi F³⁾, Nakamura Y⁴⁾, Emi M (1) 脳神経外科, 2) 癌研・病理, 3) 癌研・外科, 4) 東大・医科研): Frequent allelic loss at TOC locus on 17q25.1 in primary breast cancers. Am. Soc. Hum. Genet. Ann. Mtg (Denver), 1998. 10.
- 6) Nakajima T, Inoue I¹⁾, Cheng T²⁾, Rohrwasser A²⁾, Emi M (1) ユタ大, 2) 群馬大): A mutation in the signal peptide of angiotensinogen identified in essential hypertension subjects leads to decreased secretion. Am. Soc. Hum. Genet. Ann. Mtg (Denver), 1998. 10.
- 7) Kurose K, Bando K, Fukino K, Sugisaki T¹⁾, Araki T²⁾, Emi M (1) 付属病院病理部, 2) 産婦人科): Somatic mutations of the PTEN/MMAC1 gene in fifteen Japanese endometrial cancers: Evidence for inactivation of both alleles. Am. Soc. Hum. Genet. Ann. Mtg (Denver), 1998. 10.
- 8) 吹野晃一, 相馬 祥, 飯田有俊, 江見 充, 寺本 明¹⁾, 中村祐輔²⁾, 坂元吾偉³⁾, 吉本賢隆⁴⁾, 霞富士雄⁴⁾ (1) 脳神経外科, 2) 東大・医科研, 3) 癌研・病理, 4) 癌研・外科): 散発性乳癌におけるp53遺伝子領域の欠失と組織型及びホルモンレセプターとの相関. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.

- 9) 横田 隆, 江見 充, 中村祐輔¹⁾, 吉本賢隆²⁾, 坂元吾偉³⁾, 霞富士雄²⁾ (1) 東大・医科研, 2) 癌研・外科, 3) 同病理): ヒト乳癌の進展・悪性度に関わる第8番染色体回短腕の欠失領域の同定. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 10) 中田朋子, 霞富士雄¹⁾, 坂元吾偉²⁾, 吉本賢隆²⁾, 中村祐輔³⁾, 江見 充 (1) 癌研・外科, 2) 同病理, 3) 東大・医科研): 乳癌における第11番染色体短腕欠失とホルモン依存性の消失. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 11) 黒瀬圭輔, 江見 充, 荒木 勤¹⁾, 中村祐輔²⁾, 坂元吾偉³⁾, 吉本賢隆³⁾, 霞富士雄⁴⁾ (1) 産婦人科, 2) 東大・医科研, 3) 癌研・病理, 4) 同外科): 散発性乳癌における第7番染色体欠失地図の作製. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 12) 飯田有俊, 黒瀬圭輔, 江見 充, 中村祐輔¹⁾, 坂元吾偉²⁾, 吉本賢隆²⁾, 霞富士雄³⁾ (1) 東大・医科研, 2) 癌研・病理, 3) 同外科): 乳癌における第22番染色体の共通欠失領域は22q13.1領域IL2RB-D22S279の2-cMである. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 13) 大垣憲司, 飯田有俊, 吉本賢隆¹⁾, 霞富士雄²⁾, 坂元吾偉¹⁾, 中村祐輔³⁾, 秋元成太⁴⁾, 江見 充 (1) 癌研・病理, 2) 癌研・外科, 3) 東大・医科研, 4) 泌尿器科): ホルモンレセプター消失に関連する乳癌第21番染色体欠失の検討. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 14) 美濃部かおり, 江見 充, 中村祐輔¹⁾, 坂元吾偉²⁾, 吉本賢隆²⁾, 霞富士雄³⁾, 古川清憲⁴⁾, 樋口勝美⁴⁾, 恩田昌彦⁴⁾ (1) 東大・医科研, 2) 同病理, 3) 同外科, 4) 外科第1): 乳癌における Microsatellite Instability の検討. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 15) 坂東功一, 恩田昌彦¹⁾, 松本智司, 中村祐輔²⁾, 坂元吾偉³⁾, 吉本賢隆³⁾, 霞富士雄⁴⁾, 江見 充 (1) 外科第1, 2) 東大・医科研, 3) 同病理, 4) 同外科): 6q26-27における染色体欠失と乳癌組織型との相関. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 16) 江見 充, 松本智司, 吉本賢隆¹⁾, 霞富士雄²⁾, 坂元吾偉¹⁾, 中村祐輔³⁾ (1) 癌研・病理, 2) 同外科, 3) 東大・医科研): 乳癌の遺伝子診断による術後予後判定. 第6回日本乳癌学会総会, 1998. 5.
- 17) 飯田有俊, 江見 充: 癌の遺伝子診断技術の進歩. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 18) 永井尚生, 江見 充: 疾患遺伝子ポジショニング技術の進歩. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 19) 野辺由紀子, 江見 充: 遺伝子データベース解析技術の進歩. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 20) 横田 隆, 江見 充: 細胞診分野における染色体解析技術の進歩. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 21) 河村直樹, 永井尚生, 江見 充, 柴 忠義¹⁾ (1) 北科大・理学): 癌における染色体欠失検出技術の進歩. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 22) 勝又晴美, 南 史朗¹⁾, 江見 充 (1) 老研・疫学): 遺伝子点突然変異検出の進歩. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 23) 黒瀬圭輔, 荒木 勤¹⁾, 江見 充, 小西英喜²⁾ (1) 産婦人科, 2) 第二病院産婦人科): 子宮体癌・子宮平滑筋腫における染色体異常・遺伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 24) 美濃部かおり, 古川清憲¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 江見 充 (1) 外科第1): 乳癌の染色体・遺伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 25) 大垣憲司, 秋元成太¹⁾, 江見 充 (1) 泌尿器科): 泌尿器癌の染色体・遺伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 26) 坂東功一, 松本智司, 田尻 孝¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 永井尚生, 江見 充 (1) 外科第1): 肝癌の染色体・遺伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 27) 小山雅章, 伊藤正秀¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 江見 充 (1) 第二病院消化器センター): 降癌・大腸癌の遺伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 28) 吹野見一, 寺本 明¹⁾, 江見 充, 高橋 弘²⁾ (1) 脳神経外科, 2) 第二病院脳神経外科): 脳腫瘍の染色体・遺

- 伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 29) 太田信孝, 白井康正¹⁾, 江見 充⁽¹⁾ (整形外科): 骨粗鬆症の遺伝的素因解析. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 30) 北村 裕, 清水一雄¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 江見 充⁽¹⁾ (外科第2): 多内分泌腺腫症の遺伝子診断. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 31) 中田朋子, 江見 充, 清水一雄¹⁾, 田中茂夫⁽¹⁾ (外科第2): 甲状腺癌における融合遺伝子異常. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 32) 江見 充, 平山恒憲¹⁾, 橋本 清¹⁾ (第二病院小児科): 高脂血症の遺伝解析の進歩. 日本医科大学医学会第95回例会, 1998. 6.
- 33) 鈴木隆雄¹⁾, 吉田英世¹⁾, 渡辺修一郎¹⁾, 江見 充, 塚元和弘, 細井孝之²⁾, 中村哲郎³⁾, 折茂 肇³⁾ (1) 都老人研・疫学, 2) 東大・老年科, 3) 都老人医療セ): 地域高齢者の前腕骨密度に関連する遺伝的・環境的要因の疫学的分析. 日本骨代謝学会, 1998. 8.
- 34) 江見 充, 松本智司, 吉本賢隆¹⁾, 霞富士雄¹⁾, 坂元吾偉²⁾, 中村祐輔³⁾ (1) 癌研・外科, 2) 癌研・病理, 3) 東大・医科研): 乳癌における術後予後の遺伝子診断; 5年プロスペクティブ研究. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 35) 松本智司, 恩田昌彦¹⁾, 吉本賢隆²⁾, 霞富士雄²⁾, 中村祐輔³⁾, 江見 充⁽¹⁾ (外科第1, 2) 癌研・外科, 3) 東大・医科研): ホルモン依存症および非依存性乳癌における術後予後の遺伝子診断. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 36) 美濃部かおり, 恩田昌彦¹⁾, 古川清憲¹⁾, 樋口勝美¹⁾, 霞富士雄²⁾, 中村祐輔³⁾, 江見 充⁽¹⁾ (外科第1, 2) 癌研・外科, 3) 東大・医科研): ゲノム不安定性を示す乳癌に認められたPTENの変異. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 37) 中田朋子, 藤森 実¹⁾, 横山史朗¹⁾, 清水一雄²⁾, 田中茂夫²⁾, 伊藤國彦³⁾, 江見 充⁽¹⁾ (信州大・二外, 2) 外科第2, 3) 伊藤病院): 甲状腺乳頭癌における新規融合遺伝子ELKS-c-retの解析. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 38) 永井尚生, Buendia M.A¹⁾, Tiollais P¹⁾, 江見 充⁽¹⁾ (パスツール研): 原発性肝癌の全ゲノム領域における欠失の検索. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 39) 坂東功一, 永井尚生, 河村直樹, 田尻 孝¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 江見 充⁽¹⁾ (外科第1): 肝癌における第4番染色体長腕上の欠失領域の解析. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 40) 吹野晃一, 飯田有俊, 寺本 明¹⁾, 吉本賢隆²⁾, 霞富士雄²⁾, 秋山 太³⁾, 坂元吾偉³⁾, 中村祐輔⁴⁾, 江見 充⁽¹⁾ (脳神経外科, 2) 癌研・外科, 3) 癌研・病理, 4) 東大・医科研): 散発性乳癌における第17番染色体長腕TOC座位(17q25.1)の高頻度欠失. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 41) 黒瀬圭輔, 坂東功一, 吹野晃一, 横田 隆, 小西英喜¹⁾, 米山剛一¹⁾, 土居大祐¹⁾, 太田雄治郎¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 江見 充⁽¹⁾ (産婦人科): 子宮体癌にて同定された13種の新規PTEN遺伝子体細胞変異. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 42) 北村 裕, 清水一雄¹⁾, 伊藤公一²⁾, 田中茂夫¹⁾, 江見 充⁽¹⁾ (外科第2, 2) 伊藤病院): 予後不良甲状腺癌の検討: 臨床的特徴とヘテロ接合性消失(LOH)の解析. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 43) 横田 隆, 吉本賢隆¹⁾, 霞富士雄¹⁾, 秋山 太²⁾, 坂元吾偉²⁾, 中村祐輔³⁾, 江見 充⁽¹⁾ (癌研・外科, 2) 同病理, 3) 東大・医科研): 乳癌における第8番染色体長腕増幅領域の解析. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 44) 大垣憲司, 飯田有俊, 窪田吉信¹⁾, 小川 修²⁾, 吉田 修³⁾, 秋元成太⁴⁾, 江見 充⁽¹⁾ (横浜市大・泌尿器科, 2) 秋田大・泌尿器科, 3) 京大・泌尿器科, 4) 泌尿器科): 膀胱癌における第8番染色体短腕欠失の検討. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9.
- 45) 永井尚生, 坂東功一, 河村直樹, 小山雅章, 江見 充: 肝癌の染色体欠失領域の解析. 第66回日本医科大学医

- 学会総会, 1998. 9.
- 46) 小山雅章, 永井尚生, 坂東功一, 河村直樹, 江見 充, 伊藤正秀¹⁾, 森山雄吉¹⁾ (1) 第二病院消化器センター): 肝細胞癌における第16番染色体のヘテロ接合性の消失 (LOH) の解析. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 47) 河村直樹, 永井尚生, 坂東功一, 小山雅章, 江見 充, 柴 忠義¹⁾ (1) 北里大・理学): 肝細胞癌におけるゲノム不安定性と標的遺伝子の異常の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 48) 坂東功一, 永井尚生, 河村直樹, 小山雅章, 松本智司, 田尻 孝¹⁾, 江見 充, 恩田昌彦¹⁾ (1) 外科第1): 肝臓における第4番染色体欠失の検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 49) 美濃部かおり, 恩田昌彦¹⁾, 古川清憲¹⁾, 樋口勝美¹⁾, 江見 充 (1) 外科第1): 乳癌におけるゲノム不安定性とPTEN体細胞変異. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 50) 中田朋子, 江見 充, 南 史朗¹⁾, 北村 裕, 清水一雄²⁾, 田中茂夫²⁾ (1) 老研・疫学, 2) 外科第2): 甲状腺乳頭癌において検出された新規融合遺伝子ELKS-c-retの解析. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 51) 江見 充, 松本智司, 美濃部かおり, 恩田昌彦¹⁾ (1) 外科第1): 切除乳癌の病理遺伝子診断による術後予後判定. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 52) 飯田有俊, 峯 伸也, 吹野功一, 横田 隆, 勝又晴美, 野辺由紀子, 江見 充: PACクローニングシステムを用いたTOC/乳癌/食道癌遺伝子領域の物理地図の作製. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 53) 中島敏晶, 江見 充: アンジオテンシノーゲン mRNA の翻訳開始コドンに関する検討. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 54) 黒瀬圭輔, 坂東功一, 吹野晃一, 横田 隆, 江見 充, 杉崎祐一¹⁾, 小西英喜²⁾, 米山剛一²⁾, 土居大祐²⁾, 太田雄治郎²⁾, 荒木 勤²⁾ (1) 付属病院病理部, 2) 産婦人科): 日本人子宮体癌患者において同定されたPTEN/MMAC1遺伝子体細胞変異. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 55) 大垣憲司, 飯田有俊, 江見 充, 秋元成太¹⁾ (1) 泌尿器科): 膀胱癌の遠隔転移に関わる第8番染色体短腕上癌抑制遺伝子の限局化. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 56) 北村 裕, 清水一雄¹⁾, 伊藤公一²⁾, 田中茂夫¹⁾, 江見 充 (1) 外科第2, 2) 伊藤病院): 甲状腺髄様癌に対する遺伝性症例鑑別のための遺伝子診断の必要性について. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 57) 横田 隆, 中田朋子, 北村 裕, 清水一雄¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 江見 充 (1) 外科第2): 甲状腺癌に関わるELKS遺伝子領域の三次元P1人工染色体 (PAC) システムによるゲノムクローニング. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 58) 吹野晃一, 飯田有俊, 寺本 明¹⁾, 江見 充 (1) 脳神経外科): 散発性乳癌において高頻度に見られる第17番染色体長腕TOC座位 (17q25.1) の欠失. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 59) 太田信孝, 塚元和弘, 白井康正¹⁾, 江見 充 (1) 整形外科): 骨粗鬆症における遺伝子多型と骨密度の相関研究. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 60) 野辺由紀子, 勝又晴美, 八巻恵美, 江見 充: ユタ州FH大家系における4種の新規LDL受容体遺伝子変異の同定. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 61) 勝又晴美, 野辺由紀子, 八巻恵美, 南 史朗¹⁾, 江見 充 (1) 老研・疫学): 変異対立遺伝子間の相互作用: 高LDL血症2家系におけるLDL受容体の変異の解析. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 62) 八巻恵美, 勝又晴美, 野辺由紀子, 江見 充: 非典型アポE遺伝子タイプを持つ家族性III型高脂血症患者8例の解析. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 63) 松本智司, 恩田昌彦¹⁾, 江見 充 (1) 外科第1): 乳癌におけるホルモン依存性と術後予後遺伝子診断. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
 - 64) 北村 裕, 清水一雄¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 伊藤公一²⁾, 江見 充 (1) 外科第2, 2) 伊藤病院): 予後不良甲状腺癌における染色体欠失の検討. 第31回甲状腺外科研究会, 1998. 10.

- 65) 勝又晴美, 野辺由紀子, 八巻恵美, Hopkins P¹⁾, Williams R¹⁾, 南 史朗²⁾, 江見 充^{(1) ユタ大, 2) 老研・疫学}: 高LDL血症2家系におけるLDL受容体の異なる変異対立遺伝子間の相互作用. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 66) 野辺由紀子, 勝又晴美, 八巻恵美, 江見 充, Hopkins P¹⁾, Williams R¹⁾ (1) ユタ大): 心筋梗塞多発ユタFH大家系における4種の新規LDL受容体遺伝子変異の同定. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 67) 江見 充, 勝又晴美, 野辺由紀子, Wu L¹⁾, Hopkins P¹⁾ (1) ユタ大): 家族性III型高脂血症患者8例における非典型アポE遺伝子タイプの同定. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 68) 飯田有俊, 江見 充, 中村祐輔¹⁾, 福島義光²⁾ (1) 東大・医科研, 2) 信州大・衛生): 内臓逆位症原因遺伝子DHTXのポジショナルクローニング. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 69) 永井尚生, 江見 充: 新しいcDNA変異スクリーニング法. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 70) 太田信孝, 塚元和弘, 白井康正, 江見 充^{(1) 整形外科}: 骨粗鬆症における遺伝子多型と骨密度の検討. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 71) 北村 裕, 清水一雄¹⁾, 伊藤公一²⁾, 田中茂夫¹⁾, 江見 充^{(1) 外科第2, 2) 伊藤病院}: 甲状腺髄様癌に対する遺伝子診断の必要性について: 連続症例による検討. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 72) 黒瀬圭輔, 荒木 勤¹⁾, 松中 豪²⁾, 高田泰治²⁾, 江見 充^{(1) 産婦人科, 2) 西条中央病院・内科}: 日本人非定型Cowden病患者におけるPTEN遺伝子胚細胞変異の同定. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 73) 河村直樹, 永井尚生, 坂東功一, 小山雅章, 江見 充: ゲノム不安定性を示すヒト原発性肝癌における標的遺伝子の異常の解析. 日本人類遺伝学会第43回大会, 1998. 10.
- 74) 折茂英生¹⁾, 中島英逸¹⁾, 山本基子¹⁾, 池島三与子¹⁾, 江見 充, 島田 隆¹⁾ (1) 生化第2): Microsatellite instabilityを示す大腸癌におけるミスマッチ修復蛋白質 hMSH3遺伝子の変異と多型の解析. 第21回日本分子生物学会年会, 1998. 12.
- 75) 北村 裕, 清水一雄¹⁾, 北川 亘¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 長浜充二²⁾, 伊藤公一²⁾, 田中茂夫¹⁾, 江見 充^{(1) 外科第2, 2) 伊藤病院}: 甲状腺癌死亡症例41例における染色体領域のヘテロ接合性消失 (LOH) の検討. 第99回外科学会総会, 1999. 3.

[臨床部門]

研究概要

研究の主眼: 臨床面から老年病の現状を分析し病態の解明および対策予防を目標とする。

研究内容: 第二病院健康管理科(部門長が兼任)を受診する人間ドック受診者約1000名および川崎市老人健康診査受診者約700名を対象として生活習慣病の診断と予防に関する研究および現代老人の健康度と生活習慣との関連について研究をすすめている。平成10年度は老年者の肥満と生活習慣病の関連を検討し, 見かけ上の肥満はないが体脂肪率の高いグループ(隠れ肥満)に高血圧, 高脂血症など生活習慣病の合併が高率であることや人間ドックの丁寧な事後指導が生活習慣病の予防に有効であることなどを報告した。また, 老人検診での血中BNP(B型ナトリウム利尿ペプチド)の測定結果より老年者には自覚症状の乏しい潜在性の心不全が高率に存在すること, および血中BNPの測定がその診断に有効であることを発表した。

今後はさらに現代老人のプロファイルを遺伝的要因と環境(生活習慣)要因の2方向からデータを蓄積し解析, 検討することにより老年病予防の研究を進めていきたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 永井信也¹⁾, 安室尚樹, 鈴木達也²⁾, 笹井恵子²⁾, 中野博司²⁾, 大庭建三²⁾, 妻鳥昌平²⁾ (1) 第二病院健康管理科, 2) 付属病院老人科)：老年健康診査における隠れ肥満の検出と生活習慣病について. 川崎医師会医会誌 1998；15：25-28.
- 2) 永井信也¹⁾, 安室尚樹, 鈴木達也²⁾, 笹井恵子²⁾, 中野博司²⁾, 大庭建三²⁾, 妻鳥昌平²⁾ (1) 第二病院健康管理科, 2) 付属病院老人科)：人間ドックの事後指導の評価：生活習慣病について. 健康医学 1998；13 (3)：260-263.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 岡崎恭次¹⁾, 松浦良樹¹⁾, 鯉淵 仁¹⁾, 松村典昭¹⁾, 矢野 誠¹⁾, 安室尚樹, 鈴木達也¹⁾, 中野 博司¹⁾, 大庭建三¹⁾, 妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：グリベンクラミドの至適投与法に関する検討：朝1回投与と朝夕割投与の血糖日内変動による検討. 第41回日本糖尿病学会年次学術集会, 1998. 5.
- 2) 永井信也¹⁾, 安室尚樹, 中野博司²⁾, 大庭建三²⁾, 妻鳥昌平²⁾ (1) 第二病院健康管理科, 2) 付属病院老人科)：老年者の潜在性心不全の診断：老人健康診査における血中BNP測定の有用性について. 第40回日本老年医学会学術集会, 1998. 6.
- 3) 永井信也¹⁾, 安室尚樹, 鈴木達也²⁾, 笹井恵子²⁾, 中野博司²⁾, 大庭建三²⁾, 妻鳥昌平²⁾ (1) 第二病院健康管理科, 2) 付属病院老人科)：人間ドックで診断された脂肪肝症例の肥満度と体脂肪率について. 第39回日本人間ドック学会, 1998. 8.
- 4) 永井信也¹⁾, 板垣真一¹⁾, 安室尚樹, 伊藤正秀²⁾, 森山雄吉²⁾ (1) 同健康管理科, 2) 同消化器病センター)：職域の健康管理：(1) 大企業における労働者の健康状態について：特に消化器疾患の最近の動向. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.
- 5) 板垣真一¹⁾, 永井信也¹⁾, 安室尚樹, 伊藤正秀²⁾, 森山雄吉²⁾ (1) 第二病院健康管理科, 2) 同消化器病センター)：職域の健康管理：(2) 中規模工場労働者の血液生化学データの経年変化. 第66回日本医科大学医学会総会, 1998. 9.

付 表

各種研究費補助金・研究助成金交付状況

1. 平成 10 年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	審査区分	氏名	所属・職	交付額 (万円)	研究課題
国際学術研究		西野 武士	生化学第一・教授	350	活性酸素を生成する複合金属フラビン酵素の構造と機能
特例領域研究(A)(1)		西野 武士	生化学第一・教授	3,230	※金属蛋白質による情報変換
〃		太田 成男	老人病研究所・教授	4,600	※RNA 高次機能の分子基盤
特例領域研究(A)(2)		江見 充	老人病研究・教授	1,000	※乳癌の遺伝子診断
〃		程 久美子	薬理学・講師	200	ジョウジョウバエ神経細胞株を用いた変態ホルモン除去による細胞死誘導機構の解析
〃		池島三与子	生化学第二・講師	190	ヒト MSH3 蛋白質の機能解析
〃		麻生 定光	老人病研究所・助教授	160	ミトコンドリア DNA のヘテロプラズミー変異によるパーキンソン病の遺伝的素因の同定
基盤研究(A)(2) 展開		秋元 成太	泌尿器科学・教授	350	※腎温存をめざした腎細胞癌に対する遺伝子治療
基盤研究(B)(2) 一般		坂本 長逸	内科学第三・教授	290	※ follistatin 様構造をもつ新規 EGF 様蛋白質の消化管粘膜における役割
〃		太田 成男	老人病研究所・教授	180	※変異ミトコンドリア DNA の除去によるミトコンドリア脳筋症の遺伝子治療法の開発
〃		秋元 成太	泌尿器科学・教授	180	※膀胱腫瘍予後規定因子としての p53 とその修飾因子の究明
〃		八木 聡明	耳鼻咽喉科学・教授	60	※緩徐および急速眼球運動の三次元解析
〃		西野 武士	生化学第一・教授	240	※フリーラジカルを生成する金属フラビン酵素の構造と機能
〃		工藤 翔二	内科学第四・教授	780	肺癌抑制遺伝子候補の全 cDNA 配列, ゲノム構造の決定と変異のスクリーニング
〃		佐久間康夫	生理学第一・教授	730	レポータ遺伝子による脳内エストロゲン受容体陽性ニューロンの同定と機能解析
基盤研究(B)(2) 展開		荒木 勤	産婦人科学・教授	240	※脳虚血, 脳低酸素症におけるヒツジ胎仔脳温と脳障害発生機構に関する研究
〃		島田 隆	生化学第二・教授	260	※ Gaucher 病に対する造血幹細胞を標的とした遺伝子治療
基盤研究(C)(1) 一般		相原 薫	中央電子顕微鏡研究施設・教授	230	計装化マイクロトームの開発と生体組織/異種物質との界面密着性評価
基盤研究(C)(2) 一般		田島 廣之	放射線医学・助教授	50	※重症骨盤骨折の出血に関する研究一回転デジタル血管撮影装置を用いた診断と治療
〃	〃	福生 吉裕	内科学第二・助教授	40	※単球/マクロファージの分化を調節する生理活性物質の精製と cDNA クリーニング

〃	一般	高橋 弘	脳神経外科学・助教授	80	※2種の癌抑制遺伝子を用いたヒト悪性グリオーマのカクテル遺伝子療法の研究
〃	〃	坂本 篤裕	麻酔科学・講師	60	※ショックおよび虚血再灌流時の一酸化窒素の変動とその対策臨床評価への応用—
〃	〃	澤 倫太郎	産婦人科学・助手	50	※胎児脳障害に対するアデノシンの防御機構に関する研究
〃	〃	米山 芳雄	産婦人科学・講師	50	※妊娠中毒症におけるアデノシンの血小板凝集抑制作用の臨床的意義の考察
〃	〃	木山 裕子	生理学第一・講師	60	※特異的DNA構造からヒト・グロビン遺伝子スイッチング制御
〃	〃	鈴木 秀典	薬理学・助教授	100	※グリア細胞株由来神経栄養因子ファミリーの同定と機能解析
〃	〃	櫻田 紳策	老人病研究所・助手	50	※緑色レンサ球菌群代謝物質ならびに菌体成分の血管内皮細胞傷害に関する研究
基盤研究(C)(2)	一般	鈴木 博	老人病研究所・講師	140	※二枚貝におけるウイルス汚染に関する研究
〃	〃	安 恵美	内科学第三・助手	60	※正常高齢者の免疫機能,特にナチュラルキラー細胞活性に関する研究(その特徴と感染症の発生・予後との関連について)
〃	〃	中島 敦夫	内科学第二(リウマチ科)・助手	120	※自己免疫疾患発症の分子機構およびその制御
〃	〃	福田 悠	病理学第一・助教授	70	※プレオマイシン肺線維症における構造改築とマトリックスメタロプロテアーゼの関与
〃	〃	遠藤 孝雄	内科学第一・講師	50	※心不全進展過程におけるカルシウム活性化中性蛋白分解酵素(CANP)の役割
〃	〃	佐藤 直樹	内科学第一・助手	50	※心不全における末梢血管平滑筋のギャップ・ジャンクション機能の検討
〃	〃	岡田 進	放射線医学・助教授	50	※腎不全患者におけるガドリニウム造影剤の安全性及び,透析による除去能に関する研究
〃	〃	南 史朗	老人病研究所・教授	100	※成長ホルモンの拍動性分泌発現機構の研究
〃	〃	赤石 治美	内科学第二・助手	60	※離島におけるビタミンE転送蛋白欠損症の背景調査とその対策
〃	〃	猪口 孝一	内科学第三・講師	100	※慢性骨髄性白血病に突然変異を認めるc-mpl, c-kit遺伝子に関する研究
〃	〃	緒方 清行	内科学第三・講師	70	※造血管腫瘍患者の樹状細胞に関する研究—その性状と機能の解析—

◇	◇	清水 一雄	外科学第二・助教授	10	※永続的甲状腺機能低下症に関する甲状腺移植の基礎的研究と臨床応用
◇	◇	二宮 淳一	外科学第二・助教授	10	※レーザーによる心筋血行再建術の研究
◇	◇	小泉 潔	外科学第二・助教授	20	※肺ブラ・ブレブの発生，組織構築に関する病理組織学的検討
◇	◇	小川 龍	麻酔科学・教授	60	※なぜ麻酔や外科侵襲が周術期の宿主防御機能を弱化するか？
◇	◇	明楽 重夫	産婦人科学・講師	60	※ラット胎仔における，脳内CRF及びCRFレセプター1型 mRNAの発現とその調節
◇	◇	鈴木 俊治	産婦人科学・助手	150	※ヒツジ新生仔の脳温恒常性の破綻と脳障害発生機序に関する研究
◇	◇	小川 守	耳鼻咽喉科学・助手	60	※鼻粘膜肥満細胞発育因子に関する研究
◇	◇	ルビー・パワ ンカール	耳鼻咽喉科学・講師	120	※アレルギー性鼻炎鼻粘膜における肥満細胞の役割について
◇	◇	パーハーS・ イシュワー	生理学第一・助手	80	※テラピアにおける部位特異的に発現するゴナドトロピン放出ホルモン遺伝子の制御機構
◇	◇	高市 真一	生物学・助教授	200	葉緑体のネオキサンチンは全てダーシス型である；系統発生と分布と機能
◇	◇	杉本 啓治	解剖学第一・助教授	180	血管内皮細胞の伸展刺激に対する応答反応系
◇	◇	加藤 昌克	生理学第一・講師	190	視床下部ペプチド含有ニューロンのレポータ遺伝子による標識と機能解析
◇	◇	麻生 定光	老人病研究所・助教授	140	ミトコンドリア機能の低下を識別する核遺伝子の転写制御機構
◇	◇	浅野 健	小児科学・助手	100	薬剤耐性癌腫に対するイボインソメラゼ 遺伝子導入による遺伝子治療
◇	◇	大国 寿士	老人病研究所・教授	100	緑色レンサ球菌群の代謝物質の組織障害作用に関する研究
◇	◇	稲垣 弘文	衛生学・公衆衛生学・ 講師	150	中毒の指標としての血清コリエステラーゼのホモ比活性
基盤研究(C)(2) 一般	◇	永島 正一	内科学第二(リウマチ科)・講師	190	Disease modifying antirheumatic drugs(DMARDs)およびvascular endothelial growth factor(VEGF)アンチセンス療法によるサイトカインおよび血管増殖因子抑制効果に関する基本的研究
◇	◇	津久井 拓	内科学第三・助手	180	ヒトパピローマウイルスを特異的に認識するT細胞の誘導とそのエピトープの解析
◇	◇	片山 泰朗	内科学第二・教授	140	脳虚血耐性現象におけるアポトーシス制御機序の関与の解明

◇	一般	桂 研一郎	内科学第二・助手	160	高血糖及びそれに伴うアシドーシスによる虚血性神経細胞障害の分子生物学的機構の解明
◇	◇	新井 桂子	生理学第二・講師	200	高血圧発症におけるアミロライド感受性ナトリウムチャネルの関与様式の解析
◇	◇	木内 要	内科学第一・助手	220	心不全進展時における高親和性β受容体およびβ受容体キナーゼの役割
◇	◇	小川 俊一	小児科学・助教授	70	アントラサイクリン系薬剤による心筋細胞のアポトーシス出現の機序と交感神経系の関与に対する解明
◇	◇	勝部 康弘	小児科学・助手	250	ヒト心筋ATP感受性Kチャネルの生理学的・薬理学的研究
◇	◇	江本 直也	内科学第三・講師	190	腫大性甲状腺疾患における細胞外マトリックス・プロテオグリカンの病態生理学的意義
◇	◇	杉原 仁	内科学第三・講師	170	成長ホルモン分泌促進ペプチドの作用機序と受容体の発現調節
◇	◇	松倉 則夫	外科学第一・講師	110	自家発生動物胃癌モデルを用いた胃癌遺伝子治療の研究
◇	◇	寺本 明	脳神経外科学・教授	180	下垂体腺腫の発生・機能発現における視床下部ホルモンの意義
◇	◇	山王 直子	脳神経外科学・講師	200	転写活性因子としての核内レセプターの機能と相互作用
◇	◇	竹田 晋治	麻酔科学・助手	190	オピオイドによる延髄呼吸中枢抑制メカニズムの解明
◇	◇	中西 一浩	麻酔科学・助手	220	重症肺水腫における非侵襲的人工呼吸治療法の確立
◇	◇	江見 充	老人病研究所・教授	170	子宮平滑筋腫における新規融合遺伝子クローニング
◇	◇	富山 俊一	耳鼻咽喉科学・助教授	110	内耳自己免疫傷害性疾患の発生機序の研究
◇	◇	平井 幸彦	生化学第二・講師	150	ウイルス蛋白質の直接導入によるヒト遺伝子上の特定部位への目的遺伝子導入法の開発
◇	◇	今城 純子	解剖学第一・講師	80	ラット大脳支質におけるc-fos発現の日内変動とその発現機
萌芽的研究		山本 保博	救急医学・教授	50	※災害スコア・災害マニュアルの作成
◇		南 正康	衛生学・公衆衛生学・教授	60	※サリン合成時の副生成物ジアキルメチルホスホン酸による染色体異常の研究
◇		田中 茂夫	外科学第二・教授	40	※色素経皮吸収法による無侵襲心拍出量測定装置の開発
◇		三上 俊夫	保健体育・講師	50	※運動負荷マウス由来の単離培養肝細胞での熱ショック蛋白質(HSP70)発現の検討

萌芽的研究	鈴木 健治	生理学第二・助手	50	※変性により退縮した球海綿体筋運動ニューロンにおけるテストステロンの機能維持作用
◇	坂本 長逸	内科学第三・教授	200	胃粘膜繊維芽細胞より得られた新規 EGF 様増殖因子の各種胃病変における発現
◇	大木由加志	小児科学・助教授	80	造血幹細胞移植による異染性ロイコジストロフィーの遺伝子治療法の開発
◇	隈崎 達夫	放射線医学・教授	170	超常磁性酸化鉄コロイド使用による転移性肝癌の新しい治療法の開発
◇	茨木 信博	眼科学・助教授	120	ヒト網膜血管壁細胞株の作成
奨励研究(A)	神谷 達司	内科学第二・助手	50	※脳虚血における免疫系の関与免疫抑制剤の神経保護作成のメカニズムの解明—
◇	右田 真	生化学第二・助手	80	※FACS による選択性を有すウイルスベクターを用いた造血幹細胞への遺伝子導入
◇	三宅 弘一	生化学第二・助手	80	※遺伝子治療を目的とした安全でかつ高率な組織特異的遺伝子導入法の開発
◇	松本 智司	外科学第一・助手	80	※乳癌の術後再発死亡症例における染色体欠失の解析
◇	大木更一郎	形成外科学・助手	50	※冷凍同種血管束移植による新しい皮弁の開発
◇	草薨 博昭	脳神経外科学・助手	50	※脳下垂体腺腫の分泌小胞形成における基礎的研究—細胞内輸送を規定する諸因子の免疫組織化学的検討—
◇	金谷 幸一	脳神経外科学・助手	40	※脳下垂体腺腫の分化増殖における基礎的研究—インヒビン, アクチビンの下垂体腺腫における局在とその作用について
◇	山口 文雄	脳神経外科学・助手	50	※神経膠腫における FGFR2 shut-off メカニズムの解明
◇	近藤 幸尋	泌尿器科学・講師	80	※膀胱癌におけるシスプラチン耐性因子とアポトーシス発現についての究明
◇	服部 智任	泌尿器科学・講師	50	※尿路上皮悪性腫瘍におけるシフラ21のマーカーとしての意義
◇	大山 義雄	耳鼻咽喉科学・助手	40	※前庭代償における頸部深部知覚の役割
◇	池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・助手	80	※動物モデルによる内耳自己免疫疾患の病態解明
◇	黒崎 貞行	耳鼻咽喉科学・助手	40	※ヒト肥満細胞の分化に関する研究
◇	佐藤(折笠) 千登世	生理学第一・助手	90	※新生仔ラットの脳内エストロゲン受容体アイソフォームの生理機能の解析
◇	三浦 剛史	泌尿器科学・助手	120	雄ラット性行動中におけるベニス活動のモニタリングとその調節機構

〳	岡本 研	生化学第一・助手	100	キサンチン酸化酵素における非ヘム鉄の機能に関する研究
〳	恩田 宗彦	病理学第二・助手	70	糖尿病症例の動脈硬化病変内のAGE化自家蛍光物質の化学組成分析及び構造解析
〳	李 卿	衛生学・公衆衛生学・助手	110	N,N-ジエチルアニリンによるリンパ球染色体異常はリンパ球の機能に影響を与えるか
〳	佐藤 順	内科学第二・助手	160	細胞死の観点からみた潰瘍性大腸炎の臨床的検討
〳	川上 康彦	小児科学・助手	70	細菌性髄膜炎における髄液中細胞処理機構の解明
〳	新見やよい	皮膚科学・講師	80	線状IgA/IgG水疱性皮膚症の抗体が認識する基底膜抗原の分子生理学的解析
〳	汲田伸一郎	放射線医学・講師	140	心電図同期法を併用した心筋SPECT/MRI統合画像に関する研究
〳	水村 直	放射線医学・助手	100	動脈硬化症による脳循環への影響
〳	趙 圭一	放射線医学・助手	140	動脈硬化症による脳循環への影響—血管自動調節能の観点からみた機能異常評価—
〳	石原眞木子	放射線医学・助手	100	MRI拡散強調像を用いた大脳連合繊維の評価—血管性痴呆の機能評価への応用—
〳	林 宏光	放射線医学・講師	190	高速らせんCTによる血管内超音波、血管内視鏡イメージの3次元統合CT画像の開発
〳	美濃部かおり	外科学第一・助手	110	乳癌の染色体変化と臨床病理学的因子との関連の解析
奨励研究(A)	田原 重志	脳神経外科学・助手	150	下垂体細胞・腺腫における分泌顆粒放出の分子機構に関する基礎的研究
〳	森 淳	整形外科学・助手	150	人工材料を併用した再建前十字靭帯の3DFE法のMRI評価と病理組織像の比較
〳	北村 晶	麻酔科学・講師	80	周術期体温変動にみる糖尿病性自律神経機能障害の影響とその回復への考察
〳	内木場拓史	泌尿器科学・助手	90	担癌患者樹状細胞を用いた膀胱腫瘍特異的細胞障害性T細胞誘導の試み
〳	後藤 穰	耳鼻咽喉科学・助手	40	鼻アレルギーにおけるブラディキニンの機能
〳	飯田 有俊	老人病研究所・助手	110	ポジショナルクロウニング法を用いた多脾症/左右内臓逆位原因遺伝子の検索
〳	山本 直之	解剖学第一・助手	110	終神経のゴナドトロピン放出放出ホルモン細胞への感覚入力

計 116件 23,390

備考) ※は前年度からの継続を示す。

2. 平成10年度文部省科学研究費補助金(分担研究)の採択・交付状況

	研究者・所属	種 目	主任研究者・所属	研 究 課 題 名
1	高市 真一 生物学	基盤研究(A)	嶋田 敬三 東京都立大学	亜鉛バクテリオクロロフィルを持つ細菌の光合成機構の研究
2	今城 純子 解剖学第一	基盤研究(B)	松田 英彦 北海道大学医学部	明暗変化に伴う rhodopsin 遺伝子の転写制御機構の解明
3	島田 隆 生化学第二	特定領域研究	斎藤 泉 東京大学医科学研究所遺伝子解析施設	がん遺伝子治療ベクターの基礎研究
4	程 久美子 薬理学	萌芽的研究	片岡 宏誌 東京大学大学院農学生命科学研究所	非ペプチド性運動神経栄養因子の精製と構造解析
5	高橋 秀実 微生物学・免疫学	特定領域研究(1)	内山 卓 京都大学医学部	エイズ抑制のための基礎研究柱2. HIV 感染症の病態と免疫
6	高橋 秀実 微生物学・免疫学	基盤研究(C)	吉開 泰信 京都大学医学部	感染免疫の分子基盤の新展開
7	仁平 信 法医学	基盤研究(B)	小嶋 享 広島大学医学部	ネットワークによる薬毒物検査法のデータベース化に関する研究
8	江見 充 老人病研究所	重点領域研究	大木 操 国立がんセンター研究所	ヒトゲノム構造解析

補助金額合計 21,400,000 円

3. 平成10年度厚生省科学研究費補助金(主任研究・分担研究)の交付状況

	研究者・所属	主任 分担	研究事業名・主任研究者・所属	研 究 課 題 名
1	芝崎 保 生理学第二	分担	特定疾患調査研究事業・中尾 一和・京都大学医学部	中枢性摂食異常症に関する調査研究
2	島田 隆 生化学第二	主任	ヒトゲノム・遺伝子治療研究事業	遺伝子治療のための標的遺伝子導入技術の開発に関する研究
3	島田 隆 生化学第二	分担	精神・神経疾患研究委託事業・桜川 宣男・国立精神神経センター神経研究所	神経細胞への組換えウイルスベクターを用いた遺伝子導入法の開発
4	鈴木 聡 生化学第二	主任	精神・神経疾患研究委託事業・武田 伸一・国立精神神経センター神経研究所	遺伝子性筋疾患の根本治療への基礎研究
5	高橋 秀実 微生物学・免疫学	分担	エイズ対策研究事業・倉田 毅・国立感染症研究所部長	HIV 感染/AIDS の感染病態とその生体防御に関する研究
6	南 正康 衛生学・公衆衛生学	分担	健康科学総合研究事業・前川 和彦・東京大学医学部	東京地下鉄サリン事件の被災者の慢性期における身体的, 精神医学的影響に関する患者対照研究
7	大野 曜吉 法医学	分担	厚生科学特別研究事業・中原 雄二・国立医薬品食品衛生試験所	薬物中毒, 薬害, 農薬中毒等の予防と原因解明のための毛髪診断研究—毛髪からのバラコート分析—
8	太田 成男 老人病研究所	主任	脳科学研究事業	ミトコンドリア機能障害によるアツルハイマー病の発症機序

9	太田 成男 老人病研究所	分担	精神・神経疾患委託研究費・高木昭夫・国立精神神経センター	筋ジストロフィー及び関連疾患の臨床病態と治療法に関する研究
10	太田 成男 老人病研究所	分担	長寿医療研究委託事業・国立療養所中部病院長寿医療研究センター	老年病におけるリスクファクターとしての遺伝子に関する疫学的並びに分子遺伝学的研究
11	江見 充 老人病研究所	分担	長寿科学総合研究事業・折茂肇・埼玉医科大学総合医療センター	骨粗鬆症のための危険因子に関する研究
12	江見 充 老人病研究所	分担	がん研究助成金・津田 均・国立がんセンター	がんの予防因子決定としての遺伝子診断に関する研究
13	江見 充 老人病研究所	分担	特定疾患研究事業・北 徹・京都大学医学部	原発性高脂血症の調査研究
14	大國 壽 老人病研究所	主任	新興・再興感染症研究事業	劇症型 A 群レンサ球菌感染症の分子発症機構
15	早川 弘一 内科学第一	主任	薬物療法等有用性向上推進研究事業	抗不整脈薬の臨床評価方法に関する研究
16	大庭 建三 老人科	分担	長寿科学総合研究事業・井藤 英喜・東京都老人医療センター	老年者糖尿病の長期予後に関する研究(QOLを中心に)
17	黒澤 尚 精神医学	分担	精神医療の機能分化に関する研究・浅井 昌弘・慶應義塾大学医学部	精神科医療と他科医療の連携に関する研究
18	黒澤 尚 精神医学	分担	循環器における救急医療に関する研究・松尾 汎・国立循環器病センター	循環器疾患の救急診療体制に関する研究
19	岸 泰宏 精神医学	分担	精神分裂病患者の社会適応能力と社会的予後に関する研究・牛島定信・東京慈恵会医科大学	自殺の実態および自殺予防策の検討に関する研究
20	寺本 明 脳神経外科学	分担	特定疾患 間脳下垂体機能障害調査研究班・加藤 護・鳥根医科大学	PRL 分泌異常症の重症度分類—診断法と治療法—
21	八木 聰明 耳鼻咽喉科学	主任	臨床調査研究事業	前庭機能異常に関する調査研究
22	八木 聰明 耳鼻咽喉科学	主任	感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業	平衡覚障害の発症機序と病巣局在診断法に関する研究
23	山本 保博 救急医学	主任	医療技術評価総合研究事業	災害初期期におけるトリアージに関する研究
24	山本 保博 救急医学	主任	厚生科学特別研究事業	新興再興感染症患者の救急搬送に関する研究
25	黒川 顯 救急医学	分担	医療技術評価総合研究事業・吉岡敏治・日本中毒情報センター	中毒情報の自動収集、自動提供システムの構築とそのパイロットスタディ
26	益子 邦洋 救急医学	分担	評価指標に関する研究事業・島崎修次・杏林大学医学部	二次医療圏における初期、二次、三次、救急医療体制の確立と評価方法の開発に関する研究
27	川井 真 救急医学	分担	災害医療体制のあり方に関する総合研究事業・辺見 弘・国立病院東京災害医療センター	熱傷患者大量発生時におけるシュミレーション・モデル作成に関する研究
28	竹内 孝仁 リハビリテーションセンター	分担	長寿科学総合研究事業・上田敏・帝京大学医学部	廃用性疾患のリハビリテーション

補助金額合計 182,650,000 円

4. 平成10年度その他省庁、自治体、財団による研究助成金等の交付状況

研究者・所属	各種財団等名称	助成等種目	研究課題等名
1 芝崎 保 生理学第二	成長科学協会		growth hormone secretagogueの摂食促進作用に関する研究
2 島田 隆 生化学第二	科学技術庁	科学技術振興調整費	HIV感染細胞への特異的遺伝子導入法の開発
3 島田 隆 生化学第二	科学技術庁	科学技術振興調整費	組換えウイルスの細胞内動態に関する研究(分担研究)
4 鈴木 秀典 薬理学	科学技術振興事業団	戦略的基礎研究推進事業	「脳を知る」抑制性シナプス可塑性の分子機構の解明とその応用(分担研究)
5 高橋 秀実 微生物学・免疫学	科学技術振興事業団	戦略的基礎研究推進事業	生体防御のメカニズム(分担研究)
6 高橋 秀実 微生物学・免疫学	日米医学協力研究会	医学協力研究費	樹状細胞を用いた免疫賦活法の開発
7 高橋 秀実 微生物学・免疫学	ヒューマンサイエンス振興財団	HIV研究—2	DNA ワクチン
8 熊谷 善博 微生物学・免疫学	ヒューマンサイエンス振興財団	HIV研究—2	抗体超可変部へのエピトープ分子移植を利用したAIDSワクチンの分子設計
9 江見 充 老人病研究所	チバ・ガイギー科学振興財団	研究奨励金	ヒト甲状腺乳頭癌における新規ガン遺伝子融合異常の同定
10 江見 充 老人病研究所	(財)車両競技公益資金記念財団	がん・心臓病の基礎的研究	乳癌の遺伝子異変と遺伝子診断
11 江見 充 老人病研究所	ノバルティス老化および老年医学研究基金	助成金	骨粗鬆症予防のための遺伝子マーカーの開発
12 櫻田 紳策 老人病研究所	ヒューマンサイエンス振興財団	科学研究費	HIV感染症の合併及びHIV感染に伴う諸障害に関する疫学及び臨床研究
13 荒木 勤 産婦人科学	日本母性保護産婦人科医学会おぎやー献金	研究補助金	薬物的胎児脳低温導入による胎児・新生児脳障害の発生予防
14 中井 章人 産婦人科学	(財)東京応化科学技術振興財団	研究費助成	虚血・再灌流傷害における細胞内ミトコンドリアの化学変化に関する研究
15 大久保公裕 耳鼻咽喉科学	東京都衛生局生活環境部環境保健課	花粉症対策事業	アレルギー性鼻炎の経舌下口腔粘膜減感作治療研究
16 横田 裕行 救急医学	救急振興財団	救急に関する調査研究事業	一体型心電図装置パルスオキシメータの開発
17 二宮 宣文 救急医学	日本小型自動車振興会		新幹線高速走行時における転覆事故にたいする災害医療に関する研究事業
18 川井 真 救急医学	科学技術庁		ロシア放射線事故における急性期治療の研究(分担研究)
19 中島 敦夫 リウマチ外科	日本リウマチ財団	欧州/米国派遣助成金	
20 中島 敦夫 リウマチ外科	かなえ医療振興財団	海外留学助成金	

補助金額合計 52,326,000円

5. 平成10年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕

(単位：千円)

項 目	平成10年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
私立大学研究設備整備費等補助金(文・研・設)			
研究設備	56,115	112,223	168,338
情報関係設備			
計	56,115	112,223	168,338
私立学校施設整備費補助金(文・施・設)			
研究施設	47,426	47,425	94,851
研究装置	144,428	144,426	288,854
教育装置			
学内LAN装置	5,005	5,005	10,010
創造教育装置〔10年度で廃止〕	28,842	28,840	57,682
マルチメディア装置	5,303	5,302	10,605
計	231,004	230,998	462,002
経常費補助金・特別補助			
高度化推進特別経費			
大学院重点特別経費	38,700	35,900	74,600
ティーチング・アシスタント経費	3,500	2,700	6,200
教育研究交流事業費	0	135	135
大学院の基盤整備	0	448,039	448,039
研究機能の強化(研究基盤の充実)	0	28,043	28,043
〃 (共同研究)	68,800	68,700	137,500
リサーチ・アシスタント、ポスト・ドクター支援経費			
研究施設・設備等の運営(研究所等)	0	22,200	22,200
〃 (大型設備等)	0	2,300	2,300
情報化推進特別経費			
情報処理関係設備(借入)	805	805	1,610
教育学術情報ネットワーク	13,988	13,900	27,888
教育研究用ソフトウェア	2,320	2,310	4,630
教育学術情報データベース等の開発	1,454	1,454	2,908
国際交流特別経費			
外国人教員による教育	0	1,000	1,000
外国大学等との学生・教員の交流	0	1,500	1,500
海外研修派遣	2,292	2,290	4,582
外国人留学生の受入れ	0	7,148	7,148
大学改革推進特別経費〔11年度から組替決定〕			
大学改革推進経費	0	2,100	2,100
特色ある教育研究	5,358	5,000	10,358
計	137,217	645,524	782,741
学術研究振興資金			
学術研究振興資金	10,000	7,500	17,500
総 合 計	434,336	1,226,645	1,660,981

平成10年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕(再掲)

(単位：千円)

項 目	平成10年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
ハイテク・リサーチ・センター整備事業			
文・研・設(研究設備)	22,137	44,272	66,409
文・施・設(研究施設)	47,426	47,425	94,851
〃 (研究装置)	83,393	83,392	166,785
経常費補助金特別補助(共同研究)	20,000	20,000	40,000
計	172,956	195,089	368,045
学術フロンティア推進事業			
文・研・設(研究設備)	7,420	14,840	22,260
経常費補助金特別補助(共同研究)	48,800	48,700	97,500
計	56,220	63,540	119,760

あ と が き

平成10年度の本学の研究業績年報が発行のはこびとなった。目を通すと各自それぞれの思いがあると推察する。大学には個人の大幅な自由が約束されている。この自由は研究と高等教育のために本来費やされるべきものである。研究業績などは個人的なものでむやみに他人の目に触れさせるものではなく、密かにしまっておくべき物であるとの考えもある。論文の数などを云々することはむしろ恥ずべきこととされ、研究者個人の独創性を集約した論文を生涯に一つ発表するだけでも十分に評価されるべきであるとの考えもある。このような研究者を暖かく見守る寛容さが失われつつあることはさびしい。

時代と共に大学の教官の評価がかまびすしく叫ばれるようになった。自己点検、自己評価が強調される時代になり、研究面の評価はともすれば論文数掛ける impact factor などなどでいとも簡単に処理される風潮があることは嘆かわしい。impact factor は研究課題の！はやり！などに極めて影響されやすい。一方、問題を解決する目的ではなく、論文の数を増やす目的など動機極めて不純な発想で論文を書いたりする研究者も少なからずいることは残念である。研究者として高く評価されるためにはストーリー性のある一連の研究成果を発表することが大切である。一方、臨床に携る研究者にとっては症例報告は、時に experiment of nature を捉える極めて貴重な体験であり、基礎医学者には味わえない極めて貴重な生命現象に遭遇している点に留意すべきである。

論文は臨床報告を含めすべて英語で発表することを心がけたい。科学の世界において英語は国境を超えた共通の言語である。同じような内容の論文が英語で発表されると、既に日本語で発表されていても priority を失う恐れがある。したがって、原著はすべて英文で発表する努力を怠らないでほしい。

最後に、研究業績年報を見るたびに気になることがある。それは、学会発表の数と原著論文の数の間に著しい差があることである。学会で発表した内容を充実させて是非原著論文として発表して頂きたいと願う次第である。このような弛まぬ努力が研究費と時間の無駄使いを省き、本学の存在意義を研究面から支持する証拠を世間に知らしめることになるかと信じてやまないのである。

研究委員会委員長 若林 一二

平成11年 12 月 20 日 印 刷
平成11年 12 月 24 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学
研 究 委 員 会

〒113-8602 東京都文京区千駄木 1-1-5
TEL 03 (3822) 2131

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原 3-46-10
TEL 03 (3910) 4311-5